R5　シラバス

中国学園大学

　現代生活学部　人間栄養学科

　子ども学部　子ども学科

　国際教養学部　国際教養学科

　大学院　現代生活学研究科 人間栄養学専攻

　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻

中国短期大学

　総合生活学科

　保育学科

　情報ビジネス学科

**中国学園大学　現代生活学部　人間栄養学科　シラバス**


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| 日本語表現 | 小川　孝司 | ･････････ | 1 |
| 心理学 | 國田　祥子 | ･････････ | 3 |
| 倫理学 | 小谷　彰吾 | ･････････ | 5 |
| 社会学 | 中田　周作 | ･････････ | 7 |
| 歴史学 | 大山　章 | ･････････ | 9 |
| 日本国憲法 | 俣野　英二 | ･････････ | 11 |
| 科学の基礎 1クラス | 波多江　崇 | ･････････ | 13 |
| 科学の基礎 2クラス | 波多江　崇 | ･････････ | 15 |
| 基礎化学 | 大桑　浩孝 | ･････････ | 17 |
| 基礎生物学 | 楠本　晃子 | ･････････ | 19 |
| 化学 | 大桑　浩孝 | ･････････ | 21 |
| 生物学 | 栄養B | ･････････ | 23 |
| 生活と情報処理 1クラス | 岸　誠一 | ･････････ | 25 |
| 生活と情報処理 2クラス | 岸　誠一 | ･････････ | 27 |
| 情報処理演習Ⅰ | 平井　安久 | ･････････ | 29 |
| 情報処理演習Ⅱ | 赤木　竜也 | ･････････ | 31 |
| 基礎統計演習 | 平井　安久 | ･････････ | 33 |
| 英語Ⅰ 1クラス | 佐々木　真帆美 | ･････････ | 35 |
| 英語Ⅰ 2クラス | 佐々木　真帆美 | ･････････ | 37 |
| 英語Ⅱ 1クラス | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ | ･････････ | 39 |
| 英語Ⅱ 2クラス | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ | ･････････ | 41 |
| 英語Ⅲ | 森年　ポール | ･････････ | 43 |
| 韓国語 | 河　智弘 | ･････････ | 45 |
| 体育講義 全8回 | 溝田　知茂 | ･････････ | 47 |
| 体育実技 | 溝田　知茂 | ･････････ | 49 |
| ファーストイヤーセミナー | 木野山　真紀／小野　尚美／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／栄養B | ･････････ | 51 |
| 健康管理概論 | 非　栄X | ･････････ | 53 |
| 社会福祉概論 | 松井　圭三 | ･････････ | 55 |
| 人と環境 | 楠本　晃子 | ･････････ | 57 |
| 公衆衛生学Ⅰ | 波多江　崇 | ･････････ | 59 |
| 公衆衛生学Ⅱ | 波多江　崇 | ･････････ | 61 |
| 公衆衛生学実習 1クラス(隔週) | 波多江　崇 | ･････････ | 63 |
| 公衆衛生学実習 2クラス(隔週) | 波多江　崇 | ･････････ | 65 |
| 人間の科学 | 多田　賢代／赤木　收二／井之川　仁／森寺　勝之 | ･････････ | 67 |
| 子どもと高齢者の福祉 | 松井　圭三 | ･････････ | 69 |
| 介護・看護演習 | 中野　ひとみ | ･････････ | 71 |
| 細胞生理化学実験 1クラス(隔週) | 真鍋　芳江 | ･････････ | 73 |
| 細胞生理化学実験 2クラス(隔週) | 真鍋　芳江 | ･････････ | 75 |
| 生化学Ⅰ | 栄養B | ･････････ | 77 |
| 解剖生理学Ⅰ | 井之川　仁 | ･････････ | 79 |
| 解剖生理学Ⅱ | 井之川　仁 | ･････････ | 81 |
| 生化学Ⅱ | 栄養B | ･････････ | 83 |
| 生化学実験 (隔週) | 栄養B | ･････････ | 85 |
| 医学概論 | 赤木　收二 | ･････････ | 87 |
| 微生物学 | 楠本　晃子 | ･････････ | 89 |
| 人間発達学 | 奥村　弥生 | ･････････ | 91 |
| 解剖生理学実験 (隔週) | 井之川　仁 | ･････････ | 93 |
| 病理学 | 赤木　收二 | ･････････ | 95 |
| 病理学 | 赤木　收二 | ･････････ | 97 |
| 運動生理学 | 井之川　仁 | ･････････ | 99 |
| 食品学Ⅰ | 大桑　浩孝 | ･････････ | 101 |
| 食品学基礎実験 (隔週) | 大桑　浩孝 | ･････････ | 103 |
| 食品学実験 1クラス(隔週) | 大桑　浩孝 | ･････････ | 105 |
| 食品学実験 2クラス(隔週) | 大桑　浩孝 | ･････････ | 107 |
| 調理学 | 木野山　真紀 | ･････････ | 109 |
| 調理学実習Ⅰ (隔週) | 木野山　真紀 | ･････････ | 111 |
| 調理学実習Ⅱ 1クラス(隔週) | 木野山　真紀 | ･････････ | 113 |
| 調理学実習Ⅱ 2クラス(隔週) | 木野山　真紀 | ･････････ | 115 |
| 食品学Ⅱ | 大桑　浩孝 | ･････････ | 117 |
| 調理学実験 (隔週) | 木野山　真紀 | ･････････ | 119 |
| 食品衛生学 | 楠本　晃子 | ･････････ | 121 |
| 食品衛生学実験 1クラス(隔週) | 楠本　晃子 | ･････････ | 123 |
| 食品衛生学実験 2クラス(隔週) | 楠本　晃子 | ･････････ | 125 |
| 食品学Ⅲ | 大桑　浩孝 | ･････････ | 127 |
| 基礎栄養学Ⅰ | 真鍋　芳江 | ･････････ | 129 |
| 基礎栄養学Ⅱ | 真鍋　芳江 | ･････････ | 131 |
| 栄養学実習 (隔週) | 真鍋　芳江 | ･････････ | 133 |
| 応用栄養学Ⅰ | 多田　賢代 | ･････････ | 135 |
| 応用栄養学Ⅱ | 多田　賢代 | ･････････ | 137 |
| 応用栄養学実習 1クラス(隔週) | 多田　賢代 | ･････････ | 139 |
| 応用栄養学実習 2クラス(隔週) | 多田　賢代 | ･････････ | 141 |
| 応用栄養学Ⅲ | 真鍋　芳江／多田　賢代 | ･････････ | 143 |
| 栄養教育論Ⅰ | 安原　幹成 | ･････････ | 145 |
| 栄養教育実習Ⅰ 1クラス(隔週) | 安原　幹成 | ･････････ | 147 |
| 栄養教育実習Ⅰ 2クラス(隔週) | 安原　幹成 | ･････････ | 149 |
| 栄養教育論Ⅱ | 安原　幹成 | ･････････ | 151 |
| 栄養教育実習Ⅱ (隔週) | 安原　幹成 | ･････････ | 153 |
| カウンセリング論 | 平尾　太亮 | ･････････ | 155 |
| 食行動学 | 安原　幹成 | ･････････ | 157 |
| 臨床栄養学総論 | 小野　尚美 | ･････････ | 159 |
| 臨床栄養学各論Ⅰ | 古川　愛子 | ･････････ | 161 |
| 臨床栄養学各論Ⅱ | 小野　尚美 | ･････････ | 163 |
| 臨床栄養学実習Ⅰ (隔週) | 古川　愛子 | ･････････ | 165 |
| 臨床栄養学実習Ⅱ 1クラス(隔週) | 古川　愛子 | ･････････ | 167 |
| 臨床栄養学実習Ⅱ 2クラス(隔週) | 古川　愛子 | ･････････ | 169 |
| 栄養マネジメント | 小野　尚美／森光　大／石井　恭子／市川　和子 | ･････････ | 171 |
| 公衆栄養学Ⅰ | 辻本　美由喜 | ･････････ | 173 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 公衆栄養学Ⅱ | 辻本　美由喜 | ····· | 175 |
| 公衆栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週) | 辻本　美由喜 | ····· | 177 |
| 公衆栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週) | 辻本　美由喜 | ····· | 179 |
| 給食経営管理論Ⅰ | 北島　葉子 | ····· | 181 |
| 給食経営管理論Ⅱ | 北島　葉子 | ····· | 183 |
| 給食管理基礎実習 (隔週) | 北島　葉子 | ····· | 185 |
| 給食管理実習Ⅰ | 北島　葉子 | ····· | 187 |
| 食品流通論 | 大宮　めぐみ | ····· | 189 |
| 管理栄養士実務演習 | 真鍋　芳江／北島　葉子／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／岡崎　恵子／中野　ひとみ／山崎　真未／辻本　美由喜／小野　尚美／安原　幹成／児玉　彩／鈴村　里奈／福島　彩子／齊藤　丈太郎 | ····· | 191 |
| 総合演習 | 真鍋　芳江／北島　葉子／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／辻本　美由喜／小野　尚美／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／栄養B | ····· | 193 |
| 給食管理実習Ⅱ | 北島　葉子／木野山　真紀／岡崎　恵子／安原　幹成 | ····· | 195 |
| 臨床栄養学実習Ⅲ | 古川　愛子／多田　賢代／小野　尚美 | ····· | 197 |
| 給食管理実習Ⅲ | 北島　葉子／木野山　真紀／安原　幹成 | ····· | 199 |
| 臨床栄養学実習Ⅳ | 古川　愛子／多田　賢代／小野　尚美 | ····· | 201 |
| 公衆栄養学実習Ⅱ | 真鍋　芳江／辻本　美由喜 | ····· | 203 |
| 栄養セミナーⅠ | 真鍋　芳江／木野山　真紀／小野　尚美／波多江　崇／井之川　仁／大桑　浩孝／栄養B | ····· | 205 |
| 食生活論 | 岡崎　恵子 | ····· | 207 |
| 食生活演習Ⅰ 1クラス | 小野　尚美 | ····· | 209 |
| 食生活演習Ⅰ 2クラス | 小野　尚美 | ····· | 211 |
| 食生活演習Ⅱ 1クラス(隔週) | 木野山　真紀／岡崎　恵子 | ····· | 213 |
| 食生活演習Ⅱ 2クラス(隔週) | 木野山　真紀／岡崎　恵子 | ····· | 215 |
| 食文化調査演習 | 多田　賢代 | ····· | 217 |
| 栄養セミナーⅡA | 北島　葉子／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝 | ····· | 219 |
| 栄養セミナーⅡB | 北島　葉子／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝 | ····· | 221 |
| 食料経済 | 大宮　めぐみ | ····· | 223 |
| 栄養セミナーⅢA | 真鍋　芳江／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／岡崎　恵子／辻本　美由喜／小野　尚美／栄養B | ····· | 225 |
| 栄養セミナーⅢB | 真鍋　芳江／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／岡崎　恵子／辻本　美由喜／小野　尚美／安原　幹成／栄養B | ····· | 227 |
| 管理栄養士演習Ⅰ | 真鍋　芳江／北島　葉子／多田　賢代／赤木　收二／安原　幹成／波多江　崇／楠本　晃子 | ····· | 229 |
| 管理栄養士演習Ⅱ | 木野山　真紀／古川　愛子／辻本　美由喜／小野　尚美／井之川　仁／大桑　浩孝／栄養B | ····· | 231 |
| 栄養セミナーⅣA | 真鍋　芳江／北島　葉子／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／小野　尚美／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子 | ····· | 233 |
| 栄養セミナーⅣB | 真鍋　芳江／北島　葉子／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／小野　尚美／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子 | ····· | 235 |
| 運動指導論 | 真鍋　芳江 | ····· | 237 |
| 専門英語 | 赤木　收二 | ····· | 239 |
| フードコーディネート論 | 山崎　真未 | ····· | 241 |
| 管理栄養士専門演習 | 真鍋　芳江／北島　葉子／木野山　真紀／古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／辻本　美由喜／小野　尚美／安原　幹成／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／栄養B | ····· | 243 |
| 教職概論 | 森寺　勝之 | ····· | 245 |
| 教育原理 | 森寺　勝之 | ····· | 247 |
| 教育心理学 | 國田　祥子 | ····· | 249 |
| 教育課程総論 | 森寺　勝之 | ····· | 251 |
| 教育方法学 | 住野　好久 | ····· | 253 |
| 生徒指導の理論と方法 全8回 | 藤井　裕士 | ····· | 255 |
| 教育相談 | 國田　祥子 | ····· | 257 |
| 特別支援教育概論 | 中　典子／池谷　航介 | ····· | 259 |
| 総合的な学習の時間及び特別活動の指導法 | 佐々木　弘記 | ····· | 261 |
| 学校栄養教育実習研究 | 岡崎　恵子／森寺　勝之 | ····· | 263 |
| 学校栄養教育実習 | 岡崎　恵子 | ····· | 265 |
| 教職実践演習(栄養教諭) | 岡崎　恵子 | ····· | 267 |
| 学校栄養教育指導法Ⅰ | 岡崎　恵子 | ····· | 269 |
| 学校栄養教育指導法Ⅱ | 岡崎　恵子／森寺　勝之 | ····· | 271 |

| 科目名 | 日本語表現 | | | 授業番号 | NA101 | サブタイトル | （音声言語と文章の表現） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，「読むこと」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高める。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・技能＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 身の周りにある様々な日本語表現 | |
| 第2回 | 乳幼児の日本語獲得（１） | |
| 第3回 | 乳幼児の日本語獲得（２） | |
| 第4回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（１） | |
| 第5回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（２） | |
| 第6回 | 読者を引きつける物語の仕掛け | |
| 第7回 | 読者を引きつける物語の表現 | |
| 第8回 | 身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 | |
| 第9回 | 身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 | |
| 第10回 | 読者を説得する説明的文章の仕掛け | |
| 第11回 | 読者を説得する説明的文章の表現 | |
| 第12回 | 読者の予測を利用した読み物（１） | |
| 第13回 | 読者の予測を利用した読み物（２） | |
| 第14回 | 違和感を感じる詩的表現（１） | |
| 第15回 | 違和感を感じる詩的表現（２） | |
| 授業計画　備考2 | 補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な学習内容の定着度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努めること。 |
| 受講の心得 | 配付資料及びレポートをファイルしておくこと。<br>学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。 |
| 授業外学修 | 1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。<br>2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の回りの日本語表現に関心を広げること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 絵本，物語や説明的文章等の表現分析 |

| 科目名 | 心理学 | | | 授業番号 | NA102 | サブタイトル | (心と行動の科学) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 心理学とは | |
| 第2回 | 予知体験の不思議 | |
| 第3回 | 記憶の不思議 | |
| 第4回 | 影響されるこころ | |
| 第5回 | 揺れうごくこころ | |
| 第6回 | 検査で「自分」がわかるのか | |
| 第7回 | 占い・新宗教がもつ現代的意味 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 子どもから見た現実と想像の世界 | |
| 第10回 | 「もしかして……」と揺れ動く心の発達 | |
| 第11回 | 不思議現象に立ち向かう子どもたち | |
| 第12回 | 脳とこころの不思議な世界 | |
| 第13回 | 科学的に検証するとはどういうことか | |
| 第14回 | 心理学を学ぶ人のために | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門 | 菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著） | 北大路書房 | 978-4-7628-2032-8 | 1900円 |
| 不思議現象　子どもの心と教育 | 菊地　聡・木下孝司（編著） | 北大路書房 | 978-4-7628-2089-2 | 1900円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 倫理学 | | | 授業番号 | NA103 | サブタイトル | (人間形成の倫理と論理) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小谷　彰吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 激変する時代の中で，偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで，先哲の思想，中でも儒教の視点を一つの柱としたり，現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 東洋，西洋，それぞれの時代の中で，人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに，我が国には，神道，仏教，儒教が融合する独特の精神文化があり，それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 『倫理学』の概念を知り，『善悪』の判断とその背景，その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 倫理の基盤(1)　ガイダンス | |
| 第2回 | 倫理の基盤(2)　倫理観と社会的背景 | |
| 第3回 | 倫理の基盤(3)　倫理観の形成と体験の欠如 | |
| 第4回 | 倫理の思想(1)　倫理と道徳 | |
| 第5回 | 倫理と思想(2)　知識基盤社会と倫理 | |
| 第6回 | 倫理学の基礎(1)　倫理と思考実験 | |
| 第7回 | 倫理学の基礎(2)　義務論と功利主義 | |
| 第8回 | 現代社会の倫理(1)　死刑制度 | |
| 第9回 | 現代社会の倫理(2)　老いと安楽死 | |
| 第10回 | 現代社会の倫理(3)　いじめと自殺 | |
| 第11回 | 現代社会の倫理(4)　徳の教育と学校 | |
| 第12回 | 現代社会の倫理(5)　伝統文化と食の倫理 | |
| 第13回 | 日本倫理の思想(1)　江戸時代の徳の教育 | |
| 第14回 | 日本倫理の思想(2)　『論語』 | |
| 第15回 | 『倫理学』のまとめ　総括レポート | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 15回目の論文で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー〈知識・理解〉に見られる自国・他国の行動様式，考え方の基盤となる文化的背景の理解，〈態度〉に見られる，多様な文化を理解し尊重することに直接かかわるものを重点的に評価することから，授業への参加態度と論語に50%を充てる。 |
| 受講の心得 | 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。 |
| 授業外学修 | 授業内で紹介する著書については，可能な限りすべて読み，批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。<br>授業外で深めた基礎的教養によって，授業の中でのディスカッションの質が向上する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する) |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内で随時，紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，私立高等学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現在，学校教育現場では，アクティブラーニングの研究が進められており，「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし，特に小学校においては，遥か前から実践されていた学びであり，特に「道徳」は教科化されて以降，「議論する道徳」「思考する道徳」，すなわち自らの意見を持って，仲間と意見をぶつけ合い，新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』とて同様の学習を展開すれば，「主体的な学び」が展開できるものと考えている。<br>グループワーク，ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を醸成したい。 |

| 科目名 | 社会学 | | | 授業番号 | NA105 | サブタイトル | (配偶者の選択と家族編成の社会的規則) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。<br>現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。<br>そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。<br>これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 配偶者選択をめぐる社会状況の変化 | |
| 第2回 | 家族社会学における「家族」の定義 | |
| 第3回 | 家族を対象とした社会学的アプローチの方法 | |
| 第4回 | 家族の類型と分類 | |
| 第5回 | 青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 | |
| 第6回 | 青年期の異性交際の実態 | |
| 第7回 | 家族編成の社会的ルールとは何か | |
| 第8回 | 配偶者選択の社会的メカニズム | |
| 第9回 | 配偶者選択のプロセス | |
| 第10回 | 結婚の社会的意味 | |
| 第11回 | 結婚の社会的機能 | |
| 第12回 | 離婚の社会的意味と機能 | |
| 第13回 | 家族の新しい形 | |
| 第14回 | 子どもの養育 | |
| 第15回 | 老親の介護 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | |
| レポート | 70 | 最終レポート |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 毎回のコメントペーパー |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。<br>しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．配付資料を事前に読んでくること。<br>文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。<br>具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。<br><br>2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。<br>テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。<br><br>両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組みむこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | 特になし。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 歴史学 | | | 授業番号 | NA204 | サブタイトル | (歴史家は過去の何に注目し，どうとらえてきたか) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「歴史」と聞くと，書かれたものを読み，記憶する，どちらかと言えば受け身のイメージが強いが，「歴史学」は，過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し，それをもとに歴史像・時代像を描き，叙述する主体的な営みである。この授業では，近年話題になっているものを中心に，歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ，解釈してきたかを取り上げる。授業の半分は，特定の時期・時代を取り上げるが，一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回，歴史研究に関わる内容をあつかう回も設ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １　歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。<br>２　近年の歴史研究の成果について理解することができる。<br>３　史料をもとに，積極的に考察したり，発表したりすることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 歴史と歴史学<br>歴史学がどのような学問であるかを理解する。<br>一般の人々が「歴史」を学ぶ意味，「歴史」に関わる意味を考える。 | |
| 第2回 | 農耕・牧畜の始まり<br>世界における農耕・牧畜の始まりを，オリエントでの始まりを中心に理解する。<br>世界における稲の栽培の始まりと日本列島への伝播について理解する。 | |
| 第3回 | 気候変動・災害と歴史<br>歴史学が気候変動や自然災害をどのようにあつかってきたかを理解する。 | |
| 第4回 | モンゴル帝国<br>モンゴル帝国の成立とその支配の特色を理解する。<br>モンゴル帝国の成立がその後の歴史に与えた影響を理解する。 | |
| 第5回 | 東アジア海域の歴史<br>倭寇の活動や琉球の活発な交易が目立った１４～１６世紀頃の東アジア海域の歴史を理解する。 | |
| 第6回 | 様々であった国というまとまり<br>「国」というまとまりが時代によって異なっていたことを，ヨーロッパを中心に理解する。 | |
| 第7回 | 歴史研究における地図の利用<br>国土地理院の旧版地図や古地図・絵図の歴史研究での利用について理解する。 | |
| 第8回 | 世界の一体化<br>「コロンブスの交換」の内容とそれがもたらした結果・影響を理解する。<br>１６～１７世紀に進んだ世界の一体化の動きへの日本の関わりを理解する。 | |
| 第9回 | イギリスの工業化とフランス革命<br>イギリスの工業化（産業革命）とフランス革命のおおまかな研究史を理解する。 | |
| 第10回 | ジェンダーと歴史<br>ジェンダー史の研究の始まりと現状を理解する。<br>ジェンダー史の事例を学ぶ。 | |
| 第11回 | 東アジアのウェスタン・インパクト<br>欧米列強の東アジアへの進出とそれに対する清と日本の対応を理解する。 | |
| 第12回 | アメリカ合衆国とメキシコ<br>３０００ｋｍ以上に及ぶ国境で接するアメリカ合衆国とメキシコの関係史を，国境の変化を中心に理解する。<br>２０世紀を中心に，メキシコ・アメリカ合衆国間の人の移動の変化を理解する。 | |
| 第13回 | 歴史の中で「人種主義」はどのようにうまれたか<br>「人種」概念の誕生や「人種」による人間の分類の始まりについて理解する。<br>「人種主義」と「黒人奴隷制」の関係を理解する。 | |
| 第14回 | 感染症と歴史<br>感染症の流行が歴史に与えた影響を理解する。<br>コレラの流行に対する１９世紀の日本の対応を理解する。<br>スペイン・インフルエンザを例に，新聞が歴史研究に役立つことを理解する。 | |
| 第15回 | 自分なりの歴史像を描いてみよう<br>授業で学んだことをもとに，歴史についての自分の考えを発表したり，話し合ったりする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加度，予習復習の状況，授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り上げた内容の理解度，歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 定期試験は，論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可) |
| 受講の心得 | 「歴史学」は，定まった知識を覚え，蓄積するものではなく，自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて，過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが，より大切なのは，人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また，授業では，可能な範囲で史料をもとに考察したり，発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。 |
| 授業外学修 | 予習として，高校の世界史・日本史などの教科書の関係部分を読んでおく。授業後は，授業で取り上げられた時代，テーマについての歴史像，時代像などを，自分なりに文章にまとめておくようにする。<br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | レジュメ，資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 中学校教諭，岡山県教育センター研修講座講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での歴史教育の経験を生かして，歴史に関する今日的な内容，テーマをわかりやすく指導する。 |

| 科目名 | 日本国憲法 | | | 授業番号 | NA206 | サブタイトル | (身近な問題から憲法の役割を考える) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 俟野　英二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目では，日本国憲法及び他国の憲法の沿革，様々な人々の人権について講義する。また，憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し，それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。<br>具体的にはまず，学生に身近な憲法問題を取り上げ，それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に，各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に，次回の講義で，各グループのグループワークの結果を紹介し，全体討議の後講評を行う。<br>なお，新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には，MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク，講義における質疑を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うことから，職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得を必要とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜態度＞の修得に貢献する。また，体系的な思考方法を学び，多面的に分析し，自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス，憲法とは何か<br>1　学修の目標，評価方法などを説明する。<br>2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 | |
| 第2回 | グループワーク1<br>1　グループワークの仕方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，課題選択，課題分析，リサーチを行う。 | |
| 第3回 | グループワーク２<br>1　グループワークのまとめ方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，情報整理，報告書の作成を行う。 | |
| 第4回 | 国家機関としての天皇制<br>1　徳川時代，大日本帝国憲法下，日本国憲法下の天皇の地位について考える。<br>2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 | |
| 第5回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１――<br>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。 | |
| 第6回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２――，人権を守るための組織――統治機構１――<br>1　近年の安全保障をめぐる状況について学修する。<br>2　政治と国民，国会議員について学修する。 | |
| 第7回 | 人権を守るための組織――統治機構２――<br>1　選挙，選挙制度，政党，国会について学修する。<br>2　内閣について学修する。 | |
| 第8回 | 人権を守るための組織――統治機構３――<br>1　地方自治について学修する。<br>2　裁判所について学修する。 | |
| 第9回 | 良心をもつ自由，貫く権利<br>1　良心の意義について学修する。<br>2　教師の良心を貫く権利について考える。 | |
| 第10回 | 表現の自由<br>1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。<br>2　マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 | |
| 第11回 | 営業の自由と消費者の権利<br>1　職業選択の自由，営業の自由と消費者の権利について学修する。<br>2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第12回 | 働く人の権利<br>1　勤労の権利や労働基本権について学修する。<br>2　女性や非正規労働者の問題について考える。 | |
| 第13回 | 困った時の権利，差別されている人たちへの配慮<br>1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。<br>2　積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第14回 | 家庭と女性の権利<br>1　憲法における家庭と女性の権利について学修する。<br>2　同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 | |
| 第15回 | 子どもの権利と学校における生徒の人権<br>1　生徒の教育を受ける権利，学校内外での権利について学修する。<br>2　いじめ問題を憲法から考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解，及び，意欲・関心を持ち，講義に積極的に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 1回実施。基本原理，基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので，各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。<br>2　全体を通じて1回，任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。<br>3　中間に１回中間レポートの課題（第７回頃レポート作成要項発表）がある。 |
| 授業外学修 | 1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み，意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。<br>2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め，ノートに整理して，期末テストに備える。また，発展的学習として選択した課題について，インターネット等で調査し，調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて，各自の情報や意見を整理する。さらに，グループワークに参加し，協力して必要事項を調査するとともに，課題に関してそれぞれの意見を交換し，グループ報告書にまとめる共同作業を行う。<br>3　中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し，疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し，自分の意見を練り，レポートにまとめる。<br>事前学習及び事後学習を合わせて，1週間に4時間程度必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 憲法のちから－身近な問題から憲法の役割を考える－ | 中富公一編著 | 法律文化社 | 978-4-589-04140-1 | 2400+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 自信をもっていじめにNOと言うための本 | 中富公一 | 日本評論社 | 978-4-535-52038-7 | 2300＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 右崎正博・浦田一郎編『基本判例１　憲法［第4版］』（法学書院，2014年） |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県教育委員会，県（人権・同和政策課） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。 |

| 科目名 | 科学の基礎 1クラス | | | 授業番号 | NB101A | サブタイトル | 高校までの数学（計算）の総復習 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり，その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには，初年次からのカリキュラムに遅れることなく，内容を十分に理解し，自分の知識として身につけることにある。特に，高校までに学習した数学（計算）は，栄養価計算，食材の可食率・廃棄率，絵ペルギー比率，調味%，食材の発注業務など，栄養士・管理栄養士の日常業務に必要である。そこで，本科目では，数多くの計算問題の演習を行うことで，全員が正確かつ迅速に計算ができるようになることを目的とする。。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養に関する勉強の基礎が身につく。<br>・論理的な考え方が身に付く。<br>・一般教養（理系）の力がつく<br>なお，本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 概数の理解・四捨五入・単位 | |
| 第2回 | 小数の計算 | |
| 第3回 | 分数の計算 | |
| 第4回 | 一次方程式　その1 | |
| 第5回 | 一次方程式　その2 | |
| 第6回 | 一次方程式（文章問題）その1 | |
| 第7回 | 一次方程式（文章問題）その2 | |
| 第8回 | 原価計算　その1 | |
| 第9回 | 原価計算　その2 | |
| 第10回 | 割合・比 | |
| 第11回 | 質量パーセント濃度　その1 | |
| 第12回 | 質量パーセント濃度　その2 | |
| 第13回 | 食材の可食率・廃棄率 | |
| 第14回 | 食材の発注量 | |
| 第15回 | 総まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 意欲的な学習態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | 各科目の理解度 |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。 |
| 授業外学修 | 間違えた箇所を中心に，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，毎回，必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 科学の基礎 2クラス | | | 授業番号 | NB101B | サブタイトル | 高校までの数学（計算）の総復習 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり，その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには，初年次からのカリキュラムに遅れることなく，内容を十分に理解し，自分の知識として身につけることにある。特に，高校までに学習した数学（計算）は，栄養価計算，食材の可食率・廃棄率，絵ペルギー比率，調味%，食材の発注業務など，栄養士・管理栄養士の日常業務に必要である。そこで，本科目では，数多くの計算問題の演習を行うことで，全員が正確かつ迅速に計算ができるようになることを目的とする。。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養に関する勉強の基礎が身につく。<br>・論理的な考え方が身に付く。<br>・一般教養（理系）の力がつく<br>なお，本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 概数の理解・四捨五入・単位 | |
| 第2回 | 小数の計算 | |
| 第3回 | 分数の計算 | |
| 第4回 | 一次方程式　その1 | |
| 第5回 | 一次方程式　その2 | |
| 第6回 | 一次方程式（文章問題）その1 | |
| 第7回 | 一次方程式（文章問題）その2 | |
| 第8回 | 原価計算　その1 | |
| 第9回 | 原価計算　その2 | |
| 第10回 | 割合・比 | |
| 第11回 | 質量パーセント濃度　その1 | |
| 第12回 | 質量パーセント濃度　その2 | |
| 第13回 | 食材の可食率・廃棄率 | |
| 第14回 | 食材の発注量 | |
| 第15回 | 総まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 意欲的な学習態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | 各科目の理解度 |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。 |
| 授業外学修 | 間違えた箇所を中心に，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，毎回，必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎化学 | | | 授業番号 | NB102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 化学は，生化学・生命科学を理解する上で必須の学問である。<br>この講義では，高校卒業までに修得しておくべき基礎科学を中心に，（管理）栄養士として必須となる生化学につながる無機化学全般を取り扱う。<br>講義のアウトラインは参考書に従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 物質を構成する元素・分子の構造と性質について説明できる。<br>物質のとりうる状態（気体・液体・個体）とその相互関係について理解できる。<br>化学反応と化学平衡，熱・光エネルギーについて理解できる。<br>元素とその化合物について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養学と化学 | |
| 第2回 | 物質の構成 － 物質の構成 | |
| 第3回 | 物質の構成 － 粒子の結合 | |
| 第4回 | 物質の構成 － 粒子の相対質量と物質量 | |
| 第5回 | 物質の三態 － 物質の三態と平衡 | |
| 第6回 | 物質の三態 － 気体 | |
| 第7回 | 物質の三態 － 溶液 | |
| 第8回 | 物質の反応 － 化学反応と熱・光 | |
| 第9回 | 物質の反応 － 化学反応の速さと化学平衡 | |
| 第10回 | 物質の反応 － 酸と塩基の反応 | |
| 第11回 | 物質の反応 － 電池と電気分解 | |
| 第12回 | 無機化合物 － 非金属元素とその化合物 | |
| 第13回 | 無機化合物 － 典型金属元素とその化合物 | |
| 第14回 | 無機化合物 － 遷移元素とその化合物 | |
| 第15回 | 無機化合物 － 金属イオンの反応<br>「有機化合物と人間生活」への導入 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 5 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 参考書や配布資料も含めて，紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため，定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが，出欠と授業態度，小テストの結果も若干加味して最終評価する。 |
| 受講の心得 | この講義は選択科目であるが，２年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，（特に高校卒業時までの）化学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。<br>まとまった単位で，相当枚数の資料を配布するので，基礎化学専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。 |
| 授業外学修 | 配布資料・参考書を用いて，講義した内容について復習し，週あたり４時間以上の学修をとおして，講義内容をよく理解しておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 視覚で化学図録 | 数件出版編集部 編集 | 数研出版 | 978-4-410-27386-5 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 高校で化学をよく学んでいない学生，もう一度きちんと化学を修得したい学生，生化学（必須科目）の理解度を深めたい学生は必ず履修すること。 |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎生物学 | | | 授業番号 | NB103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | ヒトを中心に細胞から個体に至る生体の階層性を学び，「生物とは何か」について理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生体の基本的な仕組みを理解することで，生化学，生理学，栄養学，解剖学等の専門分野を学習する上で欠くことのできない基礎的な知識を身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 中間試験を2回実施する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第　1　回　生き物としてのヒト<br>第 2～4 回　ヒトの体の構造<br>第 5･6 回　生命を維持するしくみ<br>第 7～9 回　体を構成する器官<br>第10～12回　生命を維持するしくみ<br>第13･14回　代謝のしくみ<br>第　15　回　恒常性を維持するしくみ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 中間試験によって授業の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 興味と疑問点をもって積極的に取り組むこと。継続的に復習をすること。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を連絡すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，教科書および配布資料を読み，復習する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新課程 視覚でとらえる フォトサイエンス生物図録 | 嶋田 正和 他(監修) | 数研出版 | 978-4410281679 | 935円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 化学 | | | 授業番号 | NB104 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教科名は化学であるが，講義内容は有機化学である。<br>人間の体の構成成分・食品のほぼ全ては有機化合物で構成されている。<br>有機化合物の基礎から生体・食品を構成する有機高分子化合物までを網羅的に説明する。<br>講義のアウトラインはテキストに従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 有機化合物の基本構造と官能基について説明できる。<br>生命活動を担う物質，また食品構成成分としての有機高分子化合物について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 有機化学とは何か | |
| 第2回 | アルカン | |
| 第3回 | アルケン | |
| 第4回 | シクロアルカン・シクロアルケン | |
| 第5回 | アルコールとエーテル | |
| 第6回 | アルデヒド | |
| 第7回 | ケトン | |
| 第8回 | カルボン酸 | |
| 第9回 | エステル | |
| 第10回 | アミンとアミド | |
| 第11回 | 芳香族化合物 | |
| 第12回 | 糖質の化学 | |
| 第13回 | 脂質の化学 | |
| 第14回 | アミノ酸の化学 | |
| 第15回 | 酵素反応の有機化学 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 5 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 基本的に参考書や配布資料も含めて，紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため，定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが，出欠と授業態度も若干加味して最終評価する。 |
| 受講の心得 | この講義は選択科目であるが，２年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，今後の講義を深く理解したいと考える学生は履修すること。<br>まとまった単位で，相当枚数の資料を配布するので，有機化学専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。 |
| 授業外学修 | 配布資料・テキストを用いて，講義した内容について復習し，週あたり４時間以上の学修をとおして，講義内容をよく理解しておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 有機化学 | 山田 恭正 編 | 羊土社 | 978-4-7581-1357-1 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生物学 | | | 授業番号 | NB105 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 生命は生物そのものである。生命（生物）を探求する学問（生命科学）の一部が生物学である。<br>大学を卒業したものが備えておくべき（学士力）幅広い教養の一部としての生物学の講義であるが，高校卒業までに習得しておくべき基礎生物学の復習的な内容も広くカバーする。<br>講義のアウトラインは参考書に従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養学に直結する生物学のごく一部ではなく，生命のミクロな領域からマクロな領域までの幅広い生物学の全容が理解できる。<br>生命科学の発展してきた経緯が理解でき，既知の事実から未知の事実を発見・証明していく経緯が説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生命とは何か | |
| 第2回 | 細胞の発見と細胞の構造・機能 | |
| 第3回 | 単細胞・多細胞・組織から個体としての生命 | |
| 第4回 | 代謝とエネルギー産生に関わる物質 | |
| 第5回 | 代謝とエネルギー産生に関わる反応系 | |
| 第6回 | 遺伝の歴史と各種遺伝 | |
| 第7回 | 遺伝子の発現 | |
| 第8回 | 生殖 | |
| 第9回 | 発生 | |
| 第10回 | 生体環境の維持（循環器系・呼吸器系・消化器系） | |
| 第11回 | 生体環境の維持（神経系・免疫系・内分泌系） | |
| 第12回 | 生態系とニッチ（異種間の関わり合い） | |
| 第13回 | 気候とバイオーム，生態系のバランスと生命多様性 | |
| 第14回 | 生命の起源と進化 | |
| 第15回 | 種分化と系統分類 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 5 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 基本的に参考書や配布資料も含めて，紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため，定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが，出欠と授業態度も若干加味して最終評価する。 |
| 受講の心得 | この講義は選択科目であるが，２年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，（特に高校卒業時までの）生物学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。<br>まとまった単位で，相当枚数の資料を配布するので，生物学専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。 |
| 授業外学修 | 配布資料・参考書を用いて，講義した内容について復習し，週あたり４時間以上の学修をとおして，講義内容をよく理解しておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 視覚で生物図録 | 数件出版編集部 編集 | 数研出版 | 978-4-410-28166-2 | 1130 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活と情報処理 1クラス | | | 授業番号 | NC101A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な<br>側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組<br>み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業も具体的な目標は，次の３点である。<br>（１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。<br>（２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。<br>（３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I | |
| 第2回 | パソコン操作についての基礎知識II | |
| 第3回 | ネット利用についての基礎知識I | |
| 第4回 | ネット利用についての基礎知識II | |
| 第5回 | ワードの基礎知識I | |
| 第6回 | ワードの基礎知識II | |
| 第7回 | ワードの基礎知識III | |
| 第8回 | パワーポイントの基礎知識I | |
| 第9回 | パワーポイントの基礎知識II | |
| 第10回 | パワーポイントの基礎知識III | |
| 第11回 | デジタルコンテンツの作成の仕方I | |
| 第12回 | デジタルコンテンツの作成の仕方II | |
| 第13回 | デジタルコンテンツの作成の仕方III | |
| 第14回 | 情報の倫理とセキュリティI | |
| 第15回 | 情報の倫理とセキュリティII | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する. |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する. |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。<br>わからないことは質問すること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活と情報処理 2クラス | | | 授業番号 | NC101B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な<br>側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組<br>み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業も具体的な目標は，次の３点である。<br>（１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。<br>（２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。<br>（３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I | |
| 第2回 | パソコン操作についての基礎知識II | |
| 第3回 | ネット利用についての基礎知識I | |
| 第4回 | ネット利用についての基礎知識II | |
| 第5回 | ワードの基礎知識I | |
| 第6回 | ワードの基礎知識II | |
| 第7回 | ワードの基礎知識III | |
| 第8回 | パワーポイントの基礎知識I | |
| 第9回 | パワーポイントの基礎知識II | |
| 第10回 | パワーポイントの基礎知識III | |
| 第11回 | デジタルコンテンツの作成の仕方I | |
| 第12回 | デジタルコンテンツの作成の仕方II | |
| 第13回 | デジタルコンテンツの作成の仕方III | |
| 第14回 | 情報の倫理とセキュリティI | |
| 第15回 | 情報の倫理とセキュリティII | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する. |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する. |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。<br>わからないことは質問すること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 情報処理演習Ⅰ | | | 授業番号 | NC102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となった情報技術に関する実用的な能力の獲得を目指す．本講義では，大学の授業においても，これらの活用が前提となり，レポート作成や卒業論文の執筆，収集したデータの整理や集計，学習成果を報告するためのプレゼンテーションなどのスキルは持っていて当然となっている．このような現状をふまえ，社会生活の中で最も利用するであろう代表的なアプリケーションであるワードプロセッサツールであるMicrosoft Wordの利用方法を修得する． | | | | | | | | |
| 到達目標 | ワードプロセッサツールである「Microsoft Word 2016」による基本的な情報処理のスキルを身に付け，Word固有の機能を使用した数式や図表を含む文章作成や小冊子の編集が出来るようになることを目的とする．<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞の修得に貢献する． | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報モラルと情報セキュリティ・タイピング練習 | |
| 第2回 | 基本的な文章を作成（１） | |
| 第3回 | 基本的な文章を作成（２）ビジネス文章の書き方 | |
| 第4回 | 基本的なレポートを作成 | |
| 第5回 | 図や表を挿入，文章の印刷 | |
| 第6回 | グラフィック機能を使って表現力のアップ（１） | |
| 第7回 | グラフィック機能を使って表現力のアップ（２） | |
| 第8回 | 段組みを使ってレイアウトを整える | |
| 第9回 | 表を使ってデータを見やすくする | |
| 第10回 | ExcelデータをWordで利用する | |
| 第11回 | フォームを使って入力効率をあげる | |
| 第12回 | 宛名を差し込んで印刷 | |
| 第13回 | 長文レポートの編集と文書の校閲 | |
| 第14回 | Wordの特殊機能・オフィスソフトの特殊機能 | |
| 第15回 | 総合問題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する． |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 習熟達成度を評価する． |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 演習科目のため，遅刻・欠席は厳禁である．また，課題を提出すること．レポート課題についても全て提出すること．<br>やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学習しておくこと． |
| 授業外学修 | 1.授業時間内に十分理解できなかった演習については，各自で再度行い理解すること．<br>2.授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，<br>授業中出題されなかった他の演習問題を事後学習として取り組むこと．<br>3.発展学習として総合スキルアップ問題などの課題を演習中に学習した技術を使って作成する．<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること． |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるWord2019演習問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | 978-4-86510-428-8 | 1，000円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | *ただし，開講時に改訂版等が出版された場合には，変更となる場合もある． |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 基本的な情報処理のスキルを身に付け，Word固有の機能を使用した数式や図表を含む文章作成や小冊子の編集の技能を習得させる． |

| 科目名 | 情報処理演習Ⅱ | | | 授業番号 | NC103 | サブタイトル | （表計算） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，情報リテラシーの中でも特に学生が苦手である表計算ソフトの基本的かつ応用的な操作方法について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理とコンピュータの関わり<br>コンピュータにおけるデータの扱い方について学習する。 | |
| 第2回 | 表計算ソフトの基礎知識<br>表の作成から印刷・保存について学習する。 | |
| 第3回 | 表計算ソフトの基礎知識<br>基礎的なグラフの作成方法について学習する。 | |
| 第4回 | ワークシートの活用(1)<br>表の編集機能および書式設定について学習する。 | |
| 第5回 | ワークシートの活用(2)<br>罫線と表のスタイルについて学習する。 | |
| 第6回 | ワークシートの活用(3)<br>セルの絶対参照と相対参照の違い，属性および表示形式について学習する。 | |
| 第7回 | ワークシートの活用(4)<br>基本的な関数について学習する。 | |
| 第8回 | ワークシートの活用(5)<br>基本的な関数および条件付き書式について学習する。 | |
| 第9回 | グラフ(1)<br>グラフ化による利点とその問題点，注意点および基本的なグラフ(棒グラフ)について学習する。 | |
| 第10回 | グラフ(2)<br>基本的なグラフ(折れ線グラフ，円グラフ)について学習する。 | |
| 第11回 | グラフ(3)<br>応用的なグラフ(複合グラフ，レーダーグラフ)について学習する。 | |
| 第12回 | データベース<br>データベース機能およびデータベース集計について学習する。 | |
| 第13回 | Excelの応用(1)<br>より高度な関数について学習する。 | |
| 第14回 | Excelの応用(2)<br>データベース関数について学習する。 | |
| 第15回 | 総合演習・まとめ<br>演習問題を通してより表計算について理解・学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 習熟達成度を評価する。 |
| その他 | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間でマスターExcel2019（Windows10対応） | 実教出版企画開発部 | 実教出版 | 978-4-407-34837-8 | 1045 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | 基礎統計演習 | | | 授業番号 | NC204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 統計的な考え方，統計手法は，さまざまな領域で必要となる．栄養の領域においても，統計分析を活用できる知識やスキルは求められている．<br>本授業では，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について解説する．<br>また実際のデータを活用して，パソコン（Excel/SPSS）を用いたデータの統計処理も行う． | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する．<br>２）基礎統計量，統計的検定・推定，多変量解析の考え方を理解する．<br>３）パソコンを用いて結果を算出し，その結果をみて考察を行う．<br>以上を到達目標とする．<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データ解析における４つの尺度 | |
| 第2回 | 基本統計量（平均値，中央値，最頻値） | |
| 第3回 | 度数分布表とヒストグラム | |
| 第4回 | さまざまな分布 | |
| 第5回 | ２つの変数の関係（単相関） | |
| 第6回 | 統計的仮説検定の考え方 | |
| 第7回 | 度数の検定 | |
| 第8回 | 平均値の検定 | |
| 第9回 | 標本抽出 | |
| 第10回 | 重回帰分析の考え方 | |
| 第11回 | 重回帰分析の実践 | |
| 第12回 | 主成分分析の考え方 | |
| 第13回 | 因子分析の考え方 | |
| 第14回 | 主成分分析，因子分析の実践 | |
| 第15回 | その他，多変量データの分析手法と多変量統計的グラフ手法 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する． |
| レポート | 10 | レポート課題を課す． |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 習熟達成度を評価する． |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | まずは，データを解析して，何らかの結論を導くという，実証的な方法論に興味を持っていただきたい.<br>そして，実際に手法を適用して，結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている.<br>数学的な知識は必須ではないが，数値や数式を用いることがあるため，数学に興味を持ってもらいたい. |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく.<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う.<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う.<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする. |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| マンガでわかるやさしい統計学 | 小林克彦 | 池田書店 | 978-4-262-15560-9 | 1400 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 板書を中心とするが，必要に応じてプリントを配布する. |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 | 安藤明之 | 日本評論社 | | 2，500円＋税 |
| EXCELビジネス統計分析 | 末吉正成，末吉美喜 | 翔泳社 | 978-4-7981-48898-4 | 2380 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 統計学図鑑　栗原伸一・丸山敦史　オーム社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高等学校情報（データ解析） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実験などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について習得させる. |

| 科目名 | 英語Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | ND101A | サブタイトル | （栄養英語） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本演習では，英語を通して食に関する知識を深めるとともに，既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 読解を通して，食に関する語彙や英語表現について学び，基礎的な英語力の向上を目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1 The ABCMVs of Eating | |
| 第2回 | Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate | |
| 第3回 | Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check | |
| 第4回 | Unit 4 Spicing up Your Life with Variety | |
| 第5回 | Unit 5 What's a Body Made of? | |
| 第6回 | Unit 6 Knowing Your Nutrients | |
| 第7回 | Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats | |
| 第8回 | Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals | |
| 第9回 | Unit 9 Water: The Most Important Nutrient | |
| 第10回 | Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No | |
| 第11回 | Unit 11 Digestion: One Step at a Time | |
| 第12回 | Unit 12 Eating Disorders | |
| 第13回 | Unit 13 Food Allergies | |
| 第14回 | Unit 14 Controlling Food Contamination | |
| 第15回 | Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 小テスト | 50 | 各回の内容において英文の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | ノートの提出により，課題を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し，知識として定着させること。以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| やさしい栄養英語 | 田中芳文・中里菜穂子・松浦加寿子 | 講談社 | 978-4-06-513414-6 | 1，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | ND101B | サブタイトル | （栄養英語） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本演習では，英語を通して食に関する知識を深めるとともに，既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 読解を通して，食に関する語彙や英語表現について学び，基礎的な英語力の向上を目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1 The ABCMVs of Eating | |
| 第2回 | Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate | |
| 第3回 | Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check | |
| 第4回 | Unit 4 Spicing up Your Life with Variety | |
| 第5回 | Unit 5 What's a Body Made of? | |
| 第6回 | Unit 6 Knowing Your Nutrients | |
| 第7回 | Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats | |
| 第8回 | Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals | |
| 第9回 | Unit 9 Water: The Most Important Nutrient | |
| 第10回 | Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No | |
| 第11回 | Unit 11 Digestion: One Step at a Time | |
| 第12回 | Unit 12 Eating Disorders | |
| 第13回 | Unit 13 Food Allergies | |
| 第14回 | Unit 14 Controlling Food Contamination | |
| 第15回 | Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 小テスト | 50 | 各回の内容において英文の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | ノートの提出により，課題を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し，知識として定着させること。以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| やさしい栄養英語 | 田中芳文・中里菜穂子・松浦加寿子 | 講談社 | 978-4-06-513414-6 | 1，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅱ 1ｸﾗｽ | | | 授業番号 | ND102A | サブタイトル | （英文読解） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | To learn and use nutrition-related English， and develop English listening， speaking， reading and writing skills， through a study of foreign recipes'， their related culture and history， and practical experience in the kitchen.<br>外国海外料理のレシピ，料理に関連する文化と歴史，キッチンでの実践的な経験を通じて，栄養関連の英語を学び，使用し，英語のリスニング，スピーキング，読書，ライティングのスキルを養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Students will do three personal cooking projects.<br>生徒は3つの個人てきな料理プロジェクトを行います。<br><br>This course will contribute to acquiring language knowledge， comprehension and skills， thinking and problem-solving skills， and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | The course has three projects to teach cooking and nutrition-related English.<br>このコースには，料理と栄養関連の英語を教える3つのプロジェクトがあります。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Self-introductions， Introduction to the course， Google Classrooom， Food groups，<br>自己紹介，コースの紹介，Google Classrooom，食品グループ | |
| 第2回 | Project 1 - Introduction to the ‘Finger food’ project<br>プロジェクト1 -「フィンガーフード」プロジェクトの紹介 | |
| 第3回 | Project 1 - Vocabulary for recipes (ingredients & kitchen utensils)<br>プロジェクト1 - レシピの語彙(食材や台所用品) | |
| 第4回 | Project 1 - Vocabulary for recipes (cooking actions and the imperative form: Boil the water)<br>プロジェクト1 - レシピの語彙(料理の動詞と命令形: 水を沸騰させる) | |
| 第5回 | Project 1 - Short test 1， Finger food videos， critique， project feedback<br>プロジェクト1 - 第1小テスト，フィンガーフードのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック | |
| 第6回 | Project 2 - Introduction to the Soups and salads project<br>プロジェクト2 -「スープとサラダ」プロジェクトの紹介 | |
| 第7回 | Project 2 - Explaining a recipe’s nutrition (It contains…)<br>プロジェクト2 - レシピの栄養の説明について（を含む…） | |
| 第8回 | Project 2 - Let’s check your recipes! (Ingredients， cooking utensils and cooking actions)<br>プロジェクト2 - レシピをチェックしよう! （材料，調理器具，料理の動詞） | |
| 第9回 | Project 2 - Short test 2 & Soups and salads videos， critique， project feedback<br>プロジェクト2 - 第2小テストとスープとサラダのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック | |
| 第10回 | Project 3 - Introduction to the ‘Make a menu’ project<br>プロジェクト3 ?「メニューを作る」プロジェクトの紹介 | |
| 第11回 | Project 3 - Make your menu: main dish， side dish(es) and dessert<br>プロジェクト3 - メニューを作る: メインディッシュ，サイドディッシュとデザート | |
| 第12回 | Project 3 - Introduce and explain your menu in English<br>プロジェクト3 - メニューを英語で紹介して説明する | |
| 第13回 | Project 3 - Cook your main dish， side dish(es) and dessert<br>プロジェクト3 - メインディッシュ，サイドディッシュ，デザートを調理します。 | |
| 第14回 | Project 3 - Menu videos， critique， project feedback，Course review， Student questionnaire<br>プロジェクト3 ? メニューのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック，コースレビュー，学生アンケート | |
| 第15回 | Short test 3， Menu videos，<br>第3小テスト， メニューのビデオ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | Active participation in English 英語で積極的な参加 |
| レポート | 30 | Write a recipe card and critique form for each of the three projects (6 x 5%) 3つのプロジェクトのそれぞれについてレシピカードと批評フォームを書きます (6 x 5%) |
| 小テスト | 30 | Vocabulary tests (3 x 10%) 語彙小テスト (3 x 10%) |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | Three project videos using English sound or subtitles (5%， 5%， 10%) 英語の音声または字幕を使用した3つのプロジェクトビデオ (5%， 5%， 10%) |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | Students will have to pay a small amount for the cooking projects' ingredients. Please pay on cooking days (on-campus) or buy yourself (distance learning).<br>学生は調理プロジェクトの食材に少額を支払うことになる。キャンパスで勉強する場合は調理を行う日に支払いを求めます，または遠隔教育の場合は自分で買ってください。 |
| 受講の心得 | Students must attend at least 10 lessons， participate actively and try to use English during class.<br>学生は少なくとも10回の授業に出席し，授業に積極的に参加し，英語を使ってみる。 |
| 授業外学修 | Make an English cooking video for each of the three projects. The English can be spoken or you can use English subtitles. Also， study for the three vocabulary short tests.<br>3つのプロジェクトのそれぞれについて英語の料理ビデオを作成します。英語を話すことも，英語の字幕を使用することもできます。また，3つの語彙の小テストのために勉強してください。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| なし | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Students must bring all their study materials (textbook， notebook，worksheets， file， etc.) to every class.<br>学生はすべての教材（辞書，教科書，ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。<br>Students are also required to bring a Japanese-English-Japanese dictionary.<br>学生はまた，日本語-英語-日本語の辞書を持参する必要があります。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | Handouts， worksheets，PowerPoint presentations， etc.<br>配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーションなど |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅱ 2ｸﾗｽ | | | 授業番号 | ND102B | サブタイトル | （英文読解） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | To learn and use nutrition-related English， and develop English listening， speaking， reading and writing skills， through a study of foreign recipes'， their related culture and history， and practical experience in the kitchen.<br>外国海外料理のレシピ，料理に関連する文化と歴史，キッチンでの実践的な経験を通じて，栄養関連の英語を学び，使用し，英語のリスニング，スピーキング，読書，ライティングのスキルを養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Students will do three personal cooking projects.<br>生徒は3つの個人てきな料理プロジェクトを行います。<br><br>This course will contribute to acquiring language knowledge， comprehension and skills， thinking and problem-solving skills， and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | The course has three projects to teach cooking and nutrition-related English.<br>このコースには，料理と栄養関連の英語を教える3つのプロジェクトがあります。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Self-introductions， Introduction to the course， Google Classrooom， Food groups，<br>自己紹介，コースの紹介，Google Classrooom，食品グループ | |
| 第2回 | Project 1 - Introduction to the ‘Finger food’ project<br>プロジェクト1 -「フィンガーフード」プロジェクトの紹介 | |
| 第3回 | Project 1 - Vocabulary for recipes (ingredients & kitchen utensils)<br>プロジェクト1 - レシピの語彙(食材や台所用品) | |
| 第4回 | Project 1 - Vocabulary for recipes (cooking actions and the imperative form: Boil the water)<br>プロジェクト1 - レシピの語彙(料理の動詞と命令形: 水を沸騰させる) | |
| 第5回 | Project 1 - Short test 1， Finger food videos， critique， project feedback<br>プロジェクト1 - 第1小テスト，フィンガーフードのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック | |
| 第6回 | Project 2 - Introduction to the Soups and salads project<br>プロジェクト2 -「スープとサラダ」プロジェクトの紹介 | |
| 第7回 | Project 2 - Explaining a recipe’s nutrition (It contains…)<br>プロジェクト2 - レシピの栄養の説明について（を含む…） | |
| 第8回 | Project 2 - Let’s check your recipes! (Ingredients， cooking utensils and cooking actions)<br>プロジェクト2 - レシピをチェックしよう! （材料，調理器具，料理の動詞） | |
| 第9回 | Project 2 - Short test 2 & Soups and salads videos， critique， project feedback<br>プロジェクト2 - 第2小テストとスープとサラダのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック | |
| 第10回 | Project 3 - Introduction to the ‘Make a menu’ project<br>プロジェクト3 ?「メニューを作る」プロジェクトの紹介 | |
| 第11回 | Project 3 - Make your menu: main dish， side dish(es) and dessert<br>プロジェクト3 - メニューを作る: メインディッシュ，サイドディッシュとデザート | |
| 第12回 | Project 3 - Introduce and explain your menu in English<br>プロジェクト3 - メニューを英語で紹介して説明する | |
| 第13回 | Project 3 - Cook your main dish， side dish(es) and dessert<br>プロジェクト3 - メインディッシュ，サイドディッシュ，デザートを調理します。 | |
| 第14回 | Project 3 - Menu videos， critique， project feedback，Course review， Student questionnaire<br>プロジェクト3 ? メニューのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック，コースレビュー，学生アンケート | |
| 第15回 | Short test 3， Menu videos，<br>第3小テスト， メニューのビデオ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | Active participation in English 英語で積極的な参加 |
| レポート | 30 | Write a recipe card and critique form for each of the three projects (6 x 5%) 3つのプロジェクトのそれぞれについてレシピカードと批評フォームを書きます (6 x 5%) |
| 小テスト | 30 | Vocabulary tests (3 x 10%) 語彙小テスト (3 x 10%) |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | Three project videos using English sound or subtitles (5%， 5%， 10%) 英語の音声または字幕を使用した3つのプロジェクトビデオ (5%， 5%， 10%) |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | Students will have to pay a small amount for the cooking projects' ingredients. Please pay on cooking days (on-campus) or buy yourself (distance learning).<br>学生は調理プロジェクトの食材に少額を支払うことになる。キャンパスで勉強する場合は調理を行う日に支払いを求めます，または遠隔教育の場合は自分で買ってください。 |
| 受講の心得 | Students must attend at least 10 lessons， participate actively and try to use English during class.<br>学生は少なくとも10回の授業に出席し，授業に積極的に参加し，英語を使ってみる。 |
| 授業外学修 | Make an English cooking video for each of the three projects. The English can be spoken or you can use English subtitles. Also， study for the three vocabulary short tests.<br>3つのプロジェクトのそれぞれについて英語の料理ビデオを作成します。英語を話すことも，英語の字幕を使用することもできます。また，3つの語彙の小テストのために勉強してください。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| なし | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Students must bring all their study materials (textbook， notebook，worksheets， file， etc.) to every class.<br>学生はすべての教材（辞書，教科書，ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。<br>Students are also required to bring a Japanese-English-Japanese dictionary.<br>学生はまた，日本語-英語-日本語の辞書を持参する必要があります。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | Handouts， worksheets，PowerPoint presentations， etc.<br>配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーションなど |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅲ | | | 授業番号 | ND203 | サブタイトル | （英文読解） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森年 ポール | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養士関連の英語を学び，使用し，英語のリスニング，スピーキング，リーディング，ライティングのスキルを養う職業的に関連するプロジェクトを通じて。<br>To learn and use dietician-related English and develop English listening， speaking， reading and writing skills through professionally related projects. | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養士の仕事に関連する英語，概念，問題を理解し，使用する学生の能力を向上させるため。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。<br>To improve students' ability to understand and use English and concepts and issues related to the work of dieticians.<br>This course contributes to the acquisition of knowledge and understanding among the Bachelor's skills listed in the Diplomacy Policy. | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | このコースは，栄養士の仕事に関連する3つのプロジェクトに分かれています。各プロジェクトの最後に，学生は自分の作品を発表し，他の学生のプロジェクトの作品についてフィードバックを与え，短い単語テストを受けます。<br>The course is divided into three projects related to the work of dieticians. At the end of each project， students present their work， give feedback to other students and take a short vocabulary test. | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自己紹介，コースの紹介，食品グループ，栄養グループ， 食品には何が含まれていますか？<br>Self-introductions， Introduction to the course， Food groups， Nutrition groups， What's in our food? | |
| 第2回 | プロジェクト1の紹介 - ポスター発表「栄養グループと食品グループ」に関する。良いポスターの作り方<br>Introduction to project 1 - Poster presentation 'Nutrition groups and food groups'. How to make a good poster. | |
| 第3回 | プロジェク1 - ポスターの内容とデザインを決定します。<br>Project 1 - Decide your poster's contents and design. | |
| 第4回 | プロジェクト1 - PCでポスターを作成します。ポールにあなたのポスターのファイルを送信します。<br>Project 1 - Make your poster on a PC. Send your poster's file to Paul. | |
| 第5回 | プロジェクト1 - ポスター発表， 学生のフィードバック，小テスト＃1<br>Project 1 - Poster presentations， Students' feedback， Vocabulary test #1 | |
| 第6回 | プロジェクト2の紹介 - PowerPointプレゼンテーション「栄養価の高い4コースの食事メニューを作る」<br>Introduction to project 2 - PowerPoint presentation 'Make a nutritional four-course meal menu' | |
| 第7回 | プロジェクト2 - 良い栄養に基づいて食事の4つのコースを決定します。<br>Project 2 - Decide the meal's four courses based on good nutrition. | |
| 第8回 | プロジェクト2 - あなたの4コースの食事の料理と 栄養を紹介するPowerPointファイルを作成します。<br>Project 2 - Make a PowerPoint file that introduces your four-course meal's dishes and nutrition. | |
| 第9回 | プロジェクト2 - PowerPointプレゼンテーション ，学生のフィードバック，小テスト＃2<br>Project 2 - PowerPoint presentations， Students' feedback， Vocabulary test #2 | |
| 第10回 | プロジェクト3の紹介 - 短いレポートを書く「予算内で1週間の学校給食メニュー」<br>Introduction to project 3 - Write a short report 'A one-week school lunch menu on a budget' | |
| 第11回 | プロジェクト3 - メニューを決めて栄養を確認します。<br>Project 3 - Decide the menu and check the nutrition. | |
| 第12回 | プロジェクト3 - メニューをピアレビューします。テンプレートを使用してレポートの作成を開始します。<br>Project 3 - Peer-review your menu. Start writing your report using the template. | |
| 第13回 | プロジェクト3 - メニューを確認，修正，改善します。<br>Project 3 - Review， correct and improve your menu. | |
| 第14回 | プロジェクト3 - メニューを紹介し，学生のフィードバック，小テスト＃3<br>Project 3 - Introduce your menu， Students' feedback， Vocabulary test #3 | |
| 第15回 | コースレビュー，学生アンケート<br>Course review， Student questionnaire | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加) |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 語彙小テスト Vocabulary tests （3 x 10%） |
| 定期試験 | | |
| その他 | 45 | プロジェクトワーク（ポスター発表，パワーポイント発表，学校メニューレポート） Project work (Poster Presentation， PowerPoint presentation， School menu report) (3 x 15%) |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 学生は英語で積極的に参加し，小テストを取る，プロジェクトの作業を時間どおりに提出する必要があります。<br>Students must participate actively in English， take tests and submit project work on time. |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| なし | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学生はすべての教材（辞書，プロジェクトノート， ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。<br>Students must bring all of their study materials (dictionary， project notes， notebook， worksheets， file， etc.) to every class. |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーション，YouTubeビデオなど<br>Handouts， worksheets，PowerPoint presentations， YouTube videos， etc. |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 韓国語 | | | 授業番号 | ND204 | サブタイトル | 韓国語の基礎を学ぶ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河　智弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 基本文型と文法を会話文の中で習得し，日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。韓国語コミュニケーションIで学んだ韓国語の基礎を生かして，会話，慣用的な表現などを用いて，読み，書き，聞き取り，話すことをバランスよく習得していく。特に，聞き取りと話すことにおいて，留学生などのゲストを迎えスキルを活用する機会につなげる | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。<br>・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。<br>・簡単な韓国語が書けることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 韓国語とは | |
| 第2回 | 文字と発音・母音 | |
| 第3回 | 文字と発音・子音 | |
| 第4回 | 激音と農音，パッチム | |
| 第5回 | 自己紹介 | |
| 第6回 | これは何ですか | |
| 第7回 | 結婚写真 | |
| 第8回 | 動詞の活用 | |
| 第9回 | 何をしますか | |
| 第10回 | 韓国映画の言葉 | |
| 第11回 | 私たちの教室 | |
| 第12回 | 動詞の尊敬形 | |
| 第13回 | どこに行かれますか。 | |
| 第14回 | 場所 | |
| 第15回 | 日常会話及びまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っていたかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。 |
| 定期試験 | 40 | 授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をすること<br>宿題を真面目にすること |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。<br>・復習として，毎回の課題をノートに書いて来ること。<br>・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カナタコリアン初級1 | カナタ韓国語学院 | 国書刊行会 | 978-4-336-05677-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改正 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育講義 全8回 | | | 授業番号 | NE101 | サブタイトル | (日常生活と健康) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田 知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。<br>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「体力」について考える | |
| 第2回 | 「ホルモン」のはたらきについて考える | |
| 第3回 | 「自律神経」のはたらきについて考える | |
| 第4回 | 「背筋力」のはたらきについて考える | |
| 第5回 | 「免疫力」のはたらきについて考える | |
| 第6回 | 「睡眠」とスポーツ | |
| 第7回 | 身体形成と機能の発達 | |
| 第8回 | 身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。 |
| 授業外学修 | ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。<br>・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育実技 | | | 授業番号 | NE102 | サブタイトル | （スポーツに親しもう） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。<br>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第2回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第3回 | バスケットボールIII（ゲームの展開） | |
| 第4回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第5回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第6回 | バレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第7回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第8回 | バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第9回 | バドミントンIII（ゲームの展開） | |
| 第10回 | ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第11回 | ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第12回 | ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解） | |
| 第14回 | 卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 各競技ごとに試合を実施する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備・片付けをする。 |
| 授業外学修 | ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。<br>・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファーストイヤーセミナー | | | 授業番号 | NF101 | サブタイトル | （大学生活に慣れよう！） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇、井之川　仁、小野　尚美、大桑　浩孝、楠本　晃子、木野山　真紀、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | ファーストイヤーセミナーでは，大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用方法など，大学生活を充実したものとしていくための基礎づくりを行う。<br>管理栄養士養成課程の学生として，管理栄養士を目指すモチベーションを高める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・大学生としての学問の手法を修得する。<br>・社会常識を修得する。<br>・行動規範等を修得する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業内容および日程の詳細は，前期オリエンテーション期間に資料を配布して説明する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1回目～3回目：学生手帳の活用法，シラバスの見方・授業の受け方・勉強方法，管理栄養士養成課程の理解，レポートの書き方など大学生活において必要不可欠な内容について講義する。<br><br>4回目：図書館の利用方法について<br><br>5回目～8回目：管理栄養士として現場経験のある4人の教員による管理栄養士の仕事紹介<br><br>9回目：お金・ローン・クレジットについて<br><br>10回目～14回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」でグループディスカッションとプロダクト作成<br><br>15回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」発表会 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業中の態度，特に，積極的に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に関する内容を具体的に述べていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | （1）講義：人権について，交通安全講座，金融に関する講座等を行う。<br>（2）演習：コミュニケーション力，スケジュール管理，マナー講座等を行う。<br>（3）自己学習：計算力，語彙力，文章読解力等の見直しを行う。 |
| 受講の心得 | 大学生としての基本的姿勢に関する授業であるから，積極的な受講姿勢を求める。<br>授業後には当日学修したことを見直し，日々の授業に役立てる工夫を各自で行う。 |
| 授業外学修 | 授業内容をノート等に整理すること。<br>週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「知へのステップ」学習技術研究会，くろしお出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 健康管理概論 | | | 授業番号 | NJ106 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 非　栄X | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | (1)全ての住民の健康を維持・増進させるための考え方や社会制度を学ぶ。<br>(2)各種保健衛生・医療等に係る情報や統計資料の種類と収集法，及び統計資料の解読に習熟する。<br>(3)保健・医療・福祉制度と関係法規について学ぶ。<br>(4)公衆衛生行政・公衆衛生活動について学ぶ | | | | | | | | |
| 到達目標 | 世界と日本における健康概念の歴史的変遷を考えることで，近代の健康概念・健康管理体制に至った過程を理解する。<br>全ての住民の健康を維持し，向上させるための具体的な保健・医療・福祉制度を学ぶ。<br>各種保健医療施策等の根拠法冷を理解する。<br>健康の概念を把握し，健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方を理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 健康の概念とその歴史的変遷 | |
| 第2回 | 人口統計と保健医療に関する各種統計 | |
| 第3回 | 地域保健 | |
| 第4回 | 母子保健 | |
| 第5回 | 感染症対策 | |
| 第6回 | ヘルスプロモーションの歴史と現状 | |
| 第7回 | 成人保健１・健康日本21（２次）総論 | |
| 第8回 | 成人保健２・健康日本21（２次）各論 | |
| 第9回 | 我が国の健診・検診体制 | |
| 第10回 | がん対策 | |
| 第11回 | 医療法と医療提供体制 | |
| 第12回 | 高齢者医療制度と介護保険制度 | |
| 第13回 | 在宅介護と在宅医療体制 | |
| 第14回 | 精神疾患の予防と医療体制 | |
| 第15回 | 職場の健康管理（THPの考え方に至る歴史）・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 授業への出席状況と参加態度 |
| レポート | 15 | (1)提出の有無　(2)資料や教科書を読みこなして記載しているかどうか |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | (1)１０回～15回の課題を宿題とします。授業の予習復習に役立ててください。提出の有無は評価の対象とします。<br>(2) 毎回資料を配布します。ファイルの保管管理を習慣化してください。また，配布した資料は，授業時には必ず持参してください。 |
| 受講の心得 | 本授業で紹介する保健・医療・福祉制度や統計資料は年単位で定期的あるいは随時，変化・更新されるものがほとんどである。したがって，メディアを通じて発信される様々な国際情報，特に保健・医療・福祉などの情報に日頃から勤めて接するよう努力してください。 |
| 授業外学修 | 予習：授業毎に授業計画で示した教科書該当箇所を通読しておくこと。<br>復習：ﾚﾎﾟｰﾄ提出を行うことで実施すること。<br><br>＊週当たり4時間以上の学修を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「国民衛生の動向 」厚生労働統計協会 |
| その他 | 各種統計調査結果はネット上でアアクセスできます。<br>人口統計，保健統計，感染症情報，その他多くの統計が，定期的に更新されて，厚生労働省等からネット上に公開されますので，日ごろから保健・医療等に関する最新の公開情報へのアクセスを習慣化しましょう。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会福祉概論 | | | 授業番号 | NJ107 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会福祉の歴史をふまえながら，現代社会における福祉の制度について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 社会福祉の動向を学ぶなかで，利用者本位の支援について理解する。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 私たちの暮らしと社会福祉 | |
| 第2回 | 栄養士が社会福祉を学ぶ意義 | |
| 第3回 | 社会福祉のあゆみ | |
| 第4回 | 社会福祉の法律 | |
| 第5回 | 社会福祉の行財政 | |
| 第6回 | 社会福祉の実施体制 | |
| 第7回 | 社会福祉における直接的支援 | |
| 第8回 | 社会福祉における間接的支援 | |
| 第9回 | 社会福祉の担い手 | |
| 第10回 | 公的扶助 | |
| 第11回 | 児童福祉 | |
| 第12回 | 高齢者福祉 | |
| 第13回 | 介護保険 | |
| 第14回 | 障害者福祉 | |
| 第15回 | 社会福祉の課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 50 | 社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容の理解を深めるため，授業が始まるまでにワークの内容を読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキスト，ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 新聞を教材に使用します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 人と環境 | | | 授業番号 | NJ202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 地球環境，資源・エネルギー問題，大気・水環境汚染，化学物質汚染など，現代の環境問題は私たち現代の人類がその原因を作り，私たち自身に降りかかっている問題である。授業ではこれらの環境問題を，最新の知見，データーをもとに科学的にとらえ，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について考える機会を与える。各自が環境問題を日常生活レベルの問題と認識して研究調査を行い，今後の改善や行動に繋がる具体的なアイデアをスライドを用いて発表する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現代環境問題生起の基本的なメカニズムについて修得し理解している。<br>・食と栄養の専門家として関わりの大きい環境問題について基礎的知識の習得している。<br>・環境問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，考えることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 気候変動 | |
| 第2回 | 気候変動 | |
| 第3回 | 気候変動 | |
| 第4回 | 気候変動 | |
| 第5回 | 気候変動 | |
| 第6回 | 生物多様性 | |
| 第7回 | 生物多様性 | |
| 第8回 | 気候変動で起きている身近な問題について調査発表（グループ発表） | |
| 第9回 | 気候変動で起きている身近な問題について調査発表（グループ発表） | |
| 第10回 | 外来種 | |
| 第11回 | 外来種 | |
| 第12回 | 内分泌かく乱化学物質 | |
| 第13回 | 内分泌かく乱化学物質 | |
| 第14回 | 生物多様性や外来種に関する問題について調査発表（グループ発表） | |
| 第15回 | 生物多様性や外来種に関する問題について調査発表（グループ発表） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | グループ発表の内容および完成度によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度および達成度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日頃より環境問題や生態系に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を連絡すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。<br>(2)復習として，授業で配布した資料を読み， 理解を深める。<br>(3)発展学修として，環境問題や生態系に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。<br>週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 図解でわかる 14歳から知る気候変動 | インフォビジュアル研究所 | 太田出版 | 9784778317102 | 1，650円 |
| 図解でわかる 14歳からの生物多様性 | インフォビジュアル研究所 | 太田出版 | 9784778318321 | 1，650円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 公衆衛生学Ⅰ | | | 授業番号 | NJ203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 公衆衛生学は，人びとを疾病から守り，健康の保持・増進をはかることを目的としており，管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲にわたっている。そのうちで，公衆衛生学Iでは，疫学，保健統計，社会保障の分野を中心に学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計，疫学，社会保障の知識を身につける。<br>・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。<br>・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9） | |
| 第2回 | 疫学，疫学研究のデザイン（テキスト p.10～p.11，p.19～p.25） | |
| 第3回 | EBMの実践（テキスト p.32～p.33） | |
| 第4回 | 疫学の効果指標（テキスト p.15～p.18） | |
| 第5回 | 検査の指標とスクリーニング（テキスト p.26～p.29） | |
| 第6回 | 疾病・死亡の指標，保健統計（テキスト p.12～14，p.38～p.39） | |
| 第7回 | 保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43） | |
| 第8回 | 保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53） | |
| 第9回 | 保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61） | |
| 第10回 | 保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65） | |
| 第11回 | 社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p159） | |
| 第12回 | 社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167） | |
| 第13回 | 社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171） | |
| 第14回 | 地域保健（テキスト p.172～p.177） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 意欲的な受講態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | 各回の主要なポイントの理解度 |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。<br>(2)復習として，授業で作成したノートを整理する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆衛生がみえる 2022-2023 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 第5版「公衆衛生がみえる2022-2023」（編著：医療情報科学研究所）（出版社：メディックメディア）2022年3月11日発刊予定<br>※公衆衛生学の内容は，日々更新されているので，第5版「公衆衛生がみえる2020-2021」以前のものを中古で購入しないようにしてください。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 公衆衛生学Ⅱ | | | 授業番号 | NJ204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 公衆衛生学の学習内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲に亘っている。そのうちで，公衆衛生学IIでは，環境と健康，産業保健，学校保健の分野を中心に学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる環境保健，産業保健，学校保健，高齢者保健，地域保健の知識を身につける。<br>・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーのの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.178～p.183） | |
| 第2回 | 成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.191） | |
| 第3回 | 成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキスト p.192～p.197） | |
| 第4回 | 母子保健，母子保健法（テキスト p.198～p.207） | |
| 第5回 | 出産・育児に関わる制度，母体保護法（テキスト p.208～p.213） | |
| 第6回 | 高齢者保健，老人福祉法，高齢者医療確保法（テキスト p.228～p.233） | |
| 第7回 | 介護保険法（テキスト p.234～p.239） | |
| 第8回 | 介護保険法（テキスト p.240～p.247） | |
| 第9回 | 在宅医療（テキスト p.248～p.251） | |
| 第10回 | 食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.308～p.313） | |
| 第11回 | 食品保健；食中毒（テキスト p.314～p.325） | |
| 第12回 | 学校保健（テキスト p.334～p.343） | |
| 第13回 | 産業保健；産業保健総論，労働基準法，労働安全衛生法（テキスト p.344～p.356） | |
| 第14回 | 産業保健；健康管理（テキスト p.357～p.363） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 意欲的な受講態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | 各章の主要なポイントの理解度 |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書のを読み疑問点を明らかにしておく。<br>(2)復習として，授業で作成したノートを整理する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆衛生がみえる 2020-2021 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 4896327799 | 3960 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 公衆衛生学実習 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NJ205A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を，実習によってより確かなものとして活用できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。<br>・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。<br>・健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解 | |
| 第2回 | 健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表 | |
| 第3回 | 健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解 | |
| 第4回 | 健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表 | |
| 第5回 | 健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較） | |
| 第6回 | 健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較） | |
| 第7回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画 | |
| 第8回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表 | |
| 第9回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答 | |
| 第10回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表 | |
| 第11回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画 | |
| 第12回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表 | |
| 第13回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答 | |
| 第14回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表 | |
| 第15回 | 危険予知トレーニング（KYT）の実践 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 発表・討議への参加状況 |
| レポート | 50 | 各回の内容・ポイントの的確は文章表現力 |
| 小テスト | | 各回の主要なポイントの理解度 |
| 定期試験 | | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に，講義（公衆衛生学I･II）の内容のうち，該当部分を復習しておく。事後に復習し，習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。 |
| 授業外学修 | 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆衛生がみえる 2020-2021 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 4896327799 | 3960 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 公衆衛生学実習 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NJ205B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を，実習によってより確かなものとして活用できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。<br>・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。<br>・健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解 | |
| 第2回 | 健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表 | |
| 第3回 | 健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解 | |
| 第4回 | 健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表 | |
| 第5回 | 健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較） | |
| 第6回 | 健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較） | |
| 第7回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画 | |
| 第8回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表 | |
| 第9回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答 | |
| 第10回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表 | |
| 第11回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画 | |
| 第12回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表 | |
| 第13回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答 | |
| 第14回 | 健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表 | |
| 第15回 | 危険予知トレーニング（KYT）の実践 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 発表・討議への参加状況 |
| レポート | 50 | 各回の内容・ポイントの的確は文章表現力 |
| 小テスト | | 各回の主要なポイントの理解度 |
| 定期試験 | | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に，講義（公衆衛生学I･II）の内容のうち，該当部分を復習しておく。事後に復習し，習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。 |
| 授業外学修 | 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆衛生がみえる 2020-2021 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 4896327799 | 3960 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 人間の科学 | | | 授業番号 | NJ301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二、多田　賢代、井之川　仁、森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 人は，他者や社会とのかかわりの中で，職業人，家庭人，地域社会の一員であることなど，様々な役割を 担いながら生きている。本授業は，社会でご活躍されている有識者の講演や視聴覚教材などにふれながら，社会の中で自分の役割を果たし，自分らしい生き方を実現していくために必要となる「価値基準」を養うためのキャリア教育の一環として位置づけられる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 授業各回において問いかけられる課題に対して，議論を重ねながら解答を導き出すように努力することで，より深い思考力および問題解決能力を養うことを目標とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 講義，懇談などにおいて，講師との交流・議論を通して学習する。あくまでも自主的な取り組みが必要であり，自分で考え，自分の意見・見解を確認し，表現する能力を養うこと。<br>各回の授業項目と講師は変更することがある。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回：オリエンテーション，授業の進め方の説明<br>第2回～第14回：<br>宗教とボランティア活動<br>障害者支援の実際<br>などその他様々なテーマに関する講義を聴講し，討論を行いつつ，レポート作成，ディスカッションなどを行うことで<br>知識，考え方を醸成する。,<br><br>授業の内容・日程については初回授業の時にあらためて連絡する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 100 | 各授業における課題、感想，意見を時間内にまとめ，提出したレポートで評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 各授業における課題、感想，意見を時間内にまとめ，提出したレポートで評価する（100%）。 |
| 受講の心得 | 各講師の講演は，心を開いて聴講し，疑問点があれば積極的に質問すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容について文献等と共に復習すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特になし。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 内容に応じてプリントを配布する。 |
| その他 | キャリア教育の一環として，「自己の価値判断の基準」価値観を確立するための教科です。人が創造的に生きるためには、知情意にわたる「自己の価値判断の基準」が必要です。その基準は各自が生涯にわたって築きあげるものですが，学生時代はいろいろな人たちの考え方，生き方，人生のあり方を知り、学ぶことで、自己に適した基準を順次作り上げていくときです。そして，他者の基準，社会の基準を知り、他者を受容し、思考，行動を寛容する能力を養います。これにより深い洞察力を持った豊かな人間性を養う習慣を身につけ，より豊かな人格の形成に向けて精進できるようになります。 |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 宗教，障害者支援等に関して高い見識をもち，実務経験も豊かである。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 社会の中で自分の役割を果たしながら，自分らしい生き方を実現していくために必要となる「価値基準」を養うことに留意する。 |

| 科目名 | 子どもと高齢者の福祉 | | | 授業番号 | NJ308 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 今日の社会福祉の大きな課題は，なんと言っても少子高齢化である。悲しいことに政府は，1980年代まで具体的な政策を展開しなかった。1990年代になり，少子高齢化が著しく進むため，急きょ福祉政策が実施されることになる。たとえば，ゴールドプラン，新ゴールドプラン，エンジェルプラン，介護保険，ゴールドプラン21，新エンジェルプラン等次々と政策を打ち出し，この少子高齢化に対応しようとしている。これらの政策は，解決に向けての第一歩と言える。このような社会状況において，この授業では少子高齢化の要因や現状を具体的に学んでいく。そして，この問題の解決策についてもみなさんと検討していきたい。また，各論において具体的な介護問題や児童問題，具体的には高齢者の所得保障，医療保障，就労保障，生きがい対策，児童虐待，いじめ，少年事件等の今日の福祉事例についても言及し，みなさんと考察していきたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会福祉の実践能力を高めます。<br>・学びの基礎となる知識や学習方法を修得します。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 少子高齢化社会と高齢者の福祉ニーズ | |
| 第2回 | 高齢者と高齢者福祉への視点 | |
| 第3回 | 高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(1) | |
| 第4回 | 高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(2) | |
| 第5回 | 高齢者保健福祉に従事する人々 | |
| 第6回 | 高齢者の所得・医療保障 | |
| 第7回 | 高齢者の住環境 | |
| 第8回 | 高齢者の社会参加と生きがい活動 | |
| 第9回 | 現代社会と児童福祉 | |
| 第10回 | 児童の権利と児童福祉 | |
| 第11回 | 児童の法制と機構 | |
| 第12回 | 高齢者の事例研究 | |
| 第13回 | 児童の事例研究 | |
| 第14回 | 障害者の事例研究 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | レポートの提出期限を順守する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。<br>・予習と授業中の積極的発言を求めます。<br>・自分で考えることをベースに授業に参加してください。<br>・管理栄養士の国家試験対策を講じます。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。<br>・復習として，授業のレポートを書く。<br>・授業で紹介された参考文献を精読する。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，時間外学習時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学習が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉論 | 赤木正典他 | 建帛社 | 978-4-7679-3377-1 | 2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 介護・看護演習 | | | 授業番号 | NJ409 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性や老化に伴う身体的変化の状態を理解し，必要に応じた具体的な支援方法を演習形式を中心に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性を理解することができる。<br>(2)老化に伴う身体的変化を理解することが出来る。<br>(3)障害のある方や高齢者への安全安楽な支援方法を身につけることができる。<br>なお，本講義はディプロマ・ポリシーの態度のの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の進め方・留意点について<br>障害とは何か・老化に伴う身体的変化とは何か，支援の必要性について説明し理解する。 | |
| 第2回 | 安全・安楽な支援方法の重要性について<br>対象者理解の必要性について理解する。 | |
| 第3回 | コミュニケーション障害について<br>(1)具体的な支援方法(発達障害や知的障害)の実際を理解する。 | |
| 第4回 | コミュニケーション障害について<br>(2)具体的な支援方法(構音障害・失語・難聴)の実際を理解する。 | |
| 第5回 | 視覚に障害がある状態について<br>アイマスク体験及び支援方法・注意点を理解する。 | |
| 第6回 | 移動が困難な状態について<br>(1)支援方法(歩行介助・杖やストレッチャー)を理解する。 | |
| 第7回 | 移動が困難な状態について<br>(2)支援方法(車いす)を理解する。 | |
| 第8回 | 食事が困難な状態について<br>食事介助の支援方法を理解する。 | |
| 第9回 | 入浴が困難な状態について<br>(1)部分清拭(足浴・手浴)の方法を理解する。 | |
| 第10回 | 入浴が困難な状態について<br>(2)部分清拭(足浴・手浴)の方法を理解する。 | |
| 第11回 | 排泄が困難な状態について<br>(1)排泄介助の支援方法を理解する。 | |
| 第12回 | 排泄が困難な状態について<br>(2)ストーマや尿路カテーテルの管理方法を理解する。 | |
| 第13回 | 着脱が困難な状態について<br>衣服交換の支援方法を理解する。 | |
| 第14回 | バリアフリーや共生社会の定義や概要・地域社会のなかの課題を理解する。 | |
| 第15回 | 障害の理解・高齢者の理解を確認し，演習や講義のまとめを行う。<br>最終課題の説明を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業に集中して取り組むことができているかで評価を行う。 |
| レポート | 25 | 授業内の気づきが記述ができているかで評価を行う。 リアクションペーパーの内容は次回の講義でフィードバックを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 25 | 課題に対して自分の意見が的確に記述が出来ているかで評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・毎回の授業終了前に，リアクションペーパーを記述していただきます。(約10分)<br>・最終評価の課題レポートには，全体を振り返って自分の意見を記述していただきます。<br>受講態度，リアクションペーパー，最終レポートを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は，前半座学・後半実技演習を中心に進めていきます。<br>・動きやすい服装と身だしなみで出席すること。<br>・学生同士で演習を行うこともあります。支援対象者の気持ちを大切にすることを意識してください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，次週の講義内容に関わる内容について疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | レジュメを配布します。<br>各自でファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる技術を身につけるよう指導する。 |

| 科目名 | 細胞生理化学実験 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NK104A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。<br>本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 顕微鏡の使用方法<br>実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。 | |
| 第2回 | 顕微鏡の使用方法<br>実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。 | |
| 第3回 | 動物細胞と植物細胞の観察<br>植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。 | |
| 第4回 | 動物細胞と植物細胞の観察<br>植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。 | |
| 第5回 | 細胞の観察と顕微鏡での計測<br>植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。 | |
| 第6回 | 細胞の観察と顕微鏡での計測<br>植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。 | |
| 第7回 | 手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー<br>器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。 | |
| 第8回 | 手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー<br>器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。 | |
| 第9回 | 組織を構成する細胞の観察<br>手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。 | |
| 第10回 | 組織を構成する細胞の観察<br>手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。 | |
| 第11回 | 糖質の定性反応ー糖質共通の反応<br>単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。 | |
| 第12回 | 糖質の定性反応ー糖質共通の反応<br>単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。 | |
| 第13回 | たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応<br>卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。 | |
| 第14回 | たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応<br>卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。 | |
| 第15回 | 定性実験のまとめ<br>糖質の定性，たんぱく質の定性実験を通して得られた結果から栄養素の構造的特徴を理解するとともに，判別に必要な検出方法について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的な実験に関わる態度によって評価する。 |
| レポート | 70 | 実験の理解度をレポートで評価する。レポートには毎実験課題を設ける。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。 |
| 授業外学修 | 時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 三訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 | 鈴木孝仁 監修 | 数研出版 | 978-4-410-28166-2 | 1，130円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「栄養生理・生化学実験」 近藤義和ほか　編　朝倉書店<br>「生化学実験」 林淳三　編　建帛社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 細胞生理化学実験 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NK104B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。<br>本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 顕微鏡の使用方法<br>実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。 | |
| 第2回 | 顕微鏡の使用方法<br>実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。 | |
| 第3回 | 動物細胞と植物細胞の観察<br>植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。 | |
| 第4回 | 動物細胞と植物細胞の観察<br>植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。 | |
| 第5回 | 細胞の観察と顕微鏡での計測<br>植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。 | |
| 第6回 | 細胞の観察と顕微鏡での計測<br>植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。 | |
| 第7回 | 手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー<br>器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。 | |
| 第8回 | 手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー<br>器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。 | |
| 第9回 | 組織を構成する細胞の観察<br>手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。 | |
| 第10回 | 組織を構成する細胞の観察<br>手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。 | |
| 第11回 | 糖質の定性反応ー糖質共通の反応<br>単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。 | |
| 第12回 | 糖質の定性反応ー糖質共通の反応<br>単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。 | |
| 第13回 | たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応<br>卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。 | |
| 第14回 | たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応<br>卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。 | |
| 第15回 | 定性実験のまとめ<br>糖質の定性，たんぱく質の定性実験を通して得られた結果から栄養素の構造的特徴を理解するとともに，判別に必要な検出方法について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的な実験に関わる態度によって評価する。 |
| レポート | 70 | 実験の理解度をレポートで評価する。レポートには毎実験課題を設ける。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。 |
| 授業外学修 | 時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 三訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 | 鈴木孝仁 監修 | 数研出版 | 978-4-410-28166-2 | 1，130円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「栄養生理・生化学実験」 近藤義和ほか　編　朝倉書店<br>「生化学実験」 林淳三　編　建帛社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生化学Ⅰ | | | 授業番号 | NK105 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 生化学とは生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。<br>生化学Ⅰでは，栄養学的にも非常に重要な成分である糖質，脂質，アミノ酸とタンパク質，核酸，ビタミン，ミネラルの種類や構造・機能について学修する。<br>さらに，タンパク質の高次構造と機能の関係，生体内化学反応の触媒である酵素のはたらき等について学ぶ。<br>講義のアウトラインはテキストに従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生体を構成する糖質，脂質，たんぱく質，核酸，ビタミンなどの，高分子成分の種類や構造とその生化学的な緒性質について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生化学の理解に必要な化学 | |
| 第2回 | 糖質の種類と分類 | |
| 第3回 | 糖質の構造 | |
| 第4回 | 脂質の種類と分類 | |
| 第5回 | 各種脂質の構造と性質 | |
| 第6回 | アミノ酸の特性 | |
| 第7回 | アミノ酸の種類と分類 | |
| 第8回 | ペプチドとタンパク質<br>タンパク質の高次構造 | |
| 第9回 | 酵素の種類と分類 | |
| 第10回 | 酵素反応の制御 | |
| 第11回 | 核酸 | |
| 第12回 | ビタミン概論 | |
| 第13回 | 脂溶性ビタミン | |
| 第14回 | 水溶性ビタミン | |
| 第15回 | ミネラル | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なほ員との理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 必須科目であるため，管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。<br>管理栄養士国家試験に準じた選択問題方式で行う定期試験の成績を素点とし，それに各回の小テストの結果と授業への取り組み姿勢を加点して評価する。 |
| 受講の心得 | 生化学は，生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。<br>生化学Ｉでは，基本的栄養成分や，生体機能を担うタンパク質の基本事項を学習するため，２年次後期以降に開講される管理栄養士・栄養士のための専門科目に向けて理解が必須な科目である。<br>学習を先送りすることなく，毎回講義内容を身につけていくこと。<br>まとまった単位で，相当枚数の資料を配布するので，生化学Ｉ専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。 |
| 授業外学修 | 必須科目であり，理解には時間を要するかもしれない。<br>毎回の講義開始時に前回の理解度確認の小テストをするので，取りこぼしのないように次回の講義までに週４時間以上の復習を行なっておくこと。<br>小テストの成績で合否が分かれることがあるので，油断のない毎回の復習が重要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生化学 | 園田 勝　編 | 羊土社 | 978-4-7581-1354-0 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 専門科目の理解のためには，避けて通れない必須科目である。<br>管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。 |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 解剖生理学Ⅰ | | | 授業番号 | NK201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | ヒトの身体の構造と機能を理解するために，人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には，人体を構成する細胞，組織，器官系の　構造と機能を学習理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 解剖生理学を独立した科目と考えず，他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 解剖生理学 序論解剖学・生理学についての概論を行う | 井之川 |
| 第2回 | 人体の構成要素と機能 人体を構成する細胞や組織について講義する | 井之川 |
| 第3回 | 消化器系1　消化器（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）の構造と機能について講義する | 井之川 |
| 第4回 | 消化器系2　消化器（肝臓・膵臓・胆嚢）の構造と機能について講義する | 井之川 |
| 第5回 | 消化器系3　栄養素の消化と吸収について講義する | 井之川 |
| 第6回 | 体液と血液　体液の区分や血液の組成，働きについて講義する | 井之川 |
| 第7回 | 循環器系1　循環器系の構造と機能について講義する | 井之川 |
| 第8回 | 循環器系2　心臓の働き・自動性・血圧調節について講義する | 井之川 |
| 第9回 | 腎臓と泌尿器系1　腎臓と泌尿器系の構造と機能について講義する | 井之川 |
| 第10回 | 腎臓と泌尿器系2　尿生成の仕組みについて講義する | 井之川 |
| 第11回 | 腎臓と泌尿器系3　レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について講義する | 井之川 |
| 第12回 | 呼吸器系1　呼吸器系の構造と機能について講義する | 井之川 |
| 第13回 | 呼吸器系2　呼吸の仕組み ガス交換について講義する | 井之川 |
| 第14回 | 酸塩基平衡　酸塩基平衡および体内環境の恒常性について講義する | 井之川 |
| 第15回 | 総合解説　14回分の講義内容を総合的に解説する | 井之川 |
| 授業計画　備考2 | 生物学，基礎栄養学で学んだ内容の復習を十分行っておくこと。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題の得点と取り組みにより評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。 |
| 受講の心得 | 高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。<br>予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。 |
| 授業外学修 | 講義内容の復習と記憶定着のための課題を課す。<br>毎週最低4時間の講義内容の予習，復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 | 志村二三夫他 | 羊土社 | 978-4-7581-1362-5 | 2，900円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『標準生理学』，『現代の生理学』，『医科生理学展望』 |
| その他 | 図書館には解剖生理学に関する蔵書が取りそろえてあるので、復習に活用すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 解剖生理学Ⅱ | | | 授業番号 | NK202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ヒトの身体の構造と機能を理解するために，人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には，人体を構成する細胞，組織，器官系の構造と機能を学習理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 解剖生理学を独立した科目と考えず，他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。<br>解剖生理学I・IIを通じて臨床検査データを評価判定する能力を養い，個人の身体状況や栄養状態に対応する栄養教育に応用できる能力を育成する。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 内分泌系1 内分泌系概論と分泌腺について講義する | |
| 第2回 | 内分泌系2 内分泌腺（視床下部・下垂体・甲状腺）の構造と機能について講義する | |
| 第3回 | 内分泌系3 内分泌腺（腎・副腎・消化管・性腺）の構造と機能について講義する | |
| 第4回 | 内分泌系4 内分泌腺調節機構について講義する | |
| 第5回 | 生殖器系 男女生殖器と生殖と発生について講義する | |
| 第6回 | 免疫系1 生体の防御機構について講義する | |
| 第7回 | 免疫系2 液性免疫と細胞性免疫について講義する | |
| 第8回 | 骨格系 骨格系の構造と機能について講義する | |
| 第9回 | 筋 運動系 筋系と運動（反射）について講義する | |
| 第10回 | 神経系1 神経系の構造と機能について講義する | |
| 第11回 | 神経系2 自律神経系の構造と機能について講義する | |
| 第12回 | 神経系3 中枢神経系の構造と機能について講義する | |
| 第13回 | 感覚系1 感覚系の構造と機能について講義する | |
| 第14回 | 感覚系2 感覚器の構造と機能について講義する | |
| 第15回 | 体温調節 体温調節の仕組みについて講義する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題の得点と取り組みにより評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。 |
| 受講の心得 | 高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。<br>予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 解剖生理学 | 志村二三夫 他 | 羊土社 | | 2900 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『解剖生理学』，河田光博・三木健寿，講談社サイエンティフィック |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『標準生理学』，『現代の生理学』，『医科生理学展望』 |
| その他 | |
| 備考 | 解剖生理学を独立した科目と考えず，他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。<br><br>解剖生理学Iなどの学習内容について，復習をかねて質問するので準備をしておくこと。Active Learningの一環として実施する。 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生化学Ⅱ | | | 授業番号 | NK206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 生化学とは生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。<br>生化学Ⅰでは，栄養学的にも非常に重要な成分である糖質，脂質，アミノ酸とタンパク質，核酸，ビタミン，ミネラルの種類や構造・機能について学修した。<br>生化学Ⅱでは，それらの物質の体内での挙動を説明し，代謝反応によりエネルギーや生理活性物質が産生される過程を学修する。また，それにより生体が一定の環境に保たれ，逸脱することで病気を発症することを理解していく。<br>講義のアウトラインは教科書に従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生体を構成する糖質，脂質，たんぱく質，核酸，ビタミンなどの，高分子成分の体内での挙動が理解できる。<br>個体の調節機構（恒常性の維持）を遺伝子発現・神経系・内分泌系・免疫系の各側面から説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 消化と代謝，物質代謝概論 | |
| 第2回 | 糖質の吸収と代謝 | |
| 第3回 | 糖新生と貯蔵 | |
| 第4回 | 血糖値異常と代謝疾患 | |
| 第5回 | 脂質酸化と生合成および輸送と蓄積 | |
| 第6回 | コレステロールの輸送・蓄積と代謝産物<br>脂質代謝異常 | |
| 第7回 | タンパク質とアミノ酸プール<br>アミノ酸骨格と窒素の代謝 | |
| 第8回 | アミノ酸から合成される生体物質<br>アミノ酸代謝異常 | |
| 第9回 | 生体エネルギー概論 | |
| 第10回 | 代謝の相互関係と中間代謝の概要 | |
| 第11回 | 核酸の代謝 | |
| 第12回 | 遺伝子発現とその制御 | |
| 第13回 | 個体の調節機構（神経系） | |
| 第14回 | 個体の調節機構（内分泌系） | |
| 第15回 | 生体防御機構（免疫系） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 生化学は，生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。<br>生化学 II では，生化学 I で学んだ基本的栄養成分・生体機能を担うタンパク質が，代謝・輸送・蓄積・エネルギー産生などを通じてどのように生体の維持に関与しているのかを学ぶ。管理栄養士・栄養士に必須の知識であり，管理栄養士の国家試験にも多数出題される科目である。<br>必須科目であるため，管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。<br>学習を先送りすることなく，毎回講義項目を身につけていくこと。<br>まとまった単位で，相当枚数の資料を配布するので，生化学 II 専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。 |
| 授業外学修 | 必須科目であり，理解には時間を要するかもしれない。<br>毎回の講義開始時に前回の理解度確認の小テストをするので，取りこぼしのないように次回の講義までに過あたり４時間以上の予・復習を行なっておくこと。<br>小テストの成績で合否が分かれることがあるので，油断のない毎回の復修が重要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生化学 | 園田 勝　編 | 羊土社 | 978-4-7581-1354-0 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 専門科目の理解のためには，避けて通れない必須科目である。<br>管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。 |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生化学実験 (隔週) | | | 授業番号 | NK207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実験 |
| 授業概要 | 生化学実験で汎用する器具・機器の使用法を説明し，反応実験で使用する試薬を調整する。生命科学実験時の生データとなる実験ノートの取り方，レポートのまとめ方（構成）を説明する。<br>酵素の性質を知るための酵素反応実験を行い，生化学の講義で説明した酵素の生化学特性を実体験する。<br>タンパク質を扱う実験では必須となる，タンパク質の定量法を説明し，実際に濃度未知試料のタンパク質濃度を決定する。<br>混合試料からの物質の単離法を説明し，実際に物質の単離（分離）を行う。<br>実験操作を行いながら，実験ノートに記録していく技術を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 主にタンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）を行い，汎用器具・機器を正しく使用することができる。<br>実験開始前には，他のメンバーとともに実験の手順の手際を考えるとともに，随時変化する状況に臨機応変に対応できる。<br>実験中には，グループの他のメンバーとコミュニケーションをとりながら変化に対応し，かつ正確に実験ノートに方法や過程（変更点），結果やまとめを記録することができる。<br>実験終了後には，実験ノートの記録をもとに，参考文献などからの情報も交えながら，結果に考察を加えてレポートにまとまることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第　1・2回　酵素に関する基礎的な実験 － 器具・機器の使用法と試薬調整<br>第　3・4回　酵素に関する基礎的な実験 － 最適温度<br>第　5・6回　酵素に関する基礎的な実験 － 最適 pH<br>第　7・8回　酵素に関する基礎的な実験 － 活性剤と阻害剤<br>第 9・10回酵素に関する基礎的な実験 － 基質濃度と反応速度(Km 値)<br>第 11・12回　タンパク質の定量<br>第13・14回　試料成分の分離<br>第　15　回 総評と解説 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な授業態度，実験への積極的な参加・取組みによって評価する。 |
| レポート | 50 | 毎回の実験の目的，方法，結果，考察を正確に記述できるかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 実験ノートの提出と，その内容によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価の５割は各実験終了後に提出するレポート（計７回）の内容により行う。<br>残りの５割は，実験への取組姿勢と，実験中に記述していく実験ノートの内容により評価する。 |
| 受講の心得 | 生化学実験では危険な試薬も使用するため，積極的かつ真摯に取り組まなければならない。<br>使用・提出する実験ノートはA4版以外は受け付けないので，各自A4版ノートを準備すること。 |
| 授業外学修 | 第１回目に全ての回の実験マニュアルを配布するので，十分に予習しておくこと。<br>各実験終了後に提出するレポートを参考文献などにもあたりながらまとめるには毎週４時間以上の調査・考察などの時間を必要とする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリント（各実験の目的と方法等を記した実験マニュアル）を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「生化学」薗田勝　著　羊土社<br>自己調査で得られた文献 |
| その他 | |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 医学概論 | | | 授業番号 | NK208 | サブタイトル | 各種疾患に対する基本的知識 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 栄養士として食の管理を行うためには，対象者の健康状態に合わせた食事作り・食事相談等が必要であり，対象者が基礎疾患を有する場合も多いため，疾患に対する基礎知識が不可欠である。<br>加えて，管理栄養士として健診後の相談・指導や，患者への食事提供・食事指導を実施するためには，病態や重症度を判断して対応することが求められる。<br>本講座では，特に栄養管理上，知識が必要とされる頻度の高い疾患について，基本的な病因・病態・症状・治療等に関する学習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)栄養管理・指導のために必要な，各種疾患に対する知識を習得する。<br>(2)医学的専門用語を習得することで，卒業後にチーム医療に加わる資質を醸成する。<br>(3)医学的専門用語を習得することで，専門書を独力で読みこなす力を養う。<br>(4)なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 原則として，各疾患分野については，１回90分の講義時間で行う。したがって１回の講義内容のボリュームは大変多くならざるを得ないことを自覚して，予習・復習を行い，授業だけでなく教科書を読み，毎回確実に自分の知識とするよう心がけること。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 疾病の診断（問診，身体観察，検査等） | |
| 第2回 | 消化器疾患 | |
| 第3回 | 循環器疾患 | |
| 第4回 | 呼吸器疾患 | |
| 第5回 | 血液疾患 | |
| 第6回 | 免疫・アレルギー系疾患 | |
| 第7回 | 運動器系疾患 | |
| 第8回 | 腎・尿路系疾患(1) | |
| 第9回 | 腎・尿路系疾患(2) | |
| 第10回 | 肝・胆・膵疾患 | |
| 第11回 | 栄養・代謝疾患（糖尿病） | |
| 第12回 | 栄養・代謝疾患（脂質異常，尿酸代謝異常等） | |
| 第13回 | 内分泌疾患 | |
| 第14回 | 神経・精神系疾患 | |
| 第15回 | 皮膚系疾患，生殖器系疾患 | |
| 授業計画　備考2 | 理解を深めるために，数回程度のﾚﾎﾟｰﾄ提出を課す。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 授業への出席状況と参加態度 |
| レポート | 15 | 資料や教科書を読みこなして記載しているかどうか等 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 授業内容の理解ができているかどうか |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 10回～15回のﾚﾎﾟｰﾄを宿題とします。予習・復習に役立ててください。<br>提出の有無は評価の対象とします。 |
| 受講の心得 | (1)将来栄養士として健康管理や医療現場等で対人業務に携わる者であることの自覚を持って取り組むこと。<br>(2)医学専門用語が多く使われるので，授業内容が難解な印象を与えるのはやむをえないが，折に触れ，専門用語になじむよう心がけ，自分の語彙を豊富にしていくこと。<br>(3)解剖学，生理学，生化学，病理学などの学習と併せて，健康や疾病に関心を持ち，他の講義と関連付けて疾病を理解しようとする心構えが必要。<br>(4)平素から健康・医療関連の報道番組や書物・新聞記事など積極的に接して，情報を吸収すること。 |
| 授業外学修 | (1)授業の予習：毎回の講義で，次回講義内容は通知するので，教科書を通読して予習してから授業に望むこと。<br>(2)授業の復習：簡単なレポート提出を課す。復習に活用すること<br><br>(3)配布資料の整理と保管は習慣化し，授業時には必ず持参すること<br><br>以上（１）（２）（３）の内容について，週4時間以上の授業外学習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床医学　疾患の成り立ち | 田中明 | 羊土社 | 978-4-7581-0881-2 | 2，800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 解剖・生理学の授業で使用している教科書。人体の解剖・生理学で学んだ知識を，各自確認しながら医学概論の講義を受講すること。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 麻酔蘇生科の医師として2年間，小児科医として8年間の臨床の実務経験。その後２５年間は公衆衛生医として県行政で保健福祉医療行政を担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床医としての実務経験は，当講義には不可欠。 |

| 科目名 | 微生物学 | | | 授業番号 | NK210 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 我々の生活環境には，様々な微生物が存在し，人の生命や生活活動に密接に関わっている。本講義では，人の健康と微生物の相互関係について理解し，管理栄養士・栄養士として必要とされる微生物の知識，感染から発症，防御に至るしくみおよび微生物の利用について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・微生物を分類し，基礎的な特徴を説明できる。<br>・微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる。<br>・免疫について説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 中間試験を３回実施する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 微生物学の概論 | |
| 第2回 | 微生物学の概論，微生物の制御 | |
| 第3回 | 病原微生物と感染症（細菌） | |
| 第4回 | 病原微生物と感染症（細菌） | |
| 第5回 | 病原微生物と感染症（細菌） | |
| 第6回 | 病原微生物と感染症（細菌） | |
| 第7回 | 病原微生物と感染症（ウイルス） | |
| 第8回 | 病原微生物と感染症（ウイルス） | |
| 第9回 | 病原微生物と感染症（ウイルス，プリオン） | |
| 第10回 | 病原微生物と感染症（原虫，蠕虫，真菌） | |
| 第11回 | 感染症の動向，人獣共通感染症，感染症の化学療法，感染症に関する法律 | |
| 第12回 | 免疫とアレルギー | |
| 第13回 | 免疫とアレルギー | |
| 第14回 | 免疫とアレルギー | |
| 第15回 | 免疫とアレルギー | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 中間試験，中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 世の中の微生物に関する出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を連絡すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容をノートにまとめる。<br>3 発展学修として，微生物に関係する新聞記事を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド「微生物」 | 大橋 典男 | 羊土社 | 978-4-7581-1358-8 | 2800円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 人間発達学 | | | 授業番号 | NK212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・主要な発達理論について説明できる。<br>・各発達段階の特徴について説明できる。<br>・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる<br>・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発達とは何か―発達理論<br>基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ | |
| 第2回 | 胎児期<br>胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ | |
| 第3回 | 乳児期<br>乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ | |
| 第4回 | 幼児期(1)<br>幼児期の自律性，他者との関係の発達について学ぶ | |
| 第5回 | 幼児期(2)<br>幼児期の認知発達と遊びの重要性について学ぶ | |
| 第6回 | 児童期(1)<br>児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ | |
| 第7回 | 児童期(2)<br>児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ | |
| 第8回 | 青年期(1)<br>青年期におけるアイデンティティの確立について学ぶ | |
| 第9回 | 青年期(2)<br>青年期の人間関係の発達について学ぶ | |
| 第10回 | 成人期前期<br>成人期前期における親密性の獲得，社会的成熟について学ぶ | |
| 第11回 | 成人期後期<br>成人期後期における次世代育成と中年期危機について学ぶ | |
| 第12回 | 高齢期<br>高齢期における人生の振り返りについて学ぶ | |
| 第13回 | 発達の個人差，障害<br>発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ | |
| 第14回 | 人間発達に関わる現代的課題<br>人間発達に関わる現代的課題について紹介し，考察する | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。 |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること。<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 完全カラー図解　よくわかる発達心理学 | 渡邊弥生　監修 | ナツメ社 | 978-4-8163-7057-1 | 1600円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| いちばんはじめに読む心理学の本3　発達心理学 | 藤村宜之　編著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08463-0 | 2500円＋税 |
| 手にとるように発達心理学がわかる本 | 小野寺敦子 | かんき出版 | 978-4761266196 | 1650円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，適宜文献を紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 解剖生理学実験 (隔週) | | | 授業番号 | NK303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実験 |
| 授業概要 | ヒトの構造や機能について理解を深め，解剖生理学I，IIの講義で学修したことについて実際に体験する。この実験課題を通じてヒトの構造と機能について理解を深める。特に，骨格，循環，血液，呼吸，腎機能，エネルギー代謝，肉眼的組織について観察や実際の体験を通じて，人の正常機能についての洞察を深める。疾病理解の働きかけとなる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 観察や測定を通じて，ヒトの正常機能について総合的に理解する。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1・2回　骨の観察：上肢，下肢，体幹，頭部<br>第3・4回　循環機能に関する実験：心音の聴取と心電図，コロトコフ音の聴取，負荷をかけた場合の血圧<br>第5・6回　腎機能に関する実験：クリアランスの測定，水分負荷と尿の濃縮<br>第7・8回　肺気量分画の測定，フローボリューム曲線の描画<br>第9・10回　最大酸素摂取量の測定：踏み台昇降，エルゴメータ使用<br>第11・12回　人体を構成する組織の観察<br>第13・14回　肉眼的病理標本の観察：川崎医科大学現代医学博物館見学<br>第15回　全体のまとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | 全て出席し，積極的に取り組むことを求める。 | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | テーマごとのレポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実験ノートを用意し，実験経過，結果をしっかりと記録すること。レポートは必ず提出すること。レポート提出がない場合は欠席と見なす。 |
| 授業外学修 | 解剖生理学I，II の復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「解剖生理学実験」川村一男　編，建帛社<br>「解剖生理学実習」森田規之，河田光博，松田賢一　編，講談社 |
| その他 | 体調などにより，課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮しを施します |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 病理学 | | | 授業番号 | NK309 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。，さらに，チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また，各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても，病理学的事項を踏まえつつ解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．疾患のもたらす病理学的変化の概要について説明できる。<br>2．疾患に対する診断法および治療法の概要について説明できる。<br>3．各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について，その概要を説明できる。<br>4．専門的な医学用語の意味を理解し，適切に使用できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 加齢による細胞・組織の変化（老化と個体の死) 教科書該当箇所 p1-p6 | |
| 第2回 | 疾患による細胞・組織の変化1 (細胞障害，細胞の死) 教科書該当箇所 p.6-p10 | |
| 第3回 | 疾患による細胞・組織の変化2 (炎症・創傷治癒，循環障害) 教科書該当箇所 p.10-p14, | |
| 第4回 | 疾患による細胞・組織の変化3 (再生・腫瘍，遺伝子異常) 教科書該当箇所 p.14-p18 | |
| 第5回 | 疾患診断の概要1（一般的診察・医療面接，全身状態の評価) 教科書概要箇所 p.22-p23 | |
| 第6回 | 疾患診断の概要2（主な症候) 教科書該当箇所 p.23-p39 | |
| 第7回 | 臨床検査の基本（種類と特性・基準値・一般臨床検査) 教科書該当箇所 p.39-p40 | |
| 第8回 | 臨床検査の概要1（血液学検査・生化学検査・腫瘍マーカー) 教科書該当箇所 p.40-p46 | |
| 第9回 | 臨床検査の概要2（免疫検査・微生物検査・生体機能検査，画像診断) 教科書該当箇所 p.46-p51 | |
| 第10回 | 疾患治療の概要1（治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略) 教科書該当箇所 p.64-p70 | |
| 第11回 | 疾患治療の概要2（移植医療・終末期患者の治療・EBM) 教科書該当箇所 p.64-p70. | |
| 第12回 | 栄養障害と代謝疾患1（飢餓・PEM・悪液質等) 教科書該当箇所　p.72-p76. | |
| 第13回 | 栄養障害と代謝疾患2 (糖質・脂質代謝異常，それらに関わる生理活性物質) 教科書該当箇所 p.81-p92 | |
| 第14回 | 栄養障害と代謝疾患3 (アミノ酸・尿酸代謝異常) 教科書該当箇所 p.92-p97 | |
| 第15回 | 栄養障害と代謝疾患4 (痛風・尿酸代謝異常，先天性代謝異常) 教科書該当箇所 p.98-p105 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本教科は，人体の解剖学，生理学，生化学，基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし，疾病を細胞・組織・個体レベルで理解しようとするものである。したがって，2年生までに学んだ関連教科の知識を復習し，身につけておくことが重要である。 |
| 授業外学修 | 授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。<br>本教科の内容を確実に理解するため，上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床医学　靭帯の高嘔吐機能及び疾病の成り立ち | 羽生大起・河出久弥編 | 南江堂 | 978-4-524-24619-9 | 3，100円+税 |
| 臨床医学　靭帯の高嘔吐機能及び疾病の成り立ち | 羽生大起・河出久弥編 | 南江堂 | 978-4-524-24619-9 | 3，100円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 管理栄養士としての職務遂行上必要となる事項を，より実臨床に即した形で，理解，学修できることに重点を置く。 |

| 科目名 | 病理学 | | | 授業番号 | NK30902 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。，さらに，チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また，各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても，病理学的事項を踏まえつつ解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．疾患のもたらす病理学的変化の概要について説明できる。<br>2．疾患に対する診断法および治療法の概要について説明できる。<br>3．各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について，その概要を説明できる。<br>4．専門的な医学用語の意味を理解し，適切に使用できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 加齢による細胞・組織の変化（老化と個体の死) 教科書該当箇所 p1-p6 | |
| 第2回 | 疾患による細胞・組織の変化1 (細胞障害，細胞の死) 教科書該当箇所 p.6-p10 | |
| 第3回 | 疾患による細胞・組織の変化2 (炎症・創傷治癒，循環障害) 教科書該当箇所 p.10-p14, | |
| 第4回 | 疾患による細胞・組織の変化3 (再生・腫瘍，遺伝子異常) 教科書該当箇所 p.14-p18 | |
| 第5回 | 疾患診断の概要1（一般的診察・医療面接，全身状態の評価) 教科書概要箇所 p.22-p23 | |
| 第6回 | 疾患診断の概要2（主な症候) 教科書該当箇所 p.23-p39 | |
| 第7回 | 臨床検査の基本（種類と特性・基準値・一般臨床検査) 教科書該当箇所 p.39-p40 | |
| 第8回 | 臨床検査の概要1（血液学検査・生化学検査・腫瘍マーカー) 教科書該当箇所 p.40-p46 | |
| 第9回 | 臨床検査の概要2（免疫検査・微生物検査・生体機能検査，画像診断) 教科書該当箇所 p.46-p51 | |
| 第10回 | 疾患治療の概要1（治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略) 教科書該当箇所 p.64-p70 | |
| 第11回 | 疾患治療の概要2（移植医療・終末期患者の治療・EBM) 教科書該当箇所 p.64-p70. | |
| 第12回 | 栄養障害と代謝疾患1（飢餓・PEM・悪液質等) 教科書該当箇所　p.72-p76. | |
| 第13回 | 栄養障害と代謝疾患2 (糖質・脂質代謝異常，それらに関わる生理活性物質) 教科書該当箇所 p.81-p92 | |
| 第14回 | 栄養障害と代謝疾患3 (アミノ酸・尿酸代謝異常) 教科書該当箇所 p.92-p97 | |
| 第15回 | 栄養障害と代謝疾患4 (痛風・尿酸代謝異常，先天性代謝異常) 教科書該当箇所 p.98-p105 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本教科は，人体の解剖学，生理学，生化学，基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし，疾病を細胞・組織・個体レベルで理解しようとするものである。したがって，2年生までに学んだ関連教科の知識を復習し，身につけておくことが重要である。 |
| 授業外学修 | 授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。<br>本教科の内容を確実に理解するため，上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床医学　靭帯の高嘔吐機能及び疾病の成り立ち | 羽生大起・河出久弥編 | 南江堂 | 978-4-524-24619-9 | 3，100円+税 |
| 臨床医学　靭帯の高嘔吐機能及び疾病の成り立ち | 羽生大起・河出久弥編 | 南江堂 | 978-4-524-24619-9 | 3，100円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 管理栄養士としての職務遂行上必要となる事項を，より実臨床に即した形で，理解，学修できることに重点を置く。 |

| 科目名 | 運動生理学 | | | 授業番号 | NK411 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 運動は本来，筋肉の収縮とそれに伴うエネルギーの消費である。エネルギー摂取過剰，消費不足の現代においては，運動は生活習慣病を予防する手段の一つとなっている。さらに，競技成績を上げるためのトレーニング法，疾患時の運動，運動療法についても触れたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 運動が引き起こす様々な生理的変化が説明でき，恒常的な健康を維持するための運動の価値や意義を十分理解することを到達目標とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | なぜ運動が必要か | |
| 第2回 | 運動と生理機能 | |
| 第3回 | 運動時のエネルギー代謝 | |
| 第4回 | 運動と栄養素代謝 | |
| 第5回 | 運動と食事 | |
| 第6回 | 運動と疲労 | |
| 第7回 | 運動と環境 | |
| 第8回 | 運動処方の実際 | |
| 第9回 | 健康増進のための運動 | |
| 第10回 | 身体トレーニング | |
| 第11回 | 運動療法1　循環器疾患と運動療法 | |
| 第12回 | 運動療法2　呼吸器疾患と運動療法 | |
| 第13回 | 運動療法3　代謝性疾患と運動療法 | |
| 第14回 | 運動療法4　神経筋疾患と運動療法 | |
| 第15回 | 全体のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度により評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 復習を十分行うこと。解剖生理学，臨床栄養学などと関連づけて学習するとよい。<br>スポーツ栄養に興味を持つ学生には特に受講を薦める<br>選択科目ではあるが，国家試験を受験するには受講した方が有利である。受講を強く勧める。 |
| 授業外学修 | 解剖生理学I，II のうち神経，筋，エネルギー代謝に関するを十分行なっておくこと。週当たり４時間以上学習すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『運動生理学』，岸恭一・上田伸男 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 食品学Ⅰ | | | 授業番号 | NL101 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 食生活について食物の歴史，健康，環境などの観点から解説するとともに，食品の5大栄養素についての化学的特性について説明する。また，食品の化学的・物理的な変化と食品成分の特性，さらに食品の機能性についても説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品の主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。<br>・食品成分の変化と栄養の関係について説明できる。<br>・食品成分による食品の分類について説明できる。<br><br>本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　人間と食物，食品の分類<br>第2回　食品成分の化学（水分）<br>第3・4回　食品成分の化学（炭水化物）<br>第5・6回　食品成分の化学（アミノ酸，ペプチド，たんぱく質，たんぱく質の構造）<br>第7・8回　食品成分の化学（脂質，脂質の性質）<br>第9回　食品成分の化学（ミネラル，ビタミン）<br>第10回　食品成分の化学（色素成分）<br>第11回　食品成分の化学（呈味成分・香気成分）<br>第12回　食品成分の変化と栄養（酵素による変化）<br>第13回　食品成分の変化と栄養（褐変）<br>第14回　食品の物性，機能性<br>第15回　総括 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加により評価する。 |
| レポート | 20 | |
| 小テスト | | 単元ごとの授業の中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。<br>3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 三訂　マスター　食品学I | 小関正道・鍋谷浩志編著 | 建帛社 | 978-4-7679-0697-3 | 本体2，700円＋税10% |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 化学の授業で使用している教科書 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 食品学基礎実験 (隔週) | | | 授業番号 | NL105 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実験 |
| 授業概要 | 試薬，器具等の取り扱い方，測定値の取り扱いなど，食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に，日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 自分で実験することにより，次のことを修得する。<br>(1) 実験による体験を通じて座学で学んだ知識を確認し，食品に対するより明瞭で深い理解ができる。<br>(2) 化学実験を通じて科学的・数理的知識と思考方法を修得し，科学の視点で食品を理解することができる。<br>(3) データや情報のまとめ方を学び，実験レポートの書き方の基本を修得できる。<br>(4) 得られたデータから結論や仮説を立て，正解のない答えを自分で考えて導き出ことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1・2回　食品学基礎実験の概要説明，食品分析に必要な実験器具・理化学機器の取り扱い<br>第3・4回　　試薬の調製（重量パーセント濃度）<br>第5・6回　食品分析用試薬の調整（緩衝液，モル濃度，規定濃度）<br>第7・8回　食品の一般分析（水分，灰分の定量，脂質の定量(1)<br>第9・10回　食品の一般分析（水分，灰分の定量，脂質の定量(2)<br>第11・12回　食品の一般分析(脂質の定量(3))，中和滴定－市販食酢中の酢酸の定量(1)<br>第13・14回　中和滴定－市販食酢中の酢酸の定量(2)<br>第15回　　まとめ，総括 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 実験への意欲的な取り組み態度により評価する。 |
| レポート | 80 | 毎回の実験レポートについて，具体的論理的に書かれているかにより評価する。 |
| 小テスト | | 計算問題の小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 実験には意欲的に取り組む。またグループで協力して実験に取り組む。毎回実験レポートを課すので，具体的，論理的にレポートを作成する。 |
| 受講の心得 | 安全な服装（白衣，すべりにくい履物）を着用し，配布されたプリントは必ず持参する。 |
| 授業外学修 | 実験の前には，必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には，実験で学んだ手法，得られた結果について，自ら考察を加え，実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 第2版 食品学実験・実習 －食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全－ | 長澤治子 | 青山社 | 978-4-88359-361-3 | 本体2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品学実験 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL106A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品成分表において使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。また，食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い，食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで，食品の成分と分析についての相互理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ，実験操作の意味を説明できる。<br>・食品成分を分析方法に基づいて定量し，食品成分表の数値を説明できる。<br>・官能評価の手法を用いて，食品のおいしさを評価できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化 | |
| 第2回 | 食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化 | |
| 第3回 | 食品の定量分析（脂質） | |
| 第4回 | 食品の定量分析（脂質） | |
| 第5回 | 食品成分（でんぷん）の分離と化学的変化（糊化）の分析 | |
| 第6回 | 食品成分（でんぷん）の分離と化学的変化（糊化）の分析 | |
| 第7回 | 食品の定量分析（たんぱく質の分解） | |
| 第8回 | 食品の定量分析（たんぱく質の分解） | |
| 第9回 | 食品の定量分析（窒素分の定量，炭水化物の定量，熱量計算） | |
| 第10回 | 食品の定量分析（窒素分の定量，炭水化物の定量，熱量計算） | |
| 第11回 | 基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析 | |
| 第12回 | 基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析 | |
| 第13回 | 食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応，吸光度分析 | |
| 第14回 | 食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応，吸光度分析 | |
| 第15回 | まとめと総合討論 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 実験への意欲的な取り組み態度により評価する。 |
| レポート | 60 | 毎回の実験レポートならびに纏めレポートについて，具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実験ノートが纏められているかにより評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ，それを基にレポートを作成すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，配布プリントに基づいて実験内容を理解し，実験ノートに纏めること。<br>2　復習として，実験結果・考察を中心に，実験ノートに整理すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新しい食品学実験　第2版 | 吉田勉 | 三共出版 | 978-4-7827-0563-6 | 2300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和2年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品学実験 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL106B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品成分表において使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。また，食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い，食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで，食品の成分と分析についての相互理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ，実験操作の意味を説明できる。<br>・食品成分を分析方法に基づいて定量し，食品成分表の数値を説明できる。<br>・官能評価の手法を用いて，食品のおいしさを評価できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化 | |
| 第2回 | 食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化 | |
| 第3回 | 食品の定量分析（脂質） | |
| 第4回 | 食品の定量分析（脂質） | |
| 第5回 | 食品成分（でんぷん）の分離と化学的変化（糊化）の分析 | |
| 第6回 | 食品成分（でんぷん）の分離と化学的変化（糊化）の分析 | |
| 第7回 | 食品の定量分析（たんぱく質の分解） | |
| 第8回 | 食品の定量分析（たんぱく質の分解） | |
| 第9回 | 食品の定量分析（窒素分の定量，炭水化物の定量，熱量計算） | |
| 第10回 | 食品の定量分析（窒素分の定量，炭水化物の定量，熱量計算） | |
| 第11回 | 基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析 | |
| 第12回 | 基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析 | |
| 第13回 | 食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応，吸光度分析 | |
| 第14回 | 食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応，吸光度分析 | |
| 第15回 | まとめと総合討論 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 実験への意欲的な取り組み態度により評価する。 |
| レポート | 60 | 毎回の実験レポートならびに纏めレポートについて，具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実験ノートが纏められているかにより評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ，それを基にレポートを作成すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，配布プリントに基づいて実験内容を理解し，実験ノートに纏めること。<br>2　復習として，実験結果・考察を中心に，実験ノートに整理すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新しい食品学実験　第2版 | 吉田勉 | 三共出版 | 978-4-7827-0563-6 | 2300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和2年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理学 | | | 授業番号 | NL107 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 調理とは，食品材料を安全でおいしい食べ物に変えることである。調理学では，食べ物の特性を踏まえた食事設計ができるように，食材の選択，調理・供食までの工程の中での調理の役割について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理と，加熱操作における熱の伝わり方を理解する。<br>・さまざまな食材の調理特性や，調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を化学的に理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の理解度を確認するため，毎回5問程度の確認問題を解き，提出する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調理の意義・目的，食事設計の基本<br>調理の意義や調理学の目的，調理を取り巻く環境について理解する。 | |
| 第2回 | 調理と嗜好性<br>おいしさの直接要因・背景要因の他，基本五味とおいしいさの客観的評価・主観的評価（官能評価）について理解する。 | |
| 第3回 | 非加熱調理操作<br>「計量」「洗浄」「浸漬」「切砕」など，基本的な非加熱調理操作の目的と仕組みについて理解する。 | |
| 第4回 | 加熱調理操作（伝熱の仕組み）<br>加熱調理操作における熱の伝わり方（放射・伝導・対流）の仕組みと，加熱操作の種類について理解する。 | |
| 第5回 | 加熱調理操作（加熱調理器具の仕組み）<br>加熱調理操作に用いられる鍋などの器具，それらの素材による特徴について理解する。 | |
| 第6回 | 米の調理<br>日本人の主食である米の嗜好性や，でん粉の糊化と炊飯について理解する。 | |
| 第7回 | 小麦粉の調理<br>小麦粉の分類と小麦粉生地（ドウ・バッター）の調製におけるグルテン形成の制御による調理性の違いについて理解する。また，料理によるグルテンの利用についても理解する。 | |
| 第8回 | いも，豆，種実類の調理<br>いも類の煮熟によるペクチンの低分子化（β-脱離）と，豆類の栄養成分による分類と餡の形成について理解する。 | |
| 第9回 | 野菜の調理<br>野菜の嗜好特性である色，歯ごたえを調理によって制御する方法を，化学的な視点から理解する。 | |
| 第10回 | 果実，きのこ，藻類の調理<br>果実のペクチンのゲル化条件について，化学的に理解する。 | |
| 第11回 | 獣鳥肉類の調理<br>肉の調理性と，肉を軟化させる調理法について理解する。また，肉の部位による調理の違いについても理解する。 | |
| 第12回 | 魚介類の調理<br>赤身魚，白身魚の筋肉の成分の違いによって，切り方や調理法が異なることを理解する。また，魚類の基本的な調理法についても理解する。 | |
| 第13回 | 鶏卵，牛乳・乳製品の調理<br>卵黄・卵白の成分による調理性の違いや，卵液ゲルの性状に調味料が及ぼす影響，生クリームの泡立て条件について理解する。 | |
| 第14回 | 砂糖，油脂の調理<br>砂糖，油脂の化学的性質が調理にどのように利用されているかを理解する。 | |
| 第15回 | ゲル化剤の調理<br>ゲル化剤（寒天・ゼラチン・カラギーナン等）の化学的性質の違いによる，ゲル化条件，ゲルの性状，ゲル取り扱いの注意点を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 他の科目や実習との関連性を把握できるように，復習を必ずしておくこと。授業の理解を深めるため，普段から調理の経験を積んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，授業時間に学んだ範囲の配布プリントをまとめる。<br>3．発展学修として，関連科目（調理学実習等）の教科書を読み，知識を結びつける。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新調理学プラス　健康を支える食事を実践するために | 松本美鈴・平尾和子 編著 | 光生館 | 978-4-332-05043-8 | 2500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新版　日本食品大辞典 | 松本美鈴・平尾和子 編著 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70716-6 | 3700 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理学実習Ⅰ（隔週） | | | 授業番号 | NL108 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 調理に関する知識・技術は，給食経営管理，臨床栄養管理，応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。調理学実習Iでは，正しい計量，材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方，食品の性質と調理・加工法，季節による食材の特性，廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など，調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し，基礎的技術を修得する。<br>・切る，潰す，混ぜる，計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。<br>・炊く，煮る，蒸す，焼く，揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。<br>・廃棄率・調味パーセントなど，食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1・2回　調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則，身支度，衛生管理など），調理器具の説明，計量の実際（計量器の種類と用途，調味料の計量），小麦粉の調理<br>第3・4回　包丁の正しい持ち方，乾物などの重量変化，食品の正味重量と廃棄率，パスタの調理<br>第5・6回　献立の基本構成と献立の評価，食器のセッティング，各種調理の調味割合，炊飯の基本，魚のさばき方，焼き魚の調理，混合だしの基本<br>第7・8回　各種調理の調味割合・調味計算，野菜の調理（煮物，和え物），寒天の調理特性，豆類の調理（あん）<br>第9・10回　各種調理の調味割合・調味計算，煮魚の基本，希釈卵液を使った調理，蒸し物調理の基本，根菜の調理法<br>第11・12回　各種調理の調味割合・調味計算，煮干だしの基本，揚げ物調理の基本<br>第13・14回　西洋料理の食器とセッティング，肉の焼き物料理，いも類の調理，果実中のペクチンのゼリー化について，ゼラチンの調理特性<br>第15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 毎回実習テーマに沿った課題と，実習した料理を自宅で作りまとめる課題を課す。初回にレポートの書き方と，毎回調べ学習するポイントを示し，そのポイントに沿ってまとめられているかを評価する。レポートはコメントを記して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 30 | 実技試験として，身支度，包丁の基礎的技術，片付けまでを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回調理内容に関する課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。 |
| 授業外学修 | 復習として，<br>1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらうこと。<br>2．課題のレポートを書く。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新 調理学実習　第二版 | 宮下朋子・村元美代　編著 | 同文書院 | 978-4-8103-1457-1 | 2700 |
| 調理のためのベーシックデータ　第6版 | 松本仲子 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-0323-5 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 書名：新ベターホームのお料理1年生　ワイド版<br>著者名：ベターホーム協会　編<br>出版社：ベターホーム協会<br>定価：1，500<br>ISBN978-4-263-70716-6<br>献本：不要 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日本食品大事典 | 杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70716-6 | 9000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理学実習Ⅱ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL109A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 調理学実習IIでは，調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに，献立作成に関する知識・技術や，調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え，日本の行事食や西洋料理，中国料理の調理を通じて，それらの調理上の特徴と食文化を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養価計算の手法を身につける。<br>・献立の基本構成と，献立立案から作成・評価・見直しまでの一連の流れを理解し，献立全体を評価・見直しする能力を身につける。<br>・日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴について理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ），献立立案（献立表とレシピの作成），郷土料理 | |
| 第2回 | 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ），献立立案（献立表とレシピの作成），郷土料理 | |
| 第3回 | 献立作成(1)（食品構成と調味パーセント），西洋料理の献立 | |
| 第4回 | 献立作成(1)（食品構成と調味パーセント），西洋料理の献立 | |
| 第5回 | 献立作成(2)（献立の栄養量の確認），お弁当献立 | |
| 第6回 | 献立作成(2)（献立の栄養量の確認），お弁当献立 | |
| 第7回 | 献立作成(3)（献立の栄養量の評価），行事食（クリスマス料理） | |
| 第8回 | 献立作成(3)（献立の栄養量の評価），行事食（クリスマス料理） | |
| 第9回 | 献立作成(4)（作業工程と購入量），行事食（正月料理） | |
| 第10回 | 献立作成(4)（作業工程と購入量），行事食（正月料理） | |
| 第11回 | 献立作成(5)（調理する献立の選定と確認），中国料理の献立 | |
| 第12回 | 献立作成(5)（調理する献立の選定と確認），中国料理の献立 | |
| 第13回 | 立案した献立の調理と評価 | |
| 第14回 | 立案した献立の調理と評価 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 70 | 毎回，自作献立作成に向けた課題と，実習で作った料理を自宅で作る課題，作った料理の栄養価計算を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価し，コメントを記して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回献立作成についての課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。 |
| 授業外学修 | 復習として，<br>1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらう。<br>2．実習で調理した料理の栄養価計算をする。<br>3．日頃から，食材の重量感覚を養い，1食もしくは1品の料理の分量を意識する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新 調理学実習 第二版 | 宮下朋子・村元美代 編著 | 同文書院 | 978-4-8103-1457-1 | 2700 |
| 八訂 食品成分表2023 | 香川明夫 監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版<br>著者名：ベターホーム協会 編<br>出版社：ベターホーム協会<br>定価：1，500<br>ISBN978-4-86586-016-0<br>献本：不要 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日本食品大事典 | 杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70716-6 | 9000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理学実習Ⅱ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL109B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 調理学実習IIでは，調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに，献立作成に関する知識・技術や，調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え，日本の行事食や西洋料理，中国料理の調理を通じて，それらの調理上の特徴と食文化を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養価計算の手法を身につける。<br>・献立の基本構成と，献立立案から作成・評価・見直しまでの一連の流れを理解し，献立全体を評価・見直しする能力を身につける。<br>・日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴について理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ），献立立案（献立表とレシピの作成），郷土料理 | |
| 第2回 | 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ），献立立案（献立表とレシピの作成），郷土料理 | |
| 第3回 | 献立作成(1)（食品構成と調味パーセント），西洋料理の献立 | |
| 第4回 | 献立作成(1)（食品構成と調味パーセント），西洋料理の献立 | |
| 第5回 | 献立作成(2)（献立の栄養量の確認），お弁当献立 | |
| 第6回 | 献立作成(2)（献立の栄養量の確認），お弁当献立 | |
| 第7回 | 献立作成(3)（献立の栄養量の評価），行事食（クリスマス料理） | |
| 第8回 | 献立作成(3)（献立の栄養量の評価），行事食（クリスマス料理） | |
| 第9回 | 献立作成(4)（作業工程と購入量），行事食（正月料理） | |
| 第10回 | 献立作成(4)（作業工程と購入量），行事食（正月料理） | |
| 第11回 | 献立作成(5)（調理する献立の選定と確認），中国料理の献立 | |
| 第12回 | 献立作成(5)（調理する献立の選定と確認），中国料理の献立 | |
| 第13回 | 立案した献立の調理と評価 | |
| 第14回 | 立案した献立の調理と評価 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 70 | 毎回，自作献立作成に向けた課題と，実習で作った料理を自宅で作る課題，作った料理の栄養価計算を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価し，コメントを記して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回献立作成についての課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。 |
| 授業外学修 | 復習として，<br>1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらう。<br>2．実習で調理した料理の栄養価計算をする。<br>3．日頃から，食材の重量感覚を養い，1食もしくは1品の料理の分量を意識する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新 調理学実習 第二版 | 宮下朋子・村元美代 編著 | 同文書院 | 978-4-8103-1457-1 | 2700 |
| 八訂 食品成分表2023 | 香川明夫 監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版<br>著者名：ベターホーム協会 編<br>出版社：ベターホーム協会<br>定価：1，500<br>ISBN978-4-86586-016-0<br>献本：不要 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日本食品大事典 | 杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70716-6 | 9000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品学Ⅱ | | | 授業番号 | NL202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 食品の分類，食品原料（植物性食品，動物性食品）の特性と含有する栄養成分，ならびに各種加工食品（食用油脂，調味料，香辛料，微生物利用食品等）について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品素材における主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。<br>・食品加工における成分の変化と栄養の関係について説明できる。<br>・食品成分表に基づく食品の分類について説明できる。<br>なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～6回　　植物性食品（穀類，いも類，甘味料，豆類，野菜・果実類，きのこ類，藻類）<br>第7～11回　　動物性食品（魚介類，肉類，卵類，乳類，魚介類）<br>第12～14回　各種食品（食用油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料，微生物利用食品）<br>第15回　　総括 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加により評価する。 |
| レポート | 20 | |
| 小テスト | | 単元ごとの授業の中間的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。<br>3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 三訂マスター食品学II | 小関正道 | 建帛社 | 978-4-7679-0698-0 | 2，860円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| わかりやすい食物と健康(2) | 吉田勉 | 三共出版 | 978-4-7827-0751-7 | 2，500＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理学実験 (隔週) | | | 授業番号 | NL210 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実験 |
| 授業概要 | 調理学実験では，食品の調理性や調理中における食品の物性，組織，成分の変化についての実験を通じて，食材をより好ましく調理するために必要な調理技術と科学的メカニズムについて学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し，調理や献立作成に応用できる力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1・2回　だしに関する実験，嗜好性の主観的評価・客観的評価<br>第3・4回　小麦粉に関する実験<br>第5・6回　野菜に関する実験<br>第7・8回　肉・魚に関する実験<br>第9・10回 卵・牛乳に関する実験<br>第11・12回　いも・砂糖に関する実験<br>第13・14回　寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験<br>第15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 70 | 初回にレポートの書き方について説明する。実験の目的，実験方法，結果，考察が具体的に記載できているかを評価した後，コメントを記して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | これまでに学んだ調理学に関連する科目の復習を必ずしておくこと。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。<br>2．復習として，実験のレポートを書く。<br>3．復習として，実験内容にかかわる料理を作り，レポートを書く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 調理科学実験　第2版 | 長尾慶子・香西みどり　編著 | 建帛社 | 978-4-7679-0623-2 | 1900 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| NEW 調理と理論 | 山崎清子，島田キミエ　他 | 同文書院 | 978-4-8103-1507-3 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品衛生学 | | | 授業番号 | NL211 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品衛生学は，飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し，健康な生活を確保することを目的とした学問である。食品の生産から加工，流通，貯蔵，調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保について理解する。さらに，食品衛生の概論，食品の安全に関する関連法規，食品衛生行政，食中毒等の健康危害の種類と特徴，食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。管理栄養士，食品衛生管理者，食品衛生監視員になるためにも重要な科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 【食の安心・安全の重要性を認識し，「食べ物と健康」に関する知識と理解を深める】<br>・食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる。<br>・食品添加物や包装の種類や機能，必要性を正しく理解し，説明することができる。<br>・食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる。<br>・食品衛生法，食品安全基本法および食品表示法の概要に関心をもち内容を説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 中間試験を２回実施する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品衛生と法規（コーデックス，　食品安全基本法，食品衛生法） | |
| 第2回 | 食品衛生と法規（食品衛生に関する法規） | |
| 第3回 | 食品の変質（微生物による変質，化学的変質） | |
| 第4回 | 食中毒と微生物（微生物の概要，微生物の食品への関与） | |
| 第5回 | 食中毒（食中毒発生状況，　細菌） | |
| 第6回 | 食中毒（細菌，ウイルス，寄生虫） | |
| 第7回 | 食中毒（寄生虫，化学物質） | |
| 第8回 | 食中毒（化学物質，動物・植物性食中毒） | |
| 第9回 | 食品中の汚染物質（カビ毒，化学物質，有害元素） | |
| 第10回 | 食品中の汚染物質（放射性物質，異物混入，アレルゲン） | |
| 第11回 | 食品添加物および残留農薬（食品添加物とは，食品添加物の分類，ポジティブリスト制度） | |
| 第12回 | 食品衛生管理（一般衛生管理プログラム，HACCPシステム） | |
| 第13回 | 食品衛生管理（国際標準化機構） | |
| 第14回 | 食品表示制度（食品表示法の概要，食品表示基準） | |
| 第15回 | 食品表示制度（特定保健用食品，栄養機能食品，機能性表示食品） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 中間試験によって理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 食中毒など食品衛生に関する記事が新聞やニュースに度々出てくるので，世の中の出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を連絡すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。<br>(2)復習として，授業で配布した資料を読み， 理解を深める。<br>(3)発展学修として，食品衛生に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。<br>週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 食品衛生学 [改訂第2版] | 田崎 達明　編 | 羊土社 | 978-4-7581-1359-5 | 2800円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品衛生学実験 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL212A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため，微生物や食品添加物等に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品，器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。<br>・食品添加物などの化学物質の基礎的な検査技術を説明することができる。<br>・実験データを整理し，レポートにまとめることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 実験の都合上，既定の授業時間以外にも実験を実施する。実験の日時については初回に指示する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品の寄生虫（アニサキス）検査，ヒスタミンの検出 | |
| 第2回 | 食品の寄生虫（アニサキス）検査，ヒスタミンの検出 | |
| 第3回 | 細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い | |
| 第4回 | 細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い | |
| 第5回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第6回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第7回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第8回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第9回 | グラム染色 | |
| 第10回 | グラム染色 | |
| 第11回 | 食品添加物（着色料）の検出 | |
| 第12回 | 食品添加物（着色料）の検出 | |
| 第13回 | 食品添加物（発色剤，漂白剤，保存料）の検出 | |
| 第14回 | 食品添加物（発色剤，漂白剤，保存料）の検出 | |
| 第15回 | 全体のまとめ，要点・重要事項の整理 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 90 | レポートの内容および完成度によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 10 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので，十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。実習冒頭に実験の注意事項を指示するので，遅刻厳禁とする。<br>実習開始後20分以内の遅刻は認めるが，それ以上の遅刻は欠席として扱う。遅刻2回で欠席1回として扱う。<br>レポートによる評価は，実験への参加を前提としている。正当な理由なく実験に参加しなかった場合，その実験のレポートは採点対象外とする。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を提出すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | 実習で配布した資料を熟読し，実験の目的および意義，実験方法，実験結果，考察を復習しながらレポートを作成すること。<br>復習およびレポート作成には，週当たり2時間以上の時間を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品衛生学実験 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NL212B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実験 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため，微生物や食品添加物等に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品，器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。<br>・食品添加物などの化学物質の基礎的な検査技術を説明することができる。<br>・実験データを整理し，レポートにまとめることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 実験の都合上，既定の授業時間以外にも実験を実施する。実験の日時については初回に指示する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品の寄生虫（アニサキス）検査，ヒスタミンの検出 | |
| 第2回 | 食品の寄生虫（アニサキス）検査，ヒスタミンの検出 | |
| 第3回 | 細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い | |
| 第4回 | 細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い | |
| 第5回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第6回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第7回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第8回 | 生菌数計測，大腸菌群検査，サルモネラ属菌の検査 | |
| 第9回 | グラム染色 | |
| 第10回 | グラム染色 | |
| 第11回 | 食品添加物（着色料）の検出 | |
| 第12回 | 食品添加物（着色料）の検出 | |
| 第13回 | 食品添加物（発色剤，漂白剤，保存料）の検出 | |
| 第14回 | 食品添加物（発色剤，漂白剤，保存料）の検出 | |
| 第15回 | 全体のまとめ，要点・重要事項の整理 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 90 | レポートの内容および完成度によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 10 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので，十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。実習冒頭に実験の注意事項を指示するので，遅刻厳禁とする。<br>実習開始後20分以内の遅刻は認めるが，それ以上の遅刻は欠席として扱う。遅刻2回で欠席1回として扱う。<br>レポートによる評価は，実験への参加を前提としている。正当な理由なく実験に参加しなかった場合，その実験のレポートは採点対象外とする。<br>公欠については課題を課す。事前に公欠が決定している場合は，必ず事前に連絡すること。それ以外の場合は，できるだけ早く公欠の旨を科目担当教員に連絡し，登校可能となった日から1週間以内に公欠届を提出すること。特別な事情がない限り，提出期限を過ぎた公欠の申請は無効とする。 |
| 授業外学修 | 実習で配布した資料を熟読し，実験の目的および意義，実験方法，実験結果，考察を復習しながらレポートを作成すること。<br>復習およびレポート作成には，週当たり2時間以上の時間を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品学Ⅲ | | | 授業番号 | NL403 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 本講義では，機能食品農産物，畜産物，水産物の特徴と加工方法と加工適性を学ぶ。さらに，食材・食品が有する機能性（生理的役割）についても学ぶ。<br>さらに管理栄養士国家試験との関連についても解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品加工に伴う食品成分の化学的・栄養学的・物理的変化を説明できる。<br>・主な加工食品について，加工原理を説明できる。<br>・食品の機能性について説明できる。<br>なお本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 第1回　　特別用途食品・保健機能食品<br>第2回　　食品表示法<br>第3回　　食品保存について<br>第4～8回　農産物の特徴と加工について<br>第9～11回　畜産物・水産物の特徴と加工について<br>第12～14回　油脂・多糖類・調味料・嗜好食品の加工について<br>第15回　　総括 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度により評価する。 |
| レポート | 30 | |
| 小テスト | | 授業の中間時点における理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。<br>3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新しい食品加工学（食品の保存・加工・流通と栄養）改訂第３版 | 高村仁知・森山達哉　編集 | 南江堂 | 978-4-524-22851-5 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 食品加工学 | 菅原龍幸，宮尾茂雄 | 建帛社 | 978-4-7679-0550-1 | 2600 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎栄養学Ⅰ | | | 授業番号 | NM101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。<br>(1)栄養の概念，生活習慣病発症との関連性について理解する。<br>(2)摂食調節のしくみと主な摂食調節について理解する。<br>(3)栄養素の消化吸収と体内動態について理解できる。<br>(4)ビタミン・ミネラルの構造と機能ついて理解する。<br>(5)水・電解質の栄養的意義について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養とは何か。食物はどのように体内に取り込まれるのか。栄養素は体内でどのような役割があるのか。またそれらはどのように体外に出るのか。これらの事について栄養学的に理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第　1 回　栄養の概念I<br>「栄養と栄養素」,「食品と栄養」について，栄養とは，栄養素の種類と働き，食品の定義，食品の機能性成分を通して概要を理解する。<br>第　2 回　栄養の概念II<br>「健康と栄養」,「生活習慣と健康」について，健康の概念，健康に影響を及ぼす要因，栄養素摂取と健康，生活習慣病，食習慣の問題点を通して概要を理解する。<br>第　3 回　栄養の歴史<br>現代の栄養学の基礎が築かれた18世紀後半から20世紀前半までの栄養学の歴史を概観する。<br>第　4 回　摂食行動<br>「摂食行動」について，摂食調節機構，摂食メカニズムに関わる因子について理解し，食物の特性要因，ヒトの特性要因など食を起こさせる要因についても理解する。<br>第　5 回　消化・吸収と栄養素の体内動態I<br>消化器系の基本的な構造と機能について理解する。また付属器官としての消化腺についても構造と機能，消化管へのかかわり方について理解する。<br>第　6 回　消化・吸収と栄養素の体内動態II<br>消化・吸収の基本概念を理解した上で，物理的消化，化学的消化，生物的消化，管腔内消化，膜消化など消化の種類について理解する。<br>第　7 回　消化・吸収と栄養素の体内動態III<br>糖質の消化，たんぱく質の消化，脂質の消化などの各栄養素の消化の過程について理解する。<br>第　8 回　消化・吸収と栄養素の体内動態IV<br>吸収の機構を理解した上で，糖質，たんぱく質，脂質の吸収について理解する。<br>第　9 回　消化・吸収と栄養素の体内動態V<br>水の吸収，ビタミン，ミネラルの吸収についてそれぞれの吸収機構について理解する。<br>第 10 回　消化・吸収と栄養素の体内動態VI<br>吸収された栄養素が体内で利用されるまでの体内動態について栄養素ごとにその流れを理解する。<br>第 11 回　ビタミンの栄養I<br>ビタミンとは何か，ビタミンの定義，ビタミンの種類と分類，脂溶性ビタミンの構造と生理作用についてそれぞれのビタミンごとに理解する。<br>第 12 回　ビタミンの栄養II<br>水溶性ビタミンの構造と生理作用についてそれぞれのビタミンごとに理解する。<br>第 13 回　無機質（ミネラル）の栄養I<br>ミネラルとは何か，ミネラルの定義，主要ミネラルの生理作用についてそれぞれのミネラルごとに理解する。<br>第 14 回　無機質（ミネラル）の栄養I<br>微量ミネラルの生理作用についてそれぞれのミネラルごとに理解する。<br>第 15 回　水・電解質の代謝<br>体内における水の分布，水の機能，水の出納とその調節機構，電解質の分布について理解する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 5 | 毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に疑問点を持ち授業に臨むこと。ただし疑問点は自己解決できるよう努めること。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。<br>3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎栄養学(第4版) | 高　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著 | 三共出版 | 978-4-7827-0795-1 | 2，750円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学　第４版 | 田地陽一　編 | 羊土社 | 978-4-7581-1360-1 | 2，800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎栄養学Ⅱ | | | 授業番号 | NM202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。<br>(1)糖質，脂質，たんぱく質について理解する。<br>(2)機能性非栄養成分について理解する。<br>(3)エネルギー代謝について理解する。<br>(4)遺伝子発現と栄養について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各栄養素の代謝を中心に，エネルギー代謝，遺伝子発現調節について理解し，説明できることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第　1 回　糖質（炭水化物）の栄養I<br>糖質とは何か，糖質の摂取と消化について確認し，糖質の代謝について概要を理解する。<br>第　2 回　糖質（炭水化物）の栄養II<br>糖質の代謝について，解糖系，ピルビン酸の代謝，クエン酸回路，グリコーゲン代謝，糖新生など糖質の代謝について詳細を理解する。<br>第　3 回　糖質（炭水化物）の栄養III<br>血糖値の調節について，血糖低下ホルモン，血糖上昇ホルモンを通して調節機構について理解する。<br>第　4 回　脂質の栄養I<br>脂質とは何か，脂質の摂取と消化について確認し，血液中の脂質についてリポたんぱく質，脂質の臓器間輸送について理解する。<br>第　5 回　脂質の栄養II<br>脂質の代謝として，脂質のβ酸化，β酸化の調節ケトン体，中性脂肪の合成について関連性を理解する。<br>第　6 回　脂質の栄養III<br>リン脂質，コレステロール，エイコサノイドについてそれぞれの生合成や生理作用について理解する。<br>第　7 回　たんぱく質の栄養I<br>たんぱく質とは何か，たんぱく質・アミノ酸の化学として構造と分類について理解しる。また，たんぱく質・アミノ酸の役割についても理解する。<br>第　8 回　たんぱく質の栄養II<br>たんぱく質の代謝として代謝回転，アミノ酸の代謝として尿素の生成とアミノ酸の炭素骨格の代謝について理解する。<br>第　9 回　たんぱく質の栄養III<br>たんぱく質の栄養として食品たんぱく質の栄養評価法について生物的評価法と化学的評価法を理解する。<br>第 10 回　機能性非栄養成分<br>機能性非栄養成分として食物繊維，難消化性糖質の物質と生理作用について理解する。<br>第 11 回　エネルギー代謝I<br>生体におけるエネルギーとは何か，エネルギー獲得法について糖質，脂質，たんぱく質からのエネルギー産生方法を理解する。<br>第 12 回　エネルギー代謝II<br>エネルギー代謝の測定方法として，物理的燃焼値と生理的燃焼値について理解する。<br>第 13 回　エネルギー代謝III<br>エネルギー必要量として，基礎代謝，安静時代謝，食事誘発性熱代謝，活動代謝について理解する。<br>第 14 回　遺伝子発現と栄養I<br>遺伝形質と栄養の相互作用について遺伝子の構造，遺伝情報の発現および発現調節について理解する。<br>第 15 回　遺伝子発現と栄養II<br>遺伝形質と栄養の相互作用について遺伝子多型と個人差，生活習慣病と遺伝子多型について理解する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 5 | 毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習と復習を行う。特に復習を必ず行うこと。また，疑問点，わからないことは教科書，参考書等でよく調べておくこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。<br>3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎栄養学(第4版) | 高　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著 | 三共出版 | 978-4-7827-0795-1 | 2，750円 |
| 使用テキスト：自由記載 | 「基礎栄養学」，高　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著，三共出版 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド［演習版］基礎栄養学ノート第４版 | 田地陽一　編 | 羊土社 | 978-4-7581-1360-1 | 2，800円＋税 |
| 参考書：自由記載 | 「基礎栄養学」，林　淳三・山本　孝史・鈴木　和春・木元　幸一，建帛社<br>「分子栄養学」，榊原　隆三 編，建帛社 | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | 榊　木示申 | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 栄養学実習 (隔週) | | | 授業番号 | NM203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 食事調査や生活活動調査等のデータを用い自己分析を行う中で，基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。<br>併せて，身体測定，食事調査，活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に，実践力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第　1　回　栄養状態の評価判定の意義と方法<br>実習の目的，進め方，食事調査・生活時間調査票・生活調査の説明を行う。<br>第 2・3 回　身体組成等の測定<br>身体組成の測定（身長，体重，体脂肪率，周径囲，皮脂厚）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行い，評価する。<br>第 4・5 回　食習慣調査<br>食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量をもとめ，評価する。<br>第 6・7 回　生活活動調査<br>各自の生活時間腸結果を元に，一日の消費エネルギー量を計算し，活動指数をもとめる。<br>第 8・9 回　各調査結果の整理，解析<br>身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。<br>第10・11回　課題の検討<br>各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣から改善の必要な課題を抽出し，具体的な改善策を検討する。<br>第12・13回　改善策の実施とプレゼン資料の作成<br>各自の課題改善策を実行すると同時に，これまでの調査データをまとめプレゼン資料（パワーポイント資料）を作成する。<br>第14・15回　プレゼン発表<br>各自の課題改善策実行のも含めて，発表会を行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 自己課題のまとめ発表資料の提出によって評価する。提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポート（100%）により評価する。 |
| 受講の心得 | 実習は実際に行って初めて修得できる科目であり，正当な理由なしの欠席は原則認めない。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，各自の調査データを丁寧に集めてくること。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>以上の内容を週当たり1時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「基礎栄養学」，高　早苗，柳　進，河田哲典，山田英明，関　周司　共著，三共出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 応用栄養学Ⅰ | | | 授業番号 | NN201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本講義は，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて学ぶことを目的とする。始めに，栄養ケアプロセスと栄養状態の評価判定法について講義し，次いで「日本人の食事摂取基準」の概念および策定の科学的根拠について説明する。その上で，妊娠期，授乳期，乳児期の心身の特性と栄養状態の評価・判定法，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，妊娠期・授乳期，乳児期の特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養ケアプロセス1　栄養管理の概念と基本的事項 | |
| 第2回 | 栄養ケアプロセス2　栄養状態の評価・判定の意義，栄養状態に影響する要因 | |
| 第3回 | 栄養ケアプロセス3　栄養状態の判定方法，栄養診断と栄養ケアプランの基本 | |
| 第4回 | 食事摂取基準の解説1 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」の策定主旨，概念 | |
| 第5回 | 食事摂取基準の解説2　エネルギー，たんぱく質について | |
| 第6回 | 食事摂取基準の解説3　脂質，炭水化物について | |
| 第7回 | 食事摂取基準の解説4　ビタミン，ミネラルについて | |
| 第8回 | 発育・発達・加齢と栄養1　発生から死まで，成長・発達による変化と栄養 | |
| 第9回 | 発育・発達・加齢と栄養2　加齢に伴う身体的・精神的変化，高齢者の特異性 | |
| 第10回 | 母性栄養1　女性の特性と妊娠，出産，乳汁分泌の仕組み | |
| 第11回 | 母性栄養2　妊娠期の栄養と評価・判定，栄養管理 | |
| 第12回 | 母性栄養3　授乳期の栄養と評価・判定，栄養管理 | |
| 第13回 | 乳児栄養1　乳児の身体状況の変化と成長・発達 | |
| 第14回 | 乳児栄養2　乳児期の栄養補給 | |
| 第15回 | 乳児栄養3　乳児期の健康障害，栄養状態の評価・判定，栄養管理 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，ノート整理を行い，小テストの見直しを行う。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』 | 福渡努，岡本秀己　編 | 化学同人 | 978-4-7598-1646-4 | 3000+税 |
| 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 | 伊藤貞嘉，佐々木敏　監修 | 第一出版 | 978-4-8041-1408-8 | 2800+税 |
| 使用テキスト：自由記載 | その他適宜資料を配布する。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『栄養ケアプロセス用語マニュアル』 | 公益社団法人日本栄養士会　監訳 | 第一出版 | 978-4-8041-1270-1 | 3400+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 応用栄養学Ⅱ | | | 授業番号 | NN202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本講義は応用栄養学Ⅰに引き続き，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて講義する。ライフステージは，幼児期から高齢期までの心身の特性と栄養状態の評価・判定，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。また，運動・スポーツにおける栄養，様々な環境下における栄養との関係についても講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，幼児期から高齢期までの特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。また，運動の生活習慣病予防への効果，スポーツ時の栄養管理，様々な環境下における栄養との関係などについても理解する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児期の栄養1　幼児期の身体状況の変化と成長・発達 | |
| 第2回 | 幼児期の栄養2　栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定 | |
| 第3回 | 幼児期の栄養3　幼児期の食生活と栄養管理 | |
| 第4回 | 学童期の栄養1　身体の成長・発達と栄養状態の特性と評価・判定 | |
| 第5回 | 学童期の栄養2　食習慣の変化，健康上の問題点と栄養管理 | |
| 第6回 | 思春期の栄養1　思春期の身体発育，栄養状態の特性と評価・判定 | |
| 第7回 | 思春期の栄養2　食生活，健康上の問題点と栄養管理 | |
| 第8回 | 成人期・更年期の栄養1　成人期・更年期の身体機能，栄養状態の変化 | |
| 第9回 | 成人期・更年期の栄養2　生活習慣病と栄養管理 | |
| 第10回 | 高齢期の栄養1　身体状況の変化 | |
| 第11回 | 高齢期の栄養2　栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定 | |
| 第12回 | 高齢期の栄養3　食生活，健康上の問題点と栄養管理 | |
| 第13回 | 運動・スポーツと栄養1　健康づくりのための運動 | |
| 第14回 | 運動・スポーツと栄養2　スポーツと栄養 | |
| 第15回 | 環境と栄養 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，ノート整理を行い，小テストの見直しを行う。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』 | 福渡努，岡本秀己　編 | 化学同人 | 978-4-7598-1646-4 | 3000+税 |
| 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 | 伊藤貞嘉，佐々木敏　監修 | 第一出版 | 978-4-8041-1408-8 | 2700+税 |
| 使用テキスト：自由記載 | その他適宜資料を配布する。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『栄養ケアプロセス用語マニュアル』 | 公益社団法人日本栄養士会　監訳 | 第一出版 | 978-4-8041-1270-1 | 3400+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 応用栄養学実習 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NN203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 応用栄養学I，IIで学んだ各ライフステージの身体上，健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として，乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び，技能を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各ライフステージの対象者に対する栄養評価，適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ，各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発育・発達・加齢と栄養，栄養マネジメントの方法と手順 | |
| 第2回 | 妊娠期の栄養管理（1)妊娠期の特性と栄養アセスメント | |
| 第3回 | 妊娠期の栄養管理（2)妊娠期の栄養ケアプラン | |
| 第4回 | 乳幼児の栄養管理（1)乳児期の特性と栄養アセスメント | |
| 第5回 | 乳幼児の栄養管理（2)乳児期の栄養ケアプラン，授乳・離乳支援の実際 | |
| 第6回 | 幼児期の栄養管理（1)幼児期の特性と栄養アセスメント，子ども園における給食の実際 | |
| 第7回 | 幼児期の栄養管理（2)幼児期の栄養ケアプラン，保育所給食献立作成 | |
| 第8回 | 幼児期の栄養管理（3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン | |
| 第9回 | 学童期・思春期の栄養管理（1)学童期・思春期の特性と栄養アセスメント | |
| 第10回 | 学童期・思春期の栄養管理（2)学童期・思春期の栄養ケアプラン | |
| 第11回 | 成人期の栄養管理（1)成人期の特性と栄養アセスメント | |
| 第12回 | 成人期の栄養管理（2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン | |
| 第13回 | 高齢期の栄養管理（1)高齢期の特性と栄養アセスメント | |
| 第14回 | 高齢期の栄養管理（2)高齢期の栄養ケアプラン，咀嚼・嚥下機能低下に対する支援 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 授業内容のまとめとして出される課題により，技能の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品，調理，献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう，班員間のコミュニケーションを密にする。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，授業外に学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『応用栄養学実習ーケーススタディーで学ぶマネジメントー』 | 五関正江，小林三智子 編 | 建帛社 | 978-4-7679-0676-8 | 2800+税 |
| 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 | 伊藤貞嘉，佐々木敏 監修 | 第一出版 | 978-4-8041-1408-8 | 2800+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 応用栄養学実習 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NN203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 応用栄養学I，IIで学んだ各ライフステージの身体上，健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として，乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び，技能を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各ライフステージの対象者に対する栄養評価，適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ，各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発育・発達・加齢と栄養，栄養マネジメントの方法と手順 | |
| 第2回 | 妊娠期の栄養管理（1)妊娠期の特性と栄養アセスメント | |
| 第3回 | 妊娠期の栄養管理（2)妊娠期の栄養ケアプラン | |
| 第4回 | 乳幼児の栄養管理（1)乳児期の特性と栄養アセスメント | |
| 第5回 | 乳幼児の栄養管理（2)乳児期の栄養ケアプラン，授乳・離乳支援の実際 | |
| 第6回 | 幼児期の栄養管理（1)幼児期の特性と栄養アセスメント，子ども園における給食の実際 | |
| 第7回 | 幼児期の栄養管理（2)幼児期の栄養ケアプラン，保育所給食献立作成 | |
| 第8回 | 幼児期の栄養管理（3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン | |
| 第9回 | 学童期・思春期の栄養管理（1)学童期・思春期の特性と栄養アセスメント | |
| 第10回 | 学童期・思春期の栄養管理（2)学童期・思春期の栄養ケアプラン | |
| 第11回 | 成人期の栄養管理（1)成人期の特性と栄養アセスメント | |
| 第12回 | 成人期の栄養管理（2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン | |
| 第13回 | 高齢期の栄養管理（1)高齢期の特性と栄養アセスメント | |
| 第14回 | 高齢期の栄養管理（2)高齢期の栄養ケアプラン，咀嚼・嚥下機能低下に対する支援 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 授業内容のまとめとして出される課題により，技能の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品，調理，献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう，班員間のコミュニケーションを密にする。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，授業外に学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『応用栄養学実習ーケーススタディーで学ぶマネジメントー』 | 五関正江，小林三智子 編 | 建帛社 | 978-4-7679-0676-8 | 2800+税 |
| 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 | 伊藤貞嘉，佐々木敏 監修 | 第一出版 | 978-4-8041-1408-8 | 2800+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 応用栄養学Ⅲ | | | 授業番号 | NN304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義は応用栄養学IおよびII，応用栄養学実習で学んだ栄養ケアプロセス，食事摂取基準，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養管理を基礎知識として，妊娠期，乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定に関する知識を深め，栄養診断，栄養ケア計画のための技能を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の知識を活用し，妊娠期，乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定を行い，的確な栄養診断，栄養ケア計画が出来るようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養管理プロセス１　栄養管理の概念と進め方 | |
| 第2回 | 栄養管理プロセス２　食事摂取基準と栄養改善の計画と実施 | |
| 第3回 | 妊娠期・授乳期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第4回 | 妊娠期・授乳期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第5回 | 乳幼児期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第6回 | 乳幼児期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第7回 | 学童期・思春期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第8回 | 学童期・思春期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第9回 | 成人期・更年期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第10回 | 成人期・更年期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第11回 | 高齢期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第12回 | 高齢期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第13回 | 運動・スポーツと栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定 | |
| 第14回 | 運動・スポーツと栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。 |
| 小テスト | 10 | セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。また，小テストの見直しを行う。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『応用栄養学実習ーケーススタディで学ぶマネジメントー』 | 五関正江，小林三智子　編 | 建帛社 | 978-4-7679-0519-8 | 2700+税 |
| 『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』 | 灘本知憲，宮谷秀一　編 | 化学同人 | 978-4-7598-1638-9 | 2900+税 |
| 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 | 伊藤貞嘉，佐々木敏　監修 | 第一出版 | 978-4-8041-1408-8 | 2800+税 |
| 栄養科学シリーズNEXT　応用栄養学　第5版 | 木戸康博，小倉嘉夫，眞鍋祐之 | 講談社 | 978-4-06-155392-7 | 2800+税 |
| 使用テキスト：自由記載 | その他適宜資料を配布する。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『栄養ケアプロセス用語マニュアル』, | 公益社団法人日本栄養士会　監訳 | 第一出版 | 978-4-8041-1270-1 | 3400+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 栄養教育論Ⅰ | | | 授業番号 | NO201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 栄養教育論Iでは，栄養教育の大切さを多面的に理解し，対象者のパーソナリティー・食環境・食行動・問題点・理解度などの情報を得るために行動科学を学ぶ。情報を引き出すには，コミュニケーション力・カウンセリング力・コーチング力が必要であり，この3つの力を養えるよう講義に組み込んでいく。また，適切な栄養マネジメントの必要性を理解し，適切に行える知識と技術を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養教育の概念・理論を正しく理解した上で栄養教育における行動科学を理解できるよう学修する。栄養教育における理論をもとに総合的な栄養マネジメントを行うための基礎力を修得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養教育の概念（1）<br>栄養教育の定義と目的，栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション | |
| 第2回 | 栄養教育の概念（2）<br>栄養教育と生態学的モデル | |
| 第3回 | 栄養教育と人間の行動変容に関する理論(1)<br>栄養教育と行動科学，行動科学の基礎となる学習理論 | |
| 第4回 | 栄養教育と人間の行動変容に関する理論(2)<br>個人要因に焦点を当てた行動変容の理論 | |
| 第5回 | 栄養教育と人間の行動変容に関する理論(3)<br>対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論，大規模集団や地域レベルの行動変容の理論 | |
| 第6回 | 栄養カウンセリング(1)<br>カウンセリングとは何か，治療者と患者の関係 | |
| 第7回 | 栄養カウンセリング(2)<br>行動カウンセリングの方法論 | |
| 第8回 | 栄養カウンセリング(3)<br>カウンセリングの基礎 | |
| 第9回 | 栄養カウンセリング(4)<br>行動療法面接の実際 | |
| 第10回 | 行動変容のための技法<br>習慣変容に必要な条件，行動技法と概念 | |
| 第11回 | 栄養教育マネジメント(1)<br>栄養教育マネジメントとは，栄養教育の対象と機会 | |
| 第12回 | 栄養教育マネジメント(2)<br>栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル | |
| 第13回 | 栄養教育のためのアセスメント<br>栄養教育におけるアセスメントの意義と目的，情報収集の方法，栄養アセスメントの種類と方法 | |
| 第14回 | 栄養教育の目標設定と計画立案(1)<br>プログラム，目標設定 | |
| 第15回 | 栄養教育の目標設定と計画立案)2)<br>栄養教育方法の選択，学習形態の組み合わせ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 5回の小テストにより，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 到達目標への理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 栄養教育論Iは，様々な対象者への栄養教育の根本となる。<br>講義の内容がより深く理解できるよう，予習・復習を欠かすことなく受講すること。 |
| 授業外学修 | １．講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。<br>２．講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。<br>以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養教育論　改訂第5版 | 武見ゆかり，足達淑子，木村典代，林芙美 | 南江堂 | 978-4-524-22677-1 | 3520 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | 栄養教育実習Ⅰ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NO203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原 幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し，様々な教育の場で活用することができる。<br>・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し，修得することができる。<br>・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握，アンケート作成，二次データ利用とその活用法を修得する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養教育のためのアセスメント<br>初回面接と情報収集，カウンセリング技法の基礎 | |
| 第2回 | 栄養教育アセスメント，ストレス・マネジメント | |
| 第3回 | 習慣的な栄養摂取量の把握（個人）<br>食事記録を用いたアセスメント | |
| 第4回 | フォーカスグループインタビュー | |
| 第5回 | Googleフォームを利用したアンケートの作成と実施<br>得られた情報のプレゼンテーション | |
| 第6回 | コミュニケーション技法とヘルスリテラシー | |
| 第7回 | 栄養教育の実際（１） 栄養教育計画の立案と教室の実施 | |
| 第8回 | まとめ | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な発言，発表状況，態度などから評価する。 |
| レポート | 60 | レポートから理解度と達成度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | グループで取り組んだ内容について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では，個々の力が偏りなく，活発な意見交換を行うこと。<br>日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくと本実習で円滑な作業が期待できる。<br>学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 実習中の内容を振り返り，修得したことや問題点と課題などの復習を行う。<br>また，予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を収集しておく。<br>これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改定マスター栄養教育論実習 | 佐藤香苗，杉村留美子 | 建帛社 | 978-4-7679-0699-7 | 2，530円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療機関における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | 栄養教育実習Ⅰ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NO203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し，様々な教育の場で活用することができる。<br>・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し，修得することができる。<br>・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握，アンケート作成，二次データ利用とその活用法を修得する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養教育のためのアセスメント<br>初回面接と情報収集，カウンセリング技法の基礎 | |
| 第2回 | 栄養教育アセスメント，ストレス・マネジメント | |
| 第3回 | 習慣的な栄養摂取量の把握（個人）<br>食事記録を用いたアセスメント | |
| 第4回 | フォーカスグループインタビュー | |
| 第5回 | Googleフォームを利用したアンケートの作成と実施<br>得られた情報のプレゼンテーション | |
| 第6回 | コミュニケーション技法とヘルスリテラシー | |
| 第7回 | 栄養教育の実際（１）　栄養教育計画の立案と教室の実施 | |
| 第8回 | まとめ | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な発言，発表状況，態度などから評価する。 |
| レポート | 60 | レポートから理解度と達成度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | グループで取り組んだ内容について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では，個々の力が偏りなく，活発な意見交換を行うこと。<br>日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくと本実習で円滑な作業が期待できる。<br>学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 実習中の内容を振り返り，修得したことや問題点と課題などの復習を行う。<br>また，予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を収集しておく。<br>これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改定マスター栄養教育論実習 | 佐藤香苗，杉村留美子 | 建帛社 | 978-4-7679-0699-7 | 2，530円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療機関における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | 栄養教育論Ⅱ | | | 授業番号 | NO302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 管理栄養士は授乳期から終末期までのすべてのステージにおいて「食生活」に対する教育と正しい判断力が要求される。<br>課題に対して正しく判断できる力を習得する。<br>また，栄養教育論Ⅰで学修したことを更に掘り下げ，ライフステージおよびライフスタイル別の栄養教育を学ぶ。<br>各段階における様々な特性を考慮した栄養教育が必要であり，個人および集団を対象とした栄養教育について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）栄養教育の実施者として必要な技術と方法を理解し，習得する。<br>（２）栄養教育の評価方法を理解し正しく評価する力を習得する。<br>（３）ライフステージ・ライフスタイル別および個人・集団での健康状態と栄養教育を理解し，習得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養教育の目標設定と計画立案<br>プログラムの作成 | |
| 第2回 | 栄養教育の実施と評価<br>栄養教育実施 | |
| 第3回 | 栄養教育の目標設定と計画立案<br>栄養教育の評価(1) | |
| 第4回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>栄養教育の評価(2) | |
| 第5回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>妊娠・授乳期 | |
| 第6回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>乳・幼児期(1) | |
| 第7回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>乳・幼児期(2) | |
| 第8回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>学童期(1) | |
| 第9回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>学童期(2) | |
| 第10回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>思春期 | |
| 第11回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>成人期 | |
| 第12回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>成人期を対象とした栄養教育の特徴と留意事項 | |
| 第13回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>職域における栄養教育 | |
| 第14回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>高齢期 | |
| 第15回 | ライフステージ別の栄養教育の展開<br>介護保険制度と栄養教育・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 受講態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 到達目標の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 栄養教育論IIは，ライスステージおよびライフスタイル別の対象者への栄養教育をより具体的に学修する。<br>講義内容がより深く理解できるよう，予習・復習を欠かすことなく受講すること。 |
| 授業外学修 | 1.講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。<br>2.講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。<br>以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養教育論　改訂第5版 | 武見ゆかり，足達淑子，木村典代，林芙美 | 南江堂 | 978-4-524-22677-1 | 3，520円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | 栄養教育実習Ⅱ（隔週） | | | 授業番号 | NO304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクル組み込んで学修する。<br>実習を進めて行く上でペアワークおよびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得する。<br>実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ライフステージおよびライフスタイルにおける特徴を理解した上でより有効な栄養教育法を判断できる力を習得する。<br>その場に相応しい栄養教育方法を実践するための技術を学修する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 第１回　乳幼児期，学童期（小学生）の栄養教育，思春期（中学生・高校生）の栄養教育<br>第２回　成人期の栄養教育　グループダイナミクスを用いて<br>第３回　模擬患者を用いた面接技法（SP演習）<br>第４回　カウンセリング技法<br>第５回　高齢期の栄養支援（高齢者施設）<br>第６回　個人栄養食事指導のまとめ<br>第７回　スポーツと栄養教育，地域における栄養教育<br>第８回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 個人およびグループ内での発言，発表状況，質問などから評価する。 |
| レポート | 60 | 提出されたレポートから理解度，達成度等を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | グループで取り組んだ内容について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実践に近いライフステージ別の実習となるため，それぞれが積極的に発言する機会を得ること。<br>また，グループ内でも協力してチーム力が発揮できるよう努力する。<br>学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 実習中の内容を振り返り，習得したことや問題点と課題の復習を行う。<br>予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を予め収集しておく。<br>これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂マスター栄養教育論実習 | 佐藤香苗・杉村留美子 | 建帛社 | 978-4-7679-0699-7 | 2，530円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | カウンセリング論 | | | 授業番号 | NO305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | カウンセリングに関わる基礎理論を獲得するとともに，ロールプレイや事例検討を通して，カウンセリングに関する技術の修得を目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・カウンセリングの知識について，基礎的な知識を獲得する。<br>・カウンセリングの基礎的な技法について，実際の場面で使うことができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | カウンセリングとは？ | |
| 第2回 | カウンセリングの理論1：精神分析療法 | |
| 第3回 | カウンセリングの理論2：認知行動療法，論理療法 | |
| 第4回 | カウンセリングの理論3：来談者中心療法 | |
| 第5回 | カウンセリング・マインドを考える | |
| 第6回 | カウンセリングのすすめ方1：インテーク面接 | |
| 第7回 | カウンセリングのすすめ方2：アセスメント1 | |
| 第8回 | カウンセリングのすすめ方3：アセスメント2 | |
| 第9回 | カウンセリングのすすめ方4：介入と終結 | |
| 第10回 | カウンセリングにおける具体的なテクニック1：相づち，反射，開いた質問，閉じた質問 | |
| 第11回 | カウンセリングにおける具体的なテクニック2：要約，明確化 | |
| 第12回 | 事例検討 1 | |
| 第13回 | 事例検討 2 | |
| 第14回 | ロールプレイ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 全講義終了後，カウンセリングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 事例検討（30%）やロールプレイ（20%）に積極的に参加し，意見を出すことができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，カウンセリングに関わる基礎理論を復習すること。<br>2．事例について，様々な視点から考えられるように深く読み込むこと。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | スクールカウンセラー，医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 様々な困難感を抱える子どもや保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について，事例を通して考え実践できるようになる。 |

| 科目名 | 食行動学 | | | 授業番号 | NO306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人にとって食行動とは，ライフステージ，ライフワーク，その人の遺伝的要因，環境要因によって異なる。<br>管理栄養士として，重要であるアセスメントの一つである食行動を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食行動に影響する要因の分析力，なぜ人はその行動をとるのか，健康的に望ましくない食行動を行動変容するためには何が必要か。<br>食行動について多面的に理解することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 食行動は重要なアセスメントの一つであり，管理栄養士として十分な理解が必要である。<br>さまざまなライフステージおよびライフワークにおける特徴とその分析能力を養うことを目的とする。<br>日頃から，人の食行動をモニタリングするなど，興味を持って受講すること。<br>講義形式ではあるが，参加型を含める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食行動とは何かを考える | |
| 第2回 | 食行動と認知 | |
| 第3回 | 食行動と環境要因との関係 | |
| 第4回 | 食行動と心理との関係 | |
| 第5回 | 食に関する理解の発達 | |
| 第6回 | ライフステージにおける食行動の特徴を考える | |
| 第7回 | ライフワークにおける食行動の特徴と考える | |
| 第8回 | 行動科学に基づいた栄養教育 | |
| 第9回 | 行動分析学に基づく体重減量の方法 | |
| 第10回 | 食事療法による生活習慣病の予防 | |
| 第11回 | 健康寿命を延伸するために求められる食とは何か | |
| 第12回 | 肥満とダイエット関連する食行動と栄養教育<br>事例検討（肥満） | |
| 第13回 | 事例検討(糖尿病) | |
| 第14回 | 事例検討(慢性腎臓病) | |
| 第15回 | 食行動のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業と関係ない行為を減点対象とする。能動的な姿勢を評価する。 |
| レポート | 60 | 講義内容への理解度と取り組み姿勢をレポートの内容から評価する。 |
| 小テスト | 30 | 重要なポイントについての理解度を確認する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の内容に沿った内容の資料を提供する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。 |

| 科目名 | 臨床栄養学総論 | | | 授業番号 | NP201 | サブタイトル | (傷病者の栄養管理の基礎を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野　尚美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために栄養ケアマネジメントが実施される。その流れに沿って，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画の作成・実施，モニタリング・再評価における必要な知識を説明する。さらに，栄養管理を行う上で必要となる他職種との連携（チーム医療），栄養補給（経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養），栄養教育の方法および食品と医薬品の相互作用について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。<br>・対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。<br>・栄養補給法について知り，その選択ができる。<br>・チーム医療について理解し，その中での管理栄養士の役割について説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 臨床栄養学の基礎 | |
| 第2回 | 医療制度とチーム医療 | |
| 第3回 | 福祉・介護と在宅医療 | |
| 第4回 | 栄養ケアマネジメントの概要 | |
| 第5回 | 栄養アセスメント(1)栄養スクリーニング，フィジカルアセスメント | |
| 第6回 | 栄養アセスメント(2)臨床検査，身体計測 | |
| 第7回 | 栄養アセスメント(3)食生活状況の把握，エネルギーおよび栄養素のアセスメント | |
| 第8回 | 栄養ケア計画のプロセス | |
| 第9回 | 栄養補給の方法(1)経口栄養補給法 | |
| 第10回 | 栄養補給の方法(2)経腸栄養補給法 | |
| 第11回 | 栄養補給の方法(3)経静脈栄養補給法 | |
| 第12回 | 薬と栄養・食物の相互作用 | |
| 第13回 | 栄養ケアの記録 | |
| 第14回 | 栄養教育の実施 | |
| 第15回 | モニタリングと再評価 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 医療機関における管理栄養士の役割を知る授業である。事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 |
| 授業外学修 | 1　事前に講義範囲をテキストで予習しておく。<br>2　授業の中で指示された課題等に取り組む。<br>3　授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編 | 本田佳子，土江節子，曽根博仁 | 羊土社 | 978-4-7581-0882-9 | 2，700円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 臨床栄養学各論Ⅰ | | | 授業番号 | NP302 | サブタイトル | (傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶ1) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケア・マネジメントを実践するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因や病態を把握し，治療の一部となる栄養食事療法や栄養状態に合わせた栄養管理計画の考え方について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・疾患ごとの病態について説明できる<br>・病態にあわせた栄養食事療法について説明できる<br>・栄養状態にあわせた栄養管理計画を考えることができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和５年度変更 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 糖尿病の栄養食事療法(1) | 古川 |
| 第2回 | 糖尿病の栄養食事療法(2) | 古川 |
| 第3回 | 肥満症の栄養食事療法 | 古川 |
| 第4回 | 脂質異常症の栄養食事療法 | 古川 |
| 第5回 | 高尿酸血症の栄養食事療法 | 古川 |
| 第6回 | 高血圧の栄養食事療法 | 古川 |
| 第7回 | 動脈硬化症，虚血性心疾患，心不全，脳血管疾患の栄養食事療法 | 古川 |
| 第8回 | 上部消化肝疾患の栄養食事療法 | 古川 |
| 第9回 | 下部消化肝疾患の栄養食事療法 | 古川 |
| 第10回 | 肝疾患の栄養食事療法(1) | 古川 |
| 第11回 | 肝疾患の栄養食事療法(2) | 古川 |
| 第12回 | 膵疾患の栄養食事療法 | 古川 |
| 第13回 | 腎疾患の栄養食事療法(1) | 古川 |
| 第14回 | 腎疾患の栄養食事療法(2) | 古川 |
| 第15回 | 腎疾患の栄養食事療法(3) | 古川 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 具体的な栄養管理法を把握するため，事前・事後学習を行う。特別な理由がない限り欠席・遅刻しない。この科目の学習には，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解しておく必要がある。 |
| 授業外学修 | 1.授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。<br>2.授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。<br>3.授業に関連した項目についてレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養学ｲﾗｽﾄﾚｲﾃｯﾄﾞ　臨床栄養学　疾患別編 | 本田佳子　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0883-6 | 2，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床医学疾病の成り立ち | 田中明　他　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0870-6 | 2，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院における実務経験を活かし，傷病者の栄養食事療法について講義を行う。 |

| 科目名 | 臨床栄養学各論Ⅱ | | | 授業番号 | NP303 | サブタイトル | (傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶII) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野　尚美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 臨床栄養学各論Iに続いて各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケアマネジメントを実施するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因，症状等を把握した上で治療，特に栄養食事療法をどのように進めていくかについて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・疾患ごとの病状を説明できる。<br>・疾患における傷病者の栄養状態を説明できる。<br>・治療において，栄養食事療法の意義を説明できる。<br>・疾患ごとの栄養管理計画を考えることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 運動器（骨格）系疾患(1)骨粗鬆症，くる病，骨軟化症 | |
| 第2回 | 運動器（骨格）系疾患(2)変形性関節症，サルコペニア，ロコモティブシンドローム | |
| 第3回 | 摂食嚥下障害 | |
| 第4回 | 褥瘡 | |
| 第5回 | 甲状腺機能亢進症・低下症 | |
| 第6回 | 神経性やせ症，神経性過食症 | |
| 第7回 | 慢性閉塞性肺疾患 | |
| 第8回 | 貧血 | |
| 第9回 | アレルギー疾患 | |
| 第10回 | がんとターミナルケア | |
| 第11回 | 周術期の管理 | |
| 第12回 | クリティカルケア | |
| 第13回 | 先天性代謝異常症 | |
| 第14回 | 妊産婦疾患 | |
| 第15回 | てんかん | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業をより理解するためには，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解していることが重要であるので，復習しておくこと。 |
| 授業外学修 | ・事前に講義範囲をテキストで予習しておく。<br>・授業の中で指示された課題等に取り組む。<br>・授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　疾患別編 改訂第2版 | 本田佳子　他　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0883-6 | 2，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床医学疾病の成り立ち | 田中　明　他　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0870-6 | 2，800円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅰ（隔週） | | | 授業番号 | NP304 | サブタイトル | （疾病に応じた栄養管理・食事療法を学ぶ） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 栄養ケアプロセスとその実際について症例を通して理解する。身体計測や臨床検査，臨床審査，食事調査などの情報から栄養アセスメントを行い，傷病者の栄養ケアプランの作成や栄養記録法を学ぶ。また，対象者の特徴に応じた集団指導の計画を立て実践する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養スクリーニングの評価方法について説明できる。<br>・身体計測を実施でき，結果を評価できる。<br>・対象者の栄養摂取量を推定し，栄養必要量を用いて摂取状態を判定できる。<br>・栄養アセスメントを実施して，問題点を抽出できる。<br>・経腸栄養剤や経静脈栄養の特徴を理解し，栄養剤あるいは輸液の選択と適正量を算出できる。<br>・対象者の問題点を解決しうる栄養介入を提案できる。<br>・対象者の特徴に配慮した集団指導の計画と実践ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和５年度変更 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1-2回　栄養スクリーニングとアセスメント（身体計測，血液検査，食事調査）<br>3-4回　栄養診断と介入計画（栄養補給法の選択と必要量の算出，POS記録法）<br>5-6回　糖尿病の栄養管理(1)（エネルギーコントロール食の理解，糖尿病交換表の使い方，治療食への展開）<br>7-8回　糖尿病の栄養管理(2)<br>9-10回　心疾患患者の栄養管理（塩分コントロール食の理解，治療食への展開）<br>11-12回　脂質異常症の栄養管理<br>13-14回　集団指導の計画立案<br>15回　集団指導の発表，まとめと要点の整理 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な実習態度によって評価する |
| レポート | 50 | 治療食や疾病を理解し，傷病者の臨床診査，検査値等から正しくアセスメントを行っているか，栄養管理計画が立てられているかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 集団指導の計画内容，実施状況によって評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 臨床栄養学総論，臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分に行い授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと<br>2　復習として授業で学んだ内容について自分の言葉でノートに整理しておくこと<br>以上の内容を週当たり1時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| トレーニーガイド　栄養食事療法の実習 | 本田佳子　編 | 医歯薬出版 | 978-4-263-70651-0 | 2700+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床調理 | 玉川和子・口羽章子・木地明子　著 | 医歯薬出版 | 978-4263706527 | 2400+税 |
| 栄養ケアプロセス用語マニュアル | 公益財団法人日本栄養士会 | 第一出版 | 978-4804112701 | 3400 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法について指導します。 |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅱ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NP305A | サブタイトル | (疾病に応じた栄養アセスメント・栄養管理法を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古川 愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 臨床栄養学実習Ⅰに続いて，各疾患の症例に対し，栄養状態の評価・判定を行い，栄養ケアプランを作成する。また，ケアプランに基づいた個別指導計画を立案し，臨床の現場を想定した模擬指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・提示された症例について適切に栄養評価ができる。<br>・提示された症例について適切な栄養診断を選択できる。<br>・提示された症例について，問題点を改善しうる栄養計画を立案できる。<br>・傷病者に対する個別指導を計画し，実行できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | 令和５年度変更 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 腎臓病患者の栄養管理(1)たんぱく質コントロール食の実際，腎臓病交換表の使い方，腎臓病食への展開 | |
| 第2回 | 腎臓病患者の栄養管理(1)たんぱく質コントロール食の実際，腎臓病交換表の使い方，腎臓病食への展開 | |
| 第3回 | 腎臓病患者の栄養管理(2)慢性腎臓病 | |
| 第4回 | 腎臓病患者の栄養管理(2)慢性腎臓病 | |
| 第5回 | 腎臓病患者の栄養管理(3)透析 | |
| 第6回 | 腎臓病患者の栄養管理(3)透析 | |
| 第7回 | 褥瘡患者の栄養管理 | |
| 第8回 | 褥瘡患者の栄養管理 | |
| 第9回 | 腎臓病展開食の調理 | |
| 第10回 | 腎臓病展開食の調理 | |
| 第11回 | 個別栄養指導の計画と準備 | |
| 第12回 | 個別栄養指導の計画と準備 | |
| 第13回 | 個別栄養指導の発表と報告会準備 | |
| 第14回 | 個別栄養指導の発表と報告会準備 | |
| 第15回 | 個別栄養指導実施報告会，まとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，発表内容，質疑などにより評価する。 |
| レポート | 40 | 授業内容の理解度や献立の展開内容などにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 個別栄養指導の内容，発表状況から評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 各疾患に応じた栄養管理法に基づいて，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画を作成し，実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて，栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため，栄養教育について復習が必要である。 |
| 授業外学修 | 1，授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。<br>2，授業中の記録用紙に記入し，期日までに提出する。<br>3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント | 本田佳子編 | 医歯薬出版 | 978-4-263-70651-0 | 2，700円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編 | 本田佳子編 | 羊土社 | 978-4-7581-0883-6 | 2800円+税 |
| 栄養管理プロセス | 木戸康博　他　編 | 第一出版 | 978-4-8041-1385-2 | 3500+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。 |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅱ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NP305B | サブタイトル | (疾病に応じた栄養アセスメント・栄養管理法を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 臨床栄養学実習Ⅰに続いて，各疾患の症例に対し，栄養状態の評価・判定を行い，栄養ケアプランを作成する。また，ケアプランに基づいた個別指導計画を立案し，臨床の現場を想定した模擬指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・提示された症例について適切に栄養評価ができる。<br>・提示された症例について適切な栄養診断を選択できる。<br>・提示された症例について，問題点を改善しうる栄養計画を立案できる。<br>・傷病者に対する個別指導を計画し，実行できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和５年度変更 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 腎臓病患者の栄養管理(1)たんぱく質コントロール食の実際，腎臓病交換表の使い方，腎臓病食への展開 | |
| 第2回 | 腎臓病患者の栄養管理(1)たんぱく質コントロール食の実際，腎臓病交換表の使い方，腎臓病食への展開 | |
| 第3回 | 腎臓病患者の栄養管理(2)慢性腎臓病 | |
| 第4回 | 腎臓病患者の栄養管理(2)慢性腎臓病 | |
| 第5回 | 腎臓病患者の栄養管理(3)透析 | |
| 第6回 | 腎臓病患者の栄養管理(3)透析 | |
| 第7回 | 褥瘡患者の栄養管理 | |
| 第8回 | 褥瘡患者の栄養管理 | |
| 第9回 | 腎臓病展開食の調理 | |
| 第10回 | 腎臓病展開食の調理 | |
| 第11回 | 個別栄養指導の計画と準備 | |
| 第12回 | 個別栄養指導の計画と準備 | |
| 第13回 | 個別栄養指導の発表と報告会準備 | |
| 第14回 | 個別栄養指導の発表と報告会準備 | |
| 第15回 | 個別栄養指導実施報告会，まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，発表内容，質疑などにより評価する。 |
| レポート | 40 | 授業内容の理解度や献立の展開内容などにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 個別栄養指導の内容，発表状況から評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 各疾患に応じた栄養管理法に基づいて，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画を作成し，実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて，栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため，栄養教育について復習が必要である。 |
| 授業外学修 | 1，授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。<br>2，授業中の記録用紙に記入し，期日までに提出する。<br>3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント | 本田佳子編 | 医歯薬出版 | 978-4-263-70651-0 | 2，700円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編 | 本田佳子編 | 羊土社 | 978-4-7581-0883-6 | 2800円+税 |
| 栄養管理プロセス | 木戸康博　他　編 | 第一出版 | 978-4-8041-1385-2 | 3500+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。 |

| 科目名 | 栄養マネジメント | | | 授業番号 | NP306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野　尚美、森光　大、市川　和子、石井　恭子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養マネジメントでは，臨床栄養学総論，臨床栄養学各論，臨床栄養学実習で学修した知識をもとに，傷病者の病態や栄養状態に基づいた適切な栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）について学ぶ。前半は栄養管理マネジメントをするために必要な知識（スクリーニングの仕方，情報の収集と評価，栄養診断，栄養素量等の設定方法等）について講義する。後半は，各疾患の症例に対する栄養管理マネジメントについて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養管理マネジメント，栄養管理プロセスについて説明できる。<br>・栄養スクリーニング，栄養アセスメントができる。<br>・症例に対する栄養診断ができる。<br>・栄養管理計画を作成できる。<br>・栄養管理実施記録にSOAPに基づいた記録ができる<br>本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）の概要 | 小野尚美 |
| 第2回 | 栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較 | 小野尚美 |
| 第3回 | 栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング | 小野尚美 |
| 第4回 | 栄養アセスメント | 小野尚美 |
| 第5回 | 栄養状態の判定（栄養診断） | 小野尚美 |
| 第6回 | 栄養管理計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー，たんぱく質） | 小野尚美 |
| 第7回 | 栄養管理計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物，脂質，水分他） | 小野尚美 |
| 第8回 | 糖尿病患者の栄養管理マネジメント | 市川和子 |
| 第9回 | 脂質異常症患者の栄養管理マネジメント | 市川和子 |
| 第10回 | 高血圧症患者の栄養管理マネジメント | 市川和子 |
| 第11回 | 腎疾患患者の栄養管理マネジメント | 市川和子 |
| 第12回 | 高齢者の栄養管理マネジメント | 石井恭子 |
| 第13回 | 低栄養患者の栄養管理マネジメント | 森光　大 |
| 第14回 | 摂食嚥下障害患者の栄養管理マネジメント | 石井恭子 |
| 第15回 | 褥瘡患者の栄養管理マネジメント | 森光　大 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な学習態度，レポートの提出状況によって評価する |
| レポート | 50 | 課題について，正しく記載されているかを評価する |
| 小テスト | 30 | 理解度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・事前に示す疾患等について十分に学習し授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | ・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。<br>・授業の中で指示された課題等に取り組む。<br>・授業中に配布されたプリントやテキストを読み返し，ポイントを整理しておく。<br>以上の内容を週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編　改訂第2版 | 本田佳子　他　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0882-9 | 2，700円＋税 |
| 栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　疾患別編　改訂第2版 | 本田佳子　他　編 | 羊土社 | 978-4-7581-0883-6 | 2，800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 施設の実習指導者(石井 恭子) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が管理栄養士に必要な能力を身につけるため高齢者福祉施設の現場の実習指導者の指導の下，高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画及び栄養指導・支援ができる技能を修得することができる。(石井 恭子) |

| 科目名 | 公衆栄養学Ⅰ | | | 授業番号 | NQ301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 辻本　美由喜 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 公衆栄養学は，人間集団を対象とする学問であり，公衆栄養活動という実践を伴う学問である。そこで，地域や職域での健康・栄養問題と実践されている公衆栄養活動を知り，栄養政策を知る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）公衆栄養学の概念を知るために，健康・栄養問題の現状と課題について学び，栄養政策を理解できるようになる。<br>（２）現在展開されている公衆栄養活動の実際を理解するために，その根拠となっている健康増進関係の法律や地方計画について学び，ひとり一人が健康づくりを実践できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 公衆栄養の概念<br>公衆栄養の意義と目的，生態系と食料・栄養，コミュニティ，公衆栄養活動を理解する。 | |
| 第2回 | 公衆栄養活動（１）<br>公衆栄養活動の歴，少子・高齢社会における健康増進を理解する。 | |
| 第3回 | 公衆栄養活動（２）<br>疾病予防やヘルスプロモーションのための公衆栄養活動，住民参加，ソーシャルキャピタルを理解する。 | |
| 第4回 | 健康・栄養問題の現状と課題（１）食事の変化<br>エネルギー・栄養素摂取量，食品群別摂取量，料理・食事のパターンの変化を理解する。 | |
| 第5回 | 健康・栄養問題の現状と課題（２）食生活の変化<br>食行動や食知識，食態度，食スキルの変化を理解する。 | |
| 第6回 | 健康・栄養問題の現状と課題（３）食環境の変化<br>食品生産・流通面，食情報の提供，保健・健康を目的とした食事・食環境の提供，食料需給表，食料需給率を理解する。 | |
| 第7回 | 健康・栄養問題の現状と課題（４）諸外国の健康・栄養問題の現状と課題<br>開発途上国の健康・栄養問題，先進国の健康・栄養問題を理解する。 | |
| 第8回 | 栄養政策（１）わが国の公衆栄養活動<br>健康づくり施策と公衆栄養活動の役割，公衆栄養活動と組織・人材育成を理解する。 | |
| 第9回 | 栄養政策（２）公衆栄養関係法規<br>地域保健法，健康増進法，食育基本法他の主な法律を理解する。 | |
| 第10回 | 栄養政策（３）管理栄養士・栄養士制度と職業倫理<br>栄養士法，管理栄養士・栄養士の社会的役割，管理栄養士・栄養士の沿革，職業倫理を理解する。 | |
| 第11回 | 栄養政策（４）国民健康・栄養調査<br>調査の目的，沿革，方法，内容，方法を理解する。 | |
| 第12回 | 栄養政策（５）実施に関連する指針・ツール<br>食生活指針，食事バランスガイドを理解する。 | |
| 第13回 | 栄養政策（６）国の健康増進の基本方針と地方計画<br>基本方針の推進と地方健康増進計画を理解する。 | |
| 第14回 | 栄養政策（６）食育推進基本計画<br>食育推進基本計画の目的，内容，推進方法，地方食育推進計画を理解する。 | |
| 第15回 | 栄養政策（７）諸外国の健康・栄養政策<br>国際的な栄養行政組織，諸外国の公衆栄養関連計画等を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 意欲的な学習態度や毎回行う予習と復習テストにより評価する。 |
| レポート | 10 | 課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。 |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | （１）「公衆衛生学」，「栄養学」，「食品学」等の基礎分野の理解を深めておく。<br>（２）公衆栄養に関する新聞記事等を関心を持って読む。 |
| 授業外学修 | （１）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。<br>（２）前回授業内容に関する復習テストを行うので，２時間以上復習をしておく。<br>（３）随時出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂カレント公衆栄養学第2版 | 由田克士・荒井裕介 | 建帛社 | 978-4-7679-0684-3 | 2，700円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『国民栄養の現状』医学基盤・健康・栄養情報研究会編　第1出版<br>『国民衛生の動向』財団法人厚生労働統計協会編　発行<br>『栄養調理六法』栄養調理関係法令研究会編　　新日本法規 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が管理栄養士に必要な能力を身に付けるために，公衆栄養活動の実際や栄養政策の進め方，地方計画の策定方法，多職種連携と協働などによる地域の健康づくりを通して，住民の健康・栄養問題を効果的に解決する技能を修得させる。 |

| 科目名 | 公衆栄養学Ⅱ | | | 授業番号 | NQ302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 辻本　美由喜 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 栄養疫学の意義や公衆栄養マネージメントの考え方を学び，地域で展開されている公衆栄養活動の展開を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）公衆栄養マネージメントの基本的な考え方を理解するために，公衆栄養のアセスメントの目的や方法について学び，栄養疫学の意義を理解できるようになる。<br>（２）総合的な視野から公衆栄養活動ができる力を養うために，具体的な公衆栄養活動の事例を通して，地域での公衆栄養プログラムの展開について学び，自ら健康づくりを実行できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養疫学（１）栄養疫学の概要<br>栄養疫学の学問分野，役割，公衆栄養活動への応用を理解する。 | |
| 第2回 | 栄養疫学（２）暴露情報としての食事摂取量<br>食物と栄養素，食事摂取量の個人内変動と個人間変動，日常的な食事摂取量を理解する。 | |
| 第3回 | 栄養疫学（３）食事摂取量の測定方法<br>食事記録法と24時間思い出し法，食物摂取頻度調査法と妥当性・再現性，食事摂取量を反映する身体計測値，生化学的指標を理解する。 | |
| 第4回 | 栄養疫学（４）食事摂取量の評価方法<br>食事調査と食事摂取基準，総エネルギー調整栄養素摂取量，データ処理と解析を理解する。 | |
| 第5回 | 公衆栄養マネージメント（１）公衆栄養マネジメントとアセスメント<br>地域診断，公衆栄養マネジメントの考え方と過程，公衆栄養アセスメントの目的と方法，食事摂取基準の地域集団への活用，量的調査と質的調査の意義，観察法と活用，質問調査の方法と活用，既存資料の活用と留意点，健康・栄養情報の収集と管理を理解する。 | |
| 第6回 | 公衆栄養マネージメント（２）公衆栄養プログラムの目標設定<br>改善課題の抽出，課題設定の目的と相互の関連，改善目標の設定，目標設定の優先順位を理解する。 | |
| 第7回 | 公衆栄養マネージメント（３）公衆栄養プログラムの計画，実施，評価<br>地域社会資源，運営面政策面のアセスメント，計画策定，住民参加，関係者・機関の役割，評価の意義と実際を理解する。 | |
| 第8回 | 公衆栄養プログラムの展開（１）地域特性に対応したプログラムの展開：健康づくりと食育<br>地域社会の健康づくり，企業・団体・自治体による健康づくり，食育の推進を理解する。 | |
| 第9回 | 公衆栄養プログラムの展開（２）地域特性に対応したプログラムの展開：在宅療養，介護支援<br>介護保険制度，地域支援事業，地域包括ケアシステム，栄養ケアステーションについて理解する。 | |
| 第10回 | 公衆栄養プログラムの展開（３）地域特性に対応したプログラムの展開：健康食生活の危機管理と食支援<br>自然災害における栄養・食生活支援を理解する。 | |
| 第11回 | 公衆栄養プログラムの展開（４）食環境づくりのためのプログラムの展開：食物・食情報へのアクセス<br>食物・食情報へのアクセスと食環境整備栄養成分表示の活用を理解する。 | |
| 第12回 | 公衆栄養プログラムの展開（５）食環境づくりのためのプログラムの展開：特別用途食品・保健機能食品の活用<br>特別用途食品，特定保健機能食品，栄養機能食品，「健康な食事」の普及啓発を理解する。 | |
| 第13回 | 公衆栄養プログラムの展開（６）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健対策と公衆栄養プログラム<br>母子保健法に基づく事業，健やか親子２１を理解する。 | |
| 第14回 | 公衆栄養プログラムの展開（７）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健事業と成長期の公衆栄養プログラム<br>市町村保健センターでの事業やボランティア，保育所との連携，学校給食・栄養教諭・学校での食育を理解する。 | |
| 第15回 | 公衆栄養プログラムの展開（８）地域集団の特性別プログラムの展開：成人期・高齢期の公衆栄養プログラム<br>成人期や高齢期の食生活の現状と課題，生活習慣病ハイリスク集団への対策，標準的な健診・保健指導プログラムを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 意欲的な学習態度や毎回行う予習・復習テストにより評価する。 |
| レポート | 10 | 課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。。 |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | （１）「公衆衛生学」,「栄養学」,「食品学」,「栄養教育論」,「応用栄養学の栄養マネージメント」等の理解を深めておく。<br>（２）公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読む。 |
| 授業外学修 | （１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。<br>（２）前回授業内容に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておく。<br>（３）随時授業終了時に出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カレント公衆栄養学　改訂 | 由田克士・荒井裕介 | 建帛社 | 978-4-7679-0684 -3 | 2，700円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『はじめて学ぶやさしい疫学』日本疫学会監修　南江堂<br>『データ栄養学のすすめ』佐々木敏　著　女子栄養大学出版部 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が管理栄養士に必要な能力を身に付けるために，公衆栄養活動の実際や栄養政策の進め方，地方計画の策定方法，多職種連携と協働などによる地域づくりの展開を通して，公衆栄養プログラムの立案とマネジメント，展開ができる力を修得させる。 |

| 科目名 | 公衆栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NQ303A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 辻本 美由喜 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 公衆栄養活動において，健康増進計画や食育推進計画の策定と関連プログラムの企画，立案，評価を，他職種と連携しながら取り組むことが求められている。公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習を通して修得し，公衆栄養活動のマネージメント能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）公衆栄養上の課題を抽出するために，ワークショップや指導媒体の作成などにより，解決方法を考えることができる。<br>（２）個人，集団の栄養状態の分析，評価，指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い，指導することができる。<br>（３）公衆栄養マネージメント能力を培うために，調理実習やヘルスチェックなどにより，食事・運動・休養のとり方を考え，一人一人が健康的な生活を送ることができる。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象<br>(1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。<br>(2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。 | |
| 第2回 | 地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象<br>(1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。<br>(2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。 | |
| 第3回 | 公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理<br>(1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体，<br>非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。<br>(2)食事調査の重量測定と意義を理解する。 | |
| 第4回 | 公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理<br>(1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体，<br>非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。<br>(2)食事調査の重量測定と意義を理解する。 | |
| 第5回 | 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査<br>(1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。<br>(2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。 | |
| 第6回 | 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査<br>(1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。<br>(2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。 | |
| 第7回 | 公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査<br>(1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。<br>(2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。 | |
| 第8回 | 公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査<br>(1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。<br>(2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。 | |
| 第9回 | 健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定<br>(1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。<br>(2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。<br>(3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。 | |
| 第10回 | 健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定<br>(1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。<br>(2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。<br>(3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。 | |
| 第11回 | 公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導<br>(1)計画立案のプロセスを理解する。<br>(2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。<br>(3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。<br>(4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。 | |
| 第12回 | 公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導<br>(1)計画立案のプロセスを理解する。<br>(2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。<br>(3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。<br>(4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。 | |
| 第13回 | 地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策<br>(1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。<br>(2)学校保健対策の媒体活用を理解する。<br>(3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。 | |
| 第14回 | 地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策<br>(1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。<br>(2)学校保健対策の媒体活用を理解する。<br>(3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。 | |
| 第15回 | 岡山県南部健康づくりセンターにてヘルスチェックの体験<br>(1)公衆栄養の実際を経験し，ヘルスチェックの意義を理解する。<br>(2)問診票を適切に記入し完成する。<br>(3)自らの生活を見直し，健康的な生活を実践できる。 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 実習等への意欲的な学習態度とファイルの適切な活用，毎回行う予習・復習テストにより評価する。 |
| レポート | 40 | 課題を適切に作成し，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。 |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「公衆栄養学」，「公衆衛生学」，「食品学」，「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。 |
| 授業外学修 | （１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。<br>（２）前回授業に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておくこと。<br>（３）随時出す課題について，レポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆栄養学実習　改訂 | 手島哲子，田中久子 | 同文書院 | 978-4-8103-1455-7 | 2，000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『カレント公衆栄養学』改訂　由田克士・荒井裕介　編著，建帛社<br>『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会　監修　南山堂 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 健康づくりセンターの栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 公衆栄養活動で求められる知識や技術を身に着けるために，様々な公衆栄養活動の実習により，公衆栄養マネージメントの進め方を指導する。（担当教員）<br>健康づくり能力を身に着けるために，実習指導者の下メデイカル，ヘルスチエックを行って健康づくりへの理解を深め，食に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者） |

| 科目名 | 公衆栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NQ303B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 辻本 美由喜 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 公衆栄養活動において，健康増進計画や食育推進計画の策定と関連プログラムの企画，立案，評価を，他職種と連携しながら取り組むことが求められている。公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習を通して修得し，公衆栄養活動のマネージメント能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）公衆栄養上の課題を抽出するために，ワークショップや指導媒体の作成などにより，解決方法を考えることができる。<br>（２）個人，集団の栄養状態の分析，評価，指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い，指導することができる。<br>（３）公衆栄養マネージメント能力を培うために，調理実習やヘルスチェックなどにより，食事・運動・休養のとり方を考え，一人一人が健康的な生活を送ることができる。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象<br>(1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。<br>(2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。 | |
| 第2回 | 地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象<br>(1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。<br>(2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。 | |
| 第3回 | 公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理<br>(1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体，<br>非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。<br>(2)食事調査の重量測定と意義を理解する。 | |
| 第4回 | 公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理<br>(1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体，<br>非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。<br>(2)食事調査の重量測定と意義を理解する。 | |
| 第5回 | 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査<br>(1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。<br>(2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。 | |
| 第6回 | 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査<br>(1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。<br>(2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。 | |
| 第7回 | 公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査<br>(1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。<br>(2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。 | |
| 第8回 | 公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査<br>(1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。<br>(2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。 | |
| 第9回 | 健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定<br>(1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。<br>(2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。<br>(3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。 | |
| 第10回 | 健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定<br>(1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。<br>(2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。<br>(3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。 | |
| 第11回 | 公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導<br>(1)計画立案のプロセスを理解する。<br>(2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。<br>(3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。<br>(4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。 | |
| 第12回 | 公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導<br>(1)計画立案のプロセスを理解する。<br>(2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。<br>(3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。<br>(4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。 | |
| 第13回 | 地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策<br>(1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。<br>(2)学校保健対策の媒体活用を理解する。<br>(3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。 | |
| 第14回 | 地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策<br>(1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。<br>(2)学校保健対策の媒体活用を理解する。<br>(3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。 | |
| 第15回 | 岡山県南部健康づくりセンターにてヘルスチェックの体験<br>(1)公衆栄養の実際を経験し，ヘルスチェックの意義を理解する。<br>(2)問診票を適切に記入し完成する。<br>(3)自らの生活を見直し，健康的な生活を実践できる。 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 実習等への意欲的な学習態度とファイルの適切な活用，毎回行う予習・復習テストにより評価する。 |
| レポート | 40 | 課題を適切に作成し，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。 |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「公衆栄養学」，「公衆衛生学」，「食品学」，「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。 |
| 授業外学修 | （１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。<br>（２）前回授業に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておくこと。<br>（３）随時出す課題について，レポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆栄養学実習　改訂 | 手島哲子，田中久子 | 同文書院 | 978-4-8103-1455-7 | 2，000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『カレント公衆栄養学』改訂　由田克士・荒井裕介　編著，建帛社<br>『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会　監修　南山堂 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 健康づくりセンターの栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 公衆栄養活動で求められる知識や技術を身に着けるために，様々な公衆栄養活動の実習により，公衆栄養マネージメントの進め方を指導する。（担当教員）<br>健康づくり能力を身に着けるために，実習指導者の下メデイカル，ヘルスチエックを行って健康づくりへの理解を深め，食に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者） |

| 科目名 | 給食経営管理論Ⅰ | | | 授業番号 | NR201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。<br>Ⅰにおいては，基礎的な学修並びに食事の計画・生産・サービスといった献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理や安全な食事を提供するための衛生管理など給食サービス提供に関する知識と技術を学ぶ。また，給食の有用性としてどのような製品をつくり，サービスするか，どのように効率的につくるかの仕組みを計画しマネジメントを行うことや安全のための労務・衛生・危機管理などトータルマネジメントを行うための知識と技術を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)管理栄養士業務の意義と重要性を認識し，特定給食施設における，利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。<br>(2)衛生管理について十分に理解できる。<br>(3)マーケティングの原理や応用を理解するとともに，給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。<br>(4)給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。<br>(5)管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 給食経営管理の理論：給食の目的と役割，給食施設の種類と関連法規，給食施設の経営理念と組織 | |
| 第2回 | 給食システム：給食経営管理におけるシステムの概要<br>情報管理：給食施設で活用されてる情報管理システム，帳票の種類と管理 | |
| 第3回 | 給食システム：オペレーションシステムと資源の活用 | |
| 第4回 | 栄養・食事管理：栄養食事管理とPDCAサイクル | |
| 第5回 | 献立管理：献立作成基準と食品構成，日本人の食事摂取基準，献立作成，作業指示書の役割，献立の評価 | |
| 第6回 | 施設・設備管理：作業動線とゾーニング，大量調理機器の種類と特徴，食器・食具 | |
| 第7回 | 材料管理：給食の食材料の特徴，購入業者の選定方法と契約方法，購入計画，食材料の保管方法 | |
| 第8回 | 衛生管理：衛生管理の意義，食中毒と感染症の特徴，食中毒発生時の対応，HACCPの概要 | |
| 第9回 | 衛生管理：大量調理施設衛生管理マニュアル | |
| 第10回 | 生産管理：大量調理の方法と技術，配膳方法，作業管理 | |
| 第11回 | 給食とマーケティング：マーケティングの定義・基本プロセス・戦略 | |
| 第12回 | 人事管理・人事管理：給食施設・部門の組織，雇用形態，能力開発 | |
| 第13回 | 原価管理：給食の原価，財務帳表 | |
| 第14回 | 原価管理：費用分析 | |
| 第15回 | 品質管理：設計品質と適合品質，総合品質と満足度，品質と標準化<br>危機管理：事故対策・自然災害対策と対応<br>外部委託：契約の種類と概要，施設別の委託状況と関連法規 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。 |
| 授業外学修 | (1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。<br>(2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。<br>(3)3年生の給食管理実習Ⅰで提供する給食を試食し，給食経営管理について理解を深めること。<br>(4)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 給食経営管理論　給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解 | 市川陽子／神田知子　編 | 医歯薬出版 | | 3，000円＋税 |
| 管理栄養士　栄養士　必携　2023年度版 | 日本栄養士会　編 | 第一出版 | | 2，600円＋税 |
| Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版 | 西川貴子　他 | 医歯薬出版 | | 2，100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「給食経営管理論　改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋孝子　編集，南江堂<br>「給食経営管理論　新しい時代のフードサービスとマネジメント　第5版」，中山玲子，小切間美保　編，化学同人<br>「給食経営管理論　給食のトータルマネジメント　第4版」，富岡和夫／冨田教代　編著，医歯薬出版株式会社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして，給食経営管理の実際について指導する。 |

| 科目名 | 給食経営管理論Ⅱ | | | 授業番号 | NR302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。<br>IIにおいては，医療施設，高齢者・介護福祉施設，児童福祉施設，障がい者福祉施設，学校，事業所等の特定給食施設ごとの利用者の特徴，給食の目的，関連法規について学修する。それによるサブシステム（献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理，衛生管理，原価管理，労務管理，危機管理等）および給食のシステム等について施設の種類ごとの特徴をとらえたマネジメントの考え方や方法を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)各種特定給食施設における給食の意義と役割，経営理念と経営形態を説明できる。<br>(2)各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる。<br>(3)利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。<br>(4)各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。<br>(5)各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴 | |
| 第2回 | 医療施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴 | |
| 第3回 | 医療施設における給食経営管理：入院時食事療養制度と入院時生活療養制度と給食費，給食と栄養教育 | |
| 第4回 | 高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴 | |
| 第5回 | 高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴 | |
| 第6回 | 高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育 | |
| 第7回 | 児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴 | |
| 第8回 | 児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴 | |
| 第9回 | 児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育 | |
| 第10回 | 学校における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴 | |
| 第11回 | 学校における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴 | |
| 第12回 | 学校における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育 | |
| 第13回 | 事業所における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴 | |
| 第14回 | 事業所における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴 | |
| 第15回 | 事業所における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 最終的な理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。 |
| 授業外学修 | (1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。<br>(2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。<br>(3)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。<br>(4)給食経営管理論Iの復習をしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 給食経営管理論　給食と給食経営管理論における関連項目の総合的理解 | 市川陽子／神田知子　編 | 医歯薬出版 | | 3，000円＋税 |
| 管理栄養士　栄養士　必携　2022年度版 | 日本栄養士会　編 | 第一出版 | | 2，600円＋税 |
| Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版 | 西川貴子　他 | 医歯薬出版 | | 2，100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「給食経営管理論　改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋孝子　編集，南江堂<br>「給食経営管理論　新しい時代のフードサービスとマネジメント　第5版」，中山玲子，小切間美保　編，化学同人<br>「給食経営管理論　給食のトータルマネジメント　第4版」，富岡和夫／冨田教代　編著，医歯薬出版株式会社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして，給食経営管理の実際について指導する。 |

| 科目名 | 給食管理基礎実習 (隔週) | | | 授業番号 | NR303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 給食経営管理論I及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，特定給食施設の利用者を対象とした食事計画，献立管理，調理作業の計画，施設・設備管理，衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)食事計画，献立，調理作業計画を作成できる。<br>(2)大量調理機器の取扱い，大量調理の方法，衛生管理の実際について理解できる。<br>(3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。<br>(4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～2回　HACCPに準じた調理室の使い方，厨房機器の使い方，食器洗浄の仕方と食器の種類や材質の把握<br>第3～4回　特定給食施設での献立作成の基本，給与栄養目標量の設定，献立作成<br>第5～6回　献立作成，栄養価計算<br>第7～8回　試作<br>第9～10回　献立の検討と決定，栄養価計算，給食日報の作成<br>第11～12回　大量調理基礎実習，給食日報の作成<br>第13～14回　大量調理基礎実習，作業工程表の作成<br>第15回　評価，改善，まとめ，実習ノートを整理し，提出する | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な実習態度によって評価する。 |
| レポート | 40 | 各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 各回の授業の前に，日程表を確認して，実習内容を把握し，自主学修をして臨むこと。また，この実習は，学生たちが主体となって進めるため，自主的に取り組む姿勢が必要である。 |
| 授業外学修 | (1)給食経営管理論Iの復習をする。特に，大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。<br>(2)食材の旬，価格，分量などを把握するために必要な情報を収集すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版 | 西川貴子　他 | 医歯薬出版 | | 2，100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏 監修，第一出版<br>「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子 編著，学建書院<br>「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之 他著，医歯薬出版株式会社<br>「給食マネジメント実習　第2班」，松月弘恵 他著，医歯薬出版株式会社<br>「八訂　食品成分表　2022」，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして，給食経営管理の実際について指導する。 |

| 科目名 | 給食管理実習Ⅰ | | | 授業番号 | NR304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ，給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，少人数のグループに分かれ，特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理，事務管理等，給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら，協力，連携，責任の重要性を理解できる。<br>(2)栄養食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理等の計画，実施，評価に関わる帳票類の作成ができ，給食業務が遂行できる。<br>(3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。<br>(4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　実習の進め方（冊子配布），衛生管理，実習全体の献立・料理について説明，実習室整備を行う。<br>第2～14回　1クラスを2グループ（4班）に分け，各グループが以下の全部の係（作業）を体験できるように編成する。<br>1）次回管理栄養士係：次回実施予定献立表を試作・検討し，実施献立を決定する。作業計画，発注業務，栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については，対象者の給与栄養目標量，食品構成，嗜好，季節，コストを考慮し，事前に作成しておく。<br>2）管理栄養士係：給食全体について責任を担う。作業手順，要点を説明し，給食を実施する。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業管理を行う。作業後，帳票類の整理，調査結果（喫食者アンケート，残食状況）を集計し，各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収，打合わせを実施する。<br>3）栄養士係：管理栄養士係と共に給食全体について責任を担う。水質検査，保存食の保存を行い，管理栄養士係と共に作業管理を行う。<br>4）調理（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い，調理，給食サービス，後片づけ（器具の洗浄・消毒，清掃），衛生検査等の作業を行う。作業後，実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。<br>第15回　発表，まとめ，実習ノートを整理し，提出する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 65 | 意欲的な実習態度によって評価する。 |
| レポート | 35 | 各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習計画に基づき，各自が分担の作業を果たしながら，協力と責任の重要性を学び，給食運営の手順，方法を体得する実習である。事前準備，事後のまとめなど，時間外に実施しなければならないこともあり，意欲的に取り組む姿勢が必要である。 |
| 授業外学修 | (1)給食経営管理論I･IIおよび給食管理基礎実習の復習をする。<br>(2)給食実施における喫食者アセスメント，給与栄養目標量の設定，献立作成，食材料管理，作業工程表の作成，大量調理，食事提供，施設設備管理，衛生管理，給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| lan-Do-Check-Actにそった給食運営･経営管理実習のてびき第5版 | 西川貴子　他 | 医歯薬出版 | | 2，100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏監修，第一出版<br>「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子編著，学建書院<br>「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之他著，医歯薬出版株式会社<br>「給食マネジメント実習　第2版」，松月弘恵他著，医歯薬出版株式会社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして，給食経営管理の実際について指導する。 |

| 科目名 | 食品流通論 | | | 授業番号 | NR305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し，食品の生産，加工，流通に関わる産業の概要，主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に，わが国の食料需給の現状，流通過程で発生する課題について理解する。さらに，食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解し，説明する力を身につける。<br>（2）わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し，説明する力を身につける。<br>（3）フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し，その課題解決方法について自ら考察，説明する能力を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか-<br>食品流通とは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 食生活の変化と食の外部化<br>食品流通をめぐる環境変化や食生活の変化について理解する。 | |
| 第3回 | 食品流通の基礎（1）<br>流通の社会的役割について理解する。 | |
| 第4回 | 食品流通の基礎（2）<br>流通の仕組みと機能について理解する。 | |
| 第5回 | 主要食品の流通システム（1）<br>米の流通システム，流通規制の変遷について理解する | |
| 第6回 | 主要食品の流通システム（2）<br>青果物の流通システムと卸売市場について理解する。 | |
| 第7回 | 主要食品の流通システム（3）<br>水産物，食肉の流通システムについて理解する。 | |
| 第8回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第9回 | 食料の安全保障と食料自給率<br>食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。 | |
| 第10回 | 食料消費の課題（1）<br>食品産業の概要と食料品アクセス問題について理解する。 | |
| 第11回 | 食料消費の課題（２）<br>食品ロスの実態について理解する。 | |
| 第12回 | 食料消費と安全（1）<br>食品表示の機能や情報管理について理解する。 | |
| 第13回 | 食料消費と安全（2）<br>食品安全行政，食品の安全性確保のための仕組みについて理解する。 | |
| 第14回 | マーケティングの基礎知識/フードマーケティング<br>マーケティングの手法と給食施設におけるマーケティングの活用について理解する。 | |
| 第15回 | 全体のまとめ<br>全体の学習内容の確認を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義では食料消費や食品流通，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。<br>（2）発展学修として，食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 農産物・食品の市場と流通 | 日本農業市場学会 | 筑波書房 | 978-4-8119-0549-5 | 2，500円+税 |
| 新版　食料・農産物流通論 | 藤島廣二ほか | 筑波書房 | 9784811904078 | 2，500円+税 |
| フードシステムの経済学 | 時子山ひろみほか | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70740-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 管理栄養士実務演習 | | | 授業番号 | NS302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、岡﨑　恵子、小野　尚美、真鍋　芳江、辻本　美由喜、北島　葉子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子、山﨑　真未、児玉　彩、鈴村　里奈、福島　彩子、齊藤　丈太郎、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 臨地実習の内容を十分に知るとともに実習効果を高めるために行う科目であり，事前学習と事後学習に分けて行う。<br>事前学習では，臨地実習先の施設の状況を十分に知るとともに，そこで実施する課題研究の検討や課題の円滑な実施に向けて事前準備について説明する。また，臨地実習先との円滑なコミュニケーションを図ることができるように心構えや態度について講義する。事後学習では，臨地実習で得た知識や技術，態度をまとめ，報告会に向けて説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・職業人として倫理を身につけ，人権，人格を尊重し行動できるよう支援する。<br>・自らが臨地実習で学ぶ課題を選定し，その目的にそった計画。実践ができるよう支援する。<br>・臨地実習施設の様々な職種の人とコミュニケーションをはかり，管理栄養士の業務の内容を理解できるよう支援する。。<br>・自らが学んだことをまとめ，発表することができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 【事前学習】<br>第1回　臨地実習の日程，目的，心構えについて<br>第2回　科目別担当教員による実習の目的と内容の説明<br>第3回　介護実習（学内）<br>第4～7回　各科目の実習施設より管理栄養士を招き，管理栄養士の業務について学習する。<br>第8回　実習先を決定し，グループごとに学習する。<br>第9回　実習課題の検討<br>第10回　事前訪問の面談練習<br>第11回　実習先を訪問し，必要な書類，物品を準備をする。<br>第12回　実習施設に応じて，献立作成<br>第14回　実習施設に応じて，栄養教育指導案の作成。<br>第15回　直前学習，必要な書類，物品を準備をする。<br>【事後学習】<br>第1～3回　実習のまとめをして，報告会の準備をする。<br>第4～5回　報告会 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 積極的な授業態度，発表，報告などにより評価する。 |
| レポート | 80 | ファイルの内容，整理について評価する。 |
| 小テスト | 10 | 常識・漢字テスト等により評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 臨地実習は管理栄養士の働く現場での学習である。この学習を効果的なものにするために授業時間外に準備したり，復習したりすることが多い。そのためにはグループ内で協調することが必要である。コミュニケーション能力と，自主性のある授業参加と受講意識を求める。 |
| 授業外学修 | 1，実習に向けて，実習施設の概要を把握し，授業で学んだことを復習おく。<br>2，実習に向けて課題を決め，実施計画を考えておく。<br>3，授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。<br>4，授業に関連した項目について記録を取り，必要に応じてレポートを作成し，提出する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨地実習のしおり | 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | あいさつ等の態度や服装等，日常の基本的作法を身に付けておくこと。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 学校，市町村，病院等の管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 学校，市町村，病院等実習施設の管理栄養士 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨地実習指導者から現場の管理栄養士業務に関する基本的知識や技術に関して修得させる。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 総合演習 | | | 授業番号 | NS401 | サブタイトル | （全科目の復習と模擬試験） | | |
| 教員 | 多田　賢代、赤木　收二、井之川　仁、小野　尚美、波多江　崇、真鍋　芳江、辻本　美由喜、大桑　浩孝、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 4年前期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・管理栄養士資格の修得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。<br>・自律的に学習の計画を立て継続する力を身につける。<br>・課題を設定して，問題点，解決法等を文書としてまとめることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～15回（全担当者交代）<br>(1)自主学習：栄養セミナーIV等のグループ単位で目標を定め，模擬試験や過去問題の解説・見直し等を行う。<br>(2)自己学習：模擬試験や過去問題の振り返り，教科書や参考書の見直し等を行う。<br>(3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。<br>(4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 管理栄養士としての必要な知識・技能の最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。 |
| 授業外学修 | 週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 管理栄養士国家試験過去問解説集 | 管理栄養士国試対策研究会 [編] 著 | 中央法規出版 | | 3000 |
| 管理栄養士国家試験　受験必修キーワード集 | 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 | 女子栄養大学出版会 | | 3200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 管理栄養士国家試験の要点 | 栄養セントラル学院編 | 中央法規出版 | | 4000 |
| 管理栄養士国家試験の傾向と対策 | 管理栄養士教育研究会 編 | 南江堂 | | 3800 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 給食管理実習Ⅱ | | | 授業番号 | NT401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子、岡﨑　恵子、安原　幹成、木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 特定給食施設（病院，福祉施設，学校，事業所）における給食の運営・管理について必要な専門的知識および献立作成，材料発注，検収作業，食数管理，大量調理，配膳作業などの基本的業務を実際の管理栄養士の指導の下，学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる。<br>(2)実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ。<br>(3)給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる。<br>(4)施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫，栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し，対象者に対する理解も深める。<br>(5)給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる。<br>(6)アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ●実習施設の選択<br>給食管理実習Ⅱを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。<br>・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院<br>・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設<br>・学　校　小・中学校又は給食センター<br>・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等<br>●実習内容<br>具体的な実習計画と内容は，実習施設ごとに異なるが，以下の項目について40時間（5日×8時間）実習する。<br>・実習施設の組織と運営の理解<br>・施設別給食の特徴と給食の目的の理解<br>・給食業務の基本的な流れを把握する<br>・献立作成について学ぶ<br>・食材料管理について学ぶ<br>・作業管理，大量調理（盛り付け，配膳を含む）について学ぶ<br>・衛生管理について学ぶ<br>・事務管理について学ぶ<br>・栄養教育媒体の検討および作成<br>・各種調査（残食・嗜好など）実施 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。 |
| レポート | 40 | 実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常の業務が行われている管理栄養士・栄養士の職場で実施される実習であるため，社会的常識に則った行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できる積極的な態度で実習に取り組むこと。実践現場での貴重な体験ができるという意識を維持し，実習に対する明確な目的を持って事前の準備を怠らないこと。 |
| 授業外学修 | (1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。<br>(2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。<br>(3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。<br>(4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。<br>以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『Plam-Do-Seeにそった給食管理実習のてびき』，西川貴子 他著，医歯薬出版<br>『給食経営管理論』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　石田裕美／冨田教代 編，医歯薬出版株式会社<br>『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部<br>『日本人の食事摂取基準』2020年版，菱田明／佐々木敏　監修，第一出版<br>『給食施設のための献立作成マニュアル　第9版』，赤羽正之 他著，医歯薬出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。 |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅲ | | | 授業番号 | NT402 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野　尚美、多田　賢代、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。<br>実習内容の1例<br>1　病院・福祉施設における管理栄養士業務の実際について把握<br>2　食材料管理，衛生管理，作業管理の実際<br>3　栄養管理の実際（栄養基準，食品構成，献立作成）<br>4　特別治療食実習<br>5　カルテの見方<br>6　栄養療法の実際<br>7　栄養評価の実際<br>8　個人栄養食事指導の実際<br>9　集団栄養食事指導の実際<br>10　まとめ，報告書作成 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 実習施設での実習態度，課題への取組や発表，報告を評価する。 |
| レポート | 40 | 実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。 |
| 授業外学修 | 1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。<br>2，日々，学習した内容をまとめておく。<br>3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。<br>以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨地実習　実習生のしおり | 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント | 本田佳子編 | 医歯薬出版 | 978-4-263-70651-0 | 2，700円+税 |
| 糖尿病食事療法のための食品交換表\|日本糖尿病学会編 | 日本糖尿病学会編 | 文光堂 | 978-4-8306-6046-7 | 900円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院等の管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。 |

| 科目名 | 給食管理実習Ⅲ | | | 授業番号 | NT403 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北島　葉子、安原　幹成、木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 特定給食施設（病院，福祉施設，事業所）における給食経営管理について必要な専門的知識および食材・人材に関する衛生管理，栄養管理，給食の安全確保，組織の管理運営，経済的視点の確保と給食経営分析の手法等の給食業務全般のマネジメントについて実際の管理栄養士の指導の下，学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ。<br>(2)実習施設の栄養・給食管理業務，運営，組織管理などの実際を理解できる。<br>(3)利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア，栄養指導（教育）を通して，施設の特徴や在り方について理解を深める。<br>(4)給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる。<br>(5)給食運営に関わる費用構成について理解し，経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる。<br>なお，本科科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ●実習施設の選択<br>給食管理実習IIIを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。<br>・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院<br>・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設<br>・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等<br>・学　校　小・中学校又は給食センター<br>●実習内容<br>具体的な実習計画と内容は実習施設ごとに異なるが，以下の項目について実習する。<br>・実習施設の組織の概要と見学<br>・施設別給食部門業務の特徴の理解<br>・給食経営管理システムの理解<br>経営管理，栄養・食事管理について<br>組織・人事管理，施設・設備管理について<br>食材料管理，生産管理について<br>衛生・安全管理，品質管理について<br>会計・原価管理について<br>・給食経営管理システムに関する研究発表及び討論<br>・テーマ別研究活動及び成果報告と討論 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。 |
| レポート | 40 | 実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自ら実習課題を設定し，課題の発見と問題解決を経験することにより，管理栄養士の業務をより深く理解することがこの実習のねらいである。事前学習の段階から，実習への関心を深め積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | (1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。<br>(2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。<br>(3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。<br>(4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。<br>以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部<br>『第11巻 給食経営管理論 給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　市川陽子／神田知子 編，医歯薬出版株式会社<br>『給食経営管理実務ガイドブック』，富岡和夫 編，同文書院 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院，介護老人保健施設における栄養士，管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。 |

| 科目名 | 臨床栄養学実習Ⅳ | | | 授業番号 | NT404 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野　尚美、多田　賢代、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。<br>実習内容の1例<br>1 チーム医療・チームケアと管理栄養士の役割について把握する。<br>2 カルテの内容を把握する。<br>3 担当患者の治療方針を理解する。<br>4 栄養ケアプランを作成する。<br>5 栄養ケアの実施状況を把握する。<br>6 栄養ケアの経過を把握する。<br>7 栄養評価の実際<br>8 個人栄養食事指導の計画，参加<br>9 集団栄養食事指導の計画，参加<br>10 まとめ，報告書作成 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 実習施設での実習態度，発表，報告を評価する。 |
| レポート | 40 | 実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。 |
| 授業外学修 | 1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。<br>2，日々，学習した内容をまとめておく。<br>3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。<br>以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 臨地実習　実習生のしおり | 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント | 本田佳子編 | 医歯薬出版 | 978-4-263-70651-0 | 2，700円+税 |
| 糖尿病食事療法のための食品交換表 | 日本糖尿病学会編 | 文光堂 | 978-4-8306-6046-7 | 900円+税 |
| 栄養士・管理栄養士を目指す人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子，森美奈子 | 化学同人 | 978-4-7598-1826-0 | 1500 |
| 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子・森美奈子 | 化学同人 | 978-4-7598-1826-0 | 1500 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院等の管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。 |

| 科目名 | 公衆栄養学実習Ⅱ | | | 授業番号 | NT405 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 辻本　美由喜、真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 保健所及び市町村の公衆栄養学分野において，それぞれが果たす役割や業務内容を知る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）公衆栄養マネージメントを理解するために，地域の健康・栄養問題に関する情報の収集・分析を行い，公衆栄養プログラムの評価・判定を行うことができる。<br>（２）プログラム実施から評価までのマネジメント能力を身につけるために，健康・栄養関連プログラムへの参加を通して，対象に応じた適切な保健サービスの提供プログラムの実践状況を把握することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1　事前学習<br>(1)実習先の健康増進計画や食育推進計画などを調べ，健康課題をアセスメントし，個人課題を決める。<br>(2)実習先を訪問して施設の概要，経路について情報収集し，ファイルにまとめる。<br>(3)公衆栄養学ⅠとⅡ，公衆栄養学実習Ⅰテキスト，国試過去問，実習生のしおりなどを学習し，クラスルームを活用したテストにより知見を整理する。<br>(4)自主的な勉強会により，十分な準備と事前学習をチーム内で強化する。<br><br>2　事前授業<br>(1)実習生のしおりにより臨地実習の臨み方について再復習<br>(2)公衆栄養学についての知見を再整理<br>(3)新聞などによる時事情報の把握<br>(4)準公務員としての接遇を学習<br>(5)実習内容と実習課題等の指示を受け準備<br>(6)試作やデモンストレーションにより，実習先の課題と個人課題の準備を完了<br><br>3　臨地実習<br>衛生行政，地域保健行政と行政栄養士の役割，保健所・市町村栄養業務および食に係わる様々なボランティア活動を理解する。<br>（１）保健所における実習概要<br>ア）保健所管内の現況と管理栄養士業務の概要<br>イ）公衆栄養に関連する法規の実際<br>ウ）地域保健における栄養体制の整備として，地域における実態把握と分析，専門的な栄養指導，食生活支援，食環境整備（食に関する情報の整備，栄養成分表示の推進等）<br>エ）特定給食施設への栄養管理指導<br>オ）市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整<br><br>（２）市町村における実習概要<br>ア）市町村行政栄養士の役割と業務の概要<br>イ）地域保健栄養体制の整備として，地方健康増進計画や地方食育推進計画並びに地域保健医療計画等への参画，栄養改善事業の計画・評価の理解<br>ウ）乳幼児健康診査や栄養相談および一般的栄養指導の見学<br>エ）住民に対する健康教育の企画・実施・評価<br>オ）地区組織の育成及び支援の見学<br><br>4　事後授業<br>（１）礼状作成と発送<br>（２）報告会の準備と発表練習<br>（３）実習先についての情報，授業，臨地実習別のファイルを提出 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 授業への基本的態度や実習態度，実習課題への取組，授業ファイル，臨地担当者評価などにより評価する。 |
| レポート | 30 | 実習姿勢や実習先課題についての記録やまとめ，レポート，臨地実習ファイルなどで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | （１）日常の業務が行われ，地域住民の方が来られている職場での実習にて，社会的な常識ある行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できるよう積極的な態度で取り組む。<br>（２）実践現場での貴重な体験ができるという意識を持ち，実習に対する明確な目的を持ち，事前の準備を十分に行う。 |
| 授業外学修 | （１）知見を整理して充実した実習を目指すために，公衆栄養学I､II及び公衆栄養学実習I，地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活改善の基本指針，臨地実習のしおり等を再学修する。<br>（２）小グループで学修を行う場合は，十分な打ち合わせと勉強会を行いながら，実習施設の概要，特徴を調べる。<br>（３）日本と実習施設等の概況や健康増進計画，食育推進計画，子育て支援計画，介護保険計画等で健康課題を調べておく。<br>（４）各自の実習課題のテーマを決め，文献や資料の準備をする。<br>（５）実習施設での実習内容を十分に把握し，実習先との連絡を行う。<br>（６）実習施設から指定された課題の準備や用具・媒体，資料等を用意する。<br>以上の内容を含め，週１時間以上学修する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆栄養学実習テキスト | 岡山県保健福祉部健康対策課 監修 | 岡山県栄養士養成施設協議会 発行 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『臨地実習　実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 編集・発行<br>『栄養・健康データハンドブック』藤沢良知 編　同文書院 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 保健所及び市町村の行政栄養士（実習指導者） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 行政栄養士活動についての課題発見や問題解決を通して，公衆栄養マネージメントの進め方を指導する。（担当教員）<br>行政栄養士業務の実際に関する指導の下，公衆栄養活動への理解を深め，健康づくりや食育に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者） |

| 科目名 | 栄養セミナーⅠ | | | 授業番号 | NU101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇、井之川　仁、小野　尚美、真鍋　芳江、大桑　浩孝、木野山　真紀、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | この授業では受講者を少人数のグループに分け，各々のグループに担当教員を置く。各グループの日程にしたがい，近隣の施設（犬養木堂記念館，福祉施設等）を訪問することで，地域の歴史を学び，高齢者とのコミュニケーションを体験する。さらに，各グループにあらかじめ設定された課題について，文献・資料を収集，精読し，グループ内討論を行いつつ結論を導き出すことで，他者に配慮しつつ討論を行うことができ，論理的に思考できる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・文献の読み方，調べ方，整理の仕方，情報の収集法と整理の仕方，まとめ方，レポート・論文の書き方，プレゼンテーションの方法などを具体的に経験しながら身につける。<br>・グループ学習のスキルを身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業内容および日程の詳細は，後期オリエンテーション期間に資料を配布して説明する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション。授業の進め方および課題設定等 | |
| 第2回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問（ボランティア活動）2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第3回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）および事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第4回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第5回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第6回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第7回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第8回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第9回 | 第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 | |
| 第10回 | 課題研究　文献精読およびグループ内討論 | |
| 第11回 | 課題研究　文献精読およびグループ内討論 | |
| 第12回 | プレゼンテーションの方法 | |
| 第13回 | 課題研究　文献精読およびグループ内討論 | |
| 第14回 | 課題研究　発表の準備 | |
| 第15回 | 課題発表会 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業への取り組みや，課題発表について評価する |
| レポート | 40 | 指示されたレポートを作成し提出し，その内容について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で，他者の意見を聞き，受け入れ，積極的に発言することが求められる。<br>積極的な姿勢で参加すること。また，学外訪問の前には事前準備，訪問後には事後学習が求められる。 |
| 授業外学修 | 1.次回授業に用いる関連資料を準備・理解しておく。<br>2.授業中において学んだことなどを，記録用紙に記入し提出する。<br>3.課題についてまとめ，プレゼンテーションを行う。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食生活論 | | | 授業番号 | NU108 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養・食に関わる専門職(管理栄養士・栄養士・栄養教諭　等)になるための専門教科を学修するに先立ち，人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち，食と環境の関わり，食文化，健康的な食生活，食育の推進について等を講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できるようになる。<br>・食育の推進を担う食の専門家として，今後の食文化の形成に関わっていることを理解できるようになる。<br>・自身の食生活に興味・関心をもち見直し，より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができるようになる。<br>・食の専門家を目指す学生として，食育の推進について理解し考えることができるようになる。<br>　なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食生活の概念<br>食生活の概念を知り，理解する。 | |
| 第2回 | 食生活と健康を考える　（１）<br>幼児期・成長期の特徴と食生活について理解する。 | |
| 第3回 | 食生活と健康を考える　（２）<br>食生活と生活習慣病について理解し，健康的な食生活とは何かを考えることができるようにする。 | |
| 第4回 | 世界の食生活史　（１）大陸文化・南蛮文化・欧米文化・多国籍の食<br>世界の食生活史について知り，理解する。 | |
| 第5回 | 世界の食生活史　（２）DVD「日本と世界の食文化」<br>日本と世界の食文化について知り，理解する。 | |
| 第6回 | 日本の食生活史　（１）　DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」<br>味覚・おいしさについて知り，理解する。 | |
| 第7回 | 日本の食生活史　（２）DVD「かつおだし」<br>和食のうま味について知り，理解する。 | |
| 第8回 | 日本の食文化<br>日本の食文化，和食について理解を深め，良さを再認識する。 | |
| 第9回 | 食生活と安全　（１）食生活データ　総合統計年報2022<br>環境と食の安全について知り，理解する。 | |
| 第10回 | 食生活と安全　（２）<br>食の現代的な諸課題を知り，理解を深め考えることができる。 | |
| 第11回 | 健全な食生活の展望　（１）<br>日本の学校給食の歴史，世界の学校給食，栄養教諭の創設と学校給食法について知り，理解する。 | |
| 第12回 | 健全な食生活の展望　（２）<br>健康日本２１，健康長寿，生活習慣，栄養等について知り，食生活を考えることができる。 | |
| 第13回 | 食育の推進（１）　DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」<br>身近な食生活について理解を深め考えることができる。 | |
| 第14回 | 食育の推進（２）家庭・地域・学校・社会における食育<br>食育基本法は，深刻化している種々の食生活の課題を解決するために制定され，食育推進基本計画が策定された。その意味について深く理解し，食の専門家として考えることができる。 | |
| 第15回 | 食育の推進（３）情報化社会における食育　まとめ<br>食の専門家である栄養士を目指す者として，これからの食育の推進について考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 30 | 提出物 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 食育・食生活論　社会・環境と健康 | 山本茂・奥田豊子・濵口郁枝　編 | 講談社サイエンティフィク | | 2400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」，「かつおだし」，「日本と世界の食文化」 DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」<br>食生活データ　総合統計年報2022<br>日本の食文化「和食」の継承と食育 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：地方自治体(学校給食，教育行政，福祉) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現代の諸課題を取り入れる。 |

| 科目名 | 食生活演習Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | NU109A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野 尚美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 食事はいろいろな食品を用いて作られ，それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について，栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や，食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また，献立を作成するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。<br>・食品成分表を用いて栄養価計算できる。<br>・献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。<br>なお，本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜技能＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 五大栄養素とその働きを知ろう（1)炭水化物，脂質，たんぱく質 | |
| 第2回 | 五大栄養素とその働きを知ろう（2)ビタミン，ミネラル | |
| 第3回 | 献立に使う食品を知ろう | |
| 第4回 | 一食分の食事を考えよう | |
| 第5回 | 食品の表示について知ろう | |
| 第6回 | 食品成分表を使ってみよう（1)食品の分類，食品成分表の項目 | |
| 第7回 | 食品成分表を使ってみよう（2)数値の見方，使い方 | |
| 第8回 | 食品成分表を使ってみよう（3)食品の成分値 | |
| 第9回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（1)計算の仕方 | |
| 第10回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（2)食品の選び方 | |
| 第11回 | 献立作成のための基礎知識（1)食品の目安量と数え方 | |
| 第12回 | 献立作成のための基礎知識（2)おいしさの基本濃度 | |
| 第13回 | 食生活の移り変わり（1)台所の変化 | |
| 第14回 | 食生活の移り変わり（2)家庭料理の変化 | |
| 第15回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（3)まとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題の内容を正しく理解し記載されているかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 食生活に関する情報に関心をもつこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれくらい食べたらよいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 1 テーマに沿った内容について自分で調べる<br>2 演習内容を振り返りノートにまとめる<br>3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子，森美奈子 | 化学同人 | 978-4-7598-1826-0 | 1，500円＋税 |
| 八訂 食品成分表2021 | 香川明夫／監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 調理のためのベーシックデータ第6版 | 松本仲子／監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-0323-5 | 1，800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 栄養価計算には電卓を使用する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食生活演習Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | NU109B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小野 尚美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 食事はいろいろな食品を用いて作られ，それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について，栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や，食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また，献立を作成するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。<br>・食品成分表を用いて栄養価計算できる。<br>・献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。<br>なお，本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜技能＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 五大栄養素とその働きを知ろう（1)炭水化物，脂質，たんぱく質 | |
| 第2回 | 五大栄養素とその働きを知ろう（2)ビタミン，ミネラル | |
| 第3回 | 献立に使う食品を知ろう | |
| 第4回 | 一食分の食事を考えよう | |
| 第5回 | 食品の表示について知ろう | |
| 第6回 | 食品成分表を使ってみよう（1)食品の分類，食品成分表の項目 | |
| 第7回 | 食品成分表を使ってみよう（2)数値の見方，使い方 | |
| 第8回 | 食品成分表を使ってみよう（3)食品の成分値 | |
| 第9回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（1)計算の仕方 | |
| 第10回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（2)食品の選び方 | |
| 第11回 | 献立作成のための基礎知識（1)食品の目安量と数え方 | |
| 第12回 | 献立作成のための基礎知識（2)おいしさの基本濃度 | |
| 第13回 | 食生活の移り変わり（1)台所の変化 | |
| 第14回 | 食生活の移り変わり（2)家庭料理の変化 | |
| 第15回 | 食品成分表を使って栄養価計算をしよう（3)まとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題の内容を正しく理解し記載されているかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 食生活に関する情報に関心をもつこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれくらい食べたらよいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 1 テーマに沿った内容について自分で調べる<br>2 演習内容を振り返りノートにまとめる<br>3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 八訂 食品成分表2021 | 香川明夫／監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1，500円＋税 |
| 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 | 坂本裕子，森美奈子 | 化学同人 | 978-4-7598-1826-0 | 1，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 調理のためのベーシックデータ第6版 | 松本仲子／監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-0323-5 | 1，800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 栄養価計算には電卓を使用する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食生活演習Ⅱ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | NU110A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子、木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 演習を中心とした授業になる。食生活演習Iで学んだ知識・理解を深め，技能をさらに向上させるとともに，基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を栄養計算，食事バランスガイドを用いて評価し，改善する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ○料理のレシピについて知識・理解を深め，作成できるようになる。<br>○日常食の献立作成の基本を学び，連続した1週間の食事設計ができるようになる。<br>○食事バランスガイドを理解し，これを用いた献立の評価ができるようになる。<br>○栄養計算に必要な知識・理解を深め，技能を身に付けることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | レシピの基礎知識，レシピの作成<br>レシピの基礎を知り，作成する。 | |
| 第2回 | レシピの基礎知識，レシピの作成<br>レシピの基礎を知り，作成する。 | |
| 第3回 | 食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価<br>食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。 | |
| 第4回 | 食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価<br>食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。 | |
| 第5回 | 献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食<br>献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。 | |
| 第6回 | 献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食<br>献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。 | |
| 第7回 | 1週間の連続した献立の作成，評価，修正<br>連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。 | |
| 第8回 | 1週間の連続した献立の作成，評価，修正<br>連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。 | |
| 第9回 | 食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正<br>食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。 | |
| 第10回 | 食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正<br>食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。 | |
| 第11回 | １日分の献立作成・栄養計算・評価・修正<br>１日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。 | |
| 第12回 | １日分の献立作成・栄養計算・評価・修正<br>１日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。 | |
| 第13回 | 発表献立の作成，レシピの作成<br>プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。 | |
| 第14回 | 発表献立の作成，レシピの作成<br>プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。 | |
| 第15回 | 作成した献立の発表，まとめ<br>作成した献立資料をプレゼンテーションして，ディスカッションする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度 |
| レポート | 80 | 課題の完成度(ワークシート，授業ファイル　等)によって評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 健康・栄養，調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。 |
| 授業外学修 | 1 食生活演習Iの内容について復習する<br>2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する<br>3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり，実際に調理をする。<br>以上の内容を週1時間以上，学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 八訂食品成分表(2023) | 香川明夫/監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・調理学実習 | 宮下朋子・村本美代編著 | 同文書院 | 978-4-8103-1457-1 | 2700円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 自宅にある料理本等も参考図書として使用します |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：学校給食，教育行政，福祉 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現代的な諸課題を取り入れる。 |

| 科目名 | 食生活演習Ⅱ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | NU110B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子、木野山　真紀 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 演習を中心とした授業になる。食生活演習Iで学んだ知識・理解を深め，技能をさらに向上させるとともに，基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を栄養計算，食事バランスガイドを用いて評価し，改善する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ○料理のレシピについて知識・理解を深め，作成できるようになる。<br>○日常食の献立作成の基本を学び，連続した1週間の食事設計ができるようになる。<br>○食事バランスガイドを理解し，これを用いた献立の評価ができるようになる。<br>○栄養計算に必要な知識・理解を深め，技能を身に付けることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | レシピの基礎知識，レシピの作成<br>レシピの基礎を知り，作成する。 | |
| 第2回 | レシピの基礎知識，レシピの作成<br>レシピの基礎を知り，作成する。 | |
| 第3回 | 食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価<br>食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。 | |
| 第4回 | 食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価<br>食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。 | |
| 第5回 | 献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食<br>献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。 | |
| 第6回 | 献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食<br>献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。 | |
| 第7回 | 1週間の連続した献立の作成，評価，修正<br>連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。 | |
| 第8回 | 1週間の連続した献立の作成，評価，修正<br>連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。 | |
| 第9回 | 食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正<br>食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。 | |
| 第10回 | 食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正<br>食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。 | |
| 第11回 | １日分の献立作成・栄養計算・評価・修正<br>１日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。 | |
| 第12回 | １日分の献立作成・栄養計算・評価・修正<br>１日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。 | |
| 第13回 | 発表献立の作成，レシピの作成<br>プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。 | |
| 第14回 | 発表献立の作成，レシピの作成<br>プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。 | |
| 第15回 | 作成した献立の発表，まとめ<br>作成した献立資料をプレゼンテーションして，ディスカッションする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度 |
| レポート | 80 | 課題の完成度(ワークシート，授業ファイル　等)によって評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 健康・栄養，調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。 |
| 授業外学修 | 1 食生活演習Iの内容について復習する<br>2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する<br>3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり，実際に調理をする。<br>以上の内容を週1時間以上，学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 八訂食品成分表(2023) | 香川明夫/監修 | 女子栄養大学出版部 | 978-4-7895-1021-9 | 1500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・調理学実習 | 宮下朋子・村本美代編著 | 同文書院 | 978-4-8103-1457-1 | 2700円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 自宅にある料理本等も参考図書として使用します |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：学校給食，教育行政，福祉 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現代的な諸課題を取り入れる。 |

| 科目名 | 食文化調査演習 | | | 授業番号 | NU115 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人の栄養に関する幅広い知識を身に付けるためには，食に関する視野の広い学習が必要である。そこで，各自が国内外を問わず，その地の食文化に関する見聞をまとめ，提出することでこの科目の履修とする。ただし，事前にテーマ，訪問地域，期間，方法等について担当教員に相談・報告すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各自が決めたテーマにそって，地域の食文化を知り，理解することができる。また，一年後期に実施する工場見学，同時に行う研修をまとめて食文化調査演習の一部とすることができる。<br>自ら主体的に選んだ課題に沿って学習を進めることができる。<br>なお，本科目はディプロマーポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 履修説明 | |
| 第2回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第3回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第4回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第5回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第6回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第7回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第8回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第9回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第10回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第11回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第12回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第13回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第14回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 第15回 | 各自が方法や期間を決定 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 100 | 最終的な到達度を計画書，レポートで評価する。レポートはコメントを記入後，返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 何を学習するか，事前に関係文献や書物を検索し，よく読んで，計画，実行すること。 |
| 授業外学修 | 週当たり4時間は学習が必要 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 計画に沿って紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 栄養セミナーⅡA | | | 授業番号 | NU202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁、波多江　崇、北島　葉子、大桑　浩孝、楠本　晃子、安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 授業は3つの課題で構成される。<br>・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。<br>・グループ単位で，自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し，調理を行い提供する。<br>・多様な職域の管理栄養士から話を聞く。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・野菜の旬，食物生産の楽しさ，生育過程を理解する。<br>・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。<br>・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。<br>なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業の概要・目的の解説，授業の進め方，菜園の紹介 | (全担当者) |
| 第2回 | 施肥作業 | (全担当者) |
| 第3回 | 夏野菜の植え付け(1) | (全担当者) |
| 第4回 | 夏野菜の植え付け(2) | (全担当者) |
| 第5回 | 料理コンテストのメニュー考案・菜園作業 | (全担当者) |
| 第6回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第7回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第8回 | 菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(1) | (全担当者) |
| 第9回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第10回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第11回 | 菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(2) | (全担当者) |
| 第12回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第13回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第14回 | 料理コンテスト | (全担当者) |
| 第15回 | 菜園の片付けおよびグループ別反省会 | (全担当者) |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 菜園作業，メニュー試作，料理コンテスト，講和への意欲的な参加態度によって評価する。 |
| レポート | 20 | 菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。<br>・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。<br>・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，夏野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，料理の考案・試作，多様な職域の調査を行う。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 栄養セミナーⅡB | | | 授業番号 | NU203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁、波多江　崇、北島　葉子、大桑　浩孝、楠本　晃子、安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | この授業は以下の課題で構成される。<br>・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。<br>・自らが育てた野菜の配布，加工を行う。<br>・多様な職域の管理栄養士にインタビューを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・野菜の旬，食物生産の楽しさ，難しさを理解する。<br>・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。<br>・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。<br>なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業の概要・目的の解説，授業の進め方について | (全担当者) |
| 第2回 | 施肥作業・冬野菜の植え付け(1) | (全担当者) |
| 第3回 | 冬野菜の植え付け(2) | (全担当者) |
| 第4回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第5回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第6回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第7回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第8回 | 菜園作業 | (全担当者) |
| 第9回 | 菜園作業・インタビューの内容説明 | (全担当者) |
| 第10回 | 菜園作業・インタビューの準備(1) | (全担当者) |
| 第11回 | 菜園作業・インタビューの準備(2) | (全担当者) |
| 第12回 | 菜園作業・インタビューの準備(3) | (全担当者) |
| 第13回 | 菜園の片付け・インタビューの内容確認 | (全担当者) |
| 第14回 | 職域別管理栄養士へのインタビュー | (全担当者) |
| 第15回 | インタビュー結果のまとめ | (全担当者) |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 菜園作業，インタビュー活動への意欲的な取り組み姿勢により評価する。 |
| レポート | 20 | 菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。<br>・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。<br>・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，冬野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，多様な職域の調査，料理の考案を行う。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食料経済 | | | 授業番号 | NU212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，まず食料消費の経済理論と食料の流れ，それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で，わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について，食料輸入と食料自給率，世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し，全体像を説明する力を身につける。<br>（2）食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。<br>（3）食料需給に関連する社会問題について，経済学を基盤とした観点から考察，説明する力を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食料経済の対象領域と課題－フードシステムとは何か？何を学ぶのか？－<br>フードシステムとは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 食料経済の理論（1）<br>食品の商品としての特徴，食品選択の理論について理解する。 | |
| 第3回 | 食料経済の理論（2）<br>食料需要の価格弾力性，所得弾力性とエンゲル係数について理解する。 | |
| 第4回 | 食生活の成熟(1)<br>食料消費の変化，高級化，高付加価値化について理解する。 | |
| 第5回 | 食生活の成熟（2）<br>食料消費の時期と特徴について理解する。 | |
| 第6回 | 食料消費パターンの変化<br>食料消費構造の変化やその誘因について理解する。 | |
| 第7回 | 食料の安全保障と自給率(1)<br>食料需給表と食料自給率について理解する。 | |
| 第8回 | 食料の安全保障と自給率（2）<br>食料自給率の変化と食料安全保障について理解する。 | |
| 第9回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第10回 | 食品工業の構造と特徴<br>食品工業の現状と特徴を理解する。 | |
| 第11回 | 食品流通業の構造と特徴（1）<br>卸売市場の機能を理解する。 | |
| 第12回 | 食品流通業の構造と特徴（2）<br>食品小売業の機能と特徴を理解する。 | |
| 第13回 | 外食・中食の供給構造と特徴<br>外食産業・中食産業の現状と特徴を理解する。 | |
| 第14回 | 世界の人口と食料<br>世界の食料問題について理解する。 | |
| 第15回 | 食生活と政府の役割<br>市場メカニズムの限界と政府の役割，外部不経済について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義では食料消費の変遷，関連産業の動向，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>（2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。<br>（3）発展学修として，食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フードシステムの経済学 第6版 | 時子山 ひろみ ， 荏開津 典生 ， 中嶋 康博 | 医歯薬出版株式会社 | | 2700 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 栄養セミナーⅢ A | | | 授業番号 | NU304 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 多田　賢代、岡﨑　恵子、小野　尚美、真鍋　芳江、辻本　美由喜、木野山　真紀、古川　愛子、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | この授業は２人の教員と数人の学生がグループを構成し，地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。<br>また，地域住民など外部と関わる際に求められる社会人としてのマナーを身につけるため，マナー講座を実施する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・課題について理解し，必要な技術が身につく。<br>・自主的な学習態度が身につく。<br>・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。<br>・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について　（全担当者）<br>第2～14回　各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講　（全担当者）<br>想定されるテーマ<br>・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動<br>・幼少児に対する食育活動<br>・JA全農おかやまとの連携事業<br>　・岡山市保健所健康づくり課との連携事業<br>　など<br>第15回　各グループの活動のまとめ　（全担当者） | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 30 | 授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。<br>授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。<br>2　復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。<br>3　発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。<br>以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 3年前期までに使用した全ての教科書 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 市町村，病院等の管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 市町村の管理栄養士 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。 |

| 科目名 | 栄養セミナーⅢ B | | | 授業番号 | NU305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、岡﨑　恵子、小野　尚美、真鍋　芳江、辻本　美由喜、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 前期に引き続き，前期に配属されたグループのメンバーにより地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。また，大学祭時には，いくつかのグループによる公開講座を開催する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・課題について理解し，必要な技術が身につく。<br>・自主的な学習態度が身につく。<br>・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。<br>・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について　（全担当者）<br>第2～14回　各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講　（全担当者）<br>想定されるテーマ<br>・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動<br>・幼少児に対する食育活動<br>・JA全農おかやまとの連携事業<br>　・岡山市保健所健康づくり課との連携事業<br>など<br>第15回　各グループの活動のまとめ　（全担当者） | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 30 | 授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。<br>授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。<br>2　復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。<br>3　発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。<br>以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 3年前期までに使用した全ての教科書 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 市町村，病院等の管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 市町村の管理栄養士 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。 |

| 科目名 | 管理栄養士演習Ⅰ | | | 授業番号 | NU316 | サブタイトル | （習得科目の振り返り） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、赤木　收二、波多江　崇、真鍋　芳江、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 2年後期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | これまでに学修した事項を復習し，理解と知識を集積する。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1　自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。<br>2　講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。<br>1，２の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 管理栄養士演習Ⅱ | | | 授業番号 | NU317 | サブタイトル | （習得科目の振り返り） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁、小野　尚美、辻本　美由喜、大桑　浩孝、木野山　真紀、古川　愛子、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 3年前期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | これまでに学修した事項を復習し，次のステップに向けさらに理解と知識を集積する。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1　自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。<br>2　講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。<br>1，2　の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説』，医療情報科学研究所 編，MEDIC MEDIA<br>『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 栄養セミナーⅣA | | | 授業番号 | NU406 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、赤木　收二、井之川　仁、小野　尚美、波多江　崇、真鍋　芳江、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 担当教員のもとで教員と共に選んだ課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び，自ら学ぶ。<br>調査・研究成果をまとめて発表する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・興味あるテーマを深く掘り下げ，仮説を検証する作業を通じて，科学研究の手法を獲得し，研究の意義を理解する。<br>・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。<br>・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～15回　各卒業研究ゼミでの活動　　（全担当者）<br>想定されるテーマ<br>・感染性胃腸炎の発生動向に関する解析<br>・食品の機能性<br>・微生物利用食品の機能性<br>・健康に影響を及ぼす生活習慣と食習慣や栄養素摂取の関連<br>・栄養・エネルギーセンサーと生体反応<br>・保健統計データの解析<br>・広汎性発達障害（自閉症）青年の自立を目指した健康料理教室の開催<br>　　・食文化の継承<br>　　・地域のおける健康推進活動<br>　　・米粉の調理性・米粉を利用した料理<br>・女子高校生における隠れ肥満と血中脂肪酸組成との関連<br>・真空調理 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 学習態度（意欲的か，行動が伴っているかなどを評価する） |
| レポート | 50 | 課題の理解度（ディスカッション，レポート等から評価する） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。<br>授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は授業外学習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 栄養セミナーⅣ B | | | 授業番号 | NU407 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、赤木　收二、井之川　仁、小野　尚美、波多江　崇、真鍋　芳江、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | この授業は次のテーマからなる<br>・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を文書・媒体にまとめて発表する。発表内容を説明し，質疑に応じる。<br>・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を最終的に文章として纏め，卒業論文を作成する。<br>・卒業後の進路に応じた学習を進め，４年間の学びの集大成を図る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力と論文作成能力を身につける。<br>・自らの将来に対応する学力，知力，技能をまとめ，社会に貢献する人材となる。<br>・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～４回　各卒業研究グループでの活動　（全担当者）<br>第５～15回　各自の進路に応じた学習　（全担当者）<br>(1)自主学習：卒業研究等のグループ単位で学習を進める。<br>(2)自己学習：卒業後の進路に応じた学習を進め，教科書の見直し等を行い，4年間の学びの集大成を行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 卒業研究への取り組み態度で評価する |
| レポート | 50 | 卒業研究の提出論文で評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 大学生活の集大成であることを自覚し，目的達成のために万全の体制で臨むことが求められる。<br>中長期の計画を立て，それに従い学習・行動することが必要となる。<br>グループ学習以外での自己学習により，学力・知力・技能は効率的に集積される。自主学習を強く推奨する。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 運動指導論 | | | 授業番号 | NU411 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 運動の重要性は，生活習慣病対策のみならず，認知症対策においても見直されている。そして，2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え，スポーツや運動への関心は非常に高まっている。そうした中，健康を増進するための栄養と運動，介護予防と運動，そして，スポーツ栄養などについての指導は，かつてないほど重要になっている。<br>本講義は，管理栄養士としても運動指導を適切に担える力を培うために，スポーツ栄養学と健康運動実践指導の視点から学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康づくりの指導の一環として，現場で簡単な運動指導ができる力をつけるために，ライフステージ別健康づくりと運動指導について学び，安全で簡単な運動指導法を習得することができる。<br>本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 健康づくりと運動（健康日本21〈第二次〉，ヘルスプロモーション） | |
| 第2回 | スポーツと栄養（スポーツ栄養の基本） | |
| 第3回 | 子どもの運動と栄養（食育，ジュニアスポーツ選手の食事） | |
| 第4回 | 競技力向上と栄養管理　（スポーツ選手の食事，水分摂取） | |
| 第5回 | 女性の健康管理と運動（貧血予防，腰痛と肩痛予防の運動） | |
| 第6回 | 生活習慣病と運動（メタボリックシンドローム，特定保健指導） | |
| 第7回 | 高齢者の運動（介護予防運動） | |
| 第8回 | 運動基準とエクササイズ（体力と運動強度，心拍数，運動プログラム） | |
| 第9回 | 体操の目的と方法（ラジオ体操，ご当地体操，認知症予防体操） | |
| 第10回 | 効果的なウォーキング方法（ノルディックウォーキング，有酸素運動） | |
| 第11回 | ストレッチングの基礎と実際（地域での運動の取組） | |
| 第12回 | 日常生活の中での筋力トレーニング，ウォーミングアップとクーリングダウン（貯筋運動） | |
| 第13回 | スポーツと外食，市販食品（賢い選び方，食べ方） | |
| 第14回 | 健康管理と運動指導（運動障害と予防，応急措置） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。 |
| レポート | 10 | 課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後，返却する。 |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 具体的な運動手法を習得するために，実践を学ぶという意識を持って受講すること。 |
| 授業外学修 | （１）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回学習までに読む。<br>（２）前回授業内容に関するテストも行うので，１時間以上復習する。<br>（３）随時に出す課題について取り組む。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 戦う身体をつくるアスリートの食事と栄養 | 田口素子 | ナツメ社 | 978-4-8163-4323-0 | 1，300円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「健康運動実践指導者用テキスト」公益財団法人 健康・体力づくり事業財団事業団発行<br>「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平・樋口満　編著者　第一出版 |
| その他 | 授業内容に応じて，教室を変更する場合がある。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 専門英語 | | | 授業番号 | NU413 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 管理栄養士は，食・栄養に関わる最新の知見をふまえた職務遂行が求められるが，大半の最新情報は，現状では英語を用いて発信されている。さらに，実臨床の現場でもそのコミュニケーションを行うために，英語表記の専門用語が用いられる機会が多い。本授業では，栄養学に関する成書・論文を輪読，講読することにより，英文の正確な読解力を養い，同時に，専門用語，医学的表現法および引用論文の活用などについて理解を深めることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食・栄養に関連する最新の情報・知見を修得・理解し，自己研鑽に継続利用できる能力を養うとともに，常に新しい課題を探求する能力・習慣を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　オリエンテーション　資料配布<br>第2 ～14回　資料について担当学生による説明，発表を行い，その内容について全員で議論する。<br>第15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | 担当した論文の内容について課題を課し，レポートの内容を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 必ず，辞書を授業に持参すること(高校で用いていたレベルでかまわない)。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の予習復習に充てること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は指定しないが，辞書を授業に持参すること(高校で用いていたレベルでかまわない)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| Modern Nutrition in Health and Disease, 11th ed. | C Ross， B Caballero， RJ Cousine， et al. eds. | JONES & BARTLETT LEARNING | 978-1-6054-7461-8 | 33，060円(税込) |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 購入の必要なし。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 管理栄養士の実務に即した内容に重点を置く。 |

| 科目名 | フードコーディネート論 | | | 授業番号 | NU414 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山崎　真未 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | フードコーディネーターとは，『新しい食の「ブランド」「トレンド」を作る，食の「開発」「出演」「運営」のクリエイターと定義されている。<br>そこで本講義では，料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネートについて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義では，レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング，ビジネス展開の計画まで，さらに，料理を盛り付ける食器や，テーブルクロス，照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | フードコーディネートとは | |
| 第2回 | 文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～日本料理～ | |
| 第3回 | 文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～歴と旬～ | |
| 第4回 | 文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～外国の食事～ | |
| 第5回 | 文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～食品・食材の知識～ | |
| 第6回 | 科学（健康と栄養と安全）～厨房の基礎知識～ | |
| 第7回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間のあり方と内装デザイン～ | |
| 第8回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～照明計画～ | |
| 第9回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（洋食）～ | |
| 第10回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（和食）～ | |
| 第11回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（中国料理）～ | |
| 第12回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～カラーコーディネート～ | |
| 第13回 | デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～テーブルマナーとサービス～ | |
| 第14回 | 経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～フードマネジメント～ | |
| 第15回 | 経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～食の企画・構成・演出の流れ～ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 出席率，授業態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 90 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また，食に関する新聞記事等に関心をもち，読むなど積極的に学修すること。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>(2)復習として，小テストの見直しをする。<br>(3)発展学修として，食に関する新聞記事等を読み，まとめる。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・フードコーディネーター教本 | 特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会 | 柴田書店 | | 3000 |
| 新・フードコーディネーター教本 | 特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会 | 柴田書店 | | 3000 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 管理栄養士専門演習 | | | 授業番号 | NU418 | サブタイトル | （全科目の復習と模擬試験） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代、赤木　收二、井之川　仁、小野　尚美、波多江　崇、真鍋　芳江、辻本　美由喜、大桑　浩孝、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | ３年後期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・管理栄養士資格の取得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。<br>・専門職として，生涯を通して自律的に学習を継続する力を身につける。<br>・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1～15回（全担当者交代）<br>(1)自主学習：栄養セミナーⅣ等のグループ単位で目標を定め，模擬試験の解説・見直し等を行う。<br>(2)自己学習：模擬試験の振り返り，教科書の見直し等を行う。<br>(3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。<br>(4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『管理栄養士国家試験問題集』，日本給食管理専門学院 編，中央法規<br>『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説』，医療情報科学研究所 編，MEDIC MEDIA<br>『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『管理栄養士国家試験の要点』，栄養セントラル学院 編，中央法規<br>『国試の麗人』，RDC管理栄養士センター 監修，RDC管理栄養士センター札幌校<br>『管理栄養士国家試験の傾向と対策』，管理栄養士教育研究会 編，南江堂 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 教職概論 | | | 授業番号 | NV101 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教職概論では，教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに，教職に関する基礎的な知識）を学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について，制度的，実体的側面から理解するとともに，必要な法令遵守，社会規範や教職・教育に対する使命，モラル，マナー等を自覚し，実践する態度を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの生活と学校 | |
| 第2回 | 学習指導 | |
| 第3回 | 生徒指導・進路指導 | |
| 第4回 | 教育相談 | |
| 第5回 | 学級経営 | |
| 第6回 | 教師に何を求めてきたか，いま何が求められているか | |
| 第7回 | 児童生徒と教師ー学ぶことと教えること | |
| 第8回 | 教員養成の制度 | |
| 第9回 | 教職課程の仕組みと内容 | |
| 第10回 | 教員の採用 | |
| 第11回 | 教員の研修 | |
| 第12回 | 教員の地位と身分 | |
| 第13回 | 教員の待遇と勤務条件 | |
| 第14回 | 学校制度 | |
| 第15回 | 学校管理・運営体制 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから，受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点をあらかじめ調べたりしておく。<br>2．復習として，課題のレポートやノート整理をする。<br>3．発展的学習として，教育に関するニュース収集をし，自分の見解を述べられるようにする。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教職入門　教師への道 | 藤本典裕 | 図書文化 | 978-4-8100-9720-7 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭･校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 教職に関する基礎的な事柄について，教員や学校長，県教育教育委員会専門的教育職員としての実践をもとに，より具体的な講義を行う。 |

| 科目名 | 教育原理 | | | 授業番号 | NV102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義形式で，現代社会における教育課題を踏まえ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。<br>そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。<br>また，教育の基本的な事項について学修していく。特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育の基本的な事項について学び，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。<br>教育の目的や教育の歴史，教職という仕事，日本の教育問題等について問題を見出し，解決方法を探究し，次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの発達と教育の目的 | |
| 第2回 | 教育とは何か | |
| 第3回 | 教育の歴史(1)　学校の歴史 | |
| 第4回 | 教育の歴史(2)　海外の教育 | |
| 第5回 | 教育の歴史(3)　海外の教育史(近代の教育思想) | |
| 第6回 | 教育の歴史(4)　海外の教育史(近代教育学の成立) | |
| 第7回 | 教育の歴史(5)　日本の教育史 | |
| 第8回 | 「教える」という仕事(1)　教育課程と授業の計画 | |
| 第9回 | 「教える」という仕事(2)　教育課程と授業実践 | |
| 第10回 | 「教える」という仕事(3)　教育評価 | |
| 第11回 | 「教える」という仕事(4)　学校・学級経営 | |
| 第12回 | 学び続ける教員となるために | |
| 第13回 | 社会教育と生涯学習 | |
| 第14回 | 地域社会と学校 | |
| 第15回 | 現代日本の教育問題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して，意欲的に取り組めているか，自分の考えがまとめられているか等で評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから，受講にに際しては，教育公務員を志願するにふさわしい，言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。<br>テキストを事前に読み，疑問点をあらかじめ調べたりすること。また，学修したことをノートに整理したりすること。 |
| 授業外学修 | 週当たり4時間以上，テキストを読むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教育原理 | 島田和幸・高宮正貴 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08176-9 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『教育六法』（どの出版社のものでも良い） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校や教育行政，小学校長としての経験をもとに，教育の歴史や制度等の基本的な事項について，具体例をもとに，できるだけわかりやすい講座としたい。 |

| 科目名 | 教育心理学 | | | 授業番号 | NV103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。<br>この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育心理学とは | |
| 第2回 | 乳幼児期の発達 | |
| 第3回 | 児童期・青年期の発達 | |
| 第4回 | 学習と知識獲得 | |
| 第5回 | 認知的情報処理 | |
| 第6回 | 動機づけと学習 | |
| 第7回 | 認知発達と学習支援 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 学級集団と学習支援 | |
| 第10回 | 個人差と学習支援 | |
| 第11回 | 教育評価 | |
| 第12回 | 障害児の理解と配慮 | |
| 第13回 | 障害児への支援 | |
| 第14回 | 教育を取り巻く諸問題 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！教職エクササイズ2　教育心理学 | 田爪宏二（編著） | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08177-6 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育課程総論 | | | 授業番号 | NV204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに，教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び，求められる教育課程について理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。<br>・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し，解決方法を探究し，解決につなげることができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育課程の意義と定義，教育課程の法的根拠 | |
| 第2回 | 学習指導要領　前文 | |
| 第3回 | 学習指導要領の変遷1 | |
| 第4回 | 学習指導要領の変遷2 | |
| 第5回 | 学習指導要領の総則1 | |
| 第6回 | カリキュラム・マネジメントの意義と定義 | |
| 第7回 | 学習指導要領の総則2 | |
| 第8回 | 学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント<br>カリキュラム・マネジメントの各プロセス | |
| 第9回 | 学習指導要領の総則3 | |
| 第10回 | カリキュラム・マネジメントの評価，活性化の方策 | |
| 第11回 | 学習指導要領の解説総則編1 | |
| 第12回 | アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯<br>アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動 | |
| 第13回 | 学習指導要領の解説総則編2 | |
| 第14回 | 「社会に開かれた教育課程」の理念とその背景<br>「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント | |
| 第15回 | 社会に開かれた教育課程・食育実践について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して，意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために，教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。<br>教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。<br>配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートやノートを整理する。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校指導要領 | 文部科学省 | 東洋出版 | 978-4-491-03460-7 | 201 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校指導要領解説　総則編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 978-4-491-03461-4 | 155 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小中校教員　岡山県教育委員会専門的教育職員　小学校教頭・校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて，教員や学校長，専門的教育職員としての実践をもとにした講義を行うこなう |

| 科目名 | 教育方法学 | | | 授業番号 | NV205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。<br>・教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。<br>・情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育の方法(1)　教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織 | 住野 |
| 第2回 | 教育の方法(2)　学習指導要領が求める教育の方法 | 住野 |
| 第3回 | 教育の方法(3)　授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 | 住野 |
| 第4回 | 教育の方法(4)　授業づくりの方法(2)教材開発 | 住野 |
| 第5回 | 教育の方法(5)　授業づくりの方法(3)教授行為 | 住野 |
| 第6回 | 情報機器及び教材の活用(1)　情報機器を活用した授業づくり | 住野 |
| 第7回 | 情報機器及び教材の活用(2)　情報機器を活用した授業の実際 | 住野 |
| 第8回 | 教育の方法（6）すぐれた実践事例の分析（１） | 住野 |
| 第9回 | 教育の方法（7）すぐれた実践事例の分析（２） | 住野 |
| 第10回 | 教育の技術(1)　模擬授業(1)　教材研究 | 住野 |
| 第11回 | 教育の技術(2)　模擬授業(2)　指導案の作成 | 住野 |
| 第12回 | 教育の技術(3)　模擬授業(3)　実践検討（１） | 住野 |
| 第13回 | 教育の技術(4)　模擬授業(4)　実践検討（２） | 住野 |
| 第14回 | 教育の技術(5)　模擬授業(5)　改善案の作成 | 住野 |
| 第15回 | まとめ | 住野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 本科目で学習したことを理解し，論理的に叙述すること |
| 小テスト | 40 | 各回の授業に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業の中でプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，授業の中で紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生徒指導の理論と方法 全8回 | | | 授業番号 | NV206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義し，演習を通して理解を深め問題解決能力を高める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への対応について理解することができる。また，個別の課題に対する問題解決能力を高める。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回：生徒指導の基礎（１）<br>生徒指導の意義や目的等について理解を深める。<br><br>第２回：生徒指導の基礎（２）<br>集団指導と個別指導，カウンセリング等について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。<br><br>第３回：生徒指導と教育課程<br>教育課程上の生徒指導の位置づけや各教科等との関連について理解する。<br><br>第４回：チーム学校による生徒指導体制<br>生徒指導体制や法制度等について理解する。<br><br>第５回：個別の課題に対する生徒指導（１）<br>いじめ，暴力行為，少年非行について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。<br><br>第６回：個別の課題に対する生徒指導（２）<br>児童虐待，自殺，中途退学，不登校について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。<br><br>第７回：個別の課題に対する生徒指導（３）<br>インターネットに関わる問題，性に関する課題，多様な背景を持つ児童生徒への対応について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。<br><br>第８回：生徒指導上の問題への対応<br>想定した生徒指導上の問題への対応を検討し，問題解決能力を高める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | 55 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>3　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生徒指導提要 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 9784491051758 | 990円（税込み） |
| 使用テキスト：自由記載 | 同名の書籍が存在するが，令和4年12月に改訂された最新のものを準備すること。<br>文部科学省のホームページでは，テキストと同じ内容のＰＤＦデータが無料で入手可能である。ＰＤＦの印刷，或いはタブレット端末やＰＣ持ち込みによるデータの閲覧も可とする。<br>※書籍は，4月の時点では販売されていない可能性がある。発売されていない場合には，文部科学省のホームページからＰＤＦデータを取得し，準備すること。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | 令和５年度改訂 | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 生徒指導に関する理解を深めることができるように，学校現場における事例を紹介する。 | | | |

| 科目名 | 教育相談 | | | 授業番号 | NV207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育相談とは | |
| 第2回 | カウンセリングの理論 | |
| 第3回 | カウンセリングの技法 | |
| 第4回 | いじめ・不登校への対応 | |
| 第5回 | 学級崩壊・学級経営の問題への対応 | |
| 第6回 | 虐待・いのちの教育への対応 | |
| 第7回 | 非行・学校不適応への対応 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 発達障害への対応 | |
| 第10回 | 心の病への対応 | |
| 第11回 | 校内・他機関との連携 | |
| 第12回 | アセスメント：観察・面接 | |
| 第13回 | アセスメント：心理検査 | |
| 第14回 | 過程の理解と保護者への支援 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！教職エクササイズ3　教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子(編著) | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08178-3 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 特別支援教育概論 | | | 授業番号 | NV208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、池谷　航介 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習していく。<br>特に，特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解，教育課程，支援の方法を学ぶ中で，学校と関係機関との連携のあり方について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では，幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性<br>特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。 | 池谷航介 |
| 第2回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達<br>特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。 | 池谷航介 |
| 第3回 | 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み<br>障害者総合支援法，発達障害者総合支援法の内容を理解する。 | 池谷航介 |
| 第4回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ<br>授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。 | 池谷航介 |
| 第5回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程<br>特別支援教育における教育課程について理解する。 | 池谷航介 |
| 第6回 | 発達障害をはじめとする障害のある子どもへの配慮<br>合理的配慮について理解する。 | 中　典子 |
| 第7回 | 「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ<br>特別支援教育における指導技術について理解する。 | 池谷航介 |
| 第8回 | 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法<br>「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。 | 池谷航介 |
| 第9回 | 学校と家庭との連携のあり方<br>個別の教育支援計画を作り，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 | 中　典子 |
| 第10回 | 学校と地域の関係機関との連携のあり方<br>学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。 | 中　典子 |
| 第11回 | 多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ<br>多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 | 中　典子 |
| 第12回 | 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方<br>多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。 | 中　典子 |
| 第13回 | 貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ<br>子どもの貧困について理解する。 | 中　典子 |
| 第14回 | 貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方<br>学習環境を整えるための支援について理解する。 | 中　典子 |
| 第15回 | 多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援<br>幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。 | 中　典子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 50 | 課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 毎回提示する課題に対し具体的に述べていること。課題に対してはコメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容の理解を深めるため，授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がいを有する児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介) |

| 科目名 | 総合的な学習の時間及び特別活動の指導法 | | | 授業番号 | NV209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校・中学校の教育課程の編成について概観し，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標，内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに，小学校・中学校校における学習活動としての道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め，各内容の実践的課題を整理する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。＜知識・理解＞<br>小学校・中学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 道徳教育の意義と目標・内容 | |
| 第2回 | 道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 | |
| 第3回 | 道徳性の発達 | |
| 第4回 | 総合的な学習の時間の意義と目標・内容 | |
| 第5回 | 総合的な学習の時間の指導計画 | |
| 第6回 | 総合的な学習の時間の学習指導案 | |
| 第7回 | 総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 | |
| 第8回 | 総合的な学習の時間の指導の手立て | |
| 第9回 | 総合的な学習の時間の評価 | |
| 第10回 | 特別活動の意義と目標 | |
| 第11回 | 特別活動と各教科等との関連 | |
| 第12回 | 特別活動の内容 | |
| 第13回 | 特別活動の指導と評価 | |
| 第14回 | 特別活動の学習指導案 | |
| 第15回 | 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題について，要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な知識や理解の度合いを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　道徳編 | 文部科学省 | | | |
| 小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | | | |
| 小学校学習指導要領解説　特別活動編 | 文部科学省 | | | |
| 中学校学習指導要領解説　特別活動編 | 文部科学省 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『新しい特別活動指導論』，高旗正人・倉田侃司　編著，ミネルヴァ書房，2004年 |
| その他 | 毎回，授業ノートを提出するので，ルーズリーフのノートを用意すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 学校栄養教育実習研究 | | | 授業番号 | NV410 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子、森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに，教材研究・模擬授業などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討，準備を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。<br>・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成，授業の進め方等の技能を身に付け，準備することができるようになる。<br>・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え，相互評価ができるようになる。<br>・学校栄養教育実習に向けて，ふさわしい態度を養うことができるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　学校栄養教育実習の意義<br>　〇プロとしての栄養教諭について，より理解を深める。<br>第2回　学校栄養教育実習の事前指導<br>　〇教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡<br>　〇教育実習に向けて，前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。<br>第3回～4回　個別的な相談指導，クラス経営，学校経営<br>　〇個人差への配慮・食物アレルギー，偏食，肥満・痩身傾向　等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質<br>　〇栄養教諭として，子ども理解をするための基本的なことを再確認する。<br>第5～9回　学校栄養教育実習の実際<br>　〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション<br>第10～15回　実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り<br>　〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | 授業形態は演習がメインになるが，教育実習に向けて講義もある。 | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 栄養教諭の職務についての理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 指導案，課題等の提出物の内容を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち，それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。<br>・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。<br>・教材研究においては，専門的な様々な知識を活かして臨むこと。<br>・学校教育の様々な課題に関心をもち，栄養教諭の社会的使命について考えること。 |
| 授業外学修 | ・教育に関する時事問題に関心をもち，新聞やニュース等を把握しておくこと。<br>・小中学校の教育現場を想定して，授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 「学校栄養教育実習書」，<br>学校栄養教育指導法I，IIで使用したテキスト |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 担当教員が提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ○管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉　　○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 教育実習指導者（小学校・中学校・給食センター等　教職員） |
| 実務経験をいかした教育内容 | ○食に関する指導について，現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。（担当教員） |

| 科目名 | 学校栄養教育実習 | | | 授業番号 | NV411 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 学校栄養教育実習は，大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して，栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導，教育内容，指導方法を体験・研究する。教育実習中は，実習校の指導のもと食に関する指導について，特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に，実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則，実習校は出身校とし，１週間（５授業日）以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は，報告会を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・教育現場の実際を知り，教育活動全般について理解を深めることができるようになる。<br>・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。<br>・子ども理解を深めることができるようになる。<br>・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。<br>・自他の授業を検討し，食に関する指導に生かすことができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1　校長，教頭，教務主任による実習受入校での指導(学校経営，校務分掌の理解，服務)<br>2　給食主任，学級担任，栄養教諭（学校栄養職員）による実習受入校での指導<br>3　養護教諭による実習受け入れ校での指導<br>4　校内における連携，調整（校内研修会，職員会議等）の参観，補助<br>5　配属学級での授業観察を通して，(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める，(2)指導案・授業での実際，(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。<br>6　児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習<br>（１）学級活動及び給食時間における指導の参観，補助<br>（２）食に関する指導の実践（学級活動・給食時間など）<br>（３）児童生徒集会，委員会活動等における指導の参観，補助<br>7　家庭・地域社会との連携・調整の実際<br>8　学校栄養教育実習後に報告会，ディスカッション | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 学校栄養教育実習書　他 |
| レポート | 70 | 教育実習校での評価 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　教育実習生は，教育者としての責任の重大さを自覚し，使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。<br>2　意欲的，積極的な実習に取り組む。<br>　教育実習は，いわば教育上のインターンシップともいうべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。<br>3　研究的な実習に徹し，事前・事後学習に励む。<br>4　健康と安全に留意し，実りの多い実習となるように努力する。<br>5　本実習を受ける前には，必ず事前に実習受入校を訪問し，指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。<br>6　教育実習生としての当然のエチケットとして，実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。 |
| 授業外学修 | ・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。<br>・実習校の指導に従って，教材研究等を行うこと。<br>・指導案の作成や教材研究にあたっては，年間の授業計画も視野に入れ，他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。<br>・実習校がある県市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。<br>　以上の内容を，週当たり５時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学校栄養教育実習書，学校栄養教育指導法Ⅰで使用したテキスト，必要に応じて資料等を用意する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 特になし |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：公立小学校・中学校，給食センター，教育行政， |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ○食に関する指導について，現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。（担当教員）<br>○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため，教育実習指導者の指導の下，学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。（教育実習指導者） |

| 科目名 | 教職実践演習（栄養教諭） | | | 授業番号 | NV412 | サブタイトル | （栄養教諭） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養教諭として求められる資質・能力（使命感や責任感・教育的愛情，社会性や対人関係能力，児童生徒理解，食に関する指導力）が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し，課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また，栄養教諭の専門性に関することを再確認する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し，教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。<br>・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ，社会人としての優れた識見や対人能力が培われ，豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができるようになる。<br>・栄養教諭の専門性に関すること（給食管理・食に関する指導等）について考え，理解を深めることができるようになる。<br>・学習指導の基本的事項(知識・技能など)，板書，話し方，表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。<br>　なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 演習を中心とするが，講義もある。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教職実践演習の目的<br>「教職実践演習」の目的を知り，栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。 | |
| 第2回 | 学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション<br>学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。 | |
| 第3回 | 学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション<br>学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。 | |
| 第4回 | 栄養教諭に求められる資質能力　ディスカッション<br>グループ討論等で栄養教諭に必要な必要最小限の資質・能力に関する課題について話し合うことで，自己の課題の解決方法等を明らかにする。 | |
| 第5回 | 学校における食育の推進について<br>学校における食育の推進のためには，具体的になにが必要なのか考える。 | |
| 第6回 | 「学校栄養教育の現状とこれから」（特別講師）<br>外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から，より具体的に自己の課題を考える。 | |
| 第7回 | 指導案・ワークシート・細案の作成<br>栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。 | |
| 第8回 | 指導案・ワークシート・細案の作成<br>栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。 | |
| 第9回 | 模擬授業　ディスカッション<br>作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。 | |
| 第10回 | 模擬授業　ディスカッション<br>作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。 | |
| 第11回 | 指導料等の作成（授業，掲示物，家庭や地域への配布　など）<br>家庭や地域への配付物（給食だより）・掲示物等を作成することで，具体的に連携の意義を再確認する。 | |
| 第12回 | 学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方　ディスカッション<br>栄養教諭は，専門性を活かして学校内外を通じ，食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。 | |
| 第13回 | 社会性や対人関係能力について　ディスカッション<br>食に関する指導の全体計画，食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。 | |
| 第14回 | 栄養教諭の専門性，学校給食における危機管理<br>学校給食実施基準を理解し，児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。<br>学校給食衛生管理基準の内容を理解し，衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。 | |
| 第15回 | 総合的まとめ<br>大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務，資質・能力について再確認する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 教育実習から見えてきた課題と解決策について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 学習指導案，模擬授業，提出物　他 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い，各自が将来に栄養教諭となるべく，お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分に行い取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて，実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。<br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校栄養教育の現状と栄養教諭として果たすべき職務について理解を深め，栄養教諭としての資質能力を一層高めさせる。 |

| 科目名 | 学校栄養教育指導法Ⅰ | | | 授業番号 | NW301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で，法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し，模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し，　栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。<br>・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し，考えることができるようにする。<br>・学校給食を教材とし，給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。<br>・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。<br>　なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業形態は講義，演習になる | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養教諭の制度と役割<br>学校栄養職員の歴史，栄養教諭創設の経緯，栄養教諭の職務内容を正しく理解し，果たすべき役割をとらえる。 | |
| 第2回 | 学校組織と栄養教諭<br>学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し，学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。 | |
| 第3回 | 学校給食と日本人の食生活<br>学校給食は地場産物を活用し，郷土料理や行事食を提供するなど，地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また，学校給食の歴史を理解する。 | |
| 第4回 | 子どもの発達と食生活<br>児童生徒の体位，体力，健康状態，栄養摂取状況，食生活の実態を把握し，成人期までの成長を見通した食育を実施できるように，学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。 | |
| 第5回 | 学習指導要領の意義と食育の在り方<br>学校において食育を推進するにあたっては，学修指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で，教育課程に位置付け，組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。 | |
| 第6回 | 食に関する指導の全体計画<br>食に関する指導の全体計画の必要性や考え方，そして，計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。 | |
| 第7回 | 食に関する指導の展開<br>食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか，教科や特別活動などと関連付けた指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。 | |
| 第8回 | 食に関する指導と小学生用食育教材<br>文部科学省「食育教材」を教材に，発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し，食に関する指導について理解する。 | |
| 第9回 | 給食の時間における食に関する指導<br>学校給食を教材として，給食の時間のおける食に関する指導の特徴や進め方，指導の留意点について理解する。 | |
| 第10回 | 給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践<br>給食の時間の「食に関する指導」の指導案，板書計画，細案の作成を行う。 | |
| 第11回 | 給食の時間における食に関する指導の実践，ディスカッション<br>アクティブラーニングを取り入れ，給食時間の「食に関する指導」を実践する。 | |
| 第12回 | 教科等における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」，生活科，総合的な学習の時間，体育科・保健体育科，道徳，特別活動，総合的な学習時間）<br>食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り，理解を深める。 | |
| 第13回 | 個別栄養相談指導の意義と方法<br>肥満，痩せ，食物アレルギー，生活習慣の予防，さらに食品や料理の選択，食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。 | |
| 第14回 | 家庭・地域との連携，給食だよりの作成・説明<br>学校と家庭・地域社会との連携を図ることは，児童生徒が地域の良さを理解するとともに，食事の重油性やsh九時を大切にする心を育てる上で効果があることを理解する。 | |
| 第15回 | 学校給食の管理・運営，まとめ，ディスカッション<br>学校給食の管理・運営，特に衛生管理についてより理解を深める。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 10 | 給食時の指導案，給食だより等，提出物 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 各回が独立して，15回で１つの流れとなってつながる授業であることから，毎回しっかり学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。 |
| 授業外学修 | ・授業予定一覧に沿って，使用テキストを利用した予習・復習をすること。<br>・指導案や資料等の作成，教材の準備をすること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 四訂　栄養教諭論－理論と実際－ | 金田雅代　編著 | 建帛社 | 978-4-7679-2116-7 | 2，800＋税 |
| 食に関する指導の手引　第二次改訂版 | 文部科学省 | 健学社 | 978-4-7797-0496-3 | 1，300＋税 |
| 小学校学習指導要領解説　家庭編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 978-4-491-03466-9 | 95+税 |
| 小学校教科書「私たちの家庭科５・６」 | | 開隆堂 | | |
| 学校給食調理従事者研修マニュアル | 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課 | 株式会社　学建書院 | 978-4-7624-0884-7 | 1，800+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「食育教材」文部科学省 |
| その他 | 適宜紹介する。 |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 栄養教諭に必要な現代的課題等への対応等について，実践的な指導をする。 |

| 科目名 | 学校栄養教育指導法Ⅱ | | | 授業番号 | NW302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　恵子、森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について，実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成，模擬授業，ロールプレイング，アクティブラーニングを取り入れ，実践的指導力のスキルの育成を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。<br>・食に関する指導の指導案の立案，模擬授業等を行うことができるようにする。<br>・栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　　学校栄養教育指導法Iを踏まえて（食に関する指導，給食管理）<br>〇特別活動，給食時間，学級活動における食に関する指導について，発達段階に合わせた題材を知り，自ら考え理解を深める。<br>第２回　　学校給食の衛生管理基準<br>〇食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準，食物アレルギー，危機管理)について，具体的な例を知ることで，より一層理解を深める。<br>第３回～４回　実践演習（１）　1単位時間の学習指導案の作成の基本<br>〇学級活動　１単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り，理解を深め作成する。<br>第５回　　教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭<br>〇現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師)<br>第６～８回　　実践演習（２）　食に関する指導の学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討<br>〇学級活動での食に関する指導案等(指導案，板書計画，ワークシート，事前事後の調査)を作成し，模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。<br>第９～14回　　実践演習（３）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討<br>〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。<br>第15回　　学校栄養教育実習の説明，全体のまとめ<br>〇学校栄養教育実習に向けて，事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 演習内容，課題への取組を評価する。意欲的な受講態度，ディスカッションへの参加状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 食に関する指導についての理解度を評価する。 |
| 小テスト | 20 | 栄養教諭の職務についての理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループでの活動が多いので，この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際，各自で事前・事後学習に励むこと。 |
| 授業外学修 | ・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して，予習・復習をすること。<br>・教材研究をしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。<br>・小中学校の公開時を捉え，授業を参観する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 担当教員が提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ○管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉　　○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 教育現場での職務の実際及び「食に関する指導」の授業実践から，栄養教諭に必要とされる技能を修得させる。 |

**中国学園大学　子ども学部　子ども学科　シラバス**


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | ページ数 |
|---|---|---|
| 日本語表現 | 小川　孝司 | 1 |
| 芸術 | 牛島　光太郎 | 3 |
| 心理学 | 國田　祥子 | 5 |
| 倫理学 | 小谷　彰吾 | 7 |
| 歴史学 | 大山　章 | 9 |
| 社会学 | 中田　周作 | 11 |
| 日本国憲法 | 俵野　英二 | 13 |
| 数学概論 | 姫野　俊幸 | 15 |
| 現代環境論 | 岸　誠一 | 17 |
| 自然科学概論 | 岸　誠一 | 19 |
| 生活と情報処理 1クラス | 岸　誠一 | 21 |
| 生活と情報処理 2クラス | 岸　誠一 | 23 |
| 情報処理演習 | 岸　誠一 | 25 |
| 英語Ⅰ 1クラス | 西田　寛子 | 27 |
| 英語Ⅰ 2クラス | 西田　寛子 | 29 |
| 英語Ⅱ 1クラス | 西田　寛子 | 31 |
| 英語Ⅱ 2クラス | 西田　寛子 | 33 |
| 韓国語 | 河　智弘 | 35 |
| 英語Ⅲ 1クラス | 西田　寛子 | 37 |
| 英語Ⅲ 2クラス | 西田　寛子 | 39 |
| 体育講義 全8回 | 溝田　知茂 | 41 |
| 体育実技 1クラス | 溝田　知茂 | 43 |
| 体育実技 2クラス | 溝田　知茂 | 45 |
| ファーストイヤーセミナー | 中田　周作／中　典子／岸　誠一／齊藤　佳子／姫野　俊幸／大橋　由佳 | 47 |
| 現代子ども学入門 | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／小川　孝司／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴／大坪　加奈 | 49 |
| 子ども研究法Ⅰ | 中田　周作／中　典子／佐々木　弘記／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎／大坪　加奈 | 51 |
| 子ども研究法Ⅱ | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／小川　孝司／川崎　泰子／岡崎　三鈴／大坪　加奈 | 53 |
| 課題研究Ⅰ | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎 | 55 |
| 課題研究Ⅱ | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎 | 57 |
| 卒業研究Ⅰ | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／小川　孝司／川崎　泰子 | 59 |
| 卒業研究Ⅱ | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／廣畑　まゆ美／小川　孝司／川崎　泰子 | 61 |
| 基礎学力養成セミナーⅠ 1クラス | 佐々木　弘記／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 63 |
| 基礎学力養成セミナーⅠ 2クラス | 佐々木　弘記／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 65 |
| 基礎学力養成セミナーⅡ 1クラス | 佐々木　弘記／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 67 |
| 基礎学力養成セミナーⅡ 2クラス | 佐々木　弘記／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 69 |
| 総合教養養成セミナーⅠ | 牛島　光太郎 | 71 |
| 総合教養養成セミナーⅡ | 牛島　光太郎 | 73 |
| キャリア教育論 | 溝田　知茂／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴 | 75 |
| キャリア教育演習 | 佐々木　弘記／溝田　知茂／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴 | 77 |
| 人権教育論 | 森寺　勝之 | 79 |
| 子どもとおやつ | 加賀田　江里 | 81 |
| 子どもと絵本 1クラス | 伊藤　智里／廣畑　まゆ美／牛島　光太郎 | 83 |
| 子どもと絵本 2クラス | 伊藤　智里／廣畑　まゆ美／牛島　光太郎 | 85 |
| 子どもと楽器 1クラス | 岡崎　三鈴／大坪　加奈 | 87 |
| 子どもと楽器 2クラス | 岡崎　三鈴／大坪　加奈 | 89 |
| 子どもと手芸 | 齊藤　佳子 | 91 |
| 子どもとダンス | 佐々木　弘記／溝田　知茂／大田原　愛美 | 93 |
| 子どもとゲーム | 中田　周作 | 95 |
| 障害児援助論 | 西　千秋 | 97 |
| 子ども家庭支援の心理学 | 國田　祥子 | 99 |
| 子どもの理解と援助 1クラス | 大坪　加奈 | 101 |
| 子どもの理解と援助 2クラス | 大坪　加奈 | 103 |
| 幼児理解の理論と方法 | 國田　祥子 | 105 |
| 教育社会学 | 中田　周作 | 107 |
| 教育相談 | 國田　祥子 | 109 |
| 発達心理学 | 國田　祥子 | 111 |
| 教育社会学演習 | 中田　周作 | 113 |
| 国語 | 小川　孝司 | 115 |
| 算数 | 姫野　俊幸 | 117 |
| 生活 | 池原　繁延 | 119 |
| 音楽 | 川崎　泰子 | 121 |
| 図画工作 | 牛島　光太郎 | 123 |
| 体育 | 溝田　知茂 | 125 |
| 基礎音楽A | 河田　健二／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／大坪　加奈／多田　悦子／嶋田　泉／織田　典恵 | 127 |
| 社会 | 紙田　路子 | 129 |
| 理科 | 佐々木　弘記 | 131 |
| 家庭 | 齊藤　佳子 | 133 |
| 英語 | 西田　寛子 | 135 |
| 児童英語演習 | 西田　寛子 | 137 |
| 基礎音楽B | 河田　健二／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／大坪　加奈 | 139 |
| 国語科教育法 | 小川　孝司 | 141 |
| 社会科教育法 | 紙田　路子 | 143 |
| 算数科教育法 | 姫野　俊幸 | 145 |
| 理科教育法 | 佐々木　弘記 | 147 |
| 生活科教育法 | 池原　繁延 | 149 |
| 音楽科教育法 | 川崎　泰子 | 151 |
| 図画工作科教育法 | 牛島　光太郎 | 153 |
| 体育科教育法 | 溝田　知茂 | 155 |
| 家庭科教育法 | 齊藤　佳子 | 157 |
| 英語科教育法 | 西田　寛子 | 159 |
| 道徳教育指導論 | 小森　順子 | 161 |
| 小学校教育研究Ⅰ | 佐々木　弘記／溝田　知茂／姫野　俊幸／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 163 |
| 小学校教育研究Ⅱ | 佐々木　弘記／溝田　知茂／齊藤　佳子／姫野　俊幸／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 165 |
| 小学校教育研究Ⅲ | 溝田　知茂／姫野　俊幸／森寺　勝之／小川　孝司／西田　寛子／牛島　光太郎 | 167 |
| 保育実践研究Ⅰ | 國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／大田原　愛美 | 169 |
| 保育実践研究Ⅱ α | 國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／大田原　愛美 | 171 |
| 保育実践研究Ⅱ β | 國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／大田原　愛美 | 173 |
| 小学校教育基礎演習 | 溝田　知茂／姫野　俊幸 | 175 |
| 教育原理 | 中田　周作 | 177 |
| 教育史 | 梶井　一暁 | 179 |
| 教育方法学 | 住野　好久 | 181 |
| 保育者論 | 岡崎　三鈴 | 183 |
| 教育心理学 | 國田　祥子 | 185 |
| 教育・保育課程総論 | 佐々木　弘記／岡崎　三鈴 | 187 |
| 保育内容総論 1クラス | 岡崎　三鈴 | 189 |
| 保育内容総論 2クラス | 岡崎　三鈴 | 191 |
| 特別支援教育 | 中　典子／西　千秋 | 193 |
| 教職概論 | 小川　孝司 | 195 |
| 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 | 佐々木　弘記 | 197 |
| 生徒指導・進路指導の理論と方法 | 住野　好久 | 199 |
| 子どもと健康 1クラス | 岡崎　三鈴 | 201 |
| 子どもと健康 2クラス | 岡崎　三鈴 | 203 |
| 子どもと人間関係 1クラス | 廣畑　まゆ美 | 205 |
| 子どもと人間関係 2クラス | 廣畑　まゆ美 | 207 |
| 子どもと環境 1クラス | 齊藤　佳子 | 209 |
| 子どもと環境 2クラス | 齊藤　佳子 | 211 |
| 子どもと言葉 1クラス | 伊藤　智里 | 213 |
| 子どもと言葉 2クラス | 伊藤　智里 | 215 |
| 子どもと表現 1クラス | 牛島　光太郎／大坪　加奈／織田　典恵 | 217 |
| 子どもと表現 2クラス | 牛島　光太郎／大坪　加奈／織田　典恵 | 219 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 子どもと音楽 | 河田　健二／川崎　泰子／大坪　加奈 | ····· | 221 |
| 子どもと造形 1クラス | 伊藤　智里／牛島　光太郎 | ····· | 223 |
| 子どもと造形 2クラス | 伊藤　智里／牛島　光太郎 | ····· | 225 |
| メディア教育演習 | 岸　誠一 | ····· | 227 |
| メディア教育演習 1クラス | 岸　誠一 | ····· | 229 |
| メディア教育演習 2クラス | 岸　誠一 | ····· | 231 |
| 小学校教育基礎研究 | 溝田　知茂／姫野　俊幸 | ····· | 233 |
| 子どもと健康指導法 | 岡崎　三鈴 | ····· | 235 |
| 子ども人間関係指導法 | 廣畑　まゆ美 | ····· | 237 |
| 子どもと環境指導法 | 齊藤　佳子 | ····· | 239 |
| 子どもと言葉指導法 | 伊藤　智里 | ····· | 241 |
| 子どもと表現指導法 | 牛島　光太郎／大坪　加奈／織田　典恵 | ····· | 243 |
| 子どもと音楽研究 | 大坪　加奈 | ····· | 245 |
| 教育実習研究A 1クラス | 齊藤　佳子／岡崎　三鈴 | ····· | 247 |
| 教育実習研究A 2クラス | 齊藤　佳子／岡崎　三鈴 | ····· | 249 |
| 教育実習研究B | 溝田　知茂／姫野　俊幸／小川　孝司 | ····· | 251 |
| 保育･教職実践演習（幼・小） | 溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／姫野　俊幸／小川　孝司／岡崎　三鈴／大坪　加奈 | ····· | 253 |
| 教育実習A | 齊藤　佳子／岡崎　三鈴 | ····· | 255 |
| 教育実習B | 溝田　知茂／姫野　俊幸／小川　孝司 | ····· | 257 |
| 社会福祉 | 中　典子 | ····· | 259 |
| 子ども家庭支援論 | 中　典子 | ····· | 261 |
| 子育て支援 1クラス | 中　典子 | ····· | 263 |
| 子育て支援 2クラス | 中　典子 | ····· | 265 |
| 子ども家庭福祉 | 中　典子 | ····· | 267 |
| 保育原理 | 伊藤　智里 | ····· | 269 |
| 社会的養護Ⅰ | 中　典子 | ····· | 271 |
| 子どもの保健 | 藤原　敏恵 | ····· | 273 |
| 子どもの食と栄養Ⅰ 1クラス | 児玉　彩 | ····· | 275 |
| 子どもの食と栄養Ⅰ 2クラス | 児玉　彩 | ····· | 277 |
| 乳児の保育Ⅰ | 岡崎　三鈴／大坪　加奈 | ····· | 279 |
| 障害児保育 1クラス | 佐藤　伸隆 | ····· | 281 |
| 障害児保育 2クラス | 佐藤　伸隆 | ····· | 283 |
| 地域福祉論 | 佐藤　伸隆 | ····· | 285 |
| 保育計画Ⅰ 1クラス | 岡崎　三鈴 | ····· | 287 |
| 保育計画Ⅰ 2クラス | 岡崎　三鈴 | ····· | 289 |
| 児童館の機能と運営 | 子どもA | ····· | 291 |
| 児童館指導法Ⅰ | 子どもA | ····· | 293 |
| 学童保育論 | 中田　周作／伊藤　智里 | ····· | 295 |
| 学童保育方法論 | 住野　好久 | ····· | 297 |
| 社会的養護Ⅱ 1クラス | 青木　幹生 | ····· | 299 |
| 社会的養護Ⅱ 2クラス | 青木　幹生 | ····· | 301 |
| 子どもの健康と安全 1クラス | 廣畑　まゆ美 | ····· | 303 |
| 子どもの健康と安全 2クラス | 廣畑　まゆ美 | ····· | 305 |
| 子どもの食と栄養Ⅱ 1クラス(隔週) | 下田　裕惠 | ····· | 307 |
| 子どもの食と栄養Ⅱ 2クラス(隔週) | 下田　裕惠 | ····· | 309 |
| 乳児の保育Ⅱ 1クラス | 岡崎　三鈴／大坪　加奈 | ····· | 311 |
| 乳児の保育Ⅱ 2クラス | 岡崎　三鈴／大坪　加奈 | ····· | 313 |
| 保育計画Ⅱ 1クラス | 岡崎　三鈴 | ····· | 315 |
| 保育計画Ⅱ 2クラス | 岡崎　三鈴 | ····· | 317 |
| 保育実習研究Ⅰ 1クラス | 廣畑　まゆ美／大坪　加奈 | ····· | 319 |
| 保育実習研究Ⅰ 2クラス | 廣畑　まゆ美／大坪　加奈 | ····· | 321 |
| 施設実習研究 1クラス | 中　典子／牛島　光太郎 | ····· | 323 |
| 施設実習研究 2クラス | 中　典子／牛島　光太郎 | ····· | 325 |
| 保育実習研究Ⅱ | 子どもA | ····· | 327 |
| 児童館指導法Ⅱ | 子どもA | ····· | 329 |
| 学童保育実習研究 | 中田　周作／伊藤　智里 | ····· | 331 |
| 保育所実習Ⅰ | 廣畑　まゆ美／大坪　加奈 | ····· | 333 |
| 保育所実習Ⅱ | 廣畑　まゆ美／大坪　加奈 | ····· | 335 |
| 施設実習 | 中　典子／牛島　光太郎 | ····· | 337 |
| 保育実習Ⅲ | 子どもA | ····· | 339 |
| 児童館実習 | 子どもA | ····· | 341 |
| 学童保育実習Ⅰ | 中田　周作／伊藤　智里 | ····· | 343 |
| 学童保育実習Ⅱ | 子どもA | ····· | 345 |

| 科目名 | 日本語表現 | | | 授業番号 | CA201 | サブタイトル | （音声言語と文章の表現） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，「読むこと」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 身の周りにある様々な日本語表現 | |
| 第2回 | 乳幼児の日本語獲得（１） | |
| 第3回 | 乳幼児の日本語獲得（２） | |
| 第4回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（１） | |
| 第5回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（２） | |
| 第6回 | 読者を引きつける物語の仕掛け | |
| 第7回 | 読者を引きつける物語の表現 | |
| 第8回 | 身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 | |
| 第9回 | 身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 | |
| 第10回 | 読者を説得する説明的文章の仕掛け | |
| 第11回 | 読者を説得する説明的文章の表現 | |
| 第12回 | 読者の予測を利用した読み物（１） | |
| 第13回 | 読者の予測を利用した読み物（２） | |
| 第14回 | 違和感を感じる詩的表現（１） | |
| 第15回 | 違和感を感じる詩的表現（２） | |
| 授業計画　備考2 | 補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な学習内容の定着度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。 |
| 受講の心得 | 配付資料及びレポートをファイルしておくこと。<br>学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。 |
| 授業外学修 | 1．事前に配布した資料は眼を通し，授業に臨むこと。<br>2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリント資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 絵本，物語や説明的文章等の表現分析 |

| 科目名 | 芸術 | | | 授業番号 | CA202 | サブタイトル | (アートとデザイン) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，アート及びデザインとは何かについて考えます。そのために，これまで世界各地で生まれてきたアート・デザインについて触れ，可能性や未来について考えます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 幅広い分野の作品に親しむ。<br>2) 基礎的な用語を理解し，それを用いて作品を説明できる。<br>3) アート作品・活動やデザイン作品・活動に対し，自分なりの考えを述べることができる。<br>4) 県内外にある芸術作品にふれ，自分なりの視点で作品を批評することができる。<br>5) 自分と対象や事象との関わりを深め，自分なりに意味や価値をつくりだすことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和5年度改訂 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アートってなんだろう | |
| 第2回 | 身の回りのアート　1<br>ーパブリックアートー | |
| 第3回 | 身の回りのアート　2<br>ーパブリックアートー | |
| 第4回 | 形のあるアート　1<br>ー立体作品ー | |
| 第5回 | 形のあるアート　2<br>ー立体作品ー | |
| 第6回 | 形のあるアート　3<br>ー絵画作品ー | |
| 第7回 | 形のあるアート　4<br>ー絵画作品ー | |
| 第8回 | コレクション　1<br>ー集めることー | |
| 第9回 | コレクション　2<br>ー集めることー | |
| 第10回 | 作家・作品研究　1<br>作家や作品の選定，リサーチ | |
| 第11回 | 作家・作品研究　2<br>まとめ，発表 | |
| 第12回 | デザインってなんだろう | |
| 第13回 | 形のあるデザイン　1<br>ー立体分野ー | |
| 第14回 | 形のあるデザイン　2<br>ー立体分野ー | |
| 第15回 | まとめ<br>ーアートとはなにかー | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 「アート及びデザインとは何か」について具体的に記述すること。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この講義の目標に対し，受講者とともに取り組みたい。課題をもとにディスカッションを行うので，協力しながら探求する態度を求める。 |
| 授業外学修 | 復習として，授業で課題を課すことがある。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 心理学 | | | 授業番号 | CA203 | サブタイトル | (心と行動の科学) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 心理学とは | |
| 第2回 | 予知体験の不思議 | |
| 第3回 | 記憶の不思議 | |
| 第4回 | 影響されるこころ | |
| 第5回 | 揺れうごくこころ | |
| 第6回 | 検査で「自分」がわかるのか | |
| 第7回 | 占い・新宗教がもつ現代的意味 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 子どもから見た現実と想像の世界 | |
| 第10回 | 「もしかして……」と揺れ動く心の発達 | |
| 第11回 | 不思議現象に立ち向かう子どもたち | |
| 第12回 | 脳とこころの不思議な世界 | |
| 第13回 | 科学的に検証するとはどういうことか | |
| 第14回 | 心理学を学ぶ人のために | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門 | 菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著） | 北大路書房 | 978-4-7628-2032-8 | 1900円 |
| 不思議現象　子どもの心と教育 | 菊地　聡・木下孝司（編著） | 北大路書房 | 978-4-7628-2089-2 | 1900円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 倫理学 | | | 授業番号 | CA204 | サブタイトル | (人間形成の倫理と論理) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小谷　彰吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 激変する時代の中で，偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで，先哲の思想，中でも儒教の視点を一つの柱としたり，現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 東洋，西洋，それぞれの時代の中で，人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに，我が国には，神道，仏教，儒教が融合する独特の精神文化があり，それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 『倫理学』の概念を知り，『善悪』の判断とその背景，その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 倫理の基盤(1)　ガイダンス | |
| 第2回 | 倫理の基盤(2)　倫理観と社会的背景 | |
| 第3回 | 倫理の基盤(3)　倫理観の形成と体験の欠如 | |
| 第4回 | 倫理の思想(1)　倫理と道徳 | |
| 第5回 | 倫理と思想(2)　知識基盤社会と倫理 | |
| 第6回 | 倫理学の基礎(1)　倫理と思考実験 | |
| 第7回 | 倫理学の基礎(2)　義務論と功利主義 | |
| 第8回 | 現代社会の倫理(1)　死刑制度 | |
| 第9回 | 現代社会の倫理(2)　老いと安楽死 | |
| 第10回 | 現代社会の倫理(3)　いじめと自殺 | |
| 第11回 | 現代社会の倫理(4)　徳の教育と学校 | |
| 第12回 | 現代社会の倫理(5)　伝統文化と食の倫理 | |
| 第13回 | 日本倫理の思想(1)　江戸時代の徳の教育 | |
| 第14回 | 日本倫理の思想(2)　『論語』 | |
| 第15回 | 『倫理学』のまとめ　総括レポート | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 15回目の論文で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー〈知識・理解〉に見られる自国・他国の行動様式，考え方の基盤となる文化的背景の理解，〈態度〉に見られる，多様な文化を理解し尊重することに直接かかわるものを重点的に評価することから，授業への参加態度と論語に50%を充てる。 |
| 受講の心得 | 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。 |
| 授業外学修 | 授業内で紹介する著書については，可能な限りすべて読み，批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。<br>授業外で深めた基礎的教養によって，授業の中でのディスカッションの質が向上する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する) |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内で随時，紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，私立高等学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現在，学校教育現場では，アクティブラーニングの研究が進められており，「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし，特に小学校においては，遥か前から実践されていた学びであり，特に「道徳」は教科化されて以降，「議論する道徳」「思考する道徳」，すなわち自らの意見を持って，仲間と意見をぶつけ合い，新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』とて同様の学習を展開すれば，「主体的な学び」が展開できるものと考えている。<br>グループワーク，ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を醸成したい。 |

| 科目名 | 歴史学 | | | 授業番号 | CA205 | サブタイトル | (歴史家は過去の何に注目し，どうとらえてきたか) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「歴史」と聞くと，書かれたものを読み，記憶する，どちらかと言えば受け身のイメージが強いが，「歴史学」は，過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し，それをもとに歴史像・時代像を描き，叙述する主体的な営みである。この授業では，近年話題になっているものを中心に，歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ，解釈してきたかを取り上げる。授業の半分は，特定の時期・時代を取り上げるが，一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回，歴史研究に関わる内容をあつかう回も設ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1　歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。<br>2　近年の歴史研究の成果について理解することができる。<br>3　史料をもとに，積極的に考察したり，発表したりすることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 歴史と歴史学<br>歴史学がどのような学問であるかを理解する。<br>一般の人々が「歴史」を学ぶ意味，「歴史」に関わる意味を考える。 | |
| 第2回 | 農耕・牧畜の始まり<br>世界における農耕・牧畜の始まりを，オリエントでの始まりを中心に理解する。<br>世界における稲の栽培の始まりと日本列島への伝播について理解する。 | |
| 第3回 | 気候変動・災害と歴史<br>歴史学が気候変動や自然災害をどのようにあつかってきたかを理解する。 | |
| 第4回 | モンゴル帝国<br>モンゴル帝国の成立とその支配の特色を理解する。<br>モンゴル帝国の成立がその後の歴史に与えた影響を理解する。 | |
| 第5回 | 東アジア海域の歴史<br>倭寇の活動や琉球の活発な交易が目立った１４～１６世紀頃の東アジア海域の歴史を理解する。 | |
| 第6回 | 様々であった国というまとまり<br>「国」というまとまりが時代によって異なっていたことを，ヨーロッパを中心に理解する。 | |
| 第7回 | 歴史研究における地図の利用<br>国土地理院の旧版地図や古地図・絵図の歴史研究での利用について理解する。 | |
| 第8回 | 世界の一体化<br>「コロンブスの交換」の内容とそれがもたらした結果・影響を理解する。<br>１６～１７世紀に進んだ世界の一体化の動きへの日本の関わりを理解する。 | |
| 第9回 | イギリスの工業化とフランス革命<br>イギリスの工業化（産業革命）とフランス革命のおおまかな研究史を理解する。 | |
| 第10回 | ジェンダーと歴史<br>ジェンダー史の研究の始まりと現状を理解する。<br>ジェンダー史の事例を学ぶ。 | |
| 第11回 | 東アジアのウェスタン・インパクト<br>欧米列強の東アジアへの進出とそれに対する清と日本の対応を理解する。 | |
| 第12回 | アメリカ合衆国とメキシコ<br>３０００ｋｍ以上に及ぶ国境で接するアメリカ合衆国とメキシコの関係史を，国境の変化を中心に理解する。<br>２０世紀を中心に，メキシコ・アメリカ合衆国間の人の移動の変化を理解する。 | |
| 第13回 | 歴史の中で「人種主義」はどのようにうまれたか<br>「人種」概念の誕生や「人種」による人間の分類の始まりについて理解する。<br>「人種主義」と「黒人奴隷制」の関係を理解する。 | |
| 第14回 | 感染症と歴史<br>感染症の流行が歴史に与えた影響を理解する。<br>コレラの流行に対する１９世紀の日本の対応を理解する。<br>スペイン・インフルエンザを例に，新聞が歴史研究に役立つことを理解する。 | |
| 第15回 | 自分なりの歴史像を描いてみよう<br>授業で学んだことをもとに，歴史についての自分の考えを発表したり，話し合ったりする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加度，予習復習の状況，授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り上げた内容の理解度，歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 定期試験は，論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可) |
| 受講の心得 | 「歴史学」は，定まった知識を覚え，蓄積するものではなく，自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて，過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが，より大切なのは，人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また，授業では，可能な範囲で史料をもとに考察したり，発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。 |
| 授業外学修 | 予習として，高校の世界史・日本史などの教科書の関係部分を読んでおく。授業後は，授業で取り上げられた時代，テーマについての歴史像，時代像などを，自分なりに文章にまとめておくようにする。<br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | レジュメ，資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 中学校教諭，岡山県教育センター研修講座講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での歴史教育の経験を生かして，歴史に関する今日的な内容，テーマをわかりやすく指導する。 |

| 科目名 | 社会学 | | | 授業番号 | CA206 | サブタイトル | (配偶者の選択と家族編成の社会的規則) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。<br>現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。<br>そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。<br>これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 配偶者選択をめぐる社会状況の変化 | |
| 第2回 | 家族社会学における「家族」の定義 | |
| 第3回 | 家族を対象とした社会学的アプローチの方法 | |
| 第4回 | 家族の類型と分類 | |
| 第5回 | 青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 | |
| 第6回 | 青年期の異性交際の実態 | |
| 第7回 | 家族編成の社会的ルールとは何か | |
| 第8回 | 配偶者選択の社会的メカニズム | |
| 第9回 | 配偶者選択のプロセス | |
| 第10回 | 結婚の社会的意味 | |
| 第11回 | 結婚の社会的機能 | |
| 第12回 | 離婚の社会的意味と機能 | |
| 第13回 | 家族の新しい形 | |
| 第14回 | 子どもの養育 | |
| 第15回 | 老親の介護 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | |
| レポート | 70 | 最終レポート |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 毎回のコメントペーパー |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。<br>しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．配付資料を事前に読んでくること。<br>文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。<br>具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。<br><br>2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。<br>テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。<br><br>両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組みむこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | 特になし。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本国憲法 | | | 授業番号 | CA207 | サブタイトル | (立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 俟野　英二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目では，日本国憲法及び他国の憲法の沿革，様々な人々の人権について講義する。また，憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し，それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。<br>具体的にはまず，学生に身近な憲法問題を取り上げ，それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に，各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に，次回の講義で，各グループのグループワークの結果を紹介し，全体討議の後講評を行う。<br>なお，新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には，MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク，講義における質疑を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解など幅広い教養の修得を伴うことから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。また，憲法の視点から子どもに関わる場面などにおける様々な課題の解決を主体的に思考する力の修得を目的とすることから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス，憲法とは何か<br>1　学修の目標，評価方法などを説明する。<br>2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 | |
| 第2回 | グループワーク1<br>1　グループワークの仕方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，課題選択，課題分析，リサーチを行う。 | |
| 第3回 | グループワーク２<br>1　グループワークのまとめ方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，情報整理，報告書の作成を行う。 | |
| 第4回 | 国家機関としての天皇制<br>1　徳川時代，大日本帝国憲法下，日本国憲法下の天皇の地位について考える。<br>2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 | |
| 第5回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１――<br>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。 | |
| 第6回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２――，人権を守るための組織――統治機構１――<br>1　近年の安全保障をめぐる状況について学修する。<br>2　政治と国民，国会議員について学修する。 | |
| 第7回 | 人権を守るための組織――統治機構２――<br>1　選挙，選挙制度，政党，国会について学修する。<br>2　内閣について学修する。 | |
| 第8回 | 人権を守るための組織――統治機構３――<br>1　地方自治について学修する。<br>2　裁判所について学修する。 | |
| 第9回 | 良心をもつ自由，貫く権利<br>1　良心の意義について学修する。<br>2　教師の良心を貫く権利について考える。 | |
| 第10回 | 表現の自由<br>1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。<br>2　マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 | |
| 第11回 | 営業の自由と消費者の権利<br>1　職業選択の自由，営業の自由と消費者の権利について学修する。<br>2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第12回 | 働く人の権利<br>1　勤労の権利や労働基本権について学修する。<br>2　女性や非正規労働者の問題について考える。 | |
| 第13回 | 困った時の権利，差別されている人たちへの配慮<br>1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。<br>2　積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第14回 | 家庭と女性の権利<br>1　憲法における家庭と女性の権利について学修する。<br>2　同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 | |
| 第15回 | 子どもの権利と学校における生徒の人権<br>1　生徒の教育を受ける権利，学校内外での権利について学修する。<br>2　いじめ問題を憲法から考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解，及び，意欲・関心を持ち，講義に積極的に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 1回実施。基本原理，基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので，各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。<br>2　全体を通じて1回，任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。<br>3　中間に１回中間レポートの課題（第７回頃レポート作成要項発表）がある。 |
| 授業外学修 | 1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み，意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。<br>2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め，ノートに整理して，期末テストに備える。また，発展的学習として選択した課題について，インターネット等で調査し，調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて，各自の情報や意見を整理する。さらに，グループワークに参加し，協力して必要事項を調査するとともに，課題に関してそれぞれの意見を交換し，グループ報告書にまとめる共同作業を行う。<br>3　中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し，疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し，自分の意見を練り，レポートにまとめる。<br>事前学習及び事後学習を合わせて，1週間に4時間程度必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 憲法のちから－身近な問題から憲法の役割を考える－ | 中富公一 | 法律文化社 | 978-4-589-04140-1 | 2400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 自信をもっていじめにNOと言うための本 | 中富公一 | 日本評論社 | 978-4-535-52038-7 | 2300＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 右崎正博ほか編『基本判例１　憲法［第4版］』（法学書院，法学書院） |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県教育委員会，県（人権・同和政策課） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。 |

| 科目名 | 数学概論 | | | 授業番号 | CB201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 古代エジプトや古代ギリシアの時代から「数学」は常に人類の生活に変化を与えてきた。人々の認識を変化させ，歴史を動かしてきたともいえる。そういう意味で「数学」は人類が受け継いできた「叡智の結晶」である。日常生活の様々な事象だけでなく，自然の事象や芸術でさえ数学的な裏付けが存在している。こうした「数学」の価値と魅力を，歴史的に多角的に豊かに学び，「数学」そのものに親しみや楽しみを見い出していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「数学」にかかわる基礎的基本的な知識を理解するとともに，様々な事象について，「数学」を活用し，論理的に問題解決することの価値と魅力を実感できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 代数・解析・幾何 | |
| 第2回 | ローマ数字からアラビア数字　0の発見 | |
| 第3回 | 古代エジプト縄張師　ピタゴラスの定理 | |
| 第4回 | 正多面体　半正多面体　星型多面体 | |
| 第5回 | 分数　小数 | |
| 第6回 | アボガドロ定数　指数 | |
| 第7回 | 対数　計算尺 | |
| 第8回 | フェルミ推計 | |
| 第9回 | 曲線 | |
| 第10回 | 統計 | |
| 第11回 | 円周率 | |
| 第12回 | 魔方陣 | |
| 第13回 | ハノイの塔 | |
| 第14回 | 数学パズル | |
| 第15回 | 何のために数学を学ぶのか | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 意欲的な受講態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。 |
| レポート | 30 | 「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。 |
| 小テスト | 40 | 前回の授業の内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 15 | ノートのまとめ方を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業のはじめに小テストを行うので，前回の復習をして授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1　配付資料や小テスト等を整理し貼付して，本時の講義内容をノートにまとめ，復習する。<br>2　発展学習として，授業で興味をもった内容について調べ深める。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし（資料配布） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務現場での経験を生かして，数学概論について指導を行う。 |

| 科目名 | 現代環境論 | | | 授業番号 | CB202 | サブタイトル | (現代の身近な環境を「実感」する) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて，現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき，環境問題という現代的，社会的な課題に対して地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要の説明，環境に関する基礎講座I | |
| 第2回 | 環境に関する基礎講座II | |
| 第3回 | 地球温暖化について | |
| 第4回 | ドングリとイノシシに学ぶ?!(吉備の中山での体験学修) | |
| 第5回 | 中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？（水環境に学ぶ体験学修)そのI | |
| 第6回 | 中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？（水環境に学ぶ体験学修)そのII | |
| 第7回 | SDGs（エス・ディー・ジーズ）って何だ?（１７の目標を理解し，自分たちでできる具体的な取組みについて考える） | |
| 第8回 | 中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？(大気汚染と酸性雨について学ぶ) | |
| 第9回 | 「シーベルト」「ベクレル」って何だ？(放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ) | |
| 第10回 | 循環型社会へ向けてI（環境問題と国際的取り組み） | |
| 第11回 | 環境問題解決のための新技術Iとその課題について（脱化石エネルギー，リサイクル） | |
| 第12回 | 環境問題解決のための新技術IIとその課題について（水素エネルギーと燃料電池他，太陽光発電） | |
| 第13回 | 太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！（再生可能エネルギーの実践を通して） | |
| 第14回 | 環境問題について特別講義 | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。 |
| 小テスト | 20 | 小テストを実施し，個々の内容について理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 40 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，野外学修も行うため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため，必要なメモは各自のノート等に書いていただきたい。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。なお，学修のための情報提供をclassroomで行うので，よく見ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 自然科学概論 | | | 授業番号 | CB203 | サブタイトル | (体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?（四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ） | |
| 第2回 | 科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ | |
| 第3回 | 楽しいフィールドワーク(吉備の中山を歩こう!!) | |
| 第4回 | コンピュータについて学ぶ(新しいプログラム体験) | |
| 第5回 | 地球温暖化のしくみ | |
| 第6回 | 君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） | |
| 第7回 | 電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 | |
| 第8回 | 高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？（音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック） | |
| 第9回 | 液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶI） | |
| 第10回 | 糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習（分子構造について学ぶII） | |
| 第11回 | 天然色素と酸アルカリの実験と実習 | |
| 第12回 | 光に関する基礎講座ならびに実験と実習 | |
| 第13回 | 楽しい数学（小学校高学年の知識で挑戦する，とっても簡単！？微分と積分） | |
| 第14回 | 流しそうめんの加速度を測定しよう！ | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。また，新型コロナの感染予防のため，食べたり，密になって行う実験などが出来なくなり，他の内容に変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活と情報処理 1クラス | | | 授業番号 | CC201A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な<br>側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組<br>み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業も具体的な目標は，次の３点である。<br>（１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。<br>（２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。<br>（３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I | |
| 第2回 | パソコン操作についての基礎知識II | |
| 第3回 | ネット利用についての基礎知識I | |
| 第4回 | ネット利用についての基礎知識II | |
| 第5回 | ワードの基礎知識I | |
| 第6回 | ワードの基礎知識II | |
| 第7回 | ワードの基礎知識III | |
| 第8回 | パワーポイントの基礎知識I | |
| 第9回 | パワーポイントの基礎知識II | |
| 第10回 | パワーポイントの基礎知識III | |
| 第11回 | デジタルコンテンツの作成の仕方I | |
| 第12回 | デジタルコンテンツの作成の仕方II | |
| 第13回 | デジタルコンテンツの作成の仕方III | |
| 第14回 | 情報の倫理とセキュリティI | |
| 第15回 | 情報の倫理とセキュリティII | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する. |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する. |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。<br>わからないことは質問すること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活と情報処理 2クラス | | | 授業番号 | CC201B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な<br>側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組<br>み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業も具体的な目標は，次の３点である。<br>（１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。<br>（２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。<br>（３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I | |
| 第2回 | パソコン操作についての基礎知識II | |
| 第3回 | ネット利用についての基礎知識I | |
| 第4回 | ネット利用についての基礎知識II | |
| 第5回 | ワードの基礎知識I | |
| 第6回 | ワードの基礎知識II | |
| 第7回 | ワードの基礎知識III | |
| 第8回 | パワーポイントの基礎知識I | |
| 第9回 | パワーポイントの基礎知識II | |
| 第10回 | パワーポイントの基礎知識III | |
| 第11回 | デジタルコンテンツの作成の仕方I | |
| 第12回 | デジタルコンテンツの作成の仕方II | |
| 第13回 | デジタルコンテンツの作成の仕方III | |
| 第14回 | 情報の倫理とセキュリティI | |
| 第15回 | 情報の倫理とセキュリティII | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する. |
| 定期試験 | 80 | 最終的な理解度を評価する. |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。<br>わからないことは質問すること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 情報処理演習 | | | 授業番号 | CC202 | サブタイトル | ワープロソフトの基本操作 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本演習ではMicrosoft社製ワープロソフト Word 2019を使用し，コンピュータおよびワープロソフトの基本操作の習得を目指し演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について理解する。<br>(2)文書入力(Word)の基本操作について学修する。<br>(3)プレゼンテーションの基本操作について学ぶ。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 各自のアカウント管理，電子メール，文書入力，プレゼンテーション等の基本的な操作技術について毎回具体的な成果物(Printoutしたもの)を作成する演習の形で学修する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要とＰＣの基本操作I | |
| 第2回 | ネットワークの仕組み，管理，活用 | |
| 第3回 | Google Classroomの活用について | |
| 第4回 | 電子メール(Gメール)の基本操作 | |
| 第5回 | 文書入力の基本操作(Word)I | |
| 第6回 | 文書入力の基本操作(Word)II | |
| 第7回 | 文書入力の基本操作(Word)III | |
| 第8回 | 文書入力の基本操作(Word)IV | |
| 第9回 | 文書入力の基本操作(Word)V | |
| 第10回 | 文書入力の基本操作(Word)VI | |
| 第11回 | 文書入力の基本操作(Word)VII | |
| 第12回 | プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本操作I | |
| 第13回 | プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本操作にII | |
| 第14回 | プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本操作III | |
| 第15回 | 課題 | |
| 授業計画　備考2 | 文書入力，プレゼンテーション等の基本的な操作技術について毎回具体的な成果物(Printoutしたもの)を提出し，その内容によって評価する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 各回の演習の成果物（レポート）により基本操作の理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | タイピング練習はコンピュータ入力の基本なので各自で授業とは別に練習しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br><br>以上の内容を，1回あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる Word 2019 基礎 | | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Scratch 3.0 入門 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | CD201A | サブタイトル | 子どもと交わす英会話I | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。また，各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>・各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 1-1-2 Welcome to Okayama | |
| 第2回 | 1-1-4 At Korakuen | |
| 第3回 | 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art | |
| 第6回 | 1-3-1 Hiruzen Height | |
| 第7回 | 1-3-2 A Trip to Inujima | |
| 第8回 | 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第9回 | 1-3-5 Yunogo Hot Spring | |
| 第10回 | 2-1-3 Gift Wrapping | |
| 第11回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags | |
| 第12回 | 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第13回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima | |
| 第14回 | 3-1-4 Eco-friendly Bags | |
| 第15回 | Tea Ceremony （茶道） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 【評価の方法1：評価規準・その他備考】意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。<br>・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，検定合格を目指して学修すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　前時の授業内容についての練習問題を実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。<br>4　実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，予習復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 岡山から | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4-88197-743-9 | 1，000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の問題集（授業で指定する） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 英語Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | CD201B | サブタイトル | 子どもと交わす英会話I | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。また，各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>・各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 1-1-2 Welcome to Okayama | |
| 第2回 | 1-1-4 At Korakuen | |
| 第3回 | 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art | |
| 第6回 | 1-3-1 Hiruzen Height | |
| 第7回 | 1-3-2 A Trip to Inujima | |
| 第8回 | 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第9回 | 1-3-5 Yunogo Hot Spring | |
| 第10回 | 2-1-3 Gift Wrapping | |
| 第11回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags | |
| 第12回 | 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第13回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima | |
| 第14回 | 3-1-4 Eco-friendly Bags | |
| 第15回 | Tea Ceremony （茶道） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 【評価の方法1：評価規準・その他備考】意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。<br>・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，検定合格を目指して学修すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　前時の授業内容についての練習問題を実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。<br>4　実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，予習復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 岡山から | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4-88197-743-9 | 1，000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の問題集（授業で指定する） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 英語Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | CD202A | サブタイトル | 心に残る英語 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼保英検４級，3級，或いは実用英語検定３級，準２級，２級取得に向けて，基礎的な文法・語彙を復習しながら，知識の定着を図る。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学び，幼稚園，こども園，保育園の乳幼児教育施設に即した実践英語や，小学校での英語教育の基礎となる英語の修得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・基礎的文法事項を理解し，実際に会話でその知識を使えるようになる。<br>・語彙を増やし，乳幼児や小学生との対話で必要となる基本的な英単語や英語表現を理解でき，身の回りのことについて英語で説明できるようになる。<br>・基礎的内容の会話を聞き取り，内容を理解できるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（教科書，授業内容，幼保英検・実用英語技能検定，発表（プレゼンテーション体験） 他） | |
| 第2回 | Unit 1 : 英語 Is Engish Just One of the Languages? | |
| 第3回 | Unit 2 : 食事 Let's Rediscover the Goodness of Japanese Food! | |
| 第4回 | Unit 3 : AI Will `AI' Make Humans happy? | |
| 第5回 | Unit 4 : 観光 Travel Broadens Your Horizons | |
| 第6回 | Unit 5 : 教育 Bringing Up a Child | |
| 第7回 | Unit 6 : 音楽 The Benefits of Music | |
| 第8回 | Unit 1～ Unit 6 のまとめ 中間期考査 | |
| 第9回 | Unit 7 : ICT Changing Learning Styles with ICT | |
| 第10回 | Unit 8 : 将来 Your Future | |
| 第11回 | Unit 9 : 高齢化社会 The Ageing Japanese Society | |
| 第12回 | Unit 10 : 映画 The Benefits of Watching Movies | |
| 第13回 | Unit 11 : ペット Are You a Dog Person or a Cat Person? | |
| 第14回 | Unit 12 : 医療 Medical Care and Health | |
| 第15回 | Unit 7 ～ Unit 12 のまとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| 意見発表（プレゼンテーション） | 20 | 自分が選んだ主題について，参考文献やインターネット上の情報を活用し，自らの考えを整理して記述するとともに聴く人に十分伝える発表ができているかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 小テストにおいて，語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　前時の授業内容についての小テストを実施するので学習内容が定着するように２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査して原稿を作成し，発表練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| こころに残る英語～これから英語を教える人のために～ | 大橋典晶，竹野純一郎，藤代昇丈，松浦加寿子 | ふくろう出版 | | 1，800円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 英語Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | CD202B | サブタイトル | 心に残る英語 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼保英検４級，3級，或いは実用英語検定３級，準２級，２級取得に向けて，基礎的な文法・語彙を復習しながら，知識の定着を図る。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学び，幼稚園，こども園，保育園の乳幼児教育施設に即した実践英語や，小学校での英語教育の基礎となる英語の修得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・基礎的文法事項を理解し，実際に会話でその知識を使えるようになる。<br>・語彙を増やし，乳幼児や小学生との対話で必要となる基本的な英単語や英語表現を理解でき，身の回りのことについて英語で説明できるようになる。<br>・基礎的内容の会話を聞き取り，内容を理解できるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（教科書，授業内容，幼保英検・実用英語技能検定，発表（プレゼンテーション体験） 他） | |
| 第2回 | Unit 1 : 英語 Is Engish Just One of the Languages? | |
| 第3回 | Unit 2 : 食事 Let's Rediscover the Goodness of Japanese Food! | |
| 第4回 | Unit 3 : AI Will `AI' Make Humans happy? | |
| 第5回 | Unit 4 : 観光 Travel Broadens Your Horizons | |
| 第6回 | Unit 5 : 教育 Bringing Up a Child | |
| 第7回 | Unit 6 : 音楽 The Benefits of Music | |
| 第8回 | Unit 1～ Unit 6 のまとめ 中間期考査 | |
| 第9回 | Unit 7 : ICT Changing Learning Styles with ICT | |
| 第10回 | Unit 8 : 将来 Your Future | |
| 第11回 | Unit 9 : 高齢化社会 The Ageing Japanese Society | |
| 第12回 | Unit 10 : 映画 The Benefits of Watching Movies | |
| 第13回 | Unit 11 : ペット Are You a Dog Person or a Cat Person? | |
| 第14回 | Unit 12 : 医療 Medical Care and Health | |
| 第15回 | Unit 7 ～ Unit 12 のまとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| 意見発表（プレゼンテーション） | 20 | 自分が選んだ主題について，参考文献やインターネット上の情報を活用し，自らの考えを整理して記述するとともに聴く人に十分伝える発表ができているかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 小テストにおいて，語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　前時の授業内容についての小テストを実施するので学習内容が定着するように２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査して原稿を作成し，発表練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| こころに残る英語～これから英語を教える人のために～ | 大橋典晶，竹野純一郎，藤代昇丈，松浦加寿子 | ふくろう出版 | | 1，800円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 韓国語 | | | 授業番号 | CD204 | サブタイトル | 韓国語の基礎を学ぶ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河　智弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 基本文型と文法を会話文の中で習得し，日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。韓国語コミュニケーションIで学んだ韓国語の基礎を生かして，会話，慣用的な表現などを用いて，読み，書き，聞き取り，話すことをバランスよく習得していく。特に，聞き取りと話すことにおいて，留学生などのゲストを迎えスキルを活用する機会につなげる | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。<br>・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。<br>・簡単な韓国語が書けることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 韓国語とは | |
| 第2回 | 文字と発音・母音 | |
| 第3回 | 文字と発音・子音 | |
| 第4回 | 激音と農音，パッチム | |
| 第5回 | 自己紹介 | |
| 第6回 | これは何ですか | |
| 第7回 | 結婚写真 | |
| 第8回 | 動詞の活用 | |
| 第9回 | 何をしますか | |
| 第10回 | 韓国映画の言葉 | |
| 第11回 | 私たちの教室 | |
| 第12回 | 動詞の尊敬形 | |
| 第13回 | どこに行かれますか。 | |
| 第14回 | 場所 | |
| 第15回 | 日常会話及びまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っていたかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。 |
| 定期試験 | 40 | 授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をすること<br>宿題を真面目にすること |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。<br>・復習として，毎回の課題をノートに書いて来ること。<br>・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カナタコリアン初級1 | カナタ韓国語学院 | 国書刊行会 | 978-4-336-05677-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改正 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語Ⅲ 1クラス | | | 授業番号 | CD303A | サブタイトル | (総合英語) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 洋楽を通して，英語独特の音声変化に慣れ親しむとともに，異文化トピックを扱った英文を読み，既習の文法事項について説明する。<br>また，実用英語検定準2級対策を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 読解を通して，異文化理解を深めるとともに，英検準2級に相当する基礎的なコミュニケーション能力を養い，総合的な英語運用能力を身につけることができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1 Complicated（Avril Lavigne）<br>文法：接続詞と前置詞の区別 | |
| 第2回 | Unit 2 S.O.S.(ABBA)<br>文法：仮定法 | |
| 第3回 | Unit 3 You Are Not Alone（Michael Jackson）<br>文法：品詞 | |
| 第4回 | Unit 4 Don’t Wanna Lose You（Gloria Estefan）<br>文法：不定詞 | |
| 第5回 | Unit 5 How Crazy Are You?（Meja）<br>文法：分詞 | |
| 第6回 | Unit 6 Sunday Morning（Maroon 5）<br>文法：形容詞・副詞 | |
| 第7回 | Unit 7 I Want It That Way（Backstreet Boys）<br>文法：知覚・使役動詞 | |
| 第8回 | Unit 8 Suddenly I See（KT Tunstall）<br>文法：動名詞 | |
| 第9回 | Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You?（Michael Bolton）<br>文法：受動態 | |
| 第10回 | Unit 10 Save The Best For Last（Vanessa Williams）<br>文法：完了形 | |
| 第11回 | Unit 11 Last Christmas（Wham!）<br>文法：5文型 | |
| 第12回 | Unit 12 Torn（Natalie Imbruglia）<br>文法：助動詞 | |
| 第13回 | Unit 13 La La（Means I Love You）（Swing Out Sister）<br>文法：関係代名詞 | |
| 第14回 | Unit 14 With You（Chris Brown）1<br>文法：否定 | |
| 第15回 | Unit 14 With You（Chris Brown）2<br>まとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。 |
| レポート | 15 | 課題について，基本的な文章構成で英作文ができていること。 |
| 小テスト | 15 | 小テストを実施し，合計得点により評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 定期テストで授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習を前提として進めていくので，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典或いは辞書機能がついたものを毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| English with Pop Hits | Teruhiko Kadoyama，Simon Capper | 成美堂 | 978-4-7919-3387-7 | 2，200円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。 |

| 科目名 | 英語Ⅲ 2クラス | | | 授業番号 | CD303B | サブタイトル | (総合英語) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 洋楽を通して，英語独特の音声変化に慣れ親しむとともに，異文化トピックを扱った英文を読み，既習の文法事項について説明する。<br>また，実用英語検定準2級対策を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 読解を通して，異文化理解を深めるとともに，英検準2級に相当する基礎的なコミュニケーション能力を養い，総合的な英語運用能力を身につけることができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1 Complicated（Avril Lavigne）<br>文法：接続詞と前置詞の区別 | |
| 第2回 | Unit 2 S.O.S.(ABBA)<br>文法：仮定法 | |
| 第3回 | Unit 3 You Are Not Alone（Michael Jackson）<br>文法：品詞 | |
| 第4回 | Unit 4 Don’t Wanna Lose You（Gloria Estefan）<br>文法：不定詞 | |
| 第5回 | Unit 5 How Crazy Are You?（Meja）<br>文法：分詞 | |
| 第6回 | Unit 6 Sunday Morning（Maroon 5）<br>文法：形容詞・副詞 | |
| 第7回 | Unit 7 I Want It That Way（Backstreet Boys）<br>文法：知覚・使役動詞 | |
| 第8回 | Unit 8 Suddenly I See（KT Tunstall）<br>文法：動名詞 | |
| 第9回 | Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You?（Michael Bolton）<br>文法：受動態 | |
| 第10回 | Unit 10 Save The Best For Last（Vanessa Williams）<br>文法：完了形 | |
| 第11回 | Unit 11 Last Christmas（Wham!）<br>文法：5文型 | |
| 第12回 | Unit 12 Torn（Natalie Imbruglia）<br>文法：助動詞 | |
| 第13回 | Unit 13 La La（Means I Love You）（Swing Out Sister）<br>文法：関係代名詞 | |
| 第14回 | Unit 14 With You（Chris Brown）1<br>文法：否定 | |
| 第15回 | Unit 14 With You（Chris Brown）2<br>まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。 |
| レポート | 15 | 課題について，基本的な文章構成で英作文ができていること。 |
| 小テスト | 15 | 小テストを実施し，合計得点により評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 定期テストで授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習を前提として進めていくので，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典或いは辞書機能がついたものを毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| English with Pop Hits | Teruhiko Kadoyama，Simon Capper | 成美堂 | 978-4-7919-3387-7 | 2，200円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。 |

| 科目名 | 体育講義 全8回 | | | 授業番号 | CE201 | サブタイトル | (日常生活と健康) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。<br>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「体力」について考える | |
| 第2回 | 「ホルモン」のはたらきについて考える | |
| 第3回 | 「自律神経」のはたらきについて考える | |
| 第4回 | 「背筋力」のはたらきについて考える | |
| 第5回 | 「免疫力」のはたらきについて考える | |
| 第6回 | 「睡眠」とスポーツ | |
| 第7回 | 身体形成と機能の発達 | |
| 第8回 | 身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。 |
| 授業外学修 | ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。<br>・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育実技 1クラス | | | 授業番号 | CE202A | サブタイトル | (スポーツに親しもう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。<br>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第2回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第3回 | バスケットボールIII（ゲームの展開） | |
| 第4回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第5回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第6回 | バレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第7回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第8回 | バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第9回 | バドミントンIII（ゲームの展開） | |
| 第10回 | ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第11回 | ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第12回 | ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解） | |
| 第14回 | 卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 各競技ごとに試合を実施する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備・片付けをする。 |
| 授業外学修 | ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。<br>・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育実技 2クラス | | | 授業番号 | CE202B | サブタイトル | (スポーツに親しもう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。<br>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第2回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第3回 | バスケットボールIII（ゲームの展開） | |
| 第4回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第5回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第6回 | バレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第7回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第8回 | バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第9回 | バドミントンIII（ゲームの展開） | |
| 第10回 | ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第11回 | ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第12回 | ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解） | |
| 第14回 | 卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 各競技ごとに試合を実施する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備・片付けをする。 |
| 授業外学修 | ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。<br>・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファーストイヤーセミナー | | | 授業番号 | CF101 | サブタイトル | （大学生活に慣れよう！） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、中　典子、岸　誠一、中田　周作、齊藤　佳子、大橋　由佳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子ども学部子ども学科の理念・目標，学びの姿勢，図書館の活用，情報倫理，「子ども学」の基礎，社会人としての素養など，将来への展望も含めて，オムニバス形式で講義を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。＜知識・理解＞ ＜技能＞<br>また，将来，保育者・教育者として，子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための素地を養う。＜態度＞<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要　感染予防講習会 | 姫野，波多江（人間栄養） |
| 第2回 | 子ども学部　学部長講義　演題：これからの大学生活 | 中 |
| 第3回 | ボランティアとは何か | 担当講師，齊藤 |
| 第4回 | スタディスキルズ(1) | 姫野 |
| 第5回 | 白鷺ｅラーニング(1) | 岸 |
| 第6回 | スタディスキルズ(2) | 姫野 |
| 第7回 | 人権について | 人権教育担当，齊藤 |
| 第8回 | マナーに関する講座 | 大橋，齊藤 |
| 第9回 | 地域清掃 | 姫野，子ども学科教員 |
| 第10回 | 金融に関する講座 | 外部講師，齊藤 |
| 第11回 | 生と性について | 岡本，齊藤 |
| 第12回 | インターネットやスマホの安全な活用について | 岸 |
| 第13回 | 取得できる免許・資格・大学院進学について | 中田 |
| 第14回 | 子ども学部のカリキュラムとコース制について | 中田 |
| 第15回 | 白鷺eラーニング(2) | 岸 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。<br>コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。<br>最終回にコメントペーパーや資料を綴じたファイルを提出する。 |
| 受講の心得 | 大学生の基礎的素養として大切な内容であるため，積極的な態度で受講すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は，随時，配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 外部講師等を招聘する場合は，一部，開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。<br>本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・校長，県生涯学習ｾﾝﾀｰ，県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸誠一），公立小学校教諭・教頭・校長・教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 現代子ども学入門 | | | 授業番号 | CL101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、佐々木　弘記、中　典子、岸　誠一、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、小川　孝司、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、大坪　加奈、牛島　光太郎、西田　寛子、岡崎　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子ども学とは，子どもを対象とする学際的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，学校教育学，幼児教育学，保育学，社会学，心理学，社会福祉など様々な学問分野から，広い視点で見直していく。<br>本講義では，オムニバス形式によって，各学問領域から多角的に子どもにアプローチすることにより，総合的に子ども研究を進めていくための基礎を培う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学校教育学，幼児教育学，保育学，社会学，心理学，社会福祉など様々な学問分野から子ども学にアプローチをすることにより，総合的に子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。＜知識・理解＞ ＜技能＞<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども学の基礎概念 | 姫野 |
| 第2回 | 子ども学の研究I−(1) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第3回 | 子ども学の研究I−(2) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第4回 | 子ども学の研究I−(3) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第5回 | 子ども学の研究I−(4) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第6回 | 子ども学の研究I−(5) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第7回 | 子ども学の研究I−(6) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第8回 | 子ども学の研究I−(7) | 姫野　岸　中田　斎藤　小川　國田　牛島 |
| 第9回 | 子ども学の研究II−(1) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第10回 | 子ども学の研究II−(2) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第11回 | 子ども学の研究II−(3) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第12回 | 子ども学の研究II−(4) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第13回 | 子ども学の研究II−(5) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第14回 | 子ども学の研究II−(6) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 第15回 | 子ども学の研究II−(7) | 佐々木　中　伊藤　溝田　廣畑　西田　岡崎 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 毎回作成するレポートで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回，授業の内容をコメントペーパーにまとめて，提出する。<br>コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参すること。 |
| 受講の心得 | 原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，指示する。 |
| その他 | 本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記），公立小学校教諭・校長，県生涯学習ｾﾝﾀｰ，県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸誠一），公立小学校教諭・教頭・校長・教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 子ども研究法Ⅰ | | | 授業番号 | CL202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、佐々木　弘記、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、齊藤　佳子、小川　孝司、伊藤　智里、廣畑　まゆ美、牛島　光太郎、西田　寛子、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，１年次の「現代子ども学入門」を踏まえ，子ども学を構成する学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども学を探求していくために学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 科学的に考えるには<br>児童福祉学の研究内容・方法 | 中 |
| 第2回 | 教育社会学の研究内容・方法 | 中田 |
| 第3回 | 教育実践学の研究内容・方法 | 佐々木 |
| 第4回 | 情報教育学の研究内容・方法 | 岸 |
| 第5回 | 算数教育学の研究内容・方法 | 姫野 |
| 第6回 | 国語教育学の研究内容・方法 | 小川 |
| 第7回 | 幼児生活学の研究内容・方法 | 齊藤 |
| 第8回 | 英語教育学の研究内容と方法 | 西田 |
| 第9回 | 保育文化学の研究内容・方法 | 伊藤 |
| 第10回 | 図画工作教育学の研究内容・方法 | 牛島 |
| 第11回 | 幼稚園・小学校教育実習の意義と方法 | 姫野・齊藤 |
| 第12回 | 施設実習（介護等体験含む）の意義と方法 | 中 |
| 第13回 | 保育の実際（１） | 廣畑・大坪 |
| 第14回 | 保育の実際（２） | 廣畑・大坪 |
| 第15回 | 幼稚園・小学校教育実習の実際 | 姫野・齋藤 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。<br>コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。 |
| 受講の心得 | 原則として「現代子ども学入門」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，指示する。 |
| その他 | 本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記）公立小学校教諭・校長・教委（姫野），公立小学校教諭・校長・県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 子ども研究法Ⅱ | | | 授業番号 | CL203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、小川　孝司、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、大坪　加奈、岡崎　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，「子ども研究法I」を踏まえ，子ども学を構成する学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための知識や技能を一層深く習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども学を探求していくために，学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する知識や技能を一層深く習得することを目的とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 体育科教育学の研究内容・方法 | 溝田 |
| 第2回 | 基礎心理学の研究内容・方法 | 國田 |
| 第3回 | 幼児教育学の研究内容・方法 | 廣畑 |
| 第4回 | 歌唱演奏学の研究内容・方法 | 川崎 |
| 第5回 | 幼児音楽の研究内容と方法 | 大坪 |
| 第6回 | 研究倫理 | 小川 |
| 第7回 | 小学校教育実習の実際（１）<br>幼稚園教育実習の実際（１） | 姫野・溝田<br>齊藤・岡崎 |
| 第8回 | 小学校教育実習の実際（２）<br>幼稚園教育実習の実際（２） | 姫野・溝田<br>齊藤・岡崎 |
| 第9回 | 小学校教育の実際（１）<br>幼児教育の実際（１） | 岸・小川<br>齊藤・岡崎 |
| 第10回 | 小学校教育の実際（２）<br>幼児教育の実際（２） | 岸・小川<br>齊藤・岡崎 |
| 第11回 | 施設実習の実際 | 中 |
| 第12回 | 小学校・幼稚園教育実習へ向けて | 姫野・齋藤 |
| 第13回 | 子ども研究の成果（１） | 溝田 |
| 第14回 | 子ども研究の成果（２） | 中 |
| 第15回 | 子ども研究のまとめ | 中田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。<br>コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。 |
| 受講の心得 | 原則として「子ども研究法I」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，指示する。 |
| その他 | 本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・校長・教委（姫野），公立小学校教諭・校長・県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸），公立小学校教諭・校長（小川） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 課題研究Ⅰ | | | 授業番号 | CL304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、佐々木　弘記、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、牛島　光太郎、西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 課題研究は，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し，学生自身が自らの研究課題を明確にすることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方について。各領域の特性について理解する。<br>第2回　各領域においての研究課題。<br>第3回～第15回　指導教員のもとで各領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 領域（キーワード）<br>教育実践学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，歌唱演奏学，幼児教育学 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題の理解度と定着度を評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として「子ども研究法II」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は，随時，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 課題研究Ⅱ | | | 授業番号 | CL305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、佐々木　弘記、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、牛島　光太郎、西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 課題研究IIでは，課題研究Iで整理された先行研究をもとに，どのような研究課題があるのか，またどのような研究方法があるのかについて学習していく。<br>課題研究は，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，学校教育学，教科教育学，情報教育学，福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学，基礎心理学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い，卒業研究I･IIへと繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 第1回～第15回　指導教員のもとで領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 領域（キーワード）<br>教育実践学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，歌唱演奏学，幼児教育学 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題の理解度・定着度を評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として「課題研究I」と「キャリア教育論」を履修していること。<br>授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。 |
| 授業外学修 | 授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は，随時，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ | | | 授業番号 | CL406 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、佐々木　弘記、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、小川　孝司、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 卒業研究Iは，課題研究で到達した卒業研究の課題に対して研究をどのように進めるのかを具体的に学修する。課題の設定や研究への着手に先立って，先行研究をレビューし，リサーチクエスチョンを明らかにする。<br>子ども学には，様々な領域や方法が存在するので，領域の特色に応じた質的研究や量的研究等の研究方法が用いられる。各指導教員の指導計画に沿って計画的に卒業研究がまとめられるように進めていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 領域（キーワード）<br>教育実践学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，幼児音楽学 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 卒業研究の内容を評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として「課題研究II」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は，随時，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | | | 授業番号 | CL407 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、佐々木　弘記、岸　誠一、姫野　俊幸、中田　周作、溝田　知茂、齊藤　佳子、小川　孝司、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 卒業研究IIは，これまで受けてきた卒業研究Iでの指導をもとに，卒業論文の提出を目指して，各自，計画的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜，組み合わせて，各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。<br>また，学生が4年間の学びの集大成として，将来への自信を持つことができるように卒業研究の指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業研究を卒業論文あるいは作品として完成させることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 領域（キーワード）<br>教育実践学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，幼児音楽学，幼児教育学 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する |
| レポート | | 課題の理解度を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 卒業研究の成果と発表内容 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として「卒業研究I」を履修していること。 |
| 授業外学修 | 各自が卒業論文を完成させるために，授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は，随時，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 基礎学力養成セミナーⅠ 1クラス | 授業番号 | CM101A | サブタイトル | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 弘記、小川 孝司、牛島 光太郎、西田 寛子 | | | | |

| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。 |
| 到達目標 | 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画 備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校の教科内容（国語） 基礎 | 小川 |
| 第2回 | 小学校の教科内容（国語） 基礎 | 小川 |
| 第3回 | 小学校の教科内容（国語） 演習 | 小川 |
| 第4回 | 小学校の教科内容（国語） 演習 | 小川 |
| 第5回 | 小学校の教科内容（国語） テスト | 小川 |
| 第6回 | 小学校の教科内容（算数） 基礎 | 佐々木 |
| 第7回 | 小学校の教科内容（算数） 基礎 | 佐々木 |
| 第8回 | 小学校の教科内容（算数） 発展 | 佐々木 |
| 第9回 | 小学校の教科内容（理科） 基礎 | 佐々木 |
| 第10回 | 小学校の教科内容（理科） 発展 | 佐々木 |
| 第11回 | 小学校の教科内容（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第12回 | 小学校の教科内容（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第13回 | 小学校の教科内容（社会） 発展 | 牛島 |
| 第14回 | 小学校の教育（外国語活動） 基礎 | 西田 |
| 第15回 | 小学校の教育（外国語活動） 発展 | 西田 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 10 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 期末の５教科テストによって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィースアワーに各担当教員に質問したり，eラーニング教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。 |
| 授業外学修 | １．授業で解説された内容について復習をしておくこと。<br>２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。<br>３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。<br>４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。<br>5.白鷺Eラーニングを活用し学力向上に努めること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。<br>特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 基礎学力養成セミナーⅠ 2クラス | | | 授業番号 | CM101B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 弘記、小川 孝司、牛島 光太郎、西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校の教科内容（国語） 基礎 | 小川 |
| 第2回 | 小学校の教科内容（国語） 基礎 | 小川 |
| 第3回 | 小学校の教科内容（国語） 演習 | 小川 |
| 第4回 | 小学校の教科内容（国語） 演習 | 小川 |
| 第5回 | 小学校の教科内容（国語） テスト | 小川 |
| 第6回 | 小学校の教科内容（算数） 基礎 | 佐々木 |
| 第7回 | 小学校の教科内容（算数） 基礎 | 佐々木 |
| 第8回 | 小学校の教科内容（算数） 発展 | 佐々木 |
| 第9回 | 小学校の教科内容（理科） 基礎 | 佐々木 |
| 第10回 | 小学校の教科内容（理科） 発展 | 佐々木 |
| 第11回 | 小学校の教科内容（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第12回 | 小学校の教科内容（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第13回 | 小学校の教科内容（社会） 発展 | 牛島 |
| 第14回 | 小学校の教育（外国語活動） 基礎 | 西田 |
| 第15回 | 小学校の教育（外国語活動） 発展 | 西田 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 10 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 期末の５教科テストによって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィースアワーに各担当教員に質問したり，eラーニング教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。 |
| 授業外学修 | １．授業で解説された内容について復習をしておくこと。<br>２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。<br>３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。<br>４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。<br>5.白鷺Eラーニングを活用し学力向上に努めること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。<br>特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 基礎学力養成セミナーⅡ 1クラス | | | 授業番号 | CM102A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 弘記、小川 孝司、牛島 光太郎、西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自己課題の分析と確認 | 佐々木 |
| 第2回 | 大学での学修方法（数学） 基礎 | 佐々木 |
| 第3回 | 大学での学修方法（数学） 演習 | 佐々木 |
| 第4回 | 大学での学修方法（理科） 基礎 | 佐々木 |
| 第5回 | 大学での学修方法（理科） 発展 | 佐々木 |
| 第6回 | 大学での学修方法（国語） 基礎 | 小川 |
| 第7回 | 大学での学修方法（国語） 発展１ | 小川 |
| 第8回 | 大学での学修方法（国語） 発展２ | 小川 |
| 第9回 | 大学での学修方法（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第10回 | 大学での学修方法（社会） 発展１ | 牛島 |
| 第11回 | 大学での学修方法（社会） 発展２ | 牛島 |
| 第12回 | 大学での学修方法（英語） 基礎 | 西田 |
| 第13回 | 大学での学修方法（英語） 発展１ | 西田 |
| 第14回 | 大学での学修方法（英語） 発展２ | 西田 |
| 第15回 | 大学での学修方法 まとめ | 佐々木 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 期末の５教科テストによって評価する。 |
| その他 | 10 | 白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィースアワーに各担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。 |
| 授業外学修 | １．授業で解説された内容について復習をしておくこと。<br>２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。<br>３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。<br>４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。<br>特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 基礎学力養成セミナーⅡ 2クラス | | | 授業番号 | CM102B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木 弘記、小川 孝司、牛島 光太郎、西田 寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自己課題の分析と確認 | 佐々木 |
| 第2回 | 大学での学修方法（数学） 基礎 | 佐々木 |
| 第3回 | 大学での学修方法（数学） 演習 | 佐々木 |
| 第4回 | 大学での学修方法（理科） 基礎 | 佐々木 |
| 第5回 | 大学での学修方法（理科） 発展 | 佐々木 |
| 第6回 | 大学での学修方法（国語） 基礎 | 小川 |
| 第7回 | 大学での学修方法（国語） 発展１ | 小川 |
| 第8回 | 大学での学修方法（国語） 発展２ | 小川 |
| 第9回 | 大学での学修方法（社会） 基礎 | 牛島 |
| 第10回 | 大学での学修方法（社会） 発展１ | 牛島 |
| 第11回 | 大学での学修方法（社会） 発展２ | 牛島 |
| 第12回 | 大学での学修方法（英語） 基礎 | 西田 |
| 第13回 | 大学での学修方法（英語） 発展１ | 西田 |
| 第14回 | 大学での学修方法（英語） 発展２ | 西田 |
| 第15回 | 大学での学修方法 まとめ | 佐々木 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 期末の５教科テストによって評価する。 |
| その他 | 10 | 白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィースアワーに各担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。 |
| 授業外学修 | １．授業で解説された内容について復習をしておくこと。<br>２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。<br>３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。<br>４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。<br>特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 総合教養養成セミナーⅠ | | | 授業番号 | CM203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 1年次に実施した「基礎学力セミナーI・II」を深化・統合させる講座である。前半は，小学校コース，保幼コースともに，現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する内容を学修し，幅広い教養を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション，自己課題の分析と確認 | |
| 第2回 | 一般教養：文学 | |
| 第3回 | 一般教養：古典 | |
| 第4回 | 一般教養：数的推理 | |
| 第5回 | 一般教養：判断推理 | |
| 第6回 | 一般教養：平面図形と立体図形 | |
| 第7回 | 一般教養：地理 | |
| 第8回 | 一般教養：歴史 | |
| 第9回 | 一般教養：公民 | |
| 第10回 | 一般教養：物理 | |
| 第11回 | 一般教養：化学 | |
| 第12回 | 一般教養：生物・地学 | |
| 第13回 | 一般教養：英語の読み方 | |
| 第14回 | 一般教養：英語の書き方 | |
| 第15回 | 総合評価テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 50 | まとめとなるテストによって評価する。 |
| その他 | 10 | 白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での小テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに担当教員に質問すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は随時配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 3 年次に教育実習 B を履修する学生，及び，公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合教養養成セミナーⅡ | | | 授業番号 | CM204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 1年次に実施した「基礎学力セミナーI・II」を深化・統合させる講座である。前半は，小学校コース，保幼コースともに，現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する内容を学修し，幅広い教養を身に付ける。後半は，特に社会・理科・英語に重点をおいて学修を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション，自己課題の確認と分析 | |
| 第2回 | 一般教養：文学 | |
| 第3回 | 一般教養：古典 | |
| 第4回 | 一般教養：数的推理 | |
| 第5回 | 一般教養：判断推理 | |
| 第6回 | 一般教養：数学 | |
| 第7回 | 一般教養：地理 | |
| 第8回 | 一般教養：歴史 | |
| 第9回 | 一般教養：公民 | |
| 第10回 | 一般教養：物理 | |
| 第11回 | 一般教養：化学 | |
| 第12回 | 一般教養：生物・地学 | |
| 第13回 | 一般教養：英語の読み方 | |
| 第14回 | 一般教養：英語の書き方 | |
| 第15回 | 総合評価テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業時に行なう小テストによって評価する。 |
| 定期試験 | 50 | まとめとなるテストによって評価する。 |
| その他 | 10 | 白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での小テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりして学力の向上に努める。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な資料は随時配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 3 年次に教育実習 B を履修する学生，及び，公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | キャリア教育論 | | | 授業番号 | CM305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂、小川　孝司、牛島　光太郎、西田　寛子、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 卒業後，保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために，これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに，望ましい職業観・勤労観を考える。また，進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに，望ましい職業観・勤労観を醸成し，社会人基礎力を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 一生涯のキャリアを考える | |
| 第2回 | キャリア形成について(1) | |
| 第3回 | キャリア形成について(2) | |
| 第4回 | 就労体験について | |
| 第5回 | 保育士・幼稚園教諭の勤務の実際 | |
| 第6回 | 小学校教諭の勤務の実際 | |
| 第7回 | 保育士・幼稚園教諭への道 | |
| 第8回 | 小学校教諭への道 | |
| 第9回 | 社会人としてのマナー(1) | |
| 第10回 | 社会人としてのマナー(2) | |
| 第11回 | 社会人としてのマナー(3) | |
| 第12回 | 身だしなみ講座 | |
| 第13回 | 自己分析 | |
| 第14回 | 働くことの意義 | |
| 第15回 | 就職試験・採用試験に向けて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自らの将来について真摯に考え，取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業について，4時間以上を予習復習に充てること。<br>模擬試験に向けて2時間以上の予習して臨み，その結果を受けて2時間以上復習すること。<br>また，レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。<br>更に，就職支援センターを1度は訪れ，就職活動の具体を体験すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務現場での経験を生かして，キャリアの形成について指導を行う。 |

| 科目名 | キャリア教育演習 | | | 授業番号 | CM306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂、佐々木　弘記、姫野　俊幸、齊藤　佳子、伊藤　智里、小川　孝司、牛島　光太郎、西田　寛子、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし，具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・職種研究を行い，自分にあったキャリアプランを作成する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 採用試験・就職試験で行われる面接，筆記試験，実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。<br>上記のように，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 講座の進め方，アンケート | |
| 第2回 | 自己分析 | |
| 第3回 | 適性と進路 | |
| 第4回 | 職種の特徴 | |
| 第5回 | 面接の受け方 | |
| 第6回 | 採用試験の特徴 | |
| 第7回 | 個人面接 | |
| 第8回 | 集団面接 | |
| 第9回 | 集団活動 | |
| 第10回 | 一般教養試験 | |
| 第11回 | 専門教養試験 | |
| 第12回 | 教職教養試験 | |
| 第13回 | 先輩からのアドバイス | |
| 第14回 | 市町村が望む保育士・教師像 | |
| 第15回 | 進路決定へ向けて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 30 | 各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 40 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 卒業後の進路を見据えて，積極的な態度で授業に参加することが望ましい。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教員採用試験対策セサミノート１教職教養 | 東京アカデミー | 七賢出版 | | 1500 |
| 教員採用試験対策セサミノート３専門教科小学校全科 | 東京アカデミー | 七賢出版 | | 1500 |
| 使用テキスト：自由記載 | 「保育所指導指針・解説」「幼稚園教育要領・解説」<br>「就活グリーンBOOK」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | 授業中に適宜紹介する。 | | | |
| その他 | プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。 | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木） | | | |

| 科目名 | 人権教育論 | | | 授業番号 | CN201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人権問題の現状と課題についての考察を通し，人権の正しい理解を深めるとともに，差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育の在り方について考え，人権課題の解決につながる実践力を高める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 課題解決の実践力向上に向け，人権問題について認識を深め，人権教育の重要性を理解する。<br>あわせて，現代の子どもをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け，適切な対応ができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうちの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人権とは，人権問題とは 身近な生活の中にある人権問題から | |
| 第2回 | 人権問題の現状と課題(1)子ども | |
| 第3回 | 人権問題の現状と課題(2)障がい者 | |
| 第4回 | 人権問題の現状と課題(3)女性 | |
| 第5回 | 人権問題の現状と課題(4)ハンセン病元患者 | |
| 第6回 | 人権問題の現状と課題(5)同和問題 | |
| 第7回 | 人権問題の現状と課題(6)デートDV | |
| 第8回 | 人権問題の現状と課題(7)LGBTq | |
| 第9回 | 人権週間の取り組みから | |
| 第10回 | 学校における人権教育(1)人権教育とは | |
| 第11回 | 学校教育における人権教育(2)人権教育の指導内容 | |
| 第12回 | 学校教育における人権教育(3)人権教育の指導方法 | |
| 第13回 | 学校教育における人権教育(4)人権教育の学習修指導案と評価 | |
| 第14回 | 学校の教育活動全体を通じた人権教育 | |
| 第15回 | 学修のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表，ノート整理，予習復習等によって評価する。 |
| レポート | 30 | リポートや学習シートによる考察や記述，意欲的，具体的，自分なりに取り組めているか。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 講義で学んだ人権課題及び人権教育の現状や取組について具体的に理解できていること。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 人権問題への関心を高め，自らの課題として人権問題の解決に取り組むことができる意欲や実践力を高めようとする前向きで，謙虚な態度で受講してください。 |
| 授業外学修 | ノート整理や配付する資料や紹介する参考文献やネットでの検索等を次回までにしておくこと。<br>毎回，学習シートの提出等を実施するので，復習を十分にしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業用資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小中高教員　岡山県教育委員会専門的教育職員　小学校教頭・校長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小中高の教員や小学校教頭・校長，教育委員会専門的教育職員として人権教育に取り組んできた経験を活かし，<br>学校現場に直結した人権教育計画や授業構想などの講義を行う。 |

| 科目名 | 子どもとおやつ | | | 授業番号 | CN202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち，欠かすことのできないものである。<br>そこで，この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・幼児期の栄養の基礎知識を習得する<br>・幼児期における間食の必要性について理解する<br>・間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得する<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | この授業は全8回の授業である。<br>履修人数によっては２クラスで隔週開講となる場合がある。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児期の間食の意義<br>子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。 | |
| 第2回 | 子どものおやつ（１）<br>子どものおやつを作る上で必要な事項（エネルギー，形態など）を理解する。 | |
| 第3回 | 子どものおやつ（２）<br>子どものおやつとアレルギー（アレルギーの多いもの，食品表示の見方）について理解する。 | |
| 第4回 | 子どものおやつ（３）<br>子どものおやつの作り方を理解する。 | |
| 第5回 | 子どものおやつ（４）<br>子どものおやつの作り方を理解する。 | |
| 第6回 | 子どものおやつ（５）<br>子どものおやつの作り方を理解する。 | |
| 第7回 | アレルギー対応のおやつ<br>アレルギーをもつ子どものおやつの作り方を理解する。 | |
| 第8回 | 子どもと一緒に作るおやつ<br>子どもと一緒に作れるおやつについて理解する。 | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 授業の内容の最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 幼児の栄養や，調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。<br>髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業で出てきたポイントを復習すること<br>2．日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと絵本 1クラス | | | 授業番号 | CN203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、牛島　光太郎、廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解したうえで，絵本から広がったり深まったりする様々なつながりを生み出す方法を具体的に検討する。また，保育・教育現場で絵本を取り入れられるように絵本の読み合いや分析，模擬保育など，実践的活動を実施する。多くの絵本を知り，自らが興味・関心を持てるよう，多様な観点からアプローチする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，絵本の特徴と意義を多角的な観点から捉えることができる。<br>２，絵本と子どもの発達について理解できる。<br>３，絵本を保育・教育のなかに取り入れていく具体的な方法が提案できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現状をもとに授業の目標を決める | 伊藤 |
| 第2回 | 絵本を分析する | 牛島 |
| 第3回 | 絵本の読み聞かせの方法を考える(1) | 牛島 |
| 第4回 | 絵本の読み聞かせの方法を考える(2) | 牛島 |
| 第5回 | 子どもの発達と絵本への反応を知る(1) | 牛島 |
| 第6回 | 子どもの発達と絵本への反応を知る(2) | 牛島 |
| 第7回 | 絵本の読み聞かせ発表(1) | 廣畑 |
| 第8回 | 絵本の読み聞かせ発表(2) | 廣畑 |
| 第9回 | 絵本を使った保育の方法を考える(1) | 廣畑 |
| 第10回 | 絵本を使った保育の方法を考える(2) | 廣畑 |
| 第11回 | 模擬保育(1) | 廣畑 |
| 第12回 | 絵本を使った発展的な保育の方法を考える(1) | 伊藤 |
| 第13回 | 絵本を使った発展的な保育の方法を考える(2) | 伊藤 |
| 第14回 | 絵本論と実際 | 伊藤 |
| 第15回 | 授業と実践の振り返り | 伊藤 |
| 授業計画　備考2 | 少人数のグループでの取り組みや，クラス内で絵本を読みあうことを多く行います。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への積極的な参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業毎の課題を評価する。 |
| 小テスト | 30 | 読み聞かせや模擬保育のパフォーマンスを評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 授業内容の理解を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎授業，自らテーマを設定し，絵本を紹介する。多くの絵本と出会い，生活を豊かにしてほしい。 |
| 授業外学修 | 絵本探索を含め，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じて適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと絵本 2クラス | | | 授業番号 | CN203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、牛島　光太郎、廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解したうえで，絵本から広がったり深まったりする様々なつながりを生み出す方法を具体的に検討する。また，保育・教育現場で絵本を取り入れられるように絵本の読み合いや分析，模擬保育など，実践的活動を実施する。多くの絵本を知り，自らが興味・関心を持てるよう，多様な観点からアプローチする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，絵本の特徴と意義を多角的な観点から捉えることができる。<br>２，絵本と子どもの発達について理解できる。<br>３，絵本を保育・教育のなかに取り入れていく具体的な方法が提案できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現状をもとに授業の目標を決める | 伊藤 |
| 第2回 | 絵本を分析する | 牛島 |
| 第3回 | 絵本の読み聞かせの方法を考える(1) | 牛島 |
| 第4回 | 絵本の読み聞かせの方法を考える(2) | 牛島 |
| 第5回 | 子どもの発達と絵本への反応を知る(1) | 牛島 |
| 第6回 | 子どもの発達と絵本への反応を知る(2) | 牛島 |
| 第7回 | 絵本の読み聞かせ発表(1) | 廣畑 |
| 第8回 | 絵本の読み聞かせ発表(2) | 廣畑 |
| 第9回 | 絵本を使った保育の方法を考える(1) | 廣畑 |
| 第10回 | 絵本を使った保育の方法を考える(2) | 廣畑 |
| 第11回 | 模擬保育(1) | 廣畑 |
| 第12回 | 絵本を使った発展的な保育の方法を考える(1) | 伊藤 |
| 第13回 | 絵本を使った発展的な保育の方法を考える(2) | 伊藤 |
| 第14回 | 絵本論と実際 | 伊藤 |
| 第15回 | 授業と実践の振り返り | 伊藤 |
| 授業計画　備考2 | 少人数のグループでの取り組みや，クラス内で絵本を読みあうことを多く行います。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への積極的な参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業毎の課題を評価する。 |
| 小テスト | 30 | 読み聞かせや模擬保育のパフォーマンスを評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 授業内容の理解を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎授業，自らテーマを設定し，絵本を紹介する。多くの絵本と出会い，生活を豊かにしてほしい。 |
| 授業外学修 | 絵本探索を含め，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じて適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと楽器 1クラス | | | 授業番号 | CN204A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。また，楽器の扱いや奏法，応用の仕方について学ぶ。<br>子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて，楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。<br>子どもに「表現の楽しさ」を教えるには，指導者（保育者）自身がまず，集中して音に耳を傾ける事ができ，子どもの気持ちになって，生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして，それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「表現」と楽器の関係 | |
| 第2回 | 様々な楽器の演奏と指導法 | |
| 第3回 | 子どもが使用する楽器 | |
| 第4回 | 子どもが使用する楽器と楽曲（３，４歳児） | |
| 第5回 | 子どもが使用する楽器と楽曲（５，６歳児） | |
| 第6回 | 楽器と合奏 | |
| 第7回 | 合奏法とその留意点 | |
| 第8回 | 日本の楽器（１） | |
| 第9回 | 日本の楽器（２） | |
| 第10回 | 日本の楽器と指導法（１） | |
| 第11回 | 日本の楽器と指導法（２） | |
| 第12回 | 世界の楽器（１） | |
| 第13回 | 世界の楽器（２） | |
| 第14回 | 生活と楽器（１） | |
| 第15回 | 生活と楽器（２） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子ども，指導者の，教育（保育）現場での気持ちを想像する事。<br>音を出す時，出さない時のメリハリを大切にする事。<br>学ぶ者同士，お互いに，良い所を認め合う事。<br>日常生活の中でも，さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し，実践できるようにする事。 |
| 授業外学修 | １．予習として，子どもの楽器について調べる。<br>２．復習として，授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または，授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。<br>３．発展学習として，ピアノなどの楽器や，リズムの練習をする。または，単発の授業ではなく，それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ，授業の内容を理解，発展させていく。<br><br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修する事。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義ごとに必要なプリントを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ジュニアオーケストラ講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと楽器 2クラス | | | 授業番号 | CN204B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。また，楽器の扱いや奏法，応用の仕方について学ぶ。<br>子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて，楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。<br>子どもに「表現の楽しさ」を教えるには，指導者（保育者）自身がまず，集中して音に耳を傾ける事ができ，子どもの気持ちになって，生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして，それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「表現」と楽器の関係 | |
| 第2回 | 様々な楽器の演奏と指導法 | |
| 第3回 | 子どもが使用する楽器 | |
| 第4回 | 子どもが使用する楽器と楽曲（３，４歳児） | |
| 第5回 | 子どもが使用する楽器と楽曲（５，６歳児） | |
| 第6回 | 楽器と合奏 | |
| 第7回 | 合奏法とその留意点 | |
| 第8回 | 日本の楽器（１） | |
| 第9回 | 日本の楽器（２） | |
| 第10回 | 日本の楽器と指導法（１） | |
| 第11回 | 日本の楽器と指導法（２） | |
| 第12回 | 世界の楽器（１） | |
| 第13回 | 世界の楽器（２） | |
| 第14回 | 生活と楽器（１） | |
| 第15回 | 生活と楽器（２） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子ども，指導者の，教育（保育）現場での気持ちを想像する事。<br>音を出す時，出さない時のメリハリを大切にする事。<br>学ぶ者同士，お互いに，良い所を認め合う事。<br>日常生活の中でも，さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し，実践できるようにする事。 |
| 授業外学修 | １．予習として，子どもの楽器について調べる。<br>２．復習として，授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または，授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。<br>３．発展学習として，ピアノなどの楽器や，リズムの練習をする。または，単発の授業ではなく，それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ，授業の内容を理解，発展させていく。<br><br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修する事。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義ごとに必要なプリントを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ジュニアオーケストラ講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと手芸 | | | 授業番号 | CN205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳幼児の年齢と発達に応じた布おもちゃの製作とその遊びの展開を通して，保育内容・方法を実践的に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解し，製作することができる。<br>・製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。<br>・保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技能を身に付ける。<br>・製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 人形，布製ボール，フェルトのボタン・フォック・スナップ・ファスナー・ひも通し，指人形，フェルトの絵本など，さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては，学生からの要望に柔軟に応じる。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 布おもちゃの魅力を探る（子どもにとっての布おもちゃの理解） | |
| 第2回 | 布おもちゃ作りの資料収集，題材の選定，決定（教材研究），製作に必要な材料と用具 | |
| 第3回 | フェルトを用いた指人形づくり　素材の知識 | |
| 第4回 | 布（フエルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(1) | |
| 第5回 | 布（フエルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(2) | |
| 第6回 | 布おもちゃ作り(1)　布おもちゃ製作の手順，製作計画，型紙の作り方，型紙の写し方 | |
| 第7回 | 布おもちゃ作り(2)　布の切り方，　基本的な縫い方 | |
| 第8回 | 布おもちゃ作り(3)　手芸綿の入れ方 | |
| 第9回 | 布おもちゃ作り(4)　顔・体・手・足のつけ方 | |
| 第10回 | 布おもちゃ作り(5)　手芸用ボンド，接着剤の特性 | |
| 第11回 | 布おもちゃ作り(6)　面ファスナー・マジックテープ，ひも，安全ピン，キーホルダーのつけ方 | |
| 第12回 | 布おもちゃ作り(7)　製作の工夫，表情のつけ方 | |
| 第13回 | 布おもちゃ作り(8)　仕上げ | |
| 第14回 | 年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) | |
| 第15回 | 年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な姿勢・態度 |
| レポート | 20 | 授業ごとのレポート内容 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 指人形：10%，名札・ワッペン：10%，布おもちゃ：40%，布おもちゃの遊び方の展開：10% |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。 |
| 受講の心得 | ・演習中心の授業なので，毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく，授業に取り組む姿勢や態度も重要である。<br>・製作において必要となる参考資料や材料等は，各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもとダンス | | | 授業番号 | CN206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂、佐々木　弘記、大田原　愛美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児期（児童期）で扱うダンス，踊り，パフォーマンス等の有効性について，講義と演習を組み合わせてその内容について理解する。また，幼児（児童）のダンス等の評価についてその方法や分析・評価の方法について知る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次の３点を本科目の到達目標とする。<br>1．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解する。その指導方法について知る。<br>2．幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解する。<br>3．幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解する。<br><br>なお本科目はディプロマ・ポリシーのの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児期（児童期）の子どもの身体的発達の過程とその発達過程に沿ったダンス等 | 溝田 |
| 第2回 | 幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1) | 溝田 |
| 第3回 | 幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2) | 溝田 |
| 第4回 | 幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と指導法についての演習(1) | 大田原 |
| 第5回 | 幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と指導法についての演習(2) | 大田原 |
| 第6回 | デジタルテクノロジーの活用法(1)ニンテンドースイッチの活用法と演習(1) | 大田原・佐々木 |
| 第7回 | デジタルテクノロジーの活用法(2)ニンテンドースイッチの活用法と演習(2) | 大田原・佐々木 |
| 第8回 | デジタルテクノロジーの活用法(3)メタクエストの活用法と演習(1) | 大田原・佐々木 |
| 第9回 | デジタルテクノロジーの活用法(4)メタクエストの活用法と演習(2) | 大田原・佐々木 |
| 第10回 | 幼児期・児童期に適切なダンス，踊り，パフォーマンスを行うための設定・計画等について | 大田原 |
| 第11回 | グループ演習(1) | 大田原・佐々木 |
| 第12回 | グループ演習(2) | 大田原・佐々木 |
| 第13回 | グループ演習(3) | 大田原・佐々木 |
| 第14回 | グループ創作ダンス発表会 | 大田原・佐々木 |
| 第15回 | グループ創作ダンス発表会のフィードバック・ディスカッション（各グループで分析，結果の発表：質疑応答） | 大田原 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | |
| レポート | 30 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | ダンス，踊り，パフォーマンス等の実際 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で修得した内容が次回の授業で表現・発揮できるよう，努力すること。本科目の性質上，開講教室が変動すことがあるので，確認をすること。また，欠席・遅刻がないように体調管理等に注意すること。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木） |

| 科目名 | 子どもとゲーム | | | 授業番号 | CN207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児期（児童期）で扱うゲーム，遊び等の有効性について，講義と演習を組み合わせてその内容について理解する。また，幼児（児童）のゲーム，遊び等の評価についてその方法や分析・評価の方法について知る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次の３点を本科目の到達目標とする。<br>1．幼児期（児童期）に適切なゲーム，遊び等について理解する。その指導方法について知る。<br>2．幼児（児童）のゲーム，遊び等について各種の分析方法の目的と内容を理解する。<br>3．幼児（児童）のゲーム，遊び等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解する。<br><br>なお本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児期（児童期）の子どもの身体的発達の過程とその発達過程に沿ったゲーム，遊び等 | |
| 第2回 | 幼児期（児童期）におけるゲーム，遊び等の実際と教育的意義(1) | |
| 第3回 | 幼児期（児童期）におけるゲーム，遊び等の実際と教育的意義(2) | |
| 第4回 | 幼児期（児童期）におけるゲーム，遊び等の実際と子どもの姿(1) ビデオ観察から分析 | |
| 第5回 | 幼児期（児童期）におけるゲーム，遊び等の実際と子どもの姿(2) ビデオ観察から分析 | |
| 第6回 | 幼児期（児童期）におけるゲーム，遊び等の実際と子どもの姿(3) (1)，(2)の分析からの結果考察 | |
| 第7回 | 幼児期（児童期）のゲーム，遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(1)） | |
| 第8回 | 幼児期（児童期）のゲーム，遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(2)） | |
| 第9回 | 幼児期（児童期）のゲーム，遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(3)） | |
| 第10回 | ゲーム，遊び等の計画・設計 | |
| 第11回 | ゲーム，遊び等の実践 | |
| 第12回 | ゲーム，遊び等の評価 | |
| 第13回 | グループ演習（参与観察法，ビデオ分析，インタビュー調査）(1) | |
| 第14回 | グループ演習（参与観察法，ビデオ分析，インタビュー調査）(2) | |
| 第15回 | 小グループによるディスカッション（各グループで分析，結果の発表：質疑応答） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | |
| レポート | 30 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | ゲーム，遊び等の実際 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 障害児援助論 | | | 授業番号 | CN208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西　千秋 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 前半は，「障害児保育」「特別支援教育」等の学修内容を基礎に反復的に深める。中盤は，知的障害や発達障害等のある子どもの認知や行動の特徴を理解し，具体的な支援について考察する。後半は，めざすべきインクルーシブ保育（教育）やアセスメント，発達支援の技法について知ることで，卒業後の職場での実践に備える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の目標は，直感に頼ることなく客観的な思考をもって，発達に障害のある子どもを支援・指導するという考え方を身につけるとともに，自ら保護者や他者に対して助言するスキルを身につけることである。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害児保育（教育）の概論<br>障害のとらえ方の変化　障害児を保育（教育）することの意義 | |
| 第2回 | 乳幼児期の発達課題と障害特性(1)<br>愛着障害　運動障害　基本的生活習慣の確立 | |
| 第3回 | 乳幼児期の発達課題と障害特性(2)<br>言語・コミュニケーション　子どもの「困り感」 | |
| 第4回 | 障害児保育（教育）の仕組み<br>障害児保育（教育）の制度　障害児保育（教育）に関する専門性 | |
| 第5回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(1) 知的障害<br>知的障害児の認知の特徴　特徴を踏まえた支援のポイント | |
| 第6回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(2) 自閉症スペクトラム障害<br>自閉症スペクトラム障害の認知の特徴　社会性や行動の特徴 | |
| 第7回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(3) 自閉症スペクトラム障害<br>二次障害　特徴を踏まえた支援のポイント | |
| 第8回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(4) 注意欠陥・多動性障害<br>ＡＤＨＤの認知の特徴　ＡＤＨＤの行動の特徴 | |
| 第9回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(5) 注意欠陥・多動性障害<br>特徴を踏まえた支援のポイント　ＡＤＨＤと二次障害 | |
| 第10回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(6) 学習障害<br>学習障害の認知の特徴　学習障害の不器用さ | |
| 第11回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(7) 学習障害<br>特徴を踏まえた支援のポイント　二次的な問題の予防 | |
| 第12回 | 障害児の特徴と保育（教育）の実際(8) 言語障害<br>構音障害　吃音　言語発達の遅れ　音声障害 | |
| 第13回 | インクルーシブ保育（教育）<br>インクルーシブ保育（教育）とは　クラスメートへの対応 | |
| 第14回 | 障害児のアセスメント<br>心理検査　行動観察　面談 | |
| 第15回 | 発達支援の技法<br>ＡＢＡアプローチ　ＳＳＴ　ソーシャルストーリー<br>ＴＥＡＣＣＨプログラム | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度はもちろん，ワークへの参加状況も評価する。 |
| レポート | 60 | 授業全体を通して学修した内容の理解度について，自己洞察的（自身を省察）に問い評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 保育・教育・福祉等の現場で，障害を理解し，適切に支援を実践する専門的能力を学修しているかを規準に評価する。レポートでは記載された内容を評価し，コメントを記入して返却する。 |
| 受講の心得 | これまでの実習や課外活動などを通して，障害のある子どもやその保護者と関わって（支援して）きたことでしょう。皆さんの関わりはどのような裏付け（障害理解や支援の根拠）をもって行われましたか直感や経験ではないエビデンスに基づいた実践への一歩を踏み出しましょう。 |
| 授業外学修 | 実習や課外活動などを通して，障害のある子どもや保護者と交流する機会を積極的にもち，個々の関わりを俯瞰的に省察するよう心掛けてください。<br>授業開始までにテキストに目を通し，大筋を把握するとともに，自らの関心点・疑問点を明らかにしておいてください。<br>授業で学修した内容を振り返り，パワーポイントの資料に印を付けたりコメントを書き加えたりして，要点・疑問点をまとめてください。なお，疑問点は次の授業時間に質問してください。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる障害児保育　第2版 | 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 | ミネルヴァ書房 | | 2500円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭，特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，障害のある子どもやその保護者への対応について指導する。 |

| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | | | 授業番号 | CN209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，生涯発達の視点から人の一生を捉え，特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に，人の生理的・心理的発達について，家族・家庭の影響を踏まえて解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達についての基礎知識を身につけ，子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに，子どもの心の健康とその課題について理解する<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭支援の心理学とは | |
| 第2回 | 乳幼児期における発達 | |
| 第3回 | 学童期における発達 | |
| 第4回 | 青年期における発達 | |
| 第5回 | 成人期・老年期における発達 | |
| 第6回 | 家族・家庭の意義と機能 | |
| 第7回 | 親子関係・家族関係の理解 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 子育て家庭に関する現状と課題 | |
| 第10回 | ライフコースと仕事・子育て | |
| 第11回 | 多様な家庭とその理解 | |
| 第12回 | 特別な配慮を要する家庭 | |
| 第13回 | 子どもの生活・生育環境とその影響 | |
| 第14回 | 子どもの心の健康に関わる問題 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」 | 立花直樹・津田尚子(監修) | 晃洋書房 | 978-4-7710-3606-2 | 2000 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの理解と援助 1クラス | | | 授業番号 | CN210A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや，子どもを理解するための具体的な方法，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。<br>２，子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。<br>３，子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。<br>４，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における子どもの理解 | 大坪 |
| 第2回 | 子どもに対するかかわりと共感的理解 | 大坪 |
| 第3回 | 子どもの生活や遊び | 大坪 |
| 第4回 | 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 | 大坪 |
| 第5回 | 子ども相互のかかわりと関係づくり | 大坪 |
| 第6回 | 集団における経験と育ち | 大坪 |
| 第7回 | 発達による葛藤やつまずき | 大坪 |
| 第8回 | 保育の環境の理解と構成 | 大坪 |
| 第9回 | 環境の変化や移行 | 大坪 |
| 第10回 | 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 | 大坪 |
| 第11回 | 子ども理解のための職員間の対話 | 大坪 |
| 第12回 | 子ども理解のための保護者との情報共有 | 大坪 |
| 第13回 | 発達の課題に応じた援助とかかわり | 大坪 |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 | 大坪 |
| 第15回 | 発達の連続性と就学への支援 | 大坪 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら，子ども理解に努めること。 |
| 授業外学修 | 予・復習を行い，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの理解と援助 2クラス | | | 授業番号 | CN210B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや，子どもを理解するための具体的な方法，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。<br>２，子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。<br>３，子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。<br>４，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における子どもの理解 | 大坪 |
| 第2回 | 子どもに対するかかわりと共感的理解 | 大坪 |
| 第3回 | 子どもの生活や遊び | 大坪 |
| 第4回 | 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 | 大坪 |
| 第5回 | 子ども相互のかかわりと関係づくり | 大坪 |
| 第6回 | 集団における経験と育ち | 大坪 |
| 第7回 | 発達による葛藤やつまずき | 大坪 |
| 第8回 | 保育の環境の理解と構成 | 大坪 |
| 第9回 | 環境の変化や移行 | 大坪 |
| 第10回 | 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 | 大坪 |
| 第11回 | 子ども理解のための職員間の対話 | 大坪 |
| 第12回 | 子ども理解のための保護者との情報共有 | 大坪 |
| 第13回 | 発達の課題に応じた援助とかかわり | 大坪 |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 | 大坪 |
| 第15回 | 発達の連続性と就学への支援 | 大坪 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら，子ども理解に努めること。 |
| 授業外学修 | 予・復習を行い，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 幼児理解の理論と方法 | | | 授業番号 | CN212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について，発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児理解とは | |
| 第2回 | 幼児の発達の理解 | |
| 第3回 | 保育における理解と援助 | |
| 第4回 | 幼児の観察 | |
| 第5回 | 保育カンファレンス(1) | |
| 第6回 | 保育カンファレンス(2) | |
| 第7回 | 保育カウンセリング | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 障害のある幼児の理解(1) | |
| 第10回 | 障害のある幼児の理解(2) | |
| 第11回 | 障害のある幼児の理解(3) | |
| 第12回 | 発達臨床の現場 | |
| 第13回 | 発達臨床にかかわる人々 | |
| 第14回 | 家庭支援における幼児理解 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新しい保育講座(3) 子ども理解と援助 | 髙嶋景子・砂上史子（編著） | ミネルヴァ書房 | 9784623085316 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる臨床発達心理学 第4版 | 麻生 武・浜田寿美男（編） | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-06326-0 | 2800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育社会学 | | | 授業番号 | CN213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの発達は，これまで主として，心理学的アプローチにより解明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし，大きな社会変動と多元的価値観が錯綜する現代社会において，子どもの発達を解明するためには，子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため，特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。特に，学校教育に関する社会的事項，学校と地域との連携，学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し，子どもに関する問題を自ら分析し，解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの発達に対する社会学的アプローチとは | |
| 第2回 | 教育社会学の研究対象と研究方法 | |
| 第3回 | 教育社会学の研究対象としての教育政策 | |
| 第4回 | 教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情 | |
| 第5回 | 家族集団と子どもの社会化 | |
| 第6回 | 仲間集団と子どもの社会化 | |
| 第7回 | 地域社会と学校教育 | |
| 第8回 | 地域社会と子どもの教育 | |
| 第9回 | 学校集団の構造と組織 | |
| 第10回 | 学校集団の社会化機能 | |
| 第11回 | 学校安全の現状と課題 | |
| 第12回 | 学校の安全と危機管理 | |
| 第13回 | 子どもの社会化と逸脱行動 | |
| 第14回 | 子どもの逸脱行動の現実 | |
| 第15回 | 少年非行 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への取り組み姿勢を考慮する。 |
| レポート | 70 | 講義終了後に最終レポートを提出する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 講義のとき，毎回，コメントペーパーを提出する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | １）テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。<br>２）最終レポートの課題を探しながら受講すること。 |
| 授業外学修 | 事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを，週当たり4時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 変動社会と子どもの発達 | 住田正樹・高島秀樹 | 北樹出版 | 978-4-7793-0469-9 | 2100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育相談 | | | 授業番号 | CN215 | サブタイトル | (カウンセリングを含む) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育相談とは | |
| 第2回 | カウンセリングの理論 | |
| 第3回 | カウンセリングの技法 | |
| 第4回 | いじめ・不登校への対応 | |
| 第5回 | 学級崩壊・学級経営の問題への対応 | |
| 第6回 | 虐待・いのちの教育への対応 | |
| 第7回 | 非行・学校不適応への対応 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 発達障害への対応 | |
| 第10回 | 心の病への対応 | |
| 第11回 | 校内・他機関との連携 | |
| 第12回 | アセスメント：観察・面接 | |
| 第13回 | アセスメント：心理検査 | |
| 第14回 | 過程の理解と保護者への支援 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！教職エクササイズ3　教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子(編著) | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08178-3 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 発達心理学 | | | 授業番号 | CN216 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，生涯発達の視点から人の一生を捉え，特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発達心理学とは | |
| 第2回 | 赤ちゃんはいかに有能か | |
| 第3回 | 人間発達の可塑性 | |
| 第4回 | 母子相互作用の不思議 | |
| 第5回 | 世界認識の始まりと個性の育ち | |
| 第6回 | 象徴機能の成立と言語発達 | |
| 第7回 | 言語の機能と会話の発達 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 記憶し想像する心の発達 | |
| 第10回 | 心の理論の成立 | |
| 第11回 | 遊びの発達と遊びからの学び | |
| 第12回 | 思考と語りの成立過程 | |
| 第13回 | 科学する心の芽生え | |
| 第14回 | 生活世界から学びの世界へ | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる乳幼児心理学 | 内田伸子（編） | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-05000-0 | 2400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育社会学演習 | | | 授業番号 | CN314 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし，社会学の専門用語を確認しながら精読していく。<br>同時に，子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法，子ども学の役割についても検討する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども学は未だ発展の途上である。子ども学の確立を目指すためには，まず，様々な学問分野からのアプローチが必要である。<br>本演習は，その一助として，社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育社会学の研究対象と方法 | |
| 第2回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子ども社会学の位置付け） | |
| 第3回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの遊びとは） | |
| 第4回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：実証的アプローチとは） | |
| 第5回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：民間の子育て支援活動） | |
| 第6回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの仲間集団） | |
| 第7回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの放課後） | |
| 第8回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：自然体験活動の意義） | |
| 第9回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：マンガと子ども） | |
| 第10回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どものイメージ） | |
| 第11回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：地域社会と子ども） | |
| 第12回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：家庭と子ども） | |
| 第13回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：少年非行と子どもの発達） | |
| 第14回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：学歴社会と受験戦争） | |
| 第15回 | レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの発達と新しいメディア） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 発表及び質問 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 作成したレジュメ及びその修正 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 課題論文を読んでくること。討論に積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1．自分の発表前は，レジメの作成をすること。<br>2．発表後は，発表中に指摘を受けた事項を踏まえて，レジメを修正すること。<br>3．他者の発表の前に，テキストの該当箇所を読んで，質問を考えておくこと。<br><br>以上，週当たり4時間以上取り組むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 変動社会と子どもの発達 | 住田正樹・高島秀樹編 | 北樹出版 | 978-4-7793-0469-9 | 2，100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国語 | | | 授業番号 | CO201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教員免許の取得に関係して，小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科教育の目標及び内容等について，教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し，授業力の基礎を身に付ける。<br>グループによる話し合い等を通して，各教材の特質を理解するとともに，教材の見方や教材研究の素地を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して，各教材の特質を理解するとともに，小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本科目を学ぶ目的（言葉の働き） | |
| 第2回 | 国語科教育と国語教育 | |
| 第3回 | 文学的文章の指導（虚構と仕掛け） | |
| 第4回 | 文学的文章の指導（装置に反応する読者） | |
| 第5回 | 「書くこと」の学習過程 | |
| 第6回 | 実用的文章を書く指導 | |
| 第7回 | 生活文を書く指導 | |
| 第8回 | 「話すこと・聞くこと」の指導（話し合うこと） | |
| 第9回 | 「話すこと・聞くこと」の指導（スピーチ） | |
| 第10回 | 説明的文章の特質（筆者が伝えたいこと） | |
| 第11回 | 説明的文章の特質（説得性と潤色的表現） | |
| 第12回 | 説明的文章の特質（論理的思考力） | |
| 第13回 | 読書指導の目的と方法 | |
| 第14回 | 「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程 | |
| 第15回 | 「主体的・対話的で深い学び」に沿った授業改善 | |
| 授業計画　備考2 | 補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 予習への取り組み，意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な学習内容の定着度を評価する。 |
| その他 | | 授業時に作成する課題等によって評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポートは，予習した内容や資料を写すのではなく，その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。 |
| 受講の心得 | 配布資料及びレポートは，整理してファイルしておくこと。<br>学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，資料や課題に示された教科書の部分を読み，レポートにまとめ提出すること。<br>2．使用した教材をきっかけに，関連する教科書教材に関心を広げること。<br>3．日常的に読書に親しむこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校国語科授業研究 第五版 | 田近洵一・中村和弘他 | 教育出版 | 978-4-316-80465-1 | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小学校学習指導要領の理解，教材分析 |

| 科目名 | 算数 | | | 授業番号 | CO202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域，各学年の内容，系統性について理解するとともに，具体的な授業場面において，どのように指導するのか，どのように評価するのかについても考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。<br>２）算数科の各領域，各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。<br>３）算数科の学習評価の考え方を理解する。<br>４）算数科の背景となる数学とのつながりを理解し，教材研究に活用しようとする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 科目を学ぶ意義，算数を学ぶ意味 | |
| 第2回 | 数と計算領域（１）数の概念と表記，自然数 | |
| 第3回 | 数と計算領域（２）数の把握，数の表記 | |
| 第4回 | 数と計算領域（３）たし算，ひき算，かけ算，わり算 | |
| 第5回 | 数と計算領域（４）小数，分数 | |
| 第6回 | 数と計算領域（５）各学年における数の学び | |
| 第7回 | 図形領域（１）基本的な平面図形，立体図形，垂直や平行の関係 | |
| 第8回 | 図形領域（２）面積，体積 | |
| 第9回 | 測定領域（１）量と測定 | |
| 第10回 | 測定領域（２）量と測定の指導 | |
| 第11回 | 変化と関係領域（１）異種の量の割合 | |
| 第12回 | 変化と関係領域（２）関数の考え | |
| 第13回 | データの活用領域（１）統計と確率 | |
| 第14回 | 文章題，問題解決 | |
| 第15回 | 学習評価，数学的活動，数学的な見方・考え方，数学的リテラシー | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 意欲的な学習態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。 |
| レポート | 30 | 「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。 |
| 小テスト | 40 | 前回の授業の主要な内容の理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 15 | ノートのまとめ方を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。<br>自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら，実際に問題を解いたり，教え方を考えたりすること。 |
| 授業外学修 | 1　配付資料や小テスト等を整理して，本時の講義内容をノートにまとめ復習する。<br>2　発展学習として，授業で興味を持った内容について調べ深める。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説 算数編 | 文部科学省 | 文部科学省 | 9784491015507 | 242円 |
| 小学校算数科教科書1年～6年 | | 啓林館 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 生活 | | | 授業番号 | CO203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 池原　繁延 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 【授業の概要】<br>生活科の目標・内容・指導法などの基本を学習する。その過程で，生活科の本質について理解を深め，実際の授業にどのように反映するかを考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 【到達目標】<br>(1)生活科の目標・内容・指導法など概要について理解することができる。<br>(2)生活科の本質，特に「気づきの質を高める」ための基礎的な指導法について理解することができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 【授業計画 備考】<br>(1)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する。<br>(2)各単元と学習指導要領の内容を結びつけながら，生活科の本質について基礎的な内容を習得できるように，実際の小学校における授業場面をイメージしながら学習を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | (1)単元「春だ今日から２年生」小単元「校ていで春をさがそう」授業検討(2)「比較」について（3）板書方法（4）教科書の活用方法（5）活動に入る前の留意点 | |
| 第2回 | (1)単元「春だ今日から２年生」小単元「春のまちを歩こう」授業検討　(2)「比較」について（3）気付きの質を高めるための配慮事項 | |
| 第3回 | (1)単元「ぐんぐんそだてわたしの野さい」小単元「野さいをそだてよう」「野さいのせわをしよう」授業検討（2）表現活動の工夫について | |
| 第4回 | (1)単元「ぐんぐんそだてわたしの野さい」小単元「野さいのようすをつたえ合おう」「野さいをしゅうかくしよう」授業検討 (2)飼育・栽培活動を進めるうえでの，具体的な注意点 | |
| 第5回 | (1)単元「どきどきわくわくまちたんけん」小単元「まちのことを話そう」「たんけんの計画を立てよう」「まちをたんけんしよう」授業検討（2）表現活動の工夫や手立て（3）「安全面」について(4)指導要領生活科　内容1について | |
| 第6回 | (1)単元「生きものなかよし大作せん」小単元「生きものをさがそう」「生きものをそだてよう」授業検討　(2)「生活科の学習と自然環境」について(3)指導要領生活科　内容2について | |
| 第7回 | (1)単元「うごく　うごくわたしのおもちゃ」小単元「うごくおもちゃをつくろう」「もっとよくうごくおもちゃにしよう」授業検討（2)「児童の活動のみ取り方，記録の取り方」について(3)指導要領生活科　内容3について | |
| 第8回 | (1)単元「みんなでつかうまちのしせつ」小単元「図書館をつかおう」授業検討(2)教科書の活用について(3)指導要領生活科　内容4について | |
| 第9回 | (1)単元「もっとなかよしまちたんけん」小単元「もういちどたんけんに行こう」「まちの人に聞きに行こう」「分かったことを話し合おう」授業検討（2)「保護者，地域人材の活用」について(3)指導要領生活科　内容5について | |
| 第10回 | (1)「つながる広がるわたしの生活」小単元「つたえたいなまちのすてき」授業検討　(2）内容とポイント「学校と生活」「家庭と生活」「地域と生活」について(3)指導要領生活科　内容6について | |
| 第11回 | (1)単元「つながる広がるわたしの生活」小単元「まちの人をしょうたいしよう」授業検討　(2)内容とポイント「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」「自然や物を使った遊び」について(3)指導要領生活科　内容7について | |
| 第12回 | （1）単元「あしたへジャンプ」小単元「大きくなった自分のことをふりかえろう」授業検討（2）内容とポイント「動植物の飼育栽培」「生活や出来事の伝え合い」「自分の成長に」について(3)指導要領生活科　内容8・9について | |
| 第13回 | (1)単元「あしたへジャンプ」小単元「大きくなった自分のことをしらべよう」授業検討（2）「年間指導計画の作成」について | |
| 第14回 | (1)単元「あしたへジャンプ」小単元「自分のことをまとめよう」授業検討 (2)「主体的・対話的で深い学びにの実現」について | |
| 第15回 | (1)単元「あしたへジャンプ」小単元「ありがとうの気もちをつたえよう」授業検討　（2）「幼児教育との連携，中学年以降との接続」について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 発表内容，意欲的な授業態度 |
| レポート | 40 | 課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 【受講の心得】<br>小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | (1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。<br>(2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教材用プリント |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 東京書籍　新しい生活　下・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭・管理職 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際の小学校の授業に生かせるポイントを押さえた教育内容 |

| 科目名 | 音楽 | | | 授業番号 | CO204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 川崎　泰子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに， 授業を構成するために 必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校音楽科の授業を行うために必要な，基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し，それらを応用する知識を身につけ，各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校における音楽科教育の目標と内容 | |
| 第2回 | 教科の目標と学習指導要領 | |
| 第3回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　１年生 | |
| 第4回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　２年生 | |
| 第5回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　３年生 | |
| 第6回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　４年生 | |
| 第7回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　５年生 | |
| 第8回 | 表現－歌唱、器楽、創作－　６年生 | |
| 第9回 | 鑑賞教材－１，２年生 | |
| 第10回 | 鑑賞教材－３，４年生 | |
| 第11回 | 鑑賞教材－５，６年生 | |
| 第12回 | 音楽理論の確認と伴奏法 | |
| 第13回 | 「器楽・歌唱・創作」と教材・教具の工夫 | |
| 第14回 | 共通教材確認-MLでの活動をとおして- | |
| 第15回 | コンピュータを使った授業の工夫 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な学習態度，予習及び復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。実技を含む。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 20 | 課題の理解度から評価する。添削後返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 小テストでは実技も伴うため，授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。 |
| 受講の心得 | 小学校教員への教職意識を持つこと。<br>授業内で適宜小テスト（実技を含む）を行うので，前時間の復習をして授業に臨むこと。<br>配布されたプリントや資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>課題を実施すること。<br>上記を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集 | 大海由佳他 | 学研プラス | 978-4-05-154195-8 | 1600 |
| 小学校音楽科教育法 | | 教育芸術社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校音楽１～６年（教育芸術社） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 図画工作 | | | 授業番号 | CO205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，実際の活動を通して，「造形的な見方・考え方」について身につけることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)「造形的な見方・考え方」を理解する。<br>1-1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深い認識をもつことができる。<br>1-2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。<br>1-3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想することができる。<br>2)表現及び鑑賞の活動を通して，子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。<br>2-1)自分らしく，創造的に表現活動をすることができる。<br>2-2)「造形的な視点」について理解することができる。<br>2-3)材料や用具の適切な使用方法について理解することができる。<br>2-4)表し方などの工夫について理解することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 表現と鑑賞とは<br>ー図画工作科の目的と内容ー | |
| 第2回 | 図画工作科におけるICT活用 | |
| 第3回 | 低学年における表現と鑑賞1<br>ー造形あそびー | |
| 第4回 | 低学年における表現と鑑賞2<br>ー絵にあらわすー | |
| 第5回 | 低学年における表現と鑑賞3<br>ー立体にあらわすー | |
| 第6回 | 低学年における表現と鑑賞4<br>ー工作にあらわすー | |
| 第7回 | 中学年における表現と鑑賞1<br>ー造形あそびー | |
| 第8回 | 中学年における表現と鑑賞2<br>ー絵にあらわすー | |
| 第9回 | 中学年における表現と鑑賞3<br>ー立体にあらわすー | |
| 第10回 | 中学年における表現と鑑賞4<br>ー工作にあらわすー | |
| 第11回 | 高学年における表現と鑑賞1<br>ー造形あそびー | |
| 第12回 | 高学年における表現と鑑賞2<br>ー絵にあらわすー | |
| 第13回 | 高学年における表現と鑑賞3<br>ー立体にあらわすー | |
| 第14回 | 高学年における表現と鑑賞4<br>ー工作にあらわすー | |
| 第15回 | 「造形的な見方・考え方」の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 各階の表現活動における作品 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。 |
| 授業外学修 | １．復習として課題を課すことがある。<br>２．予習として事前に資料を配布することがあるので理解しておくこと。<br>以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，提示する。 |
| その他 | はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育 | | | 授業番号 | CO206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について，子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず，各種運動領域のそれぞれについて，領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に，運動自体の理解とともに，学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに，自らも示範することができるようになる。<br>なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 | |
| 第2回 | ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解 | |
| 第3回 | ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の内容とその実践 | |
| 第4回 | ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解 | |
| 第5回 | ボール運動：ネット型（バドミントン）の内容とその実践 | |
| 第6回 | ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解 | |
| 第7回 | ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の内容とその実践 | |
| 第8回 | 体つくり運動の理解・内容とその実践 | |
| 第9回 | 器械運動：マット運動の理解 | |
| 第10回 | 器械運動：マット運動の内容とその実践 | |
| 第11回 | 器械運動：跳び箱運動の理解 | |
| 第12回 | 器械運動：跳び箱運動の内容とその実践 | |
| 第13回 | 陸上運動：短距離走の理解 | |
| 第14回 | 陸上運動：短距離走の内容とその実践 | |
| 第15回 | 子どもの側に立つ教材づくり | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度 |
| レポート | 30 | 各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること |
| 小テスト | 30 | 全15回の授業を踏まえ，レポートを作成する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実技を伴うので，各運動領域に対して積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | ・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。<br>・運動に対する興味関心を高め，運動する習慣づくりを心がける。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎音楽Ａ | | | 授業番号 | CO207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美、河田　健二、川崎　泰子、大坪　加奈、嶋田　泉、織田　典恵、多田　悦子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | コード進行の基礎知識を学び，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し，レパートリー10曲を目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 前期の内容についての確認。子どもの成長と子どもを取りまく音楽について。 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第2回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　1<br>基本的な楽典の知識を習得する　1 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第3回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　2<br>基本的な楽典の知識を習得する　2 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第4回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　3<br>基本的な楽典の知識を習得する　3 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵 |
| 第5回 | 表現法とまとめ　1 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第6回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　4<br>基本的な楽典の知識を習得する　4 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第7回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　5<br>基本的な楽典の知識を習得する　5 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第8回 | 表現法とまとめ　2 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第9回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　6<br>基本的な楽典の知識を習得する　6 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第10回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　7<br>基本的な楽典の知識を習得する7 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第11回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　8<br>基本的な楽典の知識を習得する　8 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第12回 | 表現法とまとめ　3 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第13回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　9<br>基本的な楽典の知識を習得する　9 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第14回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　10<br>基本的な楽典の知識を習得する　10 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 第15回 | 表現法とまとめ　4<br>楽典 | 廣畑 まゆ美　河田 健二　川崎　泰子　尾潟　千咲<br>嶋田 泉　　織田 典恵　　多田　悦子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 毎回授業時にテーマに沿った解決策について的確に述べていること。レポートは適宜全体的なフィードバックを行う。 |
| 小テスト | 80 | 自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施すること。<br>授業終了後は，各自復習を行うこと。<br>上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ) | 小林美実 | チャイルド社 | 978-4805481868 | 1600 |
| 大人のための音楽ワーク テキスト | | ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス | 978-4636801552 | 1100 |
| 大人のための音楽ワーク ドリル | | ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス | 978-4636801552 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 各公立中学校・高等学校，音楽教室での講師(嶋田泉)，公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)，ピアノ教室講師(多田悦子) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉)<br>ピアノ初心者から経験者まで，様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵)<br>実務経験をいかし，ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子) |

| 科目名 | 社会 | | | 授業番号 | CO209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 紙田　路子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際，身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校社会科の目標と内容 | |
| 第2回 | 小学校社会科の特色と関連専門諸科学 | |
| 第3回 | 地理的分野の基本的事項(1) | |
| 第4回 | 地理的分野の基本的事項(2) | |
| 第5回 | 地理的分野の基本的事項(3) | |
| 第6回 | 地理的分野の演習問題 | |
| 第7回 | 歴史的分野の基本的事項(1) | |
| 第8回 | 歴史的分野の基本的事項(2) | |
| 第9回 | 歴史的分野の基本的事項(3) | |
| 第10回 | 歴史的分野の演習問題 | |
| 第11回 | 公民的分野の基本的事項(1) | |
| 第12回 | 公民的分野の基本的事項(2) | |
| 第13回 | 公民的分野の基本的事項(3) | |
| 第14回 | 公民的分野の演習問題 | |
| 第15回 | 社会認識について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況，毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートは次回にコメントをつけて必ず返却する |
| レポート | 30 | 社会科の目標，内容，方法について自分なりに理解し，具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。レポートにはコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞，ニュース，雑誌，書籍等の情報に留意することが必要である。 |
| 授業外学修 | １．予習として，次時の授業内容の教科書を読み，それに関わる情報を新聞，ニュース，雑誌等から集めておく。<br>２．復習として，課題のレポートを書く。<br>３．発展学習として，地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して，自分の見解を述べられるようにする。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　社会編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 4491031606 | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭，中学校講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小・中学校における教育現場経験を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。 |

| 科目名 | 理科 | | | 授業番号 | CO210 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに，中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また，小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また，小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を習得する。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 光の性質 | |
| 第2回 | 力のつり合い | |
| 第3回 | 圧力と浮力 | |
| 第4回 | 仕事と仕事率 | |
| 第5回 | 力学的エネルギー | |
| 第6回 | 電流と電圧 | |
| 第7回 | 電力と電力量 | |
| 第8回 | ものの溶け方，気体の性質 | |
| 第9回 | 燃焼と酸化・還元，電気分解 | |
| 第10回 | 化学反応と物質量 | |
| 第11回 | 生物の分類 | |
| 第12回 | 体のしくみ | |
| 第13回 | 遺伝のしくみ | |
| 第14回 | 地層の成り立ち | |
| 第15回 | 地震と災害 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　理科編 | 文部科学省 | 東洋館出版 | | 111 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校理科教科書３～６年，「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 家庭 | | | 授業番号 | CO211 | サブタイトル | 家族や家庭，衣食住，消費や環境など生活事象の理解 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 家庭科教育で児童に何を指導し，何を学ばせ，どんな資質・能力を育むのかについて，衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また，小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 家庭科教育の意義を理解し，家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また，家庭科に関心をもち，学んだことを生活に生かし，自分の生き方や生活改善に役立てる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 最初の授業日に，学年歴で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力，小学校家庭科の内容構成 | |
| 第2回 | 「A家族・家庭生活」：自分の成長と家族・家庭生活，生活時間，家庭生活と仕事，地域との関わりについて | |
| 第3回 | 「B衣食住の生活」：基礎縫いとボタンの付け方 | |
| 第4回 | 「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り | |
| 第5回 | 「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも，ゆで卵のゆで時間による変化 | |
| 第6回 | 「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方 | |
| 第7回 | 「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理 | |
| 第8回 | 「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事，１食分の献立作成 | |
| 第9回 | 「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ | |
| 第10回 | 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方，環境に配慮した生活，実験・実習（通風・換気実験） | |
| 第11回 | 「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と環境 | |
| 第12回 | 「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用 | |
| 第13回 | 「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等） | |
| 第14回 | 「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等） | |
| 第15回 | 「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な姿勢・態度 |
| レポート | 20 | 実験・実習，課題 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 20 | 基礎縫い：5%，フェルトの小物：5%，エコバッグ・手提げバッグ等：10%　作品についてはコメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 家庭科は，家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに，常に「自分が授業するなら，どの題材を用いて，どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。 |
| 授業外学修 | シラバスで計画的な学修を促すため，授業予定表に，具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと，中学校家庭科の教科書のページを明記しているので，予習として授業前に読んでおくことと，授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施する。<br><br>以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| わたしたちの家庭科 | 著作者代表内野紀子他 | 開隆堂 | 9784304080647 | 274円 |
| 小学校学習指導要領解説家庭編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 9784491023748 | 103円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新編　新しい技術・家庭　（家庭分野） | 佐藤文子・金子佳代子他 | 東京書籍 | 9784487122820 | 646円 |
| 平成29年改訂小学校教育課程実践講座　家庭 | 岡　陽子・鈴木明子編著 | ぎょうせい | 9784324103104 | 1944円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，受講者全員に購入させる必要はないが，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されているからである。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語 | | | 授業番号 | CO212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校高学年の現在の外国語活動が，2020年度から，高学年では教科となり，中学年では活動型の外国語活動が導入された。本講義では，小学校教師，小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に，「英語に関する背景的な知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で，毎回，音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより，授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では，発音トレーニング，スピーキングトレーニング，クラスルーム・イングリッシュ，ALTとの会話，授業実践に必要な単語，目標表現，Teacher talkなどを扱うようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「英語に関する基本的な知識」，「児童文学（絵本，子供向けの歌や詩等）」，「異文化理解」，「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景的な知識を理解する。<br>・学級担任と外部指導者のTTについての考察<br>・外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る，CEFR A2（英検準２級）程度の英語力を身に付ける。<br>本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと〈やりとり・発表〉・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習 | |
| 第2回 | 音声に関する基本的な知識 (1)，歌・チャンツの指導 (1)（聞くこと・話すこと），発音練習 | |
| 第3回 | 音声に関する基本的な知識 (2)，歌・チャンツの指導 (2)（聞くこと・話すこと），発音練習 | |
| 第4回 | 発音と綴りに関する基本的な知識 (1)，歌・チャンツの指導 (3)（聞くこと・話すこと），発音練習 | |
| 第5回 | 発音と綴りに関する基本的な知識 (2)，歌・チャンツの指導 (4)（聞くこと・話すこと），発音練習 | |
| 第6回 | 文構造・文法に関する基本的な知識，活動体験を通した児童とのやりとり（話すこと・やり取り）(1)，発音練習 | |
| 第7回 | 語彙に関する基本的な知識，活動体験を通した児童との英語のやりとり（話すこと・やり取り）(2)，発音練習 | |
| 第8回 | 第二言語習得に関する基本的な知識 (1)，自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）(1)，発音練習 | |
| 第9回 | 第二言語習得に関する基本的な知識 (2)，自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）(2)，発音練習 | |
| 第10回 | 児童文学（絵本，詩）に関する基本的な知識，絵本の読み聞かせの方法と実践 (1)（聞くこと・話すこと・読むこと），発音練習 | |
| 第11回 | 異文化理解に関する基本的な知識，絵本の読み聞かせの方法と実践 (2)（聞くこと・話すこと・読むこと），発音練習 | |
| 第12回 | 異文化コミュニケーションに関する基本的な知識，絵本の読み聞かせの方法と実践 (3)（聞くこと・話すこと・読むこと），発音練習 | |
| 第13回 | 場面や目的に応じたALTやJTLとの会話（話すこと・やりとり），発音練習 | |
| 第14回 | 正書法に関する基本的な知識　板書・掲示物における英語の表記（書くこと），発音練習 | |
| 第15回 | 発音練習，まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 予習の状況，発表などの受講態度によって評価する。 |
| レポート | 30 | レポートに記述された学びの状況を評価する。 |
| 小テスト | 50 | 発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。 |
| 授業外学修 | 1 教科書のうち，次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。<br>2 1の予習をする中で，疑問に思う点をまとめておくこと。<br>3 授業後に，2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。<br>4 英語検定準2級程度の英語力取得に向けて，英語の４技能に関する学習を行うこと<br>以上の学修に，週あたり4時間以上の時間をかけること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論 | 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一 | 三省堂 | | 2，090円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと英語 | 松香洋子 | （株）mpi | | 1，452円 |
| 小学校外国語教育の指導と評価 | 直山木綿子 | 文溪堂 | | 2，200円 |
| 小学校英語とストーリーテリング：絵本の読み聞かせに始まる指導案・活動・評価 | 小野尚美，田縁眞弓 | 研究社 | | 2，420円 |
| 小学校英語　だれでもできる英語の音と文字の指導 | 山本玲子，田縁眞弓 | 三省堂 | | 2，090円 |
| 先生のための授業で１番大切な英語発音（楽しい英語授業をつくるシリーズ | 山崎祐一 | JIリサーチ | | 2，200円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 児童英語演習 | | | 授業番号 | CO226 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 授業実践に必要な4技能にわたる，英語や英語を使ったコミュニケーションの知識をもとにして，授業観察・指導教員による授業体験を児童の立場で体験することや模擬授業を通して，振り返り授業改善を行う。そして，理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語を使ったコミュニケーションの指導や，ことばへの気付きをもたらす指導を実施できる。<br>・就学前児童や小学生に適した4技能の指導をすることができる。<br>・英語で授業を行ったり，ＡＬＴとの打ち合わせを実施したりできる。<br>・英語によるやりとりの仕方を指導できる。<br>・パフォーマンス評価を行うことができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教材研究，指導計画案作成 | |
| 第2回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導に向けた準備，教材作成 | |
| 第3回 | 模擬授業1，振り返り | |
| 第4回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導１，振り返り | |
| 第5回 | 模擬授業2，振り返り | |
| 第6回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導2，振り返り | |
| 第7回 | 模擬授業3，振り返り | |
| 第8回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導3，振り返り | |
| 第9回 | 模擬授業4，振り返り | |
| 第10回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導4，振り返り | |
| 第11回 | 模擬授業5，振り返り | |
| 第12回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導5，振り返り | |
| 第13回 | 模擬授業6，振り返り | |
| 第14回 | 子ども園・公民館・小学校等での指導6，振り返り | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 授業計画・授業実践・省察・改善での意欲的な態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 知識と実践を往還しながら気付いたことの記述内容を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業計画・実施・省察・改善に積極的に参加できる。<br>知識と実践から自らを具体的に振り返り，気付きをレポートにまとめることができる。 |
| 受講の心得 | 園児・児童に対して思いやりをもって接し，学校園での授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。 |
| 授業外学修 | ・授業に向けて，授業の流れや教室英語に関する自己研修を30時間以上積むこと。<br>・実用英語技能検定準2級程度の英語力獲得に向けて，毎週2時間以上自己研修を積むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| Here We Go! 5 | | 光村図書 | | 587円 |
| Here We Go! 6 | | 光村図書 | | 587円 |
| Let's Try 1 | 文部科学省 | | | 255円 |
| Let's Try 2 | 文部科学省 | | | 255円 |
| 「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法 | 酒井秀樹，廣森友人，et al. | 大修館書店 | | 2，640円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・『小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編』平成29年告示，文部科学省，東洋館出版　・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料　小学校外国語・外国語活動，国立教育政策研究所教育課程研究センター |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| The SKY Book 1 | 金子由美，千葉成美 | mpi | | 2，299円 |
| 「考えながら話す」小学校英語授業 | 山田誠志 | 日本標準 | | 2，640円 |
| 実践！新学習指導要領　基本が分かる外国語活動・外国語科の授業 | 外国語活動 外国語科実践研究会 | 東洋館出社社 | | 2，530円 |
| 英語教師のためのTeacher's Talk入門 | 瀧沢広人 | 明示図書 | | 2，090円 |
| ドリル式　フォニックス〈発音〉練習Book | ジュミック今井 | 明日香出版社 | | 1，760円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | なし |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる英語運用能力を育成する。 |

| 科目名 | 基礎音楽Ｂ | | | 授業番号 | CO308 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美、川崎　泰子、大坪　加奈、河田　健二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | コード進行の基礎知識を学び，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し，レパートリー10曲を目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 前期の内容についての確認。子どもの成長と子どもを取りまく音楽について。 | |
| 第2回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　1<br>応用的な楽典の知識を習得する　1 | |
| 第3回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　2<br>応用的な楽典の知識を習得する　2 | |
| 第4回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　3<br>応用的な楽典の知識を習得する　3 | |
| 第5回 | 表現法とまとめ　1 | |
| 第6回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　4<br>応用的な楽典の知識を習得する　4 | |
| 第7回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　5<br>応用的な楽典の知識を習得する　5 | |
| 第8回 | 表現法とまとめ　2 | |
| 第9回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　6<br>応用的な楽典の知識を習得する　6 | |
| 第10回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　7<br>応用的な楽典の知識を習得する7 | |
| 第11回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　8<br>応用的な楽典の知識を習得する　8 | |
| 第12回 | 表現法とまとめ　3 | |
| 第13回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　9<br>応用的な楽典の知識を習得する　9 | |
| 第14回 | 各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ　10<br>応用的な楽典の知識を習得する　10 | |
| 第15回 | 表現法とまとめ　4<br>楽典 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 毎回授業時にテーマに沿った解決策について的確に述べていること。レポートは適宜全体的なフィードバックを行う。 |
| 小テスト | 80 | 自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施すること。<br>授業終了後は，各自復習を行うこと。<br>上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ) | 小林美実 | チャイルド社 | 978-4805481868 | 1600 |
| 大人のための音楽ワーク テキスト | | ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス | 978-4636801552 | 1100 |
| 大人のための音楽ワーク ドリル | | ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス | 978-4636801552 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国語科教育法 | | | 授業番号 | CO313 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的に行い，それぞれの教材の特質を理解するとともに，それをもとに学習指導案を作成し，模擬授業をするという一連の経験を通して，授業力の基本を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し，理解した教材の特質をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより，教材を分析する力，単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに，模擬授業を通して，学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等を身に付けることができるようにする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業を支える要素と求める学習者像 | |
| 第2回 | 基本的な学習過程 | |
| 第3回 | 学びの深まりと教師のかかわり | |
| 第4回 | 説明的文章の教材研究（１） | |
| 第5回 | 説明的文章の教材研究（２） | |
| 第6回 | 説明的文章の授業構想 | |
| 第7回 | 説明的文章の模擬授業 | |
| 第8回 | 「話すこと・聞くこと」（話し合い）の教材研究 | |
| 第9回 | 「話すこと・聞くこと」（話し合い）の授業構想 | |
| 第10回 | 「話すこと・聞くこと」の模擬授業 | |
| 第11回 | 物語の教材研究 | |
| 第12回 | 物語の授業構想 | |
| 第13回 | 物語の模擬授業 | |
| 第14回 | 「漢字の組み立て」の教材研究 | |
| 第15回 | 「漢字の組み立て」の模擬授業 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習課題の提出，模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な学習内容の定着度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | グループによる教材分析や授業構想，模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが，授業力及び教師力の向上と深く関係する。 |
| 受講の心得 | グループの学生と協力して，教材分析，授業の構想，授業準備，模擬授業に積極的に取り組むこと。<br>教材を繰り返し読み込み，教材の特質を理解するように努めること。<br>模擬授業を1回は行うこと。 |
| 授業外学修 | １．事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み，授業に臨むこと。<br>２．予習課題は，資料をしっかり読み込み，丁寧に仕上げ必ず提出すること。<br>３．模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 978-4-491-03462-1 | 162円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説<br>小学校国語教科書5年（光村図書） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施 |

| 科目名 | 社会科教育法 | | | 授業番号 | CO314 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 紙田　路子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について，模擬授業をとおして基礎的な理解を深め，指導技術を身につけさせる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し，授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校社会科の意義と役割 | |
| 第2回 | 小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領　社会） | |
| 第3回 | 第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象） | |
| 第4回 | 第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土） | |
| 第5回 | 第6学年の目標と内容（我が国の歴史，政治，国際理解） | |
| 第6回 | 問題解決的な学習過程 | |
| 第7回 | 社会科の評価の観点と評価規準 | |
| 第8回 | 小学校社会科学習指導案の作成 | |
| 第9回 | 社会科の多様な学習活動 | |
| 第10回 | 模擬授業 | |
| 第11回 | 模擬授業 | |
| 第12回 | 模擬授業 | |
| 第13回 | 模擬授業 | |
| 第14回 | 模擬授業 | |
| 第15回 | 社会科学習指導法の課題とまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートは毎回コメントをつけて返却する |
| レポート | 30 | 社会科教育に関わる理論を理解できているか，それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと |
| 授業外学修 | 1．予習として，課題に必ず取り組むこと。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う）<br>2．復習として，課題のレポートを書く。<br>3．発展学習として，社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　社会編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 4491031606 | |
| 小学社会3，4年上 | | 日本文教出版 | | |
| 小学社会5年上 | | 日本文教出版 | | |
| 小学社会6年上 | | 日本文教出版 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭，中学校講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小・中学校における教育現場経験を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。 |

| 科目名 | 算数科教育法 | | | 授業番号 | CO315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために，小学校算数科の目標や指導内容，教材研究や指導計画，学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）算数科の指導方法や目標，内容，評価等に関する基礎的な事項を理解する。<br>２）算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り，授業実践に活かそうとする。<br>３）算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 算数教育の意義，目標，内容，略案の書き方 | |
| 第2回 | 算数指導の心構え，教材研究，模擬授業（１） | |
| 第3回 | 準備物，時間の使い方，机間指導，効果的な発問，模擬授業（２） | |
| 第4回 | 板書の仕方，発表，習熟，模擬授業（３） | |
| 第5回 | 学習指導案の書き方，模擬授業（４） | |
| 第6回 | ノート指導，家庭学習，模擬授業（５） | |
| 第7回 | 指導と評価の一体化，模擬授業（６） | |
| 第8回 | 授業改革の二大論点について，模擬授業（７） | |
| 第9回 | 教材・教具の準備と作成，ICTの活用，模擬授業（８） | |
| 第10回 | 数学的活動，数学的な見方・考え方，模擬授業（９） | |
| 第11回 | 授業実践力・授業評価力，授業を支える基礎技術，模擬授業（１０） | |
| 第12回 | 授業改革の二大論点についての提案と協議（１） | |
| 第13回 | 授業改革の二大論点についての提案と協議（２） | |
| 第14回 | 授業改革の二大論点についての提案と協議（３） | |
| 第15回 | 授業改革の二大論点についての提案と協議（４） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 10 | 「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。 |
| 小テスト | 25 | 前回の授業の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 模擬授業とグループ提案，協議のパフォーマンスを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校の教員として，子どもたちに算数科の学習を仕組むときに，どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1　配布資料や小テストを整理して，本時の講義内容をノートにまとめて復習する。<br>2　教材研究等，模擬授業の準備を積極的に行うこと。また，他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の予習を行うこと。<br>3 「７つの提言」についてグループで読み込み，検討・議論し，提案できるように協力して取り組むこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　算数編 | 文部科学省 | | | |
| 小学校算数科教科書1年～6年 | | 啓林館 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校学習指導要領解説　算数編，小学校算数科教科書1年～6年は，ともに，「算数」で使用したものである。下巻等，所有してない教科書のみ購入すること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 理科教育法 | | | 授業番号 | CO316 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領に示された目標を分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。その上で，学習指導案の作成に取りかかり，観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。<br>本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校理科の目標 | |
| 第2回 | 小学校理科の内容 | |
| 第3回 | 育成すべき資質・能力 | |
| 第4回 | 理科の学習理論 | |
| 第5回 | 理科の学習指導法 | |
| 第6回 | 問題解決能力の育成 | |
| 第7回 | 教科書での題材の配列 | |
| 第8回 | 教材研究の仕方 | |
| 第9回 | 学習指導案の作成 | |
| 第10回 | 物質・エネルギーにかかわる教材研究 | |
| 第11回 | 生命・地球にかかわる教材研究 | |
| 第12回 | 模擬授業１ | |
| 第13回 | 模擬授業２ | |
| 第14回 | 模擬授業３ | |
| 第15回 | 模擬授業４ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，模擬授業，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポートの内容と提出状況によって評価する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　理科編 | 文部科学省 | 東洋館出版 | | 111 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校理科教科書３～６年，「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 生活科教育法 | | | 授業番号 | CO317 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 池原　繁延 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | (1)学習指導要領の内容を踏まえながら，生活科の教科書に沿って，単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し，指導案が作成できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)生活科における「新しい学習指導要領が期待するもの」について実際の授業と結びつけながら習得することができる。<br>(2)生活科における学習評価の在り方を習得することができる。<br>(3)上記の内容を踏まえ?活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージし指導案が作成できるようにする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 【授業計画 備考】<br>(1)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する。<br>(2)各単元と学習指導要領の内容を結びつけながら「新しい学習指導要領が期待するもの」について具体的に習得できるように実際の小学校における授業場面と結びつけながら学習を進める。<br>(3)評価と指導の一体化について学習し，実際の授業において一人一人の児童の持つ「良さ」を見出すポイントを身に付ける。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | (1)生活科 学習指導の要点　観察カードの内容に対するコメントの書き方 | |
| 第2回 | (1)単元「きれいにさいてね」小単元「たねをまこう」授業検討　(2)「生活科の栽培活動」について | |
| 第3回 | (1)単元「きれいにさいてね」小単元「はなのようすをつたえよう」「たねをとろう」授業検討 | |
| 第4回 | (1)単元「なつがやってきた」小単元「こうていでくさばなやむしをさがそう」授業検討 (2)「評価規準」について | |
| 第5回 | (1)単元「なつがやってきた」小単元「みんなのこうえんであそぼう」「みずであそぼう」授業検討 | |
| 第6回 | (1)単元「なつがやってきた」小単元「たのしかったことをつたえよう」授業検討　(2)「振り返りの活動，交流活動」について | |
| 第7回 | (1)単元「いきものとなかよし」小単元「むしをさがそう」授業検討　(2)「動物飼育」について | |
| 第8回 | (1)単元「いきものとなかよし」小単元「みんなでどうぶつをかおう」授業検討(2)「気づきの質を高めるための板書の構造化」について | |
| 第9回 | (1)単元「たのしいあきいっぱい」小単元「こうていであきをさがそう」授業検討　(2)気づきの質を高めるために | |
| 第10回 | 「たのしいあきいっぱい」小単元「こうえんであきをさがそう」「はっぱやみであそぼう」「いっしょにあそぼう」授業検討　(2)「比較」について | |
| 第11回 | (1)単元「じぶんでできるよ」小単元「じぶんのいちにちをみつめよう」「じぶんでできることをしよう」授業検討　(2)「実態把握，家庭との連携，家庭環境への配慮」について | |
| 第12回 | (1)「新しい学習指導が期待するもの」について | |
| 第13回 | (1)「スタートカリュキュラム」について | |
| 第14回 | (1)単元「どきどきわくわく１ねんせい」小単元「がっこうのことがしりたいな」「みんなとなかよくなりたいな」授業検討 (2)「スタートカリュキュラム」について | |
| 第15回 | (1)単元「もうすぐ２ねんせい」小単元「あたらしい１ねんせいを　しょうたいしよう」「しょうたいしたことをはなしあおう」「１ねんかんをふりかえろう」授業検討 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な授業態度 |
| レポート | 40 | 課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業を受けること。 |
| 授業外学修 | (1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。<br>(2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教材用のプリントを用意する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 東京書籍　新しい生活　上・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭・管理職 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容 |

| 科目名 | 音楽科教育法 | | | 授業番号 | CO318 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 川崎　泰子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領，小学校における音楽科教育の意義，目標，指導内容について理解を深め，小学校音楽科で育成すべき資質や能力，そのために取り扱う内容，題材の構成(指導計画の作成)，教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校学習指導要領の目標を理解した上で，教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。<br>(1)小学校学習指導要領について説明することができる。<br>(2)第1～6学年の系統性を踏まえ，発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。<br>(3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。<br>(4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校における音楽科教育の意義と目標，内容 | |
| 第2回 | 日本の音楽科教育の歴史／学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理解 | |
| 第3回 | 授業設計と指導上の留意点<br>学習指導案の書き方・授業の進め方について<br>年間学習指導計画と題材の評価規準 | |
| 第4回 | 教材研究と指導法/「表現(歌唱)」の活動 伴奏法 | |
| 第5回 | 教材研究と指導法/「表現(歌唱・器楽)」の活動 | |
| 第6回 | 教材研究と指導法/「表現(音楽づくりとコンピュータ)」の活動 | |
| 第7回 | 教材研究と指導法/「鑑賞」の活動 | |
| 第8回 | 評価規準の意義と設定 | |
| 第9回 | 学習指導案の作成方法/指導計画の作成と内容の取扱い | |
| 第10回 | 学習指導案の作成 | |
| 第11回 | 模擬授業と討議　1－第1学年，第2学年 | |
| 第12回 | 模擬授業と討議　2－第3学年，第4学年 | |
| 第13回 | 模擬授業と討議　3－第5学年 | |
| 第14回 | 模擬授業と討議　4－第6学年 | |
| 第15回 | 模擬授業後の研究討議と全体のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業に取り組む姿勢，態度，発表。 |
| レポート | 10 | 課題・レポート・指導案の，理解度・定着度。添削後，返却する。 |
| 小テスト | 50 | 課題の到達度を評価する。実技を含む。 |
| 定期試験 | 10 | 知識の理解度・定着度。 |
| その他 | 20 | 模擬授業の内容。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校教員への教職意識を持つこと。<br>使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施し，復習すること。<br>上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領平成29年公示解説　音楽編 | | 平成29年6月，文部科学省 | | |
| 小学校音楽1～6年 | | 教育芸術社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校音楽科教育法 | | 教育芸術社 | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | ソプラノリコーダーを持参すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 図画工作科教育法 | | | 授業番号 | CO319 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，「造形的な見方・考え方」を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方を修得することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。<br>1-1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。<br>1-2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。<br>1-3)図画工作科における学習評価の考え方を理解している。<br>(2)基礎的な学習理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。<br>2-1)子どもの認識や思考，学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。<br>2-2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。<br>2-3)学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。<br>2-4)模擬授業の実施と振り返りを通して，授業改善の視点を身につけている。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 図画工作科の学習指導要領<br>ー教科の目標と内容，全体構造ー | |
| 第2回 | 図画工作科の授業構造 | |
| 第3回 | 図画工作科における教師の支援<br>ー指導上の留意点ー | |
| 第4回 | 図画工作科における評価<br>ー学習評価の考え方ー | |
| 第5回 | 図画工作科における安全指導 | |
| 第6回 | 「造形あそび」の授業の組立と支援<br>ー教材研究と指導上の留意点ー | |
| 第7回 | 「絵にあらわす」の授業の組立と支援<br>ー教材研究と指導上の留意点ー | |
| 第8回 | 「立体にあらわす」の授業の組立と支援<br>ー教材研究と指導上の留意点ー | |
| 第9回 | 「工作にあらわす」の授業の組立と支援<br>ー教材研究と指導上の留意点ー | |
| 第10回 | 「鑑賞」の授業の組立と支援<br>ー教材研究と指導上の留意点ー | |
| 第11回 | 図画工作科の学習指導案 1<br>ー学習指導案の構成の理解ー | |
| 第12回 | 図画工作科の学習指導案 2<br>ー学習指導案の作成ー | |
| 第13回 | 模擬授業の実施と振り返り 1 | |
| 第14回 | 模擬授業の実施と振り返り 2 | |
| 第15回 | 図画工作科教育法の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 模擬授業の準備・発表について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「造形的な見方・考え方」が活きた授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として課題を課すことがある。<br>2. 予習として資料を配布することがある。<br>以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 文部科学省『学習指導要領解説・図画工作編』 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，提示する。 |
| その他 | はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育科教育法 | | | 授業番号 | CO320 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で，現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。<br>また，低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し，指導案の作成並びに模擬授業，授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 体育科における，「目標－内容－方法」について理解するとともに，子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 学習指導要領の変遷（総則） | |
| 第2回 | 学習指導要領の変遷（体育科の目標） | |
| 第3回 | 学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 | |
| 第4回 | 学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 | |
| 第5回 | 学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 | |
| 第6回 | 3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 | |
| 第7回 | 体育科の年間計画及び指導案作成について | |
| 第8回 | 指導案の作成 | |
| 第9回 | 模擬授業打ち合わせ | |
| 第10回 | 模擬授業（1）1・2年生について | |
| 第11回 | 模擬授業（2）3・4年生について | |
| 第12回 | 模擬授業（3）5・6年生について | |
| 第13回 | 模擬授業（4）3～6年生の保健について | |
| 第14回 | 模擬授業の授業評価・修正 | |
| 第15回 | 授業評価を加味した指導案の作成 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度 |
| レポート | 60 | 指導案の理解・指導要領の理解 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 模擬授業の教師としての授業態度 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校体育科において，教師が運動の知識を有していることはもちろん，からだと心の仕組み対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ，将来の子どものからだと心を育てていくという強い意欲をもって受講すること。 |
| 授業外学修 | ・授業で行われる領域について「学習指導要領解説　体育編」を授業前に読んでおくこと。<br>・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説体育編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 家庭科教育法 | | | 授業番号 | CO321 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校家庭科の授業を通して，「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって，学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等，学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。<br>授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を行い，模擬授業の実施・評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校家庭科の授業開発を通して，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには，どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し，効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 最初の授業日に，学年歴で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については，模擬授業の実施日が決定した時点で，実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて | |
| 第2回 | 年間指導計画と題材指導計画，学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目 | |
| 第3回 | 既成の家庭科指導案を基に細案を作成 | |
| 第4回 | 細案を基に模擬授業を実施1・2「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」(5・6年生) | |
| 第5回 | 細案を基に模擬授業を実施3・4「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生) | |
| 第6回 | 細案を基に模擬授業を実施5・6「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生) | |
| 第7回 | 細案を基に模擬授業を実施7・8「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生) | |
| 第8回 | 指導案の作成(1)「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」領域の内容理解(5・6年生) | |
| 第9回 | 指導案の作成(2)「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」領域の内容理解(5・6年生) | |
| 第10回 | 模擬授業の実施・分析・評価1・2「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」(5年生) | |
| 第11回 | 模擬授業の実施・分析・評価3・4「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5年生) | |
| 第12回 | 模擬授業の実施・分析・評価5・6「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」(6年生) | |
| 第13回 | 模擬授業の実施・分析・評価7・8「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(6年生) | |
| 第14回 | 模擬授業の実施・分析・評価9・10「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生) | |
| 第15回 | 模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な姿勢，態度について評価する。 |
| レポート | 20 | 指導案，模擬授業を通して身に付けたことや改善点などの記述について評価する。 |
| 小テスト | 10 | 指導要領の内容理解について評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度について評価する。 |
| その他 | 10 | 模擬授業：教師としての授業態度，発問，板書の字，声の大きさ等について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し，更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また，授業開始時に配付する授業予定表に，授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので，授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。 |
| 授業外学修 | 1　事前に，模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。<br>2　模擬授業についての感想を，授業後に数人発表する。<br>3　模擬授業について，学生に迅速で建設的なフィードバックを行い，次の模擬授業に活かす。<br>4　模擬授業についての感想を毎時間書かせ，授業者に一言コメントとして，良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| わたしたちの家庭科 | 著作者代表内野紀子他 | 開隆堂 | 9784304080647 | 274円 |
| 小学校学習指導要領解説家庭編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 9784491023748 | 103円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新訂　新しい技術・家庭　（家庭分野） | 佐藤文子・金子佳代子他 | 東京書籍 | 9784487122820 | 646円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されている。 |
| その他 | 採用試験には，具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には，「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は，全て実践して身に付けておくことが望ましい。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語科教育法 | | | 授業番号 | CO322 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 授業実践に必要な知識を修得することに加え，授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して，小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに，教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに，小学校での授業観察や授業参加などを通して，理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。<br>・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け，計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して，理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。<br>　なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　外国語教育導入の経緯・理念・現状 | |
| 第2回 | 学習指導要領（外国語　活動と外国語科）　小・中・高等学校との連携と小学校の役割 | |
| 第3回 | 主教材，ICT教材の活用について，学習到達目標　指導計画　技能統合型の活動 | |
| 第4回 | 授業映像視聴<br>児童や学校の多様性への対応　子どもの学び方の特徴（言語使用を通した言語習得，類推から理解へ　音声によるインプットの在り方）　児童の認知発達に即した指導法 | |
| 第5回 | 授業模擬体験<br>ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り，受診から発信　音声から文字へと進むプロセス） | |
| 第6回 | 授業模擬体験<br>英語での語りかけ方　児童の発話の引き出し方　児童とのやり取りの進め方　文字言語との出会わせ方　読む活動・書く活動への導き方　言葉の面白さや豊かさへの気付き | |
| 第7回 | 授業映像視聴（小学校・中学校・高等学校）<br>小・中・高等学校の連携，ＡＬＴ等とのティームティーチングによる指導の在り方，<br>異文化理解の視点，第二言語習得理論についての知識とその活用 | |
| 第8回 | 評価の観点と評価規準 | |
| 第9回 | 題材選定，教材研究 | |
| 第10回 | 指導計画（年間指導計画，単元計画，学習指導案，短時間学習等）の作成方法　学習指導目標，指導計画作成（1時間の学習指導案作成） | |
| 第11回 | 授業準備　教材作成 | |
| 第12回 | 模擬授業（1）振り返り　授業改善（1） | |
| 第13回 | 模擬授業（2）振り返り　授業改善（2） | |
| 第14回 | 小学校での授業参観・授業参加 | |
| 第15回 | 振り返り，まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 50 | 授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教師になる自覚と意欲をもって参加すること。 |
| 授業外学修 | ・指導案・指導細案の作成や，模擬授業の練習を行うこと。<br>・教師が使用する英語技能の習得に努め，実用英語検定準2級の取得をめざすこと。<br>以上の学修を，週4時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコアカリキュラムに沿ってー | 小川隆夫・東仁美 | mpi | | 2，420円 |
| Here We Go! 5 | | 光村図書 | | 587円 |
| Here We Go! 6 | | 光村図書 | | 587円 |
| 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成29年7月ー平成29年告示 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | | 141円 |
| 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動 | 国立教育政策研究所教育課程研究センター | | | 880円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・Let's Try 1 文部科学省 東京書籍　・Let's Try 2 文部科学省 東京書籍 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校英語の教育法 | アレン玉井 | 大修館書店 | | 2，420円 |
| 子どもと英語指導ハンドブック | 外山節子（監修） | 旺文社 | | 6，386円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。 |

| 科目名 | 道徳教育指導論 | | | 授業番号 | CO323 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小森　順子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため，小学校は平成30年度，中学校は令和元年度から，特別の教科　道徳(「道徳科」)が教科化された。この改訂の内容を踏まえ，道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また，学習指導案作成と模擬授業の演習を通して，指導方法の要点や道徳科の授業について講義し，授業実践力を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 道徳教育の改訂の要点について理解し，道徳教育の意義について考えることができるようになる。<br>道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び，道徳教育指導全般について理解できるようになる。<br>道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け，授業実践ができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 道徳とは何か　自分と道徳?　道徳教育の歴史　道徳教育の改訂の基本方針・要点<br>「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。 | |
| 第2回 | 道徳教育と道徳科の関係・つながり　道徳教育の目標　道徳科の目標<br>学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということと，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。 | |
| 第3回 | 道徳科の内容　内容項目の指導の観点?<br>人間として他者と共に生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を整理した内容項目の全体像を把握する。 | |
| 第4回 | 内容項目の指導の観点?<br>内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して，道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。 | |
| 第5回 | 道徳科の授業<br>示範授業に参加し授業を体験することを通して，道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など，道徳科の学習指導について理解する。 | |
| 第6回 | 指導計画の作成　指導方法の工夫　道徳科の授業のつくりかた?<br>指導計画作成の意義，道徳科に生かす指導方法の多様な工夫の具体例，学習指導案作成の手順について理解する。 | |
| 第7回 | 道徳科の授業のつくりかた?<br>内容項目の分析・児童の実態・教材分析・ねらい・主題名などについて理解し，学習指導案を作成する。 | |
| 第8回 | 道徳科の授業のつくりかた?<br>学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し，学習指導案を作成する。 | |
| 第9回 | 道徳科の評価　道徳性の発達　指導の配慮事項<br>道徳科における評価の意義や評価の基本的な考え方について理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。 | |
| 第10回 | 授業実践　模擬授業?　模擬授業の改善<br>模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(指導方法の工夫など)について理解する。 | |
| 第11回 | 授業実践　模擬授業?　模擬授業の改善<br>模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(多様な学習指導など)について理解する。 | |
| 第12回 | 授業実践　模擬授業?　模擬授業の改善<br>模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(教材・教具の活用など)について理解する。 | |
| 第13回 | 授業実践　模擬授業?　模擬授業の改善<br>模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(個に応じた指導・教態など)について理解する。 | |
| 第14回 | 教材に求められる内容の観点<br>教材づくりの演習を通して，教材の開発と活用の創意工夫について，教材に求められる内容の観点について理解する。 | |
| 第15回 | よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成　自分と道徳?<br>全講義内容をKJ法でまとめる活動を通して，道徳教育の意義や道徳教育指導の理解，授業実践力の変容について明らかにする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加態度によって評価する。 |
| レポート | 50 | 各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し，次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 模擬授業の学習指導案の内容・工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち，授業実践とつないで考え，真剣に受講する。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」「4年小学どうとく　生きる力」のうち，次回の授業内容に関わる部分を読み，課題を把握しておくこと。<br>2　授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので，復習をしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ４年小学どうとく　生きる力 | | 日本文教出版株式会社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　平成29年7月　（文部科学省） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・教頭・校長，岡山市教育研究研修センター |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を，講義内容（道徳科授業の指導の在り方，指導方法の工夫，学習指導案作成，模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。 |

| 科目名 | 小学校教育研究Ⅰ | | | 授業番号 | CO328 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、佐々木　弘記、溝田　知茂、小川　孝司、牛島　光太郎、西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合教養養成セミナーI・IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため，学習指導案の作成および模擬授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学習指導案の作成および模擬授業を行い，小学校教員に求められる学習指導力，生徒指導力，マネジメント力を身に付けることを目的とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要，算数教材研究I | 姫野 |
| 第2回 | 算数教材研究II | 姫野 |
| 第3回 | 国語教材研究I | 小川 |
| 第4回 | 国語教材研究II | 小川 |
| 第5回 | 社会教材研究I | 小川 |
| 第6回 | 社会教材研究II | 小川 |
| 第7回 | 理科教材研究I | 佐々木 |
| 第8回 | 理科教材研究II | 佐々木 |
| 第9回 | 音楽教材研究I | 姫野 |
| 第10回 | 図工教材研究I | 佐々木 |
| 第11回 | 図工教材研究II | 佐々木 |
| 第12回 | 体育教材研究I | 溝田 |
| 第13回 | 体育教材研究II | 溝田 |
| 第14回 | プログラミング教育教材研究I | 姫野 |
| 第15回 | プログラミング教育教材研究II | 姫野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 30 | 各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 50 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科 | 東京アカデミー | 七賢出版 | | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記），公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 小学校教育研究Ⅱ | | | 授業番号 | CO329 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、佐々木　弘記、溝田　知茂、齊藤　佳子、小川　孝司、牛島　光太郎、西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため，学習指導要領に沿った教科教育および教科外教育を学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学習指導案の作成および模擬授業を行い，小学校教員に求められる学習指導力，生徒指導力，マネジメント力を身に付けることを目的とする。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校と学習指導要領，関連法規 | 姫野 |
| 第2回 | 小学校学習指導要領　総則 | 姫野 |
| 第3回 | 小学校学習指導要領　国語 | 小川 |
| 第4回 | 小学校学習指導要領　社会 | 小川 |
| 第5回 | 小学校学習指導要領　算数 | 姫野 |
| 第6回 | 小学校学習指導要領　理科 | 佐々木 |
| 第7回 | 小学校学習指導要領　生活 | 姫野 |
| 第8回 | 小学校学習指導要領　外国語活動 | 姫野 |
| 第9回 | 小学校学習指導要領　総合的な学習の時間 | 姫野 |
| 第10回 | 小学校学習指導要領　家庭 | 齊藤 |
| 第11回 | 小学校学習指導要領　特別活動 | 小川 |
| 第12回 | 小学校学習指導要領　道徳 | 小川 |
| 第13回 | 小学校学習指導要領　体育 | 溝田 |
| 第14回 | 小学校学習指導要領　図画工作 | 牛島 |
| 第15回 | 小学校学習指導要領　音楽 | 姫野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 30 | 各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 50 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記），公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 小学校教育研究Ⅲ | | | 授業番号 | CO430 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、溝田　知茂、小川　孝司、牛島　光太郎、西田　寛子、森寺　勝之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校における教科指導（算数１） | 姫野 |
| 第2回 | 小学校における教科指導（算数２） | 姫野 |
| 第3回 | 小学校における教科指導（国語１） | 姫野 |
| 第4回 | 小学校における教科指導（国語２） | 姫野 |
| 第5回 | 小学校における教科指導（社会１） | 姫野 |
| 第6回 | 小学校における教科指導（社会２） | 姫野 |
| 第7回 | 小学校における教科指導（理科１） | 姫野 |
| 第8回 | 小学校における教科指導（理科２） | 小川 |
| 第9回 | 小学校における教科指導（音楽） | 小川 |
| 第10回 | 小学校における教育法規 | 小川 |
| 第11回 | 小学校における教科指導（図画工作） | 森寺・溝田 |
| 第12回 | 小学校における危機管理 | 森寺・溝田 |
| 第13回 | 小学校における教科指導（家庭） | 森寺・溝田 |
| 第14回 | 小学校における教科指導（体育） | 森寺・溝田 |
| 第15回 | 小学校における現代の教育問題 | 森寺・溝田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 30 | 各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 50 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。 |
| 備考 | R4.4.1改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実践研究Ⅰ | | | 授業番号 | CO431 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、佐々木　弘記、齊藤　佳子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、大田原　愛美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育の本質・目的，子ども理解の在り方，保育の内容・方法，保育の表現技術等，子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。<br>２，保育に関する現代的課題についての現状分析，考察，検討を行う。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育の理念と概念について | 佐々木，伊藤 |
| 第2回 | 身体表現（１）幼児と身体表現 | 大田原 |
| 第3回 | 身体表現（２）リズム表現 | 大田原 |
| 第4回 | 身体表現（３）音楽と身体表現 | 大田原 |
| 第5回 | 教育法規 | 伊藤，佐々木 |
| 第6回 | 福祉の法規 | 齋藤，佐々木 |
| 第7回 | 子どもの食と栄養，感染症対策 | 齋藤，佐々木 |
| 第8回 | 社会福祉，社会的養護 | 齋藤，佐々木 |
| 第9回 | 保育者の教養（１） | 國田，岡﨑 |
| 第10回 | 保育者の教養（２） | 國田，岡﨑 |
| 第11回 | 保育の心理学 | 國田，岡﨑 |
| 第12回 | 保育実践（１） | 國田，岡﨑 |
| 第13回 | 保育実践（２） | 國田，岡﨑 |
| 第14回 | 保育実践（３） | 國田，岡﨑 |
| 第15回 | 保育者の教養（3） | 伊藤，佐々木 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 課題に対して適切な内容であること。 |
| 小テスト | 40 | 各テストのテーマの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実践研究Ⅱ α | 授業番号 | CO432a | サブタイトル | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、佐々木　弘記、齊藤　佳子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、大田原　愛美 | | | | |

| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。 |
| 到達目標 | １，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。<br>２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 造形実技について（１） | 伊藤 |
| 第2回 | 造形実技について（２） | 伊藤 |
| 第3回 | 子どもと身体表現について | 大田原 |
| 第4回 | 子どもとわらべ歌について | 大田原 |
| 第5回 | 手遊びと保育について | 大田原 |
| 第6回 | 食育の計画・実践について | 齊藤 |
| 第7回 | 幼児のおやつ調理（１）食物アレルギーと調理の衛生管理 | 齊藤 |
| 第8回 | 幼児のおやつ調理（２）食物アレルギーと調理の衛生管理 | 齊藤 |
| 第9回 | 保育相談について | 國田 |
| 第10回 | 外部機関との連携について | 國田 |
| 第11回 | 保育の総合的支援について | 國田 |
| 第12回 | 保育実践（１） | 岡﨑 |
| 第13回 | 保育実践（２） | 岡﨑 |
| 第14回 | 保育者の職務内容について | 岡﨑 |
| 第15回 | 資質能力の確認 | 佐々木，伊藤 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 課題に適切な内容で作成していることについて評価する。 |
| 小テスト | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | １．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。<br>２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | ・幼児のおやつ調理では，材料代として300円程度徴収します。 |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実践研究Ⅱ β | 授業番号 | CO432b | サブタイトル | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、佐々木　弘記、齊藤　佳子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、大田原　愛美 | | | | |

| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。 |
| 到達目標 | １，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。<br>２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 造形実技について（１） | 伊藤 |
| 第2回 | 造形実技について（２） | 伊藤 |
| 第3回 | 子どもと身体表現について | 大田原 |
| 第4回 | 子どもとわらべ歌について | 大田原 |
| 第5回 | 手遊びと保育について | 大田原 |
| 第6回 | 食育の計画・実践について | 齊藤 |
| 第7回 | 幼児のおやつ調理（１）食物アレルギーと調理の衛生管理 | 齊藤 |
| 第8回 | 幼児のおやつ調理（２）食物アレルギーと調理の衛生管理 | 齊藤 |
| 第9回 | 保育相談について | 國田 |
| 第10回 | 外部機関との連携について | 國田 |
| 第11回 | 保育の総合的支援について | 國田 |
| 第12回 | 保育実践（１） | 岡﨑 |
| 第13回 | 保育実践（２） | 岡﨑 |
| 第14回 | 保育者の職務内容について | 岡﨑 |
| 第15回 | 資質能力の確認 | 佐々木，伊藤 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 課題に適切な内容で作成していることについて評価する。 |
| 小テスト | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | １．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。<br>２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | ・幼児のおやつ調理では，材料代として300円程度徴収します。 |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 小学校教育基礎演習 | | | 授業番号 | CP126 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教員を養成するための基礎科目として，教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基礎的な小学校教員の職務内容について理解し，自分自身の適性について考える。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校の教師になるとはどのようなことなのか考える | 姫野 |
| 第2回 | どんな小学校教師になりたいのか考える | 姫野 |
| 第3回 | 教員免許状はどのように授与されるのかを知る | 姫野 |
| 第4回 | 小学校教師になるために大学で学ぶべきことは何なのかを考える | 姫野 |
| 第5回 | 小学校教師と子どもとの関係について考える | 姫野 |
| 第6回 | 小学校教師と法律について考える | 姫野 |
| 第7回 | 小学校教師の仕事について考える | 姫野 |
| 第8回 | 小学校教師とコンピュータについて考える | 姫野 |
| 第9回 | 「生活科」の学習活動を体験する（中国学園大学探検隊） | 姫野 |
| 第10回 | 「特別活動」の学級活動を体験する（学級ゲーム） | 姫野，溝田 |
| 第11回 | 示範授業をみて，模擬授業の計画を立てる | 姫野 |
| 第12回 | 模擬授業に挑戦してみる（１） | 姫野 |
| 第13回 | 模擬授業に挑戦してみる（２） | 姫野 |
| 第14回 | 模擬授業に挑戦してみる（３） | 姫野 |
| 第15回 | 授業のまとめと最終レポートを作成する | 姫野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポートの記述内容と提出状況を評価する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，事前に配布された資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業内容・配布資料をノートにまとめる。<br>3　発展学習として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートにまとめる。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 教育原理 | | | 授業番号 | CP201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義形式で，教育の基本的な事項について学習していく。<br>特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会における教育問題は，極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし，教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。<br>本講義では，こうした社会状況を踏まえつつ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。<br>そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代の教育をめぐる諸問題 | |
| 第2回 | 教育とは何か | |
| 第3回 | 教育の思想：西洋にみる教育の思想と実践 | |
| 第4回 | 教育の思想：幼児教育の思想と実践 | |
| 第5回 | 学校教育と学力，家庭 | |
| 第6回 | 教員の養成，採用，研修 | |
| 第7回 | 学校，放課後，家庭における子どもの日常生活 | |
| 第8回 | 江戸期以前の家族と社会による教育 | |
| 第9回 | 公教育制度の成立とその思想 | |
| 第10回 | 学制と明治期の学校教育制度の成立と展開 | |
| 第11回 | 大正期の学校教育制度の成立と展開 | |
| 第12回 | 昭和期から現在にいたるの学校教育制度の成立と展開 | |
| 第13回 | 教育に関係する主な法律 | |
| 第14回 | 教育に関係する法令 | |
| 第15回 | 現代社会における教育課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への取り組み姿勢を考慮する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 基礎的事項の修得状況を確認する。 |
| その他 | 20 | 講義のとき，毎回，コメントペーパーを提出する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。 |
| 授業外学修 | 週当たり4時間以上，テキストを読むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| コンパス　教育原理 | 古賀一博ほか編著 | 建帛社 | 978-4-7679-5130-0 | 2090 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『教育六法』（どの出版社のものでも良い） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育史 | | | 授業番号 | CP202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶井　一暁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，教職に関する科目のうちの「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的，制度，内容および方法）へと続く歴史の過程と変化について，主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史，後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 以下の3つを到達目標とする。1.教育の歴史についての基本的な事項に関する知識を獲得する，2.獲得した知識にもとづいて教育の歴史に関する事象を説明する，3.獲得した知識にもとづいて現代の教育の課題について考察する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育への歴史的視点[授業の目的，概要，計画など] | |
| 第2回 | 歴史のなかの教育[人間形成としての教育] | |
| 第3回 | 歴史のなかの学校[コメニウスと教科書] | |
| 第4回 | 歴史のなかの子ども[ルソーと「子ども」の発見] | |
| 第5回 | 教育対象としての子ども[ヘルバルトと教授学] | |
| 第6回 | 子どもを理解し，教育する[ペスタロッチーとフレーベル] | |
| 第7回 | 社会・経験・子ども[デューイの教育理論の示唆] | |
| 第8回 | 教育の発達の動向と回顧[課題の探求と発表] | |
| 第9回 | 教育の方法の変化（1）[個別と一斉] | |
| 第10回 | 教育の方法の変化（2）[教師中心と子ども中心] | |
| 第11回 | 教育の内容の変化[全般主義と実用主義] | |
| 第12回 | 教育改革の歴史と課題（1）[教育における権利と義務] | |
| 第13回 | 教育改革の歴史と課題（2）[教育における平等と自由] | |
| 第14回 | 教員養成の歴史と課題[専門職としての教員] | |
| 第15回 | まとめ[教育の過去と現在] | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，発表・討議への参加，コメント・シートにより評価する。 |
| レポート | 40 | 主要点の理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 適宜，コメント・シート（感想，意見，関心など）を使い，授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し，授業に臨んでほしい。 |
| 授業外学修 | 予習として，授業内容にかかわる人物や事項を調べる。<br>復習として，授業で配布したプリントを読み直す。<br>発展学修として，授業で紹介される参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 西洋教育史 | 尾上　雅信 | ミネルヴァ書房 | 978-4623-084166 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じ，授業でプリント資料を配布する。<br>なお，参考書を下記に示すので，読んで関心を広げることを推奨する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 1.尾上雅信他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻），協同出版，2022年。<br>2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』萌文書林，2022年。<br>3.梶井一暁『映画のなかの学びのヒント』岐阜新聞社，2014年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育方法学 | | | 授業番号 | CP203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。<br>・教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。<br>・情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育の方法(1)　教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織 | 住野 |
| 第2回 | 教育の方法(2)　学習指導要領が求める教育の方法 | 住野 |
| 第3回 | 教育の方法(3)　教育方法の歴史(1)近代以前 | 住野 |
| 第4回 | 教育の方法(4)　教育方法の歴史(2)近代以降(1) | 住野 |
| 第5回 | 教育の方法(5)　教育方法の歴史(3)近代以降(2) | 住野 |
| 第6回 | 教育の方法(6)　教育方法の歴史(4)日本 | 住野 |
| 第7回 | 教育の技術(1)　授業づくりの構造 | 住野 |
| 第8回 | 教育の技術(2)　教材づくりの方法 | 住野 |
| 第9回 | 教育の技術(3)　教授行為の工夫 | 住野 |
| 第10回 | 教育の技術(4)　授業指導案の構造 | 住野 |
| 第11回 | 教育の技術(5)　授業指導案の作成 | 住野 |
| 第12回 | 教育の技術(6)　授業実践の分析 | 住野 |
| 第13回 | 情報機器及び教材の活用(1)　情報機器を活用した授業づくり | 住野 |
| 第14回 | 情報機器及び教材の活用(2)　情報機器を活用した授業の実際 | 住野 |
| 第15回 | 教育方法の未来 | 住野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 最終的な目標到達度を評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回，授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，授業の中で紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育者論 | | | 授業番号 | CP204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育者は日々の保育実践に関し，主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ，保育者の基本的な資質と役割について学び，自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質，保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち，保育者は，この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し，自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ，日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と，それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうちに貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育者になるということは | |
| 第2回 | 保育の本質 | |
| 第3回 | 保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） | |
| 第4回 | 保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） | |
| 第5回 | 豊かな環境をつくる保育者 | |
| 第6回 | 保育の展開と評価（保育課程） | |
| 第7回 | 保育の展開と評価（教育課程） | |
| 第8回 | 保育者の協働 | |
| 第9回 | 小学校と連携する保育者 | |
| 第10回 | 小学校との連携 | |
| 第11回 | 専門職，他の機関との連携 | |
| 第12回 | 保育者のキャリア形成と生涯発達 | |
| 第13回 | 法令で定められた保育者の責務 | |
| 第14回 | 歴史から学ぶ保育者の在り方 | |
| 第15回 | 子育て環境と保育者の役割 | |
| 授業計画　備考2 | 事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて，学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な学習態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 授業で提示される課題について，授業内容に関連させ，自分の考えを具体的に述べている。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 本科目の総合的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 提出物（レポートを含む）20%，授業への取組30%，試験50% |
| 受講の心得 | 講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。<br>保育者としての自分の在り方を探求するために，自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。 |
| 授業外学修 | ・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。<br>・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり，討議したりする。<br>・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね，社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| シードブック改訂『保育者論』 | 櫻田二三子・大沼良子・増田時枝 | 建帛社 | 978-4-7679-3295 | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | シードブック改訂『保育者論』櫻田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建帛社 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　他適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育心理学 | | | 授業番号 | CP205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。<br>この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育心理学とは | |
| 第2回 | 乳幼児期の発達 | |
| 第3回 | 児童期・青年期の発達 | |
| 第4回 | 学習と知識獲得 | |
| 第5回 | 認知情報処理と記憶 | |
| 第6回 | 動機づけと学習 | |
| 第7回 | 認知発達と学習支援 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 学級集団と学習支援 | |
| 第10回 | 個性や個人差と学習支援 | |
| 第11回 | 教育評価 | |
| 第12回 | 障害の基本的理解 | |
| 第13回 | 障害児への教育的支援 | |
| 第14回 | 学校教育を取り巻く諸問題 | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！教職エクササイズ2　教育心理学 | 田爪宏二（編著） | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08177-6 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育・保育課程総論 | | | 授業番号 | CP206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 第１～７回においては，幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について，基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。<br>第８～15回においては，小学校期における学習指導とカリキュラムについて，歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。＜知識・理解＞<br>・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を説明することができる。＜知識・理解＞<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育・保育について | （岡﨑） |
| 第2回 | 教育課程とは | （岡﨑） |
| 第3回 | 保育におけるカリキュラム | （岡﨑） |
| 第4回 | 保育における記録 | （岡﨑） |
| 第5回 | 保育における省察 | （岡﨑） |
| 第6回 | 保育カンファレンス | （岡﨑） |
| 第7回 | 保育におけるカリキュラム・マネジメント | （岡﨑） |
| 第8回 | 学習指導とカリキュラム(1)　伝達観と助成観 | （佐々木） |
| 第9回 | 学習指導とカリキュラム(2)　形式陶冶と実質陶冶 | （佐々木） |
| 第10回 | 学習指導とカリキュラム(3)　経験主義と系統主義 | （佐々木） |
| 第11回 | 教育課程の変遷 | （佐々木） |
| 第12回 | カリキュラムを支える学習指導法 | （佐々木） |
| 第13回 | 特色あるカリキュラム事例 | （佐々木） |
| 第14回 | 学習評価からカリキュラム評価へ | （佐々木） |
| 第15回 | 小学校におけるカリキュラム・マネジメント | （佐々木） |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 第８～15回においては，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　総則編 | 文部科学省 | | | |
| 幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | | | |
| 保育所保育指針 | 厚生労働省 | | | |
| 使用テキスト：自由記載 | 「小学校学習指導要領解説　総則編」文部科学省<br>「保育所指導指針・解説」厚生労働省<br>「幼稚園教育要領・解説」文部科学省 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | 毎回，授業ノートを回収するので，ルーズリーフのノートを用意すること。 | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育・保育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 | | | |

| 科目名 | 保育内容総論 1クラス | | | 授業番号 | CP207A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け，５領域のねらい及び内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また，指導計画について理解し，園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し，幼児の姿と関連付けて考えることができる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで，保育内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解する。<br>2．保育内容の歴史的変遷について学び，保育内容について理解する。<br>3．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について，具体的な保育実践と関連付けて理解する。<br>4．保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち， ＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに，保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により，グループ討議を実施する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 | |
| 第2回 | 保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 | |
| 第3回 | 保育内容の歴史的変遷 | |
| 第4回 | 子どもの発達の特性と保育内容（5領域）<br>ー乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児ー | |
| 第5回 | 子どもの発達の特性と保育内容（5領域）ー3歳以上児，異年齢ー | |
| 第6回 | 個と集団の発達と保育内容（5領域） | |
| 第7回 | 保育における観察と記録 | |
| 第8回 | 養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 | |
| 第9回 | 環境を通して行う保育の在り方 | |
| 第10回 | 遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） | |
| 第11回 | 遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 | |
| 第12回 | 家庭，地域との連携をふまえた保育ー長時間保育含むー | |
| 第13回 | 小学校との連携をふまえた保育の在り方 | |
| 第14回 | 特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 | |
| 第15回 | 多文化共生の保育 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。 |
| レポート | 20 | 自主的にワークシートを提出したかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 期末試験・レポート（70%），受講態度（30%）により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。 |
| 授業外学修 | 事前学習をして授業に臨む。<br>授業後は振り返るシートを必ず記入する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論 | 開　仁志　編著 | 保育出版社 | 987-4-905493-19-8 | 2270円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育内容総論 2クラス | | | 授業番号 | CP207B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け，５領域のねらい及び内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また，指導計画について理解し，園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し，幼児の姿と関連付けて考えることができる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで，保育内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解する。<br>2．保育内容の歴史的変遷について学び，保育内容について理解する。<br>3．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について，具体的な保育実践と関連付けて理解する。<br>4．保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち， ＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに，保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により，グループ討議を実施する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 | |
| 第2回 | 保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 | |
| 第3回 | 保育内容の歴史的変遷 | |
| 第4回 | 子どもの発達の特性と保育内容（5領域）<br>ー乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児ー | |
| 第5回 | 子どもの発達の特性と保育内容（5領域）ー3歳以上児，異年齢ー | |
| 第6回 | 個と集団の発達と保育内容（5領域） | |
| 第7回 | 保育における観察と記録 | |
| 第8回 | 養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 | |
| 第9回 | 環境を通して行う保育の在り方 | |
| 第10回 | 遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） | |
| 第11回 | 遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 | |
| 第12回 | 家庭，地域との連携をふまえた保育ー長時間保育含むー | |
| 第13回 | 小学校との連携をふまえた保育の在り方 | |
| 第14回 | 特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 | |
| 第15回 | 多文化共生の保育 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。 |
| レポート | 20 | 自主的にワークシートを提出したかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 期末試験・レポート（70%），受講態度（30%）により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。 |
| 授業外学修 | 事前学習をして授業に臨む。<br>授業後は振り返るシートを必ず記入する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論 | 開　仁志　編著 | 保育出版社 | 987-4-905493-19-8 | 2270円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 特別支援教育 | | | 授業番号 | CP208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、西　千秋 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習していく。<br>特に，特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解，教育課程，支援の方法を学ぶ中で，学校と関係機関との連携のあり方について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では，幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性<br>特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。 | 西　千秋 |
| 第2回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達<br>特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。 | 西　千秋 |
| 第3回 | 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み<br>障害者総合支援法，発達障害者総合支援法の内容を理解する。 | 西　千秋 |
| 第4回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ<br>授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。 | 西　千秋 |
| 第5回 | 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程<br>特別支援教育における教育課程について理解する。 | 西　千秋 |
| 第6回 | 発達障害をはじめとする障害のある子どもへの合理的配慮<br>合理的配慮について理解する。 | 中　典子 |
| 第7回 | 「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ<br>特別支援教育における指導技術について理解する。 | 西　千秋 |
| 第8回 | 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法<br>「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。 | 西　千秋 |
| 第9回 | 学校と家庭との連携のあり方<br>個別の教育支援計画を作り，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 | 中　典子 |
| 第10回 | 学校と地域の関係機関との連携のあり方<br>学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。 | 中　典子 |
| 第11回 | 多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ<br>多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 | 中　典子 |
| 第12回 | 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方<br>多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。 | 中　典子 |
| 第13回 | 貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ<br>子どもの貧困について理解する。 | 中　典子 |
| 第14回 | 貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障<br>学習環境を整えるための支援について理解する。 | 中　典子 |
| 第15回 | 多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援<br>幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。 | 中　典子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 50 | 課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 50 | 毎回提示する課題に対し具体的に述べていること。課題に対してはコメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容の理解を深めるため，授業開始前までに配付する資料を読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭，特別支援学校教諭(西千秋) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がいを有する児童・生徒への対応について指導する。(西千秋) |

| 科目名 | 教職概論 | | | 授業番号 | CP209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教職概論は，教職の意義と教師の役割，教師の職務内容について，関係するテキスト及び実際的側面から学ぶ。教職を目指す学生が，職業論（教職の全体像をつかむとともに，教職に関する基礎的な知識）を身に付け，教職に対する意欲を喚起し，専門職としての基礎を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教職の意義，教師の役割，職務内容など教職に対する理解を深めるとともに，教師としての使命や責任を知り，教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本科目を学ぶ目的 | |
| 第2回 | 最近の子どもの生活 | |
| 第3回 | 学校の中での子ども（１） | |
| 第4回 | 学校の中での子ども（２） | |
| 第5回 | 学習指導の意義と役割 | |
| 第6回 | 学習指導と指導過程 | |
| 第7回 | 学習指導と学習形態 | |
| 第8回 | 生徒指導の目的と内容 | |
| 第9回 | 生徒指導の方法 | |
| 第10回 | キャリア教育の目的と内容 | |
| 第11回 | 教育相談の目的と方法 | |
| 第12回 | 学級経営の内容と方法 | |
| 第13回 | 学級経営と特別活動 | |
| 第14回 | 教師に求められる資質・能力 | |
| 第15回 | 教師の地位と身分 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する |
| レポート | 30 | 授業毎の学習内容の理解を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストを読んだり，グループで話し合ったりするすることを通して，教職や教師のあり方等について考えを深めること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書の授業内容にかかわる部分を読み，課題をレポートにまとめる。<br>2．教育に関するニュースに関心をもち，自分の考えや感想を話すことができるようにする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新版（改訂2版）教職入門教師への道 | 藤本典裕 | 図書文化 | 978-4-8100-9720-7 | 1980円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市立公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 国語科教育の指導内容及び指導方法，学級経営，学校運営 |

| 科目名 | 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 | | | 授業番号 | CP210 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について演習を通して講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について理解することができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育課程としての特別活動の領域 | |
| 第2回 | 特別活動の目標と内容 | |
| 第3回 | 特別活動の特質と教育的意義 | |
| 第4回 | 特別活動と各教科等との関連 | |
| 第5回 | 学級活動の目標と内容 | |
| 第6回 | 学級活動の指導計画と指導過程 | |
| 第7回 | 児童会活動，クラブ活動の目標と内容 | |
| 第8回 | 学校行事の目標と内容，家庭・地域等との連携 | |
| 第9回 | 特別活動における評価 | |
| 第10回 | 総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 | |
| 第11回 | 総合的な学習の時間の目標と内容 | |
| 第12回 | 総合的な学習の時間と各教科等との関連 | |
| 第13回 | 総合的な学習の時間の学習過程 | |
| 第14回 | 総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 | |
| 第15回 | 総合的な学習の時間における評価 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 10 | 学習指導案作成の適切さを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。<br>3　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>4　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストやノート，資料を読む。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説特別活動編 | 文部科学省 | 東洋館出版 | 978-4-491-03469-0 | 141円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間 | 文部科学省 | 東洋館出版 | 978-4-491-03468-3 | 126円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木） |

| 科目名 | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | | | 授業番号 | CP211 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を，組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を，組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生徒指導の意義と課題 | 住野 |
| 第2回 | 教育課程における生徒指導の位置づけ（1）学習指導と生徒指導 | 住野 |
| 第3回 | 教育課程における生徒指導の位置づけ（2）道徳・特別活動等と生徒指導 | 住野 |
| 第4回 | 生徒指導の実践形態と方法原理 | 住野 |
| 第5回 | 子ども理解に基づく開発的生徒指導（1）小学校低学年 | 住野 |
| 第6回 | 子ども理解に基づく開発的生徒指導（2）小学校中学年 | 住野 |
| 第7回 | 子ども理解に基づく開発的生徒指導（3）小学校高学年 | 住野 |
| 第8回 | 学校における生徒指導体制 | 住野 |
| 第9回 | 暴力問題への取組と生徒指導に関する法令 | 住野 |
| 第10回 | いじめ問題への取組と生徒指導に関する法令 | 住野 |
| 第11回 | 不登校問題への対応と関係機関との連携 | 住野 |
| 第12回 | 進路指導・キャリア教育の意義 | 住野 |
| 第13回 | キャリア・ガイダンスの理論と実践 | 住野 |
| 第14回 | キャリア・カウンセリングの理論と実践 | 住野 |
| 第15回 | まとめ | 住野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | 授業内容に関する最終レポート。 |
| 小テスト | 40 | 毎回の授業の最後に，授業内容に関する小テストを行う。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1）事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。<br>2）発表や討論に積極的に取り組むこと。<br>3）配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生徒指導提要－令和4年12月－ | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 9784491051758 | 990円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと健康 1クラス | | | 授業番号 | CP212A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「健康」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また，遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や，家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて，幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし，保育者としてどのような健康観をもち，子どもたちに接するべきか常に考え，実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げたの修得に貢献する。<br>１．乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。<br>２．子どもの健康と生活の関連性を理解できる。<br>３．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し，発表できる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「健康」とは何か | |
| 第2回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)　乳幼児期の発達と心の安定 | |
| 第3回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)　生活リズム | |
| 第4回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3)　安全と食を営む力 | |
| 第5回 | 領域「健康」の指導計画の立案 | |
| 第6回 | 領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について | |
| 第7回 | 領域「健康」における保育者の役割について | |
| 第8回 | 領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 | |
| 第9回 | 領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 | |
| 第10回 | 領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 | |
| 第11回 | 領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 | |
| 第12回 | 領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体力づくりと運動遊び | |
| 第13回 | 領域「健康」指導上の留意事項(2)　保育環境の安全性 | |
| 第14回 | 領域「健康」指導上の留意事項(3)　子どもたちの食育 | |
| 第15回 | 子どもの健康を育む保育の在り方 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業への積極的な態度や取組について評価する。 |
| レポート | 10 | レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 領域「健康」に関する知識・理解について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり，実際に子どもに接する機会を意図的にもち，子ども理解を深めたりしていく。そして，理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。 |
| 授業外学修 | 1．毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| コンパクト版 保育内容シリーズ健康 | 谷田貝公章・高橋弥生 | 株式会社　一藝社 | 978-４-86359-150-９ | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | コンパクト版 保育内容シリーズ健康 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『最新保育講座7保育内容「健康」』 著者名　河邉貴子・柴崎俊行・杉原隆編　　発行所　ミネルヴァ書房<br>『新保育ライブラリ』保育内容　健康　著者名　民秋　言・小田　豊・栃尾　勲・無藤　隆　発行所　北大路書房<br>『保育所保育指針解説』厚生労働省　発行所　フレーベル館<br>『幼稚園教育要領解説』文部科学省　発行所　フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府　発行所　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと健康 2クラス | | | 授業番号 | CP212B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「健康」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また，遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や，家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて，幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし，保育者としてどのような健康観をもち，子どもたちに接するべきか常に考え，実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げたの修得に貢献する。<br>１．乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。<br>２．子どもの健康と生活の関連性を理解できる。<br>３．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し，発表できる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「健康」とは何か | |
| 第2回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)　乳幼児期の発達と心の安定 | |
| 第3回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)　生活リズム | |
| 第4回 | 子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3)　安全と食を営む力 | |
| 第5回 | 領域「健康」の指導計画の立案 | |
| 第6回 | 領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について | |
| 第7回 | 領域「健康」における保育者の役割について | |
| 第8回 | 領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 | |
| 第9回 | 領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 | |
| 第10回 | 領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 | |
| 第11回 | 領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 | |
| 第12回 | 領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体力づくりと運動遊び | |
| 第13回 | 領域「健康」指導上の留意事項(2)　保育環境の安全性 | |
| 第14回 | 領域「健康」指導上の留意事項(3)　子どもたちの食育 | |
| 第15回 | 子どもの健康を育む保育の在り方 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業への積極的な態度や取組について評価する。 |
| レポート | 10 | レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 領域「健康」に関する知識・理解について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり，実際に子どもに接する機会を意図的にもち，子ども理解を深めたりしていく。そして，理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。 |
| 授業外学修 | 1．毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| コンパクト版 保育内容シリーズ健康 | 谷田貝公章・高橋弥生 | 株式会社　一藝社 | 978-４-86359-150-９ | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | コンパクト版 保育内容シリーズ健康 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『最新保育講座7保育内容「健康」』 著者名　河邉貴子・柴崎俊行・杉原隆編　　発行所　ミネルヴァ書房<br>『新保育ライブラリ』保育内容　健康　著者名　民秋　言・小田　豊・栃尾　勲・無藤　隆　発行所　北大路書房<br>『保育所保育指針解説』厚生労働省　発行所　フレーベル館<br>『幼稚園教育要領解説』文部科学省　発行所　フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府　発行所　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと人間関係 1クラス | | | 授業番号 | CP214A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑 まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では，保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し，保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ，「人とかかわる力の基礎」を理解する。<br>保育者・教育者に求められる幅広い教養と，保育・教育に関する専門的知識を習得していく。<br>保育者・教育者として，子どものよきモデルとなることができるよう，明るく・前向きで誠実な態度を身につける。<br>これらは，ディプロマポリシーにあげている学士力の内容＜知識・理解＞ ＜態度＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する。 | |
| 第2回 | 子どもの人間関係をめぐる現代的課題…多様な家族形態が抱える諸問題 | |
| 第3回 | 子どもの人間関係の発達課題（１）…愛着関係の形成，情緒の形成，自我の発達 | |
| 第4回 | 子どもの人間関係の発達課題（２）…いざこざを通した育ち，いざこざに対する保育者の援助 | |
| 第5回 | 子どもの人間関係の発達課題（３）…道徳性と規範意識の芽生え | |
| 第6回 | 幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く | |
| 第7回 | 遊びの発達と人間関係…遊びのなかで育まれる人間関係 | |
| 第8回 | 保育者に求められる援助の視点…年齢別の援助とは，自立を考える | |
| 第9回 | 子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでぼくらは人間になる」を視聴，グループワーク | |
| 第10回 | 人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り | |
| 第11回 | 保育場面での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助 | |
| 第12回 | 乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え | |
| 第13回 | 子ども理解；子ども理解の視点，グループワーク | |
| 第14回 | 親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係，子育て支援の今後の課題 | |
| 第15回 | 定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への取組の積極性，発表，予習・復習の状況などによって評価する。 |
| レポート | 30 | テーマに沿って具体的に述べらている。レポートはコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。<br>また，演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み，意見交換等から知見を広げてほしい。 |
| 授業外学修 | テキストの授業内容にかかわる予習をして，課題をもって授業に出席する。<br>授業後は授業内容の整理を行い，ノートにまとめておくこと。<br>人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など，授業前後の準備・振り返りをする。<br>このことについて，１時間以上の学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育内容「人間関係」第2版 | 濱名浩　編 | 株式会社みらい | 9784860154455 | 2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと人間関係 2クラス | | | 授業番号 | CP214B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では，保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し，保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ，「人とかかわる力の基礎」を理解する。<br>保育者・教育者に求められる幅広い教養と，保育・教育に関する専門的知識を習得していく。<br>保育者・教育者として，子どものよきモデルとなることができるよう，明るく・前向きで誠実な態度を身につける。<br>これらは，ディプロマポリシーにあげている学士力の内容＜知識・理解＞＜態度＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する。 | |
| 第2回 | 子どもの人間関係をめぐる現代的課題…多様な家族形態が抱える諸問題 | |
| 第3回 | 子どもの人間関係の発達課題（１）…愛着関係の形成，情緒の形成，自我の発達 | |
| 第4回 | 子どもの人間関係の発達課題（２）…いざこざを通した育ち，いざこざに対する保育者の援助 | |
| 第5回 | 子どもの人間関係の発達課題（３）…道徳性と規範意識の芽生え | |
| 第6回 | 幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く | |
| 第7回 | 遊びの発達と人間関係…遊びのなかで育まれる人間関係 | |
| 第8回 | 保育者に求められる援助の視点…年齢別の援助とは，自立を考える | |
| 第9回 | 子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでぼくらは人間になる」を視聴，グループワーク | |
| 第10回 | 人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り | |
| 第11回 | 保育場面での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助 | |
| 第12回 | 乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え | |
| 第13回 | 子ども理解；子ども理解の視点，グループワーク | |
| 第14回 | 親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係，子育て支援の今後の課題 | |
| 第15回 | 定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への取組の積極性，発表，予習・復習の状況などによって評価する。 |
| レポート | 30 | テーマに沿って具体的に述べらている。レポートはコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。<br>また，演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み，意見交換等から知見を広げてほしい。 |
| 授業外学修 | テキストの授業内容にかかわる予習をして，課題をもって授業に出席する。<br>授業後は授業内容の整理を行い，ノートにまとめておくこと。<br>人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など，授業前後の準備・振り返りをする。<br>このことについて，１時間以上の学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育内容「人間関係」第2版 | 濱名浩　編 | 株式会社みらい | 9784860154455 | 2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと環境 1クラス | | | 授業番号 | CP216A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び，環境に関する基礎力を養成する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。<br>1．「環境」のねらいについて，自分の言葉で語ることができる。<br>2．環境の内容について，多様な視点から述べることができる。<br>3．環境に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付ける。<br>4．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | (1)領域「環境」についての内容，(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」，(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の３項目を授業で行う。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ・幼児教育の基本と「環境」・幼児教育で育みたい資質・能力　・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 | 齊藤 |
| 第2回 | ・領域「環境」のねらいと内容　・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 | 齊藤 |
| 第3回 | ・領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容　・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 | 齊藤 |
| 第4回 | ・領域「環境」における１歳以上３歳未満時の保育　・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 | 齊藤 |
| 第5回 | ・領域「環境」内容の取り扱い　・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 | 齊藤 |
| 第6回 | ・植物との関わり　・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「ヒヤシンス」 | 齊藤 |
| 第7回 | ・植物採集と標本（押し葉）づくり　・理科ソング「空の雲」 | 齊藤 |
| 第8回 | ・自然，季節とのかかわり，自然現象，季節をとらえる遊び　・理科ソング（復習）　・工作「押し葉絵」 | 齊藤 |
| 第9回 | ・生き物（動物・昆虫）との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(1)」 | 齊藤 |
| 第10回 | ・物「素材・道具」との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(2)」 | 齊藤 |
| 第11回 | ・数量や図形との関わり，園行事と子ども　・理科ソング（復習）　・実技「お手玉」 | 齊藤 |
| 第12回 | ・標識や文字との関わり　・理科ソング（復習）　・実技「あやとり」 | 齊藤 |
| 第13回 | ・情報や施設との関わり　・実技「けん玉」 | 齊藤 |
| 第14回 | ・地域社会と文化と伝統，遊びを通しての地域社会との連携・交流　・理科ソング（復習）　・工作「節分」 | 齊藤 |
| 第15回 | ・他の領域や小学校教育との関わり，領域「環境」全体のまとめ　・理科ソング（復習）・工作「俵転がし」 | 齊藤 |
| 授業計画　備考2 | (1)テキスト（2)ノート（3)ハサミ（4)セロテープ（5)色マジック（6)授業時間に指示した物 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲，発言，実技の態度 |
| レポート | 20 | 記述内容（要点を押さえているか，自分の考えを述べているか等） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 環境の内容，理科ソング　習得度 |
| その他 | 20 | 植物標本，工作物，実技 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・環境の内容を楽しく体験しながら，子どもの興味・関心，主体性について考えてもらいたい。 |
| 授業外学修 | ・身近な動植物を意識的に探し，子どもがどのような反応をするか，遊びに使えるかなどを考えること。<br>・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。<br>・季節の変化に注意し言葉で表現すること。<br>・地域の伝統・文化を探ぐり体験してみること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境 | 無藤隆　監修 | 萌文書林 | 978-4-89347-258-8 | 本体2200円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと環境 2クラス | | | 授業番号 | CP216B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び，環境に関する基礎力を養成する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。<br>1．「環境」のねらいについて，自分の言葉で語ることができる。<br>2．環境の内容について，多様な視点から述べることができる。<br>3．環境に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付ける。<br>4．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | (1)領域「環境」についての内容，(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」，(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の３項目を授業で行う。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ・幼児教育の基本と「環境」・幼児教育で育みたい資質・能力　・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 | 齊藤 |
| 第2回 | ・領域「環境」のねらいと内容　・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 | 齊藤 |
| 第3回 | ・領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容　・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 | 齊藤 |
| 第4回 | ・領域「環境」における１歳以上３歳未満時の保育　・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 | 齊藤 |
| 第5回 | ・領域「環境」内容の取り扱い　・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 | 齊藤 |
| 第6回 | ・植物との関わり　・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「ヒヤシンス」 | 齊藤 |
| 第7回 | ・植物採集と標本（押し葉）づくり　・理科ソング「空の雲」 | 齊藤 |
| 第8回 | ・自然，季節とのかかわり，自然現象，季節をとらえる遊び　・理科ソング（復習）　・工作「押し葉絵」 | 齊藤 |
| 第9回 | ・生き物（動物・昆虫）との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(1)」 | 齊藤 |
| 第10回 | ・物「素材・道具」との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(2)」 | 齊藤 |
| 第11回 | ・数量や図形との関わり，園行事と子ども　・理科ソング（復習）　・実技「お手玉」 | 齊藤 |
| 第12回 | ・標識や文字との関わり　・理科ソング（復習）　・実技「あやとり」 | 齊藤 |
| 第13回 | ・情報や施設との関わり　・実技「けん玉」 | 齊藤 |
| 第14回 | ・地域社会と文化と伝統，遊びを通しての地域社会との連携・交流　・理科ソング（復習）　・工作「節分」 | 齊藤 |
| 第15回 | ・他の領域や小学校教育との関わり，領域「環境」全体のまとめ　・理科ソング（復習）・工作「俵転がし」 | 齊藤 |
| 授業計画　備考2 | (1)テキスト（2)ノート（3)ハサミ（4)セロテープ（5)色マジック（6)授業時間に指示した物 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲，発言，実技の態度 |
| レポート | 20 | 記述内容（要点を押さえているか，自分の考えを述べているか等） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 環境の内容，理科ソング　習得度 |
| その他 | 20 | 植物標本，工作物，実技 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・環境の内容を楽しく体験しながら，子どもの興味・関心，主体性について考えてもらいたい。 |
| 授業外学修 | ・身近な動植物を意識的に探し，子どもがどのような反応をするか，遊びに使えるかなどを考えること。<br>・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。<br>・季節の変化に注意し言葉で表現すること。<br>・地域の伝統・文化を探ぐり体験してみること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境 | 無藤隆　監修 | 萌文書林 | 978-4-89347-258-8 | 本体2200円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと言葉 1クラス | | | 授業番号 | CP218A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて，テキストから詳しく学び，理解を深める。また，言葉を通して，豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育内容　領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。<br>人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。<br>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について，基礎的な知識を身に付ける。<br>児童文化財について基礎的知識を身に付け，実践することができる。<br>これらは，ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育と保育内容領域「言葉」 -人間と言葉- | |
| 第2回 | 乳幼児期の言葉の獲得 | |
| 第3回 | 子どもの発達と言葉 | |
| 第4回 | 言葉の豊かさ-言葉遊び- | |
| 第5回 | 児童文化財-お話- | |
| 第6回 | 児童文化財-お話の実際- | |
| 第7回 | 児童文化財-紙芝居- | |
| 第8回 | 児童文化財-紙芝居の実際- | |
| 第9回 | 児童文化財-ペープサート- | |
| 第10回 | 児童文化財-ペープサートの実際- | |
| 第11回 | 児童文化財-パネルシアター- | |
| 第12回 | 児童文化財-パネルシアターの実際- | |
| 第13回 | 児童文化財-文字あそび　かるた- | |
| 第14回 | 児童文化財-かるたの実際- | |
| 第15回 | 児童文化財-絵本と子ども- | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への積極的な取組（体験，発表など）による評価。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 理解について評価する。 |
| その他 | 30 | 児童文化財の制作物について，保育で使用するものとして適切か評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。 |
| 授業外学修 | テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして，課題を把握し，授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理やレポート作成をする。<br>いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。<br>このことについて，１時間以上の学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 | 馬見塚昭久/小倉直子 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09251-2 | 2400＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと言葉 2クラス | | | 授業番号 | CP218B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて，テキストから詳しく学び，理解を深める。また，言葉を通して，豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育内容　領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。<br>人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。<br>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について，基礎的な知識を身に付ける。<br>児童文化財について基礎的知識を身に付け，実践することができる。<br>これらは，ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育と保育内容領域「言葉」 -人間と言葉- | |
| 第2回 | 乳幼児期の言葉の獲得 | |
| 第3回 | 子どもの発達と言葉 | |
| 第4回 | 言葉の豊かさ-言葉遊び- | |
| 第5回 | 児童文化財-お話- | |
| 第6回 | 児童文化財-お話の実際- | |
| 第7回 | 児童文化財-紙芝居- | |
| 第8回 | 児童文化財-紙芝居の実際- | |
| 第9回 | 児童文化財-ペープサート- | |
| 第10回 | 児童文化財-ペープサートの実際- | |
| 第11回 | 児童文化財-パネルシアター- | |
| 第12回 | 児童文化財-パネルシアターの実際- | |
| 第13回 | 児童文化財-文字あそび　かるた- | |
| 第14回 | 児童文化財-かるたの実際- | |
| 第15回 | 児童文化財-絵本と子ども- | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への積極的な取組（体験，発表など）による評価。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 理解について評価する。 |
| その他 | 30 | 児童文化財の制作物について，保育で使用するものとして適切か評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。 |
| 授業外学修 | テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして，課題を把握し，授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理やレポート作成をする。<br>いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。<br>このことについて，１時間以上の学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 | 馬見塚昭久/小倉直子 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09251-2 | 2400＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと表現 1クラス | | | 授業番号 | CP220A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎、大坪　加奈、織田　典恵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する，幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)幼児の表現の姿や，その発達を理解する。<br>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。<br>2)表現を生成する過程について理解している。<br>3)幼児の素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。<br>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。<br>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。<br>2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。<br>3）表現することの楽しさを実感するとともに，楽しさを生み出す要因について分析することができる。<br>4）協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。<br>5）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし，幼児の表現活動に展開させることができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和5年度改訂 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「表現」と出会う（伝える・受け止める を通した表現の生成過程） | 大坪加奈 |
| 第2回 | 「表現」と身体（生活と動きの気づき） | 織田典恵 |
| 第3回 | 「表現」と音楽（自然の音を感じ，楽器で表現） | 大坪加奈 |
| 第4回 | 「表現」と色・形（素材との出会い －素材の特性を活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第5回 | 「表現」と身体（言葉と動きの工夫） | 織田典恵 |
| 第6回 | 「表現」と音楽（身近な音を，楽器で表現） | 大坪加奈 |
| 第7回 | 「表現」と色・形（自然との出会い －身近な自然との関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第8回 | 「表現」と身体（音と動きの楽しみ） | 織田典恵 |
| 第9回 | 「表現」と音楽（リズム遊びを展開） | 大坪加奈 |
| 第10回 | 「表現」と色・形（描画材との出会い －描画の関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第11回 | 幼児表現の特徴（みて，感じて，よみとる） | 織田典恵 |
| 第12回 | 「表現」と身体（イメージと動きの味わい） | 織田典恵 |
| 第13回 | 「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル） | 大坪加奈 |
| 第14回 | 「表現」と色・形（イメージとの出会い －言葉や物語との関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第15回 | ICTの活用と総括 | 牛島光太郎 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | 「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 40 | 各回のポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業内での小課題（40%），最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。 |
| 受講の心得 | 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | １．復習として課題を課すことがある。<br>２．予習として資料を配布することがある。<br>以上の内容を週あたり４時間以上学修することが望ましい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵) |

| 科目名 | 子どもと表現 2クラス | | | 授業番号 | CP220B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎、大坪　加奈、織田　典恵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する，幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)幼児の表現の姿や，その発達を理解する。<br>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。<br>2)表現を生成する過程について理解している。<br>3)幼児の素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。<br>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。<br>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。<br>2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。<br>3）表現することの楽しさを実感するとともに，楽しさを生み出す要因について分析することができる。<br>4）協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。<br>5）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし，幼児の表現活動に展開させることができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和5年度改訂 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「表現」と出会う（伝える・受け止める を通した表現の生成過程） | 大坪加奈 |
| 第2回 | 「表現」と身体（生活と動きの気づき） | 織田典恵 |
| 第3回 | 「表現」と音楽（自然の音を感じ，楽器で表現） | 大坪加奈 |
| 第4回 | 「表現」と色・形（素材との出会い －素材の特性を活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第5回 | 「表現」と身体（言葉と動きの工夫） | 織田典恵 |
| 第6回 | 「表現」と音楽（身近な音を，楽器で表現） | 大坪加奈 |
| 第7回 | 「表現」と色・形（自然との出会い －身近な自然との関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第8回 | 「表現」と身体（音と動きの楽しみ） | 織田典恵 |
| 第9回 | 「表現」と音楽（リズム遊びを展開） | 大坪加奈 |
| 第10回 | 「表現」と色・形（描画材との出会い －描画の関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第11回 | 幼児表現の特徴（みて，感じて，よみとる） | 織田典恵 |
| 第12回 | 「表現」と身体（イメージと動きの味わい） | 織田典恵 |
| 第13回 | 「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル） | 大坪加奈 |
| 第14回 | 「表現」と色・形（イメージとの出会い －言葉や物語との関わりを活かして－） | 牛島光太郎 |
| 第15回 | ICTの活用と総括 | 牛島光太郎 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | 「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 40 | 各回のポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業内での小課題（40%），最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。 |
| 受講の心得 | 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | １．復習として課題を課すことがある。<br>２．予習として資料を配布することがある。<br>以上の内容を週あたり４時間以上学修することが望ましい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵) |

| 科目名 | 子どもと音楽 | | | 授業番号 | CP222 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二、川崎　泰子、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児にとって音を通した遊びは本来，楽しく有意義なものである。その中で，拍節的な活動は身体的，知的な発達を促進させ，無拍節的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び，描写的な音楽作りを実体験しながら，保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また，音楽を使った身体表現について，基礎知識を習得するとともに保育・教育現場での活用方法を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子どもの発達を理解し，発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。<br>・音楽を使った身体表現のために必要な知識を習得し，現場で実践できる技能を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児の発達と音楽1－わらべ歌，童謡 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第2回 | 幼児の発達と音楽2－子どもの歌と伴奏 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第3回 | 幼児の発達と音楽3－子どもの生活と音楽表現 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第4回 | 生活と遊びの中の音1－身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむ経験 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第5回 | 生活と遊びの中の音2－音と保育の環境 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第6回 | 生活と遊びの中の音楽3－拍節とリズム | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第7回 | 音楽の仕組みと諸要素 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第8回 | 動きとリズム，人の声や音楽－乳幼児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第9回 | 動きとリズム－1歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第10回 | 動きとリズム－2歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第11回 | 動きとリズム－3歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第12回 | 動きとリズム－4歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第13回 | 動きとリズム－5歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第14回 | 動きとリズム－6歳児 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 第15回 | 楽曲の仕組みと伴奏法 | 河田 健二　川崎泰子　大坪 加奈 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業に取り組む姿勢，態度，発表。 |
| レポート | 30 | 添削後，返却する。 |
| 小テスト | 20 | 知識の理解度。動きとリズムの表現技法。 |
| 定期試験 | 20 | 知識の理解度と定着度。動きとリズムの表現技法。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【受講の心得】<br>授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。 |
| 受講の心得 | 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施し，復習すること。<br>上記の内容を，週当たり1時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | こどものうた100　（小林美実編著，チャイルド本社）<br>楽しみながら体を動かす1～5歳のリトミック（神原雅之監修，ナツメ社）<br>大人のための音楽ワーク（ヤマハ出版） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業中に適宜資料を配布する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導(川崎泰子) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 子どもと造形 1クラス | | | 授業番号 | CP224A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この講義では，幼児の「表現とその発達」について理解するとともに，幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)幼児の表現の姿や，その発達について理解する。<br>1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。<br>1-2)子どもの素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。<br>(2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。<br>2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。<br>2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。<br>2-3)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め，共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。<br>2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし，子どもの表現活動を展開させることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「表現」に出会う | 伊藤 |
| 第2回 | 表現活動におけるICTの活用 | 伊藤 |
| 第3回 | 表現活動と子どもの発達 | 伊藤 |
| 第4回 | 素材・加工・生活との出会い | 伊藤 |
| 第5回 | 描画材との出会い1 | 伊藤 |
| 第6回 | 描画材との出会い2 | 伊藤 |
| 第7回 | イメージとの出会い | 伊藤 |
| 第8回 | 見立てとの出会い | 伊藤 |
| 第9回 | 他者との出会い | 伊藤 |
| 第10回 | 道具との出会い | 伊藤 |
| 第11回 | 自然との出会い | 伊藤 |
| 第12回 | シンボルとの出会い | 伊藤 |
| 第13回 | 総合的な表現 1 | 伊藤 |
| 第14回 | 総合的な表現 2 | 伊藤 |
| 第15回 | 表現活動の振り返り | 牛島 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | ポイントの理解を記述内容によって評価する。 |
| 小テスト | 30 | 知識の理解により評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | スケッチブック等の内容により評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，課題を課すことがある。<br>2. 予習として，資料を配布することがある。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修することが望ましい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，提示する。 |
| その他 | はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。図工・造形セット等，詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと造形 2クラス | | | 授業番号 | CP224B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里、牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この講義では，幼児の「表現とその発達」について理解するとともに，幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)幼児の表現の姿や，その発達について理解する。<br>1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。<br>1-2)子どもの素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。<br>(2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。<br>2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。<br>2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。<br>2-3)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め，共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。<br>2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし，子どもの表現活動を展開させることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「表現」に出会う | 伊藤 |
| 第2回 | 表現活動におけるICTの活用 | 伊藤 |
| 第3回 | 表現活動と子どもの発達 | 伊藤 |
| 第4回 | 素材・加工・生活との出会い | 伊藤 |
| 第5回 | 描画材との出会い1 | 伊藤 |
| 第6回 | 描画材との出会い2 | 伊藤 |
| 第7回 | イメージとの出会い | 伊藤 |
| 第8回 | 見立てとの出会い | 伊藤 |
| 第9回 | 他者との出会い | 伊藤 |
| 第10回 | 道具との出会い | 伊藤 |
| 第11回 | 自然との出会い | 伊藤 |
| 第12回 | シンボルとの出会い | 伊藤 |
| 第13回 | 総合的な表現 1 | 伊藤 |
| 第14回 | 総合的な表現 2 | 伊藤 |
| 第15回 | 表現活動の振り返り | 牛島 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | ポイントの理解を記述内容によって評価する。 |
| 小テスト | 30 | 知識の理解により評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | スケッチブック等の内容により評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，課題を課すことがある。<br>2. 予習として，資料を配布することがある。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修することが望ましい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，提示する。 |
| その他 | はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。図工・造形セット等，詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | メディア教育演習 | | | 授業番号 | CP225 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために，本演習では，特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メディア教育とは | |
| 第2回 | ネット社会を生きる子どもの現状と課題 | |
| 第3回 | 情報モラルの指導案作りと模擬授業 | |
| 第4回 | 教育メディアと著作権 | |
| 第5回 | 画像処理とその活用I | |
| 第6回 | 画像処理とその活用II | |
| 第7回 | 動画編集とその活用I | |
| 第8回 | 動画編集とその活用II | |
| 第9回 | 動画編集とその活用III | |
| 第10回 | プレゼンテーションの基本 | |
| 第11回 | プレゼンテーションソフトの活用 | |
| 第12回 | アクティブラーニングのためのＩＣＴの活用について | |
| 第13回 | 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成 | |
| 第14回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価I | |
| 第15回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価II | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。 |
| 授業外学修 | １．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。<br>２．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。<br>３．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。<br><br>１および２の内容については週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，紹介する。 |
| その他 | パソコンを大切に使用すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | メディア教育演習 1クラス | | | 授業番号 | CP225A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸 誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために，本演習では，特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メディア教育とは | |
| 第2回 | ネット社会を生きる子どもの現状と課題 | |
| 第3回 | 情報モラルの指導案作りと模擬授業 | |
| 第4回 | 教育メディアと著作権 | |
| 第5回 | 画像処理とその活用I | |
| 第6回 | 画像処理とその活用II | |
| 第7回 | 動画編集とその活用I | |
| 第8回 | 動画編集とその活用II | |
| 第9回 | 動画編集とその活用III | |
| 第10回 | プレゼンテーションの基本 | |
| 第11回 | プレゼンテーションソフトの活用 | |
| 第12回 | アクティブラーニングのためのＩＣＴの活用について | |
| 第13回 | 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成 | |
| 第14回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価I | |
| 第15回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価II | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。 |
| 授業外学修 | １．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。<br>２．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。<br>３．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。<br><br>１および２の内容については週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，紹介する。 |
| その他 | パソコンを大切に使用すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | メディア教育演習 2クラス | | | 授業番号 | CP225B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために，本演習では，特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メディア教育とは | |
| 第2回 | ネット社会を生きる子どもの現状と課題 | |
| 第3回 | 情報モラルの指導案作りと模擬授業 | |
| 第4回 | 教育メディアと著作権 | |
| 第5回 | 画像処理とその活用I | |
| 第6回 | 画像処理とその活用II | |
| 第7回 | 動画編集とその活用I | |
| 第8回 | 動画編集とその活用II | |
| 第9回 | 動画編集とその活用III | |
| 第10回 | プレゼンテーションの基本 | |
| 第11回 | プレゼンテーションソフトの活用 | |
| 第12回 | アクティブラーニングのためのＩＣＴの活用について | |
| 第13回 | 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成 | |
| 第14回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価I | |
| 第15回 | 教育メディアを活用した模擬授業とその評価II | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。 |
| 授業外学修 | １．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。<br>２．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。<br>３．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。<br><br>１および２の内容については週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，紹介する。 |
| その他 | パソコンを大切に使用すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 小学校教育基礎研究 | | | 授業番号 | CP227 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教員を養成するための基礎科目として，教職に関する基礎的な理解を深めることで，教師になりたいという気持ちを確かなものにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解し，教師を目指す思いを高める。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校の教師になるために必要なことを考える | 姫野 |
| 第2回 | 小学校で働く人（教職員）について理解する | 姫野 |
| 第3回 | いい先生とはどんな先生かについて考える | 姫野 |
| 第4回 | 特別活動について理解する | 姫野 |
| 第5回 | 遠足・宿泊的行事について考える | 姫野 |
| 第6回 | 遠足・宿泊的行事の実践(1) | 姫野 |
| 第7回 | 遠足・宿泊的行事の実践(2) | 姫野 |
| 第8回 | 学力の問題について考える | 姫野 |
| 第9回 | 小学校の体育の時間を体験する | 溝田，姫野 |
| 第10回 | 教育委員会事務局，小学校教員の方々の話を聞く | 姫野 |
| 第11回 | ふしぎサイエンスクラブに入部する | 姫野 |
| 第12回 | SDG s と教育について考える | 姫野 |
| 第13回 | SDG s についての指導案を考える | 姫野 |
| 第14回 | SDG s に関連する模擬授業に挑戦する | 姫野 |
| 第15回 | 図画工作での木工に挑戦する<br>授業のまとめと最終レポートを作成する | 姫野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，活動や討議への積極的な取り組みの状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポートの内容と提出状況を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。 |
| 授業外学修 | 1．授業ごとに配付したり，紹介したりする参考資料等をよく読み込み，次時の予習とする。<br>2．授業内容について興味をもった事柄について，自ら深く調べることで復習とする。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 子どもと健康指導法 | | | 授業番号 | CP313 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 演習形式で，領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。<br>また，遊びに関わるだけでなく，安全教育，食育，小学校との接続を踏まえた指導について考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児期の身体に関する問題は，多様化，複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について，方法とその具体的内容について理解することを目的とする。<br>子どもと健康の内容を踏まえ，ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また，実践における評価について学習する。<br>なお，本科目は，デュプロマポリシーに掲げた学士力のうちの修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解 | |
| 第2回 | 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 | |
| 第3回 | 領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT） | |
| 第4回 | 領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT） | |
| 第5回 | 領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） | |
| 第6回 | 領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） | |
| 第7回 | 領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） | |
| 第8回 | 領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） | |
| 第9回 | 領域「健康」に関する安全指導と保健指導 | |
| 第10回 | 食育に関する指導（３歳未満児を対象として） | |
| 第11回 | 食育に関する指導（３歳以上児を対象として） | |
| 第12回 | 乳幼児の病気とアレルギーに対する指導 | |
| 第13回 | 特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 | |
| 第14回 | 小学校を見通した領域「健康」における指導 | |
| 第15回 | 領域「健康」における評価 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業への積極的な態度や取組について評価する。 |
| レポート | 20 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。<br>・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。 |
| 授業外学修 | １．毎回，授業に使用するテキストを読み，授業内容の概要を理解すること。<br>２．受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。<br>以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新時代の保育双書保育内容健康［第2版］ | 春日晃章 | 株式会社みらい | | 2100円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども人間関係指導法 | | | 授業番号 | CP315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「人間関係」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し，幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「人間関係」とは（1） | |
| 第2回 | 領域「人間関係」とは（2） | |
| 第3回 | 人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1) | |
| 第4回 | 人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2) | |
| 第5回 | 遊びの中の人とのかかわりの育ち(1) | |
| 第6回 | 遊びの中の人とのかかわりの育ち(2) | |
| 第7回 | 人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1) | |
| 第8回 | 人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2) | |
| 第9回 | 人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3) | |
| 第10回 | 人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1) | |
| 第11回 | 人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2) | |
| 第12回 | 人とのかかわりを支え広げる実践(1) | |
| 第13回 | 人とのかかわりを支え広げる実践(2) | |
| 第14回 | 領域「人間関係」における今日的課題 | |
| 第15回 | 定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に対する積極性，予習・復習への取り組みなどにより評価する。 |
| レポート | 30 | テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。レポートは全体に対するフィードバックを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | テキストの授業内容にかかわる予習をして，課題をもって授業に出席する。<br>授業終了後は，授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。<br>このことについて，４時間以上の学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ) | 若月芳浩・岩田恵子編著 | 玉川大学出版部 | 4472405644 | 2400+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと環境指導法 | | | 授業番号 | CP317 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり，発見を楽しんだり考えたり，生活に取り入れる。本授業では，幼児を取り巻く「環境」を整理し，保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能を具体的な活動を通して体験的に学ぶ。また具体例を取り上げ，幼児の発達段階の特徴や興味・関心，遊びの発展や展開を踏まえた環境の構成の仕方と保育者の配慮，その環境で幼児がどのような活動をするかについて考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。<br>・「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をイメージすることができる。<br>・子どもたちに考えさせたり，工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。<br>・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ，どのように指導すればよいかを説明することができる。<br>・「環境」の活動の楽しさを実感し，子どもにどのように接すればよいかを話すことができる。<br>・具体的な指導計画を作ることができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ①領域「環境」の基礎知識の整理（1)子どもを取り巻く環境（2)ねらいと内容（3)園の環境（4)子どもの発達と環境<br>②実際に体験する活動<br>③工夫したり，調べる活動<br>④考える活動<br>⑤指導計画をつくる | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ・保育の基本と環境　・子どもを取り巻く環境 | |
| 第2回 | ・「環境」のねらい及び内容 | |
| 第3回 | ・園の環境　・子どもの発達と環境 | |
| 第4回 | ・自然とふれあい感動する　・植物の栽培　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第5回 | ・物事の法則性に気づく　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第6回 | ・季節感を味わう　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第7回 | ・自然を取り入れて遊ぶ　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第8回 | ・生き物との関わり　・生命の営みに触れる　・ダンゴムシ探しと飼育　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第9回 | ・身のまわりの物に愛着をもつ　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第10回 | ・科学を体感する　・かいわれ大根の水栽培　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第11回 | ・数量・図形に親しむ　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第12回 | ・標識や文字の必要性を育む　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第13回 | ・園外の活動　・身近な情報や施設を生かし，生活を豊かにする　（体験する活動）（調べる）（考える） | |
| 第14回 | ・指導計画をつくる(1)　・指導形態とカリキュラム　・指導計画作成手順 | |
| 第15回 | ・指導計画をつくる(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な姿勢，態度 |
| レポート | 20 | 授業ごとのレポート内容，ダンゴムシの飼育，かいわれ大根の水栽培 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 「環境」基礎知識　習熟度 |
| その他 | 10 | 指導計画（指導案）の内容 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。<br>・基礎概念の理解度についての試験を実施する。 |
| 受講の心得 | ・授業に前向きに取り組み，考えたり，工夫しようとしている姿勢を重視する。 |
| 授業外学修 | ・日常的に環境を意識し，子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し，ノートに記録する。<br>・身近なものを使い，子どもが喜びそうな工作を考える。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 実践例から学びを深める　保育内容・領域　環境指導法 | 小櫃　智子　編著 | わかば社 | 9784907270339 | 1760円（本体1600+税） |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 子どもと言葉指導法 | | | 授業番号 | CP319 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 模擬保育・事例などを基に，体験したり，協議したりして領域「言葉」の視点から，幼児を理解したり，環境構成，指導上の留意点及び，保育の構想などを理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 授業の到達目標及びテーマ<br>・幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。<br>・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。<br>・指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。<br>・模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーにあげた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼児教育の基本を踏まえ，保育内容　領域「言葉」のねらい及び内容について<br>乳幼児の言葉の発達から人との関わり，非言語的なコミュニケーションの重要性について | |
| 第2回 | バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションを体験し理解と援助を探る | |
| 第3回 | 言葉の遅れがある幼児や障害がある幼児などの援助について | |
| 第4回 | ごっこ遊びを通して，環境構成，保育者の援助，幼児理解などを探る | |
| 第5回 | 生活や遊びの中で，幼児と保育者が児童文化財を作り使う過程を知り，領域との関連，情報機器や教材活用を理解する。 | |
| 第6回 | 生活や遊びの中で，幼児と保育者が児童文化財を作り使う過程を知り，幼児理解と指導の援助，評価を理解する。 | |
| 第7回 | 読む・書くを通しての遊びや環境構成を知り，保育の構想を考える | |
| 第8回 | 読む・書くを通しての遊びや環境構成，指導上の留意点など理解する | |
| 第9回 | 絵本・素話から劇遊びに発展した事例をもとに，指導の経過，保育の構想を理解する | |
| 第10回 | 領域「言葉」と総合的な活動とのつながり：絵本・素話を通して，劇遊びに発展した事例をもとにねらい・内容，環境構成・指導上の留意点を理解する | |
| 第11回 | いろいろな児童文化財を利用し，どう保育に取り入れるかを考える | |
| 第12回 | いろいろな児童文化財を利用し，保育に取り入れ，指導案を作成する　－グループ活動－ | |
| 第13回 | いろいろな児童文化財を利用し，模擬保育を行う　　－グループ活動－ | |
| 第14回 | いろいろな児童文化財を利用し，模擬保育，評価・改善を行う　－グループ活動－ | |
| 第15回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中で，領域「言葉」との関係の深い「言葉による伝え合い」と他領域との関係（総合的な指導）など小学校とのつながりを考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への積極的な取組，発表などによる評価 |
| レポート | 20 | 提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されていたりする |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることできるよう主体的に受講する。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと表現指導法 | | | 授業番号 | CP321 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎、大坪　加奈、織田　典恵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児教育において育みたい資質能力を理解し，領域「表現」のねらい及び内容について，関連する専門領域に触れながら，幼児の発達に即して，深い学びが実現する課程を踏まえ，具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)幼児教育の基本を踏まえ，領域「表現」のねらい及び内容を理解する。<br>1)幼児教育の基本，各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。<br>2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。<br>3)幼児教育における評価の考え方を理解している。<br>4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。<br>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。<br>1)幼児の心情，認識，思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。<br>2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育構想に活用することができる。<br>3)指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。<br>4)模擬保育とその振返りを通して，保育を改善する視点を身につけている。<br>5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 令和5年度改訂 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「表現」のねらい及び内容　－幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに－ | 大坪　加奈 |
| 第2回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形，色，手触り）（２歳児未満） | 牛島　光太郎 |
| 第3回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）（２歳児未満） | 大坪　加奈 |
| 第4回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）（２歳児未満） | 織田　典恵 |
| 第5回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形，色，手触り）（３歳児～６歳児） | 牛島　光太郎 |
| 第6回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）（３歳児～６歳児） | 大坪　加奈 |
| 第7回 | 「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）（３歳児～６歳児） | 織田　典恵 |
| 第8回 | 具体的な指導場面と保育構想（形，色，手触り） | 牛島　光太郎 |
| 第9回 | 具体的な指導場面と保育構想（音） | 大坪　加奈 |
| 第10回 | 具体的な指導場面と保育構想（動き） | 織田　典恵 |
| 第11回 | 指導案の構造と作成 | 織田　典恵 |
| 第12回 | 模擬保育と振り返り（形，色，手触り） | 牛島　光太郎 |
| 第13回 | 模擬保育と振り返り（音） | 大坪　加奈 |
| 第14回 | 模擬保育と振り返り（動き） | 織田　典恵 |
| 第15回 | ICTの活用と表現の発達（小学校との関連） | 牛島　光太郎 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | 領域「表現」に関わる保育について具体的に記述していること。 |
| 小テスト | 40 | 各回のポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業内での小課題（40%），最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。 |
| 受講の心得 | 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。 |
| 授業外学修 | １．復習として課題を課すことがある。<br>２．予習として資料を配布することがある。<br>以上の内容を週あたり４時間以上学修することが望ましい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵) |

| 科目名 | 子どもと音楽研究 | | | 授業番号 | CP323 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに，保育や現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また，表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。<br>・身体表現，音楽表現，の表現活動に関する知識や技術を習得する。<br>・表現活動に係る教材等の活用及び作成と，具体的展開のための技術を習得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの成長と身体表現 | |
| 第2回 | 子どもの成長と音楽－遊びをとおして | |
| 第3回 | 表現活動と身体表現－音・音色・音楽 | |
| 第4回 | 子どもの歌とピアノ・リズム　1 | |
| 第5回 | 子どもの歌とピアノ・リズム　2 | |
| 第6回 | ピアノによる簡易伴奏の作り方 | |
| 第7回 | 弾き歌いの表現法　1 | |
| 第8回 | 弾き歌いの表現法　2 | |
| 第9回 | 音楽表現　－歌唱　1 | |
| 第10回 | 音楽表現　－歌唱　2 | |
| 第11回 | 音楽表現　－器楽　1　MLを活用して | |
| 第12回 | 音楽表現　－器楽　2　MLを活用して | |
| 第13回 | 音楽表現　－弾き歌い　1 | |
| 第14回 | 音楽表現　－弾き歌い　2 | |
| 第15回 | 表現法のまとめと考察 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，姿勢，発表。 |
| レポート | 30 | 課題・レポートの，理解度・定着度。添削後，返却する。 |
| 小テスト | 20 | 授業内の筆記・実技等の小テスト |
| 定期試験 | 20 | 理解度，定着度。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【受講の心得】<br>授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。 |
| 受講の心得 | 毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し，毎日課題を演習することで，子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。<br>保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施し，復習すること。<br>上記の内容を，週当たり2時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」，『続こどもの歌200』，「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，その都度紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育実習研究Ａ 1クラス | | | 授業番号 | CP329A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にするために，教育実習の意義，計画と事前準備，心構え，指導案の立案，実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また，学校で学んだ様々な実践的知識を応用し，現場の実践へつなげる力を自分なりに明確にする。幼児理解の重要さを学び，様々な事柄を自分自身が感じたり，気づいたり，考えたりする力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げたの修得に貢献する。<br>1．幼稚園教育の実際の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。<br>2．実習のために必要で有効な知識・技術を学び，それを生かして実習できるよう準備する。<br>3．実習の学習課題を明確にする。<br>4．実習の体験を踏まえて，将来への希望と今後の学習への意欲を高める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育実習の目的と意義 | |
| 第2回 | 教育実習の計画と準備（実習に参加し学ぶ者としての態度と心得） | |
| 第3回 | 幼稚園とは（幼稚園の生活の流れと教師の役割） | |
| 第4回 | 幼稚園の生活（園長先生，先輩による事前指導） | |
| 第5回 | 実習日誌の書き方，実習へ向けて自己課題の作成 | |
| 第6回 | 指導案の書き方・部分指導(1) | |
| 第7回 | 指導案の書き方・部分指導(2) | |
| 第8回 | 指導案の書き方・日案(1) | |
| 第9回 | 指導案の書き方・日案(2) | |
| 第10回 | 幼稚園における特別支援教育「気になる子ども」への指導 | |
| 第11回 | 幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） | |
| 第12回 | 幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） | |
| 第13回 | 教育実習のまとめ(1) 実習を終えて反省と評価 | |
| 第14回 | 教育実習のまとめ(2) テーマレポート，グループワーク，自己課題の反省と評価 | |
| 第15回 | 教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業で説明する実習の目的，意義について説明できる。また，実習に向けての心構えをつくる。 |
| レポート | 70 | 実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。また，実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し，人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況，食生活，生活リズム等）を考えて生活する。また，人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ，生活の中で様々な事柄を感じて過ごし，幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。 |
| 授業外学修 | 1．授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。<br>2．実習に必要な教材準備を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育実習研究A 2クラス | | | 授業番号 | CP329B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にするために，教育実習の意義，計画と事前準備，心構え，指導案の立案，実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また，学校で学んだ様々な実践的知識を応用し，現場の実践へつなげる力を自分なりに明確にする。幼児理解の重要さを学び，様々な事柄を自分自身が感じたり，気づいたり，考えたりする力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げたの修得に貢献する。<br>1．幼稚園教育の実際の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。<br>2．実習のために必要で有効な知識・技術を学び，それを生かして実習できるよう準備する。<br>3．実習の学習課題を明確にする。<br>4．実習の体験を踏まえて，将来への希望と今後の学習への意欲を高める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育実習の目的と意義 | |
| 第2回 | 教育実習の計画と準備（実習に参加し学ぶ者としての態度と心得） | |
| 第3回 | 幼稚園とは（幼稚園の生活の流れと教師の役割） | |
| 第4回 | 幼稚園の生活（園長先生，先輩による事前指導） | |
| 第5回 | 実習日誌の書き方，実習へ向けて自己課題の作成 | |
| 第6回 | 指導案の書き方・部分指導(1) | |
| 第7回 | 指導案の書き方・部分指導(2) | |
| 第8回 | 指導案の書き方・日案(1) | |
| 第9回 | 指導案の書き方・日案(2) | |
| 第10回 | 幼稚園における特別支援教育「気になる子ども」への指導 | |
| 第11回 | 幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） | |
| 第12回 | 幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） | |
| 第13回 | 教育実習のまとめ(1) 実習を終えて反省と評価 | |
| 第14回 | 教育実習のまとめ(2) テーマレポート，グループワーク，自己課題の反省と評価 | |
| 第15回 | 教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業で説明する実習の目的，意義について説明できる。また，実習に向けての心構えをつくる。 |
| レポート | 70 | 実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。また，実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し，人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況，食生活，生活リズム等）を考えて生活する。また，人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ，生活の中で様々な事柄を感じて過ごし，幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。 |
| 授業外学修 | 1．授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。<br>2．実習に必要な教材準備を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育実習研究Ｂ | | | 授業番号 | CP331 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、溝田　知茂、小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校教育実習における中心的内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で，授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として，教育実習の意義と目的，計画と準備，心構え，実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また，教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに，立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学習指導案や板書計画等を作成し，模擬授業を適切に行うことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的　制度的側面 | 姫野，溝田 |
| 第2回 | 「教師の資質」とは何か | 姫野，溝田 |
| 第3回 | 「教職専門性」の基礎とは何か | 姫野 |
| 第4回 | 学習指導案の作成と授業展開の技術I | 姫野 |
| 第5回 | 学習指導案の作成と授業展開の技術II | 姫野 |
| 第6回 | 学習指導案の作成と授業展開の技術III | 姫野 |
| 第7回 | 「教職専門性」の総合的な向上I | 姫野 |
| 第8回 | 「教職専門性」の総合的な向上II | 姫野 |
| 第9回 | 「教職専門性」の総合的な向上III | 姫野 |
| 第10回 | 学校現場における喫緊の課題 | 小川 |
| 第11回 | 学校と子どもたちの実態と実習の課題 | 小川 |
| 第12回 | 教育実習に向けての抱負・決意 | 小川 |
| 第13回 | 実習後の成果と課題（ふりかえり）<br>実習後の礼状の書き方 | 溝田 |
| 第14回 | 小学校教育実習発表会の準備 | 溝田 |
| 第15回 | 小学校教育実習発表会 | 溝田，姫野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 実習に向けて自己の力量を高めようという意欲的な態度の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 教材研究，学習指導案の記載内容・到達度によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 模擬授業への準備，実施と振り返りの記録等によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校教育実習日誌 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 4月当初から実習前までの期間に，補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。 |
| 備考 | R44.1改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 保育･教職実践演習（幼･小） | 授業番号 | CP428 | サブタイトル | （幼･小） |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、岸　誠一、齊藤　佳子、伊藤　智里、溝田　知茂、小川　孝司、岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修･選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識･技能を基礎として，教員としての使命感や責任感，教育的愛情等を持って，教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合･統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていきたい。また，履修カルテを参照し，個別的に補完指導を行う。 |
| 到達目標 | 保育士，幼稚園教諭，小学校教諭のいずれにも共通して，<br>(1)子どもを理解する力，(2)保育（授業）をデザインする力，(3)保育（授業）を実践する力，(4)保育（授業）を省察する力の4点を身につけることができる。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション：「教職実践演習」の目的と授業内容。<br>「保育者･教師への歩みと足跡」 各自，保育者･教職を目指してきた思いや，履修カルテをもとに　これまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。 | 姫野 |
| 第2回 | グループワーク：「保育者･教師への歩みと足跡」について，合同グループで発表し，話し合い，自分自身の思いや覚悟を確かめる。 | 溝田･伊藤 |
| 第3回 | グループワーク：「子どもの理解の方法と実際」 保育者として，教師として，子ども理解することについて改めて考え，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。 | 溝田･伊藤 |
| 第4回 | グループワーク：「問題行動の理解と対応」 子どもの問題行動に関して，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。 | 溝田･小川 |
| 第5回 | ロールプレイング：「保護者対応」 保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で，それぞれの立場でロールプレイングを行い，保護者の思いを共感的に受け止め，問題を整理し，誠実な態度で対応することについて考える。 | 溝田･小川 |
| 第6回 | 「これからの情報教育～保育士･幼稚園教諭･小学校教諭に向けて」<br>　情報教育，ICT教育･プログラミング教育について，今後，保育士，幼稚園教諭，小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。 | 岸 |
| 第7回 | 模擬保育･模擬授業(1) | 姫野･伊藤 |
| 第8回 | 模擬保育･模擬授業(2) | 姫野･伊藤 |
| 第9回 | 模擬保育･模擬授業(3) | 姫野･伊藤 |
| 第10回 | グループワーク：「幼保小の接続」　幼保小の相違点，幼保小の接続の在り方，課題，接続期のカリキュラム，接続期の実践の工夫などについて，合同グループで話し合い，保育者･教師として必要な支援について考える。 | 溝田･伊藤 |
| 第11回 | グループワーク：喫緊の課題(1)<br>課題を見出し，調べ，報告し，討論する | 姫野･小川 |
| 第12回 | グループワーク：喫緊の課題(2)<br>課題を見出し，調べ，報告し，討論する | 姫野･小川 |
| 第13回 | グループワーク：喫緊の課題(3)<br>課題を見出し，調べ，報告し，討論する | 姫野･小川 |
| 第14回 | ロールプレイング：「初めて子どもに出会う日」<br>初めて子どもたちと出会う日という想定で，子どもたちに，また，子どもと保護者を前に，それぞれの立場でロールプレイングを行い，学級の担当者また，学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え，気持ちを新たにする。 | 溝田 |
| 第15回 | 「私のめざす保育者･教師像と今の自分，これからの自分」<br>私のめざす保育者･教師像について，教員の講話を聴講し，最終レポートに向けて，自分の夢や決意を固める。 | 姫野･小川･子ども園園長 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準･その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。 |
| レポート | 30 | 毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について，コメントして返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 模擬保育･模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | グループ討論，実技指導，補完指導などの結果を踏まえ，教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し，単位認定を行う。 |
| 受講の心得 | 全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は，その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に，向上心を持って授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，事前に配布された資料を読み，自分の考えを書きまとめておく。<br>2 復習として，授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ，提出する。<br>3 発展学習として，授業に関連した参考資料や書籍を読み，記録に残す。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，必要な資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・校長・県生涯学習センター・県情報教育センター（岸　誠一），（姫野） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 教育実習Ａ | | | 授業番号 | CP430 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子、岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし，幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際を体験し，幼児と心と心を通わせ，幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び，「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身につける。また，観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ，実践における教師の役割と環境構成の重要性に気づける感性を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーのの修得に貢献する。<br>1．幼稚園教育の実際の場を経験し，責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。<br>2．これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより，その後の学習課題を明確にする。<br>3．教員としての将来に希望をもち，その職務への自覚を深め，自己を陶冶する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1週　観察実習<br>（1）実習園について理解する。<br>　教育の基本方針，学級の人員構成・担当教諭の学級経営，環境（物的：敷地，建物の構造，配置及び施設設備・人的：職員構成，勤務形態等）を把握する。<br>（2）観察の仕方を学ぶ。<br>第2～3週　参加実習<br>（1）幼児の発達の概要を知る。<br>（2）幼稚園教育の一日の流れを把握する。<br>（3）基本的生活習慣の援助や遊びの指導について学び，担当教諭の補助をする。<br>第3～4週　指導実習（部分実習・責任実習）<br>（1）3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。<br>（2）幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。<br>（3）様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。<br>（4）指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。<br>（5）指導の反省と評価の方法について学ぶ。<br>（6）幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導）<br>（7）保護者とのコミュニケーションの方法について学び，家庭・地域社会との連携について理解する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 実習該当園の評価表を基準にする。（上記の４週間において次の7点から評価）意欲，責任感，研究的態度，協調性，指導計画，指導技術，事務処理。 |
| レポート | 30 | 実習日誌，指導案立案の資料をもとに評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 教育実習における実習幼稚園の評価表，実習日誌，指導案立案，指導実習の準備や成果などを総合的に判断し，実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | 現場での実践に積極的に臨み，自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また，今後，社会人として役立つこととして，何を大切にすべきか，互いに協同し合うこととはどのようなことかを学ぶ。 |
| 授業外学修 | 1．幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。<br>2．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。<br>3．指導案等の実習指導計画を作成し，指導にあたっての教材研究をする。<br>以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 幼稚園及び認定こども園等の実習指導者 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように，実際の幼児との生活の中で指導を行う。 |

| 科目名 | 教育実習Ｂ | | | 授業番号 | CP432 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸、溝田　知茂、小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして，実践的指導力（学習指導力」「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し，実践を評価・分析することを通して，改善点を見付け，工夫・改善していく。つまりＰＤＣＡサイクルを教育実習の中で繰り返しながら，小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で，第1週には，観察実習，第2.3週には，授業実践実習，第4週には一日経営実習を行う。また，4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し，課題意識を明確にして教育実習に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1 「学習指導力」として，学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方，分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。<br>2 「生徒指導力」として，授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法，児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。<br>3 「マネジメント力」として，学級担任になったことを想定して，学級経営の計画を立て，学習活動の組織の仕方を取得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1週　観察実習<br>・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。<br>(1)指導案と実際の授業との対応。<br>(2)「教師－児童」の相互作用の実際。<br>(3)学級経営の具体的な取り組み。<br>第2～3週　授業実践実習<br>・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。<br>＜各段階で求められると想定する技術＞<br>設計：指導案を書く技術<br>展開：児童に学習内容を理解させる技術<br>評価：授業を観察・記録する技術<br>・第3週目に研究授業を実施する。<br>第4週　一日経営実習<br>・一日学級担任として，学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 教育実習校での評価（80%），教育実習日誌（20%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること |
| 授業外学修 | 1　予習として，実習校で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　授業を実践する際に，十分な教材研究を行い，指導計画を立てる。<br>3　授業後には，授業実践を振り返る。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 小学校教育実習日誌 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局（姫野俊幸） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 社会福祉 | | | 授業番号 | CQ201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会福祉の歴史をふまえながら，保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を学び，利用者本位の支援とは何かについて理解を深める。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会福祉とは<br>人権尊重と社会正義を理解する。 | |
| 第2回 | 欧米における社会福祉のあゆみ<br>イギリス，アメリカの社会福祉の変遷を理解する。 | |
| 第3回 | 日本における社会福祉のあゆみ<br>日本における社会福祉の変遷を理解する。 | |
| 第4回 | 社会福祉の法律<br>社会福祉法を理解する。 | |
| 第5回 | 社会福祉の行財政<br>社会福祉で用いられる財源について理解する。 | |
| 第6回 | 社会福祉の実施体制<br>社会福祉の仕組みを理解する。 | |
| 第7回 | 社会福祉の担い手<br>社会福祉関連の専門職の職種を理解する。 | |
| 第8回 | 社会福祉における相談援助<br>対人援助において求められる姿勢を理解する。 | |
| 第9回 | 利用者の保護に関わる仕組み<br>利用者の人権を守るための取り組みを理解する。 | |
| 第10回 | 高齢者福祉<br>介護保険を理解する。 | |
| 第11回 | 障害者福祉<br>障害者総合支援法を理解する。 | |
| 第12回 | 子ども家庭福祉<br>児童福祉法を理解する。 | |
| 第13回 | 母子父子寡婦福祉<br>母子及び父子並びに寡婦福祉法を理解する。 | |
| 第14回 | 公的扶助<br>生活保護法を理解する。 | |
| 第15回 | 社会福祉の課題<br>利用者本位の支援とは何かを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 社会福祉ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉　原理と政策 | 立花直樹他編 | ミネルヴァ書房 | | |
| 社会福祉記事ワークブック | 大学教育出版 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども家庭支援論 | | | 授業番号 | CQ202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども家庭支援の意義と目的を理解し，支援の方法と内容，専門職倫理について理解を深める。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭支援の意義<br>子ども家庭支援に力を入れなければならない理由を理解する。 | |
| 第2回 | 子ども家庭支援の目的と機能<br>子ども家庭支援の目的と機能を学び，現代的課題を理解する。 | |
| 第3回 | 保育士の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義<br>保育士としての子ども・保護者への支援姿勢や技術を学び，子ども家庭支援の意義を理解する。 | |
| 第4回 | 保育士に求められる基本的態度<br>保育士と保護者が子どもの育ちを共有する意義と留意点を理解する。 | |
| 第5回 | 保護者とのコミュニケーションのとり方<br>保護者が子育てを自ら実践するための支援を理解する。 | |
| 第6回 | 保育士に求められる基本的態度<br>受容的関わり，自己決定の尊重，秘密保持について理解する。 | |
| 第7回 | 多様な家庭の状況に応じた支援<br>アセスメントの重要性について理解する。 | |
| 第8回 | 子育て家庭をとりまく社会資源<br>地域にある様々な社会資源の機能と運営について理解する。 | |
| 第9回 | 事例研究1<br>保育所等を利用する子どもの家庭への支援のあり方を理解する。 | |
| 第10回 | 事例研究2<br>地域の子育て家庭への支援のあり方を理解する。 | |
| 第11回 | 事例研究3<br>要保護児童及びその家庭に対する支援のあり方を理解する。 | |
| 第12回 | 事例研究4<br>低所得世帯の児童や家庭に対する支援のあり方を理解する。 | |
| 第13回 | 事例研究5<br>障がい，医療的ケア等の特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。 | |
| 第14回 | 事例研究6<br>アレルギー，外国籍等により，特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。 | |
| 第15回 | 事例研究7<br>いじめの現状と子どもや家庭に対する支援のあり方を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 受講中の議論により評価する。講義ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 90 | 子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」 | 立花直樹・安田誠人監修 | 晃洋書房 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子育て支援 1クラス | | | 授業番号 | CQ203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な相談支援について明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育者が行う子育て支援<br>保育の特性や保育者の専門性を基盤としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。 | |
| 第2回 | 保護者との相互理解と信頼関係の形成<br>相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。 | |
| 第3回 | 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解<br>保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。 | |
| 第4回 | 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供<br>保護者同士をつなぐための技術について理解する。 | |
| 第5回 | 子どもと保護者に対する状況把握<br>保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。」 | |
| 第6回 | 支援計画と環境構成<br>子育て支援計画の立て方とそれに基づく環境構成の方法を理解する。 | |
| 第7回 | 地域における社会資源の活用<br>子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。 | |
| 第8回 | 子育て支援における職員連携の方法<br>職員間の連携の重要性を理解する。 | |
| 第9回 | 社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働<br>地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。 | |
| 第10回 | 事例研究1<br>保育所における支援を理解する。 | |
| 第11回 | 事例研究2<br>地域の子育て家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第12回 | 事例研究3<br>障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第13回 | 事例研究4<br>特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第14回 | 事例研究5<br>子ども虐待の予防と対応を理解する。 | |
| 第15回 | 事例研究6<br>要保護児童とその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 受講中の議論により評価する。講義ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 90 | 子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」 | 立花直樹・安田誠人監修 | 晃洋書房 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子育て支援 2クラス | | | 授業番号 | CQ203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な相談支援について明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育者が行う子育て支援<br>保育の特性や保育者の専門性を基盤としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。 | |
| 第2回 | 保護者との相互理解と信頼関係の形成<br>相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。 | |
| 第3回 | 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解<br>保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。 | |
| 第4回 | 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供<br>保護者同士をつなぐための技術について理解する。 | |
| 第5回 | 子どもと保護者に対する状況把握<br>保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。」 | |
| 第6回 | 支援計画と環境構成<br>子育て支援計画の立て方とそれに基づく環境構成の方法を理解する。 | |
| 第7回 | 地域における社会資源の活用<br>子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。 | |
| 第8回 | 子育て支援における職員連携の方法<br>職員間の連携の重要性を理解する。 | |
| 第9回 | 社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働<br>地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。 | |
| 第10回 | 事例研究1<br>保育所における支援を理解する。 | |
| 第11回 | 事例研究2<br>地域の子育て家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第12回 | 事例研究3<br>障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第13回 | 事例研究4<br>特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 第14回 | 事例研究5<br>子ども虐待の予防と対応を理解する。 | |
| 第15回 | 事例研究6<br>要保護児童とその家庭に対する支援を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 受講中の議論により評価する。講義ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 90 | 子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」 | 立花直樹・安田誠人監修 | 晃洋書房 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | | 授業番号 | CQ204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもを発達する生活者として理解し，子どものニーズや権利を知り，その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくにあたり，必要なことを学ぶ。子どもの福祉の意味と目的，子どもを理解する視点，子どもの成長と発達，子どもの福祉の歴史，少子・高齢社会の子どもの福祉課題，社会的養護と自立支援，子どもと家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健，保育施設，健全育成，障がい児対策，母子福祉対策，子育て支援等），子ども家庭福祉を担う人々，専門職と機関・施設の役割，相談支援活動，地域支援活動等について多面的に学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども家庭福祉の制度と実際について理解できるようになる。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭福祉の理念と概念<br>子どもにとっての最善の利益とは何かについて理解する。 | |
| 第2回 | 子ども家庭福祉の沿革<br>日本及び海外の子ども家庭福祉の歴史を理解する。 | |
| 第3回 | 子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題<br>子どもの育ちを支援するために必要なことを理解する。 | |
| 第4回 | 児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政<br>児童福祉法の内容を理解する。 | |
| 第5回 | 児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律<br>子ども・子育て支援法，子どもの貧困対策の推進に関する法律，児童虐待の防止等に関する法律について理解する。 | |
| 第6回 | 地域の子ども・子育て支援の対策<br>地域子ども・子育て支援事業を理解する。 | |
| 第7回 | 多様な保育ニーズへの対策<br>子育て家庭が求める支援を理解する。 | |
| 第8回 | 養育環境に問題のある子どもとその家庭への対策<br>子どもと保護者に必要な支援を理解する。 | |
| 第9回 | 障がいのある子どもとその家庭への対策<br>障がい福祉サービスの種類を理解する。 | |
| 第10回 | 非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策<br>少年法と児童福祉法での対応の違いを理解する。 | |
| 第11回 | 一人親家庭の子どもとその家庭への対策<br>ひとり親家庭に対する支援の種類を理解する。 | |
| 第12回 | 子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策<br>子どもへの虐待やDVが起こったときにどのような支援機関があるかを理解する。 | |
| 第13回 | 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対策<br>子どもが安定した暮らしをするために保育者に求められることを理解する。 | |
| 第14回 | 子ども家庭福祉専門職の在り方(1)　子ども家庭福祉専門職の基本的要件<br>子ども家庭福祉に携わる専門職の職種を理解する。 | |
| 第15回 | 子ども家庭福祉専門職の在り方(2)　児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格<br>専門職に求められる資格を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。 |
| レポート | 80 | 毎回の授業終了後に提示する課題に取り組み，授業内容の復習ができていること。課題については，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに提出することを求め，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子ども家庭福祉概説 | 小宅理沙監修 | 青山社 | | |
| 保育福祉小六法 | 保育福祉小六法編集委員会編 | みらい | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育原理 | | | 授業番号 | CQ205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育の基本と歴史的変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から，保育における基本的概念の修得を図る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．保育の歴史を踏まえて，乳幼児観と保育の意義について理解する。<br>2．乳幼児の発達を踏まえた子ども理解と保育の基本を学び，子どもと向き合う自分の在り方を養う。<br>3．家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育とは何か，を考える | |
| 第2回 | 現代社会と保育の関係性 | |
| 第3回 | 保育の制度的位置づけ | |
| 第4回 | 保育の特性を理解する | |
| 第5回 | 環境を通して行う保育 | |
| 第6回 | 子どもの発達と保育方法 | |
| 第7回 | 保育所保育指針の理解 | |
| 第8回 | 幼稚園教育要領の理解 | |
| 第9回 | 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解 | |
| 第10回 | 保育の計画と実践 | |
| 第11回 | 保育実践の振り返り | |
| 第12回 | 諸外国における保育の思想・保育施設の歴史 | |
| 第13回 | 日本における保育の思想・保育施設の歴史 | |
| 第14回 | 保育の現状と課題 | |
| 第15回 | 幼児期に育てたい資質・能力と保育の未来 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への積極的な参加を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 90 | 授業全体を通した理解を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育の基礎知識の理解に努めること。授業に主体的に参加すること。そのため予習，復習を欠かさないこと。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育原理 | 大沼良子・榎沢良彦編著 | 建帛社 | 978-4-7679-5037-2 | 1888＋税 |
| 幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | フレーベル館 | 9784577814475 | 240 |
| 保育所保育指針解説 | 厚生労働省 | フレーベル館 | 9784577814482 | 320 |
| 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | フレーベル館 | 9784577814499 | 350 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会的養護Ⅰ | | | 授業番号 | CQ206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会的養護の意味と目的，子どもの権利擁護と社会的養護との関連，社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系，仕組みと実施体系，家庭的養護，施設養護等），社会的養護の歴史，施設養護の基本原理と実際，社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理，倫理の確立，施設内虐待の防止対策，社会的養護と地域福祉の関係等），社会的養護の専門職について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できるようになる。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会的養護の理念と概念<br>社会的養護が目指すものについて理解する。 | |
| 第2回 | 社会的養護の歴史的変遷<br>日本と海外における社会的養護の変遷について理解する。 | |
| 第3回 | 子どもの人権擁護と社会的養護<br>子どもの最善の利益について理解する。 | |
| 第4回 | 社会的養護の基本原則<br>自立に向けた支援のあり方について理解する。 | |
| 第5回 | 社会的養護における保育士等の倫理と責務<br>施設保育士としての専門性を理解する。 | |
| 第6回 | 社会的養護の制度と法体系<br>児童福祉法を理解する。 | |
| 第7回 | 社会的養護のしくみと実施体系<br>社会的養護を利用するまでの手続きを理解する。 | |
| 第8回 | 社会的養護とファミリーソーシャルワーク<br>親子関係の尊重のあり方について理解する。 | |
| 第9回 | 社会的養護の対象と支援のあり方<br>社会的養護の対象となる子ども生活環境について理解し，支援のあり方を理解する。 | |
| 第10回 | 家庭養護と施設養護<br>家庭養護と施設養護におけるケアについて理解する。 | |
| 第11回 | 社会的養護にかかわる専門職<br>社会的養護の施設で働く専門職について理解する。 | |
| 第12回 | 社会的養護における援助の展開<br>自立支援計画の立て方を理解する。 | |
| 第13回 | 施設等の運営管理の現状と課題<br>児童福祉施設の設備及び運営基準における社会的養護に関する運営管理の内容を理解する。 | |
| 第14回 | 被措置児童等の虐待防止の現状と課題<br>虐待を受けた子どもに対するケアについて理解する。 | |
| 第15回 | 社会的養護と地域福祉の現状と課題<br>他の機関と連携ができるようにするために，地域における社会資源について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 70 | 課題に対して，適切な理解ができているかを評価する。課題プリントについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 授業内容について適宜ノートにまとめ，適切な記載がされているかについて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の授業において，ノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問をすること。 |
| 授業外学修 | 1.毎授業後に示す範囲について，事前に教科書をしっかり読んでくること。(約1時間)<br>2.授業中に取ったノートを見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約2時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会的養護I･II | 小宅理沙監修 | 翔雲社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの保健 | | | 授業番号 | CQ208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤原　敏恵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの健全な発育を支援するために必要な基礎的知識が修得できるように，子どもの発育・発達と保健について講義する。さらに，さまざまな状況の子どもに適切な対応ができるように，子どもの病気の特徴や主な症状とその対応について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子どもの健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。<br>２．子どもの発育・発達と保健について理解できる。<br>３．子どもの健康状態とその把握の方法について理解できる。<br>４．子どもの病気の特徴と適切な対応について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの健康と保健 | |
| 第2回 | 地域における保健活動 | |
| 第3回 | 子どもの発育・発達と保健（1）身体発育と運動機能の発達 | |
| 第4回 | 子どもの発育・発達と保健（2）生理機能の発達 | |
| 第5回 | 子どもの健康状態の把握 | |
| 第6回 | 子どもの体調不良時によくある症状 | |
| 第7回 | 子どもの健康診断 | |
| 第8回 | 感染症の予防 | |
| 第9回 | 子育て支援 | |
| 第10回 | 子どもの病気の特徴と対応　（1）感染症 | |
| 第11回 | 子どもの病気の特徴と対応　（2）救急疾患 | |
| 第12回 | 子どもの病気の特徴と対応　（3）先天性疾患 | |
| 第13回 | 子どもの病気の特徴と対応　（4）アレルギー疾患 | |
| 第14回 | 子どもの病気の特徴と対応　（5）慢性疾患 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的に授業に取り組んでいるか，予習復習，意見発表，課題提出で評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 本科目の理解度を確認する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義形式の授業形態が中心になります。幅広く専門的な知識を修得しなければならないため，既習の知識と合わせて復習を行い，主体的に講義に参加してください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，授業プリントや教科書を読みなおし，理解を深める。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの保健テキスト | 小林美由紀　編著 | 診断と治療社 | 978-4-7878-2531-5 | 本体2200円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 授業の進行度により授業内容を変更することがある。 |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 看護師・専門学校の専任教員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護の経験を活かし，保育現場に必要な基礎的知識を教授する。また，子どもに起こりやすい症状とその対応について，具体的にわかりやすく教授する。 |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | CQ210A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 児玉 彩 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし，子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Iでは，栄養の基本的な知識とともに，子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また，家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養の基本的な内容を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。<br>・発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児期における食育の重要性が理解できる。<br>・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの心身の健康と食生活 | |
| 第2回 | 子どもの食生活の現状と課題 | |
| 第3回 | 栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（１）炭水化物 | |
| 第4回 | 栄養に関する基本的知識（２）脂質 | |
| 第5回 | 栄養に関する基本的知識（３）たんぱく質 | |
| 第6回 | 栄養に関する基本的知識（４）ミネラル，ビタミン，水 | |
| 第7回 | 食べ物の消化と吸収（１）食べ物の消化過程 | |
| 第8回 | 食べ物の消化と吸収（２）栄養素の吸収と未消化物の排泄 | |
| 第9回 | 妊娠期と授乳期の食生活 | |
| 第10回 | 乳児期・幼児期の発育・発達と食生活 | |
| 第11回 | 学童期・思春期の発育・発達と食生活 | |
| 第12回 | 生涯発達と食生活 | |
| 第13回 | 食育の基本と内容 | |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 | |
| 第15回 | アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。 |
| レポート | 15 | 授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | ・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。<br>・授業後に，講義内容の整理や確認問題へ取り組む。<br>・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。<br>・自分自身の食生活に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活で実践する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | 太田百合子，堤ちはる | 羊土社 | 978-4-7581-0911-6 | 2，400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて講義中指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | CQ210B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 児玉 彩 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし，子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Iでは，栄養の基本的な知識とともに，子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また，家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・栄養の基本的な内容を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。<br>・発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児期における食育の重要性が理解できる。<br>・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの心身の健康と食生活 | |
| 第2回 | 子どもの食生活の現状と課題 | |
| 第3回 | 栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（１）炭水化物 | |
| 第4回 | 栄養に関する基本的知識（２）脂質 | |
| 第5回 | 栄養に関する基本的知識（３）たんぱく質 | |
| 第6回 | 栄養に関する基本的知識（４）ミネラル，ビタミン，水 | |
| 第7回 | 食べ物の消化と吸収（１）食べ物の消化過程 | |
| 第8回 | 食べ物の消化と吸収（２）栄養素の吸収と未消化物の排泄 | |
| 第9回 | 妊娠期と授乳期の食生活 | |
| 第10回 | 乳児期・幼児期の発育・発達と食生活 | |
| 第11回 | 学童期・思春期の発育・発達と食生活 | |
| 第12回 | 生涯発達と食生活 | |
| 第13回 | 食育の基本と内容 | |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 | |
| 第15回 | アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。 |
| レポート | 15 | 授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 |
| 授業外学修 | ・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。<br>・授業後に，講義内容の整理や確認問題へ取り組む。<br>・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。<br>・自分自身の食生活に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活で実践する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | 太田百合子，堤ちはる | 羊土社 | 978-4-7581-0911-6 | 2，400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて講義中指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 乳児の保育Ⅰ | | | 授業番号 | CQ212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳児保育の理念と役割，乳児保育における基本的な知識に基づく援助や関わりを解説する。<br>近代以降の乳児保育の歴史的変遷をふまえつつ，現代社会における「乳児を育てること」について，多角的に理解を深められるよう講義する。<br>あたたかい愛情で保育することの重要性と，３歳未満児の発育・発達，生活と遊び，具体的な援助や関わりについて理解できるよう講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。<br>２，保育所，保育所以外の児童福祉施設など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。<br>３，３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。<br>４，乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 | |
| 第2回 | 乳児保育における養及び教育 | |
| 第3回 | 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 | |
| 第4回 | 保育所における乳児保育 | |
| 第5回 | 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 | |
| 第6回 | ３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 | |
| 第7回 | ３歳未満児の発育・発達 | |
| 第8回 | ３歳未満児の生活と環境 | |
| 第9回 | ３歳未満児の遊びと環境 | |
| 第10回 | ３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり | |
| 第11回 | ３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 | |
| 第12回 | 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 | |
| 第13回 | 職員間の連携・協働 | |
| 第14回 | 保護者との連携・協働 | |
| 第15回 | 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 30 | 乳児の発達にふさわしい内容や援助の仕方であること。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。 |
| 授業外学修 | 次回授業までに，授業終了時に出す課題を行ってくること（週当たり１時間以上学修すること）。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ15乳児保育I･II | 児童育成協会　寺田清美他 | 中央法規 | 9784805857953 | 2600円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館<br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 障害児保育 1クラス | | | 授業番号 | CQ214A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐藤　伸隆 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 障害者権利条約および児童の権利に関する条約を踏まえ，障害のある子どもに対する保育の重要性は益々高まっている。<br>本講義は，何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で，「障害」「障害児」について理解し，個々の保育場面に応じた援助・配慮の技術を修得する。<br>さらに，障害児に対する保育計画や関係機関・地域社会との連携ひいては保護者支援等まで，今日における障害児保育の全体像を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 障害児保育について，以下の知識，技術そして価値を修得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。<br><br>＜目標＞<br>１．障害者権利条約や児童の権利に関する条約とそこに至る歴史的変遷を踏まえ，障害児保育の今日的理念や視点，方法等を学び，それを説明することができる。<br>２．障害特性や心身の発達等に応じた援助，（合理的）配慮の基礎を理解し，ＩＣＦモデルを踏まえて実践することができる。<br>３．障害児や配慮を必要とする子ども（障害児等）の保育計画作成や援助の具体的な方法を理解することができる。<br>４．障害児等の家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができる。<br>５．障害児等の保育に関する現状と課題について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害児保育を支える理念<br>⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利擁護条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について，ＩＣＦモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。 | |
| 第2回 | 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援<br>⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第3回 | 音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援<br>⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第4回 | 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児等の理解と支援<br>⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。／病児保育を理解する。 | |
| 第5回 | 知的障害児の理解と支援<br>⇒知的障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第6回 | 発達障害児（自閉症スペクトラム）の理解と支援<br>⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉症スペクトラムの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉症スペクトラムのある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第7回 | 発達障害児（注意欠陥（如）多動性障害・学習障害）の理解と支援<br>⇒注意欠陥（如）多動性障害・学習障害の定義と種類，障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（如）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第8回 | 特に配慮が必要な子ども，家族の理解と支援<br>⇒てんかん発作と発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・そううつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害，統合失調症その他の精神障害を理解する。／いわゆる「気になる子」「気になる保護者」「気になる家庭」について。／二次障害について。<br>※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき，乳幼児の他，広く児童や保護者等（成人）に生じる障害，疾病を理解する。 | |
| 第9回 | 子ども同士の関わり，育ち合いと子どもをみる視点<br>⇒子ども同士の関わりと育ち合い，媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちのとらえ方と関わり方，アセスメント方法を修得する。 | |
| 第10回 | 指導計画・個別支援計画の作成，職員間の連携・協働<br>⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援計画・個別指導計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性，ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性をを理解した上で，ケースカンファレンスの方法を修得する。 | |
| 第11回 | 保護者や家族に対する理解と支援<br>⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や支え合いの必要性と保育所，保育者の役割を理解する。 | |
| 第12回 | 障害児支援の制度理解と地域における連携・協働<br>⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ，今日の障害者児福祉サービスの考え方を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害児支援の機関（窓口）・団体を把握する。／障害児支援における地域連携のしくみと方法を理解する。 | |
| 第13回 | 小学校との連携，就学支援<br>⇒障害児等の修学の流れを理解する。／障害児等が学ぶ場（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所，保育者の役割を理解する。 | |
| 第14回 | 配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題<br>⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／療育活動・児童発達支援について理解する。／障害児支援に関するさまざまな技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けて。 | |
| 第15回 | 事例検討<br>⇒障害児保育における実践事例を通して，シュミレーショントレーニングを行う。/保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意味を総括する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | レポートやワークシートの内容を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業の理解度，目標達成度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 〈フィードバック〉<br>〇レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。<br>〇定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。<br>※授業時間外は学内にいないため。 |
| 受講の心得 | 〇この授業では，まず「しょうがい」を知ることから始める。そして，障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し，その育ちを「支える」ことの意味へと深めていきたいと思う。<br>〇まずは障害や障害のある子ども，保護者の生活に関心をもつこと。そして，もしも自分自身に障害があったら？　障害にある園児に必要な配慮は？　障害のない子に伝えるべきことは？　クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？等の視点をもち授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 〈予習〉※90分／週<br>〇授業内容に該当する教科書の節を読み込み，基本的なことを理解する。授業中，任意に説明を求めることがある。<br>また，不明点や疑問点をまとめ，質問できるように準備をして授業に臨むこと。<br>⇒授業は教科書を一読していることを前提に行う。<br><br>〈復習〉※120分／週<br>(1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。<br>(2)事前学修（予習）内容と授業の内容を摺り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。<br>(3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。<br>⇒自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。<br><br>〈発展〉※30分／週<br>〇授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深める。<br>※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は，翌週の授業前後に質問すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 障害児保育演習ブック | 松本峰雄編 | ミネルヴァ書房 | 9784623090686 | 2640 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 障害と子どもたちの生きるかたち | 浜田寿美男著 | 岩波現代文庫 | 978-4-00-603179-4 | 880 |
| 「生きづらさ」を超えて－発達障害と生きる | 福井豪著 | 吉備人出版 | 978-4-86069-369-5 | 1540 |
| 障害児保育キーワード100 | 小川英彦編 | 福村出版 | 9784571121319 | 2200 |
| よく分かる障害児保育第2版 | 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子 | ミネルヴァ書房 | 9784623081240 | 2750 |
| よくわかるインクルーシブ保育 | 尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和 | ミネルヴァ書房 | 9784623087341 | 2750 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 障害児者やその家族の相談支援，障害者虐待・障害者差別対応，障害児者の権利擁護支援，障害理解の普及啓発，障害児支援・保護者支援の助言・指導等 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 障害児者やその家族に対する相談支援，トータルサポートの経験等を生かして，障害児保育の基礎を養う。 |

| 科目名 | 障害児保育 2クラス | | | 授業番号 | CQ214B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐藤　伸隆 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 障害者権利条約および児童の権利に関する条約を踏まえ，障害のある子どもに対する保育の重要性は益々高まっている。<br>本講義は，何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で，「障害」「障害児」について理解し，個々の保育場面に応じた援助・配慮の技術を修得する。<br>さらに，障害児に対する保育計画や関係機関・地域社会との連携ひいては保護者支援等まで，今日における障害児保育の全体像を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 障害児保育について，以下の知識，技術そして価値を修得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。<br><br>＜目標＞<br>１．障害者権利条約や児童の権利に関する条約とそこに至る歴史的変遷を踏まえ，障害児保育の今日的理念や視点，方法等を学び，それを説明することができる。<br>２．障害特性や心身の発達等に応じた援助，（合理的）配慮の基礎を理解し，ＩＣＦモデルを踏まえて実践することができる。<br>３．障害児や配慮を必要とする子ども（障害児等）の保育計画作成や援助の具体的な方法を理解することができる。<br>４．障害児等の家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができる。<br>５．障害児等の保育に関する現状と課題について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害児保育を支える理念<br>⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利擁護条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について，ＩＣＦモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。 | |
| 第2回 | 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援<br>⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第3回 | 音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援<br>⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第4回 | 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児等の理解と支援<br>⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。／病児保育を理解する。 | |
| 第5回 | 知的障害児の理解と支援<br>⇒知的障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害児に対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第6回 | 発達障害児（自閉症スペクトラム）の理解と支援<br>⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉症スペクトラムの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉症スペクトラムのある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第7回 | 発達障害児（注意欠陥（如）多動性障害・学習障害）の理解と支援<br>⇒注意欠陥（如）多動性障害・学習障害の定義と種類，障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（如）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。 | |
| 第8回 | 特に配慮が必要な子ども，家族の理解と支援<br>⇒てんかん発作と発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・そううつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害，統合失調症その他の精神障害を理解する。／いわゆる「気になる子」「気になる保護者」「気になる家庭」について。／二次障害について。<br>※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき，乳幼児の他，広く児童や保護者等（成人）に生じる障害，疾病を理解する。 | |
| 第9回 | 子ども同士の関わり，育ち合いと子どもをみる視点<br>⇒子ども同士の関わりと育ち合い，媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちのとらえ方と関わり方，アセスメント方法を修得する。 | |
| 第10回 | 指導計画・個別支援計画の作成，職員間の連携・協働<br>⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援計画・個別指導計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性，ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性をを理解した上で，ケースカンファレンスの方法を修得する。 | |
| 第11回 | 保護者や家族に対する理解と支援<br>⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や支え合いの必要性と保育所，保育者の役割を理解する。 | |
| 第12回 | 障害児支援の制度理解と地域における連携・協働<br>⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ，今日の障害者児福祉サービスの考え方を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害児支援の機関（窓口）・団体を把握する。／障害児支援における地域連携のしくみと方法を理解する。 | |
| 第13回 | 小学校との連携，就学支援<br>⇒障害児等の修学の流れを理解する。／障害児等が学ぶ場（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所，保育者の役割を理解する。 | |
| 第14回 | 配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題<br>⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／療育活動・児童発達支援について理解する。／障害児支援に関するさまざまな技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けて。 | |
| 第15回 | 事例検討<br>⇒障害児保育における実践事例を通して，シュミレーショントレーニングを行う。/保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意味を総括する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | レポートやワークシートの内容を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業の理解度，目標達成度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 〈フィードバック〉<br>〇レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。<br>〇定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。<br>※授業時間外は学内にいないため。 |
| 受講の心得 | 〇この授業では，まず「しょうがい」を知ることから始める。そして，障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し，その育ちを「支える」ことの意味へと深めていきたいと思う。<br>〇まずは障害や障害のある子ども，保護者の生活に関心をもつこと。そして，もしも自分自身に障害があったら？　障害にある園児に必要な配慮は？　障害のない子に伝えるべきことは？　クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？等の視点をもち授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 〈予習〉※90分／週<br>〇授業内容に該当する教科書の節を読み込み，基本的なことを理解する。授業中，任意に説明を求めることがある。<br>また，不明点や疑問点をまとめ，質問できるように準備をして授業に臨むこと。<br>⇒授業は教科書を一読していることを前提に行う。<br><br>〈復習〉※120分／週<br>(1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。<br>(2)事前学修（予習）内容と授業の内容を摺り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。<br>(3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。<br>⇒自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。<br><br>〈発展〉※30分／週<br>〇授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深める。<br>※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は，翌週の授業前後に質問すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 障害児保育演習ブック | 松本峰雄編 | ミネルヴァ書房 | 9784623090686 | 2640 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 障害と子どもたちの生きるかたち | 浜田寿美男著 | 岩波現代文庫 | 978-4-00-603179-4 | 880 |
| 「生きづらさ」を超えて－発達障害と生きる | 福井豪著 | 吉備人出版 | 978-4-86069-369-5 | 1540 |
| 障害児保育キーワード100 | 小川英彦編 | 福村出版 | 9784571121319 | 2200 |
| よく分かる障害児保育第2版 | 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子 | ミネルヴァ書房 | 9784623081240 | 2750 |
| よくわかるインクルーシブ保育 | 尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和 | ミネルヴァ書房 | 9784623087341 | 2750 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 障害児者やその家族の相談支援，障害者虐待・障害者差別対応，障害児者の権利擁護支援，障害理解の普及啓発，障害児支援・保護者支援の助言・指導等 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 障害児者やその家族に対する相談支援，トータルサポートの経験等を生かして，障害児保育の基礎を養う。 |

| 科目名 | 地域福祉論 | | | 授業番号 | CQ215 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐藤　伸隆 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育を含む今日の社会福祉は「地域福祉の推進」を目的として実施されている。<br>本授業では，地域福祉の今日的意義と理念を理解するとともに，受講する学生諸氏が将来，放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者として活動するために必要な知識，技術を講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。<br><br>〔目標〕<br>(1)地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。<br>(2)地域共生社会の実現および地域包括ケアシステムの構築と，地域住民・専門職の関係性を理解することができる。<br>(3)地域福祉に関わる機関・団体の機能を理解するとともに，これらと連携・協働する方法を理解することができる。<br>(4)放課後児童クラブ・保育所をはじめとする児童福祉施設が地域福祉を実施する必要性とその視座を修得することができる。<br>(5)地域福祉援助技術を活用して，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和することができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 今日の地域社会とその課題<br>⇒「地域」「地域社会」の意味を理解する。／地域社会の機能を理解する。／地域関係の崩壊と地域社会の機能喪失によって構造的に生じている「地域課題」を理解する。 | |
| 第2回 | 地域福祉の推進(1)<br>⇒地域福祉の概念と歴史的展開を理解する。／社会福祉法における「地域福祉の推進」の意義と理念を理解する。 | |
| 第3回 | 地域福祉の推進(2)<br>⇒「地域共生社会」の実現，「地域包括ケアシステム」の構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係性を考察する。／今日における地域福祉の機能と役割を理解する。 | |
| 第4回 | 地域福祉に関わる法令<br>⇒社会福祉法における地域福祉の詳細を理解する。／保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性を理解する／放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性を理解する。／障害（児）関係法令と地域・地域社会の関係性を理解する。 | |
| 第5回 | ボランティア活動と福祉教育<br>⇒ボランティア活動の歴史と阪神淡路大震災「ボランティア元年」／今日のボランティア活動の特徴を整理する。／福祉教育の意義と現状を理解する。 | |
| 第6回 | 地域課題を探る<br>⇒子ども家庭に関わる地域（生活）課題を探る。／地域（生活）課題の特徴，傾向を明らかにする。 | |
| 第7回 | 地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会）<br>⇒社会福祉協議会の歴史と今日的意義を理解する。／社会福祉協議会の活動原則，機能を理解する。／現在の社会福祉協議会の体制を理解する。／社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ，保育所等の関係性を理解する。 | |
| 第8回 | 地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体）<br>⇒地域福祉に関わる国の機関の機能を理解する。／地域福祉に関わる都道府県・政令指定都市の機関を理解する。／地域福祉に関わる市町村の機関を理解する。／要保護児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。 | |
| 第9回 | 地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員）<br>⇒民生委員児童委員の歴史を遡る。／民生委員児童委員の役割を理解する。／主任児童委員の役割と活動を理解する。／福祉委員の役割と活動を理解する。／民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。 | |
| 第10回 | 地域福祉の推進機関・団体（ＮＰＯ法人・自治会・中間支援団体・民間企業）<br>⇒特定非営利活動（ＮＰＯ）法人の機能と活動を理解する。／自治会（町内会）の機能と活動を理解する。／ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動を理解する。／民間企業におけるＣＳＲの現状を理解し，可能性を検討する。 | |
| 第11回 | 地域福祉を推進する専門職<br>⇒コミュニティワーカーの役割と専門性を理解する。／地域支援コーディネーターの役割と専門性を理解する。／ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。 | |
| 第12回 | 地域福祉援助技術（コミュニティワーク）<br>⇒コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワーク・コミュニティソーシャルワークに至る歴史的展開と，それぞれの意義，機能を理解する。／コミュニティワークの展開方法を理解する。 | |
| 第13回 | 地域福祉演習(1)<br>⇒第６回で抽出，整理した地域（生活）課題の解決方法を検討する。 | |
| 第14回 | 地域福祉演習(2)<br>⇒演習事例に基づき，「きび町」の地域課題の解決方法を検討する。 | |
| 第15回 | 地域福祉演習(3)<br>⇒演習事例に基づき，放課後児童クラブ，保育所等における地域(生活)課題を解決する。／放課後児童クラブの支援員，保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を総括する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 発表やレポート，ワークシートの内容を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業の理解度，目標達成度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 〔フィードバック〕<br>〇レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。<br>〇定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。<br>※授業時間外は学内にいないため。 |
| 受講の心得 | 学生の皆さんにとって「地域社会」との関わりは縁遠く，分かりづらいものかも知れない。本科目の受講を機に地域を意識し「地域（社会）とは何か？」また「地域社会にはどのような働きがあるのか？」を探求してほしい。<br>そして，地域社会が子どもや保護者の生活にどのような影響を与え得るか，放課後児童支援員・保育者等として地域社会にどう関わり，協働していくのかを考察してほしい。<br>なによりも，地域福祉論の現場は「地域（社会）」にある。 |
| 授業外学修 | 〈予習〉※90分／週<br>〇授業内容に関わる部分を参考図書，図書館の書誌，インターネット等で調べ，自らの関心事と疑問点を明らかにする。<br><br>〈復習〉※120分／週<br>(1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。<br>(2)事前学修（予習）内容と授業の内容を摺り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」に整理する。<br>(3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。<br>⇒自分自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，次の授業で担当教員に質問すること。<br><br>〈発展〉※30分／週<br>〇授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深めること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新版　よくわかる地域福祉 | 上野谷加代子・松端克文・永田祐編 | フレーベル館 | 9784623085927 | 2640 |
| 地域福祉援助をつかむ | 岩間伸之・原田正樹 | 有斐閣 | 9784641177147 | 2310 |
| 保育をひらく「コーディネーター」の視点 | まちの保育園・こども園／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター | フレーベル館 | 9.78457781502197E+25 | 1980 |
| 「地域に信頼される保育園になるための調査」～保育園と地域とのかかわり状況を把握する～調査報告書 | 東京都社会福祉協議会保育部会調査研究委員会 | 東京都社会福祉協議会 | 9784863532793 | 770 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 社会福祉協議会の職員として地域福祉推進に従事，NPO法人の役員として地域福祉推進に関わる，団体を主宰して地域（福祉）創生を進めている。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | これまで，さまざまな形で地域福祉推進に関わり続けてきた経験を生かし，受講する学生諸氏が将来，放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として現場に出ることを前提に，具体的，実践的な授業を提供する。 |

| 科目名 | 保育計画Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | CQ216A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，乳幼児の発達的特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。<br>２，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。<br>３，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における計画の意義 | |
| 第2回 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 | |
| 第3回 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ | |
| 第4回 | 指導計画の全体構造について | |
| 第5回 | 部分指導案の考え方と作成(1) | |
| 第6回 | 部分指導案の考え方と作成(2) | |
| 第7回 | ０歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第8回 | １歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第9回 | ２歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第10回 | ３歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第11回 | ４歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第12回 | ５歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第13回 | ３歳未満児の生活と指導計画 | |
| 第14回 | ３歳以上児の生活と指導計画 | |
| 第15回 | 小学校との接続について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 乳幼児の発達的特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 50 | 保育計画に関わる知識・理解について評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子ども理解に努め，柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ，練習を怠らないこと。<br>指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 |
| 授業外学修 | １，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。<br>２，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | チャイルド本社 | 9784805402283 | 本体500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館<br>『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育計画Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | CQ216B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，乳幼児の発達的特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。<br>２，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。<br>３，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における計画の意義 | |
| 第2回 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 | |
| 第3回 | 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ | |
| 第4回 | 指導計画の全体構造について | |
| 第5回 | 部分指導案の考え方と作成(1) | |
| 第6回 | 部分指導案の考え方と作成(2) | |
| 第7回 | ０歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第8回 | １歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第9回 | ２歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第10回 | ３歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第11回 | ４歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第12回 | ５歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 | |
| 第13回 | ３歳未満児の生活と指導計画 | |
| 第14回 | ３歳以上児の生活と指導計画 | |
| 第15回 | 小学校との接続について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 乳幼児の発達的特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 50 | 保育計画に関わる知識・理解について評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子ども理解に努め，柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ，練習を怠らないこと。<br>指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 |
| 授業外学修 | １，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。<br>２，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | チャイルド本社 | 9784805402283 | 本体500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館<br>『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 児童館の機能と運営 | | | 授業番号 | CQ225 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童福祉法制定当時の経緯，児童福祉法に盛り込まれた健全育成の考え方，健全育成の具体的内容，現代の子どもの健全育成上の課題，遊びの健全育成上の意義。児童館の起源，施策の経緯，施設概要，施設規模別特徴，児童館の機能と運営上の留意点，児童館の課題と展望。放課後児童クラブの起源，施策の経緯，事業概要，活動内容と実施上の留意点，変化しつつある放課後児童クラブの課題と展望について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解し，説明できるようになることを目的とする。また，現代の子どもの健全育成上の課題について学び，その理念を地域で具現する児童館・放課後クラブの機能を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの育成環境とその課題 | |
| 第2回 | 児童福祉法の理念と健全育成 | |
| 第3回 | 健全育成に貢献する社会資源 | |
| 第4回 | 児童館の変遷・概要・特性 | |
| 第5回 | 児童館に求められる機能 | |
| 第6回 | 子どもの遊びと発達 | |
| 第7回 | 児童館における健全育成活動の実際 | |
| 第8回 | 異年齢保育での遊び | |
| 第9回 | 放課後児童クラブの概要・特性 | |
| 第10回 | 放課後児童支援員の役割 | |
| 第11回 | 養育環境に課題をもつ子どもへの理解と援助 | |
| 第12回 | 児童館・放課後児童クラブにおける地域連携 | |
| 第13回 | 児童館・放課後児童クラブにおける個別援助 | |
| 第14回 | 児童館・放課後児童クラブにおける集団援助 | |
| 第15回 | 児童館における子育て支援 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができる。 |
| レポート | 50 | 授業中に提示する課題をもとに，具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてしっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問すること。 |
| 授業外学修 | 1.毎授業後に示す範囲について，事前に教科書の本文をしっかり読んでくること。(約2時間)<br>2.授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず教科書の本文と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約2時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・なし（適宜，プリント配付） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 児童館指導法Ⅰ | | | 授業番号 | CQ226 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ，年間を通じた活動の流れ，行事等の企画立案方法，小学生の仲間づくり，子育て支援活動，ボランティアの育成・支援等，児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 児童ソーシャルワークをベースとした，児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れについて学び，行事の企画や，利用者への対応等について理解できるようになる。また，児童館・放課後児童クラブの業務の実際について説明ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 児童館の概要・遊びを通じた児童の健全育成 | |
| 第2回 | 児童館の施設規模別特徴と施設特性 | |
| 第3回 | 児童館・放課後児童クラブでの小学生への対応 | |
| 第4回 | 児童館での中高生への対応 | |
| 第5回 | 配慮を要する児童への関わり | |
| 第6回 | 子どもの参画・子どもの主体性について | |
| 第7回 | 児童館の1日（週，年）の流れと活動のねらい | |
| 第8回 | 児童館における遊びの環境構成 | |
| 第9回 | 遊びを通じた支援の実際（プログラム作り，具体的展開，支援法） | |
| 第10回 | 児童館におけるグループワーク・ケースワーク | |
| 第11回 | 児童館における生活・学習支援 | |
| 第12回 | 子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案 | |
| 第13回 | 企画発表会・講評 | |
| 第14回 | 児童館における子育て支援活動 | |
| 第15回 | 児童館・放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 50 | 授業中に提示する課題をもとに，具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてはしっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，発表場面では，積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1.毎授業後に示す範囲について，事前に教科書をしっかり読んでくること。(約2時間)<br>2.授業中に取ったノートを見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約2時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・テキストは，使用しない。適宜プリントを配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学童保育論 | | | 授業番号 | CQ229 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作、伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの1つは，子育て家庭の保護者の就労支援である。これを実現するためには，保育所や放課後児童クラブ（学童保育）などの充実が必須である。<br>しかしながら，これまで政策面からも学術的観点からも学童保育は等閑視されてきた。<br>そこで学童保育に関する現状や政策，指導員の役割，学童保育の運営について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義では，まず，学童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。<br>次に，学童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 学童保育と指導員の資格 | 中田周作 |
| 第2回 | 現代社会における子どもを取り巻く社会状況 | 中田周作 |
| 第3回 | 子どもたちの放課後の実態 | 中田周作 |
| 第4回 | 学童保育の現状 | 中田周作 |
| 第5回 | 学童保育の役割 | 中田周作 |
| 第6回 | 学童保育に関する法律 | 中田周作 |
| 第7回 | 学童保育に関する制度 | 中田周作 |
| 第8回 | 学童保育の歴史 | 中田周作 |
| 第9回 | 指導員の職務と倫理1 | 中田周作 |
| 第10回 | 指導員の職務と倫理2 | 中田周作 |
| 第11回 | 学童保育の運営方式 | 中田周作・伊藤智里 |
| 第12回 | 指導員の連携と研修 | 中田周作・伊藤智里 |
| 第13回 | 学童保育と保護者との関わり | 中田周作・伊藤智里 |
| 第14回 | 学童保育と地域との関わり | 中田周作・伊藤智里 |
| 第15回 | 学童保育と子育て支援 | 中田周作・伊藤智里 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 100 | 授業担当者の領域に対応するレポートを2つ |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 児童期の子どもの放課後はどのような実態にあるのか。他の講義なども参考にしながら，考察を深めること。 |
| 授業外学修 | 本講義は集中講義である。そのため，集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。<br>事前の総学修時間は，30時間以上とする。<br>集中講義終了後の復習総学修時間も，30時間以上とする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書 | 厚生労働省編 | フレーベル館 | 978-4-577-60017-7 | 440 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学童保育方法論 | | | 授業番号 | CQ230 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 学童保育方法として，「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」について学習する。これらについて理論的な枠組みに加えて，実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。<br>講義を中心としながら，随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学童保育実践の構造，内容，方法を理解するとともに，これらについて実際に活用することができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 学童保育実践の構造(1)ー学童保育の目的 | 住野 |
| 第2回 | 学童保育実践の構造(2)ー学童保育（育成支援）の要素 | 住野 |
| 第3回 | 学童保育実践の内容(1)−「運営指針」における育成支援の内容 | 住野 |
| 第4回 | 学童保育実践の内容(2)−「運営指針」における育成支援に含まれる内容 | 住野 |
| 第5回 | 学童保育実践の内容(3)−学童保育と保護者連携 | 住野 |
| 第6回 | 学童保育の対象である児童期の子ども(1)−小学校低学年の発達の特徴と学童保育 | 住野 |
| 第7回 | 学童保育の対象である児童期の子ども(2)−小学校中学年の発達の特徴と学童保育 | 住野 |
| 第8回 | 学童保育の対象である児童期の子ども(3)−小学校高学年の発達の特徴と学童保育 | 住野 |
| 第9回 | 学童保育の対象である児童期の子ども(4)−支援を必要とする子と学童保育 | 住野 |
| 第10回 | 「遊び」を通した学童保育実践(1)−子どもの遊びと発達 | 住野 |
| 第11回 | 「遊び」を通した学童保育実践(2)−子どもの遊びと学童保育の環境づくり | 住野 |
| 第12回 | 「遊び」を通した学童保育実践(3)−子どもの遊びと学童保育による支援 | 住野 |
| 第13回 | 「遊び」を通した学童保育実践(4)−実践事例の検討 | 住野 |
| 第14回 | 健康管理・安全対策・緊急時対応(1)−健康管理・安全対策 | 住野 |
| 第15回 | 健康管理・安全対策・緊急時対応(2)−緊急時対応 | 住野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | |
| レポート | 40 | 最後に提出するレポートに，学修した内容を的確にまとめられているとともに，自身の見解や経験についても記述できていること |
| 小テスト | 40 | 授業で学習したことを理解し，課題に対して適切に回答すること |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 学童保育実践を理解するということは，学童保育指導員を目指す方だけでなく，保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つものである。教職教養を広げるためにも受講してほしい。 |
| 授業外学修 | テキストを熟読すること。<br>学童保育に関する情報を，新聞・テレビ・インターネット等を通じて収集すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書 | 厚生労働省 | フレーベル館 | 457760017X | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会的養護Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | CQ307A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 青木 幹生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに，現在抱えている課題について明らかにする。また，子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え，実践に役立つ講義をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において，日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもの心身の成長や発達を保障し，支援するために必要な知識や技術を習得し，児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 導入：子どもの権利擁護 | |
| 第2回 | 社会的養護における子どもの理解 | |
| 第3回 | 社会的養護の内容(1) 日常生活支援 | |
| 第4回 | 社会的養護の内容(2) 心理的支援 | |
| 第5回 | 社会的養護の内容(3) 自立支援 | |
| 第6回 | 施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等 | |
| 第7回 | 施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等 | |
| 第8回 | 家庭養護の生活特性および実際 | |
| 第9回 | アセスメントと個別支援計画の作成 | |
| 第10回 | 記録および自己評価 | |
| 第11回 | 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 | |
| 第12回 | 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 | |
| 第13回 | 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） | |
| 第14回 | 社会的養護における家庭支援 | |
| 第15回 | まとめ：今後の社会的養護の課題と展望 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・毎回の授業においてしっかりとノートを取り，目的を持って意欲的に取り組むこと。<br>・グループワークでは，積極的に自分の意見を述べること。また，他学生の意見について肯定的，あるいは否定的な考え方をもち，根拠ある説明をすること。 |
| 授業外学修 | ・授業中に取った内容を見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よりそい支える社会的養護II | 中山正雄(監修)，浦田雅夫(編著) | 教育情報出版 | 978-4-909378-07-1 | 1，810円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会的養護I･II | 小宅理沙(監修)，中典子，潮谷光人，今井慶宗(編著) | 翔雲社 | 978-4-434-26701-7 | 2，780円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 明日の子供たち（幻冬舎）<br>ぶどうの木（幻冬舎）<br>図解で学ぶ保育 社会的養護I，II（萌文書林） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 主任児童指導員，基幹的職員，里親支援専門相談員，児童養護施設副園長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 担当職員の実務経験を生かし，現場での支援に近い形での解説を行っていく。 |

| 科目名 | 社会的養護Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | CQ307B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 青木 幹生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに，現在抱えている課題について明らかにする。また，子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え，実践に役立つ講義をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において，日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもの心身の成長や発達を保障し，支援するために必要な知識や技術を習得し，児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 導入：子どもの権利擁護 | |
| 第2回 | 社会的養護における子どもの理解 | |
| 第3回 | 社会的養護の内容(1) 日常生活支援 | |
| 第4回 | 社会的養護の内容(2) 心理的支援 | |
| 第5回 | 社会的養護の内容(3) 自立支援 | |
| 第6回 | 施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等 | |
| 第7回 | 施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等 | |
| 第8回 | 家庭養護の生活特性および実際 | |
| 第9回 | アセスメントと個別支援計画の作成 | |
| 第10回 | 記録および自己評価 | |
| 第11回 | 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 | |
| 第12回 | 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 | |
| 第13回 | 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） | |
| 第14回 | 社会的養護における家庭支援 | |
| 第15回 | まとめ：今後の社会的養護の課題と展望 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・毎回の授業においてしっかりとノートを取り，目的を持って意欲的に取り組むこと。<br>・グループワークでは，積極的に自分の意見を述べること。また，他学生の意見について肯定的，あるいは否定的な考え方をもち，根拠ある説明をすること。 |
| 授業外学修 | ・授業中に取った内容を見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よりそい支える社会的養護II | 中山正雄(監修)，浦田雅夫(編著) | 教育情報出版 | 978-4-909378-07-1 | 1，810円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会的養護I･II | 小宅理沙(監修)，中典子，潮谷光人，今井慶宗(編著) | 翔雲社 | 978-4-434-26701-7 | 2，780円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 明日の子供たち（幻冬舎）<br>ぶどうの木（幻冬舎）<br>図解で学ぶ保育 社会的養護I，II（萌文書林） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 主任児童指導員，基幹的職員，里親支援専門相談員，児童養護施設副園長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 担当職員の実務経験を生かし，現場での支援に近い形での解説を行っていく。 |

| 科目名 | 子どもの健康と安全 1クラス | | | 授業番号 | CQ309A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑 まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止，安全管理について具体的に学べるように，できる限り体験的に学習するよう計画している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，子どもと関わる全ての実践の場において，子どもの発達段階にあわせた保育と実践できるようになることを目的とし，基礎的な技術を身につけることができる。<br>２，関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ，保育における感染症対策について，具体的に理解できる。<br>３，子どもの健康及び安全の管理に関わる，組織的取組や保健活動の計画及び評価等について，具体的に理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの成長発達と健康 | |
| 第2回 | 子どもを取り巻く環境と安全 | |
| 第3回 | 子どもの事故とその予防 | |
| 第4回 | 子どもの健康と発育 その１<br>成長発達の一般原則，形態的発達 | |
| 第5回 | 子どもの健康と発育 その２<br>運動・精神・生理機能の発達，発育評価 | |
| 第6回 | 子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ | |
| 第7回 | 日常に必要な養護～3歳未満児について～ | |
| 第8回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その１<br>感染症について | |
| 第9回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その２<br>感染予防について | |
| 第10回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その３<br>急性・慢性疾患とその対処 | |
| 第11回 | 乳幼児の救急蘇生法<br>子どもの事故とその予防 | |
| 第12回 | 障害をもつ子どもと家族へのかかわり方 | |
| 第13回 | 児童虐待の予防と対処<br>地域との連携・協働 | |
| 第14回 | 保育における保健計画の考え方 | |
| 第15回 | 子どものこころの健康・地域との関わり・災害時の関わり | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業態度を評価する。 |
| レポート | 20 | テーマの意図を理解し，具体的に解決策を述べることができているかどうかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 動きやすい服装身だしなみで出席すること。<br>教室の机や椅子を演習用に配置と必要物品の準備や片付けは，時間内に学生同士協力しておこなうこと。<br>グループ毎に行われる演習では，お互いに評価し合って技術を向上させること。<br>授業終了後，各自で手順表をノートにまとめておくこと。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書の授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにして授業に臨む。<br>２．発展学修として，演習内容を実践する。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの健康と安全 | 大西文子 | 中山書店 | 978-4-521-74777-4 | 2，200＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症 | 医療情報科学研究所 | メディックメディカ | 978-4-89632-720-5 | 3，500＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成31年4月改訂）厚生労働省<br>「保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月改訂，令和4年一部改訂）厚生労働省<br>「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの健康と安全 2クラス | | | 授業番号 | CQ309B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑 まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止，安全管理について具体的に学べるように，できる限り体験的に学習するよう計画している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，子どもと関わる全ての実践の場において，子どもの発達段階にあわせた保育と実践できるようになることを目的とし，基礎的な技術を身につけることができる。<br>２，関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ，保育における感染症対策について，具体的に理解できる。<br>３，子どもの健康及び安全の管理に関わる，組織的取組や保健活動の計画及び評価等について，具体的に理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの成長発達と健康 | |
| 第2回 | 子どもを取り巻く環境と安全 | |
| 第3回 | 子どもの事故とその予防 | |
| 第4回 | 子どもの健康と発育 その１<br>成長発達の一般原則，形態的発達 | |
| 第5回 | 子どもの健康と発育 その２<br>運動・精神・生理機能の発達，発育評価 | |
| 第6回 | 子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ | |
| 第7回 | 日常に必要な養護～3歳未満児について～ | |
| 第8回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その１<br>感染症について | |
| 第9回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その２<br>感染予防について | |
| 第10回 | 子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その３<br>急性・慢性疾患とその対処 | |
| 第11回 | 乳幼児の救急蘇生法<br>子どもの事故とその予防 | |
| 第12回 | 障害をもつ子どもと家族へのかかわり方 | |
| 第13回 | 児童虐待の予防と対処<br>地域との連携・協働 | |
| 第14回 | 保育における保健計画の考え方 | |
| 第15回 | 子どものこころの健康・地域との関わり・災害時の関わり | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業態度を評価する。 |
| レポート | 20 | テーマの意図を理解し，具体的に解決策を述べることができているかどうかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 動きやすい服装身だしなみで出席すること。<br>教室の机や椅子を演習用に配置と必要物品の準備や片付けは，時間内に学生同士協力しておこなうこと。<br>グループ毎に行われる演習では，お互いに評価し合って技術を向上させること。<br>授業終了後，各自で手順表をノートにまとめておくこと。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書の授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにして授業に臨む。<br>２．発展学修として，演習内容を実践する。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの健康と安全 | 大西文子 | 中山書店 | 978-4-521-74777-4 | 2，200＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症 | 医療情報科学研究所 | メディックメディカ | 978-4-89632-720-5 | 3，500＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成31年4月改訂）厚生労働省<br>「保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月改訂，令和4年一部改訂）厚生労働省<br>「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅱ 1クラス(隔週) | | | 授業番号 | CQ311A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 下田 裕惠 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳幼児期は，心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習，演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。<br>・月齢，年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，調乳，離乳食，幼児食，おやつなどの調理ができる。<br>・食事バランスガイドを理解し，食生活を見直し，適切な食生活に向けて努力できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調理の基本（おやつの調理） | |
| 第2回 | 調理の基本（おやつの調理） | |
| 第3回 | 献立作成と食生活の評価 | |
| 第4回 | 献立作成と食生活の評価 | |
| 第5回 | 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） | |
| 第6回 | 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） | |
| 第7回 | 離乳食について（離乳食の調理と試食） | |
| 第8回 | 離乳食について（離乳食の調理と試食） | |
| 第9回 | 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） | |
| 第10回 | 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） | |
| 第11回 | 成長に応じた食形態について（保育所給食，非常食とお弁当の評価） | |
| 第12回 | 成長に応じた食形態について（保育所給食，非常食とお弁当の評価） | |
| 第13回 | 保育所における食育について（おやつの調理と試食） | |
| 第14回 | 保育所における食育について（おやつの調理と試食） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 実習，演習に保育士になる意識を持って積極的に参加しているかを評価する。 |
| レポート | 10 | 講義内容がまとめられ，また自分の意見が述べられていること。コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 40 | 重点項目について確認する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 実習内容の再現と内容がきちんとまとめられ，保育士としてふさわしい課題内容であるか評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち，実習・演習に積極的に参加し，レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。 |
| 授業外学修 | 指定回のレポートを作成すること。<br>離乳食，幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト，参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。<br>授業のレポート及び課題，次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | 太田百合子他 | 羊土社 | 9784762458415 | 2640 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『子どもの食と栄養』，羊土社（子どもと栄養Iで使用したものと同じ） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 専門学校講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が保育士として必要な食の知識，調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。 |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅱ 2クラス(隔週) | | | 授業番号 | CQ311B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 下田　裕惠 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳幼児期は，心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習，演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し，保育場面に活用できる。<br>・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。<br>・月齢，年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，調乳，離乳食，幼児食，おやつなどの調理ができる。<br>・食事バランスガイドを理解し，食生活を見直し，適切な食生活に向けて努力できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調理の基本（おやつの調理） | |
| 第2回 | 調理の基本（おやつの調理） | |
| 第3回 | 献立作成と食生活の評価 | |
| 第4回 | 献立作成と食生活の評価 | |
| 第5回 | 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） | |
| 第6回 | 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） | |
| 第7回 | 離乳食について（離乳食の調理と試食） | |
| 第8回 | 離乳食について（離乳食の調理と試食） | |
| 第9回 | 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） | |
| 第10回 | 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） | |
| 第11回 | 成長に応じた食形態について（保育所給食，非常食とお弁当の評価） | |
| 第12回 | 成長に応じた食形態について（保育所給食，非常食とお弁当の評価） | |
| 第13回 | 保育所における食育について（おやつの調理と試食） | |
| 第14回 | 保育所における食育について（おやつの調理と試食） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 実習，演習に保育士になる意識を持って積極的に参加しているかを評価する。 |
| レポート | 10 | 講義内容がまとめられ，また自分の意見が述べられていること。コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 40 | 重点項目について確認する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 実習内容の再現と内容がきちんとまとめられ，保育士としてふさわしい課題内容であるか評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち，実習・演習に積極的に参加し，レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。 |
| 授業外学修 | 指定回のレポートを作成すること。<br>離乳食，幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト，参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。<br>授業のレポート及び課題，次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食と栄養 | 太田百合子他 | 羊土社 | 9784762458415 | 2640 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『子どもの食と栄養』，羊土社（子どもと栄養Iで使用したものと同じ） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 専門学校講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が保育士として必要な食の知識，調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。 |

| 科目名 | 乳児の保育Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | CQ313A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた具体的な関わりや援助の実際について理解を深められるよう解説する。<br><br>乳児保育における保育の方法や実際の配慮・援助などの技術が身に付けられるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。<br>２，養護及び教育の一体性を踏まえ，３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解できる。<br>３，乳児保育における配慮の実際について，具体的に理解できる。<br>４，上記の１～３を踏まえ，乳児保育における計画の作成について，具体的に理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児保育の基本 | |
| 第2回 | 子どもの生活の流れ（０歳児クラス） | |
| 第3回 | 子どもの保育環境（０歳児クラス） | |
| 第4回 | 子どもの援助の実際（０歳児クラス） | |
| 第5回 | 子どもの生活の流れ（１歳児クラス） | |
| 第6回 | 子どもの保育環境（１歳児クラス） | |
| 第7回 | 子どもの援助の実際（１歳児クラス） | |
| 第8回 | 子どもの生活の流れ（２歳児クラス） | |
| 第9回 | 子どもの保育環境（２歳児クラス） | |
| 第10回 | 子どもの援助の実際（２歳児クラス） | |
| 第11回 | 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 | |
| 第12回 | 集団での生活における配慮 | |
| 第13回 | 環境の変化や移行に対する配慮 | |
| 第14回 | 長期的な指導計画と短期的な指導計画 | |
| 第15回 | 個別的な指導計画と集団の指導計画 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識と技術を意欲的に習得すること。 |
| 授業外学修 | 次回授業までに，授業終了時に出す課題を行ってくること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ15乳児保育I･II | 児童育成協会　寺田清美他 | 中央法規 | 9784805857953 | 2600円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館<br><br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 乳児の保育Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | CQ313B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた具体的な関わりや援助の実際について理解を深められるよう解説する。<br><br>乳児保育における保育の方法や実際の配慮・援助などの技術が身に付けられるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。<br>２，養護及び教育の一体性を踏まえ，３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解できる。<br>３，乳児保育における配慮の実際について，具体的に理解できる。<br>４，上記の１～３を踏まえ，乳児保育における計画の作成について，具体的に理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児保育の基本 | |
| 第2回 | 子どもの生活の流れ（０歳児クラス） | |
| 第3回 | 子どもの保育環境（０歳児クラス） | |
| 第4回 | 子どもの援助の実際（０歳児クラス） | |
| 第5回 | 子どもの生活の流れ（１歳児クラス） | |
| 第6回 | 子どもの保育環境（１歳児クラス） | |
| 第7回 | 子どもの援助の実際（１歳児クラス） | |
| 第8回 | 子どもの生活の流れ（２歳児クラス） | |
| 第9回 | 子どもの保育環境（２歳児クラス） | |
| 第10回 | 子どもの援助の実際（２歳児クラス） | |
| 第11回 | 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 | |
| 第12回 | 集団での生活における配慮 | |
| 第13回 | 環境の変化や移行に対する配慮 | |
| 第14回 | 長期的な指導計画と短期的な指導計画 | |
| 第15回 | 個別的な指導計画と集団の指導計画 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識と技術を意欲的に習得すること。 |
| 授業外学修 | 次回授業までに，授業終了時に出す課題を行ってくること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ15乳児保育I･II | 児童育成協会　寺田清美他 | 中央法規 | 9784805857953 | 2600円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館<br><br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育計画Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | CQ317A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また，基本的な理論を理解した上で，各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ，「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮，援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し，提案できるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，指導計画の作成について具体的に理解できる。<br>２，子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして，子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。<br>３，計画，実践，省察・評価，改善の過程について，その全体構造をとらえ，実践できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法 | |
| 第2回 | 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 | |
| 第3回 | 長期・短期指導計画の作成について<br>(1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について | |
| 第4回 | 幼稚園の指導計画の作成 | |
| 第5回 | 保育所・認定こども園の指導計画の作成 | |
| 第6回 | 様々な指導計画（個別の支援計画，異年齢編成による指導計画，行事の指導計画等） | |
| 第7回 | 保育の評価について | |
| 第8回 | 指導案の作成（グループワーク） | |
| 第9回 | 模擬保育の観察と記録 | |
| 第10回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2） | |
| 第11回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4） | |
| 第12回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6） | |
| 第13回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8） | |
| 第14回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10） | |
| 第15回 | 模擬保育及び全体を通しての評価と改善 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 提出する指導案複数（40%）と模擬保育についてのレポート（40%）の内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 保育計画に関する知識・理解について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で協力し，積極的に発言や発表を行い，自ら学ぶ姿勢で臨むこと。<br>指導案を作成する練習を積極的に行うこと。<br>模擬保育の準備，練習を怠らないこと。 |
| 授業外学修 | １，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。<br>２，模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社<br>『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館<br>『保育所保育指針解説書』フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院<br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育計画Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | CQ317B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡﨑　三鈴 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また，基本的な理論を理解した上で，各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ，「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮，援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し，提案できるよう解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，指導計画の作成について具体的に理解できる。<br>２，子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして，子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。<br>３，計画，実践，省察・評価，改善の過程について，その全体構造をとらえ，実践できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法 | |
| 第2回 | 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 | |
| 第3回 | 長期・短期指導計画の作成について<br>(1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について | |
| 第4回 | 幼稚園の指導計画の作成 | |
| 第5回 | 保育所・認定こども園の指導計画の作成 | |
| 第6回 | 様々な指導計画（個別の支援計画，異年齢編成による指導計画，行事の指導計画等） | |
| 第7回 | 保育の評価について | |
| 第8回 | 指導案の作成（グループワーク） | |
| 第9回 | 模擬保育の観察と記録 | |
| 第10回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2） | |
| 第11回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4） | |
| 第12回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6） | |
| 第13回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8） | |
| 第14回 | 作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10） | |
| 第15回 | 模擬保育及び全体を通しての評価と改善 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 提出する指導案複数（40%）と模擬保育についてのレポート（40%）の内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 保育計画に関する知識・理解について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | グループ内で協力し，積極的に発言や発表を行い，自ら学ぶ姿勢で臨むこと。<br>指導案を作成する練習を積極的に行うこと。<br>模擬保育の準備，練習を怠らないこと。 |
| 授業外学修 | １，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。<br>２，模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。<br>以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社<br>『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館<br>『保育所保育指針解説書』フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院<br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実習研究Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | CQ320A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑 まゆ美、大坪 加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ・保育所実習において必要な理論とスキルを，テキストから詳しく学ぶ。<br>・実習で使用する記録用紙に基づいて記録の書き方を具体的に学ぶ。また，実技発表を実施する事により，現場に即した保育の指導方法を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所実習の事前指導として，学内において講義や視聴覚教材などを利用して演習を行うことにより，実習の意義を理解するとともに学習意欲・意識を高める。また，記録の在り方，指導案の書き方などを理解する。<br>実習終了後には反省会を実施し，実習総括・評価をもとにして，子ども観・保育観を深め，新たな学習目標を明確にする。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習に関する行動計画　実習日誌・提出物について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第2回 | 保育所実習の意義と目的　心構え・自己課題について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第3回 | 保育の内容 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第4回 | 特別な配慮を要する子どもの保育 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第5回 | 実習の実際　事前訪問について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第6回 | 実習の基準と留意事項　プライバシーの保護と守秘義務について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第7回 | 指導計画案の形式と記入の仕方 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第8回 | 年齢に応じた指導案例 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第9回 | 実習前準備　総括 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第10回 | 実習事後処理　実習後課題について　礼状 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第11回 | 実習の自己評価・課題の明確化 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第12回 | 実習後学びのグループワーク(1) | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第13回 | 実習後学びのグループワーク(2) | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第14回 | 実習後発表 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第15回 | 保育所実習のまとめ（報告会の役割・準備） | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 実習準備を確実にできたかを評価する。 |
| レポート | 50 | 実習での気づきを良い方向に生かすような記述ができたかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実習後の体験発表：実習で得た成果を説得力を持って発表できたかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・授業態度，および実習の事前準備や事後のレポート等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | ・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので，欠席しないよう心がけること。<br>・実際に子どもたちと関わることを意識し，真剣に授業に取り組むこと。<br>・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。<br>・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守する。 |
| 授業外学修 | 実習準備・事前訪問・実習事後処理などを適切に行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』，岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『保育所保育指針解説書』厚生労働省，フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館<br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実習研究Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | CQ320B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑 まゆ美、大坪 加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ・保育所実習において必要な理論とスキルを，テキストから詳しく学ぶ。<br>・実習で使用する記録用紙に基づいて記録の書き方を具体的に学ぶ。また，実技発表を実施する事により，現場に即した保育の指導方法を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所実習の事前指導として，学内において講義や視聴覚教材などを利用して演習を行うことにより，実習の意義を理解するとともに学習意欲・意識を高める。また，記録の在り方，指導案の書き方などを理解する。<br>実習終了後には反省会を実施し，実習総括・評価をもとにして，子ども観・保育観を深め，新たな学習目標を明確にする。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習に関する行動計画　実習日誌・提出物について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第2回 | 保育所実習の意義と目的　心構え・自己課題について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第3回 | 保育の内容 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第4回 | 特別な配慮を要する子どもの保育 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第5回 | 実習の実際　事前訪問について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第6回 | 実習の基準と留意事項　プライバシーの保護と守秘義務について | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第7回 | 指導計画案の形式と記入の仕方 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第8回 | 年齢に応じた指導案例 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第9回 | 実習前準備　総括 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第10回 | 実習事後処理　実習後課題について　礼状 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第11回 | 実習の自己評価・課題の明確化 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第12回 | 実習後学びのグループワーク(1) | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第13回 | 実習後学びのグループワーク(2) | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第14回 | 実習後発表 | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 第15回 | 保育所実習のまとめ（報告会の役割・準備） | 廣畑 まゆ美　大坪 加奈 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 実習準備を確実にできたかを評価する。 |
| レポート | 50 | 実習での気づきを良い方向に生かすような記述ができたかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実習後の体験発表：実習で得た成果を説得力を持って発表できたかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・授業態度，および実習の事前準備や事後のレポート等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | ・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので，欠席しないよう心がけること。<br>・実際に子どもたちと関わることを意識し，真剣に授業に取り組むこと。<br>・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。<br>・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守する。 |
| 授業外学修 | 実習準備・事前訪問・実習事後処理などを適切に行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』，岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『保育所保育指針解説書』厚生労働省，フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館<br>その他，適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 施設実習研究 1クラス | | | 授業番号 | CQ322A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために，本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など，実習指導を受けるための心得について講義する。また，実習終了後には，実習の課題と反省についてまとめ，自己の振り返りをするために研究発表を行い，施設実習で何を学び，どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 施設実習の意義と目的を学ぶ。<br>実習施設の役割・機能について理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第2回 | 対象となる利用児(者)について理解する。<br>運営状況について理解する。 | 担当　中 |
| 第3回 | 人権について学ぶ。<br>施設保育士の職務内容について把握する。 | 担当　中 |
| 第4回 | 職員間の役割分担やチームワークを学び，施設保育士としての資質を理解する。 | 担当　中 |
| 第5回 | 外部講師による講義<br>施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。 | 担当　中 |
| 第6回 | 施設実習で学びたいことを考える。<br>実習先での支援について理解する。 | 担当　中 |
| 第7回 | 実習期間中の学習計画表を作成する。 | 担当　中 |
| 第8回 | 実習日誌の書き方について理解する。(デイリープログラムの書き方，利用児・者との関わりについての記載方法) | 担当　中 |
| 第9回 | 個人情報保護法について理解する。<br>施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について) | 担当　中 |
| 第10回 | 実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント，本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法) | 担当　中 |
| 第11回 | 事後指導1<br>施設実習で学んだことをグループで振り返り，施設保育士の役割を理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第12回 | 事後指導2<br>施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ，施設保育士の役割を理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第13回 | 事後指導3<br>施設実習報告会の準備をする。（実習中に深く考えさせられたことについての振り返り） | 担当　中 |
| 第14回 | 事後指導4　報告会（児童系の施設）<br>施設での実際の支援を理解する。 | 担当　中 |
| 第15回 | 事後指導5　報告会（障害児・者系の施設）<br>施設での実際の支援を理解する。 | 担当　中 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 50 | 実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 事前学習に積極的に取り組んだどうかについて，評価する。実習日誌は，コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には，再提出を課す。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。<br>・授業中は，一言一句聞き逃さないような心構えをもち，真剣な態度で臨むこと。 |
| 授業外学修 | ・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習の手引きと再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育福祉小六法 | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 施設実習研究 2クラス | | | 授業番号 | CQ322B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために，本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など，実習指導を受けるための心得について講義する。また，実習終了後には，実習の課題と反省についてまとめ，自己の振り返りをするために研究発表を行い，施設実習で何を学び，どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 施設実習の意義と目的を学ぶ。<br>実習施設の役割・機能について理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第2回 | 対象となる利用児(者)について理解する。<br>運営状況について理解する。 | 担当　中 |
| 第3回 | 人権について学ぶ。<br>施設保育士の職務内容について把握する。 | 担当　中 |
| 第4回 | 職員間の役割分担やチームワークを学び，施設保育士としての資質を理解する。 | 担当　中 |
| 第5回 | 外部講師による講義<br>施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。 | 担当　中 |
| 第6回 | 施設実習で学びたいことを考える。<br>実習先での支援について理解する。 | 担当　中 |
| 第7回 | 実習期間中の学習計画表を作成する。 | 担当　中 |
| 第8回 | 実習日誌の書き方について理解する。(デイリープログラムの書き方，利用児・者との関わりについての記載方法) | 担当　中 |
| 第9回 | 個人情報保護法について理解する。<br>施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について) | 担当　中 |
| 第10回 | 実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント，本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法) | 担当　中 |
| 第11回 | 事後指導1<br>施設実習で学んだことをグループで振り返り，施設保育士の役割を理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第12回 | 事後指導2<br>施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ，施設保育士の役割を理解する。 | 担当　中　牛島 |
| 第13回 | 事後指導3<br>施設実習報告会の準備をする。（実習中に深く考えさせられたことについての振り返り） | 担当　中 |
| 第14回 | 事後指導4　報告会（児童系の施設）<br>施設での実際の支援を理解する。 | 担当　中 |
| 第15回 | 事後指導5　報告会（障害児・者系の施設）<br>施設での実際の支援を理解する。 | 担当　中 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 50 | 実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 事前学習に積極的に取り組んだどうかについて，評価する。実習日誌は，コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には，再提出を課す。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。<br>・授業中は，一言一句聞き逃さないような心構えをもち，真剣な態度で臨むこと。 |
| 授業外学修 | ・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習の手引きと再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育福祉小六法 | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育実習研究Ⅱ | | | 授業番号 | CQ324 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童福祉施設の種類は，大変に多い。そこで，保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し，自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また，実習に必要な技能について指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では，総合的な保育の実践力を身につけるために，学習科目の関連について学び，保育の全体計画，観察，記録，自己評価の方法，職業倫理，保育士の専門性について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習の意義と目的 | |
| 第2回 | 保育実習に対する心構え | |
| 第3回 | 保育実習の計画と準備 | |
| 第4回 | 実習へ向けての自己課題作成 | |
| 第5回 | 実習先への事前訪問 | |
| 第6回 | 乳幼児期の支援 | |
| 第7回 | 児童期の支援 | |
| 第8回 | 中学生・高校生の支援 | |
| 第9回 | 子育て家庭の支援 | |
| 第10回 | 実習日誌の書き方1　日誌と記録の意義 | |
| 第11回 | 実習日誌の書き方2　児童の観察のポイント | |
| 第12回 | 実習日誌の書き方3　実習の計画と考察 | |
| 第13回 | 保育実習のまとめ1　礼状の書き方と振り返りシートの作成 | |
| 第14回 | 保育実習のまとめ2　グループワークにおける振り返り | |
| 第15回 | 保育実習のまとめ3　実習報告会の実施 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 50 | 実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 実習日誌については，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習に関わる重要な授業なので，毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば，その都度，積極的に質問すること。また，実習後は自らを振り返り，学び得たことを次に活かせるようにしっかりまとめること。 |
| 授業外学修 | ・授業中に取ったノートや配布したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(プリントを配付する) |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 児童館指導法Ⅱ | | | 授業番号 | CQ327 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 児童ソーシャルワークの展開方法，中高生の居場所づくり，児童の参画，地域のネットワークづくり等，児童館・放課後児童クラブの発展的活動の実施方法，児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れについて学び，行事の企画や，利用者への対応，地域とのかかわり等について理解できるようになる。また，児童館・放課後児童クラブの業務の実際をより深く知り，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域のネットワークづくり：地域資源の発掘・育成 | |
| 第2回 | 地域のネットワークづくり：地域との関係機関との連携・協働 | |
| 第3回 | 中高生の居場所づくり | |
| 第4回 | 児童館におけるコミュニティワーク | |
| 第5回 | コミュニティワークの展開方法と児童厚生員の役割 | |
| 第6回 | 児童館における相談対応 | |
| 第7回 | 実践記録の取り方 | |
| 第8回 | 実践レポートの書き方 | |
| 第9回 | 地域のニーズを踏まえた行事やイベント等の企画立案 | |
| 第10回 | 企画発表会・講評 | |
| 第11回 | 児童厚生員の役割：プレイワーカーとして | |
| 第12回 | 児童厚生員の役割：児童ソーシャルワーカーとして | |
| 第13回 | 遊びの健全育成上の意味 | |
| 第14回 | 児童館の実践事例から考える：出前児童館 | |
| 第15回 | 児童館の実践事例から考える：おしゃべり広場 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。 |
| レポート | 50 | 授業中に提示する課題をもとに具体的に述べているかについて評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてしっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問すること。 |
| 授業外学修 | 1．毎授業後に示す範囲について，事前に教科書をしっかり読んでくること。（約2時間）<br>2．授業中に取ったノートを見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。（約2時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・テキストは使用しない。適宜，プリントを配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて提示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学童保育実習研究 | | | 授業番号 | CQ333 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作、伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。<br>事前指導では，実習において必要とされる基礎的技能および実習にあたっての心得を指導する。<br>事後指導では，実習内容を省察し，今後の実践力向上に活かすことができるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。<br>また，放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ | 中田周作，伊藤智里 |
| 第2回 | 「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」 | 中田周作 |
| 第3回 | 放課後児童クラブ運営指針の概要 | 中田周作 |
| 第4回 | 放課後児童クラブにおける育成支援の内容 | 中田周作 |
| 第5回 | 特別講座（１）実習先の概要と実習日誌の書き方 | 中田周作，伊藤智里 |
| 第6回 | 特別講座（２）実習先の概要と実習全般にわたる注意事項 | 中田周作，伊藤智里 |
| 第7回 | 実習の心得と実習に係る書類作成等の確認 | 中田周作 |
| 第8回 | 指導案と実践記録（１） | 中田周作 |
| 第9回 | 指導案と実践記録（２） | 中田周作 |
| 第10回 | お礼状及び実習報告書の作成 | 中田周作 |
| 第11回 | 実習報告書の作成 | 中田周作 |
| 第12回 | 実習報告書の作成 | 中田周作 |
| 第13回 | 実習の報告 | 中田周作，伊藤智里 |
| 第14回 | 実習の報告 | 中田周作，伊藤智里 |
| 第15回 | 実習のまとめと資格制度の確認 | 中田周作，伊藤智里 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業中に作成する書類やレポート |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 実習報告書 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として，学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者のみ履修できる。 |
| 授業外学修 | 実習の事前事後指導については，週当たり1時間以上の予習復習を行うこと。<br>授業外学修の内容については，毎回異なるので，授業の時に指示する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育所実習Ⅰ | | | 授業番号 | CQ418 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 保育所等での実習指導を受けることにより，今まで学んできた理論が実際の現場でどのように活かされているかを知る。また，乳幼児に対する望ましい援助の仕方や実践における保育士等の役割について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | これまでに学習した知識と技術を基盤として，これらを総合的に実践する応用能力を養うため，保育所等での実習を通して，在園している乳幼児の生活について理解する。また，保育の理論と実践の関係について以下のように習熟する。(1)保育所等の保育内容，機能等を実践現場での体験を通して理解する。(2)既習の教科全体の知識・技能を基礎として，総合的に実践する応用力を涵養する。(3)保育士等の職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。(4)保育士等の職務内容及び役割，また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1）見学実習<br>(1)施設の沿革と保育の基本方針を知る。<br>(2)乳幼児，保護者，保育士等の構成等について知る。<br>(3)物的環境（敷地，建物の構造，配置及び施設・設備）を把握する。<br>(4)人的環境（職員構成，勤務形態等）を把握する。<br>2）観察・参加実習<br>(1)観察・参加の仕方を学ぶ。<br>(2)乳幼児，保護者に対する理解を深める。<br>(3)保育の1日の流れを把握する。<br>(4)基本的生活習慣の自立を援助する。<br>(5)遊びなどの指導について学び，担当者の補助をする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 実習ノートの記述状況，指導を受けたことへの改善の跡などを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・保育所実習における実習園の評価表，実習日誌，指導計画の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | 実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また，失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことを理解し，改善すること。 |
| 授業外学修 | 実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておく。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』，岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『これで安心！保育指導案の書き方』，北大路書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育所実習Ⅱ | | | 授業番号 | CQ419 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美、大坪　加奈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 部分指導・全日指導を通して，指導計画立案，保育の実施，実施後の反省，評価をすることにより，乳幼児に対する理解を深めるとともに，保育所等の役割や重要性について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所等の保育内容の各領域とその全体系を理解し，乳幼児の発育・発達状況に合わせた具体的な対応の仕方を学びながら，乳幼児の保育を主体的に担当し，個々の指導技術を実践の場で総合的に学び，習得する。そして，保育計画及び指導計画の体系と立案の方法を理解したり，保育記録や保護者とのコミュニーションなどを通して家庭・地域社会を理解するなど，保育士等としての意識を高め全般的な技術に習熟する。また，子育て支援の内容や方法を具体的に学ぶ。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 指導実習は実習生自らが指導計画を立案し，保育実践を行い，その後，保育の反省と評価を行う。指導実習では，1日の乳幼児の生活のある部分だけの経験や活動だけを指導する部分実習から始まり，次第に1日の全体を指導する全日実習を経験する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | (1)保育全般に参加し，保育技術を習得する。<br>(2)乳幼児の発達や個人差について理解し，適切な対応方法を学ぶ。<br>(3)指導計画を立案し，実践する。<br>(4)子どもの家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。<br>(5)地域社会に対する理解を深め，連携の方法について具体的に学ぶ。<br>(6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。<br>(7)保育士等としての職業倫理を理解する。<br>(8)保育士等に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて，自己の課題を明確にする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 実習ノートの記述や，指導を受けたことへの改善状況，自分自身の反省・工夫・改善などを評価 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・保育所実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | ・実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また，失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことは十分理解し，速やかに改善すること。 |
| 授業外学修 | 実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあいを体験しておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』，岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『最新 保育園幼稚園の実習完全マニュアル』，成美堂出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 施設実習 | | | 授業番号 | CQ421 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子、牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 児童福祉施設及び障がい者支援施設で実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，利用児(者)の生活状況を理解し，保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 児童福祉施設及び障がい者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているかを知り，自ら実践できるようになることを目的とする。また，利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 児童福祉施設・障がい者支援施設において10日間の泊まりこみ実習指導を受け，下記のことを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1．実習施設における一日の流れを体験によって理解する。<br>2．施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り，参加する。<br>3．支援のための計画を理解する。<br>4．職員の利用児(者)へのかかわり方に基づいて，実際に利用児(者)と関わる。<br>5．職員の利用児(者)へのかかわり方を通して彼らの思いを理解する。<br>6．生活支援の一部を担当し，支援のための技術を習得する。<br>7．利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。<br>8．保育士としての職業倫理を理解する。<br>9．安全及び疾病予防への配慮について理解する。<br>10．職員間の役割分担とチームワークについて理解する。<br>11．記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。<br>12．利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての資質を習得する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習先施設から返却された評価票に基づいて，評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「施設実習研究」で学んだ事をしっかり復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。 |
| 授業外学修 | ・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 社会福祉関連施設の保育士 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 利用者への対応方法について実践を通して理解するように働きかける。 |

| 科目名 | 保育実習Ⅲ | | | 授業番号 | CQ423 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 福祉施設での実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，その全体系を明らかにする。そして，専門職としての保育士の職務意識を高め，全般的な技術に習熟するための実習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本実習の目的は，次の4つである。(1)個々の利用児・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し，指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用児・者の援助実践を行い，養護技術の具体を知り，自ら実践できるようになる。(4)個々の利用児・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り，自ら実践できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 基本的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1）援助計画の理解<br>・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。<br>・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。<br>2）援助プログラムの立案<br>・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。<br>・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。<br>3）援助プログラムによる援助実践<br>・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。<br>・実習指導担当者の助言，実習場面の立ち会い，事後の評価等を受ける。<br>4）保育士の態度と技術の習得<br>・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。<br>・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。<br>・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。<br>5）多様性と共通性の理解<br>・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。<br>・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習先施設から返却された評価票に基づいて，評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。 |
| 授業外学修 | ・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間) |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・必要に応じて紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 児童館実習 | | | 授業番号 | CQ428 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 児童館で実習指導を受けることにより，その施設の果たす目的や機能を認識し，利用児・者について理解し，児童厚生員がどのような指導・支援をしているのかを明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 児童館が地域における児童健全育成の拠点であることについて学び，児童厚生員の担っている役割を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1．実習先<br>別紙の児童館一覧表より配当する。<br>2．実習時間・期間<br>夏季（8月1日～9月30日）および春季（2月1日～3月31日）のうち10日間 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 実習で学んだことについて具体的に記載されていること。また，学びが日々ステップアップしていること。実習日誌については，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習先施設から返却された評価票に基づいて，評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・保護者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で職員に直接質問すること。 |
| 授業外学修 | ・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙（別紙）に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，児童館職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。（約4時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特になし。（必要に応じて，プリント配付） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学童保育実習Ⅰ | | | 授業番号 | CQ431 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作、伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。<br>実習期間は8月中旬から9月中旬である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。<br>また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1．実習先<br>　実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。<br><br>2．実習期間<br>　おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。<br>　(1)平日の午後に10日間<br>　(2)長期休暇および土曜日に6日間 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 実習に関する書類や実習ノート |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実習先の評価 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。<br>(1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。<br>(2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。 |
| 授業外学修 | 運営指針解説書は実習時に携行すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学童保育実習Ⅱ | | | 授業番号 | CQ432 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 子どもA | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。<br>実習期間は8月中旬から9月中旬である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。<br>また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 1．実習先<br>実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。<br><br>2．実習期間<br>おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。<br>(1)平日の午後に10日間<br>(2)長期休暇および土曜日に6日間<br><br>3.振り替え<br>放課後児童指導員資格を取得するためには，本実習の履修が必要であるが，その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 実習に関する書類や実習ノート |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 実習先の評価 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。<br>(1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。<br>(2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。 |
| 授業外学修 | 運営指針解説書は実習時に携行すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 放課後児童クラブ運営指針解説書 | 厚生労働省編 | フレーベル館 | 978-4-577-81427-7 | 290円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

**中国学園大学　国際教養学部　国際教養学科　シラバス**


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| 心理学 | 國田　祥子 | ・・・・・・・ | 1 |
| 自然科学概論 | 岸　誠一 | ・・・・・・・ | 3 |
| 日本文化論 | 岡本　輝彦 | ・・・・・・・ | 5 |
| 日本国憲法 | 俟野　英二 | ・・・・・・・ | 7 |
| 倫理学 | 小谷　彰吾 | ・・・・・・・ | 9 |
| 比較文化論 | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 11 |
| 中国語 | 畑木　亦梅 | ・・・・・・・ | 13 |
| 韓国語 | 河　智弘 | ・・・・・・・ | 15 |
| 岡山学（オムニバス） | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 17 |
| ICT概論Ⅰ | 久保　博尚 | ・・・・・・・ | 19 |
| ICT概論Ⅱ | 久保　博尚 | ・・・・・・・ | 22 |
| 実践英語Ⅰ | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ | ・・・・・・・ | 25 |
| 実践英語Ⅱ | 森年　ポール | ・・・・・・・ | 28 |
| 導入ゼミナールⅠ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司 | ・・・・・・・ | 31 |
| 導入ゼミナールⅡ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司 | ・・・・・・・ | 33 |
| マクロ経済学入門 | 藤原　敦志 | ・・・・・・・ | 35 |
| ミクロ経済学入門 | 山中　匡 | ・・・・・・・ | 37 |
| マーケティング論入門 | 倉田　致知 | ・・・・・・・ | 39 |
| 経営学入門 | 倉田　致知 | ・・・・・・・ | 41 |
| 会計学入門 | 岸保　宏 | ・・・・・・・ | 43 |
| 簿記入門 | 栢野　勝己 | ・・・・・・・ | 45 |
| 観光総論 | 大石　貴之 | ・・・・・・・ | 47 |
| 観光実務 | 大石　貴之 | ・・・・・・・ | 49 |
| 農業経済入門 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 51 |
| 農業経済学 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 53 |
| プレゼンテーション技法 | 梶西　将司 | ・・・・・・・ | 55 |
| 英語資格演習Ⅰ | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ | ・・・・・・・ | 57 |
| 英語資格演習Ⅱ | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 59 |
| 日本の伝統文化 | 後藤　智絵 | ・・・・・・・ | 61 |
| 日本の食文化 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 63 |
| 国際関係論 | 井上　あえか | ・・・・・・・ | 65 |
| データサイエンス入門 | 梶西　将司 | ・・・・・・・ | 67 |
| 社会調査の基礎 | 梶西　将司 | ・・・・・・・ | 69 |
| 金融論入門 | 三好　秀和 | ・・・・・・・ | 71 |
| 観光英語A | 佐々木　真帆美 | ・・・・・・・ | 73 |
| 食品流通論 | 大宮　めぐみ | ・・・・・・・ | 75 |
| ビジネス・イングリッシュ | 森年　ポール | ・・・・・・・ | 77 |
| ビジネス・ディスカッション技法 | 大宮　めぐみ／梶西　将司 | ・・・・・・・ | 79 |
| 日米関係 | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 81 |
| 実践英語Ⅲ | 佐々木　真帆美 | ・・・・・・・ | 83 |
| 実践英語Ⅳ | 佐々木　真帆美 | ・・・・・・・ | 85 |
| 日本の文学 | 野口　尚志 | ・・・・・・・ | 87 |
| 現代環境論 | 岸　誠一 | ・・・・・・・ | 89 |
| 経営学特論Ⅰ | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 91 |
| 企業倫理論 | 大塚　祐一 | ・・・・・・・ | 93 |
| 経営学特論Ⅱ | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 95 |
| 情報処理Ⅰ | 赤木　竜也 | ・・・・・・・ | 97 |
| 情報処理Ⅱ | 赤木　竜也 | ・・・・・・・ | 99 |
| 情報処理Ⅲ | 赤木　竜也 | ・・・・・・・ | 101 |
| ICT応用論 | 久保　博尚 | ・・・・・・・ | 103 |
| ICT未来学 | 久保　博尚 | ・・・・・・・ | 105 |
| 現代経済史 | 日野　正輝 | ・・・・・・・ | 107 |
| 経営戦略論 | 倉田　致知 | ・・・・・・・ | 109 |
| マーケティング論 | 倉田　致知 | ・・・・・・・ | 111 |
| データサイエンス論 | 梶西　将司 | ・・・・・・・ | 113 |
| イベント・コンベンション事業論 | 田村　秀昭 | ・・・・・・・ | 115 |
| レジャー・リゾート論 | 田村　秀昭 | ・・・・・・・ | 117 |
| 地域経済学 | 北川　博史 | ・・・・・・・ | 119 |
| 現代ビジネス論 | 佐々木　公之 | ・・・・・・・ | 121 |
| ブランド戦略論 | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 123 |
| 観光経営論 | 田村　秀昭 | ・・・・・・・ | 125 |
| リーダーシップ論 | 杉山　慎策 | ・・・・・・・ | 127 |
| ライティング | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ | ・・・・・・・ | 129 |
| 時事英語 | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 131 |
| 英語ディスカッション | 森年　ポール | ・・・・・・・ | 133 |
| 観光英語B | 佐々木　真帆美 | ・・・・・・・ | 135 |
| グローバル経済論 | 日野　正輝 | ・・・・・・・ | 137 |
| EU経済論 | 非常勤B | ・・・・・・・ | 139 |
| 英語プレゼンテーション | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 141 |
| プロフェッショナル・イングリッシュ | 佐々木　真帆美 | ・・・・・・・ | 143 |
| 観光産業論 | 田村　秀昭 | ・・・・・・・ | 145 |
| 日・アセアン関係 | 冨田　暁 | ・・・・・・・ | 147 |
| 国際経営論 | 佐々木　公之 | ・・・・・・・ | 149 |
| アジア食品論 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 151 |
| フードシステム論 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 153 |
| 地域資源論 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 155 |
| 地域政策 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 157 |
| 食料経済 | 大宮　めぐみ | ・・・・・・・ | 159 |
| アグリビジネス論 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 161 |
| 農産物直売所と地域活性化 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 163 |
| 農業政策と環境・資源保全 | 中安　章 | ・・・・・・・ | 165 |
| フードマーケティング論 | 大宮　めぐみ | ・・・・・・・ | 167 |
| 農業協同組合論 | 大宮　めぐみ | ・・・・・・・ | 169 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 専門ゼミⅠ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 171 |
| 専門ゼミⅡ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 173 |
| 専門ゼミⅢ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／杉山　慎策／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 175 |
| 専門ゼミⅣ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／杉山　慎策／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 177 |
| 専門ゼミⅤ | 杉山　慎策 | ･･････ | 179 |
| 専門ゼミⅥ | 杉山　慎策 | ･･････ | 181 |
| 卒業研究 | 杉山　慎策 | ･･････ | 183 |
| トップリーダー講義（キャリア研究） | 佐々木　公之 | ･･････ | 185 |
| キャリア・デザイン | 佐々木　公之 | ･･････ | 187 |
| ビジネスプランコンテスト | 佐々木　公之 | ･･････ | 189 |
| インターンシップ（短期） | 佐々木　公之 | ･･････ | 191 |
| インターンシップ（中長期） | 佐々木　公之 | ･･････ | 193 |
| 夏季語学研修 | 佐々木　真帆美 | ･･････ | 195 |
| 春季語学研修 | 佐々木　真帆美 | ･･････ | 197 |
| セメスター留学 | 佐々木　真帆美 | ･･････ | 199 |
| 国土計画論 | 北川　博史 | ･･････ | 201 |
| 英語文学講読 | 佐々木　真帆美 | ･･････ | 203 |
| 観光関連法規 | 田村　秀昭 | ･･････ | 205 |
| 日本語教育特論 | 岡本　輝彦 | ･･････ | 207 |
| 卒業研究Ⅰ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／杉山　慎策／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 209 |
| 卒業研究Ⅱ | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／藤代　昇丈／岡本　輝彦／杉山　慎策／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／佐々木　真帆美／宋　娘沃 | ･･････ | 211 |
| ライフ・デザイン | 大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司 | ･･････ | 213 |
| 教育実習Ⅰ | 藤代　昇丈 | ･･････ | 215 |
| 教育実習Ⅱ | 藤代　昇丈 | ･･････ | 217 |
| 教職実践演習（中・高） | 藤代　昇丈 | ･･････ | 219 |

| 科目名 | 心理学 | | | 授業番号 | LA101 | サブタイトル | （心と行動の科学） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 心理学とは | |
| 第2回 | 予知体験の不思議 | |
| 第3回 | 記憶の不思議 | |
| 第4回 | 影響されるこころ | |
| 第5回 | 揺れうごくこころ | |
| 第6回 | 検査で「自分」がわかるのか | |
| 第7回 | 占い・新宗教がもつ現代的意味 | |
| 第8回 | 中間のまとめ | |
| 第9回 | 子どもから見た現実と想像の世界 | |
| 第10回 | 「もしかして……」と揺れ動く心の発達 | |
| 第11回 | 不思議現象に立ち向かう子どもたち | |
| 第12回 | 脳とこころの不思議な世界 | |
| 第13回 | 科学的に検証するとはどういうことか | |
| 第14回 | 心理学を学ぶ人のために | |
| 第15回 | 期末のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 自然科学概論 | | | 授業番号 | LA102 | サブタイトル | (体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?（四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ） | |
| 第2回 | 科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ | |
| 第3回 | 楽しいフィールドワーク(吉備の中山を歩こう!!) | |
| 第4回 | コンピュータについて学ぶ(新しいプログラム体験) | |
| 第5回 | 地球温暖化のしくみ | |
| 第6回 | 君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） | |
| 第7回 | 電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 | |
| 第8回 | 高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？（音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック） | |
| 第9回 | 液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶI） | |
| 第10回 | 糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習（分子構造について学ぶII） | |
| 第11回 | 天然色素と酸アルカリの実験と実習 | |
| 第12回 | 光に関する基礎講座ならびに実験と実習 | |
| 第13回 | 楽しい数学（小学校高学年の知識で挑戦する，とっても簡単！？微分と積分） | |
| 第14回 | 流しそうめんの加速度を測定しよう！ | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。また，新型コロナの感染予防のため，食べたり，密になって行う実験などが出来なくなり，他の内容に変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本文化論 | | | 授業番号 | LA103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　輝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 前半は，まず日本の文字・表記の成立，敬語について考え，次に日本最古の書物である古事記をもとに日本文化と社会について，さまざまな視点から見ていく。また，神話から日本社会がどのように形づくられたかについて考察を加える。さらに，多文化共生のあり方についても理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．日本の文化を知ることができる。<br>２．日本の文字・表記，敬語について理解することができる。<br>３．日本と神と人々のつながりを知ることができる。<br>４．古代から現代までの日本社会の形成を理解することができる。<br>５．多文化共生社会について見識を深めることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション，日本文化とは何か | |
| 第2回 | 日本の文字(1) | |
| 第3回 | 日本の文字(2) | |
| 第4回 | 敬語表現(1) | |
| 第5回 | 敬語表現(2) | |
| 第6回 | 古事記(1)（古事記とは） | |
| 第7回 | 古事記(2)（創世神話） | |
| 第8回 | 古事記(3)（国生み） | |
| 第9回 | 古事記(4)（黄泉の国） | |
| 第10回 | 古事記(5)（姉弟神の対立） | |
| 第11回 | 古事記(6)（天の岩戸） | |
| 第12回 | 古事記(7)（出雲神話） | |
| 第13回 | 多文化共生とは | |
| 第14回 | 多文化共生の問題点 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 講義に対する積極性によって評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 理解度によって評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 口頭発表の完成度によって評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．授業計画に提示されているテーマに関するプリントを事前に読んで理解しておくこと。<br>2．授業計画に基づく事項について自分の考えを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業計画で提示されているテーマに関する資料を読んでおき，予習しておくこと。<br>2．自分の考えをまとめておくこと。<br>3．プレゼンテーションなどの発表の準備をしておくこと。<br><br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業計画に基づく事項に関するプリントを適宜配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本国憲法 | 授業番号 | LA201 | サブタイトル | (身近な問題から憲法の役割を考える) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 俟野　英二 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本科目では，日本国憲法及び他国の憲法の沿革，様々な人々の人権について講義する。また，憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し，それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。<br>具体的にはまず，学生に身近な憲法問題を取り上げ，それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に，各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に，次回の講義で，各グループのグループワークの結果を紹介し，全体討議の後講評を行う。<br>なお，新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には，MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク，講義における質疑を行う。 |
| 到達目標 | 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，社会の構造的変化の全体的構図を描くための幅広い知識および自分の意見を形成し，討議を通じて意見を検証することから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。また，憲法の視点から身近な問題からグローバルな課題まで考察できる問題可決を思考する力の修得を目的とすることから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス，憲法とは何か<br>1　学修の目標，評価方法などを説明する。<br>2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 | |
| 第2回 | グループワーク1<br>1　グループワークの仕方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，課題選択，課題分析，リサーチを行う。 | |
| 第3回 | グループワーク２<br>1　グループワークのまとめ方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，情報整理，報告書の作成を行う。 | |
| 第4回 | 国家機関としての天皇制<br>1　徳川時代，大日本帝国憲法下，日本国憲法下の天皇の地位について考える。<br>2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 | |
| 第5回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１――<br>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。 | |
| 第6回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２――，人権を守るための組織――統治機構１――<br>1　近年の安全保障をめぐる状況について学修する。<br>2　政治と国民，国会議員について学修する。 | |
| 第7回 | 人権を守るための組織――統治機構２――<br>1　選挙，選挙制度，政党，国会について学修する。<br>2　内閣について学修する。 | |
| 第8回 | 人権を守るための組織――統治機構３――<br>1　地方自治について学修する。<br>2　裁判所について学修する。 | |
| 第9回 | 良心をもつ自由，貫く権利<br>1　良心の意義について学修する。<br>2　教師の良心を貫く権利について考える。 | |
| 第10回 | 表現の自由<br>1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。<br>2　マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 | |
| 第11回 | 営業の自由と消費者の権利<br>1　職業選択の自由，営業の自由と消費者の権利について学修する。<br>2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第12回 | 働く人の権利<br>1　勤労の権利や労働基本権について学修する。<br>2　女性や非正規労働者の問題について考える。 | |
| 第13回 | 困った時の権利，差別されている人たちへの配慮<br>1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。<br>2　積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第14回 | 家庭と女性の権利<br>1　憲法における家庭と女性の権利について学修する。<br>2　同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 | |
| 第15回 | 子どもの権利と学校における生徒の人権<br>1　生徒の教育を受ける権利，学校内外での権利について学修する。<br>2　いじめ問題を憲法から考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解，及び，意欲・関心を持ち，講義に積極的に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 1回実施。基本原理，基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので，各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。<br>2　全体を通じて1回，任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。<br>3　中間に１回中間レポートの課題（第７回頃レポート作成要項発表）がある。 |
| 授業外学修 | 1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み，意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。<br>2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め，ノートに整理して，期末テストに備える。また，発展的学習として選択した課題について，インターネット等で調査し，調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて，各自の情報や意見を整理する。さらに，グループワークに参加し，協力して必要事項を調査するとともに，課題に関してそれぞれの意見を交換し，グループ報告書にまとめる共同作業を行う。<br>3　中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し，疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し，自分の意見を練り，レポートにまとめる。<br>事前学習及び事後学習を合わせて，1週間に4時間程度必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 憲法のちから－身近な問題から憲法の役割を考える－ | 中富公一編著 | 法律文化社 | 978-4-589-04140-1 | 2400＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 自信をもっていじめにNOと言うための本 | 中富公一 | 日本評論社 | 978-4-535-52038-7 | 2300＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 右崎正博・浦田一郎編『基本判例１　憲法［第4版］』（法学書院，2014年） |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県教育委員会，県（人権・同和政策課） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。 |

| 科目名 | 倫理学 | | | 授業番号 | LA202 | サブタイトル | (人間形成の倫理と論理) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小谷　彰吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 激変する時代の中で，偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで，先哲の思想，中でも儒教の視点を一つの柱としたり，現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 東洋，西洋，それぞれの時代の中で，人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに，我が国には，神道，仏教，儒教が融合する独特の精神文化があり，それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 『倫理学』の概念を知り，『善悪』の判断とその背景，その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 倫理の基盤(1)　ガイダンス | |
| 第2回 | 倫理の基盤(2)　倫理観と社会的背景 | |
| 第3回 | 倫理の基盤(3)　倫理観の形成と体験の欠如 | |
| 第4回 | 倫理の思想(1)　倫理と道徳 | |
| 第5回 | 倫理と思想(2)　知識基盤社会と倫理 | |
| 第6回 | 倫理学の基礎(1)　倫理と思考実験 | |
| 第7回 | 倫理学の基礎(2)　義務論と功利主義 | |
| 第8回 | 現代社会の倫理(1)　死刑制度 | |
| 第9回 | 現代社会の倫理(2)　老いと安楽死 | |
| 第10回 | 現代社会の倫理(3)　いじめと自殺 | |
| 第11回 | 現代社会の倫理(4)　徳の教育と学校 | |
| 第12回 | 現代社会の倫理(5)　伝統文化と食の倫理 | |
| 第13回 | 日本倫理の思想(1)　江戸時代の徳の教育 | |
| 第14回 | 日本倫理の思想(2)　『論語』 | |
| 第15回 | 『倫理学』のまとめ　総括レポート | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 15回目の論文で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー〈知識・理解〉に見られる自国・他国の行動様式，考え方の基盤となる文化的背景の理解，〈態度〉に見られる，多様な文化を理解し尊重することに直接かかわるものを重点的に評価することから，授業への参加態度と論語に50%を充てる。 |
| 受講の心得 | 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。 |
| 授業外学修 | 授業内で紹介する著書については，可能な限りすべて読み，批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。<br>授業外で深めた基礎的教養によって，授業の中でのディスカッションの質が向上する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する) |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内で随時，紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，私立高等学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 現在，学校教育現場では，アクティブラーニングの研究が進められており，「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし，特に小学校においては，遥か前から実践されていた学びであり，特に「道徳」は教科化されて以降，「議論する道徳」「思考する道徳」，すなわち自らの意見を持って，仲間と意見をぶつけ合い，新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』とて同様の学習を展開すれば，「主体的な学び」が展開できるものと考えている。<br>グループワーク，ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を醸成したい。 |

| 科目名 | 比較文化論 | | | 授業番号 | LA203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 異文化理解に関するテキストを用い，「文化を比較する」ということを，具体的なテーマについてのディスカッションなどの活動を通して実践的に学ぶ。具体的には衣食住や音楽，芸能などの身近なテーマから思想，言語，宗教などの精神活動に関するテーマなど様々なテーマについて扱う。文化の異同を考えることを通じて，日本文化について改めて理解し，多文化の人々との異文化コミュニケーションを取ることのできる知識と問題解決能力を高める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 具体的なテーマについて，異文化を理解し，比較することを通して，自らの国に対する理解を深めるとともに，自ら一定の尺度をもって，多文化の人々と接し，コミュニケーション力を取れる力を身に着けさせる。また，情報や意見をまとめ，相手を意識して自らの思いや意見を表現できる力を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション / 文化とは，異文化理解とは何か | |
| 第2回 | 比較文化の方法 / 「空気に耳を澄ます」異文化間コミュニケーション | |
| 第3回 | 文化と言語　社会言語，認知言語の視点から | |
| 第4回 | 多文化共生社会 | |
| 第5回 | 様々な礼節のかたち | |
| 第6回 | 「なぜ」vs「どうやって」多文化世界における説得の技術 | |
| 第7回 | 敬意はどれくらい必要か　リーダーシップ　階層　パワー | |
| 第8回 | 「大文字の決断か小文字の決断か」誰がどうやって決断するか | |
| 第9回 | 「頭か心か」二種類の信頼とその構築法 | |
| 第10回 | 生産的に見解の相違を伝える | |
| 第11回 | 「遅いってどれくらい」スケジューリングと各文化の時間に対する認識 | |
| 第12回 | 国際化と食文化　日本の「和食」 食文化とタブー | |
| 第13回 | 遊び，芸能，宗教，音楽 | |
| 第14回 | 性差　ジェンダー | |
| 第15回 | 日本のこころ / まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する |
| レポート | 30 | 課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。<br>・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・知識から実践へと進むことができるように，積極的に授業に参加し，授業外でもしっかり練習をして欲しい。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 異文化理解力――相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養 | エリン・メイヤー | 英治出版 | 978-4862762085 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき異文化理解の基礎知識などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 中国語 | | | 授業番号 | LA301 | サブタイトル | （発音記号，基本文型，会話，短文） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 畑木　亦梅 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | テキスト第一課　発音(1)　単母音，声調，子音，軽声，特殊母音（課題提出　テキスト第一課分P9-10), | |
| 第2回 | テキスト第二課　発音(2)　重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方 | |
| 第3回 | 発音の復習，知っておいて便利な言葉（課題提出　テキスト第二課分P13-14) | |
| 第4回 | テキスト第三課　名詞文「…是…(…は…です)」について(肯定文，否定文，疑問文)；副詞「也，都(も)」について，強化トレーニング（課題提出　テキスト第三課分P19-20) | |
| 第5回 | テキスト第四課　指示代名詞，存在文「有…(…あります/います)」について，「ちょっと…する」の言い方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第四課分P25-27) | |
| 第6回 | テキスト第五課　動詞文，動作の継起，願望文「想…(…したい)」について，強化トレーニング（課題提出　テキスト第五課分P33-34) | |
| 第7回 | テキスト第六課　動作・行為の完了，形容詞文について，比較，起点などの表し方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第六課分P39-40) | |
| 第8回 | テキスト第七課　動作の進行，いろいろな「在」の使い方，数字・日付の言い方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第七課分P45-46) | |
| 第9回 | テキスト第八課　過去の経験の表しかた，東京ディズニーランドに行ったことがありますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第八課分P51-52) | |
| 第10回 | テキスト第九課　皆さんはお元気ですか　強化トレーニング（課題提出　テキスト第九課分P57-58) | |
| 第11回 | テキスト第十課　休みの日はどのように過ごしますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十課分P63-64) | |
| 第12回 | テキスト第十一課　納豆は食べますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十一課分P69-70) | |
| 第13回 | テキスト第十二課　私について(1)　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十二課分P75-77) | |
| 第14回 | テキスト第十三課　私について(2)　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十三課分P81-82) | |
| 第15回 | 復習，おさらい，定期試験に向けて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 4 | 発音練習・発言など授業への積極性 |
| レポート | 26 | 課題提出の完成度 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，声を出して練習すること。遅刻しないこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。<br>2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。<br><br>週当たり4時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストについては教務課より別途指示 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | A4サイズのポケット式ファイルを用意すること。プリント配布あり，学習内容に合わせて中国事情を紹介する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高等学校での中国語授業 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。 |

| 科目名 | 韓国語 | | | 授業番号 | LA303 | サブタイトル | (韓国語の基礎を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河　智弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 基本文型と文法を会話文の中で習得し，日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。韓国語コミュニケーションIで学んだ韓国語の基礎を生かして，会話，慣用的な表現などを用いて，読み，書き，聞き取り，話すことをバランスよく習得していく。特に，聞き取りと話すことにおいて，留学生などのゲストを迎えスキルを活用する機会につなげる | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。<br>・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。<br>・簡単な韓国語が書けることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 韓国語とは | |
| 第2回 | 文字と発音・母音 | |
| 第3回 | 文字と発音・子音 | |
| 第4回 | 激音と農音，パッチム | |
| 第5回 | 自己紹介 | |
| 第6回 | これは何ですか | |
| 第7回 | 結婚写真 | |
| 第8回 | 動詞の活用 | |
| 第9回 | 何をしますか | |
| 第10回 | 韓国映画の言葉 | |
| 第11回 | 私たちの教室 | |
| 第12回 | 動詞の尊敬形 | |
| 第13回 | どこに行かれますか。 | |
| 第14回 | 場所 | |
| 第15回 | 日常会話及びまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っているのかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。 |
| 定期試験 | 40 | 授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をすること<br>宿題を真面目にすること |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。<br>・復習として，毎回の課題をノートに書いて来ること。<br>・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カナタコリアン初級1 | カナタ韓国語学院 | 国書刊行会 | 978-4-336-05677-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 岡山学（オムニバス） | | | 授業番号 | LB101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本学が立地している岡山は古来「吉備国」と言われ，山や川や海の恵みにより古より繁栄を遂げてきた地域である。東は兵庫県の西部から西は広島県の福山市まで広がる広大な地域を領地としていた。余りにも強大な力を持ったために「吉備国」は「備前」「備中」「備後」の３つに分割され，713年には更に「備前」から「美作」が分割された。この地域の歴史や文化を知ることは，現在を生きる私たちの責務であり，今後この地で活躍する人たちにとっても不可欠な知識である。本講義では故郷「岡山」について「思想」「農業」「産業」の三分野からこの地域を分析し，「岡山」への一層の理解を深め，この地域への愛着を持ち未来を創り出すヒント（KSF:Key Success Factor＝重要成功要因）を学ぶことを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 故郷であるこの「岡山の地」への理解を深め，併せてこの地域への愛着を育成し未来を創り出すヒントを得ることとする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | オムニバス形式でそれぞれの分野の専門家を招聘し，各分野の専門家による講義とする。<br>また，講義の中でリアクションペーパーに記入された質問などを取り上げ，できるだけインターアクティブな講義とする。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の目的と概要 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | 熊沢蕃山と陽明学 | 高橋　文博 |
| 第3回 | 山田方谷と陽明学 | 高橋　文博 |
| 第4回 | 山田方谷の経営改革 | 杉山　慎策 |
| 第5回 | 津山洋学と緒方洪庵 | 杉山　慎策 |
| 第6回 | 倉安川・百間川灌漑排水施設（世界灌漑施設遺産） | 樋口　輝久 |
| 第7回 | 児島湾干拓事業 | 樋口　輝久 |
| 第8回 | 中山間地域 | 岸保　宏 |
| 第9回 | 児島とジーンズ | 杉山　慎策 |
| 第10回 | 岡山の経済 | 大崎　康正 |
| 第11回 | 水島コンビナート | 大崎　康正 |
| 第12回 | 岡山の観光（１） | 松本　隆幸 |
| 第13回 | 岡山の観光（２） | 松本　隆幸 |
| 第14回 | 岡山の観光（３） | 松本　隆幸 |
| 第15回 | まとめと討論 | 杉山　慎策 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 60 | 毎回のレポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回リアクションペーパーの提出を求め，評価対象とする。<br>毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め，評価の対象とする。 |
| 受講の心得 | 岡山の地方紙（誌）である「山陽新聞」や「VISION OKAYAMA」などを読み地元について関心をもつこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。<br>2 復習として，レジュメを再度確認すること。<br>3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。<br>以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『山田方谷の思想と改革』杉山慎策（編）　吉備人出版社　1，100円　978-4860696283<br>『日本ジーンズ物語』杉山慎策（著）　吉備人出版社　1，760円　978-4860692179 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 資生堂，ユニリバー，ロレアル，マテルにおいてマーケティングや経営の経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 大崎泰正，松本隆幸 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かし，具体的ケースを示しながらその意義を分かりやすく解説する。 |

| 科目名 | ＩＣＴ概論Ｉ | | | 授業番号 | LB102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 久保　博尚 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本ゼミの授業は原則として，インターネット上のデジタルな道具を用いて行う。具体的には各自がPC，タブレット端末，スマートフォンなどでインターネットに接続し，授業用のネットワーク上のページにアクセスすることで，授業内容の共有，関連情報の閲覧，コニュニケーション，情報伝達を行う。この演習を通じて日本社会と世界の状況を理解することにより，ICT社会の仕組みを実感的に把握するとともに，個人と社会がテクノロジーとどのような関係にあり，社会にどのような影響をもたらし得るかを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 積極的な＜態度＞で演習に取り組むことにより，デジタルな道具を活用するための＜技術＞向上を図る。これを手段として，＜思考＞と＜問題解決能力＞を高め，学びの背景となる日本の現状と自身の立場を正しく＜理解＞することを目的とする。このことは世界を知るための＜知識・理解＞を高め，＜思考・問題解決能力＞の必要性を自覚し，その手段となる＜技能＞と＜態度＞を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。本科目は，インターネットに接続して授業を行うことで，学びと社会の連携を通じた実践的な教育機会を提供するものであり，カリキュラムポリシーに沿うものである。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業を受けるにあたり，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCはChromebook以上であれば機種を問わないが，可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 道具としてのゼミ1：みんなで作るデジタル・ライブ・ゼミナール<br>授業は基本的にデジタル環境で行うため，その意義と母艦となるGoogleとScrapboxのWebアプリについて全体的な説明を行う。 | |
| 第2回 | 道具としてのゼミ2：デジタル・ライブのための環境を整える<br>Scrapboxの環境設定を行い，個人用，先生用のそれぞれのScrapbox，Scrapbox上の授業ページ，Googleドライブとの連携を行う。 | |
| 第3回 | 驚異のデジタル1：デジタル・テクノロジーの進化と社会指標の変化を比較する<br>2000年が世界の社会の分岐点であることの全体的な説明と，その変化を理解するための2000年以前の世界の理解の重要性を理解する。 | |
| 第4回 | 驚異のデジタル2：2000年は世界の分岐点<br>2000年が分岐点であることの実感的理解のために，まずは2000年以前の社会指標を調査する。合わせて授業Scrapboxの活用方法を説明する。 | |
| 第5回 | 2000年の前の時代のレポートを完成させる（前編）<br>2000年以前の時代の社会指標の調査内容をScrapboxにレポート素材として書き出す。 | |
| 第6回 | 2000年の前の時代のレポートを完成させる（後編）<br>Scrapboxに書き出したレポート素材を課題レポートに仕上げるための基本（タイトル，文章，数値，グラフ，体裁）を解説する。 | |
| 第7回 | 2000年の前の時代の指標を統合する<br>前2回の実習内容を統合し，「2000年の前の時代」の課題レポートを完成させる。オンラインでの添削や提出方法についての説明を行う。 | |
| 第8回 | 2000年から後の時代を概観する<br>コンピュータとは何かの概説のあと，ムーアの法則について学び，2000年の後の時代を調査するための社会指標の選択などの準備を行う。 | |
| 第9回 | 2000年の後の時代の社会指標を統合する<br>Webアプリケーションとは何かの講義の後，実習課題の「2000年の前の時代」と「後の時代」を統合し，調査結果をスプレッドシートでグラフ化する。 | |
| 第10回 | 2000年を境に世界が変わったことを可視化する<br>スプレッドシートを利用する際の数値の扱い，計算やグラフ化のための基本機能を学習し，統合した指標の数値をグラフで表す。 | |
| 第11回 | ムーアの法則の平均値を求める<br>各自の調査から明らかになったさまざまなムーアの法則の平均値をグラフ化する方法を学ぶ。これを各自のレポートに反映させる。 | |
| 第12回 | レポートの構造を理解しグループ討論を行う<br>課題レポートに不可欠な起承転結などの基本構造の講義を行う。その上で，Scrapbox上の雛形を用いてレポートを完成させる。 | |
| 第13回 | オンラインでアンケート調査を行う<br>Googleフォームで自身のアンケートを作成した後，前期前半の授業評価のためのアンケートを実施する。合わせて前期後半の授業方針の説明を行う。 | |
| 第14回 | アンケート結果と成績から見た学習状況の分析<br>授業評価アンケートの結果を共有し，傾向や問題点などの分析を通じて授業改善の方法を話し合う。また，レポートの成績状況モニタの説明を行う。 | |
| 第15回 | 働き方1：マクドナルド指数で見るテクノロジーと経済<br>経済・社会生活とテクノロジーの全体的な視点から，マクドナルド指数や一人当たりGDPがテクノロジーとどのように関係するかを学ぶ。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 働き方2：インバウンドに見るテクノロジーと経済<br>具体論として，収入や賃金の各国比較から安いニッポンの実態を理解するとともに，テクノロジーやプラットフォーム化と幸福の関係について考える。 | |
| 第17回 | 働き方3：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（1/3）<br>これまでに学んだICTの知識をもとに，課題レポート「主要都市の昼食代の実態調査」を始める。方針と調査方法，英語の扱いなどの解説も行う。 | |
| 第18回 | 働き方4：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（2/3）<br>収取した調査データをもとに，データ整理の方法，平均や合計などの基本的な関数の使いから，スプレッドシートによるグラフ表現の方法を学ぶ。 | |
| 第19回 | 働き方5：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（3/3）<br>技術編と文章表現編に分けMac Windowsの違いも含め，レポート作成のポイントを解説する。Scrapboxによる課題レポートの提出方法も解説する。 | |
| 第20回 | 子育て1：子育ての現状を知る<br>厳しい子育ての環境をICTでどのように改善できるかを考える初回となる。核家族化，シングルマザーの現状，幼児教育とテクノロジーの実態を学ぶ。 | |
| 第21回 | 子育て2：海外と日本の子育て事情の違いを知る<br>子育てランキングや子育てへの公共投資，幼児教育現場のICTの活用状況，さらには15歳生徒のICT利用実態，海外との違いなどを把握する。 | |
| 第22回 | 教育1：GIGAスクール構想とは何か？<br>4回の産業革命とSociety5.0の関係を解説する。この理解を通じて，社会のDX化とGIGAスクール構想がどのように繋がっているかを考える。 | |
| 第23回 | 教育2：Society5.0から生まれたスーパーシティ構想<br>世界の都市が志向するスマートシティ化の実態を学び，その課題が何かの理解を通じて，日本国内のスーパーシティ構想の現実を知る。 | |
| 第24回 | プレゼン演習１：プレゼンテーション技法の基礎を学ぶ<br>プレゼンテーション実習の初回。プレゼンテーションの本質が「贈り物」であることを解説する。合わせてプレゼンを成功に導く法則と技法を説明する。 | |
| 第25回 | プレゼン演習２：プレゼン資料作成の前準備<br>プレゼン実習の狙いを共有した上で，ストーリー，構成要素，表現のポイントを理解し，Googleスライドを使った表現の基礎を学ぶ。 | |
| 第26回 | プレゼン演習３：プレゼンテーション資料の作成<br>履修済み学生が過去に作成した「身近な幸せ」を具体例に，プレゼンのスキルを学ぶ。授業後半では，サーバー上での資料共有による添削なども行う。 | |
| 第27回 | プレゼン演習４：プレゼンテーションの発表（予行演習）<br>予行演習を行う。このときの講評をもとに発表内容を見直し，最終発表のための改良作業を行う。また，発表のルールや評価ポイントの説明を行う。 | |
| 第28回 | プレゼン演習５：プレゼンテーションの発表（前半）<br>2回に分けて発表する。この回は前半の最終発表を行う。発表の際には聞き手はできるだけ発表者との対話を行い，発表を盛り上げる方式とする。 | |
| 第29回 | アート：現代アートとICTの現状を概観する<br>授業前半では，残りの学生による発表を行う。後半では，チームラボや3Dプリンタを取り上げながらコンピュータ・アートの現状を講義する。 | |
| 第30回 | 特別講義：前期の授業を振り返って<br>授業を振り返り，社会，生活，文化にどれほどコンピュータが影響をもたらしてきたかを理解する。最後に，授業評価アンケートを実施する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 使用テキストを読んでいること，テキスト内容に沿った論述ができていること，討論内容が反映されていること，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ●成績評価の方法<br>成績評価は，授業内で行う課題実習を通じて行う。試験や追試は行わない。課題共通の評価項目は，「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし，課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。<br>●理解度計測<br>授業期間中1～2回，Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され，回答ごとにスマホなどにより，リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択数に対する正解の割合）は40%程度のため，繰り返しチャレンジすることで正解に近づくことができる。この理解度測定の成績評価は，繰り返し回答した最後の正解数で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については，回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また，正解した学生による解説を通じてクラス全体で協調的な学びに役立てる。<br>●成績評価の共有と活用<br>クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は，成績モニタ（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個別の成績は，各自のスプレッドシートサイトでPCやスマホで自由に確認することができる。課題レポート作成の中間段階では，学生と個々に共有したScrapboxやスプレッドシートで，講師がリモートによる添削や作成の指導を行う。<br>●授業の評価<br>30回の授業の中間と終盤で，原則として2回，Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は，「興味深い内容か？」「授業は有意義か？」「授業はわかりやすいか？」など10項目から構成され，自由記入の回答もある。これにより，授業の改善に役立てる。 |
| 受講の心得 | 日頃からネット上の情報に加え，図書，映画，音楽など各種の情報やコミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを文章に表現するクセを付けること。 |
| 授業外学修 | 1) 予習として，授業ページに目を通し，次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。<br>2) 復習として，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。<br>3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。 |

| 科目名 | ＩＣＴ概論Ⅱ | | | 授業番号 | LB103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 久保　博尚 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本科目では，コンピュータの原理と進化の過程を概観したうえで，コンピュータがどのように思考と生活の道具として進化し，活用されてきたかについて，具体例に触れながら広い視野で知識を深める。その学習のまとめとして，コンピュータ活用状況を自己評価するとともに，今後の活用拡大に向けた展望を描く。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 演習を通じてコンピュータ社会の実態を知り，コンピュータを道具として活用するための意欲と見通しを得ることを目指す。このことは，デジタルテクノロジーの＜知識・理解＞を深め，＜思考・問題解決能力＞に不可欠な＜技能＞と＜態度＞を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。授業はインターネットを利用したワークショップとして構成されるため，社会と学びの連携を通じた実践教育の場として，カリキュラムポリシーにも沿うものである。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業を受けるにあたり，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCはChromebook以上であれば機種を問わないが，可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代のお金1：そもそもお金とは何か？<br>お金，貨幣，通貨，ビットコインを通観し，お金の不思議さを再認識した上で，初期のお金が誕生するプロセスを解説する。 | |
| 第2回 | 現代のお金2：お金と信用の不思議な関係<br>信用の印となったヤップ島の石貨を題材に，お金が人間的な信用と密接に関係することを学ぶ。後半では石貨と暗号通貨の類似性を解説する。 | |
| 第3回 | 現代のお金3：お金が生まれなかった島<br>お金なしに盛んに物品の交換が行われた事例として，「トロブリアンド諸島のクラ交換」を取り上げる。島民が何を信用したかがこの講義のポイント。 | |
| 第4回 | 現代のお金4：お金と信用の未来を考える<br>トロブリアンド諸島に経済があってもお金がない理由を儀礼の役割を通じて考え，倫理と法がテクノロジーの未来を左右することを学ぶ。 | |
| 第5回 | 実習講座：二進数ってどんなもの？<br>現代のテクノロジーがコンピュータの0と1から成り立つ理解の上で，二進数の仕組みを学ぶ。後半では，スプレッドシートで二進数の演習に取り組む。 | |
| 第6回 | 実習講座：コンピュータとの付き合い方へ^^/<br>0と1で計算，描画，音が表現できることを確認した上で，スプレッドシートにより二進数の計算と十進数への変換を課題とする演習を行う。 | |
| 第7回 | 現代のお金5：さまざまなデジタルなお金を概観する<br>暗号通貨ビットコインの誕生経緯と社会的な位置付けの概説を行う。その上で，中核技術ブロックチェーンの考え方と巧妙なその仕組みを学ぶ。 | |
| 第8回 | 現代のお金6：各種のデジタルなお金の違い<br>具体例を交え，ビットコイン，クレジットカード，電子マネーの役割と仕組みの違いを学ぶ。お金の技術を知る実習としてGDPのグラフ化の課題を行う。 | |
| 第9回 | 現代のお金7：進化するデジタルなお金<br>企業や国家が取り組むデジタル通貨開発の実態と問題点を取り上げる。後半では，実習講座「GDPと平均年収の相関」に取り掛かる。 | |
| 第10回 | 現代のお金8：スマートコントラクトとは何か？<br>ブロックチェーンの応用技術スマートコントラクトの概要を解説する。後半では，実習講座の続編として関数を利用した相関グラフの作成を行う。 | |
| 第11回 | スマート社会1：身近になったスマート家電<br>教室と講師の自宅を繋ぎ，スマート家電の実際を紹介した後，教室で特徴的なIoT家電のいくつかに触れながらスマート家電を実感的に理解する。 | |
| 第12回 | スマート社会2：共通基盤としてのインターネット（1/2）<br>社会の共通基盤となったインターネット誕生の経緯と情報が伝わる仕組みを概説する。合わせてWebページが開く仕組みを比較的詳しく解説する。 | |
| 第13回 | スマート社会3：共通基盤としてのインターネット（2/2）<br>これまでの学習をさらにPOSやRFID，モノやコトのIoTへと視点を広げ，指数的に増加する情報量と，生まれる情報の性質に違いがあることを学ぶ。 | |
| 第14回 | スマート社会4：要素技術「IoT」とは何か？<br>スマート化とは，「人間＋機械」による社会の混沌を解消する取り組みであるべきとの視点から，幸福のためのIoTのあり方を考える。 | |
| 第15回 | スマート社会5：要素技術「ビッグデータ」とは何か？<br>ビッグデータの「ビッグ」とはどのような量か，なぜ，どのようにビッグになったのかを考える。ビッグを体感する具体的な実習によりビッグの特徴を学ぶ。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 理解度計測1：Googleフォームによる後期授業理解度の計測<br>20の質問項目により授業理解度を計測する。回答は自動で集計・分析が行われ，学生が自由に正解状況を確認できるモニタリング環境を提供する。 | |
| 第17回 | 理解度計測2：Googleフォームによる後期授業理解度の計測<br>正解するには授業ページを読み込み，検索・理解・外部情報の調査が必要なことから，比較的高度な検索方法の解説により理解度向上を目指す。 | |
| 第18回 | 「理解度計測1」の結果と回答の解説<br>理解度計測の結果をモニタ上の数値やグラフで学生と共有し，設問ごとの正解の解説を行う。その際に，より理解を深めるための参考書を紹介する。 | |
| 第19回 | 「理解度計測2」の結果と回答の解説（1/3）<br>理解度計測の結果と解説の後半の説明に加えて，設問ごとに，正解した学生が正解を選んだ理由の解説を行い，クラス全体で協調して理解を深める。 | |
| 第20回 | 人工知能1：人工知能の仕組みと現状を知る<br>人工知能の歴史，外界認識の方法，脳の仕組みとの関係についての講義を行う。視覚脳と文字素の関係など，脳科学の知見をわかりやすく取り上げる。 | |
| 第21回 | 人工知能2：人工知能を使ってみる<br>人工知能の実際を理解するため，Google Teachable MachineとChatGPTにより，画像認識，音声認識，行動認識，文章会話を体験する。 | |
| 第22回 | サブスクリプション1：サブスクリプションとは何か？<br>Amazonプライム，衣料品のメチャカリを例に，サブスクリプションの本質が分割払いではなくインターネットによる顧客接点の拡張にあることを学ぶ。 | |
| 第23回 | サブスクリプション2：サブスクを成功に導くテクノロジー<br>サブスクにおける契約の本質理解を通じて，日本式の「お客さまは神さまだ」の意味と問題点を考える。実践的観点からトヨタのKINTOも取り上げる。 | |
| 第24回 | 調査実習：文化度と経済の関係を調べる（1/4）<br>最終課題「文化度と経済の関係調査」に取り掛かる。合わせて，実習のイメージ，情報へのアクセス，CSVデータの扱い方などの講義を行う。 | |
| 第25回 | 調査実習：文化度と経済の関係を調べる（2/4）<br>文化度として国際共助の調査報告書を利用する。その際のデータ処理の方法，有効・無効データ，時間軸・地理軸のデータなどの解説を行う。 | |
| 第26回 | 調査実習：文化度と経済の関係を調べる（3/4）<br>各自のScrapboxにより講師が課題の進捗を確認する。また，レポート執筆の中心概念が「共助・経済・テクノロジー」の三要素であることを説明する。 | |
| 第27回 | 調査実習：文化度と経済の関係を調べる（4/4）<br>ガイダンス資料「数値で考える経済と文化」により，課題レポート執筆の要所を説明する。特に文化面ではハイ・ローコンテクストの重要性を学ぶ。 | |
| 第28回 | インターネット広告1：広告の歴史を概観する<br>テクノロジーで様変わりした広告市場について，特にネット広告の歴史的進化とテクノロジーの影響とその実際についての講義を行う。 | |
| 第29回 | インターネット広告2：広告のテクノロジーと適性と安全性<br>ネット広告の要となるCookieの誕生経緯と現在の状況，ネット広告の品質と適正についての解説のあと，広告の成功例と失敗例を取り上げ違いを探る。 | |
| 第30回 | 後期授業の振り返り<br>後期全体の内容を振り返るとともに，課題全体の成績状況を共有する。最後に，授業評価のための自主アンケートと大学主催アンケートを実施する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ●成績評価の方法<br>成績評価は，授業内で行う課題実習を通じて行う。試験や追試は行わない。課題共通の評価項目は，「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし，課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。<br>●理解度計測<br>授業期間中1～2回，Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され，回答ごとにスマホなどにより，リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択数に対する正解の割合）は40%程度のため，繰り返しチャレンジすることで正解に近づくことができる。この理解度測定の成績評価は，繰り返し回答した最後の正解数で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については，回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また，正解した学生による解説を通じてクラス全体で協調的な学びに役立てる。<br>●成績評価の共有と活用<br>クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は，成績モニタ（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個別の成績は，各自のスプレッドシートサイトでPCやスマホで自由に確認することができる。課題レポート作成の中間段階では，学生と個々に共有したScrapboxやスプレッドシートで，講師がリモートによる添削や作成の指導を行う。<br>●授業の評価<br>30回の授業の中間と終盤で，原則として2回，Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は，「興味深い内容か？」「授業は有意義か？」「授業はわかりやすいか？」など10項目から構成され，自由記入の回答もある。これにより，授業の改善に役立てる。 |
| 受講の心得 | ネット上の情報，図書，映画，音楽など各種の情報コミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを，デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。 |
| 授業外学修 | 1) 予習として，授業ページに目を通し，次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。<br>2) 復習として，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。<br>3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。 |

| 科目名 | 実践英語Ⅰ | | | 授業番号 | LB104 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 【授業概要】<br>In this course, students will continue to review and practice their basic, general English and to develop their English vocabulary and phrases to communicate in English. Students will also continue to develop their English speaking, listening, reading, and writing skills. To achieve this, students will participate in several simple projects in English.<br><br>このコースでは，学生は引き続き基本的で一般的な英語を強化し，英語でコミュニケーションをとることのため伸ばします。学生はまた，おける英語のスピーキング，リスニング，リーディング，ライティングのスキルを高めます。これを達成するために，学生は英語でいくつかの簡単なプロジェクトに参加します。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 【到達目標】<br>1. To know and be able to use basic, general English.<br>基本的な一般英語が使えるようになること。<br><br>2. This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | 授業計画 備考】<br>The course uses prints to review and practice basic English. Students then use that English to create original work. Finally, they present their original work at the end of each project. | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Course Introductions//Self Introductions | |
| 第2回 | Project 1 Let's get started Vocabulary | |
| 第3回 | Project 1 Let's get started | |
| 第4回 | Project 1 Let's get started | |
| 第5回 | Project 2 All about us Vocabulary | |
| 第6回 | Project 2 All about us | |
| 第7回 | Project 2 All about us | |
| 第8回 | Vocabulary Quiz #1 | |
| 第9回 | Project 3 Come to a party! Vocabulary | |
| 第10回 | Project 3 Come to a party! | |
| 第11回 | Project 3 Come to a party! | |
| 第12回 | Project 4 Design a new outfit Vocabulary | |
| 第13回 | Project 4 Design a new outfit | |
| 第14回 | Project 4 Design a new outfit | |
| 第15回 | Vocabulary Quiz #2 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | Project 5 A Class Quiz Vocabulary | |
| 第17回 | Project 5 A Class Quiz | |
| 第18回 | Project 5 A Class Quiz | |
| 第19回 | Project 6 A Famous person Vocabulary | |
| 第20回 | Project 6 A Famous person | |
| 第21回 | Project 6 A Famous person | |
| 第22回 | Vocabulary Quiz #3 | |
| 第23回 | Project 7 The Crazy Olympics Vocabulary | |
| 第24回 | Project 7 The Crazy Olympics | |
| 第25回 | Project 7 The Crazy Olympics | |
| 第26回 | Project 8 My own restaurant Vocabulary | |
| 第27回 | Project 8 My own restaurant | |
| 第28回 | Project 8 My own restaurant | |
| 第29回 | Project 9 Where I live  Vocabulary | |
| 第30回 | Vocabulary Quiz #4 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加) |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | Vocabulary tests (4x10%) |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | Project show and tell (8X5%) |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | The project will be a series of student-guided activities working to complete a project about working in a company. |
| 受講の心得 | This is a practical course. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish projects on time. |
| 授業外学修 | Students should self-study each week using prints from class to review content. |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Students must bring all their study materials (dictionary， textbook， workbook，notebook， worksheets， file， etc.) to every class. |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | Handouts， worksheets， workbook， YouTube videos， PowerPoint files， online resources， project materials， etc. |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 実践英語Ⅱ | | | 授業番号 | LB105 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森年 ポール | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | In this course, students will continue to develop their basic general and business English to communicate in daily life and business contexts, using speaking, listening, reading and writing skills. To achieve this, students will participate in a 15-week business-related project in English.<br><br>学生は引き続き基本的で英語とビジネス英語を強化し，英語でコミュニケーション力毎日とビジネス文脈をとることにとて伸ばします。学生はまた，おける英語のスピーキング，リスニング，リーディング，ライティングのスキルを高めます。これを達成するために，学生は 15 週間のぶビジネス関連のプロジェクトに英語で参加します。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. To know and be able to use basic general and business English.<br>基本的な一般とビジネス英語が使えるようになること。<br><br>2. This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | The course uses prints to review and practice basic and business English. Students then use that English to create original project work. Finally, they present their original project work at the end of the project.<br><br>このコースでは，印刷物を使用して，基本英語とビジネス英語の復習と練習を行います。生徒はその英語を使ってオリジナルのプロジェクト作品を作成します。最後に，学生はプロジェクトの最後にオリジナルのプロジェクト作品を発表します。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Self-introductions; Review of 実践英語 I projects and vocabulary; Course explanation; Why learn English by projects? (Review); Rules for PBL project work | |
| 第2回 | Introduction to the 実践英語II project - The wheelchair-friendly guide<br>Make project teams; Project planning graphic | |
| 第3回 | Guest speaker from the wheelchair community or teacher; Mobility and other Issues in wheelchair access; Parts of a wheelchair; Q&A | |
| 第4回 | Student experience using a wheelchair on campus; Wheelchair experience feedback questionnaire | |
| 第5回 | Wheelchair experience feedback questionnaire results and discussion;<br>Vocabulary - Public buildings and places, Allocate areas of responsibility | |
| 第6回 | Make a business card and an ID card using your student card. Media coverage (Press release) | |
| 第7回 | Prepare a letter of introduction; Grammar - There is (not)... / There are (not)... | |
| 第8回 | Business self-introductions with business cards | |
| 第9回 | Start preparing your wheelchair access research survey | |
| 第10回 | Continue preparing your research survey | |
| 第11回 | Finish preparing your research survey; (Data collection starts.) | |
| 第12回 | Vocabulary - Floor numbers; Parts of a building; Dimensions and measurements | |
| 第13回 | Grammar - Prepositions of location (on, in, next to, between A and B, outside, to the left/right of) | |
| 第14回 | Grammar ? [have], [be] and [do]; Grammar ? If…, then… | |
| 第15回 | Vocabulary and grammar review activities | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | Vocabulary and grammar test | |
| 第17回 | PC/DTP skills | |
| 第18回 | The Process Approach to Writing | |
| 第19回 | Plan the guidebook's contents: Contents, information, photos, translated questions, town map, index, etc.<br>(Data collection ends.) | |
| 第20回 | Make the cover/title page and contents list. | |
| 第21回 | Use the plan to start writing the first draft. | |
| 第22回 | Continue writing the first draft. | |
| 第23回 | Add the photos, maps, etc. | |
| 第24回 | Check your guide's English and make corrections. | |
| 第25回 | Submit draft guidebook to check the English and design | |
| 第26回 | Return draft guidebook and make corrections | |
| 第27回 | Final corrections and improvements | |
| 第28回 | Presentation of the guidebook | |
| 第29回 | Submit wheelchair-friendly guidebook; Project evaluation; Course review; Student questionnaire | |
| 第30回 | Project evaluation results; Feedback on the wheel-chair friendly guidebook | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加) |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | Vocabulary and grammar test (語彙と文法のテスト) |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | Wheelchair-friendly guidebook (車椅子に優しいガイドブック) |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | The project is a set of student-guided， teacher-supported activities to create your own original answer to the project task.<br><br>このプロジェクトは，プロジェクト タスクに対する独自の回答を作成するための，学生がガイドし，教師がサポートするアクティビティのセットです。 |
| 受講の心得 | This is a practical course and students must work collaboratively. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish their projects on time.<br><br>これは実践講座ですと生徒は協力して各プロジェクトを完成させます。学生は，英語の知識と英語のコミュニケーション能力を向上させるために，レッスン中にできるだけ英語を使用する必要があります。また，学生は時間通りにプロジェクトを終了する必要があります。 |
| 授業外学修 | Students should self-study for approximately six hours a week to collect data for the wheelchair-friendly guidebook.<br><br>車いす対応ガイドブックのデータを収集するために，生徒は週に 6時間ぐらい自習する必要があります。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Students must bring all their study materials (project work， dictionary， workbook， notebook， worksheets， file， etc.) to every class.<br><br>生徒はすべての学習教材 (プロジェクトの課題，辞書，ワークブック，ノート，ワークシート，ファイルなど) をすべてのクラスに持参する必要があります。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | Handouts， worksheets， YouTube videos， PowerPoint files， online resources， project materials， etc.<br><br>プリント，ワークシート，YouTube ビデオ，PowerPoint ファイル，オンライン リソース，プロジェクト資料など。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 導入ゼミナールⅠ | | | 授業番号 | LC101 | サブタイトル | (学問の方法) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章、岡本　輝彦、森年　ポール、佐々木　公之、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、梶西　将司、大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 導入ゼミIでは，大学生として最低限必要なアカデミックスキルズを身につける。高校と大学とでは，学生に課される課題が大きく異なる。例えば，多くの学生は，レポートを書いた経験が無いと思われるが，大学の大体の授業ではレポートを書くスキルが求められ，それに伴い資料の収集や，限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも，それらを自主的に進めて行くことが求められる。そのため，本セミナーでは，主にレポート作成の課題をどう進めればよいのか，順序立てて指導していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本セミナーでは，大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学での学修を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ・『アカデミックスキルズ』を基本テキストにして，高校までの学びと大学での研究の違いについて学ぶ。<br>・演習後半ではレポート作成に取り組み，レポートを実際に書くことで論文の書き方について学ぶ。<br>・ビジネスに関する英文を読み暗唱を行う。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本演習の目的や概要の説明 | |
| 第2回 | アカデミックスキルズとは<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第3回 | 講義を聴いてノートを取るアカデミックスキルズとは<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第4回 | 情報収集の基礎－図書館とデーターベースの使い方<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第5回 | 本を読む－クリティカル・リーディングの手法<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第6回 | 情報整理<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第7回 | 研究成果の発表<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第8回 | プレゼンテーションのやり方<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第9回 | 論文・レポートをまとめる<br>ビジネスに関する英文の暗唱 | |
| 第10回 | 書式の手引き<br>ビジネスに関する英文の暗唱コンテスト | |
| 第11回 | レポート課題設定 | |
| 第12回 | レポート作成 | |
| 第13回 | レポート作成 | |
| 第14回 | レポート作成 | |
| 第15回 | レポート発表と提出 | |
| 授業計画　備考2 | ・『アカデミックスキルズ』を輪読し理解を深める。<br>・図書館オリエンテーション，借り出し時間を含む。<br>・レポートの課題を設定する。<br>・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションをする。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 毎回の講義の取組態度を評価する。 |
| レポート | 40 | 課題意識，取組態度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・演習なので全員の積極的参加を求める。<br>・英文の暗唱については授業外でもしっかり時間をかけて取り組むことを求める。<br>・レポートについては自身が一番関心の高いテーマを選び自主的に取り組むことを求める。<br>・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションを求める。 |
| 受講の心得 | 課題は提出期限までに提出し，積極的に各授業に参加すること。 |
| 授業外学修 | 復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・日経新聞を毎日読むこと<br>・英文の経済誌（紙）を読むこと<br>https://www.nikkei.com/<br>https://www.ft.com/<br>https://www.economist.com/<br>https://www.wsj.com/ |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 導入ゼミナールⅡ | | | 授業番号 | LC102 | サブタイトル | （学問の方法） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章、岡本　輝彦、森年　ポール、佐々木　公之、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、梶西　将司、大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 導入ゼミIIでは，導入ゼミIで学んだ知識を基礎として，実践的に資料収集やレポート執筆を行うことで，その際に生じる学生の質問に答えていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合いながら協働的に課題に取り組むことで，学生間の対話の中から一人では気づかなかった観点や，問題への気づきを促す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報収集・情報整理の方法，文献の読み方，レポートの書き方，文献引用のしかた，剽窃防止などについて実践的に学び，大学生として必要なアカデミックスキルズを身につけることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本演習の目的と概要， | |
| 第2回 | ＰＢＬの設定， | |
| 第3回 | ディスカッション | |
| 第4回 | ディスカッション | |
| 第5回 | ディスカッション | |
| 第6回 | 中間発表 | |
| 第7回 | ディスカッション | |
| 第8回 | ディスカッション | |
| 第9回 | ディスカッション | |
| 第10回 | ディスカッション | |
| 第11回 | ＰＢＬ最終発表 | |
| 第12回 | 英語スピーチ練習チェック | |
| 第13回 | 英語スピーチ練習，ブックレビューディスカッション | |
| 第14回 | 英語スピーチ発表 | |
| 第15回 | 課題レポート（ブックレビュー）のプレゼンテーションと提出 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 毎回の講義の取組態度を評価する。 |
| レポート | 40 | 課題意識，取組態度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・演習への積極的参加を評価する。<br>・レポートの内容とプレゼンテーションを評価する。 |
| 受講の心得 | 課題を提出期限までに提出し，積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため，教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。 |
| 授業外学修 | 予習・復習，課題の作成等のために，週当たり４時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・日経新聞を毎日読むこと<br>・経済誌（紙）を毎日読むこと<br>https://www.nikkei.com/<br>https://www.ft.com/<br>https://www.economist.com/<br>https://www.wsj.com/ |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | マクロ経済学入門 | | | 授業番号 | LC103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤原　敦志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | マクロ経済学は経済全体の状態を表した指標であるGDPや物価，賃金，失業率，金利，為替レート，貿易収支などの動きを説明するための総合的な学問だ。経済全体の動きを理解するため，マクロ経済学は経済のモデル（模型）を作り，そのモデルを使っていろいろな実験を行う。例えば，そのモデルにさまざまなショックを与えて，上で述べた指標がどのように動くのかを観察するのだ。例えば中央銀行が金融政策を変更すると，GDPや物価にどんな影響が出るのか，などだ。モデルは調べたい事柄に応じていろいろなタイプのものを作ることができる。例えば，1年後の効果を見たいのか，10年後の効果を見たいのか，国内経済への影響を見たいのか，国際的な影響まで見たいのかなどだ。この授業では，そのようなマクロ経済学のモデルを使って簡単な分析ができるように，初歩的な内容を学んでいく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | マクロ経済学の基本を習得し，世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 毎回，プリントを用意し，そこに書き込む形にする。教員が学生を順番に当てて，質問に答えてもらったり，前に出て問題を解いてもらったりする。また毎回，練習問題を最後に配布し，次回までに解いて提出する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | イントロダクション・世界経済の概観<br>分析対象である世界の主要国のマクロ経済の動きや問題点を概観する。 | |
| 第2回 | 基本用語の説明<br>GDP，失業率，インフレ率という最も重要な３つの指標の求め方を学ぶ。 | |
| 第3回 | 財市場(1)<br>モノやサービスの生産と所得，そして支出はすべてサイクルとして循環していることを学ぶ。 | |
| 第4回 | 財市場(2)<br>政府が公共支出や税金を変化させたときの効果を分析する。また財市場がバランスするとき，貯蓄と投資がバランスすることを学ぶ。 | |
| 第5回 | 金融市場<br>貨幣と債券という２つの代表的な金融資産の特徴を学び，中央銀行が行う金融政策がその市場にどのような影響を与えるかを分析する。 | |
| 第6回 | IS-LMモデル(1)<br>財市場と金融市場を同時に分析するIS-LMモデルの基礎を学ぶ。 | |
| 第7回 | IS-LMモデル(2)<br>IS-LMモデルを用いて，財政金融政策の効果を分析する。また金融市場や金融機関の動きをより細かく考慮した場合，モデルがどのように変わるかを学ぶ。 | |
| 第8回 | 労働市場<br>労働を供給する労働者と，その労働を使ってモノを生産する企業の行動をモデル化する。さらに賃金や価格，失業率がどのように決まるかを知る。 | |
| 第9回 | フィリップス曲線<br>失業率とインフレ率のトレードオフの関係であるフィリップス曲線について学ぶ。そこではインフレ率をどのように予想するかが重要なことを知る。 | |
| 第10回 | 財市場の開放性<br>輸出と輸入を考慮した場合，財市場の分析がどのように複雑化するかを学ぶ。そのとき為替レートという指標が重要な役割を果たすことを知る。 | |
| 第11回 | 金融市場の開放性<br>おカネが国境を自由に移動する資本移動があるとき，金融市場の分析がどのように複雑化するかを学ぶ。また国際収支の見方を学ぶ。 | |
| 第12回 | マンデル＝フレミングモデル(1)<br>IS-LMモデルの開放経済版であるマンデル＝フレミングモデルの基礎を学ぶ。 | |
| 第13回 | マンデル＝フレミングモデル(2)<br>マンデル＝フレミングモデルを用いて，財政金融政策がGDPや金利，為替レートにどのような影響を与えるかを分析する。 | |
| 第14回 | 為替レート制度<br>変動為替レート，固定為替レート，通貨統合などさまざまな為替レート制度の特徴を学ぶ。 | |
| 第15回 | まとめ・世界経済の現状と課題<br>今まで学んだマクロ経済学の知識を用いて，改めて現在の世界経済の現状と課題を知り，どのような解決策がありうるかを考える。 | |
| 授業計画　備考2 | 授業で分からなかったところはメールなどで質問を受け付ける。練習問題の解答は公表する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 教員の問いに対して答える積極性や正確性を見る。 |
| レポート | 30 | 練習問題として毎回の授業の内容の復習への取り組みを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 定期試験は，毎回の練習問題と同じかやや応用力を試す問題にする予定である。 |
| 受講の心得 | 間違えてもいいので，積極的に質問し，自分の中で疑問点をすぐに解消しておくこと。 |
| 授業外学修 | 週３時間くらいの復習が必要である。プリントを見返して練習問題を解く。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しないで，毎回，教員がプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ブランシャール・マクロ経済学　上・下（第２版） | オリビエ・ブランシャール | 東洋経済新報社 | 9784492315286 | 4180 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考書は学部上級生向けのテキストであり購入する必要はない。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ミクロ経済学入門 | | | 授業番号 | LC104 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山中　匡 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 経済の基本的な動きを，需要と供給，価格，均衡，市場競争などをキーワードに講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ミクロ経済学の基本を習得し，世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ミクロ経済学とは何か？ | |
| 第2回 | 個人の選択と効用最大化 | |
| 第3回 | 需要曲線 | |
| 第4回 | 企業行動と利潤最大化 | |
| 第5回 | 供給曲線 | |
| 第6回 | 市場均衡と効率性 | |
| 第7回 | 完全競争市場への政府介入 | |
| 第8回 | 前半部分（第1～7回）のまとめ | |
| 第9回 | 市場の失敗と政府の役割 | |
| 第10回 | 外部性 | |
| 第11回 | 公共財 | |
| 第12回 | 情報の非対称 | |
| 第13回 | ゲーム理論 | |
| 第14回 | 後半部分（第8～13回）のまとめ | |
| 第15回 | ミクロ経済学のまとめ(講義全般の復習) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | グループワークを行い，その貢献度（議論への参加姿勢，報告内容等）を総合的に評価する。 |
| レポート | 20 | 関連のある数回分の講義内容についての理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 講義内容についての最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 関連のある数回の講義内容ごとに，受講生の理解度を評価した上で，定期試験で講義内容全体の理解度について評価します。<br>講義内容の理解を深めるために，5~6名程度のグループワークを時折実施し，その貢献度も成績評価の主要要素として扱います。（グループは，教員がランダムに指定します） |
| 受講の心得 | 新聞，テレビ，インターネット等で報じられている世の中の経済ニュースに関心を持ち，この授業の内容を使って，経済学的視点から分析してみる習慣をつけましょう。 |
| 授業外学修 | 毎週授業前後に2～3時間程度の自主学習（宿題，予習・復習，新聞等での経済ニュースの確認）を行ってください。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 初学者向けには，下記がおススメですが，ミクロ経済学のテキストはたくさんありますので，図書館等で自分に合うテキストを探して，自主学習に活用してください。<br><br>清野一治「シリーズ　新エコノミクス　ミクロ経済学入門」日本評論社　2，200円+税<br>安藤至大「ミクロ経済学の第一歩」有斐閣　2，000円+税 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マーケティング論入門 | | | 授業番号 | LC105 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | マーケティングの定義は時代とともに変遷し，その指す領域や次元は極めて広い。マーケティングの重要性を論理的に説明でき，且つ特定の問題に対してマーケティングの手法を適用できるように，マーケティングの学説のみならず企業で行われているマーケティングの実際を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・マーケティングの重要性を論理的に説明できる。<br>・財やサービスが購入されるまでのプロセスについて論理的に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マーケティングの概念と重要性(1)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第2回 | マーケティングの概念と重要性(2)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第3回 | マーケティングの概念と重要性(3)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第4回 | 製品の分類，製品3層，製品開発と製品設計など(1) | |
| 第5回 | 製品の分類，製品3層，製品開発と製品設計など(2) | |
| 第6回 | プロモーション，コミュニケーション(1)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第7回 | プロモーション，コミュニケーション(2)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第8回 | プロモーション，コミュニケーション(3)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第9回 | 費用，経済性(1)：費用とは，規模の経済，範囲の経済，経験効果，価格設定など | |
| 第10回 | 費用，経済性(2)：費用とは，規模の経済，範囲の経済，経験効果，価格設定など | |
| 第11回 | 流通・チャネル(1)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM (Supply Chain Management)，など | |
| 第12回 | 流通・チャネル(2)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM (Supply Chain Management)，など | |
| 第13回 | 流通・チャネル(3)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM (Supply Chain Management)，など | |
| 第14回 | 関係性マーケティング，サービス・マーケティング(1)：サービスの定義や特徴，CPM(Customer Relationship Management)システム，7つのP，など | |
| 第15回 | 関係性マーケティング，サービス・マーケティング(2)：サービスの定義や特徴，CPM(Customer Relationship Management)システム，7つのP，など | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・廣田章光・石井淳蔵編『１からのマーケティング』中央経済社，2004年。<br>・伊藤宗彦編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。<br>・ (公社)日本マーケティング協会 (監修)『ベーシック・マーケティング(第2版)』同文舘出版，2019年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営学入門 | | | 授業番号 | LC106 | サブタイトル | 経営学の基礎を学ぶ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 経営に必要な諸資源は，ヒト，モノ，カネ，情報，であると言われるように，これらの諸資源をどう活用するかが成功の鍵となる。本講義では，この点の基礎を学びつつ，企業がいかなる問題に直面してきたかを，またそれに向けてどう取り組んできたかを学ぶ。また，基礎的な知識の修得のみならず多面的に捉えることの重要性やその醍醐味を理解することができる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・諸資源の活用について，その重要性を論理的・学術的に説明できる。<br>・企業組織の仕組みや直面している課題について，その概要を的確に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(1) | |
| 第2回 | 法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(2) | |
| 第3回 | 財務諸表・財務管理(1)：損益計算書と貸借対照表の基本 | |
| 第4回 | 財務諸表・財務管理(2)：損益計算書と貸借対照表の基本 | |
| 第5回 | 科学的管理，大量生産，生産管理(1) | |
| 第6回 | 科学的管理，大量生産，生産管理(2) | |
| 第7回 | 組織(1)：近代組織論，組織の形態 | |
| 第8回 | 組織(2)：近代組織論，組織の形態 | |
| 第9回 | 人事労務管理・人的資源管理(1) | |
| 第10回 | 人事労務管理・人的資源管理(2) | |
| 第11回 | マーケティング(1) | |
| 第12回 | マーケティング(2) | |
| 第13回 | 情報管理・経営情報(1) | |
| 第14回 | 情報管理・経営情報(2) | |
| 第15回 | 企業の社会的責任とSDGs(Sustainable Development Goals) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。<br>・「よくわかる現代経営」編集委員会，編 『よくわかる現代経営[第6版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』ミネルヴァ書房，2021年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 会計学入門 | | | 授業番号 | LC107 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸保　宏 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 会計初学者向け。会計の基本的なフレームワークの理解を目的とする。テキストは基本的理解を目的とし，プログラム学習ができる書き込み式になっている。理論や要点は板書し，補足・解説をしていく形で授業を展開する。何度も繰り返し，知識を血肉化してほしい。なお，重複する学習事項もあるが，前期開講の「簿記入門」を受講すると，本講座の理解は深まると思われる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 会計の基本的なフレームワークの理解であり，簿記検定などの資格試験向けの講義ではない。あくまで大学の講義であるので，論理的な思考能力の養成を目標に取り組んでいきたい。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | イントロダクション<br>講義の進め方と狙い，評価方法。会計とは何か，会計の意義について，学ぶ。 | |
| 第2回 | 基本的な仕組み（１）<br>会計公準，会計原則について学ぶ。 | |
| 第3回 | 基本的な仕組み（２）<br>貸借対照表，損益計算書について，基礎と内容，その2つの関係などを学ぶ。 | |
| 第4回 | 一般的な記録ルール（１）<br>勘定，貸借対照表・損益計算書の項目の記録のルール，仕訳，転記，財務諸表の作成について，学ぶ。 | |
| 第5回 | 一般的な記録ルール（２）<br>資産・負債・純資産・費用・収益の性質などを学ぶ。 | |
| 第6回 | 個別的な記録ルール（１）<br>商品，商品の勘定記録，期末処理について，学ぶ。 | |
| 第7回 | 個別的な記録ルール（２）<br>棚卸資産の評価方法と理論について，学ぶ。 | |
| 第8回 | 個別的な記録ルール（３）<br>現金，預金，有価証券，売掛金，買掛金，その他の債権，債務を学ぶ。 | |
| 第9回 | 個別的な記録ルール（４）<br>手形と不良債権について，学ぶ。 | |
| 第10回 | 個別的な記録ルール（５）<br>減価償却について。定額法，定率法の違いなどを学ぶ。 | |
| 第11回 | ゲストスピーカー講義<br>実務家の特別講義を予定している。 | |
| 第12回 | 決算の集計ルール<br>決算について。期末の特別な処理について，学ぶ。 | |
| 第13回 | 財務諸表の見方<br>財務諸表分析。収益性と安全性について，学ぶ。 | |
| 第14回 | 総合演習（１）<br>5つの利益，これまでの学習事項を確認しつつ，財務諸表から整理する。 | |
| 第15回 | 総合演習（２）<br>損益分岐点分析を学び，会計が表すメッセージを考える。 | |
| 授業計画　備考2 | 2022年の同講座では，会社経営者をゲストスピーカーに呼び，特別講義（昨年のテーマは販売戦略と会計）を実施した。<br>今年度の講義にも授業進度を鑑み，会計に関する講師招聘はする予定である。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 出席，授業態度を評価する。 |
| レポート | 60 | 自ら問題意識を持ち，仮説検証の思考と整理の努力を見たい |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポートを課す。自分の力で問題を解決していくことを訓練する機会として位置付けている。 |
| 受講の心得 | 大人として当然の授業姿勢を求める。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 友岡賛・福島千幸「アカウンティング・エッセンシャルズ」有斐閣 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。レポートは感想文とは違うので，その作法を学ぶものとして，河野哲也著「レポート・論文の書き方入門 第4版」慶應義塾大学出版会を薦めておく。 |
| その他 | 電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。<br>スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。<br>マーカーをたくさん使うので，何色かご用意すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 会計事務所，会社経営，大学，専門学校，商工会議所，自治体講座など講師経験あり |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | できるだけ手で書いて，理解するように講義展開をする。必要なことは何度も言うようにしていきたいと思っています。また実務での会計・経理についてのこともお伝えしたい。 |

| 科目名 | 簿記入門 | | | 授業番号 | LC108 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 栢野　勝己 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 簿記は，企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには，簿記の体系的な修得が重要である。また，簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので，簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では，小規模な会社を取り上げて仕訳を中心に学び，重要な項目については決算処理の方法についても簡単に学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 簿記の流れを体系的に修得し，小規模株式会社で日々発生する取引の内容を理解することにより，日商簿記検定初級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 簿記の基礎<br>簿記の基本ルールを理解する。 | |
| 第2回 | 商品売買（１）仕入と売上<br>商品の仕入と売上に係る仕訳を理解する。 | |
| 第3回 | 商品売買（２）返品・諸掛り<br>商品の返品，仕入諸掛り・売上諸掛りに係る仕訳を理解する。 | |
| 第4回 | 現金・預金<br>現金と預金に係る仕訳を理解する。 | |
| 第5回 | 手形と電子記録債権（債務）<br>手形と電子記録債権（債務）の仕組みと仕訳を理解する。 | |
| 第6回 | 貸付金・借入金<br>お金の貸し借りに係る仕訳を理解する。 | |
| 第7回 | 小テストと解説 | |
| 第8回 | その他の取引（１）<br>第６回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。 | |
| 第9回 | その他の取引（２）<br>第６回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。 | |
| 第10回 | 固定資産<br>固定資産に係る仕訳を理解する。 | |
| 第11回 | 租税公課と消費税・資本金<br>租税公課と消費税・資本金に係る仕訳を理解する。 | |
| 第12回 | 試算表（１）試算表の基礎<br>試算表の種類と役割を理解する。 | |
| 第13回 | 試算表（２）試算表の作成<br>試算表の仕組みを理解し，試算表を作成する。 | |
| 第14回 | 試算表（３）試算表の応用<br>日商簿記検定初級で出題される試算表の解き方を理解する。 | |
| 第15回 | 伝票と仕訳日計表<br>伝票と仕訳日計表の役割と処理方法を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 定期試験では電卓を使用するが，携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。<br>2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため，事後学習は必須である。<br>※電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）<br>※スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。<br>2. 復習として，講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。<br>3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定を受験し資格取得を図ること。<br>以上の内容を予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| スッキリわかる日商簿記初級 第３版 | 滝澤ななみ TAC出版開発グループ | TAC出版 | 978-4-8132-8736-0 | 1，000円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 国税職員，税理士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務での会計・税務知識を活かした講義を展開し，日々の暮らしの中で簿記の知識を活用した経済活動ができるよう，簿記の基礎的知識を修得させる。 |

| 科目名 | 観光総論 | | | 授業番号 | LC109 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大石　貴之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現在，日本における観光の重要性が高まっている。日本政府は，観光政策，特にインバウンド観光を重視し，多くの外国人観光客が訪れている。また，地方の少子高齢化に伴って，観光産業を活用した地域活性化の取り組みが，様々な地域で実践されている。こうした状況を踏まえ，本授業では，観光に関する諸現象を包括的に理解するために，観光の歴史や観光産業の現状，政府や地域の取り組みなど観光学に関する基礎的な内容について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 観光に関する包括的な知識を理解し，それを社会の動向に関連付けて考察することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 観光の基礎（1）：観光とは何か<br>観光の定義や概念について整理し，観光に関する考え方を理解する。 | |
| 第2回 | 観光の基礎（2）：観光の歴史<br>世界や日本における観光の起源や歴史，特に第２次世界大戦以降の観光の変化を理解する。 | |
| 第3回 | 観光の基礎（3）：観光行動と旅行者<br>観光の消費者である旅行者の行動や，動機について理解する。 | |
| 第4回 | 観光の基礎（4）：観光産業と統計<br>観光の生産者である観光産業の概要を把握し，統計を通じて観光の経済的側面を理解する。 | |
| 第5回 | 観光産業の現状（1）：旅行産業<br>主要な観光産業である旅行産業の概要や現在の状況について理解する。 | |
| 第6回 | 観光産業の現状（2）：宿泊産業<br>宿泊産業の意義や変化，特徴的な宿泊産業の事例について理解する。 | |
| 第7回 | 観光産業の現状（3）：交通産業<br>交通産業の中でも鉄道産業や航空産業の特徴や経営上の工夫について理解する。 | |
| 第8回 | 観光産業の現状（4）：博物館とテーマパーク<br>博物館やテーマパークの現状について，具体的な事例を通じて理解する。 | |
| 第9回 | 観光産業の現状（5）：観光経営と観光商品<br>観光経営の全般的な特徴を整理し，遺産の商品化について考える。 | |
| 第10回 | 日本の観光政策（1）：観光立国と国際観光<br>日本政府が実施する観光政策について，特に国際観光の視点から理解する。 | |
| 第11回 | 日本の観光施策（2）：地域観光とまちづくり<br>日本や地方地自体が実施する観光政策について，まちづくりという観点から理解する。 | |
| 第12回 | 観光地の現状と課題（1）：マスツーリズム時代の観光地-温泉とスキー-<br>かつては盛んであった温泉やスキーの変化を理解し，これらの観光地における課題を考える。 | |
| 第13回 | 観光地の現状と課題（2）：持続可能な観光-エコツーリズムと歴史的町並み観光-<br>持続可能な観光の概念を理解し，エコツーリズムや歴史的町並み観光の意義について考える。 | |
| 第14回 | 観光地の現状と課題（3）：ニューツーリズムの台頭-コンテンツツーリズムとフードツーリズム-<br>現代に特徴的な観光として，コンテンツツーリズムやフードツーリズムの現状や課題を考える。 | |
| 第15回 | 観光の展望：今後の観光はどうあるべきか<br>講義のまとめとして，日本における観光の現状を整理し，観光の将来について考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 40 | 授業で取り上げた内容について，その背景と実社会との関連について具体的に考察していること。課題については次回の授業において講評する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 各回の授業の内容に関する理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | ・事前学修：授業の最後に提示する，次回授業のキーワードについて調べておくこと（なお，第1回の事前学習については「観光」の定義について調べておくこと）。<br>・事後学修：授業で配付するプリントを読み返すとともに，授業で紹介する参考文献を読んで発展的な学修をしておくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回の授業でプリントを配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | その他の参考書については，授業中に適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 観光実務 | | | 授業番号 | LC110 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大石　貴之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現在，日本において観光産業が重視されている。日本における観光産業は，旅行産業と共に発展してきたが，現在では国の政策や地域産業において観光が重視されたことに伴い，直接観光に関わらない産業においても，観光に関する知識の理解が必要とされている。こうした状況を踏まえ，本授業では，観光に関する実務的な知識として，旅行業に関する法律と約款，日本を中心とする世界遺産を取り上げ，これらの基礎的な内容について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 旅行業の法律と約款，日本を中心とする世界遺産に関する知識について理解し，実社会に役立てることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 観光産業と実務<br>観光産業における「旅行業務取扱管理者試験」や「世界遺産検定」の意義について理解する。 | |
| 第2回 | 旅行業法（1）：旅行業者になるためには<br>旅行業法のうち，目的，登録，営業保証金に関する内容を理解する。 | |
| 第3回 | 旅行業法（2）：旅行業者が準備すべきこと<br>旅行業法のうち，旅行業務取扱管理者，外務員，取扱料金・旅行業約款・標識に関する内容を理解する。 | |
| 第4回 | 旅行業法（3）：旅行者との取引と旅行の実施<br>旅行業法のうち，広告，取引条件の説明と契約書面の交付，旅程管理に関する内容を理解する。 | |
| 第5回 | 旅行業法（4）：旅行業者の周辺，禁止行為と行政処分<br>旅行業法のうち，旅行業者代理業，旅行サービス手配業，禁止行為と行政処分に関する内容を理解する。 | |
| 第6回 | 旅行業法（5）：旅行業協会<br>旅行業法のうち，旅行業協会に関する内容，特に弁済業務保証金制度について理解する。 | |
| 第7回 | 標準旅行業約款（1）：定義，契約の締結と変更<br>標準旅行業約款のうち，定義，契約の締結，契約の変更に関する内容を理解する。 | |
| 第8回 | 標準旅行業約款（2）：契約の解除ほか<br>標準旅行業約款のうち，契約の解除，団体・グループ契約，旅程管理に関する内容を理解する。 | |
| 第9回 | 標準旅行業約款（3）：旅行業者の責任<br>標準旅行業約款のうち，旅行業者の責任，特別補償規定に関する内容を理解する。 | |
| 第10回 | 世界遺産の基本<br>世界遺産の概念や成立の経緯，世界遺産に関する概念や課題について理解する。 | |
| 第11回 | 日本の世界遺産（1）：社寺に関する文化遺産<br>日本の世界遺産のうち，法隆寺地域の仏教建造物群，日光の社寺などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。 | |
| 第12回 | 日本の世界遺産（2）：歴史的建造物と信仰に関する文化遺産<br>日本の世界遺産のうち，姫路城，紀伊山地の霊場と参詣道などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。 | |
| 第13回 | 日本の世界遺産（3）：古代遺跡と地域の特色に関する文化遺産<br>日本の世界遺産のうち，百舌鳥・古市古墳群，白川郷・五箇山の合掌造り集落などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。 | |
| 第14回 | 日本の世界遺産（4）：産業と近代に関する文化遺産<br>日本の世界遺産のうち，富岡製糸場と絹産業遺産群，広島平和記念碑などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。 | |
| 第15回 | 日本の世界遺産（5）：自然遺産<br>日本の世界遺産のうち，小笠原諸島，屋久島などの自然遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 40 | 授業で取り上げた内容について考察していること。課題については次回の授業において講評する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 各回の授業の内容に関する理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | ・事前学修：授業の最後に提示する，次回授業の内容について調べておくこと（なお，第1回の事前学修については「観光産業に必要な知識や技能」について調べておくこと）。<br>・事後学修：授業で配付するプリントを読み返すとともに，授業で紹介する発展的な学修に取り組むこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回の授業でプリントを配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | その他の参考書については，授業中に適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 農業経済入門 | | | 授業番号 | LC111 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 農業経済学は，農業が抱えている経済的側面について，様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定，農業，農産物を通じた一般消費者の生活の向上，農産物，食品の流通，貿易を通じた国際問題についても研究するものである。<br>この講義では，その入門編として，日本の食料，農業の動向について経済学に理解することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本の農業生産，農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に，その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 日本農業の歩み（１） | |
| 第2回 | 日本農業の歩み（２） | |
| 第3回 | 経済成長と農業（１） | |
| 第4回 | 経済成長と農業（２） | |
| 第5回 | 日本の農業生産の動向（１） | |
| 第6回 | 日本の農業生産の動向（２） | |
| 第7回 | 日本の農業問題 | |
| 第8回 | 日本の食料消費の動向（１） | |
| 第9回 | 日本の食料消費の動向（２） | |
| 第10回 | 食料自給率 | |
| 第11回 | 日本の農産物流通 | |
| 第12回 | 農産物流通の新しい動き | |
| 第13回 | 農業，農村の有する多面的機能 | |
| 第14回 | 自然災害と農業，農村の復旧 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。 |
| レポート | 30 | 中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず，農業・食料問題についても，食生活，環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。 |
| 授業外学修 | 復習，文献，インターネット等での情報収集を行う。<br>以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 農業経済学 | | | 授業番号 | LC112 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 農業経済学は，農業が抱えている経済的側面について，様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定，農業，農産物を通じた一般消費者の生活の向上，農産物，食品の流通，貿易を通じた国際問題についても研究するものである。<br>この講義では，農業，農産物に対する現実の問題を経済学に理解することを目的とする。前半では，農産物の需要と供給，価格についての経済学的基礎を理解する。後半では，日本の農業，食料の持つ諸問題について経済の動きとの関連から理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本の農業生産，農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に，その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 世界の食料需給と食料問題 | |
| 第2回 | 日本の食料問題 | |
| 第3回 | 食料消費の動向 | |
| 第4回 | 食品産業の動向 | |
| 第5回 | 日本の農産物流通 | |
| 第6回 | 日本の農業問題（１） | |
| 第7回 | 日本の農業問題（２） | |
| 第8回 | 日本の農業生産の動向 | |
| 第9回 | 農業，農村の有する多面的機能 | |
| 第10回 | 農産物の需要と需要曲線 | |
| 第11回 | 農産物の需要と弾力性（１） | |
| 第12回 | 農産物の需要と弾力性（２） | |
| 第13回 | 農業における生産と費用 | |
| 第14回 | 農産物の供給曲線 | |
| 第15回 | 市場，競争と価格決定 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。 |
| レポート | 30 | 中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料･データだけに留まらず，農業･食料問題についても，食生活，環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。 |
| 授業外学修 | 復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。<br>以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | プレゼンテーション技法 | | | 授業番号 | LC113 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶西　将司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学での授業，進学，就職先でもさまざまプレゼンテーションの機会がある。自分の意志，研究結果などを表現でも，プレゼンテーション能力を必要不可欠となっている。授業では，プレゼンテーションでの表現方法や図の作り方，効果的伝達方法などを学ぶ。また，調査・研究・企画などを通じてのプロジェクトマネジメントについても学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人前で発表すること，伝え方について理解を深める。プレゼンテーション使用されるツールのマスターする。「プレゼンテーションの構成・コンテンツ制作」ができるようにする。最終的に，各人が研究テーマに即した最終発表に結実させる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | プレゼンとは何か<br>プレゼンテーションの必要性や活用方法などについて理解を深める | |
| 第2回 | プレゼンの構成<br>プレゼンテーションを行う際の流れや構成を理解できる | |
| 第3回 | 効果的なプレゼンテーションとは<br>プレゼンテーションの内容を効果的かつ印象的に伝える方法や考え方が理解できる | |
| 第4回 | プレゼンテーションと画像等<br>プレゼン資料への画像の取り込みや使用する画像の留意点について理解できる | |
| 第5回 | プレゼンテーションと表・グラフ<br>表やグラフを使用した効果的なプレゼン資料を作成できる | |
| 第6回 | ケーススタディ実施（画像とグラフ）<br>画像とグラフを用いたケーススタディが理解できる | |
| 第7回 | アニメーション等の効果について<br>プレゼン資料におけるアニメーションなど視覚的な効果について注意点を理解し，作成できる | |
| 第8回 | 言語の表現方法<br>言語の表現方法について理解を深め，実際のプレゼン資料作成に活用できる | |
| 第9回 | 非言語の表現方法<br>非言語の表現方法について理解を深め，実際のプレゼン資料作成に活用できる | |
| 第10回 | プロジェクト研究とテーマ設定<br>テーマを設定し，適切な構成や流れを考えることができる | |
| 第11回 | プロジェクト演習(1)<br>テーマに応じたプレゼン資料を作成できる | |
| 第12回 | プロジェクト演習(2)<br>テーマに応じたプレゼン資料を作成できる | |
| 第13回 | プロジェクト演習(3)<br>テーマに応じたプレゼン資料を作成できる | |
| 第14回 | 最終発表演習(1)<br>作成したプレゼン資料をもとにテーマに則した発表ができる | |
| 第15回 | 最終発表演習(2)<br>作成したプレゼン資料をもとにテーマに則した発表ができる | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 毎回の講義の取組態度を評価する。 |
| レポート | 20 | レポート・提出物。レポートについてはコメントを返却する |
| 小テスト | 50 | プレゼン発表(2回程度予定) |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実際にパワーポイントソフトが使いこなせ，作業できるように指導を行う。パワーポイントの制作だけでなく，発表方法・姿勢など表現の指導にも注力する。 |
| 授業外学修 | 復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語資格演習Ⅰ | | | 授業番号 | LC114 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | TOEIC（R）L&Rでの得点を伸ばすことを目指す。そのために，リスニングパートでの理解力，リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力，文法力を鍛える。<br>主教材である「Welcome to the TOEIC(R) L&R Test」では，付属している音声を使いながら，各パートの問題形式に慣れると同時に，語彙，文法を確認し，次回の授業で小テストにより復習する。<br>副教材の「コロコロイングリッシュ」（予定）は，主として自学自習のために用いるもので，単語・連語等を各自が学修し，その進捗状況を教師が確認する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各個人の得点を伸ばすことを目標とし，授業開始時より50点の上昇を目指す。ただし，評定（A～F）は，下記のとおり絶対評価とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション：TOEIC L&Rテストの問題構成とサンプル問題演習 | |
| 第2回 | Unit １：動詞と時制（１） | |
| 第3回 | Unit ２：動詞と時制（２） | |
| 第4回 | Unit ３：動詞と時制（３）・品詞 | |
| 第5回 | Unit ４：仮定法 | |
| 第6回 | Unit ５：準動詞（１） | |
| 第7回 | Unit ６：準動詞（２） | |
| 第8回 | Unit ７：準動詞（３） | |
| 第9回 | Unit ８：準動詞（４） | |
| 第10回 | Unit ９：形容詞・副詞と比較 | |
| 第11回 | Unit 10：不定代名詞 | |
| 第12回 | Unit 11：関係詞（１） | |
| 第13回 | Unit 12：関係詞（２） | |
| 第14回 | 模擬試験（１） | |
| 第15回 | 模擬試験（２） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 予習と授業への取組態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 前時の内容（語彙）に関する小テスト結果及び授業での模擬試験の結果を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 自主学習の取組状況を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 以下の【授業外学修】にあるとおり，予習，復習，副教材「ココロイングリッシュ」（予定）を中心として，授業外でも語彙力を高めることが重要である。 |
| 授業外学修 | ○予習・復習は，<br>１　毎回実施する語彙テスト：授業中に学んだ教科書の「Warm-up & Vocabulary Building」と「Vocabulary Building」にある選択肢の単語，および毎回授業終了時に配られる単語・熟語プリントにある追加語彙を覚える（小テストがある）。<br>２　次の授業のWarm-up & Vocabulary Building とVocabulary Buildingの音声を聞き，空欄に語句を入れる。選択肢の語句の意味を辞書で調べる。なお，これらの部分以外（問題）の予習は禁止。授業では自力で解答する練習をする。<br>３　副教材を各自のペースで最大限進める（「マイル」（進捗状況）を授業で報告する）。<br>以上の学習に，１週当たり４時間以上を費やすこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 公式TOEIC Listening & Reading問題集（１）～（7），国際ビジネスコミュニケーション協会 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公開会場責任者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語資格演習Ⅱ | | | 授業番号 | LC115 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | TOEIC（R）L&Rの問題演習を通し，英語の４技能の力を伸ばすことを目指す。その過程で，リスニングパートでの理解力，リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力，文法力を鍛える。<br>教材に付属している音声を使いながら，各パートの問題形式に慣れると同時に，語彙，文法を確認し，次回の授業で小テストにより復習する。<br>副教材の「ココロイングリッシュ」（予定）は，主として自学自習のために用いるもので，単語・連語等を各自が学修し，その進捗状況を教師が確認する。<br>なお，「TOEIC(R)」は米国Educational Testing Service(ETS)の登録商標です。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各個人の英語の４技能（読み，聞く，書く，話す）の力を伸ばすことを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Listening：Part１　写真描写問題１(人物が写っている写真) / Reading：Part５　短文穴埋め問題１；品詞 | |
| 第2回 | Listening：Part１　写真描写問題２(人物が写っていない写真) / Reading：Part５　短文穴埋め問題２；動詞の形 (能動態・受動態) | |
| 第3回 | Listening：Part２　応答問題１(疑問詞疑問文) / Reading：Part５　短文穴埋め問題３；動詞の形（時制・その他） | |
| 第4回 | Listening：Part２　応答問題２(Yes/No疑問文・その他の疑問文) / Reading：Part５　短文穴埋め問題４；前置詞・接続詞 | |
| 第5回 | Listening：Part２　応答問題３(平叙文・意外な応答) / Reading：Part５　短文穴埋め問題５；代名詞・関係代名詞 | |
| 第6回 | Listening：Part２　応答問題４(機能別疑問文) / Reading：Part６　長文穴埋め問題 | |
| 第7回 | Listening：Part３　会話問題１(次の行動) / Reading：Part７　読解問題１；広告・チャット | |
| 第8回 | Listening：Part３　会話問題２(問題点・提案・申し出) / Reading：Part７　読解問題２；Eメール・手紙 | |
| 第9回 | Listening：Part３　会話問題３(目的・依頼・意図) / Reading：Part７　読解問題３；告知・社内回覧　/ 中間テスト | |
| 第10回 | Listening：Part４　説明文問題１(録音メッセージ・アナウンス) / Reading：Part７　読解問題４；記事 | |
| 第11回 | Listening：Part４　説明文問題２(トーク・会議・ニュース) / Reading：Part７　読解問題５；ダブルパッセージ | |
| 第12回 | Listening：Part４　説明文問題３(グラフィック（図表）問題) / Reading：Part７　読解問題６；トリプルパッセージ | |
| 第13回 | Listening：Part４　説明文問題４(Review (Parts 1 & 3)) / Reading：Part７　読解問題７；Review (Parts 5 & 6) | |
| 第14回 | Listening：Part４　説明文問題５(Review (Parts 2 & 4)) / Reading：Part７　読解問題８；Review (Part 7) | |
| 第15回 | 講義のまとめ / 期末テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| TOEICR(R) L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500 | 西谷敦子 /伊藤恵一 /大橋香苗 /夜久容子 /佐藤世津子 /佐野真歩 /淺田えり佳 /増田将伸 /James G.Wong | 朝日出版社 | 978-4-255-15636-1 | 1980 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 日本の伝統文化 | | | 授業番号 | LC116 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 後藤　智絵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日本の伝統文化の中でも主に文化財に焦点を当て，個々の文化財の詳細について講義する。<br>そして，実際に文化財に触れ，見学をし，伝統文化を支えている技法に挑戦することを通して，伝統文化を体験する。<br>さらに，日本の伝統文化にまつわる学術的視点をふまえつつ，それぞれの体験をもとにして考察した内容を発表する。同時に，様々な発表内容を共有する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1　日本の伝統文化の様相を知り，その多様さについて理解できるようになる。<br>2　個々の文化財に対する関心を高め，主体的に情報を収集整理し，経験をふまえて考察ができるようになる。<br>3　日本の伝統文化の一端について，説明ができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 国家と伝統文化<br>文化財保護法の変遷と文化財の体系を理解する。 | |
| 第2回 | 有形文化財（美術工芸）<br>文化財の種類と指定基準を理解する。 | |
| 第3回 | 無形文化財<br>岡山の無形文化財を具体例に，伝統文化の継承方法の一端を理解する。 | |
| 第4回 | やきものの歴史（1）<br>縄文時代から古墳時代までの造形を確認し，現代においていかに表象されているかを理解する。 | |
| 第5回 | やきものの歴史（2）<br>瓦を具体例に，焼成技術の向上がもたらした社会の変容と家紋について考察する。 | |
| 第6回 | やきもの制作（1）<br>やきものを制作するにあたって，制作のための道具を作る。<br>まとめ結びを習得し，伝統技法の機能性を体感する。 | |
| 第7回 | やきもの制作（2）<br>瓦当を制作する。<br>粘土に直接触れることで，素材の扱い方を体感する。 | |
| 第8回 | 博物館<br>博物館の制度と役割を理解し，近隣の博物館情報を整理する。 | |
| 第9回 | 有形文化財（建造物）<br>岡山県内の国宝建造物を具体例に，先行研究にアプローチする視点を養う。 | |
| 第10回 | モダニズム建築<br>日本のモダニズム建築を牽引した建築家の「伝統」に対する視点について考察する。 | |
| 第11回 | 伝統的建造物群<br>倉敷市を具体例に，民藝運動と照合しつつ，伝統文化の創造性について考察する。 | |
| 第12回 | 文化財の保存技術<br>文化財の修復現場を具体例に保存技術の多様さを理解し，同時に技術の継承をめぐる現状を理解する。 | |
| 第13回 | 課題発表<br>国指定文化財の中から関心のある文化財を選択し，先行研究の成果をふまえた上で現地調査を行い，その報告を行う。 | |
| 第14回 | 課題発表<br>それぞれが報告する文化財の情報を共有する。 | |
| 第15回 | 日本遺産<br>「日本遺産」を具体例に，国家プロジェクトとしての文化財保護の機能性について考察する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，講義後のコメントシートへの記入内容，課題制作への取り組み方によって評価する。 |
| レポート | 30 | 3つのレポート課題において，学習内容の要点を理解し，整理して記述できているかを評価する。レポートはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 課題発表にて最終的な理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義内容の理解と同時に，授業外学修も重要視している。<br>学外においても，伝統文化を探究するために実際に行動を起こす積極性が必要である。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内で指示する文献を読んでおく。<br>2 復習として，課題のレポートを書く。<br>3 課題発表の準備として，相応の施設等を訪問して情報収集し，発表要点をまとめる。<br>以上の内容を，平均して週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会学で読み解く文化遺産 | 木村至聖・森久聡　編 | 新曜社 | 978-4-7885-1687-8 | 2800円+税 |
| 日本の伝統＆絶景100 | 朝日新聞出版編集 | 朝日新聞出版 | 978-4-02-333914-9 | 1400円+税 |
| 岡山の文化財 | 臼井洋輔 | 吉備人出版 | 4-86069-063-X | 2800円+税 |
| 工芸とナショナリズムの近代 | 木田拓也 | 吉川弘文館 | 978-4-642-03835 | 4800円+税 |
| 日本伝統工芸　鑑賞の手引き | 公益社団法人　日本工芸会　編 | 芸艸堂 | 978-4-7538-0187-9 | 2200円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義時に使用する際は，その都度指示をする。<br>授業外学修として読み進めておくことを推奨する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校美術科講師，公民館・企業等によるやきもの講座講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | やきもの制作 |

| 科目名 | 日本の食文化 | | | 授業番号 | LC117 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「和食：日本人の伝統的な食文化」は，2013年にユネスコの無形文化遺産に登録された。<br>私たちは，どれだけ和食のことを知り，どれだけ人々に説明できるでしょうか。<br>和食に携わる業界人だけでなく各々が，伝統文化そして和食文化に興味関心を抱き，得た知識がコミュニケーションの一つとして活用できるよう取り組んでほしい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)我が国固有の食（和食）について理解を深める。<br>(2)また個々の状況に応じた食生活の有り様を多角的に捉え考えられる能力を身につけ，これからの自分の食生活を見直すことが出来る。<br>(3)和食の基本的な事実や歴史を学習することは，異文化交流のシーズとなるはずで，学びの成果を将来あらゆる場面で役立てられる。<br>　なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 和食文化とは | |
| 第2回 | 地域の食材と郷土料理 | |
| 第3回 | 行事と和食 | |
| 第4回 | 和食文化を生み出す食材と料理米・魚 | |
| 第5回 | 和食文化を生み出す食材と料理野菜・薬味・肉 | |
| 第6回 | 和食の味わいを生み出す要素水・旨味・調味料 | |
| 第7回 | 和食の味わいを生み出す要素日本酒・日本茶・和菓子・器 | |
| 第8回 | 和食と料理 | |
| 第9回 | 日常の食事 | |
| 第10回 | プロの料理と家庭料理 | |
| 第11回 | 和食のおもてなし | |
| 第12回 | 海外の食事・多国籍料理 | |
| 第13回 | 正月料理 | |
| 第14回 | 正月料理 | |
| 第15回 | 日常の献立 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 出席ならびに受講態度によって評価を行う。 |
| レポート | 30 | 授業に関連した課題について，その情報の正確性と記述内容を評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業内で複数回行う小テストによって評価を行う。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・講義科目でもあるが，一部演習作業も交え理解を深める。<br>・受講には興味をもって臨むこと。<br>・講義の事前事後学習とも，紹介文献等に目を通し知識の定着化，階層化を図ること。 |
| 授業外学修 | 1回の講義当たり，講義内容の整理や復習，興味を持てた部分をさらに自分自身で調べるなどの作業に少なくとも1時間程度をかけて，内容の理解や定着を図ること。授業で紹介する文献等について次回授業までに目を通すことも勧める。また，講義内容を理解するためにも自分自身の食事に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活の中に活かそうとする態度をもちつつ学びを生活に役立てられる学修を行うこと。<br>以上の内容を週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国際関係論 | | | 授業番号 | LC118 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井上 あえか | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 国際関係論は，突き詰めれば，なぜ 戦争が起こるのかを究明し，どうしたら平和を実現し維持することができるかを追究する学問である。この授業では， 日本を取り巻く世界情勢を中心として，緊迫する状況やその地理的・歴史的背景を地図や資料を使って考え，グローバル化する国際社会のゆくえと，日本が直面する諸課題を考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 過去の戦争と平和に関する国際関係の現実と理論を結びつけ， 複雑に変動を続ける現代社会を理解する力を養うことを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 国際関係のとらえ方 | |
| 第2回 | 日本を取り巻く国際関係（テキスト「地図で読む「国際関係」入門」第1章前半） | |
| 第3回 | 日本の安全保障（テキスト第1章後半） | |
| 第4回 | アメリカのリーダーシップ（テキスト第2章） | |
| 第5回 | 新興国と先進国（テキスト第3章前半） | |
| 第6回 | アジアの域内統合（テキスト第3章後半） | |
| 第7回 | EUの実験（テキスト第4章） | |
| 第8回 | 発展途上国（テキスト第5章） | |
| 第9回 | グローバリゼーションとは何か（テキスト第6章） | |
| 第10回 | 国際主体としての国際機関（テキスト第7章前半） | |
| 第11回 | 国際主体としてのNGO（テキスト第7章後半） | |
| 第12回 | 二一世紀の難題（テキスト第8章） | |
| 第13回 | 日本の課題（テキスト終章） | |
| 第14回 | 受講生による発表１ | |
| 第15回 | 受講生による発表２ | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度， 質疑応答への参加によって評価する。 |
| レポート | 30 | 毎回の授業内容について，十分かつ内容のあるコメントを提出する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 学期末に，「紛争・対立・暴力」から章を選んで発表する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | コメントシートは毎回の講義内容を理解し，自ら考えたことを記載する。<br>第14回と第15回の授業では，西崎・武内編「紛争・対立・暴力」から，各自任意の一章を選んでよく読み，内容の紹介を行う。このプレゼンテーションは単位取得の必須要件になる。 |
| 受講の心得 | 授業で使用するテキスト，配布資料を理解し，事柄を説明する態度を養う。<br>テキストの予・復習，参考文献の参照，コメントシートの提出等を通じて授業へ主体的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 予習として， 教科書の授業内容にかかわる部分を読み， 疑問点を明らかにする。<br>授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し， 理解を深める。<br>日常的に関連する内容についてニュース， 新聞， インターネット情報に注目すること。<br>以上の内容を， 週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地図で読む「国際関係」入門 | 眞 淳平 | 筑摩書房 | 978-4480689436 | 900円 |
| 紛争・対立・暴力――世界の地域から考える | 西崎文子・武内進一 | 岩波書店 | | 820 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | その他， 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 1996年4月から1998年3月まで，外務省の専門調査員として在パキスタン日本国大使館に勤務し，国内政治情勢の調査とODAによるNGO支援資金を担当した。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 外交の現場でパキスタン政府関係者，各国の外交団，およびNGO関係者と交流し，意見交換する中で，国際政治，国際関係に関わる多様な知見を獲得した。これを生かして教科書に示されている様々な事象について，具体的かつ実際的な説明を行う。 |

| 科目名 | データサイエンス入門 | | | 授業番号 | LC201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶西　将司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | データサイエンスは，私たちの身の回りの様々な場面で活用されている．近年は特に，データサイエンスの知識や考え方を持った人が必要とされている．データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることはとても重要なことである．<br>本授業では，データサイエンスで利用されているいくつかの分析手法に触れ，基礎知識や簡単な分析手法を身につけることを目指す． | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・データサイエンスの重要性を知り，身の回りで活用されていることを実感できる．<br>・データサイエンスの知識を利用し，身の回りに溢れている数値の持つ真の意味について考えることができ，自らの力で判断ができるようになる．<br>・データサイエンスの分野で利用されている簡単なデータ分析を行うことができる．<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する． | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データサイエンスについて<br>データサイエンスの具体例や考え方について説明する | |
| 第2回 | PPDACサイクルについて<br>データサイエンスの一連の流れとデータの可視化とその用途について理解する | |
| 第3回 | 度数分布表とヒストグラム<br>平均やデータの散らばり具合の統計量である標準偏差の考え方について理解する | |
| 第4回 | 標準偏差の活用事例<br>統計学で最も有名な正規分布を例に分布の考え方について説明する | |
| 第5回 | 推測統計（仮説検定・区間推定）について<br>推測統計の概要及び，身近な例について考える | |
| 第6回 | 母集団・母平均・母標準偏差・標本平均<br>推測統計の基本的な考え方である母集団と標本について理解する | |
| 第7回 | 標本平均を使った母集団の区間推定<br>正規分布の考え方を使い，母集団の平均を幅をもって推測できるようになる | |
| 第8回 | 標本分散とカイ二乗分布，母分散の推定<br>カイ二乗分布の性質を理解でき，母分散について幅をもって推測できるようになる | |
| 第9回 | 標本分散と比例する統計量の作り方<br>統計量の作り方を理解し，算出できる | |
| 第10回 | 母平均が未知の正規母集団を区間推定<br>母平均が分からない場合の推定方法をを理解できる | |
| 第11回 | ｔ分布による区間推定<br>ｔ分布の用途を理解でき，その分布を用いて区間推定ができる | |
| 第12回 | 相関係数について<br>2変数の関係を数量的に表す相関係数について理解し，算出できる | |
| 第13回 | 総合演習<br>これまでの学習内容の確認を行う | |
| 第14回 | 分析事例(１)<br>データサイエンスでよく使われる解析方法とその解釈を理解できる（クラスター分析，決定木，回帰分析） | |
| 第15回 | 分析事例(２)<br>専門的なデータサイエンスの解析方法とその解釈を理解できる（空間データ分析，画像認識） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する． |
| レポート | 40 | 2～3回程度のレポート課題を課す．レポートについてはコメントを返却する |
| 小テスト | 20 | 2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする． |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | データサイエンスについて知り，身の回りに溢れている数値に隠された意味を自らの力で考え，判断できる力を身に付けてほしい．また，データサイエンスの手法について学び，データ解析で得られた結果を解釈する楽しさを知ってほしい．授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い，講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい． |
| 授業外学修 | 1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく．<br>2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする．<br>3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる．<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること． |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 統計学入門 | 小島寛之 | ダイヤモンド社 | 978-4-478-82009-4 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 無 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会調査の基礎 | | | 授業番号 | LC202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶西　将司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業では，社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に，社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を解説する．授業では，さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス，社会調査の事例などを紹介する．また，統計解析アプリケーションＲを用いて，実際にデータ解析を行い，その解釈を行う． | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会調査について理解できている．<br>・対象や状況に応じた調査票が作成できる．<br>・得られたデータからデータ解析が行える．<br>・統計解析アプリケーションRを用いて解析が行える．また，その結果を解釈することができる．<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する． | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会調査とは<br>社会調査の概要ついて理解でき，社会における具体例を説明できる | |
| 第2回 | 社会調査の種類<br>社会調査の種類やその方法を説明する | |
| 第3回 | 調査のプロセスとデザイン<br>社会調査のプロセスやデザインを考える上で必要な事柄を理解できる | |
| 第4回 | 調査の方法と調査票の作成方法<br>実際の調査票を確認しながら作成方法を説明する<br>調査票を作成する際に必要な考え方を理解できる | |
| 第5回 | サンプリングの方法<br>サンプリングの種類や方法，無作為抽出(ランダムサンプリング)について理解できる | |
| 第6回 | 調査の実施<br>実際に社会調査を実施する際に必要な留意事項を知り，準備・実施・集計分析・管理の流れを理解できる | |
| 第7回 | データの基礎的統計<br>調査で集計したデータを要約する統計的手法を理解でき，実際に計算できる | |
| 第8回 | 統計的推測<br>調査で得られたデータを標本とし，母集団を推測する方法を理解できる | |
| 第9回 | 変数間の関連<br>2変数間の関連を数量的に表現できる相関係数について理解でき，因果関係との違いを説明できる | |
| 第10回 | 調査倫理とデータの管理<br>社会調査を実施する上で必要な倫理とデータの管理方法を理解できる | |
| 第11回 | 総合演習<br>これまでの内容の確認を行う | |
| 第12回 | アプリケーションを活用した調査票の作成<br>実際に調査票(アンケート)を作成できる | |
| 第13回 | 集計結果の見方・分析方法<br>調査票により集計したデータを管理，分析することができる | |
| 第14回 | Rを使用したデータ処理と統計分析<br>プログラムにより少し複雑な分析ができる | |
| 第15回 | 社会調査の具体例<br>実際に実施されている社会調査を調べ，その内容や方法からどのような集計・分析が可能か説明する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する． |
| レポート | 40 | 2回程度のポート課題を課す．レポートはコメントし返却する |
| 小テスト | 20 | 小テストを行う．実施は事前にアナウンスする． |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 社会調査の重要性を知ってもらいたい．また，得られたデータからデータ解析を行い，結果を解釈することで新たな発見があることを知ってもらい，またその楽しさを実感してもらいたい． |
| 授業外学修 | 1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく．<br>2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする．<br>3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる．<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること． |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 入門・社会調査法 | 編：轟亮・杉野勇 | 法律文化社 | 978-589-03817-3 | 2500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フィールド分析法 | 編：守屋和幸　著：村上陽平 | 共立出版 | 978-4-320-00604-1 | 3850 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 金融論入門 | | | 授業番号 | LC203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 三好　秀和 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | テキストを利用して授業を進めていきます。テキストの構成はテーマごとに【ストーリー】で主人公にかかわる会社での出来事が上司，部下，同僚や友人，恩師とのかかわりの中で会話形式で書かれています。このテーマである課題にあなたならどう解決するかを考えてみてください。そして主人公の【解決策】が次に書かれています。みなさんの回答と比較してください。<br>もし，解決策が気が付かなかったり用語などで困ったら解決策を読み進む前に，【論点解説】を先に読んで用語の定義や使い方などを確認してみてください。それでも解決策が見つからないとき，【解決策】を読み進んでもらいたいのです。そして授業ではチームに【解決策】について議論します。解決策は１つではないかもしれません。解決策にとらわれないでオープンな議論をしてください。企業にどんな課題があり経営者はどんな課題に悩んでいるのか，そして，金融がどのようにかかわっているのかを知ることができます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 金融は金融機関だけで成立するものではありません。金融の仕組みが生かされるのはその利用者である企業や個人にとって必要性があるからです。そこで，企業に焦点をあてその事業活動の中でどのように金融が関わっているか，そのシーンを材料に金融業界(銀行・証券・保険)の講義をします。特に，銀行・証券会社に就職を希望する学生にとって顧客である企業の立場に立てることができるので，将来の銀行，証券会社のあるべき姿を創造する力を身に着けることを目的にします。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス　企業と金融のかかわりの全体像を理解する。 | |
| 第2回 | 第１章どうしてわが社の株価は低迷しているのか<br>株価の変動要因はなにか | |
| 第3回 | ＰＥＲと期待収益率／PERをどう活用するか | |
| 第4回 | 第２章「プライム落ち」は逃れたが，東証の市場再編問題。東証再編とプライム市場 | |
| 第5回 | 流通株式数／単位(売買単位)／時価総額 | |
| 第6回 | スチュワートコードシップとコーポレート・ガバナンス・コード | |
| 第7回 | 第３章物言う株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策　ＣＩＯ | |
| 第8回 | 総会招集請求権と株主の権利 | |
| 第9回 | 検査役　東芝の混乱を考える | |
| 第10回 | 第４章資本コストの導入は可能か<br>資本コストとハードルレート | |
| 第11回 | 第５章ポストM&Aを意識しなければ失敗するぞ | |
| 第12回 | 会社の価格はどうやって計算するの？<br>Ｍ＆Ａの構図を理解すればより深まる | |
| 第13回 | 友好的なＭ＆Ａとは？<br>Ｍ＆Ａの成立までのプロセスとは？ | |
| 第14回 | 第７章市場からの資金調達　現在の金融証券市場の状況<br>リスケと貸しはがし，信用保証付き貸付 | |
| 第15回 | レポートの書き方。文章で意思を伝えるための方法，ルールを学ぶ。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝへの参加，予習復習状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポートにより最終的な理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業中の有益な発言については加点をおこなう。 |
| 受講の心得 | 上場企業を材料にとりあげて金融を学びますが，非上場企業も規模の違いがありますが企業価値を向上させるという意味では同じです。企業に就職し成長させていくには金融機関とのかかわりは欠かせません。そして，その考え方はシンプルです。食わず嫌いにならず学んでいってほしいと思います。 |
| 授業外学修 | テキストの【ストーリー】を事前に読んで，自分なりの解決策を考えてみてください。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ストーリーで学ぶCFO入門講座 | 三好秀和 | 同友館 | 978-4-496-05640-6 | 1，980円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業で利用するので必須となります。2023年2月の新刊です。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 3年で退職しないための就活読本 | 三好秀和・佐々木一雄 | 同友館 | 978-4496052576 | 1760 |
| 『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ　金融キャリアの教科書』 | 三好秀和 | 経済法令研究会 | 978-4-7668-3346-1 | 1430 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 生命保険会社，資産運用会社の勤務経験，トレーダー，金融システムの業務経験がある。日本FP学会理事。FPとはファイナンシャルプランナーのことです。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 生命保険会社，資産運用会社，トレーダーの経験や京都大学の資金運用アドバイザーでは証券金融市場に対峙しています。 |

| 科目名 | 観光英語 A | | | 授業番号 | LC204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，海外を旅行する際，誰かを海外に連れて旅をする際に必要な知識と観光英語を学ぶ。言語を習得するには，繰り返し聴き，話すことが必要となるが，授業中に観光で想定される場面での会話練習の機会を増やすためにも，テキストを用いた予習は必須である。定期的に実施する英語の語彙・表現テストには，授業中に扱う観光に必要な国内外の地理・歴史などに関する問題も含まれる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義では，観光に関連したテーマを扱うテキストを用いて，実用的な語彙の増強を図りつつ，日常的な会話表現を含んだ実践的な英語表現を学ぶ。英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すと同時に，観光に関連したテーマの語彙・表現，背景となる海外の旅行地理などを学び，定期的に小テストで学力定着を確認することで「観光英語検定」対策も併せて行う。海外での旅行・観光の際に想定される様々な場面において，英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ツーリズム・イングリッシュとは？<br>観光英語と旅行地理の必要性 | |
| 第2回 | Unit 1　Travel<br>旅行 | |
| 第3回 | Unit 2　Jobs and People<br>業務と職員 | |
| 第4回 | Unit 3　Getting on the Plane<br>搭乗する | |
| 第5回 | Unit 4　At the Immigration and Customs<br>出入国管理と税関にて | |
| 第6回 | Unit 5　At the Airport<br>空港にて | |
| 第7回 | Unit 6　Hotel(Accommodations)<br>ホテル | |
| 第8回 | 観光英検にチャレンジ(1) | |
| 第9回 | Unit 7　Restaurant(Breakfast and Fast Food)<br>レストラン | |
| 第10回 | Unit 8　Sightseeing<br>観光 | |
| 第11回 | Unit 9　Shopping<br>ショッピング | |
| 第12回 | Unit 10 Transportation<br>交通機関 | |
| 第13回 | Unit 11 Problems and Complaints<br>問題と苦情 | |
| 第14回 | Additional Unit Traveling in Japan<br>国内旅行 | |
| 第15回 | 観光英検にチャレンジ(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。 |
| 小テスト | 20 | 小テストで観光英語の理解度を評価する。なお，小テストの実施はあらかじめアナウンスする。 |
| 定期試験 | 40 | 中間・期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 背景となる国内外の地理，歴史などに関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めてほしい。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，英語および観光の知識として不十分な部分をレポートにまとめる。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| CD付 ステップアップ観光英語 Basic | 観光英検センター | 三修社 | 978-4-384-33437-1 | 2，000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストの使用に加えて適宜プリントも配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品流通論 | | | 授業番号 | LC205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し，食品の生産，加工，流通に関わる産業の概要，主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に，わが国の食料需給の現状，流通過程で発生する課題について理解する。さらに，食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （１）食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解し，説明する力を身につける。<br>（2）わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し，説明する力を身につける。<br>（3）フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し，その課題解決方法について自ら考察，説明する能力を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか-<br>食品流通とは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 食生活の変化と食の外部化<br>食品流通をめぐる環境変化や食生活の変化について理解する。 | |
| 第3回 | 食品流通の基礎（1）<br>流通の社会的役割について理解する。 | |
| 第4回 | 食品流通の基礎（2）<br>流通の仕組みと機能について理解する。 | |
| 第5回 | 主要食品の流通システム（1）<br>米の流通システム，流通規制の変遷について理解する。 | |
| 第6回 | 主要食品の流通システム（2）<br>青果物の流通システムと卸売市場について理解する。 | |
| 第7回 | 主要食品の流通システム（3）<br>水産物，食肉の流通システムについて理解する。 | |
| 第8回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第9回 | 食料の安全保障と食料自給率<br>食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。 | |
| 第10回 | 食料消費の課題（1）<br>食品産業の概要と食料品アクセス問題について理解する。 | |
| 第11回 | 食料消費の課題（２）<br>食品ロスの実態について理解する。 | |
| 第12回 | 食料消費と安全（1）<br>食品表示の機能や情報管理について理解する。 | |
| 第13回 | 食料消費と安全（2）<br>食品安全行政，食品の安全性確保のための仕組みについて理解する。 | |
| 第14回 | マーケティングの基礎知識/フードマーケティング<br>マーケティングの手法と食品企業のマーケティングの実際について理解する。 | |
| 第15回 | 全体のまとめ<br>全体の学習内容の確認を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義では食料消費や食品流通，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。<br>（2）発展学修として，食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 農産物・食品の市場と流通 | 日本農業市場学会 | 筑波書房 | 978-4-8119-0549-5 | 2，500円+税 |
| 新版　食料・農産物流通論 | 藤島廣二ほか | 筑波書房 | 9784811904078 | 2，500円+税 |
| フードシステムの経済学 | 時子山ひろみほか | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-70740-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ビジネス・イングリッシュ | | | 授業番号 | LC206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森年 ポール | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の国際化・情報化した社会において，ビジネス・経済分野では英語は非常に大きな役割を果たしている。したがって，このコースは学生のビジネス英語を向上させることを目的としています。また，学生に英語力のレベルを感じてもらうことも目的としています。このコースは，実践的な活動を通じてビジネス英語の知識とスキルを統合します。また，学生を日本国外のビジネスコンテキストに結び付けるための文化的認識活動も含みます。また，TOEIC形式の練習活動は，生徒の進捗状況を確認するのに役立ちます。英語のコミュニケーション能力を伸ばすためには，やむを得ず練習する必要があります。<br>In today's internationalized and information-oriented society， English plays a very important role in the business and economic fields. Therefore， this course intends to improve students' business English. It also aims to give students a sense of their English proficiency level. The course integrates business English language knowledge and skills through practical activities. It also includes cultural awareness activities to connect students to business contexts outside Japan. In addition， TOEIC-style practice activities help to check students' progress. To improve your English communication abilities， it is unavoidable that you must practice. | | | | | | | | |
| 到達目標 | ビジネス英語の知識，英語で意見やアイデアを表現する能力，ビジネス関連の概念や問題についての理解を深めるため。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。<br>To improve your knowledge of business English， your ability to express your opinions and ideas in English and your understanding of business-related concepts and issues. This subject contributes to the acquisition of knowledge/understanding， skills， and attitude among the contents of bachelor's degree listed in the Diploma Policy. | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Introduction to the course and textbook | |
| 第2回 | Unit 1 Nice to meet you ? Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第3回 | Unit 1 Nice to meet you ? Reading and writing | |
| 第4回 | Unit 2 In the office - Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第5回 | Unit 2 In the office - Reading and writing | |
| 第6回 | Test 1 (Units 1 & 2)， Unit 3 On the phone - Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第7回 | Unit 3 On the phone - Reading and writing | |
| 第8回 | Unit 6 Out and about - Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第9回 | Unit 6 Out and about - Reading and writing | |
| 第10回 | Test 2 (Units 3 & 6)， Unit 7 Tell me about your company - Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第11回 | Unit 7 Tell me about your company - Reading and writing | |
| 第12回 | Unit 10 Come again soon - Vocabulary， grammar， speaking and listening | |
| 第13回 | Unit 10 Come again soon - Reading and writing | |
| 第14回 | Course review， Student questionnaire， Test 3 (Units 7 & 10) | |
| 第15回 | Individual speaking tests (Units 1， 2， 3， 6， 7 and 10) | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 英語を使うほど，スコアは高くなります。The more English you use， the higher your score. |
| レポート | 30 | ライティング練習活動 Writing practice activities (6 x 5%) |
| 小テスト | 30 | ３つの小テストでビジネス英語の理解度を評価する。なお，小テストの実施はあらかじめアナウンスする。(3 x 10%) Evaluate your understanding of Business English with three written tests. The tests will be announced in advance. (3 x 10%) |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 個人的なスピーキングテスト Individual speaking test |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本科目はビジネスに関するトピックが中心となるので，前もって英文を読んでおくことが必須である。授業で扱った語彙や英語表現をしっかり復習し，すべて小テストや課題に臨むこと。なお，小テストや定期試験は口頭によるテストを含む。<br>テストを欠席したか，評価された作業を提出しなかったためにコースに失敗した学生は，コースの最後に再テストを受ける資格がありません。<br>Since this subject focuses on business-related topics， it is essential to read English in advance. Thoroughly review the vocabulary and English expressions used in class， take all tests and submit all writing assignments. The quizzes and regular tests include oral tests.<br>Students who fail the course because they were absent for a test without good reason or did not submit assessed work， will NOT be eligible for a retest at the end of the course. |
| 授業外学修 | 1 予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。<br>As a preparation， read the textbook and clarify the questions related to the lesson content.<br><br>2 復習として，授業時に学んだビジネスに関する事柄や英語の知識に関して課題レポートにまとめる。<br>As a review， summarize the business-related matters and English knowledge learned during class in an assignment report.<br><br>3 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。<br>To study the above contents for 2 hours or more per week. |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| Business Plus 1 | Margaret Helliwell | Cambridge University Press | 9781107640689 | 3000 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，効果的な英語学習法について指導する。<br>Use your experiences at school to develop effective English learning methods. |

| 科目名 | ビジネス・ディスカッション技法 | | | 授業番号 | LC207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶西　将司、大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，前半はディスカッション技法の基礎について学修する。後半では修得したディスカッション技法を活用し，実際にディスカッションの実施とディスカッション技法を応用しながら意見集約などの手法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）ディスカッション技法に関する基本的な知識を修得すること。<br>（2）効果的なディスカッション技法における技術を理解，修得すること。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ディスカッションについて<br>ディスカッションの必要性を説明し，全体の流れを紹介する | 梶西 |
| 第2回 | ディスカッション技法の基礎(1)スキルと進め方　他者から見た自己の理解　相手を受け入れよう<br>これらのスキルを実際のディスカッションの場面で活用できる | 梶西 |
| 第3回 | ディスカッション技法の基礎(2)アイスブレイクとスモールトーク<br>アイスブレイクとスモールトークをディスカッションの場面で活用できる | 梶西 |
| 第4回 | ディスカッション技法の基礎(3)司会とグランドルール<br>司会とグランドルールをディスカッションの場面で活用できる | 梶西 |
| 第5回 | ディスカッション技法の基礎(4)テーマ分析<br>テーマに対して，分析を行いディスカッションの場面で実行できる | 梶西 |
| 第6回 | ディスカッション技法の基礎(5)意見交換と質問<br>意見交換と質問の方法を理解でき，ディスカッションの場面で活用できる | 梶西 |
| 第7回 | ディスカッション技法の基礎(6)議論の構造化と振り返り<br>議論の構造化について理解し，実際の話し合いの中で構造化のフレームワークを作成できる | 梶西 |
| 第8回 | 演習(1)-1ディスカッション実践<br>ディスカッションの流れや話し合いに必要なスキルを駆使し，社会の諸問題について議論できる | 大宮 |
| 第9回 | 演習(1)-2ディスカッション実践と発表<br>社会の諸問題について議論した内容をまとめることができ，その内容を発表できる | 大宮 |
| 第10回 | 演習(2)-1ディスカッション実践（KJ法）<br>KJ法について理解でき，実践できる | 大宮 |
| 第11回 | 演習(2)-2ディスカッション実践と発表（KJ法）<br>KJ法を通して意見交換し，幅広い視点から議論できる | 大宮 |
| 第12回 | 演習(3)-1ディスカッション実践（フォーカスグループインタビュー）<br>フォーカスグループインタビューについて理解でき，実践できる | 大宮 |
| 第13回 | 演習(3)-2ディスカッション実践と発表（フォーカスグループインタビュー）<br>フォーカスグループインタビューを通して意見交換し，幅広い視点から議論できる | 大宮 |
| 第14回 | 演習(4)　ディスカッション（ワールドカフェ）<br>ワールドカフェについて理解でき，実践できる | 大宮 |
| 第15回 | まとめ<br>これまで学習した内容を振り返り，ディスカッションの意義や方法を確認する | 梶西・大宮 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | レポート内容で評価する。 |
| レポート | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義はディスカッション技法の基礎を理解し，技術を修得することを到達目標とする。そのためには，ひとりひとりが演習の中で積極的に発言し，他者への理解を持つという姿勢で講義に臨むこと。また，ディスカッションのテーマとしてトピックスなどを提示する場合があるが，それらに対してニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 配布資料等を活用し講義・演習の振り返りを行うこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 大学生からのグループ・ディスカッション入門 | 中野美香 | ナカニシヤ出版 | 9784779512421 | 1，900＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて別途配布する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日米関係 | | | 授業番号 | LC208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 世界のグローバル化は想像以上に進展している。その中で地政学的リスクや感染症など多くの課題が生まれている。これらはSNSの時代いろいろな形で情報発信される。情報が正しいのかフェイクなのか判断に困ることも多い。偏見なしに世界情勢を客観的に判断することは非常に難しい時代になっている。本講義では文化人類学を起点として世界の事象をできるだけ偏見なしに捉えるための基礎を提供する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人間は長い年月をかけて文化を創り出してきた。同時に人はその文化に無意識の内に囚われてしまっている。そのために異文化との交流の妨げとなっている。地政学的リスクや分断（デカップリング）が進展する今日偏見なしに異文化と交流することは難しい時代となっている。本講義では文化人類学的視点を提供することでグローバル化を推進し，世界の諸事情をできるだけ客観的に判断できるようにする。本講義はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の内，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の目的と概要<br>「貧困」 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | 「自然災害」 | 杉山　慎策 |
| 第3回 | 「うつ」 | 杉山　慎策 |
| 第4回 | 「感染症」 | 杉山　慎策 |
| 第5回 | 「性愛」 | 杉山　慎策 |
| 第6回 | 「アート」 | 杉山　慎策 |
| 第7回 | 「人間と動物」 | 杉山　慎策 |
| 第8回 | 「食と農」 | 杉山　慎策 |
| 第9回 | 「自分」 | 杉山　慎策 |
| 第10回 | 「政治」 | 杉山　慎策 |
| 第11回 | 「自由」 | 杉山　慎策 |
| 第12回 | 「分配と価値」 | 杉山　慎策 |
| 第13回 | 「SNS] | 杉山　慎策 |
| 第14回 | 「エスノグラフィー」 | 杉山　慎策 |
| 第15回 | まとめと討論 | 杉山　慎策 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 30 | 講義の中で与え発表を求めそれを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日ごろ世界情勢に関心をもつこと<br>新聞や雑誌など世界のメディアを読むこと |
| 授業外学修 | 【授業外学修】<br>１予習として，テキストを熟読し，講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。<br>２復習として，講義で学んだ事項を各自で再確認する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 文化人類学のエッセンス | 春日直樹・竹沢尚一郎編集 | 有斐閣アルマ | 1921336020007 | 2，000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，プリントを配布する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | アメリカ（２回），ニュージーランド（１回），イギリス（１回）通算15年の駐在経験があり，この豊富な経験を理論に織り交ぜて講義する。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 実践英語Ⅲ | | | 授業番号 | LC209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ビジネスで遭遇する場面を題材にしたテキストを用いて，４技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し，自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し，基本的な文法事項の定着を図るとともに，様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. ビジネスでよく使われる実用的な英文素材を読むことができる。<br>2. ビジネスに関する簡単な会話を聞き取ることができる。<br>3. 各ユニットで学んだ語彙・表現を用いて， 様々なビジネス場面で自分の考えを相手に英語で伝えることができる。<br>4. 各ユニットで学んだ内容を参考にして， 様々なビジネス場面で相手に伝えたいことを英語で表現できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1 "It's nice to meet you." Introduction<br>初対面の際の受け答え方法を学ぶ。 | |
| 第2回 | Unit 2 "What does 'FYI' mean?" Clarifying Meanings<br>わからない言葉の意味を尋ねたり，聞き直したりする方法を学ぶ。 | |
| 第3回 | Unit 3 "May I speak to Mr. Yoshioka?" Phone Conversation [1]<br>電話の応対と取り次ぎ方法を学ぶ。 | |
| 第4回 | Unit 4 "May I take a message?" Phone Conversation [2]<br>担当者不在の際の電話の応対方法を学ぶ。 | |
| 第5回 | Unit 5 "I have a headache." Calling in Sick<br>体調不良・病欠の際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第6回 | Unit 6 "I have appointment at 9:30." Appointments<br>予定の調整・変更方法を学ぶ。 | |
| 第7回 | Unit 7 "Would you like something to drink." Making Offers<br>来客対応の際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第8回 | Unit 8 "Let's go out for a drink." Invitation<br>食事などへの誘い方，誘われたときの返答に関する英語表現を学ぶ。 | |
| 第9回 | Unit 9 "How was your weekend?" Small Talk<br>英語特有のスモールトークについて学ぶ。 | |
| 第10回 | Unit 10 "The sales department is on the 3rd floor." Location<br>場所を尋ねたり，案内する際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第11回 | Unit 11 "Turn right on Main Street." Direction<br>道順を尋ねたり，説明したりする際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第12回 | Unit 12 "First, press the Start button." Instructions<br>オフィス機器などの使い方を説明する表現を学ぶ | |
| 第13回 | Unit 13 "I'd like to check in." Checking in at a Hotel<br>ホテルでのチェックインの際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第14回 | Unit 14 "I'm looking for a souvenir." Shopping<br>ショッピングの際の英語表現を学ぶ。 | |
| 第15回 | Unit 15 "What would you like to have?" Eating out<br>レストランでの注文や支払いの際の英語表現を学ぶ。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な受講態度を評価する。 |
| レポート | 30 | リーディングの理解度を評価する。なお， レポートの返却時にフィードバックを行う。 |
| 小テスト | 50 | ビジネスに関連する語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| First Steps to Office English | Tae Kudo | Cengage Learning | 978-4-86312-180-5 | 2，300円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | ・英和辞書を持参すること |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 一般企業にて貿易業務に従事した経験（２年）を有する。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 貿易業務に従事した経験（２年）から，海外の企業とのメールや電話での対応，英語の敬語表現など，実践力が身につくよう授業を展開していく。 |

| 科目名 | 実践英語Ⅳ | | | 授業番号 | LC210 | サブタイトル | （映画の英語） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義は「実践英語III」の応用編である。「実践英語III」に引き続き， ビジネスの世界を疑似体験しながら４技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し， 自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し， 基本的な文法事項の定着を図るとともに， 様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ビジネスの世界を疑似体験しながら様々なビジネス場面を通して， 即戦力となるビジネスで必要な英語力を習得することができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション / Unit 1 Introductions<br>初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ表現を学ぶ | |
| 第2回 | Unit 2 Telephone Calls<br>電話の応答や伝言の受け方を学ぶ | |
| 第3回 | Unit 3 Making an Inquiry<br>製品や金額に関する問い合わせ方法や対応について学ぶ | |
| 第4回 | Unit 4 Making an Appointment<br>約束のとりつけや原稿に関する表現を学ぶ | |
| 第5回 | Unit 5 Receiving a Visitor<br>受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ表現を学ぶ | |
| 第6回 | Unit 6 Invitations<br>接待に役立つ表現やスモールトークを学ぶ | |
| 第7回 | Unit 7 Presentations 1<br>プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明の表現を学ぶ | |
| 第8回 | Unit 8 Presentations 2<br>プレゼンテーションで新製品を紹介する際に役立つ表現を学ぶ | |
| 第9回 | Unit 9 Presentations 3<br>プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答について学ぶ | |
| 第10回 | Unit 10Online Meetings<br>ビデオ会議で役立つ表現と意見を伝える方法について学ぶ | |
| 第11回 | Unit 11 Negotiations<br>価格交渉や支払い条件の確認などに必要な表現を学ぶ | |
| 第12回 | Unit 12 Placing an Order<br>商品の発注や発注内容の変更などに必要な表現を学ぶ | |
| 第13回 | Unit 13Making a Complaint 1<br>発注商品のトラブルに関するクレームについて学ぶ | |
| 第14回 | Unit 14Making a Complaint 2<br>請求書や支払いのトラブルに関するクレームについて学ぶ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。 |
| レポート | 30 | リーディングの理解度を評価する。なお， レポートの返却時にフィードバックを行う。 |
| 小テスト | 50 | 既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| Successful Office English | Tae Kudo | Cengage Learning | 978-4-86312-343-4 | 2，300円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本の文学 | | | 授業番号 | LC211 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 野口　尚志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | この授業の前半（第1回～第5回）では，文学作品の読み方を確認していく。後半（第6回～第15回）では，戦後の文学作品を取り上げ，前半で学んだことを用いて実際にそれらを読解していく。授業は，講読・講義・討論を適宜交えながら進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 作品を読解しつつ，時代背景や文体を分析することで，日本文学に対して深く理解することを目指す。また，自身の考え方・主張を持ち，作品を批評できるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業内の議論の深まりによっては，読む作品を入れ替えたり減らしたりすることがある。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ［第一部］文学の読みかたを知ろう<br>第1回：ガイダンス・時代背景と作品　葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」<br>第2回：作品の構造と人物の変化　谷崎潤一郎「刺青」<br>第3回：比喩と寓意　太宰治「畜犬談」<br>第4回：社会と人間　北条民雄「いのちの初夜」<br>第5回：ジェンダー　葉山嘉樹「淫売婦」<br><br>［第二部］戦後の文学を読もう<br>第6回：平林たい子「盲中国兵」，志賀直哉「灰色の月」<br>第7回：坂口安吾「堕落論」「桜の森の満開の下」<br>第8回：太宰治「ヴィヨンの妻」<br>第9回：大江健三郎「人間の羊」<br>第10回：大庭みな子「三匹の蟹」，大城立裕「カクテル・パーティー」<br>第11回：村上春樹「蛍」「かえるくん，東京を救う」<br>第12回：絲山秋子「袋小路の男」<br>第13回：村田沙耶香「信仰」<br>第14回：宇佐見りん「推し，燃ゆ」<br>第15回：全体のふりかえり | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | ディスカッションへの参加度を評価する。 |
| レポート | 20 | レポート(1回×20点)：課題に沿った記述ができているかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 授業で扱う文学作品の下調べ(5回×10点)：課題に沿った取り組みができているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．わからないところは，積極的に尋ねてほしい。質問は随時受け付ける。<br>2．電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業で扱う作品を読んでおくこと。<br>2．前半で学ぶ作品の読み方・視点を自分なりに応用して，作品への見解を用意してくること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 現代環境論 | | | 授業番号 | LC212 | サブタイトル | (現代の身近な環境を「実感」する) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて，現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき，環境問題という現代的，社会的な課題に対して地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要の説明，環境に関する基礎講座I | |
| 第2回 | 環境に関する基礎講座II | |
| 第3回 | 地球環境問題認識度チェック(クイズ形式の参加型学修) | |
| 第4回 | ドングリとイノシシに学ぶ?!(吉備の中山での体験学修) | |
| 第5回 | 中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？（水環境に学ぶ体験学修) | |
| 第6回 | ごみと資源と私たち(ごみ(対策・分別)について学ぶ) | |
| 第7回 | SDGs（エス・ディー・ジーズ）って何だ?（１７の目標を理解し，自分たちでできる具体的な取組みについて考える） | |
| 第8回 | 中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？(大気汚染と酸性雨について学ぶ) | |
| 第9回 | 「シーベルト」「ベクレル」って何だ？(放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ) | |
| 第10回 | 循環型社会へ向けてI（環境問題と国際的取り組み） | |
| 第11回 | 環境問題解決のための新技術Iとその課題について（脱化石エネルギー，リサイクル） | |
| 第12回 | 環境問題解決のための新技術IIとその課題について（水素エネルギーと燃料電池他，太陽光発電） | |
| 第13回 | 太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！（再生可能エネルギーの実践を通して） | |
| 第14回 | 環境問題について特別講義 | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。 |
| 小テスト | 20 | 小テストを実施し，個々の内容について理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 40 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，野外学修も行うため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため，必要なメモは各自のノート等に書いていただきたい。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。なお，学修のための情報提供をclassroomで行うので，よく見ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営学特論Ⅰ | | | 授業番号 | LC216 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 経済が発展するのは新しいイノベーションが生まれるからであるという経済発展の理論を提示したのはヨーゼフ・シュンペーターである。シュンペーターはこのイノベーションを興す人をアントレプレナーと呼んでいる。岡山の地域が活性化するためには岡山から多くのアントレプレナーが出現することが必要となる。本講義では岡山市のスタートアップ支援事業である「ももスタ」で活躍されている藤田圭一郎氏など若手の起業家にスタートアップの概要，起業の動機，課題，目標などについて講義をしていただく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | スタートアップの課題，動機などについて起業家から直接講義をしていただき，起業の方法や課題などについての知見を得る。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 毎回岡山の若手起業家を招聘して講義をしていただく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の概要と目的 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | 起業家講義（１） | 藤田　圭一郎氏 |
| 第3回 | 起業家講義（２） | 西尾　周一郎氏 |
| 第4回 | 起業家講義（３） | 山田　邦明氏 |
| 第5回 | 起業家講義（４） | 島田　瞬介氏 |
| 第6回 | 起業家講義（５） | 下花　剛一氏 |
| 第7回 | 起業家講義（６） | 保手濱　彰人氏 |
| 第8回 | 起業家講義（７） | 担当前半の講義の要約とディスカッション |
| 第9回 | 起業家講義（８） | 大津　朱里氏 |
| 第10回 | 起業家講義（９） | 中山　憲太郎氏 |
| 第11回 | 起業家講義（１０） | 岡田　輝喜氏 |
| 第12回 | 起業家講義（１１） | 加藤　雅敏氏 |
| 第13回 | 起業家講義（１２） | 植田　輝義氏 |
| 第14回 | 起業家講義（１３） | 松尾　浩紀氏 |
| 第15回 | 起業家とのディスカッション | まとめと起業についてのディスカッション |
| 授業計画　備考2 | リアクションペーパーの質問項目を活用してできるだけインターラクティブな講義にする。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 60 | 毎回の講義のまとめをレポートとして提出し，そのレポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎回リアクションペーパーの提出を求め，評価の対象とする。<br>毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め，評価対象とする。 |
| 受講の心得 | 年代がそれほど開いていない若手起業家に講義をしていただくので，積極的に質問して欲しい。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。<br>2 復習として，レジュメを再度確認すること。<br>3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。<br>以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルでのマーケティングや会社経営の経験が豊富にある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 外部講師は全て現役の起業家である。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際のスタートアップの現状と課題について起業家から直接講義を受ける。 |

| 科目名 | 企業倫理論 | | | 授業番号 | LC303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大塚　祐一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この科目は「専門教育科目」の「国際教養基幹科目」に属している。<br>本講義では，次の2つの問いに対する理解を深めることで社会的存在としての企業の役割や責任を学ぶ。2つの問いとは「企業は社会の中でどのような存在であるべきか」と「現代社会において企業に求められる社会的責任とは何か」である。言い換えれば「私たちが生きている現代の社会において，良い企業とはどのような企業であるのか」を共に学び考えること，これが本講義の大きなテーマである。「良い企業とはどのような企業か」と問われると，多くの人は利益をたくさん稼ぐ企業と答えるかもしれない。もちろん誤りではないが，21世紀においては企業の稼ぐ力に加えて，社会的課題や環境問題に誠実に対応する力が備わっていなければ本当に良い企業とは言われなくなってきている。多くの利益を稼ぐ裏で，環境破壊や人権無視，法令違反を繰り返しているとすれば，そのような企業を良い企業とは呼べないだろう。本講義では，具体的な事例や実社会の動向を踏まえながら，上記2つの問いに答えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的問題）について理解し，それらが企業の持続的成長に深く関わっていることを説明できるようになる。<br>(2)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的問題）に対し，それを自分事として認識する態度が身につく。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の目的と概要 | 大塚　祐一 |
| 第2回 | 経済のグローバル化とGood Business | 大塚　祐一 |
| 第3回 | 企業不正と企業の社会的責任 | 大塚　祐一 |
| 第4回 | コンプライアンス経営 | 大塚　祐一 |
| 第5回 | コーポレートガバナンス(1)会社は誰のものか | 大塚　祐一 |
| 第6回 | コーポレートガバナンス(2)企業統治を巡る近年の動向 | 大塚　祐一 |
| 第7回 | 良い企業を市場から支える仕組み | 大塚　祐一 |
| 第8回 | CSRとしての企業の社会貢献活動 | 大塚　祐一 |
| 第9回 | CSV経営(共通価値の創造) | 大塚　祐一 |
| 第10回 | SDGsと企業経営 | 大塚　祐一 |
| 第11回 | SDGs時代における企業の脱炭素経営 | 大塚　祐一 |
| 第12回 | ビジネスと人権 | 大塚　祐一 |
| 第13回 | 人事・労務とCSR | 大塚　祐一 |
| 第14回 | 企業の存在理由(purpose)を改めて考える | 大塚　祐一 |
| 第15回 | 全体の振り返りと総括 | 大塚　祐一 |
| 授業計画　備考2 | 毎回の授業で資料を配付する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 講義への参加度，発言などを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 「企業倫理」の基本的概念を理解しているかどうか確認する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業への取り組み姿勢／態度については，授業内での発言なども考慮に入れるため，能動的な姿勢で参加して欲しい。 |
| 受講の心得 | 企業倫理や企業の社会的責任を理解するには，実社会の動向を広く捉えることが重要となるため，新聞やニュースに触れる機会を主体的に増やしておくこと。 |
| 授業外学修 | 事前学習として，配布資料を事前に読み授業で用いる用語や概念について予習しておくこと（60分程度）<br>事後学習として，授業で学習した内容（用語，理論，実社会の動向など）について復習し理解を深めること（60分程度） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営学特論Ⅱ | | | 授業番号 | LC304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 岡山の企業経営者を招聘し経営者が大切にしている創業の理念や経営理論について実践的講義をしていただく。受講生は事前にその企業を調べておき，適切な質問をし，できるだけ経営者と対話するような形で講義を進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 企業経営とは具体的にはどのような事なのか，経営者は経営上の課題にどのように対応しているのか，企業が何世代にも受け継がれて行く為には何が重要なのか，等企業経営全般についての理解を深めることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 岡山地域の企業の経営者にご講義をしていただく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の概要と目的 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | 企業（１） | 上條　智子氏（株式会社岡山高島屋代表取締役社長） |
| 第3回 | 企業（２） | 安場　直樹氏（株式会社林原代表取締役社長） |
| 第4回 | 企業（３） | 武田　浩一氏（株式会社廣榮堂代表取締役社長） |
| 第5回 | 企業（４） | 浅野　和志氏（萩原工業株式会社代表取締役社長） |
| 第6回 | 企業（５） | 米倉　将斗氏（株式会社タカラ代表取締役社長） |
| 第7回 | 企業（６） | 藤原　加奈氏（株式会社フジワラテクノアート取締役副社長） |
| 第8回 | 企業（７） | 平林　茂氏（平林金属株式代表取締役会長） |
| 第9回 | 企業（８） | 藤木　茂彦（株式会社丸五代表取締役会長） |
| 第10回 | 企業（９） | 森脇　大輔氏（株式会社日本政策投資銀行岡山事務所所長） |
| 第11回 | 企業（１０） | 遙澤　寛人氏（アイサワ工業株式会社代表取締役社長） |
| 第12回 | 企業（１１） | 大島　康弘氏（株式会社ベティスミス代表取締役社長） |
| 第13回 | 企業（１２） | 福井　康人氏（トマトリース株式会社代表取締役社長） |
| 第14回 | 企業（１３） | 梶谷　俊介氏（岡山トヨタ自動車代表取締役社長，岡山経済同友会代表幹事） |
| 第15回 | まとめ | 杉山　慎策 |
| 授業計画　備考2 | リアクションペーパーの質問項目を講義で取り上げできるだけインターラクティブな講義とする。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 60 | 毎回の講義の要約の提出を求め，そのレポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | リアクションペーパーの提出を求め，それを評価の対象とする。<br>毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め，そのレポートを評価対象とする。 |
| 受講の心得 | 受講する経営者の企業については事前にホームページなどで調べ，積極的に質問することを求める。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。<br>2 復習として，レジュメを再度確認すること。<br>3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。<br>以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルにおいてマーケティングや会社経営の豊富な経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 岡山の企業経営者 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 岡山の企業経営者から講義を受ける。経営者から直接多くの豊かな知見を学び取って欲しい。 |

| 科目名 | 情報処理Ⅰ | | | 授業番号 | LD101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理とコンピュータの関わり<br>コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。 | |
| 第2回 | コンピュータの基礎知識<br>コンピュータにおける文字データの扱いについて学習する。 | |
| 第3回 | ワードプロセッサの基本<br>基本的な文書の作成方法について学習する。 | |
| 第4回 | ワードプロセッサの活用(1)<br>基本的な編集機能について学習する。 | |
| 第5回 | ワードプロセッサの活用(2)<br>作表機能について学習する。 | |
| 第6回 | ワードプロセッサの活用(3)<br>図形描画機能について学習する。 | |
| 第7回 | 表計算ソフトの基本(1)<br>基本的な表の作成方法について学習する。 | |
| 第8回 | 表計算ソフトの基本(2)<br>セルの属性(書式設定)について学習する。 | |
| 第9回 | 表計算ソフトの基本(3)<br>基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第10回 | 表計算ソフトの基本(4)<br>応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第11回 | 表計算ソフトの応用(1)<br>基本的な関数について学習する。 | |
| 第12回 | 表計算ソフトの応用(2)<br>基本的な関数(判定)について学習する。 | |
| 第13回 | 表計算ソフトの応用(3)<br>基本的な関数(検索)について学習する。 | |
| 第14回 | 表計算ソフトの応用(4)<br>基本的なデータベース機能について学習する。 | |
| 第15回 | 総合演習・まとめ<br>演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 習熟達成度を評価する。 |
| その他 | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間でマスターWord&Excel2019（Windows10対応） | 実教出版企画開発部 | 実教出版 | 978-4-407-34838-5 | 1045 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | 情報処理Ⅱ | | | 授業番号 | LD102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ビジネス文書の基礎知識<br>基本的なビジネス文書の構成とその作成方法について学習する。 | |
| 第2回 | 表の編集とリスト<br>より高度な作表とリストの作成方法について学習する。 | |
| 第3回 | グラフィック要素の挿入・取り扱いと文書の管理<br>グラフィック要素の種類とその作成・編集方法および文書の機能について学習する。 | |
| 第4回 | 他のデータの利用<br>他のアプリケーションデータの取り込み方法について学習する。 | |
| 第5回 | 文書の書式・レイアウトおよびデータのインポート<br>ページレイアウトおよび図形の配置，外部テキストデータの取り込み方法について学習する。 | |
| 第6回 | 表の作成と編集<br>基本的な表の作成と編集および複数シートの連携について学習する。 | |
| 第7回 | 関数(1)<br>カウント，条件処理関数について学習する。 | |
| 第8回 | 関数(2)<br>文字列操作関数について学習する。 | |
| 第9回 | グラフ<br>グラフの作成や変更，書式設定などグラフ機能について学習する。 | |
| 第10回 | データベース機能の利用<br>データベースの基礎知識とテーブル機能について学習する。 | |
| 第11回 | ブック内の移動と表示のカスタマイズ<br>ブック内の効率的な移動や表示のカスタマイズについて学習する。 | |
| 第12回 | 共同作業のための設定方法<br>印刷や共同作業のための設定方法について学習する。 | |
| 第13回 | インポートとデータの視覚化<br>別ファイルからのインポートとわかりやすい表の作成方法について学習する。 | |
| 第14回 | クロス集計<br>ピボットテーブルについて学習する。 | |
| 第15回 | 別表の参照とエラー回避<br>検索関数とエラー表示の回避方法について学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する 。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 習熟達成度を評価する 。 |
| その他 | 30 | 出題する演習問題について評価する 。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間アカデミックWord&Excel2019 | 杉本くみ子／大澤栄子 | 実教出版 | 978-4-407-34834-7 | 1540 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | 情報処理Ⅲ | | | 授業番号 | LD201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および1年次開講科目「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環として表計算ソフトを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な表・グラフの作成およびデータの分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 表計算の基礎<br>基礎的な表計算ソフトの機能について学習する。 | |
| 第2回 | 外部データの取込<br>他のアプリケーションソフトからのデータ取り込みおよびデータチェック(検索･置換)方法について学習する。 | |
| 第3回 | データ処理の基礎(1)<br>数式およびテーブル機能，条件付き書式機能について学習する。 | |
| 第4回 | データ処理の基礎(2)<br>グラフの種類とより効果的なグラフの作成方法について学習する。 | |
| 第5回 | データ処理の基礎(3)<br>基本的な関数の利用方法について復習するとともに関数を用いた数値の加工方法について学習する。 | |
| 第6回 | データ処理の基礎(4)<br>日付･時刻の扱い(シリアル値)について学習する。 | |
| 第7回 | データ処理の基礎(5)<br>文字列操作関数および関数の複合利用について学習する。 | |
| 第8回 | データ処理の基礎(6)<br>データベース関数および統計関数について学習する。 | |
| 第9回 | データ処理の応用(1)<br>データ集計およびデータベース処理について学習する。 | |
| 第10回 | データ処理の応用(2)<br>ピボットテーブルとピボットグラフ機能について学習する。 | |
| 第11回 | データ処理の応用(3)<br>作業の自動化(マクロ機能)について学習する。 | |
| 第12回 | データ処理の応用(4)<br>グラフ機能を利用したデータ分析(ABC分析，単回帰分析)方法について学習する。 | |
| 第13回 | 実践データ処理(1)<br>関数の複合的利用方法について学習する。 | |
| 第14回 | 実践データ処理(2)<br>作業グループとさまざまなグラフを用いたデータ分析方法について学習する。 | |
| 第15回 | 実践データ処理(3)<br>基礎統計処理(クロス集計，相関分析)を用いたデータ分析方法について学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する 。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 習熟達成度を評価する 。 |
| その他 | 20 | 授業中出題する演習問題について評価する 。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間アカデミック情報活用 Excel2016/2013 | 飯田慈子・米沢雄介・岡本久仁子 | 実教出版 | 978-4-407-34029-7 | 1650 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | ＩＣＴ応用論 | | | 授業番号 | LD202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 久保　博尚 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業では，近未来社会をできるだけ実感的に知ることを目的に，最新のデジタルテクノロジーであるメタバースとWeb3を学ぶ。学習効果を高めるため，アニメ作品の原点である『鉄腕アトム』（1951）からメタバース世界をテーマにした映画『レディ・プレイヤー1』（2018）まで，メタバースに関わりのあるメディア表現を積極的に取り上げる。また，テクノロジーが現実社会に与える影響が実感できるように，デジタル機材を用いたテレイグジスタンスの体験実習にも取り組む。これらを通じて，近未来社会とそこで生きる自分の姿がよりリアルに予測できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 授業を通じて最新のデジタルテクノロジーを実感的に学び，近未来の自分の姿をリアルに思い描けるようにすることが本授業の目標である。この目標を達成するには，授業を通じて得た＜知識・理解＞をもとに，＜思考・問題解決能力＞を高めるための＜技能＞を磨く必要がある。こうした能力は知識のみならず，話を聞く・質問する・調べる・まとめる・表現するといった基本的な学習＜態度＞によって支えられる。これは，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の構成要素そのものである。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業を受けるにあたり，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCはChromebook以上であれば機種を問わないが，可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 仮想現実とは何か？<br>授業計画の説明とともに，社会に普及し始めた仮想現実の代表的な例に接し，その実態を理解する。 | |
| 第2回 | 仮想現実のテクノロジー史<br>仮想現実の成立にはテクノロジーの発達と文化の成熟が大きく関係している。この授業ではテクノロジーについて，その歴史を学ぶ。 | |
| 第3回 | 仮想現実の文化史（前編）<br>仮想現実に関係する文化のうち，主に戦後から2000年ごろの出来事を取り上げる。合わせてアバターとは何かについて考える。 | |
| 第4回 | 仮想現実の文化史（中編）<br>仮想現実に関係する文化のうち，主に2000年ごろから現在までの出来事を取り上げる。合わせて身体能力の拡張と仮想現実の関係を取り上げる。 | |
| 第5回 | 仮想現実の文化史（後編）<br>主に1980年以降のSF映画と仮想現実の関係を考え，映画やアニメの表現が仮想現実と密接に結びついている様子を確認する。 | |
| 第6回 | なぜ仮想が現実になるのか？<br>これまでの授業で得た知識をもとに，そもそも「仮想」がなぜ「現実」と言えるのか，仮想現実の根本を考える。 | |
| 第7回 | メタバースを先導する日本の状況<br>これまでに学んだメタバースと文化の関係を踏まえ，文化の違いがアバターの表現や扱いにどのような影響をもたらしているかその実際を学ぶ。 | |
| 第8回 | 空間を超える仮想現実<br>遠隔制御の歴史を踏まえ，メタバースの社会応用のひとつであるテレイグジスタンスについて学ぶ。 | |
| 第9回 | 五感と仮想現実<br>メタバースは五感のハッキングであるとの立場から，視覚，聴覚，触覚，味覚，嗅覚と仮想現実の関係を考える。 | |
| 第10回 | 身近に広がる仮想現実のためのデバイス<br>身近な機材を用いて，自らが実験的に体験することを前提とした，実践的な「同伴型テレグジスタンス」の実施方法を構想する。 | |
| 第11回 | テレグジスタンス実践講座（１）<br>テレイグジスタンスの概要を学ぶとともに，「同伴型テレイグジスタンス」の準備を行う。 | |
| 第12回 | テレグジスタンス実践講座（２）<br>「同伴型テレイグジスタンス」実践に必要な機材やアプリケーションを理解し，実験のためのシナリオを作成する。 | |
| 第13回 | 次世代インターネットWeb3とは何か？<br>メタバースとともに近未来社会のインターネット環境と言われるWeb3について，メタバースの知識をもとに両者の関係を考える。 | |
| 第14回 | デジタル民主主義とWeb3（通常の講義以外に理解度測定を実施）<br>デジタルテクノロジーは民主主義のあり方に影響を及ぼす。メタバース化する社会の中でWeb3時代の民主主義の行方を考える。 | |
| 第15回 | 授業の振り返りと理解度測定結果の共有<br>これまでの授業を振り返るとともに，理解度測定の結果についてクラス全体で共有を行う。進め方については，後述の「評価の方法」を参照。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 使用テキストを読み課題映画を観ていること，それらの内容に沿った論述であること，討論内容が反映されていること，自らの意見が論理的にわかりやすく表現されていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ●成績評価の方法<br>Googleフォームを利用した選択式と記述式の理解度測定を行う。理解度測定とその評価・共有は授業時間内に行い，時間外の試験や追試は行わない。記述式では，授業を通じて発展した考えについて，思考力・判断力・表現力などを評価する。<br>●理解度計測<br>本授業は選択科目のため，聴講生が多い場合は回答状況のモニタリング方式，少ない場合は回答についての講評方式により，回答の共有とフィードバック，理解度の向上を図る。モニタリングの具体的な方法はICT概論1，2に準じる。<br>●成績評価の共有と活用<br>選択式・記述式ともに，回答の傾向や正解率，考え方の特徴，興味深い意見などをクラスで共有し，授業の改善に役立てる。 |
| 受講の心得 | ネット上の情報とともに，図書・映画・音楽など各種の情報コミュニケーションに接し・見て・聞いて・感じたことを文章に表現するクセを付けること。 |
| 授業外学修 | 1) 予習として，授業ページに目を通した上で，授業で取り上げる重要キーワードを調べておくこと。<br>2) 復習として授業ページを再読し，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。<br>以上の内容を，週に４時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 上掲のテキスト以外に，下記の映画作品を見ておくとよい。これらの一部は，Amazonなどでストリーミング視聴することができる。★は授業を理解する上でとくにオススメのもの。<br>★アリ・フォルマン監督『コングレス未来学会議』イスラエル・フランス合作，2013年公開<br>★スティーヴン・スピルバーグ監督『レディ・プレイヤー1』アメリカ合衆国制作，2018年公開<br>・リドリー・スコット監督『ブレード・ランナー』アメリカ合衆国制作，1982年公開<br>・ニール・ブロムカンプ監督『エリジウム』アメリカ合衆国制作，2013年公開<br>・リドリー・スコット監督『オデッセイ』アメリカ合衆国制作，2015年公開 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| メタバース進化論――仮想現実の荒野に芽吹く「解放」と「創造」の新世界 | バーチャル美少女ねむ | 技術評論社 | 978-4-297-12756-5 | 1980円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和5年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システム開発会社で顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。日頃からSNSやブログを通じて本や映画に関する論評を行うとともに，瀬戸内の地域プロジェクトにも参加している。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 本を読み映画を鑑賞することは思考と感性を養い，豊かな人生を築く上で重要な役割を果たす。さらにその知的な経験はデジタルな仕組みと人々とのコミュニケーションを通じて，社会をよりよくする大きな力となる。演習を通じてその基礎体力が高まるように指導したい。 |

| 科目名 | ＩＣＴ未来学 | | | 授業番号 | LD203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 久保　博尚 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ICT概論I，II，ICT応用論で得た知識をベースに，近未来社会のあり得る可能性として「希望的未来」「低成長と分断の社会」「ディストピア社会」の三つのシナリオを設定する。このシナリオをベースに，それぞれを裏付ける映画作品を取り上げ，そこに描かれた社会・テクノロジー・人間の姿から，人間社会におけるテクノロジーとの正しい付き合い方を考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | コンピュータを積極的に道具として活用することにより，学生が多くの恩恵を受け，豊富なコミュニケーションを通じて，社会との深い関わりが築ける実感を得ることを目標とする。これによりデジタル時代を生き抜く＜態度＞と＜技能＞を高める。また，これら＜知識・理解＞の向上を通じて，社会人になったときコンピュータを道具として生かすための＜思考・題解決能力＞を養う。これは全体として，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の向上につながるものである。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業を受けるにあたり，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCはChromebook以上であれば機種を問わないが，可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 未来の行方を決するものを探る<br>経済，テクノロジー，人間の3要素の特徴と本質，その相互作用を通じて，未来の行を考えるための手掛かりを整理する。 | |
| 第2回 | 起こりうる未来を想像する（前編：機械化経済社会）<br>最初のシナリオとして，純粋機械化経済の発達した近未来社会を予測する。ここでは井上智洋『純粋機械化経済』などを参考にする。 | |
| 第3回 | 3.起こりうる未来を想像する（中編：環境コミュニズム社会）<br>2番目のシナリオとして，脱炭素化を社会理念とする新たなコミュニズム社会を予測する。ここでは斉藤康平『人新世の資本論』他を参考にする。 | |
| 第4回 | 起こりうる未来を想像する（後編：人工知能ディストピア社会）<br>3番目のシナリオとして，過剰なコンピュータ化で社会が混乱する状況を想定する。ここではニコラス・G・カー『オートメーション・バカ』他を参考にする。 | |
| 第5回 | 近未来社会への三つのシナリオ<br>「機械化経済社会」「環境コミュニズム社会」「人工知能ディストピア社会」を理解するために，関連する映画作品を選び出す。 | |
| 第6回 | シナリオ1-1：平和と繁栄の希望的未来（前編：日本のアニメ映画に描かれた未来観）<br>純粋機械化経済の到来を予測した映画を分析し，そのなかでテクノロジーと人間がどのような関係を築き社会生活を行なっているかを考察する。 | |
| 第7回 | シナリオ1-2：平和と繁栄の希望的未来（中編：映画『レディ・プレイヤー1』に見るメタバース化社会）<br>主にスピルバーグの『レディ・プレイヤー1』を取り上げ，ゲーム環境が仮想現実なった未来社会に監督が込めた思いを読み解く。 | |
| 第8回 | シナリオ1-3：平和と繁栄の希望的未来（後編：『エリジウム』の安楽社会と人間の幸福）<br>映画には機械化で人間が安楽になる未来が描かれることが多い。しかし同時に，それが幸福な姿ではないのはなぜなのかを考察する。 | |
| 第9回 | シナリオ2-1：恒常化する低成長と分断の社会（前編：『チェルノブイリ』が描く人間と技術の限界）<br>映画を通じて，人間の誤った技術の利用が国家と国民に大きな不幸をもたらす様子を学ぶ。合わせて，映画の背景にあるウクライナの現状を考える。 | |
| 第10回 | シナリオ2-2：恒常化する低成長と分断の社会（中編：『マイノリティ・リポート』が描く過剰な防犯社会）<br>映画の防犯予知をAIに読み替え，犯罪ゼロの未来社会を通じて，テクノロジーの適正な使い方は何か，人間はどこまで善であるかを考察する。 | |
| 第11回 | シナリオ2：恒常化する低成長と分断の社会（後編：『ロボコップ』で考えるサイボーグがはらむ問題）<br>身体拡張を可能にするサイボーグは，一方で生身の身体能力の低下につながる。その様子を描いた映画を通じて，テクノロジーの二面性を学ぶ。 | |
| 第12回 | シナリオ3：不可能が可能になったディストピア社会（前編：『永遠に美しく』で考える不老長寿の矛盾）<br>不老長寿の技術が実現すれば人口爆発に陥る。政治権力の永続が恒常化するだろう。こうした矛盾を通じてテクノロジー運用の難しさを理解する。 | |
| 第13回 | シナリオ3：不可能が可能になったディストピア社会（中編：『ジュラシック・パーク』で考える生命の創造）<br>遺伝子技術で人工動物の動物園が可能になった時，それは生命倫理とどのような関係にあるかを映画を通じて考察する。 | |
| 第14回 | シナリオ3：不可能が可能になったディストピア社会（後編：『ターミネーター』で考えるロボットの利用範囲）<br>既にAIやロボットは戦争に使われている。テクノロジーの軍事利用にとどまらず，テクノロジーに「任せるべき」「任せてはならない」技術を考える。 | |
| 第15回 | 未来学が教える私たちの未来<br>ICT未来学の最終講義として，三つのシナリオに共通するテクノロジー活用の倫理のあり方を導き出す。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ●成績評価の方法<br>Googleフォームを利用した選択式と記述式の理解度測定を行う。理解度測定とその評価・共有は授業時間内に行い，時間外の試験や追試は行わない。記述式では，授業を通じて発展した考えについて，思考力・判断力・表現力などを評価する。<br>●理解度計測<br>本授業は選択科目のため，聴講生が多い場合は回答状況のモニタリング方式，少ない場合は回答についての講評方式により，回答の共有とフィードバック，理解度の向上を図る。モニタリングの具体的な方法はICT概論1，2に準じる。<br>●成績評価の共有と活用<br>選択式・記述式ともに，回答の傾向や正解率，考え方の特徴，興味深い意見などをクラスで共有し，授業の改善に役立てる。 |
| 受講の心得 | ネット上の情報，図書，映画，音楽など各種の情報コミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを，デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。 |
| 授業外学修 | 1) 予習として，日ごろからテクノロジーにまつわる情報や本，映画作品などに積極的な関心を持つようにする。<br>2) 復習として，授業で学んだことを自分のScrapboxページにまとめる。<br>3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックする。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システム開発会社で顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。日頃からSNSやブログを通じて本や映画に関する論評を行うとともに，瀬戸内の地域プロジェクトにも参加している。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 日常的な情報整理とコミュニケーションの道具としてのアプリケーションの活用に加え，社会に働きかけるための表現活動やモニタリングへと応用範囲を広げることにより，学生がデジタル技術の面白さを体験的に実感できるようにしたい。 |

| 科目名 | 現代経済史 | | | 授業番号 | LE201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 日野　正輝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代世界経済の発展を，歴史的視点から講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代世界で起こっている様々な経済問題の歴史的背景を理解する力を養う。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 長期的視点で見た世界経済発展の諸段階 | |
| 第2回 | 産業革命とパックス・ブリタニカ | |
| 第3回 | ２０世紀初頭における世界経済の再編 | |
| 第4回 | 第二次世界大戦後の世界経済の枠組み | |
| 第5回 | パックス・アメリカーナ | |
| 第6回 | アメリカ経済の衰退 | |
| 第7回 | ヨーロッパ経済の発展 | |
| 第8回 | 20世紀社会主義経済の実験と崩壊 | |
| 第9回 | 日本経済の成長 | |
| 第10回 | 日本の経済長期低迷と構造改革 | |
| 第11回 | 中華人民共和国の成立と発展 | |
| 第12回 | 中国経済の改革 | |
| 第13回 | 韓国経済の発展 | |
| 第14回 | 韓国経済の岐路 | |
| 第15回 | まとめ（講義全般の復習） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業での積極的な討論を評価する。 |
| レポート | 60 | 2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。 |
| 小テスト | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは，講義で提示するテーマについて，自分自身でリサーチ（資料収集）を行い，指示された形式で作成する。 |
| 受講の心得 | 日々起こっている世界の経済ニュースを，日常的に確認すること。 |
| 授業外学修 | 週３時間程度の予習・復習が必要。レポート作成は，社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので，決められた形式を踏まえたリサーチ，執筆をしっかり練習してほしい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | なし |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営戦略論 | | | 授業番号 | LE202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「戦略とは何か。」経営に関する会話，記事，文献，などにおいて見ない，聞かない日が無いほど，この言葉は浸透している。競争優位の獲得あるいは持続のために使用されているが，ところが使用する人によって意味合いが異なり，かなり多様化している。ビジョンや計画と何が違うのかが曖昧の場合もある。本講義では，経営戦略の研究の変遷とその事例を通して，「戦略」の重要性と現実世界におけるモデルや学説の適用可能性の検討を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・企業間の競争や競争優位の源について論理的に説明できる。<br>・戦略についての学説の概要を説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 戦略論への注目(1)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第2回 | 戦略論への注目(2)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第3回 | 戦略論への注目(3)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第4回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(1)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第5回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(2)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第6回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(3)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第7回 | バーニー(J.B. Barney）による資源ベースの戦略論，ハメル(G. Hamel)＆プラハラード(C.K. Prahalad)のコア・コンピタンス(1) | |
| 第8回 | バーニー(J.B. Barney）による資源ベースの戦略論，ハメル(G. Hamel)＆プラハラード(C.K. Prahalad)のコア・コンピタンス(2) | |
| 第9回 | 商品・サービスのライフサイクルと多角化された事業の評価の仕方(1) | |
| 第10回 | 商品・サービスのライフサイクルと多角化された事業の評価の仕方(2) | |
| 第11回 | 戦略と組織と人的資源管理(1)：戦略の策定と実行の主体や過程，戦略的人的資源管理，リーダーシップ，組織学習，など。 | |
| 第12回 | 戦略と組織と人的資源管理(2)：戦略の策定と実行の主体や過程，戦略的人的資源管理，リーダーシップ，組織学習，など。 | |
| 第13回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(1) | |
| 第14回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(2) | |
| 第15回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(3) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・福沢康弘『テキスト 経営戦略論』中央経済社， 2021年。<br>・三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン，2013年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マーケティング論 | | | 授業番号 | LE203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | マーケティングの定義は時代とともに変遷し，その指す領域や次元は極めて広い。購買行動を客観的に且つ論理的に説明でき，特定の問題に対してマーケティングの手法を適用できるように，本講義では，消費者・顧客がどのようにして商品・サービスあるいはブランドなどに接し，いかなる過程で購買行動が引き起こされるのかを，ならびにその購買行動を促すために企業が実施していることを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・マーケティングの重要性を論理的に説明できる。<br>・ブランディングや財やサービスが購入されるまでの過程について論理的に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 市場における普及とそれに関する学説(1)：ライフサイクル，イノベーター説，キャズム説，など(1) | |
| 第2回 | 市場における普及とそれに関する学説(2)：ライフサイクル，イノベーター説，キャズム説，など(2) | |
| 第3回 | 入手可能集合の段階と分類(1)：想起に基づく製品カテゴリー | |
| 第4回 | 入手可能集合の段階と分類(2)：想起に基づく製品カテゴリー | |
| 第5回 | 購買行動類型，精緻化見込みモデル，など(1) | |
| 第6回 | 購買行動類型，精緻化見込みモデル，など(2) | |
| 第7回 | ブランドに関する研究(1)：コトラー(P. Kotler)のブランド戦略，経験価値マーケティング，五感ブランディング，物語マーケティング，コンテクスト創造のブランディング，など。 | |
| 第8回 | ブランドに関する研究(2)：コトラー(P. Kotler)のブランド戦略，経験価値マーケティング，五感ブランディング，物語マーケティング，コンテクスト創造のブランディング，など | |
| 第9回 | ブランドに関する研究(3)：コトラー(P. Kotler)のブランド戦略，経験価値マーケティング，五感ブランディング，物語マーケティング，コンテクスト創造のブランディング，など | |
| 第10回 | マーケティング・リサーチの基礎(1)：問題の設定，リサーチデザインの決定，データ収集の方法・形式のデザイン，データの収集方法，測定尺度とデータ分析，調査報告書の作成，など | |
| 第11回 | マーケティング・リサーチの基礎(2)：問題の設定，リサーチデザインの決定，データ収集の方法・形式のデザイン，データの収集方法，測定尺度とデータ分析，調査報告書の作成，など | |
| 第12回 | マーケティング・リサーチの基礎(3)：問題の設定，リサーチデザインの決定，データ収集の方法・形式のデザイン，データの収集方法，測定尺度とデータ分析，調査報告書の作成，など | |
| 第13回 | 価格と購買行動：価格設定に影響を与える要因，需要の価格弾力性，費用について，コスト・プラス法，損益分岐点による方法，需要に基づく価格設定，など | |
| 第14回 | 価格と購買行動：価格設定に影響を与える要因，需要の価格弾力性，費用について，コスト・プラス法，損益分岐点による方法，需要に基づく価格設定，など | |
| 第15回 | 価格と購買行動：価格設定に影響を与える要因，需要の価格弾力性，費用について，コスト・プラス法，損益分岐点による方法，需要に基づく価格設定，など | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・廣田章光・石井淳蔵，編『１からのマーケティング』中央経済社，2004年。<br>・伊藤宗彦編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。<br>・日本マーケティング協会，監修『ベーシック・マーケティング(第2版)』同文舘出版，2019年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | データサイエンス論 | | | 授業番号 | LE204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 梶西　将司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | データサイエンスは，私たちの身の回りの様々な場面で活用されている．近年は特に，データサイエンスの知識や考え方を持った人が必要とされている．データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることはとても重要なことである．<br>本授業では，データサイエンスで用いられる分析手法を理解することに加え，統計解析ソフトＲを用いて実際にデータ解析を行い，解釈ができる力を身につけることを目指す． | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・データサイエンスの重要性を理解でき，数値に隠された本当の意味を考える力を身につけることができる．<br>・統計解析ソフトRを用いて，データ解析を行うことができる．<br>・データ解析で得られた結果を自ら解釈でき，理解できる．<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する． | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会で利用されているデータ<br>データサイエンスの分野において社会で利用されているデータについて理解できる | |
| 第2回 | グラフを用いたデータの視覚化<br>データの可視化手法やその用途を理解し，作成できる | |
| 第3回 | データの集計方法とヒストグラム<br>データの集計方法を理解し，実際にデータの分布を確認できる | |
| 第4回 | データの数量化(1変量)<br>代表値・分散・標準偏差などの基本統計量を算出できる | |
| 第5回 | データの数量化と視覚化(1変量)<br>四分位数・四分位範囲・箱ひげ図・標準化などの散らばり具合を表す統計量を算出できる | |
| 第6回 | ２変量データの視覚化と数量化(1)<br>散布図を作成でき，共分散・相関係数などを実際に算出することができる | |
| 第7回 | ２変量データの視覚化と数量化(2)<br>クロス集計表を作成でき，オッズ比を計算方法を理解できる | |
| 第8回 | 総合演習(1)<br>これまでの学習内容を確認する | |
| 第9回 | 記述統計と推測統計，サンプル調査の特徴<br>記述統計と推測統計の違い，サンプル調査の仕組みを理解できる | |
| 第10回 | 推測統計の考え方<br>区間推定の考え方や仮説検定の仮説の立て方と結論の述べ方について理解できる | |
| 第11回 | 区間推定と統計的仮説検定（１）<br>(母平均の差の検定と区間推定(母分散既知)/母分散の検定と区間推定) | |
| 第12回 | 区間推定と統計的仮説検定（２）<br>(母平均の差の検定と区間推定(母分散未知)/母比率の検定と区間推定) | |
| 第13回 | 区間推定と統計的仮説検定（３）<br>(２標本の平均の差の検定/適合度検定) | |
| 第14回 | 統計的仮説検定（４）<br>クロス集計表と独立性の検定 | |
| 第15回 | 総合演習(2)<br>これまでの学習内容を確認する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する． |
| レポート | 20 | 2～3回程度のレポート課題を課す．レポートについてはコメントを返却する |
| 小テスト | 40 | 2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする． |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | データから有益な結果を導き出す重要性を理解してほしい．また，プログラミング言語を用いてデータ解析をする楽しさを知ってほしい．授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い，講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい． |
| 授業外学修 | 1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく．<br>2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする．<br>3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる．<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること． |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | イベント・コンベンション事業論 | | | 授業番号 | LE205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 田村　秀昭 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 国や自治体が推進するMICEとは何か。イベント・コンベンションなどの事業活動が地域社会，環境，経済にどのような影響を与えているのか。<br>イベント・コンベンション事業の効果と課題を理解するとともに，自らイベントなどを主催する際に企画立案・実施運営の知識を学ぶことを目指す。<br>政府の方針でもあるIR（統合型リゾート）のあるべき姿などについても考察する。<br>また，イベント・コンベンション事業を支える仕組みや制度などを学び，あらゆる場面における応用を考察する。<br>人生における「イベント」の大切さや転機となるシーンを想像し，創造してほしい。<br>本年はG7サミットやラグビー，女子サッカーのワールドカップなどもあります。関西万博も2年後です。ぜひ，イベントに興味を持ち，この授業に臨んでください。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・国や自治体が推進するイベント・コンベンション（MICE)に関する政策への理解を深める。<br>・イベント・コンベンション事業を支える組織や人の存在を知り，将来活躍する職務における応用を考察する。<br>・イベント・コンベンションに関する企画立案・実施運営の基礎及び実務的な知識を身につける。<br>・イベント・コンベンションの効果や課題を説明できるようになる。<br>・ツーリズム産業におけるイベント・コンベンションの重要性を理解し，説明できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション及びECの歴史 | 田村秀昭 |
| 第2回 | 総論・ECとはI：ECの定義と開催目的 | 田村秀昭 |
| 第3回 | 総論・ECとはII：ECの仕組みと開催効果 | 田村秀昭 |
| 第4回 | 総論・ECとはIII：ECのマーケット分類と市場規模 | 田村秀昭 |
| 第5回 | 岡山のイベントの実態（ワークショップ） | 田村秀昭 |
| 第6回 | イベント・コンベンション産業I：ECオーガナイザー，ホテルの役割<br>※岡山市内のホテル等での学外授業（予定） | 田村秀昭 |
| 第7回 | イベント・コンベンション産業II：ECを支える多彩な産業 | 田村秀昭 |
| 第8回 | コンベンション施設と付帯設備I：日本と世界のコンベンション施設 | 田村秀昭 |
| 第9回 | コンベンション施設と付帯設備II：コンベンション施設の基本型と運営形態<br>※岡山観光コンベンションビューロー等での学外授業（予定） | 田村秀昭 |
| 第10回 | 世界と日本のEC動向：発展するMICE市場とコンベンション（ECビジネスの可能性） | 田村秀昭 |
| 第11回 | EC推進機関とECに関わる法律：JNTO，JETRO，その他のEC推進機関 | 田村秀昭 |
| 第12回 | スポーツイベント（スポーツツーリズム） | 田村秀昭 |
| 第13回 | 演習編：イベントの企画立案 | 田村秀昭 |
| 第14回 | 演習編：ミニイベントのプレゼンテーション | 田村秀昭 |
| 第15回 | 総括：講義のまとめ- | 田村秀昭 |
| 授業計画　備考2 | 岡山市内のホテル，コンベンション施設などの現場を視察する校外学習を2回予定しています。<br>単なる見学に終わらないように，しっかりと質問をし，現場の課題を模索してください。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 積極的な授業への参加態度 |
| レポート | 10 | 校外学習後のレポート（5点×2回） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 期末テスト |
| その他 | 20 | イベントの企画立案及びプレゼンテーション |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業参画意欲を積極的に見せてください。この講義の評価の中心です。<br>修了テストは授業時に配布する資料や授業中の講義内容からの出題とします。<br>100点満点を五分の一に圧縮し，全体の20%の評価とします。<br>また，企画立案するイベントについては受講生との意見交換をしながらテーマを決めます。<br>そのプレンゼンテーションでしっかりと発表していただきたい。企画内容とプレゼンテーションで評価します。 |
| 受講の心得 | 基本的には講義形式の座学ですが，平素から市中で開催されるイベントをしっかりと観察してほしい。<br>その現場で働く人々の姿を追い，どのような仕事があり，どう役割をこなしているかを見ていただくようにお願いしたい。<br>また，現場の危機管理についてはよく注視してください。<br>イベント・コンベンションの用語をしっかりと理解してください。 |
| 授業外学修 | ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。<br>・受講において事前に課題を出す場合があります。<br>・配布する資料は大切に保管し，整理をしてください。<br>　試験時には持込可としますので，単元ごとに整頓しておいてください。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは指定しません。講義ごとにレジュメや資料を配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| コンベンションビジネス | 萩原誠司 | ダイヤモンド社 | 978-4-478-08345-1 | 1，500円（税別） |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | ホテルやコンベンション施設などの平面図や仕様書などを入手し，会場がどのようになっているかなどを見ていただきたい。<br>観光案内所やコンベンションビューローなどでイベントのチラシやパンフレットを入手し，そのチラシに書いてある内容などを確認してほしい。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | JTBで38年，ツーリズム産業の最前線で実務をこなしてきた経験を有する。また，国土交通省，経済産業省，農林水産省などの官公庁の審査委員等の経験値を生かす。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | JTBの中でも新規事業，とくにMICEについては積極的に実務経験を積み，成功裏に導いてきた経験を学生たちに伝えてゆく。<br>スマップ，ミスターチルドレンなどの野外コンサートの5万人規模の観客の輸送や警備，危機管理を含む事業を経験。<br>ボンテベルレ（現ベッキオパンビーノ）を岡山に誘致し，20年間続く定番のイベントとして定着させた実績。<br>淡路ロングライドを手始めに，四万十∞ライド（高知），ササンセトロングライド（山口）などを次々に提案し実施に導いてきた。<br>日本眼科学会，日本薬学会，日本精神神経学会など大型コンベンションを年間50本以上実施運営してきた経験を持つ。<br>これらイベントコンベンションの実務経験をもとに，学生の皆さんに現場のあり様をお伝えしてゆきます。 |

| 科目名 | レジャー・リゾート論 | | | 授業番号 | LE206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 田村　秀昭 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 余暇時間とは。ツーリズム産業は人々が余暇を過ごす余裕があるからこそ成立するビジネスであり，リゾートと称される場所で過ごすことを楽しむことをお手伝いすることがその本質でもあります。<br>日本人の余暇活動は温泉で寛いだり，山や海で自然を満喫したり，あるいはテーマパーク等で遊ぶことが主流となっています。<br>本講義では日本のレジャーとリゾートの近・現代の流れを理解し，世界のそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。<br>また，実際に身近なエリアでのリゾートビジネスについて考察します。<br>なお，サスティナブルツーリズムつまり持続可能な観光を支えてゆくためにヘルスツーリズムやグリーンツーリズム，オーバーツーリズムについても考察していただきます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １，レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する<br>２，レジャー・リゾートビジネスの日本における歴史を理解し，将来像を描く<br>３，レジャー・リゾートビジネスの実態を知り，その特性を理解する<br>４，日本の観光政策のなかで「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する<br>５，地域経済と結びつけるためのリゾートのあり方について理解する<br>６，レジャー・リゾートビジネスに関する企画力を習得する<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | レジャー・リゾートビジネスのガイダンス | 田村秀昭 |
| 第2回 | レジャー・リゾートビジネスの概要 | 田村秀昭 |
| 第3回 | 日本のレジャー・リゾートの変遷I | 田村秀昭 |
| 第4回 | 日本のレジャー・リゾートの変遷II | 田村秀昭 |
| 第5回 | 世界のリゾートビジネス | 田村秀昭 |
| 第6回 | ハワイ政府観光局主催「ハワイ検定初級」への取組 | 田村秀昭 |
| 第7回 | レジャー・リゾートの商品開発 | 田村秀昭 |
| 第8回 | 「アルプスの少女ハイジ」で読み解くヘルスツーリズムとグリーンツーリズム | 田村秀昭 |
| 第9回 | 日本の観光政策 | 田村秀昭 |
| 第10回 | 映画「フラガール」で考察する地方創生と観光 | 田村秀昭 |
| 第11回 | レジャー・リゾートと地域の発展 | 田村秀昭 |
| 第12回 | 農村漁村のリゾート化：農泊とコンテンツ | 田村秀昭 |
| 第13回 | 瀬戸内海地域のサスティナブルツーリズム | 田村秀昭 |
| 第14回 | 岡山を舞台にしたリゾートビジネスの企画・プレゼン | 田村秀昭 |
| 第15回 | 総括：まとめ | 田村秀昭 |
| 授業計画　備考2 | 15回の授業の中では学外授業の設定は予定していないが，別途希望者はツーリズム産業の現場でのインターンシップや研修の機会を設定できるように配慮したい。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 積極的な授業への参画 |
| レポート | 10 | アルプスの少女ハイジとフラガール：レポート（5点×2回） |
| 小テスト | 10 | WEB試験：ハワイ検定初級（合格） |
| 定期試験 | 20 | 期末テスト |
| その他 | 10 | 岡山のリゾート考察：プレゼンテーション |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業への参画意欲，質疑，発言などを積極的にしてほしい。<br>参考図書などを明示するので，必ず熟読し，レポートを提出すること。<br>岡山のレジャー・リゾートについて研究し，岡山らしいリゾートについての発表をしていただきます。<br>試験は授業において配布した資料や，解説したリゾートなどの中から出題します。<br>WEB上でハワイ検定を受験していただきます。合格者を評価します。 |
| 受講の心得 | 平素からホテルやレストランなど，ツーリズム産業に関わる産業をよく観察してほしい。<br>また，そこに働く人々やその役割を考察してほしい。<br>リゾートのあり方は環境問題とともに考えることが必要です。<br>SDGsの考え方もこの授業の中で学びましょう。<br>講義においてワークショップや議論の機会などをつくります。積極的な発言をお願いします。<br>また，下欄に記載の「アルプスの少女ハイジ」と「フラガール」の事前学習は必須です。当該授業の予定日前に読書し，鑑賞を終えておくことをお願いします。 |
| 授業外学修 | ・テキストは指定しませんが，平素からレジャー・リゾートについての参考書，資料等を読み込んでください。<br>・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。<br>・受講において事前に課題を出す場合があります。<br>・小説「アルプスの少女ハイジ」を読み，映画「フラガール」を鑑賞してください。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は指定しません。毎回，レジュメや資料を準備する予定です。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 世界のリゾート＆ツーリズム徹底研究 | 大前研一 | (株)master peace | | |
| アルプスの少女ハイジ | ヨハンナ・シュピリ | 角川文庫 | | 640円（税別） |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 旅行会社のパンフレットや観光協会等が発行する資料やパンフレット，映像などを活用する予定です。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | JTBで38年のツーリズム業界での実績。国土交通省，経済産業省，農林水産省の審査委員などの経験あり。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | JTBでの38年の経験で，ツーリズム産業の全体像や特にホテルなどリゾート施設などの現状などを伝えていきたいと思います。<br>また，ここ10年は各省庁の委員などを務め，観光政策の在り方や観光立国日本の将来についての研究もしてきました。<br>令和元年度の中国運輸局長観光功労者表彰を受けるなどの功績や，インドネシア教育大学での基調講演の内容などを授業の中でお示しいてゆきます。<br>せとうちDMO設立の基盤を創った経緯から，DMOやDMCの重要性なども大学の講義などでお話をしています。 |

| 科目名 | 地域経済学 | | | 授業番号 | LE207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北川　博史 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 地域経済は，人々の（経済）活動の相互依存関係の上に成立し，自然的・経済的・文化的複合体としての地域（歴史的・社会的存在としての地域）を支える経済単位である。すなわち，人間の共同的生活空間を地域として捉え，そうした地域を支える経済が地域経済となる。本講義では，地域の中でも都市と産業地域に焦点をあて，そうした地域における地域経済をどのように捉えるのかといった理論や考え方を説明するとともに，地域経済の現状と動態，さらには，具体的な課題について講義を通して一緒に考えてみたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 第一に，地域経済を読み解く理論や考え方について理解し，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。<br>第二に，地域経済の現状と動態について学び，地域の抱える課題を理解できるようになる。その上で，そうした課題の解決方法を，第一の目標で得られた理論や考え方を用いて，探ることができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「都市，産業地域そして地域経済とは」　復習：都市とはどのような地域なのでしょうか。もう一度整理してみましょう。 予習：都市化とはどのような現象なのでしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第2回 | 「都市化経済」　復習：都市化の進んだ時期や場所を確認してみましょう。 予習：都市内の土地利用はどこも同じだろうか。あるいは違うのだろうか。自分の住む街を事例に考えてみましょう。 | |
| 第3回 | 「都市内部構造論」　復習：自分の住む街はこの理論に当てはまるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：都市によっては衰退する都市もあります。それはなぜなのでしょうか。考えてみましょう。 | |
| 第4回 | 「ジェントリフィケーションと都市再生」 復習：再生に成功した都市はほかにもあるのだろうか。調べてみましょう。 予習：最近とても元気な都市が日本も含めて世界にはいくつかあります。どういった都市でしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第5回 | 「クリエイティブシティ論」 復習：クリエイティブシティではなぜ地域経済が活性化しているのでしょうか。もう一度確認しましょう。 予習：大都市は数が少なく，小都市は沢山あります。なぜなのでしょうか。考えてみましょう。 | |
| 第6回 | 「モノの持つ距離と中心地論」 復習：中心地論は地域経済の活性化を考える際に援用できるでしょうか。考えてみましょう。 予習：全ての都市の地域経済が活性化しているわけではないようです。なぜなのでしょうか。考えてみましょう。 | |
| 第7回 | 「地域構造論と都市システム論」 復習：地域構造や都市システムが地域経済の盛衰に与える影響を整理しておきましょう。 予習：日本の中では，どの地域が元気が良い（地域経済が活性化している）のでしょう。調べてみましょう。 | |
| 第8回 | 「日本の地域構造と地域経済」 復習：日本の地域構造の特徴をもう一度整理しておきましょう。 予習：産業地域とはどのような地域でしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第9回 | 「産業立地論」 復習：なぜ産業地域が出現したのでしょうか。もう一度整理しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業はどこでも同じなのでしょうか。あるいは違うのでしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第10回 | 「空間的分業論と地域再編成」 復習：分工場経済について，もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業の一つに地場産業があります。地場産業とはどのような産業のことをいうのでしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第11回 | 「地場産業地域の動態」 復習：地場産業地域はどこにあるのでしょう。整理してみましょう。 予習：地域経済が活性化する「新しい産業集積」とはどのようなことを指すのでしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第12回 | 「産業集積と新たな動向」 復習：新しい産業集積の典型的な事例地域はどこだったでしょう。もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済の疲弊している地域，活性化している地域はどこか調べてみましょう。 | |
| 第13回 | 「地域経済循環論」 復習：地域経済循環とはどのような考え方だったでしょうか。もう一度確認しておきましょう。 予習：日本の地域経済政策にはどのようなものがあるでしょうか。調べてみましょう。 | |
| 第14回 | 「地域経済政策の軌跡」 復習：日本の地域経済政策の歴史的展開についてもう一度整理しておきましょう。 予習：日本の地域産業政策によって地域経済が活性化した地域はどこでしょう。調べてみましょう。 | |
| 第15回 | 「地域経済政策の展開と課題－まとめにかえて－」 復習：日本の地域経済や政策の課題はどこにあるのでしょう。そしてその解決策はどのようなことが考えられるでしょうか。授業で得られた理論や事例を用いてまとめてみましょう。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 毎回意見や質問などをお書きいただきます。この内容も評価に含めます。 |
| レポート | 30 | 授業内容の理解度を測るために，複数回，レポートをお願いすることになります。クイズ形式のものや記述式の小レポートもあります。提出期限や様式については別途指示いたします。課題のポイントを押さえていれば高評価します。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価します。各回の主要な論点を押さえていれば高評価となるでしょう。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 地域や地域経済，地域産業の動向に関心を払っていただきたいと思います。そして，可能ならば，事例とした地域あるいはそれに類似した地域を実際に歩いてみましょう。現場をみることにより，実践力が身につくことと思います。 |
| 授業外学修 | 授業計画内の復習・予習に書かれていることを週当たり4時間以上実行してみましょう。毎回，完璧とはいわないまでも，時間の許す限り実行に移してみましょう。また，復習・予習を通じて疑問が生じた場合には，疑問点を書き留めておき，次の授業時のコメントペーパーを用いて積極的におたずね下さい。可能な限り回答する予定です。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定しません。講義中に資料を配付します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 指定しません。講義中に示す参考文献，参考図書などを積極的に活用し，学修を発展させて下さい。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 現代ビジネス論 | | | 授業番号 | LE301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では，組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識，およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け，ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め，論理的思考にて判断できる力を養う。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代ビジネスの現状と傾向 | |
| 第2回 | 現代マーケティング戦略を学ぶ(1) | |
| 第3回 | 現代マーケティング戦略を学ぶ(2) | |
| 第4回 | ブランディング戦略（１） | |
| 第5回 | ブランディング戦略（２） | |
| 第6回 | ブランディング戦略（３） | |
| 第7回 | サービス・マーケティング（１） | |
| 第8回 | サービス・マーケティング（２） | |
| 第9回 | サービス・マーケティング（３） | |
| 第10回 | マーケティング・コミュニケーション（１） | |
| 第11回 | マーケティング・コミュニケーション（２） | |
| 第12回 | マーケティング・コミュニケーション（３） | |
| 第13回 | チャンネルと販売（１） | |
| 第14回 | チャンネルと販売（２） | |
| 第15回 | チャンネルと販売（３） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | プロジェクトマネジメントを通じて各テーマの主要ポイントを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク力」の意味を知る。ビジネスの基礎，マーケティング理論となる原理，原則を知ると共に企画力，プレゼンテーション力を身に付ける。SNSやブランディング戦略など現代社会での事例を学びながら，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。 |
| 授業外学修 | １．予習として，授業内容に関わる箇所を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，課題のレポートを書く。<br>以上の内容を，週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 世界のエリートが学んでいるMBAマーケティング必読書50冊を1冊にまとめてみた | 永井孝尚 | KADOKAWA | 978-4046047151 | 1958 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ブランド戦略論 | | | 授業番号 | LE302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 商品が市場にあふれる時代，実際に消費者に手に取ってもらい，購入してもらうためには，競合商品とは異なる何らかの独自性を有するブランドが必要となる。本講義ではどうすればブランドを創り，育て，維持することが出来るのかなどブランド戦略論を分かりやすい例をあげながら解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 価値創造を実現するためには消費者の視点から見て独自性のあるブランドとして認知されるかどうかが重要となる。経営戦略上重要なブランド戦略論の理論と実践を学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | レジュメを配布する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の目的と概要 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | ブランド・エクイティ | 杉山　慎策 |
| 第3回 | ブランド・ロイヤルティ | 杉山　慎策 |
| 第4回 | ブランド認知 | 杉山　慎策 |
| 第5回 | 知覚品質 | 杉山　慎策 |
| 第6回 | ブランド連想 | 杉山　慎策 |
| 第7回 | ブランド測定 | 杉山　慎策 |
| 第8回 | 名前，シンボル，スローガン | 杉山　慎策 |
| 第9回 | 連想の選択，創造，維持と危機管理 | 杉山　慎策 |
| 第10回 | ライン拡張とブランド拡張 | 杉山　慎策 |
| 第11回 | ブランドの再活性化 | 杉山　慎策 |
| 第12回 | ブランドのグローバル化 | 杉山　慎策 |
| 第13回 | グローバル企業のブランド戦略（１）～資生堂のケース～ | 杉山　慎策 |
| 第14回 | グローバル企業のブランド戦略（２）～ロレアルのケース～ | 杉山　慎策 |
| 第15回 | グローバル企業のブランド戦略（３）～花王のケース～ | 杉山　慎策 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 40 | 提出された課題を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 基本的概念についての理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | リアクションペーパーの提出を求め，それを評価する。<br>講義の中で課題を提示し，その課題レポートを評価する。<br>定期試験は基本的概念や理論についての理解度を評価する。 |
| 受講の心得 | 日ごろから新聞や経済誌を読み，経済の変化について関心を持ち，下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。<br>日本経済新聞<br>日経ビジネス<br>東洋経済 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。<br>2 復習として，レジュメを再度確認すること。<br>3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。<br>以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ブランド・エクイティ戦略ー競争優位をつくりだす名前，シンボル，スローガン | デイビッド・アーカー | ダイヤモンド社 | 978-4478501146 | 4，180円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 経済は日々刻々動いている。時代の変化をとらえるためにも下記の経済紙（誌）を読むことを推奨する。<br>日本経済新聞<br>日経ビジネス<br>週刊東洋経済 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 資生堂，ユニリバー，ロレアル，マテルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ブランド戦略論の基本的概念がどのように企業で生かされているかについて，具体的なケースを紹介しながら議論をしブランド戦略の重要性についての理解を深める。 |

| 科目名 | 観光経営論 | | | 授業番号 | LE303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 田村　秀昭 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 観光産業ならではの経営上の課題やその対応策などを模索する。<br>観光経営の基礎知識を習得し，ホテル，旅行，運輸(航空，貸切バスなど)，エンターテイメントなどの固有の課題を考察し，<br>その解決方法や管理方など対策を講じてゆく。<br>また，危機管理の観点から災害などからの復興，再建などについて学ぶことでツーリズムをビジネスとしてとらえてゆく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ツーリズム産業には一般的な企業経営とは違った課題が数多くあり，特に季節・曜日変動，立地条件や流行に左右されやすく，<br>設備投資額を考えると決して高収益とはならない経営リスクがあることを学んでほしい。<br>また，ツーリズム産業の中にあっても各業種によりその経営課題は異なるが，この違いなどを理解しながら対応策を考察してゆく力をつけてほしい。<br>課題を明確にし，協調しながら結論付けたり，発表する力も同時に養ってほしい。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 基本的には座学だが，課題を共有し，ディスカッションの後に集約した意見を発表する場も設定してゆきたい。<br>まず，講義に出席し，積極的に質問をし，議論に参加して欲しい。<br>観光経営という分野にとらわれず，学生としての学びの場を広げてゆきたいと思います。<br>時に脱線もしますが，観光産業で勤めてきた40年の体験を皆さんにお伝えしたいと思います。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 観光経営ガイダンス | 田村秀昭 |
| 第2回 | 観光経営の歴史 | 田村秀昭 |
| 第3回 | 観光経営の課題:リスクの理解 | 田村秀昭 |
| 第4回 | 季節・曜日変動などの経営課題:稼働率，生産性の考察 | 田村秀昭 |
| 第5回 | 巨大な設備投資と人的サービスへの傾斜傾向 | 田村秀昭 |
| 第6回 | ホテル・旅館経営の課題 | 田村秀昭 |
| 第7回 | 旅行業経営の課題（OTAとRTA，クレームとトラブル対策など） | 田村秀昭 |
| 第8回 | 航空業界の課題 | 田村秀昭 |
| 第9回 | 鉄道経営と沿線開発の課題 | 田村秀昭 |
| 第10回 | リゾート経営の課題:日本の観光政策の失敗事例 | 田村秀昭 |
| 第11回 | テーマパーク，遊園地などアミューズメント，コンベンション施設の経営の課題 | 田村秀昭 |
| 第12回 | 観光経営の事例研究(レポート対象) | 田村秀昭 |
| 第13回 | ツーリズムビジネスの将来についての考察:ディスカッションと整理 | 田村秀昭 |
| 第14回 | 第13回のまとめと発表 | 田村秀昭 |
| 第15回 | 観光経営論総括 | 田村秀昭 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 10 | 授業の中で課題を出します。それに対してのレポートを求めます。 |
| 小テスト | 20 | 復讐の意味を含めて小テストを数回実施します。 |
| 定期試験 | 30 | 期末試験。教科書，ノートの持ち込みは可とする。 |
| その他 | 10 | 第13・14回のディスカッションとプレ全テーションの評価。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 座学を中心とした授業の中でいかに予習をし，復習ができているかを確認しながら進めてゆきます。<br>また，各単元の中で自発的な発表やレポート提出などを歓迎します。<br>公欠の場合のはレポートの提出を求めます。 |
| 受講の心得 | 予習と復習を心掛け，授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ，情報収集を行うなどの自主的な学習に努めましょう。<br>授業中にはペア・グループでの発表活動を実施ますので，積極的に参加してください。<br>ツーリズム産業を活用した地域振興策を考える習慣をつけてください。<br>積極的に質問をし，用語などでわからないままに進むことの無いようにしてください。 |
| 授業外学修 | ・講義内容については予習をしましょう。<br>　次回講義のポイントについて毎回お伝えをします。<br>・毎回の授業内容は必ず復習してください。<br>・受講において事前に課題を出す場合があります。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 観光概論 | 宍戸学ほか | (株)JTB総合研究所 | | 2，477円（税抜き） |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 市中にある観光パンフレット，旅行商品パンフレット，ホテル・旅館のパンフレットなども参考になります。<br>講義によっては授業で使用する場合があります。各施設，事業所等で手に入れることを求めることがあります。 |
| その他 | |
| 備考 | 試験は期末と講義中に小テストを実施します。<br>期末テストは配布した資料や自筆のノートは持込を可とします。<br>小テストは講義の復習を兼ねたものです。 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | (株)JTBでの38年間の実績。中国運輸局，中国経済産業局，中国四国農政局などでの観光関連，街づくり，地方創生などの委員経験など。台湾の高校の顧問も務めていますので，国際交流などについてもお話しできます。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | なし |
| 実務経験をいかした教育内容 | JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起こっている，起こる可能性などの事象を具体的に指導する。<br>行政の委員などの経験をもとに観光行政の在り方や成功・失敗事例の原因なども事例を交えて解説してゆく。 |

| 科目名 | リーダーシップ論 | | | 授業番号 | LE401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ＶＵＣＡ(Volatility（変動性），Uncertainty（不確実性），Complexity（複雑性），Ambiguity（曖昧性）の頭文字から作られた言葉）と言われる変化の大きな時代には，リーダーの指導力が問われる。本講義では下記を重点的に取り上げる。<br>(1)主要なリーダーシップ論について学ぶ。<br>(2)故郷岡山の優れたリーダー達がどのように指導力を発揮し，変革を興し，地域に貢献したかについて学ぶ。<br>(3)これらを踏まえて現代社会が必要とするリーダーシップ論について議論し，理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義においては経営学における主要なリーダーシップ論について学ぶ。また，岡山が生み出したリーダー達の生き方やリーダーシップのあり方を学ぶ。加えて，ＶＵＣＡの時代と言われる現代をどう生きるかについて議論する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 前半はリーダーシップ論の主要理論について学ぶ。後半は岡山の生み出したリーダーを取り上げ，その功績や生き方について学ぶ。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本講義の目的と概要 | 杉山　慎策 |
| 第2回 | リーダーシップ特性論 | 杉山　慎策 |
| 第3回 | リーダーシップ行動論 | 杉山　慎策 |
| 第4回 | コッターのリーダーシップ論 | 杉山　慎策 |
| 第5回 | カリスマ的リーダーシップ論 | 杉山　慎策 |
| 第6回 | サーバントリーダーシップ論 | 杉山　慎策 |
| 第7回 | 変革的リーダーシップ論 | 杉山　慎策 |
| 第8回 | 社会的責任とリーダーシップ論 | 杉山　慎策 |
| 第9回 | 岡山のリーダー１：野崎　武左衛門 | 杉山　慎策 |
| 第10回 | 岡山のリーダー２：山田　方谷 | 杉山　慎策 |
| 第11回 | 岡山のリーダー３：緒方　洪庵 | 杉山　慎策 |
| 第12回 | 岡山のリーダー４：磯野　計 | 杉山　慎策 |
| 第13回 | 岡山のリーダー５：大原　孫三郎 | 杉山　慎策 |
| 第14回 | 岡山のリーダー６：馬越　恭平 | 杉山　慎策 |
| 第15回 | まとめとディスカッション | 杉山　慎策 |
| 授業計画　備考2 | レジュメを配布する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | リアクションペーパーを評価する |
| レポート | 40 | 最終課題のレポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終テストにより理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | リアクションペーパーの提出を求め，評価の対象とする。<br>講義の中で課題を提示し，その課題についてのレポートを評価する。<br>定期試験は基本的概念や理論の理解度を評価する。 |
| 受講の心得 | 日ごろから新聞や経済誌を読み，経済の変化について関心を持ち，下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。<br>日本経済新聞<br>日経ビジネス<br>東洋経済 |
| 授業外学修 | 1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。<br>2 復習として，レジュメを再度確認すること。<br>3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。<br>以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | レジュメを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルなどでの実際の経営経験を踏まえて，できるだけ分かりやすく生きたリーダーシップ論について解説する。 |

| 科目名 | ライティング | | | 授業番号 | LF201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業は，仕事やビジネスのための，さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには，情報要求，招待，宿泊予約のための電子メール，入国カード，文書の付け紙，ファックス送付状，就職応募書類，履歴書を含む。学生は，毎時間出席し，毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが，学生は積極的に授業に参加し，できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は，「インテグレーテッド・イングリッシュC」，「基礎ゼミ」，「専門ゼミ」などの授業と関連している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | この授業の目標は，学生の英語で書く基本的な能力と，短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法，語彙，句読法，綴り字法の知識を伸ばすことである。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 書くことについて考える | |
| 第2回 | 導入を書く | |
| 第3回 | 様々な様式を埋める | |
| 第4回 | 感謝を述べる | |
| 第5回 | 情報を要求する | |
| 第6回 | ユニット小テスト１；詳細な情報を得る | |
| 第7回 | 招待し，会合のを手配する | |
| 第8回 | 面会時間・場所を決め，それを変更する | |
| 第9回 | 指示を与える | |
| 第10回 | 問題に対応する | |
| 第11回 | ユニット小テスト2; 描写する | |
| 第12回 | 意見を言い，推薦する | |
| 第13回 | 休暇について書く | |
| 第14回 | 趣味について書く | |
| 第15回 | 仕事に応募する　ユニット小テスト３ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 英語を使っての授業への積極的参加 |
| レポート | 10 | 毎週の作文課題 |
| 小テスト | 45 | ユニット小テスト |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 課題 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 英語を使っての授業への積極的参加　25%，毎週の作文課題　10%，ユニット小テスト 3x15%，課題　20% |
| 受講の心得 | 学生は，毎時間出席し，毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが，学生は積極的に授業に参加し，できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。 |
| 授業外学修 | 授業で直接指導できる時間は限られているので，学生は，自習と毎時間の授業のための準備と課題に週当たり４時間以上の学修が必要である。この学習は，一度に行うよりも，毎日30-40分学修するのが効率的である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 学生は，教科書とともに和英辞典，A4サイズのノート，授業プリントと課題を入れた授業用ファイル，自習課題を毎時間持参すること。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 時事英語 | | | 授業番号 | LF202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 米国の経済週刊誌 Bloomberg Businessweek の論説・記事を扱ったテキストを教材にして，時事英語特有の表現や国際社会で起こっている様々な問題についての理解を深めるとともに，英語の４技能を高める。具体的には，テキストを活用してトピックについての読解力，聴解力を高めるとともに，グループワークやペアワークを通して，自らの意見を口頭や筆記により表現する力を高める。また，CNNやBBCのニュース映像やインターネット上に公開されているニュース記事等を活用して，より新鮮なニュースに触れる機会を設ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・時事英語，ニュース英語でよく使われる英語表現を理解することができる。<br>・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。<br>・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション/ Unit1 A Mom-to-Be in the Corner Office | |
| 第2回 | Unit2 In Defense of Affirmative Action | |
| 第3回 | Uniyt3 Keeping the Internet Safe from Rogue Regimes | |
| 第4回 | Unit4 Fighting Hacks with National Security Standards | |
| 第5回 | Unit5 Raise the Minimum Wage | |
| 第6回 | Unit6 America's Real Immigration Crisis | |
| 第7回 | Unit7 France's Fleeing Billionaire | |
| 第8回 | Unit8 Don't Bring Back the Drachma | |
| 第9回 | Unit9 One Europe，Many Tribes (1) | |
| 第10回 | Unit10 One Europe，Many Tribes (2) | |
| 第11回 | Unit11 In Japan，Retirees Go On Working | |
| 第12回 | Unit12 Japan，China and A Pile of Rocks (Part1) | |
| 第13回 | Unit13 Japan，China and A Pile of Rocks (Part2) | |
| 第14回 | Unit14 China Struggles to Publish Accurate Data | |
| 第15回 | Unit15 Singapore's Pay-for-Performance Plan | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| BusinessWeek: Eye on Japan and the World『ビジネスウィーク』で読み解く国際社会 | 村上直久 | 南雲堂 | 9784523177586 | 1980 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 英語ディスカッション | | | 授業番号 | LF203 | サブタイトル | なし | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森年 ポール | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業は，学生が英語で自分の意見を形成し，表現し，それを裏付ける能力と，批判的に思考する能力を，学生自身に直接関係したり重要であったりするビジネス 問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。<br>This course aims to develop students' ability to form， express and support their considered opinions in English and to think critically， through discussion of business issues that should be directly relevant and important to the students. | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学生は，例えばマーケティング，ビジネス倫理，人事決定と他ビジネス的に関連した話題を，大人として議論することを期待されている。学生は，自分の考えやその理由を，会話，意見の共有，議論，プレゼンテーションを通して英語で伝えることになる。学生は，自分の意見や感情，そしてそのもととなる信念を熟考し，批判的に考えることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。<br>Students are expected to discuss marketing， business ethics， personnel decisions and other business-related topics in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through conversation， opinion-sharing， discussion and short presentations. You will learn to reflect on your opinions， feelings and the beliefs they are based on， and to think more critically.<br>This course will contribute to acquiring knowledge and understanding， thinking and problem-solving abilities， skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | このコースは，積極的に参加している学生が英語を使い，ビジネス関連のトピックについて考えることに依存しています。このコンテンツは，学生が英語，ディスカッションスキル，およびビジネス文化の理解を向上させるのに役立ちます。<br>This course relies on students participating actively to use English and to think about business-related topics. The content will help students to improve their English， discussion skills， and their understanding of business culture. | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Introduction to the course こーすの紹介， Course administration 授業の進め方， Final exam explanation 定期試験の説明<br>What is 'Discussion'? 「ディスカッション」とは<br>What are the purposes of discussion? ディスカッションの目的は何ですか？ | |
| 第2回 | Discussion point - Opinion vs facts<br>Discussion topic - What makes a good company? 何が良い会社になるのか？ | |
| 第3回 | Discussion point - Types of supporting information サポート情報の種類<br>Discussion topic - Which is more important: qualifications or experience? どちらがより重要ですか：資格または経験？ | |
| 第4回 | Discussion point - Deciding your own opinion 自分の自身の意見を決める<br>Discussion topic - What does 'professionalism' mean? 「プロフェッショナル」とはどういう意味ですか？ | |
| 第5回 | Short test 1<br>Discussion topic - Should we hire a younger or older person? 若い人を雇うべきですか，それとも年上の人を雇うべきですか？ | |
| 第6回 | Discussion point - Explaining your opinion あなたの意見を説明する<br>Discussion topic - Which management style is best? どの管理スタイルが最適ですか？ | |
| 第7回 | Discussion point - Supporting your opinion 自分の意見を支持する<br>Discussion topic - Who should be fired? 誰を解雇すべきですか？ | |
| 第8回 | Discussion point - Listening to other people's opinions 他の人の意見とサポート情報を聞く<br>Discussion topic - Should we hire a man or a woman? 男性と女性のどちらを雇うべきですか？ | |
| 第9回 | Discussion point - Evaluating other people's opinions and supporting information 他人の意見を評価し，情報を裏付ける<br>Discussion topic - Who should be promoted? 誰を昇進させるべきですか？ | |
| 第10回 | Short test 2<br>Discussion topic - Which marketing strategy is most effective? どのマーケティング戦略が最も効果的ですか？ | |
| 第11回 | Discussion point - Refuting another person's opinions and supporting information 他人の意見に反論し，裏付けとなる情報<br>Discussion topic - How to manage debt or credit 債務または信用を管理する方法 | |
| 第12回 | Discussion point - Showing that supporting information is incorrect サポート情報が正しくないことを示す<br>Presentation preparation (1) - Bid for a contract (Prepare your bid's content) 契約の入札（入札内容の準備） | |
| 第13回 | Presentation preparation (2) - Bid for a contract (Prepare your presentation) 契約の入札（短いプレゼンテーションを準備する） | |
| 第14回 | Presentation and discussion (1) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか？<br>Course review， Student course evaluation questionnaires コースレ復習;大学生アンケート | |
| 第15回 | Presentations and discussions (2) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか？<br>Short test 3<br>Course evaluation コース評価 | |
| 授業計画 備考2 | このコースは，学生が以前のレッスンを使用してビジネス英語とディスカッションスキルを向上できるように設計されています。したがって，できるだけ多くのレッスンに参加することが重要です。<br>The course is designed so that students can improve their business English and discussion skills using previous lessons. It is therefore important to attend as many lessons as possible. | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | Active participation in English 英語を使っての授業への積極的参加 |
| レポート | | |
| 小テスト | 45 | 3 Unit short tests (English knowledge) ユニットごとの小テスト (英語に関する知識) |
| 定期試験 | 35 | Presentation and discussion of the presentation's contents プレゼンテーションとプレゼンテーション内容のディスカッション |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 参加とショートテストは個別に評価されますが，最終的なディスカッションとプレゼンテーションはグループワークです。グループの各メンバーはチームをサポートする必要があります。<br>The participation and short tests are evaluated individually， but the final discussion and presentation are group work. Each member of the group must support their team. |
| 受講の心得 | 大学の出席方針に従って。<br>In accordance with the university's attendance policies. |
| 授業外学修 | 授業外で，授業の復習や準備，課題やレポート，自主学習を十分に行うこと。以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。<br>Students should spend 2 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons， doing research， homework， reports， self-study or other assignments. |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| なし | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 学生は，すべての授業に，必要な準備物（辞書，授業ファイル，ノート，ワークシート，課題など）をすべて持参すること。この授業は，積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。<br>Students should bring their dictionaries， course file， notebook， worksheets， homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English. |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 観光英語Ｂ | | | 授業番号 | LF204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この講義では海外から日本を訪れる留学生，旅行者などに対して，英語で日本紹介や簡単な通訳案内ができるようになることを目的としている。日本を訪れる人々に日本のことをより良く知ってもらうためには，英語と日本語の知識を習得する必要がある。なお，毎回ユニットのテーマについて調べて英語で発表を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義では，日本と観光について学び，その知識を英語で表現できるようにすることを目標とする。日本国内の観光地で通訳案内をする際に，英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Chapter 1 Japan’s Top Three Castles<br>Nagoya Castle，Osaka Castle，Kumamoto Castle | |
| 第2回 | Chapter 2 Japan’s Top Three Festivals<br>The Gion Festival，the Tenjin Festival，the Kanda Festival | |
| 第3回 | Chapter 3 Japan’s Top Three Mountains<br>Fujisan，Tateyama，Hakusan | |
| 第4回 | Chapter 4 Japan’s Top Three Oldest Hot Springs<br>Dogo Onsen，Arima Onsen，Shirahama Onsen | |
| 第5回 | Chapter 5 Japan’s Top Three Gardens<br>Kenrokuen，Korakuen，Kairakuen | |
| 第6回 | Chapter 6 Japan’s Top Three Pottery Styles<br>Raku Ware，Hagi Ware，Karatsu Ware | |
| 第7回 | Chapter 7 Japan’s Top Three Night Views<br>Mount Hakodate，Mount Maya，Mount Inasa | |
| 第8回 | Chapter 8 Japan’s Top Three Famous Foods<br>Tempura，Sushi，Sukiyaki | |
| 第9回 | Chapter 9 Japan’s Top Three Limestone Caves<br>Ryusendo，Ryugado，Akiyoshido | |
| 第10回 | Chapter 10 Japan’s Top Three Scenic Spots<br>Matsushima，Amanohashidate，Miyajima | |
| 第11回 | Chapter 11 Japan’s Top Three Waterfalls<br>Fukuroda Falls，Kegon Falls，Nachi Falls | |
| 第12回 | Chapter 12 Japan’s Top Three Disappointing Places<br>Sapporo Clock Tower，Harimaya Bridge，Hollander Slope | |
| 第13回 | Chapter 13 Japan’s Top Three Ekiben<br>Ikameshi，Touge no Kamameshi，Masu no sushi | |
| 第14回 | Chapter 14 Japan’s Top Three Udon<br>Sanuki Udon，Inaniwa Udon，Mizusawa Udon | |
| 第15回 | Appendix Aomori，Fukushima，Chiba，Kanagawa，Tokushima，Okinawa<br>日本地図　まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。 |
| 小テスト | 40 | 小テストで日本の観光や英語に関する理解度を評価する。なお，小テストの実施はあらかじめアナウンスする。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを具体的に発表できていること。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 背景となる日本事象全般に関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めてほしい。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，前時に学んだ通訳案内模範文を暗記し，暗唱テストの準備をする。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 英語で学ぶ日本三選 | 坂部俊行・岡島徳昭・William Noel | 南雲堂 | 978-4-523-17788-3 | 2，000円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | グローバル経済論 | | | 授業番号 | LF205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 日野　正輝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 世界経済の発展，現在の世界経済秩序，各地域の経済問題の基礎を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代世界経済をとらえる視座を身につけ，世界各地の政治・経済事情への理解を深める。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 世界経済の規模と趨勢 | |
| 第2回 | 現代のグローバル経済秩序 | |
| 第3回 | アメリカ　超大国の光と影 | |
| 第4回 | 日本　バブルの発生から崩壊まで | |
| 第5回 | 日本　経済長期低迷と構造改革 | |
| 第6回 | ＥＵ　ＥＵの発展と通貨統合 | |
| 第7回 | ＥＵ　地域統合の深化と拡大の限界 | |
| 第8回 | 世界経済の変化と新興市場 | |
| 第9回 | 新興諸国の台頭　（韓国） | |
| 第10回 | 新興諸国の台頭（中国） | |
| 第11回 | 新興諸国の台頭（東南アジア） | |
| 第12回 | 新興諸国の台頭（インド，アフリカ） | |
| 第13回 | 21世紀の新しいグローバル経済秩序 | |
| 第14回 | グローバリゼーションの行方 | |
| 第15回 | まとめ（講義全般の復習） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業での積極的な討論を評価する。 |
| レポート | 60 | 2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは，講義で提示するテーマについて，自分自身でリサーチ（資料収集）を行い，指示された形式で作成する。 |
| 受講の心得 | 日々起こっている世界の経済ニュースを，日常的に確認すること。 |
| 授業外学修 | レポート作成は，社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので，決められた形式を踏まえたリサーチ，執筆をしっかり練習してほしい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 世界経済図説 第四版 | 宮崎勇，田谷禎三 | 岩波書店 | 9784004318309 | 880円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | なし |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ＥＵ経済論 | | | 授業番号 | LF206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 非常勤B | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | EU諸国経済の基礎知識を講義するとともに，地域統合が抱える諸問題を解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ヨーロッパ地域に関する知識と理解を深め，また地域統合のプロセスと諸問題を理解する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ヨーロッパとは何か | |
| 第2回 | ヨーロッパの発展（１）　産業革命のヨーロッパ | |
| 第3回 | ヨーロッパの発展（２）　摩擦の時代と二つの大戦 | |
| 第4回 | ヨーロッパの発展（３）　第二次世界大戦後の政治・経済秩序 | |
| 第5回 | ECの拡大と市場統合 | |
| 第6回 | 通貨統合の道のりとユーロの実力 | |
| 第7回 | EUの組織と地域経済圏 | |
| 第8回 | イギリス：　混合体制から自由主義を経てEU離脱まで | |
| 第9回 | 東西対立と東欧社会主義諸国 | |
| 第10回 | 中東欧体制転換とEU東方拡大 | |
| 第11回 | 世界金融危機と南欧問題 | |
| 第12回 | ドイツ：　第四次産業革命 | |
| 第13回 | EU危機と民主主義・ポピュリズム | |
| 第14回 | グローバリゼーションの光と影 | |
| 第15回 | まとめ（講義全般の復習） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業での積極的な討論を評価する。 |
| レポート | 60 | 2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは，講義で提示するテーマについて，自分自身でリサーチ（資料収集）を行い，指示された形式で作成する。 |
| 受講の心得 | ヨーロッパ経済に関するニュースを，日常的に確認すること。 |
| 授業外学修 | 週２，３時間の予習・復習が必要。レポート作成は，社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので，決められた形式を踏まえたリサーチ，執筆をしっかり練習してほしい。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 現代ヨーロッパ経済 | 田中素香 [ほか] | 有斐閣 | 784641221086 | 3080円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語プレゼンテーション | | | 授業番号 | LF301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め，学んだり経験したことに基づいて，その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また，発表された情報や提案を聞いたり読んだりして，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 英語を通して，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また，英語を通して，発表された情報や提案を的確に理解し，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 英語によるプレゼンテーションとは | |
| 第2回 | 英語プレゼンの始め方 | |
| 第3回 | テーマを決めてプレゼンしようI　プレゼンの準備　ーグループワークー | |
| 第4回 | テーマを決めてプレゼンしようI　プレゼンを組み立てよう　ーグループワークー | |
| 第5回 | テーマを決めてプレゼンしようI　スライド作成のポイント | |
| 第6回 | テーマを決めてプレゼンしようI　プレゼン発表 | |
| 第7回 | モデル英語プレゼンを真似してみよう(1)　発話練習 | |
| 第8回 | モデル英語プレゼンを真似してみよう(1)　発表 | |
| 第9回 | テーマを決めてプレゼンしようII　ータイトルを決めて必要な資料を集めようー | |
| 第10回 | テーマを決めてプレゼンしようII　ー発表の構成を考えようー | |
| 第11回 | テーマを決めてプレゼンしようII　ーパラグラフ毎の英文を書いてみようー | |
| 第12回 | テーマを決めてプレゼンしようII　ースライドの作成ー | |
| 第13回 | プレゼンテーション発表(1) | |
| 第14回 | プレゼンテーション発表(2) | |
| 第15回 | まとめ　プレゼンを行うときに大切なこと | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する |
| レポート | 30 | 課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。<br>・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・知識から実践へと進むことができるように，積極的に授業に参加し，授業外でもしっかり練習をして欲しい。 |
| 授業外学修 | 1　課題については十分に調査してレポートを作成すること。<br>2　プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。<br>3　ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせること。<br>上記に関連して授業までに４時間以上の準備を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 英語プレゼンのトリセツ | 藤代昇丈 | 日本橋出版 | 978-4-434-27950-8 | 1，600円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべきプレゼン技術について，ペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | プロフェッショナル・イングリッシュ | 授業番号 | LF302 | サブタイトル | (映画の英語) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本講義では， 主人公が外資系企業に就職し国際プロジェクトに携わる展開の中で， 会社組織や国際業務に必要な英語力を主人公とともに学ぶ。また， ビジネスに関連する様々なアクティビティを通して英語の4技能を向上させるとともに， ビジネス社会で必要となる実践的な英語力の習得を目指す。 |
| 到達目標 | １．ビジネス関連の英語の語彙や表現を理解できる。<br>２．グローバルな職場で求められる英語力と実用的な知識を身につけることができる。<br>３．ビジネス現場で英語でコミュニケーションを取ることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Unit 1　就職活動<br>Telephone Communication 取り次いでもらう・取り次ぐ<br>Business Topics 高まるビジネス英語の必要性 | |
| 第2回 | Unit 2　面接<br>Telephone Communication 間違い電話<br>Business Topics 就職面接のポイント | |
| 第3回 | Unit 3　会社プロフィール<br>Telephone Communication 不在のときの応対<br>Business Topics 日本企業の特徴 | |
| 第4回 | Unit 4　仕事の内容<br>Telephone Communication 取り次ぎを断る<br>Business Topics 会社の組織 | |
| 第5回 | Unit 5　会議開催の通知<br>Telephone Communication メッセージを残す・あずかる<br>Business Topics グローバル企業でのコミュニケーション | |
| 第6回 | Unit 6　ビジネスパートナーを空港で出迎える<br>Telephone Communication 本人による電話応対<br>Business Topics 出入国手続き | |
| 第7回 | Unit 7　受付での対応<br>Telephone Communication ボイスメール<br>Business Topics 国際ビジネスで大切なホスピタリティの精神 | |
| 第8回 | Unit 1からUnit 7までのまとめ<br>中間試験 | |
| 第9回 | Unit 8　紹介と名刺交換<br>Telephone Communication アポイントメントをとりつける<br>Business Topics 異文化間コミュニケーション | |
| 第10回 | Unit 9　会議冒頭のあいさつ<br>Telephone Communication 会議に遅れることを伝える<br>Business Topics 訪日外国人を増やすための政府の取り組み | |
| 第11回 | Unit 10　プレゼンテーション<br>Telephone Communication 打ち合わせの申し入れ<br>Business Topic プレゼンテーションのスキル | |
| 第12回 | Unit 11　交渉<br>Telephone Communication ねぎらいと別れのあいさつ<br>Business Topics 望ましいネゴシエーションとは? | |
| 第13回 | Unit 12 接待<br>Telephone Communication 感謝を述べる<br>Business Topics 海外のビジネスパートナーを接待する | |
| 第14回 | ビジネス場面におけるE-mailライティング | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。 |
| レポート | 30 | 毎回ビジネストピックを全訳して提出すること。 |
| 小テスト | 50 | 既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を訳し，未知の単語は調べたうえで授業に臨むこと。<br>・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。 |
| 授業外学修 | １．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。<br>２．復習として，授業で学んだビジネスに関する英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 実践ビジネス英語 | 辻和成・辻勢都・Margaret M. Lieb | 朝日出版社 | 978-4-255-15659 | 1，800+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 観光産業論 | | | 授業番号 | LF303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 田村　秀昭 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 観光産業の歴史的変遷，旅行業の観光産業内の位置づけ，ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理，観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。<br>具体的には(1)観光産業の歴史と現状の把握，(2)旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲産業との関係，(3)宿泊産業の経営形態とマネジメント，(4)観光・レジャー産業の動向その将来像，などについて幅広く学ぶ。<br>また，観光資源を活用し地創方創生を推進する観光まちづくりに取り組める人材の育成をめざして講義・解説する。<br>担当教員が40年に及ぶ観光・旅行業界での経験を生かした「現場」の実情を解説します。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・観光産業の概要と社会への影響を理解できる。<br>・観光産業の果たす役割と仕組み，及び課題を理解できる。<br>・宿泊業におけるホスピタリティと マネジメントについて理解できる。<br>・観光を核とした地域活性化等のまちづくり振興方法について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシー に掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。<br>また，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 観光とは何か(観光産業の概念) | 田村秀昭 |
| 第2回 | 観光産業の歴史と現状 | 田村秀昭 |
| 第3回 | 観光の効果，観光産業の構図と経営 | 田村秀昭 |
| 第4回 | 旅行業の歴史と変遷 | 田村秀昭 |
| 第5回 | 旅行会社の業務(アウトバウンド) | 田村秀昭 |
| 第6回 | 旅行会社の業務(インバウンドと観光開発) | 田村秀昭 |
| 第7回 | 宿泊産業の歴史とホテル経営の理念 | 田村秀昭 |
| 第8回 | ホスピタリティ(ホテル サービスと日本のおもてなし) | 田村秀昭 |
| 第9回 | 宿泊産業の経営形態とマネジメント | 田村秀昭 |
| 第10回 | 観光に関わるその他の産業 | 田村秀昭 |
| 第11回 | 地方創生と観光 | 田村秀昭 |
| 第12回 | 旅行商品の着想(発地型から着地型へ) | 田村秀昭 |
| 第13回 | 観光資源の活用(地域の産業と観光との連携) | 田村秀昭 |
| 第14回 | 観光まちづくりのあり方 | 田村秀昭 |
| 第15回 | 観光産業の課題と展望 | 田村秀昭 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 10 | レポート・提出物 |
| 小テスト | 10 | 復習の意味での小テストを実施します。 |
| 定期試験 | 20 | 期末試験 |
| その他 | 10 | プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 基本は授業中の姿勢，積極的な発言などを評価します。<br>レポート，小テスト，プレゼンテーションなどにより，授業への参画意識を高めていただき，その一つひとつを評価に加えます。<br>また，定期試験はこの講義のまとめでありますが，100点満点を五分の一に圧縮し，全体では20%の評価といたします。 |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ情報収集を行うなど，自主的な学習に努めること。<br>・授業中にペアあるいはグループでのワークショップや発表活動を実施するので積極的に参加すること。<br>・観光・レジャー産業を利用した地域活性化案を考える習慣を付けること。 |
| 授業外学修 | ・テキスト内容については授業までに予習すること。<br>・毎回の授業内容について復習しておくこと。<br>・受講において事前に課題を出す場合があります。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 観光概論 | 宍戸学ほか | (株)JTB総合研究所 | | 2，477円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 観光産業論 | 林清 | 原書房 | 978-4-562-10130-6 | 2，800円（税別） |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 観光経済新聞，トラベルジャーナル誌など観光系の業界紙などに目を通してください。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | (株)JTBでの38年間の旅行業，イベント・コンベンション事業，観光開発コンサル業の実績，中国運輸局・中四国農政局・中国経済産業局等での委員経験など |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起きている事象を例に具体的に講義する。行政の委員経験や美作市議会議員(産業建設委員長)の一事経歴を活かし，観光行政の方向性も示してゆく。 |

| 科目名 | 日・アセアン関係 | | | 授業番号 | LF304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 冨田　暁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | アセアン加盟10カ国は参加国の主権を重んじ，意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが，経済を中心に次第に地域統合の度合いを高めつつある。それに加えて，アセアンという地域連合は国際社会の様々な場で存在感を強めつつある。また，2019年のアセアンの総人口は6.5億人を上回り，経済発展の著しい地域でもある。日本にとっても，アセアン諸国との交流は政治・経済・文化のあらゆる分野において重要性を益々増加させている。授業では，アセアン加盟国のそれぞれの歴史・政治・経済・文化の特徴を概観し，日本との関係についても学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | アセアン各国の特徴（多様性）と共通性，ならびに急速な経済発展を続けるアセアンの潜在力を理解できるようになる。それに加えて，現在までの日本とアセアンとの関係について理解・考察した上で，今後の関係の在り方について考察・展望できる視点を養う。そしてそれらによって，自身が得た知見を他人に的確に伝え議論できる能力を養成・強化する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の進め方としては，最初の数回は教員によるアセアン（東南アジア）の歴史・文化に関する基礎的な説明・解説を行う。その後は受講生に国別の概要紹介を割り当てる（誰がどの回を担当するかは相談して決定する）。受講生は下記の参考文献などを使用して担当箇所の要旨を準備してプレゼンテーションを行い，それに対して教員が解説を加えると共に，受講生全員で議論する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 東南アジアの自然と社会 | |
| 第2回 | 古代・中世東南アジアの歴史と文化 | |
| 第3回 | 近世東南アジアの歴史と文化 | |
| 第4回 | 近代東南アジアの歴史と文化（1）<br>：植民地と民族主義・ナショナリズム | |
| 第5回 | 近代東南アジアの歴史と文化（2）<br>：日本占領期と独立 | |
| 第6回 | アセアンの概観 | |
| 第7回 | タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 | |
| 第8回 | ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本の関係 | |
| 第9回 | カンボジア・ラオスーの政治・経済・文化 | |
| 第10回 | フィリピンの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） | |
| 第11回 | ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） | |
| 第12回 | インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） | |
| 第13回 | マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） | |
| 第14回 | シンガポールの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 | |
| 第15回 | 日本のなかのアセアン | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 毎回の授業での，積極性や取り組み態度ならびに発表・討議への参加状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 課題として与える最終レポートの結果を評価する。課題内容について調査結果を具体的かつ端的に述べた上で自分の分析・コメントが十分になされていることを評価基準とする。レポートについては教員からのコメントを返す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 自分の発表担当回の後の授業で，発表時に示された質問や論点に関する補足解説をしてもらう。それに対する取り組みや回答内容に対して評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講にさいしては高校卒後程度または一般常識程度の，歴史，地理，政治経済などの知識を確認しておくことが望ましい。<br>本授業では，相互学習による理解促進と対話による相互理解進展のためにも，単に講義や発表を聞いて理解するだけではなく，質疑や議論に積極的に参加することが期待される。 |
| 授業外学修 | 配布する資料，使用テキスト，紹介する参考文献をもとに予習復習を行うこと。ニュースやインターネットなどを通じてアセアン諸国に関する情報を日々チェックすること。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 図解　ASEANを読み解く（第2版） | みずほ総合研究所 | 東洋経済新報社 | 978-4492093283 | 1800円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 黒柳米司・金子芳樹・吉野文雄（編著）『ASEANを知るための50章』明石書店，2015年。<br>今井昭夫（編集代表）『東南アジアを知るための50章』明石書店，2014年。<br>古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書），岩波書店，2021年。<br>その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 身の回りに存在するアセアンに関係する様々な事柄に注目してみることで授業に対する興味関心や理解度が深まります。<br>令和5年度改訂 |
| 注意事項 | 受講生の受講状況や新型コロナウイルスの感染状況によっては，受講生と相談の上で講義計画・内容を適宜修正・変更する可能性があります。 |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国際経営論 | | | 授業番号 | LF404 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義の目的は，国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず，国際経営活動について学ぶ。具体的には，輸出，海外生産，海外研究開発，輸入，技術導入，外国企業との合併などの活動である。次に，現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで，現代の国際経営ではどのような課題が見られるか，国際経営の今後の展望はどうであるかに，ついても見ていく。<br>更には，国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく，国際経営の全体像，達成した成果，残されている課題についても理解しながら講義を進める。<br>授業では，積極的に事例を盛り込むことで，国際経営という広い領域についても，具体的にイメージできるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は，国際経営における基礎知識を理解し，日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には，国際経営に関する本や雑誌，記事を読み内容をわかった上で，その内容について他人に説明ができるようになることである。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き | |
| 第2回 | 国際経営とは：多国籍企業の経営 | |
| 第3回 | 国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開 | |
| 第4回 | 国際経営戦略(2)：ケーススタディ（トヨタ自動車） | |
| 第5回 | 国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達 | |
| 第6回 | 国際マーケティング(2)：グローバル・サプライチェーン・マネジメント | |
| 第7回 | 海外生産(1)：海外生産の発展と日本的生産のグローバル展開 | |
| 第8回 | 海外生産(2)：ケーススタディ（シーゲート・テクノロジーズ） | |
| 第9回 | 技術移転と海外研究開発：技術の国際移転，海外研究開発とソフトウェアの海外開発 | |
| 第10回 | 国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策 | |
| 第11回 | 北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州 | |
| 第12回 | アジアのなかの日本企業：アジアと中国，インド＆ケーススタディ（アジアにおけるグローバル小売競争の展開） | |
| 第13回 | 新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略 | |
| 第14回 | サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出 | |
| 第15回 | 国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない） |
| レポート | 30 | 講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前学習は不要であるが，既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して，理解があいまいな場合は，再度学習をしておくこと。<br>毎回，事後学習として，授業で実施した内容について，復習をして欲しい。復習のポイントは，授業中に指示をする。<br>また，「国際経営」に関する新聞等の記事を読み，テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。 |
| 授業外学修 | 上記，復習，新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『国際経営 第4版』（2015） | 吉原英樹 | 有斐閣 | 4641220646 | 2160円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『ケースに学ぶ国際経営』（2013） | 吉原英樹編，白木三秀編，新宅純二郎編，浅川和宏編 | 有斐閣 | 4641184151 | 3024円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | アジア食品論 | | | 授業番号 | LG201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | アジアは有史以来世界の人口の6割を占めている。食の面から考えると，世界の主要文明が主食穀物を小麦として発達して来たのに対して，日本を含む東アジアとその南に位置する東南アジアでは米を主食穀物米として発達してきた。<br>この講義では，日本と食の面で共通性を強く持つ東アジア，東南アジアを中心にそこでの農業生産，食品生産と流通，貿易の状況を理解しながら，日本との関係，方向性を考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 身近な外国としての外国，東アジア，東南アジアに対して，食品及び農産物という対象物の生産，流通，消費及び貿易の事態を理解することと合わせて，グローバリゼーションの進展と日本との関係を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アジアの米食文化とヨーロッパの肉食文化 | |
| 第2回 | 今年日本の食料消費 | |
| 第3回 | 世界の食料需給と日本の食料自給 | |
| 第4回 | 日本の食料輸入の動向 | |
| 第5回 | 東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（１）中国１ | |
| 第6回 | 東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（２）中国２ | |
| 第7回 | 東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（３）韓国 | |
| 第8回 | 東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（１）ベトナム | |
| 第9回 | 東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（２）タイ | |
| 第10回 | 東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（３）インドネシア | |
| 第11回 | 東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（４）フィリピン等 | |
| 第12回 | 他のアジア地域の農業，食品の生産と食生活 | |
| 第13回 | アジア食品と「ハラル」 | |
| 第14回 | 日本の農産物輸出とアジア | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。 |
| レポート | 30 | 中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料･データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。 |
| 授業外学修 | 復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。<br>以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | フードシステム論 | | | 授業番号 | LG202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | フードシステムとは，「食料となる農水産物が生産され，消費者にわたるまでの食料・食品の流れをシステムとしてとらえたもの」である。物の動きとして，農林水産業から，農水産物卸売業，食品製造業，食料品小売業，外食産業を経て消費者までの流れをトータル的に考察していくものである。本講義では，それぞれの産業に携わる人々の動きに注目して，消費者の行動から遡って考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本の農業，食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に，消費者行動の変化についての基礎的知識が必要とされる。あわせて，フードシステムを構成する諸産業・企業の関係性を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | フードシステムとは | |
| 第2回 | 日本の食と農の変遷 | |
| 第3回 | 消費者行動の変化と食料消費の動向 | |
| 第4回 | 消費者の青果物購買と消費 | |
| 第5回 | 外食産業と中食産業 | |
| 第6回 | 農産物流通の動き（１）小売市場 | |
| 第7回 | 農産物流通の動き（２）卸売市場 | |
| 第8回 | 農産物流通の動き（３）農産物直売 | |
| 第9回 | 食品加工業 | |
| 第10回 | 日本農業の動向 | |
| 第11回 | 農業の六次産業化 | |
| 第12回 | 日本の農産物・食品貿易 | |
| 第13回 | 日本の食料自給率 | |
| 第14回 | 食品流通における諸問題 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。 |
| レポート | 30 | 中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料･データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。 |
| 授業外学修 | 復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。<br>以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域資源論 | | | 授業番号 | LG203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，地域経済の衰退や人口減少ならびに高齢化問題の解決を目的として，「地域資源活用による地域活性化対策」に関わる計画策定ができるようにする。地域活性化対策を目的として，利用可能な地域資源の存在量の計測，および地域資源を活用した地域活性化対策に関わる問題点の把握と問題点解決のための対策を提示できる能力を備えた人材を育成する。具体的には，地域活性化のための「専門知識」，問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）地域社会が抱える問題点および課題を正確に把握し，地域活性化に対応可能な地域資源活用方策を提案できる。<br>２）地域における利用可能資源の分類ができる。<br>３）地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。<br>４）地域の人々と協力して地域資源活用に取り組むことができる。<br>５）地域活性化に対して，政策提案ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 我が国における戦後から高度経済成長期までの経済政策と地域社会との関係・問題点把握 | |
| 第2回 | 我が国における高度経済成長期からバブル経済崩壊までの経済政策と地域社会の問題点把握 | |
| 第3回 | 我が国におけるバブル経済崩壊以後から現代までの経済政策と地域社会の関係・問題点把握 | |
| 第4回 | 利用可能な地域資源リスト作成（１)自然資源リストの作成および資源の利用可能性把握 | |
| 第5回 | 利用可能な地域資源リスト作成（２）文化資源リストの作成および資源の利用可能性把握 | |
| 第6回 | 地域活性化と地域資源活用対策（１）農林水産業資源の活用 | |
| 第7回 | 地域活性化と地域資源活用対策（２）農村文化資源の活用 | |
| 第8回 | 地域活性化と地域資源活用対策（３）地場産業・技術の活用 | |
| 第9回 | 地域活性化と地域農業活性化（１）農業生産力アップによる地域経済効果 | |
| 第10回 | 地域活性化と地域農業活性化（２）地域活性化と農産物直売所の活用 | |
| 第11回 | 農山村地域の利用可能資源と地域活性化（１）農村文化の活用と地域活性化 | |
| 第12回 | 農山村地域の利用可能資源と地域活性化（２）地域特産物活用と地域活性化 | |
| 第13回 | 農業活性化と地域活性化 | |
| 第14回 | 地域内経済循環の意義（１） | |
| 第15回 | 地域内経済循環の意義（２） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。 |
| レポート | 10 | 地域資源の中で，どの様な地域資源が，どの様に活用されているかに関してインターネット等で情報収集し，具体的な事例紹介のレポートを提出させ，その内容および情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に評価する。 |
| 小テスト | 20 | 講義中に，理解度を確認するため，小テストを実施する。 |
| 定期試験 | 60 | 講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し，解答してもらう。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 関心のある社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。 |
| 受講の心得 | 農山村地域は，人口減少，産業・社会活動が停滞し，利用可能な資源はほとんど無い・・・・と言われているが，発想の転換次第では，利用可能な資源が沢山ある。どの資源を，どの様に活用すれば，地域活性化を為していけるのかについて，考え続けて欲しい。そして，疑問点に関して，講義中に質問して欲しい。 |
| 授業外学修 | 講義内容と関連する各地域の地域資源利用に関係する事例を紹介するので，(1)インターネット等で関連事案について調べ，整理しておく。また，(2)地域資源利用の具体的事例に関係する情報を収集する。とくに，農林水産省や国土交通省のホームページにアクセスし，情報収集しておくこと。また，気付いた点をメモしておき，講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として，講義ノートをまとめる。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した講義資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域政策 | | | 授業番号 | LG204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，(1)我が国が直面している人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の把握，そして，(2)これら諸問題解決のために実施すべき対策を提示すると同時に，(3)対策実現のために採るべき具体的行動計画を策定できる能力を備えた人材の育成を目指す。これらにより，地域社会問題解決のための「専門知識」，地域社会の問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 地域社会の抱える諸問題の把握とこれら諸問題解決に向けた対策を提示できる能力を身につけさせることを到達目標とする。<br>１）日本全体における人口問題や地域経済が抱える問題点および課題を正確に把握できる。<br>２）地域政策のための政策立案能力を身につけることができる。<br>３）地域活性化に対して，政策提案ができる。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域政策の論理 | |
| 第2回 | 国土計画の展開（1） | |
| 第3回 | 国土計画の展開（2） | |
| 第4回 | 国土交通省による国土のグランドデザイン2050(1) | |
| 第5回 | 国土交通省による国土のグランドデザイン2050(2) | |
| 第6回 | 国土交通省による国土のグランドデザイン2050（3） | |
| 第7回 | 国土計画と農業・農村 | |
| 第8回 | 国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(1)地方自治体における財政問題』 | |
| 第9回 | 国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(2)中国地域の人口問題』 | |
| 第10回 | 国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(3)中国地域の経済問題』 | |
| 第11回 | 人口移動と経済問題 | |
| 第12回 | 人口問題と社会問題 | |
| 第13回 | 農林業から見た地域経済活性化 | |
| 第14回 | 製造業，流通業から見た地域経済活性化 | |
| 第15回 | EUの地域政策 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。 |
| レポート | 10 | 人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の理解が出来ているかどうかを評価する。また，関連情報の収集に関する努力も評価する。 |
| 小テスト | 20 | 講義中に，理解度を確認するため実施する |
| 定期試験 | 60 | 講義期間全体を通じての内容について試験を課し，解答してもらう。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 関心のある地域社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問すること。 |
| 受講の心得 | 地域社会は，人口減少，産業・社会活動の停滞などにより，活力が低下してきている。しかしながら，中国地域には，農林業や，地域に根ざした企業のなかに，新たな発展の可能性を秘めた事例がある。さらに，有望な利用可能資源も沢山ある。どの資源を，どの様に活用すれば，地域活性化を為していけるのかについて，考え続け，本講義から，何らかのヒントを得て欲しい。 |
| 授業外学修 | インターネットを通じて，全国の中で取り組まれている，ユニークな地域活性化への取り組みを各自で調べ，纏める。その成果を，講義中に発表できる時間を確保する。以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は使用しない。必要に応じて，国・県・地方自治体等の資料を印刷・配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地域政策第2版 | 山崎朗，杉浦勝章他 | 中央経済社 | 978-4-502-44671-9 | 2400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に指示しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食料経済 | | | 授業番号 | LG205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，まず食料消費の経済理論と食料の流れ，それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で，わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について，食料輸入と食料自給率，世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し，全体像を説明する力を身につける。<br>（2）食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。<br>（3）食料需給に関連する社会問題について，経済学を基盤とした観点から考察，説明する力を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食料経済の対象領域と課題－フードシステムとは何か？何を学ぶのか？－<br>フードシステムとは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 食料経済の理論（1）<br>食品の商品としての特徴，食品選択の理論について理解する。 | |
| 第3回 | 食料経済の理論（2）<br>食料需要の価格弾力性，所得弾力性とエンゲル係数について理解する。 | |
| 第4回 | 食生活の成熟(1)<br>食料消費の変化，高級化，高付加価値化について理解する。 | |
| 第5回 | 食生活の成熟（2）<br>食料消費の時期と特徴について理解する。 | |
| 第6回 | 食料消費パターンの変化<br>食料消費構造の変化やその誘因について理解する。 | |
| 第7回 | 食料の安全保障と自給率(1)<br>食料需給表と食料自給率について理解する。 | |
| 第8回 | 食料の安全保障と自給率（2）<br>食料自給率の変化と食料安全保障について理解する。 | |
| 第9回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第10回 | 食品工業の構造と特徴<br>食品工業の現状と特徴を理解する。 | |
| 第11回 | 食品流通業の構造と特徴（1）<br>卸売市場の機能を理解する。 | |
| 第12回 | 食品流通業の構造と特徴（2）<br>食品小売業の機能と特徴を理解する。 | |
| 第13回 | 外食・中食の供給構造と特徴<br>外食産業・中食産業の現状と特徴を理解する。 | |
| 第14回 | 世界の人口と食料<br>世界の食料問題について理解する。 | |
| 第15回 | 食生活と政府の役割<br>市場メカニズムの限界と政府の役割，外部不経済について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義では食料消費の変遷，関連産業の動向，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>（2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。<br>（3）発展学修として，食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フードシステムの経済学 第6版 | 時子山 ひろみ ， 荏開津 典生 ， 中嶋 康博 | 医歯薬出版株式会社 | | 2700 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | アグリビジネス論 | | | 授業番号 | LG301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | アグリビジネスとは，「農業資材・サービス供給産業，食品加工産業，飲食産業そして関連する流通産業等を総称したものである」と定義される。これらは農業関連産業として位置づけられ，グローバリゼーションの下で日本農業の方向性を考えることが重要となる。この講義では，日本農業に焦点を当て，農商工連携あるいは農業の六次産業化の実態と方向性を考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本及び世界の農業，食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に，これらの持つ諸問題の理解においては，グローバリゼーションとアグリビジネスについての基礎的知識が必要とされる。あわせて，アグリビジネスの具体的な姿を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アグリビジネスの概観と概念 | |
| 第2回 | 日本におけるアグリビジネスの動き | |
| 第3回 | アグリビジネスと農業 | |
| 第4回 | 農業と資材産業 | |
| 第5回 | 食品加工産業の動向 | |
| 第6回 | 外食産業の動向 | |
| 第7回 | 農産物・食品の流通の変化と農業 | |
| 第8回 | アグリビジネスの下での農村 | |
| 第9回 | 農商工連携と農業，農村 | |
| 第10回 | 農業の六次産業化 | |
| 第11回 | 農業における法人化 | |
| 第12回 | 都市農村交流とアグリビジネス | |
| 第13回 | アジアにおけるアグリビジネス（１） | |
| 第14回 | アジアにおけるアグリビジネス（２） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。 |
| レポート | 30 | 中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定） |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料･データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。 |
| 授業外学修 | 復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。<br>以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 農産物直売所と地域活性化 | | | 授業番号 | LG302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，農産物直売所の運営を通じて，地域農業振興と地域活性化との双方を同時に達成可能とする「地域活性化プラン策定」を実施できる力を養うことを目的とする。農業・農村における問題点の把握と問題点解決のための対策立案が実施できる人材育成を目指す。これらにより，農産物のマーケティング戦略策定や地域活性化プラン策定に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）農産物直売所が抱える問題点および課題の把握・分析・整理ができる。<br>２）農産物直売所が抱える問題点・課題の分析に基づいて，改善方策を提案できる。<br>３）農産物直売所の運営戦略・マーケティング戦略立案が出来る。<br>４）課題解決を通じて，地域活性化対策の提案が出来る。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考力・問題解決能力＞を習得するのに貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 我が国における農業・農村の現状(1) | |
| 第2回 | 我が国における農業・農村の現状(2) | |
| 第3回 | 農産物流通の現状と問題点・課題(1) | |
| 第4回 | 農産物流通の現状と問題点・課題(2) | |
| 第5回 | 都市農山村交流と地産地消 | |
| 第6回 | 農産物直売所の意義と問題点 | |
| 第7回 | 代表的な農産物直売所（1） | |
| 第8回 | 代表的な農産物直売所（2） | |
| 第9回 | 全国的なＪＡ戦略としてのファーマーズマーケット | |
| 第10回 | 農産物直売所の成功事例の発表（1） | |
| 第11回 | 農産物直売所の成功事例の発表（2） | |
| 第12回 | 農産物直売所の組織と運営 | |
| 第13回 | 地域活性化における農産物直売所の役割 | |
| 第14回 | 農産物直売所と高齢者福祉との関係性分析 | |
| 第15回 | 農産物直売所と地域振興 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 予習・復習に関連して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。 |
| レポート | 30 | 農産物直売所と地域振興の成功事例に関係する情報を収集し，成功事例の内容に関してレポートを提出させる。また，レポート内容だけでなく，情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に評価する。 |
| 小テスト | | 講義中に，理解度を確認するため実施する |
| 定期試験 | 60 | 講義内容全体に関係する試験問題に回答してもらい，その内容を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 講義内容と関連する社会問題について，新聞・インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。 |
| 受講の心得 | 農産物直売所の店舗数は，コンビニ店舗数の約半分である。店舗数だけから見ても，大きな影響力を持っていることが分かる。一方，コンビニ店と異なるのは，直売所の管理主体は，通常，地域の農家であり，多数の農家が直売所の経営に関わっていることである。基本的には，関係者全員の合意形成によって，直売所の運営方針が決定されている。経営組織体としては，コンビニとは，大きく異なっている。もちろん，スーパー・マーケットとも大きく異なって |
| 授業外学修 | 諸種の農産物直売所に関係する情報を紹介するので，(1)インターネット等で調べて，直売所の問題点や課題について整理しておく。また，(2)農産物直売所を直接訪問し，気付いた点をメモしておき，講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として講義ノートをまとめる。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した講義資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。<br>本講義に関係すると思われる社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 農業政策と環境・資源保全 | | | 授業番号 | LG303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中安　章 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 世界人口は急激な増加傾向にある。一方，食料生産に不可欠な農地や水資源は，質的劣化や量的不足が大きな問題となっている。また，大気中の二酸化炭素増加による地球温暖化現象により，食料生産は不安定化している。本講義では，食料安定供給を可能とする経済システム構築や，農業生産と環境・土壌・水資源保全等に関する問題点・課題の把握と解決策立案ができるようにする。そのため，農業問題・環境問題に関わる「専門知識」や「思考力・判断力・表現力」を養い，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）我が国経済全体の中で，農業生産部門が担っている役割について理解できる。<br>２）食料生産と地域資源（土地資源・水資源・農村景観・森林資源など）との関連を理解し，政府が実施している農業政策の意味を理解できる。<br>３）世界レベルでみた農地・水資源問題と食料・人口問題との関係が理解できる。<br>４）我が国における農業・農村の問題を理解すると同時に，問題解決に向けた政策提案ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | わが国の食料・農業・農村の動向（1） | |
| 第2回 | わが国の食料・農業・農村の動向（2） | |
| 第3回 | わが国の食料消費構造の変化 | |
| 第4回 | 食料自給率の推移と農業 | |
| 第5回 | わが国の戦後農業政策の展開（1） | |
| 第6回 | わが国の戦後農業政策の展開（2） | |
| 第7回 | 農業生産と水資源問題 | |
| 第8回 | 農業就業人口と農村問題 | |
| 第9回 | 過疎化と農業・農村問題 | |
| 第10回 | 環境保全型農業の展開 | |
| 第11回 | 世界の有機農業 | |
| 第12回 | 食料安全保障と環境問題 | |
| 第13回 | 自然災害と農林業（1） | |
| 第14回 | 自然災害と農林業（2） | |
| 第15回 | 食料安全保障政策の必要性について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。 |
| レポート | 10 | 世界で発生している自然環境問題と食料生産との関係について，インターネット等で情報収集し，具体的な事例紹介のレポートを提出させ，その内容および情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に判断する。 |
| 小テスト | 20 | 講義中の重要テーマに関して理解度を確認するため小テストを実施 |
| 定期試験 | 60 | 講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し，解答してもらう。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 講義内容と関連する社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。 |
| 受講の心得 | 「食料安全保障」という言葉は，あまりなじみのない言葉だと思います。しかしながら，皆さんが，毎日，安心して食べ物を食べることが出来るということは大変「有り難い」ことなのです。地球上の人口は，約78億４千万人ですが，そのうち，８億２千万人は食料不足により「死」に直面しています。そのことを心に留めて講義に参加してください。毎日，十分な食料を確保でき，それを食することが出来ることの有り難さを考えて欲しい。 |
| 授業外学修 | 講義中に課題をだすので，インターネット等を活用して，世界における食料問題や人口問題および食料生産に必要不可欠な農地・水資源問題に関係する記事を読んでおくこと。理解度を確認するため，講義中に質問をする。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | フードマーケティング論 | | | 授業番号 | LG304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，まずマーケティング理論の基礎について理解する。その上で，わが国の農産物や加工食品におけるマーケティング戦略について実際の事例から学修する。さらに食品産業の中でも外食産業（フードサービス産業）のマーケティング戦略について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。<br>（2）農産物，加工食品に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解すること。<br>（3）フードサービス産業におけるマーケティング戦略の知識を修得し，その特徴について理解しすること。<br>（4）（１）～（3）を用いて，フードマーケティング戦略を考察，説明する力を身につける。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか-<br>授業の概要と全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 食市場とマーケティング<br>マーケティングの手法やマーケティング・ミックスについて理解する。 | |
| 第3回 | マーケティングの基礎知識（1）<br>製品戦略について理解する。 | |
| 第4回 | マーケティングの基礎知識（2）<br>価格戦略について理解する。 | |
| 第5回 | マーケティングの基礎知識（3）<br>チャネル戦略について理解する。 | |
| 第6回 | マーケティングの基礎知識（4）<br>プロモーション戦略について理解する。 | |
| 第7回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第8回 | 事例検討（1）農産物<br>事例分析からマーケティング手法の理解を深める。 | |
| 第9回 | 事例検討（2）農産物<br>事例分析からマーケティング手法の理解を深める。 | |
| 第10回 | 事例検討（3）スナック菓子<br>事例分析からマーケティング手法の理解を深める。 | |
| 第11回 | 事例検討（4）加工食品<br>事例分析からマーケティング手法の理解を深める。 | |
| 第12回 | フードサービス産業の概要と特徴<br>フードサービス産業の歴史と特徴について理解する。 | |
| 第13回 | フードサービスのブランド・マネジメント<br>フードサービスにおけるブランド戦略の意義及びマネジメント手法について理解する。 | |
| 第14回 | フードサービス産業における事例検討<br>事例分析からマーケティング手法の理解を深める。 | |
| 第15回 | 全体のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解，説明できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>（2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。<br>（3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フード・マーケティング論 | 藤島 廣二 ， 宮部 和幸 ， 木島 実 ， 平尾 正之， 岩崎 邦彦 | 筑波書房 | 978-4-8119-0482-5 | 2500円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フードビジネス論 | 大浦 裕二， 佐藤 和憲 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09116-4 | 2，400円＋税 |
| 現代フードサービス論 | 日本フードサービス学会(編) | 創成社 | 978-4-7944-2461-7 | 2，300円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 農業協同組合論 | | | 授業番号 | LG401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，はじめに協同組合とは何かについて学修する。その上で，わが国の農家のほとんどを組合員として組織化する農業協同組合について学び，その特徴と様々な事業内容について理解する。さらに農業協同組合がおかれる現状を概説し今後のあり方について考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）協同組合とは何かを理解し，その目的と役割について基本的な知識を修得する。<br>（2）農業協同組合がはたしてきた役割を理解し，自らの言葉で説明する力を身につける。<br>（3）農業協同組合がおかれる現状について理解し，自ら考察できる力を身につける。<br>本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 農業協同組合論の対象領域と課題-何を学ぶのか- | |
| 第2回 | 協同組合の基礎知識(1) | |
| 第3回 | 協同組合の基礎知識(2) | |
| 第4回 | 国内外の多様な協同組合 | |
| 第5回 | 農業協同組合とは | |
| 第6回 | 農業協同組合の歴史 | |
| 第7回 | 農業協同組合の組織と運営 | |
| 第8回 | 農業協同組合の事業と活動の特徴 | |
| 第9回 | 指導事業 | |
| 第10回 | 販売事業 | |
| 第11回 | 購買事業 | |
| 第12回 | 信用・共済事業 | |
| 第13回 | 利用・厚生・高齢者福祉事業 | |
| 第14回 | 農業協同組合の方向性と今後のあり方 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義では農業協同組合のもつ役割や機能を理解し，今後のあり方を考察できることを到達目標とする。そのためには，農業や農村，農業協同組合に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。<br>（2）発展学修として，農業や農村，農業協同組合に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 専門ゼミⅠ | | | 授業番号 | LH201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ、佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 自ら設定した（見出した，あるいは選択した）課題について，文献を収集し，文献内容の要約を含めたデータベースを作成する方法を学習することで，これまでの研究によって蓄積された情報・知識を修得する。それらの成果はその都度ゼミで発表し，意見交換を通じて理解を深める。また，特定のテキストを精読するゼミ，フィールドワークを実施するゼミなどがあるが，それぞれの場合も研究に必要な基礎的方法を学び，それらの成果を報告（書評，調査結果報告）することで，プレゼンテーションの技能を高める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 自ら取り上げた課題に関する文献リストを作成し，主要文献について，その内容の要旨を作成して，これまでの研究成果をレビューする。フィールドワークを実施した場合には，ポスター発表を行う。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 15回 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　ゼミ概要紹介<br>第2回　文献収集とリスト作成の方法<br>第3回～第13回　文献データベース作成と文献精読あるいはフィールドワーク<br>第14回～第15回　書評および調査結果報告書の作成 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加よって評価する。 |
| レポート | 40 | 提出されたレジメ，レポート，ポスターで評価。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 各人がそれぞれの問題関心に基づいて取り上げたテーマであっても，ゼミで意見・アイディアを交換し，集団で作品を作成する楽しさを覚える。 |
| 授業外学修 | 1．図書館を利用して文献収集に努める。<br>2．文献内容の要約に努める。<br>3．フィールドワークに当たっては，様々な情報源から情報を収集する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義のなかで適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 専門ゼミⅡ | | | 授業番号 | LH202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、佐々木　真帆美、大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 専門ゼミIに引き続き，文献収集を進め，文献リストの充実を計る。先行研究の文献レビューを行うために，文献の分類整理を行う。フィールドワークを行うゼミの場合には，調査を引き続き進め。専門ゼミIで不足していた部分を再調査して補充し，調査報告書を作成する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 文献レビューおよび調査報告書の作成・提出を目標とする。また，作成された作品について，ゼミで討議し，内容をブラシュアップする。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 15回 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　専門ゼミIの成果の確認<br>第2回～第13回　文献レビューおよびフィールドワークを実施<br>第14回～第15回　書評および調査報告書を作成し，発表する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 40 | 発表レジメ，報告書などで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ゼミで積極的に意見交換することに努める。グループで知識・技能・アイデアを共有するように心がける。 |
| 授業外学修 | 1．図書館を利用して文献収集に努める。<br>2．文献内容を要約し，それをデータベースにして保管する習慣を身につける。<br>3．フィールドワークにおける情報収集の方法を実践する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 専門ゼミⅢ | | | 授業番号 | LH301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策、藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ、佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 専門ゼミIIIでは，専門ゼミI，IIで培った知識・技能に基づいて，学術研究に適したテーマを設定し，卒業研究につなげる研究方法の理解・修得を進めるとともに，論文執筆の仕方についても学術論文の講読を通して学修する。また，取上げたテーマについての作業過程をその都度報告し，ゼミの構成員の間でディスカッションし，作業の進め方などをチェック・調整する。ゼミでのディスカッションを通じて，セミ構成員は他のメンバーが取り組んでいる研究テーマについても知識を共有して，集団で研究を進めることを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業研究に必要となる学術論文の作成に必要となる分析方法，議論の仕方，書き方などを修得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 15回 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　卒業論文とは<br>第2回～第13回　文献の収集，作業過程の報告とディスカッション<br>第14回～第15回　成果のまとめと発表 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。 |
| レポート | 50 | 発表レジメおよび報告書などで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ゼミでのディスカッションに積極的に参加し，自分の考えを論理的に説明できるように努力する。 |
| 授業外学修 | １．自分が取り上げたテーマに関する文献や情報を幅広く収集する。<br>２．ゼミで修得した知見や方法を身につけるために，関連文献などにも当たって自習する。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業経営コンサルタント(佐々木公之）グローバル企業でのマーケティング及び経営（杉山慎策） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 専門ゼミⅣ | | | 授業番号 | LH302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策、藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ、佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 専門ゼミⅣでは，専門ゼミⅠ～Ⅲで取り組んだ内容をさらに発展させ，学術論文の体裁を備えた成果物を作成できるように，論文構成の立て方，分析手法，文献レビューなどについての理解を深める。その間，ゼミで繰り返し作業過程を報告し，ディスカッションを通じて自分の考えを論理的なものにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業研究のテーマを設定し，研究計画を作成できるようにする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　専門ゼミⅠ～Ⅲの成果を再確認し，卒業研究に向けての現時点の状態を把握。<br>第2回～第15回　研究作業の途中経過の報告と点検 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。 |
| レポート | 50 | 発表レジメおよび文献レビューなどで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ゼミでは，研究作業の報告とディスカッションが中心になる。そのため，研究作業の中間報告を決められたスケジュールで発表できるようにする。それと，ゼミでは積極的に発言し，アイデアを提供するとともに，自分の考えを明確する態度を養う。 |
| 授業外学修 | １．ゼミには，文献を熟読し，作業結果を吟味して，自分の立脚点や論点を明らかにして臨む。<br>２．ディスカッションで学んだ事項を再確認し，今後の作業に活かす努力をする。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業経営コンサルタント(佐々木公之)，グローバル企業でのマーケティング及び経営（杉山慎策） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 専門ゼミV | | | 授業番号 | LH401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 専門ゼミVでは，専門ゼミI～IVの成果として提出される研究テーマおよび研究計画を基に，卒業論文作成のための調査・文献精読を開始する。ゼミでは，研究の進捗をチェックするために，自身の見解の裏付けとなる資料を用意し，提示・説明する。同時に，今後さらに補充の必要がある部分を明確にし，そのための取り組みを始める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文執筆に移るために必要な文献・資料等を整える。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回専門ゼミI～IVの成果に基づいて設定した研究テーマおよび研究計画の説明<br>第2回～第15回　研究計画に基づいた文献精読，調査・分析を進め，中間報告する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。 |
| レポート | 60 | 発表レジメおよび卒論の中間報告書などで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 卒業研究を着実に進められるように研究計画を絶えずチェクしながら作業を進める。 |
| 授業外学修 | １．文献レビューなどは執筆作業を進める。<br>２．間接的なデータを含めて資料の補充に努める。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。適宜資料を紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 専門ゼミVI | | | 授業番号 | LH402 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 卒業研究VIは，これまでに収集検討した文献・資料に基づいて論文執筆を進めるためのゼミである。教員からのコメントに加えて，学生間でお互いの論文を点検し合うことにより，内容の修正や文章の校正を行っていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文を完成させる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 15回 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　論文作成の計画の再点検<br>第2回～第14回　執筆できた部分を報告し，ゼミで検討する。それを参考にして文章を推敲する。<br>第15回ゼミでのプレゼンテーション | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。 |
| レポート | 60 | 発表レジメおよび報告書などで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み，質問等あれば教員に相談すること。 |
| 授業外学修 | １．論文執筆作業を進める。<br>２．ゼミでのディスカッションを踏まえて論文構成の再考と文章の推敲を重ねる。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 卒業研究 | | | 授業番号 | LH403 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策 | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本授業では，ゼミ担当教員等からのフィードバックを基に推敲した卒業論文を完成させ提出する。研究内容については，卒業論文中間発表会・最終発表会で口頭発表および質疑応答を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文を完成させ，指導教員等の助言を基に推敲した論文を提出する。卒業論文発表会では，口頭発表および質疑応答を行う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 口頭発表および卒業論文で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 卒業研究では，ゼミでの討論や発表会での議論を反映させ，自主的かつ積極的な態度で臨み，知識・理解，思考・問題解決能力，技能のすべてを注力して取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | トップリーダー講義（キャリア研究） | | | 授業番号 | LI101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 各業界で活躍されるトップリーダー（経営者・起業家・専門家等）を招き業界のしくみ，求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・岡山地域を中心に各業界でご活躍されるリーダーから直接，社会で必要な知識，社会的スキル，また考え方について講義を通じて直接指導を受け，職業理解を高め，将来の目指す方向，大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。<br>・将来の目標が明確に言えることができる。<br>・学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | トップリーダーとは<br>復習　トップリーダーについてまとめ | 佐々木 |
| 第2回 | アクティブラーニング演習<br>予習　アクティブラーニング練習課題　復習　レポート作成 | 佐々木 |
| 第3回 | トップリーダー講義(1)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第4回 | トップリーダー講義(2)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第5回 | トップリーダー講義(3)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第6回 | トップリーダー講義(4)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第7回 | トップリーダー講義(5)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第8回 | トップリーダーの気質と特徴 | 佐々木 |
| 第9回 | トップリーダー講義(6)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第10回 | トップリーダー講義(7)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第11回 | トップリーダー講義(8)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第12回 | トップリーダー講義(9)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第13回 | トップリーダー講義(10)　業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導<br>予習　リーダーの業界を調査　復習　講義レポート作成 | 外部講師+佐々木 |
| 第14回 | トップリーダーと業界分析(1) | 佐々木 |
| 第15回 | トップリーダーと業界分析(2) | 佐々木 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきなどが具体的に述べてあること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講前に，業界について事前に調査を行い，受講後，復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 配布プリント |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜配布 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 企業等からの講師による指導を実施 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。 |

| 科目名 | キャリア・デザイン | | | 授業番号 | LI301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 「将来の自分が何をしたいのか？」「どの様な学生生活で成長するのか？」など大学4年間の過ごし方，学習への動機付けを行う。将来の自分のあるべき姿を考え，4年間で何を学び，どの様な資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。挨拶，文章の書き方等の社会的基本技能習得や人生ロードマップ作成，大学4年間のアクションプラン作成を求める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での，自分自身を理解した上で，社会現状，各業界・業種の特徴，ワークスタイルなど考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。授業を通じて，将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き，そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第2回 | ライフコースを知ろう　～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第3回 | 働くことを考える：教材を通じて働くことの意義を理解する<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第4回 | 変化のなかの若者と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第5回 | 社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第6回 | 大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第7回 | 企業のフレキシビリティと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第8回 | 日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第9回 | 世界をみすえたキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第10回 | キャリアとビジネススキル(1)　～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第11回 | キャリアとビジネススキル(2)　～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ<br>教科書の事前・事後チェック | 佐々木 |
| 第12回 | キャリアとビジネススキル(3)　～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議<br>討議内容について準備と振り返り | 佐々木 |
| 第13回 | 人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う<br>レポート作成と振り返り | 佐々木 |
| 第14回 | 大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する<br>事前に発表準備と振り返り | 佐々木 |
| 第15回 | 大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化しアクションプランを考える<br>事後でのレポート作成 | 佐々木 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | ビジネスマナーが習得できているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・事前にトピックについて予習を行い，事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。<br>・受講前に，教科書を読み理解して授業に臨むこと<br>・グループワークでは積極的に授業に参加すること<br>・授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること |
| 授業外学修 | 1　授業毎に紹介する教科書，参考文献を次回授業までに読んでおくこと。<br>2　復習として，グループワーク，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された記事などを読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| サッカーボール型キャリア開発: グローバルキャリアに偏差値なし | 岩谷 英昭， 小泉 京美 | 白桃書房 | 978-4561256762 | 1980 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 別途指示 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（日本能率協会マネジメントセンター，2005） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。 |

| 科目名 | ビジネスプランコンテスト | | | 授業番号 | LI302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ・ビジネスプラン（事業計画書）の概念を学ぶことで，企業経営の経営計画・起業の本質を理解する。<br>・ビジネスプラン作成に必要な手順，方法等について学ぶ。<br>・ベンチャー企業の実例をもとに，成功・失敗の要因などについて考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・ビジネスプラン（事業計画書）の概念と，社会におけるその重要性を，他者に説明できるようになる。<br>・ビジネスプラン（事業計画書）を通じて，経営者・起業家の気持ちが持てるようになる）。<br>・広義の起業家精神を持って勉学，社会生活に臨むことができるようになる。<br>・身近なベンチャー企業の例を複数挙げられる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ビジネスプラン作成とは何か | 佐々木 |
| 第2回 | 良いビジネスプランを作成する準備（１）<br>-ビジネスプランの作成目的- | 佐々木 |
| 第3回 | 良いビジネスプランを作成する準備（２）<br>-ビジネスプランの進め方- | 佐々木 |
| 第4回 | ビジネスプラン作成のフレームワーク（１）<br>-顧客分析の進め方- | 佐々木 |
| 第5回 | ビジネスプラン作成のフレームワーク（２）<br>-競合分析の進め方- | 佐々木 |
| 第6回 | ビジネスプラン作成のフレームワーク（３）<br>-自社分析の進め方- | 佐々木 |
| 第7回 | ビジネスプラン作成のポイント（１）<br>-誰がやるのか- | 佐々木 |
| 第8回 | ビジネスプラン作成のポイント（２）<br>-いかに儲かる仕組みを創るか- | 佐々木 |
| 第9回 | ビジネスプランの構成と書き方（１）<br>-ビジネスプランの事業概要- | 佐々木 |
| 第10回 | ビジネスプランの構成と書き方（２）<br>-基本戦略- | 佐々木 |
| 第11回 | ビジネスプランの構成と書き方（３）<br>-財務計画(1)- | 佐々木 |
| 第12回 | ビジネスプランの構成と書き方（４）<br>-財務計画(2)- | 佐々木 |
| 第13回 | ビジネスプランとアプトプット（１）<br>-プレゼンテーション技法- | 佐々木 |
| 第14回 | ビジネスプランとアプトプット（２）<br>-発表- | 佐々木 |
| 第15回 | ビジネスプランとアプトプット（３）<br>-総括- | 佐々木 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講時の発言等の積極性を評価する。 |
| レポート | 20 | 修了レポートの内容レベルを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | ビジネスプランの内容レベルを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ビジネスプラン作成は，単なる知識の一方的伝達ではなく，双方向の議論を重視する。普段から問題意識を持ち，質問その他，幅広く発言できるようにしておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，講義での指示やシラバス，テキストを参照し，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにしておくこと。<br>2　広く新聞，雑誌・書籍，TV・ラジオ，ウエブサイト等から社会経済の新しい動向の把握に努めること。<br>3　関連機関の行う講習・講演会，見学会，起業家との触れ合いなどの機会を積極的に探して参加する努力をすること。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 成功するビジネスプラン | 伊藤良二 | 日本経済新聞社 | 9784532110574 | 830 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ベンチャー企業 | 松田修一 | 日本経済新聞社 | 978-4-532-11303-2 | 1000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 経営コンサルタントとして起業家に向けビジネスプラン作成の指導実績あり |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業コンサルティングの経験を生かして，ビジネスプラン作成や論理的思考力向上などの指導を行う。 |

| 科目名 | インターンシップ（短期） | | | 授業番号 | LI303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 約2週間に亘って，将来のキャリアを念頭に入れ企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の実情を知り体感することで職業理解，実務能力を向上させるだけでなく，自己の職業適性について考える契機となる。学内にて事前研修を行った後，実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・職業，勤労をより実践的に理解する。<br>・仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。<br>・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　社会とインターンシップ<br>第2回　ソーシャルマナー<br>第3回　応募先決定・応募<br>第4～28回　インターンシップ実習<br>第29回　実習体験報告<br>第30回　インターンシップふりかえり | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。<br>2　復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。<br>3　発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 体験報告書等 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜配布 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 企業等からの講師による指導を実施 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。 |

| 科目名 | インターンシップ（中長期） | | | 授業番号 | LI304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 3年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 1ヵ月～2ヵ月に亘って，将来のキャリアを考え国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解，実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて，異文化理解だけでなく，語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後，実際20−50日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・職業，勤労をより実践的に理解する。<br>・仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。<br>・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　社会とインターンシップ<br>第2回　　ソーシャルマナー<br>第3回応募先決定・応募<br>第4～98回　インターンシップ実習<br>第99回　実習体験報告<br>第100回　インターンシップふりかえり | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。<br>2　復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。<br>3　発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 体験報告書等 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜配布 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 企業等からの講師による指導を実施 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。 |

| 科目名 | 夏季語学研修 | | | 授業番号 | LJ101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。夏休み（8月下旬～9月上旬）期間中にカナダのバンクーバーアイランドのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．留学で日常生活に必要な英語の語彙，表現を理解できる。<br>２．語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して，英語の4技能をバランスよく向上させることができる。<br>３．簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ・事前指導では，留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出させる。<br>・事後指導では，留学後に留学で得られたものについてレポートを提出させる | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 100 | 事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。 |
| 授業外学修 | 留学期間中は，語学学校で出された課題について1日２時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | EF校で指定されたテキストを使用する（留学費用の中にテキスト代は含まれている）。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 春季語学研修 | | | 授業番号 | LJ102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。春休み(2月下旬から3月上旬)期間中にオーストラリア・シドニーのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.留学で日常生活に必要な英語の語彙，表現を理解できる。<br>2.語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して，英語の4技能をバランスよく向上させることができる。<br>3.簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，，，，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ・事前指導では，留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出させる。<br>・事后指導では，留学後に留学で得られたものについてレポートを提出させる | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 100 | 事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。 |
| 授業外学修 | 留学期間中は，語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修にやすこと費とする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | EF校で指定されたテキストを使用 する(留学費用の中にテキスト代は含まれている)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | セメスター留学 | | | 授業番号 | LJ201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 12単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に北米，ヨーロッパ，オセアニア，アジアのさまざまな会場等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各留学先で提供されるプログラムを合格点で修了させること。分野別に授業が実施されることになるが，全ての授業で合格点を獲得しなければ，所定12単位は取得できないので注意すること。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 留学先ごとに若干の差があるが，Listening， Speaking， Reading， Writing， Vocabulary， Grammar， Spelling， Pronunciationの分野から現地でのESLの授業が行われる。いずれの留学先においても，ESLの授業クラスはレベル分けされており，プレースメント・テスト等により所属クラスが決定される。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 留学先から送付される各授業の成績や担当教員の所感等を総合的に判断して評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。 |
| 授業外学修 | 留学期間中は，1日３時間程度を予習・復習の授業外学修に費やし，残りの時間は帰国後（12月末）から学期が終了する1月下旬まで，帰国プレゼンテーションのための資料づくりや報告書の作成等に費やすことで，必要な時間数を確保することに努める。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 留学先にて指定されたものを購入する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国土計画論 | | | 授業番号 | LJ401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 北川　博史 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人類は古代より大地を開墾し，集落を形成し，都市を開発し，経済活動を拡大してきた。産業革命以降，国土利用は大規模な土地改変をともなったものに変化してきた。日本においても同様であり，国土の隅々まで開発の手が及んでいることは周知の通りであろう。しかしながら，そうした国土利用のあり方が地域間格差など社会問題としても問われるようになっている。この授業では，戦後に展開された日本の全国総合開発計画などの地域政策の軌跡を辿りつつ，日本の国土はどのような実態を呈してきたのか，さらにどのようなことが課題として浮上したのか，そして，その解決策としてどのような国土計画や地域政策が採られてきたのかを講義を通して一緒に考えてみたい。その際，海外の事例との比較を通して理解を深めたいと考えている。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 第一に，戦後日本の国土計画とその軌跡について理解し，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。<br>第二に，国土計画に沿った開発のもと，日本の国土利用はどのような実態を呈しているのかについて理解することを目的とする。地域経済の現状と動態について学び，地域の抱える課題を理解できるようになる。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。<br>第三に，国土利用をめぐってどのようなことが課題として浮上したのか，その上で，そうした課題の解決方法を本講義及びこれまで履修してきた関連科目において得られた知識や理論ならびに考え方を用いて，探ることができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 古代・中世の国土開発：条里制・官道・灌漑用水路（備中十二ケ郷用水路） | |
| 第2回 | 近世の国土開発：瀬替え（利根川，大和川の流路変更，岡山百間川）・干拓（児島湾） | |
| 第3回 | 近代の国土開発：農地開発（福島県安積平野の開拓，児島湾大規模干拓）・工業地帯造成（京浜・阪神工業地帯，岡山平野の紡績会社） | |
| 第4回 | 戦後日本の国土開発：総合計画法の体系と地域政策 | |
| 第5回 | 第一次全国総合開発計画 | |
| 第6回 | 高度経済成長期における日本の地域構造１：人口の地域構造 | |
| 第7回 | 高度経済成長期における日本の地域構造２：産業の地域構造 | |
| 第8回 | 高度経済成長期における日本の地域構造３：地域的課題 | |
| 第9回 | 第二次全国総合開発計画 | |
| 第10回 | 第三次全国総合開発計画 | |
| 第11回 | 第四次全国総合開発計画 | |
| 第12回 | 第五次全国総合開発計画 | |
| 第13回 | 国土形成計画 | |
| 第14回 | 現代日本の政策的課題 | |
| 第15回 | 国土の将来ビジョン | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | |
| レポート | 30 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価の方法１に関して，毎回意見や質問などをお書きいただきます。この内容も「授業への取り組みの姿勢／態度」の評価に含めます。評価の方法２に関して，授業内容の理解度を測るために，複数回，レポートをお願いすることになります。クイズ形式のものや記述式の小レポートもあります。提出期限や様式については別途指示いたします課題のポイントを押さえていれば高評価します。。評価の方法４に関して，定期試験は最終的な理解度を評価します。各回の主要な論点を押さえていれば高評価となるでしょう。 |
| 受講の心得 | 受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず関連情報をインターネットなどを使って収集し，意見交換に努めてください。 |
| 授業外学修 | 授業中に説明した内容をインターネットおよび参考文献を活用して復習して理解を深めてください復習は週当たり4時間以上実行してみましょう。毎回，完璧とはいわないまでも，時間の許す限り実行に移してみましょう。また，復習・予習を通じて疑問が生じた場合には，疑問点を書き留めておき，次の授業時のコメントペーパーを用いて積極的におたずね下さい。可能な限り回答する予定です。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 指定しません。講義中に資料を配付します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の中で適宜紹介します。講義中に示す参考文献，参考図書などを積極的に活用し，学修を発展させて下さい。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語文学講読 | | | 授業番号 | LL401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 多様な英語テキストを正確に，深く読む実践練習を課す。講読テキストの内容は，文学的英語（詩，散文）を中心にして，国際コミュニティの中の日本，異文化理解の観点を加える。学習方法としては，英語読解の力をコミュニケーション能力に生かすため，音読練習を重視する。同時に，受講生が英語の文体感覚を磨くため，意味の奥行，姿・形の美しさ，音楽性を感じとる感受性を養う課題を課す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 英語教員を目指す受講生が，多様な英語テキストを読むことを通して，中学校，高校の英語教科書を分析・評価する力を養う。また，この力を基にして，英語授業の組み立てができるだけの素養を磨くことを目的とする。ディプロマ・ポリシーの観点から見る，コミュニケーション能力と語学力の習得に貢献する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 教科書は使用せず，講読資料は前もって配布する。各回のテーマに合った講読素材を提示する。受講生は予習をすることが必須である。４技能のバランスよい習得のためにCD， テープ などのリスニング用ソフトはできるだけ活用する。１）リスニング，２）音読練習，３）解説，文法説明，文体の見方の提示する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業方針の説明と資料の配布 | |
| 第2回 | 英語テキストの読み方：文脈の中の言葉 | |
| 第3回 | 英語テキストの読み方：辞書が語る意味，文脈が語る意味 | |
| 第4回 | 英語テキストの読み方：語源が語る意味の奥行 | |
| 第5回 | 国際コミュニティの中の日本：外国人の目に映る日本人像 | |
| 第6回 | 国際コミュニティの中の日本：日本人の大切にしてきた言葉と英語訳 | |
| 第7回 | 異文化理解は日本語を相対化することと裏表 | |
| 第8回 | 英語読解を通して見えてくる日本語の特性，中間小テスト | |
| 第9回 | 英文法は表現の豊かさを生むスパイス | |
| 第10回 | 仮定法の曖昧な豊かさ | |
| 第11回 | 詩（ものの情趣）を読む（ものの情趣を味わう知恵） | |
| 第12回 | 歴史エッセーを読む（過去を振り返ると，未来が見えてくる） | |
| 第13回 | 生態学エッセーを読む（生物多様性の意味） | |
| 第14回 | ユーモア，アイロニー（複眼でものを見る眼） | |
| 第15回 | 名文を音読して学ぶ意味と姿と音楽の融合 | |
| 授業計画　備考2 | ・英語を読んで原文をそのまま受け取り，話すことができるような問題意識を求めます。音読は，そのための重要な手段です。<br>・中間点で小テストを課します。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加によって評価する |
| レポート | 50 | 各章の課題について取り組み，内容について評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | テーマに沿った発表内容について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 事後学習として，授業のポイントを折々の課題レポートでまとめて，提出してもらう。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 文学で学ぶ英語リーディング | 斎藤兆史・中村哲子編著 | 研究社 | 978--327-42185-4 | 1，900円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 観光関連法規 | | | 授業番号 | LM401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 田村　秀昭 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | さまざまな旅行トラブルについて取り上げ，消費者の視点から個々の判例を通して解決の指針を明らかにする。また，観光に関する法律を観光の対象に関するものと観光業に携わる業者に分けて説明を加えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 旅行に関する諸問題を把握し，観光をするうえで必要となる法律について知識を深め，理解できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | イントロダクション・法律の働き | |
| 第2回 | 私権の制限の根拠 | |
| 第3回 | 文化財保護法 | |
| 第4回 | 景観法 | |
| 第5回 | 世界遺産条約 | |
| 第6回 | 自然保護法 | |
| 第7回 | 観光関連法規と行政 | |
| 第8回 | 観光関係法概観 | |
| 第9回 | 旅行業法(1) | |
| 第10回 | 旅行業法(1) | |
| 第11回 | 旅行業法(1) | |
| 第12回 | 旅行業約款(1) | |
| 第13回 | 旅行業約款(1) | |
| 第14回 | 旅行業約款(1) | |
| 第15回 | 宿泊関係法・約款 その他　旅行・観光関係判例・事例研究 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 毎回の講義の取組態度を評価する。 |
| レポート | 30 | レポート・提出物 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | プレゼン・期末試験 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 旅行トラブルについて日頃から関心を持ち，授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，授業内容に関わる箇所を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>以上の内容を，週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 旅行のトラブル相談Q&A(トラブル相談シリーズ) | 兵庫県弁護士会消費者保護委員会 | 民事法研究会 | 4865560793 | 2，376円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | (株)JTBでの38年間の実績，中国運輸局・中四国農政局等での委員経験など。令和元年度中国運輸局長観光功労者表彰。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起きている事象を例に具体的に指導する。行政の委員経験を活かし，観光行政の方向性も示してゆく。 |

| 科目名 | 日本語教育特論 | | | 授業番号 | LN401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　輝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現在，一般に行われている日本語教育について論文や資料などをもとに現状に対して検討を加えていく。また，最近進められている日本語教育の方向性を探るとともに問題点を考える。特に，評価法に関してはさまざま見方があり，これについても取り上げていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．現在の日本語教育を批判的な目で捉えられる。<br>２．日本語教育の動向を知るとともに課題を見つけ出すことができる。<br>３．日本語教師として自立できる力を身につけることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション，日本語教育の現状 | |
| 第2回 | 日本語教育現場の問題点 | |
| 第3回 | 積み上げ式とコミュニカティブ・アプローチ（1） | |
| 第4回 | 積み上げ式とコミュニカティブ・アプローチ（2） | |
| 第5回 | 正確性と課題遂行型 | |
| 第6回 | 正確性とコミュニカ・ブローチ(1) | |
| 第7回 | 正確性とコミュニカ・ブローチ(2) | |
| 第8回 | 日本語能力試験と留学試験 | |
| 第9回 | ナショナルスタンダーズとCEFR | |
| 第10回 | 日本語教育の動向 | |
| 第11回 | 地域の定住外国人のための日本語教育 | |
| 第12回 | 地域の定住外国人子弟のための日本語教育 | |
| 第13回 | 初等，中等教育における日本語教育 | |
| 第14回 | 多文化共生のための日本語教育(1) | |
| 第15回 | 多文化共生のための日本語教育（2） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への参加度によって評価する |
| レポート | 40 | レポートの完成度によって評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 口頭発表の完成度によって評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．事前に指示した論文を読み，理解しておくこと。<br>2．授業計画に基づく事情について調べておくこと。<br>3．自分なりに何か問題意識を持って授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業に関係する参考論文を読んでおくこと。<br>2．口頭発表のための準備をすること。<br>3．指示された問題点について自分なりの解答を用意しておくこと。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 1．野田尚史他（2012）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』，くろしお出版<br>2．鎌田修，嶋田和子，迫田久美子（2008）『プロフィシエンシーを育てる―真の日本語能力をめざして―』，くろしお出版 |
| その他 | |
| 備考 | 令和２年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ | | | 授業番号 | LP401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策、藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ、佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 3単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 卒業研究Iでは，専門ゼミIIで作成した，研究概要と論文のアウトラインを基に，卒業論文の執筆を開始する。アウトラインに，意見の裏付けとなる引用論文の情報も加筆し，学術的に有効な論文であるか再確認を行う。執筆の進捗状況を授業内で発表し，必要な修正を行いながら，執筆を進める。この段階では，多くのプレゼンテーションやディスカッションの経験により，意見の論理性，論証の妥当性を自己評価できる能力を身に付けていると期待される。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文執筆のための研究を具体的に進めていく。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　専門ゼミIIで作成した研究概要とアウトラインの見直し<br>第2～15回　グループワーク | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で，クラス全体にフィードバックを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 課題を提出期限までに提出し，積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み，質問等あれば教員に相談すること。 |
| 授業外学修 | １．卒業論文に関する文献を読み，執筆作業を進める。<br>２．適宜，担当教官と議論を行う。<br>以上の内容を，週当たり７時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)， 経営者（杉山慎策） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | | | 授業番号 | LP402 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 杉山　慎策、藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ、佐々木　真帆美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 3単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 卒業研究IIでは，引き続き卒業論文の執筆を行い，論文の仕上げ・発表を行う。論文の仕上げにおいては，教員からのコメントに加えて，学生間でお互いの論文を点検し合うことにより，内容の修正や文章の校正を行っていく。学期末には，完成した卒業論文をクラス内で口頭発表し，質疑応答を行った上で，最終調整を行い，論文を提出する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業論文を完成させる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回　論文執筆状況の確認<br>第2～14回　グループワーク<br>第15回　プレゼンテーション | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で，クラス全体にフィードバックを行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 課題を提出期限までに提出し，積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み，質問等あれば教員に相談すること。 |
| 授業外学修 | １．卒業論文に関する文献を読み，執筆作業を進める。<br>２．適宜，担当教官と議論を行う。<br>以上の内容を，週当たり７時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)， 経営者（杉山慎策） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | ライフ・デザイン | | | 授業番号 | LQ401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　公之、中安　章、森年　ポール、岡本　輝彦、梶西　将司、ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 学生自らの卒業後のライフ設計に役立てることを目的に，学部の各教員が自らのライフ・ヒストリーを学生に披露しながら，個人，夫婦，そして家族としての在り方，また「生」，「老」，「病」，「死」等について討議する機会を持つ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 自らの人生設計に対する考え，各ライフステージで必要な心構えや態度を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人生設計に必要なこと | 各教員 |
| 第2回 | 私のライフ・ストーリー１ | 各教員 |
| 第3回 | 私のライフ・ストーリー２ | 各教員 |
| 第4回 | 私のライフ・ストーリー３ | 各教員 |
| 第5回 | 私のライフ・ストーリー４ | 各教員 |
| 第6回 | 私のライフ・ストーリー５ | 各教員 |
| 第7回 | 私のライフ・ストーリー６ | 各教員 |
| 第8回 | 私のライフ・ストーリー７ | 各教員 |
| 第9回 | 私のライフ・ストーリー８ | 各教員 |
| 第10回 | 私のライフ・ストーリー９ | 各教員 |
| 第11回 | 私のライフ・ストーリー１０ | 各教員 |
| 第12回 | 私のライフ・ストーリー１１ | 各教員 |
| 第13回 | 私のライフ・ストーリー１２ | 各教員 |
| 第14回 | 学生による振り返り１ | 各教員 |
| 第15回 | 学生による振り返り２とまとめ | 各教員 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業内でのディスカッションや意見交換への参加度をみる。 |
| レポート | 50 | 自らのライフデザインを完成させ，提出する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内で他の受講生とのディスカッションや意見交換を促すことがある。その時は，速やかに行動するように心掛けて欲しい。 |
| 授業外学修 | １予習として，協議の題材に関するテキストを熟読し，自分の意見を明確にしておく。<br>２復習として，講義で学んだ事項を各自で再確認する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業経営コンサルタント(佐々木公之) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。 |

| 科目名 | 教育実習Ⅰ | | | 授業番号 | LU401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 原則として，実習の2週間(中学校実習については前半の2週間)を次の3ステージに分け，それぞれのステージにおいて，取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。<br>第1ステージ：観察を通して，基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。<br>第2ステージ：実際に授業や指導をする中で，授業計画立案，指導案の作成などを行い，指導教諭からの指導を受ける。<br>第3ステージ：研究授業を行い，指導を受け，その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に学校現場で，生徒指導，教科指導，担任業務などを，指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して，教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には，学生各自が自己課題を設定し，これを追究することとする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ※実習校と協議し，実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。<br>第1ステージ：観察を通して，基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。<br>第2ステージ：実際に授業や指導をする中で，授業計画立案，指導案の作成などを行い，指導教諭からの指導を受ける。<br>第3ステージ：研究授業を行い，指導を受け，その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。<br>このうち，本授業では，主に第1・2ステージの内容を中学校での実習の第1週と第2週に行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1週前半：学級経営，生徒指導，教科指導などを観察し，その具体的な内容を知る。また，生徒を指導する際の留意点を知る。教科指導においては，学習指導案と実際の指導の関係，教師の指導援助と生徒の反応というインタラクションを理解する。<br>第1週後半～第2週前半：学級経営，総合的な学習の時間，特別活動，教科指導，(中学校においては，道徳)などを実際に行う。総合的な学習の時間や教科指導では，授業の計画立案，教材研究，学習指導案の作成，授業の実施，反省といった一連の流れの中で，よりよい学習指導案を作り，よりよい授業を実施する方法を模索する。<br>第2週後半：引き続き実際に指導に参加することを続ける。高等学校実習では，研究授業を実施し，広く校内の先生方の指導を受け，その反省をもとに授業改善の在り方を考察し，実践する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な実習への取り組み態度，授業準備状況，実習の達成度を評価する。 |
| レポート | 20 | 学習指導案，実習日誌等の内容を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 研究授業の出来具合を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。<br>・指導教員の指導には素直に従い，指摘された事項を授業に生かすこと。<br>・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し，自らを律すること。 |
| 授業外学修 | 1 指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき，十分に調べ検討して作成すること。<br>2 授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。<br>3 授業後には指導教員の指導を必ず受け，指導された内容を記録の上振り返り，次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。<br>上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学内で作成した教材を使用する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 文部科学省「中学校学習指導要領解説」「高等学校学習指導要領解説」開隆堂 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。 |

| 科目名 | 教育実習Ⅱ | | | 授業番号 | LU402 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 原則として，実習の2週間を次の3ステージに分け，それぞれのステージにおいて，取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。<br>第1ステージ：観察を通して，基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。<br>第2ステージ：実際に授業や指導をする中で，授業計画立案，指導案の作成などを行い，指導教諭からの指導を受ける。<br>第3ステージ：研究授業を行い，指導を受け，その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。<br>本授業では，「教育実習I」に引き続いて，主に第3ステージの内容を，中学校での4週間の実習のうち第3週と第4週に行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に中学校現場で，生徒指導，教科指導，担任業務などを，指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して，教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には，学生各自が自己課題を設定し，これを追究することとする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ※実習校と協議し，実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。<br>第1ステージ：観察を通して，基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。<br>第2ステージ：実際に授業や指導をする中で，授業計画立案，指導案の作成などを行い，指導教諭からの指導を受ける。<br>第3ステージ：研究授業を行い，指導を受け，その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。<br>このうち，本授業では，主に第3ステージの内容を中学校での実習の第3週と第4週に行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1週・第2週（中学校での実習の第3週と第4週）：学級経営，総合的な学習の時間，特別活動，教科指導などを実際に行う。総合的な学習の時間や教科指導では，授業の計画立案，教材研究，学習指導案の作成，授業の実施，反省といった一連の流れの中で，よりよい学習指導案を作り，よりよい授業を実施する方法を模索する。研究授業を実施し，広く校内の先生方の指導を受け，その反省をもとに授業改善の在り方を考察し，実践する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な実習への取り組み態度，授業準備状況，実習の達成度を評価する。 |
| レポート | 20 | 学習指導案，実習日誌等の内容を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 研究授業の出来具合を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。<br>・指導教員の指導には素直に従い，指摘された事項を授業に生かすこと。<br>・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し，自らを律すること。 |
| 授業外学修 | 1　指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき，十分に調べ検討して作成すること。<br>2　授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。<br>3　授業後には指導教員の指導を必ず受け，指導された内容を記録の上振り返り，次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。<br>上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 学内で作成した教材を使用する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 文部科学省「中学校学習指導要領解説」開隆館出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。 |

| 科目名 | 教職実践演習（中・高） | | | 授業番号 | LU403 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 4年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育実習を中心とした諸実習の体験及び学内での授業において修得した知識と技能を実践的能力に高めるため，討論・ロールプレイング・講義・実習・見学・調査・模擬授業等を通して，振り返りと演習を中心に授業を進める。教員としての資質の検証もあわせて行う。また，個人別カルテを作成し，個別的に補完指導を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教職課程の最終仕上げに当たる科目として，次の4テーマから見て不足している知識や技能を補いながら，教員免許保有者として望ましい資質を一層高めること。<br>（１）社会人としての優れた識見　（２）教科内容の実践的指導力　（３）教育に対する熱意と使命感　（４）豊かな人間性と思いやり<br>本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞に貢献するものである。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | これまでの学修の振り返りについての講義と自己振り返りカードの作成 | |
| 第2回 | 教育実習成果発表とグループ討論（レポート提出） | |
| 第3回 | 特別支援教育の現状と課題についての講義，ディスカッション | |
| 第4回 | 教職を目指す人たちへ | |
| 第5回 | 教員としての心構え | |
| 第6回 | 介護等体験の成果発表とグループ討論（レポート提出） | |
| 第7回 | 生徒理解・生徒指導についての講義と中学校見学の課題設定 | |
| 第8回 | 中学校授業見学1 | |
| 第9回 | 中学校授業見学2 | |
| 第10回 | 中学校見学の反省会，グループ討議 | |
| 第11回 | （教科）より良い学習指導案の研究 | |
| 第12回 | （教科）学習指導案の研究と模擬授業の準備 | |
| 第13回 | 模擬授業1及び反省会 | |
| 第14回 | 模擬授業2及び反省会 | |
| 第15回 | まとめと振り返り（教員としてふさわしい資質・能力の検証を含む） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中の積極的な取組態度により評価する。 |
| レポート | 20 | 授業ごとの課題レポートの完成度により評価する。翌回の授業でレポートを返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 発表，発言の正確性，教授の技能が身についている度合いにより評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 教員として最小限必要な資質能力が身についていると認めた場合に単位を認定する。 |
| 受講の心得 | 教職課程の総仕上げとして，真摯に取り組んでほしい。 |
| 授業外学修 | それぞれの授業時間には，レポート提出，報告の準備が課される。その準備を怠りなく行うこと。また，授業後には，教員としての資質・能力のうち，不足していると気づいたことについて補足の学修を行うこと。以上の学修に，週当たり4時間以上をかけること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 土屋澄男（編著）「新編英語科教育法入門」<br>文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版<br>文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。 |

# 中国学園大学　大学院　現代生活学研究科 人間栄養学専攻　シラバス


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| 総合食品栄養学特論 | 真鍋　芳江／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／栄養B | ・・・・・・・ | 1 |
| 総合食品栄養学演習 | 真鍋　芳江／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／栄養B | ・・・・・・・ | 3 |
| 総合人間栄養学特論 | 古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／小野　尚美 | ・・・・・・・ | 5 |
| 総合人間栄養学演習 | 古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／小野　尚美 | ・・・・・・・ | 7 |
| 食品化学特論 | 大桑　浩孝 | ・・・・・・・ | 9 |
| 食品化学演習 | 大桑　浩孝 | ・・・・・・・ | 11 |
| 代謝調節栄養学特論 | 赤木　收二 | ・・・・・・・ | 13 |
| 代謝調節栄養学演習 | 赤木　收二 | ・・・・・・・ | 15 |
| 細胞栄養学特論 | 真鍋　芳江／栄養B | ・・・・・・・ | 17 |
| 細胞栄養学演習 | 真鍋　芳江／栄養B | ・・・・・・・ | 19 |
| 栄養生理学特論 | 井之川　仁 | ・・・・・・・ | 21 |
| 栄養生理学演習 | 井之川　仁 | ・・・・・・・ | 23 |
| 環境・食品微生物学特論 | 楠本　晃子 | ・・・・・・・ | 25 |
| 環境・食品微生物学演習 | 楠本　晃子 | ・・・・・・・ | 27 |
| 健康栄養学特論 | 多田　賢代 | ・・・・・・・ | 29 |
| 健康栄養学演習 | 多田　賢代 | ・・・・・・・ | 31 |
| 病態栄養学特論 | 古川　愛子／赤木　收二 | ・・・・・・・ | 33 |
| 病態栄養学演習 | 古川　愛子／赤木　收二 | ・・・・・・・ | 35 |
| 公衆衛生学特論 | 波多江　崇 | ・・・・・・・ | 37 |
| 公衆衛生学演習 | 波多江　崇 | ・・・・・・・ | 39 |
| 特別研究 | 多田　賢代 | ・・・・・・・ | 41 |

| 科目名 | 総合食品栄養学特論 | | | 授業番号 | GJ501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁、栄養B、波多江　崇、真鍋　芳江、楠本　晃子、大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 学部での食品栄養学をさらにすすめた講義を行う。『総合』食品栄養学であり，食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点からとらえるのみならず，データ解析や食文化の発展に関する内容まで広く講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響を理解できるとともに，その有効な利用法や悪影響の防止について広範に説明できる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 有用微生物 | |
| 第2回 | 微生物利用食品の機能性 | |
| 第3回 | 食品媒介微生物 | 楠本 |
| 第4回 | 食事と腸内細菌叢 | 楠本 |
| 第5回 | 健康食品とサプリメント | 波多江 |
| 第6回 | 食品の残留農薬 | |
| 第7回 | 食事と妊娠 | |
| 第8回 | 食・運動習慣と血糖値 | 井之川 |
| 第9回 | 食・運動習慣と自律神経系 | 井之川 |
| 第10回 | ジュニアアスリートの栄養サポート | 真鍋 |
| 第11回 | 陸上競技選手の栄養サポート | 井之川 |
| 第12回 | プロサッカー選手の栄養サポート | 真鍋 |
| 第13回 | 食品学におけるメタ解析 | 波多江 |
| 第14回 | 食感・食環境と認知神経 | |
| 第15回 | 食文化進化論 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実体験を交えた講義および現場での思考方法を伝授する。 |

| 科目名 | 総合食品栄養学演習 | | | 授業番号 | GJ602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁、栄養B、波多江　崇、真鍋　芳江、楠本　晃子、大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点から考察するのみならず，データ解析や食文化の発展に関する課題について調査し討論する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響，その有効な利用法や悪影響の防止などの課題解決に向けた調査ができるとともに，的確な討論を行うことができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 有用微生物とその利用に関する課題（１） | |
| 第2回 | 有用微生物とその利用に関する課題（２） | |
| 第3回 | 食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（１） | 楠本 |
| 第4回 | 食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（２） | 楠本 |
| 第5回 | 健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（１） | 波多江 |
| 第6回 | 健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（２） | 波多江 |
| 第7回 | 食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（１） | 井之川 |
| 第8回 | 食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（２） | 井之川 |
| 第9回 | アスリートの栄養サポートに関する課題（１） | 井之川・真鍋 |
| 第10回 | アスリートの栄養サポートに関する課題（２） | 井之川・真鍋 |
| 第11回 | アスリートの栄養サポートに関する課題（３） | 井之川・真鍋 |
| 第12回 | アスリートの栄養サポートに関する課題（４） | 井之川・真鍋 |
| 第13回 | 食品および残留農薬が発生・生殖におよぼす影響に関する課題 | |
| 第14回 | 食感・食環境と認知神経に関する課題 | |
| 第15回 | 食文化進化に関する課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実体験を交えた講義，文献調査法，および現場での思考方法を伝授する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 総合人間栄養学特論 | | | 授業番号 | GK501 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 赤木　收二、多田　賢代、小野　尚美、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 食・栄養に関わる高度専門職業人として，医療・福祉・栄養教育等の現場における実務や研究活動を推進する上で必要となる基本的であり先進的な知見を俯瞰的に解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | この授業を通じて，傷病者の療養や健康維持・増進をはかるための職務を遂行するために普遍的かつ重要な事項を学修し，食・栄養に関わる高度職業人として，社会に貢献する上で重要となる基本的な考え方を身につけることが目標である。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し，以下のテーマ等について解説する。<br>(1) 成長，発達，加齢における栄養管理に関して，各種学会から出されている提言やトピックスを中心に解説を行う。<br>(2) 食育にかかわる各種栄養政策について，SDGsにつなげる食環境整備の観点から解説する。<br>(3) 食物・栄養素の消化，吸収について，それらにかかわる消化管ホルモンに視点をあてながら解説する。<br>(4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH，脂質異常症等)について概説し，それらに対する最新の栄養療法について解説する。<br>(5) 体温調節機構およびその破綻によってもたらされる病態および栄養素等の摂取による介入の現状について解説する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 時間内の質疑応答，課題レポート，受講態度から総合的に判断する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士・医師として医療機関や自治体において人々の健康づくりに関係する業務に従事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高度専門職業人として実際の臨床現場や健康増進のために栄養教育等の業務を遂行する上で，有用となる内容を学修できるように留意する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 総合人間栄養学演習 | | | 授業番号 | GK602 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 赤木　收二、多田　賢代、小野　尚美、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 総合人間栄養学特論にて学修した領域において根幹をなす資料や最新の知見につい，て学生自ら関連する論文や資料等を収集し，それらを担当教員とともに講読し，内容について議論を重ね，特論で学修した知識を深化させるための授業である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食・栄養に関わる高度職業人として，実務・研究を遂行，発展させる上で出現してくる新たな課題に対して，問題点を正しく理解し，その解決法を自ら探究することができる能力を養うことが本授業の目標である。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し，以下のテーマ等について演習を行う。<br>(1)　各ライフステージにおける栄養管理について事例検討を行う。<br>(2) 食育にかかわる各種栄養政策について，それらの立案の根拠となった研究成果や資料等について講読し，議論しながら理解を深める。<br>(3) 各種疾患の栄養療法の実際について，消化管ホルモンの消化，吸収に対する作用をふまえながら関連論文を購読し，議論しながら理解を深める。<br>(4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH，脂質異常症等)の栄養療法に関するガイドラインの根拠とされるエビデンスがもたらされた研究成果についての最新の論文を講読，議論しながら，栄養療法についての理解を深める<br>(5) 体温調節機構およびそれに対する各種栄養素，運動等影響に関する最新の論文を購読し，議論しながら理解を深める。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 授業内の質疑応答から評価する |
| レポート | 30 | 課題レポートを評価する |
| 小テスト | 30 | 達成度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士・医師として医療機関や自治体において人々の健康づくりに関する業務に従事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高度専門職業人として実際の臨床現場や健康増進のために栄養教育等の業務を遂行する上で，有用となる内容を学修できるように留意する。 |

| 科目名 | 食品化学特論 | | | 授業番号 | GL501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては，食品構成成分の化学構造，存在状態について学ぶとともに，加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品成分の化学的・物理的変化を総合的に理解し，食品の品質との関連性を的確に説明できる能力を養う。<br>・食品化学に関する問題を自発的に調査し，論理的に纏めることができる能力を養う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　　食品の種類と分類<br>第２～５回　食品成分の化学的・物理的特性<br>(1)水<br>(2)タンパク質，アミノ酸<br>(3)脂質<br>第６～９回　食品成分間反応<br>(1)脂質代謝<br>(2)酵素による食品成分の変化<br>(3)炭水化物代謝<br>(4)微生物的成分変化<br>第10～12回　食品素材の化学的特性<br>第13～14回　調理・加工食品の品質<br>第15回　　まとめと総合討論 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 特に定めない | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品化学演習 | | | 授業番号 | GL602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大桑　浩孝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 食品化学に関する内外の論文についてゼミナール形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い，専門知識を深め，食品に関する多角的視野と理解力を養う。また，具体的な事例を取り上げ，演習を通じて問題点の把握と自ら考察する能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品化学に関連した専門原著論文の読解力，理解力，考察力，内容の伝達力を身に付ける。<br>・食品化学に関する課題を自発的に設定，調査し，論理的に解決する能力を身に付ける。<br>・食品に関する現実の問題を，具体的，論理的に纏め，解決することができる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１～６回　　文献購読・討論 (1)～(6)<br>第７～12回　　調査報告・討論 (1)～(6)<br>第13～14回　　事例演習・討論 (1)～(2)<br>第15回　　まとめと総合討論 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に対する具体的，論理的内容により評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加し討議に加わること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特に定めない。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 代謝調節栄養学特論 | | | 授業番号 | GM501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | ヒトは，食物として各種栄養素を摂取し，それらを消化・吸収した後，エネルギーへの変換，生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで，恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるいは相互的に絶妙な代謝調節をうけているが，疾病の多くは，この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では，栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に，各栄養素の消化・吸収および代謝について，疾患のなりたちに関連づけながら学修する。さらに，各種疾患について，栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各種疾病のなりたちを理解し，栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ，さらに新たな栄養学的介入を探求するために適切な研究遂行能力を養うとともに，医療現場において，個々人の身体状況・栄養状態に応じて，高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 事前に授業に用いる資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1・2回　消化器系器官の機能と構造　食物の消化，吸収<br>第3・4回　糖質代謝と疾患　糖尿病<br>第5・6・7回　脂質代謝と疾患　脂質異常症　肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化<br>第8回　アミノ酸代謝と疾患<br>第9回　尿酸代謝と高尿酸血症<br>第10・11・12回　ミネラル代謝と疾患　腎疾患，骨，貧血<br>第13回　体温調節と代謝<br>第14回　睡眠と栄養素，時間栄養学の基礎<br>第15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 口頭試問により評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。 |
| 授業外学修 | 学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。<br>事前に資料を配布するので，授業前に通読しておくこと。<br>週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。適宜資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実臨床に即した，管理栄養士としての職務実践能力を高める内容に重点を置く。 |

| 科目名 | 代謝調節栄養学演習 | | | 授業番号 | GM602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　收二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を，ゼミナール形式で講読し，代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解きつつ，討論に参加することを通じて疾病についての理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を探求するために必要な研究遂行能力を養うとともに，医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて，高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 事前に授業に用いる資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１～8回　各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論<br>第 9回～10回　栄養障害にともなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の購読と討論<br>第 11～13回　老化にともなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の購読と討論<br>第 14回　体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論<br>第 15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 口頭試問により評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。 |
| 授業外学修 | 事前に配布した資料を通読しておくこと。<br>週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。資料を事前に配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実臨床に即した，管理栄養士としての職務実践能力を向上させる内容に重点を置く。 |

| 科目名 | 細胞栄養学特論 | | | 授業番号 | GN501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ヒトが摂取する栄養分は，基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し，細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。<br>本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や諸反応を分子レベルで分析・総合し，生命維持における各栄養素の役割を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのようなしくみで生命を支えているかを，細胞レベル，分子レベル，遺伝子レベルから深く理解できる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生物にとって栄養とは何か | |
| 第2回 | 食物と栄養 | |
| 第3回 | 物質（炭素）の代謝と栄養の摂取 | |
| 第4回 | 物質（窒素）の代謝と栄養の摂取 | |
| 第5回 | 生体エネルギーと細胞代謝 | |
| 第6回 | 細胞内への物質の出入りの仕組み | |
| 第7回 | 細胞の構造と機能 | |
| 第8回 | 細胞の構造と機能 | |
| 第9回 | 細胞小器官の構造と機能 | |
| 第10回 | 細胞小器官の構造と機能 | |
| 第11回 | 細胞の進化 | |
| 第12回 | 細胞間情報伝達 | |
| 第13回 | 細胞内シグナル伝達 | |
| 第14回 | 遺伝子と遺伝子発現 | |
| 第15回 | 栄養面から見た生命の進化 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業への取り組み姿勢，授業での質疑応答 |
| レポート | 50 | 授業内容の課題レポート（毎回） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 英文の資料と参考書を併用して，輪読形式で授業をおこなう。週あたり４時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | なし |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 細胞栄養学演習 | | | 授業番号 | GN602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 真鍋　芳江、栄養B | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 前半では，調査目標とするトピックを決め，文献調査と複数の原著論文の抄読を行う。<br>後半では，調査した複数の文献に掲載されていた実験結果をもとに，学会発表形式でパワーポイントを用いて調査結果のプレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 設定したトピックに関連した最新の原著論文を検索することができる。<br>複数の原著論文を読み解き，結果をプレゼンテーションすることができる。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調査トピックの決定と，原著論文の検索 | |
| 第2回 | 論文抄読 | |
| 第3回 | 論文抄読 | |
| 第4回 | 論文抄読 | |
| 第5回 | 論文抄読 | |
| 第6回 | 論文抄読 | |
| 第7回 | 論文抄読 | |
| 第8回 | 論文抄読 | |
| 第9回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第10回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第11回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第12回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第13回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第14回 | 調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 | |
| 第15回 | プレゼンテーションと討論（質疑応答） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 演習への取り組み，質疑応答。 |
| レポート | 50 | 演習内容の課題レポート（毎回） |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自ら進んで新しい問題をみつけ，明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。 |
| 授業外学修 | 英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（過あたり４時間以上）。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | なし |
| その他 | なし |
| 備考 | 令和３年度改定 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 栄養生理学特論 | | | 授業番号 | GO501 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人体の栄養に関わる生理機能は，消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つととらえることができる。本特論では，特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造，脳内分布，神経刺激伝達とそれに続く脳の統合機能を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 摂食や飲水行動の中枢である視床下部の機能について，ホルモン合成，分泌を含めて，報酬系，嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深め，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養と摂食 | |
| 第2回 | 中枢神経系における摂食，飲食調節 | |
| 第3回 | 摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 | |
| 第4回 | 摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 | |
| 第5回 | 摂食行動に影響を与える因子 | |
| 第6回 | 糖代謝とインスリン分泌 | |
| 第7回 | 中枢神経系におけるインスリンの作用 | |
| 第8回 | サイトカインの栄養生理における役割 | |
| 第9回 | 中枢神経系における食欲抑制物質１ | |
| 第10回 | 中枢神経系における食欲抑制物質２ | |
| 第11回 | 中枢神経系における食欲抑制物質受容体 | |
| 第12回 | 飲水行動に影響を与える因子 | |
| 第13回 | 血漿浸透圧と体液量の調節 | |
| 第14回 | ホルモンとストレス環境への対応 | |
| 第15回 | 神経系とストレス環境への対応 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 質疑応答から評価する |
| レポート | 20 | 課題レポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 栄養生理学演習 | | | 授業番号 | GO602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 井之川　仁 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 特論に関連する具体的かつ現実的な課題を取り上げ，解決する方策を創案する。このことは，栄養教諭が実際に直面する，学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようである。人体の構造・機能のホメオスターシスを維持する中枢として，神経系の機能を熟知し，外部から機能を調節する因子について理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養素の意義，摂取食品の栄養源のバランスなどと疾病の関係などについて，深く理解し，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　摂食，飲食調節に関わる中枢の機構<br>第２回　摂食行動と視床下部摂食中枢の機能<br>第３回　摂食行動と視床下部満腹中枢の機能<br>第４回　摂食行動に影響を与える多様な因子・条件<br>第５回　中枢神経系におけるホルモンの作用<br>第６回　脂質代謝１<br>第７回　脂質代謝２<br>第８回　脂質代謝３<br>第９回　神経系とストレス環境への対応１<br>第10回　神経系とストレス環境への対応２<br>第11-15回　上記の課題論文を中心として，栄養生理学関連分野について，総合的に討論する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 質疑応答から評価する |
| レポート | 50 | 課題レポートを評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 時間内の質疑応答，課題レポートにより行う。 |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 環境・食品微生物学特論 | | | 授業番号 | GP501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 地球環境には，様々な微生物が存在し，ヒトの生活と密接に関係している。本特論では，微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また，食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに，食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し，実践的な知識を身につける。<br>・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 環境と微生物(1) | |
| 第2回 | 環境と微生物(2) | |
| 第3回 | 食品と病原微生物(1) | |
| 第4回 | 食品と病原微生物(2) | |
| 第5回 | 感染症と微生物 | |
| 第6回 | 食品の腐敗と微生物フローラ | |
| 第7回 | 食品保存と微生物 | |
| 第8回 | 微生物による環境浄化 | |
| 第9回 | 微生物の機能と食品 | |
| 第10回 | 微生物とバイオテクノロジー | |
| 第11回 | 健康と腸内フローラ | |
| 第12回 | 食品安全確保の考え方 | |
| 第13回 | HACCPと食品衛生管理 | |
| 第14回 | 遺伝子手法による微生物学的衛生管理 | |
| 第15回 | 全体のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業時間内の質疑応答が的確にできている。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 環境・食品微生物学演習 | | | 授業番号 | GP602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 楠本　晃子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が興味のある環境・食品微生物について検査を行い，理解を深める。各自が問題点を整理し討論を行うことで，研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。<br>・微生物に関する知識・理解を深め，食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１～３回　環境微生物分野の論文の講読と討論<br>第４～９回　食品微生物分野の論文の講読と討論<br>第10～14回　環境・食品微生物の検査<br>第15回　全体のまとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業時間内の質疑応答が的確にできている。 |
| レポート | 50 | 与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 健康栄養学特論 | | | 授業番号 | GQ501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 栄養と健康との関わりについて，学部での学習を基盤にさらに専門性を深め，より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し，具体的な事例報告等をもとに，実践的手法，技術を学ぶ。これにより，適正な食生活，生活習慣，栄養管理の意義，栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し，ディスカッションする。そして，健康・栄養指導者として，より幅の広い視野をもって対応する能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣的側面を理解し，解説することができる。中でも，幼小児期および成人期・高齢期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査，臨床医学的検査，生活状況調査などの過程と評価を理解し，問題点を探求し，考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１～14回　提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して，成長，発達，加齢に伴う身体的・精神的特徴と栄養について学び，健康維持に向けた栄養の指導に活かす。<br>以下のテーマについて学修する。<br>・生活習慣病の各種要因（生活習慣，遺伝体質，加齢・老化，性差，環境等）の評価・検討<br>・健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣，ストレス等）の評価と対策<br>・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の把握と問題点の抽出<br>・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解<br>・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用<br>第15回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容にかかわる著書や雑誌を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| 科目名 | 健康栄養学演習 | | | 授業番号 | GQ602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 健康栄養学特論で学んだ内容をもとに，指定した課題について文献検索，抄読を行い，担当指導者とディスカッションしながら，理解を深めて，課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより，様々な測定技術を修得し，また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析する手法を学び，対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察，説明し，正しく判断評価することができるようになる。実際に，健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し，その技術を身につける。また，それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し，考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１～７回<br>現代の栄養および食生活における問題点を抽出し，健康のあり方を考察する。加えて，栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し，新しい知識を付加していくとともに，健康に関するタイムリーな問題点を捉えた，実際の調査・測定値をもとに，その処理技法，評価法を理解，演習し，問題点を明確にして解決法を検討し，その具体的解決策についてのプランを立案する。<br>第８～14回<br>応用栄養学に関する専門的な論文を講読し，論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い，それを習慣づける。また身体・栄養状態，動脈硬化度，自律神経等を測定し評価する。その結果をクライエントに適切に説明（フィードバック）し，状況に応じた適正な栄養管理・教育，生活指導ができる能力を身につける。<br>第15回<br>まとめとディスカッション | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，授業内容にかかわる著書や雑誌を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 病態栄養学特論 | | | 授業番号 | GR501 | サブタイトル | （疾病に応じた栄養素の体内代謝と調節法を学ぶ） | | |
| 教員 | 赤木　收二、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 病気の原因となる栄養摂取ならびに病態に応じた栄養摂取ならびに体内での栄養素の代謝について，大学学部で学んだことを基礎にさらに専門性を深めた講義をする。健康の維持増進，生活習慣病の予防，病気からの回復に関わる栄養学をさらに深く理解することにより，疾病を抱えた患者に対する栄養教育力や実践的な指導力を身につけることができるよう，疾病の予防や治療について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 栄養素とその体内での代謝について理解したうえで，摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。さらに，各種栄養素の体内代謝は個体側の要因，特に遺伝素因によって大きな影響を受けることを理解して，個人差を考慮した栄養摂取についての介入の必要性について理解する。その上で，各種疾患における栄養教育がより着実に実践できる能力を養うことが本授業の目的である。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　オリエンターション<br>第２回　　栄養の補給法<br>第３回　代謝性疾患，とくに糖・脂肪代謝の栄養学<br>第４回　循環器疾患の栄養支援<br>第５回　消化器疾患の栄養ケア<br>第６回　炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法<br>第７回　肝不全の栄養管理と疾病進展の予防<br>第８回　腎不全の栄養ケア<br>第９回　骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学<br>第10回　悪性腫瘍の栄養管理と栄養指導<br>第11回　高齢者の栄養ケア<br>第12回　周術期の栄養ケア<br>第13回　呼吸器疾患(COPD)の栄養ケア<br>第14-15回　まとめと総合討議 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 積極的な授業態度，討論，質問などにより評価する。 |
| レポート | 50 | 疾患に応じて具体的に栄養マネジメント方法についてまとめる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 課題レポートと質疑応答で総合評価する。 |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 1，授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。<br>2，配布資料を元に質疑，討論ができるように準備しておく。<br>3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療機関における医師および管理栄養士としての実務経験を有する。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | チーム医療としての栄養療法の観点から，両担当教員同士が連携をはかりながら授業を進める。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 病態栄養学演習 | | | 授業番号 | GR602 | サブタイトル | (事例提示による栄養ケアの実践法を学ぶ) | | |
| 教員 | 赤木　收二、古川　愛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 病態栄養学特論で学んだ疾患を中心として，関連する具体的事例についてそれらに対する栄養学的介入法について探究する中で，問題点を抽出し，関連する文献を調べ必要事項を調査しながら，疾患に対しての理解を深める。明確て的確な問題解決方法をあきらかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各病態の具体的事例について，問題点を抽出し，最新の論文等にあたりながら問題解決方法をあきらかにする努力を重ねることで，明確で的確な栄養管理計画書の作成することができる能力を身につけるとともに，新たな栄養学的治療介入法を探求する能力を養うことが本演習の目的である。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | あらかじめ提示した各症例(事例)に関わる病態栄養学上の問題点を取り上げた最新の論文を検索，入手する作業を行い，それらの論文の講読をゼミナール形式で行い，エビデンスに基づいた栄養評価方法や栄養治療方法の理解を深め，実践できるよう能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 実践的な栄養ケアマネジメントについて積極的な討論を評価する。 |
| レポート | 50 | 事例に応じて実践可能な栄養ケアマネジメントについて具体的なレポートを作成する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | 1， 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。<br>2，配布資料を元に質疑，討論ができるように準備しておく。<br>3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めない。科目担当者の指導を受けること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療機関における医師および管理栄養士としての実務経験を有する。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医師・管理栄養士の立場から，栄養療法遂行における実践能力の向上に資する内容に重点を置き，授業を進める。 |

| 科目名 | 公衆衛生学特論 | | | 授業番号 | GS501 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人間集団の健康増進と疾病予防のために，生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し，環境保全，環境衛生維持，学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また，疫学的判断ができる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 科学的エビデンスに基づく評価・判断能力を身に付け，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 公衆栄養・公衆衛生学の意義 | 波多江 |
| 第2回 | 衛生統計：衛生統計の意義 | 波多江 |
| 第3回 | 衛生統計：疾病統計 | 波多江 |
| 第4回 | 産業保健：労働と健康 | 波多江 |
| 第5回 | 産業保健：生物学的モニタリング | 波多江 |
| 第6回 | 産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用 | 波多江 |
| 第7回 | 学校保健：学校保健の意義，学校給食 | 波多江 |
| 第8回 | 環境保健：環境保健の意義 | 波多江 |
| 第9回 | 環境保健：環境保全 | 波多江 |
| 第10回 | 保健・医療・福祉と介護 | 波多江 |
| 第11回 | 高齢者保健 | 波多江 |
| 第12回 | 疫学：疫学の意義 | 波多江 |
| 第13回 | 疫学：感染症の疫学 | 波多江 |
| 第14回 | 栄養疫学の意義 | 波多江 |
| 第15回 | まとめ | 波多江 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な学習態度 |
| レポート | 50 | データに対して充分な考察がなされている |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 |
| 授業外学修 | レポートの作成など，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 自治体における管理栄養士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 食・栄養に関わる福祉，介護について，行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。 |

| 科目名 | 公衆衛生学演習 | | | 授業番号 | GS602 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | セミナー方式で関連論文を講読するとともに，現場実務者を迎えて現実のエビデンスに基づいて理解を深め，建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い，討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 公衆衛生学と栄養学の関連を明瞭にし，課題解決にむけての研究方法を会得し，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保健統計関連論文の読解　その1 | 波多江 |
| 第2回 | 保健統計関連論文の読解　その2 | 波多江 |
| 第3回 | 保健統計関連論文の読解　その3 | 波多江 |
| 第4回 | 産業保健関連論文の読解　その1 | 波多江 |
| 第5回 | 産業保健関連論文の読解　その2 | 波多江 |
| 第6回 | 産業保健関連論文の読解　その3 | 波多江 |
| 第7回 | 学校保健関連論文の読解　その1 | 波多江 |
| 第8回 | 学校保健関連論文の読解　その2 | 波多江 |
| 第9回 | 学校保健関連論文の読解　その3 | 波多江 |
| 第10回 | 高齢者保健関連論文の読解　その1 | 波多江 |
| 第11回 | 高齢者保健関連論文の読解　その2 | 波多江 |
| 第12回 | 高齢者保健関連論文の読解　その3 | 波多江 |
| 第13回 | 環境保健関連論文の読解　その1 | 波多江 |
| 第14回 | 環境保健関連論文の読解　その2 | 波多江 |
| 第15回 | 第15回　まとめの発表 | 波多江 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な学習態度 |
| レポート | 50 | データに対して充分な考察がなされている |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。<br>事前に論文を配布するので，授業までに十分に読み込んでくること。 |
| 授業外学修 | レポートの作成など，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | テキストは使用せず，実際の論文をテキストとする。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 食・栄養に関わる福祉，介護について，行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。 |

| 科目名 | 特別研究 | | | 授業番号 | GT701 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 多田　賢代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 8単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 本授業においては，「実践研究論文」あるいは「研究論文」を，指導教員の指導のもと完成させることを目的とする。前者は管理栄養士がその専門性を生かして職務を遂行することが期待される病院や企業等において3～6ヶ月間程度，より専門的で実践的な手技・知識を習得するとともに現場での問題点を発掘し，その問いに対する普遍的であり実証的な答えを探求する「実践研究」によりもたらされる論文である。後者は，先行研究を踏まえた食・栄養に関する今日的課題を設定し，あるいは新しい事実，事象の発見を目指して，実験・調査を行い，得られた具体的なデータにもとづいた研究成果を，論理的・実証的に導き出す努力を行うことで得られるものである。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業において完成された論文は，学術論文として関連雑誌・紀要などへ投稿し，掲載・公表され，社会に対して得られた知見を明確に発信する能力を養う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 指導教員と綿密な打ち合わせを行いながら研究計画をたて，得られた結果について議論をしながら，論文の内容を高めていく。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 修士研究論文審査の結果をふまえて評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 毎週最低4時間は学習すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に指定しない。指導教員の指示にしたがうこと。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

## 中国学園大学　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻　シラバス


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| 保育・幼児教育学特論 | 伊藤　智里 | ・・・・・・・ | 1 |
| 学校教育学特論 | 佐々木　弘記／岸　誠一 | ・・・・・・・ | 3 |
| 教育方法学特論 | 佐々木　弘記／住野　好久 | ・・・・・・・ | 5 |
| 子どもと音楽演習 | 川崎　泰子 | ・・・・・・・ | 7 |
| 子どもと英語演習 | 西田　寛子 | ・・・・・・・ | 9 |
| 子どもと理科演習 | 佐々木　弘記 | ・・・・・・・ | 11 |
| 子どもと算数演習 | 姫野　俊幸 | ・・・・・・・ | 13 |
| 子どもと国語演習 | 小川　孝司 | ・・・・・・・ | 15 |
| 子どもと表現演習 | 牛島　光太郎 | ・・・・・・・ | 17 |
| 子どもと健康演習 | 水落　洋志 | ・・・・・・・ | 19 |
| 子どもと環境演習 | 齊藤　佳子 | ・・・・・・・ | 21 |
| 子どもと人間関係演習 | 廣畑　まゆ美 | ・・・・・・・ | 23 |
| 教育心理学特論 | 國田　祥子 | ・・・・・・・ | 25 |
| 子ども社会学特論 | 中田　周作 | ・・・・・・・ | 27 |
| 相談・援助特論 | 中　典子 | ・・・・・・・ | 29 |
| 発達障害児支援特論 | 原田　新 | ・・・・・・・ | 31 |
| 子どもの認知と学習特論 | 國田　祥子 | ・・・・・・・ | 33 |
| 子どもとメディア特論 | 岸　誠一 | ・・・・・・・ | 35 |
| 地域教育社会学特論 | 中田　周作 | ・・・・・・・ | 37 |
| 地域教育福祉特論 | 中　典子 | ・・・・・・・ | 39 |
| 子どもと放課後特論 | 住野　好久 | ・・・・・・・ | 41 |
| 子ども学特別研究 | 中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／伊藤　智里 | ・・・・・・・ | 43 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 保育・幼児教育学特論 | | | 授業番号 | MA301 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 伊藤　智里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講座では，子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに，諸外国との比較をしながら，幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに，子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対しての理解力を高め，保育の実力を深めていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの視点に立ちながら，より高度な活動の理解と解釈を可能にするために，保育・幼児教育の法令変遷について理解し，諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。なお，この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 本授業の目的と保育・幼児教育の基本 | |
| 第2回 | 日本の保育・幼児教育の制度１ | |
| 第3回 | 日本の保育・幼児教育の制度２ | |
| 第4回 | 保幼小接続の仕組み | |
| 第5回 | 幼児教育の歴史的変遷１ | |
| 第6回 | 保育・幼児教育の歴史的変遷２ | |
| 第7回 | 保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 | |
| 第8回 | 外国の保育・幼児教育１ | |
| 第9回 | 外国の保育・幼児教育２ | |
| 第10回 | 外国の保育・幼児教育３ | |
| 第11回 | 保育・幼児教育思想１ | |
| 第12回 | 保育・幼児教育思想２ | |
| 第13回 | 保育・幼児教育思想3 | |
| 第14回 | 保育者の専門性１ | |
| 第15回 | 保育者の専門性２ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。 |
| レポート | 50 | 自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 予習や意見発表など講義への取り組みの積極性と，レポートの論理性を基準に評価を行う。 |
| 受講の心得 | 授業内容を理解し課題を行う中で，自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を提示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「保育用語辞典」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 学校教育学特論 | | | 授業番号 | MA302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記、岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 第一に，先行研究を概括しながら，学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について議論するとともに，教師の専門的力量の形成について考察する。<br>第二に，反省的実践家としての教師の専門的力量形成のモデルを取り上げ，省察と熟考による実践的見識の獲得過程に言及する。<br>第三に，学校教育におけるいくつかの問題場面を想定し，反省的思考の過程について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について理解を深めることができる。＜知識・理解＞<br>教師の専門的力量の形成について思考し，反省的実践家として教育に係る諸問題に対応できる問題解決能力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育課程の変遷 | 岸誠一 |
| 第2回 | 学習指導の様式 | 岸誠一 |
| 第3回 | 行動主義の学習論 | 岸誠一 |
| 第4回 | 認知主義の学習論 | 岸誠一 |
| 第5回 | 構成主義の学習論 | 岸誠一 |
| 第6回 | 教師の専門的力量 | 岸誠一 |
| 第7回 | 技術的熟達者モデル | 岸誠一 |
| 第8回 | 反省的実践家モデル | 岸誠一 |
| 第9回 | 省察と熟考 | 岸誠一 |
| 第10回 | 教師の職能成長 | 岸誠一 |
| 第11回 | 専門的力量の形成(1) | 佐々木弘記 |
| 第12回 | 専門的力量の形成(2) | 佐々木弘記 |
| 第13回 | 反省的思考の方法(1) | 佐々木弘記 |
| 第14回 | 反省的思考の方法(2) | 佐々木弘記 |
| 第15回 | 反省的思考の方法(3) | 佐々木弘記 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 50 | 課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポート（50%），授業態度（50%） |
| 受講の心得 | 授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業の中で適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『教育方法学　岩波テキストブック』，佐藤学（著），岩波書店，1996年<br>『専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える』，ドナルド・ショーン（著），佐藤学・秋田喜代美（訳），ゆみる出版，2001年 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記），公立小学校教諭・校長，県生涯学習ｾﾝﾀｰ，県情報教育ｾﾝｰ（岸誠一） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 教育方法学特論 | | | 授業番号 | MB301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記、住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び，それを実践するための力量を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育方法学研究の全体像 | （佐々木） |
| 第2回 | 教育方法学研究の歴史(1)−コメニウス | （佐々木） |
| 第3回 | 教育方法学研究の歴史(2)−ヘルバルト | （佐々木） |
| 第4回 | 教育方法学研究の歴史(3)−生活綴方 | （佐々木） |
| 第5回 | 教育方法学研究の歴史(4)−戦後新教育 | （佐々木） |
| 第6回 | 教育方法学研究の歴史(5)−教育の現代化 | （住野） |
| 第7回 | 教育方法学研究の歴史(6)−集団づくり | （住野） |
| 第8回 | 教育方法学研究の歴史(7)−学びの共同体論 | （住野） |
| 第9回 | 教育方法学研究の歴史(8)−アクティブ・ラーニング | （住野） |
| 第10回 | 教育方法学研究の実践課題(1)−学力・資質能力論 | （住野） |
| 第11回 | 教育方法学研究の実践課題(2)−教授と学習 | （住野） |
| 第12回 | 教育方法学研究の実践課題(3)−指導と評価の一体化 | （住野） |
| 第13回 | 教育方法学研究の実践課題(4)−授業づくりと学級づくり | （住野） |
| 第14回 | 教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第１回） | （住野） |
| 第15回 | 教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第２回） | （住野） |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 講義内容を深く理解したうえで，教育方法学の実践化のための知見を示すこと。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。<br>授業で配付するプリント・資料などを整理し，講義ノートを詳細にとること。 |
| 授業外学修 | 1　予習：配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習：ノートの内容を確認し，プリント・資料などを整理する。<br>3　発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 子どもと音楽演習 | | | 授業番号 | MB302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 川崎　泰子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に，現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して，子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で，実践的な表現方法のあり方を考察し，より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では，子どもの音楽的成長と発達について理解し，子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また，子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに，子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには，どのような音楽的活動を経験させ，どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて，教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校の音楽科教育の現状と課題<br>小学校における音楽科教育の意義と内容／音楽科学習指導要領 | |
| 第2回 | 子どもと音の環境 | |
| 第3回 | 子どもの成長と音楽体験，さまざまな音楽 | |
| 第4回 | 子どもの動きと音楽（拍節的な動きと音，拍節的でない動きと音） | |
| 第5回 | 音楽表現の企画（教材，表現技法を中心に） | |
| 第6回 | 音楽表現の実践（実践の観察と分析，検討） | |
| 第7回 | 現場での音楽表現事例(1)（記録を分析，検討－児童の様子と楽曲，表現技法を中心に） | |
| 第8回 | 現場での音楽表現事例(2)（記録を分析，検討－児童の様子と音楽形態，表現技法を中心に） | |
| 第9回 | 音楽表現を支える，強弱，速度，音色を意識した伴奏法 | |
| 第10回 | 音楽表現を支える伴奏法，即興演奏法 | |
| 第11回 | 共通教材におけるアンサンブル－MLを活用して | |
| 第12回 | 表現活動の展開例 | |
| 第13回 | 創作活動の展開例－コンピュータを活用して | |
| 第14回 | 伴奏技術の研究法考察－MLを活用して | |
| 第15回 | 伴奏法の実践と検討・考察 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習及び復習の状況により評価する。 |
| レポート | 20 | レポート課題について，コメントし返却する。 |
| 小テスト | 20 | 理論や技術の獲得を評価する |
| 定期試験 | | 最終的な理解度定着度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施し，復習すること。<br>上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業内にてプリントを配布。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 小学校音楽１～６年<br>小学校学習指導要領「音楽」 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を活かしての音楽的指導，音楽実技，またはそれらに必要な音楽的知識や理解を深め，実践的指導力の向上に努める。 |

| 科目名 | 子どもと英語演習 | | | 授業番号 | MB303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 西田　寛子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 英語教育に関する先行研究ならびに先行実践について検討し，理論に基づく指導の改善について考察する。また，英語教育の課題解決に向けた指導と評価の在り方について探究する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 英語教育に関する理論と実践について考察し，現状における課題の解決に向けた指導と評価の在り方について探究できる。また，具体的な実践構想について論究できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた〈高度な専門性を備えた教育者の育成〉に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　英語教育の現状<br>第２回　英語教育の課題<br>第３回　課題解決のための理論研究（１）：自己調整学習の理論に基づく指導の改善<br>第４回　課題解決のための理論研究（２）：学校組織開発理論に基づく指導の改善<br>第５回　課題解決のための理論研究（３）：自己調整学習の理論と学校組織開発理論の融合理論に基づく指導の改善<br>第６回　実践研究の方法論（１）：「聞くこと」についての指導と評価<br>第７回　実践研究の方法論（２）：「話すこと（やり取り・発表）」についての指導と評価<br>第８回　実践研究の方法論（３）：「読むこと」についての指導と評価<br>第９回　実践研究の方法論（４）：「書くこと」についての指導と評価<br>第10回　　実践研究の方法論（５）：「主体的・対話的で深い学び」の在り方<br>第11回　　実践研究の方法論（６）：「ティーム・ティーチング」の在り方<br>第12回　　実践研究の方法論（７）：「視聴覚教材・ICT」の効果的な活用<br>第13回　　実践研究の方法論（８）：「他教科等との連携」「異校（園）種間連携」の在り方<br>第14回　　理論に基づく実践構想の発表（プレゼンテーション）<br>第15回　　発表の振り返りと改善策の考案・まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | 令和５年度改定 | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，課題解決に向けた積極的な姿勢等を評価する。 |
| レポート | 50 | 理論に基づく具体的な実践構想について，レポート（紙媒体）ならびにプレゼンテーションで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・授業で配布される資料について予習・復習をすること。<br>・疑問点や課題について，自ら進んでリサーチし，その解決策について探究すること。<br>・授業中は積極的に発言すること。 |
| 授業外学修 | ・ 予習として，配付資料を読み，疑問点を明らかにして受講する。<br>・ 復習として，課題のレポートを書く。<br>・ 授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 資料を授業で配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭　県教育委員会指導主事 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる高度な実践力を育成する。 |

| 科目名 | 子どもと理科演習 | | | 授業番号 | MB304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習指導に用いられる学習理論を指導場面に沿って考察する。更に，いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また，理科の学習指導に用いられる学習理論について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，具体的な授業場面を想定した教材研究の技能を身に付ける。<br>本科目は，ディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 小学校理科の目標・内容 | |
| 第2回 | 理科で育成する資質・能力 | |
| 第3回 | 理科の学習理論 | |
| 第4回 | 探究学習論 | |
| 第5回 | 問題解決学習論 | |
| 第6回 | 認知論的学習論 | |
| 第7回 | 構成主義学習論 | |
| 第8回 | 教材研究の仕方 | |
| 第9回 | 学習指導案における指導と評価 | |
| 第10回 | 理科におけるプログラミング教育 | |
| 第11回 | 情報機器を活用した授業 | |
| 第12回 | 物理領域にかかわる教材研究 | |
| 第13回 | 化学領域にかかわる教材研究 | |
| 第14回 | 生物領域にかかわる教材研究 | |
| 第15回 | 地学領域にかかわる教材研究 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付された資料について予習・復習をして授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校学習指導要領解説　理科編 | 文部科学省 | 東洋館出版 | | 111 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省，小学校理科教科書 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 子どもと算数演習 | | | 授業番号 | MB305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 姫野　俊幸 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し，算数教育の研究課題について検討することから，算数学習・算数教育のあり方について考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1　算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。<br>2　算数教育の研究課題を探究することができる。<br>3　算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 算数学習の内容論的考察（数と計算） | |
| 第2回 | 算数学習の内容論的考察（図形） | |
| 第3回 | 算数学習の内容論的考察（測定，変化と関係） | |
| 第4回 | 算数学習の内容論的考察（データの活用） | |
| 第5回 | 算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動） | |
| 第6回 | 算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明） | |
| 第7回 | 算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動） | |
| 第8回 | 算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性） | |
| 第9回 | 算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較） | |
| 第10回 | 算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究） | |
| 第11回 | 算数教育の研究課題（問題解決型の授業） | |
| 第12回 | 算数教育の研究課題（発達段階と学習指導） | |
| 第13回 | 算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能） | |
| 第14回 | 算数教育の研究課題（教科書の変遷） | |
| 第15回 | 算数学習・算数教育のあり方 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況を評価する。 |
| レポート | 50 | 演習の要点を理解し，自分の考えを述べた内容を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付する資料等について予習・復習し，自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1　復習として，授業内容をノートにまとめて整理すること。<br>2　予習として，配付した資料等を熟読し，自分の疑問や意見をもつこと。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。 |

| 科目名 | 子どもと国語演習 | | | 授業番号 | MB306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 国語科教育に関する先行研究及び先行実践を学ぶとともに，身に付けた理論をもとに教材を分析し国語科授業のあり方を検討する。授業では設定したテーマについて文献の読み合わせ討論を積み重ね，国語科教育のあり方について確かな教科観及び指導観等を身に付けるとともに，今日的課題に即した授業構想を検討する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 国語科教育に関する先行研究や先行実践を研究し，国語科教育に対する確かな学力観及び教育観等を身に付けるとともに，今日的課題に即した授業のあり方を具現化することを目標とする。<br>この科目は，ディプロマポリシーに掲げた確かな専門性を備えた保育者，教育者，研究者の育成に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 国語科教育の現状 | |
| 第2回 | 国語科教育の課題 | |
| 第3回 | 文学的文章の読み（文献研究）（１） | |
| 第4回 | 文学的文章の読み（文献研究）（２） | |
| 第5回 | 文学的文章の特質（仕掛け等） | |
| 第6回 | 文学的文章の特質（表現等） | |
| 第7回 | 物語の指導のあり方 | |
| 第8回 | 説明的文章の特質（仕掛け等） | |
| 第9回 | 説明的文章の特質（表現等） | |
| 第10回 | 説明的文章の指導のあり方 | |
| 第11回 | 「書くこと」の指導の特徴と課題（１） | |
| 第12回 | 「書くこと」の指導の特徴と課題（２） | |
| 第13回 | 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立つ授業づくり | |
| 第14回 | 「個別最適な学び」の視点に立つ授業づくり | |
| 第15回 | 各領域の成果と展望 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 予習及び討論への参加の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 授業内容の理解度をレポート及び発表によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業及び研究と向き合う姿勢が重要である。 |
| 受講の心得 | 資料の読み合わせ及び討論に積極的に参加し，研究の深まりや楽しさを実感すること。<br>予習では，授業で用いる資料を深く読み込み，自分の考えをもって授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内容は，ファイルやノートに整理しておくこと。<br>2．予習として，授業で用いる文献を熟読しておくこと。<br>3．授業での学びをきっかけにして，関係する文献を調べ研究を充実させること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリント資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと表現演習 | | | 授業番号 | MB307 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 牛島　光太郎 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの表現活動について乳幼児期から学童期の実態に応じた内容の演習を通して理論を探求する。<br>様々な表現のツールを用いながら，その特徴や面白さを確認し，探求する力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)表現に関する基本を踏まえ，各期のねらい及び内容の背景にある研究領域を理解する。<br>1-1)子どもが経験し身につけていく内容の背景にある研究領域を理解している。<br>(2)子どもの発達や学びの過程を理解し，素材や環境要素を教材化することができる。<br>2-1)子どもの心情，認識，思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想をもとに教材を選択することができる。<br>2-2)表現に関する特性及び子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，指導の構想に活用することができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 表現とは | |
| 第2回 | 子どもの表現とは | |
| 第3回 | 表現と教育の歴史 | |
| 第4回 | 表現能力の発達 | |
| 第5回 | 活動の中にみられる表現特性 | |
| 第6回 | 子どもの想像力 | |
| 第7回 | 子どものあそびと表現 | |
| 第8回 | 表現と環境 | |
| 第9回 | 自然環境と表現 | |
| 第10回 | 音と表現 | |
| 第11回 | 形と表現 | |
| 第12回 | 色と表現 | |
| 第13回 | 技術・技法 | |
| 第14回 | 鑑賞 | |
| 第15回 | 表現の読み取り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 「子どもの表現」について背景・理論などについて具体的に述べていること。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子どもの表現を豊かにする活動およびその背景にある理論について理解するために手を動かし，頭を動かして探求してほしい。 |
| 授業外学修 | 課題を課すことがある。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 造形表現については，はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと健康演習 | | | 授業番号 | MB308 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 水落　洋志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの身心の発育・発達についての現状と課題について講義する。また，子どもと健康に関わる課題等について文献や学術論文を集め，要約し発表する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 下記の3点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜保育所，幼稚園，認定こども園，小学校，地域社会，家庭などのあらゆる領域における子育て支援，保育，教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して，多様な視点からアプローチし，理論化を図る＞ことに貢献する。<br>1．乳幼児期の心身の発育・発達を理解し，現状から導き出される課題と照らし合わせ，その課題への対応策を導き出すことができる。<br>2．乳幼児期の各発達段階に応じた支援・援助について，健康の側面から分析及び適切な解を導き出すことができる。<br>3．子どもの健康に関する課題について，論理的思考をもち，課題解決することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳幼児期の心身の発育・発達 | |
| 第2回 | 乳児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響 | |
| 第3回 | 幼児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響 | |
| 第4回 | 乳児期の遊び（運動遊びを中心として） | |
| 第5回 | 幼児期の遊び（運動遊びを中心として） | |
| 第6回 | 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（歩行動作獲得までの発達過程） | |
| 第7回 | 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（模倣動作の発達過程） | |
| 第8回 | 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（運動能力の発達過程） | |
| 第9回 | 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団の運動遊び） | |
| 第10回 | 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（子どもの興味・関心から構成する運動遊び） | |
| 第11回 | 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（0−1歳児を中心として） | |
| 第12回 | 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（2歳児を中心として） | |
| 第13回 | 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（3歳児を中心として） | |
| 第14回 | 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（4歳児を中心として） | |
| 第15回 | 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（5歳児を中心として） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 35 | 論理的思考や主体的な発話ができる。さらに，自己の興味・関心に基づき探究し，具現化（レポート等）することができる。 |
| レポート | 65 | 乳幼児期の発達の特性を捉え，理論的に発表したり，レポート作成ができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．乳幼児の健康に関する知見やその研究データなどを収集し，解決にむけた方法を探る。<br>2．乳幼児の身体発達についての先行研究を集約し，研究方法について理解する。 |
| 授業外学修 | 1．乳幼児を対象とした身体に関する学術論文や文献を集め，そのポイントを記載する。<br>2．具体的な乳幼児の身体発達を促す遊びや場面について，生活の中でエピソードを収集する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生涯スポーツの心理学 | 杉原　隆 | 福村出版 | 978-4-571-25039-2 | 2，800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 事前に読んでおくことが望ましい。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼児・保育現場での運動指導，スポーツクラブインストラクター，保育者への運動発達に関する実演・講演演者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が，乳幼児期の健康に関する専門的知識を身につけるため，幼児・保育現場での運動指導の経験等や保育者に対する健康に関する実技講演等の演者の経験を生かし，指導を行う。 |

| 科目名 | 子どもと環境演習 | | | 授業番号 | MB309 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 齊藤　佳子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには，指導者はどのような準備をし，どのように子どもに接すればよいか，ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。<br>また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには，どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え，明らかにしていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子どもが身近な環境に親しみ，自然とふれあい，様々な事象に興味・関心をもつためには，指導者はどのような準備，仕掛け，声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。<br>・子どもが身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べることができる。<br>・物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにするためには，どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「環境」のねらいと内容について要点を考察する。 | |
| 第2回 | 子どもの身近な環境とは何か。自然とは何か。子どもが興味・関心を持つためには，゜どうすれば良いか。 | |
| 第3回 | 子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか。発見を楽しむとはどういうことか。<br>子どもはどのような場面で何を考えるか。 | |
| 第4回 | 「(1)自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第5回 | 「(2)生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第6回 | 「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第7回 | 「(4)自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第8回 | 「(5)身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。」 | |
| 第9回 | 「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第10回 | 「(7)身近な物を大切にする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第11回 | 「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・言葉掛けをしたら良いか，イメージして，まとめる。 | |
| 第12回 | 「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第13回 | 「（10）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第14回 | 「（11）生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 第15回 | 「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。 | |
| 授業計画　備考2 | 授業の前半で資料を集め，思索を深め，子どもの具体的な活動をイメージする。<br>授業の後半は，ポイントを押さえたレポートを作成する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 意欲的な授業態度 |
| レポート | 75 | レポートの内容，独自性 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・学習者の考え，発想，イメージを尊重する。 |
| 受講の心得 | ・「子どもと環境」について，深く根本的なことについて考え，イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べること。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。 |
| 授業外学修 | ・「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し，見識を深めていくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育内容　環境 | 神長美津子・堀越紀香・佐々木晃 | 光生館 | 978-4-332-70186-6 | 1，800円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと人間関係演習 | | | 授業番号 | MB310 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 廣畑　まゆ美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業は授業前に調べ学習を行い，授業は議論中心に行う。具体的には，幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また，そのための質的研究方法論についての理解も深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。<br>・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。<br>・先行研究のまとめ方，議論の方法を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「人間関係」に関する研究とは何か　…　発達研究と実践研究について理解を深める | |
| 第2回 | 「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る　…　仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する。 | |
| 第3回 | 「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論 | |
| 第4回 | 「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論 | |
| 第5回 | 「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論 | |
| 第6回 | 「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論 | |
| 第7回 | 幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述…『エピソード記述入門』の紹介と議論 | |
| 第8回 | 幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究…『発達心学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論 | |
| 第9回 | 幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方…ドキュメンテーションの紹介と議論 | |
| 第10回 | 質的研究方法論のTEMについて理解を深める…『TEMでわかる人生の径路』を基にした議論 | |
| 第11回 | TEMで幼児の仲間関係をどのように捉えられるか… 保育実践研究のツールとしての複線径路・等至性モデルの可能性と課題」に関する議論 | |
| 第12回 | 幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA…「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論 | |
| 第13回 | 幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ…『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論 | |
| 第14回 | エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか…『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論 | |
| 第15回 | 仲間関係に関するテーマを基にした議論　…　各受講者の関心のあるテーマを基に議論 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。課題はコメントをつけて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，課題のレポートを書く。<br>3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない。適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 使用しない。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 教育心理学特論 | | | 授業番号 | MC301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。この授業では，学習者の認知過程についての知見をふまえた，新たな授業実践のあり方を解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで，児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教授学習過程とは | |
| 第2回 | 学習科学:思弁から科学へ | |
| 第3回 | 熟達　ー熟達者と初心者の違いは何かー | |
| 第4回 | 転移　ー学んだことを活用するためにー | |
| 第5回 | 認知発達　ー子どもはいかに学ぶのかー | |
| 第6回 | 神経科学　ー学習を支える脳のメカニズムー | |
| 第7回 | 学習環境　ー学びの環境をデザインするー | |
| 第8回 | 算数教育　ー意味を理解させるー | |
| 第9回 | 理科教育　ーブラックボックスの内部を探るー | |
| 第10回 | 読みの指導　ー大きな構図を見るー | |
| 第11回 | 作文教育　ー知識の陳述から知識の変換へー | |
| 第12回 | 教育評価　ー指導と評価を一体化するー | |
| 第13回 | 教師の学習　ー教師の成長を支援するー | |
| 第14回 | 情報教育　ー学習を支える情報テクノロジーー | |
| 第15回 | 学習科学の現状 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 100 | 発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。 |
| 授業外学修 | 有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 授業が変わる　認知心理学と教育実践が手を結ぶとき | 松田文子・森　敏昭(監訳) | 北大路書房 | 4-7628-2088-1 | 3200円 |
| 授業を変える　認知心理学のさらなる挑戦 | 森　敏昭・秋田喜代美(監訳) | 北大路書房 | 978-4-7628-2275-9 | 3800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども社会学特論 | | | 授業番号 | MC302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。<br>受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。<br>その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。<br>教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。<br>そこで，本授業では，現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。<br>このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども社会学の位置づけ | |
| 第2回 | 子ども社会学の研究対象と研究方法 | |
| 第3回 | 子どもの発達と子どもの「居場所」 | |
| 第4回 | 子どもの「居場所」と臨床教育社会学 | |
| 第5回 | 子どもの逸脱行動 | |
| 第6回 | 「いじめ」の定義の再検討 | |
| 第7回 | 学校と地域社会の連携 | |
| 第8回 | 母親の育児不安と父親の育児態度 | |
| 第9回 | 母親の育児不安と育児サークル | |
| 第10回 | 現代日本の子ども観 | |
| 第11回 | 子どもの仲間集団 | |
| 第12回 | 子どもの放課後と学童保育 | |
| 第13回 | 子ども研究の方法（テクスト分析） | |
| 第14回 | 子ども研究の方法（フォーカス・グループ・インタビュー） | |
| 第15回 | 子ども研究の方法（SCAT） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 作成したレジュメ及びその修正 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 発表及び質問 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な姿勢で臨むこと。 |
| 授業外学修 | 発表資料の作成 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子ども社会学の現在 | 住田正樹 | 九州大学出版会 | 978-4-7985-0135-2 | 3800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版<br>住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版<br>酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房<br>浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣<br>近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会<br>日本子ども社会学会 編『いま，子ども社会に何がおこっているか』北大路書房<br>永井聖二・加藤　理 編『消費社会と子どもの文化』学文社 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 相談・援助特論 | | | 授業番号 | ME301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し，ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し，子どもを取り巻く環境に働きかける支援の理解を深める。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育・教育現場における相談援助について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。<br>2．子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。<br>3．事例研究にもとづいて，アセスメントの方法について理解できるようになる。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 相談援助の構造<br>子ども家庭支援のシステムを理解する。 | |
| 第2回 | 相談援助の理論・意義・機能<br>子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。 | |
| 第3回 | 相談援助における技術<br>子ども家庭支援の目的と機能を理解する。 | |
| 第4回 | 相談援助の対象・プロセス<br>保育の専門性を生かした支援プロセスを理解する。 | |
| 第5回 | 相談援助の方法と技術<br>信頼関係を築くための保護者や子どもへの対応方法を理解する。 | |
| 第6回 | 関係機関との連携<br>子どもや保護者が利用している社会資源との連携の必要性を理解する。 | |
| 第7回 | 保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」<br>子どもの権利条約に基づく対人相談援助ついて理解する。 | |
| 第8回 | 保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」<br>保護者との情報共有の必要性を理解する。 | |
| 第9回 | 保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」<br>保育者に求められる資質を理解する。 | |
| 第10回 | 保育・教育相談援助の基本「受容，自己決定，秘密保持の遵守」<br>バイステックの対人援助の7原則を理解する。 | |
| 第11回 | 保育・教育相談援助の実際1<br>保育所を利用する子どもへの家庭支援の方法を理解する。 | |
| 第12回 | 保育・教育相談援助の実際2<br>地域の子育て家庭への支援の方法を理解する。 | |
| 第13回 | 保育・教育相談援助の実際3<br>要保護の子どもと家庭への支援の方法を理解する。 | |
| 第14回 | 保育・教育相談援助の実際4<br>障がいのある子どもと保護者への支援の方法を理解する。 | |
| 第15回 | 保育・教育相談援助の実際5<br>虐待の予防に向けての保護者への支援の方法を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲のある受講態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）<br>授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間）<br>授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保護者と子どもに寄り添う子ども家庭支援論 | 立花直樹他監修 | 晃洋書房 | | 2000 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 発達障害児支援特論 | | | 授業番号 | ME302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 原田　新 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で，二次障害の予防を見据えたインクルーシブ教育の環境，発達障害児への具体的な支援方法や関わり方，また家族支援の方法について身につけることを目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 各種の発達障害特性や支援方法について理解することで，発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に，子育て支援，保育，教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害とは | |
| 第2回 | 発達障害の理解(1) | |
| 第3回 | 発達障害の理解(2) | |
| 第4回 | 発達障害の理解(3) | |
| 第5回 | 発達障害と二次障害 | |
| 第6回 | インクルーシブ教育(1) | |
| 第7回 | インクルーシブ教育(2) | |
| 第8回 | インクルーシブ教育(3) | |
| 第9回 | インクルーシブ教育(4) | |
| 第10回 | 発達障害児の見方と関わり方(1) | |
| 第11回 | 発達障害児の見方と関わり方(2) | |
| 第12回 | 発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(1) | |
| 第13回 | 発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(2) | |
| 第14回 | 発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(3) | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 80 | 授業内での討論や演習等への参加状況，授業外での取り組み状況，授業内で作成する成果物を総合的に評価する。 |
| レポート | 20 | 授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に，授業中に行う討論や演習等に参加すること。 |
| 授業外学修 | 授業で配布する資料や，参考書等を参照しながら，予習，復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高等教育機関における障害学生支援 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。 |

| 科目名 | 子どもの認知と学習特論 | | | 授業番号 | ME303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人の行動は内的な認知過程に依存しており，その過程は感情や意識，経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と，それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 学習および認知について | |
| 第2回 | 古典的条件づけ | |
| 第3回 | オペラント条件づけ | |
| 第4回 | 技能学習 | |
| 第5回 | 社会的学習 | |
| 第6回 | 問題解決と推理 | |
| 第7回 | 概念過程と言語獲得 | |
| 第8回 | 記憶のしくみ | |
| 第9回 | 情報の検索と忘却 | |
| 第10回 | 知識と表象 | |
| 第11回 | イメージと空間の情報処理 | |
| 第12回 | 認知の制御過程 | |
| 第13回 | 文章の理解と記憶 | |
| 第14回 | 意思決定 | |
| 第15回 | 日常世界の記憶 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 100 | 発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。 |
| 授業外学修 | 有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| グラフィック学習心理学 | 山内光哉・春木　豊（編著） | サイエンス社 | 978-4-7819-0977-9 | 2550円 |
| グラフィック認知心理学 | 森　敏昭・井上　毅・松井孝雄（共著） | サイエンス社 | 978-4-7819-0776-8 | 2400円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもとメディア特論 | | | 授業番号 | MF301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもを取り巻く情報メディア環境は，スマートフォン使用の低年齢化が進むことにより，大きく様変わりしつつある。<br>そのため，社会全体が，子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。<br>　本授業では，前半部分でメディア教育の基礎理論およびその歴史と変遷について学修し，後半部分ではメディアと社会について，インターネットのソーシャルメディアを取り上げ，その文化的，社会的な効果や影響について分析し，適切な情報メディア環境を分析する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 授業で学んだメディア教育やソーシャルメディアの分析手法を習得し，その分析手法を使用し，各メディアが与える効果や影響について分析する知識を身に付ける。そして，ソーシャルメディアの今後の課題と在り方について学ぶ。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メディア教育とは | |
| 第2回 | メディア教育の歴史１（視聴覚教育とメディア教育） | |
| 第3回 | メディア教育の歴史2（コンピュータ教育とメディア教育） | |
| 第4回 | メディア教育の歴史３（インターネットとメディア教育） | |
| 第5回 | メディアリテラシー教育 | |
| 第6回 | ソーシャルメディアの基礎知識１（文字による情報メディアの表現と技術） | |
| 第7回 | ソーシャルメディアの基礎知識２（音声による情報メディアの表現と技術） | |
| 第8回 | ソーシャルメディアの基礎知識３（画像による情報メディアの表現と技術） | |
| 第9回 | ネットワークとメディア環境１（情報の伝達の仕組み） | |
| 第10回 | ネットワークとメディア環境２（情報の伝達の構築） | |
| 第11回 | ソーシャルメディアの課題1 | |
| 第12回 | ソーシャルメディアの課題とその対策1 | |
| 第13回 | ソーシャルメディアの課題とその対策2 | |
| 第14回 | ソーシャルメディアの今後1 | |
| 第15回 | ソーシャルメディアの今後2 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 各回の授業で提示される課題について、理解の程度、自分の考えを具体的に述べているかなどの観点で評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 新聞・TV等で報道されるメディア情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 |
| 授業外学修 | 1 復習すること<br>2 授業で紹介された参考文献を読む。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中でその都度紹介するが「スマホ能」アンデシュ・ハンセン(新潮新書)は必ず読んでほしい。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域教育社会学特論 | | | 授業番号 | MF302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。<br>受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。<br>その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。<br>教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。<br>そこで，本授業では，地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。<br>このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての地域教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの社会化とは何か | |
| 第2回 | 現代日本の子ども観（1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観 | |
| 第3回 | 現代日本の子ども観（2)課題図書に見る子ども観 | |
| 第4回 | 現代日本の子ども観（3)地域住民の子ども観 | |
| 第5回 | 子ども社会化エージェント（1)子どもの仲間集団における社会化の特徴 | |
| 第6回 | 子ども社会化エージェント（2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴 | |
| 第7回 | 子ども社会化エージェント（3)家族集団における社会化の特徴 | |
| 第8回 | 現代社会における子育て支援（1)母親の育児不安の実態 | |
| 第9回 | 現代社会における子育て支援（2)放課後子ども教室と学童保育 | |
| 第10回 | 現代社会における子育て支援（3)近隣集団と地域集団の活動 | |
| 第11回 | 現代社会における子育て支援（4)子どもとインターネット，ケータイ | |
| 第12回 | 地域における子育て支援活動の現実（1)放課後子どもプラン | |
| 第13回 | 地域における子育て支援活動の現実（2)教育支援人材の育成 | |
| 第14回 | 地域における子育て支援活動の現実（3)地域集団における子育て支援活動(1) | |
| 第15回 | 地域における子育て支援活動の現実（4)地域集団における子育て支援活動(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 作成したレジュメ及びその修正 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 発表及び質問 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な姿勢で臨むこと。 |
| 授業外学修 | 発表資料の作成 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもへの現代的視点 | 住田正樹・多賀太 | 北樹出版 | 4-7793-0076-2 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版<br>住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会<br>酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房<br>浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣<br>近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域教育福祉特論 | | | 授業番号 | MF303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中　典子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ・現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで，子どもの教育環境・児童福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際，「地域におけるネットワーク形成」に着目し，コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また，院生自身が事例を読み解き，自らプレゼンテーションをする時間を設ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して，地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。<br>・子ども，家族に関する理解を前提に，子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析，考察することができるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもをめぐる現状と課題<br>子どもをとりまく環境を理解する。 | |
| 第2回 | 「子どもの権利条約」からみた教育・福祉<br>子どもの権利に関する条約の内容を理解する。 | |
| 第3回 | 地域ネットワークとは<br>地域の社会機関同士の連携協働の必要性を理解する。 | |
| 第4回 | 子育ての現状と子育てネットワーク<br>子育て支援関連の社会資源を理解する。 | |
| 第5回 | 幼稚園における子育て支援<br>幼稚園教育要領における子育て支援の内容を理解する。 | |
| 第6回 | 児童館で展開される子育てネットワーク<br>児童館での子育て支援を理解する。 | |
| 第7回 | 学校現場を中心にみたネットワーク1<br>スクールソーシャルワークを理解する。 | |
| 第8回 | 学校現場を中心にみたネットワーク2<br>スクールソーシャルワーカーの役割を理解する。 | |
| 第9回 | 市町村における子どもの専門機関のネットワーク<br>行政における子育て支援対策を理解する。 | |
| 第10回 | 子どもの貧困対策に対する支援1<br>子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。 | |
| 第11回 | 子どもの貧困対策に対する支援2<br>子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。 | |
| 第12回 | 多文化の子どもに対する支援1<br>子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。 | |
| 第13回 | 多文化の子どもに対する支援2<br>子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。 | |
| 第14回 | 子どもをめぐるネットワークとは<br>子ども支援のために構築されているネットワークを理解する。 | |
| 第15回 | 地域教育・地域福祉の今後の展望と課題<br>子どもの教育保障するためにどのような暮らしの支援が必要かを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | テキストの内容を把握した上での質問，発言，及び他学生の意見に対するコメントなどについて評価する |
| レポート | 50 | 出題に対して適切な分析力，表現力，また，参考文献・資料などの活用力などについて評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | プレゼンテーションについては，「他者によく分かる授業」を観点として評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書をよく読んでくること。毎回の授業において，他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し，他学生に提示できるように努力すること。 |
| 授業外学修 | 1．毎授業後に示す範囲について，事前に教科書をしっかり読んでくること。（約1時間）<br>2．教科書の内容に関連することについて深めることができる文献や先行研究論文にあたり，要約のプリントを作成すること。（約2時間） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援ー地域・学校・行政の挑戦 | 柏木 智子他編 | 晃洋書房 | | 2600 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもと放課後特論 | | | 授業番号 | MF304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 放課後における子どもの生活実態を様々な統計データから読み解く。その上で，放課後における子どもの心身の発達及び学習の過程とそれを支援する教育と福祉に関する理論と思想，及び，現状と課題について検討する。最後に，学校教育と放課後児童健全育成事業・放課後子ども総合プランとの連携のあり方について，社会的，制度的，経営的な観点から考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 放課後における子どもの生活実態を理解するとともに，放課後の子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの放課後生活の現状 | |
| 第2回 | 子どもの放課後生活の課題 | |
| 第3回 | 子どもの放課後生活の課題分析 | |
| 第4回 | 子どもの放課後における教育（１） | |
| 第5回 | 子どもの放課後における教育（２） | |
| 第6回 | 子どもの放課後における教育（３） | |
| 第7回 | 子どもの放課後における教育（４） | |
| 第8回 | 子どもの放課後における福祉（１） | |
| 第9回 | 子どもの放課後における福祉（２） | |
| 第10回 | 子どもの放課後における福祉（３） | |
| 第11回 | 現代における放課後子ども対策の現状（１） | |
| 第12回 | 現代における放課後子ども対策の現状（２） | |
| 第13回 | 岡山県における放課後子ども対策の現状（１） | |
| 第14回 | 岡山県における放課後子ども対策の現状（２） | |
| 第15回 | 子どもの放課後と学校教育 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 60 | 本科目の学習を理解した上で，放課後子ども対策に関する考えを論述すること |
| 小テスト | 40 | 授業内容を理解し，適切に回答すること |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って，積極的に討論に参画すること。 |
| 授業外学修 | 1）テキスト及び配付資料を熟読すること。<br>2）学校外の子どもを対象とした様々な事業に参加したり，そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 学童保育研究の課題と展望 | 日本学童保育学会 | 明誠出版 | 4909942165 | 3080 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針」「放課後児童クラブ運営指針解説書」 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども学特別研究 | | | 授業番号 | MH401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 佐々木　弘記、中　典子、中田　周作、伊藤　智里、國田　祥子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 8単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 入学後，院生は研究指導教員と話し合い，ディプロマポリシーにふさわしい研究テーマを設定し，修士論文としてまとめる。目安として，1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め，具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集，解析し，修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある学生では，自ら体験した事例や，現場で集めたデータを基に研究を進めることもできる。2年次後半で研究の仕上げを行い，修士論文を完成させる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子ども学の本質・内容・方法に関する基本理解に基づいて，<br>・自ら事象を分析し，何が問題であるかを見出し，解決法を探る力を身につける。<br>・子ども学の基礎的な研究手技を身につける。<br>・論理的で普遍性のある表現力を身につける。<br>以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。<br>本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 佐々木弘記：教育方法学，教育工学の手法を用いて，教授－学習過程やメディアの活用に関する理論的・実証的研究の指導を行う。<br>中　　典子：事例研究の手法を用いて学校をベースに展開するソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。<br>伊藤智里：幼児教育の歴史，現在の保育・幼児教育に関する問題等に関する研究指導を行う。<br>國田　祥子：表示メディアと読みの関係，音読の効果，頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 90 | 執筆された論文を学位審査委員会で審査する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 論文は，受講中の討論や中間発表での議論が反映されていること，高度専門職業人や研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演を審査の対象とすることができる。 |
| 受講の心得 | 教育や保育の実践の改善に資するテーマを探究すること。先行研究のレビューを行い，教育や保育の実践上の問題点を明確にし，研究課題の新規性を説明できるようにしておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業で提示される次回の内容について，予習すること。<br>授業で提示された課題を実施し，復習すること。<br>上記の内容を，週当たり8時間程度学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一），公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。 |

## 中国短期大学　総合生活学科　シラバス


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| フレッシャーズセミナー | 加賀田　江里／小築　康弘／藤田　悟／仁宮　崇／奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 1 |
| 韓　国　語 | 河　智弘 | ・・・・・・・ | 3 |
| キャリア開発論 | 小築　康弘／小川　孝司／平井　安久 | ・・・・・・・ | 5 |
| 中　国　語 | 畑木　亦梅 | ・・・・・・・ | 7 |
| 日本国憲法 | 俟野　英二 | ・・・・・・・ | 9 |
| 人間の尊厳と自立 | 住野　好久 | ・・・・・・・ | 11 |
| 経済学 | 板野　敬吾 | ・・・・・・・ | 13 |
| 体育実技 | 土田　豊 | ・・・・・・・ | 15 |
| 英　語　Ａ 1クラス | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 17 |
| 英　語　Ａ 2クラス | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 19 |
| 日本語表現 | 小川　孝司 | ・・・・・・・ | 21 |
| 心理学 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 23 |
| 社会保障論 | 松井　圭三 | ・・・・・・・ | 25 |
| 社会学 | 中田　周作 | ・・・・・・・ | 27 |
| 芸　　術 | 鳥越　亜矢 | ・・・・・・・ | 29 |
| 人間関係とコミュニケーション | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 31 |
| 自然科学概論 | 岸　誠一 | ・・・・・・・ | 33 |
| 英　語　Ｂ | 藤代　昇丈 | ・・・・・・・ | 35 |
| 法学概論 | 藤原　健補　他 | ・・・・・・・ | 37 |
| 時事問題 | 板野　敬吾 | ・・・・・・・ | 39 |
| 生活とデザイン | 生活A | ・・・・・・・ | 41 |
| 色彩学 | 能登原　英代 | ・・・・・・・ | 43 |
| 生活デザイン実習Ａ（135分） | 藤田　悟 | ・・・・・・・ | 45 |
| 生活デザイン実習Ｂ（135分） | 江口　まりこ | ・・・・・・・ | 47 |
| 基礎調理演習 | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 49 |
| 食と生活 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 51 |
| 食品の世界 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 53 |
| 食と健康 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 55 |
| 食空間と調理 | 加賀田　江里／石田　有美枝 | ・・・・・・・ | 57 |
| 調理実習Ⅰ | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 59 |
| 製菓演習（7.5回） | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 61 |
| フードマーケティング論 | 大宮　めぐみ | ・・・・・・・ | 63 |
| 食生活演習（7.5回） | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 65 |
| フードコーディネート実習 | 小築　康弘／石田　有美枝 | ・・・・・・・ | 67 |
| 食品加工学・実習 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 69 |
| 応用調理演習 | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 71 |
| 調理実習Ⅱ | 加賀田　江里／岡　久／山田　紳介 | ・・・・・・・ | 73 |
| 生活学概論A | 小築　康弘／仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 75 |
| 生活学基礎演習 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 77 |
| 生活情報基礎演習 1クラス | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 79 |
| 生活情報基礎演習 2クラス | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 81 |
| キャリア基礎演習 | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 83 |
| 生活コミュニケーション論 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 85 |
| 生活コミュニケーション演習A 生活創造・医療事務コースの学生対象 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 87 |
| 生活コミュニケーション演習A 生活福祉コースの学生対象 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 89 |
| 生活学概論B | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 91 |
| 生活学概論B | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 93 |
| ホスピタリティとマナー | 松井　圭三／加賀田　江里／仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 95 |
| キャリア開発演習 | 藤田　悟 | ・・・・・・・ | 97 |
| 生活学概論C | 小築　康弘／仁宮　崇／韓　在都 | ・・・・・・・ | 99 |
| 生活学概論D | 加賀田　江里／奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 101 |
| メンタルヘルス学 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 103 |
| ホスピタリティ論 | 仁宮　崇／奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 105 |
| 生活情報演習A 生活創造・医療事務コースの学生対象 | 石原　信也 | ・・・・・・・ | 107 |
| 生活情報演習A 生活福祉コースの学生対象 | 石原　信也 | ・・・・・・・ | 109 |
| 公衆衛生学 | 波多江　崇 | ・・・・・・・ | 111 |
| 生活コミュニケーション演習B 生活創造・医療事務コースの学生対象 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 113 |
| 生活コミュニケーション演習B 生活福祉コースの学生対象 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 115 |
| 生活情報演習B 1クラス | 石原　信也 | ・・・・・・・ | 117 |
| 生活情報演習B 2クラス | 石原　信也 | ・・・・・・・ | 119 |
| 生活コミュニケーション演習C | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 121 |
| 生活コミュニケーション演習D | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 123 |
| メンタルヘルス学 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 125 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 総合生活学セミナーA | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 127 |
| 総合生活学セミナーB | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 129 |
| 総合生活学セミナーC | 石原　信也 | ・・・・・・・ | 131 |
| 総合生活学セミナーD | 小築　康弘 | ・・・・・・・ | 133 |
| 総合生活学セミナーE | 藤田　悟 | ・・・・・・・ | 135 |
| 特別研究 | 中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 137 |
| 診療報酬請求事務Ⅰ | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 140 |
| 診療報酬請求事務演習Ⅰ | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 142 |
| 医事コンピュータ演習Ⅰ | 岡本　智子 | ・・・・・・・ | 144 |
| 医療管理事務総論 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 146 |
| 秘書学 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 148 |
| 医療情報管理論 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 150 |
| 診療報酬請求事務Ⅱ | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 152 |
| 医事コンピュータ演習Ⅱ | 岡本　智子 | ・・・・・・・ | 154 |
| 診療報酬請求事務演習Ⅱ | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 156 |
| 医療機関実習 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 158 |
| 医療事務情報演習 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 160 |
| 接遇演習 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 162 |
| ファッションと生活 | 能登原　英代 | ・・・・・・・ | 164 |
| ファッションビジネス | 藤田　悟 | ・・・・・・・ | 166 |
| アパレル基礎実習（135分） | 江口　まりこ | ・・・・・・・ | 168 |
| アパレル企画実習（135分） | 江口　まりこ | ・・・・・・・ | 170 |
| ファッションコーディネート演習（135分） | 藤田　悟 | ・・・・・・・ | 172 |
| 地域共生社会論 | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 174 |
| 地域福祉論 | 松井　圭三 | ・・・・・・・ | 176 |
| 社会福祉論 | 松井　圭三 | ・・・・・・・ | 178 |
| ヒューマンケア | 中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 180 |
| ヒューマンケア（1） | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 182 |
| ヒューマンケア（2） | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 184 |
| ヒューマンケア（3） | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 186 |
| 介護保険事務論 | 仁宮　崇 | ・・・・・・・ | 188 |
| 介護概論 | 松井　圭三 | ・・・・・・・ | 190 |
| 介護の基本Ⅰ | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 192 |
| 認知症の理解Ⅰ | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 194 |
| 人間発達学 | 奥村　弥生 | ・・・・・・・ | 196 |
| 障害者支援論 | 平尾　太亮 | ・・・・・・・ | 198 |
| 医学一般 | 波多江　崇 | ・・・・・・・ | 200 |
| リスクマネジメント論 | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 202 |
| 生活支援技術Ⅰ | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 204 |
| 生活家事支援技術 | 加賀田　江里 | ・・・・・・・ | 207 |
| 生活余暇支援技術 | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 209 |
| 総合生活学セミナーKI | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 211 |
| 総合生活学セミナーKⅡ | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 213 |
| 介護過程Ⅰ | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 215 |
| 介護過程Ⅱ | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 217 |
| 介護実習Ⅰ―① | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 219 |
| 介護実習Ⅰ―② | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 221 |
| ヒューマンケア（4） | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 223 |
| ヒューマンケア（5） | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 225 |
| 介護の基本Ⅱ―A | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 228 |
| 介護の基本Ⅱ―B | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 230 |
| 認知症の理解Ⅱ | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 232 |
| 発達と老化の理解 | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 234 |
| 障害の理解 | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 236 |
| こころとからだのしくみⅠ | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 238 |
| こころとからだのしくみⅡ | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 240 |
| 生活コミュニケーション特論 | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 242 |
| 生活支援技術Ⅱ | 森田　裕之 | ・・・・・・・ | 244 |
| 生活支援技術Ⅲ | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 247 |
| 総合生活学セミナーKⅢ | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 250 |
| 総合生活学セミナーKⅣ | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 252 |
| 介護過程Ⅲ | 韓　在都 | ・・・・・・・ | 254 |
| 介護実習Ⅰ―③ | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 256 |
| 医療的ケアⅠ | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 258 |
| 介護実習Ⅱ | 松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之 | ・・・・・・・ | 261 |
| 医療的ケアⅡ | 中野　ひとみ | ・・・・・・・ | 263 |

| 科目名 | フレッシャーズセミナー | | | 授業番号 | HA101 | サブタイトル | (大学における学修方法を身につける) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘、藤田　悟、加賀田　江里、仁宮　崇、奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 導入教育を目的として開講された本科目では，新入生が学生生活を有意義なものとするため，学生として必要な勉学の進め方（ノートの取り方・レポートの書き方・質問の仕方）を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・学生としての学修方法を実践することができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「学修」／レポートの書き方（1）<br>大学における「学修」について考える。その後，レポートの書き方の初歩を学ぶ。 | 小築康弘 |
| 第2回 | レポートの書き方（2）<br>レポート作成に対する計画と情報収集について学ぶ。 | 小築（講義），藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価） |
| 第3回 | メモ・ノートの取り方：キーワードを捕まえよ<br>一言一句をメモするのは相当な技術である。それよりも比較的簡単なキーワードをメモする方法を学ぶ。 | 小築康弘 |
| 第4回 | スマートフォンで図書館蔵書検索<br>スマートフォンを利用し，図書館にある本を検索する。 | 小築康弘 |
| 第5回 | 実践：図書館利用<br>図書館利用について，図書館スタッフの説明を受け，実際に本を探す。 | 小築康弘，加賀田江里，仁宮崇 |
| 第6回 | レポート (1)(2) の添削指導<br>レポートの書き方(1)(2)に対するレポートの添削した結果を伝える。 | 小築，藤田，仁宮，加賀田，奥村 |
| 第7回 | レポートの書き方（3）<br>読みやすいレポートを作成するための三部構成を学ぶ。 | 小築（講義），藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価） |
| 第8回 | ゲストスピーカーの話の聞き方<br>大学には様々なゲストがいらっしゃる。そのようなゲストの話の聞き方を考える。 | 小築康弘 |
| 第9回 | 実践：講演を聞いてメモを取る<br>講演を聞き，キーワードをメモする練習をする。 | 小築康弘 |
| 第10回 | レポート（3）の添削指導<br>レポートの書き方(3)に対するレポートの添削した結果を伝える。 | 小築，藤田，仁宮，加賀田，奥村 |
| 第11回 | レポートの書き方（4）<br>読みやすい文章について考える。 | 小築（講義），藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価） |
| 第12回 | 質問の仕方<br>質問が難しいのは「優秀に見られたい」「恥をかきたくない」等の個人の思いに起因することが多い。ハードルを下げ，質問する練習をする。 | 小築康弘 |
| 第13回 | 実践：講演を聞いてメモを取り，質問する<br>講演を聞き，メモを取り，質問をする実践をする。 | 奥村弥生，小築康弘 |
| 第14回 | 実践：講演を聞いてメモを取る(2)<br>講演を聞き，キーワードをメモする練習をする。 | 小築 |
| 第15回 | レポート（4）の添削指導<br>レポートの書き方(4)に対するレポートの添削した結果を伝える。 | 小築，藤田，仁宮，加賀田，奥村 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業への取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 30 | 指示されたルールを守ってレポートを作成し，期限までに提出できるかで評価する。提出された課題は評価し，コメントを付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 質問に関する実技試験20%，メモ・ノートテイキングの成果物の評価が16%，検索・探索結果の写真の提出が4%で，それぞれの事項を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 学んだことを普段の学修において実践すること。 |
| 授業外学修 | ・課題として出されるレポートの作成をすること<br>・授業で得た学生としての学修を様々な場面で実践すること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 韓　国　語 | | | 授業番号 | HA102 | サブタイトル | (韓国語の基礎を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河　智弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 基本文型と文法を会話文の中で習得し，日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。韓国語コミュニケーションIで学んだ韓国語の基礎を生かして，会話，慣用的な表現などを用いて，読み，書き，聞き取り，話すことをバランスよく習得していく。特に，聞き取りと話すことにおいて，留学生などのゲストを迎えスキルを活用する機会につなげる | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。<br>・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。<br>・簡単な韓国語が書けることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 韓国語とは | |
| 第2回 | 文字と発音・母音 | |
| 第3回 | 文字と発音・子音 | |
| 第4回 | 激音と農音，パッチム | |
| 第5回 | 自己紹介 | |
| 第6回 | これは何ですか | |
| 第7回 | 結婚写真 | |
| 第8回 | 動詞の活用 | |
| 第9回 | 何をしますか | |
| 第10回 | 韓国映画の言葉 | |
| 第11回 | 私たちの教室 | |
| 第12回 | 動詞の尊敬形 | |
| 第13回 | どこに行かれますか。 | |
| 第14回 | 場所 | |
| 第15回 | 日常会話及びまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っているのかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。 |
| 定期試験 | 40 | 授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をすること<br>宿題を真面目にすること |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。<br>・復習として，毎回の課題をノートに書いて来ること。<br>・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カナタコリアン初級1 | カナタ韓国語学院 | 国書刊行会 | 978-4-336-05677-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | キャリア開発論 | | | 授業番号 | HA103 | サブタイトル | (キャリア形成のための基礎学力養成) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘、平井　安久、小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちは変化の激しい時代を生きている。以前は手に職をつければ，一生生きていけるという考えが主流だった。しかし，現代では身につけた知識・技術があっという間に時代遅れになってしまう。このような時代に生きる我々は常に知識・技術のアップデートが求められ，そのアップデートに対応できる言語力・論理力・推論力が必要となる。<br>これらを踏まえ，本授業の目的はキャリア開発の基礎となる基礎学力の養成にある。特に，みなさんが現在向き合っている就職活動を意識し，基礎学力の養成を図る。履歴書・エントリーシート等では，比較的短い文章で自身の意図を伝える必要があり，そのための表現能力の開発を行う。また， SPIに対応できるようになるために，言語分野としての基礎的国語能力の開発，非言語分野として基礎的数学能力の開発を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・日本語表現の特徴を捉え，基礎的な言語力を身につけることができる。<br>・数学の基礎的な知識を身につけ，基礎的問題を解くことができる。<br>なお，本教科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリア開発とは？：なぜ基礎学力が必要か<br>キャリア形成における基礎学力の重要性について考える | 小築 康弘 |
| 第2回 | SPIの理解<br>SPIには様々な形式があり，また特徴がある。それらを概論する | 小築 康弘 |
| 第3回 | 国語の基礎知識１<br>考えを述べる | 小川 孝司 |
| 第4回 | 国語の基礎知識２<br>情報を伝える | 小川 孝司 |
| 第5回 | 国語の基礎知識３<br>文章と形式 | 小川 孝司 |
| 第6回 | 国語の基礎知識４<br>想いを伝える | 小川 孝司 |
| 第7回 | 国語の基礎知識５<br>自己を表現する | 小川 孝司 |
| 第8回 | 国語の基礎知識６<br>分かり易い文章 | 小川 孝司 |
| 第9回 | 数学の基礎的知識１<br>推論，図表の読み取り | 平井 安久 |
| 第10回 | 数学の基礎的知識２<br>集合，順列・組み合わせ | 平井 安久 |
| 第11回 | 数学の基礎的知識３<br>確率，割合 | 平井 安久 |
| 第12回 | 数学の基礎的知識４<br>損益，分割払い | 平井 安久 |
| 第13回 | 数学の基礎的知識５<br>速さ，比，代金精算 | 平井 安久 |
| 第14回 | 数学の基礎的知識６<br>資料の解釈，文章題と計算，グラフの読み取り | 平井 安久 |
| 第15回 | まとめ<br>「キャリア開発」を改めて考える | 小築 康弘 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 授業に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 19 | レポートの内容，理解度，考察力などについて評価する。内訳：国語の基礎的知識で12%，小築担当回で7%。提出された課題は採点し，コメントがあればそれを付して返却する。 |
| 小テスト | 36 | 各領域の基礎的な理解度を評価する。内訳：国語の基礎的知識で12%，数学の基礎的知識で24%。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．配布する資料は必ず持参すること。<br>2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．復習として，勉強したことを資料を見ながら学修しておくこと。<br>2．分野によって課されるレポートは作成しておくこと。<br>3．授業で身につけた知識・技術について，普段の生活に活かせるようにすること。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 中 国 語 | | | 授業番号 | HA104 | サブタイトル | （発音記号，基本文型，会話，短文） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 畑木 亦梅 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | テキスト第一課 発音(1) 単母音，声調，子音，軽声，特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10)， | |
| 第2回 | テキスト第二課 発音(2) 重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方 | |
| 第3回 | 発音の復習，知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14) | |
| 第4回 | テキスト第三課 名詞文「…是…(…は…です)」について(肯定文，否定文，疑問文)；副詞「也，都(も)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20) | |
| 第5回 | テキスト第四課 指示代名詞，存在文「有…(…あります/います)」について，「ちょっと…する」の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27) | |
| 第6回 | テキスト第五課 動詞文，動作の継起，願望文「想…(…したい)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34) | |
| 第7回 | テキスト第六課 動作・行為の完了，形容詞文について，比較，起点などの表し方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40) | |
| 第8回 | テキスト第七課 動作の進行，いろいろな「在」の使い方，数字・日付の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P45-46) | |
| 第9回 | テキスト第八課 過去の経験の表しかた，東京ディズニーランドに行ったことがありますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52) | |
| 第10回 | テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58) | |
| 第11回 | テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64) | |
| 第12回 | テキスト第十一課 納豆は食べますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70) | |
| 第13回 | テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77) | |
| 第14回 | テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82) | |
| 第15回 | 復習，おさらい，定期試験に向けて | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 4 | 発音練習・発言など授業への積極性 |
| レポート | 26 | 課題提出の完成度 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，声を出して練習すること。遅刻しないこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。<br>2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストについては教務課より別途指示 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介。プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。初回からプリントの配布があり，その後の授業にも使う予定。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高等学校での中国語授業 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。 |

| 科目名 | 日本国憲法 | 授業番号 | HA201 | サブタイトル | (身近な問題から憲法の役割を考える) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 俟野　英二 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本科目では，日本国憲法及び他国の憲法の沿革，様々な人々の人権について講義する。また，憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し，それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。<br>具体的にはまず，学生に身近な憲法問題を取り上げ，それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に，各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に，次回の講義で，各グループのグループワークの結果を紹介し，全体討議の後講評を行う。<br>なお，新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には，MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク，講義における質疑を行う。 |
| 到達目標 | 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，変化の激しい現代社会に対応できる幅広い知識の修得に貢献する。また，グループや全体での討議を通じて，他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業から，他者を思いやる心，他者に対する礼儀の精神及び他者と協力して問題を解決しようとする姿勢の修得に貢献する。さらに，身近な問題から主体的に問題の解決を思考する力の修得を通じて，変化し続ける現代社会に対応すべく主権者や市民として生涯にわたって社会に対する関心を持ち続ける態度の修得に貢献する。以上のようにこの科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス，憲法とは何か<br>1　学修の目標，評価方法などを説明する。<br>2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 | |
| 第2回 | グループワーク1<br>1　グループワークの仕方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，課題選択，課題分析，リサーチを行う。 | |
| 第3回 | グループワーク２<br>1　グループワークのまとめ方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，情報整理，報告書の作成を行う。 | |
| 第4回 | 国家機関としての天皇制<br>1　徳川時代，大日本帝国憲法下，日本国憲法下の天皇の地位について考える。<br>2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 | |
| 第5回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１――<br>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。 | |
| 第6回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２――，人権を守るための組織――統治機構１――<br>1　近年の安全保障をめぐる状況について学修する。<br>2　政治と国民，国会議員について学修する。 | |
| 第7回 | 人権を守るための組織――統治機構２――<br>1　選挙，選挙制度，政党，国会について学修する。<br>2　内閣について学修する。 | |
| 第8回 | 人権を守るための組織――統治機構３――<br>1　地方自治について学修する。<br>2　裁判所について学修する。 | |
| 第9回 | 良心をもつ自由，貫く権利<br>1　良心の意義について学修する。<br>2　教師の良心を貫く権利について考える。 | |
| 第10回 | 表現の自由<br>1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。<br>2　マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 | |
| 第11回 | 営業の自由と消費者の権利<br>1　職業選択の自由，営業の自由と消費者の権利について学修する。<br>2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第12回 | 働く人の権利<br>1　勤労の権利や労働基本権について学修する。<br>2　女性や非正規労働者の問題について考える。 | |
| 第13回 | 困った時の権利，差別されている人たちへの配慮<br>1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。<br>2　積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第14回 | 家庭と女性の権利<br>1　憲法における家庭と女性の権利について学修する。<br>2　同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 | |
| 第15回 | 子どもの権利と学校における生徒の人権<br>1　生徒の教育を受ける権利，学校内外での権利について学修する。<br>2　いじめ問題を憲法から考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解，及び，意欲・関心を持ち，講義に積極的に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 1回実施。基本原理，基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので，各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。<br>2　全体を通じて1回，任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。<br>3　中間に１回中間レポートの課題（第７回頃レポート作成要項発表）がある。 |
| 授業外学修 | 1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み，意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。<br>2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め，ノートに整理して，期末テストに備える。また，発展的学習として選択した課題について，インターネット等で調査し，調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて，各自の情報や意見を整理する。さらに，グループワークに参加し，協力して必要事項を調査するとともに，課題に関してそれぞれの意見を交換し，グループ報告書にまとめる共同作業を行う。<br>3　中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し，疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し，自分の意見を練り，レポートにまとめる。<br>事前学習及び事後学習を合わせて，1週間に4時間程度必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える | 中富公一 | 法律文化社 | 978-4-589-04140-1 | 2400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 基本判例１　憲法（第4版） | 右崎正博・浦田一郎編 | 法学書院 | 978-4-587-52413-5 | 2500 円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県教育委員会，県（人権・同和政策課） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。 |

| 科目名 | 人間の尊厳と自立 | | | 授業番号 | HA202 | サブタイトル | (福祉の視点から考える) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 住野　好久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。さらに，人権思想・福祉理念の歴史的変遷を学び，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また，本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理念を学び，その生活を支える必要性を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。<br>２）人間にとっての自立の意味と，本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人間の尊厳(1)人間が生きるということ | |
| 第2回 | 人間の尊厳(2)人間が死ぬということ | |
| 第3回 | 人間の尊厳(3)人間の尊厳とは | |
| 第4回 | 人権思想の歴史的展開(1)近代 | |
| 第5回 | 人権思想の歴史的展開(2)現代 | |
| 第6回 | 福祉理念の変遷(1)近代 | |
| 第7回 | 福祉理念の変遷(2)現代 | |
| 第8回 | ノーマライゼーションの思想と運動 | |
| 第9回 | 人間の尊厳と生命倫理 | |
| 第10回 | ＱＯＬと利用者主体の福祉 | |
| 第11回 | 自立の理念(1)自立と依存 | |
| 第12回 | 自立の理念(2)自立生活の理念と意義 | |
| 第13回 | 自立の理念(3)自己選択・自己決定 | |
| 第14回 | 自立と支援(1)インフォームド・コンセント | |
| 第15回 | 自立と支援(2)自立支援・アドボカシー | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 50 | 本科目の学習内容をふまえ，論理的に叙述すること |
| 小テスト | 50 | 授業で学習した内容を理解し，課題に対し適切に回答すること |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．予習のためにテキストを熟読しておくこと<br>2．復習のためにテキストを熟読すること<br>3．新聞やＴＶ＆ネットのニュースで，国内外の人権問題についてリサーチすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新･介護福祉士養成講座 1 人間の理解 | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規出版 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経済学 | | | 授業番号 | HA203 | サブタイトル | (経済の見方) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの状況が頻繁に取り上げられている。このような報道は，一見私たちの普段の生活に無縁なものと思われれがちである。しかしながら，これらの動きは物価や賃金に影響を及ぼし，私たちの生活に密着した経済現象として考えることができる。<br>また，経済活動の重要な役割を担う企業及び家計は，その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり，社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。この点，企業や家計の活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として捉える必要がある。<br>本講義では，基本的な経済理論を学びつつ，消費者行動，企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えることとする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | テレビや新聞のニュース等の経済動向が理解できるようになるだけでなく，経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで，実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。<br>本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり，特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し，新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 経済学とは | |
| 第2回 | ミクロ経済学の考え方 | |
| 第3回 | 家計の行動 | |
| 第4回 | 企業の行動 | |
| 第5回 | 政府の役割 | |
| 第6回 | 需要と供給 | |
| 第7回 | 不完全競争市場（独占・寡占） | |
| 第8回 | 不完全競争下での企業の行動 | |
| 第9回 | マクロ経済学の考え方 | |
| 第10回 | 国民所得 | |
| 第11回 | 貨幣の役割 | |
| 第12回 | 国民所得のコントロール | |
| 第13回 | 長期の経済とは | |
| 第14回 | 失業 | |
| 第15回 | 経済政策と企業活動 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，復習の状況により判断する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 単元ごとの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習は特に必要ない。事後学習（復習）については必ず行い，講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。 |
| 授業外学修 | 授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また，経済理論はそれだけにとどまらずさらに発展的に展開し，別の理論とも深く関わる。従って，必ず復習し理解したうえで，後の講義を受講するよう心がけること。<br>講義で得た知識をもとに，新聞・テレビ等で経済に関するニュース等を閲覧し，その経済現象はどのような経済理論が適用できるか考えること。<br>週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配布し，使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる | 井堀利宏 | KADOKAWA | 978-4-04-601168-8 | 1500 |
| 図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる | 井堀利宏 | KADOKAWA | 978-4-04-601754-3 | 925 |
| 大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる | 井堀利宏，カツヤマケイコ | KADOKAWA | 978-4-04-601720-8 | 1200 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考図書については，必要の都度講義中に周知する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育実技 | | | 授業番号 | HA204 | サブタイトル | （適切な運動実践） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 体力テスト<br>グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。 | |
| 第2回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第3回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第4回 | バレーボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第5回 | バレーボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第6回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第7回 | バドミントンII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第8回 | バドミントンIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第9回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第10回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第11回 | バスケットボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第12回 | バスケットボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第14回 | 卓球II（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。 |
| レポート | 20 | 各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。 |
| 小テスト | 30 | バレーボールとバスケットボールにおいては，トス，サーブ，シュートの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備･片付けをする。 |
| 授業外学修 | １．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。<br>２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。 |

| 科目名 | 英　語　A 1クラス | | | 授業番号 | HA205A | サブタイトル | (英語を楽しみながら学ぼう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代 昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day | |
| 第2回 | 1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City | |
| 第3回 | 1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights | |
| 第6回 | 1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第7回 | 1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs | |
| 第8回 | 2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ | |
| 第9回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第10回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben | |
| 第11回 | 2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware | |
| 第12回 | 2-3-5 The Land of Astronomical Observation,　Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival（Hadakamatsuri） | |
| 第13回 | 3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity | |
| 第14回 | 3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1 | |
| 第15回 | 3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂新版 岡山から“ハロー” | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4881977590 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 英　語　A 2クラス | | | 授業番号 | HA205B | サブタイトル | (英語を楽しみながら学ぼう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代 昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day | |
| 第2回 | 1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City | |
| 第3回 | 1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights | |
| 第6回 | 1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第7回 | 1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs | |
| 第8回 | 2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ | |
| 第9回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第10回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben | |
| 第11回 | 2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware | |
| 第12回 | 2-3-5 The Land of Astronomical Observation,　Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival（Hadakamatsuri） | |
| 第13回 | 3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity | |
| 第14回 | 3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1 | |
| 第15回 | 3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂新版 岡山から“ハロー” | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4881977590 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 日本語表現 | | | 授業番号 | HA206 | サブタイトル | （日本語の用字用語と言語表現について） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，「読むこと」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 絵本や物語，説明的文章の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現への関心を高める。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 身の周りにある様々な日本語表現 | |
| 第2回 | 乳幼児期の日本語獲得（１） | |
| 第3回 | 乳幼児期の日本語獲得（２） | |
| 第4回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（１） | |
| 第5回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（２） | |
| 第6回 | 読者を引きつける物語の仕掛け | |
| 第7回 | 読者を引きつける物語の表現 | |
| 第8回 | 身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 | |
| 第9回 | 身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 | |
| 第10回 | 読者を説得する説明的文章の仕掛け | |
| 第11回 | 読者を説得する説明的文章の表現 | |
| 第12回 | 読者の予測を利用した読み物（１） | |
| 第13回 | 読者の予測を利用した読み物（２） | |
| 第14回 | 違和感を感じる詩的表現（１） | |
| 第15回 | 違和感を感じる詩的表現（２） | |
| 授業計画　備考2 | ※状況により，授業内容を入れ替えることがあります。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，話し合いへの参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する。 |
| 小テスト | 50 | 最終的な学習内容の定着度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 配布資料及びレポートをファイルしておくこと。<br>学生相互による話し合いでは，積極的に参加し互いに考えを深めること。 |
| 授業外学修 | 1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。<br>2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリント資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 心理学 | | | 授業番号 | HA207 | サブタイトル | (心を科学的に理解する) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 心理学は，心について科学的に研究する学問であり，その範囲は人間の心に関わるあらゆる領域におよぶ。この授業では，心理学全般の基礎的な内容を解説し，心について科学的に理解することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・心理学の基礎的理論を理解できる。<br>・心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えを深める。<br>・本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 科学としての心理学／神経・生理心理学：<br>脳とこころの関係について理解する | |
| 第2回 | 感覚・知覚の心理学：<br>人間の感覚・知覚のしくみ・働きについて学ぶ | |
| 第3回 | 感情の心理学：<br>感情とは何か，その発達と機能について学ぶ | |
| 第4回 | 学習と記憶：<br>学習と記憶の仕組みについて学ぶ | |
| 第5回 | 思考：<br>思考と意思決定，推論とは何かについて学ぶ | |
| 第6回 | 発達：<br>幼児期から児童期の発達の道筋について学ぶ | |
| 第7回 | 発達：<br>青年期以降の心理的特徴について学ぶ | |
| 第8回 | 障害児・者の心理：<br>障害児・者の心理や発達の特徴について学ぶ | |
| 第9回 | パーソナリティ：<br>パーソナリティの分類，測定と社会適応について学ぶ | |
| 第10回 | 家族心理学：<br>「家族」の機能や発達について学ぶ | |
| 第11回 | 社会心理学：<br>社会や人間関係と心の関わりについて学ぶ | |
| 第12回 | 臨床心理学：<br>「悩み」を悩むこと，支えることとは何かについて学ぶ | |
| 第13回 | ポジティブ心理学：<br>人間の持つポジティブなこころの側面について学ぶ | |
| 第14回 | キャリアの心理学：<br>働くこととキャリア，社会の関係について学ぶ | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 授業内容の理解度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | ・配布資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 実践につながる新しい教養の心理学 | 大浦賢治　編著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09266-6 | 2800円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | ２年前期に奥村の担当する総合生活学セミナーの受講を希望する場合は，本科目を履修し，心理学の基礎を学習することを（必須ではないが）推奨する。 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会保障論 | | | 授業番号 | HA208 | サブタイトル | （社会の理解） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会保障の基礎知識，年金，医療，介護，雇用保険，労災保険等の基礎知識について理解する。<br>また，社会保障の概念，社会保障の沿革，年金，医療，介護，雇用，労災の社会保険の基本を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 福祉現場で役に立つ社会保障の制度，サービスの知識等を修得すし，説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会保障とは | |
| 第2回 | 少子高齢化の現状と課題 | |
| 第3回 | 西欧の社会保障の沿革 | |
| 第4回 | わが国の社会保障の沿革 | |
| 第5回 | 公的年金の基礎 | |
| 第6回 | 公的年金の課題 | |
| 第7回 | 医療保険の基礎 | |
| 第8回 | 医療保険の課題 | |
| 第9回 | 介護実践に関する諸制度 | |
| 第10回 | 介護保険の課題 | |
| 第11回 | 雇用保険の基礎 | |
| 第12回 | 労災保険の基礎 | |
| 第13回 | 民間保険の基礎 | |
| 第14回 | 公的扶助の基礎 | |
| 第15回 | 社会保障の展望 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。<br>・予習と授業中の積極的発言を求めます。<br>・自分で考えることをベースに授業に参加してください。<br>・介護福祉士の国家試験対策を講じます。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。<br>・復習として，授業のレポートを書く。<br>・授業で紹介された参考文献を精読する。<br>短期大学の設置基準では１単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業買い学修が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会保障論 | 松井圭三他 | 大学図書出版 | 978-4-907166-25-0 | 2800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉概論 | 小田兼三他 | 勁草書房 | 978-4-326-70095-0 | 2800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 社会学 | | | 授業番号 | HA209 | サブタイトル | (配偶者の選択と家族編成の社会的規則) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。<br>現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。<br>そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。<br>これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 配偶者選択をめぐる社会状況の変化 | |
| 第2回 | 家族社会学における「家族」の定義 | |
| 第3回 | 家族を対象とした社会学的アプローチの方法 | |
| 第4回 | 家族の類型と分類 | |
| 第5回 | 青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 | |
| 第6回 | 青年期の異性交際の実態 | |
| 第7回 | 家族編成の社会的ルールとは何か | |
| 第8回 | 配偶者選択の社会的メカニズム | |
| 第9回 | 配偶者選択のプロセス | |
| 第10回 | 結婚の社会的意味 | |
| 第11回 | 結婚の社会的機能 | |
| 第12回 | 離婚の社会的意味と機能 | |
| 第13回 | 家族の新しい形 | |
| 第14回 | 子どもの養育 | |
| 第15回 | 老親の介護 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | |
| レポート | 70 | 最終レポート |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 毎回のコメントペーパー |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。<br>しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．配付資料を事前に読んでくること。<br>文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。<br>具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。<br><br>2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。<br>テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。<br><br>両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組みむこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | 特になし。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 芸　　術 | 授業番号 | HA210 | サブタイトル | (アートに親しむ) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 鳥越　亜矢 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | アートカードなどを使った鑑賞ゲームや，スライドと対話を用いた作品鑑賞を行うほか，身近な環境の中に美を見出す活動や，作品制作と鑑賞活動を行う。 |
| 到達目標 | 第一に，芸術作品の鑑賞や制作を通じ，時代，文化，社会情勢や市井の人々の暮らし，素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像すること。第二に，自分自身と他者のものの見方や考え方を意識すること。第三に，そこから心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えること。<br>この授業はディプロマ・ポリシーに掲げられた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | 保育学科の学生が履修した場合，学外実習期間中は休講とし，別日に補講を行う。<br>芸術と結びつくものとして宗教（キリスト教・仏教）を取り上げる。 |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 芸術（アート）について考える<br>ワードマップ「アートといえば」「アートに必要なものは？」<br>レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ | |
| 第2回 | アートカードゲーム「今日の気分は？」<br>Visual thinking（VT）による鑑賞体験 | |
| 第3回 | アートカードゲーム（○×クイズ）・VT体験：太古からの芸術<br>真似して学ぶ古代のアート１　縄文の技術体験 | |
| 第4回 | 真似して学ぶ古代のアート２　縄文土器・土偶づくりと鑑賞 | |
| 第5回 | VTによる鑑賞体験<br>芸術作品の価値を考える | |
| 第6回 | アートカードゲーム「アートカードで物語を作る」 | |
| 第7回 | アートカードゲーム「読み札かるた」自分なりの視点で作品解釈<br>アートの役割を考える１　宗教編（象徴・演出） | |
| 第8回 | アートの役割を考える２　権力者編（象徴・教養・交渉） | |
| 第9回 | アートの役割を考える３　庶民編（油絵と浮世絵） | |
| 第10回 | 工房・職人集団　作家　芸術の作り手について考える<br>アートとアーティストを変えるもー素材・技術・ニーズ | |
| 第11回 | 芸術に昇格した浮世絵・民芸について考える | |
| 第12回 | アートカードゲーム「作品のライブ中継」<br>作品を解釈して相手に伝えることで，自分の解釈の視点や癖を知る | |
| 第13回 | 身近な環境に美を見出す<br>（自分なりの視点で環境を捉え感性を発揮する） | |
| 第14回 | 身近な環境に美を見出す／身近な素材を使ったフレームづくり／鑑賞 | |
| 第15回 | 芸術と関わるーモアレ作品の体験<br>レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や，自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，知識や記憶，経験に基づいた意見が述べられたりしている点を加点評価する。なお，授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。 |
| レポート | 30 | 課題意識を持ち，具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか，初回レポートと15回目レポートを比較して，芸術に対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題趣旨の理解がみられることのほか，課題によっては素材や色，構成について吟味し丁寧に作成されていること，独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。<br>授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし，情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。 |
| 授業外学修 | 自分が興味を持った作家や作品，その歴史的・社会的背景について調べるなどして，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県立美術館にて対話型鑑賞体験ツアーのボランティアをしているほか，保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師の経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 美術鑑賞に関する研修講師の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。 |

| 科目名 | 人間関係とコミュニケーション | | | 授業番号 | HA211 | サブタイトル | （良好な人間関係を築くために） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 良好な人間関係を構築し，豊かなコミュニケーションをとることは，質の高い仕事やパフォーマンスを行うために不可欠である。この授業では，コミュニケーションの基礎となる自己理解や対人援助の技術，組織やチームにおけるコミュニケーションについて学び，社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる<br>・対人援助技術に関する基礎的知識を身に着けている<br>・組織やチームにおけるコミュニケーションの特徴を説明できる<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人間関係とコミュニケーションの基本<br>人間関係とコミュニケーションの基本について理解し，学習内容を概観する | |
| 第2回 | 人間関係と自己理解（1）<br>人間関係における自己理解の重要性を学ぶ | |
| 第3回 | 人間関係と自己理解（2）<br>自己理解を深めるためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第4回 | 人間関係と自己理解（3）<br>自己理解を深めるためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第5回 | 対人援助の技術（1）<br>対人援助職に求められる援助技法の基本について学ぶ | |
| 第6回 | 対人援助の技術（2）<br>対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第7回 | 対人援助の技術（3）<br>対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第8回 | 対人援助の技術（4）<br>対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第9回 | ワークモチベーション（1）<br>組織の人間関係において重要なワークモチベーションの重要性を学ぶ | |
| 第10回 | ワークモチベーション（2）<br>自身のワークモチベーションへの理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第11回 | リーダーシップとフォロワーシップ（1）<br>組織の人間関係において重要なリーダーシップとフォロワーシップの重要性を学ぶ | |
| 第12回 | リーダーシップとフォロワーシップ（2）<br>リーダーシップとフォロワーシップの特徴について学ぶ | |
| 第13回 | 職場のストレスとメンタルヘルス（1）<br>職場の人間関係で生じやすいストレスとメンタルヘルス維持の工夫について学ぶ | |
| 第14回 | 職場のストレスとメンタルヘルス（2）<br>職場の人間関係で生じやすいストレスとメンタルヘルス維持の工夫について学ぶ | |
| 第15回 | 組織におけるコミュニケーション・総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 44 | 意欲的な受講態度によって評価する |
| レポート | | |
| 小テスト | 56 | 課題の内容により理解度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・授業内で行うワークやディスカッションに積極的に参加すること<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・配布資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| キャリア開発の産業・組織心理学ワークブック〔第2版〕 | 石橋里美 | ナカニシヤ出版 | 978-4779510557 | 2750円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 自然科学概論 | | | 授業番号 | HA212 | サブタイトル | (体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?（四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ） | |
| 第2回 | 科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ | |
| 第3回 | 電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 | |
| 第4回 | 見上げてごらん夜の星を（天文学の初歩） | |
| 第5回 | タイムマシンは作れるか？（アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ） | |
| 第6回 | 君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） | |
| 第7回 | 新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学 | |
| 第8回 | 高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？（音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック） | |
| 第9回 | 液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶI） | |
| 第10回 | 糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習（分子構造について学ぶII） | |
| 第11回 | 天然色素と酸アルカリの実験と実習 | |
| 第12回 | 光に関する基礎講座ならびに実験と実習 | |
| 第13回 | 楽しい数学(1)（SPIの数的推理等就活に活用できる数学をわかりやすく解説） | |
| 第14回 | 楽しい数学(2)(速度，食塩水の濃度，確率など就活に活用できる数学をわかりやすく解説) | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。また，新型コロナの感染予防のため，食べたり，密になって行う実験などが出来なくなり，他の内容に変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.Classroomで授業に関する情報提供を行うので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英　語　B | | | 授業番号 | HA213 | サブタイトル | (英語で岡山を楽しみながら学ぼう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代 昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day | |
| 第2回 | 1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City | |
| 第3回 | 1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights | |
| 第6回 | 1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第7回 | 1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs | |
| 第8回 | 2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ | |
| 第9回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第10回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben | |
| 第11回 | 2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware | |
| 第12回 | 2-3-5 The Land of Astronomical Observation,　Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival（Hadakamatsuri） | |
| 第13回 | 3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity | |
| 第14回 | 3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1 | |
| 第15回 | 3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂新版 岡山から“ハロー” | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4881977590 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 法学概論 | | | 授業番号 | HA214 | サブタイトル | (学生のための法律) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤原　健補　他 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて，法によって権利・義務が発生することを理解し，法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で，裁判手続きを深めるために，実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが，その場合は事前に知らせるものとする）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 受講により，大学生の身の回りで起こる問題について，法的問題として深く考える法的思考を養成し，社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 法とは社会統制のための道具である。法は裁判規範（裁判の基準）としての機能と行為規範（行為の基準）としての機能をもつ。法を，過去に向かって使うと裁判の基準として働き，将来に向かって使うと紛争の予防と戦略法務のために有用に機能する。法を道具として裁判や紛争予防・戦略のためにどのように使うか，その手法を学ぶ。 | 近藤　弦之介　弁護士 |
| 第2回 | 民事紛争の仕組み，及び日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ２及び３ | 馬場　幸三　弁護士 |
| 第3回 | 大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて，気をつけるべき点を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIII　ＳＴＡＧＥ１及び２ | 馬場　幸三　弁護士 |
| 第4回 | 交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ６ | 谷口　怜司　弁護士 |
| 第5回 | 日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り，日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ１ | 谷口　怜司　弁護士 |
| 第6回 | 交際相手等とのトラブルについての知識，対処法を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ４ | 川端　美智子　弁護士 |
| 第7回 | 我が国の民法における家族関係の規律のなかから特に婚姻，離婚，親子及び相続について学ぶ。 | 川端　美智子　弁護士 |
| 第8回 | 旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ５，ＵＮＩＴII　ＳＴＡＧＥ２ | 山本　愛子　弁護士 |
| 第9回 | 働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴII　ＳＴＡＧＥ１ | 山本　愛子　弁護士 |
| 第10回 | 民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 | 青田　夢　弁護士 |
| 第11回 | 刑事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 | 青田　夢　弁護士 |
| 第12回 | 刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念，目標を学ぶ。【裁判傍聴予備日】<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 藤原　健補　弁護士 |
| 第13回 | 刑事裁判に裁判員や被害者として参加する制度（裁判員裁判及び被害者参加制度）について学ぶ。【裁判傍聴予備日】<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 高瀬　鈴香　弁護士 |
| 第14回 | 裁判傍聴を通じて，実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 鹿室　辰義　弁護士，高瀬　鈴香　弁護士 |
| 第15回 | 裁判傍聴を通じて，実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 鹿室　辰義　弁護士，高瀬　鈴香　弁護士 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加等によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポート内容，　提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業時の携帯等の使用は禁止する。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，テキストの内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>(2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。<br>(3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。<br><br>以上(1)～(3)を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 学生のための法律ハンドブック | 近江幸治・広中惇一郎　編著 | 成文堂 | 978-4-7923-0631-1 | 1800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 弁護士(近藤弦之介)，弁護士(藤原健補)，弁護士(馬場幸三)，弁護士（谷口怜司），弁護士(山本愛子)，弁護士(川端美智子)，弁護士(青田夢)，弁護士(鹿室辰義)，弁護士（高瀬鈴香），弁護士（福田力希斗） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 法律事務所に勤務する弁護士が，実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。 |

| 科目名 | 時事問題 | | | 授業番号 | HA215 | サブタイトル | (現代日本を取り巻く諸問題) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日々流れるニュースの中で，地球温暖化，大気・水等の汚染，森林減少，砂漠化などの問題が多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は，私たち現代の人間がその原因をつくり，最終的に私たちの生活に影響を及ぼしているものである。これら諸問題は容易に解決するものではなく，後世のために，現在の環境問題を少しでも改善していく必要性がある。また，現代においては，環境問題は一国における問題というよりも，現在においては経済のグローバル化により，地球規模での影響が問題となっている。<br>本講義ではこれらの環境問題，現代日本と取り巻く諸問題について，最新のデータ等をもとに，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また，重要な事件などが発生した場合は，本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な環境問題，日本の現状について，基礎知識を修得し，理解することができるようになること。また，環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，自分の考えを言えるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 環境問題とは | |
| 第2回 | 人間と環境 | |
| 第3回 | 公害と法などの規制 | |
| 第4回 | 水と汚染 | |
| 第5回 | 都市環境と自然 | |
| 第6回 | 酸性雨 | |
| 第7回 | 大気汚染 | |
| 第8回 | 化学物質と環境 | |
| 第9回 | 地球温暖化と二酸化炭素 | |
| 第10回 | 温暖化対策 | |
| 第11回 | 森林破壊 | |
| 第12回 | 生物多様性 | |
| 第13回 | 廃棄物処理 | |
| 第14回 | 循環型社会について | |
| 第15回 | これからの日本 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状態によって評価する。 |
| レポート | 20 | 単元毎に小レポートを実施し理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 65 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 項目ごとの評価の割合は変更することがある。 |
| 受講の心得 | 1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。<br>2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。<br>2．復習として，授業で学んだことを教科書を見で再度学修しておく。<br>3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地球環境問題がよくわかる本 | 浦野紘平・浦野真弥 | オーム社 | 978-4-274-22090-6 | 1600 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じ授業に際しプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地球環境の教科書 | 九里徳泰，左巻健男，平山明彦 | 東京書籍 | 9784487808311 | 2100 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要の都度，随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活とデザイン | | | 授業番号 | HD101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 生活A | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代社会の中で見られるインテリア，プロダクト，グラフィック，ファッション，建築，エディトリアル，医療福祉などのさまざまなデザインの事例を通じて，デザインの概念，分類，プロセスからそれぞれのデザインが私たちの生活にとり入れられて，デザインと共に生きていることを，分かりやすくスライドや動画を多用して，デザインが人の暮らしに与える影響について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | デザインに関する基礎的な知識を修得し，その方法論を活用するための素養を身につける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会の中でのデザインの役割 | |
| 第2回 | デザインの分類と基本 | |
| 第3回 | エディトリアルデザイン | |
| 第4回 | グラフィックデザイン | |
| 第5回 | ショップデザイン | |
| 第6回 | インテリアデザイン | |
| 第7回 | メイクアップデザイン | |
| 第8回 | テキスタイルデザイン | |
| 第9回 | プロダクトデザイン | |
| 第10回 | ファッションデザイン | |
| 第11回 | 医療福祉デザイン | |
| 第12回 | 店舗デザイン | |
| 第13回 | 建築デザイン | |
| 第14回 | ネイルデザイン | |
| 第15回 | ３Ｄプリンターの使い方，応用事例と全体のまとめ（小テスト実施） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | デザインに関する基本的な知識を学ぶために，身のまわりのあらゆるデザインについて，よく観察しておくこと。 |
| 授業外学修 | １.講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容のデザインについて調べることやリサーチを行ったりして事前学修を毎回行うこと。（２時間以上）<br>２.事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」を読み講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行うこと。（２時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ＭＤやデザイナーとして，ファッションデザイン，ショップデザイン，テキスタイルデザイン，ファッションショー企画などの実務経験から，デザインに関する基礎的な知識をわかりやすく解説した講義を行う。 |

| 科目名 | 色彩学 | | | 授業番号 | HD102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 能登原　英代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わたしたちの目に見える世界は色彩に満ちている。色には，心地よさ，イメージ，アピール，区別，見やすさ，統一感，象徴や生活を豊かにする働きもある。色の持つさまざまな特性を知り，色を効果的に用いることで，プレゼンテーションの書類の見やすさはもちろんのこと，生活の中での美しさや快適さなどを演出することもできる。<br>本講義では，「新配色カード199a」を使用して，色彩調和の形式から，配色技法，色彩表現のトレーニングまで，テキストの演習用ワークシートによる作業を行いながら色彩心理に至るまで，色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １.生活の中での色彩感覚を高めることができる。<br>２.色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。<br>３.色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の内容に準拠しており，資格取得に向けた目標を持つことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「光と色」およびPCCS（日本色研配色体系）について | |
| 第2回 | 色の分類と三属性および色相・トーンについて | |
| 第3回 | 色彩調和（配色の基本的な考え方） | |
| 第4回 | 配色の基本的な技法１（色相を基準にした配色） | |
| 第5回 | 配色の基本的な技法２（明度を基準にした配色） | |
| 第6回 | 配色の基本的な技法３（彩度を基準にした配色） | |
| 第7回 | 配色技法１（ベースカラー・アソートカラー・アクセントカラー） | |
| 第8回 | 配色技法２（セパレーション効果・ドミナントカラー・グラデーション・レピテーション効果） | |
| 第9回 | 配色技法３（トーンイントーン配色・トーンオントーン配色・トーナル配色） | |
| 第10回 | 配色技法４（カマイユ・フォカマイユ配色・トリコロール配色・ビコロール配色） | |
| 第11回 | 色彩心理１（色の心理的効果） | |
| 第12回 | 色彩心理２（色の視覚効果，知識的効果） | |
| 第13回 | カラーイメージによる色彩構成と言葉による色表示 | |
| 第14回 | 医療関係，ファッション，住居，フードにおける色彩効果 | |
| 第15回 | まとめと小テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 演習用ワークシートテキストの提出によって理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的にAFT主催の色彩検定3級にチャレンジする。受験者は「AFT色彩検定公式テキスト3級編」（AFT対策テキスト改訂版編集委員会）や問題集を別途購入すること。 |
| 授業外学修 | １.事前学修は，日常生活の中で目にする様々な色彩について関心を持ち，テキストを一読し，分からない用語等は調べて毎回，予習しておくこと。（２時間以上）<br>２.事後学修は，毎回，テキストでのワークシートや講義で行った演習などの色彩理論や課題などを振り返り，理解して覚える。また，講義時間内に指定された箇所までのワークシートが仕上がらない場合は，次回講義時までに指定された箇所まで完成させておくこと。（２時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『配色入門』 | | 日本色研事業 | 4-901355-16-3 | 1600円＋税 |
| 『新配色カード199a』 | | 日本色研事業 | | 780円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーにてスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | スポーツブランドのデザインを担当していたときに，配色展開，テキスタイルの色合わせや，学販体育衣料のデザインを担当していたときには，「体育着の色彩に関するコーディネート」をテーマにした，色彩とデザインについての関係性を合同研究した実務経験をいかした講義を行う。 |

| 科目名 | 生活デザイン実習Ａ（135分） | | | 授業番号 | HD201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤田　悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「自分のオリジナルなデザインを現実のものとする」それはモノを創り表現する喜びであり，その喜びがあってこそ，デザインとして人に伝わるものになる。<br>転写プリント，ステンシル，Ｔシャツカッティングリメイク，シルクスクリーンの技法を通じて，オリジナルＴシャツを作成する。<br>イメージを形として成立させるデザインの力を養成すること，計画的な制作力の向上を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 発想から完成までのプロセスをとおしてものづくりの技法や手順を身につけ，形による表現の可能性を修得する。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ステンシルの基礎知識および原理の理解 | |
| 第2回 | デザイン，スケッチ | |
| 第3回 | コンピューターを使ったデザインの説明 | |
| 第4回 | 原稿仕上げ，カッティング | |
| 第5回 | ステンシル版を完成後，ステンシル捺染 | |
| 第6回 | 転写プリント版下をコンピューターで作成 | |
| 第7回 | 転写プリント仕上げ | |
| 第8回 | Ｔシャツカッティングリメイク | |
| 第9回 | シルクスクリーンの基礎知識および原理の理解 | |
| 第10回 | デザイン，スケッチ | |
| 第11回 | コンピューターを使ったデザイン | |
| 第12回 | 原稿制作 | |
| 第13回 | フィルム写真製版 | |
| 第14回 | 仕上げ | |
| 第15回 | 品評会と作品発表 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 積極的に実習に臨み各技法を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | ・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 普段から街中にあるポスターやロゴマークなどの平面作品のあらゆるデザインについて興味を示すこと。 |
| 授業外学修 | 課題に沿った技法などを配布した資料を一読して，事前学修として知識を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画，デザインをしていた実務経験をいかした実習を行う。 |

| 科目名 | 生活デザイン実習Ｂ（135分） | | | 授業番号 | HD202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 江口　まりこ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | ディスプレイ（商品の演出表現）は，販売促進に必要不可欠なテクニックで，ショップの顔であり，消費者にショップイメージを伝えるための重要な要素である。主にショップディスプレイを中心に演出し，商品を効果的にビジュアル表現するための考え方やテクニックなどについて解説することから，オブジェ作品の制作とステージでの表現技法について学修する。<br>第7回のフラワーアレンジメントでは，現場で活躍している外部講師による特別実習も予定している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.空間構成をマスターし，生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。<br>2.テーマにあった演出ができるように知識と技術力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 第　1回　ディスプレイの概要説明（実際のショップにおけるディスプレイを写真で紹介し仕組みを学ぶ）<br>第　2回　ＶＭＤの概要説明（ＶＭＤの目的や手法，専門用語について）<br>第　3回　ディスプレイのカラーイメージについて（カラー構成によるイメージマップを作成する）<br>第　4回　商品の空間構成，商品陳列に関する知識と技法について<br>第　5回　ラッピング実習１（商品の包装に用いられるラッピングの種類と技法について）<br>第　6回　ラッピング実習２（ラッピングした作品を用いて空間構成をステージ表現）<br>第　7回　ブライダルオブジェ企画（ブライダルをテーマにしたフラワーアレンジメント基礎講座・外部講師）<br>第　8回　テーマに沿ったブライダルオブジェを制作しステージで表現<br>第　9回　ショップ空間演出の企画（ショップにおける空間演出について）<br>第10回　ショップ空間演出の制作（ショップにおける空間演出について）<br>第11回　ファッションスタイリング表現（演出，陳列構成やカラーコーディネートの具体例を事例から学ぶ）<br>第12回　トルソーを利用した演出（トルソー・洋服やアクセサリーなどを用いてテーマごとに表現する）<br>第13回　ポートフォリオの編集と作成（各自の作品の全てをフォトブックや写真集として編集，作成する）<br>第14回　ポートフォリオの編集と仕上げ<br>第15回　作品発表 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | ・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 普段からお店にあるショーウインドやディスプレイなどの空間演出制作物に興味を示すこと。 |
| 授業外学修 | 課題に沿ったアイデアなどを事前学修としてイメージしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときにブランドの企画，デザイン，店舗指導，マーチャンダイザー（ＭＤ）をしていた実務経験をいかした実習を行う。 |

| 科目名 | 基礎調理演習 | | | 授業番号 | HF101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 食材の切り方や調理法・衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。基礎を学んだ上で簡単な献立を自ら計画・実践することで調理をする上での初歩的な調理操作を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調理室の使い方，調理器具の使い方，基本操作について<br>調理室の使い方や調理の基本となる切り方などを理解する。 | |
| 第2回 | 調理の基本操作１<br>包丁を安全に扱う方法を理解する。 | |
| 第3回 | 調理の基本操作２<br>包丁を安全に扱う方法を理解する。 | |
| 第4回 | 調理の基本操作３<br>基本的な野菜の切り方を理解する。 | |
| 第5回 | 調理の基本操作４<br>基本的な野菜の切り方を理解する。 | |
| 第6回 | 調理の基本操作５<br>基本的な野菜の切り方を理解する。 | |
| 第7回 | 調理の基本操作６<br>基本的な野菜の切り方を理解する。 | |
| 第8回 | 調理の基本操作７<br>茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第9回 | 調理の基本操作８<br>茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第10回 | 調理の基本操作９<br>茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第11回 | 調理の基本操作１０<br>茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第12回 | 調理の基本操作１１<br>茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第13回 | 調理の基本操作１２<br>ゲル化剤の特性について理解する。 | |
| 第14回 | 調理の計画１<br>調理操作をイメージしながら，時間内に作ることのできる献立を立てることが出来る。 | |
| 第15回 | 調理の実践２<br>自分たちで計画をした献立を時間内に調理することが出来る。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 25 | 自ら考えたメニューのレシピを作成しまとめ，提出すること。レポート課題はコメントを付けて返却する。 |
| 小テスト | 30 | 主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業で出てきたポイントを復習すること<br>2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食と生活 | | | 授業番号 | HF201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 標準的な日本人は一日に３回の食事を行う。単純すぎる計算であるが，人生が80年で毎日３回の食事をすると仮定すると，87，600回の食事を生涯にわたってすることになる。このことからも分かるように，我々が生活を営んで行く上で「食」は重要な要素である。そこで，本教科は生活の中における「食」を広く学び，「食」に対する考えを構築することを目的とする。<br>なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる<br>・日本および世界の食生活に関する基礎的な知識，および食の安全に関わる初歩的な知識を有している<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 日本の食文化(1)<br>縄文時代～平安時代 | |
| 第2回 | 日本の食文化(2)<br>鎌倉時代～現代 | |
| 第3回 | 日本の食文化(3)<br>日本料理の種類 | |
| 第4回 | 日本の食文化(4)<br>暦と旬 | |
| 第5回 | 日本の食文化(5)<br>行事食と郷土食 | |
| 第6回 | 世界の食文化(1)<br>中国料理 | |
| 第7回 | 世界の食文化(2)<br>フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：古代～17世紀 | |
| 第8回 | 世界の食文化(3)<br>フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：17世紀～現代 | |
| 第9回 | 世界の食文化(4)<br>西洋料理：菓子・デザート・パン | |
| 第10回 | 世界の食文化(5)<br>イギリス料理・イタリア料理などフランス料理以外の料理の紹介 | |
| 第11回 | 栄養素<br>栄養素についての概要 | |
| 第12回 | 食の安全(1)<br>衛生微生物 | |
| 第13回 | 食の安全(2)<br>食中毒・寄生虫 | |
| 第14回 | 食の安全(3)<br>食品異物／食品添加物／食品の腐敗／食品衛生対策 | |
| 第15回 | 食の安全(4)<br>食品の品質表示制度／食物アレルギー | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 14 | 授業開始前までに，予習範囲から質問事項の提出ができているかを評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | 30 | 授業毎の復習テストを行い，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | 56 | 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくせをつけること。 |
| 授業外学修 | 1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため，その準備をすること<br>2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し，提出すること<br>3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・フードコーディネーター教本2023 | 日本フードコーディネーター協会 | 柴田書店 | 978-4-388-15454-8 | 3300円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食品の世界 | | | 授業番号 | HF202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ヒトが食用にする品物の総称を食品というが，実際にどのようなものがあり，どのようなものを含み，どのような性質があるのだろうか。そこで，本教科では食材に関する知識，食材に含まれる食品成分についての知識を得ることを目的とする。<br>なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食材についての基礎的な知識を有している<br>・食品成分についての基礎的な知識を有している<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品とは：　食品の定義<br>食品成分：水分　食品中の水分の性質 | |
| 第2回 | 食品成分：タンパク質(1)　概説／アミノ酸<br>食材：肉(1)　肉の特徴 | |
| 第3回 | 食品成分：タンパク質(2)　ペプチド／タンパク質の変性<br>食材：肉(2)　畜肉類 | |
| 第4回 | 食品成分：タンパク質(3)　タンパク質の分類と消化吸収<br>食材：肉(3)　鳥肉類 | |
| 第5回 | 食品成分：炭水化物(1)　概説／単糖類<br>食材：肉(4)　畜肉加工品／その他の肉 | |
| 第6回 | 食品成分：炭水化物(2) オリゴ糖<br>食材：魚(1)　概説／魚類 | |
| 第7回 | 食品成分：炭水化物(3)　多糖類<br>食材：魚(2)　貝類・甲殻類 | |
| 第8回 | 食品成分：脂質(1)　概説／脂肪酸<br>食材：魚(3) イカ・タコ類／水産加工品／その他魚介類 | |
| 第9回 | 食品成分：脂質(2)　中性脂肪／食用油脂／その他の脂質<br>食材：野菜・きのこ・海藻(1)　豆類／葉菜類 | |
| 第10回 | 食品成分：脂質(3)　脂質の生理作用<br>食材：野菜・きのこ・海藻(2)　鱗茎菜類／果菜・花菜類／根菜類／きのこ類／藻菜類 | |
| 第11回 | 食品成分：ビタミン(1)　概説／脂溶性ビタミン<br>食材：野菜・きのこ・海藻(3)　果実・種実／その他の野菜 | |
| 第12回 | 食品成分：ビタミン(2)　水溶性ビタミン<br>食品成分：ミネラル(1)　概説<br>食材：乳・乳製品・卵　概説と各論 | |
| 第13回 | 食品成分：ミネラル(2)　各論<br>食材：穀類　概説と各論<br>食材：酒・ドリンク類　概説と各論 | |
| 第14回 | 食品成分：食品成分間反応(1)　糖・デンプンの加熱変化／褐変反応／亜硝酸塩<br>食材：調味料・香辛料　概説と各論 | |
| 第15回 | 食品成分：食品成分間反応(2)　油脂の酸化と加熱劣化<br>食材：加工食品　概説と各論 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 14 | 授業開始前までに，予習範囲から質問事項の提出ができているかを評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | 30 | 授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | 56 | 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくせをつけること。 |
| 授業外学修 | 1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため，その準備をすること<br>2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し，提出すること<br>3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 栄養科学シリーズNEXT 食品学総論 食べ物と健康 第４版 | 辻英明・海老原清・渡邊浩幸・竹内弘幸 編 | 講談社 | 978-4-06-522467-0 | 2860円（税込） |
| 新・フードコーディネーター教本2023 | 日本フードコーディネーター協会 | 柴田書店 | 978-4-388-15454-8 | 3300円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食と健康 | | | 授業番号 | HF203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 健康を保つのに必要な要素はいくつかあるが，その大事な一つは「食」である。この教科では，われわれヒトを含む動物が生きていくために必ず必要とする，食品に含まれる物質である「栄養素」を学ぶことにより，「食」と健康の関わりについて理解する。<br>あわせて，栄養素以外の物質（非栄養素）にも健康に貢献する効果（食品機能）があるため，そのような物質についても学ぶ。<br>なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている<br>・食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている<br>・食の安全に関わる事項のうち，食品の表示，食品添加物，食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 栄養とは<br>栄養・栄養素の定義／現代日本人の栄養状況 | |
| 第2回 | タンパク質(1)<br>タンパク質の定義／アミノ酸／タンパク質の物理化学的性質 | |
| 第3回 | タンパク質(2)<br>タンパク質の体内での働きと消化吸収 | |
| 第4回 | 脂質(1)<br>脂質の定義／中性脂肪・アミノ酸・その他の脂質／脂質の体内での働き | |
| 第5回 | 脂質(2)<br>脂質の消化吸収と代謝／脂質と疾病 | |
| 第6回 | 炭水化物(1)<br>炭水化物の定義／単糖・オリゴ糖・多糖／炭水化物の体内での働き | |
| 第7回 | 炭水化物(2)<br>炭水化物の消化吸収／食物繊維 | |
| 第8回 | ミネラル<br>概説と各論 | |
| 第9回 | ビタミン<br>概説と各論 | |
| 第10回 | 食品表示制度(1)<br>栄養成分表示／機能性の表示 | |
| 第11回 | 食品表示制度(2)<br>アレルゲンを含む食品の原材料表示／遺伝子組み換え食品の表示 | |
| 第12回 | 食品表示制度(3)<br>生鮮食品の表示／加工食品の表示 | |
| 第13回 | 食品添加物<br>概説／食品添加物の必要性と安全性の確認 | |
| 第14回 | 食物アレルギー(1)<br>概説／アナフィラキシー／食物アレルギーと間違えられる症状 | |
| 第15回 | 食物アレルギー(2)<br>即時型食物アレルギーの概説と対策／加工食品のアレルゲン表示 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 14 | 授業開始前までに，予習範囲から質問事項の提出ができているか，併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | 30 | 授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | 56 | 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので，すぐに調べておくせをつけること。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で予習範囲の小テストがあるため，その準備をすること<br>2．予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し，提出すること<br>3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| わかりやすい栄養学 改定6版 | 吉田　勉　編 | 三共出版 | 978-4-7827-0792-0 | 2530円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食空間と調理 | | | 授業番号 | HF204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里、石田　有美枝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 食空間における厨房とその計画，内装デザインに加えテーブルマナーなどについて講義を行い，それらに関する基本的な知識の修得を目的とする。<br>本科目はフードコーディネーター３級養成科目の一つである。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 厨房計画や内装デザイン，テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 厨房の基礎知識・概説<br>厨房を作る上で基本となる事項について理解する | 加賀田　江里 |
| 第2回 | 厨房計画とメニュー１<br>厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第3回 | 厨房計画とメニュー２<br>厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第4回 | キッチンスタイルの基本<br>キッチンスタイルの基本とその利点と欠点を理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第5回 | 食空間のあり方<br>食空間のあり方について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第6回 | 食空間と内装デザイン計画の基礎１<br>食空間を作る上で必要な事柄について理解する。 | 石田　有美枝 |
| 第7回 | 食空間と内装デザイン計画の基礎２<br>食空間を作る上で必要な事柄について理解する。 | 石田　有美枝 |
| 第8回 | 食空間と内装デザイン計画の基礎３<br>食空間を作る上で必要な事柄について理解する。 | 石田　有美枝 |
| 第9回 | 食空間と内装デザイン計画の基礎４<br>食空間を作る上で必要な事柄について理解する。 | 石田　有美枝 |
| 第10回 | 食空間と内装デザイン計画の基礎５<br>食空間を作る上で必要な事柄について理解する。 | 石田　有美枝 |
| 第11回 | テーブルマナーとサービス１<br>洋食のテーブルマナーの基本について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第12回 | テーブルマナーとサービス２<br>日本料理のテーブルマナーの基本について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第13回 | テーブルマナーとサービス３<br>中国料理のテーブルマナーの基本について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第14回 | テーブルマナーとサービス４<br>お酒，お茶，お菓子などのテーブルマナーの基本について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第15回 | テーブルマナーとサービス５<br>サービスの基本について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 毎回授業の初めに，前回の授業の内容に関する小テストを行うので１週間に４時間以上の復習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新フードコーディネーター教本2023 | 特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会 | | 978-4388154418 | 3300円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導（石田　有美枝） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | フラワーコディネートおよびテーブルコーディネートの実務経験を活かして指導を行う。 |

| 科目名 | 調理実習Ⅰ | | | 授業番号 | HF205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 調理の基本となる材料や料理に応じた切り方や調理法，衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。１２回の実習を通して，繰り返し学習することで基本的な調理操作を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　　調理の基本１，実習に関するガイダンス（使用上の注意，身支度等）調理器具の説明，計量<br>調理をする上でのルール（衛生面）を理解し，基本的な調理を行う。<br><br>第２回　　調理の基本２<br>切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。<br><br>第３回　　調理の基本３<br>切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。<br><br>第４回　　焼き物の調理<br>調理操作の中の，焼き物について理解する。<br><br>第５・６回　炒め物の調理<br>調理操作の中の炒め物について理解する。<br><br>第７回　　揚げ物の調理<br>調理操作の中の揚げ物について理解する。<br><br>第８回　　蒸し物の調理<br>調理操作の中の蒸し物について理解する。<br><br>第９・10回　複数の調理法を用いた調理<br>これまで学んできた調理操作を使って，効率よく調理を実践する。<br><br>第11・12回　簡単なおやつ作り<br>お菓子作りを通して，お菓子特有の器具などの使い方，お菓子の作り方について理解する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 36 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 調理に関する基礎的な知識を評価する。 |
| 定期試験 | 24 | 実習に出てきた料理の中で基本となるものの実技試験を行う。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『調理と理論』，山崎清子　他共著，同文書院<br>『新ビジュアル食品成分表　増補版』，新しい食生活を考える会　編，大修館書店 |
| その他 | 材料入手の都合により，実習内容の変更や実習時期の変更をする場合があります。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 製菓演習 (7.5回) | | | 授業番号 | HF206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業ではお菓子作りを通して製菓における基本的な操作と材料の特徴について理解する。<br>毎回実習を行い，最後は各グループで計画し，グループごとに自らの計画に沿ったお菓子作りを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・製菓に関する基本的な操作を理解する。<br>・製菓材料の特徴について理解する。<br>・自分たちで計画し，計画した通りにお菓子を作ることが出来る。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | １回目調理実習室の使い方，器具の使い方<br>製菓に必要な基礎的な知識を理解する。<br><br>２回目製菓の基礎１<br>製菓に関わる基本的な操作を理解する。<br><br>３回目製菓の基礎２<br>製菓に関わる基本的な操作を理解する。<br><br>４回目製菓の基礎３<br>製菓に関わる基本的な操作を理解する。<br><br>５回目製菓の基礎４<br>製菓に関わる基本的な操作を理解する。<br><br>６回目製菓の基礎５<br>製菓に関わる基本的な操作を理解する。<br><br>７回目レシピ作成計画<br>これまで学んだことを基本として，自分たちでレシピを考えることが出来る。<br><br>８回目計画の実践<br>自分たちで計画したレシピでお菓子を作ることが出来る。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | | |
| 第2回 | | |
| 第3回 | | |
| 第4回 | | |
| 第5回 | | |
| 第6回 | | |
| 第7回 | | |
| 第8回 | | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 70 | 授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，まとめて提出する。レポート課題にはコメントを付けて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | フードマーケティング論 | | | 授業番号 | HF207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大宮　めぐみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，前半はマーケティング理論の基礎知識について理解する。後半では修得したマーケティング理論を活用し，飲食店の出店計画からメニュープランニングといった出店業務およびフードコーディネーターとしての食の「開発」「演出」「運営」について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | （1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。<br>（2）外食産業におけるマーケティング戦略の知識を修得すること。<br>（3）外食産業（飲食店）における出店業務の流れと食の「開発」「演出」「運営」に関する知識を修得すること。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか-<br>授業の概要と全体の流れを紹介する。 | |
| 第2回 | 現代の食事形態と食市場<br>内食，中食，外食と食市場について理解する。 | |
| 第3回 | 食市場とマーケティング<br>マーケティングの定義や手法について理解する。 | |
| 第4回 | マーケティングの基礎知識（1）<br>製品戦略について理解する。 | |
| 第5回 | マーケティングの基礎知識（2）<br>価格戦略について理解する。 | |
| 第6回 | マーケティングの基礎知識（3）<br>チャネル戦略について理解する。 | |
| 第7回 | マーケティングの基礎知識（4）<br>プロモーション戦略について理解する。 | |
| 第8回 | 事例分析<br>食品企業で行われているマーケティング戦略について理解する。 | |
| 第9回 | 前半のまとめ<br>これまでの学習内容の確認を行う。 | |
| 第10回 | 外食産業の概要と特徴<br>外食産業の成立とその特徴について理解する。 | |
| 第11回 | 経営の基礎知識（1）<br>マネジメントの基礎と飲食店の出店業務について理解する。 | |
| 第12回 | 経営の基礎知識（2）<br>経営の計数管理や財務諸表について理解する。 | |
| 第13回 | メニュープランニング<br>メニュープランニングの流れや方法について理解する。 | |
| 第14回 | メニュープランニング演習<br>メニュープランニングを理解し，実際に飲食店のメニューを考案する。 | |
| 第15回 | 食の企画・構成・演出の流れ/まとめ<br>食の企画の流れや方法について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 30 | レポート内容で評価する。次回の講義で，総評を行う。 |
| 小テスト | 20 | 中間的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 40 | 到達目標に達しているかを最終的に評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。 |
| 授業外学修 | （1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>（2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。<br>（3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・フードコーディネーター教本2022 3級資格認定試験対応テキスト | 日本フードコーディネーター協会 | 株式会社　光邦 | | 3，000円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| フード・マーケティング論 | 藤島廣二他 | 筑波書房 | 978-4-8119-0482-5 | 2，500+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 食生活演習 (7.5回) | | | 授業番号 | HF208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 私たちは様々なリスクにさらされながら生活をしている。そのリスクを少しでも軽減するためには様々な知識を身につけておく必要がある。<br>この授業では心と体の健康，栄養，食文化等，生活者および消費者として生きる上で必要な知識を中心に学び，身につけることを目的として授業を行う。また，この授業は食生活アドバイザー® ３級に対応している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・健康や食に関する基本的な知識を身につけることが出来る<br>・生活者，消費者として生きる上で必要な基本的な知識を身につけることが出来る。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | １回目生活者とは何か<br>生活者とは何か，生活者として生活するとはどういうことかを理解する。<br><br>２回目ウエルネス上手になろう：栄養と健康に関する基礎知識<br>栄養と健康に関する基本的な事項について理解する。<br><br>３回目もてなし上手になろう：食文化と食習慣に関する基礎知識<br>食文化と食習慣に関する基本的な事項について理解する。<br><br>４回目買い物上手になろう：食品学に関する基礎知識<br>食品に関する基本的な事項について理解する。<br><br>５回目段取り上手になろう：衛生管理に関する基礎知識<br>衛生管理に関する基本的な事項について理解する。<br><br>６回目生き方上手になろう：食マーケットに関する基礎知識<br>食マーケットに関する基本的な事項について理解する。<br><br>７回目やりくり上手になろう：社会生活に関する基礎知識<br>社会生活を営む上での必要な基本的な事項について理解する。<br><br>８回目生活者・消費者として生きていくということ<br>これまで学んできた知識を振り返り，より深く理解する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この科目は食生活アドバイザー® 3 級対応の科目である。検定試験を受けるか否かに関わらず，しっかりと受講し，授業後は復習に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業で出てきたポイントを繰り返し復習すること<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂版【公式】食生活アドバイザー3級テキスト＆問題集 | 一般社団法人FLAネットワーク協会 | 日本能率協会マネジメントセンター | 9784820729808 | 1980 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | フードコーディネート実習 | | | 授業番号 | HF301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘、石田　有美枝 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業では，今日的なライフスタイルに合わせた，人々の食を豊かにするための食のコーディネート技法について学修する。具体的には，テーブルコーディネートを中心に据え，テーブルマナー及び食品素材について，実習により体得することを目的とする。<br>本科目は，フードコーディネーター資格３級のための必要な科目の１つである。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる<br>・テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる<br>・食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業のねらい・到達目標の説明：授業全体の説明<br>食品と衛生 ～手洗い～：　食品を扱う上での手洗いの重要性を理解する | 小築康弘 |
| 第2回 | 食材の実体験(1)：品種と味・食感<br>ジャガイモの各品種の味・食感を官能試験により判定する | 小築康弘 |
| 第3回 | 食材の実体験(2)：品種と甘さ<br>苺の各品種の味・食感を官能試験により判定する | 小築康弘 |
| 第4回 | 食材の実体験(3)：食材の科学的変化 ～酵素的褐変反応～<br>りんごの褐変反応に関する実験をする | 小築康弘 |
| 第5回 | 洋食・和食のマナーの基礎<br>洋食・和食のマナーの基礎知識を学ぶ | 小築康弘 |
| 第6回 | 和食のマナーの実践<br>和食のマナーを実践し，自己評価をする | 小築康弘 |
| 第7回 | 食空間の構成(1)<br>洋食のテーブルセッティング | 石田有美枝 |
| 第8回 | 食空間の構成(2)<br>和の食卓 | 石田有美枝 |
| 第9回 | 食空間の構成(3)<br>中国料理のテーブルセッティング | 石田有美枝 |
| 第10回 | テーブルコーディネート(1)<br>正月のテーブルコーディネート | 石田有美枝 |
| 第11回 | テーブルコーディネート(2)<br>クリスマスのテーブルコーディネート | 石田有美枝 |
| 第12回 | テーブルコーディネート(3)<br>バレンタインデーのテーブルコーディネート | 石田有美枝 |
| 第13回 | テーブルコーディネート(4)<br>ワインを楽しむテーブルコーディネート | 石田有美枝 |
| 第14回 | テーブルコーディネート(5)<br>テーマ別コーディネート：　行事や場面を想定してテーブルコーディネートをします。内容はその時の話題・気候等を考慮して決めます。 | 石田有美枝 |
| 第15回 | まとめ<br>授業の各内容を振り返ります。 | 小築康弘 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 実習中の取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 60 | 各回の内容についての理解度を判定する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。 |
| 授業外学修 | 1．次回の内容について予習をし，スムーズに実習に移れるようにしておくこと<br>2．レポートの作成をすること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・フードコーディネーター教本2022 | 日本フードコーディネーター協会 | 柴田書店 | 978-4-388-15451-7 | 3300円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導（フリーランス：石田有美枝） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 食空間の構成の基礎知識修得とテーブルコーディネートの実践を指導する。 |

| 科目名 | 食品加工学・実習 | | | 授業番号 | HF302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | われわれは日常の食生活において様々な加工食品を利用している。本授業では，身近で代表的な加工食品の加工原理を学ぶとともに，それらを試作し，基礎的加工技術を修得する。実習を通じて，加工食品の安全性や利便性についての理解を深め，適正な選択や利用について考える。<br>なお，授業効果を高めるために，この授業は講義と実習を併用することにより行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる<br>・基礎的加工技術を身につけている<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 食品の加工法：概説<br>食品表示について：概説<br>食品の保存法(1)：食品の品質劣化の要因／水分制御による保存<br>上記内容について講義する | |
| 第2回 | シラップ漬の製造<br>柑橘類のシラップ漬けの製造をする | |
| 第3回 | ジャムの製造<br>いちごジャムの製造をする | |
| 第4回 | 食品の保存法(2)<br>浸透圧を利用した保存／低温による保存 | |
| 第5回 | 手洗いと衛生<br>手の洗い方・水気の拭き取り方の違いによる手のひら上の生菌数を実験により確認する | |
| 第6回 | 食品の保存法(3)<br>殺菌による保存／CA貯蔵／窒素充填法／燻煙による保存／食品添加物による保存 | |
| 第7回 | マヨネーズの製造<br>マヨネーズを製造する | |
| 第8回 | 食品の変質要因(1)<br>微生物による変質／脂質の酸敗／酸素による変質 | |
| 第9回 | 酸乳飲料・ヨーグルトの製造<br>酸乳飲料・ヨーグルトを製造する | |
| 第10回 | 食品の変質要因(2)：光による変質／食品の成分間反応<br>食品の包装：概説 | |
| 第11回 | こんにゃくの製造<br>こんにゃくを製造する | |
| 第12回 | 加工食品の規格基準と表示<br>食品の表示と法律／保健機能食品制度 | |
| 第13回 | うどんの製造<br>うどんの製造をする | |
| 第14回 | 米粉パンの製造<br>米粉パンの製造をする | |
| 第15回 | まとめ<br>授業全体を振り返る | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 授業への取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 55 | 各回の内容についての理解度を判定する。また，実習については自身が作成した製品の商品的価値についても述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，衛生面・安全面に十分配慮し，計画的に行うこと。 |
| 授業外学修 | 1．次回の内容について予習をし，スムーズに講義・実習に移れるようにしておくこと<br>2．レポートの作成をすること<br>以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 食品加工学と実習・実験第2版 | 谷口亜樹子　編著 | 光生館 | 978-4-332-04064-4 | 2310円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 応用調理演習 | | | 授業番号 | HF303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 多くの人は食材を調理・加工し，生きる上で必要なエネルギーおよび栄養素を得る。しかし，社会人として働き，生活していく中で調理のために使える時間は限られていくことが予想される。<br>そこで通常の調理に加えて，様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげ，限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付ける。<br>通常の調理方法に加え，電子レンジ，炊飯器などの調理家電を用いて調理実習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 通常の調理に加えて，様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげることができる。<br>限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調理の基本<br>調理に関する基本的な事項を理解する。 | |
| 第2回 | 時短調理１<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第3回 | 時短調理２<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。。 | |
| 第4回 | 時短調理３<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第5回 | 時短調理４<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第6回 | 時短調理５<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第7回 | 時短調理６<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第8回 | 時短調理７<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第9回 | 時短調理８<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第10回 | 時短調理９<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第11回 | 時短調理１０<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第12回 | 時短調理１１<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第13回 | 時短調理１２<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第14回 | 時短調理１３<br>電子レンジ，炊飯器，オーブントースター等の調理家電を用いて加熱する方法を理解する。 | |
| 第15回 | 献立計画<br>これまで学んだ調理方法を活かして，自分自身でレシピを考えることが出来る。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 55 | 授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，まとめて提出する。レポート課題はコメントを付けて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業で出てきたポイントを復習すること<br>2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 調理実習Ⅱ | | | 授業番号 | HF304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里、山田　紳介、岡　久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 特別講師による和・洋・中の調理実習を通して，それぞれの食文化やテーブルマナーについてさらに発展的な内容を学ぶ。<br>本科目はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目の一つである。<br>なお，授業効果を高めるために，1年後期開講の調理実習Iを履修しておくことを必須とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 料理をより美しく，そして美味しく作るための発展的な技法を身に付けている。<br>和食，中華，西洋，世界の料理の食の文化について理解を深めている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 実習の概要説明，調理の基礎について<br>調理時間する基本的な事項について理解する。 | 加賀田　江里 |
| 第2回 | 和食の調理<br>調理実習を通して，和食の作るときの注意点を理解する。 | 小川　美香 |
| 第3回 | 和食の調理と食の文化<br>調理実習を通して和食に対する理解を深める。 | 小川　美香 |
| 第4回 | 和食の調理とテーブルコーディネート<br>調理実習を通して器の選び方などを理解する。 | 小川　美香 |
| 第5回 | 和食とテーブルマナー<br>調理実習を通して和食について理解を深める。 | 小川　美香 |
| 第6回 | 中華料理の調理<br>調理実習を通して中華料理を作るときの注意点を理解する。 | 山田　伸介 |
| 第7回 | 中華料理の基本と食の文化<br>調理実習を通して中華料理に対する理解を深める。 | 山田　伸介 |
| 第8回 | 中華料理の実習とテーブルコーディネート<br>調理実習を通して器の選び方などを理解する。 | 山田　伸介 |
| 第9回 | 中華料理の実習とテーブルマナー<br>調理実習を通して中華料理について理解を深める。 | 山田　伸介 |
| 第10回 | 西洋料理の基本と食の文化<br>調理実習を通して西洋料理に対する理解を深める。 | 岡　　久 |
| 第11回 | 西洋料理の実習とテーブルコーディネート<br>調理実習を通して器の選び方などを理解する。 | 岡　　久 |
| 第12回 | 西洋料理の実習とテーブルマナー<br>調理実習を通して西洋料理について理解を深める。 | 岡　　久 |
| 第13回 | 西洋料理の実習と各国料理の歴史<br>調理実習を通して西洋料理について理解を深める。 | 岡　　久 |
| 第14回 | 世界の料理<br>西洋料理を通して他国の料理について理解を深める。 | 加賀田　江里 |
| 第15回 | 製菓<br>調理実習を通して，お菓子作りのポイントについて理解する。 | 加賀田　江里 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 55 | 調理のポイントについてまとめ，なぜそれがポイントとなるのか具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリント（各講師作成） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | フードコーディネーター教本2023 |
| その他 | 食材の入荷状況等によって実習内容が変更になる場合あり。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ホテルの厨房（岡久）での実務経験 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ホテルの厨房（岡久）などの調理経験を活かして指導を行う。 |

| 科目名 | 生活学概論Ａ | | | 授業番号 | HG101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘、仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Aでは生活の中の食，環境，情報について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | パソコン・スマートフォン・周辺機器の仕組み<br>パソコン，スマートフォン，入力装置，記憶装置，出力装置といった周辺機器の特徴について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第2回 | アプリケーションソフト・ネットワーク<br>アプリケーションソフトの種類や機能，インターネットの仕組みについて理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第3回 | 情報セキュリティ(1)<br>情報セキュリティのリスク，コンピュータウイルスの特徴について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第4回 | 情報セキュリティ(2)<br>コンピュータウイルス感染経路と対策，パスワード管理について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第5回 | 個人情報保護<br>個人情報保護法における個人情報の定義，情報の収集や取り扱い，漏洩事例と対策について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第6回 | 食の機能と栄養機能<br>「食」の持つ機能の概論と，その１つである栄養機能について理解する。 | 小築康弘 |
| 第7回 | 食と生活リズム／食の精神的機能<br>サーカディアンリズムと食のリズムの関係，食による精神的満足感，共食の重要性を理解する。 | 小築康弘 |
| 第8回 | 食事形態の選択<br>外食・中食・内食，食文化の継承等について考える。 | 小築康弘 |
| 第9回 | 食事に対する価値観／食べ物の安全と安心の概念<br>食事に対する価値観を考察するとともに，食べ物に対する「安全」「安心」について考える。 | 小築康弘 |
| 第10回 | 食中毒<br>細菌性およびウイルス性食中毒を中心に，食中毒の概要を理解する。 | 小築康弘 |
| 第11回 | 人々の生活と災害<br>災害に対する先人の知恵を知るとともに，現在問題になっている「集中豪雨」について考える。 | 小築康弘 |
| 第12回 | 水質問題と生態系<br>水質問題の事例，それらに対する環境省（旧環境庁）の対処の概要を理解する。 | 小築康弘 |
| 第13回 | エネルギーと温暖化<br>化石エネルギーによる生活，温暖化，集中豪雨，台風について考える。 | 小築康弘 |
| 第14回 | 環境問題<br>現在主に問題になっている環境問題の事例について考える。 | 小築康弘 |
| 第15回 | 生活の持続可能性<br>Sustainability(持続可能性)について，生活との関連性の中で考える。 | 小築康弘 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | ［仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | 10 | ［小築］授業開始前までに，予習範囲から質問事項の提出ができているか，併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | 10 | ［小築］予習範囲の確認テスト・前回の範囲の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | 70 | ［小築・仁宮］全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。 |
| 授業外学修 | ［仁宮］<br>1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること<br>2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること<br>［小築］<br>3．授業内で予習範囲の小テストがあるため，その準備をすること<br>4．予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し，提出すること<br>5．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 人と生活 | 「生活する力を育てる」ための研究会　編 | 建帛社 | 978-4-7679-1446-6 | 2，000＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生活と環境 | 藤城敏幸 | 東京教学社 | 978-4- 8082-5012-6 | 1，900円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務（仁宮崇） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，レセプトデータ集計，DPCデータ分析，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。 |

| 科目名 | 生活学基礎演習 | | | 授業番号 | HG102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 我々は進歩の激しい世界に生活をしている。そこで，必要になるのは新たな知識を取り入れ，新たな技術・知識に対応することである。それが，現代の生活者に必要な能力の一つである。本演習では，その基礎となる『学修する習慣』のより確実な構築を目的とするとともに，言語能力および非言語能力として数学および論理学の基礎的能力を身に付けることを目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し，自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | なぜ「学修する習慣」が必要なのか<br>生活における「学修する習慣」について考える | |
| 第2回 | 非言語分野の演習(1)<br>順番を考える問題 | |
| 第3回 | 言語分野の演習(1)<br>二語関係 | |
| 第4回 | 非言語分野の演習(2)<br>内訳を考える問題 | |
| 第5回 | 非言語分野の演習(3)<br>発言の正誤を判断する問題 | |
| 第6回 | 非言語分野の演習(4)<br>平均から個々の値を求める問題 | |
| 第7回 | 第2回～第6回の演習内容の確認テスト<br>上記授業回の内容を確認する | |
| 第8回 | 言語分野の演習(2)<br>語句の用法 | |
| 第9回 | 非言語分野の演習(5)<br>人口密度の問題 | |
| 第10回 | 非言語分野の演習(6)<br>当てはあるものを全て選ぶ問題 | |
| 第11回 | 非言語分野の演習(7)<br>２つの表から，数量や割合を求める問題 | |
| 第12回 | 第2回～第6回の演習内容および第8回～第11回の演習内容の確認テスト<br>上記授業回の内容を確認する | |
| 第13回 | 非言語分野の演習(8)<br>２つの項目に当てはまらない男女の合計人数の問題 | |
| 第14回 | 非言語分野の演習(9)<br>順列・組み合わせの問題 | |
| 第15回 | 改めて考える ～なぜ「学修する習慣」が必要なのか～<br>上記テーマについて，改めて考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 各回の内容の理解度・定着度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 自身が身につけた能力を適切に発揮できるかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，到達目標にあるように『学修の習慣化』を求める。 |
| 授業外学修 | 1．授業で提示される次回の内容について予習をすること<br>2．定期試験に向けて，自身の身につけた言語能力・非言語能力の定着を図ること<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 未定 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 未定 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活情報基礎演習 1クラス | | | 授業番号 | HG103A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学を卒業後，「働く」職場で大部分の人が普通に使いこなしている「道具」がパーソナルコンピューター（PC）である。もちろん，PCを使用しない職場はあるが，圧倒的に多くの職場でPCが利用されており，平然と使いこなすことが求められている。本授業の目的は，PCはあくまでも「道具」であることを認識し，その操作を違和感なく遂行できるようになることである。そのため，すでにPCの操作に自信のある学生は対象としていない。一方で，受講する学生の一人たりとも脱落することも想定していない。授業は，マウスやキーボードに慣れることから始める。卒業後に，PCを当たり前のように使いこなす第一歩にあたる授業である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・情報端末を単なる道具と見なすことができる<br>・PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マウスはポインティングデバイス：PCに操作する場所を教える装置の一つが「マウス」 | |
| 第2回 | 左クリック・右クリック・ドラッグ | |
| 第3回 | キーボード：入力の基礎　間違って消去してしまっても元に戻せる[Ctrl] + [Z]／文字の消去法／ＡＢＣ ... と打ってみよう | |
| 第4回 | キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (1) | |
| 第5回 | キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (2) | |
| 第6回 | キーボード：文章を打ってみよう | |
| 第7回 | ネット検索の基礎：教えて！ Google先生！ | |
| 第8回 | Eメールのルール：まずはGoogle先生に聞いてみよう | |
| 第9回 | Eメール実践 | |
| 第10回 | PowerPointを使おう | |
| 第11回 | Excelで表計算の基礎 | |
| 第12回 | Excelでちょっと高度な使い方 | |
| 第13回 | Wordで簡単なポスター作り | |
| 第14回 | Word：左合わせ・右合わせ・センタリング・タブ ... etc. スペースキーを連打しなくても文字の場所は簡単に決められる | |
| 第15回 | まとめ：Google，Siri，Cortana ... が結構教えてくれる | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 授業へ取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 55 | 授業毎に設定するハードル（タイピングの正確性・スピードなど）のクリアの度合いにより評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。 |
| 授業外学修 | 1　PCを所有していなくても，スマートホンでqwerty配列のキーボードを利用できるので，いわゆる英文タイプライターの配列のキーボードに親しむこと<br>2　PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にPCを扱えるようになることを意識し親しむこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活情報基礎演習 2クラス | | | 授業番号 | HG103B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大学を卒業後，「働く」職場で大部分の人が普通に使いこなしている「道具」がパーソナルコンピューター（PC）である。もちろん，PCを使用しない職場はあるが，圧倒的に多くの職場でPCが利用されており，平然と使いこなすことが求められている。本授業の目的は，PCはあくまでも「道具」であることを認識し，その操作を違和感なく遂行できるようになることである。そのため，すでにPCの操作に自信のある学生は対象としていない。一方で，受講する学生の一人たりとも脱落することも想定していない。授業は，マウスやキーボードに慣れることから始める。卒業後に，PCを当たり前のように使いこなす第一歩にあたる授業である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・情報端末を単なる道具と見なすことができる<br>・PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マウスはポインティングデバイス：PCに操作する場所を教える装置の一つが「マウス」 | |
| 第2回 | 左クリック・右クリック・ドラッグ | |
| 第3回 | キーボード：入力の基礎　間違って消去してしまっても元に戻せる[Ctrl] + [Z]／文字の消去法／ＡＢＣ ... と打ってみよう | |
| 第4回 | キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (1) | |
| 第5回 | キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (2) | |
| 第6回 | キーボード：文章を打ってみよう | |
| 第7回 | ネット検索の基礎：教えて！ Google先生！ | |
| 第8回 | Eメールのルール：まずはGoogle先生に聞いてみよう | |
| 第9回 | Eメール実践 | |
| 第10回 | PowerPointを使おう | |
| 第11回 | Excelで表計算の基礎 | |
| 第12回 | Excelでちょっと高度な使い方 | |
| 第13回 | Wordで簡単なポスター作り | |
| 第14回 | Word：左合わせ・右合わせ・センタリング・タブ ... etc. スペースキーを連打しなくても文字の場所は簡単に決められる | |
| 第15回 | まとめ：Google，Siri，Cortana ... が結構教えてくれる | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 45 | 授業へ取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 55 | 授業毎に設定するハードル（タイピングの正確性・スピードなど）のクリアの度合いにより評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。 |
| 授業外学修 | 1　PCを所有していなくても，スマートホンでqwerty配列のキーボードを利用できるので，いわゆる英文タイプライターの配列のキーボードに親しむこと<br>2　PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にPCを扱えるようになることを意識し親しむこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | キャリア基礎演習 | | | 授業番号 | HG104 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 学生が自らのキャリアデザインを描き，実現のために何が必要か，何をすべきか，働く意味についても考える。<br>インターンシップの重要性からはじまり，自己分析にて自己を知り，持てる能力を最大限に活かすために世の中には，どのような業界や仕事があるのかを学び，ゲストスピーカーによる，いろいろなキャリアプランから，仕事選びのポイントや仕事とは何かを考え，就職について意識することで，後期のキャリア開発演習に向けた職業観を身に付ける。また，随時に適切な就職情報も提供する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる。<br>2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる。<br>3.就職実践力の基礎能力を修得することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 就職活動とは | 就職支援センター |
| 第2回 | 就職と就職活動について | |
| 第3回 | 働くとは | 外部講師 |
| 第4回 | 企業で働くルールを理解する | |
| 第5回 | 仕事とは何か（職業観について） | 外部講師 |
| 第6回 | 仕事とは何か（職業観について） | 外部講師 |
| 第7回 | インターンシップのメリット，エントリーシート記載方法と登録について | |
| 第8回 | インターンシップのエントリーシート記載練習 | |
| 第9回 | いろいろな働き方について（正社員・非正規社員） | |
| 第10回 | 就活や進路についての個人面談 | 就職支援センター |
| 第11回 | なぜ就職するのか | |
| 第12回 | 自己分析・自己理解 | |
| 第13回 | 企業研究と業界研究 | |
| 第14回 | 社会人基礎力 | |
| 第15回 | 後期へのキャリア開発演習に向けて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 提出物（40%）授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習（20%）インターンシップの模擬エントリーシートによって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 就職支援センター主催の就職セミナー（就職活動準備講座・インターンシップ登録講座・身だしなみ講座）にもあわせて出席し，相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また，就職活動について，現状を理解し，自己の進路希望を具体的に考え，今から必要な学修・行動を取れるように，積極的な姿勢で授業に臨むとともに，授業で指示する課題については，そのつど真剣に取り組む。 |
| 授業外学修 | 各授業時に配布された「レジュメ」を読み，学んだ内容を整理し，復習を毎回行うこと。（１時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業内労働組合の書記長としての実績，企業等での職業経験や起業経験，フリーランスでも活動した「多様な働き方」についての実務や人生経験。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 複数の企業での職業経験，起業やフリーランスの実績，労働問題をはじめとする基本的な労働法制度については，企業内労働組合の書記長としての実績。社会保障制度への理解については，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実務経験から，わかりやすく説明する。 |

| 科目名 | 生活コミュニケーション論 | | | 授業番号 | HG105 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 人が社会の中で生きていく上で，互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションは欠かせないものである。この授業では，コミュニケーションとは何か，どのように成り立つのかについて基礎的な知識を身につける。また，様々な種類の人間関係におけるコミュニケーションについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・コミュニケーションに関する基礎的内容について説明できる<br>・コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活における人間関係について考えることができる<br>・コミュニケーションの重要性を理解し，自分の生活に照らして考えることができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | コミュニケーションを学ぶ意義<br>コミュニケーションを学ぶ意義，２年間で学修するコミュニケーション分野の学びについて概観する | |
| 第2回 | 自己理解<br>コミュニケーションにおける自己理解の重要性とその方法を学ぶ | |
| 第3回 | 信頼関係の構築<br>コミュニケーションにおける信頼関係の構築の重要性とその方法を学ぶ | |
| 第4回 | 傾聴と共感<br>傾聴と共感の重要性とその方法を学ぶ | |
| 第5回 | ソーシャルサポート<br>ソーシャルサポートの種類や方法，特徴について学ぶ | |
| 第6回 | 適切な自己主張ーアサーション<br>コミュニケーションにおいて重要となるアサーションの考え方と方法を学ぶ | |
| 第7回 | 非言語的コミュニケーション<br>非言語的コミュニケーションの種類と方法を学ぶ | |
| 第8回 | 文章によるコミュニケーション<br>文書によるコミュニケーションの特徴と工夫について学ぶ | |
| 第9回 | 親子のコミュニケーション<br>親子のコミュニケーションの特徴について学ぶ | |
| 第10回 | 友人とのコミュニケーション<br>友人とのコミュニケーションの特徴について学ぶ | |
| 第11回 | 恋愛におけるコミュニケーシン<br>恋愛におけるコミュニケーションの特徴について学ぶ | |
| 第12回 | 家族のコミュニケーション<br>家族のコミュニケーションの特徴について学ぶ | |
| 第13回 | 組織におけるコミュニケーション<br>組織におけるコミュニケーションの特徴について学ぶ | |
| 第14回 | コミュニケーションの個人差<br>コミュニケーションの個人差，発達障害，現代的課題について学ぶ | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること。 |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 大学生の生活のためのソーシャルスキル | 橋本 剛 著 | サイエンス社 | 978-4-7819-1183-0 | 1，782円（税込） |
| エピソードでつかむ青年心理 | 大野 久 著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-6230-5737-5 | 2，600円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習 A 生活創造･医療事務コースの学生対象 | 授業番号 | HG106C | サブタイトル | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村 弥生 | | | | |

| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修･選択 | 必修 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | コミュニケーションの基本として，他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや，傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること，より積極的に対象を知るための適切な訊き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず，真に相手を知り，理解しようとする姿勢を身につける。 |
| 到達目標 | ･コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている<br>･ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方の基本的スキルを身につけている。<br>･コミュニケーションにおけるきくスキルを積極的に実生活に活かすことができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画 備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | いろいろなきき方ー聞くhear，聴くlisten，訊くask<br>様々な「きく」の特徴について学ぶ | |
| 第2回 | 聞くこと（hear）の重要性<br>聞くことの特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第3回 | 情報伝達訓練（1）<br>聞くスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第4回 | 情報伝達訓練（2）<br>聞くスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第5回 | 傾聴（listen）の重要性<br>傾聴とは何か，その特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第6回 | 傾聴の技法<br>傾聴の技法について具体的な事例を通して学ぶ | |
| 第7回 | 傾聴訓練（1）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第8回 | 傾聴訓練（2）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第9回 | 傾聴訓練（3）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第10回 | 質問（ask）の重要性<br>訊くこと，質問の特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第11回 | 質問の技法<br>よい質問の特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第12回 | 質問訓練（1）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第13回 | 質問訓練（2）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第14回 | 質問訓練（3）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準･その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 課題により授業内容の理解度･修得度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖 | 大谷佳子 | 翔泳社 | 978-4-7981-5255-4 | 1800円＋税 |
| 対人援助の現場で使える質問する技術便利帖 | 大谷佳子 | 翔泳社 | 978-4-7981-5988-1 | 1800円＋税 |
| 傾聴術 | 古宮昇 | 誠信書房 | 978-4-414-40364-0 | 1400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習 A 生活福祉コースの学生対象 | | | 授業番号 | HG106D | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村 弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | コミュニケーションの基本として，他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや，傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること，より積極的に対象を知るための適切な訊き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず，真に相手を知り，理解しようとする姿勢を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている<br>・ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方の基本的スキルを身につけている。<br>・コミュニケーションにおけるきくスキルを積極的に実生活に活かすことができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | いろいろなきき方ー聞くhear，聴くlisten，訊くask<br>様々な「きく」の特徴について学ぶ | |
| 第2回 | 聞くこと（hear）の重要性<br>聞くことの特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第3回 | 情報伝達訓練（1）<br>聞くスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第4回 | 情報伝達訓練（2）<br>聞くスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第5回 | 傾聴（listen）の重要性<br>傾聴とは何か，その特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第6回 | 傾聴の技法<br>傾聴の技法について具体的な事例を通して学ぶ | |
| 第7回 | 傾聴訓練（1）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第8回 | 傾聴訓練（2）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第9回 | 傾聴訓練（3）<br>傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第10回 | 質問（ask）の重要性<br>訊くこと，質問の特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第11回 | 質問の技法<br>よい質問の特徴とスキルについて学ぶ | |
| 第12回 | 質問訓練（1）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第13回 | 質問訓練（2）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第14回 | 質問訓練（3）<br>質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 課題により授業内容の理解度・修得度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖 | 大谷佳子 | 翔泳社 | 978-4-7981-5255-4 | 1800円＋税 |
| 対人援助の現場で使える質問する技術便利帖 | 大谷佳子 | 翔泳社 | 978-4-7981-5988-1 | 1800円＋税 |
| 傾聴術 | 古宮昇 | 誠信書房 | 978-4-414-40364-0 | 1400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活学概論Ｂ | | | 授業番号 | HG107 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。<br>生活学概論Ｂでは，「生活の豊かさ」を実現するために生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で選択し，実践する必要がある。中でも，日々の暮らしにおいて，生活者としての「衣服の素材や構成を知り選ぶ（衣生活）」「商品やサービスなどを安全に利用する（消費生活）」「生活するためのお金（生活経済）」が大きな要件となる。これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 衣生活，消費生活，生活経済の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれらの知識を利用することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 衣服の構造：衣服ができあがるまで | |
| 第2回 | 衣服の役割：社会的機能と保健衛生的機能について | |
| 第3回 | 衣服の選択：自分に似合う服を選ぶには | |
| 第4回 | 衣服の材料：服の素材の種類や特徴から快適な着心地を手に入れる | |
| 第5回 | 衣服の管理：洗濯や保管中のトラブルについて | |
| 第6回 | 消費者生活：消費生活者と消費者の権利 | |
| 第7回 | 消費者生活：悪質商法から消費トラブルまで | |
| 第8回 | 消費者生活：広告の表示と製品の安全性 | |
| 第9回 | 消費者生活：クレジットのしくみと多重債務 | |
| 第10回 | 消費者生活：情報社会におけるトラブル | |
| 第11回 | 生活と経済：くらしと経済における家計 | |
| 第12回 | 生活と経済：市場の働きと経済 | |
| 第13回 | 生活と経済：新たな貨幣の機能を理解するキャッシュレス経済 | |
| 第14回 | 生活と経済：社会保障制度の理解（社会保険，社会福祉，各種保険） | |
| 第15回 | 生活と経済：豊かさと生活経済との関係 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 各講義の振り返りワークシートの提出。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 小テスト及び各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べる事前学修を毎回行う。<br>2．事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」を読み，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行う。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。消費トラブルの教育・研修分野における講師，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実績。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 衣生活分野は，デザイナーとしてメーカーに勤めていたときの知識。消費者生活は，消費トラブルの教育・研修分野における講師の実績。生活と経済は，ファイナンシャルプランナーとしての実務経験から，わかりやすく説明する。 |

| 科目名 | 生活学概論Ｂ | | | 授業番号 | HG10701 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。<br>生活学概論Ｂでは，「生活の豊かさ」を実現するために生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で選択し，実践する必要がある。中でも，日々の暮らしにおいて，生活者としての「衣服の素材や構成を知り選ぶ（衣生活）」「商品やサービスなどを安全に利用する（消費生活）」「生活するためのお金（生活経済）」が大きな要件となる。これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 衣生活，消費生活，生活経済の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれらの知識を利用することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 衣服の構造：衣服ができあがるまで | |
| 第2回 | 衣服の役割：社会的機能と保健衛生的機能について | |
| 第3回 | 衣服の選択：自分に似合う服を選ぶには | |
| 第4回 | 衣服の材料：服の素材の種類や特徴から快適な着心地を手に入れる | |
| 第5回 | 衣服の管理：洗濯や保管中のトラブルについて | |
| 第6回 | 消費者生活：消費生活者と消費者の権利 | |
| 第7回 | 消費者生活：悪質商法から消費トラブルまで | |
| 第8回 | 消費者生活：広告の表示と製品の安全性 | |
| 第9回 | 消費者生活：クレジットのしくみと多重債務 | |
| 第10回 | 消費者生活：情報社会におけるトラブル | |
| 第11回 | 生活と経済：くらしと経済における家計 | |
| 第12回 | 生活と経済：市場の働きと経済 | |
| 第13回 | 生活と経済：新たな貨幣の機能を理解するキャッシュレス経済 | |
| 第14回 | 生活と経済：社会保障制度の理解（社会保険，社会福祉，各種保険） | |
| 第15回 | 生活と経済：豊かさと生活経済との関係 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 各講義の振り返りワークシートの提出。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 小テスト及び各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べる事前学修を毎回行う。<br>2．事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」を読み，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行う。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。消費トラブルの教育・研修分野における講師，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実績。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 衣生活分野は，デザイナーとしてメーカーに勤めていたときの知識。消費者生活は，消費トラブルの教育・研修分野における講師の実績。生活と経済は，ファイナンシャルプランナーとしての実務経験から，わかりやすく説明する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ホスピタリティとマナー | | | 授業番号 | HG108 | サブタイトル | | | |
| 教員 | 仁宮　崇、松井　圭三、加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | ホスピタリティは，笑顔で話す，温かい声かけをするだけでなく，相手の立場に立って考え，行動することが大切である。マナーは，相手の立場に立って考え，相手を不快にさせないためにあるものである。<br>人間が生活する中で，人と人との繋がりは必要不可欠であり，良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティおよびマナーは重要である。本科目は，人生をより良く豊かに生きるために，確実に身につけておきたいホスピタリティとマナーについて考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・各回で学んだ基本的なマナーを身につけ，普段の生活に活かすことができる<br>・ホスピタリティの意義を理解し，様々な事例を通して，社会生活でのホスピタリティについて考えを深めることができる。<br>・学んだ内容を学内外で触れ合うすべての人に対して実践し，行動につなげていくことができる。<br>・実生活において，気くばりや心くばりなどのホスピタリティ精神を持って他者へ接することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ホスピタリティとマナーを学ぶ意義：ホスピタリティとマナーの意味，なぜ学ぶ必要があるかについて理解する。 | 仁宮 |
| 第2回 | 食事のマナー：和食<br>箸の使い方を中心に和食における振る舞い方を考える。 | |
| 第3回 | 食事のマナー：洋食<br>洋食のテーブルマナーの基本について理解する。 | 加賀田 |
| 第4回 | テーブルマナーの実践<br>ホテルに行き，実際に食事をしながら洋食のテーブルマナーを深く理解する。 | 加賀田 |
| 第5回 | 時間のマナー：日本は時間に厳しい人が多い。約束の時間等について考える。<br>ネットのマナー：日々利用するインターネットで気をつける点を意識する。 | |
| 第6回 | 人権とマナー：多様性を考える<br>様々な人権問題を知り，自身は人権をどのように考え，どのように振る舞うかを考える。 | |
| 第7回 | 訪問時・来客時のマナー<br>訪問するとき，来客をお迎えするときの基本的なマナーについて理解する。 | 加賀田 |
| 第8回 | 冠婚葬祭のマナー<br>冠婚葬祭で必要な基本的なマナーを理解する。 | 加賀田 |
| 第9回 | ホスピタリティの実践：好感・満足・感動～最高のホスピタリティとは何か～，ホスピタリティの3つのステップを理解する。 | 仁宮 |
| 第10回 | ホスピタリティの意義：サービスとホスピタリティについて，事例をもとに意義について考える。 | 仁宮 |
| 第11回 | 対人関係とホスピタリティ（1）：電話・手紙・メール，ホスピタリティと日常使用する通方法について考える。 | 仁宮 |
| 第12回 | 対人関係とホスピタリティ（2）：座席・立ち居振る舞い・身だしなみ，席次を理解した上でのホスピタリティ，相手をおもてなしする応対について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第13回 | ホスピタリティの事例1：ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第14回 | ホスピタリティの事例2：医療機関での接遇を例に医療現場でのホスピタリティの在り方について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第15回 | ホスピタリティとマナーのまとめ・小テスト：これまでの授業を振り返り，ホスピタリティとマナーをより身につけられるように日常生活に取り入れることを考える。 | 仁宮 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | 34 | レポート課題の期限や指示を守って書いたかを評価する（小築・加賀田）。 |
| 小テスト | 36 | 授業の理解度を評価する（仁宮）。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【評価の方法1：種別】<br>授業への取り組みの姿勢／態度の内訳<br>2点×15回 合計30点<br><br>【評価の方法2：種別】<br>レポートの内訳<br>小築（担当回）：8点×3回，加賀田（テーブルマナー講習会）：10点　合計34点 |
| 受講の心得 | 授業名通り，相手を不快にさせず，他者への気遣いを意識した受講態度で臨むこと。ホスピタリティもマナーも実践することに意味があるため，学んだことを日常生活でも取り入れること。 |
| 授業外学修 | 1. 授業で学んだホスピタリティ，マナーを日常生活の中で実践する。<br>2. サービスを受ける側になった際，サービス提供者の行動をみて，気くばりや心くばりを参考にする。<br>3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「ホスピタリティの教科書」あさ出版<br>「ホスピタリティ　コミュニケーション力」日本医療企画<br>「レッツホスピタリティ」経済法令研究会 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | キャリア開発演習 | | | 授業番号 | HG110 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤田　悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 学生が主体的に進路選択し，積極的な姿勢で就職活動に取り組むために必要な知識の修得を行うことを目的としている。<br>学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、何をすべきか，働く意味について考え，自己分析にて自己を知り，職務適正テストの実施，基本的な履歴書・自己紹介書，エントリーシートの記載方法から，筆記試験，個人面接，グループ面接，グループディスカッション対策までを行う。また，随時に適切な就職情報も提供する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる。<br>2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる。<br>3.就職実践力の基礎能力を修得することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「キャリア開発演習」の解説（職業観意識についてアンケート） | 藤田 |
| 第2回 | 就職活動で知っておかなければならないこと | 外部講師 |
| 第3回 | 就職活動基本マナーについて | 藤田 |
| 第4回 | 情報収集方法について | 藤田 |
| 第5回 | 企業の採用担当者を招いて，就職活動についてのアドバイス | 外部講師 |
| 第6回 | 履歴書・自己紹介書の書き方その１（実践と質問・疑問事項） | 藤田 |
| 第7回 | 履歴書・自己紹介書の書き方その２（質問事項のフォロー例）最終仕上げ | 藤田 |
| 第8回 | ブラック企業の見分け方と就活セクハラの実態 | 藤田 |
| 第9回 | 社会がもとめる人材とは・先輩の就職活動の失敗と成功事例 | 藤田 |
| 第10回 | 面接のマナーの基本を把握し，面接を理解する | 藤田 |
| 第11回 | 模擬面接を実際に体験する（個人面接） | 藤田 |
| 第12回 | 模擬面接を実際に体験する（グループ面接） | 藤田 |
| 第13回 | グループディスカッションの基本を学ぶ | 藤田 |
| 第14回 | 模擬グループディスカッションを実際に体験する | 藤田 |
| 第15回 | 来年度の就活動向について | 就職支援センター |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，討議への参加，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 提出物（30%）授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習（30%），履歴書・自己紹介書などの提出物によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 就職支援センター主催の就職セミナー（働くとは・サイトの登録について・人事担当者講演会・卒業生からのメッセージ・履歴書対策講座。面接対策講座・先輩からのメッセージ・業界，しごと研究）にもあわせて出席し，相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また，自らの人生と職業について友人や家族と話し合う機会を持ち，積極的な姿勢で授業に臨むとともに，授業で指示する課題については，そのつど真剣に取り組む。 |
| 授業外学修 | 各授業時に配布された「レジュメ」を読み内容確認と学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと。（1時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 本学就職支援センター編『就活ガイドBOOK2023』（第１回授業時に配布予定）。加えて適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 企業内労働組合の書記長としての実績，企業等での職業経験や起業経験，フリーランスでも活動した「多様な働き方」についての実務や人生経験。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 複数の企業での職業経験，起業やフリーランスの実績，労働問題をはじめとする基本的な労働法制度については，企業内労働組合の書記長としての実績。社会保障制度への理解については，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実務経験から，わかりやすく説明する。 |

| 科目名 | 生活学概論C | | | 授業番号 | HG111 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘、韓　在都、仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Cでは生活の中の住，介護，医療について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 住居の機能<br>住居は住む場所であるのは当然であるが，その他の機能も含め理解する。 | 小築康弘 |
| 第2回 | 住まいの快適さ<br>住まいの快適さに関わる要因を理解する。 | 小築康弘 |
| 第3回 | 住まいの安全性<br>住居そのものの安全性，気候や災害に対する安全性を考える。 | 小築康弘 |
| 第4回 | ライフサイクルと住生活<br>ライフステージにより，住生活に求める要件は変わることを理解する。 | 小築康弘 |
| 第5回 | 住環境<br>我々が住む場所の自然環境と住生活との関わりについて１年時に習った内容を再度考察する。 | 小築康弘 |
| 第6回 | 患者として知っておくべき医療制度<br>医療機関の特徴，診療費，かかりつけ医，患者として知っておくべきインフォームドコンセントやセカンドオピニオンといった用語について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第7回 | 救急車の適正利用と救命処置<br>救急医療の現状，救急車の適正利用，救命処置を知っておくことの必要性，熱中症対策について理解する。 | 仁宮　崇 |
| 第8回 | 身体に起こる不調：いわゆる「病気」「けが」など<br>「病気」「けが」と我々は気軽にいうが，実際にはどのような状態なのかを理解する。 | 小築康弘 |
| 第9回 | 病気やけがの治療 (1)<br>捻挫等のいわゆる「けが」の治療の実際を中心に考える。 | 小築康弘 |
| 第10回 | 病気やけがの治療 (2)<br>いわゆる「風邪」などの感染症の治療の実際を中心に考える。 | 小築康弘 |
| 第11回 | 人権と正義<br>人権と倫理について学ぶ | 韓　在都 |
| 第12回 | 笑顔と健康<br>人と触れ合うための教養について学ぶ | 韓　在都 |
| 第13回 | 障害とICF<br>障害福祉の理念や制度について学ぶ | 韓　在都 |
| 第14回 | 老化と認知症<br>老化や認知症の現状を学ぶ | 韓　在都 |
| 第15回 | 介護を必要とする人の生活<br>生活のしづらさの理解とその支援について学ぶ | 韓　在都 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 14 | ［韓・仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | 8 | ［小築］授業開始前までに，予習範囲から質問事項の提出ができているか，併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | 8 | ［小築］予習範囲の確認テスト・前回の範囲の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。 |
| 定期試験 | 70 | ［小築・韓・仁宮］全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。 |
| 授業外学修 | 1. 講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること<br>2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること<br>3. 授業内で予習範囲の小テストがあるため，その準備をすること<br>4. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し，提出すること<br>5. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 人と生活 | 「生活する力を育てる」ための研究会　編 | 建帛社 | 978-4-7679-1446-6 | 2000＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護職員・訪問介護員（韓在都），病院事務（仁宮崇） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設や医療現場等における経験をいかして指導する。 |

| 科目名 | 生活学概論D | | | 授業番号 | HG113 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生、加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。本科目では，生活の主体として生きるために，生活の仕組みと営みを学び，変化し続ける生活構造や意識，それらに対応するために必要なライフスキル，生活設計等の理論を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現代の生活構造・意識を理解し，その特徴を理解できる<br>・生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める。<br>・家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。<br>・生活学の知識を用いて，主体的に生活設計に取り組むことができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 受講者の興味関心に応じて，参考文献や配布資料を変え，内容を一部変更することもある。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生活の主体としての生活者と生活環境<br>主体的な生活者となるための生活経営の考え方を理解する。 | 奥村 |
| 第2回 | 変化する生活構造と生活意識（1）<br>日本における家族や女性の生き方の変化について理解する。 | 奥村 |
| 第3回 | 変化する生活構造と生活意識（2）<br>世界における家族や女性の生き方の多様性について理解する。 | 奥村 |
| 第4回 | 生活問題解決と生活に必要なスキル（1）<br>人生１００年時代の生活経営とライフシフトの考え方を理解する。 | 奥村 |
| 第5回 | 生活問題解決と生活に必要なスキル（2）<br>アンペイドワークと生活時間，家事の歴史的変遷について理解する。 | 奥村 |
| 第6回 | 協働・共生のための人間関係スキル<br>保育，介護の社会化と地域社会の変化について理解する。 | 奥村 |
| 第7回 | 循環型社会を創る消費者のライフスキル(1)<br>家計と所得格差，社会保障制度の考え方を理解する。 | 奥村 |
| 第8回 | 循環型社会を創る消費者のライフスキル(2)<br>資産形成と金融教育について理解する。 | 奥村 |
| 第9回 | 私たちと生活(1)<br>生活とは何か，生活を創る仕組みを理解する。 | 加賀田 |
| 第10回 | 私たちと食生活(1)<br>現代の食の問題点を理解する。 | 加賀田 |
| 第11回 | 私たちと食生活(2)<br>私たちの食を守る仕組みを理解する。 | 加賀田 |
| 第12回 | 私たちと循環型の生活<br>SDGsについて理解し，SDGsがどのように私たちの生活の中に存在しているのか理解する。 | 加賀田 |
| 第13回 | 私たちと生活(2)<br>私たちが生きていくうえで大切な健康と就業に関する事項を理解する。 | 加賀田 |
| 第14回 | 私たちと生活(3)<br>私たちの生活を守るための就業に関するルールを理解する。 | 加賀田 |
| 第15回 | 私たちと生活設計スキル<br>私たちの生活を設計するために必要な知識を理解する。 | 加賀田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業内容を自分自身の問題としてよく考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | ・授業中に紹介した参考文献を積極的に読む。<br>・授業中に配布した資料を繰り返し読み，復習する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 生活を創るライフスキル―生活経営論 | 内藤道子・中間美砂子他共著 | 建帛社 | 978-4-7696-1440-4 | 1800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | メンタルヘルス学 | | | 授業番号 | HG114 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代はストレス社会であり，ストレスは日常生活，社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため，ストレスやセルフケアに関する知識，自分に合ったストレス解消方法を身に付ける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。<br>・自らのストレスの状況を把握できる。<br>・メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。<br>・自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ストレス対処の基礎知識：ストレス対処の基礎知識，ストレスチェック制度について理解する。 | |
| 第2回 | メンタルヘルスケアの意義：労働者のストレスの現状，メンタルヘルスケアの方針と計画について理解する。 | |
| 第3回 | ストレスの基礎知識（1）ストレスについて，ストレスによる健康障害のメカニズム，産業ストレスについて理解する。 | |
| 第4回 | ストレスの基礎知識（2）ライフサイクル，女性労働，雇用形態とストレス，ワーク・エンゲイジメントについて理解する。 | |
| 第5回 | メンタルヘルスの基礎知識：メンタルヘルスの不調，様々な精神疾患・心身症について理解する。 | |
| 第6回 | 心の健康問題の正しい態度：心の健康問題は自分とは関係ないという誤解，睡眠を削って残業をがんばるのは美徳"，その他の誤解と対策について理解する。" | |
| 第7回 | セルフケアの重要性：過重労働の健康への影響，自己保険義務，早期対処の重要性について理解する。 | |
| 第8回 | ストレスへの気づき方：注意すべきリスク要因，仕事以外のストレス，自分の変化に気づく，ストレスのセルフチェックについて理解する。 | |
| 第9回 | ストレスへの対処（1）：ストレスの軽減方法，休養・睡眠，運動・食事等，生活におけるストレス対処について理解する。 | |
| 第10回 | ストレスへの対処（2）：ソーシャルサポート，コーピングの知識について理解する。 | |
| 第11回 | ストレスへの対処（3）：コーピング活用方法について理解する。 | |
| 第12回 | 自発的な相談の有用性：コミュニケーション・スキル，話すことの意味（カウンセリングの意味），同僚のケアについて理解する。 | |
| 第13回 | 社内外資源の活用（1）：相談できるスタッフの種類と特徴，相談窓口について理解する。 | |
| 第14回 | 社内外資源の活用（2）：専門相談機関の知識，医療機関の種類と選び方，受診のポイント，治療の実際について理解する。 | |
| 第15回 | 歴史上の人物から学ぶストレス対処：メンタルヘルスに関する歴史上の人物の考え方や言葉を読み，これからのストレス対策に繋げる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 10 | 課題への取り組み，完成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 精神医学に関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，教科書を読み返し，課題に取り組む。<br>3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストIII種セルフケアコース 第５版 | 大阪商工会議所 | 中央経済社 | 978-4-502-38831-6 | 2，000円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| メンタルヘルス・マネジメント検定試験III種セルフケアコース過去問題集 | 春日　未歩子 | 中央経済社 | | ※2023年に新刊出版の可能性あり |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ストレスに負けない技術−コーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメントーストレスを味方にする心理術(きずな出版)　マンガでわかる! アドラー心理学 折れない心の作り方(宝島社)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ホスピタリティ論 | | | 授業番号 | HG115 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生、仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | ホスピタリティは，笑顔で話す，温かい声かけをするだけでなく，相手の立場に立って考え，行動することが大切である。人間が生活する中で，人と人との繋がりは必要不可欠であり，良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティは重要である。本講義では，ホスピタリティに必要なコミュニケーション方法を学び，様々な事例を通して「ホスピタリティの正体」について考えていく。2年生後期「接遇演習」の履修を希望する学生は，本科目の成績が履修に影響することを意識する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・ホスピタリティの意義を理解し，必要なコミュニケーション方法について理解できる。<br>・様々な事例を通して，社会生活でのホスピタリティについて考えを深めている。<br>・学んだ内容を学内外で触れ合うすべての人に対して実践し，行動につなげていくことができる。<br>・実生活において，気くばりや心くばりなどのホスピタリティ精神を持って他者へ接することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ホスピタリティの意義：<br>サービスとホスピタリティの意義と特徴について学ぶ | 奥村 |
| 第2回 | ホスピタリティの実践 ステップ(1)<br>ホスピタリティの実践に重要な基本マナーについて学ぶ | 奥村 |
| 第3回 | ホスピタリティの実践 ステップ(2)<br>ホスピタリティの実践に重要な気配りについて学ぶ | 奥村 |
| 第4回 | ホスピタリティの実践 ステップ(3)<br>ホスピタリティの実践に重要な心くばりについて学ぶ | 奥村 |
| 第5回 | ホスピタリティをめぐる言葉：<br>日頃の言葉遣いに気を付けること，名言からおもてなしについて考える。 | 仁宮 |
| 第6回 | ホスピタリティと座席：<br>車，部屋，エレベーター，電車，結婚式等の席次について理解し，ホスピタリティと座席について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第7回 | ホスピタリティと電話応対：<br>電話の受け方とかけ方を理解し，企業の事例を参考に，ホスピタリティある電話応対について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第8回 | ホスピタリティの事例（1）：<br>ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第9回 | ホスピタリティの事例（2）：<br>ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第10回 | ホスピタリティの事例（3）：<br>医療機関での接遇を例に医療現場でのホスピタリティの在り方について学ぶ。 | 仁宮 |
| 第11回 | ホスピタリティとコミュニケーション（1）<br>ホスピタリティにおける御礼・依頼・お断りなどのコミュニケーションの方法を学ぶ | 奥村 |
| 第12回 | ホスピタリティとコミュニケーション（2）<br>ホスピタリティにおける謝罪とクレーム対応について学ぶ | 奥村 |
| 第13回 | 組織におけるホスピタリティ<br>組織内においても重要となるホスピタリティの考え方を学ぶ | 奥村 |
| 第14回 | ホスピタリティの正体<br>ホスピタリティの本質について理解を深め，その正体は何なのか考える | 奥村 |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | 奥村 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ホスピタリティは実践することに意味がある。学んだことを日常生活でも取り入れ，実践する。相手の立場に立って考え，気くばりや心くばりをすることを求める。 |
| 授業外学修 | 1. 講義で学んだ気くばりや心くばりを意識して，日常生活の中で生かせるようにする。<br>2. サービスを受ける側になった際，サービス提供者の行動をみて，気くばりや心くばりを参考にする。<br>3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 「ホスピタリティの教科書」あさ出版<br>「ホスピタリティ　コミュニケーション力」日本医療企画<br>「レッツホスピタリティ」経済法令研究会 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活情報演習 A 生活創造･医療事務コースの学生対象 | | | 授業番号 | HG202C | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 石原 信也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修･選択 | 選択 |
| 授業概要 | マイクロソフトオフィススートのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し，ちらし，ビラ，ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 文章作成方法とページレイアウトを知り，Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識･理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | 課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | PC操作の基礎･漢字変換の演習を行う.<br>SPI等でも頻出する漢字を交えながら，難読漢字の入力を行う。IMEの基本的な４種類の入力方法，読みによる入力，部首による入力，全画数による入力，手描き入力を演習し，コピー，ペースト，取り消しなどのショートカットキーと単語の辞書登録を紹介する. | |
| 第2回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，通知状･挨拶状･詫状を題材とした課題を作成する.<br>課題の作成を通じてワープロソフトの概略と局内ファイルサーバの紹介を行い，文章の入力，保存と呼び出しを演習する. | |
| 第3回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，送付状･礼状を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて行や文字の選択，範囲選択，分離した範囲の選択を行い，それらの切り取り，コピー，ペースト，アンドゥ，リドゥ等のやり方を紹介し，IMEを有効に使用した入力の演習を行う。 | |
| 第4回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，依頼状･招待状を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて紙面全体に対しての改行幅やフォントサイズの調整方法，用紙サイズの変更方法を紹介し，改行幅･文字幅などの調整が行えるよう演習する. | |
| 第5回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，見積書･請求書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてフォントの字体やファミリーを紹介し，文字装飾（太字･斜体･下線など）が行えるよう演習する. | |
| 第6回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，注文書･納品書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて線種，線幅の調整，枠内の文字の配置を説明し，罫線･枠線が使えるよう演習する. | |
| 第7回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，稟議書･報告書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてワープロで使用する改行，使用しない空白を説明し，段落ごと，文字ごとの調整ができるよう演習する. | |
| 第8回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，案内状･議事録を題材とした課題を作成する．スタイルの発想はホームページなどでのタグに類似していること，スタイルの使用によって文章の統一感や手直しに有効であることを紹介し，課題作成を通じてワードのスタイル機能の新規作成，適用，保存が使えるよう演習する. | |
| 第9回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，社内報の作成を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて複数ページのレイアウト･設計方法を紹介し差し込み印刷を用いた出力と，文章のPDF演習を演習する. | |
| 第10回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，ワードのテンプレート機能を使用したパンフレットの作成を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてテキストボックスによる自由なレイアウトと枠，背景，内部テキストの書式設定と図形の利用を演習する. | |
| 第11回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，テンプレートを離れてパンフレットの作成を題材とした課題を作成する．これは第10回の続きである.<br>課題作成を通じて画像の取り込みと縮尺の変更，トリミングを学習し，縦横比の変更を忌避する方法を紹介する．また画像の背景削除やぼかし，色味の変更などの可能や自由な配置が行う演習をする. | |
| 第12回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，ポスター制作を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて，ワードアートなどのオフィスの機能でこれまで紹介していないものを紹介し演習する. | |
| 第13回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，自由課題として，これまでの学習成果を使用した，あるいはまとめた文書を作成する.<br>他者の著作物についての敬意を払いながら自分のリソースと発想を形にする. | |
| 第14回 | 自由課題として作成した成果物を相互に提示発表しあい，相互評価を行う．発表資料の作成過程で画面のキャプチャリング，パワーポイントでの図形編集（ワードより高機能である）を演習する. | |
| 第15回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，スケジュール表を題材とした課題を作成する．単調で同様な項目の羅列であれば表計算ソフトを使用したほうが効率的であることを紹介し，ワードの限界と他のアプリケーションを使用したほうが良いケースを学習する.<br>発表の予備日程として，14回目に発表できなかったものの相互評価を行う。 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準･その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，「正確性」「視認性」「独自性･創意性」「紙面要素のバランス」の４項目で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，学生による相互評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。<br>各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。 |
| 受講の心得 | 演習科目のため，出席は特に重要である。 |
| 授業外学修 | 1.演習の準備として指示された素材を収集する。<br>2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要なものはプリントして配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア 専門学校教職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験をいかして，私たちの生活に密着したワードプロセッサソフトの仕組みや機能を指導する。 |

| 科目名 | 生活情報演習 A 生活福祉コースの学生対象 | | | 授業番号 | HG202D | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 石原　信也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | マイクロソフトオフィススートのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し，ちらし，ビラ，ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 文章作成方法とページレイアウトを知り，Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | PC操作の基礎・漢字変換の演習を行う.<br>SPI等でも頻出する漢字を交えながら，難読漢字の入力を行う。IMEの基本的な４種類の入力方法，読みによる入力，部首による入力，全画数による入力，手描き入力を演習し，コピー，ペースト，取り消しなどのショートカットキーと単語の辞書登録を紹介する. | |
| 第2回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，通知状・挨拶状・詫状を題材とした課題を作成する.<br>課題の作成を通じてワープロソフトの概略と局内ファイルサーバの紹介を行い，文章の入力，保存と呼び出しを演習する. | |
| 第3回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，送付状・礼状を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて行や文字の選択，範囲選択，分離した範囲の選択を行い，それらの切り取り，コピー，ペースト，アンドゥ，リドゥ等のやり方を紹介し，IMEを有効に使用した入力の演習を行う。 | |
| 第4回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，依頼状・招待状を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて紙面全体に対しての改行幅やフォントサイズの調整方法，用紙サイズの変更方法を紹介し，改行幅・文字幅などの調整が行えるよう演習する. | |
| 第5回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，見積書・請求書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてフォントの字体やファミリーを紹介し，文字装飾（太字・斜体・下線など）が行えるよう演習する. | |
| 第6回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，注文書・納品書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて線種，線幅の調整，枠内の文字の配置を説明し，罫線・枠線が使えるよう演習する. | |
| 第7回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，稟議書・報告書を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてワープロで使用する改行，使用しない空白を説明し，段落ごと，文字ごとの調整ができるよう演習する. | |
| 第8回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，案内状・議事録を題材とした課題を作成する．スタイルの発想はホームページなどでのタグに類似していること，スタイルの使用によって文章の統一感や手直しに有効であることを紹介し，課題作成を通じてワードのスタイル機能の新規作成，適用，保存が使えるよう演習する. | |
| 第9回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，社内報の作成を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて複数ページのレイアウト・設計方法を紹介し差し込み印刷を用いた出力と，文章のPDF演習を演習する. | |
| 第10回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，ワードのテンプレート機能を使用したパンフレットの作成を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じてテキストボックスによる自由なレイアウトと枠，背景，内部テキストの書式設定と図形の利用を演習する. | |
| 第11回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，テンプレートを離れてパンフレットの作成を題材とした課題を作成する．これは第10回の続きである.<br>課題作成を通じて画像の取り込みと縮尺の変更，トリミングを学習し，縦横比の変更を忌避する方法を紹介する．また画像の背景削除やぼかし，色味の変更などの可能や自由な配置が行う演習をする. | |
| 第12回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，ポスター制作を題材とした課題を作成する.<br>課題作成を通じて，ワードアートなどのオフィスの機能でこれまで紹介していないものを紹介し演習する. | |
| 第13回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，自由課題として，これまでの学習成果を使用した，あるいはまとめた文書を作成する.<br>他者の著作物についての敬意を払いながら自分のリソースと発想を形にする. | |
| 第14回 | 自由課題として作成した成果物を相互に提示発表しあい，相互評価を行う．発表資料の作成過程で画面のキャプチャリング，パワーポイントでの図形編集（ワードより高機能である）を演習する. | |
| 第15回 | ワードプロセッサソフトWordを使用し，スケジュール表を題材とした課題を作成する．単調で同様な項目の羅列であれば表計算ソフトを使用したほうが効率的であることを紹介し，ワードの限界と他のアプリケーションを使用したほうが良いケースを学習する.<br>発表の予備日程として，14回目に発表できなかったものの相互評価を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，「正確性」「視認性」「独自性・創意性」「紙面要素のバランス」の４項目で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，学生による相互評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。<br>各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。 |
| 受講の心得 | 演習科目のため，出席は特に重要である。 |
| 授業外学修 | 1.演習の準備として指示された素材を収集する。<br>2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要なものはプリントして配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア 専門学校教職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験をいかして，私たちの生活に密着したワードプロセッサソフトの仕組みや機能を指導する。 |

| 科目名 | 公衆衛生学 | | | 授業番号 | HG203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 公衆衛生学は，人びとを疾病から守り，健康の保持・増進をはかることを目的としており，管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲にわたっている。そのうちで，公衆衛生学Iでは，疫学，保健統計，社会保障の分野を中心に学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計，疫学，社会保障の知識を身につける。<br>・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。<br>・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 公衆衛生と健康の概念<br>「健康」・「公衆衛生」・「一次予防・二次予防・三次予防」・「ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ 」・「プライマリヘルスケア」・「ヘルスプロモーション」の定義と具体例を理解する。 | |
| 第2回 | 公衆衛生と健康の概念<br>「行動変容と意識変容」の定義，「行動変容ステージモデル」・「自己効力感」の意味と具体例を理解する。 | |
| 第3回 | 人口静態統計<br>国勢調査の概要とわが国における国勢調査の現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第4回 | 人口動態統計<br>わが国における「出生」・「死亡」・「結婚」・「離婚」の現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第5回 | 人口動態統計<br>「平均寿命」・「平均余命」・「健康寿命」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第6回 | 人口動態統計<br>「死因統計」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第7回 | 人口動態統計<br>「疾病統計」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第8回 | 社会保障と医療経済<br>わが国における社会保障制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。 | |
| 第9回 | 社会保障と医療経済<br>わが国における医療保障制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。 | |
| 第10回 | 社会保障と医療経済<br>わが国における医療保険制度と国民医療費の現状および経時的変化を理解する。 | |
| 第11回 | 地域保健<br>わが国における地域保健制度の変遷とそれに伴う法律の制定や改正を理解する。 | |
| 第12回 | 地域保健<br>健康日本21と健康増進法の概要を理解する。 | |
| 第13回 | 介護保険制度<br>わが国における介護保険制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。 | |
| 第14回 | 介護保険制度<br>わが国における介護サービスの概要とそれに関連する専門用語を理解する。 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | 意欲的な受講態度 |
| レポート | | |
| 小テスト | | 各回の主要なポイントの理解度 |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。<br>(2)復習として，授業で作成したノートを整理する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 公衆衛生がみえる2022-2023 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 9784896328585 | 3960 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習 B 生活創造･医療事務コースの学生対象 | | | 授業番号 | HG204C | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村 弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修･選択 | 必修 |
| 授業概要 | コミュニケーションの基本として，「伝える，表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や，自分の意見を適切に表現するスキルについて学び，円滑な人間関係を構築･維持するためのスキルを身につける。会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ･コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる<br>･様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている<br>･コミュニケーションにおける伝えるスキルを積極的に実生活に活かすことができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 伝えること･表現することの基本<br>伝えること･表現することの基本とは何かについて学ぶ | |
| 第2回 | 伝わらない原因を考える（1）<br>伝わらないエピソードを出し合い，分析する | |
| 第3回 | 伝わらない原因を考える（2）<br>伝わらないエピソードを出し合い，分析する | |
| 第4回 | 伝える工夫（1）<br>説明の仕方の技術を学ぶ | |
| 第5回 | 伝える工夫（2）<br>価値観の違いからくるすれ違いの克服法を考える | |
| 第6回 | 非言語的表現<br>様々な非言語的表現について学ぶ | |
| 第7回 | 書いて伝える（1）<br>書いて伝える技術を学ぶ | |
| 第8回 | 書いて伝える（2）<br>書いて伝える技術を学ぶ | |
| 第9回 | 論理的に伝える（1）<br>論理的に伝える技術を学ぶ | |
| 第10回 | 論理的に伝える（2）<br>論理的に伝える技術を学ぶ | |
| 第11回 | 図表で伝える（1）<br>図表で伝える技術を学ぶ | |
| 第12回 | 図表で伝える（2）<br>図表で伝える技術を学ぶ | |
| 第13回 | 話して伝える（1）<br>話して伝える技術を学ぶ | |
| 第14回 | 話して伝える（2）<br>話して伝える技術を学ぶ | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準･その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 課題により，授業内容の理解度･修得度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 図解「伝える」技術 ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える | 藤沢晃治 | 講談社 | 978-4062134132 | 952円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習 B 生活福祉コースの学生対象 | | | 授業番号 | HG204D | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村 弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | コミュニケーションの基本として，「伝える，表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や，自分の意見を適切に表現するスキルについて学び，円滑な人間関係を構築・維持するためのスキルを身につける。会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる<br>・様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている<br>・コミュニケーションにおける伝えるスキルを積極的に実生活に活かすことができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 伝えること・表現することの基本<br>伝えること・表現することの基本とは何かについて学ぶ | |
| 第2回 | 伝わらない原因を考える（1）<br>伝わらないエピソードを出し合い，分析する | |
| 第3回 | 伝わらない原因を考える（2）<br>伝わらないエピソードを出し合い，分析する | |
| 第4回 | 伝える工夫（1）<br>説明の仕方の技術を学ぶ | |
| 第5回 | 伝える工夫（2）<br>価値観の違いからくるすれ違いの克服法を考える | |
| 第6回 | 非言語的表現<br>様々な非言語的表現について学ぶ | |
| 第7回 | 書いて伝える（1）<br>書いて伝える技術を学ぶ | |
| 第8回 | 書いて伝える（2）<br>書いて伝える技術を学ぶ | |
| 第9回 | 論理的に伝える（1）<br>論理的に伝える技術を学ぶ | |
| 第10回 | 論理的に伝える（2）<br>論理的に伝える技術を学ぶ | |
| 第11回 | 図表で伝える（1）<br>図表で伝える技術を学ぶ | |
| 第12回 | 図表で伝える（2）<br>図表で伝える技術を学ぶ | |
| 第13回 | 話して伝える（1）<br>話して伝える技術を学ぶ | |
| 第14回 | 話して伝える（2）<br>話して伝える技術を学ぶ | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 図解「伝える」技術 ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える | 藤沢晃治 | 講談社 | 978-4062134132 | 952円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活情報演習 B 1クラス | | | 授業番号 | HG205A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 石原 信也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | マイクロソフトオフィススイートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し，ビジネス文書の作成方法を明らかにする。<br>Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知り，実務でよく使われるビジネス文書（請求書，見積書，リスト，売上報告書，名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | 課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マイクロソフト社のワード，エクセル，パワーポイントについて起動しファイル作成を行う，<br>ファイル作成を通じて3つのアプリ間の共通の機能，差異部分を紹介し，ディレクトリの移動，ファイル保存（全角・半角使用できない文字など）および課題提出の演習を行う. | |
| 第2回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて文字の入力（大きさ，色の変更，消し方），画面の拡大・縮小，セルの結合など表の作り方の基本を演習する. | |
| 第3回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて見出しの作成，色，罫線や列と行の挿入・削除，高さと幅の調整 文字位置の調整を演習する | |
| 第4回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「精算書」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてSUM関数，AVERAGE関数MAX関数，MIN関数，COUNT関数などの簡単な関数を演習し，オートフィル，コピー・切り取り・貼付けを使おう(Ctrl+C，Ctrl+X，Ctrl+V)，1つ前に戻る方法(Ctrl+Z)を演習する | |
| 第5回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予定表」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてワークシートの作成や名称の変更を演習する | |
| 第6回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「売上表」／「クロス集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてデータの並び替え，フィルターの使用を演習する | |
| 第7回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてシートとシートを跨いだ入力，集計を演習する | |
| 第8回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「申込書」／「アンケート」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてテーブルツールの使用を演習する | |
| 第9回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「推移表（棒グラフ）」／（折れ線グラフ）を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて単純なグラフ作成を演習する | |
| 第10回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，（円グラフ）／（チャートグラフ）を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてグラフ作成（行列の入れ替え，データラベルのセルからの挿入）を演習する. | |
| 第11回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予約表（マクロ）」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてマクロの有用性を学習し，同時にセキュリティ上の脅威となることを理解する. | |
| 第12回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「調査」／「名簿」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて多様な印刷機能とパスワード付の保存などファイルの特殊な保存を演習する | |
| 第13回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「一覧」／「台帳」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて表示形式，条件付き書式を演習する | |
| 第14回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「請求書」／「見積書」／「納品書」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてフラッシュフィル，重複の削除を演習する. | |
| 第15回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルとプレゼンテーションソフトパワーポイントをを使用し，目的を持ったスケジュールフォーマットの作成を行い相互に発表する．作成と発表を通じて全体を振り返り学習の穴埋め演習を行う. | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。<br>各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。 |
| 受講の心得 | 演習科目のため，出席はとくに重要である。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，授業内容にかかわる部分を参考図書，ネット（動画）等で調査し，疑問点を明らかにしておく.<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア 専門学校教職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験をいかして，私たちの生活に密着した表計算ソフトの仕組みや機能を指導する。 |

| 科目名 | 生活情報演習 B 2クラス | | | 授業番号 | HG205B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 石原 信也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | マイクロソフトオフィススイートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し，ビジネス文書の作成方法を明らかにする。<br>Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知り，実務でよく使われるビジネス文書（請求書，見積書，リスト，売上報告書，名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | 課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マイクロソフト社のワード，エクセル，パワーポイントについて起動しファイル作成を行う，<br>ファイル作成を通じて3つのアプリ間の共通の機能，差異部分を紹介し，ディレクトリの移動，ファイル保存（全角・半角使用できない文字など）および課題提出の演習を行う. | |
| 第2回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて文字の入力（大きさ，色の変更，消し方），画面の拡大・縮小，セルの結合など表の作り方の基本を演習する. | |
| 第3回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて見出しの作成，色，罫線や列と行の挿入・削除，高さと幅の調整 文字位置の調整を演習する | |
| 第4回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「精算書」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてSUM関数，AVERAGE関数MAX関数，MIN関数，COUNT関数などの簡単な関数を演習し，オートフィル，コピー・切り取り・貼付けを使おう(Ctrl+C，Ctrl+X，Ctrl+V)，1つ前に戻る方法(Ctrl+Z)を演習する | |
| 第5回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予定表」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてワークシートの作成や名称の変更を演習する | |
| 第6回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「売上表」／「クロス集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてデータの並び替え，フィルターの使用を演習する | |
| 第7回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「集計表」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてシートとシートを跨いだ入力，集計を演習する | |
| 第8回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「申込書」／「アンケート」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてテーブルツールの使用を演習する | |
| 第9回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「推移表（棒グラフ）」／（折れ線グラフ）を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて単純なグラフ作成を演習する | |
| 第10回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，（円グラフ）／（チャートグラフ）を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてグラフ作成（行列の入れ替え，データラベルのセルからの挿入）を演習する. | |
| 第11回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予約表（マクロ）」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてマクロの有用性を学習し，同時にセキュリティ上の脅威となることを理解する. | |
| 第12回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「調査」／「名簿」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて多様な印刷機能とパスワード付の保存などファイルの特殊な保存を演習する | |
| 第13回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「一覧」／「台帳」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じて表示形式，条件付き書式を演習する | |
| 第14回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「請求書」／「見積書」／「納品書」を題材としたファイルの作成を行う.<br>ファイル作成を通じてフラッシュフィル，重複の削除を演習する. | |
| 第15回 | マイクロソフト社表計算ソフトエクセルとプレゼンテーションソフトパワーポイントをを使用し，目的を持ったスケジュールフォーマットの作成を行い相互に発表する．作成と発表を通じて全体を振り返り学習の穴埋め演習を行う. | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。<br>各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。 |
| 受講の心得 | 演習科目のため，出席はとくに重要である。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，授業内容にかかわる部分を参考図書，ネット（動画）等で調査し，疑問点を明らかにしておく.<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア 専門学校教職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験をいかして，私たちの生活に密着した表計算ソフトの仕組みや機能を指導する。 |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習 C | | | 授業番号 | HG206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | コミュニケーションについて理解を深め，スキルを育むためには，「自分を知る」ことが大切である。自己理解を深めることは，自分と異なる存在である他者を理解し，互いに尊重し合うための基盤となる。この演習では，様々なワークやグループディスカッションを通じて自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる<br>・ワークやディスカッションを通じて自己理解を深めている<br>・自己理解を深め，他者への理解やコミュニケーションに活かすことができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | コミュニケーションにおける自己理解の重要性<br>絵本「ぼくを探しに」を通して，自己理解の重要性について学ぶ | |
| 第2回 | 「好き」から捉える自己について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第3回 | 自己像を描ためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第4回 | 自己肯定感を育むためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第5回 | 他者から見た自分ー心の窓について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第6回 | 自分の価値観を知るためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第7回 | 自我状態を知るーエゴグラムについて理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第8回 | 自分の感情を知るためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第9回 | 自分のストレスと対処法について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第10回 | 自分の性格を知るためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第11回 | 対人関係地図ー自分をとりまく人間関係について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第12回 | 友人関係と自分について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める | |
| 第13回 | 自分の時間を見つめなおすためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第14回 | 未来の自分を描くためのワークに取り組み，学びを深める | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・テキストや配布資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 中学生・高校生・大学生のための自己理解ワーク | 丹治光浩 | ナカニシヤ出版 | 978-4-7795-0543-0 | 1600円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活コミュニケーション演習Ｄ | | | 授業番号 | HG207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 集団や組織での問題解決，ディスカッションに関して実践的に学ぶ。具体的には，グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。<br>自分の意見を持ち，他者に分かりやすく伝える力や，他者の意見に耳を傾け，人間の考えの個人差や多様性について理解するということを体験的に学ぶ。<br>また，幅広いテーマを取り上げることを通して，豊かなコミュニケーションの素地となる教養を豊かなものにしていくことも目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・集団や組織における問題解決ついて説明できる<br>・コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解している。<br>・自分の意見を持ち，他者に伝わるように述べることができる<br>・人間の考え方の個人差や多様性を理解できる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 集団・組織におけるコミュニケーション（1）<br>ディベートのねらいと方法について学ぶ | |
| 第2回 | 集団・組織におけるコミュニケーション（2）<br>ディベートのねらいと方法について学ぶ | |
| 第3回 | 集団・組織におけるコミュニケーション（3）<br>映画を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ | |
| 第4回 | 集団・組織におけるコミュニケーション（4）<br>映画を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ | |
| 第5回 | 集団・組織におけるコミュニケーション（5）<br>コンセンサスゲームを体験し，集団・組織におけるコミュニケーションの特徴を学ぶ | |
| 第6回 | ディベート（1）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第7回 | ディベート（2）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第8回 | ディベート（3）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第9回 | ディベート（4）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第10回 | ディベート（5）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第11回 | ディベート（6）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第12回 | ディベート（7）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第13回 | ディベート（8）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第14回 | ディベート（9）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 | |
| 第15回 | 総括：学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 70 | 授業内容の理解度・修得度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | ディベートの発表内容により評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・ディベートに積極的に取り組むこと<br>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | メンタルヘルス学 | | | 授業番号 | HG208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代はストレス社会であり，ストレスは日常生活，社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため，ストレスやセルフケアに関する知識，自分に合ったストレス解消方法を身に付ける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。<br>また，この科目は「メンタルヘルス・マネジメント®検定III種」合格を目指す授業でもあり，受験申込者数が10名以上になれば団体特別試験として本学で受験することが可能になる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。<br>・自らのストレスの状況を把握できる。<br>・メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。<br>・自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メンタルヘルスの基礎知識：メンタルヘルスの基礎知識，ストレスチェック制度について理解する。 | |
| 第2回 | メンタルヘルスケアの意義：労働者のストレスの現状，メンタルヘルスケアの方針と計画について理解する。 | |
| 第3回 | ストレスの基礎知識（1）ストレスについて，ストレスによる健康障害のメカニズム，産業ストレスについて理解する。 | |
| 第4回 | ストレスの基礎知識（2）ライフサイクル，女性労働，雇用形態とストレス，ワーク・エンゲイジメントについて理解する。 | |
| 第5回 | メンタルヘルスの基礎知識：メンタルヘルスの不調，様々な精神疾患・心身症について理解する。 | |
| 第6回 | 心の健康問題の正しい態度：心の健康問題は自分とは関係ないという誤解，睡眠を削って残業をがんばるのは美徳"，その他の誤解と対策について理解する。" | |
| 第7回 | セルフケアの重要性：過重労働の健康への影響，自己保険義務，早期対処の重要性について理解する。 | |
| 第8回 | ストレスへの気づき方：注意すべきリスク要因，仕事以外のストレス，自分の変化に気づく，ストレスのセルフチェックについて理解する。 | |
| 第9回 | ストレスへの対処(1)：ストレスの軽減方法，休養・睡眠，運動・食事等，生活におけるストレス対処について理解する。 | |
| 第10回 | ストレスへの対処（2）：ソーシャルサポート，コーピングの知識について理解する。 | |
| 第11回 | ストレスへの対処（3）：コーピング活用方法について理解する。 | |
| 第12回 | 自発的な相談の有用性：コミュニケーション・スキル，話すことの意味（カウンセリングの意味），同僚のケアについて理解する。 | |
| 第13回 | 社内外資源の活用（1）：相談できるスタッフの種類と特徴，相談窓口について理解する。 | |
| 第14回 | 社内外資源の活用（2）：専門相談機関の知識，医療機関の種類と選び方，受診のポイント，治療の実際について理解する。 | |
| 第15回 | 授業のまとめ・小テスト：メンタルヘルス・マネジメント®検定III種の要点をまとめながらこれまでの授業内容の理解を深める。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題への取り組み，完成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ストレスに関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。メンタルヘルス・マネジメント®検定はストレス対策や人間関係構築の参考になり，社会的認知度が高い検定であるため，1人でも多くの受験を推奨する。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，教科書を読み返し，課題や問題演習に取り組む。<br>3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| メンタルヘルスマネジメント検定 | 大阪商工会議所 | 中央経済社 | 978-4-502-38831-6 | 2，000円 + 税 |
| メンタルヘルス・マネジメント検定試験III種セルフケアコース過去問題集 | 春日　未歩子 | 中央経済社 | | ※2023年に新刊出版の可能性あり |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ストレスに負けない技術−コーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメントーストレスを味方にする心理術(きずな出版)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合生活学セミナーA | | | 授業番号 | HG301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本セミナーでは，「食とインターネット」をテーマに演習を行う。具体的には，国立健康・栄養研究所のホームページなど有用なホームページやデータベースを利用し，世に広まる様々な食の情報の信用度について考察する授業である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | Google，Google Scholar，国立健康・栄養研究所のホームページ，「健康食品」の安全性・有効性情報（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所），厚生労働省のホームページなどの使い方を学ぶとともに，授業毎に立てられるテーマに関する情報をそれらホームページから収集する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 情報収集に対する積極性を評価する。 |
| レポート | 40 | 授業毎の収集結果を評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本セミナーは，情報端末を操作し，情報を収集する。時を無意味に過ごすことなく，情報収集の手段や情報の質の判定のために大事な時を当ててほしい。<br>スマートフォンを活用するので，本機器を所有していることが望ましい。 |
| 授業外学修 | ・普段から気にしている「食」の情報をインターネットで調べる<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合生活学セミナーB | | | 授業番号 | HG302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 心理学とは，科学的な手法と枠組みを用いて心について理解する学問である。この授業では，近年，心理学分野で注目されている「レジリエンス」についてとりあげ，文献講読を通して理解を深める。具体的には，指定テキストを分担して発表し，自由に感じたことや考えたことを述べあい，ディスカッションを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・心理学の基礎およびレジリエンスの概念について説明できる<br>・文献講読とディスカッションを通して，自分の考えを深めることができる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 科学としての心理学，文献購読の狙いと方法について説明する | |
| 第2回 | 心理学文献講読（1）レジリエンスとは<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第3回 | 心理学文献講読（2）危険因子と保護因子<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第4回 | 心理学文献講読（3）レジリエンスの測定<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第5回 | 心理学文献講読（4）レジリエンスに関連する心理特性<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第6回 | 心理学文献講読（5）臨床場面でのレジリエンス<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第7回 | 心理学文献講読（6）教育場面でのレジリエンス<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第8回 | 心理学文献講読（7）レジリエンス介入の試み<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第9回 | 心理学文献講読（8）養育とレジリエンス<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第10回 | 心理学文献講読（9）レジリエンスと人間関係<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第11回 | 心理学文献講読（10）レジリエンスとライフキャリア<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第12回 | 心理学文献講読（11）レジリエンスと身体活動・スポーツ<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第13回 | 心理学文献講読（12）レジリエンスと生涯発達<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第14回 | 心理学文献講読（13）レジリエンスと社会<br>担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う | |
| 第15回 | 総括：学んできた内容を振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な受講態度，ディスカッションへの貢献度で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 発表内容により，理解度等を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・文献講読に意欲的に取り組むこと<br>・ディスカッションに積極的に参加すること |
| 授業外学修 | ・関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| レジリエンスの心理学 | 小塩真司・平野真理・上野雄己 | 金子書房 | 978-4-7608-3834-9 | 1900円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＣ | | | 授業番号 | HG303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 石原　信也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | グラフィックソフト（Adobe Photoshop・Adobe Illustrator）にて，画像処理の効果や技術，イラスト作成方法などを学び，フリー素材を活用しながら，オリジナル名刺，オリジナルＣＤジャケットを作成後，Adobe Premiere Proにて簡単な動画編集までを学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | グラフィックソフト，動画ソフト，プレゼンテーションソフトの基本的な技法について操作ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Adobe Photoshopにていろいろな効果を楽しむ | |
| 第2回 | 着色展開（Adobe Photoshop） | |
| 第3回 | 画像処理方法（Adobe Photoshop） | |
| 第4回 | 名刺作成（Adobe Illustrator） | |
| 第5回 | ＣＤジャケット作成（Adobe Illustrator） | |
| 第6回 | ＣＤジャケット仕上げ（Adobe Illustrator） | |
| 第7回 | パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 | |
| 第8回 | パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 | |
| 第9回 | パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 | |
| 第10回 | プレゼンテーションの動画撮影 | |
| 第11回 | 動画ファイルを読み込み後，タイトルを入れる（Adobe Premiere Pro） | |
| 第12回 | 動画の分割や不要な部分を削除する（Adobe Premiere Pro） | |
| 第13回 | 音楽ファイルを読み込みBGMを設定する（Adobe Premiere Pro） | |
| 第14回 | タイトル／クレジットを入れる（Adobe Premiere Pro） | |
| 第15回 | データをＣＤ－Ｒに焼き付けてオリジナルＣＤを完成させる | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 積極的に実習に臨み各ソフトの特徴を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | ・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価基準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「倫理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常生活の中で見るポスター，ディスプレイ，チラシなどのデザインは，どのようなソフトで制作されているかを観察し，興味を持つこと。 |
| 授業外学修 | 課題に沿ったソフトの操作方法や技法などの配布資料を一読して，事前学修として知識を深めておくこと。（週1時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときに，ブランドの企画，デザインを担当していた実務経験をいかした実習を行う。 |

| 科目名 | 総合生活学セミナーD | | | 授業番号 | HG304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小築　康弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本セミナーは，世に広まるダイエット法について受講者個人及びグループで考察する授業である。ダイエット（diet）とは，本来『（通常の）食事』を表す言葉であったが，そこから次第に食餌療法・食餌制限の意味でも使われるようになった言葉である。本セミナーでは，この食餌療法・食餌制限の概念を意識し，『食事と減量』という観点から世に広まるダイエット法について考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・議論を通じて，様々なダイエット法を批判的に考察できる<br>・ダイエットに対する自身の概念を構築できる<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 毎回の授業で，ダイエット法に対する情報を理解する。複数のダイエット法を理解したのち，それら情報に基づき複数人で議論をし，ある条件に対するダイエット法をグループ等で考える。ダイエット法の情報については，原則的に教員が準備するが，受講者からの提案があれば，全員で議論した後に，採用する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 議論への積極的な参加を評価する。 |
| レポート | 40 | ダイエットに対する自身の考えを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本セミナーは，着席し，一方的に耳を傾けるという授業ではない。議論に積極的に関わることで，自身の中にダイエットに対する概念を作り出すための授業である。積極的な発言・傾聴を望む。 |
| 授業外学修 | ・数回設定する「ダイエットに対する自身の考え」に関するレポートを作成する<br>・世の中に広がる様々なダイエット法に注目し，「言われていることは本当だろうか？」と批判的に分析する<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＥ | | | 授業番号 | HG307 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤田　悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画や演出までをプロモーションする。ブライズメイドコーディネイトとは，友達どうしで，テーマを決めてドレスアップをすることで，本セミナーでは，実際に企画，演出，撮影までも行う。ファッションショーの運営企画には，演出・構成，ポスター，チラシ制作，スタイリスト，音響・映像，照明，広報，台本製作，プログラム，パンフレット制作，記録，モデル，フィッター，情報・コンピューター担当，商品管理，作品管理，衣裳作成，受付，設営，ナレーターなどと多様であるが，各自が関心のあるテーマを決めて，ポスター，台本制作，設営イメージ，音響企画，進行イメージマップを作成し，ファッションショーのイメージを企画，プランニングする。企画書やイメージマップの制作は，Adobe Photoshopにて，イメージを形にしてビジュアル表現までを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画と手順を理解しプロモーションすることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの基本 | |
| 第2回 | ターゲット設定・サブテーマ，コンセプト設定後，ブライズメイドコーディネイトで着用する衣装を検討 | |
| 第3回 | デザインアイテム，カラー展開，企画書作成 | |
| 第4回 | 演出設定とファッションショーの企画，ポスターの写真撮影 | |
| 第5回 | イメージポスターの制作 | |
| 第6回 | ファッションショーイメージをマップ表現 | |
| 第7回 | ハンガーイラストにてコーディネート展開 | |
| 第8回 | スタイリングイメージマップの作成 | |
| 第9回 | 舞台構成（平面図の作成） | |
| 第10回 | ウォーキング構成 | |
| 第11回 | ＢＧＭ選択 | |
| 第12回 | ナレーション文章作成 | |
| 第13回 | ブライズメイドコーディネイトのプロモーション展開とシミュレーションファッションショーの準備 | |
| 第14回 | ブライズメイドコーディネイトとシミュレーションファッションショーを音楽ホールにて開催 | |
| 第15回 | 動画編集（Adobe Premiere Pro）にてプレゼンテーション | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | ブライズメイドコーディネイトとファッションショーのプランニングにおける制作意図を理解し，積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 制作物については，ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画イメージマップをイメージ通りに表現することができているか。企画・デザイン・演出・舞台等のプロセスを構成し，プロデュース力・企画力・独創性の3点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | インターネット，ファッション雑誌などの各メディアを参考にして，企画したいブライズメイドコーディネイトやファッションショーをイメージしておくこと。 |
| 授業外学修 | 事前学修として，課題に沿った，ブライズメイドコーディネイト，ファッションショー提案について，メディアの情報を参考に，週当たり１時間以上，イメージトレーニングをしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画，イベント企画，ファッションショー運営企画の実務経験をいかした実習を行う。 |

| 科目名 | 特別研究 | | | 授業番号 | HG401 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ、韓　在都、森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本講義では，実習中の利用者との関わりを研究テーマとし，介護過程の手法を用い利用者の課題解決に向けて調査・研究を行う力を身につける。<br>実習中の事例をまとめ，他者にわかりやすく報告することができる力を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)生活困難者の課題を多角的に判断し，分析することで問題の解決能力を応用できる。<br>(2)介護過程を理解することができる。<br>(3)「福祉」に関する課題について多面的・多角的に調査し説明できる。<br>(4)他者へ自分の意見を説明することができる。<br>(5) 研究成果をまとめ，表現することが実行できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | (1)オリエンテーション・事例事例研究とは何かを説明し，研究の進め方を理解する。 | 中野 |
| 第2回 | (2)事例研究とは何かを説明し，研究の進め方・準備の方法を理解する。 | 中野 |
| 第3回 | (1)図書館の活用法・文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その1 | 中野 |
| 第4回 | (2)図書館の活用法・文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その2 | 中野 |
| 第5回 | 事例研究テーマの検討・データ収集の注意点などを学ぶ。<br>※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第6回 | (1)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>事例研究の開始し，自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第7回 | (2)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第8回 | (3)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第9回 | (4)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第10回 | (5)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第11回 | (6)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第12回 | (7)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第13回 | (8)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第14回 | (9)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第15回 | (10)文献調査・事例研究の方法を理解する。<br>自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 中間発表を行い，事例研究内容再検討の方法を理解する。 | 中野　森田　韓 |
| 第17回 | 要旨の作成を理解する。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第18回 | (1)要旨の添削・ディスカッションを行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第19回 | (2)要旨の添削・ディスカッションを行う。※各担当教員の指導<br>要旨の提出について理解する。 | 中野　森田　韓 |
| 第20回 | 事例研究発表会（プレゼンテーション）の資料の作成を理解する。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第21回 | 事例研究発表会（プレゼンテーション）の添削・修正を理解する。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第22回 | 事例研究発表会（プレゼンテーション）の提出方法を理解する。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第23回 | 事例研究発表会の発表練習を行う。 | 中野　森田　韓 |
| 第24回 | 事例研究発表会の準備を行う。 | 中野　森田　韓 |
| 第25回 | 事例研究発表会のリハーサルを行う。 | 中野　森田　韓 |
| 第26回 | (1)事例研究発表会(本番)を行う。 | 中野　森田　韓 |
| 第27回 | (2)事例研究発表会(本番)を行う。 | 中野　森田　韓 |
| 第28回 | (1)事例研究論文まとめ・修正を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第29回 | (2)事例研究論文まとめ・修正を行う。※各担当教員の指導 | 中野　森田　韓 |
| 第30回 | 事例研究論文提出を行う。 | 中野　森田　韓 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 自分が取り上げた研究内容を文献などを用いまとめる努力しているか評価する。 |
| レポート | 30 | 研究内容が明確であるか，科学的視点やエビデンスに基づいた論文作成が出来ているか評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 自分の意見を他者に的確に述べるための努力をしているか，また発表資料が適切にまとめられているか，発表態度及びプレゼンテーション資料の完成度によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ・評価の方法：発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに，質疑応答に対応できる。<br>・「特別研究発表会」でのプレゼンテーションを必須とする。<br>・研究へ臨む姿勢，取り組み・研究内容・発表方法（プレゼンテーション含む）にて評価する。<br>・論文作成（4～10ページほど）を提出後，評価する。<br>・結果の報告に関しては，研究発表会におけるプレゼンテーションおよび修了研究論文の提出を行うことで評価をする。 |
| 受講の心得 | ・担当教員により，各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来るよう学生は毎回の研究目標をしっかり持ち，臨むこと。<br>・実習IIの介護過程実践のまとめとなります。<br>・実習での情報収集を的確におこなうことが重要です。また，介護過程I～IIIまでを再度振り返り研究成果としてまとめられるようにしてください。 |
| 授業外学修 | 1週間に週間に8時間以上の研究・調査等の活動を要する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ・使用テキストの指定はないが担当教員の指示をうけること。<br>・自分に研究に必要な文献検索や本を図書館などを適宜活用しながらを進めていく。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | ・研究成果や論文をまとめるにあたり，授業外での活動も自分自身で調整しながら行っていく必要があります。<br>・研究を進めるにあたり，必ず担当教員と連絡を行いながら進めていくこと。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 看護師・社会福祉士・介護支援専門員（中野ひとみ），介護職員・訪問介護員（韓在都） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 中野：医療現場や福祉施設での経験を活かして，現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。<br>名定：高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。<br>韓　：高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | 診療報酬請求事務Ⅰ | | | 授業番号 | HM101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習Ⅰ」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬制度の仕組みが理解できる。<br>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法をさらに深めて理解する。 | |
| 第2回 | 医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について理解する。 | |
| 第3回 | 投薬料（1）：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について理解する。 | |
| 第4回 | 投薬料（2）：特定疾患処方管理加算，麻毒加算が入った投薬料の算定方法について理解する。 | |
| 第5回 | 注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について理解する。 | |
| 第6回 | 外来レセプト作成説明（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第7回 | 検査料(1)検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について理解する。 | |
| 第8回 | 検査料(2)検体検査（生化学，免疫学）：検体検査の生化学的検査，免疫学的検査の算定方法について理解する。 | |
| 第9回 | 検査料(3)生体検査：心電図，超音波検査といった生体検査の算定方法について理解する。 | |
| 第10回 | 画像診断料：X-P，CT，MRIの画像診断の算定方法について理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成説明（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第12回 | 処置料，手術料：処置と手術の算定方法について理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成説明（3）：処置，手術の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第14回 | 院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療報酬・完全攻略マニュアル 2023年4月補訂版 | 青山 美智子 | 医学通信社 | 978-4-87058-922-3 | 2，800円 + 税 |
| 診療報酬・完全マスタードリル 2023年版 | 内芝 修子 | 医学通信社 | 978-4-87058-915-5 | 1，200円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 診療点数早見表(医学通信社) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能を指導する。 |

| 科目名 | 診療報酬請求事務演習Ⅰ | | | 授業番号 | HM102 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務I」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬制度の仕組みが理解できる。<br>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法について演習問題を解きながらさらに深めて理解する。 | |
| 第2回 | 医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第3回 | 投薬料（1）：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第4回 | 投薬料（2）：特定疾患処方管理加算，麻毒加算が入った投薬料の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第5回 | 注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第6回 | 外来レセプト作成演習（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第7回 | 検査料(1)検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第8回 | 検査料(2)検体検査（生化学，免疫学）：検体検査の生化学的検査，免疫学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第9回 | 検査料(3)生体検査：心電図，超音波検査といった生体検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第10回 | 画像診断料：X-P，CT，MRIの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成演習（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第12回 | 処置料，手術料：処置と手術の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成演習（3）：処置，手術の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第14回 | 院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療報酬・完全攻略マニュアル 2023年4月補訂版 | 青山 美智子 | 医学通信社 | 978-4-87058-922-3 | 2，800円 + 税 |
| 診療報酬・完全マスタードリル 2023年版 | 内芝 修子 | 医学通信社 | 978-4-87058-915-5 | 1，200円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 診療点数早見表(医学通信社) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能を指導する。 |

| 科目名 | 医事コンピュータ演習Ⅰ | | | 授業番号 | HM103 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　智子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して外来における患者登録，レセプト作成，医事統計等の医事業務の基本を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 医事コンピュータ技能検定２級・３級を目指し，コンピュータを利用した医事業務の基礎知識を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 日医標準レセプトソフト（オルカ）について<br>当該システムの基本動作<br>医療制度の概要 | |
| 第2回 | 患者登録業務(基本情報・公費) | |
| 第3回 | 診療行為入力フロー | |
| 第4回 | 診療行為入力業務（診察・投薬・注射） | |
| 第5回 | カルテ入力演習（訂正・前回同の入力）<br>病名登録 | |
| 第6回 | 診療行為入力業務（処置・手術） | |
| 第7回 | 診療行為入力業務（検査） | |
| 第8回 | 院外処方せん，請求領収書，カルテ等帳票の発行 | |
| 第9回 | 診療行為入力業務(画像・その他) | |
| 第10回 | カルテ入力演習(保険追加・同日併科) | |
| 第11回 | セット登録，自費登録および入力 | |
| 第12回 | カルテ入力演習 | |
| 第13回 | 予約登録<br>その他の日常業務 | |
| 第14回 | 保険請求業務<br>統計業務 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 学修した範囲のｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作ができているかを評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 診療報酬請求事務について理解し，正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療所・病院への就職を希望する者は，最強の武器となるので，積極的にチャレンジする。<br>予習・復習を心がけること。 |
| 授業外学修 | 不定期に小テストを行うので，授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書＜外来版＞（Ver5.0.0）3300円 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 日医IT認定インストラクター，電子カルテシステム及びレセプトコンピューターインストラクター，病院における医療事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する。 |

| 科目名 | 医療管理事務総論 | | | 授業番号 | HM201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 医療機関の特徴，医療機関で働く職員の職種とその業務内容，医療の法律，診療報酬制度について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。医療事務コース選抜に関わる科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。<br>・医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。<br>・診療報酬制度の基礎について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療の歴史，健康管理：医療の歴史を通して健康管理，疾病予防の基礎知識を理解する。 | |
| 第2回 | 病院の組織と医療スタッフ（1）：医師，看護師，コメディカルといった医療従事者の種類，業務内容を理解する。 | |
| 第3回 | 病院の組織と医療スタッフ（2）：医療事務，医療機関における様々な事務職員の業務内容を理解する。 | |
| 第4回 | 医療機関の種類：病院と診療所について，かかりつけ医制度について理解する。 | |
| 第5回 | 多職種連携と地域包括ケアシステム：在宅医療を例に紹介した医療職種の連携，地域包括ケアシステムについて理解する。 | |
| 第6回 | 医療保険制度（1）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった保険の種類について理解する。 | |
| 第7回 | 医療保険制度（2）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった各保険の特徴について理解する。 | |
| 第8回 | 公費負担医療制度：生活保護法，感染症法，精神保健福祉法，労働者災害補償保険法といった法について理解する。 | |
| 第9回 | 保健医療機関と保険医：保健医療を行う保健医療機関と医師，指定や登録，施設基準について理解する。 | |
| 第10回 | 療養担当規則：保険診療の方針と診療録作成，保健医療機関の責務について理解する。 | |
| 第11回 | 診療報酬請求と審査制度（1）：保険診療のしくみ，診療報酬請求と審査制度について理解する。 | |
| 第12回 | 診療報酬請求と審査制度（2）：診療報酬の審査制度について理解する。 | |
| 第13回 | 医療関連法規：医療法，医師法，保健師助産師看護師法，介護保険法について理解する。 | |
| 第14回 | 診療報酬制度（1）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の定義について理解する。 | |
| 第15回 | 診療報酬制度（2）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の算定の流れについて理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。<br>3. 医療に関わる新聞記事を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保険診療　基本法令テキストブック　医科　令和5年4月版　医療保険制度の概要と関係法令 | 社会保険研究所 | 社会保険研究所 | 978-4-7894-0905-6 | 2，400円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画)　よくわかる 図解 病院の学習書（ロギカ書房）　マンガでやさしくわかる病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.1（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.2（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.3（SCICUS） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関の事務職員として多職種と連携して業務を行ってきた経験を活かして指導する。 |

| 科目名 | 秘書学 | | | 授業番号 | HM202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。<br>2年生後期の「接遇演習」を履修する学生は，本科目の単位取得と成績が履修条件になる。医療事務コース選抜に関わる科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。<br>・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎を学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ビジネスマナーの基礎（1）：社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。 | |
| 第2回 | ビジネスマナーの基礎（2）：社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。 | |
| 第3回 | 秘書業務の基本：秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。 | |
| 第4回 | 話し方・電話応対の実際：好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。 | |
| 第5回 | 秘書に必要とされる資質（1）：後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。 | |
| 第6回 | 秘書に必要とされる資質（2）：上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。 | |
| 第7回 | 職務知識（1）：補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。 | |
| 第8回 | 職務知識（2）：電子メール，秘書の定型業務，資料と部署の関係，印鑑の扱い，複数の業務の依頼を受ける場合について理解する。 | |
| 第9回 | 秘書のマナー・接遇：弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。 | |
| 第10回 | 秘書の技能（1）：郵送，書類の分類方法，時候の挨拶，ビジネス文書について理解する。 | |
| 第11回 | 秘書の技能（2）：社交文書，自分側と相手側の呼び方，表書きについて理解する。 | |
| 第12回 | 秘書の技能（3）：社内文書，社外文書，慣用句，上書き，グラフ作成について理解する。 | |
| 第13回 | 医療機関を事例にした接遇（1）：あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかい，電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。 | |
| 第14回 | 医療機関を事例にした接遇（2）：感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかい，クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。 | |
| 第15回 | 授業の振り返り：これまでの授業内容，秘書検定の問題を通して社会人としての一般常識，接遇応対について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 試験は持込不可である。 |
| 受講の心得 | 仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。 |
| 授業外学修 | 1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。<br>2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本 | 佐藤 一明 | KADOKAWA/中経出版 | 978-4046041029 | 1，400 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会）　秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会）　マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ）　秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社）　秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）　ホスピタルコンシェルジュの事例紹介（DVD：金田病院提供） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療事務の受付・会計における患者接遇経験をもとに指導する。 |

| 科目名 | 医療情報管理論 | | | 授業番号 | HM203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 医療機関での医療情報の管理が重要視されている。また，情報技術の発展に伴い，医療情報システムを導入，運用している医療機関が多くなっている。本講義では，医療情報の管理，活用方法，統計，情報技術の医療分野への関わりといった業務内容について学ぶ。医療情報に携わる職員として情報セキュリティ，個人情報保護も考えていく。本科目を履修する要件として，前期の医療管理事務総論の単位を取得しておくこと。医療事務コース選抜に関わる科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・医療情報を管理することの重要性を理解できる。<br>・個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしない意識を身に付ける。<br>・情報技術，情報セキュリティ対策を身に付ける。<br>・電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解できる。<br>・統計指標の意味がわかり，グラフの特徴を理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療制度と医療関連法規（1）:医療情報について学ぶ意義，医療関連法規について理解する。 | |
| 第2回 | 医療制度と医療関連法規（2）：健康指標と予防医学の活動，救急医療と災害医療について理解する。 | |
| 第3回 | 病院業務と病院の運営管理（1）病院における診療体制と業務，診療の過程，病院の運営と管理，臨床指標について理解する。 | |
| 第4回 | 病院業務と病院の運営管理（2）安全適切な医療，医療安全とコミュニケーションについて理解する。 | |
| 第5回 | 医療情報の特性と医療の情報倫理（1）診療記録の種類と保存期間，医療情報の特性と利用について理解する。 | |
| 第6回 | 医療情報の特性と医療の情報倫理（2）医の倫理，医療の情報倫理，個人情報保護について理解する。 | |
| 第7回 | 医療情報の特性と医療の情報倫理（3）医療現場での個人情報保護，情報の取り扱いの注意点について理解する。 | |
| 第8回 | 医療情報の特性と医療の情報倫理（4）医療現場での個人情報保護，情報漏洩経路と注意点，人的対策について理解する。 | |
| 第9回 | 情報システムの基盤技術（1）情報セキュリティの要素，情報セキュリティの対象，技術的脅威について理解する。 | |
| 第10回 | 情報システムの基盤技術（2）情報セキュリティの技術的脅威，技術的対策，ユーザ管理について理解する。 | |
| 第11回 | 医療情報システムの構成と機能（1）病院情報システムの概要，全体にかかわるシステム，部門システムについて理解する。 | |
| 第12回 | 医療情報システムの構成と機能（2）地域医療情報システムと保健福祉情報システムについて理解する。 | |
| 第13回 | 医療情報システムの構成と機能（3）遠隔医療，電子保存3基準，医療情報システムのガイドラインについて理解する。 | |
| 第14回 | 医療情報の標準化と活用（1）医療情報の標準化，データの尺度と性質，図示による記述について理解する。 | |
| 第15回 | 医療情報の標準化と活用（2）データの基本統計量，推測統計学の基礎，分析事例について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 記録の重要性，統計，個人情報保護，情報システム，情報セキュリティ，安全管理の知識は，医療事務のみならず，社会人として知っておくべきであるため，社会人の一般常識のつもりで理解に努める。テキスト，講義資料のみならず，インターネットで閲覧可能な厚生労働省のガイドラインを読む。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分，関連する記事，文献等を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 医療情報の基礎知識　改訂第2版 | 一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会 | 南江堂 | 978-4-524-24993-0 | 2，600円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 医療･介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン　「映像で知る情報セキュリティ」（DVD：情報処理推進機構）　「医療向け個人情報保護法対策」（DVD：東邦薬品）　医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 4.2 版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，レセプトデータ集計，DPCデータ分析，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。 |

| 科目名 | 診療報酬請求事務Ⅱ | | | 授業番号 | HM204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習II」も履修すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬における入院の算定方法を理解できる。<br>・診療報酬明細書（外来）（入院）を作成できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 入院料（1）：入院料，食事療養費の算定方法について理解する。 | |
| 第2回 | 入院料（2）：加算項目の入った入院料の算定方法について理解する。 | |
| 第3回 | 入院レセプト作成：診療行為，食事療養費の入った入院レセプト作成方法について理解する。 | |
| 第4回 | 入院関係診療行為：手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定方法について理解する。 | |
| 第5回 | 入院レセプト作成問題説明（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第6回 | 入院レセプト作成問題説明（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第7回 | 入院レセプト作成問題説明（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第8回 | 入院レセプト作成問題説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第9回 | 入院レセプト作成問題説明（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第10回 | 入院レセプト作成問題説明（6）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成問題説明（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。 | |
| 第12回 | 外来レセプト作成問題説明（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成問題説明（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。 | |
| 第14回 | 外来レセプト作成問題説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成問題説明（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 受講態度，課題への取り組み，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 85 | 総合的な理解度で評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。7月，12月に実施される診療報酬請求事務能力認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療点数早見表　2023年4月増補版 | 医学通信社 | 医学通信社 | 978-4-87058-925-4 | 4，500円 + 税 |
| 医療事務診療報酬請求事務能力認定試験〈医科〉合格テキスト＆問題集　2023年版 | 森岡浩美 | 日本能率協会マネジメントセンター | 未定 | 未定 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料<br><br>7月，12月に実施される診療報酬請求能力認定試験を受験する学生は，以下のテキストの購入も推奨する。<br>最新　医療関連法の完全知識　2023年版<br>～これだけは知っておきたい医療実務102法～<br>望月稔之／並木洋／小笠原一志　著<br>2023年04月 刊行予定<br>3，200円 + 税<br>978-4-87058-923-0 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能をいかして指導する。 |

| 科目名 | 医事コンピュータ演習Ⅱ | | | 授業番号 | HM205 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　智子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して有床診療所における入院レセプト作成を中心に医事コンピュータ業務の実際を修得する。<br>また，外来については，難易度の高い診療内容の処理に対応する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 医事コンピュータ技能検定２級・３級に合格できる知識・技術がある。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 外来入力業務の復習 | |
| 第2回 | 外来カルテ入力（指導料・在宅医療） | |
| 第3回 | 外来カルテ入力演習（保険変更，自由診療，保険外項目など） | |
| 第4回 | 公費負担医療の請求業務（生活保護，原爆医療，自立支援法，難病など） | |
| 第5回 | 岡山県福祉医療の請求業務（乳幼児医療，障害者医療，ひとり親医療など） | |
| 第6回 | 外来予約業務（診療予約，検査予約，健診予約など） | |
| 第7回 | 入院業務について（入院登録） | |
| 第8回 | 入院カルテ入力（１） | |
| 第9回 | 入院カルテ入力（２） | |
| 第10回 | 入院カルテ入力（３） | |
| 第11回 | 入院カルテ入力演習退院処理，転棟・転室処理，入院定期請求 | |
| 第12回 | 入院カルテ入力演習 | |
| 第13回 | レセプト業務（データチェックの活用，返戻レセプト・月遅れレセプト処理など） | |
| 第14回 | 統計業務（各種帳票の発行） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 学修した範囲のｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作ができているかを評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 診療報酬請求事務について理解し、正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療所・病院への就職を希望する者は，最強の武器となるので，積極的にチャレンジする。<br>予習・復習を心がけること。<br>医療事務コースを専攻する者は，必ず受講すること。 |
| 授業外学修 | 不定期に小テストを行うので，授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり１時間以上復習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書 <外来版> （Ver5.0.0）<br>［入院版］基本操作説明書 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 日医IT認定インストラクター，電子カルテシステム及びレセプトコンピューターインストラクター，病院における医療事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する |

| 科目名 | 診療報酬請求事務演習Ⅱ | | | 授業番号 | HM301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務II」も履修すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬における入院の算定技能を理解できる。<br>・診療報酬明細書（外来）（入院）を作成できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 入院料（1）：入院料，食事療養費の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第2回 | 入院料（2）：加算項目の入った入院料の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第3回 | 入院レセプト作成：診療行為，食事療養費の入った入院レセプトの算定に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第4回 | 入院関係診療行為：手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第5回 | 入院レセプト作成問題演習（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第6回 | 入院レセプト作成問題演習（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第7回 | 入院レセプト作成問題演習（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第8回 | 入院レセプト作成問題演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第9回 | 入院レセプト作成問題演習（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第10回 | 入院レセプト作成問題演習（6）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成問題演習（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第12回 | 外来レセプト作成問題演習（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成問題演習（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第14回 | 外来レセプト作成問題演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成問題演習（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 受講態度，課題への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 85 | 総合的な理解度で評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。7月，12月に実施される診療報酬請求事務能力認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療点数早見表　2023年4月増補版 | 医学通信社 | 医学通信社 | 978-4-87058-925-4 | 4，500円 + 税 |
| 医療事務診療報酬請求事務能力認定試験(医科)合格テキスト＆問題集　2023年版 | 森岡浩美 | 日本能率協会マネジメントセンター | 未定 | 未定 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料<br><br>7月，12月に実施される診療報酬請求能力認定試験を受験する学生は，以下のテキストの購入も推奨する。<br><br>最新　医療関連法の完全知識　2023年版<br>～これだけは知っておきたい医療実務102法～<br>望月稔之／並木洋／小笠原一志　著<br>2023年04月 刊行予定 3，200円 + 税<br>978-4-87058-923-0 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能をいかして指導する。 |

| 科目名 | 医療機関実習 | | | 授業番号 | HM302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 医療事務コースの学生に対し，医療機関における就職能力向上を目的として本授業を展開する。筆記試験対策，履歴書欄にある得意科目，学生時代にがんばったこと，長所短所，自己PR，志望動機の書き方の指導，学生同士で面接官と受験者の役になって面接試験練習といった医療事務として就職するために必要なことを学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・医療事務として就職するために相手が読みやすく，働くイメージがしやすい履歴書を書くことができる。<br>・医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療機関への就職活動について（1）：医療事務の就職活動において求人の探し方，就職試験の出題傾向について理解する。 | |
| 第2回 | 医療機関への就職活動について（2）：医療事務の就職活動において就職試験の流れ，どのような人材が求められるかを理解する。 | |
| 第3回 | 履歴書の書き方（1）：履歴書の「得意な科目」「研究課題」の書き方について学び，書く練習を行う。 | |
| 第4回 | 履歴書の書き方（2）：履歴書の「学生時代に力を入れたこと」の書き方について学び，書く練習を行う。 | |
| 第5回 | 履歴書の書き方（3）：履歴書の「自己PR」の書き方について学び，書く練習を行う。 | |
| 第6回 | 履歴書の書き方（4）：履歴書の「長所短所」の書き方について学び，書く練習を行う。 | |
| 第7回 | 履歴書の書き方（5）：履歴書の「志望動機」の書き方について学び，書く練習を行う。 | |
| 第8回 | 履歴書の書き方（6）：履歴書の書き方で学んできたことを総合的に意識しながら書く練習を行う。 | |
| 第9回 | 面接試験対策（1）：個人面接試験について「面接試験でした方が良い姿勢，相槌，うなずき等」を学んで意識しながら練習を行う。 | |
| 第10回 | 面接試験対策（2）：個人面接試験について「面接試験でやってはいけない言動」を学んで意識しながら練習を行う。 | |
| 第11回 | 面接試験対策（3）：個人面接試験について「会話回数を増やすこと」を学んで意識しながら練習を行う。 | |
| 第12回 | 面接試験対策（4）：個人面接試験について「答えにくそうな質問」を取り入れて質問し，練習を行う。 | |
| 第13回 | 面接試験対策（5）：個人面接試験について自己PR，志望動機を伝えることを意識し，練習を行う。 | |
| 第14回 | 面接試験対策（6）：集団面接試験について学び，練習を行う。 | |
| 第15回 | 授業のまとめ：就職して「長く活躍し続ける人材」について考え，就職に対する意識を高める。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な態度・取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 自由記載に述べる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価の方法5<br>【履歴書の完成度：30%】<br>履歴書欄にある得意科目，学生時代にがんばったこと，長所短所，自己PR，志望動機といった項目に関して，学んだことを理解して記述できているかを評価する。<br><br>【面接試験練習での受け答え：40%】<br>社会人として望ましい姿勢や態度で面接練習ができているか，面接官の質問をよく聴いて答えているか，就職したい熱意を伝えられているか等を評価する。 |
| 受講の心得 | 医療機関の就職試験は一般企業より遅い傾向にはあるが，就職への意識を早めに持って動かないと希望の医療機関への内定は厳しいと意識しておくこと。自分でもしっかり医療機関の求人を調べ，どのような試験があるかを把握し，対策をしておくこと。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 就活ガイドBOOK，講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関の事務職員採用試験で就職活動をしてきた経験全般をいかして指導する。 |

| 科目名 | 医療事務情報演習 | | | 授業番号 | HM303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 医療事務職員として必要だと思われるWord，Excel，PowerPointの機能について演習を行う。医事コンピュータORCAを用いて，分院設定機能を利用して同一システムを複数の医療機関で使用し，施設基準や病棟管理設定を各自で行う。複雑な外来・入院のレセプトを作成して診療報酬算定の知識を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作ができる。<br>・多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。<br>・医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療ビジネス文書の作成(1)：Wordの文字や表の挿入を用いて診療診療情報提供書（紹介状）を作成する。 | |
| 第2回 | 医療ビジネス文書の作成(2)：図表，文字の装飾機能を用いて患者さんにわかりやすい休診日掲示物の作成をする。 | |
| 第3回 | 医療ビジネス文書の作成(3)：メール文章を作成し，社会人としてのメールの書き方を理解する。 | |
| 第4回 | 院内発表資料作成練習(1)：医療，健康において関心のあるテーマを選びプレゼンテーション資料を作成する。 | |
| 第5回 | 院内発表資料作成練習(2)：医療，健康において関心のあるテーマを選びプレゼンテーション資料を作成する。 | |
| 第6回 | 医療データを用いた分析(1)：患者数データを用いて関数，図表で分析し，そのデータが意味することを考える。 | |
| 第7回 | 医療データを用いた分析(2)：アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ヒストグラムを作成する方法を学ぶ。 | |
| 第8回 | 医療データを用いた分析(3)：アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ピボットテーブルを作成する方法を学ぶ。 | |
| 第9回 | 病院の施設基準　診療コード入力：医事コンピュータORCAを用いて，診療行為のコード入力設定の方法を学ぶ。 | |
| 第10回 | 外来レセプト作成(1)：医事コンピュータORCAを用いて外来レセプトを作成する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成(2)：医事コンピュータORCAを用いて外来レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。 | |
| 第12回 | 病院の施設基準設定，病棟設定：医事コンピュータORCAを用いてマスタを編集し，施設設定，病棟病室設定の方法を学ぶ。 | |
| 第13回 | 入院レセプト作成(1)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。 | |
| 第14回 | 入院レセプト作成(2)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。 | |
| 第15回 | 入院レセプト作成(3)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 提出する文書や図表，レセプト課題の完成度で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 医療事務の仕事をする上で必要なパソコンを用いた演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。Word，Excel，PowerPointを仕事で使えるようにする意識を持つこと。複雑なレセプトを作成するため，ORCAの使用方法に加え，診療報酬請求事務の理解も努めること。 |
| 授業外学修 | 1. ORCAのマニュアル，診療報酬請求事務の教科書を読んで，予習・復習する。<br>2. レセプト作成で出てきた診療行為は診療報酬のテキストで調べておく。<br>3. パソコンの操作練習をする。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 日医標準レセプトソフト（ORCA）　基本操作説明書（外来版） | 日本医師会総合政策研究機構 | 日本医師会総合政策研究機構 | なし | 3，000円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | [入院版]基本操作説明書(簡易版)　診療報酬請求の実務　診療報酬請求演習 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 日医標準レセプトソフト　外来版操作マニュアル　日医標準レセプトソフト　入院版操作マニュアル　医事コンピュータ技能検定問題集3級(1)（つちや書店）　医事コンピュータ技能検定問題集3級(2)（つちや書店）　医療ビジネス文書実例集（経営書院） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療事務の受付・会計，データ分析，医療におけるビジネス文書，院内員外発表資料作成等の経験をいかして指導する。 |

| 科目名 | 接遇演習 | | | 授業番号 | HM304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | サービス業への就職を希望する学生が多い中，自ら接遇を練習する機会を増やすことが望まれる。接遇を練習することで，実際の仕事においても言葉，表情，態度に出るようになる。受付役と来客役，電話をかける役と受ける役等，実際に接遇を練習するため，グループワークが多い。<br>学生の希望に応じて一般企業と医療事務でグループに分かれて演習を行うこともある。本科目の履修要件は「秘書学」「ホスピタリティ論」のGPA2.5以上を満たすことである。医療事務の接遇を学びたい学生は，医療用語や診療報酬の説明をする練習も行うので，「医療管理事務総論」，「診療報酬請求事務I」，「診療報酬請求事務演習I」の単位を取得しておくこと。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。<br>・顧客・患者応対における接遇を理解している。<br>・医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，患者様に説明することができる。<br>・笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | サービスマインド・敬語の練習：ホスピタリティ，接遇，敬語について理解を深める。 | |
| 第2回 | チームワークの重要性・敬語の練習：社会人として働くためにチームワークの重要性を理解する。敬語を正しく使えるように練習する。 | |
| 第3回 | 接遇マナーの基本（1）・報告応対の練習：社会人として就業中マナーを理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対ができるようにする | |
| 第4回 | 接遇マナーの基本（2）・報告応対の練習：顧客患者に対して安心感を与える印象について理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対ができるようにする。 | |
| 第5回 | 接遇マナーの基本（3）・感動接客：信頼関係を築く言葉づかい，顧客を感動させる接客について理解する。 | |
| 第6回 | 接遇マナーの基本（4）・感動接客：事例を通して顧客を感動させる接客について理解する。 | |
| 第7回 | 接遇マナーの基本（5）・電話練習：安心感を与える電話の受け方，好印象を与える電話のかけ方について理解する。電話応対の練習を行う。 | |
| 第8回 | 接遇マナーの基本（6）・電話練習：社会人として15秒で決まる電話応対について理解する。電話応対の練習を行う。 | |
| 第9回 | コミュニケーションの基本と応用：人間関係とコミュニケーション，社会人に必要なコミュニケーションスキル，クレーム対応について理解する。 | |
| 第10回 | 窓口応対・タイプ別応対：受付・会計窓口での応対，患者のご家族への応対について理解する。 | |
| 第11回 | 心のケア：ストレスに気づく，心と身体，心のセルフケア，身体のセルフケアについて理解する。 | |
| 第12回 | 接遇練習(1)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。 | |
| 第13回 | 接遇練習(2)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。 | |
| 第14回 | 接遇練習(3)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。 | |
| 第15回 | 実技テスト：接遇の実践テストを行う（スーツ着用）。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度や演習への取り組みで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 実践テストの取り組み，応対を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 課題への取り組み，完成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業への取り組みの姿勢／態度は高い基準を求める。姿勢，言葉遣い，お辞儀の角度，意識して受講すること。 |
| 受講の心得 | 授業態度に厳しい科目であるため，新入職員研修を受けるつもりで臨むこと。お客様・患者様を満足させる接遇を心がけ，日ごろから身だしなみ，言葉遣い，姿勢に気を配る。テキストの種類は医療接遇であるが，一般企業の接遇にも活用できる内容が多いので，接遇能力を高めたい学生は履修することを推奨する。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，教科書を読んで復習し，演習問題を解く。<br>3. 日常会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 医療に従事する人のための 改訂版 患者接遇マナー基本テキスト | 田中 千恵子 | 日本能率協会マネジメントセンター | 978-4820759539 | 1，800円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料配布。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | らくらく合格サービス接遇検定２級＋準1級集中レッスン＆問題集（ナツメ社）　DVDで学ぶできる人のビジネスマナー(DVD：西東社)　秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関の受付・会計業務，患者接遇の経験をいかして指導する。 |

| 科目名 | ファッションと生活 | | | 授業番号 | HT101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 能登原　英代 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ファッション製品の代表である衣服が生活においてどのような意味を持ち，どのように関係しているのかを学び，「ファッションの社会的役割」や「ファッション生活全般」について考える。プロジェクターを利用して画像や映像を用いることで，わかりやすく解説し，授業を進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ファッション製品の設計，流行，歴史，選択，購入，管理や素材を判別することなど，ファッション製品についての基本的な知識を持ち，快適なファッション生活ができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人はどうして服を着るのか | |
| 第2回 | 生活を変える装い | |
| 第3回 | 誰でも簡単にできる服作り | |
| 第4回 | 服装の流行とファッション業界の裏側 | |
| 第5回 | 日本の服装の歴史 | |
| 第6回 | 制服の歴史から見えるファッションとの関係 | |
| 第7回 | 新素材や日本の繊維産地 | |
| 第8回 | 快適な衣服を作る技術 | |
| 第9回 | ファッション生活とブランド戦略 | |
| 第10回 | 世界の王室のファッションワードローブ | |
| 第11回 | 衣服の衛生と管理 | |
| 第12回 | 衣料品の再利用とフリマアプリ | |
| 第13回 | 演出服としてのウェディングドレス | |
| 第14回 | 着心地と素材 | |
| 第15回 | 環境・人権に考慮したファッション | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 各講義の振り返りワークシートの提出内容によって理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日頃からファッションについて興味を持ち，衣服を購入する際に，素材，価格，品質，流行等について考えること。 |
| 授業外学修 | 事前学修として，講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べておくこと。（２時間以上）<br>事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行うこと。（２時間以上） |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときに，ブランドの企画，デザイン，素材研究，店舗指導，マーチャンダイザー（ＭＤ）をしていた実務経験をいかした解説を行う。 |

| 科目名 | ファッションビジネス | | | 授業番号 | HT201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤田　悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | プロジェクターを利用して画像や映像を用いることで，ファッションビジネスの専門的なことをやさしく解説し，授業を進める。また，本講義は，一般の販売職でも応用できる内容とし，講義後編には，アパレル販売の現場で役立つ売り場展開や計数管理までを予定している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生活全体におけるファッション感覚を養い「想像力」「企画力」を高めることと，ファッションビジネス能力検定３級，ファッション販売能力検定３級取得程度の能力を身に付ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ファッションビジネスの概要 | |
| 第2回 | ファッション産業の構成 | |
| 第3回 | ファッションマーケティングの重要性について | |
| 第4回 | ファッションマーケティングに必要なライフスタイル分析 | |
| 第5回 | ファッションマーチャンダイジングの知識 | |
| 第6回 | アパレル小売業の構造と業態 | |
| 第7回 | ファッション生活と感性分類 | |
| 第8回 | ファッションブランドの企画 | |
| 第9回 | ファッション販売の知識（店舗演出） | |
| 第10回 | ファッション販売の知識（接客と購買心理） | |
| 第11回 | ファッション販売の知識（小売業の計数管理） | |
| 第12回 | ファッション販売の知識（シーズンディレクション） | |
| 第13回 | ファッション販売の知識（品揃え計画・販売計画） | |
| 第14回 | ファッション販売の知識（店舗リサーチ） | |
| 第15回 | まとめと小テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 最終的理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 各講義の振り返りワークシート提出によって理解度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日頃からストリートや雑誌等でファッションに興味を持つことと，アパレル商品を購入するときにブランドコンセプトや販売方法，流行を意識して感性を磨くこと。 |
| 授業外学修 | １.事前学修として，講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容の業種や業態を見学することと，ファッションブランドについて調べておくこと。<br>２.事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行うこと。<br>以上の内容を週あたり合計４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ファッションビジネス能力検定３級，ファッション販売能力検定３級の資格試験受験者は，過去問題テキストを購入すること。授業時に紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときに，ブランドの企画，デザイン，店舗指導，マーチャンダイザー（ＭＤ）をしていた実務経験をいかした解説を行う。 |

| 科目名 | アパレル基礎実習 (135分) | | | 授業番号 | HT202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 江口　まりこ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 自分の体の特徴を活かしたり，コンプレックスをカバーできる衣服を創造する。<br>アパレル基礎実習によって，デザイン画の書き方，アイデアの出し方，工業用パターンの活用方法，創造することの楽しさ，衣服制作の手順を学び，衣服，帽子やバック，アクセサリーまでオリジナル作品を具体化するための知識や技術を学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １衣服のベースになる，製造方法の知識を身につけることができる。<br>２衣服製における必要最低限の知識を身につけることができる。<br>３自分の体にあった作りたい衣服を選択，デザインし製作することができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | デザイン/プラン　製作するアイテムを決めていく | |
| 第2回 | デザイン/プラン　製作するアイテムを決定する | |
| 第3回 | オリジナル企画案作成　デザイン画の描き方　製作工程のプランニングを立てる | |
| 第4回 | 作品・製作の工程説明（縫い方の技法について） | |
| 第5回 | オリジナル作品の製作１　実技に入る | |
| 第6回 | オリジナル作品の製作２ | |
| 第7回 | オリジナル作品の製作３ | |
| 第8回 | オリジナル作品の製作４ | |
| 第9回 | オリジナル作品の製作５ | |
| 第10回 | オリジナル作品の製作６ | |
| 第11回 | オリジナル作品の製作7 | |
| 第12回 | オリジナル作品の製作8 | |
| 第13回 | オリジナル作品の製作9 | |
| 第14回 | オリジナル作品の製作10 | |
| 第15回 | プレゼンテーション　完成した作品を発表する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，デザイン/プラン通りに制作できたか評価する。 |
| レポート | 40 | オリジナル作品の創造性と完成度を評価基準とする。 |
| 小テスト | 30 | オリジナル作品のプレゼンテーション時に「企画力」「制作力」「プレゼン能力」を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ファッションに興味を持って受講すること。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，プリント使用 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜，紹介する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | アパレルメーカーで婦人服デザイナー，洋裁講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | アパレルメーカーで婦人服の企画・デザインを担当していた経験，洋裁講師を活かした実習を行う。 |

| 科目名 | アパレル企画実習 (135分) | | | 授業番号 | HT301 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 江口　まりこ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大型ショッピングモールの旗艦店より，自分の企画や関心のあるショップでのリサーチの実施後，オリジナルブランドイメージマップの企画制作を行い，プレゼンテーションまでを行う。オリジナルブランド企画書は，「Adobe illustrator」と「Adobe Photoshop」で版下まで作成し，印刷所に依頼する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １.アパレルメーカーの企画における必要最低限の知識を身につける。<br>２.ショップリサーチを報告書としてまとめ，ブランドを企画することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アパレル企画実習の全体概要，ショップリサーチについての説明と産業構造説明 | |
| 第2回 | アパレル企画実習の基礎知識(1) | |
| 第3回 | アパレル企画実習の基礎知識(2) | |
| 第4回 | 社会調査の役割と自主企画におけるショップリサーチの説明 | |
| 第5回 | 自主企画ショップリサーチ実施（大型ショッピングモール旗艦店） | |
| 第6回 | 自主企画ショップリサーチ結果イメージマップ作成 | |
| 第7回 | ファッションブランドの企画説明 | |
| 第8回 | ファッションブランド企画イメージマップ作成１ | |
| 第9回 | ファッションブランド企画イメージマップ作成２ | |
| 第10回 | ファッションブランド企画イメージマップ作成３ | |
| 第11回 | ファッションブランド企画イメージマップ作成４ | |
| 第12回 | ファッションブランド企画イメージマップ作成５ | |
| 第13回 | プレゼンテーション資料作成 | |
| 第14回 | プレゼンテーションリハーサル | |
| 第15回 | プレゼンテーション | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って，企画制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | ・制作物（40%）ショップリサーチの報告書，イメージマップの制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・プレゼンテーション（30%）ファッションブランド企画のプレゼンテーション時に「企画力」「制作力」「ブランドイメージ」「価格設定」「プレゼン能力」の5点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 礼儀正しい態度で実習を行い，オリジナルブランド企画イメージマップ作成に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 実際の店舗に出向くことや，新聞，雑誌，インターネットなどでファッション情報を集めることによって，普段からファッションブランドの企画について考察し，リサーチ店舗先や興味のあるファッションブランドを調べておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，プリント使用 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画，デザインをしていた実務経験をいかした実習を行う。 |

| 科目名 | ファッションコーディネート演習（135分） | | | 授業番号 | HT302 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤田　悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリング。基本的な知識や技術を学び実際のスタイリングに応用できることを目的とする。日常生活の中でみられる，さまざまなライフシーンやＴＰＯなどのテーマを設定し，外部講師によるメイクとネイルの基礎知識を組み合わせ，トータルコーディネートできるテクニックを修得する。それぞれがテーマに相応しいコーディネートをイメージマップで表現し，プレゼンテーションする。イメージマップの一部に着装シミュレーションアプリにて，パソコン上でもイメージマップ作成作業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的な着こなしについて，各自が設定したテーマにあったファッションコーディネートができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ファッションコーディネートの基礎知識 | |
| 第2回 | ファッション雑誌にみるコーディネートからのターゲット分析 | |
| 第3回 | ファッションコーディネートにおける素材とシルエットの関係 | |
| 第4回 | ファッションコーディネートオケージョンについて | |
| 第5回 | トータルコーディネーションへの応用 | |
| 第6回 | ファッションコーディネートイメージマップの制作１ | |
| 第7回 | ファッションコーディネートイメージマップの制作２ | |
| 第8回 | ファッションコーディネートイメージマップの制作３ | |
| 第9回 | ファッションコーディネートイメージマップの制作４ | |
| 第10回 | メイクの基礎知識と技法１ | 外部講師 |
| 第11回 | メイクの基礎知識と技法２ | 外部講師 |
| 第12回 | ネイルの基礎知識と技法１ | 外部講師 |
| 第13回 | ネイルの基礎知識と技法２ | 外部講師 |
| 第14回 | パソコンでコーディネートアプリを利用したベストコーディネートを提案 | |
| 第15回 | トータルコーディネート提案イメージプレゼンテーションの実施 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | ターゲット分析とイメージマップの制作意図を理解し，積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 制作物（40%）制作物については，イメージマップをイメージ通りに表現することができているか。創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。プレゼンテーション（30%）トータルコーディネート提案したイメージマップをプレゼンする。プレゼン評価は，「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | シーズンサイクルと社会行事，ファッションコーディネート，ディテール等に対して興味を持ち，街頭のショーウインドやショップを観察し，関心を高める。 |
| 授業外学修 | 事前学修として，課題に沿ったコーディネート提案をファッション雑誌を参考に，週当たり１時間以上，イメージトレーニングをしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | メーカーに勤めていたときにブランドの企画，デザイン，店舗指導，マーチャンダイザー（ＭＤ）をしていた実務経験をいかした演習を行う。 |

| 科目名 | 地域共生社会論 | | | 授業番号 | HW201 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，地域社会を取り巻く環境を理解し，そこに存在する様々な課題を多角的に捉え解決できる力を身につける。<br>地域福祉の概要を理解し，ボランティアや誰もが暮らしやすい街づくりとはどのようなものかグループワークを通して，共生社会や多様な価値の在り方を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)地域共生社会とはどのようなものか説明できる。<br>(2)ボランティアの意義について説明できる。<br>(3)他者と意見を共有し，グループワークに取り組み自らの考えを発表することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域福祉の概念・地域福祉の構成要素の意味を理解する。 | |
| 第2回 | 地域福祉の歴史的展開・生活の基本機能を理解する。 | |
| 第3回 | 地域福祉の充実(コミュティ・ソーシャルワーク・社会福祉協議会・地域福祉計画)を理解する。 | |
| 第4回 | ボランティアの定義の意味を理解する。 | |
| 第5回 | 災害と地域社会(過去の災害からの学び)を理解する。 | |
| 第6回 | 災害救助法・福祉避難所の定義を理解する。 | |
| 第7回 | 災害シミュレーション<br>(1)事例を通してグループワークを行う。 | |
| 第8回 | 災害シミュレーション<br>(2)事例を通してグループワークを行う。 | |
| 第9回 | 災害シミュレーション<br>(3)グループで発表を行う。 | |
| 第10回 | (1)地域共生社会を目指す社会的背景・理念・ソーシャルインクルージョンを理解する。その1 | |
| 第11回 | (2)地域共生社会を目指す社会的背景・理念・ソーシャルインクルージョンを理解する。その2 | |
| 第12回 | 地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)<br>(1)グループワークを行う。 | |
| 第13回 | 地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)<br>(2)グループワークを行う。 | |
| 第14回 | 地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。<br>(3)各グループ発表を行う。 | |
| 第15回 | 地域包括ケア・まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・地域や災害など身近な福祉の問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座２　社会の理解 | 上原千寿子ほか | 中央法規出版 | 978-4-8058-5762-5 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かして，現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。 |

| 科目名 | 地域福祉論 | | | 授業番号 | HW202 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 地域福祉の理念，地域福祉主体の対象，地域福祉の主体と対象，地域福祉の担い手の本質を理解する。<br>また，地域住民に対する社会資源，地域福祉の現状と課題について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 地域福祉計画の概要，地域福祉の現状と課題の知識，技術を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代における地域の特徴 | |
| 第2回 | 地域福祉の課題 | |
| 第3回 | 地域福祉の基本理念と概念 | |
| 第4回 | 地域福祉の理論 | |
| 第5回 | 地域福祉主体と対象 | |
| 第6回 | 地域福祉の担い手（１）社会福祉協議会 | |
| 第7回 | 地域福祉の担い手（２）民生・児童委員 | |
| 第8回 | 地域福祉の担い手（３）民間非営利組織 | |
| 第9回 | 地域福祉の担い手（４）社会福祉施設 | |
| 第10回 | 地域福祉の担い手（５）地方自治体 | |
| 第11回 | 地域福祉の動向 | |
| 第12回 | 地域福祉計画とは | |
| 第13回 | 地域福祉計画の作成の意義 | |
| 第14回 | 地域福祉計画の方法 | |
| 第15回 | 地域福祉計画の財源 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループワークで授業をを展開します。<br>・予習と授業中の積極的発言を求めます。<br>・自分で考えることをベースに授業に参加してください。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。<br>・復習として，授業のレポートを書く。<br>・授業で紹介された参考文献を精読する。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 現代地域福祉 | 高内正子監修 | 教育情報出版 | 978-4-905493-06-8 | 2381円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉概論 | 小田兼三他 | 勁草書房 | 978-4-326-70095-0 | 2800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者保健福祉分野において実践経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 社会福祉論 | | | 授業番号 | HW203 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。具体的には，「社会福祉の概念」，「社会福祉の沿革」，「年金」，「医療」，「介護」，「子育て」，「障害者福祉」，「高齢者福祉」の基礎を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得する。また，現代生活に必要な社会福祉の基本的知識を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代社会と社会福祉 | |
| 第2回 | 社会福祉とは | |
| 第3回 | 社会福祉の歴史（イギリス）I | |
| 第4回 | 社会福祉の歴史（イギリス）II | |
| 第5回 | わが国の社会福祉の歴史I | |
| 第6回 | わが国の社会福祉の歴史II | |
| 第7回 | 公的扶助 | |
| 第8回 | 児童福祉I | |
| 第9回 | 児童福祉II | |
| 第10回 | 障害者福祉I | |
| 第11回 | 障害者福祉II | |
| 第12回 | 高齢者福祉I | |
| 第13回 | 高齢者福祉II | |
| 第14回 | 社会福祉のこれから | |
| 第15回 | 全体のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講座は講義形式とグループ討議で授業を展開します。<br>・予習と授業の積極的参加を期待します。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に参加してください。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる章節を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉記事ワークブック | 松井圭三ほか | 大学教育出版 | 978-4-86429-365-5 | 2000円＋税 |
| 21世紀の社会福祉政策論文集 | 松井圭三 | ふくろう出版 | 978-4-86186-381-3 | 2300円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | シルバー人材センター，福祉事務所の経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」の学習に活かす。 |

| 科目名 | ヒューマンケア | | | 授業番号 | HW204 | サブタイトル | 人権と尊厳を支える介護 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都、中野　ひとみ、森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき，職務におけるリスクとその対応策を理解する。<br>他職種との連携のもと，介護を展開していかなければならないことを理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護の専門性と職業倫理及び多様なサービスについて理解し，説明することができる。<br>(2)他職種との連携の重要性について学び，介護職の役割を説明することができる。<br>(3)虐待の定義，身体拘束及びサービス利用者の尊厳，プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。<br>(4)介護職の職業倫理の重要性を理解し，介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について，　ポイントを列挙できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 多様なサービスの理解（介護と介護保険制度の意義を学ぶ） | 韓　在都 |
| 第2回 | 多様なサービスの理解（介護職の仕事の内容，働く現場を理解する） | 韓　在都 |
| 第3回 | 介護職の仕事内容や働く現場の理解（介護職のキャリアパスについて学ぶ） | 韓 在都 |
| 第4回 | 介護職の仕事内容や働く現場の理解（各施設の特徴について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第5回 | 人権と尊厳を支える介護（個人の権利を守る制度，介護分野のICFを理解する） | 韓 在都 |
| 第6回 | 人権と尊厳を支える介護（生活の質とマズローの欲求段階説，ノーマライゼーションについて学ぶ） | 韓 在都 |
| 第7回 | 人権と尊厳を支える介護（高齢者虐待予防法・身体拘束禁止について理解する） | 韓 在都 |
| 第8回 | 自立に向けた介護（専門職として求められる自立と自律を理解する） | 韓 在都 |
| 第9回 | 自立に向けた介護（自立支援のための介護方法について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第10回 | 自立に向けた介護（介護予防と健康寿命，社会的入院について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第11回 | 介護職の役割，専門性と多職種との連携　（訪問介護サービス，施設介護サービス，地域包括センターの役割と機能について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第12回 | 介護職の職業倫理（専門職として法令遵守，倫理綱領について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第13回 | 介護における安全の確保の重要性と，リスクマネジメント（緊急時の対応，応急処置，感染症対策について学ぶ） | 中野 ひとみ |
| 第14回 | 介護職の安全（介護職の心身の健康管理，腰痛予防，ストレスマネジメントの重要性を理解する） | 中野 ひとみ |
| 第15回 | まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解を深める） | 韓 在都 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 第1回～15回の講義内容の理解度を，ペーパー試験で評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。<br>本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | 各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し，授業に望むことを求める。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。<br>2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト 第１分冊 理念と基本 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-45-7 | 1000円＋税 |
| 介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-46-4 | 1430円（税込み） |
| 介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-48-8 | 2200円（税込み） |
| 介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-47-1 | 1300＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・介護支援専門員（中野ひとみ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | ヒューマンケア (1) | | | 授業番号 | HW2050 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都、森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき，職務におけるリスクとその対応策を理解する。<br>他職種との連携のもと，介護を展開していかなければならないことを理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護の専門性と職業倫理及び多様なサービスについて理解し，説明することができる。<br>(2)他職種との連携の重要性について学び，介護職の役割を説明することができる。<br>(3)虐待の定義，身体拘束及びサービス利用者の尊厳，プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。<br>(4)介護職の職業倫理の重要性を理解し，介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について，　ポイントを列挙できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 多様なサービスの理解（介護と介護保険制度の意義を学ぶ） | 韓　在都 |
| 第2回 | 多様なサービスの理解（介護職の仕事の内容，働く現場を理解する） | 韓　在都 |
| 第3回 | 介護職の仕事内容や働く現場の理解（介護職のキャリアパスについて学ぶ） | 韓 在都 |
| 第4回 | 介護職の仕事内容や働く現場の理解（各施設の特徴について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第5回 | 人権と尊厳を支える介護（個人の権利を守る制度，介護分野のICFを理解する） | 韓 在都 |
| 第6回 | 人権と尊厳を支える介護（生活の質とマズローの欲求段階説，ノーマライゼーションについて学ぶ） | 韓 在都 |
| 第7回 | 人権と尊厳を支える介護（高齢者虐待予防法・身体拘束禁止について理解する） | 韓 在都 |
| 第8回 | 自立に向けた介護（専門職として求められる自立と自律を理解する） | 韓 在都 |
| 第9回 | 自立に向けた介護（自立支援のための介護方法について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第10回 | 自立に向けた介護（介護予防と健康寿命，社会的入院について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第11回 | 介護職の役割，専門性と多職種との連携　（訪問介護サービス，施設介護サービス，地域包括センターの役割と機能について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第12回 | 介護職の職業倫理（専門職として法令遵守，倫理綱領について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第13回 | 介護における安全の確保の重要性と，リスクマネジメント（緊急時の対応，応急処置，感染症対策について学ぶ） | 森田　裕之 |
| 第14回 | 介護職の安全（介護職の心身の健康管理，腰痛予防，ストレスマネジメントの重要性を理解する） | 森田　裕之 |
| 第15回 | まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解を深める） | 韓 在都 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 第1回～15回の講義内容の理解度を，ペーパー試験で評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。<br>本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | 各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し，授業に望むことを求める。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。<br>2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト 第１分冊 理念と基本 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-45-7 | 1000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・介護支援専門員（中野ひとみ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | ヒューマンケア (2) | | | 授業番号 | HW2051 | サブタイトル | 介護保険制度とコミュニケーション | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都、中野　ひとみ、森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護保険制度や，障がい者に関する制度を担う一員として，最低知っておくべき制度の内容，目的，サービス利用の流れ，各専門職の役割・責務について学ぶ。<br>また介護が必要な人たちの生活（家事，住環境，終末期医療）についても理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護保険制度や障害者総合支援制度の理念，介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙することができる。<br>(2)家事援助の基礎知識と生活支援技術を学び，家事援助のポイントを説明することができる。<br>(3)終末期の基礎知識と利用者の心の援助について説明することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護保険制度（創設の背景・しくみなどの基礎的理解） | 森田　裕之 |
| 第2回 | 介護保険制度（財源・組織・役割，医療保険との関わり） | 森田　裕之 |
| 第3回 | 医療との連携とリハビリテーション（高齢者の服薬や医療行為） | 森田　裕之 |
| 第4回 | 医療との連携とリハビリテーション（訪問・通所・地域リハビリテーション） | 森田　裕之 |
| 第5回 | 障がい者に関する制度及びその他の制度（制度創設の理念・背景と目的について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第6回 | 障がい者に関する制度及びその他の制度（しくみなどの基礎的理解と個人の権利を守る概要について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第7回 | 介護におけるコミュニケーション（コミュニケーションの意義，目的，役割，手段と技法について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第8回 | 介護におけるコミュニケーション（利用者・家族への対応の基礎知識を理解する） | 韓 在都 |
| 第9回 | 介護におけるチームのコミュニケーション（記録による情報の共有化について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第10回 | 介護におけるチームのコミュニケーション（報告・連絡・相談について学ぶ） | 韓 在都 |
| 第11回 | 老化に伴うこころとからだの変化と日常（老年期の発達と心身の変化の特徴） | 中野 ひとみ |
| 第12回 | 老化に伴うこころとからだの変化と日常（心身の機能の変化と日常生活への影響） | 中野 ひとみ |
| 第13回 | 高齢者と健康（高齢者の疾病と生活上の留意点-外科系-） | 中野 ひとみ |
| 第14回 | 高齢者と健康（高齢者に多い病気と生活上の留意点-内科系-） | 中野 ひとみ |
| 第15回 | 認知症を取り巻く状況（認知症ケアの理念） | 韓 在都 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 30 | 制度や介護が必要な人の気持ちが理解でき，述べていること。提出物は，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 40 | 知識の定着度・理解度（２回の小テストにより）を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 授業中整理した資料等の提出物を評価する。提出物は，コメントを記入して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目で全出席を原則とする。<br>本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | 介護が必要な人の生活について理解し，学修したことを生活の中で活かすことを求める。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。<br>2 授業で身につけた知識について復習し，介護が必要な人の気持ちについて振り返る。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-46-4 | 1430円（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・介護支援専門員（中野ひとみ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | ヒューマンケア (3) | | | 授業番号 | HW2052 | サブタイトル | 認知症の基礎と健康管理 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都、中野　ひとみ、森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。その違いを理解する。<br>また，加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解し，その心理的特徴についても学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)老化・認知症・障がいについて説明することができる。<br>(2)共感，受容，傾聴的態度，気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて説明することができる。<br>(3)家族の気持ちについて理解し，介護職として持つべき視点を列挙することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（認知症の概念と原因疾患・病態，ケアのポイント） | 中野 ひとみ |
| 第2回 | 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（生活障害，心理，行動の特徴，利用者への対応） | 中野 ひとみ |
| 第3回 | 家族への支援（家族との関わり方） | 韓　在都 |
| 第4回 | 障がいの基礎的理解（障害の概念とICF） | 韓　在都 |
| 第5回 | 障がいの医学的側面の基礎的知識 | 中野 ひとみ |
| 第6回 | 家族の心理の理解，かかわり支援の理解 | 韓　在都 |
| 第7回 | 生活と家事（家事援助の基礎知識と生活支援技術について学ぶ） | 韓　在都 |
| 第8回 | 生活と家事（家事援助の技法について学ぶ） | 韓　在都 |
| 第9回 | 快適な居住環境整備と介護（介護保険による住宅改修） | 森田　裕之 |
| 第10回 | 快適な居住環境整備と介護（福祉用具の知識） | 森田　裕之 |
| 第11回 | 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期医療 | 韓　在都 |
| 第12回 | 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期医療（終末期の基礎知識・こころの理解） | 韓　在都 |
| 第13回 | ふり返り（第4分冊における振りかえりの課題など） | 韓　在都 |
| 第14回 | ふり返り（OJT・Off−JTの実際について理解する） | 韓　在都 |
| 第15回 | 就業への備えと研修修了後における継続的な研修　（キャリアにつながるOJTなど） | 韓　在都 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 40 | 身につけた知識を，実生活に生かす意欲について述べられていること。提出物は，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 60 | 老化・認知症・障がいについての知識の理解度（3回の小テストにより）を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。<br>資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | 高齢者や認知症，障がいがある人に関心をもち，授業で得た知識を普段の生活の中で生かすことを求める。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1 授業で身につけた知識・技能について予習・復習し普段の生活に生かせるようにすること。<br>2 課されたレポートの作成をすること。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-47-1 | 1300＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・ケアマネジャー（中野ひとみ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | 介護保険事務論 | | | 授業番号 | HW207 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 我が国は超高齢社会を迎え，介護保険サービスを利用する高齢者は年々増加している。その中で，保険料の増額，提供されるサービスの質の評価など，さまざまな問題が出てきている。本科目は，介護保険制度を理解した上で，介護保険サービスを利用するための要件やサービスの種類，また，介護報酬の算定方法などを医療保険と関連づけながら総合的に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・介護保険制度の仕組みや背景について理解できる。<br>・介護報酬算定を理解し，介護レセプトが作成できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護保険制度（1）介護保険制度の背景，被保険者の特徴，要介護度認定の流れについて理解する。 | |
| 第2回 | 介護保険制度（2）これまでの介護保険制度改正，最新の令和3年度改正の要点について理解する。 | |
| 第3回 | 介護保険制度（3）介護保険制度の利用のしくみ，財源と保険料の仕組み，要介護区分，ケアマネージャーについて理解する。 | |
| 第4回 | 介護保険制度（4）成年後見制度，高齢者虐待の定義，サービス事業者の指定・取り消しについて理解する。 | |
| 第5回 | 介護保険制度（5）介護保険制度の創設と意義，サービス高齢者住宅，高齢者への訪問診療について理解する。 | |
| 第6回 | 介護保険制度（6）介護保険制度と法令，現物給付と償還払い，地域包括支援センターの特徴について理解する。 | |
| 第7回 | 介護保険制度（7）訪問，通所，入所等の介護サービスの種類と特徴，共生型サービスについて理解する。 | |
| 第8回 | 介護報酬算定の理解 (1)介護保険と医療保険の相違点，介護報酬の原則と特徴，地域区分と単価計算について理解する。 | |
| 第9回 | 介護報酬算定の理解 (2)介護報酬サービスコード表を用いた単位計算の方法を理解する。 | |
| 第10回 | 介護報酬算定の理解 (3)地域区分と介護報酬サービスコード表を用いた単位計算の方法を理解する。 | |
| 第11回 | 介護レセプト作成(1)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。 | |
| 第12回 | 介護レセプト作成(2)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。 | |
| 第13回 | 介護レセプト作成(3)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。 | |
| 第14回 | 介護レセプト作成(4)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。 | |
| 第15回 | 介護レセプト作成(5)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 介護レセプト作成技能を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題の完成度で評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 介護事務の仕事においては当然必須であるが，医療事務の仕事にも介護保険の知識や介護報酬算定の技能が求められる時代になってきている。福祉・介護，医療分野への就職を目指す学生は仕事のことも意識して受講すること。また，仕事で介護事務に携わらなくても，将来自分の家族に介護が必要になったときにも有用な知識が多いため，生活者としての介護保険の利用も考えながら受講する。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。<br>3. 介護保険に関わる新聞記事を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新しい介護保険のしくみ よくわかる！ 令和３年改正対応版 | 長谷憲明 | 瀬谷出版 | 978-4-902381-43-6 | 2，600円 + 税 |
| 介護報酬基本テキスト　介護報酬サービスコード表付き | ケアアンドコミュニケーション株式会社 | ケアアンドコミュニケーション株式会社 | なし | 3，000円 + 税 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護報酬基本テキストは学内のテキスト販売日ではなく，別途代金を徴収して出版社から直接購入する。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | 【令和 5 年度改訂】 | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 介護概論 | | | 授業番号 | HW208 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護の理念，介護の役割と機能，介護他分野の連携の本質を理解する。<br>また，介護の理念，倫理，対象，介護保険制度の本質と課題について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 介護現場での最低限必要な介護の知識，制度等を理解し，その内容が説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護の成り立ち | |
| 第2回 | 介護の基本理念 | |
| 第3回 | 介護福祉士を取り巻く状況 | |
| 第4回 | 社会福祉士及び介護福祉士法 | |
| 第5回 | 介護における専門職団体の活動 | |
| 第6回 | 介護福祉士の倫理 | |
| 第7回 | 自立の考え方 | |
| 第8回 | ＩＣＦの考え方 | |
| 第9回 | 自立支援とリハビリテーショ | |
| 第10回 | 自立支援と介護予防 | |
| 第11回 | 介護福祉を必要とする人の理解 | |
| 第12回 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | |
| 第13回 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | |
| 第14回 | 協働する多職種の機能と役割 | |
| 第15回 | 介護従事者の安全 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表，グループワークの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。<br>・予習と授業中の積極的発言を求めます。<br>・自分で考えることをベースに授業に参加してください。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。<br>・復習として，授業のレポートを書く。<br>・授業で紹介された参考文献を精読する。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本授業では，時間外学修として，予習，復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ＮＩＥ介護の基本演習 | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-4-86692-004-7 | 2200円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護保険政策集 | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-4-88730-839-8 | 1800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 介護の基本Ⅰ | | | 授業番号 | HW209 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わが国の「介護」における社会的状況はめまぐるしく変化している。そのなかで介護福祉士は，多様，複雑，高度な問題を解決できる専門職としての役割を期待されていることを理解する。また，高齢者に対する「尊厳の保持」，「自立支援」，「自律支援」という考え方を理解するとともに，「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。<br>本講義では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。介護福祉の基本となる理念を理解し，介護福祉士としての倫理に基づき，その役割と機能を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 介護福祉の基本となる理念を理解することができる。<br>介護福祉士の役割と機能を理解することができる。<br>介護福祉士の倫理を理解することができる。<br>自立に向けた支援の必要性を理解することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護の成り立ち～専門職による「介護」の展開 | |
| 第2回 | 介護の概念の変遷 | |
| 第3回 | 介護福祉の基本理念 | |
| 第4回 | 尊厳・自立を支える介護 | |
| 第5回 | 介護福祉士の活動の場と役割 | |
| 第6回 | 社会福祉士及び介護福祉士法 | |
| 第7回 | 介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割の拡大 | |
| 第8回 | 介護福祉士を支える団体 | |
| 第9回 | 介護福祉士の実践における倫理 | |
| 第10回 | 日本介護福祉士会倫理綱領の理解 | |
| 第11回 | 自立支援の考え方 | |
| 第12回 | ICFの考え方 | |
| 第13回 | 自立支援とリハビリテーション | |
| 第14回 | 自立支援と介護予防 | |
| 第15回 | 介護福祉の基本理念・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 20 | 資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 授業内容を理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は90時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週6時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座３　介護の基本I | | 中央法規出版 | 978-4-8058-8392-1 | 2200 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>その都度，授業資料・参考資料を配布します。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024」中央法規出版　（6月頃発行） | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 認知症の理解Ⅰ | | | 授業番号 | HW210 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では認知症に関する基礎的知識を習得するとともに，認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。<br>認知症ケアの歴史から認知症を取り巻く状況を理解し，医学的側面から見た認知症の基礎となる知識を身につける。<br>認知症の人のその治療やケアについて理解を深めるとともに，予防と生活に及ぼす影響について修得する。<br>認知症の人のみならず，家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。<br>また認知症に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響について事例をもとにロールプレイを行い，認知症の本人や家族の気持ちを理解する力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)認知症の人の体験，認知症を取り巻く環境，認知症の人の医学，行動，心理，認知症の人の生活について理解し説明できる。<br>(2)認知症をもつ人と家族の体験を学ぶことにより，自分で考え支援する方法論を説明することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は介護福祉士国家試験対応科目である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 認知症とはなにか，認知症の人の介護，認知症ケアの理念と視点を理解する。 | 中野 |
| 第2回 | 認知症の支援方法の中心にあるその人らしさを大切する支援とは何かを理解する。 | 中野 |
| 第3回 | 認知症ケアの歴史，認知症の人の体験とはどのようなものかを理解する。 | 中野 |
| 第4回 | 認知症の原因となる脳のしくみ・病変(脳のしくみ)を理解する。 | 中野 |
| 第5回 | 認知症と老化の関係(認知症と他の状態との鑑別，うつやせん妄)を理解する。 | 中野 |
| 第6回 | 認知症の症状(中核症状・周辺症状)を理解する。 | 中野 |
| 第7回 | (1)認知症の主な原因疾患(アルツハイマー型認知症)を理解する。 | 中野 |
| 第8回 | (2)認知症の主な原因疾患(脳血管性認知症)を理解する。 | 中野 |
| 第9回 | (3)認知症の主な原因疾患(レビー小体型・前頭側頭型認知症)を理解する。 | 中野 |
| 第10回 | (4)認知症の主な原因疾患(その他の認知症)を理解する。 | 中野 |
| 第11回 | 認知症の治療方法・予防を理解する。 | 中野 |
| 第12回 | 認知症の人の行動・心理症状を理解する。 | 森重 |
| 第13回 | 認知症支援に必要な自己覚地・他者理解を理解する。 | 森重 |
| 第14回 | 認知機能の変化が生活に及ぼす影響・家族支援を理解する。 | 中野 |
| 第15回 | 認知症の人の環境の理解，生活を続けるとは・まとめ　グループワーク発表を行う。 | 中野 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読むこと。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座13　認知症の理解 | 中司登志美ほか | 中央法規出版 | 978-4-8058-5773-1 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 視聴覚教材 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 心療内科における心理臨床(老年期を含む)；心療内科・老年科における認知症スクリーニング検査(神経心理学検査)；介護福祉士養成課程ならびに保育士養成課程，看護師養成課程講師（森重 功） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。 |

| 科目名 | 人間発達学 | | | 授業番号 | HW211 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 奥村　弥生 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・主要な発達理論について説明できる。<br>・各発達段階の特徴について説明できる。<br>・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる<br>・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発達とは何か―発達理論<br>基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ | |
| 第2回 | 胎児期<br>胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ | |
| 第3回 | 乳児期<br>乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ | |
| 第4回 | 幼児期(1)<br>幼児期の自律性，他者との関係の発達について学ぶ | |
| 第5回 | 幼児期(2)<br>幼児期の認知発達と遊びの重要性について学ぶ | |
| 第6回 | 児童期(1)<br>児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ | |
| 第7回 | 児童期(2)<br>児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ | |
| 第8回 | 青年期(1)<br>青年期におけるアイデンティティの確立について学ぶ | |
| 第9回 | 青年期(2)<br>青年期の人間関係の発達について学ぶ | |
| 第10回 | 成人期前期<br>成人期前期における親密性の獲得，社会的成熟について学ぶ | |
| 第11回 | 成人期後期<br>成人期後期における次世代育成と中年期危機について学ぶ | |
| 第12回 | 高齢期<br>高齢期における人生の振り返りについて学ぶ | |
| 第13回 | 発達の個人差，障害<br>発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ | |
| 第14回 | 人間発達に関わる現代的課題<br>人間発達に関わる現代的課題について紹介し，考察する | |
| 第15回 | 総括<br>学んできたことを振り返り，まとめを行う | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。 |
| 授業外学修 | ・資料を基に予習・復習をすること。<br>・授業で紹介した本や資料を読むこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 完全カラー図解　よくわかる発達心理学 | 渡邊弥生　監修 | ナツメ社 | 978-4-8163-7057-1 | 1600円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| いちばんはじめに読む心理学の本3　発達心理学 | 藤村宜之　編著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-08463-0 | 2500円＋税 |
| 手にとるように発達心理学がわかる本 | 小野寺敦子 | かんき出版 | 978-4761266196 | 1650円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義内容の理解を深めるために，適宜文献を紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 障害者支援論 | | | 授業番号 | HW212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 障害の概念や基本的理念，障害の医学的心理的側面の基礎的な知識を学び，障害のある人のライフステージや特性に応じた支援，多職種連携と協同，家族への支援について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得することができる。<br>・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる。<br>・それらの知識をもとに特性や状況に応じた支援につなげることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障がい者支援とは？<br>障がい者支援の意義について理解する。 | |
| 第2回 | 障がいの意味と理解<br>「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解する。 | |
| 第3回 | 身体障害の特性と心理的特徴の理解 | |
| 第4回 | 身体障がいのある人への支援<br>身体障がいの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第5回 | 知的障がいの特性と心理的特徴の理解１<br>知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第6回 | 知的障害の特性と心理的特徴の理解２<br>知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第7回 | 知的障害のある人への支援<br>知的障がい者に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第8回 | 発達障がいの特性と心理的特徴の理解１<br>発達障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第9回 | 発達障害の特性と心理的特徴の理解２<br>発達障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第10回 | 発達障害のある人への支援<br>発達障がい者に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第11回 | 精神障がい，難病，その他の障がいの特性と心理的特徴の理解<br>精神障がい，難病，その他の障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第12回 | 精神障がい，難病，その他の障がいのある人への支援<br>精神障がい，難病，その他の障がい者に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第13回 | 地域や専門機関との連携と協同<br>多職種との連携について知る。 | |
| 第14回 | 保護者や家族に対する理解と支援<br>保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 40 | 全講義終了後，障がい者支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる |
| 小テスト | 40 | 講義内で小課題を実施する（課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする） |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，障害者支援に関わる基礎理論を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設職員の経験を活かし，各障害に対して具体的な事例を交えながら教示する。 |

| 科目名 | 医学一般 | | | 授業番号 | HW213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 波多江　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 健康成人の人体の構造と機能を理解した上で，介護サービスの主な対象者となる高齢者の人体の加齢による変化について，基本的な知識を身につけることを目的とする。また，介護福祉士を含む介護職員が服薬介助・軟膏塗布・点眼・坐薬の挿入などの薬物療法にも参画できるようになったことから，薬の扱い方に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。<br>健康の定義および高齢者の人体における加齢に伴う変化について学修する。日本老年医学会が提示している高齢者に注意が必要な薬について学修する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解し，利用者によく見られる代表的な疾患について理解し，保健医療対策を学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「健康」とは何かを理解する | |
| 第2回 | からだのしくみを理解する（解剖学総論） | |
| 第3回 | からだのしくみを理解する（組織学総論） | |
| 第4回 | からだのしくみを理解する（神経系） | |
| 第5回 | からだのしくみを理解する（消化器系） | |
| 第6回 | からだのしくみを理解する（泌尿器系） | |
| 第7回 | からだのしくみを理解する（循環器系） | |
| 第8回 | からだのしくみを理解する（呼吸器系） | |
| 第9回 | からだのしくみを理解する（運動器系） | |
| 第10回 | からだのしくみを理解する（内分泌系） | |
| 第11回 | 「薬」とは何かを理解する | |
| 第12回 | 薬が効くしくみを理解する | |
| 第13回 | 薬の種類とその特徴を理解する | |
| 第14回 | 薬の説明書の読み方を理解する | |
| 第15回 | 薬の基本的な扱い方を理解する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 介護職として社会に出ると，すぐに使う知識ばかりなので，単位取得にだけこだわることなく，日々の学修を心がけること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，返却された小テストを満点にすること。<br>以上，の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5771-7 | 2，860円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じて，追加の資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | リスクマネジメント論 | | | 授業番号 | HW214 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | リスクマネジメント論では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。<br>介護を必要とする人が安全に安心して生活できるための，危機管理や事故防止，災害時の支援等リスクマネジメントについて理解を深め，介護実践の基礎となる知識技術を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)「予防」「最小化」「是正処置」のサイクルを理解し，リスクマネジメントを展開できる。<br>(2)災害時における介護の役割を理解するとともに，応急処置・緊急時の対応できる。<br>(3)「要配慮者」「避難行動要支援者」に対する支援及び，多職種協働を含む包括的な支援を理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護における生活の質の保証とリスクマネジメント | 森田 |
| 第2回 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 森田 |
| 第3回 | クオリティインプルーブメントの考え方 | 森田 |
| 第4回 | クオリティインプルーブメントを実践するために | 森田 |
| 第5回 | 身体拘束による弊害 | 森田 |
| 第6回 | 在宅における危機管理 | 森田 |
| 第7回 | 施設における危機管理 | 森田 |
| 第8回 | 介護現場におけるリスクマネジメントの実際(1) | 森田 |
| 第9回 | 介護現場におけるリスクマネジメントの実際(2) | 森田 |
| 第10回 | 災害時における介護福祉士の役割 | 森田 |
| 第11回 | 災害時における介護の実際(1) | 森田 |
| 第12回 | 災害時における介護の実際(2) | 森田 |
| 第13回 | 応急手当の知識と技術 | 森田 |
| 第14回 | 応急処置・緊急時の対応 | 森田 |
| 第15回 | 介護におけるリスクマネジメントの基本的理解・まとめ | 森田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 20 | 資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 授業内容を理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座4　介護の基本II | | 中央法規出版 | 978-4-8058-8393-8 | 2200 |
| 最新介護福祉士養成講座６生活支援技術I | | 中央法規 | 978-4-8058-8395-2 | 2200 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>その都度，授業資料・参考資料を配布します。 | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 生活支援技術Ⅰ | | | 授業番号 | HW215 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 生活支援技術Iでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。<br>ＩＣＦの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，自立に向けた居住環境整備，移動，身支度，食事ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる<br>(2)自立に向けた居住環境の整備について理解することができる<br>(3)自立に向けた移動・身じたく・食事の介護を理解することができる<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生活支援の基本的な考え方 | |
| 第2回 | 生活支援におけるＩＣＦの視点 | |
| 第3回 | 生活支援とチームアプローチ | |
| 第4回 | 自立に向けた居住環境の整備(1) | |
| 第5回 | 自立に向けた居住環境の整備(2) | |
| 第6回 | 自立に向けた居住環境の整備(3) | |
| 第7回 | 自立に向けた移動の介護 | |
| 第8回 | 杖歩行介助(1) | |
| 第9回 | 杖歩行介助(2) | |
| 第10回 | 車いすの介助(1) | |
| 第11回 | 車いすの介助(2) | |
| 第12回 | 生活とバリアフリー（公共施設での支援） | |
| 第13回 | 安楽な体位と体位交換(1) | |
| 第14回 | 安楽な体位と体位交換(2) | |
| 第15回 | 移乗の介護(1) | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 移乗の介護(2) | |
| 第17回 | 福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（1） | |
| 第18回 | 福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（2） | |
| 第19回 | 自立に向けた身じたくの介助 | |
| 第20回 | 整容の介助(1) | |
| 第21回 | 整容の介助(2) | |
| 第22回 | 自立に向けた食事の介護 | |
| 第23回 | 食事の介護(1) | |
| 第24回 | 食事の介護(2) | |
| 第25回 | 自立に向けた口腔ケア | |
| 第26回 | 口腔ケア(1) | |
| 第27回 | 口腔ケア(2) | |
| 第28回 | 実技試験に向けて（ベッドメイキング・ボディメカニクス） | |
| 第29回 | 実技試験 | |
| 第30回 | 生活支援技術の基本的理解・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 10 | 実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。 |
| 小テスト | 20 | 事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験） |
| 定期試験 | 60 | 授業の内容が理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。<br>・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。<br>・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>３．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。<br>４．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術I | | 中央法規 | 978-4-8058-8395-2 | 2200 |
| 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術II | | 中央法規 | 978-4-8058-8396-9 | 2200 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | 実習日は実習服，室内シューズを持参してください。<br>頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。 | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 生活家事支援技術 | | | 授業番号 | HW216 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 加賀田　江里 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | デモンストレーションを見た後，自身で調理を行う。実際の調理を体験しながら，食生活支援に必要な知識・技術を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食生活支援に必要な基本的な調理の知識・技術について理解し，実践する力を身に付ける。<br><br>１．自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できる。<br>２．食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付ける。<br>３．衛生面に配慮しながら調理を行うことができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自立に向けた家事の介護（調理），調理実習の心得，調理の意義，調理の介護 | |
| 第2回 | 調理の基礎(1)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第3回 | 調理の基礎(2)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第4回 | 調理の基礎(3)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第5回 | 調理の基礎(4)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第6回 | 調理の基礎(5)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第7回 | 調理の基礎(6)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第8回 | 調理の基礎(7)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第9回 | 調理の基礎(8)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第10回 | 調理の基礎(9)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第11回 | 調理の基礎(10)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第12回 | 調理の基礎(11)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第13回 | 調理の基礎(12)<br>調理をする上で基本的な調理操作を理解する。 | |
| 第14回 | 調理の基礎　献立作成<br>これまで学んできた智識をもとに，自ら献立作成を行う。 | |
| 第15回 | 調理の基礎　献立の実践<br>前回の授業で作成した献立をもとに，調理実習を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度によって評価する。 |
| レポート | 30 | 授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，まとめて提出する。レポート課題にはコメントを付けて返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 調理に関する基礎的な知識を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。 |
| 授業外学修 | 1．日頃から食について興味関心をもち，情報収集をすること<br>2．授業で習った内容を復習すること<br>以上の内容を週当たり2時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 ６．生活支援技術 | | | 978-4-8058-5766-3 | 2420円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活余暇支援技術 | | | 授業番号 | HW217 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 高齢になり心身機能の低下や障害を患っても，今までの生活同様自分らしく楽しい生活を送ることは人の権利である。<br>介護福祉の専門職として，生きがいの獲得や自己実現に向けた余暇活動支援の知識と能力を学修する。<br>生活余暇支援技術では，他者交流や社会とのつながりを通し，生活の中の楽しみや生きがいを創出できるように，多様なレクリエーション活動について学ぶ。そして，利用者のニーズに応じた余暇活動の立案・実践する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 利用者の状況・状態に合わせた生活の中での楽しみを計画することができる。<br>レクリエーション活動の実践を通し生きがいの支援の必要性を理解することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生活の中の余暇活動支援 | |
| 第2回 | レクリエーション活動の意義と目的 | |
| 第3回 | 余暇活動の支援を必要とする人の理解 | |
| 第4回 | レクリエーション活動の実践 | |
| 第5回 | 福祉レクリエーション（1） | |
| 第6回 | 福祉レクリエーション（2） | |
| 第7回 | 創作活動と生活 | |
| 第8回 | レクリエーション活動計画の作成(1) | |
| 第9回 | レクリエーション活動計画の作成(2) | |
| 第10回 | レクリエーション活動の実践(１)デイサービス | |
| 第11回 | レクリエーション活動の実践(２)デイサービス | |
| 第12回 | レクリエーション活動の評価と再アセスメント | |
| 第13回 | 回想法の意義と目的 | |
| 第14回 | 回想法の実践 | |
| 第15回 | 余暇生活支援の必要性・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・グループワークのリーダーシップ，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 10 | レクリエーション計画書の内容を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業内容を理解できているか評価する |
| その他 | 20 | レクリエーションの実践（発表）を評価する |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義と演習形式を組み合わせて進めていきます。<br>・余暇活動支援について体験的に学べるように，グループ討議や実践を多く取り入れます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義・演習に臨んでください。<br>・対象者に合わせたレクリエーションの立案ができるようになりましょう。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，レクリエーション関連の雑誌（レクリエ等）やインターネットから，援助を必要とする方への余暇活動支援，レクリエーション材を集めておく。<br>2．復習として，授業後は授業で扱った資料や参考所を照らし合わせ復習し，レクリエーションの実践ができるよう練習しましょう。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読んでください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | プリント配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | レクリエ |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＫＩ | | | 授業番号 | HW218 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合生活学セミナーKIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。<br>各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。<br>また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。<br>(1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。<br>(2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。<br>(3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。<br>(4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護総合演習の位置づけ | 森田 |
| 第2回 | 介護実習前の学修の内容と方法 | 森田 |
| 第3回 | 介護実習の意義と目的 | 森田 |
| 第4回 | 介護実習の種類 | 森田 |
| 第5回 | 実習前の学びと，実習後の学びの活かし方 | 森田 |
| 第6回 | 介護実習前・実習中・実習後の学修の内容と方法 | 森田 |
| 第7回 | 実習Iのねらい・実習Iの進め方 | 森田 |
| 第8回 | 実習記録の書き方 | 森田 |
| 第9回 | 通所介護事業所について・通所介護事業所での実習準備 | 森田 |
| 第10回 | 通所介護事業所での実習後について・礼状の書き方 | 森田 |
| 第11回 | 実習I-(2)A障害福祉実習について | 森田 |
| 第12回 | 通所介護実習の振り返り・実習報告会 | 森田，松井，中野，韓 |
| 第13回 | 実習I-(2)A　障害者支援施設での実習について | 森田 |
| 第14回 | 障害福祉サービス事業所での実習について | 森田 |
| 第15回 | 障害者施設での実習準備 | 森田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。 |
| レポート | 30 | 実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 学内学修と介護現場での学びを統合し，介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。<br>2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 | 介護総合演習・介護実習 | 中央法規出版 | 978-4-8058-8399-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＫⅡ | | | 授業番号 | HW219 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合生活学セミナーKIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。<br>各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。<br>また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。<br>(1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。<br>(2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。<br>(3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。<br>(4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害者施設での実習を終えて | 森田 |
| 第2回 | 障害者施設実習の振り返り・実習報告会 | 森田，松井，中野，韓 |
| 第3回 | 就労支援と社会参加 | 森田 |
| 第4回 | 障がい者の自立（自律）について | 森田 |
| 第5回 | 障がい者施設での（実習I-(2)）実習まとめ | 森田 |
| 第6回 | 介護総合演習の位置づけ，介護実習I-(2)Bの意義と目的 | 森田 |
| 第7回 | 介護実習I-(2)Bの学習の内容と方法 | 森田 |
| 第8回 | 訪問介護事業所について | 森田 |
| 第9回 | 在宅における生活支援と相談援助 | 森田 |
| 第10回 | 地域の中で生活をする意義 | 森田 |
| 第11回 | 地域の社会資源について | 森田 |
| 第12回 | 在宅生活を支えるための多職種協働 | 森田 |
| 第13回 | 訪問介護事業所での実習準備(1) | 森田 |
| 第14回 | 訪問介護事業所での実習準備(2) | 森田 |
| 第15回 | 訪問介護事業所での実習に向けて（実習中・実習後の予定の確認等） | 森田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。 |
| レポート | 30 | 実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 学内学修と介護現場での学びを統合し，介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。<br>2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 | 介護総合演習・介護実習 | 中央法規出版 | 978-4-8058-8399-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 介護過程Ⅰ | | | 授業番号 | HW220 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，介護福祉における介護過程の意義と目的を理解し，基本となる考え方を講義する。<br>他の教科で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開，介護計画を立案したうえで適切なサービスの提供ができる能力を養うための講義を行う。<br>介護過程の意義を理解し，介護現場で展開できる力を身につけるための講義を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護過程の構成要素を列挙することができる。<br>(2)介護過程の意義を理解し，介護実践に結びつけるポイントの説明ができる。<br>(3)情報収集，解釈・関連づけ・統合化，　課題の明確化に実際を追体験する。<br>(4)事例を用いて介護過程を展開する目的と効果について説明することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護過程とはなにか（目的・人を理解する） | |
| 第2回 | 介護過程の構成要素・意義 | |
| 第3回 | アセスメント（情報収集） | |
| 第4回 | アセスメント（ICF） | |
| 第5回 | アセスメント（情報の分析） | |
| 第6回 | 計画 | |
| 第7回 | 実施（介護記録） | |
| 第8回 | 評価 | |
| 第9回 | ケアマネジメントと介護過程 | |
| 第10回 | 多職種連携 | |
| 第11回 | 事例研究１（観察・記録の仕方） | |
| 第12回 | 事例研究１（情報収集） | |
| 第13回 | 情報収集の実際１（写真からの情報収集） | |
| 第14回 | 情報収集の実際２（映像からの情報収集） | |
| 第15回 | まとめ（国家試験対策）・総合学習 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 20 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・他教科との連動して考える力，専門的知識と技術が応用力が求められます。<br>・自ら考える姿勢で講義に臨んでください。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開します。<br>　実習を含めて，必ず必要となる知識ですので，しっかり習得していきましょう。<br>　難解な言葉が多くありますが，わからないことは調べるなどして学修を進めていくことが必要です。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，課題のレポートを書く。<br>３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護過程 | 介護福祉士養成講座　9 | 中央法規 | 978-4-8058-5769-4 | 2200（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | 介護過程Ⅱ | | | 授業番号 | HW221 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本人の望む生活の実現に向けて，生活課題の分析を行い，根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学修とする。<br>介護過程IIでは，個別事例を通じた介護過程の展開の実際について，介護総合演習や介護実習，生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて，介護過程を展開できる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)個別の事例を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。<br>(2)居宅サービス計画・施設サービス計画についても理解し，個別に応じた介護過程の展開が理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護過程の実践的展開 | |
| 第2回 | 「介護過程」展開の実際 | |
| 第3回 | 事例１における介護過程の展開 | |
| 第4回 | 事例２における介護過程の展開 | |
| 第5回 | 事例３における介護過程の展開 | |
| 第6回 | 事例４における介護過程の展開 | |
| 第7回 | 介護過程とケアマネジメントの関係性 | |
| 第8回 | チームアプローチによる介護福祉士の役割 | |
| 第9回 | 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 | |
| 第10回 | 事例で考える利用者の生活と介護過程(1) | |
| 第11回 | 事例で考える利用者の生活と介護過程(2) | |
| 第12回 | 事例で考える利用者の生活と介護過程(3) | |
| 第13回 | 事例で考える利用者の生活と介護過程(4) | |
| 第14回 | 事例で考える利用者の生活と介護過程(5) | |
| 第15回 | 介護過程の展開方法・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・グループワークの参加状況，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 30 | 介護過程の展開で作成した資料を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業内容が理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本科目は講義・演習形式をとり，個別ワーク・グループワークヲ実施しながら進めていきます。<br>実習ではひとりで介護過程を展開していくので，介護過程の展開技法を修得してください。<br>テキストの事例を基に介護過程を展開していくため，期限を守るようにしてください。<br>積極的に発言し，グループワークを円滑にしてください。<br>疑問点は必ず質問し，解決して進めてください。<br>他教科で学んだことを統合し，専門的知識と技術の応用力を求めています。<br>自分のグループ内の役割を意識しチームビルディングを図ってください。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書をしっかり読んで，利用者に応じた介護計画の立案に努めてください。<br>２．復習として，介護過程の資料を見直し，根拠を考え，的確な資料作りをしてください。<br>３．この講義は，事例に応じた介護過程の展開を考え，介護計画書を作成します。精度の高い資料の作成は授業時間だけでは完成しません。しっかり授業外学修を行ってください。<br>４．介護計画書は思いだけで作るのではなく，エビデンスが必要です。他の教科の教科書や参考書から，事実に基づいた記述を心がけてください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書９　介護過程 | | 中央法規 | 978-4-8058-8398-3 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 介護実習Ⅰ－① | | | 授業番号 | HW222 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。<br>本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。<br>介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。<br>(2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。<br>(3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。<br>(4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。<br>(5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 実習I－(1)　通所介護事業所（デイサービス・デイケア）<br><br>1日8時間×10日間（80時間）　7月の第2週～3週に実施<br><br>通所介護事業を通し，在宅生活支援における介護サービスについて実習を行なう。<br><br>【内容】<br>通所介護事業所の特徴・役割の理解，介護福祉士の役割・生活支援の理解，介護保険制法の理解，<br>利用者・家族とのコミュニケーションからの利用者理解，生活支援　技術の見学・実践，<br>サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 25 | 実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50（実習担当者25・教員25） | 実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。<br>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。<br>(2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。<br>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。<br>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。<br>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。<br>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。 |
| 授業外学修 | 1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。<br>2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。<br>3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。<br>4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。<br>5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。<br>　また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。<br><br>以上の内容を，毎日1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規 | 978-4-8058-8399-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等）<br>介護実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 実習指導者（介護福祉士） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 介護実習Ⅰ－② | | | 授業番号 | HW223 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。<br>本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。<br>介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実習Ａ<br>(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。<br>(2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。<br>(3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。<br>(4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。<br>(5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。<br><br>実習Ｂ<br>(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解する。<br>(2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深める。<br>(3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解する。<br>(4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。<br>(5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | ＜実習Ａ＞<br>障害福祉事業所（障害者支援施設，就労継続支援A・B型事業所）<br><br>1日7.5時間×8日間（60時間）　9月の第2週～3週に実施<br><br>障害福祉事業における生活支援及び就労支援を通し障害者支援について実習を行なう。<br><br>【内容】<br>障害者支援事業の特徴・役割の理解，障害者福祉サービスでの生活支援の理解，障害者総合支援法の理解，<br>障がい者の自立支援・社会参加の理解，生活支援技術の見学・実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り<br><br>＜実習Ｂ＞<br>訪問介護事業所<br><br>1日6時間×5日間（30時間）　2月の第2・3週に実施<br><br>在宅生活継続のためのケアマネジメントにおける介護サービスについて実習を行なう。<br><br>【内容】<br>訪問介護事業所の特徴・役割の理解，訪問介護員の生活支援の理解，介護保険制度・障害者総合支援法の理解，<br>サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 25 | 実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50（実習担当者25・教員25） | 実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。<br>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。<br>(2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。<br>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。<br>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。<br>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。<br>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。 |
| 授業外学修 | １．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。<br>２．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。<br>３．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。<br>４．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。<br>５．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。<br>　また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。<br><br>以上の内容を，毎日1時間学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規 | 978-4-8058-8399-0 | 2200 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等）<br>介護実習の手引き | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | 実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。 | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 実習指導者（介護福祉士） | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ヒューマンケア (4) | | | 授業番号 | HW301 | サブタイトル | こころとからだのしくみ | | |
| 教員 | 韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識を，介護の流れをイメージしながら修得する。<br>また，介護を必要とする人にとって，生活の充足を味わうためにはどのような介護技術が必要なのかを事例をとおして理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護の目指す基本的なものは何かについて説明でき，介護の専門性について列挙することができる。<br>(2)介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する知識を修得し，安全な介護サービスが提供できるように準備することができる。<br>(3)介護過程の展開に必要な構成要素を理解し，介護過程の展開について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第1回<br>(1)介護の基本的な考え（担当　韓　在都）<br><br>第2回～7回<br>(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解（担当　中野 ひとみ）<br>・感情と意欲に関する基礎知識<br>・自己概念と生きがい<br>・老化や障がいを受け入れる適応行動と阻害要因<br><br>(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解（担当：中野 ひとみ）<br>・健康チェックとバイタルサイン<br>・骨，関節，筋肉に関する基礎知識<br>・中枢神経と内部器官に関する基礎知識<br><br>第8回～15回<br>(4)介護過程の基本的理解（担当　韓 在都）<br>・科学的思考と介護過程<br>・介護過程の展開に必要な構成要素（アセスメント，計画の立案，介護の実施，評価など）<br><br>(5)総合生活支援技術演習（担当　韓 在都）<br>・事例による展開 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的な発言・筆記・質問を評価する。 |
| レポート | 40 | こころとからだの仕組みについて身に付けた基本的知識・技術・考え方を，実生活に生かす意欲や方法について述べていること。レポートについては，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 30 | 基本的知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため，全出席を原則とする。<br>本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業にのぞめるよう，服装や環境整備に留意することを求む。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。<br>2 授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。<br>3 発展学修として授業で学んだことを実生活で生かす。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト 第4分冊：技術と実践 | 公益財団法人 介護労働安定センター | 公益財団法人 介護労働安定センター | 978-4-907035-48-8 | 2000＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・ケアマネジャー（中野ひとみ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | ヒューマンケア (5) | | | 授業番号 | HW302 | サブタイトル | 生活支援技術の基本 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 9単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 介護が必要な人たちの尊厳を保持し，自立及び自律を尊重し，持っている力を発揮できるようなこころとからだのしくみを理解した上で，生活を支える具体的な介護技術を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)生活支援技術の基本を習得するための原理を説明することができる。<br>(2)生活支援技術の知識と実践を統合し，基本となる生活支援技術について説明することができる。<br>(3)多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙することができる。<br>(4)多面的な生活支援を展開するための技能について説明することができる。<br>なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第2回 | 整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第3回 | 整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第4回 | 整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第5回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第6回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第7回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第8回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第9回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第10回 | 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第11回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第12回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第13回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第14回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第15回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第17回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第18回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第19回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第20回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第21回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第22回 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第23回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第24回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第25回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第26回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第27回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第28回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第29回 | 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 韓　在都 |
| 第30回 | 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 100 | 各回の授業で行う介護技術の修得度を，実技発表の形で毎回確認し評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。<br>本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。 |
| 受講の心得 | こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業に臨めるよう，服装や環境整備に留意することを求める。<br>また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。<br>2　授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。<br>3　発展学修として，授業で学んだ技術は練習する。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護職員初任者研修テキスト　第4分冊：技術と実践 | 公益財団法人　介護労働安定センター | 公益財団法人　介護労働安定センター | 978-4-907035-48-8 | 2000＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | 介護の基本Ⅱ－A | | | 授業番号 | HW303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護を必要とする人の生活を支援する視点から，介護福祉を必要とする人の理解，介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ，介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)日常の生活を構成する重要な要素について説明することができる。<br>(2)介護福祉を必要とする人たちの多様性について説明することができる。<br>(3)リスクマネジメントの必要性とその方法について説明することができる。<br>(4)地域連携や感染症予防のポイントを列挙することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護を必要とする人の生活支援の全体像を理解する | |
| 第2回 | 私たちの生活の理解（生活とは何かについて学ぶ） | |
| 第3回 | 生活の特性（いくつもの暮らし方があることについて学ぶ） | |
| 第4回 | 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解（歴史と，その多様性を理解する） | |
| 第5回 | 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解（その人らしさについて理解する） | |
| 第6回 | 家族介護者への支援（家族介護に関する具体的な支援について学ぶ） | |
| 第7回 | 生活を支えるしくみ「フォーマルサービス（社会的サービス）」 | |
| 第8回 | 生活を支えるしくみ「インフォーマルサービス（私的サービス）」 | |
| 第9回 | 地域連携の意義と目的（地域連携の重要性について学ぶ） | |
| 第10回 | 地域連携に関わる機関の理解（地域連携に関わる組織や団体について学ぶ） | |
| 第11回 | 介護における安全の確保（セーフティマネジメントの考え方を理解する） | |
| 第12回 | リスクマネジメントとは何か（ルールや約束を守る事の重要性について学ぶ） | |
| 第13回 | 事故防止のための対策（事故防止，予防のための対策について学ぶ） | |
| 第14回 | 介護福祉職に必要な感染症対策（高齢者の特性を理解し，感染症対策について学ぶ） | |
| 第15回 | 安全な薬物療法を支える視点・連携（服薬管理の工夫と留意ぞ事項について学ぶ） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。 |
| レポート | 20 | グループワークによるレポート，発表を評価する。 |
| 小テスト | 10 | 予習・復習の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。 |
| 受講の心得 | 将来，介護福祉士として大切な心得を学ぶ科目です。知識や技術を身に着けるだけではなく，介護のプロとしての価値観を確立できるように努めること。 |
| 授業外学修 | 1. 講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること<br>2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること<br>3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護福祉士養成講座４　介護の基本II | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規 | 978-4-8058-5764-9 | 2420円（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が，その経験を生かして介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方について授業を行う。 |

| 科目名 | 介護の基本Ⅱ－B | | | 授業番号 | HW304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目は，多職種協働による介護実践のために，医療・保健・福祉機関に関する，他の専門職との連携，協力及び必要に応じた対応能力を養う。また，介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理を理解する。本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行います。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)多職種連携・協働の必要性や目的・効果について説明することができる。<br>(2)多職種協働におけるコミュニケーション能力の重要性について説明することができる。<br>(3)働く人の健康や生活を守る法制度を理解し，説明することができる。<br>(4)保健・医療・福祉職の役割と機能のポイントを列挙できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 多職種連携・協働とは（多職種連携・協働の必要性について学ぶ） | |
| 第2回 | 多職種連携・協働の必要性（多職種連携・協働の目的と効果について学ぶ） | |
| 第3回 | 多職種連携・協働を阻むもの（専門職の自律性，養成教育の問題点を理解する） | |
| 第4回 | 介護実践の場で多職種連携・協働に求められる意味（介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について学ぶ） | |
| 第5回 | 多職種連携・協働のためのチームづくり（チームづくりの意義について学ぶ） | |
| 第6回 | 問題解決に対する多職種のかかわり（多様な視点と受容について学ぶ） | |
| 第7回 | 保健・医療・福祉職の役割と機能（1）（介護福祉職と協働する様々な職種について学ぶ） | |
| 第8回 | 保健・医療・福祉職の役割と機能（2）（介護福祉職と協働する様々な職種について学ぶ） | |
| 第9回 | 専門職連携実践とは何か（専門職連携実践（IPW）の内容と実践タイプについて学ぶ） | |
| 第10回 | 特別養護老人ホームの連携の実態調査（介護福祉職と多職種間の知識の共有について学ぶ） | |
| 第11回 | 自立支援介護における多職種連携の実際（自立支援の5つの視点から学ぶ） | |
| 第12回 | 介護従事者の健康管理の意義と目的（働く人の健康や生活を守る法制度について学ぶ） | |
| 第13回 | こころの健康管理（ストレスと心の健康との関係について学ぶ） | |
| 第14回 | 身体の健康管理（介護従事者の身体の健康障害の要因について学ぶ） | |
| 第15回 | 労働環境の整備（労働条件の整備について学ぶ） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。 |
| レポート | 20 | グループワークによるレポート，発表を評価する。 |
| 小テスト | 10 | 予習・復習の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。 |
| 受講の心得 | 本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行う。積極的なコミュニケーションを試みること。 |
| 授業外学修 | 1. 講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること。<br>2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること。<br>3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護福祉士養成講座４　介護の基本II | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規 | 978-4-8058-5764-9 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が，介護現場における多職種連携の機能と役割，介護従事者の安全の実際に関して解説する。 |

| 科目名 | 認知症の理解Ⅱ | | | 授業番号 | HW305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では認知症に関する基礎的知識をもとに，認知症ケアを具体的に講義する。<br>認知症の方への支援だけではなく家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための講義を行う。<br>介護実習IIでの実践と関連づけながら，基本的な考え方を身につけるための講義を行う。<br>ケアマネジメントの視点で介護が展開できるように，具体的な事例に対して，認知症の家族への支援や権利を守るための取り組みについて説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)認知症ケアの実際について基本的な考え方や姿勢について具体的に説明することができる。<br>(2)認知症の人とのコミュニケーションを理解し，基本的な方法を列挙することができる。<br>(3)認知症の人へのさまざまなアプローチの方法を理解し，その方法について説明することができる。<br>(4)認知症の人の生活支援技術を理解し，介護過程の展開ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 認知症ケアの実際（パーソン・センタード・ケアについて学ぶ） | |
| 第2回 | 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール（センター方式，ひもときシートなど） | |
| 第3回 | 認知症の人とのコミュニケーション（認知症の人の言動の背景について学ぶ） | |
| 第4回 | 認知症の人へのケア１（生活の場と介護について学ぶ） | |
| 第5回 | 認知症の人へのケア２（生活の場と介護について学ぶ） | |
| 第6回 | 認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユマニチュード，バリデーションなど） | |
| 第7回 | 認知症の人の終末期医療と介護（終末期における高齢者の状態を理解する） | |
| 第8回 | 認知症と環境づくり（適切な環境づくりの重要性について学ぶ） | |
| 第9回 | 介護者支援１（家族介護者の現状と課題について学ぶ） | |
| 第10回 | 介護者支援２（レスパイトケアなどについて学ぶ） | |
| 第11回 | 介護者支援３（介護福祉職が安心して働き続けられる環境の整備について学ぶ） | |
| 第12回 | 連携と協働（地域におけるサポート体制・チームアプローチ） | |
| 第13回 | 認知症の人の生活支援技術　事例(１)グループワーク | |
| 第14回 | 認知症の人の生活支援技術　事例(２)グループワーク | |
| 第15回 | 認知症ケアのまとめ　総合学習 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式をグループ討議で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。<br>・認知症の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，課題のレポートを書く。<br>３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護福祉士養成講座13　認知症の理解 | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規 | 978-4-8058-5773-1 | 2420（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。 |

| 科目名 | 発達と老化の理解 | | | 授業番号 | HW306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，人間の発達段階に応じたこころとからだのしくみを理解する。<br>特に発達の観点から，人間が老化することによって起きる身機能の変化と特徴，成人期以降に発症しやすい生活習慣病をはじめとする代表的な疾患に関する医学的基礎的知識を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について説明できる。<br>(2)人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できる。<br>(3)老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた医療や介護の場で応用実践できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は医療機関や福祉施設での就職を希望する学生への対応科目である。<br>よって，専門的医学知識を学び，患者や利用者の健康とQOL向上を目指すための科目だと心得てほしい。<br>また，本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人間の成長と発達・ライフサイクルを理解する。 | |
| 第2回 | 人間の老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活を理解する。 | |
| 第3回 | 高齢期に多い症状・訴えとその留意点<br>(1)生理的機能・身体的機能の低下を理解する。 | |
| 第4回 | 高齢期に多い症状・訴えとその留意点<br>(2)エイジング・慢性疾患を理解する。 | |
| 第5回 | 成人期に多い病気とその日常生活の留意点<br>(1)3大生活習慣病(糖尿病）を理解する。 | |
| 第6回 | 成人期に多い病気とその日常生活の留意点<br>(2)3大生活習慣病（高血圧・脂質異常症）を理解する。 | |
| 第7回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(3)骨・関節系の病気，歯・口腔の病気を理解する。 | |
| 第8回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(4)眼の病気・耳の病気を理解する。 | |
| 第9回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(5)皮膚の病気・呼吸器の病気を理解する。 | |
| 第10回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(6)腎・泌尿器の病気を理解する。 | |
| 第11回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(7)消化器系疾患・循環器系疾患を理解する。 | |
| 第12回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(8)神経疾患・感染症を理解する。 | |
| 第13回 | 第3回～12回までの各疾患に対する総合的まとめを行う。 | |
| 第14回 | (1)保健医療チームとの連携・保健医療職との連携のポイントについて理解する。 | |
| 第15回 | (2)保健医療チームとの連携・保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式を中心として進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・講義を聴講するだけではなく，大切なところはメモを取り，疑問点は明らかにする。<br>・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。<br>・難解な医療専門用語が講義中に多く出てきます。テキストには必ず眼を通しておいてください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解 | 秋山昌江ほか | 中央法規出版 | 978-4-8058-5772-4 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。<br>自分の将来のため，目的意識を持ち受講態度で臨むように努めてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かして，医療的知識や技術を指導する。 |

| 科目名 | 障害の理解 | | | 授業番号 | HW307 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，障害のある人だけではなく，その家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。<br>また，障害の基礎的理解や医学的側面の両方を身につけ，生活支援へ必要な課題解決能力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し，各障害に応じた介護の介護の留意点が説明できる。<br>(2)障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について説明できる。<br>(3)障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 障害の基本的理解（概要・基本的な考え方・自己概念）を理解する。 | |
| 第2回 | 障害の基本的理解（ICFの理解）を理解する。 | |
| 第3回 | 障害者福祉の基本的理念（ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン）を理解する。 | |
| 第4回 | 障害者福祉の基本的理念（様々な障壁）を理解する。 | |
| 第5回 | 障害者の権利条約（制度の概要・関連制度）を理解する。 | |
| 第6回 | 障害のある人の基本的視点（援助の原則・権利擁護）（医学モデルと社会モデル・エンパワメント）を理解する。 | |
| 第7回 | 障害のある人の基本的視点（医学モデルと社会モデル・エンパワメント）を理解する。 | |
| 第8回 | 障害の理解（肢体不自由）を理解する。 | |
| 第9回 | 障害の理解（内部障害(1)）を理解する。 | |
| 第10回 | 障害の理解（内部障害(2)）を理解する。 | |
| 第11回 | 障害の理解（視覚・聴覚・言語障害）を理解する。 | |
| 第12回 | 障害の理解（発達障害）を理解する。 | |
| 第13回 | 障害の理解（精神障害・高次脳機能障害）を理解する。 | |
| 第14回 | 障害の理解（難病・その他の障害）を理解する。 | |
| 第15回 | 連携と協働・家族への支援・まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式を中心として進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・障害者の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，課題のレポートを書く。<br>3．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座14　障害の理解 | 川井太加子 | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 視聴覚教材 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。 |

| 科目名 | こころとからだのしくみⅠ | | | 授業番号 | HW308 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，介護福祉士として人体の構造やこころのしくみについて学び，利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容を理解する。<br>人間のこころとからだのしくみを理解し，より質の高いサービスの仕方について習得する。<br>こころのしくみ に関する諸理論や，感情のしくみ，からだのしくみ，ボディメカニクス，身じたく，排泄，食事，睡眠等について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)生活支援に必要なこころとからだのしくみについて説明できる。<br>(2)身体的機能低下，障害によってもたらされるこころとからだの変化と生活に及ぼす影響について説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | こころとからだの基礎<br>(1)人間の基本的欲求(2)生命の維持・恒常性・バイタルサイン(3)人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域を理解する。 | |
| 第2回 | 移動に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなどを理解する。 | |
| 第3回 | 移動に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が移動に及ぼす影響を理解する。 | |
| 第4回 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ<br>(1)身じたくの行為の生理的意味・爪，毛髪，口腔の清潔などを理解する。 | |
| 第5回 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響を理解する。 | |
| 第6回 | 食事に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)栄養素・水分量・食べることの生理的意味などを理解する。 | |
| 第7回 | 食事に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が食事に及ぼす影響を理解する。 | |
| 第8回 | 入浴に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)清潔が保てない人の心理・清潔保持を理解する。 | |
| 第9回 | 入浴に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響を理解する。 | |
| 第10回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)排泄のメカニズム・排泄障害の種類を理解する。 | |
| 第11回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響を理解する。 | |
| 第12回 | 睡眠に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)睡眠とは何か・睡眠障害を理解する。 | |
| 第13回 | 睡眠に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響を理解する。 | |
| 第14回 | 終末期に関連したこころとからだのしくみ<br>(1)死について・からだの変化を理解する。 | |
| 第15回 | 終末期に関連したこころとからだのしくみ<br>(2)死に対するこころの理解・家族支援・医療職との連携・まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・疾患に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ | 秋山昌江 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5771-7 | 2600円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かして，現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。 |

| 科目名 | こころとからだのしくみⅡ | | | 授業番号 | HW309 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，介護福祉士として対象者の生活支援の根拠となる人体の構造やこころのしくみについて講義を行う。<br>介護福祉士として利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容の講義を行う。<br>介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために，介護技術の根拠となる基本的事項の講義を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)生活支援技術とこころとからだのしくみを関連づけて説明することができる。<br>(2)機能低下や障害によってもたらされる，こころとからだの変化について説明することができる。<br>(3)介護の対象が持つ心身面の背景を理解するための視点を説明することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | こころとからだの基礎（(1)人間の基本的欲求(2)生命の維持・恒常性・バイタルサイン(3)人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域） | |
| 第2回 | 移動に関連したこころとからだのしくみ(1)（移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなど） | |
| 第3回 | 移動に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移動に及ぼす影響） | |
| 第4回 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1)（身じたくの行為の生理的意味・爪，毛髪，口腔の清潔など） | |
| 第5回 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響） | |
| 第6回 | 食事に関連したこころとからだのしくみ(1)（栄養素・水分量・食べることの生理的意味など） | |
| 第7回 | 食事に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が食事に及ぼす影響） | |
| 第8回 | 入浴に関連したこころとからだのしくみ(1)（清潔が保てない人の心理・清潔保持） | |
| 第9回 | 入浴に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響） | |
| 第10回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)（排泄のメカニズム・排泄障害の種類） | |
| 第11回 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響） | |
| 第12回 | 睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1)（睡眠とは何か・睡眠障害） | |
| 第13回 | 睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響） | |
| 第14回 | 終末期に関連したこころとからだのしくみ(1)（死について・からだの変化） | |
| 第15回 | 終末期に関連したこころとからだのしくみ(2)（死に対するこころの理解・家族支援）<br>医療職との連携・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・自分のこころとからだに関連させながら学んでください。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，課題のレポートを書く。<br>３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。<br><br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規 | 978-4-8058-5771-7 | 2600＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>視聴覚教材 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・ 介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。 |

| 科目名 | 生活コミュニケーション特論 | | | 授業番号 | HW310 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び，介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。<br>生活コミュニケーション特論では，本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を修得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて，情報共有の意義，活用，管理などに関する基本知識・技術について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)コミュニケーション障害について理解し，対象者の状況に応じたコミュニケーションを図り，信頼関係の構築ができる。<br>(2)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につけることができる。<br>(3)多職種協働におけるチームのコミュニケーションが図れるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 介護におけるコミュニケーションの基本 | |
| 第2回 | 介護におけるコミュニケーションの対象・援助関係とコミュニケーション | |
| 第3回 | 言語コミュニケーション | |
| 第4回 | 非言語コミュニケーション | |
| 第5回 | 介護現場におけるコミュニケーションの実際 | |
| 第6回 | コミュニケーション障害への対応の基本的姿勢 | |
| 第7回 | 視覚障害に応じたコミュニケーション | |
| 第8回 | 聴覚・言語障害に応じたコミュニケーション | |
| 第9回 | 精神障害に応じたコミュニケーション | |
| 第10回 | 高次脳機能障害・認知症に応じたコミュニケーション | |
| 第11回 | 知的・発達障害に応じたコミュニケーション | |
| 第12回 | 身体障害に応じたコミュニケーション | |
| 第13回 | 家族とのコミュニケーション | |
| 第14回 | 多職種協働におけるコミュニケーション | |
| 第15回 | 介護におけるコミュニケーションの基本・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 20 | 資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業内容が理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書5 コミュニケーション技術 | | 中央法規 | 978-4-8058-5765-6 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | その都度，授業資料・参考資料を配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 生活支援技術Ⅱ | | | 授業番号 | HW311 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 生活支援技術IIでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。<br>自立に向けた入浴・清潔保持，排せつ，休息・睡眠，人生の最終段階における介護ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)自立に向けた入浴・清潔保持の介護を理解することができる。<br>(2)自立に向けた排泄の介護を理解することができる。<br>(3)休息・睡眠の介護を理解することができる。<br>(4)人生の最終段階における介護を理解することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自立に向けた衣服の着脱介助 | |
| 第2回 | 座位での着脱介助 | |
| 第3回 | 臥位での着脱介助（1） | |
| 第4回 | 臥位での着脱介助（2） | |
| 第5回 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 | |
| 第6回 | 清拭の介助(1) | |
| 第7回 | 清拭の介助(2) | |
| 第8回 | 洗髪・洗身の介助(1) | |
| 第9回 | 洗髪・洗身の介助(2) | |
| 第10回 | 洗髪・洗身の介助(3) | |
| 第11回 | 特殊浴槽の介助(1) | |
| 第12回 | 特殊浴槽の介助(2) | |
| 第13回 | 入浴・清潔保持の介護における多職種協働 | |
| 第14回 | 自立に向けた排泄の介護 | |
| 第15回 | 泄用具を活用した排泄介助 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | トイレでの排泄介助 | |
| 第17回 | ポータブルトイレでの排泄介助(1) | |
| 第18回 | ポータブルトイレでの排泄介助(2) | |
| 第19回 | ベット上での排泄介助(1) | |
| 第20回 | ベット上での排泄介助(2) | |
| 第21回 | ベット上での排泄介助(3) | |
| 第22回 | 自立に向けた休息・睡眠の介護 | |
| 第23回 | 休息・睡眠の介護における多職種協働 | |
| 第24回 | 人生の最終段階における介護 | |
| 第25回 | 人生の最終段階の意義と介護の役割 | |
| 第26回 | 人生の最終段階における生活支援技術 | |
| 第27回 | 人生の最終段階の介護における多職種協働 | |
| 第28回 | 実技試験に向けて（移動・衣服の着脱・排せつ介助等） | |
| 第29回 | 実技試験 | |
| 第30回 | 自立に向けた生活支援・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 10 | 実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。 |
| 小テスト | 20 | 事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験） |
| 定期試験 | 60 | 授業の内容が理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。<br>・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。<br>・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | １．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>３．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。<br>４．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座 7　生活支援技術II | | 中央法規 | :978-4-8058-8396-9 | 2200 |
| 最新介護福祉士養成講座 6　生活支援技術I | | 中央法規 | 978-4-8058-8395-2 | 2200 |
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | 実習日は実習服，室内シューズを持参してください。<br>頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。 | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 生活支援技術Ⅲ | | | 授業番号 | HW312 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 「生活支援技術III」では，障害や疾病のある人について，医学的・心理的側面から理解するとともに生活上の困り事を理解する。また，障害やしっぺいのある人の生活を支援するために介護福祉職が果たすべき役割を理解する。特に各障害や疾病の原因や症状をを学ぶことによって具体的な支援方法や内容を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護を必要とする人の障害や疾病内容を説明することができる。<br>(2)生活上の困りごとの観察ができる。<br>(3)障害や利用者の身体の状況に合わせた介護，環境整備について説明することができる。<br>(4)利用者がその人らしい生き方を継続する為にどのような支援が必要か説明することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは（障害や疾病とともに生活する人の背景について学ぶ） | |
| 第2回 | 障害に応じた生活支援技術（肢体不自由に応じた介護(1)） | |
| 第3回 | 障害に応じた生活支援技術（肢体不自由に応じた介護(2)） | |
| 第4回 | 障害に応じた生活支援技術（聴覚・言語障害に応じた介護(1)） | |
| 第5回 | 障害に応じた生活支援技術（聴覚・言語障害に応じた介(2)） | |
| 第6回 | 障害に応じた生活支援技術（重複障害（盲ろう）に応じた介護） | |
| 第7回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】心臓機能障害に応じた介護(1)） | |
| 第8回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】心臓機能障害に応じた介護(2)） | |
| 第9回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護） | |
| 第10回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護） | |
| 第11回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護(1)） | |
| 第12回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護(2)） | |
| 第13回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】小腸機能障害に応じた介護） | |
| 第14回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】HIVによる免疫機能機能障害に応じた介護） | |
| 第15回 | 障害に応じた生活支援技術（【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護） | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 障害に応じた生活支援技術（重症心身障害に応じた介護） | |
| 第17回 | 演習１（振り返り(1)） | |
| 第18回 | 演習１（振り返り(2)） | |
| 第19回 | 障害に応じた生活支援技術II（知的障害に応じた介護） | |
| 第20回 | 障害に応じた生活支援技術II（精神障害に応じた介護(1)） | |
| 第21回 | 障害に応じた生活支援技術II（精神障害に応じた介護(2)） | |
| 第22回 | 障害に応じた生活支援技術II（高次機能障害に応じた介護） | |
| 第23回 | 障害に応じた生活支援技術II（発達障害に応じた介護(1)） | |
| 第24回 | 障害に応じた生活支援技術II（【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護） | |
| 第25回 | 障害に応じた生活支援技術II（【難病】パーキンソン病に応じた介護） | |
| 第26回 | 障害に応じた生活支援技術II（【難病】悪性関節リュウマチに応じた介護） | |
| 第27回 | 障害に応じた生活支援技術II（【難病】筋ジストロフィーに応じた介護） | |
| 第28回 | 食事の介護における他職種の役割と協働 | |
| 第29回 | 演習２（振り返り(1)） | |
| 第30回 | 演習２（振り返り(2)） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。 |
| レポート | 10 | 実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。 |
| 小テスト | 10 | 車椅子や身体部位の名称等の小テストにて評価します |
| 定期試験 | 60 | 授業の内容が理解できているか評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に障害や疾病の概要の基礎的知識を学び，その具体的な支援内容や支援方法を修得します。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。<br>・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自国家試験対策にも目を通すようにしてください。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。<br>3．演習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新・介護福祉士養成講座８　生活支援技術III | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規 | 978-4-8058-8397-6 | 2420（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＫⅢ | | | 授業番号 | HW313 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合生活学セミナーKIIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。<br>各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。<br>また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。<br>(1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。<br>(2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。<br>(3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。<br>(4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 訪問介護事業所の実習を終えて | 森田 |
| 第2回 | 訪問介護実習の振り返り・実習報告会 | 森田，松井，中野，韓 |
| 第3回 | 訪問介護実習での（実習I-(2)B）実習まとめ | 森田 |
| 第4回 | 介護実習I-(3)の意義と目的 | 森田 |
| 第5回 | 地域密着型施設について | 森田 |
| 第6回 | 認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護での実習準備 | 森田 |
| 第7回 | 地域密着型施設での実習を終えて | 森田 |
| 第8回 | 地域密着型実習の振り返り・実習報告会 | 森田，松井，中野，韓 |
| 第9回 | 施設・在宅での生活支援技術について | 森田 |
| 第10回 | 家族との連携・地域との連携 | 森田 |
| 第11回 | 介護実習Iまとめ | 森田 |
| 第12回 | 実習IIのねらい・進め方 | 森田 |
| 第13回 | 実習における介護過程の展開 | 森田 |
| 第14回 | 実習IIにおける個別支援計画の作成 | 森田 |
| 第15回 | 実習IIに向けて・まとめ | 森田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。 |
| レポート | 30 | 実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 学内学習と介護現場での学びを統合し，介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。<br>2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 | 介護総合演習・介護実習 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5770-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 総合生活学セミナーＫⅣ | 授業番号 | HW314 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | |

| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 総合生活学セミナーKIVは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。<br>各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。 |
| 到達目標 | 標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。<br>また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。<br>(1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。<br>(2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。<br>(3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。<br>(4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 実習IIにおける介護過程の展開方法(1) | 森田 |
| 第2回 | 実習IIにおける介護過程の展開方法(2)（実習におけるスーパービジョン） | 森田 |
| 第3回 | 実習IIにおける記録について | 森田 |
| 第4回 | 実習IIの準備 | 森田 |
| 第5回 | 実習II（介護保険施設実習）を終えて | 森田 |
| 第6回 | 自己評価と客観的評価 | 森田 |
| 第7回 | 実習のまとめ，実習報告会 | 森田，松井，中野，韓 |
| 第8回 | 学びの共有･深化 | 森田 |
| 第9回 | 自己の課題と展望 | 森田 |
| 第10回 | 介護実践の研究 | 森田 |
| 第11回 | 研究の意義と目的 | 森田 |
| 第12回 | 研究方法の理解 | 森田 |
| 第13回 | 倫理的配慮 | 森田 |
| 第14回 | 研究内容の発表 | 森田 |
| 第15回 | 実習IIまとめ | 森田 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。 |
| レポート | 30 | 実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 学内学習と介護現場での学びを統合し，介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。<br>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。<br>・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。<br>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。<br>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。 |
| 授業外学修 | 1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。<br>2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。<br>3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。<br>4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。<br>5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 | 介護総合演習・介護実習 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5770-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト<br>実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 介護過程Ⅲ | | | 授業番号 | HW315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 韓　在都 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 介護計画を立案して適切なサービスを提供するためには，ケアマネジメント過程の中で，多職種連携や社会資源などの利用によるチームアプローチが必要なことを学ぶ。<br>介護過程IIに引き続き，　事例を通して介護過程の展開を実施し，　介護実習で体験した事例を振り返りながら介護実践の評価の方法を学ぶ。介護過程の展開が適切に展開できることを目標とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護過程I，IIで学習した内容を活用し，介護過程の展開について説明することができる。<br>(2)様々な事例を通して適切な介護計画を立案する際に根拠に基づいた思考ができる。<br>(3)どのような利用者についても適切に介護過程を展開できる力を身につける。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 事例から学ぶ　（アセスメントの実際(1)） | |
| 第2回 | 事例から学ぶ　（アセスメントの実際(2)） | |
| 第3回 | 事例から学ぶ　（介護計画の立案の留意点を学ぶ） | |
| 第4回 | 事例から学ぶ　（介護計画の立案について5W1Hの視点から学ぶ） | |
| 第5回 | 事例から学ぶ　（援助内容と実践方法についてICFの視点から学ぶ） | |
| 第6回 | 事例から学ぶ　（援助内容と実践方法についてPDCAサイクルの視点から学ぶ） | |
| 第7回 | 事例から学ぶ　（援助内容と実践方法について多職種連携の視点から学ぶ） | |
| 第8回 | 事例から学ぶ　（援助内容と実践方法について社会資源の活用の視点から学ぶ） | |
| 第9回 | 中間振り返り　（事例検討を行い，　介護過程の展開について理解する） | |
| 第10回 | 評価の意義と展開（評価の内容や項目を理解する） | |
| 第11回 | 評価の留意点を理解する（5W1HとICFの視点から学ぶ） | |
| 第12回 | 評価の留意点を理解する（PDCAサイクルの視点から学ぶ） | |
| 第13回 | 計画修正について（5W1HとICFの視点から学ぶ） | |
| 第14回 | 計画修正について（PDCAサイクル，　多職種連携，　社会資源の視点から） | |
| 第15回 | まとめと振り返り（介護過程展開の理解） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的に授業に取り組めたか，提出状況，指導教員との質疑応答等を評価する |
| レポート | 30 | 根拠に基づく事例研究ができたか評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 介護過程の展開，ICFと介護計画の関連について理解の程度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 介護福祉士コースの1年間を学習して得た知識と介護実習の体験をもとに，介護現場でフールに活用できる専門的知識・技術を深める科目です。<br>介護福祉士は介護過程に沿った介護実践を行い，評価することで，自己を振り返り，新たな課題を発見することが日々の援助です。<br>常に問題意識を持って，探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。 |
| 授業外学修 | 1．この科目は事例をもとに対人援助の基本的な知識を学ぶことが目標です。<br>2．今までの学んできた知識や経験を活かしながら，　対人援助についてより深い知識を重ねる，介護の集大成的な科目であることを理解してください。<br>3．授業中に行われるグループディスカッションに積極的に参加してください。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 介護過程 | 介護福祉士養成講座　9 | 中央法規 | 978-4-8058-8398-3 | 2200円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 専攻科修了研究<br>その他授業の中で参考図書を紹介します |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士・介護職員・訪問介護員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 介護実習Ⅰ－③ | | | 授業番号 | HW316 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。<br>本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。<br>介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。<br>(2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。<br>(3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。<br>(4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。<br>(5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 実習I−(3)　地域密着型施設（小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護）<br><br>1日8時間×10日間（80時間）　2年次5月の第4週～5週に実施<br><br>地域密着型施設における地域に根ざした介護サービスについて実習を行う。<br><br>【内容】<br>地域密着型施設の特徴・役割の理解，地域密着型施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解，<br>介護過程の展開（アセスメント，計画の立案）生活支援技術の実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 25 | 実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50（実習担当者25・教員25） | 実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。<br>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。<br>(2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。<br>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。<br>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。<br>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。<br>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。 |
| 授業外学修 | 1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。<br>2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。<br>3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。<br>4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。<br>5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。<br>　また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。<br><br>以上の内容を，毎日1時間学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規 | 978-4-8058-5770-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等）<br>介護実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 実習指導者（介護福祉士） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 医療的ケアⅠ | | | 授業番号 | HW317 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では医療を必要とする人の安全と生活を守るための基礎的知識を修得するための講義を行う。<br>「人間と社会」,「保健医療制度とチーム医療」,「安全な療養生活」,「清潔保持と感染」,「健康状態の保持」について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ．介護福祉士としての倫理的配慮ができ，必要な喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができる。<br>．介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために，必要な基本的知識を身につけることができる。<br>・喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本講義は厚生労働省の規定による基本研修によるものであり，講義時間50時間以上で構成されている。<br>授業計画（34回） | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人間と社会(個人の尊厳・医療と介護の倫理・個人情報と守秘義務)を理解する。 | |
| 第2回 | 人間と社会(医療的ケアを受ける利用者の対応・介護，看護の立場・生活支援)を理解する。 | |
| 第3回 | 保健医療制度とチーム医療医療(保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律)を理解する。 | |
| 第4回 | 保健医療制度とチーム医療医療(喀痰吸引と経管栄養についての介護の連携)を理解する。 | |
| 第5回 | 安全な療養生活(喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネージメント)を理解する。 | |
| 第6回 | 安全な療養生活(ヒヤリハットとアクシデント・救急蘇生)を理解する。 | |
| 第7回 | 安全な療養生活(救急蘇生)を理解する。 | |
| 第8回 | 清潔保持と感染予防(標準予防策・手洗い・うがい・手指消毒等)を理解する。 | |
| 第9回 | 清潔保持と感染予防(職員の感染予防対策・生活環境)を理解する。 | |
| 第10回 | 清潔保持と感染予防(医療廃棄物)を理解する。 | |
| 第11回 | 健康状態の把握(平常時の健康状態の把握・健康の観察法と平常時の違い)を理解する。 | |
| 第12回 | 健康状態の把握(バイタルサインとその見方)を理解する。 | |
| 第13回 | 健康状態の把握(バイタルバイタルサインとその方法)を理解する。 | |
| 第14回 | 健康状態の把握(急変時の把握とその対応・準備)を理解する。 | |
| 第15回 | (1)高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(呼吸のしくみとはたらき)を理解する。 | |
| 第16回 | (2)高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(呼吸のしくみとはたらき)を理解する。 | |
| 第17回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(喀痰吸引とは)を理解する。 | |
| 第18回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(人工呼吸器と吸引)を理解する。 | |
| 第19回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(子どもの吸引)を理解する。 | |
| 第20回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(利用者や家族の気持ち)を理解する。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第21回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(呼吸器系の感染と予防)を理解する。 | |
| 第22回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(実施実施手順と留意点)を理解する。 | |
| 第23回 | 高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(喀痰吸引に伴うケア)を理解する。 | |
| 第24回 | (1)高齢者及び障害者・児の経管栄養(消化器系のしくみとはたらき)を理解する。 | |
| 第25回 | (2)高齢者及び障害者・児の経管栄養(消化器系のしくみとはたらき)を理解する。 | |
| 第26回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(経管栄養とは)を理解する。 | |
| 第27回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(注入注入する内容についての知識)を理解する。 | |
| 第28回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(実施するうえでの留意点)を理解する。 | |
| 第29回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(子どもの経管栄養)を理解する。 | |
| 第30回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(緊急時の対応)を理解する。 | |
| 第31回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(実施手順の留意点)を理解する。 | |
| 第32回 | 高齢者及び障害者・児の経管栄養(経管栄養に必要なケア)を理解する。 | |
| 第33回 | 喀痰吸引や経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応を理解する。 | |
| 第34回 | 急変・事故発生時の対応と報告・記録・まとめを行う。 | |
| 第35回 | | |
| 第36回 | | |
| 第37回 | | |
| 第38回 | | |
| 第39回 | | |
| 第40回 | | |
| 第41回 | | |
| 第42回 | | |
| 第43回 | | |
| 第44回 | | |
| 第45回 | | |

| | |
|---|---|
| 授業計画　備考2 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。<br>なお大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，小テスト・定期試験共に9割以上を合格とする。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。<br>また，各単元ごとに小テストを実施します。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座15医療的ケア | 川井太加子他 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5775-5 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。 |

| 科目名 | 介護実習Ⅱ | | | 授業番号 | HW401 | サブタイトル | 生活福祉コース対象 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 5単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。<br>本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。<br>実習IIでは，個別ケアを行うために，個々の生活リズムや個性を理解し，利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成，実施，実施後の評価，計画の修正といった一連の介護過程を展開し，他科目で学習した知識や技術を総合して，具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)介護保険制度における入所施設の役割及び生活支援について理解できる。<br>(2)利用者・家族とのかかわりをとおしてコミュニケーションを図り，個別に応じた生活支援技術について理解できる。<br>(3)対象利用者の個別ニーズを把握し，利用者の望む生活に向けた支援を展開できる。<br>(4)介護過程に取り組み，個別介護計画の立案・実践・評価・修正を行うことができる。<br>(5)介護過程の展開における他職種の役割と多職種協働について理解できる。<br>(6)介護理念・職業倫理について理解を深め，介護観を明確にすることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 実習II　高齢者入所施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）<br><br>1日8時間×25日（200時間）　2年次後期　10月第3週～11月第2週に実施<br><br>介護施設において，対象利用者を決め，一連の介護過程を展開の実習を行なう。<br><br>【内容】<br>介護施設の特徴・役割の理解，介護施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解，生活支援技術の実践，<br>中間の振り返り，介護過程の展開（アセスメント，計画の立案・実践・評価・再アセスメント），<br>サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習最終カンファレンス | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 25 | 実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。 |
| レポート | 25 | 実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。特に介護過程の展開内容の記録に重点を置いて評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50（実習担当者25・教員25） | 実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限）の遵守を念頭において実習に望んでください。<br>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。<br>(2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。<br>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。<br>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。<br>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。<br>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。 |
| 授業外学修 | １．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。<br>２．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。<br>３．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。<br>４．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。<br>５．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。<br>　また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。<br><br>以上の内容を，毎日1時間学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規 | 978-4-8058-5770-0 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等）<br>介護実習の手引き |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 実習指導者（介護福祉士） |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)<br>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）<br>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓） |

| 科目名 | 医療的ケアⅡ | | | 授業番号 | HW402 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 本講義は，介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の行為を実施するために必要な基礎知識について修得するための講義を行う。<br>喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得し実践できるための講義を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・介護福祉士として医療的ケアである「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に基づき安全・適切に行うことができる。<br>・医療的ケアを実施する手順・留意点を述べることができる。<br>・喀痰吸引を安全・適切に実施することができる。<br>・経管栄養を安全・適切に実施することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本講義は，厚生労働省が規定する医療的ケアの基本研修であり省令で定める修得すべきすべての行為ごとの回数以上の演習を実施する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 喀痰吸引の演習の進め方・注意事項などオリエンテーションを行う。 | |
| 第2回 | 喀痰吸引演習(1)（口腔）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第3回 | 喀痰吸引演習(2)（口腔）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第4回 | 喀痰吸引演習(3)（口腔）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第5回 | 喀痰吸引演習(4)（口腔）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第6回 | 喀痰吸引演習(5)（鼻腔）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第7回 | 喀痰吸引演習(6)（鼻腔）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第8回 | 喀痰吸引演習(7)（鼻腔）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第9回 | 喀痰吸引演習(8)（鼻腔）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第10回 | 喀痰吸引実技確認試験（口腔）を行い，手技を理解する。 | |
| 第11回 | 喀痰吸引実技確認試験（鼻腔）を行い，手技を理解する。 | |
| 第12回 | 喀痰吸引演習(9)（気管カニューレ）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第13回 | 喀痰吸引演習(10)（気管カニューレ）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第14回 | 喀痰吸引演習(11)（気管カニューレ）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |
| 第15回 | 喀痰吸引演習(12)（気管カニューレ）<br>各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 第16回 | 喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ）を行い，手技を理解する。 | |
| 第17回 | 喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ）<br>試験終了後，経管栄栄養法の演習の進め方・注意事項などオリエンテーションを行う。 | |
| 第18回 | 経経管栄養法演習(1)（胃ろう）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第19回 | 経管栄養法演習(2)（胃ろう）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第20回 | 経管栄養法演習(3)（胃ろう）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第21回 | 経管栄養法演習(4)（胃ろう）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第22回 | 経管栄養法演習(5)（経鼻）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第23回 | 経管栄養法演習(6)（経鼻）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第24回 | 経管栄養法演習(7)（経鼻）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第25回 | 経管栄養法演習(8)（経鼻）<br>各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 | |
| 第26回 | 経管栄養法実技試験(1)（胃ろう）を行い，手技を理解する。 | |
| 第27回 | 経管栄養法実技試験(2)（経鼻）を行い，手技を理解する。 | |
| 第28回 | 経管栄養法実技試験(3)（胃ろう・経鼻）を行い，手技を理解する。 | |
| 第29回 | 緊急時の対応の仕方(1)講義およびDVD学習を行い，手技を理解する。 | |
| 第30回 | 緊急時の対応の仕方(2)AEDの実際・演習　まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 20 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 30 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，実技試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。<br>なお，大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，実技試験の8割以上を合格とする。<br>各単元ごとに技能修得判定を行う。なお，演習の修了が認められなかったものについては再度演習の課程を受講する必要がある。 |
| 受講の心得 | 本講義は実技演習をグループごとで進めていきます。<br>また，各単元ごとに小テストを実施します。<br>・テキストの授業該当部分を読み復習を行うこと。<br>・確実な実技の修得のため自己学修を行うこと。<br>・演習は必ず指定された実習着，靴を着用すること。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.確実なる実技の修得に向けて練習を重ねること。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座15医療的ケア | 川井太加子 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5775-5 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用テキストとは別に演習時は「医療的ケア演習要綱」の冊子が必ず必要である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 単元ごとの実技確認試験の後は，「リアクションシート」と「実習要綱」に必要事項を記載のうえ，試験終了後に速やかに提出すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高等学校教諭（看護）高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要や医療的知識や技術を身につけるよう指導する。 |

**中国短期大学　保育学科　シラバス**


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | | ページ数 |
|---|---|---|---|
| フレッシャーズセミナー | 松井　みさ／大橋　美佐子／大山　佐知子／土田　豊／平尾　太亮／鳥越　亜矢／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士 | ･････････ | 1 |
| 日本語表現 | 又吉　里美 | ･････････ | 3 |
| 芸　　術 | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 5 |
| 日本国憲法 | 俟野　英二 | ･････････ | 7 |
| 社会学 | 中田　周作 | ･････････ | 9 |
| 自然科学概論 | 岸　誠一 | ･････････ | 11 |
| 情報処理概論 1クラス | 赤木　竜也 | ･････････ | 13 |
| 情報処理概論 2クラス | 赤木　竜也 | ･････････ | 15 |
| 体育講義 1クラス(全8回) | 土田　豊 | ･････････ | 17 |
| 体育講義 2クラス(全8回) | 土田　豊 | ･････････ | 19 |
| 体育実技 1クラス | 土田　豊 | ･････････ | 21 |
| 体育実技 2クラス | 土田　豊 | ･････････ | 23 |
| 英　語　Ａ 1クラス | 高坂　勝彦 | ･････････ | 25 |
| 英　語　Ａ 2クラス | 高坂　勝彦 | ･････････ | 27 |
| 英　語　Ｂ | 藤代　昇丈 | ･････････ | 29 |
| 保育者基礎演習 | 松井　みさ／大橋　美佐子／大山　佐知子／土田　豊／平尾　太亮／鳥越　亜矢／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士 | ･････････ | 31 |
| 教育原理 1クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 33 |
| 教育原理 2クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 35 |
| 保育原理 1クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 37 |
| 保育原理 2クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 39 |
| 子ども家庭福祉 1クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 41 |
| 子ども家庭福祉 2クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 43 |
| 社会福祉 1クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 45 |
| 社会福祉 2クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 47 |
| 子ども家庭支援論 1クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 49 |
| 子ども家庭支援論 2クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 51 |
| 社会的養護Ⅰ 1クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 53 |
| 社会的養護Ⅰ 2クラス | 松井　圭三 | ･････････ | 55 |
| 保育者論 1クラス | 山本　房子 | ･････････ | 57 |
| 保育者論 2クラス | 山本　房子 | ･････････ | 59 |
| 教育心理学 1クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 61 |
| 教育心理学 2クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 63 |
| 子ども家庭支援の心理学 1クラス | 長櫓　涼子 | ･････････ | 65 |
| 子ども家庭支援の心理学 2クラス | 長櫓　涼子 | ･････････ | 67 |
| 子どもの理解と援助 1クラス | 山本　房子 | ･････････ | 69 |
| 子どもの理解と援助 2クラス | 山本　房子 | ･････････ | 71 |
| 子どもの保健 | 金山　時恵 | ･････････ | 73 |
| 子どもの食と栄養A 1クラス | 荻田　志津子 | ･････････ | 75 |
| 子どもの食と栄養A 2クラス | 荻田　志津子 | ･････････ | 77 |
| 子どもの食と栄養B | 荻田　志津子 | ･････････ | 79 |
| 教育相談 1クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 81 |
| 教育相談 2クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 83 |
| 教育・保育課程論 1クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 85 |
| 教育・保育課程論 2クラス | 藤井　裕士 | ･････････ | 87 |
| 保育内容総論 1クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 89 |
| 保育内容総論 2クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 91 |
| (保育内容)健康 1クラス | 土田　豊 | ･････････ | 93 |
| (保育内容)健康 2クラス | 土田　豊 | ･････････ | 95 |
| (保育内容)人間関係 1クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 97 |
| (保育内容)人間関係 2クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 99 |
| (保育内容)環境 1クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 101 |
| (保育内容)環境 2クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 103 |
| (保育内容)言葉 1クラス | 山本　房子 | ･････････ | 105 |
| (保育内容)言葉 2クラス | 山本　房子 | ･････････ | 107 |
| (保育内容)表現 1クラス | 大山　佐知子／鳥越　亜矢 | ･････････ | 109 |
| (保育内容)表現 2クラス | 大山　佐知子／鳥越　亜矢 | ･････････ | 111 |
| 保育内容の理解と方法A 1クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 113 |
| 保育内容の理解と方法A 2クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 115 |
| 保育内容の理解と方法B 1クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 117 |
| 保育内容の理解と方法B 2クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 119 |
| 乳児保育Ⅰ 1クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 121 |
| 乳児保育Ⅰ 2クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 123 |
| 子どもの健康と安全 1クラス | 野々上　敬子 | ･････････ | 125 |
| 子どもの健康と安全 2クラス | 野々上　敬子 | ･････････ | 127 |
| 特別支援教育入門 1クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 129 |
| 特別支援教育入門 2クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 131 |
| 社会的養護Ⅱ 1クラス | 津嶋　悟 | ･････････ | 133 |
| 社会的養護Ⅱ 2クラス | 津嶋　悟 | ･････････ | 135 |
| 子育て支援 1クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 137 |
| 子育て支援 2クラス | 平尾　太亮 | ･････････ | 139 |
| 健康の指導法 1クラス | 土田　豊 | ･････････ | 141 |
| 健康の指導法 2クラス | 土田　豊 | ･････････ | 143 |
| 人間関係の指導法 1クラス | 大橋　美佐子 | ･････････ | 145 |
| 人間関係の指導法 2クラス | 大橋　美佐子 | ･････････ | 147 |
| 環境の指導法 1クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 149 |
| 環境の指導法 2クラス | 清水　憲志 | ･････････ | 151 |
| 言葉の指導法 1クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 153 |
| 言葉の指導法 2クラス | 福澤　惇也 | ･････････ | 155 |
| 表現の指導法 1クラス | 松井　みさ | ･････････ | 157 |
| 表現の指導法 2クラス | 松井　みさ | ･････････ | 159 |
| 教育・保育技術論 1クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 161 |
| 教育・保育技術論 2クラス | 鳥越　亜矢 | ･････････ | 163 |
| 音楽基礎演習A 1クラス | 松井　みさ／大山　佐知子／河田　健二／青木　彩絵子 | ･････････ | 165 |
| 音楽基礎演習A 2クラス | 松井　みさ／大山　佐知子／河田　健二／青木　彩絵子 | ･････････ | 167 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 音楽基礎演習B 1クラス | 松井　みさ／大山　佐知子／河田　健二／青木　彩絵子 | ･･････ | 169 |
| 音楽基礎演習B 2クラス | 松井　みさ／大山　佐知子／河田　健二／青木　彩絵子 | ･･････ | 171 |
| 保育内容の理解と方法C 1クラス | 大山　佐知子／土田　豊 | ･･････ | 173 |
| 保育内容の理解と方法C 2クラス | 大山　佐知子／土田　豊 | ･･････ | 175 |
| 乳児保育Ⅱ 1クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 177 |
| 乳児保育Ⅱ 2クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 179 |
| 親子ふれあい演習A | 松井　みさ／土田　豊／福澤　惇也／清水　憲志 | ･･････ | 181 |
| 親子ふれあい演習B | 土田　豊／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志 | ･･････ | 183 |
| 音楽実践演習A 1クラス | 松井　みさ／大山　佐知子 | ･･････ | 185 |
| 音楽実践演習A 2クラス | 松井　みさ／大山　佐知子 | ･･････ | 187 |
| 音楽実践演習B 1クラス | 松井　みさ／大山　佐知子 | ･･････ | 189 |
| 音楽実践演習B 2クラス | 松井　みさ／大山　佐知子 | ･･････ | 191 |
| 保育内容の理解と方法D | 松井　みさ／大山　佐知子／土田　豊／鳥越　亜矢／清水　憲志 | ･･････ | 193 |
| 保育実習指導A 1クラス | 平尾　太亮 | ･･････ | 195 |
| 保育実習指導A 2クラス | 平尾　太亮 | ･･････ | 197 |
| 保育実習指導B 1クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 199 |
| 保育実習指導B 2クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 201 |
| 保育実習指導C 1クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 203 |
| 保育実習指導C 2クラス | 大橋　美佐子 | ･･････ | 205 |
| 保育実習指導D | 平尾　太亮 | ･･････ | 207 |
| 保育実習A | 土田　豊／平尾　太亮 | ･･････ | 209 |
| 保育実習B | 大橋　美佐子／清水　憲志 | ･･････ | 211 |
| 保育実習C | 大橋　美佐子／清水　憲志 | ･･････ | 213 |
| 保育実習D | 平尾　太亮 | ･･････ | 215 |
| 教育実習 | 山本　房子／福澤　惇也 | ･･････ | 217 |
| 教育実習指導 1クラス | 山本　房子 | ･･････ | 219 |
| 教育実習指導 2クラス | 山本　房子 | ･･････ | 221 |
| 保育･教職実践演習（幼稚園）1クラス | 大橋　美佐子／福澤　惇也／藤井　裕士 | ･･････ | 223 |
| 保育･教職実践演習（幼稚園）2クラス | 大橋　美佐子／福澤　惇也／藤井　裕士 | ･･････ | 225 |

| 科目名 | フレッシャーズセミナー | | | 授業番号 | EA101 | サブタイトル | (大学における学修方法を身につける) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　みさ、大山　佐知子、大橋　美佐子、土田　豊、鳥越　亜矢、平尾　太亮、山本　房子、清水　憲志、福澤　惇也、藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 導入教育を目的として開講された本科目では，新入生が学生生活を有意義なものとするため，大学生として必要な勉学の進め方や，自立した生活の基礎を学ぶ。各種オリエンテーションや研修等の様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 大学生として必要な勉学の進め方や自立した生活の基礎を学び実行できるようになる。また，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図ることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）。<br>第２回　大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など）。<br>第３回　大学のしくみを知る（学生生活全般について）。<br>第４回　大学の施設を知る（図書館の利用）。<br>第５回　大学の施設を知る（情報処理センターの利用）。<br>第６回　協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて）。<br>第７回　ボランティア活動の意義を知る。<br>第８・９回　　保育関係の進路を知る。<br>第10回　　先輩の体験談から学ぶ。<br>第11・12回　　地域の特色を知る。<br>第13回　ボランティア活動の進め方を知る。<br>第14・15回　　グループワーク「自分の進む道」を行う。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 毎時間学んだことを専用のファイルに綴じて，提出できる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。 |
| 授業外学修 | 課題の予習，復習を必ず行う。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし。<br>入学当初のガイダンスには，【学生手帳・授業概要】を持参すること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭（土田豊）保育士（大橋美佐子）　幼稚園教諭（山本房子　福澤惇也） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育士や幼稚園教諭を目指す学生に，勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を修得させる。 |

| 科目名 | 日本語表現 | | | 授業番号 | EA201 | サブタイトル | (日本語の用字用語と言語表現について) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 又吉　里美 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義は，適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」の演習をおこなう。また，表現活動のおもしろさを味わう。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．適切な日本語表現を身につける。<br>2．日本語の仕組みや特徴について理解し，様々な種類の文章が書けるようになる。<br>3．表現活動に興味関心を持って取り組み，表現することの創意工夫の観点を理解する。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本講義では，適切な表現を考えたり，表現することの創意工夫を考えたりしながら，多様な種類の文章を実際に書いていく。<br>また，日本語の仕組みや特徴について，言語表現の工夫や効果を考えながら理解を深める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 日本語表現の留意点＊文章を書くときに意識したいこと | |
| 第2回 | 日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(1)ー語・語彙＊類義語の使い分けについて考える | |
| 第3回 | 日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(2)ー語・語彙＊外来語の使用とその留意点について理解を深める | |
| 第4回 | 日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(3)ー語・語彙＊言語の位相（ことばのバリエーション）について理解を深める | |
| 第5回 | 日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(4)ー語・語彙＊敬語の理解を深める | |
| 第6回 | 日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(5)ー語・語彙＊表現の広がり（表現のおもしろさを考える）について考える | |
| 第7回 | 日本語表現の工夫と効果＊表記の表現性(1)ー漢字・ひらがな・カタカナの表現性について考える | |
| 第8回 | 日本語表現の工夫と効果＊表記の表現性(2)ー当て字・ふりがななどの表記にみるレトリックについて考える | |
| 第9回 | 日本語表現の工夫と効果＊ことばの仕組みと表現性ー日本語の複数形のバリエーションと表現性について考える | |
| 第10回 | 言語表現と文芸＊物語を創作する(1)ーショートショートから発想法を学ぶ | |
| 第11回 | 言語表現と文芸＊物語の文体・構造を理解するー「羅生門」の分析をとおして理解を深める | |
| 第12回 | 言語表現と文芸＊物語を創作する(2)ー物語創作を通して学ぶ論理関係／分かりにくい文を直す(1) | |
| 第13回 | 言語表現と文芸＊物語を創作する(3)ー物語創作を通して学ぶレトリック／分かりにくい文を直す(2) | |
| 第14回 | 言語表現と実用文＊手紙の形式と敬語について理解を深める／分かりにくい文を直す(3) | |
| 第15回 | 学習のまとめ＊広告表現の特徴を見出す／分かりにくい文を直す(小テスト) | |
| 授業計画　備考2 | ※状況により，授業内容を入れ替えることがあります。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予習課題，授業中の課題の取組・提出などの状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポート内容は，物語の創作，効果的な文章の特徴についてを中心とする。評価の観点は，(1)構成が整っていること，(2)適切な表現，効果的な表現を用いて作成していること，(3)適切な分量で書かれていることである。レポートについてはコメントを記入して返却したり，全体的に講評したりする。 |
| 小テスト | 10 | 「分かりにくい文を直す」内容に関連したテストをする。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・初回授業時に詳細を提示する。<br>・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，課題に取り組むこと。<br>2．復習として，授業で学んだことを実践すること。<br>3．発展学習として，授業で紹介した参考文献（授業時に適宜紹介する）を読むこと。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリント資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 芸　　術 | 授業番号 | EA202 | サブタイトル | (アートに親しむ) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 鳥越　亜矢 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | アートカードなどを使った鑑賞ゲームや，スライドと対話を用いた作品鑑賞を行うほか，身近な環境の中に美を見出す活動や，作品制作と鑑賞活動を行う。 |
| 到達目標 | 第一に，芸術作品の鑑賞や制作を通じ，時代，文化，社会情勢や市井の人々の暮らし，素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像すること。第二に，自分自身と他者のものの見方や考え方を意識すること。第三に，そこから心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えること。<br>この授業はディプロマ・ポリシーに掲げられた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | 保育学科の学生が履修した場合，学外実習期間中は休講とし，別日に補講を行う。<br>芸術と結びつくものとして宗教（キリスト教・仏教）を取り上げる。 |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 芸術（アート）について考える<br>ワードマップ「アートといえば」「アートに必要なものは？」<br>レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ | |
| 第2回 | アートカードゲーム「今日の気分は？」<br>Visual thinking（VT）による鑑賞体験 | |
| 第3回 | アートカードゲーム（○×クイズ）・VT体験：太古からの芸術<br>真似して学ぶ古代のアート１　縄文の技術体験 | |
| 第4回 | 真似して学ぶ古代のアート２　縄文土器・土偶づくりと鑑賞 | |
| 第5回 | VTによる鑑賞体験<br>芸術作品の価値を考える | |
| 第6回 | アートカードゲーム「アートカードで物語を作る」 | |
| 第7回 | アートカードゲーム「読み札かるた」自分なりの視点で作品解釈<br>アートの役割を考える１　宗教編（象徴・演出） | |
| 第8回 | アートの役割を考える２　権力者編（象徴・教養・交渉） | |
| 第9回 | アートの役割を考える３　庶民編（油絵と浮世絵） | |
| 第10回 | 工房・職人集団　作家　芸術の作り手について考える<br>アートとアーティストを変えるもの―素材・技術・ニーズ | |
| 第11回 | 芸術に昇格した浮世絵・民芸について考える | |
| 第12回 | アートカードゲーム「作品のライブ中継」<br>作品を解釈して相手に伝えることで，自分の解釈の視点や癖を知る | |
| 第13回 | 身近な環境に美を見出す<br>（自分なりの視点で環境を捉え感性を発揮する） | |
| 第14回 | 身近な環境に美を見出す／身近な素材を使ったフレームづくり／鑑賞 | |
| 第15回 | 芸術と関わる―モアレ作品の体験<br>レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や，自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，知識や記憶，経験に基づいた意見が述べられたりしている点を加点評価する。なお，授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。 |
| レポート | 30 | 課題意識を持ち，具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか，初回レポートと15回目レポートを比較して，芸術に対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 課題趣旨の理解がみられることのほか，課題によっては素材や色，構成について吟味し丁寧に作成されていること，独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。<br>授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし，情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。 |
| 授業外学修 | 自分が興味を持った作家や作品，その歴史的・社会的背景について調べるなどして，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県立美術館にて対話型鑑賞体験ツアーのボランティアをしているほか，保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師の経験がある。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 美術鑑賞に関する研修講師の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。 |

| 科目名 | 日本国憲法 | 授業番号 | EA203 | サブタイトル | (身近な問題から憲法の役割を考える) |
|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 俟野　英二 | | | | |

| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 本科目では，日本国憲法及び他国の憲法の沿革，様々な人々の人権について講義する。また，憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し，それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。<br>具体的にはまず，学生に身近な憲法問題を取り上げ，それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に，各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に，次回の講義で，各グループのグループワークの結果を紹介し，全体討議の後講評を行う。<br>なお，新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には，MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク，講義における質疑を行う。 |
| 到達目標 | 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，保育を取り巻く環境の変化など保育者に求められる幅広い知識の修得に貢献する。また，グループや全体での討議を通じて，他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業から，信頼される保育者に必要なやさしさや思いやりなど，豊かな人間性を育む基礎を身に付け，自他を尊重し，仲間との協調する態度の修得に貢献する。さらに，身近な問題から主体的に問題の解決を思考する力の修得を通じて，保育を取り巻く環境の変化やより良い保育活動をしていくうえでの課題に適切に思考・判断し主体的に解決できる能力の修得に貢献する。以上のようにこの科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた短期大学士力の内容の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 |
| 授業計画　備考 | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス，憲法とは何か<br>1　学修の目標，評価方法などを説明する。<br>2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 | |
| 第2回 | グループワーク1<br>1　グループワークの仕方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，課題選択，課題分析，リサーチを行う。 | |
| 第3回 | グループワーク２<br>1　グループワークのまとめ方を説明する。<br>2　各グループに分かれて，情報整理，報告書の作成を行う。 | |
| 第4回 | 国家機関としての天皇制<br>1　徳川時代，大日本帝国憲法下，日本国憲法下の天皇の地位について考える。<br>2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 | |
| 第5回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１――<br>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。 | |
| 第6回 | 憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２――，人権を守るための組織――統治機構１――<br>1　近年の安全保障をめぐる状況について学修する。<br>2　政治と国民，国会議員について学修する。 | |
| 第7回 | 人権を守るための組織――統治機構２――<br>1　選挙，選挙制度，政党，国会について学修する。<br>2　内閣について学修する。 | |
| 第8回 | 人権を守るための組織――統治機構３――<br>1　地方自治について学修する。<br>2　裁判所について学修する。 | |
| 第9回 | 良心をもつ自由，貫く権利<br>1　良心の意義について学修する。<br>2　教師の良心を貫く権利について考える。 | |
| 第10回 | 表現の自由<br>1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。<br>2　マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 | |
| 第11回 | 営業の自由と消費者の権利<br>1　職業選択の自由，営業の自由と消費者の権利について学修する。<br>2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第12回 | 働く人の権利<br>1　勤労の権利や労働基本権について学修する。<br>2　女性や非正規労働者の問題について考える。 | |
| 第13回 | 困った時の権利，差別されている人たちへの配慮<br>1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。<br>2　積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 | |
| 第14回 | 家庭と女性の権利<br>1　憲法における家庭と女性の権利について学修する。<br>2　同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 | |
| 第15回 | 子どもの権利と学校における生徒の人権<br>1　生徒の教育を受ける権利，学校内外での権利について学修する。<br>2　いじめ問題を憲法から考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解，及び，意欲・関心を持ち，講義に積極的に参加する態度を評価する。 |
| レポート | 30 | 1回実施。基本原理，基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので，各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。<br>2　全体を通じて1回，任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。<br>3　中間に１回中間レポートの課題（第７回頃レポート作成要項発表）がある。 |
| 授業外学修 | 1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み，意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。<br>2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め，ノートに整理して，期末テストに備える。また，発展的学習として選択した課題について，インターネット等で調査し，調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて，各自の情報や意見を整理する。さらに，グループワークに参加し，協力して必要事項を調査するとともに，課題に関してそれぞれの意見を交換し，グループ報告書にまとめる共同作業を行う。<br>3　中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し，疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し，自分の意見を練り，レポートにまとめる。<br>事前学習及び事後学習を合わせて，1週間に4時間程度必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える | 中富公一 | 法律文化社 | 978-4-589-04140-1 | 2400円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 基本判例１　憲法（第4版） | 右崎正博・浦田一郎編 | 法学書院 | 978-4-587-52413-5 | 2500 円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県教育委員会，県（人権・同和政策課） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。 |

| 科目名 | 社会学 | | | 授業番号 | EA204 | サブタイトル | (配偶者の選択と家族編成の社会的規則) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中田　周作 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。<br>現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。<br>そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。<br>これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。<br>なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 配偶者選択をめぐる社会状況の変化 | |
| 第2回 | 家族社会学における「家族」の定義 | |
| 第3回 | 家族を対象とした社会学的アプローチの方法 | |
| 第4回 | 家族の類型と分類 | |
| 第5回 | 青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 | |
| 第6回 | 青年期の異性交際の実態 | |
| 第7回 | 家族編成の社会的ルールとは何か | |
| 第8回 | 配偶者選択の社会的メカニズム | |
| 第9回 | 配偶者選択のプロセス | |
| 第10回 | 結婚の社会的意味 | |
| 第11回 | 結婚の社会的機能 | |
| 第12回 | 離婚の社会的意味と機能 | |
| 第13回 | 家族の新しい形 | |
| 第14回 | 子どもの養育 | |
| 第15回 | 老親の介護 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | データを読み解くグループワークへの姿勢などを参照する。 |
| レポート | 70 | 講義終了後に，最終レポートを提出する。家族集団について社会学的な観点から考察できているかどうかを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 講義のときに毎回，コメントペーパーを提出する。当日の講義の要点がまとめられているかどうかを規準として評価する。質問に対しては次の講義の時に返答する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。<br>しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。 |
| 授業外学修 | 1．テキストを事前に読んでくること。<br>文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。<br>具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。<br><br>2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。<br>テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。<br><br>両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組みむこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 自然科学概論 | | | 授業番号 | EA205 | サブタイトル | (体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岸　誠一 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?（四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ） | |
| 第2回 | 科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ | |
| 第3回 | 電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 | |
| 第4回 | 見上げてごらん夜の星を（天文学の初歩） | |
| 第5回 | タイムマシンは作れるか？（アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ） | |
| 第6回 | 君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） | |
| 第7回 | 新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学 | |
| 第8回 | 高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？（音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック） | |
| 第9回 | 液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶI） | |
| 第10回 | 糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習（分子構造について学ぶII） | |
| 第11回 | 天然色素と酸アルカリの実験と実習 | |
| 第12回 | 光に関する基礎講座ならびに実験と実習 | |
| 第13回 | 楽しい数学(1)（SPIの数的推理等就活に活用できる数学をわかりやすく解説） | |
| 第14回 | 楽しい数学(2)(速度，食塩水の濃度，確率など就活に活用できる数学をわかりやすく解説) | |
| 第15回 | まとめ(授業全体のふりかえり総括) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。また，新型コロナの感染予防のため，食べたり，密になって行う実験などが出来なくなり，他の内容に変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。<br>2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。<br>以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。<br>3.Classroomで授業に関する情報提供を行うので必ず視聴すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし(資料配付)。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義の進行にあわせて適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 情報処理概論 1クラス | | | 授業番号 | EA206A | サブタイトル | (コンピュータの基礎知識) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理とコンピュータの関わり<br>コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。 | |
| 第2回 | コンピュータの基礎知識<br>コンピュータにおける文字データについて学習する。 | |
| 第3回 | ワードプロセッサの基本<br>基本的な文書の作成方法について学習する。 | |
| 第4回 | ワードプロセッサの活用(1)<br>基本的な編集機能について学習する。 | |
| 第5回 | ワードプロセッサの活用(2)<br>作表機能について学習する。 | |
| 第6回 | ワードプロセッサの活用(3)<br>図形描画機能について学習する。 | |
| 第7回 | 表計算ソフトの基本(1)<br>基本的な表の作成方法について学習する。 | |
| 第8回 | 表計算ソフトの基本(2)<br>セルの属性(書式設定)について学習する。 | |
| 第9回 | 表計算ソフトの基本(3)<br>基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第10回 | 表計算ソフトの基本(4)<br>応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第11回 | 表計算ソフトの応用(1)<br>基本的な関数について学習する。 | |
| 第12回 | 表計算ソフトの応用(2)<br>基本的な関数(判定)について学習する。 | |
| 第13回 | 表計算ソフトの応用(3)<br>基本的な関数(検索)について学習する。 | |
| 第14回 | 表計算ソフトの応用(4)<br>基本的なデータベース機能について学習する。 | |
| 第15回 | 総合演習・まとめ<br>演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 習熟達成度を評価する。 |
| その他 | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間でマスターWord&Excel2019（Windows10対応） | 実教出版企画開発部 | 実教出版 | 978-4-407-34838-5 | 1045 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | 情報処理概論 2クラス | | | 授業番号 | EA206B | サブタイトル | (コンピュータの基礎知識) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 赤木　竜也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理とコンピュータの関わり<br>コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。 | |
| 第2回 | コンピュータの基礎知識<br>コンピュータにおける文字データについて学習する。 | |
| 第3回 | ワードプロセッサの基本<br>基本的な文書の作成方法について学習する。 | |
| 第4回 | ワードプロセッサの活用(1)<br>基本的な編集機能について学習する。 | |
| 第5回 | ワードプロセッサの活用(2)<br>作表機能について学習する。 | |
| 第6回 | ワードプロセッサの活用(3)<br>図形描画機能について学習する。 | |
| 第7回 | 表計算ソフトの基本(1)<br>基本的な表の作成方法について学習する。 | |
| 第8回 | 表計算ソフトの基本(2)<br>セルの属性(書式設定)について学習する。 | |
| 第9回 | 表計算ソフトの基本(3)<br>基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第10回 | 表計算ソフトの基本(4)<br>応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。 | |
| 第11回 | 表計算ソフトの応用(1)<br>基本的な関数について学習する。 | |
| 第12回 | 表計算ソフトの応用(2)<br>基本的な関数(判定)について学習する。 | |
| 第13回 | 表計算ソフトの応用(3)<br>基本的な関数(検索)について学習する。 | |
| 第14回 | 表計算ソフトの応用(4)<br>基本的なデータベース機能について学習する。 | |
| 第15回 | 総合演習・まとめ<br>演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 課題への取り組みおよび到達度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 習熟達成度を評価する。 |
| その他 | 10 | 授業中出題する演習問題について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間でマスターWord&Excel2019（Windows10対応） | 実教出版企画開発部 | 実教出版 | 978-4-407-34838-5 | 1045 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | 体育講義 1クラス(全8回) | | | 授業番号 | EA207A | サブタイトル | (子どものからだと心の健康) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また，セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し，対処法についても学びます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している習慣や保育・教育の現場で実践されている事柄の意味について知ることを目的とする。<br>人間のからだと心の仕組みについて理解し，教育の現場に出た際，子どもたちのからだと心の異変に気づき，適切に対処できる力を養うことを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「体力」について考える<br>「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。 | |
| 第2回 | 「ホルモン」のはたらきについて考える<br>眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考えます。 | |
| 第3回 | 「自律神経」のはたらきについて考える<br>人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。 | |
| 第4回 | 「土踏まず」のはたらきについて考える<br>人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。 | |
| 第5回 | 「背筋力」のはたらきについて考える<br>土踏まず同様人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。 | |
| 第6回 | 「健康診断」で分かることについて考える<br>普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断では分からないことについて考えます。 | |
| 第7回 | 「前頭葉」のはたらきについて考える<br>人間の感情や記憶，想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。 | |
| 第8回 | 「子どものからだと心を元気にする方法」について考える<br>30泊31日キャンプが，子どものからだと心を元気にする理由について映像も見ながら考えます。 | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり，発表できたりすることを加点対象とする。 |
| レポート | 40 | 事前学習や授業で学んだことを踏まえ，自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し，具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。 |
| 小テスト | 30 | 全８回の授業内容を踏まえ，子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて，得点化する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，情報を収集すること。<br>2．各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。<br>3．授業で学んだことを日常生活で実践したり，保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | その都度プリントを準備する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場や自然体験施設での経験を生かして，体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。 |

| 科目名 | 体育講義 2クラス(全8回) | | | 授業番号 | EA207B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また，セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し，対処法についても学びます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している習慣や保育・教育の現場で実践されている事柄の意味について知ることを目的とする。<br>人間のからだと心の仕組みについて理解し，教育の現場に出た際，子どもたちのからだと心の異変に気づき，適切に対処できる力を養うことを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「体力」について考える<br>「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。 | |
| 第2回 | 「ホルモン」のはたらきについて考える<br>眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考えます。 | |
| 第3回 | 「自律神経」のはたらきについて考える<br>人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。 | |
| 第4回 | 「土踏まず」のはたらきについて考える<br>人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。 | |
| 第5回 | 「背筋力」のはたらきについて考える<br>土踏まず同様人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。 | |
| 第6回 | 「健康診断」で分かることについて考える<br>普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断では分からないことについて考えます。 | |
| 第7回 | 「前頭葉」のはたらきについて考える<br>人間の感情や記憶，想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。 | |
| 第8回 | 「子どものからだと心を元気にする方法」について考える<br>30泊31日キャンプが，子どものからだと心を元気にする理由について映像も見ながら考えます。 | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり，発表できたりすることを加点対象とする。 |
| レポート | 40 | 事前学習や授業で学んだことを踏まえ，自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し，具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。 |
| 小テスト | 30 | 全８回の授業内容を踏まえ，子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて，得点化する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1．「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，情報を収集すること。<br>2．各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。<br>3．授業で学んだことを日常生活で実践したり，保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | その都度プリントを準備する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場や自然体験施設での経験を生かして，体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。 |

| 科目名 | 体育実技 1クラス | | | 授業番号 | EA208A | サブタイトル | （適切な運動実践） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 体力テスト<br>グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。 | |
| 第2回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第3回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第4回 | バレーボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第5回 | バレーボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第6回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第7回 | バドミントンII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第8回 | バドミントンIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第9回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第10回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第11回 | バスケットボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第12回 | バスケットボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第14回 | 卓球II（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。 |
| レポート | 20 | 各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。 |
| 小テスト | 30 | バレーボールとバスケットボールにおいては，トス，サーブ，シュートの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備･片付けをする。 |
| 授業外学修 | １．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。<br>２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。 |

| 科目名 | 体育実技 2クラス | | | 授業番号 | EA208B | サブタイトル | （適切な運動実践） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 体力テスト<br>グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。 | |
| 第2回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第3回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第4回 | バレーボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第5回 | バレーボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第6回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第7回 | バドミントンII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第8回 | バドミントンIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第9回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第10回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）<br>基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。 | |
| 第11回 | バスケットボールIII（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第12回 | バスケットボールIV（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解）<br>基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。 | |
| 第14回 | 卓球II（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開）<br>チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。 |
| レポート | 20 | 各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。 |
| 小テスト | 30 | バレーボールとバスケットボールにおいては，トス，サーブ，シュートの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備･片付けをする。 |
| 授業外学修 | １．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。<br>２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。 |

| 科目名 | 英　語　A 1クラス | | | 授業番号 | EA211A | サブタイトル | （保育の英語） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 高坂　勝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | グローバル人材を育成するため，多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での１年間を通して，使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう，基礎的な語彙・文法事項を理解し，その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき，基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 新学期 | |
| 第2回 | 登園・家族 | |
| 第3回 | 欠席の連絡 | |
| 第4回 | 外あそび・遊具 | |
| 第5回 | 園庭・けんか | |
| 第6回 | 昼食・献立表 | |
| 第7回 | 着替え・洋服について | |
| 第8回 | トイレ・昼寝　/ 前半のまとめ | |
| 第9回 | 病気・身体の名称 | |
| 第10回 | 緊急の連絡 | |
| 第11回 | ハロウィーンについて | |
| 第12回 | 行事の案内状 | |
| 第13回 | 運動会・動作 | |
| 第14回 | 散歩・地図 | |
| 第15回 | お絵かき・お手紙書き/ 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 50 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。<br>2．復習として，学習した単語や熟語を暗記し，英語表現を音読するなどして身につける。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・保育の英語 | 森田和子 | 三修社 | 978-4-384-33399-2 | 1，900円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。ただし，授業中に携帯電話の辞書機能の使用は認めない。 |
| その他 | なし |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，英語全般を教養として楽しく教える。また，実務経験を生かし，「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦) |

| 科目名 | 英　語　A 2クラス | | | 授業番号 | EA211B | サブタイトル | （保育の英語） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 高坂　勝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | グローバル人材を育成するため，多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での１年間を通して，使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう，基礎的な語彙・文法事項を理解し，その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき，基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 新学期 | |
| 第2回 | 登園・家族 | |
| 第3回 | 欠席の連絡 | |
| 第4回 | 外あそび・遊具 | |
| 第5回 | 園庭・けんか | |
| 第6回 | 昼食・献立表 | |
| 第7回 | 着替え・洋服について | |
| 第8回 | トイレ・昼寝　/ 前半のまとめ | |
| 第9回 | 病気・身体の名称 | |
| 第10回 | 緊急の連絡 | |
| 第11回 | ハロウィーンについて | |
| 第12回 | 行事の案内状 | |
| 第13回 | 運動会・動作 | |
| 第14回 | 散歩・地図 | |
| 第15回 | お絵かき・お手紙書き/ 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 50 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。<br>2．復習として，学習した単語や熟語を暗記し，英語表現を音読するなどして身につける。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・保育の英語 | 森田和子 | 三修社 | 978-4-384-33399-2 | 1，900円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。ただし，授業中に携帯電話の辞書機能の使用は認めない。 |
| その他 | なし |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，英語全般を教養として楽しく教える。また，実務経験を生かし，「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦) |

| 科目名 | 英　語　B | | | 授業番号 | EA212 | サブタイトル | (英語で岡山を楽しみながら学ぼう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代 昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day | |
| 第2回 | 1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City | |
| 第3回 | 1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights | |
| 第6回 | 1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第7回 | 1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs | |
| 第8回 | 2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ | |
| 第9回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第10回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben | |
| 第11回 | 2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware | |
| 第12回 | 2-3-5 The Land of Astronomical Observation,　Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival（Hadakamatsuri） | |
| 第13回 | 3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity | |
| 第14回 | 3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1 | |
| 第15回 | 3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂新版 岡山から“ハロー” | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4881977590 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 保育者基礎演習 | | | 授業番号 | EB101 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　みさ、大山　佐知子、大橋　美佐子、土田　豊、鳥越　亜矢、平尾　太亮、山本　房子、清水　憲志、福澤　惇也、藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 保育学科の実習（施設・保育所・幼稚園）では，乳幼児や障がい児（者）だけでなく教職員との人間関係が基礎となる。そこで，各実習に先駆けて，それらに共通する自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・保育技術・保育現場の実際について，演習や見学などを通して体験的に学んでいく。10人程度を１グループとし，オムニバス形式で以下の内容を網羅する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育者としての心豊かな人間性や自主学習力，人間関係を築く上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | グループを決める。ファイルを作成する。園見学の服装態度を学ぶ | 担当：松井 みさ　大山 佐知子　大橋 美佐子　土`田 豊　鳥越 亜矢<br>平尾 太亮　山本 房子　清水 憲志　福澤 惇也 |
| 第2回 | 友達と一緒にふれあい遊びを体験する。 | 担当：松井 みさ　大山 佐知子　大橋 美佐子　土`田 豊　鳥越 亜矢<br>平尾 太亮　山本 房子　清水 憲志　福澤 惇也 |
| 第3回 | 造形活動を通した仲間づくりを体験する。 | 担当：松井 みさ　大山 佐知子　大橋 美佐子　土`田 豊　鳥越 亜矢<br>平尾 太亮　山本 房子　清水 憲志　福澤 惇也 |
| 第4回 | 会話表現のし方を学ぶ（保育者として聞き取りやすい話し方の基本，あいさつ，敬語の使い方など）。 | 担当：松井 みさ　大山 佐知子　大橋 美佐子　土`田 豊　鳥越 亜矢<br>平尾 太亮　山本 房子　清水 憲志　福澤 惇也 |
| 第5回 | チームビルディングを高める。 | 担当：福澤 惇也 |
| 第6回 | リズム楽器の奏法と音楽リズムを学ぶ。 | 担当：松井 みさ |
| 第7回 | ピアノの音を聴く。 | 担当：大山 佐知子 |
| 第8回 | 保育所の生活を見る。 | 担当：大橋 美佐子 |
| 第9回 | 絵本のおもしろさを体験する。 | 担当：清水 憲志 |
| 第10回 | 生活者としてのたしなみを学ぶ（折る・包む・結ぶ）。 | 担当：鳥越 亜矢 |
| 第11回 | ネイチャーゲームを体験する。 | 担当：土`田 豊 |
| 第12回 | 施設の生活を知る（施設の生活を理解し，支援方法を学ぶ）。 | 担当：平尾 太亮 |
| 第13回 | リフレーミングを学ぶ。 | 担当： |
| 第14回 | こども園で3歳以上児と触れ合う。 | 担当：山本 房子 |
| 第15回 | 保育者基礎演習を通して学んだことをグループメンバーと共有する。 | 担当：松井 みさ　大山 佐知子　大橋 美佐子　土`田 豊　鳥越 亜矢<br>平尾 太亮　山本 房子　清水 憲志　福澤 惇也 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 意欲的な受講態度，討議への参加を毎回3段階で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 毎回，振り返りシートに学んだことをまとめて提出でき，15回目にすべてをファイルに綴じて提出できるかを評価する。振り返りシートについては，授業者が押印して返却する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育者（保育士･幼稚園教諭）を目指す者は，必ず受講すること。 |
| 授業外学修 | 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ）小学校教諭（土田豊）保育士（大橋美佐子　清水憲志）幼稚園教諭（山本房子　福澤惇也）　医療型障害児入所施設職員（平尾太亮） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育士や幼稚園教諭を目指す学生に各教員が勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を指導する。 |

| 科目名 | 教育原理 1クラス | | | 授業番号 | EC101A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について，ＤＶＤ等の視聴覚教材を交えながら講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に，学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育の意義・目的（１）<br>「教育とは何か」という問いに対する自分なりの考えを言葉で表現する。また，教育の意義・目的について理解する。 | |
| 第2回 | 乳幼児期の教育の特性<br>乳幼児期の発達や，幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。 | |
| 第3回 | 教育と子ども家庭福祉の関連性<br>児童福祉法や子育て支援等について理解する。 | |
| 第4回 | 人間形成と家庭・地域社会<br>家庭，地域社会の変化する現状について理解する。 | |
| 第5回 | 諸外国の教育思想<br>フレーベルやペスタロッチ等の諸外国の教育思想について理解する。 | |
| 第6回 | 諸外国の教育の歴史<br>ドイツやの教育の歴史について理解する。 | |
| 第7回 | 日本の教育思想・歴史<br>江戸時代から戦後にかけての教育思想や歴史を理解する。 | |
| 第8回 | 教育実践の基礎<br>カリキュラム，教育・保育方法，評価について理解する。 | |
| 第9回 | さまざまな教育実践<br>フレーベル，レジョ・エミリア，モンテッソーリ等の教育実践について理解する。 | |
| 第10回 | 子ども観と教育観<br>子ども観や教育観の歴史的変遷を理解する。 | |
| 第11回 | 教育制度の基本<br>教育に関連する制度の基本的な内容を理解する。 | |
| 第12回 | 教育の法律と行政<br>教育を規定する法律や行政について理解する。 | |
| 第13回 | 諸外国の教育制度<br>諸外国の教育制度や教育問題について理解する。 | |
| 第14回 | 生涯学習社会における教育の現状と課題<br>生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。 | |
| 第15回 | 教育の意義・目的（２）<br>これまでの学修を通して，「教育とは何か」という問いに対する自分なりの考えを言葉で表現する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | 55 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>3　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストやノート，資料を読み直す。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ2　教育原理 | 矢藤誠慈郎，北野幸子 | 中央法規 | 978-4-8058-5782-3 | 2200円（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストを中心に講義を進めていくため，講義の際には毎回テキストを持参すること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる教育原理 | 汐見稔幸 ， 伊東 毅 ， 高田文子 | ミネルヴァ書房 | 9784623059263 | 2800円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 乳幼児の発達，制度，教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。 |

| 科目名 | 教育原理 2クラス | | | 授業番号 | EC101B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について，ＤＶＤ等の視聴覚教材を交えながら講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に，学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育の意義・目的（１）<br>「教育とは何か」という問いに対する自分なりの考えを言葉で表現する。また，教育の意義・目的について理解する。 | |
| 第2回 | 乳幼児期の教育の特性<br>乳幼児期の発達や，幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。 | |
| 第3回 | 教育と子ども家庭福祉の関連性<br>児童福祉法や子育て支援等について理解する。 | |
| 第4回 | 人間形成と家庭・地域社会<br>家庭，地域社会の変化する現状について理解する。 | |
| 第5回 | 諸外国の教育思想<br>フレーベルやペスタロッチ等の諸外国の教育思想について理解する。 | |
| 第6回 | 諸外国の教育の歴史<br>ドイツやの教育の歴史について理解する。 | |
| 第7回 | 日本の教育思想・歴史<br>江戸時代から戦後にかけての教育思想や歴史を理解する。 | |
| 第8回 | 教育実践の基礎<br>カリキュラム，教育・保育方法，評価について理解する。 | |
| 第9回 | さまざまな教育実践<br>フレーベル，レジョ・エミリア，モンテッソーリ等の教育実践について理解する。 | |
| 第10回 | 子ども観と教育観<br>子ども観や教育観の歴史的変遷を理解する。 | |
| 第11回 | 教育制度の基本<br>教育に関連する制度の基本的な内容を理解する。 | |
| 第12回 | 教育の法律と行政<br>教育を規定する法律や行政について理解する。 | |
| 第13回 | 諸外国の教育制度<br>諸外国の教育制度や教育問題について理解する。 | |
| 第14回 | 生涯学習社会における教育の現状と課題<br>生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。 | |
| 第15回 | 教育の意義・目的（２）<br>これまでの学修を通して，「教育とは何か」という問いに対する自分なりの考えを言葉で表現する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | 55 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>3　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストやノート，資料を読み直す。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ2　教育原理 | 矢藤誠慈郎，北野幸子 | 中央法規 | 978-4-8058-5782-3 | 2200円（税込み） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストを中心に講義を進めていくため，講義の際には毎回テキストを持参すること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる教育原理 | 汐見稔幸 ， 伊東 毅 ， 高田文子 | ミネルヴァ書房 | 9784623059263 | 2800円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 令和５年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 乳幼児の発達，制度，教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。 |

| 科目名 | 保育原理 1クラス | | | 授業番号 | EC102A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ，保育の内容の基本的な考え方を，子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。その基礎を基にした保育実践を考える力や多様な展開について，保育事例を通して具体的に理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総則の記述内容を理解し，説明できる。<br>・子どもにとっての「遊び」の重要性と「子ども理解」の関連性を説明出来る。<br>・事例を読み取り，保育者としてどうすべきだったかを具体的に文章で説明出来る。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育とは<br>…「保育」という言葉の意味を様々な観点から理解する。 | |
| 第2回 | 保育の社会的養護<br>…社会的な保育支援について理解する。 | |
| 第3回 | 現代社会における子育てと保育<br>…現代における子育てに関連する問題と保育者の役割について理解する。 | |
| 第4回 | 子ども理解<br>…10の姿をもとに子どもを理解するための観点を理解する。 | |
| 第5回 | 子どもの発達に応じた教育<br>…子どもの発達を促すための保育の在り方について理解する。 | |
| 第6回 | 環境を通して行う保育<br>…実践例を踏まえながら，「環境を通して」の意味が具体的に理解できるようにする。 | |
| 第7回 | 保育者の倫理と役割<br>…保育者の倫理について法律や指針などから理解する。 | |
| 第8回 | 保育制度の基本<br>…日本の保育制度の歴史について理解する。 | |
| 第9回 | 保育の歴史的変遷と思想(1)<br>…諸外国の保育思想について理解する。 | |
| 第10回 | 保育の歴史的変遷と思想(2)<br>…海外の保育方法について理解する。 | |
| 第11回 | 保育の歴史的変遷と思想(3)<br>…日本の保育の歴史について理解する。 | |
| 第12回 | 保育の目的，目標，ねらい<br>…保育所保育指針と幼稚園教育要領等からねらいなどについて理解する。 | |
| 第13回 | 保育の内容：生活と遊びと学び<br>…保育内容について理解する。 | |
| 第14回 | 保育の計画と評価：全体的な計画・指導計画<br>…計画の意味を理解する。 | |
| 第15回 | 保育の方法<br>…実践例を交えながら保育の方法を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，授業や討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 20 | 授業内容を理解し，自分なりの考えを書くことができるか。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 保育の基本や歴史について，正しい知識を持っている。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポートについて<br>資料「アカデミックライティングの基本スキル」に従って，感想文ではなく“レポート”としての体裁が整っている。（授業中に資料提示）【5点】<br>・タイトルが書かれている（自分で考える）・出席番号氏名が記載されている。・段落が書き分けられている・体裁が整っている（別紙参照）・誤字脱字がない。1000文字以上である。【※１割程度多少はOK】【5点】<br>書かれている内容を理解した上で，自分の保育に対する考え方が記載されているか。【5点】<br>自分が保育実践を行うにあたり，具体的な内容となっているか。【5点】<br>※レポートについては，点数（理由）を示し返却する。また，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | 保育の基礎知識の理解に努めること。グループ討議や発表などには主体的に参加し，自分の考えを述べること。 |
| 授業外学修 | 1.毎回，授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み，授業内容の概要を理解すること。<br>2.受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところは明確にしておくこと。<br><br>以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育原理 | 戸江　茂博 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-07962-9 | 2200円 |
| 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 | 文部科学省／〔編〕厚生労働省／〔編〕内閣府／〔編〕 | チャイルド本社 | 978-4-805-40258-0 | 550円 |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ | 中坪 史典 | | 978-4-623-07685-7 | 3080 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） |
| その他 | |
| 備考 | 令和４年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所や幼稚園での事例や写真を活用しながら，保育所保育指針，幼稚園教育要領等と結び付けて具体的なものとして，学生に教授する。 |

| 科目名 | 保育原理 2クラス | | | 授業番号 | EC102B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ，保育の内容の基本的な考え方を，子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。その基礎を基にした保育実践を考える力や多様な展開について，保育事例を通して具体的に理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総則の記述内容を理解し，説明できる。<br>・子どもにとっての「遊び」の重要性と「子ども理解」の関連性を説明出来る。<br>・事例を読み取り，保育者としてどうすべきだったかを具体的に文章で説明出来る。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育とは<br>…「保育」という言葉の意味を様々な観点から理解する。 | |
| 第2回 | 保育の社会的養護<br>…社会的な保育支援について理解する。 | |
| 第3回 | 現代社会における子育てと保育<br>…現代における子育てに関連する問題と保育者の役割について理解する。 | |
| 第4回 | 子ども理解<br>…10の姿をもとに子どもを理解するための観点を理解する。 | |
| 第5回 | 子どもの発達に応じた教育<br>…子どもの発達を促すための保育の在り方について理解する。 | |
| 第6回 | 環境を通して行う保育<br>…実践例を踏まえながら，「環境を通して」の意味が具体的に理解できるようにする。 | |
| 第7回 | 保育者の倫理と役割<br>…保育者の倫理について法律や指針などから理解する。 | |
| 第8回 | 保育制度の基本<br>…日本の保育制度の歴史について理解する。 | |
| 第9回 | 保育の歴史的変遷と思想(1)<br>…諸外国の保育思想について理解する。 | |
| 第10回 | 保育の歴史的変遷と思想(2)<br>…海外の保育方法について理解する。 | |
| 第11回 | 保育の歴史的変遷と思想(3)<br>…日本の保育の歴史について理解する。 | |
| 第12回 | 保育の目的，目標，ねらい<br>…保育所保育指針と幼稚園教育要領等からねらいなどについて理解する。 | |
| 第13回 | 保育の内容：生活と遊びと学び<br>…保育内容について理解する。 | |
| 第14回 | 保育の計画と評価：全体的な計画・指導計画<br>…計画の意味を理解する。 | |
| 第15回 | 保育の方法<br>…実践例を交えながら保育の方法を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，授業や討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 20 | 授業内容を理解し，自分なりの考えを書くことができるか。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 保育の基本や歴史について，正しい知識を持っている。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | レポートについて<br>資料「アカデミックライティングの基本スキル」に従って，感想文ではなく“レポート”としての体裁が整っている。（授業中に資料提示）【5点】<br>・タイトルが書かれている（自分で考える）・出席番号氏名が記載されている。・段落が書き分けられている・体裁が整っている（別紙参照）・誤字脱字がない。1000文字以上である。【※１割程度多少はOK】【5点】<br>書かれている内容を理解した上で，自分の保育に対する考え方が記載されているか。【5点】<br>自分が保育実践を行うにあたり，具体的な内容となっているか。【5点】<br>※レポートについては，点数（理由）を示し返却する。また，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | 保育の基礎知識の理解に努めること。グループ討議や発表などには主体的に参加し，自分の考えを述べること。 |
| 授業外学修 | 1.毎回，授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み，授業内容の概要を理解すること。<br>2.受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところは明確にしておくこと。<br><br>以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育原理 | 戸江　茂博 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-07962-9 | 2200円 |
| 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 | 文部科学省／〔編〕厚生労働省／〔編〕内閣府／〔編〕 | チャイルド本社 | 978-4-805-40258-0 | 550円 |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ | 中坪 史典 | | 978-4-623-07685-7 | 3080 |
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | 令和４年度改訂 | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士，附属幼稚園教諭 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所や幼稚園での事例や写真を活用しながら，保育所保育指針，幼稚園教育要領等と結び付けて具体的なものとして，学生に教授する。 | | | |

| 科目名 | 子ども家庭福祉 1クラス | | | 授業番号 | EC201A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義の目的は下記の通りである。<br>(1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。<br>(2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し，児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。<br>(3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。<br>(4) 児童福祉関連法を学習すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉の実践能力を修得し，説明できる。<br>・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得し，説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭福祉の理念と概念 | |
| 第2回 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | |
| 第3回 | 現代社会と子ども家庭福祉 | |
| 第4回 | 子どもの人権擁護の歴史的変遷 | |
| 第5回 | 児童の権利に関する条約 | |
| 第6回 | 子どもの人権擁護と現代社会における課題 | |
| 第7回 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | |
| 第8回 | 子ども家庭福祉の実施体系 | |
| 第9回 | 児童福祉施設 | |
| 第10回 | 子ども家庭福祉の専門職 | |
| 第11回 | 少子化と地域子育て支援 | |
| 第12回 | 母子保健と子どもの健全育成 | |
| 第13回 | 子ども虐待・ＤＶとその防止 | |
| 第14回 | 障害のある子どもへの対応 | |
| 第15回 | 貧困家庭，外国籍の子どもとその家族への対応，子ども家庭福祉の動向と課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度。発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に対し的確に解答しているかについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識の応用力が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。<br>・レポートの提出期限を遵守する。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では１単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 第3版児童家庭福祉 | 小倉毅ほか | 大学教育出版 | 978-4-86429-292-4 | 1800円 |
| NIE児童家庭福祉演習 | 松井圭三ほか | 大学教育出版社 | 978-4-86429-438-6 | 2000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義時に適宜紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 子ども家庭福祉 2クラス | | | 授業番号 | EC201B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義の目的は下記の通りである。<br>(1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。<br>(2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し，児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。<br>(3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。<br>(4) 児童福祉関連法を学習すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉の実践能力を修得し，説明できる。<br>・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得し，説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子ども家庭福祉の理念と概念 | |
| 第2回 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | |
| 第3回 | 現代社会と子ども家庭福祉 | |
| 第4回 | 子どもの人権擁護の歴史的変遷 | |
| 第5回 | 児童の権利に関する条約 | |
| 第6回 | 子どもの人権擁護と現代社会における課題 | |
| 第7回 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | |
| 第8回 | 子ども家庭福祉の実施体系 | |
| 第9回 | 児童福祉施設 | |
| 第10回 | 子ども家庭福祉の専門職 | |
| 第11回 | 少子化と地域子育て支援 | |
| 第12回 | 母子保健と子どもの健全育成 | |
| 第13回 | 子ども虐待・ＤＶとその防止 | |
| 第14回 | 障害のある子どもへの対応 | |
| 第15回 | 貧困家庭，外国籍の子どもとその家族への対応，子ども家庭福祉の動向と課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度。発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に対し的確に解答しているかについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識の応用力が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。<br>・レポートの提出期限を遵守する。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では１単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 第3版児童家庭福祉 | 小倉毅ほか | 大学教育出版 | 978-4-86429-292-4 | 1800円 |
| NIE児童家庭福祉演習 | 松井圭三ほか | 大学教育出版社 | 978-4-86429-438-6 | 2000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義時に適宜紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 社会福祉 1クラス | | | 授業番号 | EC202A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に，社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また，社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には，ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに，社会福祉の基礎知識を学習すると言っても，そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。<br>最後に，社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ，自分ならどう考えるか，どのようにして援助していくのかについても考察していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得し，その概要が説明できる。<br>・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得し，その内容が説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 山陽新聞記者から4月，5月，6月，7月において各1回特別授業を受講する。「新聞とは何か」，「新聞記事の読む方」，「レポート，文章の書き方」，「プレゼンテーションの仕方」等について解説をする。また，新聞を3か月分使用し，社会福祉関係の記事のスクラップや要約，感想等を事前に準備し，授業でグループワークを行う予定である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代社会と社会福祉 | |
| 第2回 | 社会福祉の歴史 | |
| 第3回 | 社会福祉のしくみ | |
| 第4回 | 社会福祉援助技術 | |
| 第5回 | 社会福祉に働く人々 | |
| 第6回 | 生活保護 | |
| 第7回 | 児童福祉 | |
| 第8回 | 障害者福祉 | |
| 第9回 | 高齢者福祉 | |
| 第10回 | 母子福祉 | |
| 第11回 | 地域福祉 | |
| 第12回 | 医療福祉 | |
| 第13回 | 国際福祉 | |
| 第14回 | これからの社会福祉（成年後見制度） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は講義形式とグループワーク討議を行います。<br>・予習と授業中の積極的な参加を期待します。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に参加してください。<br>・レポートの提出期限を遵守する。<br>・社会福祉の基礎知識を学習するといっても，そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関する章節を読み，課題点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新聞教材費 | | | | 6400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 新聞を教材に使用します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において，随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 社会福祉 2クラス | | | 授業番号 | EC202B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に，社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また，社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には，ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに，社会福祉の基礎知識を学習すると言っても，そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。<br>最後に，社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ，自分ならどう考えるか，どのようにして援助していくのかについても考察していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得し，その概要が説明できる。<br>・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得し，その内容が説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 山陽新聞記者から4月，5月，6月，7月において各1回特別授業を受講する。「新聞とは何か」，「新聞記事の読む方」，「レポート，文章の書き方」，「プレゼンテーションの仕方」等について解説をする。また，新聞を3か月分使用し，社会福祉関係の記事のスクラップや要約，感想等を事前に準備し，授業でグループワークを行う予定である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代社会と社会福祉 | |
| 第2回 | 社会福祉の歴史 | |
| 第3回 | 社会福祉のしくみ | |
| 第4回 | 社会福祉援助技術 | |
| 第5回 | 社会福祉に働く人々 | |
| 第6回 | 生活保護 | |
| 第7回 | 児童福祉 | |
| 第8回 | 障害者福祉 | |
| 第9回 | 高齢者福祉 | |
| 第10回 | 母子福祉 | |
| 第11回 | 地域福祉 | |
| 第12回 | 医療福祉 | |
| 第13回 | 国際福祉 | |
| 第14回 | これからの社会福祉（成年後見制度） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は講義形式とグループワーク討議を行います。<br>・予習と授業中の積極的な参加を期待します。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に参加してください。<br>・レポートの提出期限を遵守する。<br>・社会福祉の基礎知識を学習するといっても，そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関する章節を読み，課題点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新聞教材費 | | | | 6400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 新聞を教材に使用します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において，随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 子ども家庭支援論 1クラス | | | 授業番号 | EC203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 家族，家庭の概念と子育て支援や関係機関，専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な社会資源，制度，法律，サービス等の知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し，説明できる。２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し，説明できる。<br>３．子育て家庭に対する支援の体制について理解し，説明できる。４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状，課題について理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　家族の意義と役割<br>第２回　家庭支援の必要性<br>第３回　現代の家庭における人間関係<br>第４回　地域社会の変容と家庭支援<br>第５回　保育と相談援助<br>第６回　男女共同参画社会とワークライフバランス<br>第７回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源<br>第８回　子育て支援施策<br>第９回　保育所入所児童の家庭への支援<br>第10回　地域の子育て家庭への支援<br>第11回　子育て支援における関係機との連携<br>第12回　要保護児童および家庭に対する支援<br>第13回　多様な家族形態と子どもたちの育ち<br>第14回　結婚，家族の事例研究<br>第15回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。<br>・レポート提出期限を遵守する。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週1時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| NIE家庭支援演習 | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-4-86429-501-7 | 2700円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 家庭支援論 | 松井圭三 | 大学教育出版 | | 1800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子ども家庭支援論 2クラス | | | 授業番号 | EC203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 講義 |
| 授業概要 | 家族，家庭の概念と子育て支援や関係機関，専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な社会資源，制度，法律，サービス等の知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し，説明できる。２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し，説明できる。<br>３．子育て家庭に対する支援の体制について理解し，説明できる。４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状，課題について理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　家族の意義と役割<br>第２回　家庭支援の必要性<br>第３回　現代の家庭における人間関係<br>第４回　地域社会の変容と家庭支援<br>第５回　保育と相談援助<br>第６回　男女共同参画社会とワークライフバランス<br>第７回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源<br>第８回　子育て支援施策<br>第９回　保育所入所児童の家庭への支援<br>第10回　地域の子育て家庭への支援<br>第11回　子育て支援における関係機との連携<br>第12回　要保護児童および家庭に対する支援<br>第13回　多様な家族形態と子どもたちの育ち<br>第14回　結婚，家族の事例研究<br>第15回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。<br>・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。<br>・レポート提出期限を遵守する。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。<br>本授業では，週1時間程度の授業外学習が必要である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| NIE家庭支援演習 | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-4-86429-501-7 | 2700円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 家庭支援論 | 松井圭三 | 大学教育出版 | | 1800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会的養護Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | EC204A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会的養護の意義と歴史的変遷，児童福祉や児童の権利擁護，社会的養護の制度や実施体系，児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会的養護の歴史的変遷と現状の課題についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br>・現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br>・社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会的養護の理念と概念 | |
| 第2回 | 社会的養護の歴史的変遷 | |
| 第3回 | 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 | |
| 第4回 | 児童の権利擁護と社会的養護 | |
| 第5回 | 社会的養護の制度と法体系 | |
| 第6回 | 社会的養護の仕組みと実施体系 | |
| 第7回 | 家庭養護と施設養護 | |
| 第8回 | 社会的養護における保育士等の倫理と責務 | |
| 第9回 | 家庭養護と施設養護の基本原理 | |
| 第10回 | 家庭養護と施設養護の実際 | |
| 第11回 | 施設養護とソーシャルワーク | |
| 第12回 | 施設等の運営管理の現状と課題 | |
| 第13回 | 倫理の確立 | |
| 第14回 | 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 | |
| 第15回 | 社会的養護と地域福祉の現状と課題 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 社会的養護を支える専門職の，各施設における設置基準と意義について論じることができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 全講義終了後，社会的養護における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | １．授業内で学修した，社会的養護に関わる諸知識を復習すること。<br>２．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| NIE社会的養護演習I，II | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-48669-21266 | 2200円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育福祉小六法 | 保育福祉小六法編集委員会 | みらい | 978-4-86015-473-8 | 1700円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもや障害児の人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 社会的養護Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | EC204B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会的養護の意義と歴史的変遷，児童福祉や児童の権利擁護，社会的養護の制度や実施体系，児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会的養護の歴史的変遷と現状の課題についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br>・現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br>・社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得し，その内容が説明できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会的養護の理念と概念 | |
| 第2回 | 社会的養護の歴史的変遷 | |
| 第3回 | 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 | |
| 第4回 | 児童の権利擁護と社会的養護 | |
| 第5回 | 社会的養護の制度と法体系 | |
| 第6回 | 社会的養護の仕組みと実施体系 | |
| 第7回 | 家庭養護と施設養護 | |
| 第8回 | 社会的養護における保育士等の倫理と責務 | |
| 第9回 | 家庭養護と施設養護の基本原理 | |
| 第10回 | 家庭養護と施設養護の実際 | |
| 第11回 | 施設養護とソーシャルワーク | |
| 第12回 | 施設等の運営管理の現状と課題 | |
| 第13回 | 倫理の確立 | |
| 第14回 | 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 | |
| 第15回 | 社会的養護と地域福祉の現状と課題 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 社会的養護を支える専門職の，各施設における設置基準と意義について論じることができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 全講義終了後，社会的養護における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | １．授業内で学修した，社会的養護に関わる諸知識を復習すること。<br>２．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| NIE社会的養護演習I，II | 松井圭三他 | 大学教育出版 | 978-48669-21266 | 2200円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育福祉小六法 | 保育福祉小六法編集委員会 | みらい | 978-4-86015-473-8 | 1700円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもや障害児の人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。 |

| 科目名 | 保育者論 1クラス | | | 授業番号 | EC205A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく，保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに，学生が自らの課題を認識したうえで，保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。<br>・保育者の人間性や専門性について考察し，理解できる。<br>・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。<br>・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育者とはどのような人のことを言うのか「よい保育者」「目指したい保育者」について考える | |
| 第2回 | 保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ | |
| 第3回 | 保育者の専門職倫理と職業倫理について学ぶ | |
| 第4回 | 保育者の専門性について，保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える | |
| 第5回 | 遊びを援助する保育者の役割について理解する | |
| 第6回 | 環境を通した保育における保育者の役割りについて理解する | |
| 第7回 | 保育者の子どもの発達を捉える視点について学ぶ | |
| 第8回 | 保育の質の向上において必要な視点について考える | |
| 第9回 | 保育における協働とはどのようなことかを考える | |
| 第10回 | 成長する保育者と同僚性について，同僚性の意味や重要性について学ぶ | |
| 第11回 | 家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ | |
| 第12回 | 保育者のキャリア形成について考える | |
| 第13回 | 現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ | |
| 第14回 | 保育者の歴史や欧米・日本の保育や幼児教育について学ぶ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対し，授業の要点を押さえたうえで，自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，授業を振り返り，ノートの記入，配布物資料の整理をする。<br>・発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育者論 | 西川ひろ子，中原大介編 | 渓水社 | 978-4-86327-579-9 | 税込み1980円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『倉橋惣三選集第１巻～４巻』，フレーベル館<br>『保育者論－共生へのまなざし－』，岸井勇雄 他監修，同文書院<br>『最新保育講座　保育者論』，汐見稔幸・大豆生田啓友 著，ミネルヴァ書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，現場での経験をもとに授業を行う。 |

| 科目名 | 保育者論 2クラス | | | 授業番号 | EC205B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく，保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに，学生が自らの課題を認識したうえで，保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。<br>・保育者の人間性や専門性について考察し，理解できる。<br>・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。<br>・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育者とはどのような人のことを言うのか「よい保育者」「目指したい保育者」について考える | |
| 第2回 | 保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ | |
| 第3回 | 保育者の専門職倫理と職業倫理について学ぶ | |
| 第4回 | 保育者の専門性について，保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える | |
| 第5回 | 遊びを援助する保育者の役割について理解する | |
| 第6回 | 環境を通した保育における保育者の役割りについて理解する | |
| 第7回 | 保育者の子どもの発達を捉える視点について学ぶ | |
| 第8回 | 保育の質の向上において必要な視点について考える | |
| 第9回 | 保育における協働とはどのようなことかを考える | |
| 第10回 | 成長する保育者と同僚性について，同僚性の意味や重要性について学ぶ | |
| 第11回 | 家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ | |
| 第12回 | 保育者のキャリア形成について考える | |
| 第13回 | 現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ | |
| 第14回 | 保育者の歴史や欧米・日本の保育や幼児教育について学ぶ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対し，授業の要点を押さえたうえで，自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | ・予習として，授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，授業を振り返り，ノートの記入，配布物資料の整理をする。<br>・発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育者論 | 西川ひろ子，中原大介編 | 渓水社 | 978-4-86327-579-9 | 税込み1980円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『倉橋惣三選集第１巻～４巻』，フレーベル館<br>『保育者論－共生へのまなざし－』，岸井勇雄 他監修，同文書院<br>『最新保育講座　保育者論』，汐見稔幸・大豆生田啓友 著，ミネルヴァ書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，現場での経験をもとに授業を行う。 |

| 科目名 | 教育心理学 1クラス | | | 授業番号 | ED201A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに，保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・教育心理学の基本的な概念や理論を知り，教育心理学についての知識を習得する。<br>・心理学的な視点や考え方を，保育・教育の場面でいかせるようにする。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育心理学とは？<br>教育心理学の意義や目的について理解する。 | |
| 第2回 | 子どもの発達<br>子どもの発達について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第3回 | 大人の発達<br>大人の発達について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第4回 | 学習とは？(1)<br>学習理論について理解する。 | |
| 第5回 | 学習とは？(2)<br>動機づけについて理解する。 | |
| 第6回 | 頭が良いとは？<br>知能について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第7回 | 記憶力が良いとは？<br>記憶について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第8回 | 性格とは？(1)<br>性格についていて，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第9回 | 性格とは？(2) | |
| 第10回 | 集団とは？ | |
| 第11回 | 評価とアセスメント | |
| 第12回 | 子どもの心の問題(1) | |
| 第13回 | 子どもの心の問題(2) | |
| 第14回 | カウンセリングとは？ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 25 | Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。 |
| 定期試験 | 55 | 全講義終了後，教育心理学における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気付きが得られるように，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | スクールカウンセラー，医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | スクールカウンセラーでのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。<br>施設職員の経験では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。 |

| 科目名 | 教育心理学 2クラス | | | 授業番号 | ED201B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに，保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・教育心理学の基本的な概念や理論を知り，教育心理学についての知識を習得する。<br>・心理学的な視点や考え方を，保育・教育の場面でいかせるようにする。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育心理学とは？<br>教育心理学の意義や目的について理解する。 | |
| 第2回 | 子どもの発達<br>子どもの発達について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第3回 | 大人の発達<br>大人の発達について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第4回 | 学習とは？(1)<br>学習理論について理解する。 | |
| 第5回 | 学習とは？(2)<br>動機づけについて理解する。 | |
| 第6回 | 頭が良いとは？<br>知能について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第7回 | 記憶力が良いとは？<br>記憶について，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第8回 | 性格とは？(1)<br>性格についていて，諸理論を参考に理解する。 | |
| 第9回 | 性格とは？(2) | |
| 第10回 | 集団とは？ | |
| 第11回 | 評価とアセスメント | |
| 第12回 | 子どもの心の問題(1) | |
| 第13回 | 子どもの心の問題(2) | |
| 第14回 | カウンセリングとは？ | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 25 | Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。 |
| 定期試験 | 55 | 全講義終了後，教育心理学における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気付きが得られるように，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | スクールカウンセラー，医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | スクールカウンセラーでのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。<br>施設職員の経験では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。 |

| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 1クラス | | | 授業番号 | ED202A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 長櫓　涼子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し，初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また，家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて，子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに，子どもの精神保健とその課題についても考察しながら，生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し，初期経験の重要性，発達課題等を理解する。<br>2.親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得する。<br>3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や，子どもの精神保健について学び，その課題を理解する。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生涯発達(1)　乳児期の発達<br>新生児期・乳児期／言葉の発達／アタッチメント | |
| 第2回 | 生涯発達(2)　幼児期の発達<br>認知発達／言語発達／社会性の発達／自我の発達／初期経験の重要性／遊びの発達 | |
| 第3回 | 生涯発達(3)　学童期の発達<br>認知発達／社会性の発達／自己の発達／学童期の諸問題と教育支援／保幼小接続 | |
| 第4回 | 生涯発達(4)　青年期の発達<br>身体の発達／認知発達／自己の発達／対人関係の変化／臨床的課題と支援 | |
| 第5回 | 生涯発達(5)　成人期・中年期の発達<br>職業キャリアの発達／結婚と子育て／中年期危機（自己・職業・家庭） | |
| 第6回 | 生涯発達(6)　高齢期の発達<br>高齢期の心と体の発達／超高齢社会の高齢者／高齢者福祉（認知症対策）／支援・介護と世代間交流 | |
| 第7回 | 家族・家庭の理解(1)　意義の機能<br>家庭・親族・世帯とは／家族の定義・機能の変化／環境としての家庭／諸問題と支援 | |
| 第8回 | 家族・家庭の理解(2)　家族関係・親子関係の理解<br>家族のライフサイクル／家族・夫婦・親子の関係を理解する／ジェノグラム／親子・家族支援 | |
| 第9回 | 家族・家庭の理解(3)　子育ての経験と親としての育ち<br>妊娠期間中の親／初めての子育てと親としての育ち／子育て支援と相談援助／諸問題と支援 | |
| 第10回 | 子育て家庭に関する現状と課題(1)　子育てを取り巻く社会的状況<br>晩婚化・非婚化／出産・子育てをめぐる社会的状況／要保護児童と家庭への支援／高度生殖医療 | |
| 第11回 | 子育て家庭に関する現状と課題(2)　ライフコースと仕事・子育て<br>男女のライフコースの変化と特徴／諸問題（性役割分業遺・男性の育児参加・ダブルケア）／親のライフコースにおける子育ての位置づけ | |
| 第12回 | 子育て家庭に関する現状と課題(3)　多様な家庭とその理解<br>多様な家庭・家族について／子ども家庭を取り巻く様々な諸問題／多様な家族への支援 | |
| 第13回 | 子育て家庭に関する現状と課題(4)　特別な配慮を要する家庭<br>養育者のメンタルヘルス／子どもや家族の障害／不適切な養育・家族の機能不全／心理的な問題とケア | |
| 第14回 | 子どもの精神保健と課題(1)　子どもの生活・生育環境とその影響<br>発達段階と育ちの基本／生育環境の諸問題／特殊な環境で育つ子どもへの支援，保護者サポート | |
| 第15回 | 子どもの精神保健と課題(2)　子どもの心の健康にかかわる問題<br>心身の健康に関する諸問題／気になる子どもと発達障害 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，積極的なグループ討論と発表等によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して適切な解答が得られていること。課題やレポートについては評価の後，返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 課題を理解し，それについての見解が述べられていること。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業前後に教科書や配布資料を読み，理解を深めること。 |
| 授業外学修 | 授業で紹介する参考文献・資料を次回授業までに読み予習をすること。また，毎回授業の初めに前回授業の内容を確認するので復習し，１時間以上予習・復習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ(9)子ども家庭支援の心理学 | 白川佳子・福丸由佳 | 中央法規 | 978-4-8058-5789-2 | 2，000（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業中に適宜紹介する。 |
| その他 | 授業で配布するレジュメ，資料等をファイルするホルダーを用意すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 保育所の発達巡回指導員・小学校での児童特別支援事業における補助教員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼児の発達巡回指導や小学校の児童特別支援事業での補助教員としての経験を活かし，子どもの心身の発達とその特徴および健康面に配慮した支援について提示する。また保護者支援の在り方を考える。 |

| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 2クラス | | | 授業番号 | ED202B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 長櫓　涼子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し，初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また，家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて，子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに，子どもの精神保健とその課題についても考察しながら，生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し，初期経験の重要性，発達課題等を理解する。<br>2.親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得する。<br>3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や，子どもの精神保健について学び，その課題を理解する。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 生涯発達(1)　乳児期の発達<br>新生児期・乳児期／言葉の発達／アタッチメント | |
| 第2回 | 生涯発達(2)　幼児期の発達<br>認知発達／言語発達／社会性の発達／自我の発達／初期経験の重要性／遊びの発達 | |
| 第3回 | 生涯発達(3)　学童期の発達<br>認知発達／社会性の発達／自己の発達／学童期の諸問題と教育支援／保幼小接続 | |
| 第4回 | 生涯発達(4)　青年期の発達<br>身体の発達／認知発達／自己の発達／対人関係の変化／臨床的課題と支援 | |
| 第5回 | 生涯発達(5)　成人期・中年期の発達<br>職業キャリアの発達／結婚と子育て／中年期危機（自己・職業・家庭） | |
| 第6回 | 生涯発達(6)　高齢期の発達<br>高齢期の心と体の発達／超高齢社会の高齢者／高齢者福祉（認知症対策）／支援・介護と世代間交流 | |
| 第7回 | 家族・家庭の理解(1)　意義の機能<br>家庭・親族・世帯とは／家族の定義・機能の変化／環境としての家庭／諸問題と支援 | |
| 第8回 | 家族・家庭の理解(2)　家族関係・親子関係の理解<br>家族のライフサイクル／家族・夫婦・親子の関係を理解する／ジェノグラム／親子・家族支援 | |
| 第9回 | 家族・家庭の理解(3)　子育ての経験と親としての育ち<br>妊娠期間中の親／初めての子育てと親としての育ち／子育て支援と相談援助／諸問題と支援 | |
| 第10回 | 子育て家庭に関する現状と課題(1)　子育てを取り巻く社会的状況<br>晩婚化・非婚化／出産・子育てをめぐる社会的状況／要保護児童と家庭への支援／高度生殖医療 | |
| 第11回 | 子育て家庭に関する現状と課題(2)　ライフコースと仕事・子育て<br>男女のライフコースの変化と特徴／諸問題（性役割分業遺・男性の育児参加・ダブルケア）／親のライフコースにおける子育ての位置づけ | |
| 第12回 | 子育て家庭に関する現状と課題(3)　多様な家庭とその理解<br>多様な家庭・家族について／子ども家庭を取り巻く様々な諸問題／多様な家族への支援 | |
| 第13回 | 子育て家庭に関する現状と課題(4)　特別な配慮を要する家庭<br>養育者のメンタルヘルス／子どもや家族の障害／不適切な養育・家族の機能不全／心理的な問題とケア | |
| 第14回 | 子どもの精神保健と課題(1)　子どもの生活・生育環境とその影響<br>発達段階と育ちの基本／生育環境の諸問題／特殊な環境で育つ子どもへの支援，保護者サポート | |
| 第15回 | 子どもの精神保健と課題(2)　子どもの心の健康にかかわる問題<br>心身の健康に関する諸問題／気になる子どもと発達障害 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，積極的なグループ討論と発表等によって評価する。 |
| レポート | 30 | 課題に対して適切な解答が得られていること。課題やレポートについては評価の後，返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 課題を理解し，それについての見解が述べられていること。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業前後に教科書や配布資料を読み，理解を深めること。 |
| 授業外学修 | 授業で紹介する参考文献・資料を次回授業までに読み予習をすること。また，毎回授業の初めに前回授業の内容を確認するので復習し，１時間以上予習・復習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ(9)子ども家庭支援の心理学 | 白川佳子・福丸由佳 | 中央法規 | 978-4-8058-5789-2 | 2，000（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業中に適宜紹介する。 |
| その他 | 授業で配布するレジュメ，資料等をファイルするホルダーを用意すること。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 保育所の発達巡回指導員・小学校での児童特別支援事業における補助教員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼児の発達巡回指導や小学校の児童特別支援事業での補助教員としての経験を活かし，子どもの心身の発達とその特徴および健康面に配慮した支援について提示する。また保護者支援の在り方を考える。 |

| 科目名 | 子どもの理解と援助 1クラス | | | 授業番号 | ED203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で，子どもを理解する視点や方法を知る。また，保育者（保育士や幼稚園教諭等）が，子ども理解に基づき具体的にどのような援助や環境構成等を行っているのか，その基本について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育における子ども理解の意義や重要性を理解できる。<br>・子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。<br>・子ども理解を深めるための，保育者の姿勢や援助について理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における子ども理解の意義について学ぶ | |
| 第2回 | 子どもを理解するための保育者の姿勢や態度について学ぶ | |
| 第3回 | 子どもを理解する視点「子どもの生活や遊び」について学ぶ | |
| 第4回 | 子どもを理解する視点「集団の中での子ども」について学ぶ | |
| 第5回 | 子どもを理解する視点「いざこざやトラブル」について学ぶ | |
| 第6回 | 子どもを理解する視点「葛藤やつまずき」について学ぶ | |
| 第7回 | 子どもを理解する方法「保育の環境の理解と構成」について学ぶ | |
| 第8回 | 子どもを理解する方法「観察・記録・振り返りの実際」について学ぶ | |
| 第9回 | 保育における評価について理解する | |
| 第10回 | 子ども理解を深めるための保育カンファレンスについて学ぶ | |
| 第11回 | 子ども理解に基づく保育者の援助はどのようなものかを事例を通して考える（１） | |
| 第12回 | 子ども理解に基づく保育者の援助はどのようなものかを事例を通して考える（２） | |
| 第13回 | 小学校との連携・接続について学ぶ | |
| 第14回 | 子育て支援・家庭支援における子ども理解について学ぶ | |
| 第15回 | 特別な配慮を要する子どもへの理解と援助について学ぶ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 子ども理解の必要性や重要性について，これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子どもを理解するためには，自分の子ども観や保育観を意識した上で，子どもの何を見ようとし，どのようにとらえるのかを多様な視点から考えていくことが必要である。<br>主体的に授業に参加し，自分で考えたり，自分の言葉で表現したりすること。また，他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。 |
| 授業外学修 | 1　予習として授業にかかわる視点について，実習での経験や配布資料等をもとに考え，疑問点を明らかにする。<br>2　復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，資料を配布する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼児理解に基づいた評価 | 文部科学省 | チャイルド本社 | 978-4805402832 | 275円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，現場での経験や実践をもとに演習授業を行う。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 子どもの理解と援助 2クラス | | | 授業番号 | ED203B | サブタイトル | | | |
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で，子どもを理解する視点や方法を知る。また，保育者（保育士や幼稚園教諭等）が，子ども理解に基づき具体的にどのような援助や環境構成等を行っているのか，その基本について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・保育における子ども理解の意義や重要性を理解できる。<br>・子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。<br>・子ども理解を深めるための，保育者の姿勢や援助について理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における子ども理解の意義について学ぶ | |
| 第2回 | 子どもを理解するための保育者の姿勢や態度について学ぶ | |
| 第3回 | 子どもを理解する視点「子どもの生活や遊び」について学ぶ | |
| 第4回 | 子どもを理解する視点「集団の中での子ども」について学ぶ | |
| 第5回 | 子どもを理解する視点「いざこざやトラブル」について学ぶ | |
| 第6回 | 子どもを理解する視点「葛藤やつまずき」について学ぶ | |
| 第7回 | 子どもを理解する方法「保育の環境の理解と構成」について学ぶ | |
| 第8回 | 子どもを理解する方法「観察・記録・振り返りの実際」について学ぶ | |
| 第9回 | 保育における評価について理解する | |
| 第10回 | 子ども理解を深めるための保育カンファレンスについて学ぶ | |
| 第11回 | 子ども理解に基づく保育者の援助はどのようなものかを事例を通して考える（１） | |
| 第12回 | 子ども理解に基づく保育者の援助はどのようなものかを事例を通して考える（２） | |
| 第13回 | 小学校との連携・接続について学ぶ | |
| 第14回 | 子育て支援・家庭支援における子ども理解について学ぶ | |
| 第15回 | 特別な配慮を要する子どもへの理解と援助について学ぶ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 子ども理解の必要性や重要性について，これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子どもを理解するためには，自分の子ども観や保育観を意識した上で，子どもの何を見ようとし，どのようにとらえるのかを多様な視点から考えていくことが必要である。<br>主体的に授業に参加し，自分で考えたり，自分の言葉で表現したりすること。また，他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。 |
| 授業外学修 | 1　予習として授業にかかわる視点について，実習での経験や配布資料等をもとに考え，疑問点を明らかにする。<br>2　復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時，資料を配布する |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼児理解に基づいた評価 | 文部科学省 | チャイルド本社 | 978-4805402832 | 275円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，現場での経験や実践をもとに演習授業を行う。 |

| 科目名 | 子どもの保健 | | | 授業番号 | ED204 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 金山　時恵 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 子どもの心身の成長発達について学び，健康の保持増進のための保健活動について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解して，それを論述できる。<br>２．子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解して，それを論述できる。<br>３．小児期に起こりやすい病気と怪我について，予防法と適切な対応が理解して，それを論述できる。<br>本科目は，本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの心身の健康と保健の意義について学ぶ。 | |
| 第2回 | 子どもの保健の諸統計について学ぶ。 | |
| 第3回 | 子どもの心身の発達とその評価について学ぶ。 | |
| 第4回 | 子どもの生理機能の発達として呼吸，体温，循環について学ぶ。 | |
| 第5回 | 子どもの生理機能の発達として消化機能，排泄機能，睡眠について学ぶ。 | |
| 第6回 | 「早寝早起き朝ごはん」運動と子どもの睡眠について学ぶ。 | |
| 第7回 | 子どもの脳神経，運動機能の発達について学ぶ。 | |
| 第8回 | 子どもの感覚の発達とその評価について学ぶ。 | |
| 第9回 | 子どもの病気として先天異常，呼吸器等の予防，手当てについて学ぶ。 | |
| 第10回 | 子どもの病気として消化器，血液疾患等の予防，手当てについて学ぶ。 | |
| 第11回 | 子どもの病気として泌尿器，皮膚等の予防，手当てについて学ぶ。 | |
| 第12回 | 子どもの保健と感染症ガイドライン，アレルギー性疾患への対応について学ぶ。 | |
| 第13回 | 子どもの体調不良等の健康観察と支援について学ぶ。 | |
| 第14回 | 子どもの支援，病棟保育士について学ぶ。DVDの視聴を行う。 | |
| 第15回 | 子どもの健康と安全管理の実施体制と保育者の役割について学ぶ。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 集中して授業に取り組み，授業内に提出する課題の記述内容が的確である。 |
| レポート | 10 | 睡眠リズム表が正確に記入でき，締切に間に合うように提出できる。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。 |
| 小テスト | 20 | |
| 定期試験 | 60 | 到達目標1・2・3の理解度・定着度について評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 保育者を目指す学生として，まず自分の健康の保持増進に関心をもつこと<br>小児保健に関するニュースに関心をもつこと<br>保育所・幼稚園などでボランティア活動をおこない，子どもの理解に努めること |
| 授業外学修 | 授業内容に関するテキスト内容を読んだり，それ以外の資料を調べてノート整理すること<br>小テストを行うので，復習を行うこと。小テストの実施については授業内で連絡する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの保健と安全 | 髙内正子 | 教育情報出版 | 978-4-909378-43-9 | 2497 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 看護職（保健師）としての実務経験を有する。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ａ 1クラス | | | 授業番号 | ED205A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 荻田　志津子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 妊娠期（胎児期），乳児期，幼児期，学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学び，その後の生涯発達（成人期・高齢期）の健康および食生活と，子どもの食生活との関係を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食育の基本と内容を的確に理解する。そしてバランスの良い食事内容を理解記憶して，保育者自身が実践できる。<br>その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 朝食の大切さ，栄養素 | |
| 第2回 | 食事のバランス，水分補給 | |
| 第3回 | 生理時・妊婦の栄養 | |
| 第4回 | 母乳栄養・人工栄養 | |
| 第5回 | 離乳食 | |
| 第6回 | 幼児の食事・間食 | |
| 第7回 | 保育所給食・弁当 | |
| 第8回 | 食物アレルギー | |
| 第9回 | 学童期・思春期の食生活 | |
| 第10回 | 貧血・骨粗鬆予防の栄養および食事 | |
| 第11回 | 高血圧・高脂血症予防の食事 | |
| 第12回 | 運動と栄養 | |
| 第13回 | 疾病および体調不良の子どもへの対応 | |
| 第14回 | 実践編　食育・栄養教育と保育 | |
| 第15回 | 総まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的に質問したり，意見を述べられることを評価する。 |
| レポート | 30 | 既存の事実を知った上で，自分の意見を述べられることを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 講義内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 集中して講義を聴き，受講内容をノートにまとめる。<br>積極的に質問に答え，授業に参加する。 |
| 授業外学修 | 毎回授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食生活 | 上田玲子 | ななみ書房 | | 2400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特になし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 市役所健康づくり課のこどもの食事指導 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育士・幼稚園教諭に必要な，こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導する。 |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ａ 2クラス | | | 授業番号 | ED205B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 荻田　志津子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 妊娠期（胎児期），乳児期，幼児期，学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学び，その後の生涯発達（成人期・高齢期）の健康および食生活と，子どもの食生活との関係を理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 食育の基本と内容を的確に理解する。そしてバランスの良い食事内容を理解記憶して，保育者自身が実践できる。<br>その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 朝食の大切さ，栄養素 | |
| 第2回 | 食事のバランス，水分補給 | |
| 第3回 | 生理時・妊婦の栄養 | |
| 第4回 | 母乳栄養・人工栄養 | |
| 第5回 | 離乳食 | |
| 第6回 | 幼児の食事・間食 | |
| 第7回 | 保育所給食・弁当 | |
| 第8回 | 食物アレルギー | |
| 第9回 | 学童期・思春期の食生活 | |
| 第10回 | 貧血・骨粗鬆予防の栄養および食事 | |
| 第11回 | 高血圧・高脂血症予防の食事 | |
| 第12回 | 運動と栄養 | |
| 第13回 | 疾病および体調不良の子どもへの対応 | |
| 第14回 | 実践編　食育・栄養教育と保育 | |
| 第15回 | 総まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 積極的に質問したり，意見を述べられることを評価する。 |
| レポート | 30 | 既存の事実を知った上で，自分の意見を述べられることを評価する。 |
| 小テスト | 10 | 講義内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 30 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 集中して講義を聴き，受講内容をノートにまとめる。<br>積極的に質問に答え，授業に参加する。 |
| 授業外学修 | 毎回授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの食生活 | 上田玲子 | ななみ書房 | | 2400円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特になし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 市役所健康づくり課のこどもの食事指導 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育士・幼稚園教諭に必要な，こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導する。 |

| 科目名 | 子どもの食と栄養Ｂ | | | 授業番号 | ED206 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 荻田　志津子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 小児栄養を基礎として，乳幼児の食事（調乳，離乳食，幼児食等），薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事，成人の食事を調理，試食する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実習を通して子どもの食生活の重要性と供食者としての責任を理解した上で，自分自身でもバランスのとれた薄味の料理が出来るようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 調乳 | |
| 第2回 | 離乳食 | |
| 第3回 | 幼児のおやつ | |
| 第4回 | 幼児食（１～２歳児） | |
| 第5回 | 幼児食（１～２歳児） | |
| 第6回 | 幼児食（３～５歳児） | |
| 第7回 | 幼児食（３～５歳児） | |
| 第8回 | 高血圧予防の食事 | |
| 第9回 | 高血圧予防の食事 | |
| 第10回 | 洋食の行事食 | |
| 第11回 | 洋食の行事食 | |
| 第12回 | 幼児の弁当 | |
| 第13回 | 幼児の弁当 | |
| 第14回 | 和食の行事食　ひな祭り | |
| 第15回 | 和食の行事食　ひな祭り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 意欲的な実習態度により評価する。 |
| レポート | 30 | 実習内容の客観的評価と改善点について具体的に述べられていることを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習形式ですすめるので，積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 実習内容を自宅にて再度調理し，料理技術の向上に努める。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 特になし |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 市役所健康づくり課のこどもの食事指導 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育士・幼稚園教諭に必要な，こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導する。 |

| 科目名 | 教育相談 1クラス | | | 授業番号 | ED207A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要さやカウンセリング・マインドの大切さを理解し，基本的な応答の仕方を身につけることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育相談とは<br>教育相談の全体像について理解する。 | |
| 第2回 | 保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド<br>保育の場における相談ニーズや保育者に求められるカウンセリング・マインドについて理解する。 | |
| 第3回 | 子どもの発達理解と相談・支援（１）<br>乳幼児の発達理解と相談支援の在り方について映像教材等を視聴し理解する。 | |
| 第4回 | 子どもの発達理解と相談・支援（２）<br>幼児の発達理解と相談支援の在り方について映像教材等を視聴し理解する。 | |
| 第5回 | 保護者への対応ー子育て支援の視点からー<br>親子の関係づくりや，「親育ち」の視点について理解する。 | |
| 第6回 | 発達障害や気になる子ども<br>発達障害や気になる子どもの現状や課題について理解する。 | |
| 第7回 | 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり<br>発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわりについて理解し，演習を行う。 | |
| 第8回 | 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ<br>子どものアセスメントやカウンセリングの基礎理論について理解する。 | |
| 第9回 | 保育場面でのカウンセリング技法の活用（１）<br>保育場面でのカウンセリング技法の活用について理解し，演習を行う。 | |
| 第10回 | 保育場面でのカウンセリング技法の活用（２）<br>保育場面でのカウンセリング技法の活用について演習を行い，理解を深める。 | |
| 第11回 | 園・地域における専門家との連携による相談・支援<br>園・地域における専門家や社会資源について理解し，それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。 | |
| 第12回 | 保育者の専門性と相談活動<br>保育・教育相談における倫理や，保育者同士の同僚性等について理解する。 | |
| 第13回 | 基礎的対人関係（１）<br>基礎的対人関係について理解し，演習を行う。 | |
| 第14回 | 基礎的対人関係（２）<br>基礎的対人関係に関する演習を行う。 | |
| 第15回 | 保育者のメンタルヘルス<br>保育者自身のメンタルヘルスについて理解し，ストレスの軽減方法を知る。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | 55 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>3　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの理解と保育・教育相談 | 小田豊・秋田喜代美 | みらい | 978-4-86015-546-9 | 2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。 |

| 科目名 | 教育相談 2クラス | | | 授業番号 | ED207B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要さやカウンセリング・マインドの大切さを理解し，基本的な応答の仕方を身につけることができるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育相談とは<br>教育相談の全体像について理解する。 | |
| 第2回 | 保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド<br>保育の場における相談ニーズや保育者に求められるカウンセリング・マインドについて理解する。 | |
| 第3回 | 子どもの発達理解と相談・支援（１）<br>乳幼児の発達理解と相談支援の在り方について映像教材等を視聴し理解する。 | |
| 第4回 | 子どもの発達理解と相談・支援（２）<br>幼児の発達理解と相談支援の在り方について映像教材等を視聴し理解する。 | |
| 第5回 | 保護者への対応ー子育て支援の視点からー<br>親子の関係づくりや，「親育ち」の視点について理解する。 | |
| 第6回 | 発達障害や気になる子ども<br>発達障害や気になる子どもの現状や課題について理解する。 | |
| 第7回 | 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり<br>発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわりについて理解し，演習を行う。 | |
| 第8回 | 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ<br>子どものアセスメントやカウンセリングの基礎理論について理解する。 | |
| 第9回 | 保育場面でのカウンセリング技法の活用（１）<br>保育場面でのカウンセリング技法の活用について理解し，演習を行う。 | |
| 第10回 | 保育場面でのカウンセリング技法の活用（２）<br>保育場面でのカウンセリング技法の活用について演習を行い，理解を深める。 | |
| 第11回 | 園・地域における専門家との連携による相談・支援<br>園・地域における専門家や社会資源について理解し，それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。 | |
| 第12回 | 保育者の専門性と相談活動<br>保育・教育相談における倫理や，保育者同士の同僚性等について理解する。 | |
| 第13回 | 基礎的対人関係（１）<br>基礎的対人関係について理解し，演習を行う。 | |
| 第14回 | 基礎的対人関係（２）<br>基礎的対人関係に関する演習を行う。 | |
| 第15回 | 保育者のメンタルヘルス<br>保育者自身のメンタルヘルスについて理解し，ストレスの軽減方法を知る。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 15 | 各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。 |
| 定期試験 | 55 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>3　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの理解と保育・教育相談 | 小田豊・秋田喜代美 | みらい | 978-4-86015-546-9 | 2100円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。 |

| 科目名 | 教育・保育課程論 1クラス | | | 授業番号 | EE201A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，指導計画等を自分なりに作成できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育の基本と教育課程・全体的な計画<br>保育の基本や育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について理解する。また，「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画の関係性について理解する。 | |
| 第2回 | 幼稚園における教育課程と指導計画の実際<br>幼稚園の教育課程や留意事項について理解する。 | |
| 第3回 | 指導計画の作成の基本とその方法<br>指導計画の形式や作成方法について理解し，幼稚園の部分指導計画の作成を行う。 | |
| 第4回 | 幼稚園の部分指導計画<br>幼稚園の部分指導計画の作成や小グループ内での発表を通して，指導計画の理解を深める。 | |
| 第5回 | 保育所における全体的な計画と保育の実際<br>保育所の全体的な計画や留意事項について理解する。 | |
| 第6回 | 乳児，１・２歳児の特徴と指導計画<br>乳幼児の発達段階の特徴を理解し，子どもの姿に応じたねらいや内容を考える。 | |
| 第7回 | 幼児（３・４・５歳児）の特徴と指導計画<br>幼児の発達段階の特徴を理解し，子どもの姿に応じたねらいや内容を考える。 | |
| 第8回 | 保育の実践と評価（１）<br>カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や保育の評価等について理解する。 | |
| 第9回 | 保育の実践と評価（２）<br>カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や保育の評価等について演習を通して理解を深める。 | |
| 第10回 | 理想の園の教育課程・全体的な計画の作成（１）<br>作成の留意点について理解し，グループで具体的な目標の設定を行う。 | |
| 第11回 | 理想の園の教育課程・全体的な計画の作成（２）<br>子どもの発達段階に応じた，グループで子どもの姿，ねらい，内容を設定する。 | |
| 第12回 | 理想の園の指導計画の作成（１）<br>作成の留意点について理解し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。 | |
| 第13回 | 理想の園の指導計画の作成（２）<br>作成の留意点について理解し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。 | |
| 第14回 | 発表・意見交換（１）<br>教育課程・全体的な計画と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。 | |
| 第15回 | 発表・意見交換（２）<br>教育課程・全体的な計画と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，授業内の発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 30 | 提出された課題から，授業内容が理解できているか，自身の考えを表現できているかを評価する。提出された課題は確認し返却する。 |
| 小テスト | 15 | 授業後に行う小テストにより，授業内容が理解できているかを評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 25 | 最終の発表・意見交換への参加や意欲的な態度によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。<br>3　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>4　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教育課程・保育の計画と評価 | 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 | 萌文書林 | 978-4-89347-314-1 | 1900円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 特別支援学校幼稚部での経験を基に，具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。 |

| 科目名 | 教育・保育課程論 2クラス | | | 授業番号 | EE201B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，指導計画等を自分なりに作成できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育の基本と教育課程・全体的な計画<br>保育の基本や育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について理解する。また，「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画の関係性について理解する。 | |
| 第2回 | 幼稚園における教育課程と指導計画の実際<br>幼稚園の教育課程や留意事項について理解する。 | |
| 第3回 | 指導計画の作成の基本とその方法<br>指導計画の形式や作成方法について理解し，幼稚園の部分指導計画の作成を行う。 | |
| 第4回 | 幼稚園の部分指導計画<br>幼稚園の部分指導計画の作成や小グループ内での発表を通して，指導計画の理解を深める。 | |
| 第5回 | 保育所における全体的な計画と保育の実際<br>保育所の全体的な計画や留意事項について理解する。 | |
| 第6回 | 乳児，１・２歳児の特徴と指導計画<br>乳幼児の発達段階の特徴を理解し，子どもの姿に応じたねらいや内容を考える。 | |
| 第7回 | 幼児（３・４・５歳児）の特徴と指導計画<br>幼児の発達段階の特徴を理解し，子どもの姿に応じたねらいや内容を考える。 | |
| 第8回 | 保育の実践と評価（１）<br>カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や保育の評価等について理解する。 | |
| 第9回 | 保育の実践と評価（２）<br>カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や保育の評価等について演習を通して理解を深める。 | |
| 第10回 | 理想の園の教育課程・全体的な計画の作成（１）<br>作成の留意点について理解し，グループで具体的な目標の設定を行う。 | |
| 第11回 | 理想の園の教育課程・全体的な計画の作成（２）<br>子どもの発達段階に応じた，グループで子どもの姿，ねらい，内容を設定する。 | |
| 第12回 | 理想の園の指導計画の作成（１）<br>作成の留意点について理解し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。 | |
| 第13回 | 理想の園の指導計画の作成（２）<br>作成の留意点について理解し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。 | |
| 第14回 | 発表・意見交換（１）<br>教育課程・全体的な計画と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。 | |
| 第15回 | 発表・意見交換（２）<br>教育課程・全体的な計画と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，授業内の発表・討議への参加によって評価する。 |
| レポート | 30 | 提出された課題から，授業内容が理解できているか，自身の考えを表現できているかを評価する。提出された課題は確認し返却する。 |
| 小テスト | 15 | 授業後に行う小テストにより，授業内容が理解できているかを評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 25 | 最終の発表・意見交換への参加や意欲的な態度によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。<br>2　課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。<br>3　発表や討議に積極的に取り組むこと。<br>4　配付する資料を整理しておくこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 教育課程・保育の計画と評価 | 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 | 萌文書林 | 978-4-89347-314-1 | 1900円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 特別支援学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 特別支援学校幼稚部での経験を基に，具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。 |

| 科目名 | 保育内容総論 1クラス | | | 授業番号 | EE202A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。<br>教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。<br>以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。 | |
| 第2回 | 子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。 | |
| 第3回 | 教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。 | |
| 第4回 | 環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。 | |
| 第5回 | 要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。 | |
| 第6回 | 子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。 | |
| 第7回 | 支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。 | |
| 第8回 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。 | |
| 第9回 | 活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 | |
| 第10回 | 教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。 | |
| 第11回 | 教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。 | |
| 第12回 | 運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。 | |
| 第13回 | 「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。 | |
| 第14回 | 模擬保育を目指して指導案を作成する。 | |
| 第15回 | 模擬保育をグループで実施する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。 |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。<br>グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。<br>講義を通して， 少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>1週間あたり5時間を目安とする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年6月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・保育内容総論ー保育って，おもしろいー | 前田和代 | 教育情報出版 | 978-4-909378-50-7 | 1，800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | 保育内容総論 2クラス | | | 授業番号 | EE202B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。<br>教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。<br>以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。 | |
| 第2回 | 子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。 | |
| 第3回 | 教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。 | |
| 第4回 | 環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。 | |
| 第5回 | 要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。 | |
| 第6回 | 子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。 | |
| 第7回 | 支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。 | |
| 第8回 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。 | |
| 第9回 | 活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 | |
| 第10回 | 教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。 | |
| 第11回 | 教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。 | |
| 第12回 | 運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。 | |
| 第13回 | 「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。 | |
| 第14回 | 模擬保育を目指して指導案を作成する。 | |
| 第15回 | 模擬保育をグループで実施する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。 |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。<br>グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。<br>講義を通して， 少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>1週間あたり5時間を目安とする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年6月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・保育内容総論－保育って，おもしろい－ | 前田和代 | 教育情報出版 | 978-4-909378-50-7 | 1，800円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | （保育内容）健康 1クラス | | | 授業番号 | EE203A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「健康」とは<br>子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。 | |
| 第2回 | 「幼児期における運動遊びの必要性」<br>なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。 | |
| 第3回 | 「運動遊びと健康（1）」<br>集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。 | |
| 第4回 | 「運動遊びと健康（2）」<br>身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。 | |
| 第5回 | 「運動遊びと健康（3）」<br>サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。 | |
| 第6回 | 「運動遊びと健康（4）」<br>リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。 | |
| 第7回 | 「運動遊びと健康（5）」<br>ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。 | |
| 第8回 | 「運動遊びと健康（6）」<br>伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。 | |
| 第9回 | 「運動遊びと健康（7）」<br>いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第10回 | 「運動遊びと健康（8）」<br>いろいろな陣取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第11回 | 「運動遊びと健康（9）」<br>大型かるたとり遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第12回 | 「模擬保育　運動会の計画と準備」<br>保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。 | |
| 第13回 | 「模擬保育　運動会(1)」<br>自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。 | |
| 第14回 | 「模擬保育　運動会(2)」<br>自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。 | |
| 第15回 | 「家庭との連携・まとめ」<br>運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は，減点対象とする。一方，授業中の発表やグループ内での発表状況等，積極的な言動が確認できた場合は，加点対象とする。 |
| レポート | 30 | 授業で体験したことを踏まえ，実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で，子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合，内容に応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して，模擬保育を実施し，その理解度や保育への展開具合を得点化する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・運動着を着用する<br>・室内用シューズを履く<br>・貴重品は自己管理する<br>・装飾品は身につけない（髪は結わえる）<br>・全員協力の上，準備・片付けをする<br>・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む |
| 授業外学修 | ・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり，新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。<br>・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して，保育現場で行われている運動遊びについて，対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。<br>・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め，指導案として反映できるようにすること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼児期運動指針ガイドブック | 文部科学省 | サン・ライフ企画 | 978-4-904011-47-8 | 1300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。 |

| 科目名 | （保育内容）健康 2クラス | | | 授業番号 | EE203B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「健康」とは<br>子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。 | |
| 第2回 | 「幼児期における運動遊びの必要性」<br>なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。 | |
| 第3回 | 「運動遊びと健康（1）」<br>集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。 | |
| 第4回 | 「運動遊びと健康（2）」<br>身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。 | |
| 第5回 | 「運動遊びと健康（3）」<br>サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。 | |
| 第6回 | 「運動遊びと健康（4）」<br>リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。 | |
| 第7回 | 「運動遊びと健康（5）」<br>ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。 | |
| 第8回 | 「運動遊びと健康（6）」<br>伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。 | |
| 第9回 | 「運動遊びと健康（7）」<br>いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第10回 | 「運動遊びと健康（8）」<br>いろいろな陣取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第11回 | 「運動遊びと健康（9）」<br>大型かるたとり遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。 | |
| 第12回 | 「模擬保育　運動会の計画と準備」<br>保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。 | |
| 第13回 | 「模擬保育　運動会(1)」<br>自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。 | |
| 第14回 | 「模擬保育　運動会(2)」<br>自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。 | |
| 第15回 | 「家庭との連携・まとめ」<br>運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は，減点対象とする。一方，授業中の発表やグループ内での発表状況等，積極的な言動が確認できた場合は，加点対象とする。 |
| レポート | 30 | 授業で体験したことを踏まえ，実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で，子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合，内容に応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して，模擬保育を実施し，その理解度や保育への展開具合を得点化する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・運動着を着用する<br>・室内用シューズを履く<br>・貴重品は自己管理する<br>・装飾品は身につけない（髪は結わえる）<br>・全員協力の上，準備・片付けをする<br>・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む |
| 授業外学修 | ・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり，新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。<br>・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して，保育現場で行われている運動遊びについて，対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。<br>・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め，指導案として反映できるようにすること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼児期運動指針ガイドブック | 文部科学省 | サン・ライフ企画 | 978-4-904011-47-8 | 1300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立小学校教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校現場での経験を生かして，幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。 |

| 科目名 | （保育内容）人間関係 1クラス | | | 授業番号 | EE204A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け，幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について，背景となる専門領域と関連させて理解を深める。<br>その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代社会と幼児の人間関係 | |
| 第2回 | 家庭や地域の人間関係 | |
| 第3回 | 3歳未満児における人間関係の発達（１） | |
| 第4回 | 3歳未満児における人間関係の発達（２） | |
| 第5回 | 幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち | |
| 第6回 | 幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち | |
| 第7回 | 乳幼児期の自立心の育ち（１） | |
| 第8回 | 乳幼児期の自立心の育ち（２） | |
| 第9回 | 幼児期の協同性の育ち（１） | |
| 第10回 | 幼児期の協同性の育ち（２） | |
| 第11回 | 幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１） | |
| 第12回 | 幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２） | |
| 第13回 | 乳幼児期の人間関係のひろがり | |
| 第14回 | 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり | |
| 第15回 | 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 90 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストや配付資料についてはよく読み，内容を把握し，授業で学んだことを整理しておくこと。<br>講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。<br>「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係－こどもにとっての人間関係とは－ | 齊藤崇ほか | 教育情報出版 | 978-4-909378-51-4 | 2000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年6月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | （保育内容）人間関係 2クラス | | | 授業番号 | EE204B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け，幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について，背景となる専門領域と関連させて理解を深める。<br>その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 現代社会と幼児の人間関係 | |
| 第2回 | 家庭や地域の人間関係 | |
| 第3回 | 3歳未満児における人間関係の発達（１） | |
| 第4回 | 3歳未満児における人間関係の発達（２） | |
| 第5回 | 幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち | |
| 第6回 | 幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち | |
| 第7回 | 乳幼児期の自立心の育ち（１） | |
| 第8回 | 乳幼児期の自立心の育ち（２） | |
| 第9回 | 幼児期の協同性の育ち（１） | |
| 第10回 | 幼児期の協同性の育ち（２） | |
| 第11回 | 幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１） | |
| 第12回 | 幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２） | |
| 第13回 | 乳幼児期の人間関係のひろがり | |
| 第14回 | 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり | |
| 第15回 | 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 90 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テキストや配付資料についてはよく読み，内容を把握し，授業で学んだことを整理しておくこと。<br>講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。<br>「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係－こどもにとっての人間関係とは－ | 齊藤崇ほか | 教育情報出版 | 978-4-909378-51-4 | 2000 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年6月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | （保育内容）環境 1クラス | | | 授業番号 | EE205A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育と環境<br>…保育における環境をの意味を理解しよう。 | |
| 第2回 | 領域「環境」の捉え方と考え方<br>…領域「環境」について考えてみよう。 | |
| 第3回 | 保育環境の構成<br>…環境を構成する理由を知ろう。 | |
| 第4回 | 人的環境について<br>…人的環境の意味を知ろう。 | |
| 第5回 | 豊かな生活を育む環境をデザインする<br>…様々な環境（自然）を知ろう。 | |
| 第6回 | 泥団子を作ろう<br>…泥団子を作って楽しもう。 | |
| 第7回 | 泥団子を極めよう<br>…泥団子の理論を理解して，実践してみよう。 | |
| 第8回 | ごっこ遊びについて<br>…ごっこ遊びの重要性を知ろう。 | |
| 第9回 | 遊びにかかわる指導を考えよう<br>…指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。 | |
| 第10回 | 生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について<br>…食育及び栽培計画を作成しよう。 | |
| 第11回 | 作品展について<br>…子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。 | |
| 第12回 | フォトブック鑑賞会<br>…それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう | |
| 第13回 | 砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編<br>…砂・水遊びの意味を知り，計画してみよう。 | |
| 第14回 | 砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編<br>…それぞれに指導案から実践してみよう。 | |
| 第15回 | 子どもを守る安全な環境について<br>…保育における安全な環境ついて考えよう。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 30 | フォトブックの作成（自然物） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | フォトブックについて<br>・写真１０枚以上（１０種類以上）（１点）<br>・表紙にタイトルをつける（１点）<br>・裏表紙に学籍番号・名前を書く（１点）<br>・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（１点）<br>・大きさ15cm×18cm以上（１点）<br><br>◎ポイント<br>・子どもがみてわかりやすいこと（10点）<br>・統一感を持って作成してあること（5点）<br>・自分なりの工夫がされていること（10点）<br>※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | 日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。<br>地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，ノートの整理を行う。<br>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜レジュメを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。 |

| 科目名 | （保育内容）環境 2クラス | | | 授業番号 | EE205B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育と環境<br>…保育における環境をの意味を理解しよう。 | |
| 第2回 | 領域「環境」の捉え方と考え方<br>…領域「環境」について考えてみよう。 | |
| 第3回 | 保育環境の構成<br>…環境を構成する理由を知ろう。 | |
| 第4回 | 人的環境について<br>…人的環境の意味を知ろう。 | |
| 第5回 | 豊かな生活を育む環境をデザインする<br>…様々な環境（自然）を知ろう。 | |
| 第6回 | 泥団子を作ろう<br>…泥団子を作って楽しもう。 | |
| 第7回 | 泥団子を極めよう<br>…泥団子の理論を理解して，実践してみよう。 | |
| 第8回 | ごっこ遊びについて<br>…ごっこ遊びの重要性を知ろう。 | |
| 第9回 | 遊びにかかわる指導を考えよう<br>…指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。 | |
| 第10回 | 生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について<br>…食育及び栽培計画を作成しよう。 | |
| 第11回 | 作品展について<br>…子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。 | |
| 第12回 | フォトブック鑑賞会<br>…それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう | |
| 第13回 | 砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編<br>…砂・水遊びの意味を知り，計画してみよう。 | |
| 第14回 | 砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編<br>…それぞれに指導案から実践してみよう。 | |
| 第15回 | 子どもを守る安全な環境について<br>…保育における安全な環境ついて考えよう。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | 30 | フォトブックの作成（自然物） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | フォトブックについて<br>・写真１０枚以上（１０種類以上）（１点）<br>・表紙にタイトルをつける（１点）<br>・裏表紙に学籍番号・名前を書く（１点）<br>・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（１点）<br>・大きさ15cm×18cm以上（１点）<br><br>◎ポイント<br>・子どもがみてわかりやすいこと（10点）<br>・統一感を持って作成してあること（5点）<br>・自分なりの工夫がされていること（10点）<br>※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | 日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。<br>地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，ノートの整理を行う。<br>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜レジュメを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。 |

| 科目名 | （保育内容）言葉 1クラス | | | 授業番号 | EE206A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 保育内容における領域「言葉」について理解するとともに，子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して，子どもの言葉の獲得に必要な保育者のかかわりについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における，ねらい・内容・留意事項を理解できる。<br>・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。<br>・絵本，ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。<br>・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する | |
| 第2回 | 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する | |
| 第3回 | 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する | |
| 第4回 | 幼児の言葉の特徴と発達について理解する | |
| 第5回 | 領域「言葉」のねらいと内容について理解する | |
| 第6回 | 子どもの言葉を豊かにする児童文化財（絵本・紙芝居）の特性，保育における意義や役割を理解する | |
| 第7回 | 絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする） | |
| 第8回 | 子どもの言葉を豊かにする児童文化財（エプロンシアター，パネルシアターなど）を体験する | |
| 第9回 | 言葉そのもののもつ面白さや言葉に対する感覚について考える | |
| 第10回 | 保育で用いるペープサートを作る１ | |
| 第11回 | 保育で用いるペープサートを作る２ | |
| 第12回 | ペープサートを演じる（模擬保育をする） | |
| 第13回 | 子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える | |
| 第14回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える | |
| 第15回 | 特別支援，多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業における発表や参加態度，事前事後学習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に関する基本的な知識や技術についての試験行い，理解度を評価する。 |
| その他 | 20 | 絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。保育現場での実践を想定し，子どもの発達段階や興味関心，子どもの見え方等を意識して作成，演じることができたかどうかを評価する。（10%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な態度で授業に臨むこと。<br>発表等の活動には主体的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習としてノートの記入や資料の整理をする。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| デザインする保育内容指導法「言葉」 | 田中　謙　編著 | 教育情報出版 | 978-4-909378-09-5 | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 | 文部科学省　厚生労働省　内閣府 | チャイルド本社 | 978-4805402580 | 500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，事例や実践をもとに，領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。 |

| 科目名 | （保育内容）言葉 2クラス | | | 授業番号 | EE206B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 保育内容における領域「言葉」について理解するとともに，子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して，子どもの言葉の獲得に必要な保育者のかかわりについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における，ねらい・内容・留意事項を理解できる。<br>・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。<br>・絵本，ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。<br>・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する | |
| 第2回 | 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する | |
| 第3回 | 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する | |
| 第4回 | 幼児の言葉の特徴と発達について理解する | |
| 第5回 | 領域「言葉」のねらいと内容について理解する | |
| 第6回 | 子どもの言葉を豊かにする児童文化財（絵本・紙芝居）の特性，保育における意義や役割を理解する | |
| 第7回 | 絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする） | |
| 第8回 | 子どもの言葉を豊かにする児童文化財（エプロンシアター，パネルシアターなど）を体験する | |
| 第9回 | 言葉そのもののもつ面白さや言葉に対する感覚について考える | |
| 第10回 | 保育で用いるペープサートを作る１ | |
| 第11回 | 保育で用いるペープサートを作る２ | |
| 第12回 | ペープサートを演じる（模擬保育をする） | |
| 第13回 | 子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える | |
| 第14回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える | |
| 第15回 | 特別支援，多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業における発表や参加態度，事前事後学習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標に関する基本的な知識や技術についての試験行い，理解度を評価する。 |
| その他 | 20 | 絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。保育現場での実践を想定し，子どもの発達段階や興味関心，子どもの見え方等を意識して作成，演じることができたかどうかを評価する。（10%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積極的な態度で授業に臨むこと。<br>発表等の活動には主体的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2　復習としてノートの記入や資料の整理をする。<br>3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| デザインする保育内容指導法「言葉」 | 田中　謙　編著 | 教育情報出版 | 978-4-909378-09-5 | 2000円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 | 文部科学省　厚生労働省　内閣府 | チャイルド本社 | 978-4805402580 | 500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，事例や実践をもとに，領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。 |

| 科目名 | （保育内容）表現 1クラス | | | 授業番号 | EE207A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、鳥越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | こどもの成長過程における多様な表現に関して，幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら，創造性豊かに楽しく表現し，創作体験を重ねることにより，豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 思いつくままに感じたことを色や形で表現することができること，制作物を使った表現ができること，また，音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい，幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | １回～４回　音やリズムを表現する１～４<br>５回～８回　大小，様々な製作物の表現１～４<br>９回～１２回　ブラックライトを使った音・光・形の競演１～４<br>１３回～１５回　オノマトペの表現　１～３<br>授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 音やリズムを表現する　１タップリン制作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第2回 | 音やリズムを表現する　２音楽に合わせたリズム創作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第3回 | 音やリズムを表現する　３タップリンを使った音楽発表の練習 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第4回 | 音やリズムを表現する　４発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第5回 | 大小，様々な製作物の表現　１物語の背景より場面の製作部分を考える | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第6回 | 大小，様々な製作物の表現　２物語の背景より場面の製作をする | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第7回 | 大小，様々な製作物の表現　３物語の背景より場面の表現方法に効果音・音楽も加えて考える | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第8回 | 大小，様々な製作物の表現　４物語の場面製作の発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第9回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　１光る材料探し，絵コンテ作成 | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第10回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　２制作と練習 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第11回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　３中間発表と修正 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第12回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　４発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第13回 | オノマトペの表現　１保育の一日オノマトペ | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第14回 | オノマトペの表現　２オノマトペの遊び制作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第15回 | オノマトペの表現　３発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき評価する。(1)課題について真摯に向き合い，深く考えた意見を発表，または提出プリントに記述できる。(2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。(3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ，グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(１)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や，向上心を持って取り組んでいるか。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 以下の姿勢を評価する。個性，感性を尊重し合い，情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味，関心を持ち，多くの気づきを共有する発言，行動ができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず，個人として，率先して，意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また，実技発表においては，準備段階からの全体の流れを振り返り，評価をフィードバックする。 |
| 受講の心得 | ［造形表現］主体的・創造的な姿勢で，課題に対して意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け，清掃をきちんとすること。<br>［音楽表現］発表の場に対し積極的に取り組み，音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。 |
| 授業外学修 | 授業で学んだ成果を元に，週当たり２時間～４時間予習復習すること。<br>予習として授業内容に関連する情報収集を行い，他者に還元する姿勢を持ち，復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | （保育内容）表現 2クラス | | | 授業番号 | EE207B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、鳥越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | こどもの成長過程における多様な表現に関して，幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら，創造性豊かに楽しく表現し，創作体験を重ねることにより，豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 思いつくままに感じたことを色や形で表現することができること，制作物を使った表現ができること，また，音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい，幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | １回～４回　音やリズムを表現する１～４<br>５回～８回　大小，様々な製作物の表現１～４<br>９回～１２回　ブラックライトを使った音・光・形の競演１～４<br>１３回～１５回　オノマトペの表現　１～３<br>授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 音やリズムを表現する　１タップリン制作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第2回 | 音やリズムを表現する　２音楽に合わせたリズム創作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第3回 | 音やリズムを表現する　３タップリンを使った音楽発表の練習 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第4回 | 音やリズムを表現する　４発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第5回 | 大小，様々な製作物の表現　１物語の背景より場面の製作部分を考える | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第6回 | 大小，様々な製作物の表現　２物語の背景より場面の製作をする | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第7回 | 大小，様々な製作物の表現　３物語の背景より場面の表現方法に効果音・音楽も加えて考える | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第8回 | 大小，様々な製作物の表現　４物語の場面製作の発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第9回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　１光る材料探し，絵コンテ作成 | 鳥越　亜矢<br>大山佐知子 |
| 第10回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　２制作と練習 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第11回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　３中間発表と修正 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第12回 | ブラックライトを使った音・光・形の競演　４発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第13回 | オノマトペの表現　１保育の一日オノマトペ | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第14回 | オノマトペの表現　２オノマトペの遊び制作 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 第15回 | オノマトペの表現　３発表 | 大山佐知子<br>鳥越　亜矢 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき評価する。(1)課題について真摯に向き合い，深く考えた意見を発表，または提出プリントに記述できる。(2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。(3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ，グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(１)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や，向上心を持って取り組んでいるか。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 以下の姿勢を評価する。個性，感性を尊重し合い，情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味，関心を持ち，多くの気づきを共有する発言，行動ができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず，個人として，率先して，意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また，実技発表においては，準備段階からの全体の流れを振り返り，評価をフィードバックする。 |
| 受講の心得 | ［造形表現］主体的・創造的な姿勢で，課題に対して意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け，清掃をきちんとすること。<br>［音楽表現］発表の場に対し積極的に取り組み，音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。 |
| 授業外学修 | 授業で学んだ成果を元に，週当たり２時間～４時間予習復習すること。<br>予習として授業内容に関連する情報収集を行い，他者に還元する姿勢を持ち，復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法A 1クラス | | | 授業番号 | EE208A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 鳥越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 身近な素材や道具，技法の特性を理解して表現活動を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い，身近な素材や道具，技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに，それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「面白い」を捉える「5Cの力」とは<br>『子どもの造形表現』第1章，第８章 | |
| 第2回 | 幼児の造形表現の発達 | |
| 第3回 | 子どもの造形表現の基本「切る」「くっつける」「塗る・描く」<br>指導や援助の考え方，環境構成・教材研究 | |
| 第4回 | かく材料の教材研究I　絵の具・パス類・各種基底材・筆代わりになる日用品 | |
| 第5回 | かく材料の教材研究IIパス類の比較<br>環境へのらくがき体験 | |
| 第6回 | パスの技法遊び　カラーカーボン・スクラッチ | |
| 第7回 | 偶然の色と形の技法遊びI　偶然の表現・対称の表現→見立て | |
| 第8回 | 偶然の色と形の技法遊びII　模様の遊び→見立てや活用 | |
| 第9回 | 色を使った様々な遊び | |
| 第10回 | 廃材を使った造形表現活動　発想・構想 | |
| 第11回 | 廃材を使った造形表現活動　制作・完成 | |
| 第12回 | 可塑性のある素材［紙］1　連続切り・組み紙 | |
| 第13回 | 可塑性のある素材［紙］2　切り紙（2つ折り・4つ折り） | |
| 第14回 | 可塑性のある素材［紙］3　切り紙（５つ折り） | |
| 第15回 | 可塑性のある素材［紙］4　切り紙（6つ折り） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，　また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印等を，Googleクラスルームに投稿された課題にはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容も評価する。 |
| 受講の心得 | 造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。<br>指定した回までにA４サイズのスケッチブック（紙の素材は白い画用紙であること）と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。<br>授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし，情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ワークシートで学ぶ子どもの造形表現第2版 | 北沢昌代　畠山智宏　中村光絵 | 開成出版 | 978-4-87603-501-4 | 2500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新版　遊びの指導 | 幼少年教育研究所 | 同文書院 | 978-4-8103-0037-6 | 3200 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各種の演習内容や「面白い」を捉える「5Cの力」は幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法A 2クラス | | | 授業番号 | EE208B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 鳥越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 身近な素材や道具，技法の特性を理解して表現活動を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い，身近な素材や道具，技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに，それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「面白い」を捉える「5Cの力」とは<br>『子どもの造形表現』第1章，第８章 | |
| 第2回 | 幼児の造形表現の発達 | |
| 第3回 | 子どもの造形表現の基本「切る」「くっつける」「塗る・描く」<br>指導や援助の考え方，環境構成・教材研究 | |
| 第4回 | かく材料の教材研究I　絵の具・パス類・各種基底材・筆代わりになる日用品 | |
| 第5回 | かく材料の教材研究IIパス類の比較<br>環境へのらくがき体験 | |
| 第6回 | パスの技法遊び　カラーカーボン・スクラッチ | |
| 第7回 | 偶然の色と形の技法遊びI　偶然の表現・対称の表現→見立て | |
| 第8回 | 偶然の色と形の技法遊びII　模様の遊び→見立てや活用 | |
| 第9回 | 色を使った様々な遊び | |
| 第10回 | 廃材を使った造形表現活動　発想・構想 | |
| 第11回 | 廃材を使った造形表現活動　制作・完成 | |
| 第12回 | 可塑性のある素材［紙］1　連続切り・組み紙 | |
| 第13回 | 可塑性のある素材［紙］2　切り紙（2つ折り・4つ折り） | |
| 第14回 | 可塑性のある素材［紙］3　切り紙（５つ折り） | |
| 第15回 | 可塑性のある素材［紙］4　切り紙（6つ折り） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，　また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印等を，Googleクラスルームに投稿された課題にはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容も評価する。 |
| 受講の心得 | 造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。<br>指定した回までにA４サイズのスケッチブック（紙の素材は白い画用紙であること）と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。<br>授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし，情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ワークシートで学ぶ子どもの造形表現第2版 | 北沢昌代　畠山智宏　中村光絵 | 開成出版 | 978-4-87603-501-4 | 2500 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新版　遊びの指導 | 幼少年教育研究所 | 同文書院 | 978-4-8103-0037-6 | 3200 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各種の演習内容や「面白い」を捉える「5Cの力」は幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法B 1クラス | | | 授業番号 | EE209A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 烏越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ，素材と関わりながら色や形，リズム，感触等を意識して様々な表現活動を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに，自らの感性を養い，表現イメージを豊かにする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 素材との直接体験(1)　同じ素材に対する様々な関わり方 | |
| 第2回 | 素材との直接体験(2)　粘土のいろいろ　油粘土 | |
| 第3回 | 素材との直接体験(3)　同じものをたくさん使って遊ぶ | |
| 第4回 | 版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動（1）ものや手形によるスタンピング | |
| 第5回 | 幼児の発達に応じた表現活動（2）環境への関わりを意識して<br>フロッタージュ・ローラー転がし | |
| 第6回 | 幼児の発達に応じた表現活動（3）　環境への関わりを意識して<br>スチレン版画のフレームづくりとフレーム遊び | |
| 第7回 | 幼児の発達に応じた表現活動（4）　スチレン版画：凹ませて作る凸版印刷 | |
| 第8回 | 幼児の発達に応じた表現活動(5)　貼り重ねて作る凸版印刷／同じ原版による転写版画 | |
| 第9回 | 色彩に興味を持つ活動(1)　色が生まれる　見えない色を見る | |
| 第10回 | 色彩に興味を持つ活動(2)　偶然の色と形を生かした創作ほか | |
| 第11回 | 色彩に興味を持つ活動(3)　減法混色と回転混色の活動 | |
| 第12回 | 色を知る：色の属性（色相・明度・彩度）有彩色と無彩色・清色と濁色 | |
| 第13回 | 教材制作とその活用１　基本形 | |
| 第14回 | 教材制作とその活用２　完成と発表 | |
| 第15回 | 身近な素材で楽しむ探求的な遊び | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に，「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 製作した保育教材，スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり，各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。 |
| 受講の心得 | 造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。<br>前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」，スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版』『新版　遊びの指導』）を引き続き使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし，幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法B 2クラス | | | 授業番号 | EE209B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 烏越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ，素材と関わりながら色や形，リズム，感触等を意識して様々な表現活動を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに，自らの感性を養い，表現イメージを豊かにする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 素材との直接体験(1)　同じ素材に対する様々な関わり方 | |
| 第2回 | 素材との直接体験(2)　粘土のいろいろ　油粘土 | |
| 第3回 | 素材との直接体験(3)　同じものをたくさん使って遊ぶ | |
| 第4回 | 版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動（1）ものや手形によるスタンピング | |
| 第5回 | 幼児の発達に応じた表現活動（2）環境への関わりを意識して<br>フロッタージュ・ローラー転がし | |
| 第6回 | 幼児の発達に応じた表現活動（3）　環境への関わりを意識して<br>スチレン版画のフレームづくりとフレーム遊び | |
| 第7回 | 幼児の発達に応じた表現活動（4）　スチレン版画：凹ませて作る凸版印刷 | |
| 第8回 | 幼児の発達に応じた表現活動(5)　貼り重ねて作る凸版印刷／同じ原版による転写版画 | |
| 第9回 | 色彩に興味を持つ活動(1)　色が生まれる　見えない色を見る | |
| 第10回 | 色彩に興味を持つ活動(2)　偶然の色と形を生かした創作ほか | |
| 第11回 | 色彩に興味を持つ活動(3)　減法混色と回転混色の活動 | |
| 第12回 | 色を知る：色の属性（色相・明度・彩度）有彩色と無彩色・清色と濁色 | |
| 第13回 | 教材制作とその活用１　基本形 | |
| 第14回 | 教材制作とその活用２　完成と発表 | |
| 第15回 | 身近な素材で楽しむ探求的な遊び | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に，「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 製作した保育教材，スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり，各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。 |
| 受講の心得 | 造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。<br>前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」，スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版』『新版　遊びの指導』）を引き続き使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし，幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。 |

| 科目名 | 乳児保育Ⅰ 1クラス | | | 授業番号 | EE210A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水 憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳児の育ちについて学ぶとともに，多様な保育の場における乳児保育の現状を理解する。それらを踏まえ，3 歳未満児の発達に即した乳児保育の実践について理解を深め，実際に保育の現場に出た時に知識に基づいて判断しながら，保育を行うことができる力を教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・乳児保育の意義・目的や役割等について理解する。<br>・多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。<br>・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容や技術，玩具，運営体制について理解する。<br>・乳児保育における職員間の連携及び保護者等との連携について理解する。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児の遊びと保育者の関わり(1)<br>…乳児の遊びについて理解する。 | |
| 第2回 | 乳児の遊びと保育者の関わり(2)<br>…乳児の発達を理解し，遊びを体験する。 | |
| 第3回 | 乳児保育の役割<br>…乳児保育について理解する。 | |
| 第4回 | 乳児保育の現状<br>…乳児保育の在り方を理解する。 | |
| 第5回 | ヒトの発達と保育の営み（0歳児）<br>…0歳児の発達を理解する。 | |
| 第6回 | ヒトの発達と保育の営み（１歳児～２歳児）<br>…1～2歳児の発達を理解する。 | |
| 第7回 | 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援<br>…現在の子育て環境を知り，子育て支援を理解する。 | |
| 第8回 | さまざまな施設と乳児の保育<br>…児童福祉施設等について理解する。 | |
| 第9回 | 乳児の保育形態<br>…乳児保育の実践を交えながら，保育形態について理解する。 | |
| 第10回 | 乳児の保育環境<br>…保育環境について理解する。 | |
| 第11回 | 3歳以上児の保育とのつながり<br>…3歳児以上児との関連を理解する。 | |
| 第12回 | 指導計画と記録<br>…具体的に計画しながら，指導計画の在り方を理解する。 | |
| 第13回 | 職員間の連携と園内研修<br>…保育の研修を体験しながら，研修の必要性を理解する。 | |
| 第14回 | 保護者とのパートナーシップ<br>…保護者と連携しながら子どもを育てることについて理解する。 | |
| 第15回 | 関係機関との連携<br>…各関係機関及び園内での職員連携について理解する。 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，授業や討議への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 確認テストを行い，理解の度合いを評価する。採点後，返却する。 |
| 定期試験 | 60 | 授業全般の試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常生活の中で，乳幼児に関連のある新聞記事や雑誌，図書などに関心を持って情報を取り入れるようにすること。<br>身近な環境において，子どもの行動や親子関係について意識的に関心をもつようにすること。<br>自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，ノートの整理を行う。<br>3.授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 乳児保育 | 馬場耕一郎 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-07968-1 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な参考資料はプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 | 文部科学省／〔編〕厚生労働省／〔編〕内閣府／〔編〕 | チャイルド本社 | 978-4-805-40258-0 | 550円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所や幼稚園での事例を紹介しながら，乳児保育の意義や目的，連携の在り方等について講義を行い，具体的な内容をイメージして学べるように教授する。 |

| 科目名 | 乳児保育Ⅰ 2クラス | | | 授業番号 | EE210B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水 憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 乳児の育ちについて学ぶとともに，多様な保育の場における乳児保育の現状を理解する。それらを踏まえ，3 歳未満児の発達に即した乳児保育の実践について理解を深め，実際に保育の現場に出た時に知識に基づいて判断しながら，保育を行うことができる力を教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・乳児保育の意義・目的や役割等について理解する。<br>・多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。<br>・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容や技術，玩具，運営体制について理解する。<br>・乳児保育における職員間の連携及び保護者等との連携について理解する。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児の遊びと保育者の関わり(1)<br>…乳児の遊びについて理解する。 | |
| 第2回 | 乳児の遊びと保育者の関わり(2)<br>…乳児の発達を理解し，遊びを体験する。 | |
| 第3回 | 乳児保育の役割<br>…乳児保育について理解する。 | |
| 第4回 | 乳児保育の現状<br>…乳児保育の在り方を理解する。 | |
| 第5回 | ヒトの発達と保育の営み（0歳児）<br>…0歳児の発達を理解する。 | |
| 第6回 | ヒトの発達と保育の営み（１歳児～２歳児）<br>…1～2歳児の発達を理解する。 | |
| 第7回 | 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援<br>…現在の子育て環境を知り，子育て支援を理解する。 | |
| 第8回 | さまざまな施設と乳児の保育<br>…児童福祉施設等について理解する。 | |
| 第9回 | 乳児の保育形態<br>…乳児保育の実践を交えながら，保育形態について理解する。 | |
| 第10回 | 乳児の保育環境<br>…保育環境について理解する。 | |
| 第11回 | 3歳以上児の保育とのつながり<br>…3歳児以上児との関連を理解する。 | |
| 第12回 | 指導計画と記録<br>…具体的に計画しながら，指導計画の在り方を理解する。 | |
| 第13回 | 職員間の連携と園内研修<br>…保育の研修を体験しながら，研修の必要性を理解する。 | |
| 第14回 | 保護者とのパートナーシップ<br>…保護者と連携しながら子どもを育てることについて理解する。 | |
| 第15回 | 関係機関との連携<br>…各関係機関及び園内での職員連携について理解する。 | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な授業態度，授業や討議への参加によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 確認テストを行い，理解の度合いを評価する。採点後，返却する。 |
| 定期試験 | 60 | 授業全般の試験を行い，理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 日常生活の中で，乳幼児に関連のある新聞記事や雑誌，図書などに関心を持って情報を取り入れるようにすること。<br>身近な環境において，子どもの行動や親子関係について意識的に関心をもつようにすること。<br>自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，ノートの整理を行う。<br>3.授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 乳児保育 | 馬場耕一郎 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-07968-1 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要な参考資料はプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 | 文部科学省／〔編〕厚生労働省／〔編〕内閣府／〔編〕 | チャイルド本社 | 978-4-805-40258-0 | 550円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所や幼稚園での事例を紹介しながら，乳児保育の意義や目的，連携の在り方等について講義を行い，具体的な内容をイメージして学べるように教授する。 |

| 科目名 | 子どもの健康と安全 1クラス | | | 授業番号 | EE211A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 野々上　敬子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「保健活動の計画及び評価」「心身の健康に関する保健活動や環境」「体調不良等に対する適切な対応」「感染症対策」「衛生管理並びに安全管理」の各分野についての知識をどのように実践していくか，自分自身や仲間と考える課題や事例を通じて実践力を身につける | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子どもの健康の保持増進に関する保健活動を理解して，自分の意見を言える。<br>２．子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法，救急蘇生法を理解して，的確に演習できる。<br>３．現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解して，自分の意見を言える。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。<br>子どもの健康を守り，健全な発育，発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法 | |
| 第2回 | 子どもの発育　正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する | |
| 第3回 | 子どもの健康状態　生理機能の発達を理解する | |
| 第4回 | 子どもの養護　抱き方，寝かせ方，衣着脱，身体の清潔法などの実習 | |
| 第5回 | 子どもの生活習慣と心身の健康　生活習慣の基本となる生活リズムを理解する | |
| 第6回 | 子どもの養護　食育について　食事の与え方などの実習 | |
| 第7回 | 子どもの養護　口腔内の衛生　歯みがきなどの実習 | |
| 第8回 | 子どもの病気　体調不良時の対応や看護の仕方を理解する | |
| 第9回 | 子どもの事故と応急処置　事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習 | |
| 第10回 | 衛生管理・安全教育と安全管理 | |
| 第11回 | 救命処置について理解する | |
| 第12回 | 心肺蘇生法　心肺蘇生法の技能を習得 | |
| 第13回 | 健康教育の発表　作成した資料を使っての発表 | |
| 第14回 | 康教育の発表　作成した資料を使っての発表 | |
| 第15回 | 全体総括　授業のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | |
| レポート | 15 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標１・２・３について，理解度・定着度を評価する。 |
| その他 | 20 | 健康教育の発表 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 健康教育を実施する体験学習やグループワーク等を取り入れる<br>グループ演習の際，メンバー同士で技術を高められるよう協力すること<br>グループワークでは自分の意見をもち，積極的に発表すること |
| 授業外学修 | 毎回，授業後は復習しておくこと<br>毎回の授業前までには，教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと<br>次回授業計画の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておくこと<br>新聞等の保健情報をよく読んでおくこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」 | 八木利津子他 | 青鞜社 | 978-4-902636-49-9 | 1900＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義中に提示する |
| その他 | 「普通救命講習III」(公的資格であり，小児・乳児・新生児に対する救命処置と応急手当を扱う)の修了証を交付する |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校・中学校・高等学校の養護教諭・保健主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 養護教諭の経験をいかした健康教育<br>応急手当指導員・応急手当普及員の資格をいかした救急処置・心肺蘇生法等 |

| 科目名 | 子どもの健康と安全 2クラス | | | 授業番号 | EE211B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 野々上　敬子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「保健活動の計画及び評価」「心身の健康に関する保健活動や環境」「体調不良等に対する適切な対応」「感染症対策」「衛生管理並びに安全管理」の各分野についての知識をどのように実践していくか，自分自身や仲間と考える課題や事例を通じて実践力を身につける | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．子どもの健康の保持増進に関する保健活動を理解して，自分の意見を言える。<br>２．子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法，救急蘇生法を理解して，的確に演習できる。<br>３．現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解して，自分の意見を言える。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。<br>子どもの健康を守り，健全な発育，発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法 | |
| 第2回 | 子どもの発育　正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する | |
| 第3回 | 子どもの健康状態　生理機能の発達を理解する | |
| 第4回 | 子どもの養護　抱き方，寝かせ方，衣着脱，身体の清潔法などの実習 | |
| 第5回 | 子どもの生活習慣と心身の健康　生活習慣の基本となる生活リズムを理解する | |
| 第6回 | 子どもの養護　食育について　食事の与え方などの実習 | |
| 第7回 | 子どもの養護　口腔内の衛生　歯みがきなどの実習 | |
| 第8回 | 子どもの病気　体調不良時の対応や看護の仕方を理解する | |
| 第9回 | 子どもの事故と応急処置　事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習 | |
| 第10回 | 衛生管理・安全教育と安全管理 | |
| 第11回 | 救命処置について理解する | |
| 第12回 | 心肺蘇生法　心肺蘇生法の技能を習得 | |
| 第13回 | 健康教育の発表　作成した資料を使っての発表 | |
| 第14回 | 康教育の発表　作成した資料を使っての発表 | |
| 第15回 | 全体総括　授業のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | |
| レポート | 15 | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標１・２・３について，理解度・定着度を評価する。 |
| その他 | 20 | 健康教育の発表 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 健康教育を実施する体験学習やグループワーク等を取り入れる<br>グループ演習の際，メンバー同士で技術を高められるよう協力すること<br>グループワークでは自分の意見をもち，積極的に発表すること |
| 授業外学修 | 毎回，授業後は復習しておくこと<br>毎回の授業前までには，教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと<br>次回授業計画の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておくこと<br>新聞等の保健情報をよく読んでおくこと |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」 | 八木利津子他 | 青鞜社 | 978-4-902636-49-9 | 1900＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 講義中に提示する |
| その他 | 「普通救命講習III」(公的資格であり，小児・乳児・新生児に対する救命処置と応急手当を扱う)の修了証を交付する |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校・中学校・高等学校の養護教諭・保健主事 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 養護教諭の経験をいかした健康教育<br>応急手当指導員・応急手当普及員の資格をいかした救急処置・心肺蘇生法等 |

| 科目名 | 特別支援教育入門 1クラス | | | 授業番号 | EE212A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに，教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り，個別の教育的ニーズを把握，他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・障害等，特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。<br>・特別な支援を要する子どもへの教育や保育，支援の方法を知り，実際に支援する際の方策を提示し，実施することができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 特別支援教育とは<br>「特別支援教育」の意義と目的について理解する。 | |
| 第2回 | 障がいの意味と理解，特別支援教育の歴史的変遷<br>「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解し，特別支援教育の歴史的変遷について知る。 | |
| 第3回 | 身体障がい児への理解と支援<br>身体障がいの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第4回 | 知的障がいの理解<br>知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第5回 | 知的障がい児への支援<br>知的障がい児に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第6回 | 発達障害の理解，ASDの理解<br>発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第7回 | ASD児への支援<br>ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第8回 | ADHDの理解，ADHD児への支援<br>ADHDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第9回 | LDの理解，LD児への支援<br>LDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第10回 | 指導計画の作成と記録および評価<br>指導計画の作成や，記録及び評価のポイントを理解する。 | |
| 第11回 | 子どもの発達をうながす生活や遊びの環境<br>障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。 | |
| 第12回 | 地域の専門機関や小学校との連携<br>多職種との連携について知る。 | |
| 第13回 | 保護者や家族に対する理解と支援<br>保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。 | |
| 第14回 | 特別な配慮を必要とする様々な子ども<br>貧困児や母国語の異なる子どもなど，特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 35 | 講義内容の理解度，定着度を評価する。 |
| 定期試験 | 35 | 全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | 25 | Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br>3．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 実践事例を通して，具体的なかかわりを学ぶ保育現場における特別支援 | 松井 剛太・七木田 敦 編著 | 教育情報出版 | 978-4-909378-49-1 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設職員の経験を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。<br>カウンセリング経験から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う. |

| 科目名 | 特別支援教育入門 2クラス | | | 授業番号 | EE212B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに，教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り，個別の教育的ニーズを把握，他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・障害等，特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。<br>・特別な支援を要する子どもへの教育や保育，支援の方法を知り，実際に支援する際の方策を提示し，実施することができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 特別支援教育とは<br>「特別支援教育」の意義と目的について理解する。 | |
| 第2回 | 障がいの意味と理解，特別支援教育の歴史的変遷<br>「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解し，特別支援教育の歴史的変遷について知る。 | |
| 第3回 | 身体障がい児への理解と支援<br>身体障がいの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第4回 | 知的障がいの理解<br>知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第5回 | 知的障がい児への支援<br>知的障がい児に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第6回 | 発達障害の理解，ASDの理解<br>発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。 | |
| 第7回 | ASD児への支援<br>ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第8回 | ADHDの理解，ADHD児への支援<br>ADHDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第9回 | LDの理解，LD児への支援<br>LDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。 | |
| 第10回 | 指導計画の作成と記録および評価<br>指導計画の作成や，記録及び評価のポイントを理解する。 | |
| 第11回 | 子どもの発達をうながす生活や遊びの環境<br>障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。 | |
| 第12回 | 地域の専門機関や小学校との連携<br>多職種との連携について知る。 | |
| 第13回 | 保護者や家族に対する理解と支援<br>保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。 | |
| 第14回 | 特別な配慮を必要とする様々な子ども<br>貧困児や母国語の異なる子どもなど，特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 5 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 35 | 講義内容の理解度，定着度を評価する。 |
| 定期試験 | 35 | 全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | 25 | Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br>3．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br><br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 実践事例を通して，具体的なかかわりを学ぶ保育現場における特別支援 | 松井 剛太・七木田 敦 編著 | 教育情報出版 | 978-4-909378-49-1 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設職員の経験を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。<br>カウンセリング経験から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う. |

| 科目名 | 社会的養護Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | EE213A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 津嶋 悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士は児童福祉施設において援助者（直接処遇職員・ケアワーカー）としての大切な役割を担っており，その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。<br>この「社会的養護II」は，児童福祉施設で社会的養護を必要とする子どもやその保護者に対し実践されている養育や支援のあり方について，広く理解し考察を深めていくものである。<br>なお授業は，主に講義とグループワークをもってすすめられる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 講義においては，施設において展開されている子どもたちの日々の生活の実際，養育のあり方や援助者の支援方法について理解し，子どもの心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し，適切な子ども観や養育観を獲得する。<br>またグループワークにおいては，相手に伝える力（文をまとめる，適切な言葉選び，相手の視点に立った話の仕方）と，傾聴（相手の話を聞く態度，相手が話しやすい雰囲気）等，社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会的養護の理解(1) | |
| 第2回 | 社会的養護の理解(2) | |
| 第3回 | 社会的養護を必要とする子どもの理解 | |
| 第4回 | 社会的養護の内容（生活支援・心理的支援・自立支援） | |
| 第5回 | 社会的養護関係施設・機関の理解(1) | |
| 第6回 | 社会的養護関係施設・機関の理解(2) | |
| 第7回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(1) | |
| 第8回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(2) | |
| 第9回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(3) | |
| 第10回 | アセスメントと自立支援計画 | |
| 第11回 | 記録および緊急時の対応 | |
| 第12回 | 子どもの権利擁護 | |
| 第13回 | 社会的養護におけるソーシャルワーク | |
| 第14回 | 社会的養護における家庭支援・施設実習に向けて | |
| 第15回 | 社会的養護における養育のいとなみ（社会的養護のこれから） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講後の思考の発展や気づきをコメント等により評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義中は頭と心の両方を使うよう意識すること。<br>社会情勢や自分自身の日常生活にリンクさせて物事を捉え考えること。<br>講義後にコメント（感想や気づき）を記入することにより，感じたことや気持ちを文章で表現できるようになること。<br>学習したことを活かし，「社会の一員として自分にできることは何か」を探し行動しようと努力すること。 |
| 授業外学修 | １．テキストや授業で配布した資料を，発展学習として読んで理解を深める。<br>２．講義で学んだ事柄の中から，実習に生かせる部分を取り出し，２月に行われる施設実習の現場での実践に活かす。<br>３．グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを，日常生活の中で意識的に実行していく。<br>４．講義での学びから，社会の中における自身の役割に気づき，自分にできることから行動を起こそうと努める。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ18 社会的養護II | 編集 相澤仁，村井美紀，大竹智 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5798-4 | 2，000円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 児童養護施設長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより，社会的養護を必要とする子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。<br>また管理職（施設長）としての経験を活かし，施設実習におけるポイントや注意点を伝え，講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。<br>人材育成の観点から，グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるよう支援し，他者と対話し連携することの大切さを体得させ成長の実感を掴む。 |

| 科目名 | 社会的養護Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | EE213B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 津嶋 悟 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士は児童福祉施設において援助者（直接処遇職員・ケアワーカー）としての大切な役割を担っており，その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。<br>この「社会的養護II」は，児童福祉施設で社会的養護を必要とする子どもやその保護者に対し実践されている養育や支援のあり方について，広く理解し考察を深めていくものである。<br>なお授業は，主に講義とグループワークをもってすすめられる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 講義においては，施設において展開されている子どもたちの日々の生活の実際，養育のあり方や援助者の支援方法について理解し，子どもの心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し，適切な子ども観や養育観を獲得する。<br>またグループワークにおいては，相手に伝える力（文をまとめる，適切な言葉選び，相手の視点に立った話の仕方）と，傾聴（相手の話を聞く態度，相手が話しやすい雰囲気）等，社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会的養護の理解(1) | |
| 第2回 | 社会的養護の理解(2) | |
| 第3回 | 社会的養護を必要とする子どもの理解 | |
| 第4回 | 社会的養護の内容（生活支援・心理的支援・自立支援） | |
| 第5回 | 社会的養護関係施設・機関の理解(1) | |
| 第6回 | 社会的養護関係施設・機関の理解(2) | |
| 第7回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(1) | |
| 第8回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(2) | |
| 第9回 | 社会的養護を必要とする子どもたちへの支援(3) | |
| 第10回 | アセスメントと自立支援計画 | |
| 第11回 | 記録および緊急時の対応 | |
| 第12回 | 子どもの権利擁護 | |
| 第13回 | 社会的養護におけるソーシャルワーク | |
| 第14回 | 社会的養護における家庭支援・施設実習に向けて | |
| 第15回 | 社会的養護における養育のいとなみ（社会的養護のこれから） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講後の思考の発展や気づきをコメント等により評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義中は頭と心の両方を使うよう意識すること。<br>社会情勢や自分自身の日常生活にリンクさせて物事を捉え考えること。<br>講義後にコメント（感想や気づき）を記入することにより，感じたことや気持ちを文章で表現できるようになること。<br>学習したことを活かし，「社会の一員として自分にできることは何か」を探し行動しようと努力すること。 |
| 授業外学修 | １．テキストや授業で配布した資料を，発展学習として読んで理解を深める。<br>２．講義で学んだ事柄の中から，実習に生かせる部分を取り出し，２月に行われる施設実習の現場での実践に活かす。<br>３．グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを，日常生活の中で意識的に実行していく。<br>４．講義での学びから，社会の中における自身の役割に気づき，自分にできることから行動を起こそうと努める。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新基本保育シリーズ18 社会的養護II | 編集 相澤仁，村井美紀，大竹智 | 中央法規出版 | 978-4-8058-5798-4 | 2，000円（税別） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 児童養護施設長 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより，社会的養護を必要とする子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。<br>また管理職（施設長）としての経験を活かし，施設実習におけるポイントや注意点を伝え，講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。<br>人材育成の観点から，グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるよう支援し，他者と対話し連携することの大切さを体得させ成長の実感を掴む。 |

| 科目名 | 子育て支援 1クラス | | | 授業番号 | EE214A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（保育相談支援）の意義や基本について学び，保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また，保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して，保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子育て支援について，その特性と展開を具体的に理解できる。<br>・保育士の行う子育て支援について，様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解し修得する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育士の行う子育て支援の特性 | |
| 第2回 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 | |
| 第3回 | 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 | |
| 第4回 | 保護者支援の方法と技術 | |
| 第5回 | 子ども及び保護者の状況・状態の把握 | |
| 第6回 | 支援の計画と環境の構成 | |
| 第7回 | 支援の実践・記録・評価・カンファレンス | |
| 第8回 | 職員間の連携・協働 | |
| 第9回 | 地域資源・関係機関の種類と機能と，関係機関との連携・協力 | |
| 第10回 | 保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 | |
| 第11回 | 地域の子育て対する支援とその実際 | |
| 第12回 | 障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 | |
| 第13回 | 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 | |
| 第14回 | 子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 | |
| 第15回 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 毎講義内で実施する事例について，保育相談支援で学修した内容を踏まえながら，様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートついてはコメントと併せて返却する。（５％×14回） |
| 定期試験 | 20 | 全講義終了後，保育相談支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | 10 | 事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | １．授業内で学修した，保育相談支援に関わる基礎理論を復習すること。<br>２．毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | カウンセリング経験から得られた，様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し，保育士における保護者支援の重要性について，実践的に考える。 |

| 科目名 | 子育て支援 2クラス | | | 授業番号 | EE214B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（保育相談支援）の意義や基本について学び，保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また，保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して，保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・子育て支援について，その特性と展開を具体的に理解できる。<br>・保育士の行う子育て支援について，様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解し修得する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育士の行う子育て支援の特性 | |
| 第2回 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 | |
| 第3回 | 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 | |
| 第4回 | 保護者支援の方法と技術 | |
| 第5回 | 子ども及び保護者の状況・状態の把握 | |
| 第6回 | 支援の計画と環境の構成 | |
| 第7回 | 支援の実践・記録・評価・カンファレンス | |
| 第8回 | 職員間の連携・協働 | |
| 第9回 | 地域資源・関係機関の種類と機能と，関係機関との連携・協力 | |
| 第10回 | 保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 | |
| 第11回 | 地域の子育て対する支援とその実際 | |
| 第12回 | 障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 | |
| 第13回 | 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 | |
| 第14回 | 子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 | |
| 第15回 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 毎講義内で実施する事例について，保育相談支援で学修した内容を踏まえながら，様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートついてはコメントと併せて返却する。（５％×14回） |
| 定期試験 | 20 | 全講義終了後，保育相談支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。 |
| その他 | 10 | 事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | １．授業内で学修した，保育相談支援に関わる基礎理論を復習すること。<br>２．毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | カウンセリング経験から得られた，様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し，保育士における保護者支援の重要性について，実践的に考える。 |

| 科目名 | 健康の指導法 1クラス | | | 授業番号 | EE215A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「食事・食育に関する指導法について」<br>乳幼児にとって食事をすることの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第2回 | 「着脱に関する指導法について」<br>幼児が自分で着脱することの意味について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第3回 | 「清潔に関する指導法について」<br>乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第4回 | 「排泄・睡眠に関する指導法について」<br>乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第5回 | 「排泄・睡眠に関する指導法について」<br>乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成発表する。 | |
| 第6回 | 「生活面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第7回 | 「交通面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第8回 | 「災害面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第9回 | 「運動遊びに関する指導法について」<br>乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第10回 | 「平衡性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>平衡性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第11回 | 「移動性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>移動性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第12回 | 「操作性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>操作性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第13回 | 「表現遊びに関する指導法について」<br>乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第14回 | 「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」<br>乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第15回 | 「小学校との接続を考慮した指導法について」<br>小学校との接続を考慮し，幼児期に身につけておく必要のある力ついて考え，指導法をまとめる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する |
| レポート | 20 | 課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標について，知識・理解の到達度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの姿からはじめる領域・健康 | 秋田喜代美ほか | 株）みらい | 978-4-86015-528-5 | 2530 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本（平成29年6月チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 健康の指導法 2クラス | | | 授業番号 | EE215B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。<br>幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 「食事・食育に関する指導法について」<br>乳幼児にとって食事をすることの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第2回 | 「着脱に関する指導法について」<br>幼児が自分で着脱することの意味について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第3回 | 「清潔に関する指導法について」<br>乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第4回 | 「排泄・睡眠に関する指導法について」<br>乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第5回 | 「排泄・睡眠に関する指導法について」<br>乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成発表する。 | |
| 第6回 | 「生活面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第7回 | 「交通面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第8回 | 「災害面の安全に関する指導法について」<br>乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第9回 | 「運動遊びに関する指導法について」<br>乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第10回 | 「平衡性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>平衡性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第11回 | 「移動性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>移動性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第12回 | 「操作性を高める運動遊びに関する指導法について」<br>操作性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第13回 | 「表現遊びに関する指導法について」<br>乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第14回 | 「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」<br>乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。 | |
| 第15回 | 「小学校との接続を考慮した指導法について」<br>小学校との接続を考慮し，幼児期に身につけておく必要のある力ついて考え，指導法をまとめる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する |
| レポート | 20 | 課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標について，知識・理解の到達度を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの姿からはじめる領域・健康 | 秋田喜代美ほか | 株）みらい | 978-4-86015-528-5 | 2530 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本（平成29年6月チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 人間関係の指導法 1クラス | | | 授業番号 | EE216A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育において，5領域は非常に大切な分野である。その一つである領域「人間関係」のねらい及び内容について，幼児の姿と保育実践とを関連させて学習を深めることを目指す。そのうえで，乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを表現する保育を具体的に構想し，実践する方法を学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 領域「人間関係」のねらい及び内容を十分理解したうえで，具体的な保育を想定した指導案を作成しすることができる。<br>さまざまな事例を通して，人間関係について深く考え意見交換をすることにより，人間関係の対処方法を身につける。<br>模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して，保育を改善する視点を身につける。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ<br>幼稚園教育要領を確認し，人間関係のねらい・内容について理解する。 | |
| 第2回 | 教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方<br>事例を通して考えることにより，援助のあり方を理解する。 | |
| 第3回 | 自立心を育む援助<br>DVDを視聴し，ディスカッションを含め理解する。 | |
| 第4回 | 友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し，自他の気持ちに気づく援助のあり方<br>事例をもとに考え，理解する。 | |
| 第5回 | 自他の気持ちの違いに気づき，自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第6回 | きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助（情報機器を活用する）<br>PC等で事例を視聴し，それぞれの意見や援助を理解する。 | |
| 第7回 | ルールのある遊びと援助<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第8回 | 個と集団の育ちを考える<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第9回 | 協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ保育の展開を発表し，理解する。 | |
| 第10回 | 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ行事や活動内容を発表し合い，理解する。 | |
| 第11回 | 幼小の交流活動を考える<br>現在どのような交流活動があるのか理解したうえで，よりよい交流活動を考える。 | |
| 第12回 | 小学校以降の生活や学習で生かされる力（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ行事や活動内容を発表し合い，理解する。 | |
| 第13回 | 地域の中の幼稚園（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ意見を発表し合い，理解する。 | |
| 第14回 | 多様な人，多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ<br>子ども一人一人が違うということ，保護者も様々だということを理解する。 | |
| 第15回 | 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 受講態度や模擬保育等への積極的な態度により評価する。 |
| レポート | 30 | 毎時間のレポートについては，正しい文章で，自分の考え等が記述できているかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業内容についての小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | ロールプレイ，ディスカッション等への積極的参加，発表，提出物により評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ノート作成は，後で見て理解できるよう整理しておくこと。<br>わからない事をそのままにせず，質問をしたり自宅学習をしっかりすること。 |
| 授業外学修 | 週あたり4時間の予習・復習をすること。<br>課題提出は必ずすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館　保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館　事例で学ぶ保育内容　領域人間関係　無藤隆監修　岩立京子編　萌文書林 |
| その他 | 必要な場合は印刷物の配布をする。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所において実際に実施してきたことを中心に学生に教授する。 |

| 科目名 | 人間関係の指導法 2クラス | | | 授業番号 | EE216B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育において，5領域は非常に大切な分野である。その一つである領域「人間関係」のねらい及び内容について，幼児の姿と保育実践とを関連させて学習を深めることを目指す。そのうえで，乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを表現する保育を具体的に構想し，実践する方法を学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 領域「人間関係」のねらい及び内容を十分理解したうえで，具体的な保育を想定した指導案を作成しすることができる。<br>さまざまな事例を通して，人間関係について深く考え意見交換をすることにより，人間関係の対処方法を身につける。<br>模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して，保育を改善する視点を身につける。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ<br>幼稚園教育要領を確認し，人間関係のねらい・内容について理解する。 | |
| 第2回 | 教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方<br>事例を通して考えることにより，援助のあり方を理解する。 | |
| 第3回 | 自立心を育む援助<br>DVDを視聴し，ディスカッションを含め理解する。 | |
| 第4回 | 友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し，自他の気持ちに気づく援助のあり方<br>事例をもとに考え，理解する。 | |
| 第5回 | 自他の気持ちの違いに気づき，自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第6回 | きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助（情報機器を活用する）<br>PC等で事例を視聴し，それぞれの意見や援助を理解する。 | |
| 第7回 | ルールのある遊びと援助<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第8回 | 個と集団の育ちを考える<br>ロールプレイをすることにより，それぞれの気持ちを理解する。 | |
| 第9回 | 協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ保育の展開を発表し，理解する。 | |
| 第10回 | 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ行事や活動内容を発表し合い，理解する。 | |
| 第11回 | 幼小の交流活動を考える<br>現在どのような交流活動があるのか理解したうえで，よりよい交流活動を考える。 | |
| 第12回 | 小学校以降の生活や学習で生かされる力（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ行事や活動内容を発表し合い，理解する。 | |
| 第13回 | 地域の中の幼稚園（情報機器を活用する）<br>PC，DVDで視聴し，それぞれ意見を発表し合い，理解する。 | |
| 第14回 | 多様な人，多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ<br>子ども一人一人が違うということ，保護者も様々だということを理解する。 | |
| 第15回 | 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 受講態度や模擬保育等への積極的な態度により評価する。 |
| レポート | 30 | 毎時間のレポートについては，正しい文章で，自分の考え等が記述できているかを評価する。 |
| 小テスト | 20 | 授業内容についての小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | ロールプレイ，ディスカッション等への積極的参加，発表，提出物により評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ノート作成は，後で見て理解できるよう整理しておくこと。<br>わからない事をそのままにせず，質問をしたり自宅学習をしっかりすること。 |
| 授業外学修 | 週あたり4時間の予習・復習をすること。<br>課題提出は必ずすること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館　保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館　事例で学ぶ保育内容　領域人間関係　無藤隆監修　岩立京子編　萌文書林 |
| その他 | 必要な場合は印刷物の配布をする。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所において実際に実施してきたことを中心に学生に教授する。 |

| 科目名 | 環境の指導法 1クラス | | | 授業番号 | EE217A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた，具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたて，子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・環境についての知識や技術について理解し，修得することができる。<br>・具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたてることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性<br>…環境が持つ意味を捉え，指導法を考える。 | |
| 第2回 | 発達にふさわしい人的・物的環境<br>…発達を促すための環境を理解する。 | |
| 第3回 | 植物や生き物に触れる中で学び<br>…どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。 | |
| 第4回 | 自然物を使った保育指導案の作成<br>…自然物を活用できる指導案を作成しよう。 | |
| 第5回 | 自然物を使った保育の実践<br>…自然物を使って作品を作ろう。 | |
| 第6回 | 乳児の保育環境について<br>…乳児の環境について知識を深めよう。 | |
| 第7回 | 幼児の保育環境について<br>…幼児の環境について知識を深めよう。 | |
| 第8回 | 秋の自然物に触れ，深めよう（どんぐりゴマづくり）<br>…ツリーやドングリゴマを作ろう。 | |
| 第9回 | 自然環境と子どもの育ち<br>…自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。 | |
| 第10回 | 遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために<br>…生活を通して，文字や数量を理解しよう。 | |
| 第11回 | 気になる子どもへの環境について<br>…子どもの特性を知り，生活しやすい環境を考えよう。 | |
| 第12回 | ドキュメンテーションの作品鑑賞会<br>…それぞれの作品を見て，感性を高めよう。 | |
| 第13回 | 保護者に向けた情報発信のツールとしての活用<br>…様々なツールについて理解し，よりよい在り方を考えよう。 | |
| 第14回 | 多国籍な子どもと共生する保育環境について<br>…外国のルーツを持つ子どもについて理解し，対応を考えよう。 | |
| 第15回 | 幼児期の心を育てる保育環境について<br>…子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 知識・理解の到達度を評価する。 |
| その他 | 30 | ドキュメンテーション作成 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ドキュメンテーションの評価の観点<br>・A4の紙2枚分（Ａ３・１枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。(1点)<br>・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点)<br>・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点)<br>・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点)<br>・１つの文章が短いこと。（。までが３０文字）(1点)<br>（※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。）<br>・子どもがみてわかりやすいこと，変化に気付けること（5点）<br>・自分なりの工夫がされていること（5点）<br>・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点）<br>・見出し等に工夫がされていること（5点）<br>・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点）<br>※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | ・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。<br>・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。<br>・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，ノートの整理を行う。<br>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜レジュメを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。 |

| 科目名 | 環境の指導法 2クラス | | | 授業番号 | EE217B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた，具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたて，子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・環境についての知識や技術について理解し，修得することができる。<br>・具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたてることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性<br>…環境が持つ意味を捉え，指導法を考える。 | |
| 第2回 | 発達にふさわしい人的・物的環境<br>…発達を促すための環境を理解する。 | |
| 第3回 | 植物や生き物に触れる中で学び<br>…どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。 | |
| 第4回 | 自然物を使った保育指導案の作成<br>…自然物を活用できる指導案を作成しよう。 | |
| 第5回 | 自然物を使った保育の実践<br>…自然物を使って作品を作ろう。 | |
| 第6回 | 乳児の保育環境について<br>…乳児の環境について知識を深めよう。 | |
| 第7回 | 幼児の保育環境について<br>…幼児の環境について知識を深めよう。 | |
| 第8回 | 秋の自然物に触れ，深めよう（どんぐりゴマづくり）<br>…ツリーやドングリゴマを作ろう。 | |
| 第9回 | 自然環境と子どもの育ち<br>…自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。 | |
| 第10回 | 遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために<br>…生活を通して，文字や数量を理解しよう。 | |
| 第11回 | 気になる子どもへの環境について<br>…子どもの特性を知り，生活しやすい環境を考えよう。 | |
| 第12回 | ドキュメンテーションの作品鑑賞会<br>…それぞれの作品を見て，感性を高めよう。 | |
| 第13回 | 保護者に向けた情報発信のツールとしての活用<br>…様々なツールについて理解し，よりよい在り方を考えよう。 | |
| 第14回 | 多国籍な子どもと共生する保育環境について<br>…外国のルーツを持つ子どもについて理解し，対応を考えよう。 | |
| 第15回 | 幼児期の心を育てる保育環境について<br>…子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 知識・理解の到達度を評価する。 |
| その他 | 30 | ドキュメンテーション作成 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | ドキュメンテーションの評価の観点<br>・A4の紙2枚分（Ａ３・１枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。(1点)<br>・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点)<br>・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点)<br>・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点)<br>・１つの文章が短いこと。（。までが３０文字）(1点)<br>（※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。）<br>・子どもがみてわかりやすいこと，変化に気付けること（5点）<br>・自分なりの工夫がされていること（5点）<br>・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点）<br>・見出し等に工夫がされていること（5点）<br>・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点）<br>※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。 |
| 受講の心得 | ・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。<br>・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。<br>・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。 |
| 授業外学修 | 1. 復習として，ノートの整理を行う。<br>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜レジュメを配布します。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。 |

| 科目名 | 言葉の指導法 1クラス | | | 授業番号 | EE218A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における「言葉」の意義 | |
| 第2回 | 子どもの言葉の発達過程（１）－発達の道筋－ | |
| 第3回 | 子どもの言葉の発達過程（２）－小学校への接続－ | |
| 第4回 | 言葉を育む環境構成と援助（１）－話したい，聞きたい意欲－ | |
| 第5回 | 言葉を育む環境構成と援助（２）－生活に必要な言葉の習得－ | |
| 第6回 | 言葉を育む環境構成と援助（３）－すれ違い等のもどかしさへの援助－ | |
| 第7回 | 言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－ | |
| 第8回 | 言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－ | |
| 第9回 | 子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して） | |
| 第10回 | 言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び） | |
| 第11回 | 子どもの言葉を育む保育の実際（情報機器を活用した教材研究） | |
| 第12回 | 子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成） | |
| 第13回 | 子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践） | |
| 第14回 | 子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り） | |
| 第15回 | 「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。 |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。<br>「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック | 松本峰雄ほか | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09277-2 | 2，750円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年６月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | 言葉の指導法 2クラス | | | 授業番号 | EE218B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育における「言葉」の意義 | |
| 第2回 | 子どもの言葉の発達過程（１）－発達の道筋－ | |
| 第3回 | 子どもの言葉の発達過程（２）－小学校への接続－ | |
| 第4回 | 言葉を育む環境構成と援助（１）－話したい，聞きたい意欲－ | |
| 第5回 | 言葉を育む環境構成と援助（２）－生活に必要な言葉の習得－ | |
| 第6回 | 言葉を育む環境構成と援助（３）－すれ違い等のもどかしさへの援助－ | |
| 第7回 | 言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－ | |
| 第8回 | 言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－ | |
| 第9回 | 子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して） | |
| 第10回 | 言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び） | |
| 第11回 | 子どもの言葉を育む保育の実際（情報機器を活用した教材研究） | |
| 第12回 | 子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成） | |
| 第13回 | 子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践） | |
| 第14回 | 子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り） | |
| 第15回 | 「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。 |
| レポート | 10 | 講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 80 | 子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。<br>「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。 |
| 授業外学修 | テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。<br>課題発表の資料を準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック | 松本峰雄ほか | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-09277-2 | 2，750円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本<br>（平成29年６月　チャイルド社）<br>幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。 |

| 科目名 | 表現の指導法 1クラス | | | 授業番号 | EE219A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　みさ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領に基づき，「表現」のねらい及び内容について実践的に学び，指導計画を作成する能力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（１）音楽表現について | |
| 第2回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（２）造形表現について | |
| 第3回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（３）身体表現について | |
| 第4回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について | |
| 第5回 | 小学校の教科内容との関連，情報機器及び教材の活用について | |
| 第6回 | 乳幼児の生活と表現について | |
| 第7回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（１）幼児自身のイメージについて | |
| 第8回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（２）意欲的に表現活動に取り組める工夫について | |
| 第9回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（３）幼児の興味や関心と表現について | |
| 第10回 | 1幼稚園・こども園での表現活動について | |
| 第11回 | 年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） | |
| 第12回 | 年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） | |
| 第13回 | 発表会を企画する（1）全体の流れを把握する | |
| 第14回 | 発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える | |
| 第15回 | 表現活動の様々な取り組みについて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業に積極的に参加し，グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。 |
| レポート | 50 | 授業時に数回行う小レポートと，授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し，自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 授業内で作成する指導案や企画などについて，具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学習を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領<br>その他必要があれば授業中に適宜資料を配布する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 表現の指導法 2クラス | | | 授業番号 | EE219B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　みさ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 幼稚園教育要領に基づき，「表現」のねらい及び内容について実践的に学び，指導計画を作成する能力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（１）音楽表現について | |
| 第2回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（２）造形表現について | |
| 第3回 | 領域「表現」のねらい及び内容について（３）身体表現について | |
| 第4回 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について | |
| 第5回 | 小学校の教科内容との関連，情報機器及び教材の活用について | |
| 第6回 | 乳幼児の生活と表現について | |
| 第7回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（１）幼児自身のイメージについて | |
| 第8回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（２）意欲的に表現活動に取り組める工夫について | |
| 第9回 | 情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（３）幼児の興味や関心と表現について | |
| 第10回 | 1幼稚園・こども園での表現活動について | |
| 第11回 | 年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） | |
| 第12回 | 年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） | |
| 第13回 | 発表会を企画する（1）全体の流れを把握する | |
| 第14回 | 発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える | |
| 第15回 | 表現活動の様々な取り組みについて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 授業に積極的に参加し，グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。 |
| レポート | 50 | 授業時に数回行う小レポートと，授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し，自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 授業内で作成する指導案や企画などについて，具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学習を行う。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領<br>その他必要があれば授業中に適宜資料を配布する |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 教育・保育技術論 1クラス | | | 授業番号 | EE220A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 烏越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが，活動を考える方法，活動を評価する（ほめる）視点や方法のほか，保育におけるコミュニケーションなどについて講義する。また，1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ，主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの特性を考慮して，子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や，その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また，ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ドキュメンテーションの内容は，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。<br>ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | エビデンスのある教育について考える―5Cの力・10の姿・STEAM教育<br>ドキュメンテーションの内容説明 | |
| 第2回 | ものと出会いで起きる，！？?な五感を駆使する行為について考える<br>ワーク：○で□を・に△する | |
| 第3回 | 素材・道具・場所・行為・活動における不変と変化について考える | |
| 第4回 | 生活に内在する保育内容の芽について考える | |
| 第5回 | 動機付けになる情報とそのタイミングを軸にして，子どもの思考や意欲，行動を引き出す保育の仕掛けについて考える：保育環境・環境構成・導入・展開・評価 | |
| 第6回 | 様々な子どもに対応する結果やプロセスに多様性のある活動について考える<br>スモールステップについて考える | |
| 第7回 | 子どもに伝わる言葉・伝わらない言葉について考える<br>保育行為のオノマトペについて考える | |
| 第8回 | 保護者に伝わる言葉・伝わらない言葉について考える | |
| 第9回 | 保育姿勢・ねらい・ほめることの関係をふまえながら保育の評価（振り返り）に必要なことについて考える | |
| 第10回 | 保育現場におけるICTの活用について知る−研修と保育のドキュメンテーション | |
| 第11回 | 保育のドキュメンテーション作成に向けて―グループ作りと内容の選定をする | |
| 第12回 | パワーポイントやGoogleスライドによるドキュメンテーションの作成 | |
| 第13回 | ドキュメンテーションの作成およびプレゼンテーションの練習をする | |
| 第14回 | プレゼンテーションと内容の検討　前半 | |
| 第15回 | プレゼンテーションと内容の検討　後半 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 1年次の学習内容を振り返りつつ，活動に主体的に取り組んでいる様子が見られるか，また，発言については，発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，これまでの学習内容や既存知識，記憶，経験と結びつけた意見が述べられたりしている点を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | ドキュメンテーションの内容については，SDGｓの普遍的目標とSTEAM教育，5Cの力，幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があることを加点評価する。また，振り返りシートの記入内容については，これまでの経験や学習に基づく内容があること，新たに得られた知見があること，これらを今後どのように生かすのか自分の意見が述べられている点を加点評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。<br>ドキュメンテーションに関する内容の時には，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。 |
| 授業外学修 | 保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には，時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週４時間程度行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版　（1年次の授業で購入済み） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 新版　遊びの指導　入・幼児編（1年次の授業で購入済み）<br>幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社<br>保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社 |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師，令和3・4年度岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育者研修等で，大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力，すなわち「感知する」Catch，「創造する」Create，「コントロールする」Control ，「コミュニケーションする」Communicate ，「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより，子どもの活動が豊かに展開し，噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので，エビデンスのある教育を行うことを目的として，そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。 |

| 科目名 | 教育・保育技術論 2クラス | | | 授業番号 | EE220B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 烏越　亜矢 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが，活動を考える方法，活動を評価する（ほめる）視点や方法のほか，保育におけるコミュニケーションなどについて講義する。また，1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ，主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの特性を考慮して，子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や，その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また，ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | ドキュメンテーションの内容は，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。<br>ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | エビデンスのある教育について考える―5Cの力・10の姿・STEAM教育<br>ドキュメンテーションの内容説明 | |
| 第2回 | ものと出会いで起きる，！？?な五感を駆使する行為について考える<br>ワーク：○で□を・に△する | |
| 第3回 | 素材・道具・場所・行為・活動における不変と変化について考える | |
| 第4回 | 生活に内在する保育内容の芽について考える | |
| 第5回 | 動機付けになる情報とそのタイミングを軸にして，子どもの思考や意欲，行動を引き出す保育の仕掛けについて考える：保育環境・環境構成・導入・展開・評価 | |
| 第6回 | 様々な子どもに対応する結果やプロセスに多様性のある活動について考える<br>スモールステップについて考える | |
| 第7回 | 子どもに伝わる言葉・伝わらない言葉について考える<br>保育行為のオノマトペについて考える | |
| 第8回 | 保護者に伝わる言葉・伝わらない言葉について考える | |
| 第9回 | 保育姿勢・ねらい・ほめることの関係をふまえながら保育の評価（振り返り）に必要なことについて考える | |
| 第10回 | 保育現場におけるICTの活用について知る−研修と保育のドキュメンテーション | |
| 第11回 | 保育のドキュメンテーション作成に向けて―グループ作りと内容の選定をする | |
| 第12回 | パワーポイントやGoogleスライドによるドキュメンテーションの作成 | |
| 第13回 | ドキュメンテーションの作成およびプレゼンテーションの練習をする | |
| 第14回 | プレゼンテーションと内容の検討　前半 | |
| 第15回 | プレゼンテーションと内容の検討　後半 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 1年次の学習内容を振り返りつつ，活動に主体的に取り組んでいる様子が見られるか，また，発言については，発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，これまでの学習内容や既存知識，記憶，経験と結びつけた意見が述べられたりしている点を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | ドキュメンテーションの内容については，SDGｓの普遍的目標とSTEAM教育，5Cの力，幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があることを加点評価する。また，振り返りシートの記入内容については，これまでの経験や学習に基づく内容があること，新たに得られた知見があること，これらを今後どのように生かすのか自分の意見が述べられている点を加点評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。<br>ドキュメンテーションに関する内容の時には，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。 |
| 授業外学修 | 保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には，時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週４時間程度行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版　（1年次の授業で購入済み） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 新版　遊びの指導　入・幼児編（1年次の授業で購入済み）<br>幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社<br>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社<br>保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社 |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師，令和3・4年度岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育者研修等で，大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力，すなわち「感知する」Catch，「創造する」Create，「コントロールする」Control　，「コミュニケーションする」Communicate　，「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより，子どもの活動が豊かに展開し，噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので，エビデンスのある教育を行うことを目的として，そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。 |

| 科目名 | 音楽基礎演習Ａ 1クラス | | | 授業番号 | EE221A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、松井　みさ、河田　健二、青木　彩絵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ピアノ基礎技法を学ぶとともに，ML教室，７２０５教室を用いて，音楽の基礎的な知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに，楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ，童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ピアノ基礎技術確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第2回 | 簡単な両手の譜読み<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第3回 | 基本コード3種の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第4回 | 基本コードを使用して両手の譜読み<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第5回 | 小テスト　基本コードの伴奏付けによる演奏課題<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第6回 | ピアノ曲の個別課題選曲　マーチメドレー曲選曲２曲<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第7回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　音の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第8回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　指使いの確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第9回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　両手の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第10回 | 小テスト　マーチメドレー曲の１曲を通して演奏<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第11回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　両手で通す練習確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第12回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　部分練習の仕方<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第13回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲を通す練習<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第14回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲の速さの確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第15回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲の仕上げ<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 技術習得のための練習方法を身に付けられるように，努力しているか，予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。 |
| その他 | 20 | 個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。 |
| 授業外学修 | 授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2~4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして技術の指導を行う。 |

| 科目名 | 音楽基礎演習Ａ 2ｸﾗｽ | | | 授業番号 | EE221B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、松井　みさ、河田　健二、青木　彩絵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ピアノ基礎技法を学ぶとともに，ML教室，７２０５教室を用いて，音楽の基礎的な知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに，楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ，童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ピアノ基礎技術確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第2回 | 簡単な両手の譜読み<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第3回 | 基本コード3種の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第4回 | 基本コードを使用して両手の譜読み<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第5回 | 小テスト　基本コードの伴奏付けによる演奏課題<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第6回 | ピアノ曲の個別課題選曲　マーチメドレー曲選曲２曲<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第7回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　音の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第8回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　指使いの確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第9回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　両手の確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第10回 | 小テスト　マーチメドレー曲の１曲を通して演奏<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第11回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　両手で通す練習確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第12回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　部分練習の仕方<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第13回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲を通す練習<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第14回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲の速さの確認<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第15回 | ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導　マーチ２曲の仕上げ<br>楽典・歌唱指導 | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 技術習得のための練習方法を身に付けられるように，努力しているか，予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。 |
| その他 | 20 | 個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。 |
| 授業外学修 | 授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2~4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして技術の指導を行う。 |

| 科目名 | 音楽基礎演習Ｂ 1クラス | | | 授業番号 | EE222A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、松井　みさ、河田　健二、青木　彩絵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽基礎演習Ａを発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに，ML教室，７２０５室を用いて，保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても，個人のレベルにあった技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や，保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認　３種のコードの復習<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第2回 | ピアノ曲１曲の左手の譜読み確認　３種のコードを付ける音について<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第3回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半）３種のコードを左手指使いに注意して伴奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第4回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半の表現）基本的なメロディーに３種のコードを考えて伴奏　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第5回 | 小テスト　３種のコード奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第6回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半）弾き歌いメロディーの右手指使い６度音程まで<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第7回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半の表現）弾き歌いメロディーの右手指使い８度音程まで　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第8回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手６度音程まで）　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第9回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体の表現）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手８度音程まで）　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第10回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（通す練習）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け復習　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第11回 | 小テスト　ピアノ曲１曲全部の譜読みを通して演奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第12回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（強弱表現）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第13回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（感情表現）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第14回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（適度な速度）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第15回 | ピアノ曲１曲を両手で通す演奏確認（完成度の確認）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 技術習得のための努力の姿勢，意欲的な態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。 |
| その他 | 20 | 個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。 |
| 授業外学修 | 授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして技術の指導を行う。 |

| 科目名 | 音楽基礎演習 B 2クラス | | | 授業番号 | EE222B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山 佐知子、松井 みさ、河田 健二、青木 彩絵子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽基礎演習Ａを発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに，ML教室，７２０５室を用いて，保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても，個人のレベルにあった技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や，保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認　３種のコードの復習<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第2回 | ピアノ曲１曲の左手の譜読み確認　３種のコードを付ける音について<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第3回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半）３種のコードを左手指使いに注意して伴奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第4回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半の表現）基本的なメロディーに３種のコードを考えて伴奏　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第5回 | 小テスト　３種のコード奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第6回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半）弾き歌いメロディーの右手指使い６度音程まで<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第7回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半の表現）弾き歌いメロディーの右手指使い８度音程まで　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第8回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手６度音程まで）　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第9回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体の表現）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手８度音程まで）　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第10回 | ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（通す練習）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け復習　コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第11回 | 小テスト ピアノ曲１曲全部の譜読みを通して演奏<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第12回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（強弱表現）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第13回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（感情表現）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第14回 | ピアノ曲１曲を両手で通す練習（適度な速度）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 第15回 | ピアノ曲１曲を両手で通す演奏確認（完成度の確認）<br>コードの理解と弾き歌い | 大山 佐知子　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 技術習得のための努力の姿勢，意欲的な態度によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。 |
| その他 | 20 | 個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。 |
| 授業外学修 | 授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かして技術の指導を行う。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法C 1クラス | | | 授業番号 | EE301A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて，こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え，他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び，表現活動を行なう。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生活や，遊びの中で，音楽環境作りの技術を身につけたり，こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため，１クラス２クラスを前半後半にグループ分けを行なう。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | クラス分け（１クラス・２クラス）表現活動の導入 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第2回 | １クラス　音楽環境作りの基礎<br>２クラス　リズムに合わせた身体表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第3回 | １クラス　音楽環境作りの企画<br>２クラス「歩く」動きを中心とした表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第4回 | １クラス　音楽環境作りの制作　1<br>２クラス　動物の動きを取り入れた表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第5回 | １クラス　音楽環境作りの制作　2<br>２クラス　動作中心の物語表現体験 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第6回 | １クラス　音楽素材の活用と表現<br>２クラス　バルーンダンス表現（１） | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第7回 | １クラス　楽器の活用と表現<br>２クラス　バルーンダンス表現（２） | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第8回 | １クラス　合奏の表現<br>２クラス　バルーンダンス発表会・まとめ | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第9回 | １クラス　リズムに合わせた身体表現<br>２クラス　音楽環境作りの基礎 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第10回 | １クラス「歩く」動きを中心とした表現<br>２クラス　音楽環境作りの企画 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第11回 | １クラス　動物の動きを取り入れた表現<br>２クラス　音楽環境作りの制作　1 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第12回 | １クラス　動作中心の物語表現体験<br>２クラス　音楽環境作りの制作　2 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第13回 | １クラス　バルーンダンス表現（１）<br>２クラス　音楽素材の活用と表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第14回 | １クラス　バルーンダンス表現（２）<br>２クラス　楽器の活用と表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第15回 | １クラス　バルーンダンス発表会・まとめ<br>２クラス　合奏の表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，あらたな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に，「面白い」をとらえる５つの力「５Cの力」に基づいている。 |
| レポート | 20 | 課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し，記述内容に応じて得点化する。 |
| 小テスト | 20 | 表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスの表現方法や構成を，子ども目線で考えることができているかや，グループの一体感が得られているか，観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点として得点化する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 準備段階の段取り力や，製作の完成度，また，五感を刺激する意識，創造性があるかによって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業で学んだ成果を元に，週あたり２時間～４時間は予習復習すること。<br>予習で授業内容に関連した情報収集を行い，表現のイメージ，知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。<br>また，復習では発表の改善点，気づきなどをまとめておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭（土`田 豊） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かした技術指導を行う。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法C 2クラス | | | 授業番号 | EE301B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大山　佐知子、土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて，こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え，他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び，表現活動を行なう。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 生活や，遊びの中で，音楽環境作りの技術を身につけたり，こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため，１クラス２クラスを前半後半にグループ分けを行なう。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | クラス分け（１クラス・２クラス）表現活動の導入 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第2回 | １クラス　音楽環境作りの基礎<br>２クラス　リズムに合わせた身体表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第3回 | １クラス　音楽環境作りの企画<br>２クラス「歩く」動きを中心とした表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第4回 | １クラス　音楽環境作りの制作　1<br>２クラス　動物の動きを取り入れた表現 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第5回 | １クラス　音楽環境作りの制作　2<br>２クラス　動作中心の物語表現体験 | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第6回 | １クラス　音楽素材の活用と表現<br>２クラス　バルーンダンス表現（１） | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第7回 | １クラス　楽器の活用と表現<br>２クラス　バルーンダンス表現（２） | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第8回 | １クラス　合奏の表現<br>２クラス　バルーンダンス発表会・まとめ | 大山佐知子<br>土`田 豊 |
| 第9回 | １クラス　リズムに合わせた身体表現<br>２クラス　音楽環境作りの基礎 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第10回 | １クラス「歩く」動きを中心とした表現<br>２クラス　音楽環境作りの企画 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第11回 | １クラス　動物の動きを取り入れた表現<br>２クラス　音楽環境作りの制作　1 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第12回 | １クラス　動作中心の物語表現体験<br>２クラス　音楽環境作りの制作　2 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第13回 | １クラス　バルーンダンス表現（１）<br>２クラス　音楽素材の活用と表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第14回 | １クラス　バルーンダンス表現（２）<br>２クラス　楽器の活用と表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 第15回 | １クラス　バルーンダンス発表会・まとめ<br>２クラス　合奏の表現 | 土`田 豊<br>大山佐知子 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，あらたな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に，「面白い」をとらえる５つの力「５Cの力」に基づいている。 |
| レポート | 20 | 課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し，記述内容に応じて得点化する。 |
| 小テスト | 20 | 表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスの表現方法や構成を，子ども目線で考えることができているかや，グループの一体感が得られているか，観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点として得点化する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 準備段階の段取り力や，製作の完成度，また，五感を刺激する意識，創造性があるかによって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業で学んだ成果を元に，週あたり２時間～４時間は予習復習すること。<br>予習で授業内容に関連した情報収集を行い，表現のイメージ，知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。<br>また，復習では発表の改善点，気づきなどをまとめておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭（土`田 豊） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を生かした技術指導を行う。 |

| 科目名 | 乳児保育Ⅱ 1クラス | | | 授業番号 | EE302A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現在保育所，こども園の現場において乳児保育の必要性が高まっている。その原因は何かを理解することを一つの目的としている。また，それに伴い保育士や保育教諭が担う適切な保育を実施することの意義や課題について学習する。また，保育現場において十分な乳児保育ができるよう，繰り返し実践的な演習をすることにより保育技術を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 乳児の発達段階に合わせた環境・保育について理解する。<br>乳児の一日の生活を理解し，演習により適切な援助ができるようにする。<br>繰り返し演習をすることにより，乳児の扱い方が理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児保育に適した服装見出しなみについて考える<br>乳児の実態を理解し，どのような身だしなみが適切か発表し，共有する。 | |
| 第2回 | 乳児に応じた抱っこやおんぶについて<br>乳児人形を使用して，実際に抱っこやおんぶをすることにより理解する。 | |
| 第3回 | 発達に応じた調乳と授乳<br>実際に調乳，授乳を経験して適度な温度や授乳の仕方を理解する。 | |
| 第4回 | 発達に応じた離乳食・幼児食<br>離乳食の大きさや与え方などを理解する。 | |
| 第5回 | 発達に応じたおむつのあて方・かえ方<br>基本的なおむつのあて方・かえ方を理解し，実際にする。 | |
| 第6回 | おむつからトイレへの自立<br>おむつからの移行期について理解する。 | |
| 第7回 | 手洗いについて<br>正しい手洗いについて理解し，保育現場において子どもに指導できるようにする。 | |
| 第8回 | 乳児のあそびについて考える<br>乳児の興味・関心を知り，おもちゃを考える。 | |
| 第9回 | 乳児のあそびの計画を立てる<br>あそびの立案をする。 | |
| 第10回 | 乳児のおもちゃ作り<br>乳児に与えるおもちゃを作り，発表する。 | |
| 第11回 | おもちゃについての評価<br>乳児にとっておもちゃが適切かどうか考える。 | |
| 第12回 | 乳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について<br>実際に保育現場でどのような清潔への配慮が行われていたか発表することにより，理解する。 | |
| 第13回 | 乳児の発達に応じた遊びについて<br>保育現場でどのようなあそびをしていたのか発表することにより，理解する。 | |
| 第14回 | 乳児保育の1日の流れを知り，保育士の配慮すべきことについて考える<br>配慮事項を再確認することにより，乳児の安全を理解する。 | |
| 第15回 | 乳児保育のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 演習時は衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。毎回の授業に意欲的に取り組める。 |
| レポート | 20 | テーマレポートの内容が一致しているか，誤字脱字，提出期日が守れているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標１・２・３について理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること |
| 授業外学修 | 授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 乳児保育 | CHS子育て文化研究所 編 | 萌文書林 | 9784893470683 | 1800＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 1 年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので，毎回持参する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 乳児保育Ⅱ 2クラス | | | 授業番号 | EE302B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現在保育所，こども園の現場において乳児保育の必要性が高まっている。その原因は何かを理解することを一つの目的としている。また，それに伴い保育士や保育教諭が担う適切な保育を実施することの意義や課題について学習する。また，保育現場において十分な乳児保育ができるよう，繰り返し実践的な演習をすることにより保育技術を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 乳児の発達段階に合わせた環境・保育について理解する。<br>乳児の一日の生活を理解し，演習により適切な援助ができるようにする。<br>繰り返し演習をすることにより，乳児の扱い方が理解できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 乳児保育に適した服装見出しなみについて考える<br>乳児の実態を理解し，どのような身だしなみが適切か発表し，共有する。 | |
| 第2回 | 乳児に応じた抱っこやおんぶについて<br>乳児人形を使用して，実際に抱っこやおんぶをすることにより理解する。 | |
| 第3回 | 発達に応じた調乳と授乳<br>実際に調乳，授乳を経験して適度な温度や授乳の仕方を理解する。 | |
| 第4回 | 発達に応じた離乳食・幼児食<br>離乳食の大きさや与え方などを理解する。 | |
| 第5回 | 発達に応じたおむつのあて方・かえ方<br>基本的なおむつのあて方・かえ方を理解し，実際にする。 | |
| 第6回 | おむつからトイレへの自立<br>おむつからの移行期について理解する。 | |
| 第7回 | 手洗いについて<br>正しい手洗いについて理解し，保育現場において子どもに指導できるようにする。 | |
| 第8回 | 乳児のあそびについて考える<br>乳児の興味・関心を知り，おもちゃを考える。 | |
| 第9回 | 乳児のあそびの計画を立てる<br>あそびの立案をする。 | |
| 第10回 | 乳児のおもちゃ作り<br>乳児に与えるおもちゃを作り，発表する。 | |
| 第11回 | おもちゃについての評価<br>乳児にとっておもちゃが適切かどうか考える。 | |
| 第12回 | 乳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について<br>実際に保育現場でどのような清潔への配慮が行われていたか発表することにより，理解する。 | |
| 第13回 | 乳児の発達に応じた遊びについて<br>保育現場でどのようなあそびをしていたのか発表することにより，理解する。 | |
| 第14回 | 乳児保育の1日の流れを知り，保育士の配慮すべきことについて考える<br>配慮事項を再確認することにより，乳児の安全を理解する。 | |
| 第15回 | 乳児保育のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 演習時は衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。毎回の授業に意欲的に取り組める。 |
| レポート | 20 | テーマレポートの内容が一致しているか，誤字脱字，提出期日が守れているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 到達目標１・２・３について理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること |
| 授業外学修 | 授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 乳児保育 | CHS子育て文化研究所 編 | 萌文書林 | 9784893470683 | 1800＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 1 年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので，毎回持参する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 親子ふれあい演習A | | | 授業番号 | EE303 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊、松井　みさ、清水　憲志、福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められているのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子育て支援活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 様々な子育て支援活動を知る<br>岡山市で実践されている子育て支援活動を参考に，子育て支援活動の実際を学びます。 | |
| 第2回 | 活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ<br>企画を立てる際のねらい設定の仕方や配慮する点等について講義を受け実際に企画を立てます。 | |
| 第3回 | 11月の企画共有<br>11月担当グループの企画を全体で共有し，みんなで検討します。 | |
| 第4回 | 11月の企画の事前準備とリハーサル<br>11月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。 | |
| 第5回 | 11月の子育て支援活動の実施1<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。 | |
| 第6回 | 11月の子育て支援活動の実施2<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。 | |
| 第7回 | 11月の活動の振り返り・12月の企画共有<br>PDCAサイクルに従って，11月の企画について振り返り，発表します。その後，12月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。 | |
| 第8回 | 12月の企画の事前準備とリハーサル<br>12月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。 | |
| 第9回 | 12月の子育て支援活動の実施1<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。 | |
| 第10回 | 12月の子育て支援活動の実施2<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。 | |
| 第11回 | 12月の活動の振り返り・1月の企画共有<br>PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，1月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。 | |
| 第12回 | 1月の企画の事前準備とリハーサル<br>1月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。 | |
| 第13回 | 1月の子育て支援活動の実施1<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。 | |
| 第14回 | 1月の子育て支援活動の実施2<br>地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。 | |
| 第15回 | 1月の活動の振り返り及び全体の振り返り<br>PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，この授業での学びについてまとめます。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。 |
| レポート | 50 | 子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。<br>一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | １．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。<br>２．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。<br>３．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時プリントを配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭（土田豊），ミュージックスクール講師（松井みさ），保育士（清水憲志），幼稚園教諭（福澤惇也） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。 |

| 科目名 | 親子ふれあい演習B | | | 授業番号 | EE304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 土田　豊、山本　房子、清水　憲志、福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。また，保育実習等での経験を子育て支援活動の場に反映しながら学びを深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育現場や各自治体で実施されている子育て支援活動を把握し，活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 自治体で行われている子育て支援活動について学ぶ | |
| 第2回 | 子育て環境に潜むリスクについて学ぶ | |
| 第3回 | 活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ | |
| 第4回 | 活動グループづくりと企画検討会 | |
| 第5回 | 6月の企画共有と事前準備 | |
| 第6回 | 6月の企画の事前準備とリハーサル | |
| 第7回 | 6月の子育て支援活動の実施1 | |
| 第8回 | 6月の子育て支援活動の実施2 | |
| 第9回 | 6月の活動の振り返り・7月の企画共有 | |
| 第10回 | 7月の企画の事前準備 | |
| 第11回 | 7月の企画のリハーサル | |
| 第12回 | 7月の子育て支援活動の実施1 | |
| 第13回 | 7月の子育て支援活動の実施2 | |
| 第14回 | 7月の活動の振り返り | |
| 第15回 | 子育て支援活動を全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。 |
| レポート | 50 | 子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。<br>一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | １．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。<br>２．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。<br>３．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 随時プリントを配布 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教諭（土田豊），公立幼稚園教諭（山本房子），保育士（清水憲志），幼稚園教諭（福澤惇也） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。 |

| 科目名 | 音楽実践演習 A 1クラス | | | 授業番号 | EE305A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 みさ、大山 佐知子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽基礎演習 A・B で学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノレッスン室を用いて，個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第2回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第3回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第4回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第5回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第6回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第7回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第8回 | 中間のまとめ | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第9回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第10回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第11回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第12回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第13回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第14回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第15回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。 |
| その他 | 40 | ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講すること。 |
| 授業外学修 | 毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 持っているピアノ教則本<br>童謡本 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 音楽実践演習 A 2クラス | | | 授業番号 | EE305B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 みさ、大山 佐知子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽基礎演習 A・B で学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノレッスン室を用いて，個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第2回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第3回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第4回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第5回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第6回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第7回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第8回 | 中間のまとめ | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第9回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第10回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第11回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第12回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第13回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第14回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第15回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。 |
| その他 | 40 | ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講すること。 |
| 授業外学修 | 毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 持っているピアノ教則本<br>童謡本 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 音楽実践演習 B 1クラス | | | 授業番号 | EE306A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 みさ、大山 佐知子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ，現場で応用できる。ピアノレッスン室やML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，音楽に関する保育教材の内容研究や指導法についての技術を習得し，保育の現場で役立てる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけること，また音楽表現について現場で実践する力をつけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第2回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第3回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第4回 | コードネームの理解とコード奏 | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第5回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第6回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第7回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第8回 | ボディパーカッションについて | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第9回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第10回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第11回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第12回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第13回 | ミュージックベルを用いたアンサンブル | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第14回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第15回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | ピアノ教則本を演奏することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。 |
| その他 | 40 | 童謡の弾き歌いを練習することにより，現場で通用する歌唱技術やコードネームを用いた演奏技術が習得できているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講すること。 |
| 授業外学修 | 毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 持っているピアノ教則本<br>童謡本 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 音楽実践演習 B 2クラス | | | 授業番号 | EE306B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井 みさ、大山 佐知子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ，現場で応用できる。ピアノレッスン室やML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，音楽に関する保育教材の内容研究や指導法についての技術を習得し，保育の現場で役立てる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけること，また音楽表現について現場で実践する力をつけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第2回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第3回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第4回 | コードネームの理解とコード奏 | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第5回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第6回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第7回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第8回 | ボディパーカッションについて | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第9回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第10回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第11回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第12回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第13回 | ミュージックベルを用いたアンサンブル | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第14回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 第15回 | 弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） | 担当：松井みさ 大山佐知子 |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | ピアノ教則本を演奏することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。 |
| その他 | 40 | 童謡の弾き歌いを練習することにより，現場で通用する歌唱技術やコードネームを用いた演奏技術が習得できているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。<br>実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。<br>きちんとした身だしなみで授業を受講すること。 |
| 授業外学修 | 毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 持っているピアノ教則本<br>童謡本 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法D | | | 授業番号 | EE401 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　みさ、大山　佐知子、土田　豊、鳥越　亜矢、清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育内容の理解と方法A,B,Cで学んだことを元にして，子供の生活と遊びを豊かに実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための技術を総合的に習得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 子供の生活と遊びを実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための技術を習得し，実践できる力を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 児童文化等の内容を含んだテーマの設定(1) | (担当：全教員) |
| 第2回 | 児童文化等の内容を含んだテーマの設定(2) | (担当：全教員) |
| 第3回 | テーマ別討論(1) | (担当：全教員) |
| 第4回 | テーマ別討論(2) | (担当：全教員) |
| 第5回 | テーマ別討論(3) | (担当：全教員) |
| 第6回 | テーマ別に環境構成を行う(1) | (担当：全教員) |
| 第7回 | テーマ別に環境構成を行う(2) | (担当：全教員) |
| 第8回 | テーマ別に環境構成を行う(3) | (担当：全教員) |
| 第9回 | テーマに沿った保育技術の習得(1) | (担当：全教員) |
| 第10回 | テーマに沿った保育技術の習得(2) | (担当：全教員) |
| 第11回 | テーマに沿った保育技術の習得(3) | (担当：全教員) |
| 第12回 | テーマに沿った保育技術の習得(4) | (担当：全教員) |
| 第13回 | テーマに沿った保育技術の習得(5) | (担当：全教員) |
| 第14回 | テーマ別発表(1) | (担当：全教員) |
| 第15回 | テーマ別発表(2) | (担当：全教員) |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる5つの力「5Cの力」にもとづいている。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | グループ内で活動を行うにあたって，毎時間ごとの活動やまとめの発表を通し，意欲的で創造的な表現活動が達成できたかどうかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | テーマの途中変更を認めない。グループのメンバー間で，自分の役割を果たすこと。<br>課題についてグループで積極的に討議すること。<br>発表に向けて意欲的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 早期にテーマを決め討議を始めること。<br>積極的に参加すること。<br>グループ内でコミュニケーションをしっかりとること。<br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じて各テーマ別にプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | ミュージックスクール講師（松井みさ），公立保育所保育士（清水憲志），小学校教諭（土田豊） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各教員の勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。 |

| 科目名 | 保育実習指導Ａ 1クラス | | | 授業番号 | EF301A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。<br>実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉施設ついて，基礎的な知識を獲得する。<br>・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。<br>・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 施設実習の意義と目標１<br>施設実習の意義と目標について理解する。 | |
| 第2回 | 施設実習の意義と目標２<br>施設実習の意義と目標について理解する。 | |
| 第3回 | 施設実習準備：事前学習と実習課題<br>施設実習に望むために必要な事前学習と，実習中に取り組む実習課題について理解する。 | |
| 第4回 | 施設実習の心得，人権教育<br>施設実習に望むために必要な心構えについて理解する。 | |
| 第5回 | 実習先施設調べ発表１：乳児院・児童養護施設<br>施設実習先である，乳児院と児童養護施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第6回 | 実習先施設調べ発表２：児童心理治療施設・児童自立支援施設<br>施設実習先である児童心理治療施設と児童自立支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第7回 | 実習先施設調べ発表３：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設<br>施設実習先である，児童発達支援センター，障害児入所施設，障害者支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第8回 | 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点１<br>実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。 | |
| 第9回 | 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点２<br>実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。 | |
| 第10回 | 先輩による事前指導<br>現役の施設職員から施設や支援の現状について聞き，理解する。 | |
| 第11回 | お楽しみ会企画・立案・実施<br>施設の利用児/者を対象にしたお楽しみ会を企画・立案し，実施していく中でお楽しみ会運営のポイントを理解する。 | |
| 第12回 | 食事介助体験・車いす体験<br>食事介助や車いす介助体験を通して，支援のポイントを理解する。 | |
| 第13回 | 施設実習直前まとめ | |
| 第14回 | 施設実習のまとめ | |
| 第15回 | 施設実習報告会<br>実習先以外の施設について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。 |
| 小テスト | 20 | 講義内容の理解度，定着度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・施設実習の意義をよく理解すること。<br>・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br>3．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br>4．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。<br><br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設経験から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。 |

| 科目名 | 保育実習指導Ａ 2ｸﾗｽ | | | 授業番号 | EF301B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。<br>実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉施設ついて，基礎的な知識を獲得する。<br>・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。<br>・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 施設実習の意義と目標１<br>施設実習の意義と目標について理解する。 | |
| 第2回 | 施設実習の意義と目標２<br>施設実習の意義と目標について理解する。 | |
| 第3回 | 施設実習準備：事前学習と実習課題<br>施設実習に望むために必要な事前学習と，実習中に取り組む実習課題について理解する。 | |
| 第4回 | 施設実習の心得，人権教育<br>施設実習に望むために必要な心構えについて理解する。 | |
| 第5回 | 実習先施設調べ発表１：乳児院・児童養護施設<br>施設実習先である，乳児院と児童養護施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第6回 | 実習先施設調べ発表２：児童心理治療施設・児童自立支援施設<br>施設実習先である児童心理治療施設と児童自立支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第7回 | 実習先施設調べ発表３：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設<br>施設実習先である，児童発達支援センター，障害児入所施設，障害者支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。 | |
| 第8回 | 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点１<br>実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。 | |
| 第9回 | 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点２<br>実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。 | |
| 第10回 | 先輩による事前指導<br>現役の施設職員から施設や支援の現状について聞き，理解する。 | |
| 第11回 | お楽しみ会企画・立案・実施<br>施設の利用児/者を対象にしたお楽しみ会を企画・立案し，実施していく中でお楽しみ会運営のポイントを理解する。 | |
| 第12回 | 食事介助体験・車いす体験<br>食事介助や車いす介助体験を通して，支援のポイントを理解する。 | |
| 第13回 | 施設実習直前まとめ | |
| 第14回 | 施設実習のまとめ | |
| 第15回 | 施設実習報告会<br>実習先以外の施設について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。 |
| 小テスト | 20 | 講義内容の理解度，定着度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | 事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・施設実習の意義をよく理解すること。<br>・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | 1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。<br>2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。<br>3．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br>4．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。<br><br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要であれば，その都度プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設経験から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。 |

| 科目名 | 保育実習指導 B 1クラス | | | 授業番号 | EF302A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育所実習について，実習生としての好ましい姿勢や態度について学習し，実習の意義，目的，内容や実習の進め方について学習する。また，乳幼児の理解と共に実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育実習についての好ましい姿勢や態度，保育実習の意義，目的を理解する。<br>乳幼児を理解したうえでの指導案，実習日誌の書き方を習得する。<br><br>なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習の意義と目的<br>保育実習の意義と目的について，テキスト等により理解する。 | |
| 第2回 | 実習の概要<br>この科目がどの実習の指導であるか理解する。 | |
| 第3回 | 実習生としての心得<br>保育所実習に参加するという自覚を持つ。 | |
| 第4回 | DVD視聴と討議<br>「保育所の1日」のDVDを視聴し1日の流れを理解するとともに，ディスカッションをする。 | |
| 第5回 | PDCAサイクルについて<br>保育現場において，どのようにPDCAサイクルが回っているか理解する。 | |
| 第6回 | 乳幼児の理解（3歳未満児）<br>0歳～2歳児の発達の理解をする。 | |
| 第7回 | 乳幼児の理解（3歳以上児）<br>3歳～就学前幼児の発達の理解をする。 | |
| 第8回 | 指導計画と指導案の関係性<br>指導計画の中にある，実習日誌，指導案との関連を理解する。 | |
| 第9回 | 観察記録の取り方と活用のしかた<br>DVD視聴をし，実際にメモの取り方を理解する。 | |
| 第10回 | 実際の観察記録<br>観察記録をもとに，実際に日誌を記入し理解する。 | |
| 第11回 | 指導案の書き方（3歳未満児）<br>実際に3歳未満児の指導案を立てて，書き方を理解する。 | |
| 第12回 | 指導案の書き方（3歳以上児）<br>実際に3歳以上児の指導案を立てて，書き方を理解する。 | |
| 第13回 | 評価・反省の意味<br>保育をどのように評価するか理解する。 | |
| 第14回 | 保育所実習での自己紹介を考える<br>各自で自己紹介を考え発表する。評価し合うことにより最適なものは何かを理解する。 | |
| 第15回 | 保育所実習についてのまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 毎回のレポートにより評価する。 |
| レポート | 20 | レポートの課題に合った書き方が出来ているか，誤字脱字，表現方法，提出期限が守れているかによって評価する |
| 小テスト | 30 | 授業内容の理解度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 指導案，日誌についての理解ができているかにより評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教科書を十分読んで，疑問点を明らかにすること。<br>提出物の期限を厳守すること。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，ノートの整理を行う。<br>3.授業内で紹介した参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育者への扉 | 澤津まり子 | 建帛社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会<br>授業内で指定した本を読む |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所での経験から，保育所実習の意義や目的等，基本的なことを教授する。 |

| 科目名 | 保育実習指導 B 2ｸﾗｽ | | | 授業番号 | EF302B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育所実習について，実習生としての好ましい姿勢や態度について学習し，実習の意義，目的，内容や実習の進め方について学習する。また，乳幼児の理解と共に実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育実習についての好ましい姿勢や態度，保育実習の意義，目的を理解する。<br>乳幼児を理解したうえでの指導案，実習日誌の書き方を習得する。<br><br>なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習の意義と目的<br>保育実習の意義と目的について，テキスト等により理解する。 | |
| 第2回 | 実習の概要<br>この科目がどの実習の指導であるか理解する。 | |
| 第3回 | 実習生としての心得<br>保育所実習に参加するという自覚を持つ。 | |
| 第4回 | DVD視聴と討議<br>「保育所の1日」のDVDを視聴し1日の流れを理解するとともに，ディスカッションをする。 | |
| 第5回 | PDCAサイクルについて<br>保育現場において，どのようにPDCAサイクルが回っているか理解する。 | |
| 第6回 | 乳幼児の理解（3歳未満児）<br>0歳～2歳児の発達の理解をする。 | |
| 第7回 | 乳幼児の理解（3歳以上児）<br>3歳～就学前幼児の発達の理解をする。 | |
| 第8回 | 指導計画と指導案の関係性<br>指導計画の中にある，実習日誌，指導案との関連を理解する。 | |
| 第9回 | 観察記録の取り方と活用のしかた<br>DVD視聴をし，実際にメモの取り方を理解する。 | |
| 第10回 | 実際の観察記録<br>観察記録をもとに，実際に日誌を記入し理解する。 | |
| 第11回 | 指導案の書き方（3歳未満児）<br>実際に3歳未満児の指導案を立てて，書き方を理解する。 | |
| 第12回 | 指導案の書き方（3歳以上児）<br>実際に3歳以上児の指導案を立てて，書き方を理解する。 | |
| 第13回 | 評価・反省の意味<br>保育をどのように評価するか理解する。 | |
| 第14回 | 保育所実習での自己紹介を考える<br>各自で自己紹介を考え発表する。評価し合うことにより最適なものは何かを理解する。 | |
| 第15回 | 保育所実習についてのまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 毎回のレポートにより評価する。 |
| レポート | 20 | レポートの課題に合った書き方が出来ているか，誤字脱字，表現方法，提出期限が守れているかによって評価する |
| 小テスト | 30 | 授業内容の理解度を評価する |
| 定期試験 | | |
| その他 | 20 | 指導案，日誌についての理解ができているかにより評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 教科書を十分読んで，疑問点を明らかにすること。<br>提出物の期限を厳守すること。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，ノートの整理を行う。<br>3.授業内で紹介した参考文献を読む。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保育者への扉 | 澤津まり子 | 建帛社 | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会<br>授業内で指定した本を読む |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所での経験から，保育所実習の意義や目的等，基本的なことを教授する。 |

| 科目名 | 保育実習指導C 1クラス | | | 授業番号 | EF303A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育実習指導Bで学習したことをふまえ，保育実習指導Cについての意義，目的について学習する。また，実践的な実習日誌や指導案については，実際に立案し保育所実習が困難にならないよう学習する。実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い，今後の課題や解決法について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育実習の意義，目的を理解し保育者としての意識や態度を身につける。<br>実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案することができる。<br>実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。<br><br>なお，本学科はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習IIの意義と目的<br>実習のてびきを用いて再度確認，理解する。 | |
| 第2回 | 保育士の役割<br>実践的な事例等で理解する。 | |
| 第3回 | 指導計画の実際<br>実際に保育をするための指導案を書き，理解する。 | |
| 第4回 | 保育現場の先輩による事前指導<br>実際の保育現場で働いている保育士から話を聞き，保育現場を理解する。 | |
| 第5回 | 実習日誌の書き方<br>実際に記入することにより理解する。 | |
| 第6回 | 指導案の書き方(1)<br>実際に指導案を記入することで理解する。 | |
| 第7回 | 指導案の書き方(2)<br>実際に指導案を記入することで理解する。 | |
| 第8回 | 実習に対する自己課題<br>様々な場面を想定して，自己課題を立てる。 | |
| 第9回 | 年齢に応じた保育<br>自分が担当する年齢の子どもを理解する。 | |
| 第10回 | 環境による保育<br>子どもにとっての環境がいかに大切かを理解する。 | |
| 第11回 | 子どもの状況に応じた適切なかかわり<br>常に子どもの状況を把握しておくことの大切さを理解する。 | |
| 第12回 | 自己課題に対する振り返り<br>自己課題が適切であったかを自分なりに評価する。 | |
| 第13回 | グループ討議(1)<br>実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。 | |
| 第14回 | グループ討議(2)<br>実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。 | |
| 第15回 | 保育所実習のまとめ（反省会） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 必要書類を整えているか，期限に間に合うよう提出できるかにより評価する。 |
| レポート | 80 | レポートは提出が期限内に提出できなければ，評価はしない。内容については，体裁が整っているか，文字数，誤字脱字がないか，また，考察が十分できているかどうかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 指導案，日誌の整理ができているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。 |
| 授業外学修 | 子どもの発達過程を十分把握し，年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。<br>レポート，指導案の書き方を理解しておく。<br>実習に必要なものを準備しておく。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会<br>保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 岡山県保育士養成協議会作成の「実習のてびき」，「実習日誌」を使用する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所の現場経験から実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。 |

| 科目名 | 保育実習指導C 2クラス | | | 授業番号 | EF303B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 保育実習指導Bで学習したことをふまえ，保育実習指導Cについての意義，目的について学習する。また，実践的な実習日誌や指導案については，実際に立案し保育所実習が困難にならないよう学習する。実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い，今後の課題や解決法について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育実習の意義，目的を理解し保育者としての意識や態度を身につける。<br>実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案することができる。<br>実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。<br><br>なお，本学科はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 保育実習IIの意義と目的<br>実習のてびきを用いて再度確認，理解する。 | |
| 第2回 | 保育士の役割<br>実践的な事例等で理解する。 | |
| 第3回 | 指導計画の実際<br>実際に保育をするための指導案を書き，理解する。 | |
| 第4回 | 保育現場の先輩による事前指導<br>実際の保育現場で働いている保育士から話を聞き，保育現場を理解する。 | |
| 第5回 | 実習日誌の書き方<br>実際に記入することにより理解する。 | |
| 第6回 | 指導案の書き方(1)<br>実際に指導案を記入することで理解する。 | |
| 第7回 | 指導案の書き方(2)<br>実際に指導案を記入することで理解する。 | |
| 第8回 | 実習に対する自己課題<br>様々な場面を想定して，自己課題を立てる。 | |
| 第9回 | 年齢に応じた保育<br>自分が担当する年齢の子どもを理解する。 | |
| 第10回 | 環境による保育<br>子どもにとっての環境がいかに大切かを理解する。 | |
| 第11回 | 子どもの状況に応じた適切なかかわり<br>常に子どもの状況を把握しておくことの大切さを理解する。 | |
| 第12回 | 自己課題に対する振り返り<br>自己課題が適切であったかを自分なりに評価する。 | |
| 第13回 | グループ討議(1)<br>実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。 | |
| 第14回 | グループ討議(2)<br>実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。 | |
| 第15回 | 保育所実習のまとめ（反省会） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 必要書類を整えているか，期限に間に合うよう提出できるかにより評価する。 |
| レポート | 80 | レポートは提出が期限内に提出できなければ，評価はしない。内容については，体裁が整っているか，文字数，誤字脱字がないか，また，考察が十分できているかどうかにより評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 指導案，日誌の整理ができているかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。 |
| 授業外学修 | 子どもの発達過程を十分把握し，年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。<br>レポート，指導案の書き方を理解しておく。<br>実習に必要なものを準備しておく。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『保育実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会<br>保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | 岡山県保育士養成協議会作成の「実習のてびき」，「実習日誌」を使用する。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所の現場経験から実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。 |

| 科目名 | 保育実習指導Ｄ | | | 授業番号 | EF304 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 施設での実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。<br>実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法について学ぶ。<br>利用児・者に対して個々に合った支援を実施するために，個別支援計画の意義や立案・作成の方法を学ぶ。<br>実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこなう。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉施設ついて，発展的な知識を獲得する。<br>・具体的な目標設定の仕方を習得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。<br>・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。<br>・個別支援計画を立案・作成することができる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 施設実習の目的と意義 | |
| 第2回 | 施設実習先種別の理解 | |
| 第3回 | 専門職の役割と援助 | |
| 第4回 | 実習日誌の書き方，実習に対する課題作成1 | |
| 第5回 | 実習日誌の書き方，実習に対する課題作成2 | |
| 第6回 | 個別支援計画の意義 | |
| 第7回 | 個別支援計画の立案・作成 | |
| 第8回 | 施設職員，先輩による事前指導 | |
| 第9回 | 事例研究1 | |
| 第10回 | 事例研究2 | |
| 第11回 | 施設研究1 | |
| 第12回 | 施設研究2 | |
| 第13回 | 施設研究3 | |
| 第14回 | 実習のまとめ | |
| 第15回 | 実習反省会 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。 |
| レポート | 30 | 事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 事前学習の内容を精査し，日誌にまとめて記入することができる（20%）事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる（30%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 実習内容を60%，報告書レポート等を40%の割合で評価する。 |
| 受講の心得 | ・施設実習の意義をよく理解すること。<br>・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。 |
| 授業外学修 | １．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。<br>２．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。<br>３．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。<br>４．実際の利用児・者を想定しながら，個別支援計画を作成すること。<br><br>以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業内容によって，随時プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で必要に応じて，紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 施設経験から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。 |

| 科目名 | 保育実習Ａ | | | 授業番号 | EF305 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮、土田　豊 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 保育所以外の児童福祉施設や障害児・者施設などにおいて，諸教科で学んだ理論や技術がいかに具体化・統合化されているかを実地で学習する。<br>そして，実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。<br>・児童福祉施設などで生活する利用児・者を理解する。<br>・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 実習生といえども，社会人及び保育士としての自覚を持って実習に臨むこと。また，実習に先立ち児童福祉施設や障害児・者に関する本を数冊読んでおくこと。<br>１）利用児・者への理解<br>・利用児・者との生活を通しての理解をする。<br>・利用児・者のとらえ方を深める。<br>２）養護活動と養護技術への理解<br>・各施設の目標に沿った養護の実際を理解する。<br>・保育士の職務内容，役割について理解する。<br>・技術を学ぶ。<br>３）施設への理解<br>・施設の役割と機能について理解する。<br>・体験的理解と施設観の変革・再編成をする。<br>４）自己啓発と福祉観の深化<br>・実習での体験や学びをもとに自己啓発を進める<br>・福祉の現場に触れることにより，福祉観・援助観を深化させる。<br><br>通常特定の施設に10日間宿泊してその施設の処遇を見学したり，援助活動に参加させてもらい基礎的な内容を学習する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 20 | 報告書の施設概要を詳細に記載し，学んだことについて具体的かつ考察を踏まえながら記述することができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 実習先施設による評価（50%）と実習日誌（30%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・実習の目標を把握しておくこと。<br>・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。<br>・課題設定をし，目標を達成できるようにする。 |
| 授業外学修 | １．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。<br>２．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。<br>３．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。<br>４．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。<br><br>以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『施設実習日誌』『施設実習の手引き』岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 施設職員 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が保育士に必要な能力を身につけるため，実習指導者の指導の下，利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。<br>実習訪問時に，課題や記録について指導する。 |

| 科目名 | 保育実習Ｂ | | | 授業番号 | EF306 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子、清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 実際に保育所で今まで学習したことを駆使し10日間の実習を行い，総合的な学習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実際の保育現場で観察や子どもとのかかわりを通し，子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ保育の方法や保護者への支援について総合的に理解する。<br>保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 保育所の生活と1日の流れを理解する<br>保育所保育指針の理解と保育の展開を理解する<br>子どもの観察とその記録による理解<br>子どもの発達過程の理解をする<br>子どもへの援助やかかわりを実際に行い，理解する<br>保育の計画に基づく保育内容を理解し，実際に立案し実施する<br>子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し，実際に実施する<br>子どもの生活やあそびと保育環境を理解し，保育をする<br>子どもの健康と安全に留意し，理解を深める<br>保育課程と指導計画の理解と活用<br>記録に基づく省察・自己評価をする<br>保育士の業務内容を理解する<br>職員間の役割分担や連携を理解する<br>保育士の役割と職業倫理を理解する<br>以上のような内容を総合的に実習の間に，保育の現場から学ぶ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 90 | 実習園からの評価により評価する。 |
| レポート | 10 | 巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実習に積極的，意欲的に参加する。子どもたちと十分にコミュニケーションをとる。 |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 岡山県保育士養成協議会 「実習のてびき」「実習日誌」 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 保育現場の保育士等 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際の保育現場での実習方法等を教授する。 |

| 科目名 | 保育実習Ｃ | | | 授業番号 | EF307 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子、清水　憲志 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 保育所で10日間の実習を行った後に，再度保育所での10日間の実習を行うことにより学習を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。既習の教科や保育実習Bの経験をふまえ，子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。保育の計画，実践，観察，記録及び自己評価について実際に取り組み，理解を深める。<br>保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し，保育士としての自己課題を明確化する。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 養護と教育が一体となって行われる保育の理解をする<br>保育所の社会的役割と責任を理解する<br>子どもの心身の状態や活動の記録をすることにより，子ども理解をする<br>保育士等の動きや実践の観察をすることにより，保育を理解する<br>保育所の生活の流れや展開の把握をする<br>環境を通して行う保育，生活やあそびを総合的に行う保育の理解<br>入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を理解する<br>保育課程に基づく指導計画の作成，実践，観察，記録，評価と保育の過程の理解<br>作成した指導計画に基づく保育実践と評価することで記録の理解をする<br>多様な保育の展開と保育士の業務を理解する<br>多様な保育の展開と保育士の職業倫理を理解する<br>以上のような内容を実習の間に保育の現場から学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 90 | 実習園からの評価による |
| レポート | 10 | 巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 岡山県保育士養成協議会「実習のてびき」「実習日誌」 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 保育所保育指針 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立保育所保育士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 保育現場の保育士等 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際の保育現場での実習および評価等について教授する。 |

| 科目名 | 保育実習Ｄ | | | 授業番号 | EF308 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平尾　太亮 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 保育所以外の児童福祉施設や，知的障害児・者施設で施設実習での参加観察実習でそれぞれの段階を積み上げた仕上げの実習である。利用児・者の機能，保育士の役割，指導計画など支援の内容をより詳細に体験する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することができる。<br>・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。<br>・児童福祉施設などで生活する利用児・者の姿を理解する。<br>・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 基礎的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題を持つこと。<br>１）援助計画の理解<br>・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。<br>・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。<br>２）援助プログラムの立案<br>・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。<br>・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。<br>３）援助プログラムによる援助実践<br>・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。<br>・実習指導担当者の助言，実習場面の立会い，事後の批評等を受ける。<br>４）保育士の態度と技術の習得<br>・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。<br>・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。<br>・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。<br>５）多様性と共通性の理解<br>・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。<br>・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | 30 | 事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 実習先施設による評価（40%）と実習日誌（30%） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・実習の目標を把握しておくこと。<br>・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。<br>・課題設定をし，目標を達成できるようにする。 |
| 授業外学修 | １．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。<br>２．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。<br>３．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。<br>４．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。<br><br>以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『施設実習日誌』『施設実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 医療型障害児入所施設職員 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 施設職員 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学生が保育士に必要な能力を身につけるため，実習指導者の指導の下，利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。<br>実習訪問時に，課題や記録について指導する。 |

| 科目名 | 教育実習 | | | 授業番号 | EF309 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子、福澤　惇也 | | | | | | | | |
| 単位数 | 4単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 実習 |
| 授業概要 | 幼稚園教育の現場で４週間実習経験する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼児とその教育を正しく理解する力，幼児を受容しかつ指導する力，事務的な事柄を処理する能力等を身につける。<br>優しさや思いやりある保育者の姿に触れ，信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り，実践出来る力を身に付ける。。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 観察・参加・指導実習（部分・連続・１日実習）とおよそ３段階で進められる。 | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１週　観察実習<br>・幼稚園教育実践の場を実際に観察し，幼児の実態や指導に対する理解を深める。<br>・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。<br>第２週　参加実習<br>・教育実習担当教諭の計画に基づき，保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。<br>・幼児に親しみ，その接し方に慣れる。<br>第３～４週　指導実習<br>・部分実習<br>　幼児の生活全体を把握し，１日のうちの１部を担当し，幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い，保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の行動観察をすることにより幼児理解を深める。<br>・連続実習<br>・１日実習<br>　最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し，１日の保育を実践する。<br>　部分実習と同様，幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 70 | 教育実習園からの評価（大学が示した評価項目，実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。 |
| レポート | 30 | 教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物を与えられた様式に従って，丁寧に記述していること。提出期限を守っていること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 体調管理に努め実習の課題をもち，積極的に実習に参加すること。社会人，保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。 |
| 授業外学修 | 1．幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の動きを日誌に記入する。<br>2．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。<br>3．指導案等の実習指導計画を作成する。<br>以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 詳説　幼稚園教育実習 | 森元 眞紀子･小野 順子 編著 | ふくろう出版 | 978-4-86186-761-3 | 2090円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | フレーベル館 | 978-4577814475 | 264円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公立幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 幼稚園教諭 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，実習の巡回指導を行う。 |

| 科目名 | 教育実習指導 1クラス | | | 授業番号 | EF310A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため，事前に学習への意欲を高め，これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議，反省会等を行い，幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実習前には実習生としての態度や心構え，指導案や日誌の書き方，教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。<br>実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに，実習での学習の成果のまとめと発表をし，自己課題を明確にできる。<br>以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育実習の目標と意義を理解し，教育実習に向けての計画と準備を行う | |
| 第2回 | 幼稚園教育，教師の役割，子どもの実態について理解する | |
| 第3回 | 実習に対する課題を作成する | |
| 第4回 | 園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける | |
| 第5回 | 教育実習日誌の書き方を知る | |
| 第6回 | 部分指導案の書き方を知り，絵本の読み聞かせ・昼食場面の指導案を作成する | |
| 第7回 | 全日指導案の書き方を知る | |
| 第8回 | 特別に支援を要する幼児への指導について学ぶ | |
| 第9回 | 実習生の一日について理解する | |
| 第10回 | 幼稚園教育実習直前オリエンテーションを受ける | |
| 第11回 | 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する | |
| 第12回 | 幼稚園教諭の役割と援助について理解する | |
| 第13回 | 教育実習のまとめI　反省及び自己評価を行う | |
| 第14回 | 教育実習のまとめII　実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する | |
| 第15回 | 教育実習のまとめIII　実習反省会を行う | |
| 授業計画　備考2 | 注）第２～１０回の授業のうち，時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 実習での学びに関する課題を，決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 報告書やレポート等の評価を80%，授業態度を80%20%の割合で評価する。 |
| 受講の心得 | 実習に取り組むに当たっての課題を決定し，その準備をする。<br>提出物が多いので，提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。 |
| 授業外学修 | 教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>授業後は教科書や配布された資料をよく読み，知識を整理すること。<br>弾きうたい，幼児への関わり方や指導案作成等，保育技術の向上に努力すること。<br>保育教材等，実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。<br>以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 詳説　幼稚園教育実習 | 森元 眞紀子･小野 順子 編著 | ふくろう出版 | 978-4-86186-761-3 | 2090円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『指導案集』（担当者作成） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | フレーベル館 | 978-4577814475 | 264円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験や実習生を指導した経験を活かし，教育実習に向けての心構えや準備，日誌の書き方等について実践的な指導を行う。 |

| 科目名 | 教育実習指導 2クラス | | | 授業番号 | EF310B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 山本　房子 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため，事前に学習への意欲を高め，これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議，反省会等を行い，幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実習前には実習生としての態度や心構え，指導案や日誌の書き方，教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。<br>実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに，実習での学習の成果のまとめと発表をし，自己課題を明確にできる。<br>以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 教育実習の目標と意義を理解し，教育実習に向けての計画と準備を行う | |
| 第2回 | 幼稚園教育，教師の役割，子どもの実態について理解する | |
| 第3回 | 実習に対する課題を作成する | |
| 第4回 | 園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける | |
| 第5回 | 教育実習日誌の書き方を知る | |
| 第6回 | 部分指導案の書き方を知り，絵本の読み聞かせ・昼食場面の指導案を作成する | |
| 第7回 | 全日指導案の書き方を知る | |
| 第8回 | 特別に支援を要する幼児への指導について学ぶ | |
| 第9回 | 実習生の一日について理解する | |
| 第10回 | 幼稚園教育実習直前オリエンテーションを受ける | |
| 第11回 | 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する | |
| 第12回 | 幼稚園教諭の役割と援助について理解する | |
| 第13回 | 教育実習のまとめI　反省及び自己評価を行う | |
| 第14回 | 教育実習のまとめII　実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する | |
| 第15回 | 教育実習のまとめIII　実習反省会を行う | |
| 授業計画　備考2 | 注）第２～１０回の授業のうち，時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 実習での学びに関する課題を，決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 報告書やレポート等の評価を80%，授業態度を80%20%の割合で評価する。 |
| 受講の心得 | 実習に取り組むに当たっての課題を決定し，その準備をする。<br>提出物が多いので，提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。 |
| 授業外学修 | 教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。<br>授業後は教科書や配布された資料をよく読み，知識を整理すること。<br>弾きうたい，幼児への関わり方や指導案作成等，保育技術の向上に努力すること。<br>保育教材等，実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。<br>以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 詳説　幼稚園教育実習 | 森元 眞紀子･小野 順子 編著 | ふくろう出版 | 978-4-86186-761-3 | 2090円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 『指導案集』（担当者作成） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | フレーベル館 | 978-4577814475 | 264円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和4年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 幼稚園教諭として勤務経験や実習生を指導した経験を活かし，教育実習に向けての心構えや準備，日誌の書き方等について実践的な指導を行う。 |

| 科目名 | 保育・教職実践演習（幼稚園） 1クラス | | | 授業番号 | EG401A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋 美佐子、福澤 惇也、藤井 裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ２年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して，学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに，不足している知識・技能を補完・向上させ，保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1 保育者としての使命感や責任感をもつことができる。<br>2 保育者に必要な専門的知識をもつことができる。<br>3 保育を取り巻く環境の変化について理解し，実践的に保育に生かすことができる。<br>4 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し，実行できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する<br>（履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認） | 担当： 大橋 美佐子 福澤 惇也 藤井 裕士 |
| 第2回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第3回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第4回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第5回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(4) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第6回 | 地域連携のあり方を考える(1) | 担当：福澤 惇也 |
| 第7回 | 地域連携のあり方を考える(2) | 担当：福澤 惇也 |
| 第8回 | 保護者支援のあり方を考える(1) | 担当：福澤 惇也 |
| 第9回 | 保護者支援のあり方を考える(2) | 担当：福澤 惇也 |
| 第10回 | 教諭としてのあり方を考える（1） | 担当：藤井 裕士 |
| 第11回 | 教諭としてのあり方を考える（2） | 担当：藤井 裕士 |
| 第12回 | 教諭としてのあり方を考える（3） | 担当：藤井 裕士 |
| 第13回 | 教諭としてのあり方を考える（4） | 担当：藤井 裕士 |
| 第14回 | 小学校への連携について考える（1） | 担当： 大橋 美佐子 福澤 惇也 藤井 裕士 |
| 第15回 | 小学校への連携について考える(2)<br>今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する（履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認） | 担当： 大橋 美佐子 福澤 惇也 藤井 裕士 |
| 授業計画 備考2 | 実践演習全体の反省・評価・第１回目にもった課題の達成度を振り返る 担当： 大橋 美佐子 福澤惇也 藤井 裕士 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。 |
| レポート | 50 | 授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論・ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。<br>授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。<br>演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。<br>以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，参考資料をプリントし，配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版<br>『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（大橋美佐子）幼稚園教諭（福澤惇也） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 小学校教諭 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。 |

| 科目名 | 保育・教職実践演習（幼稚園）　２クラス | | | 授業番号 | EG401B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 大橋　美佐子、福澤　惇也、藤井　裕士 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ２年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して，学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに，不足している知識・技能を補完・向上させ，保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1　保育者としての使命感や責任感をもつことができる。<br>2　保育者に必要な専門的知識をもつことができる。<br>3　保育を取り巻く環境の変化について理解し，実践的に保育に生かすことができる。<br>4　仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し，実行できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する<br>（履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認） | 担当：　大橋 美佐子　　福澤 惇也　　藤井 裕士 |
| 第2回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第3回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第4回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第5回 | 現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(4) | 担当：大橋 美佐子 |
| 第6回 | 地域連携のあり方を考える(1) | 担当：福澤 惇也 |
| 第7回 | 地域連携のあり方を考える(2) | 担当：福澤 惇也 |
| 第8回 | 保護者支援のあり方を考える(1) | 担当：福澤 惇也 |
| 第9回 | 保護者支援のあり方を考える(2) | 担当：福澤 惇也 |
| 第10回 | 教諭としてのあり方を考える（1） | 担当：藤井 裕士 |
| 第11回 | 教諭としてのあり方を考える（2） | 担当：藤井 裕士 |
| 第12回 | 教諭としてのあり方を考える（3） | 担当：藤井 裕士 |
| 第13回 | 教諭としてのあり方を考える（4） | 担当：藤井 裕士 |
| 第14回 | 小学校への連携について考える（1） | 担当：　大橋 美佐子　　福澤 惇也　　藤井 裕士 |
| 第15回 | 小学校への連携について考える(2)<br>今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する（履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認） | 担当：　大橋 美佐子　　福澤 惇也　　藤井 裕士 |
| 授業計画　備考2 | 実践演習全体の反省・評価・第１回目にもった課題の達成度を振り返る　　担当：　大橋 美佐子　　福澤惇也　　藤井 裕士 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。 |
| レポート | 50 | 授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論・ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。 |
| 授業外学修 | 授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。<br>授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。<br>演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。<br>以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜，参考資料をプリントし，配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版<br>『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（大橋美佐子）幼稚園教諭（福澤惇也） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | 小学校教諭 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。 |

## 中国短期大学　情報ビジネス学科　シラバス


| 科目授業名 | 授業代表教員氏名 | ページ数 |
|---|---|---|
| フレッシャーズセミナー | 河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 | 1 |
| 韓国語 | 河　智弘 | 3 |
| 中国語 | 畑木　亦梅 | 5 |
| 日本事情（留学生） | 岡本　輝彦 | 7 |
| 日本語Ⅰ（留学生） | 岡本　輝彦 | 9 |
| 日本語Ⅱ（留学生） | 岡本　輝彦 | 11 |
| 日本語表現 | 小川　孝司 | 13 |
| 芸　　術 | 河田　健二 | 15 |
| 法学概論 | 藤原　健補　他 | 17 |
| 経済学 | 板野　敬吾 | 19 |
| 社会福祉概論 | 松井　圭三 | 21 |
| 時事問題 | 板野　敬吾 | 23 |
| 遊びの中の数学 | 平井　安久 | 25 |
| 体育実技 | 溝田　知茂 | 27 |
| 英語A | 藤代　昇丈 | 29 |
| 秘書学 | 仁宮　崇 | 31 |
| プレゼンテーション概論 | 板野　敬吾 | 33 |
| ビジネス実務A | 倉田　致知 | 35 |
| ビジネス実務B | 倉田　致知 | 37 |
| 実践学修の学び方 | 倉田　致知 | 39 |
| インターンシップ | 板野　敬吾 | 41 |
| キャリアプランニング | 古谷　俊爾／板野　敬吾 | 43 |
| プレゼンテーション演習A | 板野　敬吾 | 45 |
| 医療管理事務総論 | 仁宮　崇 | 47 |
| 発達と老化の理解 | 中野　ひとみ | 49 |
| 診療報酬請求事務Ⅰ | 仁宮　崇 | 51 |
| 診療報酬請求事務演習Ⅰ | 仁宮　崇 | 53 |
| ビジネス実務演習B | 倉田　致知 | 55 |
| 地域創生学 | 倉田　致知 | 57 |
| 地域創生学 | 倉田　致知 | 59 |
| プレゼンテーション演習B | 板野　敬吾 | 61 |
| 情報処理論 | 古谷　俊爾 | 63 |
| 情報処理演習 1クラス | 古谷　俊爾 | 65 |
| 情報処理演習 2クラス | 古谷　俊爾 | 67 |
| 文書処理 1クラス | 脇坂　基徳 | 69 |
| 文書処理 2クラス | 脇坂　基徳 | 71 |
| ビジネスコンピューティングA 1クラス | 平井　安久 | 73 |
| ビジネスコンピューティングA 2クラス | 平井　安久 | 75 |
| プログラミング概論 | 古谷　俊爾 | 77 |
| 通信ネットワーク論 | 古谷　俊爾 | 79 |
| コンピュータ科学 | 古谷　俊爾 | 81 |
| ITパスポート特別講義 | 板野　敬吾 | 83 |
| ITパスポート特別演習 | 古谷　俊爾 | 85 |
| ビジネスコンピューティングB 1クラス | 平井　安久 | 87 |
| データベース演習 | 古谷　俊爾 | 89 |
| プログラミング演習 | 古谷　俊爾 | 91 |
| 通信ネットワーク論 | 古谷　俊爾 | 93 |
| アルゴリズムとデータ構造 | 古谷　俊爾 | 95 |
| アプリ開発演習 | 古谷　俊爾 | 97 |
| SQL演習 | 古谷　俊爾 | 99 |
| データサイエンス | 平井　安久 | 101 |
| データサイエンス | 平井　安久 | 103 |
| データサイエンスB | 平井　安久 | 105 |
| データサイエンスC | 平井　安久 | 107 |
| 社会調査論 | 平井　安久 | 109 |
| 社会調査演習 | 平井　安久 | 111 |
| 社会調査論 | 平井　安久 | 113 |
| 社会調査演習 | 平井　安久 | 115 |
| マルチメディア 1クラス | 脇坂　基徳 | 117 |
| マルチメディア 2クラス | 脇坂　基徳 | 119 |
| 音響メディア論 | 河田　健二 | 121 |
| ウェブデザインA | 脇坂　基徳 | 123 |
| デジタルフォト | 情報A | 125 |

| | | |
|---|---|---|
| コンピュータグラフィックス | 脇坂　基徳 | 127 |
| コンピュータグラフィックス | 脇坂　基徳 | 129 |
| コンピュータミュージック | 河田　健二 | 131 |
| マルチメディア | 脇坂　基徳 | 133 |
| ウェブデザインB | 脇坂　基徳 | 135 |
| ウェブデザインB | 脇坂　基徳 | 137 |
| ウェブプログラミング演習 | 古谷　俊爾 | 139 |
| 映像制作演習B | 藤原　美佳 | 141 |
| 情報メディア論 | 脇坂　基徳 | 143 |
| 情報メディア論 | 脇坂　基徳 | 145 |
| マルチメディア演習B | 脇坂　基徳 | 147 |
| ウェブデザイン演習 | 脇坂　基徳 | 149 |
| ウェブアプリ開発 | 古谷　俊爾 | 151 |
| ウェブデザイン演習 | 脇坂　基徳 | 153 |
| 経営学概論 | 倉田　致知 | 155 |
| 基礎簿記A | 五百竹　宏明 | 157 |
| 基礎簿記演習A | 五百竹　宏明 | 159 |
| 現代企業論 | 倉田　致知 | 161 |
| 基礎簿記B | 五百竹　宏明 | 163 |
| 基礎簿記演習B | 五百竹　宏明 | 165 |
| 簿記演習C | 五百竹　宏明 | 167 |
| ファイナンシャルプランA | 五百竹　宏明 | 169 |
| ファイナンシャルプラン演習 | 五百竹　宏明 | 171 |
| 経営戦略論 | 倉田　致知 | 173 |
| 国際経営論 | 倉田　致知 | 175 |
| マーケティング | 倉田　致知 | 177 |
| 簿記論A | 五百竹　宏明 | 179 |
| 簿記演習A | 五百竹　宏明 | 181 |
| 簿記論B | 五百竹　宏明 | 183 |
| 簿記演習B | 五百竹　宏明 | 185 |
| コンピュータ会計 | 五百竹　宏明 | 187 |
| パソコン会計 | 五百竹　宏明 | 189 |
| ファイナンシャルプランB | 五百竹　宏明 | 191 |
| ファイナンシャルプラン演習B | 五百竹　宏明 | 193 |
| 対人関係の心理学 | 福森　護 | 195 |
| 経済の心理学 | 板野　敬吾 | 197 |
| 心の健康の心理学 | 虫明　修 | 199 |
| 経済の心理学 | 板野　敬吾 | 201 |
| 産業・ビジネスの心理学 | 閻　琳 | 203 |
| ゼミナールA | 河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 | 205 |
| ゼミナールB | 河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 | 207 |

| 科目名 | フレッシャーズセミナー | | | 授業番号 | SA151 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二、平井　安久、古谷　俊爾、板野　敬吾、倉田　致知、五百竹　宏明、脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 導入教育を目的として開講された科目であり，入学直後の学生生活の環境に慣れて，今後の大学生活を有意義なものにするために，大学生活において必要な知識や心構えについて学ぶ。また，各種オリエンテーションや研修，イベントなど，様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションも図る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 大学生活について理解を深め，スムーズに大学生活を過ごせるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 大学の魅力を知る<br>本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割などを知る | |
| 第2回 | 大学のしくみを知る<br>履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方について | |
| 第3回 | 大学のしくみを知る<br>これからの学生生活をよりよく楽しく過ごすために | |
| 第4回 | 大学の施設を知る<br>知の宝庫，図書館の利用について | |
| 第5回 | 大学の施設を知る<br>情報処理センターの利用について（演習室の使い方など） | |
| 第6回 | 協働の喜びを知る<br>学科行事，大学行事などを通じて他の人と協働することを学ぶ | |
| 第7回 | 自己アピール<br>他の人に自分を知ってもらえるような，アピールの方法について | |
| 第8回 | 外部講師による特別講義<br>学科との縁のある外部の方をお招きし，講義していただく | |
| 第9回 | 先生方を知る<br>それぞれの専門分野や意外な側面も知れるかも | |
| 第10回 | 環境を考える<br>現代社会において欠くことのできない環境問題について学ぶ | |
| 第11回 | 危機管理を考える<br>自分の身を守るために，様々な危機について学び，その対処法について考える | |
| 第12回 | 健康管理について<br>やりたいことも健康あってこそ | |
| 第13回 | 働くことの意味<br>単にお金儲け，ではなく自分の存在価値を見出す | |
| 第14回 | 人権について<br>基本的人権やLGBTなどについて考える | |
| 第15回 | 大学で学ぶことの意義<br>学ぶとはどういうことか，それを大学でとは問う言う意味であるか考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッションへの参加状況により評価を行う。 |
| レポート | 50 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。 |
| 授業外学修 | 毎回の授業で得た知識を学生生活において意識し，可能な限り活用する。<br>以上のことに，毎週４時間以上の授業外学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし<br>入学当初のガイダンスには，【学生便覧・授業概要】を持参すること。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 韓国語 | | | 授業番号 | SA181 | サブタイトル | (韓国語の基礎を学ぶ) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河　智弘 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 基本文型と文法を会話文の中で習得し，日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。韓国語コミュニケーションIで学んだ韓国語の基礎を生かして，会話，慣用的な表現などを用いて，読み，書き，聞き取り，話すことをバランスよく習得していく。特に，聞き取りと話すことにおいて，留学生などのゲストを迎えスキルを活用する機会につなげる | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。<br>・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。<br>・簡単な韓国語が書けることができる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 韓国語とは | |
| 第2回 | 文字と発音・母音 | |
| 第3回 | 文字と発音・子音 | |
| 第4回 | 激音と農音，パッチム | |
| 第5回 | 自己紹介 | |
| 第6回 | これは何ですか | |
| 第7回 | 結婚写真 | |
| 第8回 | 動詞の活用 | |
| 第9回 | 何をしますか | |
| 第10回 | 韓国映画の言葉 | |
| 第11回 | 私たちの教室 | |
| 第12回 | 動詞の尊敬形 | |
| 第13回 | どこに行かれますか。 | |
| 第14回 | 場所 | |
| 第15回 | 日常会話及びまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っているのかを評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。 |
| 定期試験 | 40 | 授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をすること<br>宿題を真面目にすること |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。<br>・復習として，毎回の課題をノートに書いて来ること。<br>・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| カナタコリアン初級1 | カナタ韓国語学院 | 国書刊行会 | 978-4-336-05677-1 | 2，500円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 中国語 | | | 授業番号 | SA183 | サブタイトル | （発音記号，基本文型，会話，短文） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 畑木　亦梅 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | テキスト第一課　発音(1)　単母音，声調，子音，軽声，特殊母音（課題提出　テキスト第一課分P9-10), | |
| 第2回 | テキスト第二課　発音(2)　重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方 | |
| 第3回 | 発音の復習，知っておいて便利な言葉（課題提出　テキスト第二課分P13-14) | |
| 第4回 | テキスト第三課　名詞文「…是…(…は…です)」について(肯定文，否定文，疑問文)；副詞「也，都(も)」について，強化トレーニング（課題提出　テキスト第三課分P19-20) | |
| 第5回 | テキスト第四課　指示代名詞，存在文「有…(…あります/います)」について，「ちょっと…する」の言い方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第四課分P25-27) | |
| 第6回 | テキスト第五課　動詞文，動作の継起，願望文「想…(…したい)」について，強化トレーニング（課題提出　テキスト第五課分P33-34) | |
| 第7回 | テキスト第六課　動作・行為の完了，形容詞文について，比較，起点などの表し方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第六課分P39-40) | |
| 第8回 | テキスト第七課　動作の進行，いろいろな「在」の使い方，数字・日付の言い方，強化トレーニング（課題提出　テキスト第七課分P45-46) | |
| 第9回 | テキスト第八課　過去の経験の表しかた，東京ディズニーランドに行ったことがありますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第八課分P51-52) | |
| 第10回 | テキスト第九課　皆さんはお元気ですか　強化トレーニング（課題提出　テキスト第九課分P57-58) | |
| 第11回 | テキスト第十課　休みの日はどのように過ごしますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十課分P63-64) | |
| 第12回 | テキスト第十一課　納豆は食べますか？　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十一課分P69-70) | |
| 第13回 | テキスト第十二課　私について(1)　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十二課分P75-77) | |
| 第14回 | テキスト第十三課　私について(2)　強化トレーニング（課題提出　テキスト第十三課分P81-82) | |
| 第15回 | 復習，おさらい，定期試験に向けて | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 4 | 発音練習・発言など授業への積極性 |
| レポート | 26 | 課題提出の完成度 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，声を出して練習すること。遅刻しないこと。 |
| 授業外学修 | 1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。<br>2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。<br><br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストについては教務課より別途指示 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介。プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。初回からプリントの配布があり，その後の授業にも使う予定。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 高等学校での中国語授業 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。 |

| 科目名 | 日本事情（留学生） | | | 授業番号 | SA191 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　輝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日本の文化や社会，習慣について幅広く学習し日本人のものの見方，考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力を身につける。また，知識を習得するだけではなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。<br>２．日本や日本人を正しく理解することができる。<br>３．最終的には日本人コミュニティーに参加できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・自己紹介 | |
| 第2回 | 日本はどんな国か | |
| 第3回 | 自分の国を紹介する | |
| 第4回 | 日本の食について考える | |
| 第5回 | 自国の食文化を紹介する | |
| 第6回 | 年中行事 | |
| 第7回 | 自国の年中行事を紹介する | |
| 第8回 | 現代文化とポップカルチャー | |
| 第9回 | 自国の文化を紹介する | |
| 第10回 | 環境保護を考える | |
| 第11回 | 自国の環境保護に対する取り組みを紹介する | |
| 第12回 | 教育 | |
| 第13回 | 自国の教育を紹介する | |
| 第14回 | 多文化共生社会について考える(1) | |
| 第15回 | 多文化共生社会について考える(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 積極的な受講態度，発話回数で評価する。 |
| レポート | 20 | 自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 |
| 小テスト | 40 | 学習内容が理解できているどうかで評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1．資料を読んだり，ディスカッションをしたりするので，自分からどんどん発言すること。<br>2．講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。 |
| 授業外学修 | 1．後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。<br>2．プレゼンテーションの原稿を作成すること。<br>3．資料を探しプレゼーテンションソフトを使って発表の練習をすること。<br><br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリントを配布する予定。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本語Ⅰ（留学生） | | | 授業番号 | SA192 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　輝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること，受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより，日本語での発信力を向上させることを目的としている。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．論理的な思考を身につけることができる。<br>２．自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。<br>３．中上級の表現力が習得できる。<br><br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アカデミック・リーディング(1) | |
| 第2回 | 語彙・文法(1)および復習 | |
| 第3回 | アカデミック・リーディング(2) | |
| 第4回 | 語彙・文法(2)および復習 | |
| 第5回 | アカデミック・ライティング(1)および小テスト | |
| 第6回 | アカデミック・リーディング(3) | |
| 第7回 | 語彙・文法(3)および復習 | |
| 第8回 | アカデミック・リーディング(4) | |
| 第9回 | 語彙・文法(4)および復習 | |
| 第10回 | アケデミック・ライティング(2)および小テスト | |
| 第11回 | アカデミック・リーディング(5) | |
| 第12回 | 語彙・文法(5)および復習 | |
| 第13回 | アカデミック・リーディング(6) | |
| 第14回 | 語彙・文法(6)および復習 | |
| 第15回 | アケデミック・ライティング(3)および小テスト | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 積極的な受講態度，発話回数，予習復習の成果で評価する。 |
| レポート | 30 | 自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 |
| 小テスト | 40 | 学習内容が理解できているどうかで評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 口頭発表 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義の前にプリントを読んでおき，事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけではなく，自分から意見を述べること。 |
| 授業外学修 | 1．毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。<br>2．テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。<br><br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリントを配布する予定。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本語Ⅱ（留学生） | | | 授業番号 | SA193 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 岡本　輝彦 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 総合的な日本語力はもとよりのこと，特に「話す」，「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し，自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．論理的な思考を身につけることができる。<br>２．自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。<br>３．中上級の表現力を習得することができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アカデミック・リーディング(1) | |
| 第2回 | 発表・討議 | |
| 第3回 | アカデミック・リーディング(2) | |
| 第4回 | アカデミック・ライティング(1) | |
| 第5回 | アカデミック・リーディング(3) | |
| 第6回 | 発表・討議 | |
| 第7回 | アカデミック・リーディング(4) | |
| 第8回 | アカデミック・ライティング(2) | |
| 第9回 | アカデミック・リーディング(5) | |
| 第10回 | 発表・討議 | |
| 第11回 | アカデミック・リーディング(6) | |
| 第12回 | アカデミック・ライティング(3) | |
| 第13回 | プレゼンテーション技法(1) | |
| 第14回 | プレゼンテーション技法(2) | |
| 第15回 | プレゼンテーション技法(3) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。 |
| レポート | 20 | 自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | 理解度および到達度で評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 講義の前にプリントを読んでおくこと。また，日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。 |
| 授業外学修 | １．毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。<br>２．プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。<br>以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリントを配布する予定。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 日本語表現 | | | 授業番号 | SA211 | サブタイトル | （日本語の用字用語と言語表現について） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 小川　孝司 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | この授業では，「読むこと」を中心に絵本や物語，説明的表現等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現への関心を高める。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 身の周りにある様々な日本語表現 | |
| 第2回 | 乳幼児の日本語獲得（１） | |
| 第3回 | 乳幼児の日本語獲得（２） | |
| 第4回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（１） | |
| 第5回 | 読者を引きつける絵本のひみつ（２） | |
| 第6回 | 読者を引きつける物語の仕掛け | |
| 第7回 | 読者を引きつける物語の表現 | |
| 第8回 | 身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 | |
| 第9回 | 身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 | |
| 第10回 | 読者を説得する説明的文章の仕掛け | |
| 第11回 | 読者を説得する説明的文章の表現 | |
| 第12回 | 読者の予測を利用した読み物（１） | |
| 第13回 | 読者の予測を利用した読み物（２） | |
| 第14回 | 違和感を感じさせる詩的表現 | |
| 第15回 | 違和感を感じさせる詩的表現 | |
| 授業計画　備考2 | ※状況により，授業内容を入れ替えることがあります。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，話し合い活動への積極的な参加を評価する。 |
| レポート | 30 | 授業ごとの学習内容の定着度を評価する。 |
| 小テスト | 50 | 最終的な学習内容の定着度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 毎時間提出するレポートは，資料に書かれていること等を写すのではなく，その時間に考えたことや深まったことを書くように努力すること。 |
| 受講の心得 | 配布資料及びレポートは，整理してファイルしておくこと。<br>学生相互の話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。 |
| 授業外学修 | １，事前に配布された資料は目を通し，授業に臨むこと。<br>２，授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回プリント資料を配付する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 岡山市立公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 絵本，物語や説明的文章等の表現分析 |

| 科目名 | 芸　　術 | | | 授業番号 | SA212 | サブタイトル | (音楽) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音楽の様々な要素を取り出し，紹介する。音楽とは切っても切り離せないキリスト教との関わり合いや，器楽・声楽の各分野について学習する。また，実際に声を出して歌唱をする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 音楽について深く理解し，また人前で堂々と歌唱できるようになることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キリスト教と音楽１<br>キリスト教音楽成立以前の音楽 | |
| 第2回 | キリスト教と音楽２<br>キリスト教成立～中世の音楽 | |
| 第3回 | キリスト教と音楽３<br>宗教改革～古典派の時代 | |
| 第4回 | キリスト教と音楽４<br>ロマン派から近・現代 | |
| 第5回 | 歌曲について１（発声法を含む）<br>大きな声を出してみよう | |
| 第6回 | 歌曲について２（歌唱の方法について）<br>音の高低のコントロールと響きについて | |
| 第7回 | オペラへの誘い１<br>オペラの成立と発展について | |
| 第8回 | オペラへの誘い２<br>他の舞台芸術とオペラとの比較 | |
| 第9回 | オペラへの誘い３<br>実際の作品の鑑賞と解説 | |
| 第10回 | 器楽の魅力１<br>弦楽器について，独奏曲とアンサンブル | |
| 第11回 | 器楽の魅力２<br>独奏楽器としてのピアノ・オルガン | |
| 第12回 | 器楽の魅力３<br>オーケストラの成立と発展 | |
| 第13回 | 器楽の魅力４<br>電子の力・電気の力による音楽について | |
| 第14回 | 音楽の現在，そしてこれから<br>現在音楽というものがどのような立ち位置にあるのか，また今後について考える | |
| 第15回 | 歌唱発表会<br>各受講者の選んだ楽曲を歌唱する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 授業への積極的な参加，熱心な受講態度を評価する。 |
| レポート | 50 | 与えられたテーマに対して自分の考えを表現できていることを評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 上手下手ではなく，歌唱に対する真剣な取り組み方について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 幅広く音楽に興味を持つこと。決してある特定の分野のみに偏らないよう注意すること。 |
| 授業外学修 | 予習は必ずしも必要ではないが，学習した内容が定着するように各回の内容を自分の言葉で再定義すること。また，歌曲の回については実際に声を出すので，要領をつかめるまで各自で反復練習をすること。また，最終回では受講生全員の前で歌っていただくので，そのための準備を怠らないこと。以上の内容を週４時間程度行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しないが，必要な文献については各回プリントを配布する予定。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 法学概論 | | | 授業番号 | SA221 | サブタイトル | (学生のための法律) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤原　健補　他 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて，法によって権利・義務が発生することを理解し，法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で，裁判手続きを深めるために，実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが，その場合は事前に知らせるものとする）。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 受講により，大学生の身の回りで起こる問題について，法的問題として深く考える法的思考を養成し，社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 法とは社会統制のための道具である。法は裁判規範（裁判の基準）としての機能と行為規範（行為の基準）としての機能をもつ。法を，過去に向かって使うと裁判の基準として働き，将来に向かって使うと紛争の予防と戦略法務のために有用に機能する。法を道具として裁判や紛争予防・戦略のためにどのように使うか，その手法を学ぶ。 | 近藤　弦之介　弁護士 |
| 第2回 | 民事紛争の仕組み，及び日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ２及び３ | 馬場　幸三　弁護士 |
| 第3回 | 大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて，気をつけるべき点を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIII　ＳＴＡＧＥ１及び２ | 馬場　幸三　弁護士 |
| 第4回 | 交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ６ | 谷口　怜司　弁護士 |
| 第5回 | 日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り，日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ１ | 谷口　怜司　弁護士 |
| 第6回 | 交際相手等とのトラブルについての知識，対処法を学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ４ | 川端　美智子　弁護士 |
| 第7回 | 我が国の民法における家族関係の規律のなかから特に婚姻，離婚，親子及び相続について学ぶ。 | 川端　美智子　弁護士 |
| 第8回 | 旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴＩ　ＳＴＡＧＥ５，ＵＮＩＴII　ＳＴＡＧＥ２ | 山本　愛子　弁護士 |
| 第9回 | 働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴII　ＳＴＡＧＥ１ | 山本　愛子　弁護士 |
| 第10回 | 民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 | 青田　夢　弁護士 |
| 第11回 | 刑事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 | 青田　夢　弁護士 |
| 第12回 | 刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念，目標を学ぶ。【裁判傍聴予備日】<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 藤原　健補　弁護士 |
| 第13回 | 刑事裁判に裁判員や被害者として参加する制度（裁判員裁判及び被害者参加制度）について学ぶ。【裁判傍聴予備日】<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 高瀬　鈴香　弁護士 |
| 第14回 | 裁判傍聴を通じて，実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 鹿室　辰義　弁護士，高瀬　鈴香　弁護士 |
| 第15回 | 裁判傍聴を通じて，実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。<br>テキスト　ＵＮＩＴIV | 鹿室　辰義　弁護士，高瀬　鈴香　弁護士 |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，発表・討議への参加等によって評価する。 |
| レポート | 50 | レポート内容，　提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業時の携帯等の使用は禁止する。 |
| 授業外学修 | (1)予習として，テキストの内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにしておくこと。<br>(2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。<br>(3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。<br><br>以上(1)～(3)を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 学生のための法律ハンドブック | 近江幸治・広中惇一郎　編著 | 成文堂 | 978-4-7923-0631-1 | 1800円＋税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 弁護士(近藤弦之介)，弁護士(藤原健補)，弁護士(馬場幸三)，弁護士（谷口怜司），弁護士(山本愛子)，弁護士(川端美智子)，弁護士(青田夢)，弁護士(鹿室辰義)，弁護士（高瀬鈴香），弁護士（福田力希斗） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 法律事務所に勤務する弁護士が，実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。 |

| 科目名 | 経済学 | | | 授業番号 | SA222 | サブタイトル | (経済の見方) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの状況が頻繁に取り上げられている。このような報道は，一見私たちの普段の生活に無縁なものと思われれがちである。しかしながら，これらの動きは物価や賃金に影響を及ぼし，私たちの生活に密着した経済現象として考えることができる。<br>また，経済活動の重要な役割を担う企業及び家計は，その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり，社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。この点，企業や家計の活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として捉える必要がある。<br>本講義では，基本的な経済理論を学びつつ，消費者行動，企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えることとする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | テレビや新聞のニュース等の経済動向が理解できるようになるだけでなく，経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで，実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。<br>本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり，特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し，新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 経済学とは | |
| 第2回 | ミクロ経済学の考え方 | |
| 第3回 | 家計の行動 | |
| 第4回 | 企業の行動 | |
| 第5回 | 政府の役割 | |
| 第6回 | 需要と供給 | |
| 第7回 | 不完全競争市場（独占・寡占） | |
| 第8回 | 不完全競争下での企業の行動 | |
| 第9回 | マクロ経済学の考え方 | |
| 第10回 | 国民所得 | |
| 第11回 | 貨幣の役割 | |
| 第12回 | 国民所得のコントロール | |
| 第13回 | 長期の経済とは | |
| 第14回 | 失業 | |
| 第15回 | 経済政策と企業活動 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，復習の状況により判断する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 20 | 単元ごとの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習は特に必要ない。事後学習（復習）については必ず行い，講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。 |
| 授業外学修 | 授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また，経済理論はそれだけにとどまらずさらに発展的に展開し，別の理論とも深く関わる。従って，必ず復習し理解したうえで，後の講義を受講するよう心がけること。<br>講義で得た知識をもとに，新聞・テレビ等で経済に関するニュース等を閲覧し，その経済現象はどのような経済理論が適用できるか考えること。<br>週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配布し，使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる | 井堀利宏 | KADOKAWA | 978-4-04-601168-8 | 1500 |
| 図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる | 井堀利宏 | KADOKAWA | 978-4-04-601754-3 | 925 |
| 大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる | 井堀利宏，カツヤマケイコ | KADOKAWA | 978-4-04-601720-8 | 1200 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考図書については，必要の都度講義中に周知する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会福祉概論 | | | 授業番号 | SA224 | サブタイトル | (社会福祉制度を中心に) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 松井　圭三 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会福祉は，私たちの生活問題を対象としているのでその概念は広い。そのため，社会福祉の本質を理解しようと思えば，歴史的変遷や思想，制度，政策を見ていく必要がある。加えて，社会福祉は実践学問であるので自然科学や人文科学・社会科学との関連についても学習をすることが肝要である。また，対人援助技術が現場では問われるのでソーシャルワークの概念についても言及しなければならない。<br>本講義では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックスをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。授業形式としては，講義，ビデオ視聴を主とする。また，最近の新聞等を教材にディスカッションできる機会を設定したいと考えている。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会福祉実践能力を修得し説明できる。<br>・社会福祉の幅広い知識と教養を修得し，説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会福祉とは（社会福祉の本質を中心に） | |
| 第2回 | 社会福祉の視点（社会福祉の役割を中心に） | |
| 第3回 | 社会福祉の動向（1980年代から今日までの福祉政策を中心に） | |
| 第4回 | 社会福祉の発展（英国，日本の社会福祉の歴史を中心に） | |
| 第5回 | 社会福祉の法制と機構（厚生労働省，地方自治体の社会福祉行政を中心に） | |
| 第6回 | 社会福祉従事者（福祉マンパワーの課題を中心に） | |
| 第7回 | 社会福祉施設（社会福祉施設の概要と課題を中心に） | |
| 第8回 | 低所得福祉（生活保護制度の意義，種類を中心に） | |
| 第9回 | 高齢者福祉（高齢者に関する福祉サービスを中心に） | |
| 第10回 | 障害者福祉（障害の概念と障害者の実態を中心に） | |
| 第11回 | 児童福祉（児童福祉の歴史と理念，制度を中心に） | |
| 第12回 | 医療福祉（医療，保健，福祉の連携を中心に） | |
| 第13回 | 地域福祉（地域を支える機関や人々を中心に） | |
| 第14回 | 社会福祉援助技術（対人援助技術を中心に） | |
| 第15回 | まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式とグループ討議で進めます。<br>・予習と授業中の積極的参加を求めます。<br>・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 |
| 授業外学修 | ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>・復習として，課題のレポートを書く。<br>・授業で紹介された参考文献を精読する。<br>本講義では，週4時間程度の授業外学習が必要となる。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 社会保障論 | 今井慶宗他 | 大学図書出版 | 978-4-907166-25-0 | 2800円 |
| NIE社会福祉記事ワークブック | 松井圭三ほか | 大学教育出版社 | | 2000円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業において，随時紹介します。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実務経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」に活かす。 |

| 科目名 | 時事問題 | | | 授業番号 | SA225 | サブタイトル | (現代日本を取り巻く諸問題) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日々流れるニュースの中で，地球温暖化，大気・水等の汚染，森林減少，砂漠化などの問題が多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は，私たち現代の人間がその原因をつくり，最終的に私たちの生活に影響を及ぼしているものである。これら諸問題は容易に解決するものではなく，後世のために，現在の環境問題を少しでも改善していく必要性がある。また，現代においては，環境問題は一国における問題というよりも，現在においては経済のグローバル化により，地球規模での影響が問題となっている。<br>本講義ではこれらの環境問題，現代日本と取り巻く諸問題について，最新のデータ等をもとに，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また，重要な事件などが発生した場合は，本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な環境問題，日本の現状について，基礎知識を修得し，理解することができるようになること。また，環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，自分の考えを言えるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 環境問題とは | |
| 第2回 | 人間と環境 | |
| 第3回 | 公害と法などの規制 | |
| 第4回 | 水と汚染 | |
| 第5回 | 都市環境と自然 | |
| 第6回 | 酸性雨 | |
| 第7回 | 大気汚染 | |
| 第8回 | 化学物質と環境 | |
| 第9回 | 地球温暖化と二酸化炭素 | |
| 第10回 | 温暖化対策 | |
| 第11回 | 森林破壊 | |
| 第12回 | 生物多様性 | |
| 第13回 | 廃棄物処理 | |
| 第14回 | 循環型社会について | |
| 第15回 | これからの日本 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 15 | 意欲的な受講態度，予習，復習の状態によって評価する。 |
| レポート | 20 | 単元毎に小レポートを実施し理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 65 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 項目ごとの評価の割合は変更することがある。 |
| 受講の心得 | 1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。<br>2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。 |
| 授業外学修 | 1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。<br>2．復習として，授業で学んだことを教科書を見で再度学修しておく。<br>3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。<br>以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地球環境問題がよくわかる本 | 浦野紘平・浦野真弥 | オーム社 | 978-4-274-22090-6 | 1600 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じ授業に際しプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地球環境の教科書 | 九里徳泰，左巻健男，平山明彦 | 東京書籍 | 9784487808311 | 2100 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要の都度，随時紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 遊びの中の数学 | | | 授業番号 | SA231 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 数学を抽象的なレベルでの理解のみでなく，具体的な事象や操作から数学的な規則を理解使用とすることも重要である．本授業では，遊びやゲームとして世の中で確立している話題を用いて，操作的活動を通じて数学の規則や概念を学習する． | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）遊びやゲーム等の具体的な話題の中に潜む数学的な考え方や規則を理解する．<br>２）問題解決の方法がもつ意外性について評価する．<br>３）手作業を含めた操作的活動により解決方法の理解を深める．<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | サイコロの不思議 | |
| 第2回 | 一本道をつくろう | |
| 第3回 | 箱をずらして重ねていこう | |
| 第4回 | 正方形を集めて正方形を作ろう | |
| 第5回 | 格子図形の面積を求めよう | |
| 第6回 | ２枚の正方形：くるくるピタッ！ | |
| 第7回 | 倍数を裏返しにしていくと何が見えるかな | |
| 第8回 | 玉は何回跳ね返るか | |
| 第9回 | 長方形から正方形を取り出そう | |
| 第10回 | 正方形から長方形へ作り替えよう | |
| 第11回 | ボールのバウンド | |
| 第12回 | カードゲームのトリック | |
| 第13回 | 本当はいくら | |
| 第14回 | 分数は美しい？ | |
| 第15回 | あなたの知らない因数分解 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する |
| レポート | 60 | レポート課題への取り組み状況を評価する |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 遊びレベルの活動の中にも数学的内容が見えることを知ってもらいたい. |
| 授業外学修 | 1）特定の予習は必要としないが，授業で用いた用語や概念については必要に応じて復習する.<br>2）必要に応じて課題に取り組むこと. |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特定のテキストは使用しない．必要に応じてプリントを配布する. |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 体育実技 | | | 授業番号 | SA241 | サブタイトル | (スポーツに親しもう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 溝田　知茂 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 実技 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。<br>なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第2回 | バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第3回 | バスケットボールIII（ゲームの展開） | |
| 第4回 | バレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第5回 | バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第6回 | バレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第7回 | バドミントンI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第8回 | バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第9回 | バドミントンIII（ゲームの展開） | |
| 第10回 | ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） | |
| 第11回 | ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第12回 | ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） | |
| 第13回 | 卓球I（ルールと基本技術の理解） | |
| 第14回 | 卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） | |
| 第15回 | 卓球III（ゲームの展開） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 60 | 授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 各競技ごとに試合を実施する |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。<br>全員協力の上，準備・片付けをする。 |
| 授業外学修 | ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。<br>・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に使用しない。（作成資料を活用） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 英語A | | | 授業番号 | SA282 | サブタイトル | (英語で岡山を楽しみながら学ぼう) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤代　昇丈 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。<br>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。<br>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day | |
| 第2回 | 1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City | |
| 第3回 | 1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu | |
| 第4回 | 1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station | |
| 第5回 | 1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights | |
| 第6回 | 1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine | |
| 第7回 | 1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs | |
| 第8回 | 2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ | |
| 第9回 | 2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert | |
| 第10回 | 2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben | |
| 第11回 | 2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware | |
| 第12回 | 2-3-5 The Land of Astronomical Observation,　Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival（Hadakamatsuri） | |
| 第13回 | 3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity | |
| 第14回 | 3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1 | |
| 第15回 | 3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。 |
| レポート | 20 | 課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 |
| 小テスト | 40 | 各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | 10 | 積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。<br>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 |
| 授業外学修 | 1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。<br>2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。<br>3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂新版 岡山から“ハロー” | 岡山ローバル英語研究会 | 山陽新聞社 | 978-4881977590 | 1100 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。 |

| 科目名 | 秘書学 | | | 授業番号 | SB111 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。<br>・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎を学ぶ。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ビジネスマナーの基礎（1）：社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。 | |
| 第2回 | ビジネスマナーの基礎（2）：社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。 | |
| 第3回 | 秘書業務の基本：秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。 | |
| 第4回 | 話し方・電話応対の実際：好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。 | |
| 第5回 | 秘書に必要とされる資質（1）：後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。 | |
| 第6回 | 秘書に必要とされる資質（2）：上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。 | |
| 第7回 | 職務知識（1）：補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。 | |
| 第8回 | 職務知識（2）：電子メール，秘書の定型業務，資料と部署の関係，印鑑の扱い，複数の業務の依頼を受ける場合について理解する。 | |
| 第9回 | 秘書のマナー・接遇：弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。 | |
| 第10回 | 秘書の技能（1）：郵送，書類の分類方法，時候の挨拶，ビジネス文書について理解する。 | |
| 第11回 | 秘書の技能（2）：社交文書，自分側と相手側の呼び方，表書きについて理解する。 | |
| 第12回 | 秘書の技能（3）：社内文書，社外文書，慣用句，上書き，グラフ作成について理解する。 | |
| 第13回 | 医療機関を事例にした接遇（1）：あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかい，電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。 | |
| 第14回 | 医療機関を事例にした接遇（2）：感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかい，クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。 | |
| 第15回 | 授業の振り返り：これまでの授業内容，秘書検定の問題を通して社会人としての一般常識，接遇応対について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 試験は持込不可である。 |
| 受講の心得 | 仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。 |
| 授業外学修 | 1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。<br>2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本 | 佐藤 一明 | KADOKAWA/中経出版 | 978-4046041029 | 1，400 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会）　秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会）　マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ）　秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社）　秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）　ホスピタルコンシェルジュの事例紹介（DVD：金田病院提供） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療事務の受付・会計における患者接遇経験をもとに指導する。 |

| 科目名 | プレゼンテーション概論 | | | 授業番号 | SB121 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 昨今，商談，会議等の場において自ら主張を行い，効果的かつ効率的に相手を説得することが求められている。このような場面において，効果的かつ効率的なプレゼンスを行うための技法として，プレゼンテーションの技術が着目されているところである。<br>本講義では，まずプレゼンテーションの目的を明らかにし，その活用の場を紹介する。さらに，プレゼンテーションの多様な技法を紹介し，その基本的考え方や技法の使い方を学んでいく。また，必要に応じて簡単なプレゼンテーションを実践することで，知識の定着を図る。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 講義全体を通して，プレゼンテーションの意義，目的，手法等プレゼンテーションの基本的な考え方を理解する。また，プレゼンテーションのシチュエーションに応じた効果的な方法を選択・実践するための基本的な知識を身につけることを目標とする。<br>また，本科目はプレゼンテーション実務士の資格認定を受けるための必修科目であり，実務的レベルの知識を習得するものとする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | プレゼンテーションの重要性 | |
| 第2回 | プレゼンテーションの計画 | |
| 第3回 | プレゼンテーションの構成 | |
| 第4回 | プレゼンテーションの内容と展開 | |
| 第5回 | 準備 | |
| 第6回 | リハーサルとリスクマネジメント | |
| 第7回 | プレゼンターの役割 | |
| 第8回 | プレゼンターの説得力とは | |
| 第9回 | 視覚化と効果 | |
| 第10回 | 視覚化の方法 | |
| 第11回 | 視覚化と文字情報 | |
| 第12回 | 話す技術 | |
| 第13回 | 専門性と専門用語 | |
| 第14回 | 聞き手に対する配慮 | |
| 第15回 | ツールの利用 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。 |
| レポート | 30 | |
| 小テスト | | 講義内容の理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 40 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 不明点等があれば積極的に質問し，理解を深めるような態度で授業に臨むこと。 |
| 授業外学修 | 事前学習については特に要しない。<br>ただし，各回の講義に関し，それぞれ関連性があることが多いことから，講義終了後学んだ知識を確認し，十分な事後学習を行い，次回以降の講義に備えておくこと。<br>週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 特に定めず，適宜資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| プレゼンテーションの教科書 | 脇山真治 | 日経BP | 978-4-8222-6496-3 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考図書については，必要の都度，講義中に周知する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 情報通信業，公務員(労働局) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 顧客対応，企画提案等の経験をフィードバックし，授業内容の理解を深める。 |

| 科目名 | ビジネス実務A | | | 授業番号 | SB211 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 挨拶，ビジネス文章，などを含みビジネスの基本は本当に幅広い。社会人・職業人として必要な知識と問題解決力を理解しつつ，即戦力となれるよう本講義では実務において必要な知識と問題解決力を身につける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義で，受講者はビジネス実務において必要な基礎的知識とは何かを説明でき，且つ自身のその修得状況を確認しながら問題解決力を身につけることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリアと仕事へのアプローチ，仕事の基本となる8つの意識(1) | |
| 第2回 | キャリアと仕事へのアプローチ，仕事の基本となる8つの意識(2) | |
| 第3回 | コミュニケーションとビジネスマナーの基本，指示の受け方と報告，連絡・相談，話し方と聞き方のポイント，来客応対と訪問の基本マナー，社内での関係(1) | |
| 第4回 | コミュニケーションとビジネスマナーの基本，指示の受け方と報告，連絡・相談，話し方と聞き方のポイント，来客応対と訪問の基本マナー，社内での関係(2) | |
| 第5回 | コミュニケーションとビジネスマナーの基本，指示の受け方と報告，連絡・相談，話し方と聞き方のポイント，来客応対と訪問の基本マナー，社内での関係(3) | |
| 第6回 | 仕事への取り組み方，ビジネス文書の基本，電話応対(1) | |
| 第7回 | 仕事への取り組み方，ビジネス文書の基本，電話応対(2) | |
| 第8回 | 統計・データの読み方，まとめ方(1) | |
| 第9回 | 統計・データの読み方，まとめ方(2) | |
| 第10回 | 統計・データの読み方，まとめ方(3) | |
| 第11回 | 情報収集とメディアの活用(1) | |
| 第12回 | 情報収集とメディアの活用(2) | |
| 第13回 | 会社を取り巻く環境と経済の基本(1) | |
| 第14回 | 会社を取り巻く環境と経済の基本(2) | |
| 第15回 | 会社を取り巻く環境と経済の基本(3) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 単元ごとに小テストを行い，主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）教科書を読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて教科書のどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』 | 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 監修 | 日本能率協会マネジメントセンター | 978-4-8005-9058-9 | 2200円（税込） |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修『2022年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集』日本能率協会マネジメントセンター，2022年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ビジネス実務B | | | 授業番号 | SB212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 社会人として必要なビジネスの知識やスキル（企画・計画の立案，コミュニケーション，情報処理，プレゼンテーション等）を，講義と演習を通して学ぶ。<br>演習は，ロールプレイなどの体験型学習やグループに分かれてディスカッションや発表を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。<br>(2)演習時に，企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施等，指定された手順に沿って，行えるようになること。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリアと仕事へのアプローチ | |
| 第2回 | 会社活動の基本 | |
| 第3回 | 話し方と聞き方のポイント | |
| 第4回 | 接客と営業の進め方 | |
| 第5回 | 不満を信頼に変えるクレーム対応 | |
| 第6回 | 会議とプレゼンテーション | |
| 第7回 | チームワークとネットワーク | |
| 第8回 | ワークショップ | |
| 第9回 | 仕事の進め方 | |
| 第10回 | ビジネス文書の基本・応用 | |
| 第11回 | 統計・データの読み方・まとめ方 | |
| 第12回 | 情報収集とメディア | |
| 第13回 | 会社の数字の読み方（売上・コスト・利益） | |
| 第14回 | ビジネスと法律・税金知識 | |
| 第15回 | 産業と経済の基礎知識 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない） |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める） |
| 定期試験 | 40 | 授業内容の基礎・応用力を評価する |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）。<br>ただし私語は厳禁。 |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容の整理を行う。<br>2）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>3）発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。<br>以上の内容に，週4時間以上の授業外学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ビジネス能力検定ジョブパス２級公式テキスト | 一般財団法人職業教育」キャリア教育財団 | 日本能率協会マネジメントセンター | | 2160円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 実践学修の学び方 | | | 授業番号 | SB213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 生涯を通じて実践学修の連続であると言える。新たな学びを自分のものにする「学び方」を知っていることが，大きな強みになることは間違いない。<br>本授業では，能動的学修技法を学びながら，学生チームで課題研究による提案に取り組み，その結果を振り返って学びを継続する力を養う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実践学修の技法を理解できる。<br>学生チームで実践学修の技法を活用して，課題研究による提案に取り組む学修からチーム学修活動を身につける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 実践学修とは<br>教室や書籍で学べる「形式知」と，体感によってのみ獲得できる「暗黙知」の違いと両者の重要性を理解する。 | |
| 第2回 | 実践学修の学び方<br>学びのサイクルを回転させる手段と重要性を理解する。能動的な思考や行動が実践学修の学びを大きくすることを理解する。 | |
| 第3回 | 能動的学修技法<br>ブレーンストーミング・インタビュー・カード法を体験・理解する。 | |
| 第4回 | 企画<br>「背景・目的の明確化」，「情報収集・分析」，「立案」の流れを理解する。 | |
| 第5回 | 提案書作成と提案方法の基礎<br>事例によりコンセプト決定，ストーリー作成，ドキュメント化の方法を理解する。 | |
| 第6回 | プレゼンテーション<br>企画・提案書のプレゼンテーション技法を理解する。 | |
| 第7回 | 業務マネジメント・チームづくりの基本<br>組織力向上のためのマネジメントのあり方，強いチーム作りに必要なことを理解する。 | |
| 第8回 | 結果の振り返りと課題の明確化<br>内省的観察，抽象的概念化，能動的実験の手段と重要性を理解する。 | |
| 第9回 | 課題研究による提案：チームづくりと企画<br>学生チームにより実施する。 | |
| 第10回 | 課題研究による提案：企画の続き，提案書作成の準備<br>学生チームにより実施する。 | |
| 第11回 | 課題研究による提案：提案書作成<br>学生チームにより実施する。 | |
| 第12回 | 課題研究による提案：提案プレゼン資料作成<br>学生チームにより実施する。 | |
| 第13回 | 課題研究による提案：提案会議（プレゼンテーション）の実践1<br>学生チーム毎にプレゼンテーションを行い，学生による評価も行う | |
| 第14回 | 課題研究による提案：提案会議（プレゼンテーション）の実践2<br>学生チーム毎にプレゼンテーションを行い，学生による評価も行う | |
| 第15回 | 課題研究による提案：振り返りと学びの継続<br>振り返りにより課題を明確にし，改善の検討・学びの継続につなげる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 30 | 授業内容の理解度を判断する。提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 40 | 「課題研究による提案」における成果による。学生による評価も含める。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 実践学習の現場では，与えられたことを与えられた通りにするだけでは気づきを得られない。教員は学生をサポートするが，学びを深めていくのは学生自身の能動的な行動に委ねられる。本授業は実践の前段階の学びであるが，学生たち自身が自分たちで準備し，考えて行動することを期待する。 |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>2）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>3）「課題研究による提案」においては，情報収集・資料作成など必要な準備を行う。<br>4）発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週4時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料を配布する。教科書の指定はないが，実践学修に関する内容について自主的に知見を広めてほしい。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | インターンシップ | | | 授業番号 | SB215 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 選択 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | 就業体験を通して，社会人としての心構え，社会常識，ビジネスマナーなどを身に付け，現代社会における経済活動や企業の仕組みについての理解を深める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 約40時間の就業体験を実施し，その体験を通して，職業人意識の向上や企業への理解を深めることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 第１回　インターンシップの考え方<br>第２回　ビジネスマナー１<br>第３回　ビジネスマナー２<br>第４回　職業心理<br>第５回　企業研究<br>第６回～25回　職業体験実習<br>第26回　プレゼンテーションの方法<br>第27回　実習報告１（グループまたは個別に相互報告・プレゼンテーションを行う）<br>第28回　実習報告２<br>第29回　仕事の意味と目的<br>第30回　まとめ | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | ディスカッションへの参加状況により評価を行う。 |
| レポート | 70 | インターンシップ報告書の提出を行う。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 報告書ならびに報告会での発表をもって最終的に評価を行う。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | インターンシップにより体験した内容を，日々の生活や就職活動に活用し，実践する。<br>以上の内容に，毎週1時間以上の授業外学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業の中で指示する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 情報通信業，公務員(労働局) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | キャリアプランニング | | | 授業番号 | SB216 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾、古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 就職活動のスタート時期に合わせ，情報提供と共に具体的な準備と行動について学ぶ。また本講座では，社会人として必要な常識やマナー，また人生設計を行う上で必要とされる基礎知識や能力の習得も目標とし，自分にあったキャリアプランニングができるように支援する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「なりたい自分」に向け，目標を設定し，トライ＆エラーの実践から「力」をつける。<br>就活スイッチを入れ，「自立」と「挑戦」の気持ちを持って，行動に移す。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリアプランニングの考え方<br>　就活スタートに向けて，就活サイトの活用とセミナー利用法 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第2回 | 一般常識力のアップ | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第3回 | 就職活動サイト<br>　主な就職活動サイト，エントリーシート記入のポイント | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第4回 | ハローワークの活用 | 古谷 俊爾，板野 敬吾，外部講師 |
| 第5回 | 履歴書・自己紹介書 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第6回 | キャリア形成とは<br>　（1）キャリアの理論（2）自分の適性・志向を考えることの意味（3）自分の過去を振り返る | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第7回 | 大学生活とキャリア<br>　（1）キャリアデザインの意味（2）キャリア形成の事例 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第8回 | 社会性とは<br>　（1）なぜ社会性が必要か（2）自分に社会性はあるか（3）事例から学ぶ | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第9回 | コミュニケーション<br>　（1）社会から求められる能力（2）コミュニケーションの重要性（3）事例から学ぶ | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第10回 | 企業が求める能力<br>　（1）社会人基礎力（2）仕事のやりがいの意味（3）企業でのキャリア形成 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第11回 | 人生とキャリア<br>　（1）自分の強みと志向（2）自分にとってのキャリアプラン（3）学生時代の過ごし方 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第12回 | 企業分析データの見方 | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第13回 | 働き方について考える | 古谷 俊爾，板野 敬吾，外部講師 |
| 第14回 | 面接パワーアップ(1)（個人面接） | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 第15回 | 面接パワーアップ(2)（グループ面接，グループディスカッション） | 古谷 俊爾，板野 敬吾 |
| 授業計画　備考2 | 外部講師の都合により順不同です。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，授業外学修の状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 授業で学んだ内容が理解できているか。自己のキャリアプランを真剣に考えているか。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業の予復習・発展学習として，以下のことを週4時間以上行うこと。<br>・毎回の授業で得た知識を就職活動に活用し，実践する。<br>・履歴書・就職活動サイトのエントリーシートを作成する。<br>・就職支援センター主催の就職ガイダンスに参加する。<br>・就職支援センターで自己分析や企業研究を行う。<br>・就職活動サイト等が主催する就職活動セミナーに参加する。<br>・「インターンシップ」授業とは別にインターンシップに参加する。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 古谷：システムエンジニア，板野：公務員（労働局） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 有 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | ハローワーク職員他 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各々の実務経験を生かして，IT業界でのキャリアプラン，就職実務，求人情報の理解，労働者の為の法規，仕事の探し方，外部機関の活用などの内容について指導する。 |

| 科目名 | プレゼンテーション演習A | | | 授業番号 | SB222 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Microsoft社製プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行う。またプレゼンテーションを行う際の特性と留意点，魅せる資料作り等についても学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | コンピュータなどの情報機器が持つ特性を利用し，いかに効果的なプレゼンテーションを行うか，その考え方や技法の習得をめざし，またより高度で実践的な情報リテラシーの習得をめざす。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | PowerPointの基本操作とスライドの作成 | |
| 第2回 | プレゼンテーションの目的・構成・実施と表現技法について | |
| 第3回 | 視覚資料作成のポイント | |
| 第4回 | 図形，画像の挿入と書式設定 | |
| 第5回 | 表とグラフの挿入 | |
| 第6回 | SmartArt，メディアの挿入 | |
| 第7回 | 特殊効果の設定 | |
| 第8回 | 配付資料の作成とスライドショーの設定 | |
| 第9回 | スライド共通デザインを設定 | |
| 第10回 | 他人の作ったプレゼンを読み解き，学ぶ | |
| 第11回 | プレゼンテーション課題(事前調査・構成案) | |
| 第12回 | プレゼンテーション課題(作成) | |
| 第13回 | プレゼンテーション課題(リハーサル) | |
| 第14回 | 課題発表(1) | |
| 第15回 | 課題発表(2)，まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 60 | 期末に課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 情報機器の活用法を中心に扱うため，「プレゼンテーション概論」，「プレゼンテーション演習Ｂ」のうち，どれかを履修していることが望ましい。また演習科目であるため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し自習しておくこと。さらに授業のみでの習得は難しいことから，授業後の復習が非常に重要である。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集 | | FOM出版 | 978-4-86510-440-0 | 2，530 円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『よくわかる自信がつくプレゼンテーション』，FOM出版 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 医療管理事務総論 | | | 授業番号 | SB231 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 医療機関の特徴，医療機関で働く職員の職種とその業務内容，医療の法律，診療報酬制度について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。<br>・医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。<br>・診療報酬制度の基礎について理解できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 医療の歴史，健康管理：医療の歴史を通して健康管理，疾病予防の基礎知識を理解する。 | |
| 第2回 | 病院の組織と医療スタッフ（1）：医師，看護師，コメディカルといった医療従事者の種類，業務内容を理解する。 | |
| 第3回 | 病院の組織と医療スタッフ（2）：医療事務，医療機関における様々な事務職員の業務内容を理解する。 | |
| 第4回 | 医療機関の種類：病院と診療所について，かかりつけ医制度について理解する。 | |
| 第5回 | 多職種連携と地域包括ケアシステム：在宅医療を例に紹介した医療職種の連携，地域包括ケアシステムについて理解する。 | |
| 第6回 | 医療保険制度（1）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった保険の種類について理解する。 | |
| 第7回 | 医療保険制度（2）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった各保険の特徴について理解する。 | |
| 第8回 | 公費負担医療制度：生活保護法，感染症法，精神保健福祉法，労働者災害補償保険法といった法について理解する。 | |
| 第9回 | 保健医療機関と保険医：保健医療を行う保健医療機関と医師，指定や登録，施設基準について理解する。 | |
| 第10回 | 療養担当規則：保険診療の方針と診療録作成，保健医療機関の責務について理解する。 | |
| 第11回 | 診療報酬請求と審査制度（1）：保険診療のしくみ，診療報酬請求と審査制度について理解する。 | |
| 第12回 | 診療報酬請求と審査制度（2）：診療報酬の審査制度について理解する。 | |
| 第13回 | 医療関連法規：医療法，医師法，保健師助産師看護師法，介護保険法について理解する。 | |
| 第14回 | 診療報酬制度（1）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の定義について理解する。 | |
| 第15回 | 診療報酬制度（2）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の算定の流れについて理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。<br>2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。<br>3. 医療に関わる新聞記事を読む。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 保険診療　基本法令テキストブック　医科　令和5年4月版　医療保険制度の概要と関係法令 | 社会保険研究所 | 社会保険研究所 | 978-4-7894-0905-6 | 2，400円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画)　よくわかる 図解 病院の学習書（ロギカ書房）　マンガでやさしくわかる病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.1（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.2（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.3（SCICUS） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関の事務職員として多職種と連携して業務を行ってきた経験を活かして指導する。 |

| 科目名 | 発達と老化の理解 | | | 授業番号 | SB232 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 中野　ひとみ | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講義では，人間の発達段階に応じたこころとからだのしくみを理解する。<br>特に発達の観点から，人間が老化することによって起きる身機能の変化と特徴，成人期以降に発症しやすい生活習慣病をはじめとする代表的な疾患に関する医学的基礎的知識を修得する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について説明できる。<br>(2)人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できる。<br>(3)老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた医療や介護の場で応用実践できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は医療機関や福祉施設での就職を希望する学生への対応科目である。<br>よって，専門的医学知識を学び，患者や利用者の健康とQOL向上を目指すための科目だと心得てほしい。<br>また，本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 人間の成長と発達・ライフサイクルを理解する。 | |
| 第2回 | 老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活を理解する。 | |
| 第3回 | 高齢期に多い症状・訴えとその留意点<br>(1)生理的・身体的機能の低下を理解する。 | |
| 第4回 | 高齢期に多い症状・訴えとその留意点<br>(2)エイジング・慢性疾患を理解する。 | |
| 第5回 | 成人期に多い病気とその日常生活の留意点<br>(1)生活習慣病(糖尿病）を理解する。 | |
| 第6回 | 成人期に多い病気とその日常生活の留意点<br>(2)生活習慣病(高血圧・脂質異常症）を理解する。 | |
| 第7回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(3)骨・関節系の病気，歯・口腔の病気を理解する。 | |
| 第8回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(4)眼の病気。耳の病気を理解する。 | |
| 第9回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(5)皮膚の病気，呼吸器の病気を理解する。 | |
| 第10回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(6)腎・泌尿器の病気を理解する。 | |
| 第11回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(7)消化器系疾患，循環器系疾患を理解する。 | |
| 第12回 | 成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点<br>(8)神経疾患，感染症を理解する。 | |
| 第13回 | 第3回～12回までの各疾患に対する総合的まとめを行う。 | |
| 第14回 | 保健医療チームとの連携<br>(1)保健医療職との連携のポイントについて理解する。 | |
| 第15回 | 保健医療チームとの連携<br>(2)保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめを行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。 |
| レポート | 10 | 課題やレポートにコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 10 | 各回の主要ポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | 60 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | 本講義は講義形式を中心として進めていきます。<br>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。<br>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。<br>・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。<br>・難解な医療専門用語が講義中に多く出てきます。テキストには必ず眼を通しておいてください。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2.復習として，課題のレポートを書く。<br>3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。<br>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。<br>本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解 | 秋山昌江ほか | 中央法規出版 | 978-4-8058-5772-4 | 2200円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。<br>自分自身の将来のため，目的意識を持って受講するように努めてください。 |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師） 市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員） |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療現場や福祉施設での経験を活かして，医療的知識や技術を指導する。 |

| 科目名 | 診療報酬請求事務Ⅰ | | | 授業番号 | SB233 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習I」も履修すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬制度の仕組みが理解できる。<br>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法をさらに深めて理解する。 | |
| 第2回 | 医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について理解する。 | |
| 第3回 | 投薬料（1）：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について理解する。 | |
| 第4回 | 投薬料（2）：特定疾患処方管理加算，麻毒加算が入った投薬料の算定方法について理解する。 | |
| 第5回 | 注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について理解する。 | |
| 第6回 | 外来レセプト作成説明（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第7回 | 検査料(1)検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について理解する。 | |
| 第8回 | 検査料(2)検体検査（生化学，免疫学）：検体検査の生化学的検査，免疫学的検査の算定方法について理解する。 | |
| 第9回 | 検査料(3)生体検査：心電図，超音波検査といった生体検査の算定方法について理解する。 | |
| 第10回 | 画像診断料：X-P，CT，MRIの画像診断の算定方法について理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成説明（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第12回 | 処置料，手術料：処置と手術の算定方法について理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成説明（3）：処置，手術の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。 | |
| 第14回 | 院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療報酬・完全攻略マニュアル 2023年4月補訂版 | 青山 美智子 | 医学通信社 | 978-4-87058-922-3 | 2，800円 + 税 |
| 診療報酬・完全マスタードリル 2023年版 | 内芝 修子 | 医学通信社 | 978-4-87058-915-5 | 1，200円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 診療点数早見表(医学通信社) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能を指導する。 |

| 科目名 | 診療報酬請求事務演習Ⅰ | | | 授業番号 | SB234 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 仁宮　崇 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務I」も履修すること。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・診療報酬制度の仕組みが理解できる。<br>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法について演習問題を解きながらさらに深めて理解する。 | |
| 第2回 | 医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第3回 | 投薬料（1）：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第4回 | 投薬料（2）：特定疾患処方管理加算，麻毒加算が入った投薬料の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第5回 | 注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第6回 | 外来レセプト作成演習（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第7回 | 検査料(1)検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第8回 | 検査料(2)検体検査（生化学，免疫学）：検体検査の生化学的検査，免疫学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第9回 | 検査料(3)生体検査：心電図，超音波検査といった生体検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第10回 | 画像診断料：X-P，CT，MRIの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第11回 | 外来レセプト作成演習（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第12回 | 処置料，手術料：処置と手術の算定方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第13回 | 外来レセプト作成演習（3）：処置，手術の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第14回 | 院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて演習問題を解きながら理解する。 | |
| 第15回 | 外来レセプト作成演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 診療報酬・完全攻略マニュアル 2023年4月補訂版 | 青山 美智子 | 医学通信社 | 978-4-87058-922-3 | 2，800円 + 税 |
| 診療報酬・完全マスタードリル 2023年版 | 内芝 修子 | 医学通信社 | 978-4-87058-915-5 | 1，200円 + 税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講義資料 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 診療点数早見表(医学通信社) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 病院事務 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 診療報酬算定の知識と技能を指導する。 |

| 科目名 | ビジネス実務演習Ｂ | | | 授業番号 | SB312 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 挨拶，ビジネス文章，などを含みビジネスの基本は本当に幅広い。社会人・職業人として必要な知識を修得し，即戦力となれるよう本講義では実務においてあなたが必要になってくることを学ぶ。受講者は必要な実務において不可欠な知識を把握できるともに，その知識をさらに伸ばすことができる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・実務において求められる知識や問題解決力は何かを説明できる。<br>・問題発見と解決の重要性を説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | キャリアと仕事へのアプローチ，会社活動の基本(1) | |
| 第2回 | キャリアと仕事へのアプローチ，会社活動の基本(2) | |
| 第3回 | 話し方と聞き方のポイント，接客と営業の進め方，不満を信頼に変えるクレーム対応(1) | |
| 第4回 | 話し方と聞き方のポイント，接客と営業の進め方，不満を信頼に変えるクレーム対応(2) | |
| 第5回 | 会議への出席とプレゼンテーション，チームワークと人のネットワーク，仕事の進め方(1) | |
| 第6回 | 会議への出席とプレゼンテーション，チームワークと人のネットワーク，仕事の進め方(2) | |
| 第7回 | ビジネス文書の基本，統計・データの読み方・まとめ方，情報収集とメディアの活用(1) | |
| 第8回 | ビジネス文書の基本，統計・データの読み方・まとめ方，情報収集とメディアの活用(2) | |
| 第9回 | 財務・数字の読み方(1) | |
| 第10回 | 財務・数字の読み方(2) | |
| 第11回 | 財務・数字の読み方(3) | |
| 第12回 | ビジネスと法律・税金の知識(1) | |
| 第13回 | ビジネスと法律・税金の知識(2) | |
| 第14回 | 産業と経済の基礎知識(1) | |
| 第15回 | 産業と経済の基礎知識(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元ごとに小テストを行い，主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）教科書を読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて教科書のどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 2023年度ビジネス能力検定ジョブパス２級公式テキスト | 一般財団法人職業教育キャリア教育財団 | 日本能率協会マネジメントセンター | 978-4-8005-9059-6 | 2200(税込) |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団『2022年版　ビジネス能力検定ジョブパス2級公式試験問題集』日本能率協会マネジメントセンター。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域創生学 | | | 授業番号 | SB313 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広義的あるいは簡潔に言うと，地域社会の再生と創造に向けての知識，理論，実践の方法を学ぶ科目である。全般的な現状と課題についてはこちらで解説するが，その中で指摘される課題は，「起業」や「創業」が頻繁に生じないと解決することが難しいのも事実である。「起業したい」，「お店を持ちたい」との学生が一定層存在することもあいまって，ビジネス・プラン(事業計画書)が作成できるような知識やスキルが修得できるように授業を展開する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・地域社会の現状と課題を客観的に説明できる。<br>・ビジネス・プラン(事業計画書)にいかなる記述が必要であるかを説明できる。<br>・収支見込を計算できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 地域の抱える課題と地域活性化(1) | |
| 第2回 | 地域の抱える課題と地域活性化(2) | |
| 第3回 | 起業・創業の現状と課題(1) | |
| 第4回 | 起業・創業の現状と課題(2) | |
| 第5回 | 開業資金の額とその調達先(1)：自己資本，日本政策金融公庫，銀行や信用金庫など金融機関，補助金や助成金，クラウドファンディング，など | |
| 第6回 | 開業資金の額とその調達先(2)：自己資本，日本政策金融公庫，銀行や信用金庫など金融機関，補助金や助成金，クラウドファンディング，など | |
| 第7回 | 「ビジネス・プラン(事業計画書)」の特徴・構造(1)：サンプルを中心にして | |
| 第8回 | 「ビジネス・プラン(事業計画書)」の特徴・構造(2)：サンプルを中心にして | |
| 第9回 | 売上(高)，費用，利益の計算(1)：損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書，など | |
| 第10回 | 売上(高)，費用，利益の計算(2)：損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書，など | |
| 第11回 | 売上(高)，費用，利益の計算(3)：損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書，など | |
| 第12回 | 回転率，売上高○○利益率の計算(1) | |
| 第13回 | 回転率，売上高○○利益率の計算(2) | |
| 第14回 | 損益分岐点の計算(1) | |
| 第15回 | 損益分岐点の計算(2) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 松岡孝敬『地域再生企業-地域を輝かせる企業とそのあり方』大学教育出版，2022年。<br>石井真人『夢をかなえる! 使える事業計画書のつくり方』ビジネス教育出版社，2022年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 地域創生学 | | | 授業番号 | SB314 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日本は世界においても類を見ない速さで高齢化社会となった。その結果起こる東京一極集中を是正し，地方の人口減少に歯止めをかけ，日本全体の活力を上げることを目的とした様々な地域創生への取り組みについて，またその前提となる地域の現状の把握方法や人口減少社会に特徴的な現象，地域の活性化策などについて事例を交えて学習する授業である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目は，身近なところで起こっている人口減少を含めた社会の種々の縮小現象について，その具体的な姿と対応策について事例を通して認識を深める。また，地域の現状を把握するためのデータ分析の基礎知識，および国の地域政策の枠組みを理解する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業の概要および地域創生の社会的背景 | |
| 第2回 | 少子高齢化の現状と予測 | |
| 第3回 | ＲＥＳＡＳの操作編 | |
| 第4回 | ＲＥＳＡＳの活用編 | |
| 第5回 | 地方創生事業の事例（1） | |
| 第6回 | 地方創生事業の事例（2） | |
| 第7回 | 地方創生事業の事例（3） | |
| 第8回 | 地方創生事業の事例（4） | |
| 第9回 | 戦略から学ぶ | |
| 第10回 | 自治体政策から学ぶ | |
| 第11回 | フィールドワークの準備（1） | |
| 第12回 | フィールドワーク（2） | |
| 第13回 | フィールドワークのまとめ（3） | |
| 第14回 | 発表 | |
| 第15回 | ディベート | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 出席回数および，授業中の質問に対する回答。 |
| レポート | 50 | 授業内容に関係したテーマに関するレポートの構成力，説明・表現力，データ収集力。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 30 | フィールドワーク取り組み・発表での積極性で計る。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業では適宜資料を配布するが，それは自前で資料から意味を理解・解釈し，説明する態度を養うためである。 |
| 授業外学修 | 授業中に紹介する用語，概念についてインターネットから利用できる関連情報および参考文献などを参照して，理解を深める。授業中に紹介する次回の授業で取り上げる主なトピックスについて，事前に調べておく。以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業のなかで適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | プレゼンテーション演習Ｂ | | | 授業番号 | SB322 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | プレゼンテーション概論で学んだ理論・知識を基本とし，課題を実践することにより，修得した知識を具体的な技術として定着させる。<br>講義の中では，ストーリー展開やビジュアル化の方法について，プレゼンテーションを必要とする場面ごとに適切な方法を考え，効率的な伝達方法を検討してみる。また，数値データについては簡単な加工を行い，さらに分析を行うことで効果的な訴求方法を試みる。<br>プレゼンテーション資料の作成に関し，シチュエーションに即した表現方法・視覚化・文字表現等を踏まえ，効果的なレイアウトについても考える。<br>基本的な授業の進め方としては，課題ごとにプレゼンテーション資料の作成を行い，その作業の中で知識と技法を確認しながら課題を完成することで，プレゼンテーションの技術を定着させることとする。<br>なお，本講義は原則として，プレゼンテーション概論を履修したものを対象者とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報伝達が必要となる様々な場面を想定し，それぞれの場面において適切かつ効果的なプレゼンテーションの技法を習得する。日常生活を含め，様々な場面に応じた適切なプレゼンテーションの技法を活用できるようになることを目標とする。<br>本科目はプレゼンテーション実務士資格の選択必修科目であり，最終的にビジネスの実務において基本的なコミュニケーションが図れようにすることが目標である。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | プレゼンテーションとは何か | |
| 第2回 | 自己の棚卸（タナオロシ）と自己アピールの方法 | |
| 第3回 | 口頭による説明とそのポイント | |
| 第4回 | 文字データの表現方法 | |
| 第5回 | メールによるコミュニケーション方法 | |
| 第6回 | レジュメの作成 | |
| 第7回 | 議事録の作成 | |
| 第8回 | 報告の作成とそのポイント | |
| 第9回 | 表とグラフ（数値データの扱い方） | |
| 第10回 | 数値データの加工 | |
| 第11回 | 数値の分析とビジュアル化の基礎 | |
| 第12回 | 客観的データとプレゼンターの主観 | |
| 第13回 | ビジュアルを含んだ報告の作成 | |
| 第14回 | 企画・提案の内容と具体例 | |
| 第15回 | パワーポイントによる表現 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。 |
| レポート | 60 | 課題を作成する場合は，説明内容に即して的確に完成していること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 20 | 最終課題の完成度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 事前に書籍等でプレゼンテーションの概要及びの技法について確認しておくこと。事後学習（復習）については必ず行い，授業で得た知識や技術を身につけるよう心がけること。 |
| 授業外学修 | プレゼンテーション概論履修者は，あらかじめ概論で学んだ内容を確認しておくこと。また，適宜プレゼンテーションに関する書籍等を講読し，知識の維持及び修得を図っておくこと。<br>週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 教科書は使用しない。<br>授業においては，適宜資料を配布し使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる 自信がつくビジネス文書 | | FOM出版 | 9784893118738 | 1700 |
| よくわかる 自信がつくプレゼンテーション | | FOM出版 | 9784865103427 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業中に適宜発表する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 情報通信業，公務員(労働局) |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 顧客対応，企画提案等の経験をフィードバックすることにより，授業内容の理解を深めるとともに実践的知識を習得していく。 |

| 科目名 | 情報処理論 | | | 授業番号 | SC111 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，パソコンのハードウェア，ソフトウェアの基礎知識，ならびにそれらの適切な利用（ネットワーク・マルチメディア・情報セキュリティ関連）に関する基礎知識について説明する。更に当該分野の情報処理技術者試験における過去問題により知識を深める。<br>ITパスポート試験の「テクノロジ系」分野を念頭において授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも深く関わる内容である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. コンピュータ技術の基礎理論を身につける。<br>2. アルゴリズムとプログラミングの基礎知識を身につける。<br>3. コンピュータ構成要素の基礎知識を身につける。<br>4. システム構成要素の基礎知識を身につける。<br>5. ソフトウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。<br>6. ハードウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 数と表現<br>コンピュータで扱う数値の（基数による）表現を，2進数を中心に8，16進数についても理解する。 | |
| 第2回 | 基数変換<br>基数を変換する方法を理解する。<br>2進数，8進数，10進数，16進数を相互に変換する方法を理解する。 | |
| 第3回 | 符号付き2進数，2進数の加減算，集合<br>負の2進数の表現方法，2進数の加算や減算，表現可能な数値の範囲を理解する。<br>集合と論理演算の関係を理解する。 | |
| 第4回 | 応用数学<br>確率の基本（順列，組み合わせ，確率）を理解する。<br>統計（データの代表値，データの散布度，正規分布）の基本的な考え方を理解する。 | |
| 第5回 | 情報量の単位とデジタル化，AI<br>情報量の表し方（ビットとバイト，情報量の単位，処理速度の単位）を理解する。<br>デジタル化の考え方や文字の表現について理解する。<br>AI技術（機械学習，ディープラーニング）を知る。 | |
| 第6回 | プログラミングとデータ構造<br>プログラミングの目的，データ構造（変数，フィールドタイプ，配列，リスト，スタックとキュー，木構造）の基本的な考え方を理解する。 | |
| 第7回 | アルゴリズムとプログラム言語<br>流れ図（フローチャート）による表現方法を理解する。<br>アルゴリズム（合計，探索，併合，整列）の基本的な考え方と，プログラミング言語の種類・特徴を理解する。 | |
| 第8回 | ハードウェアの仕組み１（CPU，メモリ，記録媒体）<br>コンピュータを構成する基本的な構成要素を理解する。プロセッサの基本的な仕組み，機能及び性能の考え方を理解する。メモリの種類と特徴を理解する。記録媒体の種類と特徴を理解する。 | |
| 第9回 | ハードウェアの仕組み２（入出力インタフェース）<br>入出力インタフェースの種類（有線，無線）の特徴を理解する。<br>データ転送方式（シリアル，パラレル）の特徴を理解する。 | |
| 第10回 | ハードウェアの仕組み３（IoT，デバイスドライバ），システムの構成<br>IoTシステムにおけるIoTデバイスの役割や構成要素，特徴を理解する。デバイスドライバとプラグアンドプレイの機能を理解する。システム構成の基本的な特徴を理解する。 | |
| 第11回 | システムの評価指標<br>システムの性能，信頼性，経済性を測るための評価指標（レスポンス，ターンアラウンドタイム，稼働率，TCO）について理解する。 | |
| 第12回 | ソフトウェアの仕組み1<br>オペレーティングシステム(OS)の必要性，機能，種類を理解する。ファイル管理の考え方を理解する。バックアップの基本的な考え方を理解する。 | |
| 第13回 | ソフトウェアの仕組み2，ハードウェア<br>オフィスツールなどのソフトウェアパッケージの特徴と基本操作を理解する。オープンソースソフトウェアの特徴を理解する。<br>コンピュータの種類と特徴を理解する。入出力装置の種類と特徴を理解する。 | |
| 第14回 | マルチメディアとインターネット<br>コンピュータ上で文字，音声，画像などの情報を統合的に扱えることを理解する。インターネット上で利用される様々なサービスの特徴と利用に関する留意点を理解する。 | |
| 第15回 | セキュリティ，モバイルデバイスの普及，著作権<br>脅威と脆弱性，サイバー犯罪の事例，著作権，BYOD，公衆無線LANについて理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | テキスト・過去問題の内容が正しく理解できているかによって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報関連の授業の基礎となる重要な授業であるため，興味を持って受講していただきたい。<br>2. ITパスポート試験は全ての社会人向けの「ITを利活用するための共通的基礎知識」を問う資格であり，近年では就職活動の為に学生が取得するケースも増えている。本講義をきっかけに資格取得を目指してもらいたい。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。<br>復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。<br>予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター　令和4-5年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集 | FOM出版 | FOM出版 | 978-4-938927-42-4 | 2420円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | このテキストは，2年間にわたって複数の授業(「通信ネットワーク論」，「コンピュータ科学」，「ITパスポート特別○○」など)で使用する予定なので，この授業が終わっても保管しておくこと。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | Webサイト：「ITパスポート試験」情報処理推進機構(IPA)（ https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/ ）<br>Webサイト：「ITパスポート試験ドットコム」（ https://www.itpassportsiken.com/ ） |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | コンピュータ，情報システムおよび情報通信技術の仕組み・活用・留意点を指導する。 |

| 科目名 | 情報処理演習 1クラス | | | 授業番号 | SC112A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，本学科で2年間の授業で必要なパソコン利用技術の基礎演習を行う。<br>具体的には，Windows（入力・ファイル操作ほか），Webブラウジング，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツール(オフィスソフト，電子メール，LMS，CMSなど)の演習により，データの収集・作成・共有・発信技術を正しく活用できるよう学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Windows OS，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツールの利用技術を修得し，それらを正しくかつ有効に活用できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理演習室の利用<br>情報処理演習室の利用方法について，ファイルの保存に関する留意点，印刷するときの留意点，特にインターネット利用におけるセキュリティ上の留意点を理解する。 | |
| 第2回 | Windowsの基本操作<br>タッチタイプ（キーボードを見ないで入力する打ち方）をフリーソフトMIKATYPEを使用して演習する。その他，Windowsの操作の基本を演習する。 | |
| 第3回 | Windowsのプレインストールソフトの利用<br>Windowsにはじめからインストールされているソフトウェア（電卓・ペイントなど）の便利さを理解し，Windowsソフトの操作方法を会得する。 | |
| 第4回 | Windowsのファイル操作<br>Windowsファイルシステムを理解し，ファイルのコピー・移動・削除の演習を行う。ファイルやフォルダを圧縮および展開する演習を行う。 | |
| 第5回 | Google Workspaceの基本操作1<br>Gmailにより，宛先指定の違い(To，CC，BCC)，署名，添付ファイルなど，基本的な電子メールの仕組みと使い方を学ぶ。Chat，Spacesサービスを理解する。 | |
| 第6回 | Google Workspaceの基本操作2<br>Classroomの基本操作を理解し，ロールプレイングによりストリームの相互コミュニケーション機能や課題提出の方法を学ぶ。 | |
| 第7回 | Google Workspaceの基本操作3<br>GoogleDriveの基本操作を学ぶ，Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドといったオフィスツールの基本操作を学ぶ。 | |
| 第8回 | Google Workspaceの基本操作4<br>Googleフォームの基本機能を理解し，フォームを作成して情報を取得できるようになる。 | |
| 第9回 | Google Workspaceの基本操作5<br>Googleサイトの基本機能を理解し，自身で部品を配置して実際にWebページを作成する演習を行う。 | |
| 第10回 | Microsoft365，Office365(1)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第11回 | Microsoft365，Office365(2)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第12回 | Microsoft365，Office365(3)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第13回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）1<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 第14回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）2<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 第15回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）3<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 作品，自作マニュアルなどの出来栄えにより評価する。授業内で総評することによりフィードバックする。更に細かなフィードバックを希望する場合は個別に担当教員へ問い合わせる。 |
| 小テスト | 30 | タッチタイピング，ファイル操作などが速やかに正しく行えるかにより評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 本授業内容の習熟は，短大で授業を受ける期間すべてに影響を与えるので，しっかりと利用技術を身につけるべく学修に励んでもらいたい。<br>2. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | １）予習が必要な際には，事前に指示する（本授業では，予習よりも復習を大切に考えている）。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い理解を深める。また，繰り返し復習することにより学んだことの定着をはかる。<br>３）発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | システム設計，ソフトウェア開発の経験を活かして分かりやすくしくみや使い方を解説する。 |

| 科目名 | 情報処理演習 2クラス | | | 授業番号 | SC112B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，本学科で2年間の授業で必要なパソコン利用技術の基礎演習を行う。<br>具体的には，Windows（入力・ファイル操作ほか），Webブラウジング，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツール(オフィスソフト，電子メール，LMS，CMSなど)の演習により，データの収集・作成・共有・発信技術を正しく活用できるよう学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Windows OS，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツールの利用技術を修得し，それらを正しくかつ有効に活用できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報処理演習室の利用<br>情報処理演習室の利用方法について，ファイルの保存に関する留意点，印刷するときの留意点，特にインターネット利用におけるセキュリティ上の留意点を理解する。 | |
| 第2回 | Windowsの基本操作<br>タッチタイプ（キーボードを見ないで入力する打ち方）をフリーソフトMIKATYPEを使用して演習する。その他，Windowsの操作の基本を演習する。 | |
| 第3回 | Windowsのプレインストールソフトの利用<br>Windowsにはじめからインストールされているソフトウェア（電卓・ペイントなど）の便利さを理解し，Windowsソフトの操作方法を会得する。 | |
| 第4回 | Windowsのファイル操作<br>Windowsファイルシステムを理解し，ファイルのコピー・移動・削除の演習を行う。ファイルやフォルダを圧縮および展開する演習を行う。 | |
| 第5回 | Google Workspaceの基本操作1<br>Gmailにより，宛先指定の違い(To，CC，BCC)，署名，添付ファイルなど，基本的な電子メールの仕組みと使い方を学ぶ。Chat，Spacesサービスを理解する。 | |
| 第6回 | Google Workspaceの基本操作2<br>Classroomの基本操作を理解し，ロールプレイングによりストリームの相互コミュニケーション機能や課題提出の方法を学ぶ。 | |
| 第7回 | Google Workspaceの基本操作3<br>GoogleDriveの基本操作を学ぶ，Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドといったオフィスツールの基本操作を学ぶ。 | |
| 第8回 | Google Workspaceの基本操作4<br>Googleフォームの基本機能を理解し，フォームを作成して情報を取得できるようになる。 | |
| 第9回 | Google Workspaceの基本操作5<br>Googleサイトの基本機能を理解し，自身で部品を配置して実際にWebページを作成する演習を行う。 | |
| 第10回 | Microsoft365，Office365(1)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第11回 | Microsoft365，Office365(2)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第12回 | Microsoft365，Office365(3)<br>Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。 | |
| 第13回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）1<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 第14回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）2<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 第15回 | UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）3<br>コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | 作品，自作マニュアルなどの出来栄えにより評価する。授業内で総評することによりフィードバックする。更に細かなフィードバックを希望する場合は個別に担当教員へ問い合わせる。 |
| 小テスト | 30 | タッチタイピング，ファイル操作などが速やかに正しく行えるかにより評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 本授業内容の習熟は，短大で授業を受ける期間すべてに影響を与えるので，しっかりと利用技術を身につけるべく学修に励んでもらいたい。<br>2. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | １）予習が必要な際には，事前に指示する（本授業では，予習よりも復習を大切に考えている）。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い理解を深める。また，繰り返し復習することにより学んだことの定着をはかる。<br>３）発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | システム設計，ソフトウェア開発の経験を活かして分かりやすくしくみや使い方を解説する。 |

| 科目名 | 文書処理 1クラス | | | 授業番号 | SC121A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word 」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習として日本商工会議所PC検定模擬試験用の問題に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 文書処理ソフト「Microsoft Word 2019」の活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 文字入力の基本・ビジネス文書 | |
| 第2回 | ビジネス文書のライティング技術I・ビジネス文書のライティング技術II | |
| 第3回 | 電子メールのライティング技術I・図解技術 | |
| 第4回 | ビジネス文書の管理・表のあるビジネス文書の作成 | |
| 第5回 | 図形のあるビジネス文書の作成・総合演習１（模擬試験） | |
| 第6回 | 総合演習１（模擬試験の解答と解説）・総合演習２（模擬試験） | |
| 第7回 | 総合演習２（模擬試験の解答と解説）・総合演習３（模擬試験） | |
| 第8回 | 総合演習３（模擬試験の解答と解説）・まとめ | |
| 第9回 | 小テスト（3級レベル） | |
| 第10回 | タイピング・ビジネス文書・ビジネス文書のライティング技術 | |
| 第11回 | ビジュアル表現・図解技術 | |
| 第12回 | 分かりやすいビジネス文書の作成 | |
| 第13回 | 図形を組み合わせた図形の作成・総合練習1（模擬問題） | |
| 第14回 | 総合練習2（模擬問題）・総合練習３（模擬問題） | |
| 第15回 | 小テスト（2級レベル） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 授業内容が正しく理解できているかによって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 日本商工会議所PC検定(1.2.3級）合格者は評価に加える。 |
| 受講の心得 | ビジネス実務必須分野であるため実技・知識ともに理解できるまで学習すること。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br>3 正しい指使いでタッチタイピングの練習を行う。目標は１０分間に１０００タッチとする。<br>4 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 補助教材のみ希望 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 実務において資格取得は企業側から求められる場合もありうる。自己研鑽に3・2・1級の資格取得を勧める。 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 文書処理 2クラス | | | 授業番号 | SC121B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word 」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習として日本商工会議所PC検定模擬試験用の問題に取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 文書処理ソフト「Microsoft Word 2019」の活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 文字入力の基本・ビジネス文書 | |
| 第2回 | ビジネス文書のライティング技術I・ビジネス文書のライティング技術II | |
| 第3回 | 電子メールのライティング技術I・図解技術 | |
| 第4回 | ビジネス文書の管理・表のあるビジネス文書の作成 | |
| 第5回 | 図形のあるビジネス文書の作成・総合演習１（模擬試験） | |
| 第6回 | 総合演習１（模擬試験の解答と解説）・総合演習２（模擬試験） | |
| 第7回 | 総合演習２（模擬試験の解答と解説）・総合演習３（模擬試験） | |
| 第8回 | 総合演習３（模擬試験の解答と解説）・まとめ | |
| 第9回 | 小テスト（3級レベル） | |
| 第10回 | タイピング・ビジネス文書・ビジネス文書のライティング技術 | |
| 第11回 | ビジュアル表現・図解技術 | |
| 第12回 | 分かりやすいビジネス文書の作成 | |
| 第13回 | 図形を組み合わせた図形の作成・総合練習1（模擬問題） | |
| 第14回 | 総合練習2（模擬問題）・総合練習３（模擬問題） | |
| 第15回 | 小テスト（2級レベル） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 授業内容が正しく理解できているかによって評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 日本商工会議所PC検定(1.2.3級）合格者は評価に加える。 |
| 受講の心得 | ビジネス実務必須分野であるため実技・知識ともに理解できるまで学習すること。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br>3 正しい指使いでタッチタイピングの練習を行う。目標は１０分間に１０００タッチとする。<br>4 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 補助教材のみ希望 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | 実務において資格取得は企業側から求められる場合もありうる。自己研鑽に3・2・1級の資格取得を勧める。 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ビジネスコンピューティング A 1クラス | | | 授業番号 | SC122A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井 安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 2019模擬試験用の問題に取り組む。<br>なお，本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育教会認定資格）の必修科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データの入力 | |
| 第2回 | 表の作成 | |
| 第3回 | レイアウトの設定 | |
| 第4回 | テーブルの作成 | |
| 第5回 | 数式や関数（データ集計） | |
| 第6回 | 数式や関数（条件付きの計算を実行） | |
| 第7回 | 数式や関数（書式設定・文字列の変更） | |
| 第8回 | データベースの利用 | |
| 第9回 | オブジェクトの作成 | |
| 第10回 | グラフの作成 | |
| 第11回 | 総合演習１（模擬試験） | |
| 第12回 | 総合演習２（模擬試験） | |
| 第13回 | 総合演習３（模擬試験） | |
| 第14回 | 総合演習４（模擬試験） | |
| 第15回 | 総合演習５（模擬試験） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | MOS Excel合格者は評価に加える。 |
| 受講の心得 | 情報フィールド（オフィス利用技術）の導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。<br>また，情報フィールド（データ分析ユニット）および経営／ビジネスフィールド（医療事務ユニット）にも関係している。また複数の資格にも関連していることも頭に入れておくこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br>3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| MOS Microsoft Excel 2019 対策テキスト& 問題集 | FOM | FOM | | 2，000円+税 |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | ビジネスコンピューティング A 2クラス | | | 授業番号 | SC122B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井 安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 2019模擬試験用の問題に取り組む。<br>なお，本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育教会認定資格）の必修科目である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データの入力 | |
| 第2回 | 表の作成 | |
| 第3回 | レイアウトの設定 | |
| 第4回 | テーブルの作成 | |
| 第5回 | 数式や関数（データ集計） | |
| 第6回 | 数式や関数（条件付きの計算を実行） | |
| 第7回 | 数式や関数（書式設定・文字列の変更） | |
| 第8回 | データベースの利用 | |
| 第9回 | オブジェクトの作成 | |
| 第10回 | グラフの作成 | |
| 第11回 | 総合演習１（模擬試験） | |
| 第12回 | 総合演習２（模擬試験） | |
| 第13回 | 総合演習３（模擬試験） | |
| 第14回 | 総合演習４（模擬試験） | |
| 第15回 | 総合演習５（模擬試験） | |
| 授業計画 備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | MOS Excel合格者は評価に加える。 |
| 受講の心得 | 情報フィールド（オフィス利用技術）の導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。<br>また，情報フィールド（データ分析ユニット）および経営／ビジネスフィールド（医療事務ユニット）にも関係している。また複数の資格にも関連していることも頭に入れておくこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br>3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| MOS Microsoft Excel 2019 対策テキスト& 問題集 | FOM | FOM | | 2，000円+税 |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | プログラミング概論 | | | 授業番号 | SC131 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | プログラミングは，現代の社会で必要なスキルである「アイデアを形にする能力」や「複雑な問題に立ち向かう方策を自分で考え，それを実際に試して期待どおりの結果にならなければ何度でもやり直して問題を解決する能力」を身につけることができる為，将来の職業と関係無く学ぶことが推奨されている。本科目はプログラミング入門と位置づけプログラミングの概念を講義と演習をとおして明らかにする。<br>ビジュアルプログラミング言語（命令ブロックをドラッグ＆ドロップといった簡単な操作でプログラミングが可能な言語）であるGoogle BlocklyとMIT Scratchを使用してゲーム制作も題材に取り入れながら学んだ後，本格的な開発言語であるPythonに触れる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | プログラミングの概念の根幹である「実現したいことを処理のステップに分けること」が可能になり，自分のアイデアをプログラミングで実現できるようになる。具体的には基本的な次のことを身につける。<br>1.ビジュアルプログラミングにおける知識<br>2.テキストプログラミングにおける知識<br>3.プログラムの作成能力<br>4.プログラムによるアイデアの実現能力<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | プログラミング概説<br>ビジュアルプログラミング言語(Blockly Games)で，はじめてのプログラミングを体験する。<br>予習：Blockly Gamesについて様々なWebサイト記事を参照，復習：Blockly Games | |
| 第2回 | Blockly Games(迷路)<br>迷路をスタート地点からゴール地点まで，どのような処理の手順でたどり着けるかを学ぶ。<br>予・復習：Blockly Games | |
| 第3回 | Scratch(1)<br>更に高度なことができるMITが開発したビジュアルプログラミング言語環境「Scratch」を紹介する。<br>シューティングゲームの作成例をもとに，キーボード操作・アニメーション・繰り返し・条件分岐・音に関するプログラミング技術を学ぶ。 | |
| 第4回 | Scratch(2)<br>シューティングゲームの作成例をもとに，変数・乱数・マルチスレッド・メッセージ・イベントに関するプログラミング技術を学ぶ。 | |
| 第5回 | Scratch(3)<br>自ら学ぶ為に必要なこと（他人のコードを読み解き利用する）を学ぶ。<br>オリジナル作品制作課題について説明する。 | |
| 第6回 | Python:プログラミングとは<br>インタプリタとコンパイラ言語の違い，各種のプログラミング言語と特徴を理解する。 | |
| 第7回 | Python:プログラムの作り方<br>プログラムの構造，フローチャート，アルゴリズムについて理解する。 | |
| 第8回 | Python:順次実行<br>Python言語開発環境(Visual Studio Code)を準備する。<br>プログラムの最も基本的な構造である順次実行，変数，キーボードからの入力，四則演算子について理解する。 | |
| 第9回 | Python:順次実行の演習<br>順次実行の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第10回 | Python:選択処理<br>プログラムの2つ目の構造である条件分岐（選択処理）を理解する。比較演算子，if～elif～else文を正しく理解する。 | |
| 第11回 | Python:選択処理の演習<br>選択処理の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第12回 | Python:繰り返し（for）<br>プログラムの3つ目の構造である繰り返し処理のうち，for文を理解する。range関数についても理解を深める。 | |
| 第13回 | Python:繰り返し（while）<br>プログラムの3つ目の構造である繰り返し処理のうち，while文を理解する。ループを制御するcontinueおよびbrake命令についても理解を深める。 | |
| 第14回 | Python:繰り返しの演習<br>繰り返しの回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第15回 | Python:総合的な問題演習<br>本授業で解説したPython言語の内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 30 | 指示した処理を制限時間内に実現できるかによって評価する。 |
| その他 | 40 | 作品制作（学んだ内容が十分に活かせているか，作品のドキュメントがきちんと整備されているか） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（プログラミング）の入門レベル科目であるが，当然ながら十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。<br>2. プログラミングに関わる授業全般に言えるが，解答を待つ・写すでは得るものはほとんど無く受講する意味が無い。自らアイデアを練り自ら問題に立ち向かう姿勢が要求される。<br>3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として授業にかかわる内容（資料が必要な場合は事前に配布する）をプログラミング環境で実際にさわってみて疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として授業で扱った内容を参考資料を見ずにプログラミングできるようにする。<br>3. 発展学修として，インターネット上の公開されている作品・チュートリアルを参照して技法を学び，それらを活用して自分のアイデアでプログラムを作る。<br>4. オリジナル作品の制作時期は予・復習をその制作にあてる。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | Google BlocklyとMIT Scratchについては，適宜資料配布やWebサイト紹介を行う。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| プログラムのつくりかた Python入門編 Lv.0 | 榎本竜二 | 実教出版(株) | 978-4-407-35254-2 | 990円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | プログラミング的思考およびソフトウェア制作の指導を行う。 |

| 科目名 | 通信ネットワーク論 | | | 授業番号 | SC213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 通信ネットワークに関わる，ヒューマンインタフェースの特徴やマルチメディア技術の特徴，データベース設計やネットワークの知識，セキュリティ対策などについて解説します。<br>ITパスポート試験の技術要素分野を念頭に置いて，問題演習も取り入れながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 情報デザインの知識を身につける。<br>2. 情報メディアの知識を身につける。<br>3. データベースの知識を身につける。<br>4. ネットワークの知識を身につける。<br>5. セキュリティの知識を身につける。<br>6. 表計算の知識を身につける。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 情報デザイン<br>情報を可視化し，構造化して，構成する要素間の関係を分かりやすく整理する考え方（Webデザイン，ユニバーサルデザイン）を理解する。<br>ヒューマンインタフェース，インタフェース設計を理解する。 | |
| 第2回 | 情報メディア<br>マルチメディアのファイル形式，情報の圧縮と伸張について理解する。<br>グラフィックス処理，マルチメディア技術の応用例(VR，ARなど)を理解する。 | |
| 第3回 | データベース1：データベースの基本<br>データベースの特徴・モデル，データベース管理システム，データベース設計（データの分析，データの設計，コードの設計）を理解する。 | |
| 第4回 | データベース2：正規化<br>データベース設計のうち，正規化をとりあげ理解する。<br>E-R図による設計も紹介する。 | |
| 第5回 | データベース3：データ操作・トランザクション処理<br>データ操作の関係演算と集合演算について理解する。<br>同時実行制御（排他制御），バックアップ，障害回復の方法を理解する。 | |
| 第6回 | ネットワーク1：ネットワーク方式<br>ネットワークの形態（LAN，WAN，インターネット），ネットワークの構成要素（機器・規格・中継装置）について理解する。 | |
| 第7回 | ネットワーク2：IoTネットワーク，通信プロトコル1<br>IoTネットワークの構成要素，用途に応じた通信手段の使い分けを理解する。<br>通信プロトコル(TCP/IP)の概要について理解する。 | |
| 第8回 | ネットワーク3：通信プロトコル2<br>IPプロトコルについて，特にIPアドレスを中心にIPv4とIPv6の違いやアドレッシングの仕組みについて理解を進める。 | |
| 第9回 | ネットワーク4：インターネットの仕組みとサービス<br>IPアドレス，ドメイン名，DNSとその関係を理解する。<br>WWW，電子メール，ファイル転送のサービスを理解する。 | |
| 第10回 | ネットワーク5：通信サービス<br>データ通信サービスの種類，モバイル通信について，また課金方式の種類と伝送時間の計算方法を理解する。 | |
| 第11回 | セキュリティ1：情報セキュリティ<br>情報セキュリティの目的，情報資産，脅威と脆弱性，不正行為が発生するメカニズムのそれぞれについて理解する。 | |
| 第12回 | セキュリティ2：管理<br>リスクマネジメント，情報セキュリティの要素，ISMS，情報セキュリティポリシ，個人情報保護，情報セキュリティ組織・機関のそれぞれを理解する。 | |
| 第13回 | セキュリティ3：対策と実装技術1<br>人的セキュリティ対策の種類，技術的セキュリティ対策の種類，物理的セキュリティ対策の種類，利用者認証技術のそれぞれを理解する。 | |
| 第14回 | セキュリティ4：対策と実装技術2<br>暗号技術（共通鍵暗号方式，公開鍵暗号方式），認証技術（ディジタル署名ほか），IoTのセキュリティについて理解する。 | |
| 第15回 | 表計算<br>表計算ソフトの機能，ワークシートの基本構成，算術演算子とセル参照，関数の使い方・種類のそれぞれを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，質問・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 当該分野の内容が正しく理解できているかを，主にITパスポート試験の過去問題を利用して評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 授業では，当該分野の重点部分を解説する。授業外学修にて必ず当該分野を網羅する必要がある。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。<br>復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。<br>予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター　令和4-5年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集 | FOM出版 | FOM出版 | 978-4-938927-42-4 | 2420円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが，ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『ITパスポート試験ドットコム』（https://www.itpassportsiken.com/）<br>『情報通信白書 for Kids』（http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/），総務省<br>『初歩からのネットワーク』，森川　恵　著，実教出版<br>『絶対わかる！新・ネットワーク超入門』，日経ネットワーク，日経BP |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ネットワーク構築，サーバ構築，セキュリティ対策およびシステム開発に基づく通信ネットワークの知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | コンピュータ科学 | | | 授業番号 | SC214 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | コンピュータの技術要素（ヒューマンインタフェースの特徴やマルチメディア技術の特徴，データベース設計や表計算ソフト技術）と，開発技術（システム開発のプロセスやテスト手法，ソフトウェア開発のプロセスや開発手法）について解説する。<br>ITパスポート試験「テクノロジー系」分野の「技術要素，表計算」と「マネジメント系」分野の「開発技術」が授業の中心になる。もちろん基本情報技術者試験にも関わる内容である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ヒューマンインタフェース技術，マルチメディア技術，データベース技術，表計算ソフト技術，システム開発技術，ソフトウェア開発管理技術の知識を身につけることを目的とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ヒューマンインタフェース | |
| 第2回 | マルチメディア | |
| 第3回 | データベース（方式・設計） | |
| 第4回 | データベース（データ操作・トランザクション処理） | |
| 第5回 | データベース（E-R図），技術要素の問題演習 | |
| 第6回 | 技術要素の問題演習2 | |
| 第7回 | 表計算ソフト | |
| 第8回 | 表計算ソフトの問題演習 | |
| 第9回 | システム開発技術(要件定義，システム設計) | |
| 第10回 | システム開発技術(開発，テスト) | |
| 第11回 | システム開発技術(システムの導入，システムの運用，システムの外部委託，見積り) | |
| 第12回 | ソフトウェア開発管理技術 | |
| 第13回 | 開発技術の問題演習1 | |
| 第14回 | 開発技術の問題演習2 | |
| 第15回 | ビジネスシステム | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，質疑・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 70 | 各分野の理解度によって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，教科書の問題演習(CD-ROMを含む)や情報処理技術者試験の過去問の確認を行う。<br>3. 発展学修として，情報処理技術者試験の対策を行う。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 | FOM出版 | FOM出版 | 978-4-938927-42-4 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが，ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ITパスポート試験ドットコム(https://www.itpassportsiken.com/) |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | システムの企画・開発・運用・保守の考え方やコンピュータ技術の活用について指導する。 |

| 科目名 | ITパスポート特別講義 | | | 授業番号 | SC215 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代では，ITは私たちの社会の隅々まで深く浸透し，どのようなビジネスにおいてもITなくして成立しえないという状況にある。<br>すなわち，どのような業種・職種でも，ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠となっている。それは，事務系・技術系，文系・理系を問わず，ITの基礎知識を持ち合わせていなければ，企業の戦力にはなりえないともいえる。 今後，グローバル化，ITの高度化はますます加速し，「IT力」を持った人材を企業は求めることと考えられる。<br>以上から，ITリテラシーを具体的に証明することのできるITパスポート試験が着目されている。<br>本講義では，企業と法務，業務分析・データ活用，及びシステム戦略の面からITを理解していくこととする。<br>最終的な目標として，ITパスポート試験の合格を目指し，これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を証明できることとする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ITパスポート特別演習科目と合わせ，ITパスポート試験に合格することを目標とする。<br>本講義においては，企業を取り巻く環境を理解することを前提に，さらに経営戦略を学ぶ。経営基盤として現代では情報システムは不可欠のものであり，深く理解することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | はじめに<br>情報処理技術の高度化と普及について | |
| 第2回 | 経営と組織 | |
| 第3回 | 業務分析・データ利活用 | |
| 第4回 | 会計・財務 | |
| 第5回 | 企業法務 | |
| 第6回 | 倫理と標準化 | |
| 第7回 | 企業と法務に関する内容の演習 | |
| 第8回 | 経営戦略 | |
| 第9回 | ビジネス戦略 | |
| 第10回 | 技術戦略マネジメント | |
| 第11回 | ビジネスインダストリ | |
| 第12回 | 経営戦略のまとめと経営戦略に関する内容の演習 | |
| 第13回 | システム戦略 | |
| 第14回 | システム企画 | |
| 第15回 | まとめとシステム戦略に関する内容の演習 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 授業参加の程度 |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 随時行う小テストの点数 |
| 定期試験 | 30 | 期末テスト |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価については，授業への取り組みの姿勢/態度，小テスト及び定期試験の結果を総合的に評価する。 |
| 受講の心得 | わからない点は積極的に質問等をすることにより解消すること。<br>本講義はITパスポート試験の合格を目的としていることから，予習は必ず行うことで授業に備え，講義内容を十分理解し修得するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習及び復習は必ず行うこと。<br>週当たり予習・復習に際しては，予習・復習を合わせて4時間学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター　令和4-5年度版ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 | | FOM出版 | 9784938927424 | 2420円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 通信会社及び労働局にて営業・労働関係の業務に従事。 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 組織，会計，法務の講義内容に関し，実務的な面からの講義することにより知識の修得に資するものとする。 |

| 科目名 | ITパスポート特別演習 | | | 授業番号 | SC216 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ITを利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき，ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。本授業は集中講義で実施し，ITパスポート試験3分野のうち，1年前後期に学んだストラテジ系（経営全般）とテクノロジ系（IT技術）の問題演習を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ストラテジ系（経営全般）分野を理解し正しく解答できるようになる。<br>テクノロジ系（IT技術）分野を理解し正しく解答できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 基礎理論<br>2進数に関する表現と演算および集合と論理演算の基本的な考え方，データの収集・分析・加工に必要な確率と統計・数値計算・数値解析・グラフ理論・待ち行列・最適化問題の基本的な考え方，情報量の表し方，デジタル化の考え方や文字の表現を理解する。 | |
| 第2回 | アルゴリズムとプログラミング<br>データ及びデータ構造の基本的な考え方，アルゴリズムの基本的な考え方，目的に応じて適切なプログラム言語を選択すること，代表的なデータ記述言語の種類とその基本的な使い方を理解する。 | |
| 第3回 | コンピュータ構成要素<br>コンピュータの基本的な構成と役割，メモリと記録媒体の種類と特徴，入出力インタフェースの種類と特徴を理解する。 | |
| 第4回 | システム構成要素<br>システム構成の基本的な特徴，システムの性能・信頼性・経済性の考え方を理解する。 | |
| 第5回 | ソフトウェア・ハードウェア<br>オペレーティングシステムの必要性・機能・種類，ファイル管理の考え方，オフィスツールなどのソフトウェアパッケージの特徴と基本操作，オープンソースソフトウェアの特徴，コンピュータの種類と特徴，入出力装置の種類と特徴を理解する。 | |
| 第6回 | 企業活動<br>企業活動や経営管理に関する基本的な考え方，身近な業務を分析しデータの利活用によって問題を解決するための代表的な手法，企業活動や経営管理に関する会計と財務の基本的な考え方を理解する。 | |
| 第7回 | 法務<br>知的財産権の基本，代表的なセキュリティ関連法規の概要，身近な労働・取引関連法規の概要，企業等の規範に関する考え方，標準化の意義を理解する。 | |
| 第8回 | 経営・技術戦略マネジメント<br>代表的な経営情報分析手法に関する基本的な考え方，マーケティングに関連する基本的な考え方，ビジネス戦略立案のための代表的な情報分析手法，経営管理システムの基本的な考え方，技術開発戦略の意義・目的を理解する。 | |
| 第9回 | ビジネスインダストリ<br>各種ビジネス分野における代表的なシステムの特徴，エンジニアリング分野における代表的なシステムの特徴，電子商取引及びその代表的なシステムの特徴，IoTを利用したシステムや組込みシステムの概念と代表的な例を理解する。 | |
| 第10回 | システム戦略<br>情報システム戦略の意義と目的，業務改善・問題解決などに向けた考え方，代表的なサービスを通じてソリューションの考え方，システム活用促進活動の意義と目的を理解する。 | |
| 第11回 | システム企画<br>システム化計画の目的，現状分析などに基づく業務要件定義の目的，調達の基本的な流れを理解する。 | |
| 第12回 | 情報デザイン・情報メディア<br>情報デザインの考え方や手法，インタフェース設計の考え方，コンピュータにおける文字・音声・画像などの仕組み，マルチメディア技術の応用目的や特徴を理解する。 | |
| 第13回 | データベース<br>データベース及びデータベース管理システムの意義・目的・考え方，データの分析・設計の考え方，データベースからのデータの抽出などの操作，データベースのトランザクション処理を理解する。 | |
| 第14回 | ネットワーク<br>ネットワーク方式，ネットワークアーキテクチャの構造と特徴，代表的なプロトコル，インターネットの基本的な仕組みとサービスの特徴，通信サービスの特徴・伝送速度などを理解する。 | |
| 第15回 | セキュリティ<br>情報セキュリティの基本，リスクマネジメント・情報セキュリティ管理に関する考え方・情報セキュリティ管理策の基本，情報セキュリティ対策の基本的な考え方および組織において必要な対策を理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 100 | 過去問題が正しく解答出来るかにより評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1.「情報処理論」「ITパスポート特別講義」「通信ネットワーク」の単位取得ができているか，同等程度の理解がある事を前提に授業を進める。<br>2. 授業では，当該分野の重点部分を解説する。授業外学修にて必ず当該分野を網羅する必要がある。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，該当範囲の過去問題を行い，理解できていない分野を明らかにしておく。<br>2.復習として，授業で行った内容を元に再度過去問題を復習し，理解を深める。<br>以上を，1回の授業あたり1時間以上行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター　令和4-5年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集 | FOM出版 | FOM出版 | 978-4-938927-42-4 | 2，420円 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | システムエンジニアとしてシステム設計・ソフトウェア開発を行った経験をもとに，実践に基づいたITの利活用を伝える。 |

| 科目名 | ビジネスコンピューティングB | | | 授業番号 | SC222 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」の活用法を学習する。ビジネスコンピューティングAで習得したスキルを基礎知識に，さらにより深く実践的なスキルを身に付ける。データベースや統計処理などの関数の使用して実践的なビジネス（事務・営業）やデータサイエンスに役立つ技術を習得する。総合演習として，サーティファイExcel表計算処理技能認定試験1級やMOS Excel 2019模擬試験用の問題にも取り組む。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」のビジネスで活用できる実践的なスキルを習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 関数の活用（請求書） | |
| 第2回 | 関数の活用（売上データの集計） | |
| 第3回 | 関数の活用（住所録） | |
| 第4回 | 関数の活用（顧客住所録） | |
| 第5回 | 関数の活用（賃金計算書） | |
| 第6回 | 関数の活用（社員情報の統計） | |
| 第7回 | 関数の活用（出張旅費伝票） | |
| 第8回 | 関数の活用（lookup関数） | |
| 第9回 | 総合問題１ | |
| 第10回 | 総合問題２ | |
| 第11回 | 総合問題３ | |
| 第12回 | 応用問題１ | |
| 第13回 | 応用問題２ | |
| 第14回 | 応用問題３ | |
| 第15回 | 応用問題４ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 60 | 各回の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | MOS Excel合格者は評価に加える。 |
| 受講の心得 | 情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，1年前期科目である「文書処理演習」と「ビジネスコンピューティングA」の内容が理解できていることを前提に授業を行う。<br>また，情報フィールド（データ分析）にも関係しており，資格にも関連していることも頭に入れておくこと。 |
| 授業外学修 | 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。<br>3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる Excel 2019/2016/2013 ビジネス活用編 関数テクニック | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM | 978-4-86510-401-1 | 2300円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | データベース演習 | | | 授業番号 | SC223 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | データベースソフトウェアは，大量のデータを蓄積し必要に応じてデータを抽出したり集計したりできる機能を有しており，企業活動におけるデータ管理の中核的役割を果たしている。<br>本科目では，データベースソフトウェア初心者を対象として，企業におけるリレーショナルデータベース活用例をもとに，テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップ機能の演習を行う。データベースソフトウェアはリレーショナルデータベースのMicrosoft Accessを使用する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | リレーショナルデータベースについて理解し，自らの設計をAccessデータベースで実現し説明できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Accessの基礎知識<br>データベースとデータベースソフト，リレーショナルデータベース，Accessの基本操作・データベースオブジェクトを理解する。<br>予・復習：第1章 | |
| 第2回 | データベースの設計と作成<br>データベース構築の流れ，データベースの設計，テーブルの設計，新規データベース（ファイル）の作成方法を理解する。<br>予・復習：第2章 | |
| 第3回 | テーブルの作成とデータの格納１（商品マスター）<br>テーブルの概要，用語（レコード・フィールド・主キー・外部キー），テーブルの設計，デザインビューによるテーブルの作成方法，データの入力方法を理解する。<br>予・復習：第3章Step3まで | |
| 第4回 | テーブルの作成とデータの格納２（得意先マスター，売上データ）<br>前回の知識をもとに，他の必要なテーブルを作成する。データをインポートする方法を理解する。<br>予・復習：第3章 | |
| 第5回 | リレーションシップ<br>主キーと外部キーの関係，参照整合性，テーブル間のリレーションシップの作成方法を理解・実践する。<br>予・復習：第4章 | |
| 第6回 | クエリによるデータの加工１<br>クエリで何が出来るかを理解する。フィールドの加工を行うクエリ（射影・結合・演算）を理解する。<br>予・復習：第5章 | |
| 第7回 | クエリによるデータの加工２（問題演習）<br>前回の知識をもとに，フィールドの加工を行うクエリの作成方法を理解・実践する。<br>予・復習：第5章 | |
| 第8回 | フォームによるデータ入力１（商品マスター，得意先マスター）<br>フォームで何が出来るかを理解する。フォームウィザードでフォームを作成する。フォームを構成するコントロールの調整ができる。<br>予・復習：第6章Step4まで | |
| 第9回 | フォームによるデータ入力２（売上データ，担当者マスター）<br>前回の知識をもとに，より複雑なフォームの作成を引き続き行う。簡易的なフォーム作成方法についても理解する。<br>予・復習：第6章 | |
| 第10回 | クエリによるデータの抽出と集計１<br>レコードの加工を行うクエリを理解する。レコードを選択する条件の設定方法を理解する。集計クエリの作成方法を理解する。<br>予・復習：第7章 | |
| 第11回 | クエリによるデータの抽出と集計２（問題演習）<br>前回の知識をもとに，演習をおこないより理解を深める。<br>予・復習：第7章 | |
| 第12回 | レポートによるデータの印刷１（商品マスター，得意先マスター）<br>レポートで何が出来るかを理解する。レポートウィザードでレポートを作成する。レポートを構成するコントロールの調整ができる。<br>予・復習：第8章Step4まで | |
| 第13回 | レポートによるデータの印刷２（宛名ラベル，売上一覧表）<br>前回の知識をもとに，より複雑なレポートを作成する。宛名ラベル印刷するレポートの作成方法を理解する。<br>予・復習：第8章 | |
| 第14回 | ナビゲーションフォーム，オブジェクトの依存関係，テンプレートの利用<br>知っておくとより便利になる機能について，メニューとなるナビゲーションフォームや，オブジェクトの依存関係を表示する機能などを理解する。<br>予・復習：第9章 | |
| 第15回 | 問題演習<br>今までの全ての知識をもとに，総合的な問題演習を行い理解を深める。<br>予・復習：総合問題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | オリジナルデータベース制作により主要オブジェクト(テーブル，クエリ，フォーム，レポート)を正しく理解・活用し，ドキュメントも整備できるかによって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 対象はAccess初心者を想定している。<br>2. 情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWebページ参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行うので注意すること。<br>4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として次回の授業内容にあたるテキストを読んでおくこと。<br>2. 授業で行った演習内容を復習し理解を深めておくこと。<br>3. 最終課題としてオリジナルデータベースおよびドキュメントを提出してもらう。<br>以上の内容に必要な時間の目安は，各人の理解度によるが週当たり1時間である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかる Microsoft Access 2019 基礎 | FOM | FOM出版 | 978-4-86510-386-1 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | ソフトウェアのバージョンが変更になる可能性があります。<br>進捗状況により，情報処理論で使用した「よくわかるマスター 令和2-3年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」テキストも活用するが使用時は授業で指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | データベース設計・構築の知識と技能を指導する。 |

| 科目名 | プログラミング演習 | | | 授業番号 | SC232 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Python言語は，Webアプリケーションをはじめデスクトップアプリケーションやゲーム，人工知能，ビッグデータ解析など様々な分野で活用されており，最も注目を集めているプログラミング言語のひとつである。また，シンプルな言語であるが故にコードが読みやすく，プログラミング初心者にもおすすめな言語とされている。<br>本科目では，プログラミング概論を学んだ学生を対象に，Python言語を用いてプログラミングに必要な考え方を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Python言語を使用して簡単な文字ベースのプログラムを自ら作成できるようになることを目的とする。具体的には次のことを身につける。<br>1.プログラムの作成能力<br>2.コーディング技能<br>3.テスト技能<br>4.デバッグ技能<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | プログラムの構造の復習1<br>プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。 | |
| 第2回 | プログラムの構造の復習2<br>プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。 | |
| 第3回 | 複数のデータの扱い方<br>複数のデータをひとまとめに扱うリストと，そのデータの探索・並べ替え・コピーを教科書に沿って演習する。 | |
| 第4回 | 複数のデータの扱い方の問題演習<br>複数のデータの扱い方の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第5回 | 関数の定義<br>関数の基本的な考え方，用語（関数名・引数・仮引数・戻り値），オリジナル関数の作成方法，変数のスコープについて学ぶ。 | |
| 第6回 | 関数の定義の問題演習<br>関数の定義の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第7回 | ライブラリの利用1<br>ライブラリの意味，使い方，日時に関するライブラリ，乱数ライブラリ，数学ライブラリ，モジュールについて学ぶ。 | |
| 第8回 | ライブラリの利用1の問題演習<br>ライブラリの利用1の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第9回 | ライブラリの利用2<br>タートルグラフィック(turtle)，アプリのようなウィンドウやボタンのツールキット(tkinter)の基本的な使い方を学ぶ。 | |
| 第10回 | ライブラリの利用2の問題演習<br>ライブラリの利用2の回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第11回 | インタラクティブなプログラム<br>スケールウィジェットの基本的な使い方，図形の描画方法について学ぶ。 | |
| 第12回 | インタラクティブなプログラムの問題演習<br>インタラクティブなプログラムの回で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。 | |
| 第13回 | プログラミングスキルチェックサイトの利用1<br>Webサイトpaizaでプログラミングスキルチェックを実施する方法を学び，自身でプログラミング技術の向上・確認ができるようになる。 | |
| 第14回 | プログラミングスキルチェックサイトの利用2<br>Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。 | |
| 第15回 | プログラミングスキルチェックサイトの利用3<br>Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 授業計画に示した内容をネットで調べ，疑問点を明らかにしておくこと。<br>2. 授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。<br>3. 発展学修として，paizaサイトを利用してスキルを高めること。<br>以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| プログラムのつくりかた 入門編 Lv.0 | 榎本竜二 | 実教出版(株) | 978-4-407-35254-2 | 990円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | Python言語によるプログラミングを通して，プログラミング技能とプログラミング的思考を身につけさせる。 |

| 科目名 | 通信ネットワーク論 | | | 授業番号 | SC315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 通信ネットワークの仕組み（主にTCP/IP）と情報セキュリティに関する総合的な基礎知識を得られるよう解説する。<br>「情報処理技術者試験」および「NTTコミュニケーションズインターネット検定 .com Master ADVANCE ★」のインターネット技術分野を念頭に置いて，動作確認の為に一部演習も取り入れながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. ネットワーク方式（LAN・WAN，ネットワーク・IoTネットワークの構成要素）の知識を身につける。<br>2. 通信プロトコル（代表的なアーキテクチャ，代表的な通信プロトコルの役割・必要性）の知識を身につける。<br>3. ネットワーク応用（インターネットの仕組み・サービス，通信サービス）の知識を身につける。<br>4. （ネットワーク社会において安全に活動するという観点で）情報セキュリティの基本知識を身につける。<br>5. 情報セキュリティ管理（リスクマネジメント，管理に関する考え方，管理策の基本）の知識を身につける。<br>6. 情報セキュリティ対策・実装技術の知識を身につける。<br>7. 端末のTCP/IP基本設定を確認しその意味が説明できる。<br>8. 通信障害の原因を特定するための基本ツール（ping， nslookup， route， arp， tracertなど）を活用できる。<br><br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ネットワークの形態(LANとWAN，インターネット) | |
| 第2回 | ネットワークの構成要素 | |
| 第3回 | IoTネットワーク | |
| 第4回 | 通信プロトコル | |
| 第5回 | インターネットの仕組み・サービス | |
| 第6回 | ネットワークの問題演習 | |
| 第7回 | 情報セキュリティ | |
| 第8回 | 情報セキュリティ管理 | |
| 第9回 | 情報セキュリティ対策の種類 | |
| 第10回 | 利用者認証の技術・暗号化技術・ディジタル署名 | |
| 第11回 | IoTに関するセキュリティ | |
| 第12回 | 情報セキュリティの問題演習 | |
| 第13回 | 端末のTCP/IP設定 | |
| 第14回 | 通信障害時に活用できるコマンド | |
| 第15回 | Web閲覧をTCP/IPの仕組みから考える | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，質問・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 20 | 端末のTCP/IP設定箇所と意味・通信障害の切り分け方法を分かりやすく説明できているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 60 | 授業内容が正しく理解できているかによって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 理解を深める為に一部演習も含める予定である。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>2. 復習として，教科書の問題演習(CD-ROMを含む)，当該分野の情報処理技術者試験の過去問題の確認を行う。<br>3. 発展学修として，資格試験の対策を行うか自ら課題を見つけて考察を行う。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 | FOM出版 | FOM出版 | 978-4-938927-42-4 | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが，ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 『ITパスポート試験ドットコム』（https://www.itpassportsiken.com/）<br>『情報通信白書 for Kids』（http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/），総務省<br>『初歩からのネットワーク』，森川　恵　著，実教出版<br>『インターネット検定 .com Master ADVANCE 公式テキスト』，NTTコミュニケーションズ，NTT出版<br>『絶対わかる！新・ネットワーク超入門』，日経ネットワーク，日経BP |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | ネットワーク構築，サーバ構築，セキュリティ対策およびシステム開発に基づく通信ネットワークの知識・技術を指導する。 |

| 科目名 | アルゴリズムとデータ構造 | | | 授業番号 | SC333 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本科目はプログラミングに必要とされる代表的なアルゴリズムとデータ構造を説明する。アルゴリズムおよびデータ構造の重要性を認識すると共に，しくみを理解し効率のよいプログラム設計ができるよう演習も交え授業を進める。プログラム言語はPythonを使用するので，Python言語の習熟にもつながる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いを理解できる。<br>2.問題解決のために思考し，既知のアルゴリズム適用を検討できる。<br>3.既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。<br>4.代表的なアルゴリズムとデータ構造をPython言語により実装することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | フローチャート（流れ図）<br>予・復習　フローチャートの記号とその意味を理解する | |
| 第2回 | データ構造と配列1<br>予・復習　リストとタプルのあつかい，最大・最小・合計値・平均値・素数の求め方を理解する | |
| 第3回 | データ構造と配列2<br>予・復習　基数変換のアルゴリズムを理解する | |
| 第4回 | 線形探索と2分探索，計算量<br>予・復習　線形探索と2分探索，sortメソッドの使い方を理解する | |
| 第5回 | 探索までの問題演習・計算量<br>復習　問題演習で扱った内容 | |
| 第6回 | スタックとキュー<br>予・復習　スタックとキューの考え方を理解する | |
| 第7回 | スタックとキューの実現<br>予・復習　スタックとキューの実現方法を理解する | |
| 第8回 | スタックとキューの問題演習<br>復習　問題演習で扱った内容 | |
| 第9回 | 再帰<br>予・復習　再帰アルゴリズムを理解する。 | |
| 第10回 | 再帰（ハノイの塔）<br>予・復習　再帰アルゴリズムでパズル「ハノイの塔」を解く | |
| 第11回 | 再帰の問題演習<br>復習　問題演習で扱った内容 | |
| 第12回 | バブルソート<br>予・復習　バブルソートを理解する | |
| 第13回 | クイックソート<br>予・復習　クイックソートを理解する | |
| 第14回 | ソートの問題演習<br>復習　問題演習で扱った内容 | |
| 第15回 | 線形リスト<br>復習　線形リストを理解する | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，授業外学修の状況によって評価する。 |
| レポート | 40 | アルゴリズムを実装でき理解しているかによって評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 40 | アルゴリズムとデータ構造の理解の程度によって評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 応用レベルの科目であるので，自発的な学修活動が必要である。当然であるが十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。<br>2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 授業計画の予習で示した内容をWebで検索し，概要を理解する。<br>2. 授業計画の復習で示した授業で扱ったプログラムを何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。<br>3. 複数回の授業で指示したレポート（主に授業で説明したアルゴリズム・データ構造をPythonで実装・説明する）を完成・提出する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造 | 柴田望洋 | SBクリエイティブ(株) | 978-4-8156-0319-9 | 2400円 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | Python言語による実際のプログラミングを通して，データ構造およびアルゴリズムの知識・思考ならびにそれらを活用したプログラミング技能を指導する。 |

| 科目名 | アプリ開発演習 | | | 授業番号 | SC334 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | アプリケーションソフトウェア（応用ソフトウェア）は，ある特定の機能や目的のためのソフトウェアである。また，（特にモバイル端末において）「アプリ」と略されることも多い。<br>本授業は，Python言語により簡単なアプリケーションソフトウェアを実際に作成する演習を行い，これまでに学んだプログラミング能力を活用して有益なソフトウェアを開発する礎（いしずえ）を築く。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.アプリケーションに必要な機能および実現方法を考察することができる。<br>2.機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。<br>3.アプリケーション開発環境を構築できる。<br>4.アプリケーション開発のためにライブラリの活用ができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 目まぐるしく変化する分野であるので内容が変更になる可能性がある。以下は授業計画の概略である。詳細および予復習内容については第1回の授業で指示する。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | アプリケーション開発の概略 | |
| 第2回 | 文書処理（テキストファイルの読み書き） | |
| 第3回 | 文書処理（正規表現） | |
| 第4回 | 文書処理（Excelファイルの操作） | |
| 第5回 | Web情報の取得1（スクレイピング） | |
| 第6回 | Web情報の取得2（スクレイピング） | |
| 第7回 | Web情報の取得3（スクレイピング） | |
| 第8回 | Webアプリケーション1 | |
| 第9回 | Webアプリケーション2 | |
| 第10回 | Webアプリケーション3 | |
| 第11回 | Webアプリケーション4 | |
| 第12回 | デスクトップアプリケーション1 | |
| 第13回 | デスクトップアプリケーション2 | |
| 第14回 | デスクトップアプリケーション3 | |
| 第15回 | デスクトップアプリケーション4 | |
| 授業計画　備考2 | 時間があれば，機械学習も体験する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予復習の状況，授業題材のアプリ提出状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 作品制作（学んだ内容が十分に活かせているか，ドキュメント内容） |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，授業内容がPython言語を用いてどのような方法で実現できるかWebで調べる。<br>2. 復習として，授業で扱った内容を理解し自らプログラミングできるようにしておく。<br>3. 作品制作とドキュメントの整備を行う。<br>以上の内容に必要な時間の目安は，各人の理解度によるが週当たり1時間である。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 目まぐるしく変化する分野なので，履修登録時に指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | アプリケーション開発およびプログラミング的思考を指導する。 |

| 科目名 | ＳＱＬ演習 | | | 授業番号 | SC335 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | SQL（Structured Query Language）は，ANSI（アメリカ規格協会）やISO（国際標準化機構）が規格化しているリレーショナルデータベースの定義・操作を行う為の言語である。直接データベースを操作する時に使えることはもちろん，特にプログラムでデータ保管を考慮する時にSQLは必須知識である。本科目では，SQLの基礎から，プログラミングでのSQL利用まで幅広く演習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.SQLの知識を身につける。<br>2.目的のデータを得るためのSQLを考察し，達成することができる。<br>3.SQLの不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。<br>4.単一表に対するSQLを記述できる。<br>5.複数表が関係するSQLを記述できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | SQL概説<br>　復習：SQLとは何かをWebで調べる。 | |
| 第2回 | データ取得の基本（ＳＥＬＥＣＴ文の基本，ＩＮ，ＢＥＴＷＥＥＮ，パターンマッチング）<br>　復習：授業で扱ったＳＥＬＥＣＴ文の基本を理解する。 | |
| 第3回 | データ取得の基本（基本問題演習）<br>　復習：授業で扱った演習問題を理解する。 | |
| 第4回 | データ取得の基本（実践的なデータによる考え方）<br>　復習：授業で扱った目的に応じたデータ取得を理解する。 | |
| 第5回 | データ取得の基本（実践的なデータによる問題演習）<br>　復習：授業で扱った演習問題を理解する。 | |
| 第6回 | データ取得の基本（別の実践的なデータによる考え方，並べ替え）<br>　復習：授業で扱った目的に応じたデータ取得を理解する。 | |
| 第7回 | データ取得の基本（別の実践的なデータによる問題演習）<br>　復習：授業で扱った演習問題を理解する。 | |
| 第8回 | 副問い合わせ<br>　復習：授業で扱った副問い合わせのSQLを理解する。 | |
| 第9回 | 副問い合わせ（問題演習）<br>　復習：授業で扱った演習問題を理解する。 | |
| 第10回 | 結合<br>　復習：複数表のSQLを理解する。 | |
| 第11回 | 結合（問題演習）<br>　復習：授業で扱った演習問題を理解する。 | |
| 第12回 | その他のSQL（追加，変更，削除，テーブル作成）<br>　復習：ＳＥＬＥＣＴ以外のSQLを理解する。 | |
| 第13回 | ソフトウェア開発におけるデータベースの利用1<br>　復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。 | |
| 第14回 | ソフトウェア開発におけるデータベースの利用2<br>　復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。 | |
| 第15回 | ソフトウェア開発におけるデータベースの利用3<br>　復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 提示した問題に対して時間内に意図した動作をするSQLを選択もしくは作成できること。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. 十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。<br>2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>3. 「アプリ開発演習」は同時履修していることを前提に授業を進める。<br>4. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>5. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習は授業で指示したWebサイトあるいはプリントの該当範囲を一読しておくこと。<br>2. 授業計画の復習で示した内容を行っておくこと。何も参照しなくてもできるまでしっかり復習しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき1時間である）。<br>3. 複数回の授業でそれまでの授業内容に関する小テストを行うので，授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は，次の授業までに完答しておくこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 資料を配布またはWeb等で参照できるようにする。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| スッキリわかる SQL 入門 | 中山 清喬ほか | インプレスジャパン | 978-4844333937 | 2800 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考サイト：SQL攻略，SQLZOO |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高度なSQLによる必要なデータの取得およびソフトウェア開発での活用知識・技能・考え方を指導する。 |

| 科目名 | データサイエンス | | | 授業番号 | SD111A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本講義は，データサイエンスの入門として，データの意味，データから得られる情報の大切さについて学ぶ。<br>また，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について学ぶ。<br>なお，統計手法を適用する際に，統計ソフトも使用する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。<br>２）データサイエンス入門として，データの基本統計量，分布，統計的検定の考え方を理解する。<br>３）パソコンを用いて結果を算出し，その結果をみて考察を行う。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データサイエンスって何？ | |
| 第2回 | データの種類（尺度について），代表値（平均値・中央値・最頻値・四分位範囲・分散と標準偏差・標準化など） | |
| 第3回 | データを整理してみよう（度数分布とヒストグラム） | |
| 第4回 | 二つの変数の関係を調べよう（相関関係の考え方，共分散と相関係数） | |
| 第5回 | ある変数から他の変数を予測してみよう（回帰分析） | |
| 第6回 | データの状態を知ろう１（離散型確率分布（二項分布，ポアソン分布）） | |
| 第7回 | データの状態を知ろう２（連続型確率分布（正規分布）） | |
| 第8回 | 少ないサンプルから全体を予測する（母集団と標本，区間推定） | |
| 第9回 | 統計的仮説検定の考え方 | |
| 第10回 | 少ないサンプルから母集団の平均を求めよう（母平均の検定） | |
| 第11回 | 少ないサンプルから母集団の比率や分散を求めよう（母比率・母分散の検定） | |
| 第12回 | ２つの平均の差が意味のある差かどうかを調べよう（平均の差の検定） | |
| 第13回 | 度数に意味のある違いがあるかどうかを調べよう（適合度検定） | |
| 第14回 | ２つの変数の度数に意味のある違いがあるかどうかを調べよう（独立性の検定） | |
| 第15回 | データを視覚的にグラフで表現してみよう（グラフ表現法） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 授業中の課題及びノートを提出 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | まずは，データの意味を理解し，データを解析して，何らかの結論を導くという，実証的な方法論に興味を持つことが大切である。<br>そして，実際に手法を適用して，結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。<br>数学的な知識は必須ではないが，一部の説明において，数式を用いることがある。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。授業はパワーポイントを使用して行う。また，GoogleのClassroomにより，授業で使用する資料を配布する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考書は授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | データサイエンス | | | 授業番号 | SD111B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本講義は，データサイエンスの入門として，データの意味，データから得られる情報の大切さについて学ぶ。<br>また，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について学ぶ。<br>なお，統計手法を適用する際に，統計ソフトも使用する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。<br>２）データサイエンス入門として，データの基本統計量，分布，統計的検定の考え方を理解する。<br>３）パソコンを用いて結果を算出し，その結果をみて考察を行う。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | データサイエンスって何？ | |
| 第2回 | データの種類（尺度について），代表値（平均値・中央値・最頻値・四分位範囲・分散と標準偏差・標準化など） | |
| 第3回 | データを整理してみよう（度数分布とヒストグラム） | |
| 第4回 | 二つの変数の関係を調べよう（相関関係の考え方，共分散と相関係数） | |
| 第5回 | ある変数から他の変数を予測してみよう（回帰分析） | |
| 第6回 | データの状態を知ろう１（離散型確率分布（二項分布，ポアソン分布）） | |
| 第7回 | データの状態を知ろう２（連続型確率分布（正規分布）） | |
| 第8回 | 少ないサンプルから全体を予測する（母集団と標本，区間推定） | |
| 第9回 | 統計的仮説検定の考え方 | |
| 第10回 | 少ないサンプルから母集団の平均を求めよう（母平均の検定） | |
| 第11回 | 少ないサンプルから母集団の比率や分散を求めよう（母比率・母分散の検定） | |
| 第12回 | ２つの平均の差が意味のある差かどうかを調べよう（平均の差の検定） | |
| 第13回 | 度数に意味のある違いがあるかどうかを調べよう（適合度検定） | |
| 第14回 | ２つの変数の度数に意味のある違いがあるかどうかを調べよう（独立性の検定） | |
| 第15回 | データを視覚的にグラフで表現してみよう（グラフ表現法） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 80 | 授業中の課題及びノートを提出 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | まずは，データの意味を理解し，データを解析して，何らかの結論を導くという，実証的な方法論に興味を持つことが大切である。<br>そして，実際に手法を適用して，結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。<br>数学的な知識は必須ではないが，一部の説明において，数式を用いることがある。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。授業はパワーポイントを使用して行う。また，GoogleのClassroomにより，授業で使用する資料を配布する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考書は授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | データサイエンスB | | | 授業番号 | SD212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ある現象を説明するときに，関連する変数は一つでないケースが多い。多変量解析は，多くの変数を用いて，構造の分析や予測を行うための方法である。<br>多変量解析の考え方を解説し，統計ソフトを用いて，各手法をデータに適用し，結果の解釈を行う。<br>多変量解析には多くの手法があるが，心理学をはじめとする人文科学や社会科学の領域でよく用いられる，重回帰分析，判別分析，主成分分析，因子分析，クラスタ分析，数量化理論，対応分析，決定木などを中心に取り上げる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業の到達目標は次の通りである。<br>１．多変量解析の基本的な考え方を理解する。<br>２．ＳＰＳＳの使い方を理解し，多変量解析を実際のデータに適用して結果の解釈を正しく行うことができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 統計的仮説検定のまとめ | |
| 第2回 | ３つ以上の平均の差の検定１（一元配置分散分析，被験者間計画），多重比較 | |
| 第3回 | ３つ以上の平均の差の検定２（一元配置分散分析，被験者内計画） | |
| 第4回 | ３つ以上の平均の差の検定３（二元配置分散分析，被験者間計画） | |
| 第5回 | ３つ以上の平均の差の検定４（二元配置分散分析，被験者内計画） | |
| 第6回 | 多変量解析の考え方 | |
| 第7回 | 複数の変数によりある変数を予測しよう（重回帰分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第8回 | 複数の変数によりある変数（群）を予測しよう（判別分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第9回 | 複数のデータをグループ（クラスタ）に分類しよう（クラスタ分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第10回 | 複数の変数から新しい軸や因子を求めよう（主成分分析及び因子分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第11回 | 質的データを用いた分析１（数量化I類及び数量化II類の考え方と結果の解釈） | |
| 第12回 | 質的データを用いた分析２（対応分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第13回 | 距離の関係を求めよう（多次元尺度法の考え方と結果の解釈） | |
| 第14回 | ある現象の構造を調べよう（決定木分析の考え方と結果の解釈） | |
| 第15回 | 多変量解析の適用事例（アンケート回答結果の分析など） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 授業中のノート提出 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 分散分析及び多変量解析の考え方を理解し，得られた結果に対して自分なりの解釈をおこなうことの楽しさを知っていただきたいと考えている。<br>多変量解析の理論については，線形代数や解析学といった数学的な知識が必要となる場合があるが，本講義は数学的な理論はできるだけ省略し，ユーザの視点から実践的な内容で授業を行うため，数学の知識は必須としない。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用しない。パワーポイントにより授業を進め，必要に応じてプリントを配布する。また，GoogleのClassroomにより，授業で使用した資料を配信する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 参考書は授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | データサイエンスC | | | 授業番号 | SD213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 文理問わずすべての大学生が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げました。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。特に，ものごとの関係を表現する１つである関数という概念について学ぶ。また，多変量解析の理論に必要な線形代数や解析学といった数学的な知識について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 情報分野を学ぶ上で必要とされる数学的記号の理解と基礎的な計算力を習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 数とは？ | |
| 第2回 | 約数と平方根 | |
| 第3回 | 三角関数 | |
| 第4回 | eと指数関数 | |
| 第5回 | 虚数と複素数１ | |
| 第6回 | 多次元空間と多次元ベクトル | |
| 第7回 | 行列 | |
| 第8回 | 逆行列 | |
| 第9回 | 行列式 | |
| 第10回 | 固有値と固有ベクトル１ | |
| 第11回 | 固有値と固有ベクトル２ | |
| 第12回 | 常微分と偏微分１ | |
| 第13回 | 常微分と偏微分２ | |
| 第14回 | グラフの描写 | |
| 第15回 | ベイズの定理 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 授業中に数回の小テストを行う。 |
| 定期試験 | 50 | 期末に試験を行う。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。 |
| 授業外学修 | 毎週４時間以上，予習･復習を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 別途指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会調査論 | | | 授業番号 | SD214 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。本講義では，歴史的背景や事例について踏まえつつ，社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には，調査内容・対象の決定，調査の実施方法，結果の分析法とまとめ方について学習する。学習を通して，社会を見通すスキルとしての社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。<br>２）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会調査とは？ ―その目的と意義― | |
| 第2回 | 社会調査の歴史 | |
| 第3回 | 情報資源の発掘調査―データの整理と既存データの探索― | |
| 第4回 | 様々な調査実施主体と調査の性格（１） | |
| 第5回 | 様々な調査実施主体と調査の性格（２） | |
| 第6回 | 社会調査の企画と設計 | |
| 第7回 | 調査実施に向けての準備（注意点と倫理） | |
| 第8回 | 質的調査と量的調査（１） | |
| 第9回 | 質的調査と量的調査（２） | |
| 第10回 | 質的調査と量的調査（３） | |
| 第11回 | サンプリングの技法 | |
| 第12回 | 調査票と質問（質問の分類） | |
| 第13回 | 調査票と質問（避けるべき質問） | |
| 第14回 | 調査の分析(テキストマイニング) | |
| 第15回 | 調査の分析 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>2）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。<br>3）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 978-4-535-58760-1 | 安藤明之 | 日本評論社 | 978-4-535-58760-1 | 2，600円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 大谷信介（他３名）共著，『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』，ミネルヴァ書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会調査演習 | | | 授業番号 | SD215 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ２年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて，実際に身近な興味・関心のある対象に関するアンケート調査を実施し，社会調査の一連の過程を体験的に学習する。調査内容・対象の決定，調査票の作成，調査の実施，分析，まとめまでを小グループに分かれて行い，最後に結果報告のプレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）社会調査の基本的な考えを理解し，実践することができる。<br>２）量的・質的データを統計手法を適用し，得られた結果の考察を行うことができる。<br>３）パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会調査の流れ(1) | |
| 第2回 | 社会調査の流れ(2) | |
| 第3回 | 調査テーマに関する現状と課題調査 | |
| 第4回 | 調査票の作成１ | |
| 第5回 | 調査票の作成２と依頼文の作成 | |
| 第6回 | 調査に関する事前発表・質疑応答 | |
| 第7回 | 調査票の修正 | |
| 第8回 | 集計処理 | |
| 第9回 | データの分析１ | |
| 第10回 | データの分析２ | |
| 第11回 | データの分析３ | |
| 第12回 | 報告書の作成１ | |
| 第13回 | 報告書の作成２ | |
| 第14回 | 結果の発表１ | |
| 第15回 | 結果の発表２ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | ３回程度のレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 『社会調査論』・『社会調査演習』を通して，社会調査の手法を身に付ける演習であるため，２年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。<br>授業の最中に内容を理解できるように努める。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。<br>　具体的には，文献・資料の検索・選定，レジメ作成とテーマ発表，質問文の作成，調査計画の発表，調査計画書・レポートの作成など。<br>４）空き時間をうまく利用して調査を行うこと。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 | 安藤明之 | 日本評論社 | 2，600円+税 | 2，600円+税 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会調査論 | | | 授業番号 | SD221 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。本講義では，歴史的背景や事例について踏まえつつ，社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には，調査内容・対象の決定，調査の実施方法，結果の分析法とまとめ方について学習する。学習を通して，社会を見通すスキルとしての社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。<br>２）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会調査とは？ ーその目的と意義ー | |
| 第2回 | 社会調査の歴史 | |
| 第3回 | 情報資源の発掘調査ーデータの整理と既存データの探索ー | |
| 第4回 | 様々な調査実施主体と調査の性格（１） | |
| 第5回 | 様々な調査実施主体と調査の性格（２） | |
| 第6回 | 社会調査の企画と設計 | |
| 第7回 | 調査実施に向けての準備（注意点と倫理） | |
| 第8回 | 質的調査と量的調査（１） | |
| 第9回 | 質的調査と量的調査（２） | |
| 第10回 | 質的調査と量的調査（３） | |
| 第11回 | サンプリングの技法 | |
| 第12回 | 調査票と質問（質問の分類） | |
| 第13回 | 調査票と質問（避けるべき質問） | |
| 第14回 | 調査の分析(テキストマイニング) | |
| 第15回 | 調査の分析 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>2）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。<br>3）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 | 安藤明之 | 日本評論社 | 978-4-535-58632-1 | 2，500円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 大谷信介（他３名）共著，『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』，ミネルヴァ書房 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 社会調査演習 | | | 授業番号 | SD322 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 平井　安久 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ２年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて，実際に身近な興味・関心のある対象に関するアンケート調査を実施し，社会調査の一連の過程を体験的に学習する。調査内容・対象の決定，調査票の作成，調査の実施，分析，まとめまでを小グループに分かれて行い，最後に結果報告のプレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １）社会調査の基本的な考えを理解し，実践することができる。<br>２）量的・質的データを統計手法を適用し，得られた結果の考察を行うことができる。<br>３）パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。<br>以上を到達目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会調査の流れ(1) | |
| 第2回 | 社会調査の流れ(2) | |
| 第3回 | 調査テーマに関する現状と課題調査 | |
| 第4回 | 調査票の作成１ | |
| 第5回 | 調査票の作成２と依頼文の作成 | |
| 第6回 | 調査に関する事前発表・質疑応答 | |
| 第7回 | 調査票の修正 | |
| 第8回 | 集計処理 | |
| 第9回 | データの分析１ | |
| 第10回 | データの分析２ | |
| 第11回 | データの分析３ | |
| 第12回 | 報告書の作成１ | |
| 第13回 | 報告書の作成２ | |
| 第14回 | 結果の発表１ | |
| 第15回 | 結果の発表２ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 50 | ３回程度のレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 『社会調査論』・『社会調査演習』を通して，社会調査の手法を身に付ける演習であるため，２年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。<br>授業の最中に内容を理解できるように努める。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。<br>　具体的には，文献・資料の検索・選定，レジメ作成とテーマ発表，質問文の作成，調査計画の発表，調査計画書・レポートの作成など。<br>４）空き時間をうまく利用して調査を行うこと。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 | 安藤明之 | 日本評論社 | 978-4-535-58632-1 | 2，500円+税 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マルチメディア 1クラス | | | 授業番号 | SG111A | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，デジタル画像の加工技術，アニメーション制作，３Ｄグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。<br>また，Photoshopクリエイター検定スタンダードおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | デジタル画像，アニメーション，３Ｄグラフィックスなどの演習を通して，マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより，マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Photoshop演習１：Photoshopの基本操作<br>起動・終了方法，ウィンドウとパネルの管理を理解する。 | |
| 第2回 | Photoshop演習２：選択範囲の作成<br>編集する部分の指定に必要な選択範囲の作成方法について，状況ごとに最適な方法を理解する。 | |
| 第3回 | Photoshop演習３：画像の移動と変形<br>移動ツールによる移動方法，変形（拡大/縮小・回転・ゆがみ・遠近法・ワープ）機能の適切な使用法を理解する。 | |
| 第4回 | Photoshop演習４：カラーモードと色調補正<br>画面に適したRGBと印刷に適したCMYKの特徴と色域の違い，その他カラーモード，色の基本と色選択の方法，色調補正の方法を理解する。 | |
| 第5回 | Photoshop演習５：ペイント<br>ブラシ系・スタンプ系ツールの様々な機能を理解する。 | |
| 第6回 | Photoshop演習６：レイヤー操作<br>レイヤーの仕組みと活用方法を理解する。 | |
| 第7回 | Photoshop演習７：パスとシェイプ，テキスト(入力と編集)<br>ドロー系ツールであるパスとシェイプの活用方法を理解しWeb用ロゴを作成する，テキストの利用方法を理解する。 | |
| 第8回 | Photoshop演習８：テキスト(文字の加工)，フィルター<br>テキストの加工方法と，様々なフィルターによる効果の違いと利用方法を理解する。 | |
| 第9回 | Photoshop演習９：画像の入出力，Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダードサンプル問題1<br>スキャナー・プリンターなどの入出力機器の特徴を理解する。資格試験の問題に挑戦する。 | |
| 第10回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎1<br>Animatorの基本操作を理解する。 | |
| 第11回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎2<br>円盤を飛ばすアニメーションの作成により，モーショントゥイーンを理解する。 | |
| 第12回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎2<br>人を動かすアニメーションの作成により，部品ごとの動きによる少し凝ったアニメーションを理解する。 | |
| 第13回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎1<br>湯呑の制作により，3Dモデリングの基礎を理解する。 | |
| 第14回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎2<br>簡単な車の制作により，少し凝った3Dモデリングを理解する。 | |
| 第15回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎3<br>帽子，ハイヒールの制作により，3Dモデリングとレンダリングを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中の課題，作品などの完成度によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが，ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 資料を適宜配布して授業を進める予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マルチメディア 2クラス | | | 授業番号 | SG111B | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，デジタル画像の加工技術，アニメーション制作，３Ｄグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。<br>また，Photoshopクリエイター検定スタンダードおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | デジタル画像，アニメーション，３Ｄグラフィックスなどの演習を通して，マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより，マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Photoshop演習１：Photoshopの基本操作<br>起動・終了方法，ウィンドウとパネルの管理を理解する。 | |
| 第2回 | Photoshop演習２：選択範囲の作成<br>編集する部分の指定に必要な選択範囲の作成方法について，状況ごとに最適な方法を理解する。 | |
| 第3回 | Photoshop演習３：画像の移動と変形<br>移動ツールによる移動方法，変形（拡大/縮小・回転・ゆがみ・遠近法・ワープ）機能の適切な使用法を理解する。 | |
| 第4回 | Photoshop演習４：カラーモードと色調補正<br>画面に適したRGBと印刷に適したCMYKの特徴と色域の違い，その他カラーモード，色の基本と色選択の方法，色調補正の方法を理解する。 | |
| 第5回 | Photoshop演習５：ペイント<br>ブラシ系・スタンプ系ツールの様々な機能を理解する。 | |
| 第6回 | Photoshop演習６：レイヤー操作<br>レイヤーの仕組みと活用方法を理解する。 | |
| 第7回 | Photoshop演習７：パスとシェイプ，テキスト(入力と編集)<br>ドロー系ツールであるパスとシェイプの活用方法を理解しWeb用ロゴを作成する，テキストの利用方法を理解する。 | |
| 第8回 | Photoshop演習８：テキスト(文字の加工)，フィルター<br>テキストの加工方法と，様々なフィルターによる効果の違いと利用方法を理解する。 | |
| 第9回 | Photoshop演習９：画像の入出力，Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダードサンプル問題1<br>スキャナー・プリンターなどの入出力機器の特徴を理解する。資格試験の問題に挑戦する。 | |
| 第10回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎1<br>Animatorの基本操作を理解する。 | |
| 第11回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎2<br>円盤を飛ばすアニメーションの作成により，モーショントゥイーンを理解する。 | |
| 第12回 | AnimatorによるWebアニメーション制作の基礎2<br>人を動かすアニメーションの作成により，部品ごとの動きによる少し凝ったアニメーションを理解する。 | |
| 第13回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎1<br>湯呑の制作により，3Dモデリングの基礎を理解する。 | |
| 第14回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎2<br>簡単な車の制作により，少し凝った3Dモデリングを理解する。 | |
| 第15回 | MetasequoiaによるＳＤモデリングの基礎3<br>帽子，ハイヒールの制作により，3Dモデリングとレンダリングを理解する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中の課題，作品などの完成度によって評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが，ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 資料を適宜配布して授業を進める予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 音響メディア論 | | | 授業番号 | SG121 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 音を記録・保存する技術は近年高度な発達を見せている。この授業ではそのような記録・保存媒体としてのディジタル機器やその周辺機器について解説する。また，広い意味では楽器や声も音響メディアと言える。最近のディジタル楽器だけでなく，その発展過程の様々な機器や，楽器も含めて，その魅力や特徴について解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 音響機器・楽器について幅広く知識を持ってもらうことを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 音と音響について | |
| 第2回 | 各種メディアについての概要<br>音響に関する機器について大まかな概要を説明する | |
| 第3回 | 記録・保存媒体としての機器・メディア１<br>過去のメディア（アナログ機器）について | |
| 第4回 | 記録・保存媒体としての機器・メディア２<br>ディジタルということについて | |
| 第5回 | 記録・保存媒体としての機器・メディア３<br>CD・LD・DVDについて | |
| 第6回 | 記録・保存媒体としての機器・メディア４<br>圧縮・ハイレゾについて | |
| 第7回 | PAについて１<br>入力のためのマイクロフォンについて | |
| 第8回 | PAについて２<br>音の出口スピーカーシステムについて | |
| 第9回 | PAについて３<br>聞こえる音圧を出力するためのアンプリファイアについて | |
| 第10回 | PAについて４<br>ミキシング・配線について | |
| 第11回 | 楽器について１<br>主として減の振動を使用するもの | |
| 第12回 | 楽器について２<br>主として管を使用するもの | |
| 第13回 | 楽器について３<br>その他の楽器について | |
| 第14回 | 声・声楽について<br>他の楽器には真似のできない言語を表現できる声について | |
| 第15回 | その他，音響に関することと全体のまとめ<br>14回の授業で説明しきれなかったことの補足とまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 10 | 熱心な受講態度。 |
| レポート | 50 | レポートのテーマに対して調べた内容を自分の言葉で表現できていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。 |
| 小テスト | 40 | それぞれの分野毎に理解度を確認する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 扱うジャンルの幅が広いので，思考を柔軟にして受講すること。 |
| 授業外学修 | 新しい知識が多いと思うので，授業内で解説したことが定着するように復習することが大切である。以上の内容について週４時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | なし |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて授業内で紹介する。また，必要に応じて資料を配布する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブデザインA | | | 授業番号 | SG131 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Webサイト制作のために必須であるHTML・CSSコーディングの実践を行う。<br>中でもマークアップ言語として実用的なHTML5・CSS3の知識を学び，実際にWebサイトの構築を行う。<br>なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，<br>「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ウェブデザインの基礎知識の解説。 | |
| 第2回 | ウェブサイトが表示される仕組み，各言語の役割，デザインにおいてのルールなどの解説。 | |
| 第3回 | HTMLタグを使う意味，使用頻度の高いHTMLタグの解説。 | |
| 第4回 | HTMLコーディングによる基本ファイルの作成。 | |
| 第5回 | CSSの基本的な考え方と記述方法の習得，CSSリセットの記述。 | |
| 第6回 | ＜header＞ ＜/header＞から＜footer＞ ＜/footer＞の役割について解説。 | |
| 第7回 | 「ブロック」「入れ子」「インライン要素」「ブロック要素」について解説。 | |
| 第8回 | CSSへページ全体の指定，idとclassのCSSでの記述や画像アセットに関して解説。 | |
| 第9回 | ＜header＞ ＜/header＞・＜nav＞ ＜/nav＞のコーディング，marginやpaddingの解説。 | |
| 第10回 | ＜footer＞ ＜/footer＞のコーディング，jQueryを使用したスライドショーの解説・実装。 | |
| 第11回 | ＜article＞ ＜/article＞・＜div id="main"＞ ＜/main＞・＜aside＞ ＜/aside＞のコーディング，jQueryを使用した画像のポップアップ機能の解説・実装。 | |
| 第12回 | Web動画埋め込みの解説・実装。 | |
| 第13回 | スクロールアニメーションの解説・実装。 | |
| 第14回 | モバイル端末への表示最適化の手法「レスポンシブWebデザイン」について解説・実装。 | |
| 第15回 | レスポンシブWebデザインでのメニュー実装。講義のまとめ。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。 |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | HTML･CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。<br>そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，<br>各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し，<br>Webサイトコーディングの予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 龍弥デザイン |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | デジタルフォト | | | 授業番号 | SG212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 情報A | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業では，デジタルカメラのメカニズムや撮影テクニック，写真の加工技術などの基礎について学習する。具体的には，露出・構図・ホワイトバランス・ISO感度などの基礎知識，及び，デジタル写真の補正技術について学習する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | デジタルカメラの基礎知識の習得，また高度な写真撮影のスキルを取得することを到達目標とする。また，デジタル写真を通して，個々の持つ個性や感性を磨く。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | デジタル写真の基礎知識１（デジタルカメラのしくみ，レンズのメカニズム） | |
| 第2回 | デジタル写真の基礎知識２（絞り・シャッタースピード・露出） | |
| 第3回 | デジタル写真の基礎知識３（ホワイトバランス・ISO感度・測光方式） | |
| 第4回 | デジタル写真の基礎知識４（構図のテクニック） | |
| 第5回 | 場面別の撮影技術（風景，ポートレート，スナップ，商品，接写など） | |
| 第6回 | 写真撮影の実践１（静止している被写体を撮影する：絞り優先オートの撮影技術） | |
| 第7回 | 写真撮影の実践２（動いている被写体を撮影する：シャッタースピード優先オートの撮影技術） | |
| 第8回 | 写真撮影の実践３（ドローン，ジンバルを使用して撮影する） | |
| 第9回 | 撮影した写真の講評１ | |
| 第10回 | 撮影した写真の講評２ | |
| 第11回 | Lightroomによる写真補正１（基本操作） | |
| 第12回 | Lightroomによる写真補正２（写真補正の基礎） | |
| 第13回 | Lightroomによる写真補正３（写真補正の応用） | |
| 第14回 | Lightroomによる写真補正４（撮影データの補正１） | |
| 第15回 | Lightroomによる写真補正５（撮影データの補正２） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | 毎回の授業中の課題により評価を行う。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | フォト作品の出来栄えにより評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 写真に関する特別な知識や技術は必要ないが，本授業を通して少しでもデジタルカメラに対して興味を持ってもらえればと思っている。また本授業は講義科目ではあるが，写真撮影の演習も取り入れて授業を進めていく予定である。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>３）最終的な作品制作のために撮影の実践を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業の中で別途指示する。また必要に応じてWEBで教材を提供する予定である。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | コンピュータグラフィックス | | | 授業番号 | SG213 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | グラフィックデザイン制作で最も使用されるツールであるAdobe Illustratorの基礎技術習得および実践を行う。<br>具体的にはイラスト制作や画像のパーツ制作，さらに印刷物の作り方などをレクチャーする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | イラスト制作・画像のパーツ制作，さらに印刷物制作を実務レベルで習得することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション ／ lustratorができるコト・作るモノ・就くシゴト | |
| 第2回 | レイヤーについて ／ 人物イラストを描いてみよう | |
| 第3回 | Illustratorの基本操作を身に付けよう | |
| 第4回 | オブジェクトを操作しよう | |
| 第5回 | オブジェクトを描画しよう | |
| 第6回 | Illustratorで簡単に名刺を作ってみよう | |
| 第7回 | オブジェクトに配色や線の設定をしよう 前編 | |
| 第8回 | オブジェクトに配色や線の設定をしよう 後編 | |
| 第9回 | Illustratorで簡単にセールスタグを作ってみよう | |
| 第10回 | オブジェクトを変形しよう | |
| 第11回 | ペンツールでオブジェクトを描画しよう | |
| 第12回 | レイヤーを使おう | |
| 第13回 | 文字を入力・編集しよう | |
| 第14回 | 効果・アピアランス・グラフィックスタイルを使おう | |
| 第15回 | シンボル・ブレンド・ブラシを使おう | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| 授業課題の提出 | 40 | 授業課題によって各回の理解度を評価する。 |
| 小テスト | 30 | 小テストによって各回の理解度を評価する。 |
| | | |
| | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | Illustratorでの制作用途は多岐にわたっており，知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。<br>そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々なイラストの制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 今すぐ使えるかんたんIllustrator やさしい入門 | まきの ゆみ | 技術評論社 | 978-4297131241 | 2178 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 龍弥デザイン |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | コンピュータグラフィックス | | | 授業番号 | SG221 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本講座では，モデリング，レンダリングなどの２次元および３次元画像生成の基礎知識や，コンピュータアニメーション技術，画像合成などのコンピュータグラフィックス技術について学習する。<br>また，授業の内容にはCG検定の対策が含まれる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「イラストレータ」「フォトショップ」等のソフトを使い，コンピュータ上でデザインし，レイアウトを行う。<br>限られたスペースの中でどれだけ自分の感性が表現できるかがポイントとなる。<br>最終的にはデジタル画像を表現するテクニックについて修得することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス「コンピュータ・グラフィックスとは」 | |
| 第2回 | ２次元グラフィックスの基礎 ＜1＞ | |
| 第3回 | ２次元グラフィックスの基礎 ＜2＞ | |
| 第4回 | ３次元グラフィックスの基礎 ＜1＞ | |
| 第5回 | ３次元グラフィックスの基礎 ＜2＞ | |
| 第6回 | 「イラストレータ」「フォトショップ」の基本操作 | |
| 第7回 | 制作 ＜1＞ | |
| 第8回 | コンピュータアニメーション ＜1＞ | |
| 第9回 | コンピュータアニメーション ＜2＞ | |
| 第10回 | 制作 ＜2＞ | |
| 第11回 | 制作 ＜3＞ | |
| 第12回 | バーチャルリアリティ＜1＞ | |
| 第13回 | バーチャルリアリティ＜2＞ | |
| 第14回 | 知的所有権について | |
| 第15回 | 制作4＞とまとめ | |
| 授業計画　備考2 | 技術の修得を確認するために，制作時間を設ける。徐々に制作課題のレベルを上げていく。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な授業態度，予習・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 授業中の課題および最終課題（制作）で，計画的に制作に取り組めているか，作品づくりで技術の修得と理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | デザイン，ホームページ制作に興味のある学生。 |
| 授業外学修 | 1.予習として，授業計画に示した内容についてインターネット等で幅広い知識を得ておく。<br>2.復習として，授業中に出題する課題を行う。<br>3.最終課題提示後はその制作を行う。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要なものはプリントして配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | コンピュータミュージック | | | 授業番号 | SG222 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | かつて曲を作ることは限られた一部の人だけのものであった。現在ではコンピュータを使用することで，誰でも気軽に曲を作り楽しむことが出来るようになった。この授業ではコンピュータ上で音楽を作成することを学習する。具体的にはSinger song writerおよびボーカロイドの２種類のソフトウエアを使用し音楽を作成する。とは言え必要最小限の音楽的知識は必要であるので，音楽の知識（音楽理論）についても毎回少しずつ解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 自分の力で何らかの楽曲を作成出来ることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈技能〉の習得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 音（音楽）と楽譜の関係・楽譜の基礎知識<br>物理的な音を視覚的にとらえる様々な方法について | |
| 第2回 | 使用するソフトウエアについての基礎知識<br>授業で使用するSinger song writerとボーカロイドの概要について | |
| 第3回 | Singer song writerを使用した音楽作成１・音楽理論の解説１<br>とにかく入力してみよう（簡単な単旋律） | |
| 第4回 | Singer song writerを使用した音楽作成２・音楽理論の解説２<br>少し複雑な単旋律の入力 | |
| 第5回 | Singer song writerを使用した音楽作成３・音楽理論の解説３<br>複数パートの入力 | |
| 第6回 | Singer song writerを使用した音楽作成４・音楽理論の解説４<br>音楽表現のための様々な機能について | |
| 第7回 | Singer song writerを使用した音楽作成５・音楽理論の解説５<br>アレンジデータ機能を使った伴奏入力 | |
| 第8回 | Singer song writerを使用した音楽作成６・音楽理論の解説６<br>オーディオデータの取り扱いについて | |
| 第9回 | ボーカロイドを使用した音楽作成１・音楽理論の解説７<br>簡単な楽曲の入力 | |
| 第10回 | ボーカロイドを使用した音楽作成２・音楽理論の解説８<br>少し複雑な楽曲の入力 | |
| 第11回 | ボーカロイドを使用した音楽作成３・音楽理論の解説９<br>複数パートの処理について | |
| 第12回 | ボーカロイドを使用した音楽作成４・音楽理論の解説10<br>音楽表現のための様々な機能について | |
| 第13回 | Singer song writerとボーカロイドのデータ連結１<br>これまでに作成したデータを結合する（I回目） | |
| 第14回 | Singer song writerとボーカロイドのデータ連結２<br>これまでに作成したデータを結合する（２回目） | |
| 第15回 | 完成した作品の試演会<br>完成した楽曲を受講生同士で聞きあう | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | 50 | 音楽理論の理解度を評価する。 |
| その他 | 50 | 作品提出とし，提出された作品の完成度について評価する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 毎回の積み重ねで演習を行うため遅刻・欠席をしないよう気をつけること。やむを得ず遅刻・欠席をした場合は担当教員に聞くなどし，抜けている個所がないよう努力すること。 |
| 授業外学修 | 授業で配布する楽曲を，指定する範囲までを次回の授業までに完了させること。また，自由課題については授業外での学習（入力・編集作業）が多くなるため多くの時間を必要とする。以上の内容について週４時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて授業内で紹介する。また，打ち込みの素材となる楽曲を配布する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マルチメディア | | | 授業番号 | SG223 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業では，デジタル画像の加工技術，アニメーション制作，３Ｄグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。<br>また，Photoshopクリエイター検定スタンダードおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | デジタル画像，アニメーション，３Ｄグラフィックスなどの演習を通して，マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより，マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Photoshop演習１：Photoshopの基本操作 | |
| 第2回 | Photoshop演習２：選択範囲の作成 | |
| 第3回 | Photoshop演習３：画像の移動と変形 | |
| 第4回 | Photoshop演習４：カラーモードと色調補正，ペイント(ペイント系のツール) | |
| 第5回 | Photoshop演習５：ペイント(レタッチ系のツール，ペイント系のコマンド) | |
| 第6回 | Photoshop演習６：レイヤー操作 | |
| 第7回 | Photoshop演習７：パスとシェイプ，テキスト(入力と編集) | |
| 第8回 | Photoshop演習８：テキスト(文字の加工)，フィルター | |
| 第9回 | Photoshop演習９：画像の入出力，Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題1 | |
| 第10回 | Photoshop演習１０：Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題2 | |
| 第11回 | After Effectによるモーショングラフィックス1（特殊効果） | |
| 第12回 | After Effectによるモーショングラフィックス2（レンズフレア） | |
| 第13回 | After Effectによるモーショングラフィックス3（グローエフェクト） | |
| 第14回 | ３Ｄモデリングの応用１（やや複雑な車の制作） | |
| 第15回 | ３Ｄモデリングの応用２（人の顔の制作） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | 授業中の課題，作品など |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが，ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| PhotoshopクイックマスターCC | ウイネット | ウイネット | 987-4-87284-819-9 | 2600 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 古谷はテキストを使用する。福森・藤原はテキストは使用せず，パワーポイントを使用して授業を進める予定である。また，必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブデザインB | | | 授業番号 | SG232 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ウェブデザインの現場における，企画からデザインまでの流れを明らかにする。その際，Adobe Photoshopなどのウェブデザインツールを使用し，Webサイトのデザイン制作を効率よく進めるための演習を行う。<br>なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ウェブデザインの現場における，企画からデザインまでの流れを理解し，実践できるようになる。<br>Photoshopの活用により，ユーザーの方針の変更やニーズの変化などに機敏に対応でき，高いクオリティと効率の良いデザインが行えるようになる。<br>本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ウェブデザインツール<br>ウェブ制作を効率的に行うために，ウェブデザインソフトウェアの利便性・重要性を理解する。 | |
| 第2回 | ウェブデザインのワークフロー<br>ヒアリング＞プランニング＞制作金額の見積もり＞ページデザイン・修正作業の流れと注意点を理解する。 | |
| 第3回 | タイプ別ウェブデザイン<br>タイプ（コーポレートサイト，プロモーション・ブランディングサイト，ランディングページ，ネット通販サイト，ポータルサイト）別のウェブデザインの特徴・注意点を理解する。 | |
| 第4回 | デザインラフの制作<br>手書きデザインラフを，クライアントの業種・どんなサービスを提供しているか・メインターゲットの3点を元に方針決定し制作する。 | |
| 第5回 | ワイヤーフレームの制作<br>事例を参考に，ワイヤーフレームの意義を理解しデザインラフを元に制作する。 | |
| 第6回 | レイアウト<br>何をどこにどうやって配置するかを設計するレイアウトの手法（主役，視線誘導，余白，近接，整列，コントラスト，反復）を理解し実践する。 | |
| 第7回 | 配色<br>色の基本と，メインカラー・ベースカラー・アクセントカラーを理解する。 | |
| 第8回 | UIデザイン・UXデザイン・ユーザビリティ<br>それぞれの用語の意味と留意点について理解する。 | |
| 第9回 | 演習1<br>前回までの内容について課題演習を行う。 | |
| 第10回 | Photoshopの基本1<br>レイヤーの使い方，切り抜き手法を理解する。 | |
| 第11回 | Photoshopの基本2<br>文字の調整・文字デザインの手法と留意点を理解する。 | |
| 第12回 | ページデザインのテイスト別の特徴<br>テイスト別（シンプル・ミニマルテイスト，ナチュラルテイスト，ポップ・キッズテイスト，和風テイスト）のデザインの特徴を理解する。 | |
| 第13回 | ウェブバナー<br>バナーの役割と制作工程（要件定義，原稿のパーツ分けと整理， 情報の優先順位づけ，レイアウト作業，画像素材，装飾）を理解する。 | |
| 第14回 | バナーデザインの実践<br>Photoshopによりバナーデザインを実践する。 | |
| 第15回 | バナーデザインの実践2<br>前回に続き，バナーデザインを完成させる。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。<br>そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってWebデザインのアーカイブサイトを閲覧し，Webサイトデザインの予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜資料をWebにて閲覧可能にする。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブデザインB | | | 授業番号 | SG242 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorを使用し,<br>Webサイトのデザイン制作を効率よく進めるための実践を行う。<br><br>なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため,<br>「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | Abobe Photoshop，Adobe Illustratorを使ったデザイン,<br>特にWebサイトデザインの際に各々がクオリティの高いデザインを作るための効率の向上を目指す。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Photoshopの基本設定 | |
| 第2回 | トップページデザインラフの制作　その１ | |
| 第3回 | トップページデザインラフの制作　その２ | |
| 第4回 | ワイヤーフレームの制作　その１ | |
| 第5回 | ワイヤーフレームの制作　その２ | |
| 第6回 | デザイン起こし技術習得　その１ | |
| 第7回 | デザイン起こし技術習得　その２ | |
| 第8回 | デザイン起こし技術習得　その３ | |
| 第9回 | デザイン起こし技術習得　その４ | |
| 第10回 | デザイン起こし技術習得　その５ | |
| 第11回 | デザイン起こし技術習得　その６ | |
| 第12回 | デザイン起こし技術習得　その７ | |
| 第13回 | デザイン起こし技術習得　その８ | |
| 第14回 | デザイン起こし技術習得　その９ | |
| 第15回 | 最終課題の提出・まとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。<br>そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，<br>各々が時間をとってWebデザインのアーカイブサイトを閲覧し，<br>Webサイトデザインの予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブプログラミング演習 | | | 授業番号 | SG243 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ウェブページ上で動きのある画面を作り出すJavaScriptなどのウェブページ上のスクリプト言語などを使って行う動的表現の実現方法と，プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現する実践演習によって学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | JavaScriptなどを使って動的表現の実現方法を理解し，プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | Webページの基本(開発環境，Webサーバ・クライアント，HTML5，CSS3，デバッグ)<br>予・復習：1章 | |
| 第2回 | JavaScriptの基本文法（変数，条件文）<br>予・復習：2章(1～5) | |
| 第3回 | JavaScriptの基本文法（繰り返し）<br>予・復習：2章(6) | |
| 第4回 | JavaScriptの基本文法（配列）<br>予・復習：2章(7) | |
| 第5回 | JavaScriptの基本文法（関数）<br>予・復習：2章(8) | |
| 第6回 | JavaScriptによるWebページ処理1（DOM操作1）<br>予・復習：3章(1) | |
| 第7回 | JavaScriptによるWebページ処理2（DOM操作2）<br>予・復習：3章(2) | |
| 第8回 | Webアプリの作成－表示機能（カレンダー表示1）<br>予・復習：4章(1～2) | |
| 第9回 | Webアプリの作成－表示機能（カレンダー表示2）<br>予・復習：4章(3) | |
| 第10回 | Webアプリの作成－表示機能（日付選択，設定）<br>予・復習：4章(4～5) | |
| 第11回 | Webアプリの作成－保存機能（Web Storage）<br>予・復習：5章(1～3) | |
| 第12回 | Webアプリの作成－保存機能（データベース，データ追加・更新）<br>予・復習：5章(4～6) | |
| 第13回 | Webアプリの作成－保存機能（検索・削除，その他）<br>予・復習：5章(7～9) | |
| 第14回 | ライブラリの利用（jQuery）<br>予・復習：6章(1～3) | |
| 第15回 | ライブラリの利用（jQuery UI）<br>予・復習：6章(4) | |
| 授業計画　備考2 | JavaScriptを中心に学ぶ事は変えないが，変化がはやい分野なので必要に応じてテキストと授業計画を変更する。変更する場合は履修登録時および第1回目の授業で連絡する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 提示した問題に対して意図した動作をするプログラムを作成しレポートにまとめられること。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. メディアフィールド（ウェブデザイン）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず熟読し，例題を入力・動作確認しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。<br>2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し，授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・実習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。<br>3. 複数回のレポート課す。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 30時間アカデミック JavaScript入門 | 大川晃一ほか | 実教出版 | 978-4-407-34778-4 | 1800 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | インタラクティブなウェブページを実現するプログラミング技術を指導する。 |

| 科目名 | 映像制作演習 B | | | 授業番号 | SG313 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 藤原　美佳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 映像制作演習 A で学んだスキルを活かして，グループでテレビ番組のコンテンツ制作を行う。<br>なお，制作したコンテンツの一部を実際にテレビ番組で放送する予定である。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 高度な撮影技法およびAdobe Premiereを用いた高度な編集技法を修得する。<br>テレビ番組のコンテンツ制作を通して，実践的なスキルを修得する。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | テレビ番組のコンテンツのための企画書の作成 | |
| 第2回 | テレビ番組のコンテンツのための撮影技術，ロケのテクニック | |
| 第3回 | 作品例の検討 | |
| 第4回 | （実践編）テーマの設定 | |
| 第5回 | （実践編）企画書・構成表の作成 | |
| 第6回 | （実践編）ロケ・撮影の実際１ | |
| 第7回 | （実践編）ロケ・撮影の実際２ | |
| 第8回 | （実践編）ロケ・撮影の実際３ | |
| 第9回 | （実践編）編集の実際１ | |
| 第10回 | （実践編）編集の実際２ | |
| 第11回 | （実践編）編集の実際３ | |
| 第12回 | （実践編）作品のプレビュー | |
| 第13回 | （実践編）考査・修正過程 | |
| 第14回 | （実践編）作品の完成 | |
| 第15回 | 作品の講評 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 40 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 60 | 作品を提出する。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 映像制作について興味を持って，楽しみながら取り組んでください。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。<br>以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，必要に応じてプリントを配布する。また，Classroomにより，授業で使用した資料を配信する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜指示をする。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 情報メディア論 | | | 授業番号 | SG314 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 本授業は，「情報」や「メディア」に関して正しい知識も用いて常にシーン・ケースにふさわしい「読み取り」や「発信」ができるようなメディアリテラシーの育成を目的とし，「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」についても解説していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 「情報」や「メディア」に関して正しい知識を得ることで，便利なものを活用する知識や危険なものから身を守るため，自分のみならず他人にも伝えられるリテラシーを身に付けてほしい。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション／「情報」とは | |
| 第2回 | 「メディア」とは | |
| 第3回 | メディアリテラシー その1 | |
| 第4回 | メディアリテラシー その2 | |
| 第5回 | メディアリテラシー その3 | |
| 第6回 | メディアリテラシー その4 | |
| 第7回 | メディアリテラシー まとめ | |
| 第8回 | 検索について・仕方 | |
| 第9回 | 知的財産権 | |
| 第10回 | 個人情報 | |
| 第11回 | サイバー犯罪 | |
| 第12回 | マルウェア | |
| 第13回 | 情報技術の発展 | |
| 第14回 | これまで・これからの情報メディア 前編 | |
| 第15回 | これまで・これからの情報メディア 後編 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| 定期試験 | 70 | 授業での解説を正しく理解できているかを評価する。 |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 授業は講師が作成したマインドマップツールを使用して進めていく。豊富かつ多岐にわたる内容であるため，専用のノートを用意し受講する必要がある。 |
| 授業外学修 | 情報メディアに関する内容を理解するため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって「情報」「メディア」「テクノロジー」のカテゴリのニュース記事などを検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 情報メディア論 | | | 授業番号 | SG315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業は，インターネット・ＳＮＳ，ロボット・人工知能，映像・放送，地球・宇宙などの内容について学修する。<br>現在，ソーシャルメディアの台頭によって新聞・出版・放送といったメディアは構造改革を迫られている。メディアの現状と未来について考察するため，まずはインターネットの社会的な役割などについて考察する。また，ロボットや人工知能の急速な普及に対応するために，それらの現状及び役割・問題点・今後の課題などについて考察する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | インターネット，人工知能，ロボット，テレビ，宇宙などについての原理的な把握を行い，今後の展望について分析することができるようになる。<br>本講義では，メディアの特性およびメディアが伝える情報の内容を正しく理解した上で，具体例を通じて各自のメディア・リテラシーを高めていく。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | インターネットの社会的役割 | |
| 第2回 | ソーシャルネットワークの現状と問題点 | |
| 第3回 | インターネットトラブル・コンピュータウィルス | |
| 第4回 | 人とロボットの共存について考える | |
| 第5回 | ロボット・人工知能とは？ | |
| 第6回 | 機械学習とＡＩ | |
| 第7回 | ニューラルネットワークとディープラーニング | |
| 第8回 | ロボット，ＡＩの今後の展望 | |
| 第9回 | テレビの社会的な役割と問題点 | |
| 第10回 | テレビの番組制作技法について | |
| 第11回 | テレビ業界の今後の展望 | |
| 第12回 | 地球の誕生とその歴史を知り，近未来について考える | |
| 第13回 | 宇宙及び太陽系について知る | |
| 第14回 | 宇宙技術の今後の展望 | |
| 第15回 | これからのメディアの役割と展望 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | インターネット社会においてメディアとの関わり方は変化しつつあります。<br>現代の社会状況やメディア全般について理解を深め，少しでも関心を持っていただくことを期待します。 |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，情報収集し，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，パワーポイントや映像を用いて授業を進める。また，必要に応じてプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で適宜紹介する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マルチメディア演習 B | | | 授業番号 | SG322 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Adobe After Effectの体系的な知識・操作を身に付けることを目的とし，全15回の授業の前半では基礎・応用的な内容の理解を深め，動画制作の基本を身に付ける。さらに後半ではオリジナル作品の制作を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | モーショングラフィックスなどのやや高度な応用的な技術の習得を目標とする。また作品制作を通して，実践的なスキルアップを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | After Effectsを使う前の準備 | |
| 第3回 | 背景を作ろう | |
| 第4回 | タイトルを作ろう 前編 | |
| 第5回 | タイトルを作ろう 後編 | |
| 第6回 | テロップを作ろう 前編 | |
| 第7回 | テロップを作ろう 後編 | |
| 第8回 | 場面転換を作ろう 前編 | |
| 第9回 | 場面転換を作ろう 後編 | |
| 第10回 | 立体的なアニメーションを作ろう 前編 | |
| 第11回 | 立体的なアニメーションを作ろう 後編 | |
| 第12回 | 動画を書き出そう 前編 | |
| 第13回 | 動画を書き出そう 後編 | |
| 第14回 | オリジナル作品制作 | |
| 第15回 | オリジナル作品制作 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| 授業課題の提出 | 40 | 授業課題によって各回の理解度を評価する。 |
| 小テスト | 30 | 小テストによって各回の理解度を評価する。 |
| | | |
| | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | After Effectsはモーション・グラフィックス，タイトル制作などを得意としたツールであるため、参考となる作品はYoutubeをはじめとした動画アーカイブサイトに多数存在している。そのため授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々な動画制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| デザインの学校 これからはじめる After Effectsの本 [改訂2版] | マウンテンスタジオ 佐藤太郎・中薗洸太 | 技術評論社 | 978-4297124151 | 2970 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブデザイン演習 | | | 授業番号 | SG333 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ウェブデザインについて学んできたことの集大成として，前半は事例演習によるウェブページ制作をおこない，後半ではオリジナルウェブサイト作品の企画・制作を行う。<br>最後に鑑賞会を行い，他者の作品を評価するとともに，自作品の一連の制作過程と制作分の振り返りと課題に向き合う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 実践の場面で，身につけてきた専門知識とスキルを発揮し，ユーザーのニーズを把握して，具体的なウェブサイトの作品制作を行うことができる。<br>ウェブサイトの作品制作，ウェブコンテンツ制作の課題を他者にわかりやすく説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 事例演習：要求定義とデザインカンプ<br>ロールプレイにより要求定義を行い，ページの構成とデザインカンプを作成する。 | |
| 第2回 | 事例演習：ワイヤーフレームの制作<br>Photoshopによりトップページのワイヤーフレームを制作する。 | |
| 第3回 | 事例演習：デザイン1<br>Photoshopによりトップページのデザイン制作を行う。 | |
| 第4回 | 事例演習：デザイン2<br>前回に続きPhotoshopによりトップページのデザイン制作を行う。 | |
| 第5回 | 事例演習：画像アセット<br>Photoshopのデザイン画像の自動書き出し機能により画像部品をそろえる。 | |
| 第6回 | 事例演習：HTMLコーディング<br>トップページのHTMLコーディングを行う。 | |
| 第7回 | 事例演習：パソコン表示用のCSSコーディング<br>トップページのパソコン表示用のCSSコーディングを行う | |
| 第8回 | 事例演習：スマートフォン表示用のCSSコーディング<br>トップページのスマートフォン表示用のCSSコーディングを行い，トップページを完成させる。 | |
| 第9回 | 作品制作：企画と要求定義<br>オリジナル作品の企画と要求定義を行う。 | |
| 第10回 | 作品制作：デザインカンプの制作<br>ページの構成と全ページの手書きデザインカンプを制作する。 | |
| 第11回 | 作品制作：ワイヤーフレームの制作<br>Photoshopにて全ページのワイヤーフレームを制作する。 | |
| 第12回 | 作品制作：デザイン<br>Photoshopにて全ページのデザインを制作する。 | |
| 第13回 | 作品制作：デザイン＆コーディング<br>前回の続きとHTML・CSSのコーディングを行う。 | |
| 第14回 | 作品制作：コーディング＆テスト・デバッグ<br>前回コーディングの続きと複数ブラウザでのテスト・デバッグを行う。 | |
| 第15回 | 作品制作：作品鑑賞と評価<br>他人の作品の鑑賞・評価と，自身の作品の振り返りと課題を明らかにする。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 70 | オリジナル作品の成果物の出来栄えにより評価する。他学生からの評価も含む。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | 以下のとおり授業外学修を行うこと。<br>事例演習時：<br>予習は授業計画で示した内容に該当する過去のウェブデザインの授業の振り返りを週あたり2時間以上<br>復習は授業で行った内容を，次のオリジナル作品の制作に生かせるよう理解することに週あたり2時間以上<br>作品制作時：<br>オリジナル作品制作を，スケジュールどおり進め，クオリティを上げることに，週あたり4時間以上 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ウェブアプリ開発 | | | 授業番号 | SG334 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 古谷　俊爾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | ウェブ技術を活用した，動的表現（インタラクティブ性）をもつアプリケーションの実現方法を学ぶ。フロントエンド（クライアントサイド）とバックエンド（サーバサイド）の両方のプログラミング技術を，事例演習により説明し課題演習によりスキルを高める。使用言語は，Webの基本であるHTML・CSSに加えJavaScript・Pythonを使用する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのフロントエンド技術を活用できる。<br>2.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのバックエンドの技術を活用できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ウェブサイトにおける動的表現<br>動的表現（インタラクティブ性）で実現されている事例を理解する。<br>フロントエンド（クライアントサイド）技術とバックエンド（サーバサイド）技術の違いを理解する。 | |
| 第2回 | フロントエンド：ライブラリ・プラグインの活用<br>jQueryライブラリ，JQueryプラグイン(slickなど)を活用して，少ないコーディングでスライドショー・ハンバーガーボタン・アコーディオンメニューが実現できることを理解する。 | |
| 第3回 | フロントエンド：HTML(フォーム)<br>INPUT要素など，フォーム部品の種類と利用方法を理解する。 | |
| 第4回 | フロントエンド：JavaScriptによるフォーム入力値の利用<br>JavaScript言語でフォーム部品に入力された値を利用する方法を理解する(DOMの理解)。計算アプリなどの作成。 | |
| 第5回 | フロントエンド：JavaScriptによるタイマーの利用<br>JavaScript言語のタイマー機能の活用方法を理解する。アニメーションアプリなどの作成。 | |
| 第6回 | フロントエンド：JavaScriptによるデータ保存(WebStorage)の利用<br>JavaScript言語によるWebStorageへのデータ保存機能の活用方法を理解する。LocalStorageとSessionStorageの違いを理解する。<br>メモアプリの作成。 | |
| 第7回 | バックエンド：開発環境の構築<br>Visual Studio CodeとPython言語による開発環境の構築を行う。また，PythonのWebアプリケーションフレームワーク「Flask」（フラスク）を利用可能にする。 | |
| 第8回 | バックエンド：Flaskの基本<br>Flaskを利用するための最低限のPythonコーディングを理解する。ルーティングの設定，Webサーバの起動方法，Webブラウザでの確認方法を理解する。 | |
| 第9回 | バックエンド：テンプレートと静的ファイル<br>Flaskにおけるtemplatesフォルダとstaticフォルダの意味，テンプレートの活用方法を理解する。 | |
| 第10回 | バックエンド：フォームデータの取得<br>フォームデータを取得し，別ページに表示したりファイルに保存したり出来ることを理解する。 | |
| 第11回 | バックエンド：新着情報ページの作成<br>新着情報を投稿しWebページに表示できるアプリを作成する。 | |
| 第12回 | バックエンド：データベースの活用1<br>SQLAlchemy，SQLiteの基本的な使い方を理解する。 | |
| 第13回 | バックエンド：データベースの活用2<br>新着情報ページのデータベース化を行う。 | |
| 第14回 | バックエンド：Webチャットアプリの作成<br>各自でWebチャットアプリを設計・作成する。 | |
| 第15回 | 総合：更に学ぶ為の材料<br>フロントエンドフレームワーク「Bootstrap」，Webアプリケーションフレームワーク「Django」など，更に学ぶ際に必要となる情報を知る。 | |
| 授業計画　備考2 | 変化がはやい分野なので必要に応じてライブラリやフレームワークを変更する。変更する場合は履修登録時および第1回目の授業で連絡する。 | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 提示した問題に対して意図した動作をするWebページを作成しレポートにまとめられること。総評は授業で伝えるが，個別に改善点が知りたい場合は問い合わせにより回答する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 1. メディアフィールド（ウェブデザイン）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。<br>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。<br>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。 |
| 授業外学修 | 1. 予習として，授業計画で示した内容をWebで事前に調べておくこと。余力があれば，「入門」「チュートリアル」などのキーワードとともに検索し実際にコーディングしてみることをお勧めする。個人差はあるが予習の目安は各回につき2時間である。<br>2. 復習として，授業で行った内容を再度自分で作成すること。余力があれば，改良を施したり設計から行ってみることをお勧めする。個人差はあるが復習の目安は各回につき2時間である。<br>3. 複数回のレポート課す。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 使用しない。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 必要に応じて授業で示す。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | システムエンジニア |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | インタラクティブなウェブページを実現するプログラミング技術を指導する。 |

| 科目名 | ウェブデザイン演習 | | | 授業番号 | SG344 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | Webサイト制作のために必須であるHTML・CSSコーディングの実践を行う。<br>中でもマークアップ言語として実用的なHTML5・CSS3の知識を学び，実際にWebサイトの構築を行う。<br>なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，<br>「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ウェブデザインの基礎知識の解説。 | |
| 第2回 | ウェブサイトが表示される仕組み，各言語の役割，デザインにおいてのルールなどの解説。 | |
| 第3回 | HTMLタグを使う意味，使用頻度の高いHTMLタグの解説。 | |
| 第4回 | HTMLコーディングによる基本ファイルの作成。 | |
| 第5回 | CSSの基本的な考え方と記述方法の習得，CSSリセットの記述。 | |
| 第6回 | ＜header＞ ＜/header＞から＜footer＞ ＜/footer＞の役割について解説。 | |
| 第7回 | 「ブロック」「入れ子」「インライン要素」「ブロック要素」について解説。 | |
| 第8回 | CSSへページ全体の指定，idとclassのCSSでの記述や画像アセットに関して解説。 | |
| 第9回 | ＜header＞ ＜/header＞・＜nav＞ ＜/nav＞のコーディング，marginやpaddingの解説。 | |
| 第10回 | ＜footer＞ ＜/footer＞のコーディング，jQueryを使用したスライドショーの解説・実装。 | |
| 第11回 | ＜article＞ ＜/article＞・＜div id="main"＞ ＜/main＞・＜aside＞ ＜/aside＞のコーディング，jQueryを使用した画像のポップアップ機能の解説・実装。 | |
| 第12回 | Web動画埋め込みの解説・実装。 | |
| 第13回 | スクロールアニメーションの解説・実装。 | |
| 第14回 | モバイル端末への表示最適化の手法「レスポンシブWebデザイン」について解説・実装。 | |
| 第15回 | レスポンシブWebデザインでのメニュー実装。講義のまとめ。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。 |
| 授業外学修 | HTML･CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。<br>そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，<br>各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し，<br>Webサイトコーディングの予備知識を得ること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 講師のブログ「WEB CRE8TOR」（http://webcre8tor.com/） |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 授業の中で，適宜紹介していく。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営学概論 | | | 授業番号 | SM111 | サブタイトル | 経営学の基礎を学ぶ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 経営に必要な諸資源は，ヒト，モノ，カネ，情報，であると言われるように，これらの諸資源をどう活用するかが成功の鍵となる。本講義では，この点の基礎を学びつつ，企業がいかなる問題に直面してきたかを，またそれに向けてどう取り組んできたかを学ぶ。また，基礎的な知識の修得のみならず多面的に捉えることの重要性やその醍醐味を理解することができる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・諸資源の活用について，その重要性を論理的・学術的に説明できる。<br>・企業組織の仕組みや直面している課題について，その概要を的確に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(1) | |
| 第2回 | 法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(2) | |
| 第3回 | 財務諸表・財務管理(1)：損益計算書と貸借対照表の基本 | |
| 第4回 | 財務諸表・財務管理(2)：損益計算書と貸借対照表の基本 | |
| 第5回 | 科学的管理，大量生産，生産管理(1) | |
| 第6回 | 科学的管理，大量生産，生産管理(2) | |
| 第7回 | 組織(1)：近代組織論，組織の形態 | |
| 第8回 | 組織(2)：近代組織論，組織の形態 | |
| 第9回 | 人事労務管理・人的資源管理(1) | |
| 第10回 | 人事労務管理・人的資源管理(2) | |
| 第11回 | マーケティング(1) | |
| 第12回 | マーケティング(2) | |
| 第13回 | 情報管理・経営情報(1) | |
| 第14回 | 情報管理・経営情報(2) | |
| 第15回 | 企業の社会的責任とSDGs(Sustainable Development Goals) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 50 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。<br>・「よくわかる現代経営」編集委員会，編 『よくわかる現代経営[第6版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』ミネルヴァ書房，2021年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎簿記Ａ | | | 授業番号 | SM121 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。<br>内容としては，本科目と「基礎簿記演習A」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「基礎簿記演習A」とセットで講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 簿記の基礎（テキスト：01） | |
| 第2回 | 日常の手続き（テキスト：02） | |
| 第3回 | 商品売買I（テキスト：03） | |
| 第4回 | 商品売買II（テキスト：04） | |
| 第5回 | 現金・預金（テキスト：05） | |
| 第6回 | 小口現金（テキスト：06） | |
| 第7回 | クレジット売掛金（テキスト：07） | |
| 第8回 | 手形取引（テキスト：08） | |
| 第9回 | 電子記録債権・債務（テキスト：09） | |
| 第10回 | さまざまな帳簿の関係（テキスト：10） | |
| 第11回 | その他の取引I（テキスト：11） | |
| 第12回 | その他の取引II（テキスト：12） | |
| 第13回 | その他の取引III（テキスト：13） | |
| 第14回 | 訂正仕訳（テキスト：14） | |
| 第15回 | ここまでの学修内容のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第10回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第10回】の授業時に行う小テスト（30分）：基本的な取引の仕訳ルールの理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：やや複雑な取引の仕訳ルールの理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの基本例題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記3級（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎簿記演習 A | | | 授業番号 | SM122 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。<br>内容としては，本科目と「基礎簿記A」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「基礎簿記A」とセットで講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 簿記の基礎（テキスト：01） | |
| 第2回 | 日常の手続き（テキスト：02） | |
| 第3回 | 商品売買I（テキスト：03） | |
| 第4回 | 商品売買II（テキスト：04） | |
| 第5回 | 現金・預金（テキスト：05） | |
| 第6回 | 小口現金（テキスト：06） | |
| 第7回 | クレジット売掛金（テキスト：07） | |
| 第8回 | 手形取引（テキスト：08） | |
| 第9回 | 電子記録債権・債務（テキスト：09） | |
| 第10回 | さまざまな帳簿の関係（テキスト：10） | |
| 第11回 | その他の取引I（テキスト：11） | |
| 第12回 | その他の取引II（テキスト：12） | |
| 第13回 | その他の取引III（テキスト：13） | |
| 第14回 | 訂正仕訳（テキスト：14） | |
| 第15回 | ここまでの学修内容のまとめ | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第10回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第10回】の授業時に行う小テスト（30分）：基本的な取引の仕訳ルールの理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：やや複雑な取引の仕訳ルールの理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 復習として，配布したプリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記3級（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 現代企業論 | | | 授業番号 | SM212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「株式会社とは何か」 極めて多くの人が株式会社に雇用され，生計の糧を得ている。また，ほぼ全ての人がそこで生み出された財やサービスを使っている。言い換えると，株式会社の経営の良し悪しが多くの人々の暮らしに影響を与えている。本講義では，株式会社を多面的に捉えることを通して，受講者が現代企業の仕組みと影響を，法的，論理的，学術的に理解し，説明できることを目的としている。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・現代企業の仕組みを説明できる。<br>・コーポレート・ガバナンスの実態を説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 法人の分類と会社の形態，株式・株式会社とは(1)――法の観点から―― | |
| 第2回 | 法人の分類と会社の形態，株式・株式会社とは(2)――法の観点から―― | |
| 第3回 | 法人の分類と会社の形態，株式・株式会社とは(3)――法の観点から―― | |
| 第4回 | 会社は誰のものか？(1) 株主，株主総会，取締役，取締役会，監査役，監査役会，など。 | |
| 第5回 | 会社は誰のものか？(2) 株主，株主総会，取締役，取締役会，監査役，監査役会，など。 | |
| 第6回 | 会社は誰のものか？(3) 株主，株主総会，取締役，取締役会，監査役，監査役会，など。 | |
| 第7回 | 上場と未上場，証券取引所と証券会社，M&A(1) | |
| 第8回 | 上場と未上場，証券取引所と証券会社，M&A(2) | |
| 第9回 | 上場と未上場，証券取引所と証券会社，M&A(3) | |
| 第10回 | 大・中・小企業の相違，事業持株制，純粋持株制，系列(ケイレツ)，グループ，下請け，ベンチャー(1) | |
| 第11回 | 大・中・小企業の相違，事業持株制，純粋持株制，系列(ケイレツ)，グループ，下請け，ベンチャー(2) | |
| 第12回 | 大・中・小企業の相違，事業持株制，純粋持株制，系列(ケイレツ)，グループ，下請け，ベンチャー(3) | |
| 第13回 | 企業経営の目的，官僚制，階層制(1) | |
| 第14回 | 企業経営の目的，官僚制，階層制(2) | |
| 第15回 | 企業経営の目的，官僚制，階層制(3) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。また，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・坂本恒夫，大坂良宏，鳥居陽介『テキスト 現代企業論(第4版) 』同文舘出版。<br>・三戸浩，池内秀己勝部伸夫，『企業論 第4版』有斐閣アルマ，2018年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎簿記Ｂ | | | 授業番号 | SM221 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。<br>内容としては，本科目と「基礎簿記演習B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「基礎簿記演習B」とセットで講義を進める。<br>なお，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであることを前提としている。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 試算表，決算（テキスト：15，16） | |
| 第2回 | 決算整理I（現金過不足）（テキスト：17） | |
| 第3回 | 決算整理II（貯蔵品，当座借越）（テキスト：18） | |
| 第4回 | 決算整理III（売上原価）（テキスト：19） | |
| 第5回 | 決算整理IV（貸倒れ）（テキスト：20） | |
| 第6回 | 決算整理V（減価償却）（テキスト：21） | |
| 第7回 | 決算整理VI（経過勘定項目）（テキスト：22） | |
| 第8回 | 決算整理後残高試算表（テキスト：23） | |
| 第9回 | 精算表（テキスト：24） | |
| 第10回 | 帳簿の締め切り（英米式決算）（テキスト：25） | |
| 第11回 | 損益計算書と貸借対照表（テキスト：26） | |
| 第12回 | 株式の発行（テキスト：27） | |
| 第13回 | 剰余金の配当と処分（テキスト：28） | |
| 第14回 | 税金（テキスト：29） | |
| 第15回 | 証ひょうと伝票（テキスト：30） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第11回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第11回】の授業時に行う小テスト（30分）：決算整理仕訳の理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：株式会社会計の基礎に関する理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの基本例題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記3級（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 「基礎簿記A」のテキストを継続して使用する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 基礎簿記演習 B | | | 授業番号 | SM222 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。<br>内容としては，本科目と「基礎簿記B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「基礎簿記B」とセットで講義を進める。<br>なお，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであることを前提としている。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 試算表，決算（テキスト：15，16） | |
| 第2回 | 決算整理I（現金過不足）（テキスト：17） | |
| 第3回 | 決算整理II（貯蔵品，当座借越）（テキスト：18） | |
| 第4回 | 決算整理III（売上原価）（テキスト：19） | |
| 第5回 | 決算整理IV（貸倒れ）（テキスト：20） | |
| 第6回 | 決算整理V（減価償却）（テキスト：21） | |
| 第7回 | 決算整理VI（経過勘定項目）（テキスト：22） | |
| 第8回 | 決算整理後残高試算表（テキスト：23） | |
| 第9回 | 精算表（テキスト：24） | |
| 第10回 | 帳簿の締め切り（英米式決算）（テキスト：25） | |
| 第11回 | 損益計算書と貸借対照表（テキスト：26） | |
| 第12回 | 株式の発行（テキスト：27） | |
| 第13回 | 剰余金の配当と処分（テキスト：28） | |
| 第14回 | 税金（テキスト：29） | |
| 第15回 | 証ひょうと伝票（テキスト：30） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第11回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第11回】の授業時に行う小テスト（30分）：決算整理仕訳の理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：株式会社会計の基礎に関する理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 復習として，配布したプリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記3級（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 簿記演習Ｃ | | | 授業番号 | SM223 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 日商簿記検定3級の合格に必要となる知識とhow toを説明する。<br>2級受験希望者の質問等にも対応する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日商簿記検定3級に準じた演習問題に取り組むことにより，実際の試験に対応するための応用力を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 「基礎簿記Ａ」「基礎簿記演習A」，「基礎簿記B」「基礎簿記演習B」を履修済みであることを前提に講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 日商簿記検定試験について理解する | |
| 第2回 | 【第１問】対策I（期中取引） | |
| 第3回 | 【第１問】対策II（期中取引２） | |
| 第4回 | 【第１問】対策III（決算整理仕訳） | |
| 第5回 | 【第１問】対策IV（株式会社会計） | |
| 第6回 | 【第１問】対策V（税金，その他） | |
| 第7回 | 【第２問】対策I（補助簿） | |
| 第8回 | 【第２問】対策II（勘定記入） | |
| 第9回 | 【第２問】対策III（その他） | |
| 第10回 | 【第３問】対策I（精算表文章問題） | |
| 第11回 | 【第３問】対策II（精算表文章問題２） | |
| 第12回 | 【第３問】対策III（精算表空欄記入問題） | |
| 第13回 | 【第３問】対策IV（決算整理後試算表作成問題） | |
| 第14回 | 【第３問】対策V（財務諸表作成問題） | |
| 第15回 | 総合問題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第6回】【第9回】【第14回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第6回】の授業時に行う小テスト（30分）：【第１問】予想問題（40%）<br>【第9回】の授業時に行う小テスト（10分）：【第２問】予想問題（10%）<br>【第14回】の授業時に行う小テスト（50分）：【第３問】予想問題（50%） |
| 受講の心得 | 授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの基本例題と配布プリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 毎回，演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記3級（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファイナンシャルプランA | | | 授業番号 | SM231 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | ファイナンシャルプランとは，人生設計（ライフプラン）の経済的側面を計画することであるといえる。<br>本科目では，年金，保険，ローン，金融資産，不動産，税金，相続等，ファイナンシャルプランに関連する基礎的な知識を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，ファイナンシャルプランに関する基本的な知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ライフプランニングと資金計画　FPと倫理 | |
| 第2回 | ライフプランニングと資金計画　社会保険 | |
| 第3回 | ライフプランニングと資金計画　公的年金 | |
| 第4回 | リスクマネージメント　生命保険 | |
| 第5回 | リスクマネージメント　損害保険 | |
| 第6回 | 金融資産運用　金融・経済の基本 | |
| 第7回 | 金融資産運用　債券・株式 | |
| 第8回 | 金融資産運用　外貨建て商品 | |
| 第9回 | タックスプランニング　所得税の基本 | |
| 第10回 | タックスプランニング　取得控除 | |
| 第11回 | タックスプランニング　税額の計算 | |
| 第12回 | 不動産　不動産の基本 | |
| 第13回 | 不動産　不動産に関する法令 | |
| 第14回 | 相続・事業承継　相続の基本 | |
| 第15回 | 相続・事業承継　贈与税 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第8回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第8回】の授業時に行う小テスト（30分）：年金，保険，金融資産等に関する理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：税金，不動産，相続等に関する理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの指定した問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| FP合格へのはじめの一歩（最新バージョン） | 滝澤ななみ | TAC出版 | | 1430 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファイナンシャルプラン演習 | | | 授業番号 | SM232 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「ファイナンシャルプラン」で学修した知識をベースに，FP技能士3級試験に対応するための専門的な知識を講義する。<br>本科目はFP技能士3級試験の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，FP技能士3級試験の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ライフプランニングと資金計画I | |
| 第2回 | ライフプランニングと資金計画II | |
| 第3回 | リスク管理I | |
| 第4回 | リスク管理II | |
| 第5回 | 金融資産運用I | |
| 第6回 | 金融資産運用II | |
| 第7回 | タックスプランニングI | |
| 第8回 | タックスプランニングII | |
| 第9回 | 不動産I | |
| 第10回 | 不動産II | |
| 第11回 | 相続・事業承継I | |
| 第12回 | 相続・事業承継II | |
| 第13回 | 個人資産相談業務 | |
| 第14回 | 保険顧客資産相談業務 | |
| 第15回 | 資産設計提案業務 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 毎回，授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第1回】～【第14回】の授業時に行う小テスト（10分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（70%＝14回×5点）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（30%） |
| 受講の心得 | 不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 復習として，配布プリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| FP技能士3級テキスト＋問題集（最新バージョン） | 白鳥光良 | TAC出版 | | 1540 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経営戦略論 | | | 授業番号 | SM313 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「戦略とは何か。」経営に関する会話，記事，文献，などにおいて見ない，聞かない日が無いほど，この言葉は浸透している。競争優位の獲得あるいは持続のために使用されているが，ところが使用する人によって意味合いが異なり，かなり多様化している。ビジョンや計画と何が違うのかが曖昧の場合もある。本講義では，経営戦略の研究の変遷とその事例を通して，「戦略」の重要性と現実世界におけるモデルや学説の適用可能性の検討を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・企業間の競争や競争優位の源について論理的に説明できる。<br>・戦略についての学説の概要を説明できる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 戦略論への注目(1)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第2回 | 戦略論への注目(2)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第3回 | 戦略論への注目(3)：「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOＴ分析など。 | |
| 第4回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(1)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第5回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(2)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第6回 | チャンドラー(A.D. Chandler,　Jr.)，アンゾフ(H.I. Ansoff)，ポーター(M.E. Porter）による戦略論(3)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，など。 | |
| 第7回 | バーニー(J.B. Barney）による資源ベースの戦略論，ハメル(G. Hamel)＆プラハラード(C.K. Prahalad)のコア・コンピタンス(1) | |
| 第8回 | バーニー(J.B. Barney）による資源ベースの戦略論，ハメル(G. Hamel)＆プラハラード(C.K. Prahalad)のコア・コンピタンス(2) | |
| 第9回 | 商品・サービスのライフサイクルと多角化された事業の評価の仕方(1) | |
| 第10回 | 商品・サービスのライフサイクルと多角化された事業の評価の仕方(2) | |
| 第11回 | 戦略と組織と人的資源管理 (1)：戦略の策定と実行の主体や過程，戦略的人的資源管理，リーダーシップ，組織学習，など | |
| 第12回 | 戦略と組織と人的資源管理 (2)：戦略の策定と実行の主体や過程，戦略的人的資源管理，リーダーシップ，組織学習，など | |
| 第13回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(1) | |
| 第14回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(2) | |
| 第15回 | ミンツバーグ(H. Mintzberg)による戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，イノベーションと戦略(3) | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・福沢康弘『テキスト 経営戦略論』中央経済社， 2021年。<br>・三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン，2013年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 国際経営論 | | | 授業番号 | SM314 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 大企業だろうが小企業だろうが関係なく，企業の活動は国内だけにとどまらない。そのため，世界的に拡大する中で，いかに組織を経営していくかは重要な課題となっている。ところが，その課題解決は簡単ではなく，特殊性や普遍性を理解しながら，経営する必要がある。本講義では，これらに関する学説や事例を通して論理的且つ多面的(あるいは段階的)に，いわゆるグローバルや多国籍企業の動向を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・世界的な大競争の実態について論理的に説明できる。<br>・多国籍企業の特徴を論理的・学術的に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 単なる輸出・輸入を超えて(1)：国内総生産，貿易収支，直接投資，OLIモデル，海外子会社と本社の関係の変遷 | |
| 第2回 | 単なる輸出・輸入を超えて(2)：国内総生産，貿易収支，直接投資，OLIモデル，海外子会社と本社の関係の変遷 | |
| 第3回 | 単なる輸出・輸入を超えて(3)：国内総生産，貿易収支，直接投資，OLIモデル，海外子会社と本社の関係の変遷 | |
| 第4回 | 国際金融市場の仕組みと動向(1) | |
| 第5回 | 国際金融市場の仕組みと動向(2) | |
| 第6回 | グローバル型，インターナショナル型，トランスナショナル型，マルチナショナル型，メタナショナル型(1) | |
| 第7回 | グローバル型，インターナショナル型，トランスナショナル型，マルチナショナル型，メタナショナル型(2) | |
| 第8回 | グローバル型，インターナショナル型，トランスナショナル型，マルチナショナル型，メタナショナル型(3) | |
| 第9回 | 国際標準化機構(ISO)， CSR(Corporate Social Responsibility)， BOP(Base (or Bottom) Of the (economic) Pyramid)，など(1) | |
| 第10回 | 国際標準化機構(ISO)， CSR(Corporate Social Responsibility)， BOP(Base (or Bottom) Of the (economic) Pyramid)，など(2) | |
| 第11回 | 国際的SCM(Supply Chain Management)，アライアンス，海外M&A(Mergers(合併) and Acquisitions(買収))(1) | |
| 第12回 | 国際的SCM(Supply Chain Management)，アライアンス，海外M&A(Mergers(合併) and Acquisitions(買収))(2) | |
| 第13回 | 国際的人的資源管理(1) | |
| 第14回 | 国際的人的資源管理(2) | |
| 第15回 | 日本企業における現状と課題 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 吉原英樹，白木三秀，新宅純二郎， 浅川和宏，編『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣，2013年。<br>吉原英樹『国際経営(第5版)』有斐閣アルマ，2021年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | マーケティング | | | 授業番号 | SM315 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 倉田　致知 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | マーケティングの定義は時代とともに変遷し，その指す領域や次元は極めて広い。マーケティングの重要性を論理的に説明でき，且つ特定の問題に対してマーケティングの手法を適用できるように，マーケティングの学説のみならず企業で行われているマーケティングの実際を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ・マーケティングの重要性を論理的に説明できる。<br>・財やサービスが購入されるまでのプロセスについて論理的に説明できる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | マーケティングの概念(1)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第2回 | マーケティングの概念(2)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第3回 | マーケティングの概念(3)：志向の変遷，マーケティング・ミックス，４つのPと4つのC，プロダクト・ライフ・サイクル説，購買行動類型，環境分析，Swot分析，など | |
| 第4回 | 製品の分類，製品3層，製品開発と製品設計など(1) | |
| 第5回 | 製品の分類，製品3層，製品開発と製品設計など(2) | |
| 第6回 | プロモーション，コミュニケーション(1)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第7回 | プロモーション，コミュニケーション(2)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第8回 | プロモーション，コミュニケーション(3)：広告の種類，内容，効果，CPM(Cost Per Mile)，など | |
| 第9回 | 費用，経済性(1)：費用とは，規模の経済，範囲の経済，経験効果，価格設定など | |
| 第10回 | 費用，経済性(2)：費用とは，規模の経済，範囲の経済，経験効果，価格設定など | |
| 第11回 | 流通・チャネル(1)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM(Supply Chain Management)，など | |
| 第12回 | 流通・チャネル(2)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM(Supply Chain Management)，など | |
| 第13回 | 流通・チャネル(3)：商社，卸，小売り，チャネル，フランチャイズ，立地とその影響，Pos(Point of Sales），SCM(Supply Chain Management)，など | |
| 第14回 | 関係性マーケティング，サービス・マーケティング(1)：サービスの定義や特徴，CPM(Customer Relationship Management)システム，7つのP，など | |
| 第15回 | 関係性マーケティング，サービス・マーケティング(2)：サービスの定義や特徴，CPM(Customer Relationship Management)システム，7つのP，など | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 予習・復習の状況，見解の表明(表記)，提出物の提出状況(回数や遅延など)，などで評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 70 | 単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | ・受講に際して最低限のマナーは厳守すること。<br>・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。<br>・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。<br>・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。 |
| 授業外学修 | 復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。<br>予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。<br>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適時，プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | ・廣田章光・石井淳蔵編『１からのマーケティング』中央経済社，2004年。<br>・伊藤宗彦編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。<br>・(公社)日本マーケティング協会 (監修)『ベーシック・マーケティング(第2版)』同文舘出版，2019年。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 簿記論A | | | 授業番号 | SM321 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。<br>内容としては，本科目と「簿記演習A」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 日商簿記検定3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 簿記一巡の手続き，財務諸表（テキスト：00，01） | |
| 第2回 | 商品売買，現金および預金（テキスト：02，03） | |
| 第3回 | 債権・債務，有価証券（テキスト：04，05） | |
| 第4回 | 有形固定資産I，有形固定資産II（テキスト：06，07） | |
| 第5回 | リース取引，無形固定資産等と研究開発費（テキスト：08，09） | |
| 第6回 | 引当金，外貨換算会計（テキスト：10，11） | |
| 第7回 | 税金，課税所得の算定と税効果会計（テキスト：12，13） | |
| 第8回 | 株式の発行，剰余金の配当と処分（テキスト：14，15） | |
| 第9回 | 決算手続，収益の認識基準（テキスト：16，17） | |
| 第10回 | 本支店会計，合併と事業譲渡（テキスト：18，19） | |
| 第11回 | 連結会計I（資本連結）（テキスト：20） | |
| 第12回 | 連結会計II（資本連結II）（テキスト：21） | |
| 第13回 | 連結会計III（成果連結）（テキスト：22） | |
| 第14回 | 連結会計IV（連結株主資本等変動計算書を作成する場合）（テキスト：23） | |
| 第15回 | 製造業会計（テキスト：24） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第9回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第9回】の授業時に行う小テスト（30分）：日商簿記検定2級（商業簿記）の個別論点に関する理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：日商簿記検定2級（商業簿記）の特殊論点に関するの理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの基本例題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記2級・商業簿記（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2640 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 簿記演習Ａ | | | 授業番号 | SM322 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。<br>内容としては，本科目と「簿記論A」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 日商簿記検定3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 簿記一巡の手続き，財務諸表（テキスト：00，01） | |
| 第2回 | 商品売買，現金および預金（テキスト：02，03） | |
| 第3回 | 債権・債務，有価証券（テキスト：04，05） | |
| 第4回 | 有形固定資産I，有形固定資産II（テキスト：06，07） | |
| 第5回 | リース取引，無形固定資産等と研究開発費（テキスト：08，09） | |
| 第6回 | 引当金，外貨換算会計（テキスト：10，11） | |
| 第7回 | 税金，課税所得の算定と税効果会計（テキスト：12，13） | |
| 第8回 | 株式の発行，剰余金の配当と処分（テキスト：14，15） | |
| 第9回 | 決算手続，収益の認識基準（テキスト：16，17） | |
| 第10回 | 本支店会計，合併と事業譲渡（テキスト：18，19） | |
| 第11回 | 連結会計I（資本連結）（テキスト：20） | |
| 第12回 | 連結会計II（資本連結II）（テキスト：21） | |
| 第13回 | 連結会計III（成果連結）（テキスト：22） | |
| 第14回 | 連結会計IV（連結株主資本等変動計算書を作成する場合）（テキスト：23） | |
| 第15回 | 製造業会計（テキスト：24） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第9回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第9回】の授業時に行う小テスト（30分）：日商簿記検定2級（商業簿記）の個別論点に関する理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：日商簿記検定2級（商業簿記）の特殊論点に関するの理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 復習として，配布したプリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記2級・商業簿記（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2640 |
| 使用テキスト：自由記載 | | | | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 参考書：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 | | | |
| その他 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 注意事項 | | | | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 | | | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | |

| 科目名 | 簿記論B | | | 授業番号 | SM323 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。<br>内容としては，本科目「簿記演習B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 日商簿記検定3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 工業簿記の基礎，工業簿記の勘定連絡（テキスト：01，02） | |
| 第2回 | 材料費I，材料費II（テキスト：03，04） | |
| 第3回 | 労務費I，労務費II（テキスト：05，06） | |
| 第4回 | 経費（テキスト：07） | |
| 第5回 | 個別原価計算I（テキスト：08） | |
| 第6回 | 個別原価計算II（テキスト：09） | |
| 第7回 | 部門別個別原価計算I，部門別個別原価計算II（テキスト：10，11） | |
| 第8回 | 総合原価計算I（テキスト：12） | |
| 第9回 | 総合原価計算II（テキスト：13） | |
| 第10回 | 総合原価計算III（テキスト：14） | |
| 第11回 | 総合原価計算IV，総合原価計算V（テキスト：15，16） | |
| 第12回 | 財務諸表（テキスト：17） | |
| 第13回 | 標準原価計算I，標準原価計算II（テキスト：18，19） | |
| 第14回 | 直接原価計算I，直接原価計算II（テキスト：20，21） | |
| 第15回 | 本社工場会計（テキスト：22） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第7回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第7回】の授業時に行う小テスト（40分）：費目別原価計算と個別原価計算の理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（40分）：総合原価計算，標準原価計算，直接原価計算の理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの基本例題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記2級・工業簿記（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 簿記演習Ｂ | | | 授業番号 | SM324 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。<br>内容としては，本科目「簿記論B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。<br>具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 日商簿記検定3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 工業簿記の基礎，工業簿記の勘定連絡（テキスト：01，02） | |
| 第2回 | 材料費I，材料費II（テキスト：03，04） | |
| 第3回 | 労務費I，労務費II（テキスト：05，06） | |
| 第4回 | 経費（テキスト：07） | |
| 第5回 | 個別原価計算I（テキスト：08） | |
| 第6回 | 個別原価計算II（テキスト：09） | |
| 第7回 | 部門別個別原価計算I，部門別個別原価計算II（テキスト：10，11） | |
| 第8回 | 総合原価計算I（テキスト：12） | |
| 第9回 | 総合原価計算II（テキスト：13） | |
| 第10回 | 総合原価計算III（テキスト：14） | |
| 第11回 | 総合原価計算IV，総合原価計算V（テキスト：15，16） | |
| 第12回 | 財務諸表（テキスト：17） | |
| 第13回 | 標準原価計算I，標準原価計算II（テキスト：18，19） | |
| 第14回 | 直接原価計算I，直接原価計算II（テキスト：20，21） | |
| 第15回 | 本社工場会計（テキスト：22） | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第7回】と【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第7回】の授業時に行う小テスト（40分）：費目別原価計算と個別原価計算の理解度を評価する（50%）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（40分）：総合原価計算，標準原価計算，直接原価計算の理解度を評価する（50%） |
| 受講の心得 | 簿記の学修は「積み木の組み立て」にたとえられる。土台がしっかりしていないと決して高く積み上がらない。<br>授業内容に関して不明点等があれば，積極的に質問し，理解するように心がけること。 |
| 授業外学修 | 復習として，配布したプリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 合格テキスト日商簿記2級・工業簿記（最新バージョン） | TAC簿記検定講座 | TAC出版 | | 2200 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | コンピュータ会計 | | | 授業番号 | SM325 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | パソコンを使った会計処理業務を体験する。<br>市販されている会計ソフト（無料体験版）や，無償のクラウド会計ソフトなどを実際に使って体験したい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，パソコンを使った会計処理業務の実態を理解できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 経理部の業務・役割I | |
| 第2回 | 経理部の業務・役割II | |
| 第3回 | パソコンによる会計処理I | |
| 第4回 | パソコンによる会計処理II | |
| 第5回 | 会計ソフトについて（インストール型とクラウド型） | |
| 第6回 | 会計ソフトの体験（弥生会計1） | |
| 第7回 | 会計ソフトの体験（弥生会計2） | |
| 第8回 | 会計ソフトの体験（弥生会計3） | |
| 第9回 | 会計ソフトの体験（勘定奉行1） | |
| 第10回 | 会計ソフトの体験（勘定奉行2） | |
| 第11回 | 会計ソフトの体験（PCA会計1） | |
| 第12回 | 会計ソフトの体験（PCA会計2） | |
| 第13回 | 会計ソフトの体験（freeクラウド） | |
| 第14回 | 会計ソフトの体験（マネーフォワードクラウド） | |
| 第15回 | 電子帳簿保存法について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業内容の復習を行う。週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | パソコン会計 | | | 授業番号 | SM326 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | パソコンを使った会計処理業務を体験する。<br>市販されている会計ソフト（無料体験版）や，無償のクラウド会計ソフトなどを実際に使って体験したい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，パソコンを使った会計処理業務の実態を理解できるようになる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 経理部の業務・役割I | |
| 第2回 | 経理部の業務・役割II | |
| 第3回 | パソコンによる会計処理I | |
| 第4回 | パソコンによる会計処理II | |
| 第5回 | 会計ソフトについて（インストール型とクラウド型） | |
| 第6回 | 会計ソフトの体験（弥生会計1） | |
| 第7回 | 会計ソフトの体験（弥生会計2） | |
| 第8回 | 会計ソフトの体験（弥生会計3） | |
| 第9回 | 会計ソフトの体験（勘定奉行1） | |
| 第10回 | 会計ソフトの体験（勘定奉行2） | |
| 第11回 | 会計ソフトの体験（PCA会計1） | |
| 第12回 | 会計ソフトの体験（PCA会計2） | |
| 第13回 | 会計ソフトの体験（freeクラウド） | |
| 第14回 | 会計ソフトの体験（マネーフォワードクラウド） | |
| 第15回 | 電子帳簿保存法について | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 【第15回】の授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 授業内容の復習を行う。週あたり1時間以上学修すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファイナンシャルプランB | | | 授業番号 | SM331 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「ファイナンシャルプラン」で学修した知識をベースに，FP技能士3級試験に対応するための専門的な知識を講義する。<br>本科目は「ファイナンシャルプラン演習B」とセットでFP技能士3級試験の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，FP技能士3級試験の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「ファイナンシャルプラン演習B」とセットで講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ライフプランニングと資金計画I | |
| 第2回 | ライフプランニングと資金計画II | |
| 第3回 | リスクマネージメントI | |
| 第4回 | リスクマネージメントII | |
| 第5回 | 金融資産運用I | |
| 第6回 | 金融資産運用II | |
| 第7回 | タックスプランニングI | |
| 第8回 | タックスプランニングII | |
| 第9回 | 不動産I | |
| 第10回 | 不動産II | |
| 第11回 | 相続・事業承継I | |
| 第12回 | 相続・事業承継II | |
| 第13回 | 個人資産相談業務 | |
| 第14回 | 保険顧客資産相談業務 | |
| 第15回 | 資産設計提案業務 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 毎回，授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第1回】～【第14回】の授業時に行う小テスト（10分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（70%＝14回×5点）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（30%） |
| 受講の心得 | 不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストの問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| FP技能士3級テキスト＋問題集（最新バージョン） | 白鳥光良 | TAC出版 | | 1540 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ファイナンシャルプラン演習 B | | | 授業番号 | SM332 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 五百竹　宏明 | | | | | | | | |
| 単位数 | 1単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 演習 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 「ファイナンシャルプラン」で学修した知識をベースに，FP技能士3級試験に対応するための専門的な知識を講義する。<br>本科目は「ファイナンシャルプランB」とセットでFP技能士3級試験の出題範囲を説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本科目を学修することにより，FP技能士3級試験の合格に必要となる知識を身に付けることができる。<br>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | 本科目は「ファイナンシャルプランB」とセットで講義を進める。 | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | ライフプランニングと資金計画I | |
| 第2回 | ライフプランニングと資金計画II | |
| 第3回 | リスクマネージメントI | |
| 第4回 | リスクマネージメントII | |
| 第5回 | 金融資産運用I | |
| 第6回 | 金融資産運用II | |
| 第7回 | タックスプランニングI | |
| 第8回 | タックスプランニングII | |
| 第9回 | 不動産I | |
| 第10回 | 不動産II | |
| 第11回 | 相続・事業承継I | |
| 第12回 | 相続・事業承継II | |
| 第13回 | 個人資産相談業務 | |
| 第14回 | 保険顧客資産相談業務 | |
| 第15回 | 資産設計提案業務 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 100 | 毎回，授業時に小テストを行い，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 【第1回】～【第14回】の授業時に行う小テスト（10分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（70%＝14回×5点）<br>【第15回】の授業時に行う小テスト（30分）：授業で説明した内容の理解度を評価する（30%） |
| 受講の心得 | 不明点等があれば，積極的に質問し，理解するよう心がけること。 |
| 授業外学修 | 予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。<br>復習として，テキストのと配布プリントの演習問題を解く。<br>以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| FP技能士３級テキスト＋問題集（最新バージョン） | 白鳥光良 | TAC出版 | | 1540 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 演習問題のプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 対人関係の心理学 | | | 授業番号 | SP111 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 福森　護 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 1年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業概要 | 社会で生きていくためには，人との関わりを避けることはできない。職場では，上司・同僚との関わりは大切であり，場合によっては大きなストレスを引き起こすこともある。また，友人・恋人・家族などの対人関係を円滑に保つことも大切なことであり，できるだけトラブルは避けたいものである。本講義では，心理学の理論的な視点から，さまざまな対人関係について考察する。さらに，心理学的な考え方が実社会でどのように応用されているかについて解説する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 対人関係の社会心理学的な諸問題について心理学の理論に沿って正しく理解できるようになることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 心理学の種類とその内容について紹介する。また，心理学における「対人関係の心理学」の位置づけについて説明する。 | |
| 第2回 | 無意識の口癖やなだめ行動の必須であるしぐさについて心理学的に解説する。 | |
| 第3回 | 自己意識及び対人認知について解説する。 | |
| 第4回 | 対人魅力及び恋愛の心理について解説する。 | |
| 第5回 | ある現象がなぜ起こったのか，その原因は何なのかという帰属過程について解説する。 | |
| 第6回 | さまざまな態度の問題と態度変容のプロセスやテクニックについて解説する。 | |
| 第7回 | 集団の心理学及び援助行動について解説する。 | |
| 第8回 | ストレスとサポートについて社会心理学的な視点で解説する。 | |
| 第9回 | リーダーシップと社会的勢力，シャイネスと社会的スキルについて解説する。 | |
| 第10回 | ファッションや化粧について心理学的視点で解説する。 | |
| 第11回 | 魅力的なキャッチコピーについて心理学的視点で解説する。 | |
| 第12回 | 営業や販売などビジネスにおける心理学の応用について解説する。 | |
| 第13回 | コミュニケーションの心理，クレーマーの心理について解説する。 | |
| 第14回 | 夢について心理学的視点から解説する。 | |
| 第15回 | アメリカを中心に近年注目されているポジティブ心理学（幸せな人生を過ごすための心理学）について解説する。 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 80 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>2）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，パワーポイントにより授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。なお，Classroomにより，授業で使用した資料を配信する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 経済の心理学 | | | 授業番号 | SP212 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の経済学の主流である「伝統的経済学」では，消費者や企業は「自己の利益の最大化」を目指し，そのために「最も合理的な」選択をするという行動を前提として基本的な理論を構成している。経済政策は，このような伝統的経済学の理論をもとに私たちの経済活動を分析し，立案されている。<br>しかしながら，人は必ずしも「合理的な」行動をするとは限らない。また，人は常に自己の利益のためだけに行動するとは限らない。従って，伝統的経済理論は現実にある経済現象をすべて説明できるとは言えないとの批判があった。<br>ここで，近年，心理学と融合した新しい経済学，すなわち行動経済学が注目されることとなった。<br>本講義においては，伝統的経済理論では説明できない経済現象を対象として，新しい経済学の分野として注目されている行動経済学の考え方を紹介していく。<br>授業内容の内容としては，理論的な内容ではなく私たちの日常生活で経験する事例を中心にその内容を検証するものとする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 伝統的経済学ではこれまで説明できなかった経済現象を，人間心理の面等，新たな考え方により理解できるようになることを目標とする。<br>また，私たちの日常生活において，「合理的」でない活動をする理由を理解できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 行動経済学とは | |
| 第2回 | 無意識のシステムと意識下のシステム（１） | |
| 第3回 | 無意識のシステムと意識下のシステム（２） | |
| 第4回 | お金がたまらないのはなぜか（１） | |
| 第5回 | お金がたまらないのはなぜか（２） | |
| 第6回 | 目先の誘惑に勝てないのはなぜか（１） | |
| 第7回 | 目先の誘惑に勝てないのはなぜか（２） | |
| 第8回 | なぜ成功できないのか（１） | |
| 第9回 | なぜ成功できないのか（２） | |
| 第10回 | 賢い選択ができないのはなぜか（１） | |
| 第11回 | 賢い選択ができないのはなぜか（２） | |
| 第12回 | ゲーム理論 | |
| 第13回 | ゲーム理論と行動経済学 | |
| 第14回 | 行動経済学を生かす | |
| 第15回 | 行動経済学と政策 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 質問や授業参加等意欲的な態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 単元毎に小テストを実施し，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習として講義に先立ち該当する部分を読んでおくこと。<br>事後学修を必ず行い，理解の定着を図ること。 |
| 授業外学修 | 予習として週当たり2時間以上，復習として週当たり2時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 知識ゼロからの行動経済学入門 | 川西諭 | 幻冬舎 | 978-4-344-90312-8 | 1300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業中，必要に応じプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 行動経済学入門 | 筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，ｸﾞﾚｯｸ･ﾏﾙﾃﾞｳ | 東洋経済新報社 | 978-4-492-31497-5 | 2400 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 心の健康の心理学 | | | 授業番号 | SP221 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 虫明　修 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 本授業では，心の健康について，さまざまな場面やライフサイクルにおけるストレスやそのマネジメント，心の不調や精神障害，心理療法などの心理学的側面から取り上げる。心の健康に関する基本的知識だけではなく，受講者自身が自己理解を深め，ストレスの対処能力を身に付ける機会とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．心の健康に関する基本的な知識を修得する。<br>２．自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | メンタルヘルスとは<br>「メンタルヘルス，心が健康であるとはどういうことか」「心の働き，精神現象」について理解する | |
| 第2回 | 様々なストレスと危機<br>「ストレスとは何か，ストレスのメカニズムと各要因」「ストレスマネジメント」について理解する | |
| 第3回 | 学校におけるストレス<br>「子どものストレスとその現れ方はどのようなものがあるか」「教育の義務と権利」「学校適応と適応課題，不登校/いじめ」「自己肯定感と自己効力感」について理解する | |
| 第4回 | 職場におけるストレス<br>「職場・職業におけるストレスにはどのようなものがあるか」「ストレスチェック，過重労働とハラスメント」について理解する | |
| 第5回 | 家庭におけるストレス<br>「価値観の広がり（個人，夫婦，家族）とストレスの関連」「育児ストレス研ぐ薬袋」について理解する | |
| 第6回 | 精神症状，摂食障害<br>「代表的な精神症状にはどのようなものがあるか」「ボディイメージとやせ願望」「ダイエットと飢餓状態」「摂食障害」について理解する | |
| 第7回 | 睡眠障害<br>「睡眠障害とは何か」「睡眠と病気」「眠気と睡眠のメカニズム」について理解する | |
| 第8回 | 気分障害<br>「気分障害（うつ病）の主な症状はどのようなものがあるか」「気分障害の治療と休養」「考え方のクセを知る」「周囲の関わり方」について理解する | |
| 第9回 | 不安障害<br>「強い不安の現れ方にはどのようなものがあるか」「不安障害に対する治療や心理的アプローチ」について理解する | |
| 第10回 | 強迫性障害，ストレス障害<br>「強迫性障害とはどのようなものか，強迫観念と強迫行為」「心的外傷後ストレス障害（PTSD)と急性ストレス障害」「トラウマ」について理解する | |
| 第11回 | 統合失調症<br>動画の視聴を通じて統合失調症を知り，「統合失調症の主な症状と治療，リハビリテーションと社会復帰・社会参加」について理解する | |
| 第12回 | 依存症<br>動画視聴を通じて依存症の実態を知り，「様々な依存症とその弊害」「周囲の理解と関わり方」について理解する | |
| 第13回 | 発達障害<br>「発達障害とは何か，“発達障害”と”発達”の捉え方」「社会的障壁としての“障害”と“合理的配慮”」「ユニバーサルデザイン」について理解する | |
| 第14回 | 心理療法・カウンセリング((1)<br>「心理療法・カウンセリングとは何か」「精神分析の基本的概念を知り，精神分析視点からの自己理解」「来談者中心療法の基本概念」について理解する | |
| 第15回 | 心理療法・カウンセリング（2）と全体のまとめ<br>「認知行動療法の基本概念と，認知行動療法を通じた自己理解」を理解する<br>全体のまとめとしてメンタルヘルス，こころの健康とは何か，こころの健康を維持，向上させていくために大切なことは何かを振り返る | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | | |
| レポート | | |
| 小テスト | 40 | 各授業終了後（授業時間内）に小レポートの提出を求めます．授業を通じて感じたこと，自分なりに考えたこと，疑問や質問を小レポートにまとめます．小レポートについては次の授業で全体的な傾向にコメントし，質問や疑問が寄せられた場合にはそれらに回答します． |
| 定期試験 | 60 | 授業で取り上げた内容について問います．評価の基準は，「授業の内容に沿っていること」とそれに対して「自分自身はどう考えるか」を記述できているかどうかで判断します． |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 「心の健康」は全ての人に関わる大切な問題です．この授業では，「心の健康」に関する様々なテーマを取り上げますが，それらを通じて，「自分自身（わたし）のこころの健康を維持，向上させるにはどのようなことができるか」を一緒に考えていきましょう. |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>３）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，プリントを配布し，授業を進める。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | 令和3年度改訂 |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 公認心理師，臨床心理士 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校や医療機関，企業等における心理臨床経験をもとに，幼児期から思春期，成人における様々な心の健康と諸問題について指導する。 |

| 科目名 | 経済の心理学 | | | 授業番号 | SP231 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 板野　敬吾 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 現代の経済学の主流である「伝統的経済学」では，消費者や企業は「自己の利益の最大化」を目指し，そのために「最も合理的な」選択をするという行動を前提として基本的な理論を構成している。経済政策は，このような伝統的経済学の理論をもとに私たちの経済活動を分析し，立案されている。<br>しかしながら，人は必ずしも「合理的な」行動をするとは限らない。また，人は常に自己の利益のためだけに行動するとは限らない。従って，伝統的経済理論は現実にある経済現象をすべて説明できるとは言えないとの批判があった。<br>ここで，近年，心理学と融合した新しい経済学，すなわち行動経済学が注目されることとなった。<br>本講義においては，伝統的経済理論では説明できない経済現象を対象として，新しい経済学の分野として注目されている行動経済学の考え方を紹介していく。<br>授業内容の内容としては，理論的な内容ではなく私たちの日常生活で経験する事例を中心にその内容を検証するものとする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 伝統的経済学ではこれまで説明できなかった経済現象を，人間心理の面等，新たな考え方により理解できるようになることを目標とする。<br>また，私たちの日常生活において，「合理的」でない活動をする理由を理解できるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 行動経済学とは | |
| 第2回 | 無意識のシステムと意識下のシステム（１） | |
| 第3回 | 無意識のシステムと意識下のシステム（２） | |
| 第4回 | お金がたまらないのはなぜか（１） | |
| 第5回 | お金がたまらないのはなぜか（２） | |
| 第6回 | 目先の誘惑に勝てないのはなぜか（１） | |
| 第7回 | 目先の誘惑に勝てないのはなぜか（２） | |
| 第8回 | なぜ成功できないのか（１） | |
| 第9回 | なぜ成功できないのか（２） | |
| 第10回 | 賢い選択ができないのはなぜか（１） | |
| 第11回 | 賢い選択ができないのはなぜか（２） | |
| 第12回 | ゲーム理論 | |
| 第13回 | ゲーム理論と行動経済学 | |
| 第14回 | 行動経済学を生かす | |
| 第15回 | 行動経済学と政策 | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 20 | 質問や授業参加等意欲的な態度を評価する。 |
| レポート | | |
| 小テスト | 30 | 単元毎に小テストを実施し，理解度を評価する。 |
| 定期試験 | 50 | 最終的な理解度を評価する。 |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | 予習として講義に先立ち該当する部分を読んでおくこと。<br>事後学修を必ず行い，理解の定着を図ること。 |
| 授業外学修 | 予習として週当たり2時間以上，復習として週当たり2時間以上学習すること。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 知識ゼロからの行動経済学入門 | 川西諭 | 幻冬舎 | 978-4-344-90312-8 | 1300 |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 授業中，必要に応じプリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 行動経済学入門 | 筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，ｸﾞﾚｯｸ･ﾏﾙﾃﾞｳ | 東洋経済新報社 | 978-4-492-31497-5 | 2400 |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | 産業・ビジネスの心理学 | | | 授業番号 | SP232 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 問　琳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業概要 | 人はなぜ働くのか，優れたリーダーとはどんな特性を持っているのか，良い職場環境を作るために何をしたらよいのか，ハラスメントや過労死がなぜ起こるのか，効果的な広告とは，なぜ衝動買いをしてしまうのか，なぜ騙されて買ってしまうのかなど，働く場面における人間行動を心理学的視点からアプローチする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | １．職場や組織における人間行動を理解する。<br>２．消費者の心理や行動を理解する。<br>３．産業やビジネスにおける人間行動について，自ら考え，分析することができる。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |

| 回 | 概要 | 担当 |
|---|---|---|
| 第1回 | 産業・ビジネスの心理学とは | |
| 第2回 | 組織とは | |
| 第3回 | 仕事動機づけ１ | |
| 第4回 | 仕事動機づけ２ | |
| 第5回 | 職場の人間関係とコミュニケーション | |
| 第6回 | 職場でのチームとリーダーシップ | |
| 第7回 | 職場のストレスとメンタルヘルス１ | |
| 第8回 | 職場のストレスとメンタルヘルス２ | |
| 第9回 | 人事評価，人事処遇 | |
| 第10回 | 職業適性と人材育成 | |
| 第11回 | 消費者行動とマーケティング１ | |
| 第12回 | 消費者行動とマーケティング２ | |
| 第13回 | ブランド選択の心理 | |
| 第14回 | 口コミ，インターネットと消費者行動 | |
| 第15回 | 職場で成功するために | |
| 授業計画　備考2 | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 30 | 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。 |
| レポート | 70 | 期末にレポート課題を課す。 |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | | |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | 1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>2）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | テキストは使用せず，板書により授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 無 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | |

| 科目名 | ゼミナールA | | | 授業番号 | SS411 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二、平井　安久、五百竹　宏明、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊爾、脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 前期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | ゼミナールは，教員の専門領域を参考に，学生自身が教員を選び，所属した教員のもとで指導を受けながら研究を行うものである。１年次の後期にゼミのしおりを配布し，希望調査を行う。<br>ゼミの内容は教員によって異なるため，ゼミ決定までに十分に希望教員とコミュニケーションをとり，納得した上で，ゼミナールを選択することが望ましい。<br>ゼミナールを通して，専門的な学修はもちろん，個別の指導や助言を受けることで，社会に貢献できる人材となるべく知・情・意の全てにおいて成長することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果を総合的実践の場で活用することができるようになることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞・＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 【授業計画 自由記載】<br>第1回　各ゼミでのオリエンテーション<br>第2回～13回　ゼミ担当教員の指導による学修・研究<br>第14回～15回　研究成果報告会 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッションへの参加状況により評価を行う。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 卒業研究または作品により評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価の方法は担当教員によって異なる。<br>卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>３）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 古谷：システムエンジニア，板野：岡山労働局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 経験をいかしたソフトウェア開発ほか。 |

| 科目名 | ゼミナールB | | | 授業番号 | SS412 | サブタイトル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | 河田　健二、平井　安久、五百竹　宏明、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊爾、脇坂　基徳 | | | | | | | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講年次 | 2年 | 開講期 | 後期 | 授業形態 | 必修 | 必修・選択 | 演習 |
| 授業概要 | ゼミナールAに引き続き，同一ゼミ担当教員のもとで，さらに研究を深める。<br>原則として，ゼミナールAと同一の担当教員とするが，特別な事情がある場合は，十分に相談をしたうえで，変更をみとめる場合がある。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 自ら課題を設定し，専門的な学修を通して，課題解決を行うことができること，また，課題解決のプロセスにおいて，自分の能力の問題に気づき，能力を高める行動ができることを目標とする。<br>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞・＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考 | | | | | | | | | |
| 授業計画 自由記載 | 【授業計画 自由記載】<br>第1回～第13回　各ゼミの担当教員の指導のもとでの学修・研究<br>第14回～第15回　ゼミナールの研究成果発表会 | | | | | | | | |
| 授業計画　備考2 | | | | | | | | | |

評価の方法

| 種別 | 割合 | 評価基準・その他備考 |
|---|---|---|
| 授業への取り組みの姿勢／態度 | 50 | ディスカッションへの参加状況により評価を行う。 |
| レポート | | |
| 小テスト | | |
| 定期試験 | | |
| その他 | 50 | 卒業研究または作品により評価を行う。 |

| | |
|---|---|
| 評価の方法：自由記載 | 評価の方法は担当教員によって異なる。<br>卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。 |
| 受講の心得 | |
| 授業外学修 | １）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。<br>２）復習として，学んだ内容の整理を行う。<br>３）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。<br>以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。 |

使用テキスト

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 使用テキスト：自由記載 | 適宜指示する。 |

参考図書

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考書：自由記載 | 適宜指示する。 |
| その他 | |
| 備考 | |
| 注意事項 | |
| 担当教員の実務経験の有無 | 有 |
| 担当教員の実務経験 | 古谷：システムエンジニア，板野：岡山労働局 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 | 無 |
| 担当教員以外で指導に関わる実務経験者 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 経験をいかしたソフトウェア開発ほか。 |